

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
英米文学概論I	杉本 文四郎	15
英米文学概論II	権田 建二	19
英語学概論I	山本 史歩子	23
英語学概論II	平山 真奈美	27
イギリス文学史I	正岡 和恵	31
イギリス文学史II	遠藤 不比人	35
アメリカ文学史I	庄司 宏子	39
アメリカ文学史II	下河辺 美知子	43
CALL Ia	モハメッド ガマル アンドリュー	47
CALL IIa	小林 英里	49
CALL Ib	エラム ジェシー ラッセロ	53
CALL IIb	松原 知子	55
CALL Ic	ジャマール モーリス	59
CALL IIc	真部 多真記	61
CALL Id	ケネディ デイビッド ハリス	65
CALL IId	松原 知子	67
CALL Ie	エルヴィン クリストファー	71
CALL IIe	正岡 和恵	73
CALL If	権田 建二	77
Academic Reading a	ヴァンベンタイゼン ロバート	81
Academic Reading b	平山 真奈美	85
Academic Reading c	森住 史	89
Academic Reading d	小野 尚美	93
Academic Reading e	鈴木 京子	97
Academic Reading f	小林 英里	101
Academic Writing Ia	ヴァンベンタイゼン ロバート	105
Academic Writing Ib	平山 真奈美	109
Academic Writing Ic	森住 史	113
Academic Writing Id	小野 尚美	117
Academic Writing Ie	鈴木 京子	121
Academic Writing If	小林 英里	125
Academic Writing IIa	鈴木 京子	129
Academic Writing IIb	鈴木 京子	133
Academic Writing IIc	ルコア サンドラ	137
Academic Writing IId	ルコア サンドラ	141
Academic Writing IIe	ルコア サンドラ	145
Academic Writing IIIf	ルコア サンドラ	149
1年次演習 a	ジャマール モーリス	153
1年次演習 b	ラルフ ジェイムズ バーナビー	157
1年次演習 c	セバスチャンジョーンズ マーク	161

1年次演習 d	ジャマール モーリス	165
1年次演習 e	ラルフ ジェイムズ バーナビー	169
1年次演習 f	セバスチャンジョーンズ マーク	173
2年次演習Ia	ジャマール モーリス	177
2年次演習IIa	権田 建二	181
2年次演習Ib	ラルフ ジェイムズ バーナビー	185
2年次演習IIb	日比野 啓	189
2年次演習Ic	セバスチャンジョーンズ マーク	193
2年次演習IIc	森住 史	197
2年次演習Id	ジャマール モーリス	201
2年次演習IId	平山 真奈美	205
2年次演習Ie	ラルフ ジェイムズ バーナビー	209
2年次演習IIe	小野 尚美	213
2年次演習If	セバスチャンジョーンズ マーク	217
2年次演習IIIf	正岡 和恵	221
演習Ia	遠藤 不比人	225
演習IIa	遠藤 不比人	229
演習Ib	遠藤 不比人	233
演習IIb	遠藤 不比人	237
演習Ic	正岡 和恵	241
演習IIc	正岡 和恵	245
演習Id	小林 英里	249
演習IId	小林 英里	253
演習Ie	庄司 宏子	257
演習IIe	庄司 宏子	261
演習If	庄司 宏子	265
演習IIIf	庄司 宏子	269
演習Ig	日比野 啓	273
演習IIg	日比野 啓	277
演習Ih	下河辺 美知子	281
演習IIh	下河辺 美知子	285
演習Ii	権田 建二	289
演習IIi	権田 建二	293
演習Ij	権田 建二	297
演習IIj	権田 建二	301
演習Ik	森住 史	305
演習IIk	森住 史	309
演習II	平山 真奈美	313
演習III	平山 真奈美	317
演習Im	中山 匡美	321
演習IIIm	中山 匡美	325

演習In	小野 尚美	329
演習IIIn	小野 尚美	333
演習Io	ラルフ ジェイムズ バーナビー	337
演習IIo	ラルフ ジェイムズ バーナビー	341
演習Ip	ジャマール モーリス	345
演習IIp	ジャマール モーリス	349
文学理論I	下河辺 美知子	353
文学理論II	日比野 啓	357
英米文学を読むための思想A	大谷 伴子	361
英米文学を読むための思想B	大熊 昭信	365
英語史I	中村 幸一	369
英語史II	中村 幸一	373
英文法I	長谷川 宏	377
英文法II	長谷川 宏	381
英語教育I	長沼 君主	385
英語教育II	長沼 君主	389
TESL I	ロブソン ゴードン レーン	393
TESL II	ロブソン ゴードン レーン	397
英語音声学I	平山 真奈美	401
英語音声学II	笠原 園子	405
メディア英語A	小林 美文	409
メディア英語B	森住 史	413
イギリス文学・文化AI	大熊 昭信	417
イギリス文学・文化AII	下村 美佳	421
イギリス文学・文化BI	小林 英里	425
イギリス文学・文化BII	小林 英里	429
イギリス文学・文化CI	大田 信良	433
イギリス文学・文化CII	大田 信良	437
イギリス文学・文化DI	小野 俊太郎	441
イギリス文学・文化DII	小野 俊太郎	445
アメリカ文学・文化AI	日比野 啓	449
アメリカ文学・文化AII	牧野 理英	453
アメリカ文学・文化BI	権田 建二	457
アメリカ文学・文化BII	庄司 宏子	461
アメリカ文学・文化CI	相原 直美	465
アメリカ文学・文化CII	本合 陽	469
アメリカ文学・文化DI	上原 正博	473
アメリカ文学・文化DII	生井 英考	477
英語学I	篠原 和子	481
英語学II	篠原 和子	485
Oral EnglishIa	ジャマール モーリス	489

Oral EnglishIIa	ジャマール モーリス	493
Oral EnglishIb	クレイン ジーン	497
Oral EnglishIIb	クレイン ジーン	501
Oral EnglishIIIa	ザブスラック ロナルド ステファン	505
Oral EnglishIVa	ザブスラック ロナルド ステファン	509
Oral EnglishIIIb	ケネディ デイビッド ハリス	513
Oral EnglishIVb	ケネディ デイビッド ハリス	517
Oral EnglishIIIc	ビーゲル ケネス	521
Oral EnglishIVc	ビーゲル ケネス	525
Oral EnglishVa	ケンプ ジョン バーナード	529
Oral EnglishVIa	ケンプ ジョン バーナード	533
Oral EnglishVb	ケネディ デイビッド ハリス	537
Oral EnglishVIb	ケネディ デイビッド ハリス	541
Advanced Oral Engli	ケネディ デイビッド ハリス	545
Advanced Oral Engli	ケネディ デイビッド ハリス	549
翻訳・通訳セミナーA	森住 史	553
翻訳・通訳セミナーB	森住 史	557
Topics in BrC. A	ケンプ ジョン バーナード	561
Topics in BrC. B	ケンプ ジョン バーナード	565
Topics in AmC. A	ヴァンベンタイゼン ロバート	569
Topics in AmC. B	ヴァンベンタイゼン ロバート	573
キリスト教思潮A	江口 再起	577
キリスト教思潮B	江口 再起	581
ヨーロッパの文学A	天沼 春樹	585
ヨーロッパの文学B	横山 裕人	589
日本文学入門a	吉田 幹生	593
日本文学入門b	木谷 眞理子	597
日本文学入門c	浜田 雄介	601
日本文学入門d	牧 藍子	605
日本文学研究の基礎	小橋 孝子	609
日本語研究の基礎	井島 正博	613
日本語法	井島 正博	617
古典文学基礎研究Ia	吉田 幹生	621
古典文学基礎研究IIa	吉田 幹生	625
古典文学基礎研究Ib	木谷 眞理子	629
古典文学基礎研究IIb	木谷 眞理子	633
古典文学基礎研究Ic	清水 由美子	637
古典文学基礎研究IIc	清水 由美子	641
古典文学基礎研究Id	牧 藍子	645
古典文学基礎研究IId	牧 藍子	649
近・現代文学基礎研究Ia	林 廣親	653

近・現代文学基礎研究IIa	林 廣親	657
近・現代文学基礎研究Ib	浜田 雄介	661
近・現代文学基礎研究IIb	浜田 雄介	665
近・現代文学基礎研究Ic	猪狩 友一	669
近・現代文学基礎研究IIc	猪狩 友一	673
近・現代文学基礎研究Id	小林 幸夫	677
近・現代文学基礎研究IId	小林 幸夫	681
日本語学基礎研究Ia	吉田 永弘	685
日本語学基礎研究IIa	吉田 永弘	689
日本語学基礎研究Ib	仁科 明	693
日本語学基礎研究IIb	仁科 明	697
日本語学基礎研究Ic	井島 正博	701
日本語学基礎研究IIc	井島 正博	705
日本語学基礎研究Id	山本 真吾	709
日本語学基礎研究IId	山本 真吾	713
日本文学演習Ia	吉田 幹生	717
日本文学演習IIa	吉田 幹生	721
日本文学演習Ib	吉田 幹生	725
日本文学演習IIb	吉田 幹生	729
日本文学演習Ic	木谷 眞理子	733
日本文学演習IIc	木谷 眞理子	737
日本文学演習Id	清水 由美子	741
日本文学演習IId	清水 由美子	745
日本文学演習Ie	牧 藍子	749
日本文学演習IIe	牧 藍子	753
日本文学演習If	林 廣親	757
日本文学演習IIIf	林 廣親	761
日本文学演習Ig	林 廣親	765
日本文学演習IIg	林 廣親	769
日本文学演習Ih	浜田 雄介	773
日本文学演習IIh	浜田 雄介	777
日本文学演習Ii	浜田 雄介	781
日本文学演習IIi	浜田 雄介	785
日本語学演習Ia	常盤 智子	789
日本語学演習IIa	常盤 智子	793
日本語学演習Ib	森 雄一	797
日本語学演習IIb	森 雄一	801
日本語学演習Ic	森 雄一	805
日本語学演習IIc	森 雄一	809
古代日本文学史A	吉田 幹生	813
古代日本文学史B	吉田 幹生	817

近世日本文学史A	牧 藍子		821
近世日本文学史B	牧 藍子		825
日本語の歴史A	矢田 勉		829
日本語の歴史B	矢田 勉		833
日本語学講義A	常盤 智子		837
日本語学講義B	常盤 智子		841
日本語学講義C	屋名池 誠		845
日本語学講義D	屋名池 誠		849
日本語学講義E	小木曾 智信		853
日本語学講義F	梅林 博人		857
文学作品をどう読むか	小橋 孝子		861
古代日本文学講義A	中嶋 真也		865
古代日本文学講義B	中嶋 真也		869
古代日本文学講義C	吉野 瑞恵		873
古代日本文学講義D	吉野 瑞恵		877
古代日本文学講義E	桜井 宏徳		881
古代日本文学講義F	桜井 宏徳		885
中世日本文学講義A	清水 由美子		889
中世日本文学講義B	清水 由美子		893
中世日本文学講義C	石澤 一志		897
中世日本文学講義D	石澤 一志		901
近世日本文学講義A	安原 眞琴		905
近世日本文学講義B	安原 眞琴		909
近・現代日本文学講義A	松村 友視		913
近・現代日本文学講義B	松村 友視		917
近・現代日本文学講義C	井上 隆史		921
近・現代日本文学講義D	井上 隆史		925
日本語・日本文学総合テーマ講義C	浅見 和彦		929
日本語・日本文学総合テーマ講義D	浅見 和彦		933
日本漢文学A	山口 旬		937
日本漢文学B	山口 旬		941
漢文学A	伊藤 文生		945
漢文学B	伊藤 文生		949
比較文学A	有光 隆司		953
比較文学B	有光 隆司		957
日本探究特別講義A(古筆で味わう日本文学)	石澤 一志		961
日本探究特別講義B(古典で読む奇談・怪談)	牧 藍子		965
日本美術史A	塩澤 寛樹		969
日本美術史B	塩澤 寛樹		973
日本民俗学A	山崎 祐子		977
日本民俗学B	山崎 祐子		981

日本思想講義A(古代文学から学ぶ)	内田 滯子		985
日本思想講義B(中世文学から学ぶ)	内田 滯子		989
物語と絵画A	木谷 眞理子		993
物語と絵画B	木谷 眞理子		997
日本演劇史A	池山 晃		1001
日本演劇史B	池山 晃		1005
日本語を正しく話すa	新村 衣里子		1009
上級表現講座(短歌創作)a	林 あまり		1013
日本語・日本文学のためのコンピュータ	小木曾 智信		1017
上級漢字講座	矢田 勉		1021
国際文化研究の現在	川村 陶子		1025
国際文化基礎演習Ia	有富 純也		1029
国際文化基礎演習Ib	川村 陶子		1033
国際文化基礎演習Ic	佐々木 紳		1037
国際文化基礎演習Id	井出 弘毅		1041
国際文化基礎演習Ie	木村 秀雄		1045
国際文化基礎演習If	中野 由美子		1049
国際文化基礎演習IIa	墓田 桂		1053
国際文化基礎演習IIIa	墓田 桂		1057
国際文化基礎演習IIb	細谷 広美		1061
国際文化基礎演習IIIb	細谷 広美		1065
国際文化基礎演習IIc	竹内 敬子		1069
国際文化基礎演習IIIc	竹内 敬子		1073
国際文化基礎演習IId	松浦 義弘		1077
国際文化基礎演習IIId	松浦 義弘		1081
国際文化基礎演習IIe	有富 純也		1085
国際文化基礎演習IIIe	有富 純也		1089
国際文化基礎演習IIIf	中野 由美子		1093
国際文化基礎演習IIIf	中野 由美子		1097
演習Ia	有富 純也		1101
演習IIa	有富 純也		1105
演習Ib	川村 陶子		1109
演習IIb	川村 陶子		1113
演習Ic	佐々木 紳		1117
演習IIc	佐々木 紳		1121
演習Id	五味 知子		1125
演習IId	五味 知子		1129
演習Ie	竹内 敬子		1133
演習IIe	竹内 敬子		1137
演習If	中野 由美子		1141
演習IIIf	中野 由美子		1145

演習Ig	墓田 桂	1149
演習IIg	墓田 桂	1153
演習Ih	細谷 広美	1157
演習IIIh	細谷 広美	1161
演習Ii	堀内 正樹	1165
演習IIIi	堀内 正樹	1169
演習Ij	松浦 義弘	1173
演習IIj	松浦 義弘	1177
演習IIIa	有富 純也	1181
演習IVa	有富 純也	1185
演習IIIb	川村 陶子	1189
演習IVb	川村 陶子	1193
演習IIIc	佐々木 紳	1197
演習IVc	佐々木 紳	1201
演習IIId	田中 一嘉	1205
演習IVd	田中 一嘉	1209
演習IIIe	竹内 敬子	1213
演習IVe	竹内 敬子	1217
演習IIIf	中野 由美子	1221
演習IVf	中野 由美子	1225
演習IIIg	墓田 桂	1229
演習IVg	墓田 桂	1233
演習IIIh	細谷 広美	1237
演習IVh	細谷 広美	1241
演習IIIi	堀内 正樹	1245
演習IVi	堀内 正樹	1249
演習IIIj	松浦 義弘	1253
演習IVj	松浦 義弘	1257
国際関係論	川村 陶子	1261
平和学	墓田 桂	1265
国際文化論	川村 陶子	1269
国際協力論	小峯 茂嗣	1273
国際政治経済学	須田 祐子	1277
国際協力論特講A	滝澤 美佐子	1281
国際関係論特講A	山本 哲史	1285
平和学特講	小林 周	1289
文化人類学	細谷 広美	1293
社会人類学	堀内 正樹	1297
民族誌	関谷 雄一	1301
開発の人類学	木村 秀雄	1305
フィールドワーク論	細谷 広美	1309

エスニック・スタディーズ	石橋 純		1313
文化人類学特講	上杉 妙子		1317
社会人類学特講	石田 慎一郎		1321
フランスの歴史と文化A	増田 都希		1325
フランスの歴史と文化B	増田 都希		1329
ドイツの歴史と文化A	三浦 國泰		1333
ドイツの歴史と文化B	田中 一嘉		1337
イギリスの歴史と文化A	竹内 敬子		1341
イギリスの歴史と文化B	竹内 敬子		1345
アメリカの歴史と文化A	中野 由美子		1349
アメリカの歴史と文化B	中野 由美子		1353
日本の歴史と文化A	有富 純也		1357
日本の歴史と文化B	有富 純也		1361
比較文化研究A	寺本 敬子		1365
比較文化研究B	寺本 敬子		1369
アジアの歴史と文化A	佐々木 紳		1373
アジアの歴史と文化B	佐々木 紳		1377
地域研究A	六反田 豊		1381
地域研究B	田沼 幸子		1385
地域研究C	木村 友彦		1389
地域研究D	草野 佳矢子		1393
文化交流史	佐々木 紳		1397
ギリシア・ローマ文化B	井上 秀太郎		1401
フランス文化・文化史特講A	山崎 耕一		1405
ドイツ文化・文化史特講A	天沼 春樹		1409
イギリス文化・文化史特講A	小野 俊太郎		1413
アメリカ文化・文化史特講A	細谷 典子		1417
日本文化・文化史特講A	高松 百香		1421
アジア文化・文化史特講A	フフバートル		1425
世界の言語文化A(ペルシア語)	小澤 一郎		1429
世界の言語文化B(ブルトン語)	原 聖		1433
世界の宗教文化(ヨーロッパの教会と都市)	原田 晶子		1437
国際文化研究A	見市 雅俊		1441
国際文化研究B	川村 陶子		1445
西洋美術史	人見 伸子		1449
東洋美術史	嶋田 さな絵		1453
アラビア語の世界I	堀内 里香		1457
アラビア語の世界II	堀内 里香		1461
実践国際コミュニケーションA	須田 祐子		1465
実践国際コミュニケーションB	須田 祐子		1469
現代社会入門	内藤 準		1473

社会学入門	澁谷 智子	1477
コミュニケーション論入門	見城 武秀	1481
メディア論入門	西 兼志	1485
社会学史	中江 桂子	1489
メディア史入門	今田 絵里香	1493
現代社会研究の基礎 a	内藤 準	1497
現代社会研究の基礎 b	堀口 剛	1501
現代社会研究の基礎 c	飯塚 邦彦	1505
現代社会研究の基礎 d	石堂 彰彦	1509
現代社会研究の基礎 e	川端 健嗣	1513
現代社会研究の基礎 f	渡邊 悟史	1517
現代社会研究の方法Ia	西 兼志	1521
現代社会研究の方法IIa	西 兼志	1525
現代社会研究の方法Ib	堀口 剛	1529
現代社会研究の方法IIb	堀口 剛	1533
現代社会研究の方法Ic	石堂 彰彦	1537
現代社会研究の方法IIc	石堂 彰彦	1541
現代社会研究の方法Id	金崎 一郎	1545
現代社会研究の方法IIId	金崎 一郎	1549
現代社会研究の方法Ie	川端 健嗣	1553
現代社会研究の方法IIe	川端 健嗣	1557
現代社会研究の方法If	渡邊 悟史	1561
現代社会研究の方法IIIf	渡邊 悟史	1565
演習Ia	伊藤 昌亮	1569
演習IIa	伊藤 昌亮	1573
演習IIIa	伊藤 昌亮	1577
演習IVa	伊藤 昌亮	1581
演習Ib	稲葉 佳奈子	1585
演習IIb	稲葉 佳奈子	1589
演習IIIb	稲葉 佳奈子	1593
演習IVb	稲葉 佳奈子	1597
演習Ic	今田 絵里香	1601
演習IIc	今田 絵里香	1605
演習Id	今田 絵里香	1609
演習IIId	今田 絵里香	1613
演習Ie	見城 武秀	1617
演習IIe	見城 武秀	1621
演習IIIe	見城 武秀	1625
演習IVe	見城 武秀	1629
演習If	小林 盾	1633
演習IIIf	小林 盾	1637

演習III f	小林 盾		1641
演習IV f	小林 盾		1645
演習I g	澁谷 智子		1649
演習II g	澁谷 智子		1653
演習I h	澁谷 智子		1657
演習III h	澁谷 智子		1661
演習I i	内藤 準		1665
演習III i	内藤 準		1669
演習III i	内藤 準		1673
演習IV i	内藤 準		1677
演習I j	中江 桂子		1681
演習II j	中江 桂子		1685
演習III j	中江 桂子		1689
演習IV j	中江 桂子		1693
演習I k	西 兼志		1697
演習III k	西 兼志		1701
演習III k	西 兼志		1705
演習IV k	西 兼志		1709
演習II	渡邊 大輔		1713
演習III	渡邊 大輔		1717
演習III	渡邊 大輔		1721
演習IV i	渡邊 大輔		1725
家族社会学	渡邊 大輔		1729
都市社会学	澁谷 智子		1733
社会心理学	小林 盾		1737
歴史と社会	今田 絵里香		1741
ジェンダーの社会学	坪田 美貴		1745
労働社会学	内藤 準		1749
アイデンティティの社会学	石田 仁		1753
コミュニティの社会学	渡邊 大輔		1757
環境社会学	高田 昭彦		1761
生活文化史	中江 桂子		1765
教育社会学	犬塚 典子		1769
社会階層論	内藤 準		1773
ライフコースの社会学	渡邊 大輔		1777
ボランティア・NPOの社会学	高田 昭彦		1781
文化社会学	加藤 裕康		1785
スポーツ社会学	渡 正		1789
経済社会学	藤原 翔		1793
科学技術の社会学	河村 賢		1797
グローバリゼーションの社会学	中田 英樹		1801

社会福祉概論	澁谷 智子		1805
社会福祉事業史	三谷 宗一郎		1809
社会調査入門	小林 盾		1813
社会調査の方法	渡邊 大輔		1817
量的調査入門(統計学)	川端 健嗣		1821
質的調査入門(資料分析)	今田 絵里香		1825
量的調査法(統計分析)	内藤 準		1829
質的調査法(インタビュー)	渡邊 悟史		1833
情報社会論	西 兼志		1837
メディア文化論	加藤 裕康		1841
ネットワーク社会論	伊藤 昌亮		1845
メディア産業論	伊藤 昌亮		1849
メディア制度史	堀口 剛		1853
マス・コミュニケーション論	奥野 昌宏		1857
メディア・リテラシー論	見城 武秀		1861
ジャーナリズム論	石堂 彰彦		1865
新聞論	石堂 彰彦		1869
出版論	今田 絵里香		1873
放送通信論	西 兼志		1877
広告論	高橋 千暁		1881
デジタル・メディア論	伊藤 昌亮		1885
情報デザイン論	高橋 裕行		1889
グローバリゼーションとメディア	村瀬 眞文		1893
メディアの理論	西 兼志		1897
社会調査演習I	小林 盾		1901
社会調査演習II	小林 盾		1905
メディア・リテラシー演習A	見城 武秀		1909
メディア・リテラシー演習B	見城 武秀		1913
コミュニティ演習A	伊藤 昌亮		1917
コミュニティ演習B	伊藤 昌亮		1921
現代社会研究A	茶谷 誠一		1925
現代社会研究B	堀口 剛		1929
トピック・セミナーA	川端 有子		1933
トピック・セミナーB	牧 藍子		1937
トピック・セミナーC	竹内 敬子		1941
トピック・セミナーD	茶谷 誠一		1945
トピック・セミナーE	飯塚 邦彦		1949
トピック・セミナーF	田中 一嘉		1953
Active English Gram	松原 知子		1957
Practical English Gr	松原 知子		1961
ラテン語I	井上 秀太郎		1965

ラテン語Ⅱ	井上 秀太郎		1969
発信する武蔵野地域文化	飯塚 邦彦		1973
実践する日本文化	佐藤 雄介		1977
Musashino Culture S	ラルフ ジェイムズ バーナビー		1981
Japanese Culture St	日比野 啓		1985
日本史概論Ⅰ	松田 行彦		1989
日本史概論Ⅱ	松田 行彦		1993
世界史概論Ⅰ	井村 行子		1997
世界史概論Ⅱ	井村 行子		2001
人文地理学	小田 宏信		2005
自然地理学a	財城 真寿美		2009
自然地理学<2>	財城 真寿美		2013
地誌学	小金澤 孝昭		2017
現代の政治学	富田 武		2021
書道(書写を中心とする。)A	二瓶 晃一		2025
書道(書写を中心とする。)B	二瓶 晃一		2029
教職総合演習	喜岡 淳治		2033
共生社会実践研究a	松崎 実穂		2037
共生社会実践研究b	小林 玄		2041
学校経営と学校図書館	伊藤 二郎		2045
学校図書館メディアの構成	斎藤 憲一郎		2049
学習指導と学校図書館	伊藤 二郎		2053
読書と豊かな人間性	杉山 明信		2057
情報メディアの活用	斎藤 憲一郎		2061
日本語教授論Ⅰ	佐久間 勝彦		2065
日本語教授論Ⅱ	佐久間 勝彦		2069
日本語教材研究Ⅰ	小田切 由香子		2073
日本語教材研究Ⅱ	小田切 由香子		2077
日本語教育実習a	小田切 由香子		2081
日本語教育実習b	小田切 由香子		2085
教職研究a	喜岡 淳治		2089
教職研究b	喜岡 淳治		2093
教育原論a	馬上 美知		2097
教育原論b	馬上 美知		2101
学校と社会a	生駒 俊樹		2105
学校と社会b	生駒 俊樹		2109
教育史	北村 和夫		2113
教育心理学a	松沼 光泰		2117
教育心理学b	松沼 光泰		2121
教育課程の研究(特別活動論を含む。)a	小池 俊夫		2125
教育課程の研究(特別活動論を含む。)b	小池 俊夫		2129

生涯学習研究	生駒 俊樹		2133
国語科教育法I	高橋 喜代治		2137
国語科教育法II	杉山 明信		2141
国語科教育法III	高橋 喜代治		2145
国語科教育法IV	高橋 喜代治		2149
社会科教育法A	大町 健		2153
社会科教育法B	馬上 美知		2157
社会科・地理歴史科教育法	大町 健		2161
地理歴史科教育法a	大町 健		2165
地理歴史科教育法b	大町 健		2169
社会科・公民科教育法a	馬上 美知		2173
公民科教育法a	馬上 美知		2177
公民科教育法b	馬上 美知		2181
英語科教育法I	小野 尚美		2185
英語科教育法IIa	小野 尚美		2189
英語科教育法III	斉田 智里		2193
英語科教育法IV	斉田 智里		2197
道德教育論a	小池 俊夫		2201
道德教育論b	喜岡 淳治		2205
教育方法研究a	馬上 美知		2209
教育方法研究c	喜岡 淳治		2213
教育方法研究d	喜岡 淳治		2217
教育方法研究e	喜岡 淳治		2221
教育方法研究f	宮下 敦		2225
生活指導論a	田村 修一		2229
生活指導論b	田村 修一		2233
教育相談a	岩田 淳子		2237
教育相談b	岩田 淳子		2241
教育相談c	岩田 淳子		2245
教育相談d	松沼 光泰		2249
教育実習研究a	松沼 光泰		2253
教育実習研究b	松沼 光泰		2257
教育実習研究c	菊地 正直		2261
教育実習研究d	喜岡 淳治		2265
教育実習(中・高)a	喜岡 淳治		2269
教育実習(中・高)b	馬上 美知		2271
教育実習(中・高)c	松沼 光泰		2273
教職実践演習(中・高)a	馬上 美知		2275
教職実践演習(中・高)b	松沼 光泰		2279
教職実践演習(中・高)c	岩田 淳子		2283
教職実践演習(中・高)d	菊地 正直		2287

科目名	英米文学概論Ⅰ		
教員名	杉本 文四郎		
科目ナンバー	1251411101	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
本科目では、英語圏文学／文化を学ぶうえで必要な基礎知識について概論する。具体的には、主に英文学の主要な作家と作品を扱い、その特質と意義について重要テーマや理論的枠組みを踏まえながら解説する。最終的には、各自で文学／文化テキストを選択し、それについて客観的・論理的な分析ができることを目指す。 文学／文化テキストの分析は専門的な知識と技能を要するが、その意義は大きい。例えば、人類の記憶と英知を共有し、蓄積し、時には批判的に検討し、次の世代へと継承するという意義がある。特に、英文学が扱ってきた諸問題（社会制度、戦争、植民地主義、セクシュアリティ、都市空間、テクノロジーやメディアなど）の多くは日本にとっても重要であり続けている。英文学はそれらの問題と人間との関わりについて真摯な問いを発してきた。その問いを受け止め、それを起点として各自が自らの関心に応じて考察を始めることで、多文化主義とグローバル化が進展する現代の社会を生きるうえで重要な指針が得られるだろう。 授業では、『イギリス文学入門』に準拠し、下記「授業の計画」に沿って講義を行う。なお、授業の進捗に応じて内容を一部変更することがある。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、次の3点を到達目標とする。 ①英文学の主要な作家と作品を把握し、その文化的・歴史的背景を理解する。 ②英文学の重要テーマを把握し、作品を分析するための理論的枠組みについて基礎的な理解を得る。 ③上記の理解を踏まえて各自で文学／文化テキストを選択し、それを分析できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・ 授業の内容、進め方等を説明する。 ・ （日本における）英文学という制度の起源について、その概略を説明する。		
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。		30
	【復習】授業の全体像や進め方、評価基準について確認する。		30
第2回	イギリス文学の重要テーマ①（第2部） ・ イギリス文学の重要テーマ（地域性、書物の歴史、英語の成立とイングリッシュ・アイデンティティなど）について学修する。		
	【予習】テキスト第2部の「地域性」、「書物の歴史」、「英語の成立とイングリッシュ・アイデンティティ」を熟読する。		60
第3回	古英語文学／中英語文学・16世紀（第1部1・2） ・ シェイクスピアを代表とする16世紀までの英文学について学修する。		
	【予習】テキスト第2部の「演劇」を熟読する。 【復習】授業の内容を振り返りながらテキスト第1部1・2を読む。		90

第4回	17世紀（第1部3） ・ 17世紀の代表的な作家と作品を歴史的・政治的な文脈に置いて把握する。	
	【予習】テキスト第2部の「宗教と科学」を熟読する。 【復習】授業の内容を振り返りながらテキスト第1部3を読む。	60
第5回	18世紀（第1部4） ・ 18世紀の文学を生み出した言説空間の特質について基本的な理解を得る。	
	【復習】授業の内容を振り返りながらテキスト第1部4を読む。	60
第6回	ロマン主義の時代（第1部5） ・ ロマン主義の文学の特徴と意義を理解する。 ・ メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』を通して、文学作品を分析するための多様な方法論を学ぶ。	
	【予習】テキスト第2部の「詩」を熟読する。 【復習】授業の内容を振り返りながらテキスト第1部5を読む。	60
第7回	小テストと振り返り ・ テキスト第1部1～5と第2部の既習範囲の理解度を確認するための小テスト ・ これまでの学修内容のまとめと補足	
	【予習】第1部1～5と第2部の既習範囲を十分に復習し、小テストに備える。	90
第8回	イギリス文学の重要テーマ②（第2部） ・ イギリス文学の重要テーマ（セクシュアリティ、植民地とポストコロニアリズムなど）について学修する。	
	【予習】テキスト第2部の「セクシュアリティ」、「植民地とポストコロニアリズム」を熟読する。	60
第9回	ヴィクトリア時代（第1部6） ・ ヴィクトリア時代の主要な作家とその作品について学修する。 ・ 英文学の重要テーマについて理解を深める。	
	【復習】授業の内容を振り返りながらテキスト第1部6を読む。	60

第10回	20世紀前半（第1部7） ・20世紀前半の主要な作家とその作品について学修する。	
	【予習】テキスト第2部の「戦争」を熟読する。 【復習】授業の内容を振り返りながらテキスト第1部7読む。	60
第11回	20世紀の英文学 ・20世紀の英文学について、重要テーマや理論的枠組みとの関連で解説する。	
	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。	60
第12回	20世紀後半～現代まで（第1部8） ・多文化主義とグローバル化の重要性を考慮しつつ、20世紀後半以降の英文学について学修する。	
	【復習】授業の内容を振り返りながらテキスト第1部8を読む。	60
第13回	イギリス文学の重要テーマ③（第2部） ・児童文学や（ゴシック・）ファンタジー、ミステリー、SFなど、従来傍系とされてきたジャンルの意義を考察する。	
	【予習】テキスト第2部の「児童文学」「ゴシック・ファンタジー」を熟読する。	60
第14回	到達度確認テスト	
	【予習】到達度確認テストに備えてこれまでの学修内容を復習する。	120
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答 授業のまとめ	
	【復習】到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	60

授業の方法

授業は適宜パワーポイントを使用しながら講義を中心に進める。また、必要に応じて資料を配布する。上で示された準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。

なお、各テストの狙いは以下の通りである。

- ・小テスト：第2回から第6回までの学修内容についての基本的な理解度を確認する。
- ・到達度確認テスト：授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

成績評価の方法

平常点（30%）、小テスト（1回：20%）、到達度確認テスト（50%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・英文学の主要な作家と作品について基本的な理解ができているか。
- ・英文学の重要テーマや理論的枠組みに基づいて文学／文化テクストを客観的・論理的に分析できるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

『イギリス文学入門』、石塚久郎・責任編集、三修社、3500円、ISBN978-4-384-05749-2

参考書

参考書は授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	英米文学概論II		
教員名	権田 建二		
科目ナンバー	1251411102	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
複数の人間によって形成される共同体において、そのうちの何人かが中心的な存在となり、それ以外の何人が周縁的な存在となるのは、社会一般に関して広く認められる現象だろう。アメリカ合衆国も例外ではない。むしろアメリカは他者を排除しようという中心性が極めて強く働く場であり、中心的存在・周縁的存在という分類が明瞭に現れるところである。しかし、アメリカにおいて特徴的であると思われるのは、そのように周縁に追いやられた人たちがその立場に甘んじない点だ。しばしば彼ら・彼女たちはアメリカ人として自らの存在の正当性を主張する。アメリカの歴史を眺めれば、中心性と周縁性の相克がアメリカを形成しているとさえ言えるだろう。本講義では以上のような観点からいくつかのテーマにそって、アメリカ社会において中心性と周縁性がどのように働いてきたか、働いているのか見ていきたい。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP7（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする 1) アメリカの歴史・文化を理解するための視座を得る。 2) 歴史的文献を現代の視点から分析する力を養う。 3) 様々な種類の英文を読解する力を養う。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクションー合衆国と自由		
	【復習】 今回分資料を再読。		60
第2回	自由と民主主義		
	【復習】 今回分資料を再読。		60
第3回	ニューイングランド・ピューリタンと魔女狩り I-ピューリタン, メイフラワー誓約, 「丘の上の町」		
	【復習】 今回分資料を再読。		60

第4回	ニューイングランド・ピューリタンと魔女狩り II-セイラムの魔女裁判	
	【復習】 今回分資料を再読。	60
第5回	ニューイングランド・ピューリタンと魔女狩り III-アーラー・ミラー『るつぼ』	
	【復習】 今回分資料を再読。	60
第6回	西部開拓とネイティブ・アメリカン I-「明白な運命」、フロンティアの消滅	
	【復習】 今回分資料を再読。	60
第7回	西部開拓とネイティブ・アメリカン II-テキサスの独立「明白な運命」、フロンティアの消滅	
	【復習】 今回分資料を再読。	60
第8回	西部開拓とネイティブ・アメリカン III-メアリー・ロウランドソンの『俘虜記』、インディアンへの強制移住	
	【復習】 今回分資料を再読。	60
第9回	西部開拓とネイティブ・アメリカン IV-ヘレン・ハント・ジャクソン、インディアン・アクティヴィズム	
	【復習】 今回分資料を再読。	60

第10回	西部開拓とネイティブ・アメリカン V-ネイティヴ・アメリカンと同化	
	【復習】 今回分資料を再読。	60
第11回	人種差別と黒人 I-奴隷解放と「分離すれど平等」の原理-ブレシー判決	
	【復習】 今回分資料を再読。	60
第12回	人種差別と黒人 II-黒人に対する差別	
	【復習】 今回分資料を再読。	60
第13回	人種差別と黒人 III-ブラウン判決と公民権運動	
	【復習】 今回分資料を再読。	60
第14回	人種差別と黒人 IV-公民権運動の後：パッキ判決と逆差別	
	【予習】 セルフレビューに備えこれまでの学習内容を確認する。 【復習】 今回分資料を再読。	60
第15回	授業のまとめ・セルフレビュー	
	この授業を振り返り、自分の理解度を点検し、不足している知識等を確認し学修する。	60

授業の方法

講義形式。ただし受講者は毎回授業の最後にリアクション・ペーパーを書く。
リアクション・ペーパーは単なる授業の感想や質問を書くのではなく、授業で学んだことに関して自分の考えを述べるものである。
毎回の授業でこれを行うことで、授業の理解度と確認する。

成績評価の方法

レスポンス・ペーパー（90%）＋ セルフレビュー（10%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

この授業では一冊の決まった書籍を教科書として使わない。必要な文献等は毎回プリントにして配布。

参考書

ハワード・ジン『民衆のアメリカ史』 上下 明石書店、2005。
エリック・フォーナー『アメリカ自由の物語：植民地時代から現代まで』 岩波書店、2008年。
有賀夏紀・油井大三郎 編 『アメリカの歴史 テーマで読む多文化社会の夢と現実』 有斐閣 2003年。
亀井俊介 編 『アメリカ文化入門』 昭和堂 2006年。
大下尚一 有賀貞 志邨晃佑 平野孝 『史料で語るアメリカ メイフラワーから包括通商法まで』 有斐閣 1989年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	英語学概論 I		
教員名	山本 史歩子		
科目ナンバー	1251411103	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
学問としての英語を学ぶ。			
到達目標			
基礎英語学である、音声学・音韻論・意味論・統語論・語用論を中心に学びながら、英語史及び社会言語学についても理解を深める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	オリエンテーション(講義の目的、到達点、進め方、評価について説明)		
	【予習】 「中・高校時代に説明されても未だ納得していない英文法について考えておくこと	60	
第2回	英語の誕生(古英語・中英語)		
	【予習】 英語の歴史について世界史と照らし合わせておく	60	
第3回	近代英語の誕生(初期近代英語・後期近代英語)		
	【予習】 古英語・中英語について考えておく	60	

第4回	英語の地域的変種（イギリス英語・アメリカ英語・カンダ英語・オーストラリア英語）	
	【予習】 イギリス英語とアメリカ英語の違いについて考えておく	60
第5回	英語の社会的変種	
	【予習】 日本における社会階級・年齢差などによる言語の違いについて考えてくる	60
第6回	言語と性差	
	【予習】 日本語の女性言葉・男性言葉について考えてくる	60
第7回	英語の音声と音韻の仕組み	
	【予習】 日本語の母音と子音について考えてくる	60
第8回	音韻論の基礎知識	
	【予習】 英語の母音と子音について、再度理解をしておくこと	60
第9回	英語の語彙と意味	
	【予習】 日本語の類義語・反意語や、文の曖昧性について考えてみる	60

第10回	英語の文構造—生成文法の観点から—	
	【予習】 日本語の文の構造について考えてみる	60
第11回	英語の文構造—認知言語学の観点から—	
	【予習】 人がどのように外界の現象を認識しているか考えてくる	60
第12回	メタファーとメトニミー・主観性	
	【予習】 日本語のメタファー・メトニミーの例を考えてくる	60
第13回	英語の運用と表現の諸相	
	【予習】 言外の意味と何か考えておく	60
第14回	協調の原理と会話の格率・ポライトネス	
	【予習】 日本語の尊敬語・謙譲語・丁寧語について考えておく	60
第15回	到達度試験	
	【予習】 試験に備えて、今までの授業内容について確認をすること	60

授業の方法

講義を中心に授業を行うが、必要に応じて学生たちに質問を投げかけながら進める。

成績評価の方法

試験（100%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中・高等学校で学んだことを再確認しておくこと

テキスト

『現代英語学へのアプローチ』 山内信幸・北林利治（共編） 英宝社 2014

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	英語学概論II		
教員名	平山 真奈美		
科目ナンバー	1251411104	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

この授業では、言語学の概念を用いて英語の構造を学ぶ。実際にデータを分析することを通して、実践的に英語の音声、音韻、形態、形態音韻、統語の構造を学ぶ。必要に応じて日本語を始めとして他言語との比較も行いながら、英語を含めた自然言語とはどのようなものなのかについて学ぶ。

到達目標

DP 1（教養の修得）（特にここでは理論言語学の基本概念の修得）、DP 7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、この授業では以下の3点を目標とする。

- ・ 言語学の概念を学ぶ。
- ・ 英語の音声、音韻、形態、形態音韻、統語の構造を学ぶ。
- ・ 英語の構造を言語学の概念を使って分析できるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Introduction: What is linguistics and English linguistics?	
	Review of class Homework	30
第2回	Phonetics I	
	Review of class Homework	60
第3回	Phonetics II	
	Review of class Homework	60

第4回	Phonetics III	
	Review of class Homework	60
第5回	Phonology I Quiz #1	
	Review of class Quiz preparation	120
第6回	Phonology II	
	Review of class Homework	60
第7回	Phonology III	
	Review of class Homework	60
第8回	Morphology I Quiz #2	
	Review of class Quiz preparation	120
第9回	Morphophonemics	
	Review of class Homework	60

第10回	Morphology II	
	Review of class Homework	60
第11回	Syntax I Quiz #3	
	Review of class Quiz preparation	120
第12回	Syntax II	
	Review of class	60
第13回	Syntax III	
	Review of class Homework	60
第14回	Writing systems Quiz #4	
	Review of class Quiz preparation	120
第15回	Review of course	
	Review of class	60

授業の方法

講義（パワーポイント）をした後、内容について練習問題を行いながら授業を進める。項目が終わる毎に小テスト（quizzes）を行い、理解を深める。

成績評価の方法

Quizzes: 60% (4x15%)

Final exam: 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

英語学概論 I

テキスト

特になし。

参考書

O' Grady, William and John Archibald. 2016. Contemporary Linguistic Analysis: An Introduction. (8th ed.) Pearson.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	イギリス文学史 I		
教員名	正岡 和恵		
科目ナンバー	1251411105	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

本講義では、イギリスにおける文学作品の、誕生から18世紀にいたるまでの全体的な流れを把握し、個々の作家や作品に関する基礎知識を学習する。民族と言語の形成から説き起こし、中世、ルネサンス、王政復古期を経てロマン主義にいたるまで、それぞれの時代における代表的な作家や作品について、歴史、文化、テキストの相互作用を考慮しつつ概観する。ただし17世紀後半から18世紀初頭にかけては演劇と詩のみを取り上げ、小説その他のジャンルについては後期に扱う。

到達目標

DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、以下の3点を到達目標とする。

- ①イギリス文学史の基本的知識を身に付け、説明できる。
- ②作品や作家の固有性を時代や文化の文脈をふまえたうえで、説明できる。
- ③文学伝統や影響関係についての感覚を養うことで、テキストをよりの確に分析できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	イントロダクション：イギリス文学史の誕生	
	教科書の目次に目を通しておいください。	60
第2回	英語の形成と『ベオウルフ』	
	教科書の『ベオウルフ』および古英語の項目を読んでおくこと。	60
第3回	チョーサーの世界	
	【予習】チョーサーの項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業で配布したプリントの内容を理解しておくこと。	60

第4回	アーサー王伝説の成立	
	【予習】トマス・マロリーの項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業で配布したプリントの内容を理解しておくこと。	60
第5回	『妖精女王』と『ユートピア』の宮廷政治学	
	【予習】エドモンド・スペンサーとトマス・モアの項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業で配布したプリントの内容を理解しておくこと。	60
第6回	イギリス演劇の形成	
	【予習】道徳劇の項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業で配布したプリントの内容を理解しておくこと。	60
第7回	シェイクスピアの世界 I	
	【予習】シェイクスピアの項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業で配布したプリントの内容を理解しておくこと。	60
第8回	シェイクスピアの世界 II	
	【予習】シェイクスピアの項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業で配布したプリントの内容を理解しておくこと。	60
第9回	小テスト	
	【予習】いままでの授業の講義内容をふまえた小テストを行います。プリントおよび教科書の学修内容を十分に理解してして、テストに備えてください。	90

第10回	17世紀の文学：劇場閉鎖まで	
	【予習】ジェイムズ朝演劇の項目を読んでおくこと。	60
第11回	ミルトンの世界	
	【予習】ミルトンの項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業で配布したプリントの内容を理解しておくこと。	60
第12回	王政復古期の演劇と18世紀の文学	
	【予習】ドライデンとポープの項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業で配布したプリントの内容を理解しておくこと。	60
第13回	ロマン派の詩人たち	
	【予習】ロマン派の項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業で配布したプリントの内容を理解しておくこと。	60
第14回	ワーズワスの世界	
	【予習】ワーズワスの項目を読んでおくこと。 【復習】先回の授業で配布したプリントの内容を理解しておくこと。	180
第15回	全体のまとめ	
	授業の論点をまとめておいてください。	60

授業の方法

授業計画に従って講義をする。必要に応じて視聴覚教材を使用する。

成績評価の方法

小テスト（1回：40%）および学期末試験（60%）によって評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『はじめて学ぶイギリス文学史』 神山妙子編（ミネルヴァ書房）

『たのしく読めるイギリス文学』 中村邦生・木下卓・大神田文二編（ミネルヴァ書房）

参考書

必要に応じて指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	イギリス文学史II		
教員名	遠藤 不比人		
科目ナンバー	1251411106	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
18世紀後半以降のイギリス文学の歴史を、novel, poetry, Englishnessという視点から概観する。それと同時に、狭く文学だけでなく、より広範な文化史的な視点を導入し、近代(modernity)とは何かという問題にも言及する。特に注目するのは、イギリス近代がいま現在の「世界システム」の基礎を構築したという歴史的事実であり、そのためイギリス文学(文化)史の基礎的な知識は、21世紀に生きる私たちが直面する諸問題を解決するための糸口を提供してくれる、という次元まで議論を進めたい。			
到達目標			
DP6(文化現象の総合的理解)、DP7(問題発見能力および多面的な分析能力)を実現するために、次の2点を到達目標とする。 ①イギリス近代に関して文学／文化史的知識を獲得し、modernityに潜在する諸問題を理解できる。 ②この知識と理解を前提に、21世紀の世界が抱える諸問題を自身で発見し、その解決の可能性を探ることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イギリス近代に関する導入的な講義 1		
	シラバスを読む		10分
第2回	イギリス近代に関する導入的な講義 2		
	前回の講義内容の復習と指定されたテキストの箇所の予習		90分
第3回	Aspects of the English novel 1		
	前回の講義内容の復習と指定されたテキストの箇所の予習		90分

第4回	Aspects of the English novel 2	
	前回の講義内容の復習と指定されたテキストの箇所の予習	90分
第5回	Aspects of the English novel 3	
	前回の講義内容の復習と指定されたテキストの箇所の予習	90分
第6回	Aspects of the English novel 4	
	前回の講義内容の復習と指定されたテキストの箇所の予習	90分
第7回	Aspects of the English novel 5	
	前回の講義内容の復習と指定されたテキストの箇所の予習	90分
第8回	Among the English poets1	
	前回の講義内容の復習と指定されたテキストの箇所の予習	90分
第9回	Among the English poets2	
	前回の講義内容の復習と指定されたテキストの箇所の予習	90分

第10回	Among the English poets3	
	前回の講義内容の復習と指定されたテキストの箇所の予習	90分
第11回	The Englishness of English Literature1	
	前回の講義内容の復習と指定されたテキストの箇所の予習	90分
第12回	The Englishness of English Literature2	
	前回の講義内容の復習と指定されたテキストの箇所の予習	90分
第13回	The Englishness of English Literature3	
	前回の講義内容の復習と指定されたテキストの箇所の予習	90分
第14回	The Englishness of English Literature4	
	前回の講義の復習	90分
第15回	まとめ	
	学期を通じての講義内容の復習	120分

授業の方法

基本的には下記英語テキストを講読しながら講義を進める。

成績評価の方法

平常点（30％）、期末試験の成績（70％）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

1年次の英米文学概論で獲得した知識

テキスト

Jonathan Bate, 『English Literature: A Very Short Introduction』 (Clarendon: Oxford UP, 2010) ISBN: 978-0-19-956926-7

参考書

講義内で複数を紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	アメリカ文学史Ⅰ		
教員名	庄司 宏子		
科目ナンバー	1251411107	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
アメリカ合衆国はどのような文学を生み出してきたのか、17世紀初頭からの植民地時代、18世紀末の独立戦争と建国期、19世紀初頭から半ばの領土拡張時代（アンテベラム期）、1860年代の南北戦争期まで、その流れを歴史と文化と関連させながら辿る。ある国がどのような文学を生み出すかは、その国土や地形、気候とも関わっている。講義では文学の中に刻印されたアメリカ人のものの考え方の根底となる理念、アメリカ的なテーマ、文学と国家の関わり等について考える。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）を実現するため、次の5点を到達目標とする。 ・アメリカ文学の主たる作品に触れながら、文学と歴史や社会、文化と関連させながら読み解き、社会をみる批評意識を養う。 ・文学史とは、その国を形づくるひとつの歴史であり、精神史であることを理解する。 ・文学作品は、それが書かれた時代の状況を反映するものであることを理解する。 ・文学作品は時代を反映しながらも、歴史や文化をみる別の視点を提示しうるメディアであることを理解する。 ・文学作品の読解を通じて、その時代や社会を思考し、批評する力を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション——大航海時代、新大陸はどのようにイメージされたか		
	シラバスを読み、アメリカ文学史Ⅰの授業で何を学ぶのか、自分は何に関心があり何を学びたいのか、考えてくること。グローバル化の現代は15世紀に始まる大航海時代の到来から始まったといつてよい。人、物、情報が国境を越えて移動するとはどういうことか、そこから何が生まれるか考えてみましょう。	60分	
第2回	植民地時代のアメリカ(1) : William Bradford, Of Plymouth Plantationを中心に		
	大西洋の荒波を超えて新大陸アメリカにやって来たピューリタンたちの目の前に現れた風景はどのようなものだったのか、彼らはそれをどのように表現したのか想像してみましょう。その風景が現代のアメリカ人の原風景を形作っています。	60分	
第3回	植民地時代のアメリカ(2) : Captivity NarrativeとNative Americansの表象, Mary Rowlandson, A Narrative of the Captivity and Restoration of Mrs. Mary Rowlandsonを中心に		
	植民地時代のアメリカにおいて入植者と先住民インディアン部族との間でしばしば抗争が起こります。その一つが1675年に起こるフィリップ王戦争です。戦いのなかでインディアン部族の捕虜となった女性が記した体験記からインディアンはどのように描かれているか当時のピューリタン社会はどのようなものだったか、考えてみましょう。	60分	

第4回	植民地時代のアメリカ (3) : ピューリタニズムとセイレム魔女事件	
	1692年にマサチューセッツのセイレムで起こった魔女事件はアメリカ史上最も悲惨な事件であり、さまざまな文学のインスピレーションを与えています。こうした事件が起こる背景について考えてみましょう。この事件の終息のあと、時代は近代の幕開けを迎えます。	60分
第5回	建国期のアメリカ (1) アメリカとは何か——Crevecoeur, Letters from an American FarmerとThomas Jeffersonの「独立宣言文書」を中心に	
	17世紀初頭に始まって約200年の植民地時代を経てアメリカはイギリスとの独立戦争の後、1783年に独立を遂げます。トマス・ジェファソンが中心になって起草された独立宣言文書からアメリカの精神・理念を辿ってみましょう。また建国初期に書かれたアメリカ人論も読みます。	60分
第6回	建国期のアメリカ (2) ——トマス・ジェファソンの『ヴァージニア覚え書』	
	『ヴァージニア覚え書』は後に第3 第大統領となるトマス・ジェファソンが自分の故郷について記したものです。世界に先駆けて共和国となったアメリカがその建国初期に抱えた問題について考えてみましょう。	60分
第7回	建国期のアメリカ (3) Charles Brockden BrownとWashington Irvingの文学	
	Charles Brockden BrownやWashington Irvingがどのような小説を書いたのか、調べてみましょう。	60分
第8回	若きアメリカのロマンティズム : James Fenimore Cooper, The Last of the Mohicans	
	James Fenimore Cooper原作の映画『最後のモヒカン族』を見てみましょう。	60分
第9回	西漸運動とマニフェスト・デスティニー: Alexis de Tocqueville, Democracy in America	
	18世紀末に独立し、19世紀半ばにかけて大西洋と太平洋にまたがる大陸国家となっていくアメリカ、その領土拡大について調べてみましょう。	60分

第10回	アメリカ・ルネサンスの文学(1)：トランセンデンタリズム——Ralph Waldo EmersonとHenry David Thoreau	
	独立してから約半世紀を経てアメリカは初めて国民文学といえる作品を生み出すようになります。その中核となるのがトランセンデンタリズム（超越主義）です。どのような思潮の運動か考えてみましょう。	60分
第11回	アメリカ・ルネサンスの文学(2)：Edgar Allan Poe	
	エドガー・アラン・ポーの作品は恐怖に満ちたグロテスクなもの、軽妙なもの、理性的なもの、海洋冒険譚とさまざまあります。翻訳でよいので、何かひとつポーの短篇を読んでみましょう。	60分
第12回	アメリカ・ルネサンスの文学(3)：Nathaniel HawthorneとHerman Melville	
	アメリカ文学史上最高傑作といってよいナサニエル・ホーソーン『緋文字』とハーマン・メルヴィルの『白鯨』を抜粋で読みます。どのような内容の作品か、調べてください。	60分
第13回	奴隷解放運動と奴隷体験記：Harriet Beecher Stowe, Uncle Tom's CabinとFrederick Douglass, Narrative of the Life of Frederick Douglass	
	19世紀半ばのアメリカは、後にアメリカ・ルネサンスと呼ばれる独自の文学潮流を生み出す一方で、奴隷制度をめぐる北部の自由州と南部の奴隷州の対立が激化する時代でした。そのなかで奴隷制廃止を訴える文学が生まれます。ストウの『アンクル・トムの小屋』とダグラスの『数奇なる奴隷の半生』から当時の社会を考えます。この作品の内容について調べてください。	60分
第14回	Walt Whitmanの詩および南北戦争の記録——写真に捉えられた戦争	
	奴隷制度をめぐる北部と南部の対立はリンカーン大統領のもとで1861年に南北戦争の勃発にいたります。南北戦争を記録した写真家マシュー・ブレイディの作品と生涯からこの時代を考えます。写真というメディアに歴史が捉えられる、というより写真というメディアによって歴史が作り出されるということ、メディアと歴史記述について考えてみてください。	60分
第15回	授業内期末試験	
	授業内容を復習し、期末試験の準備をしてください。	180分

授業の方法

講義形式。講義内容の理解を深めるため、パワーポイントによる資料提示のほか、適宜DVDを視聴する。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況やリアクション・ペーパー）20%、学期末の授業内試験80%から評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

教科書は使用しない。毎授業プリントを配布する。授業プリントは授業時間内にもみ配布し、再配布はしないので注意すること。

参考書

Peter B. High, An Outline of American Literature (Longman Eicho-sha)
Emory Elliott, ed., The Columbia Literary History of the United States (Columbia UP): ISBN: 0231058128
Emory Elliott, ed., The Columbia History of the American Novel (Columbia UP): ISBN: 0231073607
Walter Benn Michaels and Donald E. Pease, eds., The American Renaissance Reconsidered (Johns Hopkins UP): ISBN: 0801839378
F. O. マシーセン『アメリカン・ルネサンス——エマソンとホイットマンの時代の芸術と表現』上巻・下巻（ぎょうせい）
トニ・モリスン『白さと想像力——アメリカ文学の黒人像』（朝日選書）
渡辺利雄『講義 アメリカ文学史』第I編Ⅱ巻、補遺（研究社）
大橋健三郎『総説アメリカ文学史』（研究社）
巽孝之『アメリカ文学史——駆動する物語の時空間』（慶応義塾大学出版会）
諏訪部浩一他『アメリカ文学入門』（三修社）
亀井俊介『アメリカ文化史入門——植民地時代から現代まで』（昭和堂）
高野一良『アメリカン・フロンティアの原風景——西部劇・先住民・奴隷制・科学』（風濤社）
庄司宏子『アメリカスの文学的想像力』（彩流社）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	アメリカ文学史II		
教員名	下河辺 美知子		
科目ナンバー	1251411108	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
20世紀アメリカをグローバルな視点から位置づけ、21世紀アメリカの存在の意味と世界のあり方を検討したい。民主主義、資本主義、人種、核などをキーワードとしてアメリカ文化を読み解く。そのことによって、我々は、戦争の世紀とも言える20世紀の歴史を語る方法を手に行っているのかという問題を考えていく。また、文学史という概念そのものにたいする批評理論も紹介する。歴史と記憶の問題については、最近の精神医学からの問題提起を汲み取り、歴史言説の特質についての考察を提示するつもりである。			
到達目標			
DP6【文化現象の総合的理解】を実現するため、次の点を到達目標とする。 ①アメリカ国家・文化に対する洞察を専門的に獲得する。 ②二十一世紀の世界で生きていく際にグローバルな世界情勢の中で日本人としてどのように現状を認識していくのかについての意識を獲得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・歴史を語ることの意味 ・“アメリカ”という記号の向こうにあるもの ・半球思想的に世界を見ること		
	アメリカ国家の歴史と文化の関係について自分なりのイメージをさぐっておくこと。アメリカ研究関係の研究書をいくつか目を通しておくこと。		60分
第2回	Realism in America 1 ・19世紀後半のアメリカの拡張 ・南北戦争後のアメリカの文化 ・Mark Twain について		
	テーマとなる用語、概念について調べておくこと。		60分
第3回	Realism in America 2 ・アメリカン・リアリズムの創始者—W.D. Howells ・精神的リアリズム—Henry James ・アメリカのナチュラリズム—Stephen Crane		
	テーマとなる用語、概念について調べておくこと。		60分

第4回	世紀転換期のアメリカ文学・文化 ・ 1899年の言葉使い ・ 自然—ナチュラリズム ・ 女性—女性と言葉 ・ 経済—社会と言葉	
	テーマとなる用語、概念について調べておくこと。	60分
第5回	20世紀初頭のアメリカ ・ 自然主義文学の巨峰—Theodore Dreiser ・ 内面に宿る真実—Willa Cather ・ 一瞬の真実—Sherwood Anderson	
	テーマとなる用語、概念について調べておくこと。	60分
第6回	中間レポート準備	
	これまで授業で学んだことについて、アメリカ文化のどのような点に興味をひかれたかについて考えておくこと。	60分
第7回	1920年代 ・ 20年代という饗宴 ・ Chronicler of Lost Generation ・ Performer of Lost Generation	
	テーマとなる用語、概念について調べておくこと。	60分
第8回	1930年代—宴の後 ・ 左翼化する文学 ・ 資本主義という暴力について	
	テーマとなる用語、概念について調べておくこと。	60分
第9回	レポート評価：他の学生の書いたレポートを読み、自分の書いたレポートとくらべて評価する。	
	自分の提出したレポートを再度読み直し、形式チェックなどをしておくこと。	60分

第10回	Jewish Writers ・ユダヤ人とは ・アメリカのユダヤ人 ・ユダヤ系作家たち ・ユダヤ的想像力/創造力	
	テーマとなる用語、概念について調べておくこと。	60分
第11回	Racial Issues 1 ・奴隷制と奴隷貿易 ・アメリカの奴隷解放 ・公民権運動	
	テーマとなる用語、概念について調べておくこと。	60分
第12回	Racial Issues 2 ・Slave Narrative ・Harlem Renaissance ・Civil Rights Movement ・黒人女性作家の声	
	テーマとなる用語、概念について調べておくこと。	60分
第13回	21世紀アメリカとグローバリゼーション ・冷戦期の外交政策と冷戦期のレトリック ・「核」を開発・所有したアメリカ ・我々は「核」を語ることができるのか	
	テーマとなる用語、概念について調べておくこと。	60分
第14回	到達度確認テスト	
	後期に取り上げたアメリカの作家、作品のいくつかを実際に読んでみる。また、後期に学んだアメリカ文化の特質について考えておくこと。	60分
第15回	振り返り	
	これまでの授業をふりかえり、自分なりのアメリカ観を提示すること。	60分

授業の方法

- * 講義が中心であるが、ビデオなどによって視聴覚的にアメリカの歴史と文化に触れていきたい。また、インターネットによる情報収集（ことに英語で）にも慣れてほしい。
- * 指定された批評書3冊のうち1冊を購入して読み、レポートを提出のこと。初回の授業で2冊の本の概要について説明するので、興味のある方を選ぶ事。

成績評価の方法

学期末試験（80%程度）、小レポート（10%程度）、平常点（10%程度）を基本として総合的に成績評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

次の3冊のうち1冊を購入のこと

- 『歴史とトラウマ：記憶と忘却のメカニズム』（下河辺美知子 作品社）
- 『トラウマの声を聞く：共同体の記憶と歴史の未来』（下河辺美知子 みすず書房）
- 『グローバリゼーションと惑星的想像力』（下河辺美知子 みすず書房）

参考書

授業で取り上げたアメリカ文学作品を、一冊は必ず読んで後期試験にのぞむこと。文献リストは授業中に配布する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	CALL I a		
教員名	モハメッド ガマル アンドリュー		
科目ナンバー	1051411201	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

This course will develop students' language, computer and independent learning skills as well as introduce students to the importance and benefits of Extensive Reading

到達目標

In accordance with the university's Diploma Policy, the course will, in addition, aim to improve students' communication skills in English and broaden their understanding of key issues related to the subject (see: DP 6).

授業の計画と準備学修

Each day will follow the same procedure:

- Part One: Extensive Reading and a communication activity (pairwork)
- Part Two: A longer problem solving computer based task (groupwork)
- Part Three: Independent study using assigned websites (individual work)
- Part Four: Feedback: (groupwork / whole class)

授業の方法

The classes will include periods of group work, pairwork and individual study.

成績評価の方法

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.5641.

成績評価の基準

Students will be graded according to the following criteria:

Classwork: 50%

Homework: 20%

Report: 30%

必要な予備知識／先修科目／関連科目

n/a

テキスト

Materials will be provided by the teacher.

参考書

n/a

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	CALL II a		
教員名	小林 英里		
科目ナンバー	1051411202	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

CALL (Computer-Assisted Language Laboratory) 教室設備を用いて、英語の四技能のうち「聴く」「話す」を特に強化します。「反転授業」「アクティブ・ラーニング」など最近の学習理論にもとづいて創出された主体的な学びの場において、語学習得に欠かせない、自律的学習の習慣を身につけます。

到達目標

DP5およびDP7を実現するために、以下の諸点を目標とする。

- (1) 英語の動画を視聴して、内容を大まかに把握できるだけの聴解力を養う。
- (2) 明瞭な発声を心がけて英語で発表することにより、「話して伝わる英語」の基礎を養う。
- (3) 発音について実践的に学ぶことによって、「音」から「意味」への発展を体得する。
- (4) 自らの学習スタイルについて考察し、自学自修の習慣を養う。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	イントロダクション 授業の進め方・心構え スーパー英語についての確認	
	シラバスをよく読み、二冊の教科書を入手してその目次から構成を知る	60
第2回	Seeing the World through the News (Unit 1) English Expert (Chapter1) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 1) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter1): Step4 : Reading	90
第3回	Seeing the World through the News (Unit 2) English Expert (Chapter2) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 2) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter2): Step4 : Reading	90

第4回	Seeing the World through the News (Unit 3) English Expert (Chapter3) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 3) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter3): Step4 : Reading	90
第5回	Seeing the World through the News (Unit 4) English Expert (Chapter4) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 4) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter4): Step4 : Reading	90
第6回	Seeing the World through the News (Unit 5) English Expert (Chapter5) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 5) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter5): Step4 : Reading	90
第7回	Seeing the World through the News (Unit 6): English Expert (Chapter6) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 6) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter6): Step4 : Reading	30
第8回	中間レビュー。これまでの学習を振り返り、それまでに獲得した点数を確認したうえで、各自が授業内に「中間報告書」を書いて提出する。	
	これまでの学習を振り返る。	90
第9回	Seeing the World through the News (Unit 7) English Expert (Chapter7) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 7) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter7): Step4 : Reading	90

第10回	Seeing the World through the News (Unit 8) English Expert (Chapter8) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 8) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter8): Step4 : Reading	90
第11回	Seeing the World through the News (Unit 9) English Expert (Chapter9) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 9) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter9): Step4 : Reading	90
第12回	Seeing the World through the News (Unit 10) English Expert (Chapter10) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 10) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter10): Step4 : Reading	90
第13回	Seeing the World through the News (Unit 11) English Expert (Chapter11) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 11) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter11): Step4 : Reading	90
第14回	Seeing the World through the News (Unit 12) English Expert (Chapter12) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 12) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter12): Step4 : Reading	90
第15回	期末レビュー。これまでの学習を振り返り、それまでに獲得した点数を確認したうえで、各自が授業内に「期末報告書」を書いて提出する。「	
	これまでの学習を振り返る。	60

授業の方法 予習を前提として授業が進行していきます。授業には以下の要素が含まれます。 (1) 指名された数人の学生が教壇に立ち、教科書Seeing the World through the NewsのBuilding Languageの答え合わせを行います。英語の文法・語彙について深く知りましょう (2) プレゼンテーション。Seeing the World through the NewsのFollow upで提示されたトピックの一つを選び、発表します。 (4) English Expert の課題を各自が学習します。その間学生一名につき五分程度、担当教員が一对一で発音をチェックします。
成績評価の方法 授業への積極的な参加：70% 「スーパー英語」の到達度：30%
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特になし
テキスト Timothy Knowlesほか、Seeing the World through the News 5 （金星堂、2018年新刊） Ryou Yodaほか、English Expert（開文社）ISBN978-87571-549-8
参考書 授業の際には辞書を持参すること。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知する。

科目名	CALL I b		
教員名	エラム ジェシー ラッセロ		
科目ナンバー	1051411201	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

This course will develop students' language, computer and independent learning skills as well as introduce students to the importance and benefits of Extensive Reading

到達目標

In accordance with the university's Diploma Policy, the course will, in addition, aim to improve students' communication skills in English and broaden their understanding of key issues related to the subject (see: DP 6).

授業の計画と準備学修

Each day will follow the same procedure:

- Part One: Extensive Reading and a communication activity (pairwork)
- Part Two: A longer problem solving computer based task (groupwork)
- Part Three: Independent study using assigned websites (individual work)
- Part Four: Feedback: (groupwork / whole class)

授業の方法

The classes will include periods of group work, pairwork and individual study.

成績評価の方法

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.5641.

成績評価の基準

Students will be graded according to the following criteria:

Classwork: 50%

Homework: 20%

Report: 30%

必要な予備知識／先修科目／関連科目

n/a

テキスト

Materials will be provided by the teacher.

参考書

n/a

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	CALL II b		
教員名	松原 知子		
科目ナンバー	1051411202	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
CALL (Computer-Assisted Language Laboratory) 教室設備を用いて、英語の四技能のうち「聴く」「話す」を特に強化します。「反転授業」「アクティブ・ラーニング」など最近の学習理論にもとづいて創出された主体的な学びの場において、語学習得に欠かせない、自律的学習の習慣を身につけます。			
到達目標			
DP5およびDP7を実現するために、以下の諸点を目標とする。 (1) 英語の動画を視聴して、内容を大まかに把握できるだけの聴解力を養う。 (2) 明瞭な発声を心がけて英語で発表することにより、「話して伝わる英語」の基礎を養う。 (3) 発音について実践的に学ぶことによって、「音」から「意味」への発展を体得する。 (4) 自らの学習スタイルについて考察し、自学自修の習慣を養う。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション 授業の進め方・心構え スーパー英語についての確認		
	シラバスをよく読み、二冊の教科書を入手してその目次から構成を知る		60
第2回	Seeing the World through the News (Unit 1) English Expert (Chapter1) 「スーパー英語」：進度は各自による		
	Seeing the World through the News (Unit 1) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter1): Step4 : Reading		90
第3回	Seeing the World through the News (Unit 2) English Expert (Chapter2) 「スーパー英語」：進度は各自による		
	Seeing the World through the News (Unit 2) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter2): Step4 : Reading		90

第4回	Seeing the World through the News (Unit 3) English Expert (Chapter3) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 3) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter3): Step4 : Reading	90
第5回	Seeing the World through the News (Unit 4) English Expert (Chapter4) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 4) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter4): Step4 : Reading	90
第6回	Seeing the World through the News (Unit 5) English Expert (Chapter5) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 5) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter5): Step4 : Reading	90
第7回	Seeing the World through the News (Unit 6): English Expert (Chapter6) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 6) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter6): Step4 : Reading	30
第8回	中間レビュー。これまでの学習を振り返り、それまでに獲得した点数を確認したうえで、各自が授業内に「中間報告書」を書いて提出する。	
	これまでの学習を振り返る。	90
第9回	Seeing the World through the News (Unit 7) English Expert (Chapter7) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 7) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter7): Step4 : Reading	90

第10回	Seeing the World through the News (Unit 8) English Expert (Chapter8) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 8) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter8): Step4 : Reading	90
第11回	Seeing the World through the News (Unit 9) English Expert (Chapter9) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 9) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter9): Step4 : Reading	90
第12回	Seeing the World through the News (Unit 10) English Expert (Chapter10) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 10) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter10): Step4 : Reading	90
第13回	Seeing the World through the News (Unit 11) English Expert (Chapter11) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 11) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter11): Step4 : Reading	90
第14回	Seeing the World through the News (Unit 12) English Expert (Chapter12) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 12) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter12): Step4 : Reading	90
第15回	期末レビュー。これまでの学習を振り返り、それまでに獲得した点数を確認したうえで、各自が授業内に「期末報告書」を書いて提出する。「	
	これまでの学習を振り返る。	60

授業の方法 予習を前提として授業が進行していきます。授業には以下の要素が含まれます。 (1) 指名された数人の学生が教壇に立ち、教科書Seeing the World through the NewsのBuilding Languageの答え合わせを行います。英語の文法・語彙について深く知りましょう (2) プレゼンテーション。Seeing the World through the NewsのFollow upで提示されたトピックの一つを選び、発表します。 (4) English Expert の課題を各自が学習します。その間学生一名につき五分程度、担当教員が一对一で発音をチェックします。
成績評価の方法 授業への積極的な参加：70% 「スーパー英語」の到達度：30%
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特になし
テキスト Timothy Knowlesほか、Seeing the World through the News 5 （金星堂、2018年新刊） Ryou Yodaほか、English Expert（開文社）ISBN978-87571-549-8
参考書 授業の際には辞書を持参すること。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知する。

科目名	CALL I c		
教員名	ジャマール モーリス		
科目ナンバー	1051411201	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

This course will develop students' language, computer and independent learning skills as well as introduce students to the importance and benefits of Extensive Reading

到達目標

In accordance with the university's Diploma Policy, the course will, in addition, aim to improve students' communication skills in English and broaden their understanding of key issues related to the subject (see: DP 6).

授業の計画と準備学修

Each day will follow the same procedure:

- Part One: Extensive Reading and a communication activity (pairwork)
- Part Two: A longer problem solving computer based task (groupwork)
- Part Three: Independent study using assigned websites (individual work)
- Part Four: Feedback: (groupwork / whole class)

授業の方法

The classes will include periods of group work, pairwork and individual study.

成績評価の方法

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.5641.

成績評価の基準

Students will be graded according to the following criteria:

Classwork: 50%

Homework: 20%

Report: 30%

必要な予備知識／先修科目／関連科目

n/a

テキスト

Materials will be provided by the teacher.

参考書

n/a

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	CALL II c		
教員名	真部 多真記		
科目ナンバー	1051411202	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

CALL (Computer-Assisted Language Laboratory) 教室設備を用いて、英語の四技能のうち「聴く」「話す」を特に強化します。「反転授業」「アクティブ・ラーニング」など最近の学習理論にもとづいて創出された主体的な学びの場において、語学習得に欠かせない、自律的学習の習慣を身につけます。

到達目標

DP5およびDP7を実現するために、以下の諸点を目標とする。

- (1) 英語の動画を視聴して、内容を大まかに把握できるだけの聴解力を養う。
- (2) 明瞭な発声を心がけて英語で発表することにより、「話して伝わる英語」の基礎を養う。
- (3) 発音について実践的に学ぶことによって、「音」から「意味」への発展を体得する。
- (4) 自らの学習スタイルについて考察し、自学自修の習慣を養う。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	イントロダクション 授業の進め方・心構え スーパー英語についての確認	
	シラバスをよく読み、二冊の教科書を入手してその目次から構成を知る	60
第2回	Seeing the World through the News (Unit 1) English Expert (Chapter1) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 1) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter1): Step4 : Reading	90
第3回	Seeing the World through the News (Unit 2) English Expert (Chapter2) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 2) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter2): Step4 : Reading	90

第4回	Seeing the World through the News (Unit 3) English Expert (Chapter3) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 3) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter3): Step4 : Reading	90
第5回	Seeing the World through the News (Unit 4) English Expert (Chapter4) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 4) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter4): Step4 : Reading	90
第6回	Seeing the World through the News (Unit 5) English Expert (Chapter5) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 5) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter5): Step4 : Reading	90
第7回	Seeing the World through the News (Unit 6): English Expert (Chapter6) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 6) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter6): Step4 : Reading	30
第8回	中間レビュー。これまでの学習を振り返り、それまでに獲得した点数を確認したうえで、各自が授業内に「中間報告書」を書いて提出する。	
	これまでの学習を振り返る。	90
第9回	Seeing the World through the News (Unit 7) English Expert (Chapter7) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 7) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter7): Step4 : Reading	90

第10回	Seeing the World through the News (Unit 8) English Expert (Chapter8) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 8) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter8): Step4 : Reading	90
第11回	Seeing the World through the News (Unit 9) English Expert (Chapter9) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 9) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter9): Step4 : Reading	90
第12回	Seeing the World through the News (Unit 10) English Expert (Chapter10) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 10) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter10): Step4 : Reading	90
第13回	Seeing the World through the News (Unit 11) English Expert (Chapter11) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 11) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter11): Step4 : Reading	90
第14回	Seeing the World through the News (Unit 12) English Expert (Chapter12) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 12) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter12): Step4 : Reading	90
第15回	期末レビュー。これまでの学習を振り返り、それまでに獲得した点数を確認したうえで、各自が授業内に「期末報告書」を書いて提出する。「	
	これまでの学習を振り返る。	60

授業の方法 予習を前提として授業が進行していきます。授業には以下の要素が含まれます。 (1) 指名された数人の学生が教壇に立ち、教科書Seeing the World through the NewsのBuilding Languageの答え合わせを行います。英語の文法・語彙について深く知しましょう (2) プレゼンテーション。Seeing the World through the NewsのFollow upで提示されたトピックの一つを選び、発表します。 (4) English Expert の課題を各自が学習します。その間学生一名につき五分程度、担当教員が一对一で発音をチェックします。
成績評価の方法 授業への積極的な参加：70% 「スーパー英語」の到達度：30%
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特になし
テキスト Timothy Knowlesほか、Seeing the World through the News 5 （金星堂、2018年新刊） Ryou Yodaほか、English Expert（開文社）ISBN978-87571-549-8
参考書 授業の際には辞書を持参すること。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知する。

科目名	CALL I d		
教員名	ケネディ デイビッド ハリス		
科目ナンバー	1051411201	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

This course will develop students' language, computer and independent learning skills as well as introduce students to the importance and benefits of Extensive Reading

到達目標

In accordance with the university's Diploma Policy, the course will, in addition, aim to improve students' communication skills in English and broaden their understanding of key issues related to the subject (see: DP 6).

授業の計画と準備学修

Each day will follow the same procedure:

- Part One: Extensive Reading and a communication activity (pairwork)
- Part Two: A longer problem solving computer based task (groupwork)
- Part Three: Independent study using assigned websites (individual work)
- Part Four: Feedback: (groupwork / whole class)

授業の方法

The classes will include periods of group work, pairwork and individual study.

成績評価の方法

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.5641.

成績評価の基準

Students will be graded according to the following criteria:

Classwork: 50%

Homework: 20%

Report: 30%

必要な予備知識／先修科目／関連科目

n/a

テキスト

Materials will be provided by the teacher.

参考書

n/a

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	CALL II d		
教員名	松原 知子		
科目ナンバー	1051411202	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
CALL (Computer-Assisted Language Laboratory) 教室設備を用いて、英語の四技能のうち「聴く」「話す」を特に強化します。「反転授業」「アクティブ・ラーニング」など最近の学習理論にもとづいて創出された主体的な学びの場において、語学習得に欠かせない、自律的学習の習慣を身につけます。			
到達目標			
DP5およびDP7を実現するために、以下の諸点を目標とする。 (1) 英語の動画を視聴して、内容を大まかに把握できるだけの聴解力を養う。 (2) 明瞭な発声を心がけて英語で発表することにより、「話して伝わる英語」の基礎を養う。 (3) 発音について実践的に学ぶことによって、「音」から「意味」への発展を体得する。 (4) 自らの学習スタイルについて考察し、自学自修の習慣を養う。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション 授業の進め方・心構え スーパー英語についての確認		
	シラバスをよく読み、二冊の教科書を入手してその目次から構成を知る		60
第2回	Seeing the World through the News (Unit 1) English Expert (Chapter1) 「スーパー英語」：進度は各自による		
	Seeing the World through the News (Unit 1) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter1): Step4 : Reading		90
第3回	Seeing the World through the News (Unit 2) English Expert (Chapter2) 「スーパー英語」：進度は各自による		
	Seeing the World through the News (Unit 2) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter2): Step4 : Reading		90

第4回	Seeing the World through the News (Unit 3) English Expert (Chapter3) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 3) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter3): Step4 : Reading	90
第5回	Seeing the World through the News (Unit 4) English Expert (Chapter4) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 4) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter4): Step4 : Reading	90
第6回	Seeing the World through the News (Unit 5) English Expert (Chapter5) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 5) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter5): Step4 : Reading	90
第7回	Seeing the World through the News (Unit 6): English Expert (Chapter6) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 6) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter6): Step4 : Reading	30
第8回	中間レビュー。これまでの学習を振り返り、それまでに獲得した点数を確認したうえで、各自が授業内に「中間報告書」を書いて提出する。	
	これまでの学習を振り返る。	90
第9回	Seeing the World through the News (Unit 7) English Expert (Chapter7) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 7) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter7): Step4 : Reading	90

第10回	Seeing the World through the News (Unit 8) English Expert (Chapter8) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 8) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter8): Step4 : Reading	90
第11回	Seeing the World through the News (Unit 9) English Expert (Chapter9) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 9) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter9): Step4 : Reading	90
第12回	Seeing the World through the News (Unit 10) English Expert (Chapter10) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 10) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter10): Step4 : Reading	90
第13回	Seeing the World through the News (Unit 11) English Expert (Chapter11) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 11) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter11): Step4 : Reading	90
第14回	Seeing the World through the News (Unit 12) English Expert (Chapter12) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 12) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter12): Step4 : Reading	90
第15回	期末レビュー。これまでの学習を振り返り、それまでに獲得した点数を確認したうえで、各自が授業内に「期末報告書」を書いて提出する。「	
	これまでの学習を振り返る。	60

授業の方法 予習を前提として授業が進行していきます。授業には以下の要素が含まれます。 (1) 指名された数人の学生が教壇に立ち、教科書Seeing the World through the NewsのBuilding Languageの答え合わせを行います。英語の文法・語彙について深く知りましょう (2) プレゼンテーション。Seeing the World through the NewsのFollow upで提示されたトピックの一つを選び、発表します。 (4) English Expert の課題を各自が学習します。その間学生一名につき五分程度、担当教員が一对一で発音をチェックします。
成績評価の方法 授業への積極的な参加：70% 「スーパー英語」の到達度：30%
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特になし
テキスト Timothy Knowlesほか、Seeing the World through the News 5 （金星堂、2018年新刊） Ryou Yodaほか、English Expert（開文社）ISBN978-87571-549-8
参考書 授業の際には辞書を持参すること。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知する。

科目名	CALL I e		
教員名	エルヴィン クリストファー		
科目ナンバー	1051411201	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

This course will develop students' language, computer and independent learning skills as well as introduce students to the importance and benefits of Extensive Reading

到達目標

In accordance with the university's Diploma Policy, the course will, in addition, aim to improve students' communication skills in English and broaden their understanding of key issues related to the subject (see: DP 6).

授業の計画と準備学修

Each day will follow the same procedure:

- Part One: Extensive Reading and a communication activity (pairwork)
- Part Two: A longer problem solving computer based task (groupwork)
- Part Three: Independent study using assigned websites (individual work)
- Part Four: Feedback: (groupwork / whole class)

授業の方法

The classes will include periods of group work, pairwork and individual study.

成績評価の方法

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.5641.

成績評価の基準

Students will be graded according to the following criteria:

Classwork: 50%

Homework: 20%

Report: 30%

必要な予備知識／先修科目／関連科目

n/a

テキスト

Materials will be provided by the teacher.

参考書

n/a

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	CALL II e		
教員名	正岡 和恵		
科目ナンバー	1051411202	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
CALL (Computer-Assisted Language Laboratory) 教室設備を用いて、英語の四技能のうち「聴く」「話す」を特に強化します。「反転授業」「アクティブ・ラーニング」など最近の学習理論にもとづいて創出された主体的な学びの場において、語学習得に欠かせない、自律的学習の習慣を身につけます。			
到達目標			
DP5およびDP7を実現するために、以下の諸点を目標とする。 (1) 英語の動画を視聴して、内容を大まかに把握できるだけの聴解力を養う。 (2) 明瞭な発声を心がけて英語で発表することにより、「話して伝わる英語」の基礎を養う。 (3) 発音について実践的に学ぶことによって、「音」から「意味」への発展を体得する。 (4) 自らの学習スタイルについて考察し、自学自修の習慣を養う。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション 授業の進め方・心構え スーパー英語についての確認		
	シラバスをよく読み、二冊の教科書を入手してその目次から構成を知る		60
第2回	Seeing the World through the News (Unit 1) English Expert (Chapter1) 「スーパー英語」：進度は各自による		
	Seeing the World through the News (Unit 1) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter1): Step4 : Reading		90
第3回	Seeing the World through the News (Unit 2) English Expert (Chapter2) 「スーパー英語」：進度は各自による		
	Seeing the World through the News (Unit 2) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter2): Step4 : Reading		90

第4回	Seeing the World through the News (Unit 3) English Expert (Chapter3) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 3) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter3): Step4 : Reading	90
第5回	Seeing the World through the News (Unit 4) English Expert (Chapter4) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 4) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter4): Step4 : Reading	90
第6回	Seeing the World through the News (Unit 5) English Expert (Chapter5) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 5) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter5): Step4 : Reading	90
第7回	Seeing the World through the News (Unit 6): English Expert (Chapter6) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 6) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter6): Step4 : Reading	30
第8回	中間レビュー。これまでの学習を振り返り、それまでに獲得した点数を確認したうえで、各自が授業内に「中間報告書」を書いて提出する。	
	これまでの学習を振り返る。	90
第9回	Seeing the World through the News (Unit 7) English Expert (Chapter7) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 7) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter7): Step4 : Reading	90

第10回	Seeing the World through the News (Unit 8) English Expert (Chapter8) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 8) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter8): Step4 : Reading	90
第11回	Seeing the World through the News (Unit 9) English Expert (Chapter9) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 9) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter9): Step4 : Reading	90
第12回	Seeing the World through the News (Unit 10) English Expert (Chapter10) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 10) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter10): Step4 : Reading	90
第13回	Seeing the World through the News (Unit 11) English Expert (Chapter11) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 11) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter11): Step4 : Reading	90
第14回	Seeing the World through the News (Unit 12) English Expert (Chapter12) 「スーパー英語」：進度は各自による	
	Seeing the World through the News (Unit 12) : Understanding Check 1 &2 Filling Gaps English Expert (Chapter12): Step4 : Reading	90
第15回	期末レビュー。これまでの学習を振り返り、それまでに獲得した点数を確認したうえで、各自が授業内に「期末報告書」を書いて提出する。「	
	これまでの学習を振り返る。	60

授業の方法 予習を前提として授業が進行していきます。授業には以下の要素が含まれます。 (1) 指名された数人の学生が教壇に立ち、教科書Seeing the World through the NewsのBuilding Languageの答え合わせを行います。英語の文法・語彙について深く知りましょう (2) プレゼンテーション。Seeing the World through the NewsのFollow upで提示されたトピックの一つを選び、発表します。 (4) English Expert の課題を各自が学習します。その間学生一名につき五分程度、担当教員が一对一で発音をチェックします。
成績評価の方法 授業への積極的な参加：70% 「スーパー英語」の到達度：30%
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特になし
テキスト Timothy Knowlesほか、Seeing the World through the News 5 （金星堂、2018年新刊） Ryou Yodaほか、English Expert（開文社）ISBN978-87571-549-8
参考書 授業の際には辞書を持参すること。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知する。

科目名	CALL I f		
教員名	権田 建二		
科目ナンバー	1051411201	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
CALL (Computer-Assisted Language Learning) 教室の設備を用いて、英語の四技能のうちとくに「聴く」「話す」力を強化します。「反転授業」「アクティブ・ラーニング」など最近の学習理論にもとづいて創出された主体的な学びの場において、語学習得に欠かせない、自律的学習の習慣を身につけます。この授業において、教員は知識の授与者ではありません。みなさんが知を獲得するのを手助けする、「知の産婆」役を演じます。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP6（文化現象の総合的理解）を実現するため、次の5点を到達目標とする。 （１）他人に説明することにより、英語の文法と語彙をより深く学ぶ （２）個別指導を通じて、正しい英語の発音を会得し、対応する発音記号を覚える （３）英語の動画を視聴して、内容を大まかに把握できるだけの聴解力を養う （４）グループ・ディスカッションで他人の学習法について、自学自修の方法論を確立する （５）明瞭な発声を心がけて英語で発表することにより、「話して伝わる英語」の基礎を培う			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション ・授業の進め方・心構え ・「反転授業」「アクティブ・ラーニング」とは何か ・WBT (Web-Based Training) 教材「スーパー英語」の使い方		
	シラバスをよく読み、二冊の教科書を入手してその目次から構成を知る		60
第2回	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 1: プレゼンテーション／グループ・ディスカッション／プレゼンテーション 『英語発音・聴き取りの基礎』母音1.1.1-5: クリニック 「スーパー英語」: 進度は各自による		
	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 1: 1. Warm Up, 2. Vocabulary 3. Vocabulary Exercise, 4. Topic Paragraph, 6. Transcript Completion, 7. Comprehension Questions 『英語発音・聴き取りの基礎』母音1.1.1-5		90
第3回	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 2: プレゼンテーション／グループ・ディスカッション／プレゼンテーション 『英語発音・聴き取りの基礎』母音1.1.6-10: クリニック 「スーパー英語」: 進度は各自による		
	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 2: 1. Warm Up, 2. Vocabulary 3. Vocabulary Exercise, 4. Topic Paragraph, 6. Transcript Completion, 7. Comprehension Questions 『英語発音・聴き取りの基礎』母音1.1.6-10		90

第4回	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 3 : プレゼンテーション／グループ・ディスカッション／プレゼンテーション 『英語発音・聴き取りの基礎』 母音1.1.11-15 : クリニック 「スーパー英語」 : 進度は各自による	
	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 3: 1. Warm Up, 2. Vocabulary 3. Vocabulary Exercise, 4. Topic Paragraph, 6. Transcript Completion, 7. Comprehension Questions 『英語発音・聴き取りの基礎』 母音1.1.11-15	90
第5回	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 4 : プレゼンテーション／グループ・ディスカッション／プレゼンテーション 『英語発音・聴き取りの基礎』 母音1.1.16-20 : クリニック 「スーパー英語」 : 進度は各自による	
	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 4:1. Warm Up, 2. Vocabulary 3. Vocabulary Exercise, 4. Topic Paragraph, 6. Transcript Completion, 7. Comprehension Questions 『英語発音・聴き取りの基礎』 母音1.1.16-20	90
第6回	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 5 : プレゼンテーション／グループ・ディスカッション／プレゼンテーション 『英語発音・聴き取りの基礎』 母音1.1.21-24 : クリニック 「スーパー英語」 : 進度は各自による	
	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 5: 1. Warm Up, 2. Vocabulary 3. Vocabulary Exercise, 4. Topic Paragraph, 6. Transcript Completion, 7. Comprehension Questions 『英語発音・聴き取りの基礎』 母音1.1.21-24	90
第7回	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 6 : プレゼンテーション／グループ・ディスカッション／プレゼンテーション 『英語発音・聴き取りの基礎』 子音1.2.1-5 : クリニック 「スーパー英語」 : 進度は各自による	
	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 6: 1. Warm Up, 2. Vocabulary 3. Vocabulary Exercise, 4. Topic Paragraph, 6. Transcript Completion, 7. Comprehension Questions 『英語発音・聴き取りの基礎』 子音1.2.1-5	90
第8回	パフォーマンス・レビュー（中間）。それまでの自分の実績（performance）について自己評価を行い、今後の学習計画を策定してもらいます。所定用紙に書き込み、提出してください。	
	これまでの学習を振り返る	90
第9回	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 7 : プレゼンテーション／グループ・ディスカッション／プレゼンテーション 『英語発音・聴き取りの基礎』 子音1.2.6-10 : クリニック 「スーパー英語」 : 進度は各自による	
	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 7: 1. Warm Up, 2. Vocabulary 3. Vocabulary Exercise, 4. Topic Paragraph, 6. Transcript Completion, 7. Comprehension Questions 『英語発音・聴き取りの基礎』 子音1.2.6-10	90

第10回	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 8 : プレゼンテーション／グループ・ディスカッション／プレゼンテーション 『英語発音・聴き取りの基礎』 子音1. 2. 11-15 : クリニック 「スーパー英語」 : 進度は各自による	
	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 8: 1. Warm Up, 2. Vocabulary 3. Vocabulary Exercise, 4. Topic Paragraph, 6. Transcript Completion, 7. Comprehension Questions 『英語発音・聴き取りの基礎』 子音1. 2. 11-15	90
第11回	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 9 : プレゼンテーション／グループ・ディスカッション／プレゼンテーション 『英語発音・聴き取りの基礎』 子音1. 2. 16-20 : クリニック 「スーパー英語」 : 進度は各自による	
	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 9: 1. Warm Up, 2. Vocabulary 3. Vocabulary Exercise, 4. Topic Paragraph, 6. Transcript Completion, 7. Comprehension Questions 『英語発音・聴き取りの基礎』 子音1. 2. 16-20	90
第12回	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 10 : プレゼンテーション／グループ・ディスカッション／プレゼンテーション 『英語発音・聴き取りの基礎』 子音1. 2. 21-24 : クリニック 「スーパー英語」 : 進度は各自による	
	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 10: 1. Warm Up, 2. Vocabulary 3. Vocabulary Exercise, 4. Topic Paragraph, 6. Transcript Completion, 7. Comprehension Questions 『英語発音・聴き取りの基礎』 子音1. 2. 21-24	90
第13回	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 11 : プレゼンテーション／グループ・ディスカッション／プレゼンテーション 『英語発音・聴き取りの基礎』 2. 1-4同化・脱落・リエゾン・脱落+リエゾン : クリニック 「スーパー英語」 : 進度は各自による	
	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 11: 1. Warm Up, 2. Vocabulary 3. Vocabulary Exercise, 4. Topic Paragraph, 6. Transcript Completion, 7. Comprehension Questions 『英語発音・聴き取りの基礎』 2. 1-4同化・脱落・リエゾン・脱落+リエゾン	90
第14回	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 12 : プレゼンテーション／グループ・ディスカッション／プレゼンテーション 『英語発音・聴き取りの基礎』 2. 5-6弱形・短縮形3. 1-3アクセント・リズム・イントネーション : クリニック 「スーパー英語」 : 進度は各自による	
	『CNN 10 Student News Vol. 1』 Unit 12: 1. Warm Up, 2. Vocabulary 3. Vocabulary Exercise, 4. Topic Paragraph, 6. Transcript Completion, 7. Comprehension Questions 『英語発音・聴き取りの基礎』 2. 5-6弱形・短縮形3. 1-3アクセント・リズム・イントネーション	90
第15回	パフォーマンス・レビュー（期末）。それまでの自分の実績（performance）について自己評価を行い、今後の学習計画を策定してもらいます。所定用紙に書き込み、提出してください。	
	これまでの学習を振り返る	60

授業の方法

授業は以下の四部から成り立ちます。

- (1) リピーティング・オーバーラッピング・シャドーイング。教科書『CNN 10 Student News Vol. 1』のTopic Paragraphにある文章をリピーティング、オーバーラッピング、シャドーイングの練習を行います。英語をはっきりと、かつ滑らかに発音できるようにしましょう。(約15分)
- (2) グループ・ディスカッション。予習として教科書『CNN 10 Student News Vol. 1』で扱われる動画を見ておき、Transcript Completion を解いておきます。授業では三～四人のグループのなかで自分たちの解答を交換して答え合わせを行い、間違いの多かった箇所を中心に動画を見直し、なぜそうなるのかを確認し合います。他人がどのように学んでいるのかを知ること、自分の学習法を確立しましょう。(約40分)
- (3) プレゼンテーション。教科書『CNN 10 Student News Vol. 1』で扱われる動画の内容に関して、Try this, too! で提示されているテーマを元に、それぞれのグループで話し合い、その結果をクラス全員の前で英語で発表を行います。あるトピックについてディスカッションし、そこで得た結論を簡潔に英語で発信できるようにしましょう。(約15分)
- (4) クリニック。教科書『英語発音・聴き取りの基礎』を用いて、学生一名につき五分程度、担当教員が一对一で発音を矯正していきます。その間、他の学生はWBT (Web-Based Training) 教材「スーパー英語」で自学自習を行います。正しい英語の発音を覚えましょう。(約20分)

成績評価の方法

授業への積極的な参加：69%

「スーパー英語」の到達度：31%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくにありませんが、事前に「反転授業」「アクティブ・ラーニング」でグーグル検索をし、その大まかな内容について知識を得ておくといいいでしょう。

テキスト

関戸冬彦他『CNN 10 Student News Vol. 1』（朝日出版社）

杉野健太郎・ジョゼフ・ラウアー『英語発音・聴き取りの基礎』（朝日出版社）ISBN13：978-4-255-15339-1

参考書

授業の際には必ず英和辞書・英英辞書を持参してください。購入する辞書としては以下のものを推奨します。

○電子辞書：シャープBrain PW-SB4（税込41,040円）またはCASIO AZ-G9800（税込税込¥33,000）。

後者は学内の紀伊國屋ブックセンターでのみ取り扱っているので注意すること。

どちらのモデルにも英米文学科が推薦する『オックスフォード現代英英辞典 第9版』（OALD9）『リーダーズ英和辞典』（研究社）が収録されているほか、『リーダーズ・プラス』『新和英大辞典』『ジーニアス英和大辞典』など、講義やゼミで必須の辞書が多く含まれています。

前者のモデルには英米文学科が推薦する『ロングマン現代英英辞典 6訂版』（LDOCE6）が、後者のモデルには『新編英和活用大辞典』（研究社）が掲載されています。また、どちらのモデルもオプションで仏語・独語・中語辞書などを追加することができます。

○英英辞典：電子辞書を購入しない者は『オックスフォード現代英英辞典 第9版』（旺文社 ISBN-13：978-4010752999）、オンラインアクセス権付きの『ロングマン現代英英辞典 6訂版』（Pearson Education ISBN-13：978-1447954200）のいずれかまたは両方を必ず購入してください。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	Academic Reading a		
教員名	ヴァンペンタイゼン ロバート		
科目ナンバー	1251411203	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

This class is a compulsory subject for English major students designed to improve their comprehension ability in English.

到達目標

Following DP1 (教養の修得) and DP6 (文化現象の総合的理解), the goals for this course are as follows:

- 1) to comprehend texts accurately
- 2) to comprehend texts fluently
- 3) to be aware of coherence and cohesion in comprehending texts
- 4) to understand paragraph structures
- 5) to build up vocabulary
- 6) to understand sentence structures

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Introduction, Unit 1	
	Read Unit 1	30-60 minutes
第2回	Unit 1	
	Read Unit 1 and select and read graded readers	30-60 minutes
第3回	Read Unit 1 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 1 and select and read graded readers	30-60 minutes

第4回	Vocabulary quiz for Unit 1 and Read Unit 2 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 2 and prepare for vocabulary quiz Select and read graded readers	30-60 minutes
第5回	Read Unit 2 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 2 and select and read graded readers	30-60 minutes
第6回	Unit 2 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 2 and select and read graded readers	30-60 minutes
第7回	Vocabulary quiz for Unit 2 Unit 3 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 3 and prepare for vocabulary quiz Select and read graded readers	30-60 minutes
第8回	Unit 3 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 3 Select and read graded readers	30-60 minutes
第9回	Unit 3 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 3 Select and read graded readers	30-60 minutes

第10回	Vocabulary quiz for Unit 3 Unit 4 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 4 Prepare for vocabulary quiz Select and read graded readers	30-60 minutes
第11回	Unit 4 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 4 Select and read graded readers	30-60 minutes
第12回	Unit 4 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 4 Select and read graded readers	30-60 minutes
第13回	Vocabulary quiz for Unit 4 Review units 1, 2, 3, and 4 Presentation (graded readers)	
	Preview assigned unitsReview units 1, 2, 3, and 4 Select and read graded readers	30-60 minutes
第14回	Final exam	
	Prepare for final exam	2-3-hours
第15回	Review final exam	
	Review final exam	As needed

授業の方法

Classroom activities will include intensive reading, comprehension exercises, exercises designed to increase reading fluency and to develop reading skills, and vocabulary development activities. There will be weekly homework assignments that will include reading and skill development exercises and short writing assignments. During classes students will have opportunities to work alone, in pairs, and in small groups. Students will be encouraged to develop their own learning styles and to explore their own interests through reading.

All the classes are held in English. The students are also expected to respond to the class in English. They are expected to participate actively in class.

成績評価の方法

Classwork (oral and written summaries for graded readers, vocabulary quizzes, and other activities): 60 %

Final examination: 40%

必要な予備知識/先修科目/関連科目

No prerequisites

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

English, Andrew K. and Laura Monahan English. NorthStar 4 (4th ed.) Pearson. (ISBN-10 0-13-404977 2)

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	A c a d e m i c R e a d i n g b		
教員名	平山 真奈美		
科目ナンバー	1251411203	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
This course is compulsory for English major students. This course will focus on improving comprehension ability in English.			
到達目標			
Following DP1 (教養の修得) and DP6 (文化現象の総合的理解), the goals for the course are as follows:			
1) Comprehend text accurately 2) Comprehend text fluently 3) Be aware of coherence and cohesion of text 4) Understand paragraph structure 5) Build vocabulary 6) Understand sentence structure			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
第1回	Introduction Unit 1 (prodigies)		
	Readings: Unit 1		30
第2回	Unit1 (prodigies)		
	Readings: Unit 1, graded readers		60
第3回	Unit 1 Presentation (graded readers)		
	Readings: Unit 1, graded readers		60

第4回	Vocabulary quiz for Unit 1 Unit 2 (overcoming obstacles) Presentation (graded readers)	
	Readings: Unit 2, graded readers Preparation for vocabulary quiz	90
第5回	Unit 2 (overcoming obstacles) Presentation (graded readers)	
	Readings: Unit 2, graded readers	60
第6回	Unit 2 (overcoming obstacles) Presentation (graded readers)	
	Readings: Unit 2, graded readers	60
第7回	Vocabulary Quiz for Unit 2 Unit 3 (medicine) Presentation (graded readers)	
	Readings: Unit 3, graded readers Preparation for vocabulary quiz	90
第8回	Unit 3 (medicine) Presentation (graded readers)	
	Readings: Unit 3, graded readers	60
第9回	Unit 3 (medicine) Presentation (graded readers)	
	Readings: Unit 3, graded readers	60

第10回	Vocabulary Quiz for Unit 3 Unit 4 (animal intelligence) Presentation (graded readers)	
	Readings: Unit 4, graded readers Preparation for vocabulary quiz	90
第11回	Unit 4 (animal intelligence) Presentation (graded readers)	
	Readings: Unit 4, graded readers	60
第12回	Unit 4 (animal intelligence) Presentation (graded readers)	
	Readings: Unit 4, graded readers	60
第13回	Vocabulary Quiz for Unit 4 Review of units 1,2,3, and 4 Presentation (graded readers)	
	Preparation for vocabulary quiz Review of units 1, 2, 3, and 4 Readings: graded readers	90
第14回	Final examination	
	Preparation for exam	120
第15回	Review of exam	
	Review of exam	60

授業の方法

This course will be conducted in English. Unless it is absolutely necessary, all of us should use English only in the classroom. Everyone should actively participate in class. This course has two components:

- **Class participation:** Students are expected to attend all classes and actively participate in the classwork.
- **Graded readers:** Students sign out graded readers of their choice from the library. You are encouraged and read as many readers as possible during the term. You will summarize the readers in English and orally present the summaries in the class (you will do a book a week); you will also submit a written summary (they should be about a paragraph long).

成績評価の方法

- Classwork (summaries for graded readers, vocabulary quizzes, and other activities): 60 %
- Final examination: 40%

Classwork (summaries for graded readers, vocabulary quizzes, and other activities): 60 %
Final examination: 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

No prerequisites.

テキスト

English, Andrew K. and Laura Monahan English. NorthStar 4 (4th Ed.) Pearson.
(ISBN-10 0-13-404977 2)

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

Students can ask a question either during the class, in my office hours, or by appointment.

科目名	Academic Reading c		
教員名	森住 史		
科目ナンバー	1251411203	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
This class is a compulsory subject for English major students designed to improve their comprehension ability in English.			
到達目標			
Following DP1 (教養の修得) and DP6 (文化現象の総合的理解), the goals for this course are as follows: 1) to comprehend texts accurately 2) to comprehend texts fluently 3) to be aware of coherence and cohesion in comprehending texts 4) to understand paragraph structures 5) to build up vocabulary 6) to understand sentence structures			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	Introduction Unit 3		
	Read Unit 3		60
第2回	Unit 3		
	Read Unit 3 & a graded reader book of your choice		90
第3回	Unit 3 Presentation (graded readers)		
	Read Unit 3 & a graded reader book of your choice Prepare for the quiz		90

第4回	Vocabulary quiz for Unit 3 Unit 4 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 4 & a graded reader book of your choice	90
第5回	Unit 4 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 4 & a graded reader book of your choice	90
第6回	Unit 4 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 4 & a graded reader book of your choice Prepare for the quiz	90
第7回	Vocabulary quiz for Unit 4 Unit 6 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 6 & a graded reader book of your choice	90
第8回	Unit 6 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 6 & a graded reader book of your choice	90
第9回	Vocabulary quiz for Unit 4 Unit 6 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 6 & a graded reader book of your choice Prepare for the quiz	90

第10回	Vocabulary quiz for Unit 6 Unit 8 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 8 & a graded reader book of your choice	90
第11回	Unit 8 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 8 & a graded reader book of your choice	90
第12回	Unit 8 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 8 & a graded reader book of your choice	90
第13回	Vocabulary quiz for Unit 8 Review Units 2, 4, 6, & 8 Presentation (graded readers)	
	Prepare for the quiz Read a graded reader for your choice	90
第14回	Final exam	
	Prepare for the final exam	90
第15回	Review of the final exam	
	Review the final exam Review the term	60

授業の方法

All the classes are held in English. The students are also expected to respond to the class in English. They are expected to participate actively in class.

成績評価の方法

Classwork (oral and written summaries for graded readers, vocabulary quizzes, and other activities): 60 %
Final examination: 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

No prerequisites

テキスト

Barton Laurie and Carolyn Dupaquier. NorthStar 3 (4th ed.)
Pearson. (ISBN 10 0 13 404976 4)

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	Academic Reading d		
教員名	小野 尚美		
科目ナンバー	1251411203	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

This is a compulsory subject for English major students designed to improve their reading comprehension ability.

到達目標

Following DP1 (教養の修得) and DP6 (文化現象の総合的理解), the goals for this course are as follows:

- 1) to comprehend texts accurately
- 2) to comprehend texts fluently
- 3) to be aware of coherence and cohesion in comprehending texts
- 4) to understand paragraph structures
- 5) to build up vocabulary, and
- 6) to understand sentence structures

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	introduction	
	Unit 1 (Sports and Obsession)	
	Read Unit 1 (Sports and Obsession)	60
第2回	Unit 1 (Sports and Obsession)	
	Read Unit 1 (Sports and Obsession) Select and read graded readers	120
第3回	Unit 1 (Sports and Obsession) Presentation (graded readers)	
	Read Unit 1 (Sports and Obsession) Select and read graded readers	120

第4回	Vocabulary Quiz for Unit 1 Unit 2 (The Consequences of Fraud) Presentation (graded readers)	
	Read Unit 2 (The Consequences of Fraud) and prepare for vocabulary quiz Select and read graded readers	120
第5回	Unit 2 (The Consequences of Fraud) Presentation (graded readers)	
	Read Unit 2 (The Consequences of Fraud) Select and read graded readers	120
第6回	Unit 2 (The Consequences of Fraud) Presentation (graded readers)	
	Read Unit 2 (The Consequences of Fraud) Select and read graded readers	120
第7回	Vocabulary Quiz for Unit 2 Unit 3 (Exploring the Red Planet) Presentation (graded readers)	
	Read Unit 3 (Exploring the Red Planet) and prepare for vocabulary quiz Select and read graded readers	120
第8回	Unit 3 (Exploring the Red Planet) Presentation (graded readers)	
	Read Unit 3 (Exploring the Red Planet) Select and read graded readers	120
第9回	Unit 3 (Exploring the Red Planet) Presentation (graded readers)	
	Read Unit 3 (Exploring the Red Planet) Select and read graded readers	120

第10回	Vocabulary Quiz for Unit 3 Unit 4 (Language and Power) Presentation (graded readers)	
	Read Unit 4 (Language and Power) and prepare for vocabulary quiz Select and read graded readers	120
第11回	Unit 4 (Language and Power) Presentation (graded readers)	
	Read Unit 4 (Language and Power) Select and read graded readers	120
第12回	Unit 4 (Language and Power) Presentation (graded readers)	
	Read Unit 4 (Language and Power) Select and read graded readers .	120
第13回	Vocabulary Quiz for Unit 4 Review units 1, 2, 3, and 4 Presentation (graded readers)	
	Prepare for a vocabulary quiz Review units 1, 2, 3, and 4 Select and read graded readers	120
第14回	Final examination	
	Prepare for final examination	120
第15回	Review final examination	
	Review final examination by themselves	120

授業の方法

All the classes are held in English. The students are also expected to respond to the class in English. They are expected to participate actively in class.

成績評価の方法

Classwork (oral and written summaries for graded readers, vocabulary quizzes, and other activities): 60%,
Final examination: 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

No prerequisites

テキスト

Barton, Laurie and Carolyn Dupaquier. NorthStar 3. Reading and Writing (4th Ed.) Pearson/Longman.
(ISBN 10 0 13 404976 4)

参考書

大西泰斗、ポール・マックベイ. (1996). 「ネイティブ スピーカーの英文法」 研究社.
大西泰斗、ポール・マックベイ. (1996). 「ネイティブ スピーカーの前置詞」 研究社.
大西泰斗、ポール・マックベイ. (1996). 「ネイティブ スピーカーの英語感覚」 研究社.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Students can ask questions either in class or in my office hour.

科目名	Academic Reading e		
教員名	鈴木 京子		
科目ナンバー	1251411203	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

This class is a compulsory subject for English major students designed to improve their comprehension ability in English.

到達目標

Following DP1 (教養の修得) and DP6 (文化現象の総合的理解), the goals for this course are as follows:

- 1) to comprehend texts accurately
- 2) to comprehend texts fluently
- 3) to be aware of coherence and cohesion in comprehending texts
- 4) to understand paragraph structure
- 5) to build up vocabulary
- 6) to understand sentence structures

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Introduction Unit 1	
	Read Unit 1	60
第2回	Unit 1	
	Read Unit 1 Select and read graded readers	60
第3回	Unit 1 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 1 Select and read graded readers	60

第4回	Vocabulary quiz for Unit 1 Unit 2 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 2 Prepare for vocabulary quiz Select and read graded readers	60
第5回	Unit 2 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 2 Select and read graded readers	60
第6回	Unit 2 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 2 Select and read graded readers	60
第7回	Vocabulary quiz for Unit 2 Unit 3 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 3 Prepare for vocabulary quiz Select and read graded readers	60
第8回	Unit 3 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 3 Select and read graded readers	60
第9回	Unit 3 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 3 Select and read graded readers	60

第10回	Vocabulary quiz for Unit 3 Unit 4 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 4 Prepare for vocabulary quiz Select and read graded readers	60
第11回	Unit 4 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 4 Select and read graded readers	60
第12回	Unit 4 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 4 Select and read graded readers	60
第13回	Vocabulary quiz for Unit 4 Review Units 1, 2, 3 and 4 Presentation (graded readers)	
	Review Units 1, 2, 3 and 4 Select and read graded readers	60
第14回	Final exam	
	Prepare for final exam	60
第15回	Review final exam	
	Review final exam by themselves	60

授業の方法

All the classes are held in English. The students are also expected to respond to the class in English. They are expected to participate actively in class.

成績評価の方法

Classwork (oral and written summaries for graded readers, vocabulary quizzes and other activities): 60%
Final examination: 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

No prerequisites

テキスト

Barton Laurie and Carolyn Dupaquier. NorthStar 3 (4th Edition). Pearson. (ISBN 10 0 13 404976 4)

参考書

One graded reader of the student's choice a week

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Students can ask questions in the class or after the class.

科目名	Academic Reading f		
教員名	小林 英里		
科目ナンバー	1251411203	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要			
This class is a compulsory subject for English major students designed to improve their comprehension ability in English.			

到達目標			
Following DP1 (教養の修得) and DP6 (文化現象の総合的理解), the goals for the course are as follows.			
1) to comprehend texts accurately 2) to comprehend texts fluently 3) to be aware of coherence and cohesion in comprehending texts 4) to understand paragraph structures 5) to build up vocabulary 6) to understand sentence structures			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	Introduction, Unit 1		
	Read Unit 1.		120
第2回	Unit 1		
	Read Unit 1 and select and read graded readers.		120
第3回	Read Unit 1 Presentation (graded readers)		
	Read Unit 1 and select and read graded readers.		120

第4回	Vocabulary quiz for Unit 1 and Read Unit 2 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 2 and prepare for vocabulary quiz. Select and read graded readers.	120
第5回	Read Unit 2 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 2 and select and read graded readers.	120
第6回	Unit 2 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 2 and select and read graded readers.	120
第7回	Vocabulary quiz for Unit 2 Unit 3 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 3 and prepare for vocabulary quiz. Select and read graded readers.	120
第8回	Unit 3 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 3. Select and read graded readers.	120
第9回	Unit 3 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 3. Select and read graded readers.	120

第10回	Vocabulary quiz for Unit 3 Unit 4 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 4. Prepare for vocabulary quiz. Select and read graded readers.	120
第11回	Unit 4 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 4. Select and read graded readers.	120
第12回	Unit 4 Presentation (graded readers)	
	Read Unit 4. Select and read graded readers.	120
第13回	Vocabulary quiz for Unit 4 Review units 1, 2, 3, and 4 Presentation (graded readers)	
	Review units 1, 2, 3, and 4. Select and read graded readers.	120
第14回	Final exam	
	Prepare for final exam.	120
第15回	Review final exam	
	Review final exam by themselves.	120

授業の方法

All the classes are held in English. The students are also expected to respond to the class in English. They are expected to participate actively in class.

成績評価の方法

Classwork (oral and written summaries for graded readers, vocabulary quizzes, and other activities): 60 %
Final examination: 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

No prerequisites

テキスト

Barton Laurie and Carolyn Dupaquier. NorthStar 3 (4th ed.)
Pearson. (ISBN 10 0 13 404976 4)

参考書

N/A

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	Academic Writing I a		
教員名	ヴァンペンタイゼン ロバート		
科目ナンバー	1251411204	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
This is a compulsory subject for English major students designed to improve their academic writing ability.			
到達目標			
Following DP1 (教養の修得) and DP6 (文化現象の総合的理解), the goals for the course are as follows. The students are expected to: • be able to use a variety of conjunctions to form longer, more complex sentences • be able to use a variety of discourse markers to logically present their ideas • be able to write a paragraph consisting of a coherent topic sentence with relevant supporting sentences • be able to write an essay consisting of a coherent thesis statement with relevant supporting ideas • be able to follow necessary steps in essay writing, from brain storming, writing an outline, formatting to revising their written work • be able to write an essay that can show their originality			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	Course introduction		
	Writing sample	60-120 minutes	
第2回	Introduction to essay organization		
	Writing assignment	60-120 minutes	
第3回	Essay Introduction, Body, and Conclusion		
	Writing assignment	60-120 minutes	

第4回	Read and analyze five-paragraph essay: Introduction, body, conclusion	
	Writing assignment	60-120 minutes
第5回	Plan and write first draft of five-paragraph essay	
	Writing assignment	60-120 minutes
第6回	Revise and edit five-paragraph essay	
	Writing assignment	60-120 minutes
第7回	Final version of five-paragraph essay	
	Writing assignment	60-120 minutes
第8回	Read and analyze opinion essay	
	Writing assignment	60-120 minutes
第9回	Plan and write first draft of opinion essay	
	Writing assignment	60-120 minutes

第10回	Revise and edit opinion essay	
	Writing assignment	60-120 minutes
第11回	Brainstorm topics, plan, and write 4-6 paragraph essay	
	Writing assignment	60-120 minutes
第12回	Revise and edit 4-6 paragraph essay	
	Writing assignment	60-120 minutes
第13回	Final version of 4-6 paragraph essay	
	Writing assignment	60-120 minutes
第14回	Preparation for final exam	
	Exam preparation	30-60 minutes
第15回	Final exam: essay writing	
	Final review	60-120 minutes

授業の方法

The language of instruction is English. Students are encouraged to participate actively in class. Students will be required to read and analyze short texts in the textbook and other supplementary materials in order to understand basic points of good academic writing. Students will complete a variety of short and later longer written exercises both in class and for homework.

成績評価の方法

Grades will be decided as follows:
Classwork: 40%
Weekly preparation and revision: 20%
Paragraphs/Essays that are submitted for grading: 40%

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

English, Andrew K. and Laura Monahan English. NorthStar 4 (4th ed.) Pearson. (ISBN-10 0-13-404977 2)

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	Academic Writing I b		
教員名	平山 真奈美		
科目ナンバー	1251411204	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
This is a compulsory subject for English major students designed to improve their academic writing ability.			
到達目標			
Following DP1 (教養の修得) and DP6 (文化現象の総合的理解), the goals for the course are as follows. The students are expected to: - be able to use a variety of conjunctions to form longer, more complex sentences - be able to use a variety of discourse markers to logically present their ideas - be able to write a paragraph consisting of a coherent topic sentence with relevant supporting sentences - be able to write an essay consisting of a coherent thesis statement with relevant supporting ideas - be able to follow necessary steps in essay writing, from brain storming, writing an outline, formatting to revising their written work			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	Introduction: Process writing Chapter 1: Getting ready to write		
	- Review of class - Homework		60
第2回	Chapter 2: The structure of a paragraph		
	- Review of class - Homework		90
第3回	Chapter 3: The development of a paragraph		
	- Review of class - Homework		90

第4回	Chapter 4: Descriptive paragraphs 1	
	- Review of class - Homework	90
第5回	Chapter 4: Descriptive paragraphs 2	
	- Review of class - Homework	90
第6回	Chapter 5: Opinion paragraphs	
	- Review of class - Homework	90
第7回	Chapter 6: Comparison/contrast paragraphs 1	
	- Review of class - Homework	90
第8回	Chapter 6: Comparison/contrast paragraphs 2	
	- Review of class - Homework	90
第9回	Chapter 7: Problem/solution paragraphs	
	- Review of class - Homework	90

第10回	Chapter 8: The structure of an essay	
	- Review of class - Homework	90
第11回	Chapter 9: Outlining an essay	
	- Review of class - Homework	90
第12回	Chapter 10: Introductions and conclusions	
	- Review of class - Homework	90
第13回	Chapter 11: Unity and coherence 1	
	- Review of class - Homework	90
第14回	Chapter 11: Unity and coherence 2	
	- Review of class - Homework	90
第15回	Review of course Final essay due	
	- Review of class - Homework	120

授業の方法

The language of instruction is English. Students are encouraged to participate actively in class. Students will be required to read and analyze short texts in the textbook and other supplementary materials in order to understand basic points of good academic writing. Students will complete a variety of short and later longer written exercises both in class and for homework.

成績評価の方法

Grades will be decided as follows:

- Classwork: 40%
- Weekly preparation and revision: 20%
- Paragraphs/Essays that are submitted for grading: 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N/A

テキスト

Zemach, D. E. and L. A. Rumisek. (2011). Writing Essays: From Paragraph to Essay. Macmillan.

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	Academic Writing I c		
教員名	森住 史		
科目ナンバー	1251411204	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
This is a compulsory subject for English major students designed to improve their academic writing ability.			
到達目標			
Following DP1 (教養の修得) and DP6 (文化現象の総合的理解), the goals for the course are as follows. The students are expected to: a. be able to use a variety of conjunctions to form longer, more complex sentences b. be able to use a variety of discourse markers to logically present their ideas c. be able to write a paragraph consisting of a coherent topic sentence with relevant supporting sentences d. be able to expand their paragraph writing and write an essay based on it			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	Introduction Writing a paragraph (formatting) Brainstorming Outlining Do all the necessary preparation as instructed.		30 min
第2回	Ch. 3 Review the vocabulary Create an outline Topic sentence (← Ch. 1) Parallel structure Pros and cons Outlining and other planning Do all the necessary preparation as instructed.		90 min
第3回	Ch. 3 Write a pros-and-cons paragraph Do all the necessary preparation as instructed.		90 min
第4回	Ch. 3 Edit and revise.		

	Do all the necessary preparation as instructed.	90 min
第5回	Ch. 4 Review the vocabulary Transitions Point-by-point Planning	
	Do all the necessary preparation as instructed.	90 min
第6回	Ch. 4 Write a point-by-point contrast paragraph	
	Do all the necessary preparation as instructed.	90 min
第7回	Ch. 4 Edit and revise	
	Do all the necessary preparation as instructed.	90 min
第8回	Ch. 6 Review the vocabulary How to write an opinion paragraph Planning	
	Do all the necessary preparation as instructed.	90 min
第9回	Ch. 6 Write an opinion paragraph Learn how to make an essay based on a paragraph Paragraph writing	
	Do all the necessary preparation as instructed.	90 min

第10回	Ch. 6 Edit and revise	
	Do all the necessary preparation as instructed.	90 min
第11回	Ch. 8 Review the vocabulary How to write a cause-and-effect essay	
	Do all the necessary preparation as instructed.	90 min
第12回	Ch. 8 Write a cause-and-effect essay	
	Do all the necessary preparation as instructed.	90 min
第13回	Ch. 8 Edit and revise	
	Do all the necessary preparation as instructed.	90 min
第14回	Check your own writing: Review chapters 3, 4, 6 and 8	
	Do all the necessary preparation as instructed.	90 min
第15回	In-class writing and review	
	Review what you have studied about academic writing.	60 min

授業の方法

The language of instruction is mostly English. Students are encouraged to participate actively in class. Students will be required to read and analyze short texts in the textbook and other supplementary materials in order to understand basic points of good academic writing. Students will complete a variety of short and later longer written exercises both in class and for homework.

成績評価の方法

Grades will be decided as follows:
Classwork: 40%
Weekly preparation and revision: 20%
Paragraphs/Essays that are submitted for grading: 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N/A

テキスト

Barton, L. & Dupaquier, C. (2015). NorthStar3 -Reading and Writing, 4th edition.

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	Academic Writing I d		
教員名	小野 尚美		
科目ナンバー	1251411204	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
This is a compulsory subject for English major students designed to improve their academic writing ability.			
到達目標			
Following DP1 (教養の修得) and DP6 (文化現象の総合的理解), the goals for this course are as follows: to be able to use a variety of conjunctions to form longer, more complex sentences, to be able to use a variety of discourse markers to logically present their ideas, and to be able to write a paragraph consisting of a coherent topic sentence with relevant supporting sentences, which may later be developed into an essay.			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	Introduction 「日本のレトリックと英語のレトリックの違いについて」 discussion Writing to Communicate 1(Chapter 1)		
	Writing to Communicate 1(Chapter 1)		30
第2回	Writing to Communicate 1(Chapter 1) Let's Write in English Mode Unit 1 Writing no.1		
	Writing to Communicate 1(Chapter 1) Let's Write in English Mode Unit 1		120
第3回	Writing to Communicate 1(Chapter 2) Let's Write in English Mode Unit 2 Process Writing no.1		
	Writing to Communicate 1(Chapter 2) Let's Write in English Mode Unit 2		120

第4回	Writing to Communicate 1(Chapter 3) Let's Write in English Mode Unit 3	
	Writing to Communicate 1(Chapter 3) Let's Write in English Mode Unit 3 Rewrite Writing no.1	120
第5回	Writing to Communicate 1(Chapter 4) Let's Write in English Mode Unit 4	
	Writing to Communicate 1(Chapter 4) Let's Write in English Mode Unit 4	120
第6回	Writing to Communicate 1(Chapter 4) Grammar Quiz no.1(Unit 1~Unit 4) Let's Write in English Mode Unit 5	
	Writing to Communicate 1(Chapter 4) Prepare for grammar quiz no. 1 Let's Write in English Mode Unit 5	120
第7回	Writing to Communicate 1(Chapter 5) Let's Write in English Mode Unit 5 Writing no.2	
	Writing to Communicate 1(Chapter 5) Let's Write in English Mode Unit 5	120
第8回	Writing to Communicate 1(Chapter 5) Let's Write in English Mode Unit 6 Process writing no.2	
	Writing to Communicate 1(Chapter 5) Let's Write in English Mode Unit 6	120
第9回	Writing to Communicate 1(Chapter 6) Let's Write in English Mode Unit 7	
	Writing to Communicate 1(Chapter 6) Let's Write in English Mode Unit 7 Rewrite Writing no.2	120

授業の方法

The language of instruction is mostly English. Students are encouraged to participate actively in class. Students will be required to read and analyze short texts in the textbook and other supplementary materials in order to understand basic points of good academic writing. Students will complete a variety of short and later longer written exercises both in class and for homework.

成績評価の方法

Grades will be decided as follows: classwork 40%, weekly preparation and revision 20%, and paragraphs/essays that are submitted for grading 40%.

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

No prerequisites

テキスト

Boardman, Cynthia, A. (2008). Writing to Communicate 1 paragraphs. Pearson/Longman.
大井恭子、伊藤文彦. (2012). 『Let's Write in English Mode 英語モードが身につくライティング』 研究社.

参考書

大西泰斗、ポール・マックベイ. (1996). 「ネイティブ スピーカーの英文法」 研究社.
大西泰斗、ポール・マックベイ. (1996). 「ネイティブ スピーカーの前置詞」 研究社.
大西泰斗、ポール・マックベイ. (1996). 「ネイティブ スピーカーの英語感覚」 研究社.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Students can ask questions either in class or in my office hour. オフィスアワーについては、ポータルサイトで周知する。

科目名	Academic Writing I e		
教員名	鈴木 京子		
科目ナンバー	1251411204	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
This is a compulsory subject for English major students designed to improve their academic writing ability.			
到達目標			
Following DP1 (教養の修得) and DP6 (文化現象の総合的理解), the goals for the course are as follows. The students are expected to:			
◆ be able to use a variety of conjunctions to form longer, more complex sentences ◆ be able to use basic discourse markers to logically present their ideas ◆ be able to write a paragraph consisting of a coherent topic sentence with relevant supporting sentences			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	Introduction Writing Guide		
	Read Writing Guide		60
第2回	Chapter 1		
	Read Chapter 1 and answer questions		60
第3回	Chapter 2		
	Read Chapter 2 and answer questions		60

第4回	Chapter 3	
	Read Chapter 3 and answer questions	60
第5回	Chapter 4	
	Read Chapter 4 and answer questions	60
第6回	Chapter 5	
	Read Chapter 5 and answer questions	60
第7回	Chapter 6	
	Read Chapter 6 and answer questions	60
第8回	Chapter 7	
	Read Chapter 7 and answer questions	60
第9回	Chapter 8	
	Read Chapter 8 and answer questions	60

第10回	Chapter 9	
	Read Chapter 9 and answer questions	60
第11回	Chapter 10	
	Read Chapter 10 and answer questions	60
第12回	Chapter 11	
	Read Chapter 11 and answer questions	60
第13回	Chapter 12	
	Read Chapter 12 and answer questions	60
第14回	Chapter 13	
	Read Chapter 13 and answer questions	60
第15回	Essay Writing	
	Review Chapter 13	60

授業の方法

The language of instruction is mostly English. Students are encouraged to participate actively in class. Students will be required to read and analyze short texts in the textbook and other supplementary materials in order to understand basic points of good academic writing. Students will complete a variety of short and later longer written exercises both in class and for homework.

成績評価の方法

Grades will be decided as follows:
Classwork: 40%
Weekly preparation and revision: 20%
Paragraphs/Essays that are submitted for grading: 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N/A

テキスト

Get Your Message Across by Hisatake Jimbo, Kate Elwood, Akira Morita, Yoichi Watanabe, Shigeru Yamada, Leonid Yoffe, Nan'un-Do

参考書

Will be specified in class.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Please ask questions in the class or after the class.

科目名	Academic Writing I f		
教員名	小林 英里		
科目ナンバー	1251411204	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
This is a compulsory subject for English major students designed to improve their academic writing ability.			
到達目標			
Following DP1（教養の修得） and DP6（文化現象の総合的理解）， the goals for the course are as follows. The students are expected to: ・ be able to use a variety of conjunctions to form longer, more complex sentences ・ be able to use basic discourse markers to logically present their ideas ・ be able to write a paragraph consisting of a coherent topic sentence with relevant supporting sentences			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	Introduction		
	Look at your textbook overall and prepare for your class.		30
第2回	Writing Guide and Chapter 1		
	Read your textbook from page 6 to 19 and prepare for your class.		120
第3回	Chapter 2		
	Read your text book from page 20 to 25 and prepare for your class.		120

第4回	Chapter 3	
	Read your textbook from page 26 to 31 and prepare for your class.	120
第5回	Chapter 4	
	Read your textbook from page 32 to 37 and prepare for your class.	120
第6回	Chapter 5	
	Read your textbook from page 38 to 43 and prepare for your class.	120
第7回	Chapter 6	
	Read your textbook from page 44 to 49 and prepare for your class.	120
第8回	Chapter 7	
	Read your textbook from page 50 to 55 and prepare for your class.	120
第9回	Chapter 8	
	Read your textbook from page 56 to 61 and prepare for your class.	120

第10回	Chapter 9	
	Read your textbook from page 62 to 67 and prepare for your class.	120
第11回	Chapter 10	
	Read your textbook from page 68 to 73 and prepare for your class.	120
第12回	Chapter 11	
	Read your textbook from page 74 to 79 and prepare for your class.	120
第13回	Chapter 12	
	Read your textbook from page 80 to 83 and prepare for your class.	120
第14回	Chapter 13	
	Read your textbook from page 84 to 87 and prepare for your class.	120
第15回	Consolidation	
	Look back to the classes you had in this term.	30

授業の方法

The language of instruction is mostly English. Students are encouraged to participate actively in class. Students will be required to read and analyze short texts in the textbook and other supplementary materials in order to understand basic points of good academic writing. Students will complete a variety of short and later longer written exercises both in class and for homework.

成績評価の方法

Grades will be decided as follows:
Classwork: 40%
Weekly preparation and revision: 20%
Paragraphs/Essays that are submitted for grading: 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N/A

テキスト

Get Your Message Across (Nan'un-do, 2008): ISBN 978-4-523-17593-3

参考書

N/A

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	Academic Writing II a		
教員名	鈴木 京子		
科目ナンバー	1151411205	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
この授業では、2年次に学習したacademic writing の基礎を復習するとともに、更に書く力を伸ばすために練習をする。分かりやすい英語を書くためには、まず与えられたトピックの性質を理解し、アイデアを出して整理して、整った形のessay に仕上げるというプロセスを経ることを2年次に学習したが、3年次では更にそれを敷衍して、様々なテーマに沿って適切な英語を書く練習をする。			
到達目標			
基本的なparagraphs や essaysの書き方を復習して体得することはもちろんのことであるが、更にテーマにふさわしい書き方を学習し、自分一人の力で読者を納得させる書き方を身につけることを目標とする。そのために、ほぼ隔週のペースで課題を提出することが求められる。多くの力を使う授業であるが、英語が書けるようになるためには、努力を惜しまないで学んで欲しい。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	授業の計画の説明。課題の評価基準の説明。 Chapter 1 The Process of Writing		
	授業前に教科書を入手してから授業に臨むこと。Chapter 1 のParagraph Organization を読んでくること。		60
第2回	Chapter 1 The Process of Writing (継続)		
	Chapter 1 Essay Organization を読んでくること 前週からの課題を提出すること		60
第3回	Chapter 1 The Process of Writng (継続)		
	Paragraph とessay の総復習をしておくこと		60

第4回	Chapter 2 The Cause and Effect Essay	
	Chapter 2 Cause and Effect を読んでくること 前週からの課題を提出すること	60
第5回	Chapter 2 Cause and Effect Essay （継続）	
	Chapter 2 の残りを読んでくること	60
第6回	Chapter 3 The Problem and Solution Essay	
	Chapter 3 Writing Focus を読んでくること 前週からの課題を提出すること	60
第7回	Chapter 3 The Problem and Solution Essay （継続）	
	Chapter 3 The Problem and Solution Essay の残りを読んでくること	60
第8回	Bringing It All Together	
	Bringing It All Together を読んで問題を解いてくること 前週からの課題を提出すること	60
第9回	Chapter 4 Summarizing and Responding	
	Chapter 4 Writing Focus を読んでくること	60

第10回	Chapter 4 Summarizing and Responding (継続)	
	Chapter 4 Language Focus を読んでくること	60
第11回	Chapter 5 Responding to a Travel Story: Using Quotations	
	Chapter 5 Writing Focus を読んでくること 前週からの課題を提出すること	60
第12回	Chapter 5 Responding to a Travel Story: Using Quotations (継続)	
	Chapter 5 Incorporating Outside Information into Your Writing を読んでくること	60
第13回	Chapter 6 Two Sides of an Issue: Responding with Paraphrasing	
	Chapter 6 Writing Focus を読んでくること 前週からの課題を提出すること	60
第14回	Chapter 6 Two Sides of an Issue: Responding with Paraphrasing (継続)	
	Chapter 6 Paraphrasing 以下を読んでくること	60
第15回	Chapter 6 Two Sides of an Issue: Responding with Paraphrasing (継続)	
	今学期学んだことの総復習をすること。基本的な専門用語の理解ができているか確認すること	120

授業の方法

授業は教科書に沿って進める。教科書の課題を授業内で解いて、その課で学ばなくてはならないことを意識に上らせ体得する。それらの学習の後、各課の一番最後に載っている課題に沿って自分なりの文章を宿題として書く。提出された課題は添削され返されるので、注意事項に沿って書き直しを行い、再度提出する。提出された課題には点数が付いているので、それが主な成績として考慮される。

成績評価の方法

提出された課題に対して付けられた点数の平均点（80％）と平常点（20％）で成績を付ける。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

少なくともparagraph とessayの基本的な書き方を知っておくこと。

テキスト

Writing to Communicate 3: Essays and the Short Research Paper
Cynthia A. Boardman, Pearson Longman, 2009

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業中もしくは授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	Academic Writing II b		
教員名	鈴木 京子		
科目ナンバー	1151411205	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
この授業では、2年次に学習したacademic writing の基礎を復習するとともに、更に書く力を伸ばすために練習をする。分かりやすい英語を書くためには、まず与えられたトピックの性質を理解し、アイデアを出して整理して、整った形のessay に仕上げるというプロセスを経ることを2年次に学習したが、3年次では更にそれを敷衍して、様々なテーマに沿って適切な英語を書く練習をする。			
到達目標			
基本的なparagraphs や essaysの書き方を復習して体得することはもちろんのことであるが、更にテーマにふさわしい書き方を学習し、自分一人の力で読者を納得させる書き方を身につけることを目標とする。そのために、ほぼ隔週のペースで課題を提出することが求められる。多くの力を使う授業であるが、英語が書けるようになるためには、努力を惜しまないで学んで欲しい。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	授業の計画の説明。課題の評価基準の説明。 Chapter 1 The Process of Writing		
	授業前に教科書を入手してから授業に臨むこと。Chapter 1 のParagraph Organization を読んでくること。	60	
第2回	Chapter 1 The Process of Writing (継続)		
	Chapter 1 Essay Organization を読んでくること 前週からの課題を提出すること	60	
第3回	Chapter 1 The Process of Writng (継続)		
	Paragraph とessay の総復習をしておくこと	60	

第4回	Chapter 2 The Cause and Effect Essay	
	Chapter 2 Cause and Effect を読んでくること 前週からの課題を提出すること	60
第5回	Chapter 2 Cause and Effect Essay （継続）	
	Chapter 2 の残りを読んでくること	60
第6回	Chapter 3 The Problem and Solution Essay	
	Chapter 3 Writing Focus を読んでくること 前週からの課題を提出すること	60
第7回	Chapter 3 The Problem and Solution Essay （継続）	
	Chapter 3 The Problem and Solution Essay の残りを読んでくること	60
第8回	Bringing It All Together	
	Bringing It All Together を読んで問題を解いてくること 前週からの課題を提出すること	60
第9回	Chapter 4 Summarizing and Responding	
	Chapter 4 Writing Focus を読んでくること	60

第10回	Chapter 4 Summarizing and Responding (継続)	
	Chapter 4 Language Focus を読んでくること	60
第11回	Chapter 5 Responding to a Travel Story: Using Quotations	
	Chapter 5 Writing Focus を読んでくること 前週からの課題を提出すること	60
第12回	Chapter 5 Responding to a Travel Story: Using Quotations (継続)	
	Chapter 5 Incorporating Outside Information into Your Writing を読んでくること	60
第13回	Chapter 6 Two Sides of an Issue: Responding with Paraphrasing	
	Chapter 6 Writing Focus を読んでくること 前週からの課題を提出すること	60
第14回	Chapter 6 Two Sides of an Issue: Responding with Paraphrasing (継続)	
	Chapter 6 Paraphrasing 以下を読んでくること	60
第15回	Chapter 6 Two Sides of an Issue: Responding with Paraphrasing (継続)	
	今学期学んだことの総復習をすること。基本的な専門用語の理解ができているか確認すること	120

授業の方法

授業は教科書に沿って進める。教科書の課題を授業内で解いて、その課で学ばなくてはならないことを意識に上らせ体得する。それらの学習の後、各課の一番最後に載っている課題に沿って自分なりの文章を宿題として書く。提出された課題は添削され返されるので、注意事項に沿って書き直しを行い、再度提出する。提出された課題には点数が付いているので、それが主な成績として考慮される。

成績評価の方法

提出された課題に対して付けられた点数の平均点（80％）と平常点（20％）で成績を付ける。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

少なくともparagraph とessayの基本的な書き方を知っておくこと。

テキスト

Writing to Communicate 3: Essays and the Short Research Paper
Cynthia A. Boardman, Pearson Longman, 2009

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業中もしくは授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	Academic Writing II c		
教員名	ルコア サンドラ		
科目ナンバー	1151411205	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
This compulsory class for third-year English majors will help students to improve their academic writing skills while focusing in particular on the following: * review of the standard parts of an academic essay * clear and concise thesis statements * the purpose of the paragraph * the structure of the essay, and how to achieve logic, coherence and clarity Students will focus on the essay writing process itself, from brainstorming for ideas and researching topics to making outlines, in order to produce a thoughtful, intelligent and well-supported presentation of a topic. This syllabus is subject to modification based on the contents of individual classes.			
到達目標			
Upon successful completion of this course, students should be able to * think more critically about chosen topics and express intelligent ideas about the topics in written language that reflects this critical thinking * understand how to define a good topic for an academic essay and write a good thesis statement * understand how to collect and generate ideas and organize them in paragraphs * understand how to organize paragraphs into longer essays, with good introductions and conclusions			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	Class 1: Introduction to course; plagiarism; first writing exercises		
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student	
第2回	Class 2: Review of essay format; analysis of successful essays		
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student	
第3回	Class 3: Good readers and thinkers make good writers: choosing a topic and generating ideas		
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student	

第4回	Class 4: Thesis statements: introductions and conclusions	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第5回	Class 5: Paragraphs; organizing information	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第6回	Class 6: Researching a topic; drafting and revising essays	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第7回	Class 7: Outlines	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第8回	Class 8: More on plagiarism; research resources	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第9回	Class 9: Language of the academic essay, part I	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student

第10回	Class 10: Language of the academic essay, part II	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第11回	Class 11: Use of quotations, paraphrasing and citations	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第12回	Class 12: Effective strategies of grammar, punctuation and vocabulary	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第13回	Class 13: Developing good proofreading and editing skills	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第14回	Class 14: Formatting a research paper; notes; bibliographies	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第15回	Class 15: Final review	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student

授業の方法

Students will read and analyze short texts in order to understand the basic points of good academic writing. Students will complete a variety of written exercises in the textbook, both in class and for homework. Longer written exercises will begin with paragraphs and will build up to essays of 1-2 pages in length. Students will also practice journal writing, in order to facilitate writing fluency.

Students are required to

- * attend class regularly (attendance will be recorded at every class)
- * come to class prepared (all homework completed; no late homework will be accepted)
- * participate fully and actively in class

成績評価の方法

Attendance and participation in class exercises (35%)

Written work (65%)

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Dorothy Zemach, Daniel Broudy, Chris Valvona, WRITING RESEARCH PAPERS, Macmillan (2011)

Graeme Beals, WRITING JOURNAL, Prim-Ed Publishing (2010)

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Students can ask questions immediately before class, anytime during class, and after class.

科目名	Academic Writing II d		
教員名	ルコア サンドラ		
科目ナンバー	1151411205	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
This compulsory class for third-year English majors will help students to improve their academic writing skills while focusing in particular on the following: * review of the standard parts of an academic essay * clear and concise thesis statements * the purpose of the paragraph * the structure of the essay, and how to achieve logic, coherence and clarity Students will focus on the essay writing process itself, from brainstorming for ideas and researching topics to making outlines, in order to produce a thoughtful, intelligent and well-supported presentation of a topic. This syllabus is subject to modification based on the contents of individual classes.			
到達目標			
Upon successful completion of this course, students should be able to * think more critically about chosen topics and express intelligent ideas about the topics in written language that reflects this critical thinking * understand how to define a good topic for an academic essay and write a good thesis statement * understand how to collect and generate ideas and organize them in paragraphs * understand how to organize paragraphs into longer essays, with good introductions and conclusions			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	Class 1: Introduction to course; plagiarism; first writing exercises		
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student	
第2回	Class 2: Review of essay format; analysis of successful essays		
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student	
第3回	Class 3: Good readers and thinkers make good writers: choosing a topic and generating ideas		
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student	

第4回	Class 4: Thesis statements: introductions and conclusions	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第5回	Class 5: Paragraphs; organizing information	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第6回	Class 6: Researching a topic; drafting and revising essays	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第7回	Class 7: Outlines	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第8回	Class 8: More on plagiarism; research resources	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第9回	Class 9: Language of the academic essay, part I	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student

第10回	Class 10: Language of the academic essay, part II	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第11回	Class 11: Use of quotations, paraphrasing and citations	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第12回	Class 12: Effective strategies of grammar, punctuation and vocabulary	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第13回	Class 13: Developing good proofreading and editing skills	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第14回	Class 14: Formatting a research paper; notes; bibliographies	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第15回	Class 15: Final review	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student

授業の方法

Students will read and analyze short texts in order to understand the basic points of good academic writing. Students will complete a variety of written exercises in the textbook, both in class and for homework. Longer written exercises will begin with paragraphs and will build up to essays of 1-2 pages in length. Students will also practice journal writing, in order to facilitate writing fluency.

Students are required to

- * attend class regularly (attendance will be recorded at every class)
- * come to class prepared (all homework completed; no late homework will be accepted)
- * participate fully and actively in class

成績評価の方法

Attendance and participation in class exercises (35%)

Written work (65%)

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Dorothy Zemach, Daniel Broudy, Chris Valvona, WRITING RESEARCH PAPERS, Macmillan (2011)

Graeme Beals, WRITING JOURNAL, Prim-Ed Publishing (2010)

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Students can ask questions immediately before class, anytime during class, and after class.

科目名	Academic Writing II e		
教員名	ルコア サンドラ		
科目ナンバー	1151411205	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
This compulsory class for third-year English majors will help students to improve their academic writing skills while focusing in particular on the following: * review of the standard parts of an academic essay * clear and concise thesis statements * the purpose of the paragraph * the structure of the essay, and how to achieve logic, coherence and clarity Students will focus on the essay writing process itself, from brainstorming for ideas and researching topics to making outlines, in order to produce a thoughtful, intelligent and well-supported presentation of a topic. This syllabus is subject to modification based on the contents of individual classes.			
到達目標			
Upon successful completion of this course, students should be able to * think more critically about chosen topics and express intelligent ideas about the topics in written language that reflects this critical thinking * understand how to define a good topic for an academic essay and write a good thesis statement * understand how to collect and generate ideas and organize them in paragraphs * understand how to organize paragraphs into longer essays, with good introductions and conclusions			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	Class 1: Introduction to course; plagiarism; first writing exercises		
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student	
第2回	Class 2: Review of essay format; analysis of successful essays		
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student	
第3回	Class 3: Good readers and thinkers make good writers: choosing a topic and generating ideas		
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student	

第4回	Class 4: Thesis statements: introductions and conclusions	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第5回	Class 5: Paragraphs; organizing information	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第6回	Class 6: Researching a topic; drafting and revising essays	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第7回	Class 7: Outlines	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第8回	Class 8: More on plagiarism; research resources	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第9回	Class 9: Language of the academic essay, part I	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student

第10回	Class 10: Language of the academic essay, part II	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第11回	Class 11: Use of quotations, paraphrasing and citations	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第12回	Class 12: Effective strategies of grammar, punctuation and vocabulary	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第13回	Class 13: Developing good proofreading and editing skills	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第14回	Class 14: Formatting a research paper; notes; bibliographies	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第15回	Class 15: Final review	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student

授業の方法

Students will read and analyze short texts in order to understand the basic points of good academic writing. Students will complete a variety of written exercises in the textbook, both in class and for homework. Longer written exercises will begin with paragraphs and will build up to essays of 1-2 pages in length. Students will also practice journal writing, in order to facilitate writing fluency.

Students are required to

- * attend class regularly (attendance will be recorded at every class)
- * come to class prepared (all homework completed; no late homework will be accepted)
- * participate fully and actively in class

成績評価の方法

Attendance and participation in class exercises (35%)

Written work (65%)

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Dorothy Zemach, Daniel Broudy, Chris Valvona, WRITING RESEARCH PAPERS, Macmillan (2011)

Graeme Beals, WRITING JOURNAL, Prim-Ed Publishing (2010)

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Students can ask questions immediately before class, anytime during class, and after class.

科目名	Academic Writing II f		
教員名	ルコア サンドラ		
科目ナンバー	1151411205	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
This compulsory class for third-year English majors will help students to improve their academic writing skills while focusing in particular on the following: * review of the standard parts of an academic essay * clear and concise thesis statements * the purpose of the paragraph * the structure of the essay, and how to achieve logic, coherence and clarity Students will focus on the essay writing process itself, from brainstorming for ideas and researching topics to making outlines, in order to produce a thoughtful, intelligent and well-supported presentation of a topic. This syllabus is subject to modification based on the contents of individual classes.			
到達目標			
Upon successful completion of this course, students should be able to * think more critically about chosen topics and express intelligent ideas about the topics in written language that reflects this critical thinking * understand how to define a good topic for an academic essay and write a good thesis statement * understand how to collect and generate ideas and organize them in paragraphs * understand how to organize paragraphs into longer essays, with good introductions and conclusions			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
第1回	Class 1: Introduction to course; plagiarism; first writing exercises		
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student	
第2回	Class 2: Review of essay format; analysis of successful essays		
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student	
第3回	Class 3: Good readers and thinkers make good writers: choosing a topic and generating ideas		
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student	

第4回	Class 4: Thesis statements: introductions and conclusions	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第5回	Class 5: Paragraphs; organizing information	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第6回	Class 6: Researching a topic; drafting and revising essays	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第7回	Class 7: Outlines	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第8回	Class 8: More on plagiarism; research resources	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第9回	Class 9: Language of the academic essay, part I	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student

第10回	Class 10: Language of the academic essay, part II	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第11回	Class 11: Use of quotations, paraphrasing and citations	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第12回	Class 12: Effective strategies of grammar, punctuation and vocabulary	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第13回	Class 13: Developing good proofreading and editing skills	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第14回	Class 14: Formatting a research paper; notes; bibliographies	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student
第15回	Class 15: Final review	
	Read the assigned texts and complete the homework.	1-2 hours; or depending on the individual student

授業の方法

Students will read and analyze short texts in order to understand the basic points of good academic writing. Students will complete a variety of written exercises in the textbook, both in class and for homework. Longer written exercises will begin with paragraphs and will build up to essays of 1-2 pages in length. Students will also practice journal writing, in order to facilitate writing fluency.

Students are required to

- * attend class regularly (attendance will be recorded at every class)
- * come to class prepared (all homework completed; no late homework will be accepted)
- * participate fully and actively in class

成績評価の方法

Attendance and participation in class exercises (35%)

Written work (65%)

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Dorothy Zemach, Daniel Broudy, Chris Valvona, WRITING RESEARCH PAPERS, Macmillan (2011)

Graeme Beals, WRITING JOURNAL, Prim-Ed Publishing (2010)

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Students can ask questions immediately before class, anytime during class, and after class.

科目名	1 年次演習 a		
教員名	ジャマール モーリス		
科目ナンバー	1251411301	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
The aim of this class is to develop students' critical thinking and reasoning skills. Students will learn to apply these skills to both academic disciplines as well as to their lives in general.			
到達目標			
In accordance with the university's Diploma Policy, the course will, in addition, aim to improve students' communication skills in English and broaden their understanding of key issues related to the subject (see: DP 6).			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	Class introduction and orientation.		
	Check the syllabus		60
第2回	Beliefs vs Facts		
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson		60
第3回	Claims vs Values (1)		
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson		60

第4回	Claims vs Values (2)	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第5回	Deductive vs Inductive Reasoning	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第6回	Review / Reinforcement	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第7回	Assessing credibility of sources and claims	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第8回	The art of persuasion	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第9回	An introduction to rhetoric and rhetorical devices	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60

第10回	Relativism	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第11回	Review and reinforcement	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第12回	Relevance Fallacies: ad hominem; burdens of proof; Straw Man arguments	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第13回	Moral and legal reasoning	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第14回	Assumptions and Reasoning errors	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第15回	Review / Test	
	Read / review class materials.	60

授業の方法

Students will work in pairs and small groups as well as individually from time to time. Some classes / parts of classes will be teacher-led discussion and input sessions.

成績評価の方法

Classwork: 50%
Homework: 20%
Report: 30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

none

テキスト

There is no set text. Materials will be provided by the teacher.

参考書

Watch the TV news. Read newspapers.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	1 年次演習 b		
教員名	ラルフ ジェイムズ パーナービー		
科目ナンバー	1251411301	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

The aim of this class is to develop students' critical thinking and reasoning skills. Students will learn to apply these skills to both academic disciplines as well as to their lives in general.

到達目標

In accordance with the university's Diploma Policy, the course will, in addition, aim to improve students' communication skills in English and broaden their understanding of key issues related to the subject (see: DP 6).

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	Class introduction and orientation.	
	Check the syllabus	60
第2回	Beliefs vs Facts	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第3回	Claims vs Values (1)	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60

第4回	Claims vs Values (2)	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第5回	Deductive vs Inductive Reasoning	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第6回	Review / Reinforcement	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第7回	Assessing credibility of sources and claims	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第8回	The art of persuasion	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第9回	An introduction to rhetoric and rhetorical devices	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60

第10回	Relativism	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第11回	Review and reinforcement	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第12回	Relevance Fallacies: ad hominem; burdens of proof; Straw Man arguments	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第13回	Moral and legal reasoning	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第14回	Assumptions and Reasoning errors	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第15回	Review / Test	
	Read / review class materials.	60

授業の方法

Students will work in pairs and small groups as well as individually from time to time. Some classes / parts of classes will be teacher-led discussion and input sessions.

成績評価の方法

Classwork: 50%
Homework: 20%
Report: 30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

none

テキスト

There is no set text. Materials will be provided by the teacher.

参考書

Watch the TV news. Read newspapers.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	1 年次演習 c		
教員名	セバスチャンジョーンズ マーク		
科目ナンバー	1251411301	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
The aim of this class is to develop students' critical thinking and reasoning skills. Students will learn to apply these skills to both academic disciplines as well as to their lives in general.			
到達目標			
In accordance with the university's Diploma Policy, the course will, in addition, aim to improve students' communication skills in English and broaden their understanding of key issues related to the subject (see: DP 6).			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	Class introduction and orientation.		
	Check the syllabus		60
第2回	Beliefs vs Facts		
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson		60
第3回	Claims vs Values (1)		
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson		60

第4回	Claims vs Values (2)	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第5回	Deductive vs Inductive Reasoning	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第6回	Review / Reinforcement	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第7回	Assessing credibility of sources and claims	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第8回	The art of persuasion	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第9回	An introduction to rhetoric and rhetorical devices	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60

第10回	Relativism	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第11回	Review and reinforcement	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第12回	Relevance Fallacies: ad hominem; burdens of proof; Straw Man arguments	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第13回	Moral and legal reasoning	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第14回	Assumptions and Reasoning errors	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第15回	Review / Test	
	Read / review class materials.	60

授業の方法

Students will work in pairs and small groups as well as individually from time to time. Some classes / parts of classes will be teacher-led discussion and input sessions.

成績評価の方法

Classwork: 50%
Homework: 20%
Report: 30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

none

テキスト

There is no set text. Materials will be provided by the teacher.

参考書

Watch the TV news. Read newspapers.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	1 年次演習 d		
教員名	ジャマール モーリス		
科目ナンバー	1251411301	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

The aim of this class is to develop students' critical thinking and reasoning skills. Students will learn to apply these skills to both academic disciplines as well as to their lives in general.

到達目標

In accordance with the university's Diploma Policy, the course will, in addition, aim to improve students' communication skills in English and broaden their understanding of key issues related to the subject (see: DP 6).

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	Class introduction and orientation.	
	Check the syllabus	60
第2回	Beliefs vs Facts	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第3回	Claims vs Values (1)	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60

第4回	Claims vs Values (2)	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第5回	Deductive vs Inductive Reasoning	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第6回	Review / Reinforcement	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第7回	Assessing credibility of sources and claims	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第8回	The art of persuasion	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第9回	An introduction to rhetoric and rhetorical devices	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60

第10回	Relativism	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第11回	Review and reinforcement	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第12回	Relevance Fallacies: ad hominem; burdens of proof; Straw Man arguments	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第13回	Moral and legal reasoning	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第14回	Assumptions and Reasoning errors	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第15回	Review / Test	
	Read / review class materials.	60

授業の方法

Students will work in pairs and small groups as well as individually from time to time. Some classes / parts of classes will be teacher-led discussion and input sessions.

成績評価の方法

Classwork: 50%
Homework: 20%
Report: 30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

none

テキスト

There is no set text. Materials will be provided by the teacher.

参考書

Watch the TV news. Read newspapers.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	1 年次演習 e		
教員名	ラルフ ジェイムズ パーナビー		
科目ナンバー	1251411301	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
The aim of this class is to develop students' critical thinking and reasoning skills. Students will learn to apply these skills to both academic disciplines as well as to their lives in general.			
到達目標			
In accordance with the university's Diploma Policy, the course will, in addition, aim to improve students' communication skills in English and broaden their understanding of key issues related to the subject (see: DP 6).			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	Class introduction and orientation.		
	Check the syllabus		60
第2回	Beliefs vs Facts		
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson		60
第3回	Claims vs Values (1)		
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson		60

第4回	Claims vs Values (2)	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第5回	Deductive vs Inductive Reasoning	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第6回	Review / Reinforcement	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第7回	Assessing credibility of sources and claims	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第8回	The art of persuasion	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第9回	An introduction to rhetoric and rhetorical devices	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60

第10回	Relativism	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第11回	Review and reinforcement	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第12回	Relevance Fallacies: ad hominem; burdens of proof; Straw Man arguments	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第13回	Moral and legal reasoning	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第14回	Assumptions and Reasoning errors	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第15回	Review / Test	
	Read / review class materials.	60

授業の方法

Students will work in pairs and small groups as well as individually from time to time. Some classes / parts of classes will be teacher-led discussion and input sessions.

成績評価の方法

Classwork: 50%
Homework: 20%
Report: 30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

none

テキスト

There is no set text. Materials will be provided by the teacher.

参考書

Watch the TV news. Read newspapers.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	1 年次演習 f		
教員名	セバスチャンジョーンズ マーク		
科目ナンバー	1251411301	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

The aim of this class is to develop students' critical thinking and reasoning skills. Students will learn to apply these skills to both academic disciplines as well as to their lives in general.

到達目標

In accordance with the university's Diploma Policy, the course will, in addition, aim to improve students' communication skills in English and broaden their understanding of key issues related to the subject (see: DP 6).

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	Class introduction and orientation.	
	Check the syllabus	60
第2回	Beliefs vs Facts	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第3回	Claims vs Values (1)	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60

第4回	Claims vs Values (2)	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第5回	Deductive vs Inductive Reasoning	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第6回	Review / Reinforcement	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第7回	Assessing credibility of sources and claims	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第8回	The art of persuasion	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第9回	An introduction to rhetoric and rhetorical devices	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60

第10回	Relativism	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第11回	Review and reinforcement	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第12回	Relevance Fallacies: ad hominem; burdens of proof; Straw Man arguments	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第13回	Moral and legal reasoning	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第14回	Assumptions and Reasoning errors	
	Read / review class materials. Preview materials for next lesson	60
第15回	Review / Test	
	Read / review class materials.	60

授業の方法

Students will work in pairs and small groups as well as individually from time to time. Some classes / parts of classes will be teacher-led discussion and input sessions.

成績評価の方法

Classwork: 50%
Homework: 20%
Report: 30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

none

テキスト

There is no set text. Materials will be provided by the teacher.

参考書

Watch the TV news. Read newspapers.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	2 年次演習 I a		
教員名	ジャマール モーリス		
科目ナンバー	1251411302	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

This course is intended to give students a basic, broad understanding of the development of Western literature and society, focussing after the first two weeks (which are on the Greeks and Romans) on the development of English and American culture, especially as relevant to students of a Department with a focus on English and American Language and Literature. Selections are very short - typically a paragraph. They are not simplified, however, so the teacher will work with the students to develop their understanding of the content and language.

到達目標

It is intended that this panoramic overview will allow students to build a contextual framework for the literature and language they encounter over the course of their studies, as well as giving them opportunities to work on their reading and listening skills via authentic texts and short, targeted lectures.

This is in accordance with DP6.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	The foundation of Western culture I. Greek philosophy and literature. Core texts: a retelling of the tale of Oedipus, short selections from The Odyssey. Important people and ideas mentioned: Plato (idealism), Aristotle (relativism and poetics), Homer (the Odyssey and Iliad) Aristophanes (comedy), Sophocles (tragedy).	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第2回	The foundation of Western culture II. Core texts: the seventh Ode from Book IV by Horace. Important people and ideas mentioned: Cicero (politics), Virgil (the Aeneid).	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第3回	The middle ages I. Core texts: Caedmon's Hymn, the song Sumer is Icomen In, a summary of some mystery plays. Important people and ideas mentioned: the rise and dominance of the Christian church, plague in Europe.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins

第4回	The middle ages. Core texts: short selections from Chaucer's Canterbury Tales. Important people and ideas mentioned: literacy rates, British pastoralism, the development of English as a language.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Start work on presentations.	60 mins
第5回	The Renaissance. Core texts: selections from Shakespeare's plays and sonnets, Sidney's Defence of Poetry. Important people and ideas mentioned: the fall of Constantinople and the spread of concentrated knowledge, Henry VIII and the rise of the Church of England, Elizabeth I and the building of a British empire.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Continue work on presentations.	60 mins
第6回	The seventeenth century. Core texts: short selections from Milton's Paradise Lost. Important people and ideas mentioned: the civil war, the plague, the fire of London, the Restoration, Charles I, Cromwell, Charles II.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Complete work on presentations.	60 mins
第7回	Student group presentations on one aspect of previous classes. Presentations are 10–15 minutes long, with questions at the end. Information should build on things learned already. The presentation script must be submitted. It must follow the rules of essay writing in that it must not be plagiarised and must include references in MLA or APA style.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第8回	The long eighteenth century. Core Texts: short selections from Swift's Gulliver's Travels, short selections from Alexander Pope's Dunciad. Important people and ideas mentioned: the birth of the novel and professional writers, satire, political stability and the growth of British influence, the rise of the middle class, the growth of theatre, opera, pleasure gardens and other entertainments.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第9回	The Romantics and Sensibility. Core texts: Percy Shelley's Ozymandias, selections from Blake's Songs of Innocence and Experience, selections from Mary Shelley's Frankenstein, selections from Jane Austen's Pride and Prejudice. Main ideas: the increased influence of women in culture and politics, sensibility as a popular concept, life in Europe after the French Revolution.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins

第10回	“A whole new world”. Core texts: selections from Thoreau’s <i>Walden</i> , selections from the poetry of Dickinson and Poe’s <i>The Raven</i> . Main ideas: slavery, the rise of railroads, American gothic and pastoralism.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第11回	Victorians and Empire. Core texts: Kipling’s <i>Gunga Din</i> and <i>The White Man’s Burden</i> , selections from Dickens’ <i>Great Expectations</i> . Main ideas: orientalism, imperialism, colonialism and post-colonialism.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第12回	Towards the present. Core texts: selections from Wilde’s <i>The Picture of Doran Gray</i> , selections from Eliot’s <i>The Waste-Land</i> , selections from Woolf’s <i>A Room of One’s Own</i> . Main ideas: fin de siècle, modernism, searching for meaning before and after WWI.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第13回	What does it all mean? Core texts: selections from Thompson’s <i>Fear and Loathing in Las Vegas</i> , selections from Rushdie’s <i>Midnight’s Children</i> , selections from the poetry of Maya Angelou. Main ideas: postmodernism and the role of literature as cultural form in the present day.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Preparative study for in-class test.	60 mins
第14回	In-class test. This will cover material from the course so far. It will include short-answer and multiple-choice questions.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Work on final paper.	60 mins
第15回	Cultural Studies. Core texts: the article “ <i>Snow White and the Seven Slaves</i> ”, Michael Jackson’s <i>Thriller</i> . Main ideas: understanding intersections between literature, film, music, text and culture.	
	Reflection on course content.	Own choice

授業の方法

You will be undertaking pair/group activities, discussions, tasks, and so forth. The class will be conducted in English. The lesson plan may be modified depending on your actual progress.

You will be expected to review the previous lesson, complete homework, and prepare for the next lesson as part of your outside preparatory work. Please bring a dictionary and notebook to each class.

成績評価の方法

The final grade will be based on the following criteria:

- 1) classroom participation 20%
- 2) group presentation 20%
- 3) In-class test 30%
- 4) Final paper 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N. A.

テキスト

Handouts will be provided by the instructor.

参考書

Relevant resources or books will be introduced as needed.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	2 年次演習II a		
教員名	権田 建二		
科目ナンバー	1251411303	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
20世紀アメリカ合衆国の黒人作家による作品を読みます。合衆国において常に〈他者〉として存在してきたアフリカ系の人々の文学には豊かで長い伝統があります。その全体をこの授業で捉えることは到底無理ですので、20世紀の数十年間の時期に限定し、そのほんの一部を見ていきたいと思います。 合衆国における黒人の文学を読むことで、合衆国において黒人であるということを作家たちがどう捉え、どう表現してきたかを見ていきます。そうすることで、〈他者〉であるということはどういうことなのかについて考えていきます。その他に、英語で書かれた小説の文章の意味をきちんと理解する、文学作品の分析の仕方を学ぶといったことも目標とします。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP7（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）、DP8（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 1) 文学的テキストを分析する力を養う。 2) 英語で書かれた文章の意味を作者の意図を含めて正確に読解する力を養う。 3) プレゼンテーションとレポートを通して、自分の言葉で発信する力を養う。 4) レポートの作成を通して論理的・批判的に思考する力を養う。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス（授業の進め方等の説明、担当者決定）		
	次回分を熟読		60分
第2回	テキスト #1 精読 (i)		
	今回分を再読 次回分を熟読		60分
第3回	テキスト #1 精読 (ii)		
	今回分を再読 次回分を熟読		60分

第4回	テキスト #1 精読 (iii)	
	今回分を再読 次回分を熟読	60分
第5回	テキスト #1 まとめ	
	今回分を再読 次回分を熟読	60分
第6回	テキスト #2 精読 (i)	
	今回分を再読 次回分を熟読	60分
第7回	テキスト #2 精読 (ii)	
	今回分を再読 次回分を熟読	60分
第8回	テキスト #2 精読 (iii)	
	今回分を再読 次回分を熟読	60分
第9回	テキスト #2 まとめ	
	今回分を再読 次回分を熟読	60分

第10回	テキスト #3 精読 (i)	
	今回分を再読 次回分を熟読	60分
第11回	テキスト #3 精読 (ii)	
	今回分を再読 次回分を熟読	60分
第12回	テキスト #3 精読 (iii)	
	今回分を再読	60分
第13回	テキスト #3 まとめ	
	今回分を再読	60分
第14回	レポートの書き方	
	レポートのアウトラインを考える。	60分
第15回	レポートの準備	
	レポートへの評価を踏まえて反省点について考える。	60分

授業の方法

3つの短編小説をそれぞれ4回分の授業を使って読んでいきます。各短編を扱った授業の1回目から3回目までは、担当者がその回の範囲についてハンドアウトを作成し、発表します（発表A）。そして、第4回目の授業では、その短編のまとめとして、2名の担当者の2組がその作品について解釈・分析を発表します（発表B）。

成績評価の方法

発表2回分（20%+20%） + 授業参加（20%）レポート（40%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

第一回授業で通知します。

参考書

質問・相談方法等（オフィス・アワー）

ポータルサイトで周知する。

科目名	2 年次演習 I b		
教員名	ラルフ ジェイムズ パーナービー		
科目ナンバー	1251411302	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

This course is intended to give students a basic, broad understanding of the development of Western literature and society, focussing after the first two weeks (which are on the Greeks and Romans) on the development of English and American culture, especially as relevant to students of a Department with a focus on English and American Language and Literature. Selections are very short - typically a paragraph. They are not simplified, however, so the teacher will work with the students to develop their understanding of the content and language.

到達目標

It is intended that this panoramic overview will allow students to build a contextual framework for the literature and language they encounter over the course of their studies, as well as giving them opportunities to work on their reading and listening skills via authentic texts and short, targeted lectures.

This is in accordance with DP6.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	The foundation of Western culture I. Greek philosophy and literature. Core texts: a retelling of the tale of Oedipus, short selections from The Odyssey. Important people and ideas mentioned: Plato (idealism), Aristotle (relativism and poetics), Homer (the Odyssey and Iliad) Aristophanes (comedy), Sophocles (tragedy).	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第2回	The foundation of Western culture II. Core texts: the seventh Ode from Book IV by Horace. Important people and ideas mentioned: Cicero (politics), Virgil (the Aeneid).	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第3回	The middle ages I. Core texts: Caedmon's Hymn, the song Sumer is Icomen In, a summary of some mystery plays. Important people and ideas mentioned: the rise and dominance of the Christian church, plague in Europe.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins

第4回	The middle ages. Core texts: short selections from Chaucer' s Canterbury Tales. Important people and ideas mentioned: literacy rates, British pastoralism, the development of English as a language.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Start work on presentations.	60 mins
第5回	The Renaissance. Core texts: selections from Shakespeare' s plays and sonnets, Sidney' s Defence of Poetry. Important people and ideas mentioned: the fall of Constantinople and the spread of concentrated knowledge, Henry VIII and the rise of the Church of England, Elizabeth I and the building of a British empire.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Continue work on presentations.	60 mins
第6回	The seventeenth century. Core texts: short selections from Milton' s Paradise Lost. Important people and ideas mentioned: the civil war, the plague, the fire of London, the Restoration, Charles I, Cromwell, Charles II.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Complete work on presentations.	60 mins
第7回	Student group presentations on one aspect of previous classes. Presentations are 10–15 minutes long, with questions at the end. Information should build on things learned already. The presentation script must be submitted. It must follow the rules of essay writing in that it must not be plagiarised and must include references in MLA or APA style.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第8回	The long eighteenth century. Core Texts: short selections from Swift' s Gulliver' s Travels, short selections from Alexander Pope' s Dunciad. Important people and ideas mentioned: the birth of the novel and professional writers, satire, political stability and the growth of British influence, the rise of the middle class, the growth of theatre, opera, pleasure gardens and other entertainments.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第9回	The Romantics and Sensibility. Core texts: Percy Shelley' s Ozymandias, selections from Blake' s Songs of Innocence and Experience, selections from Mary Shelley' s Frankenstein, selections from Jane Austen' s Pride and Prejudice. Main ideas: the increased influence of women in culture and politics, sensibility as a popular concept, life in Europe after the French Revolution.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins

第10回	“A whole new world”. Core texts: selections from Thoreau’s <i>Walden</i> , selections from the poetry of Dickinson and Poe’s <i>The Raven</i> . Main ideas: slavery, the rise of railroads, American gothic and pastoralism.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第11回	Victorians and Empire. Core texts: Kipling’s <i>Gunga Din</i> and <i>The White Man’s Burden</i> , selections from Dickens’ <i>Great Expectations</i> . Main ideas: orientalism, imperialism, colonialism and post-colonialism.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第12回	Towards the present. Core texts: selections from Wilde’s <i>The Picture of Doran Gray</i> , selections from Eliot’s <i>The Waste-Land</i> , selections from Woolf’s <i>A Room of One’s Own</i> . Main ideas: fin de siècle, modernism, searching for meaning before and after WWI.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第13回	What does it all mean? Core texts: selections from Thompson’s <i>Fear and Loathing in Las Vegas</i> , selections from Rushdie’s <i>Midnight’s Children</i> , selections from the poetry of Maya Angelou. Main ideas: postmodernism and the role of literature as cultural form in the present day.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Preparative study for in-class test.	60 mins
第14回	In-class test. This will cover material from the course so far. It will include short-answer and multiple-choice questions.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Work on final paper.	60 mins
第15回	Cultural Studies. Core texts: the article “ <i>Snow White and the Seven Slaves</i> ”, Michael Jackson’s <i>Thriller</i> . Main ideas: understanding intersections between literature, film, music, text and culture.	
	Reflection on course content.	Own choice

授業の方法

You will be undertaking pair/group activities, discussions, tasks, and so forth. The class will be conducted in English. The lesson plan may be modified depending on your actual progress.

You will be expected to review the previous lesson, complete homework, and prepare for the next lesson as part of your outside preparatory work. Please bring a dictionary and notebook to each class.

成績評価の方法

The final grade will be based on the following criteria:

- 1) classroom participation 20%
- 2) group presentation 20%
- 3) In-class test 30%
- 4) Final paper 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N. A.

テキスト

Handouts will be provided by the instructor.

参考書

Relevant resources or books will be introduced as needed.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	2 年次演習II b		
教員名	日比野 啓		
科目ナンバー	1251411303	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

＜Sound of Music (1959)を読む＞
 ジュリー・アンドリュース主演の映画『サウンド・オブ・ミュージック』（1965）や、そのナンバー「ドレミの歌」は誰でも知っているでしょう。この演習ではその原作であるSound of Musicの舞台上演台本を読み、映画や作品についての批評を手がかりにして、この作品の背景となっている1950年代のアメリカ社会や、アメリカ文化におけるアメリカン・ミュージカルの意義を学びます。また、自分で設定した問題に答えるという論文の執筆作法を学び、卒業論文の準備を行います。

到達目標

以下の目標に到達することで、DP1（教養の修得）およびDP2（課題の発見と解決）を実現する。
 上演台本や戯曲の形式に慣れ、平易な口語英語で書かれたテキストの意味を深く読めるようになる
 冷戦下の1950年代アメリカ社会におけるさまざまな文化的文脈について学ぶ
 アメリカン・ミュージカルの形式的特徴を知る
 論文のための課題を自ら発見し、その答えを説得力のある論拠とともに示す

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション：〔講義〕論文の書き方	
	論文の書き方についてフレッシュャーズ・セミナーで学んだこととあわせ復習する	60
第2回	〔映画鑑賞〕 Sound of Music (1965年、174分) 90	
	映画についてInternet Movie Databaseや英語版Wikipediaで調べる	60
第3回	〔映画鑑賞〕 Sound of Music (続き)	
	コメントシート（1）作成・提出	60

第4回	[発表・ディスカッション] Sound of Music, Act 1, Scenes 1-3, pp. 11-28	
	テキストの該当箇所を精読する	90
第5回	[発表・ディスカッション] Sound of Music, Act 1, Scenes 4-5, pp. 29-46	
	テキストの該当箇所を精読する	90
第6回	[発表・ディスカッション] Sound of Music, Act 1, Scenes 6-8, pp. 47-60	
	テキストの該当箇所を精読する／コメントシート（2）作成・提出	90
第7回	[発表・ディスカッション] Sound of Music, Act 1, Scenes 9-10, pp. 61-80	
	テキストの該当箇所を精読する	90
第8回	[発表・ディスカッション] Sound of Music, Act 1, Scenes 11-13, pp. 81-98	
	テキストの該当箇所を精読する	90
第9回	[発表・ディスカッション] Sound of Music, Act 2, Scene 1, pp. 101-119	
	テキストの該当箇所を精読する／期末論文要旨（800字）および引用文献表提出	120

第10回	[発表・ディスカッション] Sound of Music, Act 2, Scenes 2-5, pp. 120-139	
	テキストの該当箇所を精読する	90
第11回	[発表・ディスカッション] Sound of Music, Act 2, Scenes 6-7, pp. 140-149 90	
	テキストの該当箇所を精読する	90
第12回	[読解・批評] Sound of Music関連論文を読む(1)	
	課せられた論文を通読する／期末論文(3200字)第一稿提出	120
第13回	[読解・批評] Sound of Music関連論文を読む(1)	
	課せられた論文を通読する	90
第14回	[読解・批評] Sound of Music関連論文を読む(3) 90	
	課せられた論文を通読する	90
第15回	期末論文第二稿最終	
	課せられた論文を通読する／期末論文決定稿提出	120

授業の方法

ゼミ形式。授業への積極的な参加を期待します。

成績評価の方法

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

コメントシート（4点×2回）8%
期末論文47%（10+12+25）
授業への積極的な参加45%

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

Lindsay, Howard and Russel Crouse. The Sound of Music: The Complete Book and Lyrics of the Broadway Musical. Applause Theatre Book, 2010. ISBN-13: 978-1-4234-9079-1

参考書

Flinn, Caryl. The Sound of Music (BFI Film Classics). British Film Institute, 2015. ISBN-13: 978-1-84457-474-2
Wolf, Stacy. A Problem like Maria: Gender and Sexuality in the American Musical. University of Michigan Press, 2012. ISBN-13: 978-0-472-09772-2

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	2 年次演習 I c		
教員名	セバスチャンジョーンズ マーク		
科目ナンバー	1251411302	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

This course is intended to give students a basic, broad understanding of the development of Western literature and society, focussing after the first two weeks (which are on the Greeks and Romans) on the development of English and American culture, especially as relevant to students of a Department with a focus on English and American Language and Literature. Selections are very short - typically a paragraph. They are not simplified, however, so the teacher will work with the students to develop their understanding of the content and language.

到達目標

It is intended that this panoramic overview will allow students to build a contextual framework for the literature and language they encounter over the course of their studies, as well as giving them opportunities to work on their reading and listening skills via authentic texts and short, targeted lectures.

This is in accordance with DP6.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	The foundation of Western culture I. Greek philosophy and literature. Core texts: a retelling of the tale of Oedipus, short selections from The Odyssey. Important people and ideas mentioned: Plato (idealism), Aristotle (relativism and poetics), Homer (the Odyssey and Iliad) Aristophanes (comedy), Sophocles (tragedy).	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第2回	The foundation of Western culture II. Core texts: the seventh Ode from Book IV by Horace. Important people and ideas mentioned: Cicero (politics), Virgil (the Aeneid).	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第3回	The middle ages I. Core texts: Caedmon's Hymn, the song Sumer is Icomen In, a summary of some mystery plays. Important people and ideas mentioned: the rise and dominance of the Christian church, plague in Europe.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins

第4回	The middle ages. Core texts: short selections from Chaucer' s Canterbury Tales. Important people and ideas mentioned: literacy rates, British pastoralism, the development of English as a language.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Start work on presentations.	60 mins
第5回	The Renaissance. Core texts: selections from Shakespeare' s plays and sonnets, Sidney' s Defence of Poetry. Important people and ideas mentioned: the fall of Constantinople and the spread of concentrated knowledge, Henry VIII and the rise of the Church of England, Elizabeth I and the building of a British empire.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Continue work on presentations.	60 mins
第6回	The seventeenth century. Core texts: short selections from Milton' s Paradise Lost. Important people and ideas mentioned: the civil war, the plague, the fire of London, the Restoration, Charles I, Cromwell, Charles II.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Complete work on presentations.	60 mins
第7回	Student group presentations on one aspect of previous classes. Presentations are 10–15 minutes long, with questions at the end. Information should build on things learned already. The presentation script must be submitted. It must follow the rules of essay writing in that it must not be plagiarised and must include references in MLA or APA style.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第8回	The long eighteenth century. Core Texts: short selections from Swift' s Gulliver' s Travels, short selections from Alexander Pope' s Dunciad. Important people and ideas mentioned: the birth of the novel and professional writers, satire, political stability and the growth of British influence, the rise of the middle class, the growth of theatre, opera, pleasure gardens and other entertainments.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第9回	The Romantics and Sensibility. Core texts: Percy Shelley' s Ozymandias, selections from Blake' s Songs of Innocence and Experience, selections from Mary Shelley' s Frankenstein, selections from Jane Austen' s Pride and Prejudice. Main ideas: the increased influence of women in culture and politics, sensibility as a popular concept, life in Europe after the French Revolution.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins

第10回	“A whole new world”. Core texts: selections from Thoreau’s <i>Walden</i> , selections from the poetry of Dickinson and Poe’s <i>The Raven</i> . Main ideas: slavery, the rise of railroads, American gothic and pastoralism.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第11回	Victorians and Empire. Core texts: Kipling’s <i>Gunga Din</i> and <i>The White Man’s Burden</i> , selections from Dickens’ <i>Great Expectations</i> . Main ideas: orientalism, imperialism, colonialism and post-colonialism.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第12回	Towards the present. Core texts: selections from Wilde’s <i>The Picture of Doran Gray</i> , selections from Eliot’s <i>The Waste-Land</i> , selections from Woolf’s <i>A Room of One’s Own</i> . Main ideas: fin de siècle, modernism, searching for meaning before and after WWI.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第13回	What does it all mean? Core texts: selections from Thompson’s <i>Fear and Loathing in Las Vegas</i> , selections from Rushdie’s <i>Midnight’s Children</i> , selections from the poetry of Maya Angelou. Main ideas: postmodernism and the role of literature as cultural form in the present day.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Preparative study for in-class test.	60 mins
第14回	In-class test. This will cover material from the course so far. It will include short-answer and multiple-choice questions.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Work on final paper.	60 mins
第15回	Cultural Studies. Core texts: the article “Snow White and the Seven Slaves”, Michael Jackson’s <i>Thriller</i> . Main ideas: understanding intersections between literature, film, music, text and culture.	
	Reflection on course content.	Own choice

授業の方法

You will be undertaking pair/group activities, discussions, tasks, and so forth. The class will be conducted in English. The lesson plan may be modified depending on your actual progress.

You will be expected to review the previous lesson, complete homework, and prepare for the next lesson as part of your outside preparatory work. Please bring a dictionary and notebook to each class.

成績評価の方法

The final grade will be based on the following criteria:

- 1) classroom participation 20%
- 2) group presentation 20%
- 3) In-class test 30%
- 4) Final paper 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N. A.

テキスト

Handouts will be provided by the instructor.

参考書

Relevant resources or books will be introduced as needed.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	2 年次演習II c		
教員名	森住 史		
科目ナンバー	1251411303	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

言語とは、話し手（書き手）と聞き手（読み手）というがいて初めて成り立ちます。そして、そこに、それらの人たちの立場や関係性、どのような場での発話なのか、といった多数の条件が絡んで、意味が成立します。つまり、社会的な背景・要素抜きには、人の言語活動を理解することはできないのです。この授業では、言語と社会を研究する「社会言語学」の主要なトピック（言語と政治、言語とジェンダー、World Englishesなど）を扱いながら、社会言語学の基本的考え方とリサーチ手法を学びます。

到達目標

DP1, DP2, DP5, DP8に準じ、以下の目標を到達できるよう目指します。

- ・授業で扱われた社会言語学の基本的な概念を理解すること。
- ・授業で扱われた社会言語学の基本的な用語を適切に使えるようになること。
- ・社会言語学の主要なリサーチ手法を理解すること。
- ・興味を持った分野の文献を自分で探せるようになること。
- ・bibliographyやbook reviewの書き方を身につけること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Introduction Language とは	
	Review. Be prepared for the next class, including working on the assignment.	60
第2回	Language and representation 1	
	Review. Be prepared for the next class, including working on the assignment.	90
第3回	Language and representation 2	
	Review. Be prepared for the next class, including working on the assignment.	90

第4回	Language and politics 1	
	Review. Be prepared for the next class, including working on the assignment.	90
第5回	Language and politics 2	
	Review. Be prepared for the next class, including working on the assignment.	90
第6回	Language and politics 3	
	Review. Be prepared for the next class, including working on the assignment.	90
第7回	Doing research and writing a term paper: observation questionnaire interview citation/quotation references	
	Review. Be prepared for the next class, including working on the assignment.	90
第8回	Language and gender 1	
	Review. Be prepared for the next class, including working on the assignment.	90
第9回	Language and gender 2	
	Review. Be prepared for the next class, including working on the assignment.	90

第10回	Language and gender 3	
	Review. Be prepared for the next class, including working on the assignment.	90
第11回	Language, class, and symbolic capital 1	
	Review. Be prepared for the next class, including working on the assignment.	90
第12回	Language, class, and symbolic capital 2	
	Review. Be prepared for the next class, including working on the assignment.	90
第13回	Language, class, and symbolic capital 2	
	Review. Be prepared for the next class, including working on the assignment.	90
第14回	Presentation	
	Review. Be prepared for the next class, including working on the assignment.	90
第15回	Presentation	
	Review. Submit the book review.	120

授業の方法

Week 3までは担当教員がテキストの内容を紹介し、ディスカッションやエクササイズをリードします。
Week 4からは学生たちがテキストの担当の箇所を事前に読み、Week3までの授業の進め方を参考に、クラスメート相手にリーダー役で授業を進めていきます。
授業中はペアワーク、グループワークが多く、自分が発見したことや思ったことをクラスメートをシェアすることが重視されます。
テキストは英語で書かれたもので、文献リサーチなどでは英語に触れる機会が多くなります。

*初回の授業から教科書を使います。

成績評価の方法

In-class contribution: 40%
Weekly assignment: 20%
'Being the teacher': 20%
Book review: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N/A

テキスト

Mooney, Annabelle and Evans, Betsy. (2015). Language, society and power: An introduction, 4th edition. Abingdon: Routledge.
ISBN: 978-0-415-74000-5

参考書

Lakoff, G. and Johnson, M. (1980). Metaphors We Live By. Chicago: University of Chicago Press.
Cameron, D. (1995). Verbal Hygiene. London: Routledge.
Cameron, D. (2007). The Myth of Mars and Venus. Oxford: OUP.
Coates, J. (2013). Women, Men and Everyday Talk. Basingstoke: Palgrave.
Holmes, J. (2008). An Introduction to Sociolinguistics. 3rd edition. Harlow: Pearson.
Ylanne, V. (Ed.) (2012). Representing Ageing: Images and Identities. Basingstoke: Palgrave Macmillan.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	2 年次演習 I d		
教員名	ジャマール モーリス		
科目ナンバー	1251411302	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

This course is intended to give students a basic, broad understanding of the development of Western literature and society, focussing after the first two weeks (which are on the Greeks and Romans) on the development of English and American culture, especially as relevant to students of a Department with a focus on English and American Language and Literature. Selections are very short - typically a paragraph. They are not simplified, however, so the teacher will work with the students to develop their understanding of the content and language.

到達目標

It is intended that this panoramic overview will allow students to build a contextual framework for the literature and language they encounter over the course of their studies, as well as giving them opportunities to work on their reading and listening skills via authentic texts and short, targeted lectures.

This is in accordance with DP6.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	The foundation of Western culture I. Greek philosophy and literature. Core texts: a retelling of the tale of Oedipus, short selections from The Odyssey. Important people and ideas mentioned: Plato (idealism), Aristotle (relativism and poetics), Homer (the Odyssey and Iliad) Aristophanes (comedy), Sophocles (tragedy).	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第2回	The foundation of Western culture II. Core texts: the seventh Ode from Book IV by Horace. Important people and ideas mentioned: Cicero (politics), Virgil (the Aeneid).	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第3回	The middle ages I. Core texts: Caedmon's Hymn, the song Sumer is Icomen In, a summary of some mystery plays. Important people and ideas mentioned: the rise and dominance of the Christian church, plague in Europe.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins

第4回	The middle ages. Core texts: short selections from Chaucer's Canterbury Tales. Important people and ideas mentioned: literacy rates, British pastoralism, the development of English as a language.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Start work on presentations.	60 mins
第5回	The Renaissance. Core texts: selections from Shakespeare's plays and sonnets, Sidney's Defence of Poetry. Important people and ideas mentioned: the fall of Constantinople and the spread of concentrated knowledge, Henry VIII and the rise of the Church of England, Elizabeth I and the building of a British empire.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Continue work on presentations.	60 mins
第6回	The seventeenth century. Core texts: short selections from Milton's Paradise Lost. Important people and ideas mentioned: the civil war, the plague, the fire of London, the Restoration, Charles I, Cromwell, Charles II.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Complete work on presentations.	60 mins
第7回	Student group presentations on one aspect of previous classes. Presentations are 10–15 minutes long, with questions at the end. Information should build on things learned already. The presentation script must be submitted. It must follow the rules of essay writing in that it must not be plagiarised and must include references in MLA or APA style.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第8回	The long eighteenth century. Core Texts: short selections from Swift's Gulliver's Travels, short selections from Alexander Pope's Dunciad. Important people and ideas mentioned: the birth of the novel and professional writers, satire, political stability and the growth of British influence, the rise of the middle class, the growth of theatre, opera, pleasure gardens and other entertainments.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第9回	The Romantics and Sensibility. Core texts: Percy Shelley's Ozymandias, selections from Blake's Songs of Innocence and Experience, selections from Mary Shelley's Frankenstein, selections from Jane Austen's Pride and Prejudice. Main ideas: the increased influence of women in culture and politics, sensibility as a popular concept, life in Europe after the French Revolution.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins

第10回	“A whole new world”. Core texts: selections from Thoreau’s <i>Walden</i> , selections from the poetry of Dickinson and Poe’s <i>The Raven</i> . Main ideas: slavery, the rise of railroads, American gothic and pastoralism.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第11回	Victorians and Empire. Core texts: Kipling’s <i>Gunga Din</i> and <i>The White Man’s Burden</i> , selections from Dickens’ <i>Great Expectations</i> . Main ideas: orientalism, imperialism, colonialism and post-colonialism.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第12回	Towards the present. Core texts: selections from Wilde’s <i>The Picture of Doran Gray</i> , selections from Eliot’s <i>The Waste-Land</i> , selections from Woolf’s <i>A Room of One’s Own</i> . Main ideas: fin de siècle, modernism, searching for meaning before and after WWI.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第13回	What does it all mean? Core texts: selections from Thompson’s <i>Fear and Loathing in Las Vegas</i> , selections from Rushdie’s <i>Midnight’s Children</i> , selections from the poetry of Maya Angelou. Main ideas: postmodernism and the role of literature as cultural form in the present day.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Preparative study for in-class test.	60 mins
第14回	In-class test. This will cover material from the course so far. It will include short-answer and multiple-choice questions.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Work on final paper.	60 mins
第15回	Cultural Studies. Core texts: the article “ <i>Snow White and the Seven Slaves</i> ”, Michael Jackson’s <i>Thriller</i> . Main ideas: understanding intersections between literature, film, music, text and culture.	
	Reflection on course content.	Own choice

授業の方法

You will be undertaking pair/group activities, discussions, tasks, and so forth. The class will be conducted in English. The lesson plan may be modified depending on your actual progress.

You will be expected to review the previous lesson, complete homework, and prepare for the next lesson as part of your outside preparatory work. Please bring a dictionary and notebook to each class.

成績評価の方法

The final grade will be based on the following criteria:

- 1) classroom participation 20%
- 2) group presentation 20%
- 3) In-class test 30%
- 4) Final paper 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N. A.

テキスト

Handouts will be provided by the instructor.

参考書

Relevant resources or books will be introduced as needed.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	2 年次演習II d		
教員名	平山 真奈美		
科目ナンバー	1251411303	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

言語間や方言間に優劣はなく、ある言語・方言が他よりも「より良い」ということはない、というのが言語学の通説であり、これを疑う言語学者はまずいない。この授業では、言語に関する俗説について、言語学的に検証をしたテキストを読みながら、数ある言語のバリエーションと多様性を学び、また言語を偏見なく見ることを学ぶ。

到達目標

DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、この授業では以下を目標とする。

- ・ 言語を言語学的に、客観的な指標で見ることを学ぶ。
- ・ 英語のテキストを正しく理解し、要約する力をつける。
- ・ テーマに応じて関連のある文献を入手する訓練をする。
- ・ ハンドアウト、パワーポイントの作成など、口頭発表の方法を身につける。
- ・ レポートの書き方を身につける。
- ・ 学友の発表に建設的なフィードバックを行う訓練をする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	- Introduction - Lecture and discussion: Myth 1_1	
	- Readings: Myth #1	60
第2回	- Lecture and discussion: Myth 1_2	
	- Readings: Myth #1 - Preparation of section presentations	60
第3回	- Lecture and discussion: Myth 2_1	
	- Readings: Myth #2 - Preparation of section presentations	60

第4回	- Lecture and discussion: Myth 2_2	
	- Readings: Myth #2 - Preparation of section presentations	60
第5回	- Lecture and discussion: Myth 3_1 - Student presentations on myths they choose	
	- Readings: Myth #3 - Preparation of section and chapter presentations	90
第6回	- Lecture and discussion: Myth 3_2 - Student presentations on myths they choose	
	- Readings: Myth #3 - Preparation of section and chapter presentations	90
第7回	- Lecture and discussion: Myth 4_1 - Student presentations on myths they choose	
	- Readings: Myth #4 - Preparation of section and chapter presentations	90
第8回	- Lecture and discussion: Myth 4_2 - Student presentations on myths they choose	
	- Readings: Myth #4 - Preparation of section and chapter presentations	90
第9回	- Lecture and discussion: Myth 5_1 - Student presentations on myths they choose	
	- Readings: Myth #5 - Preparation of section and chapter presentations	90

第10回	- Lecture and discussion: Myth 5_2 - Student presentations on myths they choose	
	- Readings: Myth #5 - Preparation of section and chapter presentations	90
第11回	- Lecture and discussion: Myth 6 - Student presentations on myths they choose	
	- Readings: Myth #6 - Preparation of section and chapter presentations	90
第12回	Project oral presentations I	
	Preparation of project presentations	120
第13回	Project oral presentations II	
	Preparation of project presentations	120
第14回	Project oral presentations III	
	Preparation of project presentations	120
第15回	Review of course Term paper due	
	Term papers	120

授業の方法

授業は以下のことを行う。できるだけ英語で発信する。

- パラグラフごとに担当を決め精読し、章の内容を議論し、サマリーを書く。読み方（発音）の訓練も行う。
- 精読で扱わない章のうち自ら興味のある1章/myth担当し、章を発表する。
- 自らが担当したmythに関して、内容を発展させて口頭発表し、レポートにまとめる。

成績評価の方法

- Class participation (discussion): 10%
- Presentation of textbook paragraphs: 15%
- Presentation of textbook chapters: 20%
- Student projects: Oral presentation: 25%
- Student projects: Term paper: 30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

Freshers' seminar, 1st year seminar, 2nd year seminar

テキスト

Bauer, Laurie and Peter Trudgill (eds.). 1998. Language Myths. London: Penguin Books.

参考書

授業中に必要に応じて紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	2 年次演習 I e		
教員名	ラルフ ジェイムズ パーナービー		
科目ナンバー	1251411302	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

This course is intended to give students a basic, broad understanding of the development of Western literature and society, focussing after the first two weeks (which are on the Greeks and Romans) on the development of English and American culture, especially as relevant to students of a Department with a focus on English and American Language and Literature. Selections are very short - typically a paragraph. They are not simplified, however, so the teacher will work with the students to develop their understanding of the content and language.

到達目標

It is intended that this panoramic overview will allow students to build a contextual framework for the literature and language they encounter over the course of their studies, as well as giving them opportunities to work on their reading and listening skills via authentic texts and short, targeted lectures.

This is in accordance with DP6.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	The foundation of Western culture I. Greek philosophy and literature. Core texts: a retelling of the tale of Oedipus, short selections from The Odyssey. Important people and ideas mentioned: Plato (idealism), Aristotle (relativism and poetics), Homer (the Odyssey and Iliad) Aristophanes (comedy), Sophocles (tragedy).	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第2回	The foundation of Western culture II. Core texts: the seventh Ode from Book IV by Horace. Important people and ideas mentioned: Cicero (politics), Virgil (the Aeneid).	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第3回	The middle ages I. Core texts: Caedmon's Hymn, the song Sumer is Icomen In, a summary of some mystery plays. Important people and ideas mentioned: the rise and dominance of the Christian church, plague in Europe.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins

第4回	The middle ages. Core texts: short selections from Chaucer's Canterbury Tales. Important people and ideas mentioned: literacy rates, British pastoralism, the development of English as a language.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Start work on presentations.	60 mins
第5回	The Renaissance. Core texts: selections from Shakespeare's plays and sonnets, Sidney's Defence of Poetry. Important people and ideas mentioned: the fall of Constantinople and the spread of concentrated knowledge, Henry VIII and the rise of the Church of England, Elizabeth I and the building of a British empire.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Continue work on presentations.	60 mins
第6回	The seventeenth century. Core texts: short selections from Milton's Paradise Lost. Important people and ideas mentioned: the civil war, the plague, the fire of London, the Restoration, Charles I, Cromwell, Charles II.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Complete work on presentations.	60 mins
第7回	Student group presentations on one aspect of previous classes. Presentations are 10–15 minutes long, with questions at the end. Information should build on things learned already. The presentation script must be submitted. It must follow the rules of essay writing in that it must not be plagiarised and must include references in MLA or APA style.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第8回	The long eighteenth century. Core Texts: short selections from Swift's Gulliver's Travels, short selections from Alexander Pope's Dunciad. Important people and ideas mentioned: the birth of the novel and professional writers, satire, political stability and the growth of British influence, the rise of the middle class, the growth of theatre, opera, pleasure gardens and other entertainments.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第9回	The Romantics and Sensibility. Core texts: Percy Shelley's Ozymandias, selections from Blake's Songs of Innocence and Experience, selections from Mary Shelley's Frankenstein, selections from Jane Austen's Pride and Prejudice. Main ideas: the increased influence of women in culture and politics, sensibility as a popular concept, life in Europe after the French Revolution.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins

第10回	“A whole new world”. Core texts: selections from Thoreau’s Walden, selections from the poetry of Dickinson and Poe’s The Raven. Main ideas: slavery, the rise of railroads, American gothic and pastoralism.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第11回	Victorians and Empire. Core texts: Kipling’s Gunga Din and The White Man’s Burden, selections from Dickens’ Great Expectations. Main ideas: orientalism, imperialism, colonialism and post-colonialism.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第12回	Towards the present. Core texts: selections from Wilde’s The Picture of Doran Gray, selections from Eliot’s The Waste-Land, selections from Woolf’s A Room of One’s Own. Main ideas: fin de siècle, modernism, searching for meaning before and after WWI.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第13回	What does it all mean? Core texts: selections from Thompson’s Fear and Loathing in Las Vegas, selections from Rushdie’s Midnight’s Children, selections from the poetry of Maya Angelou. Main ideas: postmodernism and the role of literature as cultural form in the present day.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Preparative study for in-class test.	60 mins
第14回	In-class test. This will cover material from the course so far. It will include short-answer and multiple-choice questions.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Work on final paper.	60 mins
第15回	Cultural Studies. Core texts: the article “Snow White and the Seven Slaves”, Michael Jackson’s Thriller. Main ideas: understanding intersections between literature, film, music, text and culture.	
	Reflection on course content.	Own choice

授業の方法

You will be undertaking pair/group activities, discussions, tasks, and so forth. The class will be conducted in English. The lesson plan may be modified depending on your actual progress.

You will be expected to review the previous lesson, complete homework, and prepare for the next lesson as part of your outside preparatory work. Please bring a dictionary and notebook to each class.

成績評価の方法

The final grade will be based on the following criteria:

- 1) classroom participation 20%
- 2) group presentation 20%
- 3) In-class test 30%
- 4) Final paper 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N. A.

テキスト

Handouts will be provided by the instructor.

参考書

Relevant resources or books will be introduced as needed.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	2 年次演習II e		
教員名	小野 尚美		
科目ナンバー	1251411303	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

<「ことば」について考える>

この演習の目的は、ことばの性質について多方面から学び、「ことば」とは何かについて考えることである。

私たちが日常何気なく使っていることばは、コミュニケーションプロセスにおいて私たちの気持ちを伝える大切な道具であるが、実は、伝えようとしたことがなかなか相手に通じない、まったく違うことが伝わってしまうなど、ことばは難しい。この授業では、言語学の理論だけでなく、現代の日本文化を代表するポップカルチャーも話題にしながら、様々な分野からことばについて考察し、言葉で気持ちを伝えることの難しさの理由を模索していく。

この演習では、「ことば」の性質を話題にしながら「社会」との関連について考え、さらにことばの習得についても考える。

到達目標

DP7を実現するために、以下の6点をこの授業の目標とする。

- 1) 「ことば」の性質を学び、「社会」との関わりについて考察する。
- 2) 平易な英語で書かれたテキストを正確に読み、内容についてわかりやすく説明できる能力を養う。
- 3) プリゼンテーションのためのレジメの作成方法、効果的な口頭発表の方法を習得する。
- 4) Power Pointを使って発表できるようになる。
- 5) レポートの書き方（参考文献のつけ方、注の入れ方などの書式）の基本を習得する。
- 6) ことばの習得について考える。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	自己紹介をする。 ゼミ運営についての説明する。 テキスト輪読の割り当てを決める。	
	テキスト(Language A Mirror of Our World)のpp. 1-10を読んでくる。 講義内容の復習をする。	30
第2回	講義： ことばについて考える テキスト輪読、プリゼンテーション、 & ディスカッション	
	テキスト(Language A Mirror of Our World)のpp. 11-20を読んでくる。 講義内容の復習をする。	30
第3回	講義： 記号としてのことば テキスト輪読、プリゼンテーション、 & ディスカッション 個人発表& ディスカッション	
	テキスト(Language A Mirror of Our World)のpp. 21-30を読んでくる。 講義内容の復習をする。 個人発表の準備をする。	60

第4回	講義： 動物のことばと人間のことば テキスト輪読、プレゼンテーション、 & ディスカッション 個人発表 & ディスカッション	
	テキスト(Language A Mirror of Our World)のpp.31-40を読んでくる。 講義内容の復習をする。 個人発表の準備をする。	90
第5回	講義： 言語と思考について考える テキスト輪読、プレゼンテーション、 & ディスカッション 個人発表 & ディスカッション	
	テキスト(Language A Mirror of Our World)のpp.41-51を読んでくる。 講義内容の復習をする。 個人発表の準備をする。	90
第6回	講義： 言語と思考について考える テキスト輪読、プレゼンテーション、 & ディスカッション 個人発表 & ディスカッション	
	テキスト(Language A Mirror of Our World)のpp.52-61を読んでくる。 講義内容の復習をする。 個人発表の準備をする。	90
第7回	講義： 脳科学からことばの習得を考える テキスト輪読、プレゼンテーション、 & ディスカッション 個人発表 & ディスカッション	
	テキスト(Language A Mirror of Our World)のpp.62-70を読んでくる。 講義内容の復習をする。 個人発表の準備をする。	90
第8回	講義： ことばの習得について考える テキスト輪読、プレゼンテーション、 & ディスカッション 個人発表 & ディスカッション	
	テキスト(Language A Mirror of Our World)のpp.71-79を読んでくる。 講義内容の復習をする。 個人発表の準備をする。	90
第9回	講義： ことばの習得について考える（2） テキスト輪読、プレゼンテーション、 & ディスカッション 個人発表 & ディスカッション	
	テキスト(Language A Mirror of Our World)のpp.80-88を読んでくる。 講義内容の復習をする。 個人発表の準備をする。	90

第10回	小テスト （第9回までの範囲のテスト）	
	第9回授業までの総復習をする。	90
第11回	小テストの振り返り	
	講義内容の復習をする。	30
第12回	講義：英語の音の世界について考える	
	講義内容の復習をする。	90
第13回	シンポジウム No. 1 授業の総括をする。	
	シンポジウムの準備をする。	90
第14回	シンポジウム No. 2 授業の総括をする。	
	シンポジウムの準備をする。	90
第15回	シンポジウム No. 3 授業の総括をする。	
	シンポジウムの準備をする。	90

授業の方法

授業は、講義、輪読及び口頭発表、ディスカッション、シンポジウムの形式をとる。

成績評価の方法

ディスカッションへの参加度（小テストも含める）を40%、口頭発表とレポートを60%として評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

履修上、必要な単位数を取得済みであること。

テキスト

McCONNELL, JOAN. (1984). Language A Mirror of Our World. ISBN 4-7919-1156-3 (1,200円＋税)

必要に応じて、テキストを授業内で配布する。

参考書

授業の中で、それぞれの話題についての参考文献を紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	2 年次演習 I f		
教員名	セバスチャンジョーンズ マーク		
科目ナンバー	1251411302	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

This course is intended to give students a basic, broad understanding of the development of Western literature and society, focussing after the first two weeks (which are on the Greeks and Romans) on the development of English and American culture, especially as relevant to students of a Department with a focus on English and American Language and Literature. Selections are very short - typically a paragraph. They are not simplified, however, so the teacher will work with the students to develop their understanding of the content and language.

到達目標

It is intended that this panoramic overview will allow students to build a contextual framework for the literature and language they encounter over the course of their studies, as well as giving them opportunities to work on their reading and listening skills via authentic texts and short, targeted lectures.

This is in accordance with DP6.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	The foundation of Western culture I. Greek philosophy and literature. Core texts: a retelling of the tale of Oedipus, short selections from The Odyssey. Important people and ideas mentioned: Plato (idealism), Aristotle (relativism and poetics), Homer (the Odyssey and Iliad) Aristophanes (comedy), Sophocles (tragedy).	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第2回	The foundation of Western culture II. Core texts: the seventh Ode from Book IV by Horace. Important people and ideas mentioned: Cicero (politics), Virgil (the Aeneid).	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第3回	The middle ages I. Core texts: Caedmon's Hymn, the song Sumer is Icomen In, a summary of some mystery plays. Important people and ideas mentioned: the rise and dominance of the Christian church, plague in Europe.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins

第4回	The middle ages. Core texts: short selections from Chaucer' s Canterbury Tales. Important people and ideas mentioned: literacy rates, British pastoralism, the development of English as a language.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Start work on presentations.	60 mins
第5回	The Renaissance. Core texts: selections from Shakespeare' s plays and sonnets, Sidney' s Defence of Poetry. Important people and ideas mentioned: the fall of Constantinople and the spread of concentrated knowledge, Henry VIII and the rise of the Church of England, Elizabeth I and the building of a British empire.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Continue work on presentations.	60 mins
第6回	The seventeenth century. Core texts: short selections from Milton' s Paradise Lost. Important people and ideas mentioned: the civil war, the plague, the fire of London, the Restoration, Charles I, Cromwell, Charles II.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Complete work on presentations.	60 mins
第7回	Student group presentations on one aspect of previous classes. Presentations are 10–15 minutes long, with questions at the end. Information should build on things learned already. The presentation script must be submitted. It must follow the rules of essay writing in that it must not be plagiarised and must include references in MLA or APA style.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第8回	The long eighteenth century. Core Texts: short selections from Swift' s Gulliver' s Travels, short selections from Alexander Pope' s Dunciad. Important people and ideas mentioned: the birth of the novel and professional writers, satire, political stability and the growth of British influence, the rise of the middle class, the growth of theatre, opera, pleasure gardens and other entertainments.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第9回	The Romantics and Sensibility. Core texts: Percy Shelley' s Ozymandias, selections from Blake' s Songs of Innocence and Experience, selections from Mary Shelley' s Frankenstein, selections from Jane Austen' s Pride and Prejudice. Main ideas: the increased influence of women in culture and politics, sensibility as a popular concept, life in Europe after the French Revolution.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins

第10回	“A whole new world”. Core texts: selections from Thoreau’s <i>Walden</i> , selections from the poetry of Dickinson and Poe’s <i>The Raven</i> . Main ideas: slavery, the rise of railroads, American gothic and pastoralism.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第11回	Victorians and Empire. Core texts: Kipling’s <i>Gunga Din</i> and <i>The White Man’s Burden</i> , selections from Dickens’ <i>Great Expectations</i> . Main ideas: orientalism, imperialism, colonialism and post-colonialism.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第12回	Towards the present. Core texts: selections from Wilde’s <i>The Picture of Doran Gray</i> , selections from Eliot’s <i>The Waste-Land</i> , selections from Woolf’s <i>A Room of One’s Own</i> . Main ideas: fin de siècle, modernism, searching for meaning before and after WWI.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions.	60 mins
第13回	What does it all mean? Core texts: selections from Thompson’s <i>Fear and Loathing in Las Vegas</i> , selections from Rushdie’s <i>Midnight’s Children</i> , selections from the poetry of Maya Angelou. Main ideas: postmodernism and the role of literature as cultural form in the present day.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Preparative study for in-class test.	60 mins
第14回	In-class test. This will cover material from the course so far. It will include short-answer and multiple-choice questions.	
	Preparation for next week via reading handouts and answering focus questions. Work on final paper.	60 mins
第15回	Cultural Studies. Core texts: the article “ <i>Snow White and the Seven Slaves</i> ”, Michael Jackson’s <i>Thriller</i> . Main ideas: understanding intersections between literature, film, music, text and culture.	
	Reflection on course content.	Own choice

授業の方法

You will be undertaking pair/group activities, discussions, tasks, and so forth. The class will be conducted in English. The lesson plan may be modified depending on your actual progress.

You will be expected to review the previous lesson, complete homework, and prepare for the next lesson as part of your outside preparatory work. Please bring a dictionary and notebook to each class.

成績評価の方法

The final grade will be based on the following criteria:

- 1) classroom participation 20%
- 2) group presentation 20%
- 3) In-class test 30%
- 4) Final paper 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N. A.

テキスト

Handouts will be provided by the instructor.

参考書

Relevant resources or books will be introduced as needed.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	2 年次演習II f		
教員名	正岡 和恵		
科目ナンバー	1251411303	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
『リア王』を読む 年老いた王が引退を決意し王国を分割して三人の娘たちに与えようとする。上の二人の娘たちは邪悪で、末の娘は無垢である。娘たちの真実を見抜けなかったことから、主人公の壮大な悲劇的遍歴が始まる・・・『リア王』は、シェイクスピア初学者にとっては重い劇であるが、極限状況にある人間の姿やそこから生まれる省察については、かなり普遍的に理解できるところがあるのではないだろうか。このゼミでは、シェイクスピアに関する基本的な知識を習得するとともに、演劇形式としての「悲劇」の意味について考えてみたい。			
到達目標			
DP8(他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力)を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①シェイクスピア学に関する基本的な知識を習得することによって、作品世界をより精緻に理解できる。 ②異質な時代の世界観を知ることによって、みずからの現在を相対化できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション：『リア王』について (創作年代、材源、上演史など)		
	翻訳版『リア王』を読んで、登場人物やあらすじを理解しておくこと。	30	
第2回	イントロダクション：『リア王』について (シェイクスピア悲劇の構造など)		
	前回の授業のポイントを整理しておくこと。	30	
第3回	1 幕		
	テキストの指定された箇所を読んでくこと。	60	

第4回	1幕を振り返って、劇の言語、イメージ、主題、性格造型などについて考える。	
	テキストの指定された箇所を読むこと。前週のポイントを確認しておく。	60
第5回	2 幕	
	テキストの指定された箇所を読むこと。	60
第6回	2 幕を振り返って、劇の言語、イメージ、主題、性格造型などについて考える。	
	テキストの指定された箇所を読むこと。前週のポイントを確認しておく。	60
第7回	「自然」や「道化」など、解釈の背景をなすさまざまなトピックについて学ぶ。	
	指定された文献を読むこと。	60
第8回	3 幕	
	テキストの指定された箇所を読むこと。	60
第9回	重要な台詞を中心にして3幕を振り返る。	
	テキストの指定された箇所を読むこと。前週のポイントを確認しておく。	60

第10回	4 幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60
第11回	重要な台詞を中心にして4 幕を振り返る。	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前週のポイントを確認しておく。	60
第12回	5 幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60
第13回	重要な台詞を中心にして5 幕を振り返る。	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前週のポイントを確認しておく。	60
第14回	まとめとディスカッション	
	劇の主題や論点を整理しておくこと。	60
第15回	まとめとディスカッション	
	劇の主題や論点を整理しておくこと。	60

授業の方法

講義をまじえたゼミ形式。

成績評価の方法

発表や課題への取り組みなど授業への積極的な参加（40%）と学期末課題レポート（1回：60%）で総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

イギリス文学史の基本的な知識が必要です。

テキスト

Shakespeare, William. King Lear. Edited by Rob Smith et al., Cambridge School Shakespeare 2nd edition, Cambridge UP.

参考書

授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I a		
教員名	遠藤 不比人		
科目ナンバー	1351411304	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要			
現在の英語圏の文化研究における有力かつ強力な分析手法の一つに精神分析（psychoanalysis）がある。これは言語に支配された人間の意識の構造と力が、本人が思いもよらない（抑圧している）「無意識」によって決定されているという洞察を中心とする理論である。この手法を導入することによって、さまざまな文化テキスト（物語、小説、詩、演劇、映画、夢などなど）が、作者の意図とは違う、ときにはそれを裏切るような内容を語っていることが明らかになる。いわば、分析をするテキストの「無意識」を読む作業となる。精神分析は、このように通常の読み方ではできない（読めない）内容＝無意識を読むことを可能にし、実際に卒業論文を書くときに、非常にユニークな視点をもたらすことになるだろう。 このゼミでは、精神分析理論の基礎と応用を実践的に学ぶことで、多様な文化テキストの「無意識」を研究対象としたい。精神分析は同時に研究対象を分析する自分自身の「無意識」をも明らかにすることがある。卒業論文を最終的に書くことで、これまで気がつかなかった自分について知ることになれば理想的である。 前期は基礎概念の理解、後期はその応用を目指す。			

到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①精神分析理論を援用し文化テキストの無意識を理解できる。 ②自身で対象テキストを選択し、その政治的かつ文化的無意識を分析できる。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ゼミの運営方法に関する説明		
	予習：シラバスをよく読んでおくこと。		10分
第2回	テキストの読解、第1回。 指名された担当者が該当箇所について発表する。それを受けてゼミ全体で議論をする。		
	予習：指名された者は当該箇所に関する発表の準備、それ以外の者は当該箇所の予習。		90分
第3回	テキストの読解、第2回。 指名された担当者が該当箇所について発表する。それを受けてゼミ全体で議論をする。		
	予習：指名された者は当該箇所に関する発表の準備、それ以外の者は当該箇所の予習。 復習：前回に問題となった箇所についてよく咀嚼をして自分なりに概念を使用できることを目指す。		90分

第4回	テキストの読解、第3回。 指名された担当者が該当箇所について発表する。それを受けてゼミ全体で議論をする。	
	予習：指名された者は当該箇所に関する発表の準備、それ以外の者は当該箇所の予習。 復習：前回に問題となった箇所についてよく咀嚼をして自分なりに概念を使用できることを目指す。	90分
第5回	テキストの読解、第4回。 指名された担当者が該当箇所について発表する。それを受けてゼミ全体で議論をする。	
	予習：指名された者は当該箇所に関する発表の準備、それ以外の者は当該箇所の予習。 復習：前回に問題となった箇所についてよく咀嚼をして自分なりに概念を使用できることを目指す。	90分
第6回	テキストの読解、第5回。 指名された担当者が該当箇所について発表する。それを受けてゼミ全体で議論をする。	
	予習：指名された者は当該箇所に関する発表の準備、それ以外の者は当該箇所の予習。 復習：前回に問題となった箇所についてよく咀嚼をして自分なりに概念を使用できることを目指す。	90分
第7回	テキストの読解、第6回。 指名された担当者が該当箇所について発表する。それを受けてゼミ全体で議論をする。	
	予習：指名された者は当該箇所に関する発表の準備、それ以外の者は当該箇所の予習。 復習：前回に問題となった箇所についてよく咀嚼をして自分なりに概念を使用できることを目指す。	90分
第8回	テキストの読解、第7回。 指名された担当者が該当箇所について発表する。それを受けてゼミ全体で議論をする。	
	予習：指名された者は当該箇所に関する発表の準備、それ以外の者は当該箇所の予習。 復習：前回に問題となった箇所についてよく咀嚼をして自分なりに概念を使用できることを目指す。	90分
第9回	テキストの読解、第8回。 指名された担当者が該当箇所について発表する。それを受けてゼミ全体で議論をする。	
	予習：指名された者は当該箇所に関する発表の準備、それ以外の者は当該箇所の予習。 復習：前回に問題となった箇所についてよく咀嚼をして自分なりに概念を使用できることを目指す。	90分

第10回	テキストの読解、第9回。 指名された担当者が該当箇所について発表する。それを受けてゼミ全体で議論をする。	
	予習：指名された者は当該箇所に関する発表の準備、それ以外の者は当該箇所の予習。 復習：前回に問題となった箇所についてよく咀嚼をして自分なりに概念を使用できることを目指す。	90分
第11回	テキストの読解、第10回。 指名された担当者が該当箇所について発表する。それを受けてゼミ全体で議論をする。	
	予習：指名された者は当該箇所に関する発表の準備、それ以外の者は当該箇所の予習。 復習：前回に問題となった箇所についてよく咀嚼をして自分なりに概念を使用できることを目指す。	90分
第12回	テキストの読解、第11回。 指名された担当者が該当箇所について発表する。それを受けてゼミ全体で議論をする。	
	予習：指名された者は当該箇所に関する発表の準備、それ以外の者は当該箇所の予習。 復習：前回に問題となった箇所についてよく咀嚼をして自分なりに概念を使用できることを目指す。	90分
第13回	テキストの読解、第12回。 指名された担当者が該当箇所について発表する。それを受けてゼミ全体で議論をする。	
	予習：指名された者は当該箇所に関する発表の準備、それ以外の者は当該箇所の予習。 復習：前回に問題となった箇所についてよく咀嚼をして自分なりに概念を使用できることを目指す。	90分
第14回	テキストの読解、第13回。 指名された担当者が該当箇所について発表する。それを受けてゼミ全体で議論をする。	
	予習：指名された者は当該箇所に関する発表の準備、それ以外の者は当該箇所の予習。 復習：前回に問題となった箇所についてよく咀嚼をして自分なりに概念を使用できることを目指す。	120分
第15回	前期で修得した知識を総動員して、精神分析の基礎理論につきゼミ全体で議論をする	
	前期で学んだ諸概念をよく理解をし、提出するタームペーパーの準備をする。	120分

授業の方法

担当教員が用意した精神分析の基礎概念に関するテキストを指名された担当者が指定された範囲に関して口頭で内容を要約した発表をする。それを受けてゼミ全体で議論をする。その作業の繰り返しにより、精神分析の基礎的な理論を身につけることを目指す。

成績評価の方法

平常点（30％）、口頭発表の質＋議論の質と頻度（30％）、学期末のターム・ペーパー（40％）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

授業担当者がコピーなどで用意をする。

参考書

多くをゼミのなかで紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II a		
教員名	遠藤 不比人		
科目ナンバー	1351411305	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
前期に獲得した精神分析に関する基礎的な理論を駆使して様々な文化テキストを分析する。 具体的には、2週間に1つという割合でゼミ全体で小説、映画などのテキストを分析をして、卒業論文作成のための実践的な能力を身につける。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①精神分析理論を援用し文化テキストの無意識を理解できる。 ②自身で対象テキストを選択し、その政治的かつ文化的無意識を分析できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス、第1回。 後期のゼミのやり方などの説明。		
	シラバスをよく読む。		10分
第2回	ガイダンス、第2回。 前期に学んだ精神分析の基礎的な理論の復習		
	復習：前期に学んだ知識の整理をする。		90分
第3回	テキスト1に関する口頭発表とそれを踏まえたゼミでの議論。		
	予習：指名された人は口頭発表の準備。それ以外の人は当該テキストを読解しておく。		90分

第4回	前回の議論を踏まえて口頭発表の担当者以外の者は、それぞれアクション・ペーパーを提出し、それを踏まえてさらに議論を深める。	
	予習：指名された人は口頭発表の準備。それ以外の人は当該テキストを読解しておく。	90分
第5回	テキスト2に関する口頭発表とそれを踏まえたゼミでの議論。	
	予習：指名された人は口頭発表の準備。それ以外の人は当該テキストを読解しておく。	90分
第6回	前回の議論を踏まえて口頭発表の担当者以外の者は、それぞれアクション・ペーパーを提出し、それを踏まえてさらに議論を深める。	
	予習：指名された人は口頭発表の準備。それ以外の人は当該テキストを読解しておく。	90分
第7回	テキスト3に関する口頭発表とそれを踏まえたゼミでの議論。	
	予習：指名された人は口頭発表の準備。それ以外の人は当該テキストを読解しておく。	90分
第8回	前回の議論を踏まえて口頭発表の担当者以外の者は、それぞれアクション・ペーパーを提出し、それを踏まえてさらに議論を深める。	
	予習：指名された人は口頭発表の準備。それ以外の人は当該テキストを読解しておく。	90分
第9回	テキスト4に関する口頭発表とそれを踏まえたゼミでの議論。	
	予習：指名された人は口頭発表の準備。それ以外の人は当該テキストを読解しておく。	90分

第10回	前回の議論を踏まえて口頭発表の担当者以外の者は、それぞれアクション・ペーパーを提出し、それを踏まえてさらに議論を深める。	
	予習：指名された人は口頭発表の準備。それ以外の人は当該テキストを読解しておく。	90分
第11回	テキスト5に関する口頭発表とそれを踏まえたゼミでの議論。	
	予習：指名された人は口頭発表の準備。それ以外の人は当該テキストを読解しておく。	90分
第12回	前回の議論を踏まえて口頭発表の担当者以外の者は、それぞれアクション・ペーパーを提出し、それを踏まえてさらに議論を深める。	
	予習：指名された人は口頭発表の準備。それ以外の人は当該テキストを読解しておく。	90分
第13回	テキスト6に関する口頭発表とそれを踏まえたゼミでの議論。	
	予習：指名された人は口頭発表の準備。それ以外の人は当該テキストを読解しておく。	90分
第14回	前回の議論を踏まえて口頭発表の担当者以外の者は、それぞれアクション・ペーパーを提出し、それを踏まえてさらに議論を深める。	
	予習：指名された人は口頭発表の準備。それ以外の人は当該テキストを読解しておく。	90分
第15回	これまでの議論をまとめて自分なりの解釈を整理して口述できるようにし、提出するタームペーパーの準備をする。	
	復習：後期の分析をしたテキストをめぐる議論の整理をしておくこと。	120分

授業の方法

基本的には受講生が選択した文化テキストを分析をしていく。まずは指名された者が口頭発表をしてそれを踏まえて議論をする。次の週には発表した人以外の学生がリアクション・ペーパーを提出し、それを踏まえて議論をゼミ全体で行い、解釈を全員で共有していく。このような形式で後期に6つのテキストを分析する。

成績評価の方法

平常点（30%）、リアクション・ペーパー（30%）、学期末のターム・ペーパー（40%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

前期に獲得した知識。

テキスト

小説の場合はコピーを配布。映画の場合は各自でDVDを観ておく。

参考書

多くをゼミのなかで紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習Ⅰ b		
教員名	遠藤 不比人		
科目ナンバー	1351411304	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
英語圏文化研究の基礎と応用を学ぶ			
ここ数十年の間に英語圏の文学研究は、より広い視野をもった文化研究へと発展的に拡大をした。以前は、詩や小説などの狭い意味での文学作品がもっぱら研究の対象となっていたが、最近では映画などの映像テキストも分析の対象となっている。そこで問題となっているのは、さまざま「差異difference」である。この語が意味するのは、たとえば「男と女」「白人と有色人種」というような差異であって、それは横並びの違いではない。そこにはいわば優劣、権力関係が暗黙のうちにある。男／白人は優位、女／有色人種は劣位となる。こういった差別（差異）の構造が、いまだに私たちの社会の基本にあり、私たちの世界観、人生観を無意識のうちに決定していることが多い。			
現在の文化研究は、ジェンダー、人種、階級などなどの差異の構造をさまざまな文化テキストに批判的に読み込み、私たちの意識を変えることを目指している。このゼミでは、英語圏の文化研究の基礎を学び、それを具体的なテキストの分析として実践し、卒業論文を実際に書く知識と技術を身につけることを目的とする。分析の対象は、小説、詩、演劇、映画などなど、原則的に受講者の希望を受け入れたい。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の2点を到達目標とする。			
①文化テキストの歴史的、政治的文脈の理解			
②他者表象を理解するばかりか、身近な他者に自身の議論を明晰に伝達する能力			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス、ゼミの運用方法などの説明。		
	シラバスをよく読むこと。	10分	
第2回	ジェンダーに関する議論、第1回 ジェンダーに関する基礎的な理論の概説		
	予習：前回の講義で出された課題について自分なりの考えを整理しておく。	90分	
第3回	ジェンダーに関する議論、第2回 ジェンダーに関する応用的な理論の概説		
	予習、復習：前回の議論の内容の再吟味と、次回のための課題について自分なりの考えをまとめておく。指名された人は口頭発表の準備。	90分	

第4回	ジェンダーに関する議論、第3回 ジェンダーに関する章についての口頭発表と討議	
	予習、復習：口頭発表をしなかった者は、リアクション・ペーパーの提出の準備をする。	90分
第5回	ジェンダーに関する議論、第4回 前回の討議を受けてのリアクション・ペーパーの提出とゼミ全体の議論	
	予習、復習：ジェンダーについてのこれまでの議論の整理と次回のための課題につき自分なりの考えをまとめておく。	90分
第6回	人種に関する議論、第1回 人種に関する基礎的な理論の概説	
	予習：前回の講義で出された課題について自分なりの考えを整理しておく。	90分
第7回	人種に関する議論、第2回 人種に関する応用的な理論の概説	
	予習、復習：前回の議論の内容の再吟味と、次回のための課題について自分なりの考えをまとめておく。指名された人は口頭発表の準備。	90分
第8回	人種に関する議論、第3回 人種に関する応用的な理論の概説	
	予習、復習：口頭発表をしなかった者は、リアクション・ペーパーの提出の準備をする。	90分
第9回	人種に関する議論、第4回 前回の討議を受けてのリアクション・ペーパーの提出とゼミ全体の議論	
	予習、復習：人種についてのこれまでの議論の整理と次回のための課題につき自分なりの考えをまとめておく。	90分

第10回	階級に関する議論、第1回 階級に関する基礎的な理論の概説	
	予習：前回の講義で出された課題について自分なりの考えを整理しておく。	90分
第11回	階級に関する議論、第2回 階級に関する応用的な理論の概説	
	予習、復習：前回の議論の内容の再吟味と、次回のための課題について自分なりの考えをまとめておく。指名された人は口頭発表の準備。	90分
第12回	階級に関する議論、第3回 階級に関する章についての口頭発表と討議	
	予習、復習：口頭発表をしなかった者は、リアクション・ペーパーの提出の準備をする。	90分
第13回	階級に関する議論、第4回 前回の討議を受けてのリアクション・ペーパーの提出とゼミ全体の議論	
	予習、復習：人種についてのこれまでの議論の整理と次回のための課題につき自分なりの考えをまとめておく。	90分
第14回	ジェンダー、人種、階級を主たる分析の対象としたテキスト読解の実践的な訓練	
	予習：課題のテキストについて自分なりの解釈をしておく。	120分
第15回	前回の読解を受け手のリアクション・ペーパーの提出とそれを踏まえての討議	
	予習、復習：前回の議論を踏まえてリアクション・ペーパーの提出の準備をする。	120分

授業の方法

ジェンダー、人種、階級についての基礎理論を身につけるために、基本的には講義形式と口頭発表を採用をするが、理解度の確認のために適宜リアクション・ペーパーを提出してもらい、それをゼミ全体で講評をしながらディスカッションを行い、知識の共有を目指す。最終の2回はそれまでに獲得された知識を踏まえた上でのテキスト分析とゼミ全体のディスカッションを行う。

成績評価の方法

平常点（30%）、リアクション・ペーパー（30%）、学期末のターム・ペーパー（40%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

英語の文献を担当者が用意する。

参考書

適宜複数紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II b		
教員名	遠藤 不比人		
科目ナンバー	1351411305	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
前期に身につけた文化研究の基礎知識を使用して、具体的なテキスト分析を行う。 基本的に受講生が各自選択をしたテキストについて独自の解釈を口頭発表によって行い、それを踏まえて討議をする。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①文化テキストの歴史的、政治的文脈の理解 ②他者表象を理解するばかりか、身近な他者に自身の議論を明晰に伝達する能力			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	前期のまとめ。		
	シラバスをよく読んでおくこと。		10分
第2回	テキスト1に関する口頭発表とそれを踏まえたゼミでの議論		
	予習：指名された人は口頭発表の準備。それ以外の人は当該テキストを読解しておく。		90分
第3回	前回の議論を踏まえて口頭発表の担当者以外の者は、それぞれリアクション・ペーパーを提出し、それを踏まえてさらに議論を深める。		
	予習、復習：前回の議論を踏まえて、発表をした人以外はリアクション・ペーパーの準備。		90分

第4回	テキスト2に関する口頭発表とそれを踏まえたゼミでの議論。	
	予習：指名された人は口頭発表の準備。それ以外の人は当該テキストを読解しておく。	90分
第5回	前回の議論を踏まえて口頭発表の担当者以外の者は、それぞれリアクション・ペーパーを提出し、それを踏まえてさらに議論を深める。	
	予習、復習：前回の議論を踏まえて、発表をした人以外はリアクション・ペーパーの準備。	90分
第6回	テキスト3に関する口頭発表とそれを踏まえたゼミでの議論。	
	予習：指名された人は口頭発表の準備。それ以外の人は当該テキストを読解しておく。	90分
第7回	前回の議論を踏まえて口頭発表の担当者以外の者は、それぞれリアクション・ペーパーを提出し、それを踏まえてさらに議論を深める。	
	予習、復習：前回の議論を踏まえて、発表をした人以外はリアクション・ペーパーの準備。	90分
第8回	テキスト4に関する口頭発表とそれを踏まえたゼミでの議論。	
	予習：指名された人は口頭発表の準備。それ以外の人は当該テキストを読解しておく。	90分
第9回	前回の議論を踏まえて口頭発表の担当者以外の者は、それぞれリアクション・ペーパーを提出し、それを踏まえてさらに議論を深める。	
	予習、復習：前回の議論を踏まえて、発表をした人以外はリアクション・ペーパーの準備。	90分

第10回	テキスト5に関する口頭発表とそれを踏まえたゼミでの議論。	
	予習：指名された人は口頭発表の準備。それ以外の人は当該テキストを読解しておく。	90分
第11回	前回の議論を踏まえて口頭発表の担当者以外の者は、それぞれアクション・ペーパーを提出し、それを踏まえてさらに議論を深める。	
	予習、復習：前回の議論を踏まえて、発表をした人以外はアクション・ペーパーの準備。	90分
第12回	テキスト6に関する口頭発表とそれを踏まえたゼミでの議論。	
	予習：指名された人は口頭発表の準備。それ以外の人は当該テキストを読解しておく。	90分
第13回	前回の議論を踏まえて口頭発表の担当者以外の者は、それぞれアクション・ペーパーを提出し、それを踏まえてさらに議論を深める。	
	予習、復習：前回の議論を踏まえて、発表をした人以外はアクション・ペーパーの準備。	90分
第14回	これまでの議論をまとめて自分なりの解釈を整理して口述できるようにし、提出するタームペーパーの準備をする。	
	予習、復習：前回の議論を踏まえて、発表をした人以外はアクション・ペーパーの準備。	120分
第15回	前期、後期を通じて学んだこと全体に関する質疑応答。	
	予習、復習：理解が不十分な点について自分でチェックしておくこと。	120分

授業の方法

基本的には受講生が選択した文化テキストを分析をしていく。まずは指名された者が口頭発表をして、それを踏まえて議論をする。次の週には発表した人以外の学生がリアクション・ペーパー

成績評価の方法

評価の方法

平常点（30％）、リアクション・ペーパー（30％）、学期末のターム・ペーパー（40％）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

期に獲得した文化研究に関する基礎知識。

テキスト

前期に関してはおもにコピーを配布する。後期に関しては事前に各自でDVDなどをレンタルで利用をする。

参考書

適宜複数を紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I c		
教員名	正岡 和恵		
科目ナンバー	1351411304	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要			
『夏の夜の夢』は、私のゼミ生が最も多く卒論で取り上げてきた芝居である。上演史を振り返っても、とりわけ20世紀後半から21世紀にかけて翻案も含めて頻繁に舞台化され、いまやシェイクスピア劇のなかで最も人気のある作品の一つになっている（宝塚月組の『パッく』を観た人はいるだろうか）。いわゆる円熟期の喜劇には属さない、比較的初期に書かれたこの喜劇が、なぜそれほど私たちを惹きつけるのだろう。ゼミの目的は、何よりも、この劇の魅力がどこにあるのかを考えることにある。 『夏の夜の夢』は、シェイクスピアが主たる材源に依拠することなく書きおろしたファンタジックな異色作であるが、みずからの喜劇の公式を確立しようとする新進劇作家の意気込みもまたそこにはこめられている。『夏の夜の夢』について学ぶべきことは多くある。とりわけ妖精や、シェイクスピア時代の人々が超自然的なものをどのように考えていたかという知識は必要であるし、そのいっぽうでシェイクスピアのロマンティック・コメディの全般的な特徴についても学ばねばならない。他のシェイクスピア喜劇に目配りしながら、この劇のロマンティック・ヴィジョンのもつユニークな魅力を探ってみたい。そしてこの劇がいかなる意味において「夢」と名付けられているのかを考えてみよう。			

到達目標			
DP8(他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力)を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①過去の作品や作家を歴史的文脈に位置づけて理解することによって、より精緻に分析できる。 ②異質な時代の世界観を知ることによって、みずからの現在を相対化できる。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション : 『夏の夜の夢』について (創作年代、材源、上演史など)		
	特になし。		0
第2回	イントロダクション : 『夏の夜の夢』について (シェイクスピア喜劇の構造など)		
	翻訳版『夏の夜の夢』を読んで、登場人物やあらすじを理解しておくこと。		60
第3回	1 幕		
	テキストの指定された箇所を読んでくること。		60

第4回	1 幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前週のポイントを確認しておく。	60
第5回	1 幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前週のポイントを確認しておく。	60
第6回	1幕を振り返って、劇の言語、イメージ、主題などについて考える。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第7回	解釈の背景をなすさまざまなトピックについて学ぶ。	
	指定された文献を読んでくること。	60
第8回	2 幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。	60
第9回	2幕	
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前週のポイントを確認しておく。	60

第10回	2幕	
	テキストの指定された箇所を読むこと。前週のポイントを確認しておく。	60
第11回	代表的な批評論文を読む。	
	指定された文献を読むこと。	60
第12回	3幕	
	テキストの指定された箇所を読むこと。	60
第13回	3 幕	
	テキストの指定された箇所を読むこと。前週のポイントを確認しておく。	60
第14回	3 幕	
	テキストの指定された箇所を読むこと。前週のポイントを確認しておく。	60
第15回	まとめとディスカッション	
	劇のプロットや論点を整理しておくこと。	60

授業の方法

講義をまじえたゼミ形式。
毎週、あらかじめ指名された数名が担当箇所を解説し、コメントをつける。

成績評価の方法

発表や課題への取り組みなど授業への積極的な参加（40%）と学期末課題レポート（1回：60%）で総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

イギリス文学史の基本的な知識が必要です。

テキスト

Shakespeare, William. A Midsummer Night's Dream. Edited by Linda Buckle et al. Cambridge School Shakespeare, Cambridge UP, 2014.

参考書

授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II c		
教員名	正岡 和恵		
科目ナンバー	1351411305	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
『夏の夜の夢』の4幕と5幕を精読しながら、前期と同様「シェイクスピアの超自然」や「宮廷と森」など解釈の背景となるトピックに関する基本的知識を学びます。また、『夏の夜の夢』の映画や上演に触れ、代表的な批評論文を読むことによって、解釈の視座を養います。			
到達目標			
DP8(他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力)を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①過去の作品や作家を歴史的文脈に位置づけて理解することによって、より精緻に分析できる。 ②異質な時代の世界観を知ることによって、みずからの現在を相対化できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	前期を振り返って。		
	特になし。		0
第2回	4幕		
	テキストの指定された箇所を読んでくること。		60
第3回	4幕		
	テキストの指定された箇所を読んでくること。前週のポイントを確認しておく。		60

第4回	4幕	
	テキストの指定された箇所を読むこと。前週のポイントを確認しておく。	60
第5回	4幕のまとめ。	
	4幕のポイントを整理しておくこと。	60
第6回	5 幕	
	テキストの指定された箇所を読むこと。	60
第7回	5 幕	
	テキストの指定された箇所を読むこと。前週のポイントを確認しておく。	60
第8回	5幕	
	テキストの指定された箇所を読むこと。前週のポイントを確認しておく。	60
第9回	5幕のまとめ。	
	5幕のポイントを整理しておくこと。	60

第10回	映画をいくつかとりあげ、重要な場面がそれぞれどのように演出されているかを比較検討する。	
	テキストの指定された箇所を読むこと。	60
第11回	映画をいくつかとりあげ、重要な場面がそれぞれどのように演出されているかを比較検討する。	
	テキストの指定された箇所を読むこと。	60
第12回	上演をいくつかとりあげ、重要な場面がそれぞれどのように演出されているかを比較検討する。	
	テキストの指定された箇所を読むこと。	60
第13回	代表的な批評論文を読みながら、テキスト全体を振り返る。	
	指定された文献を読むこと。	60
第14回	代表的な批評論文を読みながら、テキスト全体を振り返る。	
	指定された文献を読むこと。	60
第15回	テキスト・映画・上演について、全体的に振り返る。	
	論点を整理しておくこと。	60

授業の方法

講義をまじえたゼミ形式。
毎週、あらかじめ指名された数名が担当箇所を解説し、コメントをつける。

成績評価の方法

発表や課題への取り組みなど授業への積極的な参加（40%）と学期末課題レポート（1回：60%）で総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

イギリス文学史の基本的な知識が必要です。

テキスト

前期と同じ

参考書

授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I d		
教員名	小林 英里		
科目ナンバー	1351411304	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
本演習では、「宗主国と植民地を扱った文学」をテーマとし、中央と周縁、主体と他者、ジェンダー上の非対称といった現代批評理論の概念を補助線としながら、イギリス1960年代に出版された作品Wide Sargasso Sea（Jean Rhys著、1966年）を輪読し、分析する。			
到達目標			
批評理論の知識を深め、具体的な英語圏文学の作品の精読を通じて議論の仕方を学ぶと同時に、専門課程にふさわしい形式・内容の整った学術論文について学び、最終的には作成できるようになることを目標とする。英米文化学科のDiploma Policyでいうと【文化現象の総合的理解】（DP6）と【問題発見能力および多面的な分析能力】（DP7）および【他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力】（DP8）を身につけることを到達目標としている。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	授業について		
	あらかじめ、シラバスに目を通しておく	30	
第2回	作者、作品について		
	授業内容を確認する	60	
第3回	Wide Sargasso Sea (1)		
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60	

第4回	Wide Sargasso Sea (2)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第5回	Wide Sargasso Sea (3)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第6回	Wide Sargasso Sea (4)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第7回	Wide Sargasso Sea (5)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第8回	Wide Sargasso Sea (6)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第9回	Wide Sargasso Sea (7)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60

第10回	Wide Sargasso Sea (8)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第11回	Wide Sargasso Sea (9)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第12回	Wide Sargasso Sea (10)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第13回	Wide Sargasso Sea (11)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第14回	Wide Sargasso Sea (12)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第15回	総括	
	授業内容を振り返る	30

授業の方法

授業形態は、数名から成るグループがそれぞれ担当部分の要旨を述べ、論点を整理し、議論をおこない、そののちに教員やほかの受講生からのレスポンスをうけるという演習形式である。しかし、最初の数回の授業は、教員や英文のテキストに慣れてもらうために、講義形式を予定している。

成績評価の方法

授業への貢献度（30%）、学期末のレポート（70%）により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

20世紀のイギリスについての基本的な知識があることが望ましい。

テキスト

Jean Rhys, *Wide Sargasso Sea* (1966) , Norton Critical Editions: ASIN: B006DNK7JW

参考書

池澤夏樹個人編集 世界文学全集 全24巻 I I-O 1 『灯台へ／サルガッソーの広い海』（河出書房新社、2009年）
ISBN: 978-4-309-70953-6

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II d		
教員名	小林 英里		
科目ナンバー	1351411305	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
本演習では、「宗主国と植民地を扱った文学」をテーマとし、中央と周縁、主体と他者、ジェンダー上の非対称といった現代批評理論の概念を補助線としながら、イギリス1960年代に出版された作品Wide Sargasso Sea (Jean Rhys著、1966年)を輪読し、分析する。後期授業の後半は、現代ブラック・ブリティッシュ作家Caryl PhillipsのThe Lost Child (2015)を読むことで、前期の授業に引き続きポストコロニアル文学と19世紀の女性作家ブロンテ姉妹との関わりや、イングランドにおける「南北問題」についても考察したい。			
到達目標			
批評理論の知識を深め、具体的な英語圏文学の作品の精読を通じて議論の仕方を学ぶと同時に、専門課程にふさわしい形式・内容の整った学術論文について学び、最終的には作成できるようになることを目標とする。英米文化学科のDiploma Policyでいうと【文化現象の総合的理解】（DP6）と【問題発見能力および多面的な分析能力】（DP7）および【他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力】（DP8）を身につけることを目標とする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	授業について		
	あらかじめ、シラバスに目を通しておく	30	
第2回	Jean Rhys, Wide Sargasso Sea (13)		
	授業内容を確認する	60	
第3回	Jean Rhys, Wide Sargasso Sea (14)		
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60	

第4回	Jean Rhys, Wide Sargasso Sea (15)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第5回	Caryl Phillips, The Lost Child (1)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第6回	Caryl Phillips, The Lost Child (2)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第7回	Caryl Phillips, The Lost Child (3)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第8回	Caryl Phillips, The Lost Child (4)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第9回	Caryl Phillips, The Lost Child (5)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60

第10回	Caryl Phillips, The Lost Child (6)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第11回	Caryl Phillips, The Lost Child (7)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第12回	Caryl Phillips, The Lost Child (8)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第13回	Caryl Phillips, The Lost Child (9)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第14回	Caryl Phillips, The Lost Child (10)	
	あらかじめ指定された箇所を読んでおく	60
第15回	総括	
	授業内容を振り返る	30

授業の方法

授業形態は、数名から成るグループがそれぞれ担当部分の要旨を述べ、論点を整理し、議論をおこない、そののちに教員やほかの受講生からのレスポンスをうけるという演習形式である。しかし、最初の数回の授業は、教員や英文のテキストに慣れてもらうために、講義形式を予定している。

成績評価の方法

授業への貢献度（30%）、学期末のレポート（70%）により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

20世紀のイギリスについての基本的な知識があることが望ましい。

テキスト

Jean Rhys, *Wide Sargasso Sea* (1966), Norton Critical Edition: ASIN: B006DNK7JW

参考書

池澤夏樹個人編集 世界文学全集 全24巻 I I-O 1 『灯台へ／サルガッソーの広い海』（河出書房新社、2009年）ISBN:978-4-309-70953-6

Caryl Phillips, *The Lost Child* (2015): ISBN-13: 978-1780746999

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I e		
教員名	庄司 宏子		
科目ナンバー	1351411304	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
現代アメリカ文学——Colson Whitehead' s The Underground Railroad and Race Relations in the Trump Era 本ゼミは、現代アメリカを代表する才能豊かな作家Colson Whiteheadの2016年の最新作、The Underground Railroadを読みます。「地下鉄道」とは19世紀前半のアメリカで、南部の奴隷州から北部の自由州へと逃亡する奴隷を助ける秘密のルートとその隠れ家を表す隠語です。ホワイトヘッドはそうした歴史の事実をもとに、小説前半では、Frederick DouglassやSolomon Northupの奴隷体験記を連想させるストーリーを展開しますが、一転して後半では「地下鉄道」というメタファーから、小説というジャンルのみに可能な、驚くべきディストピアないしスチームパンクの想像世界を創り出しています。小説には黒人の歴史があまりに白人の語り手たちによって「盗まれてきた」というホワイトヘッドの認識をみることができます。また19世紀の奴隷制度の時代を描く物語が、21世紀の今、特にTrumplandと称される人種による分断が顕著になる現代アメリカにおいてもつ意味について考えてみたいと思います。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・文学作品を英語で読む力を身につけ、「人種」「民族」「ジェンダー」「言語」をテーマにアメリカの歴史と文化を捉え、現代アメリカ社会を考える批評意識を身につける。 ・文学作品とは、特定の時代の集合的無意識や記憶の集積庫であることを理解する。 ・文学作品の読解を通じて社会や文化を批評的にみる力を養い、多様な価値観や世界観の存在を認識し、他者を知る力を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	授業のテーマや進め方などについてイントロダクション。Colson Whitehead, The Underground Railroad (2016)を読むことがメインですが、現代アメリカの人種状況は、白人の支配と黒人の従属というような単純な構図ではありません。グローバリゼーションのもとでの経済、情報、機会、地域、文化的な格差が生み出す人種や民族の現状についても、並行して考えてゆきます。		
	授業の目的と内容について導入を行う。自分がこのアメリカ文学・文化のゼミで何を学びたいのかをよく考え、目的意識を持って来ててください。最近のアメリカで起こっているニュースや現象について調べて来ててください。	80分	
第2回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。		
	初回授業でテキストを配布し、授業スケジュールを決めます。それに従ってテキストを読んで来ててください。	90分	
第3回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。		
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来ててください。	90分	

第4回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第5回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第6回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第7回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第8回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第9回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分

第10回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第11回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第12回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第13回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第14回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第15回	前期授業の統括する。	
	前期授業で学んだことを振り返り、自分の学問的関心にどのように触れたか、考えてください。	90分

授業の方法

ゼミ形式。担当を決めて発表してもらいます。何が重要か、テーマを見つけディスカッションしながら深めていきます。テキストは毎回全員がしっかり読んでくること、自ら問題点を考え、積極的にディスカッションに参加することが求められます。

成績評価の方法

平常点（予習、授業への参加状況、予習、ディスカッションの参加度）50%、学期末に提出してもらったエッセイ（5000字程度）50%から評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

アメリカ文学史、アメリカ文学・文化。

テキスト

Colson Whitehead, *The Underground Railroad* (Anchor Books, 2017)
ISBN-10: 0525435700
ISBN-13: 978-0525435709

参考書

参考文献：
Derek C. Maus, *Understanding Colson Whitehead* (2014) ISBN: 1611174082
Fergus M. Bordewich, *Bound for Canaan: The Epic Story of the Underground Railroad, America's First Civil Rights Movement* (Amistad; Reprint edition (January 10, 2006) ISBN: 0060524316
Rich Benjamin, *Searching for Whitopia: An Improbable Journey into the Heart of White America* (Hyperion 2009) ISBN: 1401322689
金成隆一『ルポ トランプ王国——もう一つのアメリカを行く』（岩波新書、2017）ISBN: 4004316448
Jordan Peele, *Get Out* (Film 2017)
上記参考文献は図書館の授業関連書コーナーにあるので、読むこと。
その他、参考文献は授業で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II e		
教員名	庄司 宏子		
科目ナンバー	1351411305	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
現代アメリカ文学——Colson Whitehead' s The Underground Railroad and Race Relations in the Trump Era 前期に引き続き、本ゼミでは、現代アメリカを代表する才能豊かな作家Colson Whiteheadの2016年の最新作、The Underground Railroadを読みます。「地下鉄道」とは19世紀前半のアメリカで、南部の奴隷州から北部の自由州へと逃亡する奴隷を助ける秘密のルートとその隠れ家を表す隠語です。ホワイトヘッドはそうした歴史の事実をもとに、小説前半では、Frederick DouglassやSolomon Northupの奴隷体験記を連想させるストーリーを展開しますが、一転して後半では「地下鉄道」というメタファーから、小説というジャンルのみに可能な、驚くべきディストピアないしスチームパンクの想像世界を創り出しています。小説には黒人の歴史があまりに白人の語り手たちによって「盗まれてきた」というホワイトヘッドの認識をみることができます。また19世紀の奴隷制度の時代を描く物語が、21世紀の今、特にTrumplandと称される人種による分断が顕著になる現代アメリカにおいてもつ意味について考えてみたいと思います。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・文学作品を英語で読む力を身につけ、「人種」「民族」「ジェンダー」「言語」をテーマにアメリカの歴史と文化を捉え、現代アメリカ社会を考える批評意識を身につける。 ・文学作品とは、特定の時代の集合的無意識や記憶の集積庫であることを理解する。 ・文学作品の読解を通じて社会や文化を批評的にみる力を養い、多様な価値観や世界観の存在を認識し、他者を知る力を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	授業のテーマや進め方などについてイントロダクション。Colson Whitehead, The Underground Railroad (2016)を読むことがメインですが、現代アメリカの人種の状況は、白人の支配と黒人の従属というような単純な構図ではありません。グローバリゼーションのもとでの経済、情報、機会、地域、文化的な格差が生み出す人種や民族の現状についても、並行して考えてゆきます。		
	授業の目的と内容について導入を行う。自分がこのアメリカ文学・文化のゼミで何を学びたいのかをよく考え、目的意識を持って来ててください。最近のアメリカで起こっているニュースや現象について調べて来ててください。	80分	
第2回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。		
	初回授業でテキストを配布し、授業スケジュールを決めます。それに従ってテキストを読んで来ててください。	90分	
第3回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。		
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来ててください。	90分	

第4回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第5回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第6回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第7回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第8回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第9回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分

第10回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第11回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第12回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第13回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第14回	Colson Whitehead, The Underground Railroadを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第15回	後期授業の統括する。	
	後期授業で学んだことを振り返り、自分の学問的関心にどのように触れたか、考えてください。	90分

授業の方法

ゼミ形式。担当を決めて発表してもらいます。何が重要か、テーマを見つけディスカッションしながら深めていきます。テキストは毎回全員がしっかり読んでくること、自ら問題点を考え、積極的にディスカッションに参加することが求められます。

成績評価の方法

平常点（予習、授業への参加状況、予習、ディスカッションの参加度）50%、学期末に提出してもらったエッセイ（5000字程度）50%から評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

アメリカ文学史、アメリカ文学・文化。

テキスト

Colson Whitehead, *The Underground Railroad* (Anchor Books, 2017)
ISBN-10: 0525435700
ISBN-13: 978-0525435709

参考書

参考文献：

Derek C. Maus, *Understanding Colson Whitehead* (2014) ISBN: 1611174082

Fergus M. Bordewich, *Bound for Canaan: The Epic Story of the Underground Railroad, America's First Civil Rights Movement* (Amistad; Reprint edition (January 10, 2006) ISBN: 0060524316

Rich Benjamin, *Searching for Whitopia: An Improbable Journey into the Heart of White America* (Hyperion 2009) ISBN: 1401322689

金成隆一『ルポ トランプ王国——もう一つのアメリカを行く』（岩波新書、2017）ISBN: 4004316448

Jordan Peele, *Get Out* (Film 2017)

上記参考文献は図書館の授業関連書コーナーにあるので、読むこと。

その他、参考文献は授業で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I f		
教員名	庄司 宏子		
科目ナンバー	1351411304	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
19世紀アメリカ文学——Melville and Said: Diaspora, Transnationalism, and Globalization 本ゼミでは、アメリカ・ルネサンスを代表するHerman Melvilleの1851年の小説Moby-Dick; or, The Whale (『白鯨』) を現代のグローバル化の視点から読みます。パレスチナ出身のポストコロニアル批評家Edward Saidは、アメリカ人のみが『白鯨』のような小説を創造しようと論じ、サイードによる『白鯨』論——アメリカの独善的な帝国主義とテロリズムという今日的な世界の構図を読むもの——が定番となっています。しかし、19世紀前半のアメリカの基幹産業であった捕鯨業を描くこの小説を、資本主義とグローバル化というコンテキストで捉えてみると、メルヴィルが描くピーコッド号を今日の多国籍企業のようなもの、そこで働く船員たちを、故郷を離脱したエグザイル (“expats”) とみることができます。サイードは晩年の1999年に自伝Out of Place (『遠い場所の記憶』) を出版していますが、そこには “essentially lost or forgotten world” である故郷を言葉のなかに回復するという、ディアスポラの問題が深く刻まれています。グローバル化の現代において、メルヴィルの小説とサイードの自伝が共鳴するテーマを考えてみたいと思います。			
到達目標			
DP6 (文化現象の総合的理解)、DP7 (問題発見能力および多面的な分析能力)、DP8 (他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力) を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・文学作品を英語の原文で読む力を身につけること、「人種」をテーマにアメリカの歴史と文化を捉え、19世紀から現代にいたるアメリカ社会を考える批評意識を身につける。 ・文学作品とは、特定の時代の集合的無意識や記憶の集積庫であることを理解する。 ・文学作品の読解を通じて社会や文化を批評的にみる力を養い、多様な価値観や世界観の存在を認識し、他者を知る力を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	授業のテーマや進め方などについてイントロダクション。		
	授業の目的と内容についての導入を行う。自分がこのアメリカ文学・文化のゼミで何を学びたいのかをよく考え、目的意識を持って来ててください。最近のアメリカで起こっているニュースや現象について調べて来ててください。	80分	
第2回	Herman MelvilleのMoby-Dick; or, The Whaleを読む。		
	初回授業でテキストを配布し、授業スケジュールを決めます。それに従ってテキストを読んで来ててください。	90分	
第3回	Herman MelvilleのMoby-Dick; or, The Whaleを読む。		
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来ててください。	90分	

第4回	Herman MelvilleのMoby-Dick; or, The Whaleを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第5回	Herman MelvilleのMoby-Dick; or, The Whaleを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第6回	Herman MelvilleのMoby-Dick; or, The Whaleを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第7回	Herman MelvilleのMoby-Dick; or, The Whaleを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第8回	Herman MelvilleのMoby-Dick; or, The Whaleを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第9回	Herman MelvilleのMoby-Dick; or, The Whaleを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分

第10回	Herman MelvilleのMoby-Dick; or, The Whaleを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第11回	Herman MelvilleのMoby-Dick; or, The Whaleを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第12回	Herman MelvilleのMoby-Dick; or, The Whaleを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第13回	Herman MelvilleのMoby-Dick; or, The Whaleを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第14回	Herman MelvilleのMoby-Dick; or, The Whaleを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第15回	前期授業の統括する。	
	前期授業で学んだことを振り返り、自分の学問的関心にどのように触れたか、考えてください。	90分

授業の方法

ゼミ形式。担当を決めて発表してもらいます。何が重要か、テーマを見つけディスカッションしながら深めていきます。テキストは毎回全員がしっかり読んでくこと、自ら問題点を考え、積極的にディスカッションに参加することが求められます。

成績評価の方法

平常点（予習、授業への参加状況、予習、ディスカッションの参加度）50%、学期末に提出してもらったエッセイ（5000字程度）50%から評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

アメリカ文学史、アメリカ文学・文化。

テキスト

テキスト

Herman MelvilleのMoby-Dick; or, The Whale (Penguin Classics, 2003)

ISBN-10: 0142437247

ISBN-13: 978-0142437247

参考書

参考文献：

Robert S. Levine, Race, Transnationalism, and Nineteenth-Century American Literary Studies (Cambridge UP, 2017) ISBN: 1107095069

Edward Said, Culture and Resistance (South End Press, 2003) ISBN: 0896086704

エドワード・サイード『文化と抵抗』（ちくま学芸文庫、2008）

Edward Said, The Pen and the Sword (Haymarket Books, 2010) ISBN: 1931859957

エドワード・サイード『ペンと剣』（ちくま学芸文庫、2005）

C. L. R. James, Mariners, Renegades and Castaways: The Story of Herman Melville and the World We Live In (Dartmouth, 2001) ISBN: 158465094X

Out of Place: Memories of Edward Said (2009, DVD)

上記参考文献は図書館の授業関連書コーナーにあるので、適宜参照すること。

その他、参考文献は授業で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II f		
教員名	庄司 宏子		
科目ナンバー	1351411305	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
19世紀アメリカ文学——Melville and Said: Diaspora, Transnationalism, and Globalization 本ゼミでは、アメリカ・ルネサンスを代表するHerman Melvilleの1851年の小説Moby-Dick; or, The Whale（『白鯨』）を現代のグローバリゼーションの視点から読みます。パレスチナ出身のポストコロニアル批評家Edward Saidは、アメリカ人のみが『白鯨』のような小説を創造しようと論じ、サイードによる『白鯨』論——アメリカの独善的な帝国主義とテロリズムという今日的な世界の構図を読むもの——が定番となっています。しかし、19世紀前半のアメリカの基幹産業であった捕鯨業を描くこの小説を、資本主義とグローバリゼーションというコンテキストで捉えてみると、メルヴィルが描くピーコッド号を今日の多国籍企業のようなもの、そこで働く船員たちを、故郷を離脱したエグザイル（“expats”）とみることもできます。サイードは晩年の1999年に自伝Out of Place（『遠い場所の記憶』）を出版していますが、そこには“essentially lost or forgotten world”である故郷を言葉のなかに回復するという、ディアスポラの問題が深く刻まれています。グローバリゼーションの現代において、メルヴィルの小説とサイードの自伝が共鳴するテーマを考えてみたいと思います。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・文学作品を英語の原文で読む力を身につけること、「人種」をテーマにアメリカの歴史と文化を捉え、19世紀から現代にいたるアメリカ社会を考える批評意識を身につける。 ・文学作品とは、特定の時代の集合的無意識や記憶の集積庫であることを理解する。 ・文学作品の読解を通じて社会や文化を批評的にみる力を養い、多様な価値観や世界観の存在を認識し、他者を知る力を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	授業のテーマや進め方などについてイントロダクション。		
	授業の目的と内容についての導入を行う。自分がこのアメリカ文学・文化のゼミで何を学びたいのかをよく考え、目的意識を持って来ててください。最近のアメリカで起こっているニュースや現象について調べて来てください。	80分	
第2回	Edward W. SaidのOut of Place: A Memoirを読む。		
	初回授業でテキストを配布し、授業スケジュールを決めます。それに従ってテキストを読んで来ててください。	90分	
第3回	Edward W. SaidのOut of Place: A Memoirを読む。		
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来ててください。	90分	

第4回	Edward W. SaidのOut of Place: A Memoirを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第5回	Edward W. SaidのOut of Place: A Memoirを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第6回	Edward W. SaidのOut of Place: A Memoirを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第7回	Edward W. SaidのOut of Place: A Memoirを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第8回	Edward W. SaidのOut of Place: A Memoirを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第9回	Edward W. SaidのOut of Place: A Memoirを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分

第10回	Edward W. SaidのOut of Place: A Memoirを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第11回	Edward W. SaidのOut of Place: A Memoirを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第12回	Edward W. SaidのOut of Place: A Memoirを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第13回	Edward W. SaidのOut of Place: A Memoirを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第14回	Edward W. SaidのOut of Place: A Memoirを読む。	
	テキストを読み、その背景にある事象を調べて来てください。	90分
第15回	後期授業の統括する。	
	後期授業で学んだことを振り返り、自分の学問的関心にどのように触れたか、考えてください。	90分

授業の方法

ゼミ形式。担当を決めて発表してもらいます。何が重要か、テーマを見つけディスカッションしながら深めていきます。テキストは毎回全員がしっかり読んでくこと、自ら問題点を考え、積極的にディスカッションに参加することが求められます。

成績評価の方法

平常点（予習、授業への参加状況、予習、ディスカッションの参加度）50%、学期末に提出してもらったエッセイ（5000字程度）50%から評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

アメリカ文学史、アメリカ文学・文化。

テキスト

テキスト

Edward W. Said, *Out of Place: A Memoir* (Vintage, 2000)

ISBN-10: 0679730672

ISBN-13: 978-0679730675

テキストはコピーで配布する。

参考書

参考文献：

エドワード・W・サイード『遠い場所の記憶 自伝』（みすず書房、2001）

Robert S. Levine, *Race, Transnationalism, and Nineteenth-Century American Literary Studies* (Cambridge UP, 2017) ISBN: 1107095069

Edward Said, *Culture and Resistance* (South End Press, 2003) ISBN: 0896086704

エドワード・サイード『文化と抵抗』（ちくま学芸文庫、2008）

Edward Said, *The Pen and the Sword* (Haymarket Books, 2010) ISBN: 1931859957

エドワード・サイード『ペンと剣』（ちくま学芸文庫、2005）

C. L. R. James, *Mariners, Renegades and Castaways: The Story of Herman Melville and the World We Live In* (Dartmouth, 2001) ISBN: 158465094X

Out of Place: Memories of Edward Said (2009, DVD)

上記参考文献は図書館の授業関連書コーナーにあるので、適宜参照すること。

その他、参考文献は授業で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I g		
教員名	日比野 啓		
科目ナンバー	1351411304	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
『オズの魔法使い』『オクラホマ!』『恋の手ほどき』『キス・ミー・ケイト』など十数本のミュージカル映画を鑑賞し、物語、音楽、撮影方法、登場人物の仕草や外見・服装、言葉遣いといったさまざまな文化表象の意味を分析することで、作品が総体としてどのようなイデオロギーを体現しているかを考えます。性、人種・民族、階級などについての当時の支配的イデオロギーが、映画・舞台さらには原作小説にどのように現れ、それがどのように大衆の無意識に「自然な考え」として刷り込まれたかを理解することがこのゼミの大きな目的です。			
到達目標			
①アメリカ大衆文化の重要な一部を構成する、アメリカン・ミュージカルの歴史や背景、そのスターたち、ヒット・ソングについて知る ②記号論、精神分析、映画研究、文化研究の基本的な語彙や概念を使いこなせるようになる ③卒業論文で映画や演劇、その他の文化表象を論じるようになる これらの目標を達成することによって、DP2・DP3 およびDP7を実現します。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション		
	レジュメをよく読み、授業の概要・到達目標・授業の計画などについて理解しておいてください。復習を必ず行い授業内容の理解に努めてください。		60
第2回	『気まま時代』Carefree (1938年、83分) 鑑賞		
	作品の概要・主要キャスト・スタッフについて、IMDBや英語版Wikipediaで予め調べておいてください。授業内課題として、鑑賞した作品についての英語論文の抜粋を配布しますので、作品を見ながら説明されたことをよく思い出しながら、次週までにわかりやすい日本語に訳してメールで提出してください。		90
第3回	『気まま時代』発表		
	復習を必ず行い授業内容の理解に努めてください。		90

第4回	『オズの魔法使い』The Wizard of Oz (1939年、102分) 鑑賞	
	作品の概要・主要キャスト・スタッフについて、IMDBや英語版Wikipediaで予め調べておいでください。授業内課題として、鑑賞した作品についての英語論文の抜粋を配布しますので、作品を見ながら説明されたことをよく思い出しながら、次週までにわかりやすい日本語に訳してメールで提出してください。	90
第5回	『オズの魔法使い』発表	
	復習を必ず行い授業内容の理解に努めてください。	90
第6回	『フットライト・パレード』Footlight Parade (1933年・104分) 鑑賞	
	作品の概要・主要キャスト・スタッフについて、IMDBや英語版Wikipediaで予め調べておいでください。授業内課題として、鑑賞した作品についての英語論文の抜粋を配布しますので、作品を見ながら説明されたことをよく思い出しながら、次週までにわかりやすい日本語に訳してメールで提出してください。	90
第7回	『フットライト・パレード』発表	
	復習を必ず行い授業内容の理解に努めてください。	90
第8回	『オクラホマ!』Oklahoma! (1955年、145分) 鑑賞	
	作品の概要・主要キャスト・スタッフについて、IMDBや英語版Wikipediaで予め調べておいでください。授業内課題として、鑑賞した作品についての英語論文の抜粋を配布しますので、作品を見ながら説明されたことをよく思い出しながら、次週までにわかりやすい日本語に訳してメールで提出してください。	90
第9回	『オクラホマ!』発表	
	復習を必ず行い授業内容の理解に努めてください。	90

第10回	『世紀の女王』Bathing Beauty (1949年・101分) 鑑賞	
	作品の概要・主要キャスト・スタッフについて、IMDBや英語版Wikipediaで予め調べておいでください。授業内課題として、鑑賞した作品についての英語論文の抜粋を配布しますので、作品を見ながら説明されたことをよく思い出しながら、次週までにわかりやすい日本語に訳してメールで提出してください。	90
第11回	『世紀の女王』発表	
	復習を必ず行い授業内容の理解に努めてください。	90
第12回	『エビータ』Evita (東急シアターオーブ) 鑑賞	
	作品の概要・主要キャスト・スタッフについて、IBDBや英語版Wikipediaで予め調べておいでください。授業内課題として、鑑賞した作品についての英語論文の抜粋を配布しますので、作品を見ながら説明されたことをよく思い出しながら、次週までにわかりやすい日本語に訳してメールで提出してください。	90
第13回	『エビータ』発表	
	復習を必ず行い授業内容の理解に努めてください。	90
第14回	『ダンサー・イン・ザ・ダーク』Dancer in the Dark (2000年デンマーク、140分) 鑑賞	
	作品の概要・主要キャスト・スタッフについて、IMDBや英語版Wikipediaで予め調べておいでください。授業内課題として、鑑賞した作品についての英語論文の抜粋を配布しますので、作品を見ながら説明されたことをよく思い出しながら、次週までにわかりやすい日本語に訳してメールで提出してください。	90
第15回	『ダンサー・イン・ザ・ダーク』発表	
	復習を必ず行い授業内容の理解に努めてください。	90

授業の方法

演習形式。毎回二人の発表者が作品について調べ、授業で発表します。事前に担当教員と発表の打ち合わせを必ず行って下さい。ゼミ発表の一週間前までに下調べをすませた上で、ひびのよてい (<http://schedule.khibino.net/>) で面接の予約をとってください。詳細については初回授業時に指示します。

成績評価の方法

小レポート（12点×3回）または学期末レポート（36点）
英文和訳宿題（4点×6回）
授業への積極的な参加（40点）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。次の点に着目し、その達成度により評価します。
①アメリカ大衆文化の重要な一部を構成する、アメリカン・ミュージカルの歴史や背景、そのスターたち、ヒット・ソングについて知っている
②記号論、精神分析、映画研究、文化研究の基本的な語彙や概念を使いこなせるようになっている
③論文で映画や演劇、その他の文化表象を論じるようになっている

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

毎回授業時にハンドアウトを配布します。

参考書

初回授業時に詳細なリストを配布。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知します。

科目名	演習II g		
教員名	日比野 啓		
科目ナンバー	1351411305	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
『オズの魔法使い』『オクラホマ!』『恋の手ほどき』『キス・ミー・ケイト』など十数本のミュージカル映画を鑑賞し、物語、音楽、撮影方法、登場人物の仕草や外見・服装、言葉遣いといったさまざまな文化表象の意味を分析することで、作品が総体としてどのようなイデオロギーを体現しているかを考えます。性、人種・民族、階級などについての当時の支配的イデオロギーが、映画・舞台さらには原作小説にどのように現れ、それがどのように大衆の無意識に「自然な考え」として刷り込まれたかを理解することがこのゼミの大きな目的です。			
到達目標			
①アメリカ大衆文化の重要な一部を構成する、アメリカン・ミュージカルの歴史や背景、そのスターたち、ヒット・ソングについて知る ②記号論、精神分析、映画研究、文化研究の基本的な語彙や概念を使いこなせるようになる ③卒業論文で映画や演劇、その他の文化表象を論じるようになる これらの目標を達成することによって、DP2・DP3 およびDP7を実現します。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	図書館少人数ガイダンス [卒業論文の文献検索のしかた]		
	復習を必ず行い授業内容の理解に努めてください。		30
第2回	『ロシュフォールの恋人』 Les Demoiselles de Rochefort (1967年フランス、123分) 鑑賞		
	作品の概要・主要キャスト・スタッフについて、IMDBや英語版Wikipediaで予め調べておいてください。授業内課題として、鑑賞した作品についての英語論文の抜粋を配布しますので、作品を見ながら説明されたことをよく思い出しながら、次週までにわかりやすい日本語に訳してメールで提出してください。		90
第3回	『ロシュフォールの恋人』 発表		
	復習を必ず行い授業内容の理解に努めてください。		90

第4回	『セカンド・コーラス』 Second Chorus (1940年・84分) 鑑賞	
	作品の概要・主要キャスト・スタッフについて、IMDBや英語版Wikipediaで予め調べておいでください。授業内課題として、鑑賞した作品についての英語論文の抜粋を配布しますので、作品を見ながら説明されたことをよく思い出しながら、次週までにわかりやすい日本語に訳してメールで提出してください。	90
第5回	『セカンド・コーラス』発表	
	復習を必ず行い授業内容の理解に努めてください。	90
第6回	『恋の手ほどき』 Gigi (1958年・115分) 鑑賞	
	作品の概要・主要キャスト・スタッフについて、IMDBや英語版Wikipediaで予め調べておいでください。授業内課題として、鑑賞した作品についての英語論文の抜粋を配布しますので、作品を見ながら説明されたことをよく思い出しながら、次週までにわかりやすい日本語に訳してメールで提出してください。	90
第7回	『恋の手ほどき』発表	
	復習を必ず行い授業内容の理解に努めてください。	90
第8回	『スター誕生』 Star is Born (1954年・154分) 鑑賞	
	作品の概要・主要キャスト・スタッフについて、IMDBや英語版Wikipediaで予め調べておいでください。授業内課題として、鑑賞した作品についての英語論文の抜粋を配布しますので、作品を見ながら説明されたことをよく思い出しながら、次週までにわかりやすい日本語に訳してメールで提出してください。	90
第9回	『スター誕生』発表	
	復習を必ず行い授業内容の理解に努めてください。	90

第10回	『キス・ミー・ケイト』 Kiss Me Kate (1953年・110分) 鑑賞 鑑賞	
	作品の概要・主要キャスト・スタッフについて、IMDBや英語版Wikipediaで予め調べておいでください。授業内課題として、鑑賞した作品についての英語論文の抜粋を配布しますので、作品を見ながら説明されたことをよく思い出しながら、次週までにわかりやすい日本語に訳してメールで提出してください。	90
第11回	『キス・ミー・ケイト』発表	
	復習を必ず行い授業内容の理解に努めてください。	90
第12回	『ブロードウェイの子守唄』 Lullaby of Broadway (1951年・92分) 鑑賞	
	作品の概要・主要キャスト・スタッフについて、IMDBや英語版Wikipediaで予め調べておいでください。授業内課題として、鑑賞した作品についての英語論文の抜粋を配布しますので、作品を見ながら説明されたことをよく思い出しながら、次週までにわかりやすい日本語に訳してメールで提出してください。	90
第13回	『ブロードウェイの子守唄』発表	
	復習を必ず行い授業内容の理解に努めてください。	90
第14回	劇団四季『アラジン』 Aladdin鑑賞	
	作品の概要・主要キャスト・スタッフについて、IBDBや英語版Wikipediaで予め調べておいでください。授業内課題として、鑑賞した作品についての英語論文の抜粋を配布しますので、作品を見ながら説明されたことをよく思い出しながら、次週までにわかりやすい日本語に訳してメールで提出してください。	90
第15回	『アラジン』発表	
	復習を必ず行い授業内容の理解に努めてください。	90

授業の方法

演習形式。毎回二人の発表者が作品について調べ、授業で発表します。事前に担当教員と発表の打ち合わせを必ず行って下さい。ゼミ発表の一週間前までに下調べをすませた上で、ひびのよてい (<http://schedule.khibino.net/>) で面接の予約をとってください。詳細については初回授業時に指示します。

成績評価の方法

小レポート（12点×3回）または学期末レポート（36点）
英文和訳宿題（4点×6回）
授業への積極的な参加（40点）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ①アメリカ大衆文化の重要な一部を構成する、アメリカン・ミュージカルの歴史や背景、そのスターたち、ヒット・ソングについて知っている
- ②記号論、精神分析、映画研究、文化研究の基本的な語彙や概念を使いこなせるようになっている
- ③論文で映画や演劇、その他の文化表象を論じるようになっている

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

毎回授業時にハンドアウトを配布します。

参考書

初回授業時に詳細なリストを配布。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	演習 I h		
教員名	下河辺 美知子		
科目ナンバー	1351411304	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要			
▼グローバルゼーションとアメリカ文学・文化▼ グローバルゼーションとは、地球というglobe(球)の上に暮らす人間を一つにまとめあげようとする運動である。その本質を理解するためには、さまざまな分野からのアプローチが必要である。このゼミでは、グローバルゼーションについて基本的な理論を学んだ上で、それが私たちの心にどのような効果を与えるかを研究する。 アメリカ文学・文化を中心としてグローバルゼーションを考えていくことになるが、その理由は、世界を覆うグローバルゼーションが、20世紀の覇者であったアメリカの存在を軸として稼働しているからである。アメリカの歴史の成り立ちを概観しながら、アメリカ文化の特色を分析することで、地球全体を一つのシステム内に統合しようとするグローバルゼーションに対して、政治的・経済的・文化的にどのような見方をするべきかを考えていく。 本年度は『黒い時計の旅』（スティーヴ・エリクソン）を読み、インターネット空間内にくりひろげられる欲望とマルチメディア時代の感性を考える。数奇な運命のもとに生まれた一人の男が、ヒトラーと出会い、ヒトラーの欲望を満たすための小説を書く。果たせぬ愛を小説の中で満たそうとするヒトラーの欲望が電腦空間（サイバースペース）で展開されるとき、現実のドイツ史とは異なるもう一つの歴史が展開される。			

到達目標			
DP 6【文化現象の総合的理解】を実現するため、次の点を到達目標とする。 ①グローバルゼーションについての批評書を読むことにより、世界規模の現象についての理論を説明できる。 ②グローバルゼーションが現代の日本に生きる自分にとって良きものであるのかそうでないのかを、自分の知性と感性を使って評価する知的能力を習得する。 ③グローバルゼーションがもたらしたさまざまな出来事を描いたアメリカ文学作品を読み、地球をグローバルな視点から見る見方を指摘できる。昨年は『フォーリング・マン』（ドン・デリーロ）を読み、グローバルな現象としてのテロについて考えた。本年度は『ムーン・パレス』（ポール・オースター）を読む。一人の青年の人生に、父・祖父の人生が重ねられるとき、記憶と偶然的な物語がアメリカの歴史への関心とともに展開する。大西洋をわたった“コロンブス”、アメリカ大陸の空白としての“西部”、宇宙のフロンティアとしての“月”といった空間に関するテーマが織り込まれたこの作品には、地球をグローバルに見る視点がちりばめられている。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ゼミのテーマの内容説明、グローバルゼーションという用語、現象が学問の各分野でどのように扱われているかについての紹介		
	ゼミのテーマについて文献などを参照して各自で問題意識を挙げておくこと。		60分
第2回	「グローバルゼーション」研究（１） ・文献検索によりこの用語が学問の世界でどのような分野つかわれてきたかを調べる。 ・ネットを使い、この用語が経済、文化、政治といった現実の場面でどのように使われてきたかを調べる。		
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。		60分
第3回	「グローバルゼーション」研究（２） ・文献検索によりこの用語が学問の世界でどのような分野つかわれてきたかを調べる。 ・ネットを使い、この用語が経済、文化、政治といった現実の場面でどのように使われてきたかを調べる。		
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。		60分

第4回	「グローバリゼーション」研究（3） ・文献検索によりこの用語が学問の世界でどのような分野つかわれてきたかを調べる。 ・ネットを使い、この用語が経済、文化、政治といった現実の場面でどのように使われてきたかを調べる。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分
第5回	図書館演習 図書館において、テーマ検索の実習をおこなう。	
	テーマについて前もってネットなどでしらべておく。	60分
第6回	「グローバリゼーション」研究（5） ・文献検索によりこの用語が学問の世界でどのような分野つかわれてきたかを調べる。 ・ネットを使い、この用語が経済、文化、政治といった現実の場面でどのように使われてきたかを調べる。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分
第7回	「グローバリゼーション」研究（6） ・文献検索によりこの用語が学問の世界でどのような分野つかわれてきたかを調べる。 ・ネットを使い、この用語が経済、文化、政治といった現実の場面でどのように使われてきたかを調べる。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分
第8回	「グローバリゼーション」研究（7） ・文献検索によりこの用語が学問の世界でどのような分野つかわれてきたかを調べる。 ・ネットを使い、この用語が経済、文化、政治といった現実の場面でどのように使われてきたかを調べる。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分
第9回	ドキュメンタリー鑑賞 鑑賞の後、ディスカッション	
	ドキュメンタリーのテーマについて前もってしらべておく。	60分

第10回	「グローバリゼーション」研究（8） ・文献検索によりこの用語が学問の世界でどのような分野つかわれてきたかを調べる。 ・ネットを使い、この用語が経済、文化、政治といった現実の場面でどのように使われてきたかを調べる。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分
第11回	「グローバリゼーション」研究（9） ・文献検索によりこの用語が学問の世界でどのような分野つかわれてきたかを調べる。 ・ネットを使い、この用語が経済、文化、政治といった現実の場面でどのように使われてきたかを調べる。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分
第12回	「グローバリゼーション」研究（10） ・文献検索によりこの用語が学問の世界でどのような分野つかわれてきたかを調べる。 ・ネットを使い、この用語が経済、文化、政治といった現実の場面でどのように使われてきたかを調べる。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分
第13回	レポート準備のためのプレゼンテーション テーマを論じるのに適当と思われる素材を2つ取り上げ、それについて分析する。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分
第14回	レポート準備2 この授業で討論した内容、発表した際に自分がみつけたテーマについて各自でまとめレポートの準備をする。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分
第15回	振り返り 前期に扱ったテキストを振り返り、21世紀グローバリゼーションを総合的に見る。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分

授業の方法

グループにわかれて担当する部分について発表します。担当でないグループは、その発表に対してレスポンスをします。声を出すことは勇気がいることですが、ゼミでの発言は“正しい答え”を期待されているわけではありません。自分で考えたことはどれも価値があるので、思いを言葉にしてみるとそこに、思わぬレスポンスが返ってきます。

成績評価の方法

学期末レポート60%、プレゼンテーション20%、平常点20%を基本に総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

アメリカ文学史、アメリカ文化研究関連科目、文学批評理論など

テキスト

Steve Erickson, "Tours of the Black Clock" Poseidon Press, 1989.

参考書

Gayatri C. Spivak, Death of a Discipline, New York: Columbia University Press, 2003.

下河辺美知子『グローバリゼーションと惑星の想像力』みすず書房、2015

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II h		
教員名	下河辺 美知子		
科目ナンバー	1351411305	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要			
▼グローバル化とアメリカ文学・文化▼ グローバル化とは、地球というglobe(球)の上に暮らす人間を一つにまとめあげようとする運動である。その本質を理解するためには、さまざまな分野からのアプローチが必要である。このゼミでは、グローバル化について基本的な理論を学んだ上で、それが私たちの心にどのような効果を与えるかを研究する。 アメリカ文学・文化を中心としてグローバル化を考えていくことになるが、その理由は、世界を覆うグローバル化が、20世紀の覇者であったアメリカの存在を軸として稼働しているからである。アメリカの歴史の成り立ちを概観しながら、アメリカ文化の特色を分析することで、地球全体を一つのシステム内に統合しようとするグローバル化に対して、政治的・経済的・文化的にどのような見方をするべきかを考えていく。 本年度は『黒い時計の旅』（スティーヴ・エリクソン）を読み、インターネット空間内にくりひろげられる欲望とマルチメディア時代の感性を考える。数奇な運命のもとに生まれた一人の男が、ヒトラーと出会い、ヒトラーの欲望を満たすための小説を書く。果たせぬ愛を小説の中で満たそうとするヒトラーの欲望が電腦空間（サイバースペース）で展開されるとき、現実のドイツ史とは異なるもう一つの歴史が展開される。			

到達目標			
DP 6【文化現象の総合的理解】を実現するため、次の点を到達目標とする。 ①グローバル化についての批評書を読むことにより、世界規模の現象についての理論説明できる。 ②グローバル化が現代の日本に生きる自分にとって良きものであるのかそうでないのかを、自分の知性と感性を使って評価する知的能力を習得する。 ③グローバル化がもたらしたさまざまな出来事を描いたアメリカ文学作品を読み、地球をグローバルな視点から見る見方を指摘できる。昨年は『フォーリング・マン』（ドン・デリーロ）を読み、グローバルな現象としてのテロについて考えた。本年度は『ムーン・パレス』（ポール・オースター）を読む。一人の青年の人生に、父・祖父の人生が重ねられるとき、記憶と偶然の物語がアメリカの歴史への関心とともに展開する。大西洋をわたった“コロンブス”、アメリカ大陸の空白としての“西部”、宇宙のフロンティアとしての“月”といった空間に関するテーマが織り込まれたこの作品には、地球をグローバルに見る視点がちりばめられている。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	グローバル化というテーマが底に流れていると思われる文学テキストを解説し、アメリカという国家のグローバルな位置と役割を検証する。		
	ゼミのテーマについて文献などを参照して各自で問題意識を挙げておくこと。		60分
第2回	19世紀アメリカ文学テキスト読み（1） ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・グローブ(地球規模)でアメリカを読み解き、グローバル化についての洞察を深める。		
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。		60分
第3回	19世紀アメリカ文学テキスト読み（2） ・指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・グローブ(地球規模)でアメリカを読み解き、グローバル化についての洞察を深める。		
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。		60分

第4回	19世紀アメリカ文学テキスト読み（3） ・ 指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・ グローブ（地球規模）でアメリカを読み解き、グローバリゼーションについての洞察を深める。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分
第5回	テキストについての批評書検索 ・ 作品の文学史的位置、文化的背景などを調べる ・ 作者について他の作品も含めて情報を得る。	
	『黒い時計の旅』について、作品の内容、挿絵などを調べておく。	60分
第6回	19世紀アメリカ文学テキスト読み（4） ・ 指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・ グローブ（地球規模）でアメリカを読み解き、グローバリゼーションについての洞察を深める。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分
第7回	19世紀アメリカ文学テキスト読み（5） ・ 指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・ グローブ（地球規模）でアメリカを読み解き、グローバリゼーションについての洞察を深める。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分
第8回	20世紀アメリカ文学テキスト読み（1） 指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・ グローブ（地球規模）でアメリカを読み解き、グローバリゼーションについての洞察を深める。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分
第9回	映画鑑賞 鑑賞の後、ディスカッション	
	作品内容、背景などを調べておく。	60分

第10回	20世紀アメリカ文学テキスト読み（2） ・ 指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・ グローブ（地球規模）でアメリカを読み解き、グローバリゼーションについての洞察を深める。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分
第11回	20世紀アメリカ文学テキスト読み（3） 指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・ グローブ（地球規模）でアメリカを読み解き、グローバリゼーションについての洞察を深める。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分
第12回	20世紀アメリカ文学テキスト読み（4） ・ 指定された範囲のテキストにおいて、単語、言い回し、文章を原書の英語において指摘する。テキストのレトリックからどのような問題が見えてくるかを検討する。 ・ グローブ（地球規模）でアメリカを読み解き、グローバリゼーションについての洞察を深める。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分
第13回	レポート準備のためのプレゼンテーション ・ テキストの中からテーマを論じるのに適当と思われる文章を2つ取り上げ、それについて分析する。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分
第14回	レポート準備2 この授業で討論した内容、発表した際に自分がみつけたテーマについて各自でまとめレポートの準備をする。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分
第15回	振り返り 前期に扱ったテキストを振り返り、人種問題とのかかわりを総合的に見る。	
	グループ作業により、担当する部分において取り上げる単語、言い回し、文章、コメントを話し合う。	60分

授業の方法

グループにわかれて担当する部分について発表します。担当でないグループは、その発表に対してレスポンスをします。声を出すことは勇気があることですが、ゼミでの発言は“正しい答え”を期待されているわけではありません。自分で考えたことはどれも価値があるので、思いを言葉にしてみるとそこに、思わぬレスポンスが返ってきます。

成績評価の方法

学期末レポート80%、平常点20%を基本に総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

アメリカ文学史、アメリカ文化研究関連科目、文学批評理論など

テキスト

Steve Erickson, "Tours of the Black Clock" Poseidon Press, 1989.

参考書

Gayatri C. Spivak, Death of a Discipline, New York: Columbia University Press, 2003.

下河辺美知子『グローバリゼーションと惑星の想像力』みすず書房、2015

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I i		
教員名	権田 建二		
科目ナンバー	1351411304	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要			
この演習では、アメリカ社会における人種混交と奴隷制について考えてみたいと思います。性的関係や結婚をとおして異人種間が交わることを意味する英語 “miscegenation” は、1863年に合衆国で、「交わること」を意味する miscere と「種類」を表す genus というラテン語を合成して作られたことばです。わざわざこうした新しいことばを作って、合衆国の白人は、異人種（特に黒人）との混交を恐怖すべきものとして捉えてきたのです。そのような心理的反応が、そもそも合衆国の地にアフリカから〈異人種〉を連れてくることになった奴隷制と無縁でないことはいまでもありません。 奴隷制に端を発する人種混交に対する恐怖について考えるため、Charles W. Chesnutt をはじめとした、黒人作家による人種混交をテーマにした小説を読みます。他に、黒人作家による最初の文学作品の一つを書いたことで知られる William Wells Brown や、1930年代のハーレム・ルネッサンスで活躍した Langston Hughes や Zora Neale Hurston の作品を見ていく予定です。 彼らの作品をそれが書かれた時代背景を意識しながら読んでいくことで、いったい〈人種〉とは何であるのかという人種混交の物語が突きつける疑問について考えてみたいと思います。アメリカ文学における人種表象を通して、アメリカ社会における〈人種〉概念の意味について考えるのがこの授業の目的です。			

到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP7（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）、DP8（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 1) アメリカ合衆国の人種問題に関する理解を深める。 2) 文学的テキスト・歴史的文献を現代の視点から分析する力を養う。 3) 英語で書かれた文章の意味を作者の意図を含めて正確に読解する力を養う。 4) プレゼンテーションとレポートを通して、自分の言葉で発信する力を養う。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、一年のスケジュールを説明。		
	【予習】 ・課題図書を読解する。		60
第2回	テキスト精読 (1)		
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。		60
第3回	テキスト精読 (2)		
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。		60

第4回	テキスト精読 (3)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第5回	テキスト精読 (4)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第6回	テキスト精読 (5)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第7回	テキスト精読 (6)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第8回	テキスト精読 (7)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第9回	テキスト精読 (8)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60

第10回	テキスト精読 (9)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第11回	テキスト精読 (10)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第12回	テキスト精読 (11)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第13回	テキスト精読 (12)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第14回	テキスト精読 (13)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第15回	まとめ 後期授業にむけて	
	【復習】 これまでの授業内容を思い出し、テキストを再読し、学んだことの定着につとめる。	60

授業の方法

演習形式。毎回発表者による発表をもとに、全員で議論し、テキストを精読していきます。

成績評価の方法

授業参加 (30%)、発表 (30%) + レポート (40%)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

William Wells Brown, Clotel; Or, the President's Daughte (New York: Penguin, 2003). ISBN-10: 0142437727

参考書

適宜授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II i		
教員名	権田 建二		
科目ナンバー	1351411305	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
この演習では、アメリカ社会における人種混交と奴隷制について考えてみたいと思います。性的関係や結婚をとおして異人種間が交わることを意味する英語 “miscegenation” は、1863年に合衆国で、「交わること」を意味する miscere と「種類」を表す genus というラテン語を合成して作られたことばです。わざわざこうした新しいことばを作って、合衆国の白人は、異人種（特に黒人）との混交を恐怖すべきものとして捉えてきたのです。そのような心理的反応が、そもそも合衆国の地にアフリカから〈異人種〉を連れてくることになった奴隷制と無縁でないことはいまでもありません。 奴隷制に端を発する人種混交に対する恐怖について考えるため、Charles W. Chesnutt をはじめとした、黒人作家による人種混交をテーマにした小説を読みます。他に、黒人作家による最初の文学作品の一つを書いたことで知られる William Wells Brown や、1930年代のハーレム・ルネッサンスで活躍した Langston Hughes や Zora Neale Hurston の作品を見ていく予定です。 彼らの作品をそれが書かれた時代背景を意識しながら読んでいくことで、いったい〈人種〉とは何であるのかという人種混交の物語が突きつける疑問について考えてみたいと思います。アメリカ文学における人種表象を通して、アメリカ社会における〈人種〉概念の意味について考えるのがこの授業の目的です。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP7（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）、DP8（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 1) アメリカ合衆国の人種問題に関する理解を深める。 2) 文学的テキスト・歴史的文献を現代の視点から分析する力を養う。 3) 英語で書かれた文章の意味を作者の意図を含めて正確に読解する力を養う。 4) プレゼンテーションとレポートを通して、自分の言葉で発信する力を養う。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、一年のスケジュールを説明。		
	【予習】 ・課題図書を読解する。		60
第2回	テキスト精読 (1)		
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。		60
第3回	テキスト精読 (2)		
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。		60

第4回	テキスト精読 (3)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第5回	テキスト精読 (4)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第6回	テキスト精読 (5)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第7回	テキスト精読 (6)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第8回	テキスト精読 (7)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第9回	テキスト精読 (8)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60

第10回	テキスト精読 (9)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第11回	テキスト精読 (10)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第12回	テキスト精読 (11)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第13回	テキスト精読 (12)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第14回	テキスト精読 (13)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第15回	まとめ 後期授業にむけて	
	【復習】 これまでの授業内容を思い出し、テキストを再読し、学んだことの定着につとめる。	60

授業の方法

演習形式。毎回発表者による発表をもとに、全員で議論し、テキストを精読していきます。

成績評価の方法

授業参加 (30%)、発表 (30%) + レポート (40%)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

William Wells Brown, *Clotel; Or, the President's Daughte* (New York: Penguin, 2003). ISBN-10: 0142437727
他にプリントを配布する予定です。

参考書

適宜授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I j		
教員名	権田 建二		
科目ナンバー	1351411304	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
アメリカ合衆国の黒人知識人 W. E. B. Du Bois は、1903 年に「20世紀の問題はカラーラインの問題である」という有名な言葉で、20世紀には、人種関係が世界中で重要な課題として認識されることを予見しました。しかし、グローバリズムが進み、一見、様々な人種・民族の人々が国境や文化や言語の差異を超えて交流しているように思える21世紀の世の中でも、レイシズムは依然として問題であり続けています。 例えば、2017年8月にアメリカ合衆国ヴァージニア州のシャーロットツヴィルという町で行われた白人優越主義者たちの集会で、その集会に抗議するために集まった人たちに、白人優越主義者の若者が車で突っ込み、3人の死者を出すという惨事がおきました。この例が物語っているように、異人種に対する憎悪は合衆国では現代においても日常的な問題です。また日本においても、ヘイトスピーチという言葉が近年よく耳にするようになっており、人種間の差異にもとづいた憎悪表現が社会問題となっています。 自分と異なった人に対する無理解はどこから来るのか。それはいつ、なぜ憎悪に変わるのか。そもそも人はなぜそれほどまで他者に対して憎しみを持つことができるのか。われわれはそのような感情から自由になることはないのか。このゼミでは、こういった問題について、合衆国のレイシズムを具体例として考えて行きたいと思います。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP7（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）、DP8（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 1) アメリカ合衆国の人種問題に関する理解を深める。 2) 文学的テキストや歴史的文献を現代の視点から分析する力を養う。 3) 英語で書かれた文章の意味を作者の意図を含めて正確に読解する力を養う。 4) プレゼンテーションとレポートを通して、自分の言葉で発信する力を養う。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方。 担当者を決める。		
	【予習】 ・現代アメリカの人種関係について調べる。 ・課題図書を熟読する。		60
第2回	テキスト Chapter 1 精読		
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 ハンドアウトを読み直し、各発表の内容を整理。		60
第3回	テキスト Chapter 2 精読 (2)		
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 ハンドアウトを読み直し、各発表の内容を整理。		60

第4回	テキスト Chapter 3 精読 (3)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 ハンドアウトを読み直し、各発表の内容を整理。	60
第5回	テキスト Chapter 4 精読 (4)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第6回	テキスト Chapter 5 精読 (5)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第7回	テキスト Chapter 6 精読 (6)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第8回	テキスト Chapter 7 精読 (7)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第9回	テキスト Chapter 8 精読 (8)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60

第10回	テキスト Chapter 9 精読 (i)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第11回	テキスト Chapter 9 精読 (ii)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第12回	テキスト Chapter 10 精読	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第13回	テキスト Chapter 11 精読 (i)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第14回	テキスト Chapter 12 精読 (ii)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第15回	まとめ 後期授業にむけて	
	【復習】 これまでの授業内容を思い出し、テキストを再読し、学んだことの定着につとめる。	60

授業の方法

演習形式。毎回発表者による発表をもとに、全員で議論し、テキストを精読していきます。

成績評価の方法

授業参加 (40%)、発表 (30%) + レポート (30%)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

Michele Norris, The Grace of Silence: A Family Memoir (New York: Vintage, 2010). ISBN-10: 0307475271

参考書

藤川隆男『人種差別の世界史』（刀水書房、2011年）
ジョージ・M・フレドリクソン『人種主義の歴史』（みすず書房、2009年）
W・E・B・デュボイス『黒人のたましい』（岩波文庫、1992年）
マルコムX『完訳マルコムX自伝』上下（中公文庫、2002年）
ジャームズ・M・バーダマン『黒人差別をアメリカ公民権運動一名もなき人々の戦いの記録』（集英社新書、2007年）
本田創造『アメリカ黒人の歴史』（岩波新書、1993年）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習Ⅱ j		
教員名	権田 建二		
科目ナンバー	1351411305	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
アメリカ合衆国の黒人知識人 W. E. B. Du Bois は、1903 年に「20世紀の問題はカラーラインの問題である」という有名な言葉で、20世紀には、人種関係が世界中で重要な課題として認識されることを予見しました。しかし、グローバリズムが進み、一見、様々な人種・民族の人々が国境や文化や言語の差異を超えて交流しているように思える21世紀の世の中でも、レイシズムは依然として問題であり続けています。 例えば、2017年8月にアメリカ合衆国ヴァージニア州のシャーロッツヴィルという町で行われた白人優越主義者たちの集会で、その集会に抗議するために集まった人たちに、白人優越主義者の若者が車で突っ込み、3人の死者を出すという惨事がおきました。この例が物語っているように、異人種に対する憎悪は合衆国では現代においても日常的な問題です。また日本においても、ヘイトスピーチという言葉が近年よく耳にするようになっており、人種間の差異にもとづいた憎悪表現が社会問題となっています。 自分と異なった人に対する無理解はどこから来るのか。それはいつ、なぜ憎悪に変わるのか。そもそも人はなぜそれほどまで他者に対して憎しみを持つことができるのか。われわれはそのような感情から自由になることはないのか。このゼミでは、こういった問題について、合衆国のレイシズムを具体例として考えて行きたいと思います。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP7（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）、DP8（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 1) アメリカ合衆国の人種問題に関する理解を深める。 2) 文学的テキストや歴史的文献を現代の視点から分析する力を養う。 3) 英語で書かれた文章の意味を作者の意図を含めて正確に読解する力を養う。 4) プレゼンテーションとレポートを通して、自分の言葉で発信する力を養う。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方。 担当者を決める。		
	【予習】 ・現代アメリカの人種関係について調べる。 ・課題図書を読解する。		60
第2回	テキスト精読 (1)		
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 ハンドアウトを読み直し、各発表の内容を整理。		60
第3回	テキスト精読 (2)		
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 ハンドアウトを読み直し、各発表の内容を整理。		60

第4回	テキスト精読 (3)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 ハンドアウトを読み直し、各発表の内容を整理。	60
第5回	テキスト精読 (4)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第6回	テキスト精読 (5)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第7回	テキスト精読 (6)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第8回	テキスト精読 (7)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第9回	テキスト精読 (8)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60

第10回	テキスト精読 (9)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第11回	テキスト精読 (10)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第12回	テキスト精読 (11)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第13回	テキスト精読 (12)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第14回	テキスト精読 (13)	
	【予習】 次回分を熟読。 【復習】 今回分を熟読。	60
第15回	まとめ 後期授業にむけて	
	【復習】 これまでの授業内容を思い出し、テキストを再読し、学んだことの定着につとめる。	60

授業の方法

演習形式。毎回発表者による発表をもとに、全員で議論し、テキストを精読していきます。

成績評価の方法

授業参加 (40%)、発表 (30%) + レポート (30%)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

Michele Norris, *The Grace of Silence: A Family Memoir* (New York: Vintage, 2010). ISBN-10: 0307475271

後期では、前期の様子を見て別にテキストを使用する予定です。

後期初回の授業で指定します。

参考書

藤川隆男『人種差別の世界史』（刀水書房、2011年）

ジョージ・M・フレドリクソン『人種主義の歴史』（みすず書房、2009年）

W・E・B・デュボイス『黒人のたましい』（岩波文庫、1992年）

マルコムX『完訳マルコムX自伝』上下（中公文庫、2002年）

ジャームズ・M・バーダマン『黒人差別をアメリカ公民権運動一名もなき人々の戦いの記録』（集英社新書、2007年）

本田創造『アメリカ黒人の歴史』（岩波新書、1993年）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I k		
教員名	森住 史		
科目ナンバー	1351411304	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
様々な言語に対して、我々はそれぞれ「イメージ」を持っています。英語はカッコいい、とか、フランス語は美しい、とか、大阪弁は元氣、とか。でもそれは往々にして、言語というよりもその言語を話す人たちがその言語が話されている場所に対して我々がもっている考えや偏見をそのまま反映したものです。それを language attitudes と呼びます。このゼミでは、特に英語と英語のさまざまなバリエーションに対する language attitudes について深く掘りさげ、軽く「イメージ」と捉えていたものの「正体」を、言語、社会、文化、経済、イデオロギーなどさまざまな観点から探します。			
到達目標			
DP1 DP2, DP5, DP8に準じ、コースワークを通して以下の目標をめざす。 ・ language attitudes とはなにかを理解する。 ・ 英語学習者である自分自身やこれまでの英語学習者としての経験を、さまざまな研究と照らし合わせて、より広いコンテキストのなかで見直すことができる。 ・ language attitudes の研究分野でどのような研究手法があり得るのかを知る。 ・ 興味を持ったトピックについて、自分でもさらに参考文献や参考資料をを探せるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	Introduction Getting to know each other		
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。		60
第2回	Language ideologies and language attitudes 1		
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。		60
第3回	Language ideologies and language attitudes 2		
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。		60

第4回	卒論writing: covering the basics Reading papers	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	90
第5回	Language attitudes in the Americas 1	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	90
第6回	Language attitudes in the Americas 2	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	90
第7回	Language attitudes in Western Europe 1	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	90
第8回	Language attitudes in Western Europe 2	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	90
第9回	About your term-end project	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	90

第10回	Language attitudes in the Nordic countries 1	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	90
第11回	Language attitudes in the Nordic countries 2	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	90
第12回	Language attitudes in Australia and New Zealand 1	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。 学期末課題ののbook reportにとりかかる。	90
第13回	Language attitudes in Australia and New Zealand 2	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	90
第14回	Presentation based on your term paper 1	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	90
第15回	Presentation based on your term paper 2	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	120

授業の方法

授業は毎週課題（予習復習を含む）をやってきたことを前提で、ペアワークやグループディスカッションをしながら進められます。Week 5から、教科書の各章の担当者がグループで授業を進めていきます。担当者は事前にしっかりリサーチと打ち合わせをすること。毎回コンピュータを使ってのリサーチ時間もとります。Week 1から教科書を使います。

成績評価の方法

In-class contribution: 40%
Reading and explaining the assigned chapter: 30%
Presentation: 10%
Term paper: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

Giles, H. & Watson, B. (Eds.). The social meaning of language, dialect, and accent: International perspectives on speech styles. New York: Peter Lang. (ISBN: 978-1-4331-1868-5)

参考書

Bourdieu, P. (1991). Language and symbolic power. Cambridge, MA: Harvard University Press.
Garret, P. (2010). Attitude in language. Cambridge: Cambridge University Press.
Garret, P., Coupland, N., & Williams, A. (2003). Investigating language attitudes: Social meaning of dialect, ethnicity, and performance. Cardiff: University of Wales Press.
Giles, H. (Ed.). (2012). The handbook of intergroup communication. New York: Routledge.
Goffman, E. (1959). The presentation of self in everyday life. New York: Anchor Books.
Grosjean, F. (2010). Bilingual: Life and reality. Cambridge, MA: Harvard University Press.
Phillipson, R (1992). Linguistic imperialism. Oxford: Oxford University Press.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II k		
教員名	森住 史		
科目ナンバー	1351411305	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要			
様々な言語に対して、我々はそれぞれ「イメージ」を持っています。英語はカッコいい、とか、フランス語は美しい、とか、大阪弁は元気、とか。でもそれは往々にして、言語というよりもその言語を話す人たちがその言語が話されている場所に対して我々がもっている考えや偏見をそのまま反映したものです。それを language attitudes と呼びます。このゼミでは、特に英語と英語のさまざまなバリエーションに対する language attitudes について深く掘りさげ、軽く「イメージ」と捉えていたものの「正体」を、言語、社会、文化、経済、イデオロギーなどさまざまな観点から探します。			

到達目標			
DP1 DP2, DP5, DP8に準じ、コースワークを通して以下の目標をめざす。 ・ language attitudes とはなにかを理解し、言語や社会のどのような側面と関わっているかに応用して考えることができる。 ・ 英語学習者である自分自身やこれまでの英語学習者としての経験を、さまざまな研究と照らし合わせて、より広いコンテキストのなかで見直すことができる。 ・ language attitudes の研究分野でどのような研究手法があり得るのかを知る。 ・ 興味を持ったトピックについて、自分でもさらに参考文献や参考資料をを探し、リサーチをすることができる。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	Review of the first term. Epilogues from the textbook		
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	60	
第2回	卒論writing: 確認事項 citation/quotation references Epilogue from the textbook		
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	60	
第3回	Language attitudes studies involving Japanese subjects/contexts		
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	60	

第4回	Language attitudes in the Maghreb Countries of the North West Africa 1	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	90
第5回	Language attitudes in the Maghreb Countries of the North West Africa 2	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	90
第6回	Language attitudes in Southern Africa 1	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	90
第7回	Language attitudes in Southern Africa 2	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	90
第8回	Language attitudes in China toward English 1	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	90
第9回	Language attitudes in China toward English 2	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	90

第10回	Research methods: observation questionnaire interview	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。 学期末課題に取り掛かる	90
第11回	Language attitudes in South Asia 1	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	90
第12回	Language attitudes in South Asia 2	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	90
第13回	Review	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	90
第14回	Presentations on term paper topics	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	120
第15回	Presentations on senior theses	
	学んだことの復習をする。 与えられた課題に取り組む。	120

授業の方法

授業は毎週課題（予習復習を含む）をやってきたことを前提で、ペアワークやグループディスカッションをしながら進められます。Week 4から、教科書の各章の担当者がグループで授業を進めていきます。担当者は事前にしっかりリサーチと打ち合わせをすること。毎回コンピュータを使ってのリサーチ時間もとります。Week 1から教科書を使います。

成績評価の方法

In-class contribution: 40%
Reading and explaining the assigned chapter: 30%
Presentation: 10%
Term paper: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

Giles, H. & Watson, B. (Eds.). The social meaning of language, dialect, and accent: International perspectives on speech styles. New York: Peter Lang. (ISBN: 978-1-4331-1868-5)

参考書

Bourdieu, P. (1991). Language and symbolic power. Cambridge, MA: Harvard University Press.
Garret, P. (2010). Attitude in language. Cambridge: Cambridge University Press.
Garret, P., Coupland, N., & Williams, A. (2003). Investigating language attitudes: Social meaning of dialect, ethnicity, and performance. Cardiff: University of Wales Press.
Giles, H. (Ed.). (2012). The handbook of intergroup communication. New York: Routledge.
Goffman, E. (1959). The presentation of self in everyday life. New York: Anchor Books.
Grosjean, F. (2010). Bilingual: Life and reality. Cambridge, MA: Harvard University Press.
Phillipson, R (1992). Linguistic imperialism. Oxford: Oxford University Press.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I I		
教員名	平山 真奈美		
科目ナンバー	1351411304	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

英語の音声、音韻、社会とことば
この授業では、英語の音声と音韻、方言差、音響的特徴について、主にデータ分析の実践から学ぶ。必要に応じて日本語や他言語と比較も行う。各自で興味のある言語/音声現象について調べて発表も行う。

到達目標

DP 1（教養の修得）、DP 2（課題の発見と解決）、DP 5（表現力、発信力）、DP 7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP 8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）の実現のため、この授業では以下のことを目標とする。

- 英語の音声および音韻の構造を学ぶ。
- 英語音の音響特徴を学ぶ。
- 言語データの分析方法を身につける。
- 興味のある言語現象に関して、関連の文献をリサーチする力をつける。
- 論文や口頭で発表する訓練をする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Introduction Overview of course Lecture and exercises - Collins & Mees A-1	
	Readings: Collins & Mees A-1	60
第2回	Lecture and exercises - Collins & Mees A-2, 3	
	Readings: Collins & Mees A-2, 3 Homework	90
第3回	Lecture and exercises - Collins & Mees A-4, 5	
	Readings: Collins & Mees A-4, 5 Homework	90

第4回	Lecture and exercises - Collins & Mees A-6, B-1	
	Readings: Collins & Mees A-6, B-1 Homework	90
第5回	Lecture and exercises - Collins & Mees B-2, 3	
	Readings: Collins & Mees B-2, 3 Homework	90
第6回	Lecture and exercises - Collins & Mees B-4, 5	
	Readings: Collins & Mees B-4, 5 Homework	90
第7回	Lecture and exercises - Collins & Mees B-6, 7	
	Readings: Collins & Mees B-6, 7 Homework	90
第8回	Acoustic phonetics 1	
	Homework	90
第9回	Acoustic phonetics 2	
	Homework	90

第10回	Lecture and exercises - Collins & Mees C-1, 2	
	Readings: Collins & Mees C-1, 2 Homework	90
第11回	Lecture and exercises - Collins & Mees C-3, 4	
	Readings: Collins & Mees C-3, 4 Homework	90
第12回	Lecture and exercises - Collins & Mees C-5, 6	
	Readings: Collins & Mees C-5, 6 Homework	90
第13回	Student presentations 1	
	Preparation for presentations	120
第14回	Student presentations 2	
	Preparation for presentations	120
第15回	Student presentations 3	
	Preparation for presentations	120

授業の方法

授業は主に講義と練習問題を解くことから構成される。練習問題はみなで議論しながら行う。出来るだけ英語を使い、英語で理解し、発信する。

成績評価の方法

- Class participation: 10%
- Homework assignments: 45%
- Individual project presentation: 20%
- Term paper: 25%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

英語学概論 I、英語学概論 II、英語音声学

テキスト

Collins, Beverley and Inger M. Mees. (2013). Practical Phonetics and Phonology (3rd ed.). Oxon: Routledge.

参考書

- Carr, Philip. (2013). English Phonetics and Phonology: An Introduction. (2nd ed.). Malden, MA: Oxford: Wiley-Blackwell.
- Johnson, Keith. (2011). Acoustic and Auditory Phonetics. (3rd ed.). Wiley-Blackwell.
- Ladefoged, Peter and Keith Johnson. (2015). A Course in Phonetics. (7th ed.). Wadsworth Publishing.
- Odden, David. (2013). Introducing Phonology. (2nd ed.) Cambridge: Cambridge University Press.
- Rogers, Henry. (2000). The Sounds of Language. Harlow: Pearson Education Limited.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II I		
教員名	平山 真奈美		
科目ナンバー	1351411305	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

英語の音声、音韻、社会とことば
 この授業では、英語を言語学的に、主にデータ分析の実践から学ぶ。後期は、社会的要素が言語使用にどのように影響を与えるかに主な焦点をあて、社会的要因（地域差、階級差、性差、フォーマリティーなど）が言語使用に与える影響について、それらの要因によって話者の発音や話し方がどう違うのかなど、事例を見ながらキーとなる概念を学び、データ分析を行う。必要に応じて日本語や他言語と比較も行う。また、前期の内容をふまえ、自らプロジェクトトピックを選び、データを収集して分析をし、分析結果を発表することを、段階を追って実践しながら学ぶ。

到達目標

DP 1（教養の修得）、DP 2（課題の発見と解決）、DP 3（他者との協働）、DP 5（表現力、発信力）、DP 6（文化現象の総合的理解）、DP 7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP 8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）の実現のため、この授業では以下のことを目標とする。

- 社会的要因によって話者の話し方がどのように変わるかの基礎を学ぶ。
- 言語データの分析方法を身につける。
- データを整理し、分析結果を順を追って論理的に説明する訓練をする。
- 論文や口頭で発表する訓練をする。
- 他者のプロジェクトに建設的なフィードバックをする練習をする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	- Introduction - Overview of course - Sociolinguistics: Van Herk Ch. 1	
	Readings: Van Herk Ch. 1	30
第2回	- Language and Society: Van Herk Ch. 2	
	Readings: Van Herk Ch. 2 Homework	100
第3回	- Place: Van Herk Ch. 3	
	Readings: Van Herk Ch. 3 Homework	100

第4回	- Social Status: Van Herk Ch. 4 - Project topics 1	
	Readings: Van Herk Ch. 4 Prepare project topics.	100
第5回	- Time: Van Herk Ch. 5 - Project topics 2	
	Readings: Van Herk Ch. 5 Prepare project topics.	100
第6回	- Ethnicity: Van Herk Ch. 6	
	Readings: Van Herk Ch. 6 Homework	100
第7回	- Gender: Van Herk Ch. 7 - Project outline 1	
	Readings: Van Herk Ch. 7 Prepare the outline of individual projects	120
第8回	- Style: Van Herk Ch. 8 - Project outline 2	
	Readings: Van Herk Ch. 8 Prepare the outline of individual projects	120
第9回	- Interaction: Van Herk Ch. 9 - Project outline 3	
	Readings: Van Herk Ch. 9 Prepare the outline of individual projects	120

第10回	- Multilingualism: Van Herk Ch. 10	
	Readings: Van Herk Ch. 10 Homework	100
第11回	- Language Contact: Van Herk Ch. 11	
	Readings: Van Herk Ch. 11 Homework	100
第12回	Project presentation 1	
	Preparation for presentations	120
第13回	Project presentation 2	
	Preparation for presentations	120
第14回	Project presentation 3	
	Preparation for presentations	120
第15回	Review of course	
	Working on final paper.	120

授業の方法

社会言語学のテキストを用いるが、最初の2章はみなで精読し、第3章以降は輪読する。また、前期の内容もふまえ、各自が興味のある言語現象に関してプロジェクトを組んでデータを自ら収集し分析したものを、口頭およびペーパーで発表する。このプロジェクトでは、段階的に、トピックを決める、アウトラインを提示しデータを収集する、分析して発表する、という手順をふみ、また学生が相互にフィードバックをし、得られたフィードバックを活かしながら次のステップに進むという、リサーチの基本メソッドを学ぶ。前期同様、出来るだけ英語を使い、英語で理解し、発信する。

成績評価の方法

- Class participation: 20%
- Homework assignments: 35%
- Individual project presentation: 20%
- Final paper: 25%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

語学概論 I、英語学概論 II、英語音声学

テキスト

Van Herk, Gerard. (2017). What is Sociolinguistics? (2nd ed.) Wiley-Blackwell.

参考書

- Meyerhoff, Miriam. (2011). Introducing Sociolinguistics. (2nd ed.). Oxon: Routledge.
- Trudgill, Peter. (2001). Sociolinguistics: An Introduction to Language and Society. (4th ed.) London: Penguin Books.
- 東 照二. (2009). 『社会言語学入門』. 東京: 研究社.
- Those books listed for the spring term.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I m		
教員名	中山 匡美		
科目ナンバー	1351411304	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
テーマ：19世紀の小説Treasure Islandを言語学的視点から読む 概要：昨今、英語史において長い間看過されてきた後期近代英語（18～19世紀）の言語変化への関心が高まり、史的、社会言語学、語用論など様々な視点からの研究が盛んにおこなわれている。本ゼミでは、規範文法が確立し、多くの文法書が出版された18世紀から19世紀イギリスの社会背景とその時代の英語（スペル、文法、語彙）についての知識を得て、規範的でない非標準的な英語が同時代の小説でどのように用いられているかを考察する。 19世紀は小説の成熟期といわれる時代で、多様な登場人物が生き生きと描かれた多くの作品が出版された。今回は、Robert Louis StevensonのTreasure Island (1883)を、文体的（話し言葉と書き言葉の違い）、社会言語学的（登場人物の社会階級や職業による違い）、語用論的（話者の心理状況による違い）などの言語学視点から読むことを学ぶ。			
到達目標			
DP 6（文化現象の総合的理解）、DP 7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP 8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 （1）後期近代英語と現代英語との違いを知る。 （2）19世紀の小説を文体的視点や社会言語学的視点から考察する。 （3）文学作品の電子コーパスを使って関心のある言語変異についてデータを収集し、考察したことを他者にわかりやすく伝える。 （4）小説を精読することによって英語の読解力、小説の文脈レベルの理解力を高める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業内容、進め方について説明する。		
	シラバスを読んでおくこと。		20
第2回	18th-century Englishについて “English at the Onset of the Normative Tradition”を読む （1）Mobility		
	【予習・復習】指定された箇所を精読し、内容を把握しておく。重要な点をノートにまとめる。		60
第3回	18th-century Englishについて “English at the Onset of the Normative Tradition”を読む （2）Spoken/Written Language		
	【予習・復習】指定された箇所を精読し、内容を把握しておく。重要な点をノートにまとめる。		60

第4回	18th-century Englishについて "English at the Onset of the Normative Tradition"を読む (3) Language	
	【予習・復習】指定された箇所を精読し、内容を把握しておく。重要な点をノートにまとめる。	60
第5回	18th-century Englishについて "English at the Onset of the Normative Tradition"を読む (4) Social Networks and Linguistic Influence	
	【予習・復習】指定された箇所を精読し、内容を把握しておく。重要な点をノートにまとめる。	60
第6回	19th-century Englishについて "English in the Nineteenth Century"を読む (1) Transitions	
	【予習・復習】指定された箇所を精読し、内容を把握しておく。重要な点をノートにまとめる。	60
第7回	19th-century Englishについて "English in the Nineteenth Century"を読む (2) Myths of Stasis	
	【予習・復習】指定された箇所を精読し、内容を把握しておく。重要な点をノートにまとめる。	60
第8回	19th-century Englishについて "English in the Nineteenth Century"を読む (3) Dialects and Difference	
	【予習・復習】指定された箇所を精読し、内容を把握しておく。重要な点をノートにまとめる。	60
第9回	19th-century Englishについて "English in the Nineteenth Century"を読む (4) World of Words	
	【予習・復習】指定された箇所を精読し、内容を把握しておく。重要な点をノートにまとめる。	60

第10回	19世紀の小説Treasure Islandを読む (1) 作品と作者について	
	【予習】19世紀の代表的なイギリス小説について調べておく。	60
第11回	19世紀の小説Treasure Islandを読む (2) Chap. 1~2	
	【予習・復習】指定された箇所を精読する。言語学的な特徴を考察してノートにとる。	90
第12回	19世紀の小説Treasure Islandを読む (3) Chap. 3~4	
	【予習・復習】指定された箇所を精読する。言語学的な特徴を考察してノートにとる。	90
第13回	19世紀の小説Treasure Islandを読む (4) Chap. 5~6	
	【予習・復習】指定された箇所を精読する。言語学的な特徴を考察してノートにとる。	90
第14回	19世紀の小説Treasure Islandを読む (5) Chap. 7~9	
	【予習・復習】指定された箇所を精読する。言語学的な特徴を考察してノートにとる。	90
第15回	Treasure Island Chap. 1~9 までにみられた言語学的特徴について各自まとめた考察を発表する。	
	【予習】Treasure Islandにみられる特徴的な例を各自まとめて発表できるように準備する。	90

授業の方法

毎回担当者にテキストを解説・コメントしてもらい、それをもとに全体でディスカッションする形式ですすめる。

成績評価の方法

授業への参加姿勢（担当箇所の発表と英文和訳を含む）（50%）と課題レポート（50%）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

英語史I, 英語史II

テキスト

Lynda Mugglestone (ed). 2006. The Oxford History of English. Oxford: Oxford UP. (pp. 240–304)
Robert Louis Stevenson. 1883. Treasure Island. Oxford World's Classics. Oxford: Oxford UP.

参考書

小野捷・伊藤弘之. 1993. 『近代英語の発達』 英潮社.
Ingrid Tieken-Boon van Ostade. 2009. An Introduction to Late Modern English. Edinburgh. Edinburgh University Press.
Randolph Quirk, et al. 1985. A Comprehensive Grammar of the English Language. London: Longman.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	演習II m		
教員名	中山 匡美		
科目ナンバー	1351411305	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要			
テーマ：19世紀の小説Treasure Islandを言語学的視点から読む 概要：昨今、英語史において長い間看過されてきた後期近代英語（18～19世紀）の言語変化への関心が高まり、史的、社会言語学、語用論など様々な視点からの研究が盛んにおこなわれている。本ゼミでは、規範文法が確立し、多くの文法書が出版された18世紀から19世紀イギリスの社会背景とその時代の英語（スペル、文法、語彙）についての知識を得て、規範的でない非標準的な英語が同時代の小説でどのように用いられているかを考察する。 19世紀は小説の成熟期といわれる時代で、多様な登場人物が生き生きと描かれた多くの作品が出版された。今回は、Robert Louis StevensonのTreasure Island (1883)を、文体的（話し言葉と書き言葉の違い）、社会言語学的（登場人物の社会階級や職業による違い）、語用論的（話者の心理状況による違い）などの言語学視点から読むことを学ぶ。			

到達目標			
DP 6（文化現象の総合的理解）、DP 7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP 8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 （1）後期近代英語と現代英語との違いを知る。 （2）19世紀の小説を文体的視点や社会言語学的視点から考察する。 （3）文学作品の電子コーパスを使って関心のある言語変異についてデータを収集し、考察したことを他者にわかりやすく伝える。 （4）小説を精読することによって英語の読解力、小説の文脈レベルの理解力を高める。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・授業内容、進め方について説明する。		
	シラバスを読んでおくこと。		20
第2回	電子コーパスとコンコーダンス検索について		
	配布した資料を読んでおくこと。		60
第3回	19世紀の小説Treasure Islandを読む (1) Chap. 10～11		
	【予習・復習】指定された箇所を精読する。言語学的な特徴を考察してノートにとる。		90

第4回	19世紀の小説Treasure Islandを読む (2) Chap. 12~14	
	【予習・復習】指定された箇所を精読する。言語学的な特徴を考察してノートにとる。	90
第5回	19世紀の小説Treasure Islandを読む (3) Chap. 15~17	
	【予習・復習】指定された箇所を精読する。言語学的な特徴を考察してノートにとる。	90
第6回	19世紀の小説Treasure Islandを読む (4) Chap. 18~20	
	【予習・復習】指定された箇所を精読する。言語学的な特徴を考察してノートにとる。	90
第7回	19世紀の小説Treasure Islandを読む (5) Chap. 21~23	
	【予習・復習】指定された箇所を精読する。言語学的な特徴を考察してノートにとる。	90
第8回	19世紀の小説Treasure Islandを読む (6) Chap. 24~26	
	【予習・復習】指定された箇所を精読する。言語学的な特徴を考察してノートにとる。	90
第9回	19世紀の小説Treasure Islandを読む (7) Chap. 27~28	
	【予習・復習】指定された箇所を精読する。言語学的な特徴を考察してノートにとる。	90

第10回	19世紀の小説Treasure Islandを読む (8) Chap. 29~30	
	【予習・復習】指定された箇所を精読する。言語学的な特徴を考察してノートにとる。	90
第11回	19世紀の小説Treasure Islandを読む (9) Chap. 31~32	
	【予習・復習】指定された箇所を精読する。言語学的な特徴を考察してノートにとる。	90
第12回	19世紀の小説Treasure Islandを読む (10) Chap. 33~34	
	【予習・復習】指定された箇所を精読する。言語学的な特徴を考察してノートにとる。	90
第13回	Treasure Islandの言語学的考察についての個人発表とディスカッション1	
	【予習・復習】各自関心をもった言語変異について考察した結果をハンドアウトにまとめて発表する。発表者に対してフィードバックのコメントを書く。	60~120
第14回	Treasure Islandの言語学的考察についての個人発表とディスカッション2	
	【予習・復習】各自関心をもった言語変異について考察した結果をハンドアウトにまとめて発表する。発表者に対してフィードバックのコメントを書く。	60~120
第15回	Treasure Islandの言語学的考察についての個人発表とディスカッション3	
	【予習・復習】各自関心をもった言語変異について考察した結果をハンドアウトにまとめて発表する。発表者に対してフィードバックのコメントを書く。	60~120

授業の方法

毎回担当者にテキストを解説・コメントしてもらい、それをもとに全体でディスカッションする形式ですすめる。

成績評価の方法

授業への参加姿勢（担当箇所の発表と英文和訳を含む）（50%）と課題レポート（50%）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

英語史I, 英語史II

テキスト

Robert Louis Stevenson. 1883. *Treasure Island*. Oxford World's Classics. Oxford: Oxford UP.

参考書

小野捷・伊藤弘之. 1993. 『近代英語の発達』 英潮社.
Ingrid Tieken-Boon van Ostade. 2009. *An Introduction to Late Modern English*. Edinburgh. Edinburgh University Press.
Randolph Quirk, et al. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
石川慎太郎. 2014. 『ベーシックコーパス言語学』 ひつじ書房.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	演習 I n		
教員名	小野 尚美		
科目ナンバー	1351411304	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
この授業は、第1及び第2言語習得論の基礎的知識と教授法に関する理論を学び、言語習得過程についての研究（語彙、文法習得、リーディングやリスニングを含む認知プロセス研究等）、また現在の日本の英語教育改善方法の模索、アジア諸国の言語政策と英語教育、早期英語教育、社会言語学的視点に基づくコミュニケーション、動物と人間のことは、世界の英語とその拡がり等をテーマに卒業論文完成を最終目標とするゼミである。 今年のゼミでは、に「コミュニケーションについて考える」をテーマとする。前期は、コミュニケーションに関する文献を読みながら、この話題について考察していく。			
到達目標			
DP8を実現するために、以下の5点をこの授業の目標とする。 ① 言語習得論、英語教育学の基本的な理論を学ぶ。 ② 英語で書かれたテキストを正確に理解する。 ③ 効果的なプレゼンテーション方法と分かりやすいレジメの書き方を学ぶ。 ④ 参考文献や注釈のつけ方を学ぶ。 ⑤ 関連資料や文献の調査方法を学ぶ。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	授業内容・運営についての説明 学生自己紹介		
	コミュニケーションの定義について考えてくる(3, 4年生) 4年生は、最初の授業に卒論の題目と概要を提出するので用意する。		30
第2回	話題： 言語と異文化間コミュニケーションについて考える (Chapter 1) テキスト輪読&ディスカッション テキスト(論文)輪読		
	Chapter 1の次回の授業の範囲を読む。(3, 4年生)		120
第3回	話題： 言語と異文化間コミュニケーションについて考える (Chapter 1) テキスト輪読&ディスカッション		
	Chapter 1の次回の授業の範囲を読む。(3, 4年生)		120

第4回	話題： 言語と異文化間コミュニケーションについて考える (Chapter 1) テキスト輪読&ディスカッション 個人発表	
	Chapter 1の次回の授業の範囲を読む。(3, 4年生)	120
第5回	話題： 言語と異文化間コミュニケーションの研究の歴史 (Chapter 2) テキスト輪読&ディスカッション 個人発表	
	Chapter 2の次回の授業の範囲を読む。(3, 4年生)	120
第6回	話題： 言語と異文化間コミュニケーションの研究の歴史 (Chapter 2) テキスト(論文)輪読 個人発表	
	Chapter 2の次回の授業の範囲を読む。(3, 4年生)	120
第7回	話題： 言語と異文化間コミュニケーションの研究の歴史 (Chapter 2) テキスト(論文)輪読 個人発表	
	Chapter 2の次回の授業の範囲を読む。(3, 4年生)	120
第8回	話題： 文化と最初の社会化過程 (Chapter 3) テキスト(論文)輪読 個人発表	
	Chapter 3の次回の授業の範囲を読む。(3, 4年生)	120
第9回	話題： 文化と最初の社会化過程 (Chapter 3) テキスト(論文)輪読 個人発表	
	Chapter 3の次回の授業の範囲を読む。(3, 4年生)	120

第10回	話題： 文化と最初の社会化過程（Chapter 3） テキスト（論文）輪読 個人発表	
	Chapter 3の次回の授業の範囲を読む。(3, 4年生)	120
第11回	話題： 文化と最初の社会化過程（Chapter 3） テキスト（論文）輪読 個人発表	
	Chapter 3の次回の授業の範囲を読む。(3, 4年生)	120
第12回	第1回 シンポジウム (4年生 ゼミ研究レポート発表会)	
	シンポジウムの準備をする。	120
第13回	第2回 シンポジウム (4年生 ゼミ研究レポート発表会)	
	シンポジウムの準備をする。	120
第14回	第3回 シンポジウム (3年生 ゼミ研究レポート発表会)	
	シンポジウムの準備をする。	120
第15回	第4回 シンポジウム (3年生 ゼミ研究レポート発表会) 前期のまとめ	
	シンポジウムの準備をする。	120

授業の方法

授業は、演習形式で行う。必要に応じて指導教授が講義を行う。学生は、授業内容の理解をしながら、自分の研究テーマを見つけ、学期末にはシンポジウムに参加し、その内容を小論文の形にまとめる。

成績評価の方法

授業内の課題（プレゼンテーション、ディスカッション）への参加度の40%、シンポジウム及び期末レポート60%とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

TESL 1 及び2を履修済または履修中であることが望ましい。

テキスト

Jackson, Jane. (2014). "Introducing Language and Intercultural Communication." Routledge. (3年生及び4年生)
授業内で読む他のテキストがある場合は、後程配布される予定である。

参考書

Brown, H. D. (2000). "Principles of Language Learning and Teaching." Pearson Education.
Lightbown, Pasty M. and Nina Spada. (2007). "How Languages are Learned." Oxford University Press
Ellis, Rod. (1995). "Second Language Acquisition." Oxford University Press.
Modern Languages Division, Strasbourg. (2002). Common european Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment. Cambridge University Press.
小池生夫（編集主幹）. (2003). 『応用言語学事典』. 研究社.
白畑知彦、若林茂則、村野井仁. (2010). 『詳説 第二言語習得研究 理論から研究方法まで』 研究社.
鈴木良次（編集委員長）. (2006). 『言語科学の百科事典』 丸善株式会社.
江藤裕之、前田樹海、田中建彦（訳）. (2007). 『APA論文作成マニュアル』 医学書院.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II n		
教員名	小野 尚美		
科目ナンバー	1351411305	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

この授業は、第1及び第2言語習得論の基礎的知識と教授法に関する理論を学び、言語習得過程についての研究（語彙、文法習得、リーディングやリスニングを含む認知プロセス研究等）、また現在の日本の英語教育改善方法の模索、アジア諸国の言語政策と英語教育、早期英語教育、社会言語学的視点に基づくコミュニケーション、動物と人間のことば、世界の英語とその拡がり等をテーマに卒業論文完成を最終目標とするゼミです。

今年のゼミでは、前期に学んだことを踏まえて、コミュニケーションについて考える。

到達目標

DP8を実現するために、以下の5点をこの授業の目標とする。

- ① 言語習得論、英語教育学の基本的な理論を学ぶ。
- ② 英語で書かれたテキストを正確に理解する。
- ③ 効果的なプレゼンテーション方法と分かりやすいレジメの書き方を学ぶ。
- ④ 参考文献や注釈のつけ方を学ぶ。
- ⑤ 関連資料や文献の調査方法を学ぶ。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	卒論中間報告会	
	4年生は、中間卒論発表の準備を行う。	60
第2回	話題： 言語、コミュニケーション、文化及び文脈における力 テキスト輪読 個人発表	
	Chapter 4の次回の授業の範囲を読む。(3, 4年生) 個人発表の当たっている学生は、発表の準備をする。	120
第3回	話題： 言語、コミュニケーション、文化及び文脈における力 テキスト輪読 個人発表	
	Chapter 4の次回の授業の範囲を読む。(3, 4年生) 個人発表の当たっている学生は、発表の準備をする。	120

第4回	話題： 言語、コミュニケーション、文化及び文脈における力 テキスト輪読 個人発表	
	Chapter 4の次回の授業の範囲を読む。(3, 4年生) 個人発表の当たっている学生は、発表の準備をする。	120
第5回	話題： 言語と非言語コミュニケーション テキスト輪読 個人発表	
	Chapter 5の次回の授業の範囲を読む。(3, 4年生) 個人発表の当たっている学生は、発表の準備をする。	120
第6回	話題： 言語と非言語コミュニケーション テキスト輪読 個人発表	
	Chapter 5の次回の授業の範囲を読む。(3, 4年生) 個人発表の当たっている学生は、発表の準備をする。	120
第7回	話題： 言語と非言語コミュニケーション テキスト輪読 個人発表	
	Chapter 5の次回の授業の範囲を読む。(3, 4年生) 個人発表の当たっている学生は、発表の準備をする。	120
第8回	話題： 言語と非言語コミュニケーション テキスト輪読 個人発表	
	Chapter 5の次回の授業の範囲を読む。(3, 4年生) 個人発表の当たっている学生は、発表の準備をする。	120
第9回	話題： 異文化間コミュニケーションにおける言語とアイデンティティ (Chapter 6) テキスト輪読 個人発表	
	Chapter 6の次回の授業の範囲を読む。(3, 4年生) 個人発表の当たっている学生は、発表の準備をする。	120

第10回	話題： 異文化間コミュニケーションにおける言語とアイデンティティ（Chapter 6） テキスト輪読 個人発表	
	Chapter 6の次回の授業の範囲を読む。（3，4年生） 個人発表の当たっている学生は、発表の準備をする。	120
第11回	話題： 異文化間コミュニケーションにおける言語とアイデンティティ（Chapter 6） テキスト輪読 個人発表	
	Chapter 6の次回の授業の範囲を読む。（3，4年生） 個人発表の当たっている学生は、発表の準備をする。 4年生は、卒論を完成させる。	120
第12回	シンポジウム （3年生 ゼミ研究レポート発表会）	
	シンポジウム発表担当者は、準備をする。	90
第13回	シンポジウム （3年生 ゼミ研究レポート発表会）	
	シンポジウム発表担当者は、準備をする。	90
第14回	シンポジウム （4年生 ゼミ研究レポート発表会）	
	発表担当者である4年生は、プレゼンテーションの準備をする。	60
第15回	シンポジウム （4年生 ゼミ研究レポート発表会）	
	発表担当者である4年生は、プレゼンテーションの準備をする。	60

授業の方法

授業は、演習形式で行う。必要に応じて指導教授が講義を行う。尚、学期末の卒業論文発表会は、12月に実施予定のゼミ合宿で行う予定である。3、4年生はなるべく合宿に参加することが期待されている。

成績評価の方法

授業内の課題（プレゼンテーション、ディスカッション）への参加度の40%、シンポジウム及び期末レポート60%とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

前期の演習Inを履修済であること。

テキスト

Jackson, Jane. (2007). "Introducing Language and Intercultural Communication." Routledge.

参考書

Brown, H. D. (2000). "Principles of Language Learning and Teaching." Pearson Education.
Ellis, Rod. (1995). "Second Language Acquisition." Oxford University Press.
Lightbown, Patsy M. and Nina Spada. (2007). "How Languages are Learned." Oxford University Press
Modern Languages Division, Strasbourg. (2002). Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment. Cambridge University Press.
小池生夫（編集主幹）. (2003). 『応用言語学事典』 研究社.
白畑知彦、若林茂則、村野井仁. (2010). 『詳説 第二言語習得研究 理論から研究方法まで』 研究社.
鈴木良次（編集委員長）. (2006). 『言語科学の百科事典』 丸善株式会社.
江藤裕之、前田樹海、田中建彦（訳）. (2007). 『APA論文作成マニュアル』 医学書院.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I o		
教員名	ラルフ ジェイムズ パーナビー		
科目ナンバー	1351411304	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要
 The British sense of humour is often understood to be somehow different from that of American or Japanese people. This might be true, but how and why is this the case? This seminar explores the evolution and history of humour in Britain, from the middle ages to the present day. Along the way, students will gain an understanding of the cultural background. Sources examined include plays, poems, songs, novels, television, radio, film and new genres, such as podcasts.

到達目標
 Students can work - in small groups and by themselves - on all sorts of different types of material and have a lot of fun along the way. It is a valuable way to learn to understand various types of text as part of culture, as well as a great opportunity to use English in an interesting and stimulating way.
 This class will address DP6, DP7 and DP8.

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	準備学修(予習・復習等)	
	Defining categories: innuendo, black humour, everyday life, satire, sarcasm and bullying, absurdity, surrealism, age differences, class, rogues, gender, camp, social discomfort, race, stereotype parody, burlesque, accepting eccentricity, practical jokes.	
第2回	Watching prep material and checking handouts.	60 minutes
	Black humour: The League of Gentlemen and Jam	
第3回	Watching prep material and checking handouts.	60 minutes
	Everyday life: Porridge and The IT Crowd	
第4回	Watching prep material and checking handouts.	60 minutes

第4回	Satire 1: The Long 18th Century, Hogarth, Swift and Pope	
	Watching prep material and checking handouts.	60 minutes
第5回	Satire 2: Punch to Private Eye, Spitting Image and Yes, Minister	
	Watching prep material and checking handouts.	60 minutes
第6回	The sarcastic bully as antihero: Frankie Boyle, Blackadder and Fawlty Towers	
	Watching prep material and checking handouts.	60 minutes
第7回	Absurdity: From The Goons and Q to The Mighty Boosh	
	Watching prep material and checking handouts.	60 minutes
第8回	Absurdity 2: Monty Python, from television to film	
	Watching prep material and checking handouts. Preparing presentation.	60 minutes
第9回	Surrealism: The Young Ones and Luxury Comedy	
	Watching prep material and checking handouts. Preparing presentation.	60 minutes

第10回	Student Presentations	
	Watching prep material and checking handouts.	60 minutes
第11回	Age difference: William, St. Trinians and Beano	
	Watching prep material and checking handouts.	60 minutes
第12回	Class: Oscar Wilde' s Ernest and P.G. Wodehouse' s Jeeves	
	Watching prep material and checking handouts. Starting individual essay.	60 minutes
第13回	Rogues: The Pirates of Penzance, plus essay writing review.	
	Watching prep material and checking handouts. Continuing individual essay	60 minutes
第14回	Gender: The Vicar of Dibley and peer editing workshop	
	Watching prep material and checking handouts. Studying for test and finishing final paper.	90 minutes
第15回	In-class test, plus final essays due	
	Reflecting on semester.	Own time

授業の方法

Classes will use mini-lectures and group work. There will be a balance between teacher-centred and student-centred sections of the lesson. As noted above, instruction will be in English.

成績評価の方法

Assessment will be based on the following:

In-class work and participation: 10%

Essays: 40%

Group presentations and projects: 25%

Short tests and exam: 25%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N. A.

テキスト

Texts will be provided in the form of handouts and online materials. There is no set textbook for this seminar.

参考書

Other materials can be sourced individually depending on student research areas.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II 。		
教員名	ラルフ ジェイムズ パーナビー		
科目ナンバー	1351411305	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
The British sense of humour is often understood to be somehow different from that of American or Japanese people. This might be true, but how and why is this the case? This seminar explores the evolution and history of humour in Britain, from the middle ages to the present day. Along the way, students will gain an understanding of the cultural background. Sources examined include plays, poems, songs, novels, television, radio, film and new genres, such as podcasts.			
到達目標			
Students can work - in small groups and by themselves - on all sorts of different types of material and have a lot of fun along the way. It is a valuable way to learn to understand various types of text as part of culture, as well as a great opportunity to use English in an interesting and stimulating way.			
This class will address DP6, DP7 and DP8.			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	The industry of humour: advertising and marketing in Britain		
	Watching prep material and working on handouts.	60 minutes	
第2回	Religion: Father Ted and Thomas Shadwell's Lancashire Witches		
	Watching prep material and working on handouts.	60 minutes	
第3回	Innuendo: The Carry On films and The Two Ronnies		
	Watching prep material and working on handouts.	60 minutes	

第4回	Camp: Kenneth Williams, Are You Being Served, Julian Clary and Little Britain	
	Watching prep material and working on handouts.	60 minutes
第5回	Social discomfort: Alan Partridge, The Office and People Like Us	
	Watching prep material and working on handouts.	60 minutes
第6回	Racism 1: George Mikes and How to Be an Alien	
	Watching prep material and working on handouts.	60 minutes
第7回	Racism 2: Mind Your Language and It Ain' t Half Hot, Mum	
	Watching prep material and working on handouts. Group essay prep.	60 minutes
第8回	Stereotype parody: Goodness Gracious Me and The Kumars	
	Watching prep material and working on handouts. Working on group essay.	60 minutes
第9回	Burlesque and physical comedy: Mr. Bean and The Benny Hill Show	
	Watching prep material and working on handouts. Preparing group essay.	60 minutes

第10回	Group essays due and grading workshop	
	Watching prep material and working on handouts.	60 minutes
第11回	Burlesque and physical comedy 2: The Play that Goes Wrong plus annotations workshopping	
	Watching prep material and working on handouts. Preparing annotations.	60 minutes
第12回	Humour in Space: The Hitchhiker' s Guide to the Galaxy and Red Dwarf	
	Watching prep material and working on handouts. Working on paper.	60 minutes
第13回	Accepting eccentricity: P.G. Wodehouse on golf and pigs at Blandings	
	Watching prep material and working on handouts. Working on final paper.	60 minutes
第14回	Practical jokes: The Drones, Jeeves and Jeremy Beadle	
	Watching prep material and working on handouts. Finishing final paper.	60 minutes
第15回	Final individual papers due and summary of the year' s studies.	
	Reflecting on the year course	Own time

授業の方法

Classes will use mini-lectures and group work. There will be a balance between teacher-centred and student-centred sections of the lesson. As noted above, instruction will be in English.

成績評価の方法

Assessment will be based on the following:

In-class work and participation: 15%

Essay and annotated bibliography: 60%

Group projects: 25%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N. A.

テキスト

Texts will be provided in the form of handouts and online materials. There is no set textbook for this seminar.

参考書

Other materials can be sourced individually depending on student research areas.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I p		
教員名	ジャマール モーリス		
科目ナンバー	1351411304	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要	
DP3	Investigating Conversation: The Pragmatics of Communication
Welcome to the world of Pragmatics. This is the area of Linguistics where we study how language is used in social contexts (this is a pompous and unnecessary linguistic term. It just means, "in real life"). This seminar is concerned with understanding the wonderful and (almost certainly) uniquely human thing that is creative communication. Conversation is a part of our everyday lives and is something we take for granted. However, "conversation" is actually very complicated. It requires speakers to be able to use a great many rules in order for communication to be successful. You will not find these rules in English language textbooks (and I think you already know this). For example, have you noticed that when people are walking on busy streets that everyone is able to move smoothly? Few people bump into each other, there are no accidents! Conversation is very much like this. We are able to communicate smoothly because we are all following a set of very complicated rules and we don't even realize we are doing this.	

到達目標	
By the end of the course, students will have learned keys issues relating to turntaking, politeness theories and language and culture	

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Course introduction and orientation	
	Study the reading list and borrow books from the library	120
第2回	The turn taking system (1)	
	Read assigned article	60
第3回	The turn-taking system (2)	
	Read assigned article	60

第4回	The turn-taking system (3)	
	Read assigned article	60
第5回	Cooperative interruption	
	Prepare dialogues for roleplay	60
第6回	Intrusive interruption	
	Prepare dialogues for roleplay	60
第7回	Backchannelling: showing you are listening	
	Prepare dialogues for roleplay	60
第8回	Roleplays and analysis (1)	
	Read assigned article	60
第9回	Roleplays and analysis (2)	
	Write a summary of discussion	60

第10回	Conversation in Context: the social encounter (1)	
	Read assigned article	60
第11回	Conversation in Context: the social encounter (2)	
	Read assigned article	60
第12回	Language use and group identity (1)	
	Prepare roleplays for analysis	60
第13回	Language use and group identity (2)	
	Prepare roleplays for analysis	60
第14回	Perform and observe roleplays and follow-up discussion	
	Write summary of discussion conclusions	60
第15回	Perform and observe roleplays and follow-up discussion	
	Review main points covered this term	120

授業の方法

Most of the classes will begin with some kind of task which students will do in pairs or small groups. This will be followed by the teacher's input, raising awareness of the key concepts ideas and theories behind the material.

Students will be expected to do some research outside the classroom to prepare for the lessons. Classes will be conducted in English most of the time.

成績評価の方法

Grades will be assigned according to the following criteria: Classwork: 50%; Homework: 25%; End-of-term project: 25%

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

There is no set text. A reading list and articles will be provided by the teacher.

参考書

A comprehensive reading list will be provided by the teacher at the beginning of the course.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II p		
教員名	ジャマール モーリス		
科目ナンバー	1351411305	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
DP3 Investigating Conversation: The Pragmatics of Communication Welcome to the world of Pragmatics. This is the area of Linguistics where we study how language is used in social contexts (this is a pompous and unnecessary linguistic term. It just means, “in real life”). This seminar is concerned with understanding the wonderful and (almost certainly) uniquely human thing that is creative communication. Conversation is a part of our everyday lives and is something we take for granted. However, “conversation” is actually very complicated. It requires speakers to be able to use a great many rules in order for communication to be successful. You will not find these rules in English language textbooks (and I think you already know this). For example, have you noticed that when people are walking on busy streets that everyone is able to move smoothly? Few people bump into each other, there are no accidents! Conversation is very much like this. We are able to communicate smoothly because we are all following a set of very complicated rules and we don't even realize we are doing this.			
到達目標			
By the end of the course, students will have learned keys issues relating to turntaking, politeness theories and language and culture			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	Course introduction and orientation		
	Study the reading list and borrow books from the library	120	
第2回	The turn taking system (1)		
	Read assigned article	60	
第3回	The turn-taking system (2)		
	Read assigned article	60	

第4回	The turn-taking system (3)	
	Read assigned article	60
第5回	Cooperative interruption	
	Prepare dialogues for roleplay	60
第6回	Intrusive interruption	
	Prepare dialogues for roleplay	60
第7回	Backchannelling: showing you are listening	
	Prepare dialogues for roleplay	60
第8回	Roleplays and analysis (1)	
	Read assigned article	60
第9回	Roleplays and analysis (2)	
	Write a summary of discussion	60

第10回	Conversation in Context: the social encounter (1)	
	Read assigned article	60
第11回	Conversation in Context: the social encounter (2)	
	Read assigned article	60
第12回	Language use and group identity (1)	
	Prepare roleplays for analysis	60
第13回	Language use and group identity (2)	
	Prepare roleplays for analysis	60
第14回	Perform and observe roleplays and follow-up discussion	
	Write summary of discussion conclusions	60
第15回	Perform and observe roleplays and follow-up discussion	
	Review main points covered this term	120

授業の方法

Most of the classes will begin with some kind of task which students will do in pairs or small groups. This will be followed by the teacher's input, raising awareness of the key concepts ideas and theories behind the material.

Students will be expected to do some research outside the classroom to prepare for the lessons. Classes will be conducted in English most of the time.

成績評価の方法

Grades will be assigned according to the following criteria: Classwork: 50%; Homework: 25%; End-of-term project: 25%

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

There is no set text. A reading list and articles will be provided by the teacher.

参考書

A comprehensive reading list will be provided by the teacher at the beginning of the course.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	文学理論 I		
教員名	下河辺 美知子		
科目ナンバー	1251415101	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
現実社会の問題と文学研究がどのように結びつくのかを体験してもらいます。私たちは文学を論じるとき、作中人物の行動や話の筋だけに目を向けがちですが、それを書いている作家の動機、作家にそれを書かせた社会の要請、それを読む読者側の反応といった面に目をうつしていくと、文学を読む、文学を研究するという行為が立体的に見えてくるでしょう。 文学作品というテキストを、歴史や社会という文脈（コンテキスト）に置いて考えることで、現代社に生きるためのリテラシー（読解能力）を養っていきたいと思います。卒業論文を書くための基礎力をつけることも目指していますが、それは決してハウツーものとして伝達されるわけではありません。授業に参加することで、社会と言語との密接な関係を体験してください。記号としての言語、歴史の語り方、精神分析的な洞察、経済活動と文学、性差（男と女）など、現代批評のテーマを取り上げて解説していきます。			
到達目標			
DP2【課題の発見と解決】を実現するため、次の点を到達目標とする。 ①言葉を使うとき、われわれは社会の中でどのような操作をしているのかについての意識を養う。 ②言語記号のみでなく、その他のさまざまな表象(representation)ー映像、トレードマーク、CM、アニメなどの大衆文化、マスコミに流れる政治言説ーについての読解能力を開発する。 ③グローバリゼーションの流れの中で、情報を受信する力の基本となる概念や方法を実践する能力をつける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・文学批評の意味と歴史の解説 ・言葉が記号であることの意味の説明		
	シラバスをよく読んで文学理論の講義の全体像をつかんでおくこと。		60分
第2回	記号論入門（1） ・記号としての言語 ・“ネコ”が猫であることの意味 ・signifier とsignifiedについて		
	記号論について予備学習しておくこと。		60分
第3回	記号論入門（2） ・記号としての言語 ・“ネコ”が猫であることの意味 ・signifier とsignifiedについて		
	記号論について予備学習しておくこと。		60分

第4回	記号論入門（3） ビデオを見る ・記号としての言語 ・“ネコ”が猫であることの意味 ・signifier とsignifiedについて 記号論について予備学習しておくこと。	60分
第5回	読者反応理論(reader-response criticism)（1） ・意味は読み手の中にあることの説明 ・読み手は仕事をする ・“in our time”chapter VIIについての3つの読み 読者反応理論について予備学習しておくこと。	60分
第6回	読者反応理論(reader-response criticism)（2） ・意味は読み手の中にあることの説明 ・読み手は仕事をする ・“in our time”chapter VIIについての3つの読み 読者反応理論について予備学習しておくこと。	60分
第7回	読者反応理論(reader-response criticism)（3） ・意味は読み手の中にあることの説明 ・読み手は仕事をする ・“in our time”chapter VIIについての3つの読み 読者反応理論について予備学習しておくこと。	60分
第8回	課題学習「文学理論の現在の研究と現実社会への適用」について 図書館にて、記号論、読者反応理論についての批評書の検索を行い、批評理論の現状分析し、現在の社会へ適用する方策を考えてレポートする。	90分
第9回	ナラトロジー(narratology)（1） ・文学にも文法があること ・トドロフ、プロップの文法 ・Updikeのテキストから語り手の主権について ナラトロジーについて予備学習しておくこと。	60分

第10回	ナラトロジー(narratology) (2) ・文学にも文法があること ・トドロフ、プロップの文法 ・Updikeのテキストから語り手の主権について	
	ナラトロジーについて予備学習しておくこと。	60分
第11回	精神分析批評 (psychoanalytic criticism) (1) ・不思議な物語 ・Oedipusの運命/我々の運命 ・父と息子/母と息子 ・文化の中のOedipus神話	
	精神分析批評について予備学習しておくこと。	60分
第12回	精神分析批評 (psychoanalytic criticism) (2) ・不思議な物語 ・Oedipusの運命/我々の運命 ・父と息子/母と息子 ・文化の中のOedipus神話	
	精神分析批評について予備学習しておくこと。	60分
第13回	精神分析批評 (psychoanalytic criticism) (3) ・不思議な物語 ・Oedipusの運命/我々の運命 ・父と息子/母と息子 ・文化の中のOedipus神話	
	精神分析批評について予備学習しておくこと。	60分
第14回	到達度確認テスト	
	授業内レポートの形で行います。	90分
第15回	振り返り これまでに取り上げた批評理論を概観し、現実の社会や歴史の中にその意味をさぐる。	
	これまでの内容を復習しておくこと。	60分

授業の方法

- 1 基本的に講義形式で行う。
- 2 ビデオを使って視聴覚的に批評理論の基礎を体得してもらう。

成績評価の方法

学期末レポート（60%程度）、小レポート（20%程度）、平常点（20%程度）を基本として総合的に成績評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

専門的予備知識は必要としない。言葉と社会とに興味がある人に受講してほしい。

テキスト

毎回プリントを配布。

参考書

多数。初回授業時にリストを配布する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	文学理論II		
教員名	日比野 啓		
科目ナンバー	1251415102	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
文学理論上重要な4つの主題について、それぞれ3週間にわたり概観します。それぞれの主題についてアメリカ文学の代表的な中編小説を言及しながら説明します。			
第一部：小説の快楽：ナサニエル・ホーソーン「ヤング・グッドマン・ブラウン」ほか 第二部：何が「リアル」か：ヘンリー・ジェームズ『ねじの回転』 第三部：「内容」と「形式」は一致する？：トルーマン・カポーティ『遠い声遠い部屋』 第四部：小説とその外部：ドン・デリーロ『ボディ・アーティスト』			
到達目標			
文学理論とは、小説や詩・戯曲、そして広く芸術作品を鑑賞・創作する際に知っていると役に立つ、ものの考えかた・作品のとらえかたを抽象的な言葉でまとめたものですが、その内容はきわめて具体的かつ実践的なものです。講義ではアリストレス『詩学』から20世紀後半の構造主義（ロラン・バルト）やポスト構造主義（ジャック・デリダ）まで広範にわたる「理論」を概観しますが、それらについての単なる知識を得ることが目的ではありません。卒業論文などで文学作品を論じる際、どのようなことを書けばよいのかということを実践的に学ぶ機会だととらえてください。これまで無意識に培われてきた自分のものの見方を再検討し、あるいはそれを意識化・言語化できるようになることが最終的な目標です。			
これらの目標を達成することで、DP7を実現します。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション：なぜ「文学理論」か？		
	予習：ナサニエル・ホーソーン「ヤング・グッドマン・ブラウン」「ウエークフィールド」「白の老嬢」を通読しておいてください。 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。		180
第2回	小説とは何か：「語り」（narration）と「描写」（description）		
	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。2作者の介入／3サスペンス／5書簡体小説／26描写と語り 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。		60
第3回	「語り手」「視点」の諸問題		
	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。6視点／7 ミステリー／34信用できない語り手／46メタフィクション 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。		60

第4回	「内面」の成立	
	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。9意識の流れ／10内的独白／14 人物紹介／25表層にとどまる ヘンリー・ジェームズ『ねじの回転』を通読しておいてください。 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	180
第5回	事実 (facts) と虚構 (fiction) 、真理 (truth) 、本当らしさ (reality) 第1回小テスト	
	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。1書き出し／8 名前／15 驚き／40 動機づけ 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	60
第6回	理想主義 (idealism) およびさまざまな反リアリズム	
	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。24マジック・リアリズム／31寓話／33偶然／38 シュルレアリスム 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	60
第7回	ミメシス (mimesis) ／表象 (representation) とその批判	
	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。18天気／22実験小説／30象徴性／42言外の意味 トルーマン・カポーティ『遠い声遠い部屋』を通読しておいてください。 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	180
第8回	到達度確認テスト (1)	
	予習：レジュメをもとに、第1回～第7回講義で説明された文学理論の概念を用いて小説を書けるようにしてください。 復習：テストの設問を再度やってみてください。	180
第9回	文体と声 第2回小テスト	
	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。4ティーンエイジ・スカーズ／20凝った文章／27複数の声で語る／47怪奇 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	60

第10回	レトリックとアイロニー	
	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。11異化／19反復／23 コミック・ノベル／39アイロニー 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	60
第11回	時間と構造	
	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。36章分け、その他／43題名／48物語構造／50結末 ドン・デリーロ『ボディ・アーティスト』を通読しておいてください。 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	180
第12回	社会・経済 第3回小テスト	
	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。12場の感覚／13リスト／35異国性／44 思想 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	60
第13回	テクノロジーとメディア	
	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。16時間の移動／29未来を想像する／37電話／41 持続感 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	60
第14回	伝統 第4回小テスト	
	予習：『小説の技巧』以下の節を熟読しておいてください。17テキストの中の読者／21間テキスト性／28過去の感覚／45ノンフィクション小説 復習：レジュメをもとに、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。	60
第15回	到達度確認テスト（2）	
	予習：これまで配布されたレジュメを再度通読し、講義で説明された文学理論の概念の理解を深めてください。 復習：講義後しかるべき時間をおいて配布される模範解答をもとに、講義の内容全体を振り返ってください。	180

授業の方法

講義形式。レジュメを毎回配布。

成績評価の方法

小テスト（8点×4回）：一つのテーマが終了した翌週に小テスト（12分）を行います。毎回出席をとることはありませんが、この小テストの成績は成績に加味されます。
小テストは二つのセクションに分かれます。キーワードについて簡単な説明を求めるものと、講義のなかでもっとも印象に残った内容について記すものです。

到達度確認テスト(1)：24点

「語り」と「描写」の違い、多様な「語り手」「視点」や、様々な「内面」の描写など、それまで学んだことをもとに、「自分が今日大学に来るまでのこと」を小説にして書いてもらいます。「朝起きて家を出るまで」「家を出てから大学の門をくぐるまで」「大学の門をくぐってからこの教室に入るまで」の三つの情景を、指示に従って異なる技法を用いて書き分けて下さい。

到達度確認テスト(2)：44点

三問構成の記述式。一部「前ばらし」をします。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。文学理論の基本概念を理解し、作品を読むにあたって適用できるかに着目して、その達成度を評価します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありませんが、文学理論Iとあわせて受講すると、より広範な角度から文学作品および批評理論をとらえることができるようになります。

テキスト

デイヴィッド・ロッジ、柴田元幸・斎藤兆史訳『小説の技巧』（白水社、一九九七年）ISBN-13：978-4560046340
ナサニエル・ホーソーン、坂下昇訳『ホーソーン短篇小説集』（岩波文庫）ISBN-13：978-4003230435
ヘンリー・ジェームズ、小川高義訳『ねじの回転』（新潮文庫）ISBN-13：978-4102041031
トルーマン・カポーティ、河野一郎訳『遠い声遠い部屋』（新潮文庫）ISBN-13：978-4102095027
ドン・デリーロ、上岡伸雄訳『ボディ・アーティスト』（ちくま文庫）ISBN-13：978-4480428349

参考書

多数。初回授業時に詳細なリストを配布。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	英米文学を読むための思想 A		
教員名	大谷 伴子		
科目ナンバー	1151415103	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
イギリスの国民性は、島国あるいは海洋国家として独自の発展を遂げたため大陸のフランスあるいはドイツなどとは異なる特殊なあるいはエキセントリックなものとみなされがちである。たとえば、ロマンティックな恋愛や不倫といった華やかで艶のある文学といったときに、英文学の代表例を探すことはなかなかむずかしいかもしれない。しかしながら、イングリッシュネス（＝「英国性」、「イングランドらしさ」、「イギリスっぽさ」）が歴史的に編制された過程を、グローバルな政治文化の空間においてとらえなおしてみるならば、実は、海洋国家／大陸国家、現実的なジェントルマン／ロマンティックな恋人といった対立をすり抜けるさまざまな文化表象やその変容や転回をみいだすことができる。近年の文学・文化研究であらためて注目を浴びている公共空間についていうなら、イギリスの男たちが集うクラブやコーヒー・ハウスのほかに、通例フランスやロシア・オーストリアに結び付けられる女たちのサロンの存在が英国文化にも存在していたことを確認することができるだろう。 この授業では、21世紀の国民国家の境界を横断してトランスナショナルに「グローバル化する文化」としてのヨーロッパ宮廷文化の転回を、15～17世紀の初期近代の英国文化と15世紀ブルゴーニュ公国のバジェントリーや冠婚葬祭の儀式との間のさまざまな関係性から考える。			
到達目標			
①テキストの基本構造（主人公・プロット・テーマ）を分析し、理解することができる。 ②ナショナル・アイデンティティをめぐる問題系を把握する、言い換えれば、多くの題材からそうしたネイションとアイデンティティといった問題を可能にするさまざまなグローバリゼーションおよびそれに対応するナショナルな文化について考える視点を獲得することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション——ナショナル・アイデンティティとグローバリゼーション		
	シラバスをよく読み、授業の概要・到達目標・授業の計画などについて理解しておいてください。		60
第2回	さまざまなイングリッシュネスの形式——英国紳士／カントリーハウスの表象をあらためて考え直そう！		
	復習：イングリッシュネスに関する授業の内容を整理し理解を深めるようにする。		90
第3回	英国史劇とヨーロッパ宮廷文化の転回		
	復習：英国史劇に関する授業の内容を整理し理解を深めるようにする。		90

第4回	英国史劇の構造と英仏百年戦争のさまざまな起源	
	復習：ヨーロッパ宮廷文化と英国史劇にかかわる英仏百年戦争に関する授業の内容を整理し理解を深めるようにする。 予習：テキストのエンディングならびにテーマについて授業で与えられた課題をやる。	90
第5回	交換される女の表象とヨーロッパ初期近代の地政学	
	復習：交換される女の形式とに関する授業の内容を整理し理解を深めるようにする。	90
第6回	中間レビュー——シェイクスピアの英国史劇は、実は、何を上演していたのか？	
	復習：ここまでやってきた授業の内容を整理し理解を深めるようにする。	90
第7回	ウッドヴィル家の女たち、あるいは、フィリッパ・グレゴリー『白い女王』	
	復習：ウッドヴィル家とヨーロッパとの関係について確認・発展学習をする。	90
第8回	15世紀ヨーロッパの「世紀の結婚」とヨーク家のマーガレット	
	復習：ブルージュにおける結婚式とヨーロッパの高等金融について確認・発展学習をする。	90
第9回	英国史劇とブルゴーニュ公国 ——ブルゴーニュ公国の政治文化あるいは「中世の秋」を取り上げる意味はナニか？	
	復習：ブルゴーニュ公国についてホイジンガの『中世の秋』の解釈を確認しておく。	90

第10回	ヒラリー・マンテル『ウルフ・ホール』が表象するヘンリー8世の時代	
	復習：ヒラリー・マンテル『ウルフ・ホール』について発展学習をする。	90
第11回	百年戦争の始まりと薔薇戦争の終結、あるいは、エリザベス1世の時代	
	復習：百年戦争との関連も含め、薔薇戦争のグローバルな意味を、確認・発展学習する。	90
第12回	ロマンス劇の歴史的転回——『テンペスト』の「素晴らしき新世界」と30年戦争	
	復習：ロマンス劇の歴史的転回について、授業でやったことを確認しまとめる	90
第13回	レポート課題の解題・レポートの書き方について	
	復習：レポート課題について確認したうえ、アカデミックなレポートの書き方について調べておく。	90
第14回	授業の内容に関するレビューやディスカッション、ならびに、レポート課題についての質疑応答	
	復習：授業の内容に関するレビューやディスカッション、ならびに、レポート課題についての質疑応答について、整理し理解を確認しておくこと。	90
第15回	授業のまとめ、あるいは、確認の小テスト	
	復習：テキストやサブテキストについて授業でやった内容をふまえて、自分自身が提出する学期末レポートに備える。	90

授業の方法

授業は講義形式で行い、題材として、現代の映画・映像文化と連動するヨーロッパ宮廷の騎士道文化、シェイクスピアの英国史劇やロマンス劇を取り上げるが、イギリスだけでなくブルゴーニュ公国の政治文化やイタリア都市国家・スペイン帝国を継承したフランス国家の貴族文化も、グローバルなコンテキストにおいてそのいささか込み入った関係性を探る。
詳細については初回授業時に指示します。

成績評価の方法

授業への積極的な参加：20%
指示された発表等の内容：30%
学期末レポートの成績：50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ①テキストの基本構造（主人公・プロット・テーマ）を分析し、理解することができる。
- ②ナショナル・アイデンティティをめぐる問題系を把握する、言い換えれば、多くの題材からそうしたネイションとアイデンティティといった問題を可能にするさまざまなグローバリゼーションおよびそれに対応するナショナルな文化について考える視点を獲得することができる。そしてその理解・解釈をアカデミックなレポートで提示できているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくにありません。

テキスト

大谷伴子『マーガレット・オブ・ヨークの「世紀の結婚」—英国史劇とブルゴーニュ公国』横浜：春風社、2014。

参考書

ドニ・ド・ルージュモン『愛について』上・下 鈴木健郎・川村克己訳 東京：平凡社、1993。
ヴェレーナ・フォン・デア・ハイデン＝リンシュ『ヨーロッパのサロン——消滅した女性文化の原点』石丸昭二訳 東京：法政大学出版局、1998。
ヨーハン・ホイジンガ『中世の秋』堀越孝一訳 東京：中央公論社、1979。
フランセス・イエイツ『シェイクスピア最後の夢』藤田実訳 東京：晶文社、1980。
フランシス・A・イエイツ『星の処女神エリザベス女王——十六世紀における帝国の主題』西澤龍生・正木晃訳 東京：東海大学出版会、1982。
ジョヴァンニ・アリギ『長い20世紀——資本、権力、そして現代の系譜』柄谷利恵子ほか訳 東京：作品社、2009。

井野瀬久美恵編『イギリス文化史』京都：昭和堂、2010。
大谷伴子『秘密のラティガン—戦後英国演劇のなかのトランス・メディア空間』横浜：春風社、2015。
大谷伴子ほか編著『ポスト・ヘリテージ映画——サッチャリズムの英国と帝国アメリカ』東京：上智大学出版、2010。
大谷伴子ほか編著『イギリス映画と文化政策——ブレア政権以降のポリティカル・エコノミー』東京：慶応義塾大学出版会、2012。
その他、授業時に適宜、指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

非常勤なので、基本的に授業時に対応する。

科目名	英米文学を読むための思想B		
教員名	大熊 昭信		
科目ナンバー	1151415104	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
英米の文学作品を読んでいると、その歴史的背景や日常生活上の知識が不足していたためなかなか理解するのが難しい場面に遭遇することがある。それは作家の振る舞いを理解しようとする場合でもそうである。そうしたなかで、おもに宗教や科学や階級や他民族の表象といった話題で思想にかかわる事柄を主として取り上げ、その具体例を個々の作品で示しながら、その解説を概論風に行う。たとえば『ピーター・ラビット』の例にとり、そこに弱肉強食の世界観があることを読み取り、ダーウィンの進化論の理解が必要であることを確認するといった具合である。そのうえでダーウィンの思想の全般的な影響といったものを概説する。その際、あくまで日本人読者のための初歩的な知識を一般的に概説することを主眼としているので、理解を容易にするために日本文化と比較しながら話を進めることになる。 英米の思想は、おおきくわけて、経験主義、神秘主義、合理主義、ユーモアの四つの領域から検討することができる。そこで英米の文学作品からこれらを踏まえることで理解が深まると思われる事例を挙げながら、一回に一事例といった形で授業を展開する。最後に文芸思潮としてロマン主義リアリズム、モダニズム・ポストモダニズムについて概説する。			
到達目標			
イギリス文学を読む上での基本的な知識を習得することを目指す。そうした知見をもとに独自の視点で英文学や文化を解釈できる知力を要請する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	授業の概要—英米思想の特徴		
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。		60分
第2回	経験主義（『クマのプーさん』）		
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。		90分
第3回	功利主義（ベンサム、ディケンズ）、プラグマティズム		
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。		90分

第4回	進化論（ダーウィン）、社会ダーウィニズム（『ピーター・ラビット』）	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第5回	科学思想（ニュートン）、合理主義、決定論（ハーディ）、空想科学小説（ウェルズ）、探偵小説（ドイル、クリスティ）	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第6回	ユダヤ教、キリスト教、イスラム（アーノルド『ヘレニズムとヘブライズム』）	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第7回	カトリック（トールキン）とプロテスタント（ロレンス）と英国国教会（ベッチャマン）	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第8回	キリスト教と異教主義（ピーター・パン、メアリー・ポピンズ、D・H・ロレンス）	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第9回	神秘主義と象徴主義（ブレイク、イエイツ）	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分

第10回	ファンダメンタリズム（ラシュディ）、改宗、転向（ウォー、エリオット）	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第11回	ユーモア、ナンセンス（アリス、ジョイス、ジョン・ケージ、ベケット）	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第12回	ファンタジー（『フランケンシュタイン』『ドラキュラ』トールキン）	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第13回	ロマン主義とリアリズム	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第14回	モダニズムとポストモダニズム	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第15回	まとめ	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	60分

授業の方法 講義を中心とする。ビデオ等も参照し、理解を容易にするための便宜を図る。
成績評価の方法 授業中の態度や、発言の内容（４０パーセント）を加味し、最終的には期末試験（６０パーセント）で評価する。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特にない
テキスト 特にない
参考書 授業中に指示する。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) 水曜日の昼休み（講師控室）

科目名	英語史 I		
教員名	中村 幸一		
科目ナンバー	1251415107	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
英語の歴史を、社会的な出来事の歴史、言語内の歴史の両面から概説する。とくに、現代英語で「不規則」や「例外」などと片付けられている現象について詳しく解説する。			
到達目標			
中等教育で、英語を教える時に、この授業の内容を話す必要はないが、教員としては分かっていた方がよい知識は多い。それを習得することとする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	90分で語る英語史		
	なし	0	
第2回	言語変化、英語以前		
	テキスト該当箇所の予習	90	
第3回	インド・ヨーロッパ語族		
	テキスト該当箇所の予習	90	

第4回	古英語とゲルマン民族	
	テキスト該当箇所の予習	90
第5回	デーン人とデーンロー	
	テキスト該当箇所の予習	90
第6回	キリスト教の伝来	
	テキスト該当箇所の予習	90
第7回	歴史的事件の古英語への影響（1）	
	テキスト該当箇所の予習	90
第8回	歴史的事件の古英語への影響（2）	
	テキスト該当箇所の予習	90
第9回	中期英語：ノルマン征服	
	テキスト該当箇所の予習	90

第10回	中期英語：百年戦争	
	テキスト該当箇所の予習	90
第11回	歴史的事件の中期英語への影響	
	テキスト該当箇所の予習	90
第12回	初期近代英語	
	テキスト該当箇所の予習	90
第13回	現代英語	
	テキスト該当箇所の予習	90
第14回	古英語、中期英語、初期近代英語による聖書の比較	
	テキスト該当箇所の予習	90
第15回	文法について－記述文法と学校文法	
	テキスト該当箇所の予習	90

授業の方法

英文テキストの概要を述べつつ、補足的知識を加えて解説する。

成績評価の方法

レポート（60％）、平常点（40％）から決定する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Norbert Schmitt and Richard Marsden, Why Is English Like That?--Historical Answers to Hard ELT Questions, University of Michigan Press.

参考書

青山吉信他編『概説イギリス史』有斐閣選書。
家入葉子『ベーシック英語史』ひつじ書房。
寺澤芳雄編『英語語源辞典』研究社。
中島文雄『英語発達史』岩波全書。
渡部昇一『講談・英語の歴史』PHP新書。

Albert C. Baugh & Thomas Cable, A History of the English Language, 4th ed, Routledge.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	英語史II		
教員名	中村 幸一		
科目ナンバー	1251415108	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
英語の文法、語彙、意味、綴字の歴史を概説する。とくに、現代英語で「不規則」や「例外」などと片付けられている現象について詳しく解説する。			
到達目標			
中等教育で、英語を教える時に、話す必要はないが、教員としては分かっていた方がよいことを知る。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	形態論的不規則性について一名詞、格		
	テキスト当該箇所の予習		90
第2回	古英語の格変化		
	テキスト当該箇所の予習		90
第3回	複数形、単数と複数が同じなのはなぜか		
	テキスト当該箇所の予習		90

第4回	借用語の複数形	
	テキスト当該箇所の予習	90
第5回	形容詞、副詞	
	テキスト当該箇所の予習	90
第6回	代名詞—me か I か。who, which, that	
	テキスト当該箇所の予習	90
第7回	動詞—「不規則」動詞	
	テキスト当該箇所の予習	90
第8回	統語論における「不規則」	
	テキスト当該箇所の予習	90
第9回	分離不定詞、法助動詞＝モードを変える助動詞	
	テキスト当該箇所の予習	90

第10回	否定形、be 動詞、英語の語彙：大和言葉	
	テキスト当該箇所の予習	90
第11回	借用語、二重語、造語法—複合語、派生語、接辞添加、混成語	
	テキスト当該箇所の予習	90
第12回	発音の変化、理由、「音変化の経済性」	
	テキスト当該箇所の予習	90
第13回	古英語、中期英語の発音、母音大推移（1）	
	テキスト当該箇所の予習	90
第14回	母音大推移（2）、アクセント、「容認発音」	
	テキスト当該箇所の予習	90
第15回	古英語のアルファベット、ルーン文字、ローマ字、ギリシャ文字、フェニキア文字	
	テキスト当該箇所の予習	90

授業の方法

テキストの英文を敷衍、解説しつつ説明する。

成績評価の方法

レポート（60％）、平常点（40％）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Norbert Schmitt and Richard Marsden, *Why Is English Like That?—Historical Answers to Hard ELT Questions*, University of Michigan Press.

参考書

青山吉信他編『概説イギリス史』有斐閣選書。
家入葉子『ペーシック英語史』ひつじ書房。
寺澤芳雄編『英語語源辞典』研究社。
中島文雄『英語発達史』岩波全書。
渡部昇一『講談・英語の歴史』PHP新書。

Albert C. Baugh & Thomas Cable, *A History of the English Language*, 4th ed, Routledge.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	英文法 I		
教員名	長谷川 宏		
科目ナンバー	1251415109	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
ノーム・チョムスキーの提案した生成文法理論に基づいて、英語の多種多様な構文を分析し、従来の学校文法だけではわからなかった、人間の言語がもつ複雑で興味深い特性、そしてその背後で作用しているさまざまな普遍的原理・人間の言語処理のしくみについて学びます。			
到達目標			
(1) 英語の各構文を分析してその性質を正確に理解し、自分でも使えるようにする。 (2) それらの構文の背後で作用している普遍的原理・脳の言語処理のしくみについて、深く理解し説明できるようにする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス 生成文法理論の基本的な考え方、特に生得仮説(innateness hypothesis)について学ぶ。		
	生成文法理論の基本的な考え方、特に生得仮説について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。	60分	
第2回	生成文法理論の基本的なしくみ、特に初期の理論における句構造規則(phrase structure rules)について学ぶ。		
	句構造規則について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。	60分	
第3回	引き続き句構造規則について学び、さらに理解を深める。		
	引き続き句構造規則について、授業で紹介する資料を参照しつつさらに復習する。	60分	

第4回	埋め込み文 (embedded sentence) の構造について、埋め込みを含む英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。	
	埋め込み文について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。	60分
第5回	不定詞節 (infinitival clause) について、want や persuade のような動詞の後ろに不定詞節がくる構文を分析しつつ、その特性について考察する。	
	不定詞節について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。	60分
第6回	生成文法理論の中で重要な位置を占める、移動現象のしくみについて学ぶ。特に、名詞句移動 (NP-Movement) について取り上げ、繰り上げ (Raising) と呼ばれる現象について、英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。	
	名詞句移動と繰り上げについて、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。	60分
第7回	引き続き名詞句移動 (NP-Movement) について取り上げ、受動文 (受け身文: passive sentence) と呼ばれる構文について、英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。	
	受動文について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。	60分
第8回	Wh移動と呼ばれる現象について学ぶ。Wh移動が作用すると考えられる、Wh疑問文について、英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。	
	Wh疑問文について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。	60分
第9回	引き続きWh移動と呼ばれる現象について学ぶ。Wh移動が作用すると考えられる、関係節 (relative clause) について、英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。	
	関係節について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。	60分

第10回	不定詞関係節(infinitival relative clause)と呼ばれる構造について、英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。	
	不定詞関係節について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。	60分
第11回	言語の持つ回帰性(recursion)について学ぶ。英語の多重埋め込み文などの構造を分析しつつ、その特性について考察する。	
	言語の回帰性について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。	60分
第12回	移動に課せられる制約について学ぶ。島の制約 (island constraints)について、移動現象がかかわる英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する	
	島の制約について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。	60分
第13回	引き続き島の制約 (island constraints)について、移動現象がかかわる英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する	
	引き続き島の制約について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。	60分
第14回	島の制約を説明する下接の条件(subjacency condition)について学ぶ	
	下接の条件について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。	60分
第15回	これまでの授業のまとめと、その内容の理解度を問うテストを実施する。	
	これまでの授業の内容について、授業で紹介する資料を参照しつつ復習する。	60分

授業の方法

必要に応じてプリントを配布しながら、講義形式で行います。前の授業で学んだことを前提に次の授業が進んでいくので、授業には毎回出席するようにしてください。ある程度以上出席していないと成績評価の対象になりません。

成績評価の方法

学期末に履修者数と教室のサイズに応じて「到達度確認テスト」または「学期末試験」を行い評価します。「到達度確認テスト」または「学期末試験」70%、平常点30%で評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

英語学概論 Ⅰ・Ⅱ

テキスト

必要に応じてプリントを配布します。

参考書

英語構文事典、中島平三編、大修館書店
増補版 チョムスキー理論辞典、原口庄輔・中村捷・金子義明 編、研究社
授業の際に適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業の前後に時間を取りますので、質問がある人は事前に連絡してください。

科目名	英文法II		
教員名	長谷川 宏		
科目ナンバー	1251415110	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

ノーム・チョムスキーの提案した生成文法理論に基づいて、英語の多種多様な構文をさらに分析し、従来の学校文法だけではわからなかった、人間の言語がもつ複雑で興味深い特性、そしてその背後で作用しているさまざまな普遍的原理・人間の言語処理のしくみについて、英文法Iに引き続きより深く学びます。

到達目標

- (1) 英語の各構文を分析してその性質をより正確に理解し、自分でも使えるようにする。
- (2) それらの構文の背後で作用している普遍的原理・脳の言語処理のしくみについて、さらに深く理解し説明できるようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	外置(Extraposition)と呼ばれる操作が作用する英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。	
	外置について授業で紹介した資料を参照しつつ復習する。	60分
第2回	Tough構文と呼ばれる英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。	
	Tough構文について授業で紹介した資料を参照しつつ復習する。	60分
第3回	小節(small clause)と呼ばれる構造を含む英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。	
	小節について授業で紹介した資料を参照しつつ復習する。	60分

第4回	θ 役割 (θ -role) と格 (Case) について、英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。	
	θ 役割と格について授業で紹介した資料を参照しつつ復習する。	60分
第5回	Xバー理論 (X-bar theory) と呼ばれる理論について、英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。	
	Xバー理論について授業で紹介した資料を参照しつつ復習する。	60分
第6回	動詞句内主語仮説 (VP-internal subject hypothesis) について、英語の構文を分析しつつ考察する。	
	動詞句内主語仮説について授業で紹介した資料を参照しつつ復習する。	60分
第7回	There構文と呼ばれる英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。	
	There構文について授業で紹介した資料を参照しつつ復習する。	60分
第8回	二次述語 (secondary predicates) と呼ばれる構造を含む英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。	
	二次述語について授業で紹介した資料を参照しつつ復習する。	60分
第9回	引き続き二次述語 (secondary predicates) を含む英語の構文を分析しつつ、その特性についてさらに考察する	
	引き続き二次述語について授業で紹介した資料を参照しつつさらに復習する。	60分

第10回	分裂文(cleft sentence)および疑似分裂文(pseudo-cleft sentence)について、英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。	
	分裂文・疑似分裂文について授業で紹介した資料を参照しつつ復習する。	60分
第11回	比較(comparative)構文について、英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。	
	比較構文について授業で紹介した資料を参照しつつ復習する。	60分
第12回	部分比較(subcomparative)構文および句比較(phrasal comparative)構文について、英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。	
	部分比較構文・句比較構文について授業で紹介した資料を参照しつつ復習する。	60分
第13回	束縛理論(Binding Theory)について、英語の再帰代名詞(reflexive pronoun)を含む英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。	
	束縛理論・再帰代名詞について授業で紹介した資料を参照しつつ復習する。	60分
第14回	束縛理論について、英語の代名詞(pronoun)を含む英語の構文を分析しつつ、その特性について考察する。	
	束縛理論・代名詞について授業で紹介した資料を参照しつつ復習する。	60分
第15回	これまでの授業のまとめと、その内容の理解度を問うテストを行う。	
	これまでの授業の内容について、授業で紹介した資料を参照しつつ復習する。	60分

授業の方法

必要に応じてプリントを配布しながら、講義形式で行います。前の授業で学んだことを前提に次の授業が進んでいくので、授業には毎回出席するようにしてください。

成績評価の方法

学期末にテストを行い評価します。ある程度以上出席していることが成績評価の前提となります。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

英語学概論 I・II

テキスト

必要に応じてプリントを配布します。

参考書

英語構文事典、中島平三編、大修館書店
増補版 チョムスキー理論辞典、原口庄輔・中村捷・金子義明 編、研究社
授業の際に適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業の前後に時間を取りますので、質問がある人は事前に連絡してください。

科目名	英語教育 I		
教員名	長沼 君主		
科目ナンバー	1251415111	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
言語学習における個人差要因に焦点をあて、よい言語学習者とは何かを考える。			
到達目標			
よい言語学習者についての理解を深め、自己を内省する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	1. よい言語学習者とは何か？		
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分	
第2回	2. 12才では遅すぎるのか？		
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分	
第3回	3. 学習ストラテジーを見つめ直す		
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分	

第4回	4. 学習スタイルを見つめ直す	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第5回	5. 言語学習への適性を考える	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第6回	6. 言語学習への信念を考える	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第7回	7. 言語学習不安や動機づけを考える	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第8回	8. 大学生の学習記録が語るもの	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第9回	9. 達人たちのインタビューが語るもの	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分

第10回	10. 成功者の記した書物が語るもの	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第11回	11. 理論の語るもの	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第12回	12. 実証データから見えるもの	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第13回	13. 成功につながる学習法とは？	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第14回	14. 自己の学習を振り返る	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第15回	15. まとめ	
	授業前に学期を通して学んだ内容を振り返ってくること。また、授業後に再度振り返りをし、ジャーナルにまとめること。	90分

授業の方法

講義を中心に毎回アクションペーパーを提出し、最後にレポートにまとめて提出する。

成績評価の方法

レポート(60%)・参加度(20%)・平常点(20%)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に必要なし

テキスト

『より良い外国語学習法を求めて-外国語学習成功者の研究』、竹内理、松柏社

参考書

『外国語学習に成功する人、しない人-第二言語習得論への招待』、白井恭弘、岩波書店

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	英語教育II		
教員名	長沼 君主		
科目ナンバー	1251415112	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
言語能力評価に焦点をあて、言語能力を伸ばすにはどうするかを考える。			
到達目標			
言語能力評価についての理解を深め、自己を内省する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	1. 言語能力とは何か？		
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分	
第2回	2. テストでは何を測っているのか：英検でわかるもの		
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分	
第3回	3. テストでは何を測っているのか：TOEICでわかるもの		
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分	

第4回	4. テストでは何を測っているのか：TOEFLでわかるもの	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第5回	5. コンピュータを用いた能力評価：ライティング評価	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第6回	6. コンピュータを用いた能力評価：スピーキング評価	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第7回	7. ヨーロッパにおける言語能力フレームワーク：CEFR	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第8回	8. アメリカにおける言語能力スタンダード：ACTFL	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第9回	9. コミュニケーション能力とは何か？	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分

第10回	10. テストで測れるものと測れないもの？	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第11回	11. 自己の言語能力を見つめ直す(1)	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第12回	12. 自己の言語能力を見つめ直す(2)	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第13回	13. 言語能力を伸ばすにはどうすればよいのか？(1)	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第14回	14. 言語能力を伸ばすにはどうすればよいのか？(2)	
	授業前に教科書の該当ページを読んでくること。また、授業後にこれまでの学習経験や自身について内省し、考えたことをジャーナルにつけること。	90分
第15回	15. まとめ	
	授業前に学期を通して学んだ内容を振り返ってくること。また、授業後に再度振り返りをし、ジャーナルにまとめること。	90分

授業の方法

講義を中心に毎回アクションペーパーを提出し、最後にレポートにまとめて提出する。
テキストは日本語教育のものを利用するが、英語教育の事例を中心に議論する。

成績評価の方法

レポート(60%)・参加度(20%)・平常点(20%)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

『プロフィシエンシーを育てる-真の日本語能力をめざして』、鎌田修・嶋田和子・迫田久美子、凡人社

参考書

『ACTFL - OPI入門-日本語学習者の「話す力」を客観的に測る』、牧野 成一他、アルク

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	TESL I		
教員名	ロブソン ゴードン レーン		
科目ナンバー	1251415113	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
The themes that will be taken up in this course are first language acquisition, second language acquisition and individual learner differences. The emphasis in the first language acquisition part of the course will be on the developmental sequences all children go through when acquiring their first language. We then then look at the different theories that have been put forth to explain how first language acquisition takes place. Finally, we will briefly look at language disorders and bilingualism. During the second language acquisition phase, we will look at learner characteristics, learning conditions, learner language, developmental sequences, the influence of the first language, and the learning of vocabulary pragmatics and pronunciation. In the final portion of this course, we will look at such individual learner differences factors as intelligence, aptitude, learning styles, personality, attitudes & motivation and learner beliefs. We will also look at the age factor in classroom second language learning.			
到達目標			
The goal of this course is to familiarize students with the essential topics related to second language learning and teaching. We will cover a great number of topics, but not very deeply. Additional information and ideas beyond those provided by the textbook will be referred to from time to time. It is hoped that after completion of this course, students willbe motivated to study these subjects more deeply and to become more interested in a career in English language teaching.			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	Introduction to the course.		
	Be prepared to read and discuss the textbook's preface and introduction.	60 min.	
第2回	Chapter 1, Language Learning in Early Childhood: First Language Acquisition.		
	Be prepared to read and discuss pages 5-14.	60 min.	
第3回	Chapter 1, cont., Explaining First Language Acquisition. Human Baby video.		
	Be prepared to read and discuss pages 14-24.	60 min.	

第4回	Chapter 1, cont., Interactionist/Developmental Perspectives; Language Disorders and Delays & Childhood Bilingualism.	
	Be prepared to read and discuss pages 24-34	60 min.
第5回	Chapter 2, Second Language Learning: Learner Characteristics; Learning Conditions & Studying the Language of Second Language Learners.	
	Be prepared to read and discuss pages 35-41.	60 min.
第6回	Chapter 2, cont., Contrastive Analysis, Error Analysis and Interlanguage & Developmental Sequences.	
	Be prepared to read and discuss pages 41-51.	60 min.
第7回	Chapter 2, cont., Possessive Determiners; Relative Clauses; Reference to Past; Movement Through Developmental Sequences & First Language Influence. Mid-Term Essay due.	
	Be prepared to read and discuss pages 52-60.	60 min.
第8回	Chapter 2, cont., Vocabulary; Pragmatics; Phonology & Sampling Learners' Language.	
	Be prepared to read and discuss pages 60-74.	60 min.
第9回	Chapter 3, Individual Differences in Second Language Learning: Research on Learner Characteristics; Intelligence & Aptitude.	
	Be prepared to read and discuss pages 75-83.	60 min.

第10回	Chapter 3, cont., Learning Styles: Personality & Attitudes and Motivation	
	Be prepared to read and discuss pages 83-89.	60 min.
第11回	Chapter 3, cont., Identity and Ethnic Group Affiliation, Learner Beliefs & Individual Differences and Classroom Instruction.	
	Be prepared to read and discuss pages 89-92.	60 min.
第12回	Chapter 3, cont., Age and Second Language Learning & The Critical Period.	
	Be prepared to read and discuss pages 92-95.	60 min.
第13回	Genie Video.	
	Be prepared to read and discuss the handout.	60 min.
第14回	Chapter 3, cont., Intuitions of Grammaticality: Rate of Learning & Age and Second Language Instruction.	
	Be prepared to read and discuss pages 95-101.	60 min.
第15回	Review of material covered Final Essay Due	
	Be prepared to review the course materials.	60 min.

授業の方法

This course will be conducted entirely in English. Students will need a high level of English language ability to be able to fully benefit from this course. There will be a great deal of reading work supplemented with videos and handouts. Students will be expected to actively participate during class time. Students will also produce two, five page summaries and reaction papers.

成績評価の方法

The final grade will be based on the following criteria: 1) classroom participation 30% 2) reports 70%. The reports are five pages in length on A4 sized paper and double spaced. Three pages are a summary of some section of the textbook with a two page reaction section.

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N/A

テキスト

How Languages are Learned, Fourth Edition, Patsy M. Lightbown & Nina Spada, Oxford University Press, ISBN: 978 0 19 454126 8

参考書

Relevant resources or books will be introduced as needed.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Question will be taken before and after class.

科目名	TESL II		
教員名	ロブソン ゴードン レーン		
科目ナンバー	1251415114	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
The themes that will be taken up in this course include explaining second language learning, observing learning and teaching in the second language classroom and second language learning in the classroom. The section on explaining second language learning will look at the behaviourist perspective, the innatist perspective and the cognitive perspective. We will also examine the sociocultural perspective. During the observing learning and teaching in the second language classroom portion of this course, we will look at natural and instructional settings, observation schemes and ethnography. Finally, in the section dealing with second language classroom learning, we will concentrate on teaching proposals.			
到達目標			
The goal of this course is to familiarize students with the essential topics related to second language learning and teaching. We will cover a great number of topics, but not very deeply. Additional information and ideas beyond those provided by the textbook will be referred to from time to time. It is hoped that after completion of this course, students will be motivated to study these subjects more deeply and to become more interested in a career in English language teaching			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	Chapter 4, Explaining Second Language Learning: The Behaviourist Perspective & The Innatist Perspective.		
	Be prepared to read and discuss pages 103-108.	60 min.	
第2回	Chapter 4, cont., The Cognitive Perspective: Language and the Brain & Second Language Applications: Interacting: Noticing: Processing & Practicing.		
	Be prepared to read and discuss pages 108-118.	60 min.	
第3回	Chapter 4, cont., The Sociocultural Perspective.		
	Be prepared to read and discuss pages 118-122.	60 min.	

第4回	Chapter 5, Observing Learning and Teaching in the Second Language Classroom: Natural Instructional Settings & In Structure-Based Instructional Settings.	
	Be prepared to read and discuss pages 123-127.	60 min.
第5回	Chapter 5, cont., In Communicative Instructional Settings & Observation Schemes.	
	Be prepared to read and discuss pages 127-133.	60 min.
第6回	Chapter 5, cont., Characteristic of Input and Interaction & Classroom Comparisons.	
	Be prepared to read and discuss pages 133-139.	60 min.
第7回	Chapter 5, cont., Corrective Feedback in the Classroom. Mid-Term Essay due.	
	Be prepared to read and discuss pages 139-145.	60 min.
第8回	Chapter 5, cont., Questions in the Classroom & Ethnography.	
	Be prepared to read and discuss pages 145-152.	60 min.
第9回	Chapter 6, Second Language Learning in the Classroom: Proposals for Teaching: 1 Get it Right from the Beginning.	
	Be prepared to read and discuss pages 153-159.	60 min.

第10回	Chapter 6, cont., 2 Just Listen... and Read.	
	Be prepared to read and discuss pages 159-165.	60 min.
第11回	Chapter 6, cont., 3 Let's Talk.	
	Be prepared to read and discuss pages 165-171.	60 min.
第12回	Chapter 6, cont., 4 Get Two for One.	
	Be prepared to read and discuss pages 171-177.	60 min.
第13回	Chapter 6, cont., 5 Teach What is Teachable.	
	Be prepared to read and discuss pages 177-182.	60 min.
第14回	Chapter 6, cont., 6 Get it Right in the End.	
	Be prepared to read and discuss pages 182-199.	60 min.
第15回	Review of materials covered. Final essay due.	
	Be prepared to review the course materials.	60 min.

授業の方法

This course will be conducted entirely in English. Students will need a high level of English language ability to be able to fully benefit from this course. There will be a great deal of reading work supplemented with videos and handouts. Students will be expected to actively participate during class time. Students will also produce two, five page summaries and reaction papers.

成績評価の方法

The final grade will be based on the following criteria: 1) classroom participation 30% 2) reports 70%. The reports are five pages in length on A4 sized paper and double spaced. Three pages are a summary of some section of the textbook with a two page reaction section.

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N/A

テキスト

How Languages are Learned, Fourth Edition, Patsy M. Lightbown & Nina Spada, Oxford University Press, ISBN: 978 0 19 454126 8

参考書

Relevant resources or books will be introduced as needed.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Questions are accepted immediately before and after class.

科目名	英語音声学 I		
教員名	平山 真奈美		
科目ナンバー	1251415115	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

この授業では、主に調音音声学に基づいて英語音声の記述及び発音の仕組みを学ぶ。発音記号の使い方、発音方法、英語の音声文法を扱い、必要に応じて日本語との比較も行う。英語音の音響特性についても触れる。

到達目標

DP 1（教養の修得）、DP 2（課題の発見と解決）、DP 5（表現力、発信力）、DP 6（文化現象の総合的理解）、DP 7（問題発見能力および多面的な分析能力）の実現のため、この授業では以下のことを目標とする。

- 英語の音声の仕組みおよび音韻構造を理解する。
- 発音記号を使った表記ができるようになる。
- 英語音の音響特徴を理解する。
- 言語データの分析方法を身につける。
- 分析結果を論理的に他者に伝える方法を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Introduction Overview of course Speech organs - Carr Ch. 1	
	Readings: Carr Ch. 1	60
第2回	Consonants I - Carr Ch. 1	
	Readings: Carr Ch. 1 Homework	90
第3回	Consonants II - Carr Ch. 2	
	Readings: Carr Ch. 2 Homework	90

第4回	Quiz 1 Vowels I – Carr Ch. 3	
	Readings: Carr Ch. 3 Preparation for quiz Homework	120
第5回	Vowels II Japanese vowels – Carr Ch. 4	
	Readings: Carr Ch. 4 Homework	90
第6回	Vowels III Phonemes – Carr Ch. 5, 6	
	Readings: Carr Ch. 5, 6 Homework	90
第7回	The syllable – Carr Ch. 7	
	Readings: Carr Ch. 7 Homework	90
第8回	Quiz 2 Stress and accent – Carr Ch. 8	
	Readings: Carr Ch. 8 Preparation for quiz Homework	120
第9回	Acoustic phonetics I	
	Homework	90

第10回	Acoustic phonetics II	
	Homework	90
第11回	Quiz 3 Rhythm – Carr Ch. 9	
	Readings: Carr Ch. 9 Preparation for quiz Homework	120
第12回	Intonation Acoustics of intonation – Carr Ch. 10	
	Readings: Carr Ch. 10 Homework	90
第13回	Dialects of English – Carr Ch. 12	
	Readings: Carr Ch. 12 Homework	90
第14回	Quiz 4 Dialects of English – Carr Ch. 13	
	Readings: Carr Ch. 13 Preparation for quiz	120
第15回	Review of course	
	Review of course	60

授業の方法

授業は主に講義と練習問題を解くことから構成される。練習問題はみなで議論しながら行う。小テストにて到達度を確認する。

成績評価の方法

- Homework assignments: 50%
- Quizzes: 50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

英語学概論 I、英語学概論 II

テキスト

Carr, Philip. (2013). English Phonetics and Phonology: An Introduction. (2nd ed.). Malden, MA; Oxford: Wiley-Blackwell.

参考書

- Johnson, Keith. (2011). Acoustic and Auditory Phonetics. (3rd ed.). Wiley-Blackwell.
- Ladefoged, Peter and Keith Johnson. (2015). A Course in Phonetics. (7th ed.). Wadsworth Publishing.
- Odden, David. (2013). Introducing Phonology. (2nd ed.) Cambridge: Cambridge University Press.
- Rogers, Henry. (2000). The Sounds of Language. Harlow: Pearson Education Limited.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	英語音声学II		
教員名	笠原 園子		
科目ナンバー	1251415116	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
英語の音声現象を説明する規則を学ぶ。その知識をベースに実践練習をおこなうことで、「知っている」だけにとどまらず、実際に自分の英語の発音とリスニング力を向上させる。			
到達目標			
日本語音声との違いを理解する。 英語音声の規則について自分の言葉で説明でき、かつ実現できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	つづり字と発音		
	復習として授業で得た知識を整理し、教科書付属のCDを使って練習する。 予習として教科書を読み、知らない単語は意味と発音記号を辞書で調べてくる。		90
第2回	閉鎖子音		
	復習として授業で得た知識を整理し、教科書付属のCDを使って練習する。 予習として教科書を読み、知らない単語は意味と発音記号を辞書で調べてくる。		90
第3回	摩擦子音		
	復習として授業で得た知識を整理し、教科書付属のCDを使って練習する。 予習として教科書を読み、知らない単語は意味と発音記号を辞書で調べてくる。		90

第4回	破擦子音、鼻子音	
	復習として授業で得た知識を整理し、教科書付属のCDを使って練習する。 予習として教科書を読み、知らない単語は意味と発音記号を辞書で調べてくる。	90
第5回	その他の子音（/l/, /r/ など）	
	復習として授業で得た知識を整理し、教科書付属のCDを使って練習する。 予習として教科書を読み、知らない単語は意味と発音記号を辞書で調べてくる。	90
第6回	短母音、長母音	
	復習として授業で得た知識を整理し、教科書付属のCDを使って練習する。 予習として教科書を読み、知らない単語は意味と発音記号を辞書で調べてくる。	90
第7回	二重母音、弱母音	
	復習として授業で得た知識を整理し、教科書付属のCDを使って練習する。 予習として教科書を読み、知らない単語は意味と発音記号を辞書で調べてくる。	90
第8回	音の連続	
	復習として授業で得た知識を整理し、教科書付属のCDを使って練習する。 予習として教科書を読み、知らない単語は意味と発音記号を辞書で調べてくる。	90
第9回	アクセント	
	復習として授業で得た知識を整理し、教科書付属のCDを使って練習する。 予習として教科書を読み、知らない単語は意味と発音記号を辞書で調べてくる。	90

第10回	イントネーション（音調群、音調群の構成）	
	復習として授業で得た知識を整理し、教科書付属のCDを使って練習する。 予習として教科書を読み、知らない単語は意味と発音記号を辞書で調べてくる。	90
第11回	イントネーション（音調の種類）	
	復習として授業で得た知識を整理し、教科書付属のCDを使って練習する。 予習として教科書を読み、知らない単語は意味と発音記号を辞書で調べてくる。	90
第12回	イントネーション（音調の用法）	
	復習として授業で得た知識を整理し、教科書付属のCDを使って練習する。 予習として教科書を読み、知らない単語は意味と発音記号を辞書で調べてくる。	90
第13回	特殊なイントネーション	
	復習として授業で得た知識を整理し、教科書付属のCDを使って練習する。 予習として教科書を読み、知らない単語は意味と発音記号を辞書で調べてくる。	90
第14回	リズム	
	復習として授業で得た知識を整理し、教科書付属のCDを使って練習する。 予習として教科書を読み、知らない単語は意味と発音記号を辞書で調べてくる。	90
第15回	まとめ	
	復習として授業で得た知識を整理し、教科書付属のCDを使って練習する。	60

授業の方法

毎回、授業の始めに確認小テストをおこなう。
講義の中で一人ずつ指名し、問題に答えさせたり発音させたりする。
教科書付属のCDを使い自宅練習することを義務とする。

成績評価の方法

3分の2以上の出席を基本とし、普段の受講態度、毎回の小テスト、期末試験（筆記形式）と総合的に判断するが、期末試験は60%以上正解しないとF判定。

出欠管理については毎回行う記述式の小テストの解答用紙をもって出席とみなす。
遅刻、欠席したときの小テストは後で受けてもらうが、点数は50%を成績に反映させる。

音声の理論と実践の両方に対する興味がない場合は、履修を継続することが難しいと思われる。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

英語学の基本的な知識。

テキスト

竹林滋・清水あつ子・斎藤弘子『改訂新版 初級英語音声学』大修館書店（2013）

参考書

授業中に紹介する。推薦図書リストを配布。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	メディア英語 A		
教員名	小林 美文		
科目ナンバー	1251415117	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

アメリカABC放送のニュース番組、World News Tonight で実際に放送されたニュースを教材とし、メディア英語について学びます。具体的にはよく使われる略語やニュース英語の特徴などについて学ぶことにより、理解を深めます。またニュースの理解に不可欠な社会的背景についても、講義や視聴覚教材の視聴、ディスカッションなどを通して学びます。特にアメリカの格差、移民、医療保険制度などの問題に焦点を当てる予定です。

到達目標

- ニュース英語の特徴を理解する。
- 様々な略語を把握する。
- ニュースを正確に聴き取る力を伸ばす。
- 英文を正確に読み、説明する力を身に付ける。
- ニュースの社会的背景を理解する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	シラバス説明、自己紹介、自己紹介シート記入	
	シラバスをよく読む。教科書を購入し、オンライン映像を視聴し予習をする。	60
第2回	Unit 5 Day without Immigrants	
	オンライン映像を視聴し予習、復習をする。	60
第3回	Unit 5 Day without Immigrants	
	オンライン映像を視聴し予習、復習をする。	60

第4回	Unit 11 Report on the Republican Health Care Plan	
	オンライン映像を視聴し予習、復習をする。	60
第5回	Unit 11 Report on the Republican Health Care Plan	
	オンライン映像を視聴し予習、復習をする。	60
第6回	Unit 7 Rising Costs of Trump Family Travel	
	オンライン映像を視聴し予習、復習をする。	60
第7回	Unit 7 Rising Costs of Trump Family Travel	
	中間テストの準備のため、復習をする。	60
第8回	中間テスト	
	中間テストの復習をする。	120
第9回	Unit 2 Coat Designer	
	オンライン映像を視聴し予習、復習をする。	60

第10回	Unit 2 Coat Designer	
	オンライン映像を視聴し予習、復習をする。	60
第11回	Unit 6 911: Fatal Flaws	
	オンライン映像を視聴し予習、復習をする。	60
第12回	Unit 6 911: Fatal Flaws	
	期末テストの準備のため、復習をする。	60
第13回	期末テスト	
	期末テストの復習をする。 個人発表の準備をする。	120
第14回	個人発表	
	個人発表の準備をする。	60
第15回	個人発表	
	個人発表の準備をする。	60

授業の方法

授業は、講義、発表、ディスカッション、レスポンスシート記入などの形式で行います。

成績評価の方法

テスト（2回 40%）

発表（1回 20%）

その他（授業中のディスカッション、レスポンスペーパーなど40%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

ABC World News 20 映像で学ぶ ABCニュースの英語 20

山根繁・Kathleen Yamane 編著、金星堂

ISBN 978-4-7647-4051-8

参考書

授業で紹介する予定です。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	メディア英語B		
教員名	森住 史		
科目ナンバー	1251415118	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
How people and events are described in mass media is largely influenced by who is writing it for whom, along with other factors such as when the text is written and where (or through what media) it appears as well as for what purposes. This class takes a closer look at some news reports and analyze the discourse constructed and presented by the writer. The discourse analysis will focus on the choice of vocabulary, sentence structure, and metaphors used, but it will also address contextual factors such as the target audience and the choice of media.			
到達目標			
Following DP2, the goal of the course is as follows: ・ You should be able to identify particular metaphorical expressions, vocabulary, or sentence construction chosen by the writer to convey a certain version of an event provided in the English-language media. ・ You should also be able to explain what might have motivated the writer to choose the particular expressions. ・ You should be able to critically analyze chosen texts and decipher the narrative constructed by the writer and explain your analysis both orally and in formal writing.			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	Introduction a. What is sociolinguistics? b. What is discourse analysis? c. How is language considered to represent the world?		
	a. Review. b. Find out what the 'Sapir-Whorf hypothesis' is. Be prepared to explain and discuss whether you agree with it or not.		60 min.
第2回	Language and representation 1 a. Discussion on the Sapir-Whorf hypothesis. b. The 'universalist' position versus the 'relativist' position c. One possible universalist approach: metaphor d. Exercise: Find some books on metaphor		
	a. Review. b. Read one book on metaphor. Be prepared to talk about it and tell the class what you have learned in Class 4.		90 min.
第3回	Language and representation 2 a. The universalist approach and metaphor b. Metaphors in English and Japanese: similar? different? c. Differences in vocabulary and grammar between languages d. Possible problems with the relativist approach		
	a. Review. b. Write a summary (600 letters in Japanese, or 300 words in English) of the book on metaphor. Bring it to the next class.		90 min.

第4回	How to read the headlines 1 a. How to 'decipher' a headline b. Exercise: Interpret and explain some headlines	
	a. Review. b. Interpret some news headlines and be ready to explain.	60 min.
第5回	How to read the headlines 2 a. Exercise: Bring some news headlines and explain the grammatical points and meanings	
	a. Review b. What do you know about 'language and gender' issues? Be prepared for discussions.	60 min.
第6回	Words used to depict gender a. How women are described b. How men are described c. Exercise: Find some articles on-line in which women and men are described in certain ways	
	a. Review. b. Find one article that is a good example of how ideas about gender is described by the word choice and bring it to the next class for discussion.	60 min.
第7回	Vocabulary of warfare a. Check the assignment: Discussion b. What words are used and to what effect in modern warfare c. Exercise: Find some articles on-line in which certain words are used to describe warfare	
	a. Review. b. Find one article that is a good example of how ideas related to warfare are described by the word choice and bring it to the next class for discussion.	60 min.
第8回	Vocabulary of acts of terror a. Check the assignment: Discussion b. What words are use and to what effect in reporting acts of terror c. Exercise: Find some articles on-line in which certain words are used to describe acts of terror	
	a. Review. b. Find one article that is a good example of how ideas related to acts of terror are described by the word choice and bring it to the next class for discussion.	60 min.
第9回	Sentence construction and representation a. Check the assignment: Discussion b. Who/What does what to whom/what c. Which newspaper: the target audience d. A quick look at websites of British/American/Japanese newspapers and TV broadcasting companies	
	a. Review. c. Find articles reporting the same event by different newspapers/TV broadcasting companies. Identify who is doing what to whom. Are they using different vocabulary and different sentence structures to tell different stories? Why?	90 min.

第10回	Mid-term Presentation a. Compare your findings in pairs b. Give a brief presentation of your findings	
	a. Review. b. Start thinking about your term paper topics and searching for appropriate texts for analysis.	60 min.
第11回	A case study: violent men and crimes against women a. Review on language and gender b. Vocabulary, metaphor, and sentence constructions to depict men and women in crimes against women c. Language and representation: Summary and conclusion	
	a. Review. b. Think about your term paper topics and searching for appropriate texts for analysis.	60 min.
第12回	Critical discourse analysis a. Analyzing the media b. Critical reading	
	a. Review. b. Think about your term paper topics and searching for appropriate texts for analysis.	60 min.
第13回	Getting ready for the end of the term a. Q&A session b. How to write a term paper	
	a. Start writing your term paper. b. Be ready to give a brief presentation on your term paper topics.	90 min.
第14回	Presentation 1: The first group of the class will give presentations on the term paper topics.	
	a. Keep working on your term paper. b. Be ready to give a brief presentation on your term paper topics.	90 min.
第15回	Presentation 2: The second group of the class will give presentations on the term paper topics.	
	a. Finish writing your term paper.	90 min.

授業の方法

There will be opportunities in class for you to do some internet search for appropriate texts for analysis, but you will need to work more on your own.
There will be weekly assignments, and reviews and preparations are essential.
You will be assigned a term paper at the end of the term.
The classroom language will be both English and Japanese.

成績評価の方法

In-class contribution: 30%
Weekly assignments: 20%
Presentations: 20%
Term paper: 30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N/A

テキスト

Excerpts of the following textbooks, as well as others, will be distributed in class（コピー適宜配布）：
Fairclough, N. (2001). Language and Power. 2nd edition. London: Longman.
Montgomery, M. (2008). An Introduction to Language and Society. 3rd edition. Abingdon: Routledge.
Mooney, A. et al. (2011). Language, Society and Power. 3rd edition. Abingdon: Routledge.
Richardson, J. E. (2006). Analyzing Newspapers: An approach from critical discourse analysis. Basingstoke: Palgrave Macmillan.
Spencer, D. (1998). Man Made Language. 4th edition. London: Rivers Oram.

参考書

You will be introduced to a selection of recommended readings in class.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	イギリス文学・文化 A I		
教員名	大熊 昭信		
科目ナンバー	1251415201	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要			
20世紀のイギリス演劇を語るにはブレヒトとアルトに触れないわけにはいかない。そこで演出家ピーター・ブルックの演劇論『なにもない空間』を紹介しつつ、ブレヒトとアルトの演劇思想がいかに現代演劇を形成してきたかをまず概観したい。そのうえで戦後のイギリス演劇の展開を50年代、60年代のいわゆる「怒れる若者たち」であるオズボーンやディレイニーから初めて、野生演劇としてのウェスカーの社会主義演劇や神聖演劇としてのシェファアやベケットの不条理演劇を紹介する。そして野生演劇と神聖演劇の統合(?)としてピントンの不条理劇を解説する。また、日本の戦後のアングラから始まって平田オリザに至る流れも参照する。			

到達目標			
イギリスの現代演劇の流れを把握し、そのことで日本の現代演劇を含めた近代の演劇についての鑑賞能力と批評する力を養う。あわせて第二次世界大戦後のイギリスの社会の知見を深める。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	授業の概要		
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。		60分
第2回	ピーター・ブルックの活動の紹介—『なにもない空間』の「退廃演劇」「神聖演劇」「野生演劇」「直接演劇」		
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。		90分
第3回	映像：ブルック監督『蠅の王』ビデオ鑑賞		
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。		90分

第4回	4 映像『蠅の王』分析	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第5回	5 ジョン・オズボーン『怒りを込めて振り返れ』ビデオ	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第6回	6 『怒りを込めて振り返れ』テキストとビデオの解説	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第7回	7 アーノルド・ウェスカーと三部作、シーラ・ディレイニー『蜜の味』の紹介	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第8回	8 シーラ・ディレイニー『蜜の味』ビデオ	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第9回	9 ピーター・シェファール紹介	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分

第10回	『アマデウス』テキスト紹介	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第11回	11 サムエル・ベケット紹介	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第12回	12 『ゴドーを待ちながら』ビデオ	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第13回	13 ハロルド・ピンター紹介	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第14回	14 『パースディ・パーティ』ビデオ	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	90分
第15回	まとめ	
	予習は、成蹊ポータルで配信された授業概要を通読しておくこと。復習は、その概要に基づいて授業で講義した内容のメモを通読して、理解を定着させること。また、興味があれば、紹介された参考書を読むこと。	60分

授業の方法

講義とビデオ鑑賞を中心に、質疑応答で授業を進行させる。

成績評価の方法

授業中の態度と発言内容（４０パーセント）と期末テストの成績（６０パーセント）で総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にないが、これまでの自分の観劇経験を数え上げておくこと。

テキスト

特にない。

参考書

ポータルサイトや授業中に指定する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後

科目名	イギリス文学・文化AⅡ		
教員名	下村 美佳		
科目ナンバー	1251415202	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
本講義は、シェイクスピアに関する基本的知識を習得し、その代表的作品に触れることによって、シェイクスピアの世界を全体的に把握することを目的とする。劇作家の生涯、時代背景、劇場や演劇的伝統、文学史における位置づけなど、背景的な知識を得ることから始める。またシェイクスピアの主要な作品をとりあげて解説し、映像化されているものはできるだけそれを活用しながら、鑑賞と解釈のポイントを紹介する。			
到達目標			
DP7を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①シェイクスピアに関する基礎的な知識を修得する。 ②イギリス文学史全体の流れの中にシェイクスピアを位置づけ、その特質や意義を説明できる。 ③シェイクスピア作品の特質を理解し、自分の考えを述べることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方を説明する。 シェイクスピアについて、その概略を説明する。		
	(予習) シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 (復習) 授業の全体像や進め方、評価基準などについて確認する。	60	
第2回	シェイクスピアの生涯と時代背景		
	(予習) エリザベス朝について調べておき、重要な用語は説明できるようにすること。	60	
第3回	劇場の演劇と伝統		
	(復習) 講義内容を十分に理解し重要な用語は説明できるようにすること。	60	

第4回	シェイクスピアの初期作品	
	(予習) シェイクスピアの初期作品のひとつを読んでおくこと。	60
第5回	『ロミオとジュリエット』	
	(予習) 作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第6回	シェイクスピアの歴史劇	
	(予習) シェイクスピアの歴史劇について調べておき、重要な用語は説明できるようにすること。	60
第7回	『リチャード三世』	
	(予習) 作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第8回	中間試験	
	(予習) これまでの学習内容を確認する。	60
第9回	シェイクスピアの喜劇	
	(予習) シェイクスピアの喜劇について調べておき、重要な用語は説明できるようにすること。	60

第10回	『じゃじゃ馬ならし』	
	(予習) 作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第11回	シェイクスピアの四大悲劇	
	(予習) シェイクスピアの四大悲劇について調べておき、重要な用語は説明できるようにすること。	60
第12回	『ハムレット』	
	(予習) 作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第13回	『ハムレット』	
	(予習) 作品を読んで考えをまとめておくこと。	60
第14回	到達度確認テスト これまでの学習内容について、理解度を確認するためのテスト	
	(予習) 到達度確認テストに備え、これまでの学習内容を確認する。	120
第15回	到達度確認テストの解説 授業のまとめ	
	(復習) この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度を確認し、不足している知識を復習すること。	60

授業の方法

講義形式で行う。各作品の学習後、小レポートを授業内で提出してもらう。

成績評価の方法

期末試験（50％）、中間試験（30％）、小レポート（20％）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①シェイクスピアに関する基礎的な知識を身につけている。
- ②イギリス文学史の流れのなかにシェイクスピアを位置づけ、その特質や意義を説明できる。
- ③シェイクスピア作品の特質や意義を理解し、さらに自分の意見を述べることができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

必要に応じてプリントを配布する。

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	イギリス文学・文化B I		
教員名	小林 英里		
科目ナンバー	1251415203	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
本授業では、1900年から第二次世界大戦終焉までの英文学および文化（詩、演劇、小説、映画など）について概説する。従来のイギリス文学史では20世紀前半の英文学を「エドワード王朝の文学」「モダニズムの文学」「30年代左翼系文学」「第二次世界大戦の文学」「戦後文学」として時代を区切って説明することが多かったが、本授業では、こうした従来の説明に加えて、社会的事象に目配りをするとともに、時代の心象風景としてのフロイトの精神分析、アインシュタインの相対性理論、第一波フェミニズム運動、大恐慌、フェミニズムへのバックラッシュ、ナチズムへの反発や反右和政策などの政治、戦後の復興といった社会との関わりも考察し、説明を試みたい。			
到達目標			
20世紀前半のイギリス文学・文化についての基本的な知識を習得することを目標とする。英米文化学科のDiploma Policyでいうと、【文化現象の総合的理解】（DP6）と【問題発見能力および多面的な分析能力】（DP7）を身につけることを到達目標とする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション：20世紀前半のイギリス文学・文化とは？		
	あらかじめシラバスを読み、講義内容を把握する。		30
第2回	モダニズム文学の特徴（1）：過去との決別、反ヴィクトリア朝主義		
	講義内容を確認する。		30
第3回	モダニズム文学の特徴（2）：第一次世界大戦、コスモポリタリズム		
	講義内容を確認する。		30

第4回	現代詩（１）：エリオット、イエイツ、パウンド	
	講義内容を確認する。	30
第5回	現代詩（２）：戦争詩人（ブルックス、オーエン、サスン、女性詩人）	
	講義内容を確認する。	30
第6回	現代劇（１）：前史、問題劇、議論劇	
	講義内容を確認する。	30
第7回	現代劇（２）：ショウ、モーム、カワード	
	講義内容を確認する。	30
第8回	現代小説（１）：精神風土	
	講義内容を確認する。	30
第9回	現代小説（２）：原理と方法（フォスター、ウルフ）	
	講義内容を確認する。	30

第10回	現代小説（３）：社会を記述する小説（ロレンス、フォスター）	
	講義内容を確認する。	30
第11回	現代小説（４）：イングランドの現状、産業、市民生活を記述する小説（ロレンス）	
	講義内容を確認する。	30
第12回	現代小説（５）：教養・教育小説、心理小説（リチャードソン、モーム）	
	講義内容を確認する。	30
第13回	現代小説（６）：盛期モダニズム、記憶、意識の流れ（１）	
	講義内容を確認する。	30
第14回	現代小説（７）：盛期モダニズム、記憶、意識の流れ（２）	
	講義内容を確認する。	30
第15回	総括	
	これまでの講義内容を確認する。	60

授業の方法

基本的には講義形式をとるが、レスポンスシートなどを活用して、可能な限り受講者との双方向性を高めるように工夫する。また必要に応じて、DVDなどの視聴覚教材も使用する。

成績評価の方法

学期末の試験（８０％）、授業への貢献度（２０％）を基本にして、総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校で学んだ世界史のレベルでよいので、２０世紀現代史の基本的知識があることが望ましい。

テキスト

随時配布物を教員が準備する。

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	イギリス文学・文化BⅡ		
教員名	小林 英里		
科目ナンバー	1251415204	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
本授業では、第二次世界大戦終焉から２０００年代までの英文学および文化（詩、演劇、小説、映画など）について概説する。戦後の福祉国家への歩み、５０年代の「怒れる若者たち」、６０年代の左翼系運動、７０年代の植民地独立の時代、８０年代のサッチャリズム、９０年代の多文化主義など、時代風土のなかに文学・文化作品を位置づけようとするものである。			
到達目標			
20世紀後半のイギリス文学・文化についての基本的な知識を習得することを目標とする。英米文化学科のDiploma Policyでいうと、【文化現象の総合的理解】（DP6）と【問題発見能力および多面的な分析能力】（DP7）を身につけることを到達目標とする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション：２０世紀後半のイギリスとは？		
	シラバスを読み、あらかじめ講義内容を確認する。	30	
第2回	第二次世界大戦を描いた作品、１９４０年代の作品（１）：小説（ボウエン、ダール、クリスティ）		
	講義内容を確認する。	30	
第3回	第二次世界大戦を描いた作品、１９４０年代の作品（２）：詩、演劇（ラティガン、フライ、W.H. オーデン、D. トマス）		
	講義内容を確認する。	30	

第4回	1950年代の作品（1）：詩、小説（ラーキン、ウォー、グリーン、ゴールドディング、「怒れる若者たち」）	
	講義内容を確認する。	30
第5回	1950年代の作品（2）：演劇、児童文学（C. S. ルイス、トールキン、ベケット、オズボーン）	
	講義内容を確認する。	30
第6回	1960年代の作品（1）：詩、小説（ヒューズ、ハリソン、ファウルズ）	
	講義内容を確認する。	30
第7回	1960年代の作品（2）：小説（レッシング、リース）	
	講義内容を確認する。	30
第8回	1960年代の作品（3）：演劇（ピンター、オートン、ボンド）	
	講義内容を確認する。	30
第9回	1970年代の作品：詩、小説、演劇（ヒーニー、R. S. トマス、ストパード）	
	講義内容を確認する。	30

第10回	1980年代の作品（1）：詩、演劇（C. チャーチル）	
	講義内容を確認する。	30
第11回	1980年代の作品（2）：小説（マードック、スパーク、オブライエン）	
	講義内容を確認する。	30
第12回	1990年代の作品（1）：小説（ゴードイマー、ナイポール、ラシュディ、イシグロ、ブラッドベリー、ロッジ）	
	講義内容を確認する。	30
第13回	1990年代の作品（2）：演劇、詩（エイクボーン、ポッター、ブッフィーニ）	
	講義内容を確認する。	30
第14回	2000年以降の作品：詩、演劇、小説（バーズ、マキューワン、アクロイド、ウォルターズなどのネオ・ヴィクトリアン小説、フィリップス）	
	講義内容を確認する。	30
第15回	総括	
	これまでの講義内容を確認する。	60

授業の方法

基本的には講義形式をとるが、レスポンスシートなどを活用して、可能な限り受講者との双方向性を高めるように工夫する。また必要に応じて、DVDなどの視聴覚教材も使用する。

成績評価の方法

学期末の試験（８０％）、授業への貢献度（２０％）を基本にして、総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校で学んだ世界史のレベルでよいので、２０世紀現代史の基本的知識があることが望ましい。

テキスト

随時配布物を教員が準備する。

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	イギリス文学・文化CⅠ		
教員名	大田 信良		
科目ナンバー	1251415205	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
この授業では、現代の英語文学とりわけスコットランドを代表するミュリエル・スパークやその歴史的系譜・転回をなす文学・文化小説テキストおよびその映画化されたテキストを取り上げ、大英帝国の旧植民地や日本を含むアジアへ移動する労働者を送り出すことになったスコットランドが、21世紀の現在の資本主義世界において、占める位置と意味を解釈する。 具体的には、ミュリエル・スパーク『プロディ先生の青春』を、まずは、取り上げ、女教師だけでなく、学校で学ぶ少女・「女子」の表象が、過去と現在それぞれにもった意味について概観する。 最終的に、このような授業のテーマ・概観のまとめとして、アカデミック・ライティングの形式にのっとりた文学研究のレポートを作成することをめざします。			
到達目標			
20世紀に登場した学校で学ぶ少女・「女子」の個人ならびに集団の表象がもつ意味を、大英帝国のナショナルなコンテキストだけでなく、グローバルかつローカルにも、歴史的解釈をするスキルを身につけることができる。さらに、21世紀の現在における少女たちあるいは働く女性のイメージを鍵にして、グローバルな資本主義世界とその地政学的文化空間が存在することについて、そして、その空間で変容したイギリスの文学がグローバルなポピュラー・カルチャーの「部分」として機能し意味をもっていることについて、基本的な理解ができる。 そのうえで、授業で取り上げた具体的なテキストならびにそのサブテキストを分析・解釈し、アカデミック・ライティングの形式にのっとりたレポートを作成することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業の内容、進め方、等について		
	予習 シラバスを確認し、理解に努める。わからないキーワード等はあらかじめ自分なりに調べておく。	30	
第2回	『プロディ先生の青春』の原作英語テキストについて、映画化され日本語訳も出版されて流通・消費されているサブテキストとともに、理解する		
	予習 原作者、テキスト、サブテキストとしてのスコットランドとイギリス・アメリカとの位置を含む歴史的関係を、調べておく。	60	
第3回	テキストの基本構造、主人公		
	予習 テキストのプロットについて調べておく。	60	

第4回	テキストの基本構造、プロット	
	予習 テキストのテーマについて調べておく。	60
第5回	テキストの基本構造、テーマ	
	復習 ここまでの授業を自分なりにまとめ、中間レポートの準備①をする。	60
第6回	テキストの基本構造、エンディング	
	予習 ガールズ・スクール・ストーリーについて、基本的な文学史の知識と代表的な作品の内容について調べておく。	60
第7回	児童文学のサブジャンルとしてのガールズ・スクール・ストーリーとはなにか	
	予習 20世紀初めのガールズ・スクール・ストーリーにおいて描かれたガールのイメージについて調べておく。	60
第8回	20世紀初めのガールズ・スクール・ストーリーと学校で学ぶ少女・「女子」の表象をサブテキストとして読む	
	予習 ガールズ・スクール・ストーリーにおいて描かれた、その他のさまざまな働く少女・「女子」のイメージについて調べておく。	60
第9回	中間レビュー1	
	予習 『プロディ先生の青春』を、21世紀を含むほかのガールズ・スクール・ストーリーの少女たちと比較しながら、その少女・「女子」のイメージについて、まとめておく。	60

第10回	20世紀モダニズム小説以降における、学校で学ぶ少女・「女子」のさまざまな表象を、サブテキストとして読む①	
	予習 20世紀モダニズム小説について、基本的な知識と作品の内容について調べ、そこに描かれた働く少女・「女子」のさまざまな表象を調べておく。	60
第11回	20世紀モダニズム小説以降における、少女・「女子」のさまざまな表象を、サブテキストとして読む②	
	復習 20世紀モダニズム小説以降のテキストが描いた少女・「女子」のさまざまな表象についてまとめておく。	60
第12回	文学・文化テキストとしての『プロディ先生の青春』がもつ、社会的意味とは、なんだったのか	
	予習 21世紀現在のグローバルな資本主義世界の空間において文化生産されたガールズ・スクール・ストーリーがもつ、社会的意味について、自分なりに調べ解釈する。	60
第13回	ユートピア文学と社会主義の系譜、または、教養小説における「紳士」の「芸術家」vs「市民」への分裂の歴史的過程において、グローバルに移動する少女・「女子」の意味を再解釈する	
	予習 ユートピア文学と社会主義の系譜、または、教養小説における「紳士」の「芸術家」vs「市民」への分裂の歴史について調べておく	60
第14回	中間レビュー2	
	予習 21世紀の現在のグローバルな資本主義世界において、グローバルに移動したり、あるいは、「居場所」を求める少女・「女子」のイメージがもつ意味を、それぞれ、調べておく。	60
第15回	授業のまとめ。	
	予習・復習 これまでの授業全体を自分なりに復習し、まとめとしてのレポートの準備をする。	120

授業の方法

講義を中心に、ディスカッション、中間・期末レポート提出を実施する。テキストの構造的な読みあるいはそれに必要な精読を踏まえて、さまざまなメディアのテキストを、縦横無尽に駆け巡ります。
また、テキストだけでなく、関連するほかの作品について配布プリント、さらにDVDの映像テキストも使います。

成績評価の方法

1・2回の中間レポート（20%程度）、期末レポート（80%程度）を基本としつつ、授業中の発言・質問・ディスカッションなどの積極的な参加をプラスに評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

・20世紀に登場した学校で学ぶ少女・「女子」の個人ならびに集団の表象がもつ意味を、大英帝国のナショナルなコンテキストだけでなく、グローバルかつローカルにも、歴史的な理解をするスキルを身につけることができるか。さらに、21世紀の現在における少女たちあるいは働く女性のイメージを鍵にして、グローバルな資本主義世界とその地政学的文化空間が存在することについて、そして、その空間で変容したイギリスの文学がグローバルなポピュラー・カルチャーの「部分」として機能し意味をもっていることについて、基本的な理解ができるか。

・授業で取り上げた典型的なテキストならびにそのサブテキストを、文学的・文化的に分析・解釈し、アカデミック・ライティングの形式にのっとったレポートを作成することができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Spark, Muriel. *The Prime of Miss Jean Brodie*. 1961. London: Penguin, 2000.
(ISBN: 978-0-141-18142-4)

その他、適宜、授業において指示する。

参考書

ミュリエル・スパーク『プロディ先生の青春』木村政則訳 東京：河出書房新社，2015。

Higgins, Michael, Clarissa Smith, and John Storey. *The Cambridge Companion to Modern British Culture*. Cambridge: Cambridge UP, 2010.

大谷伴子・大田信良ほか編著『ポスト・ヘリテージ映画—サッチャリズムの英国と帝国アメリカ』 東京：上智大学出版，2010。

河島伸子・大谷伴子・大田信良編『イギリス映画と文化政策—ブレア政権以降のポリティカル・エコノミー』東京：慶應義塾大学出版会，2012。

大田信良『帝国の文化とリベラル・イングランド—戦間期イギリスのモダニティ』東京：慶應義塾大学出版会，2010。

大貫隆史・河野真太郎・川端康雄編『文化と社会を読む批評キーワード辞典』東京：研究社，2013。

川端康雄ほか編『愛と戦いのイギリス文化史—1951-2010年』東京：慶應義塾大学出版会，2011。

その他、適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業中、あるいは、終了後に、教室で受け付ける。

科目名	イギリス文学・文化CII		
教員名	大田 信良		
科目ナンバー	1251415206	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
この授業では、旧来のナショナルなイギリス文学史・英文学史を批判的に学び直すことにより、ローカル／グローバルな英語文学の歴史的展開・空間的転回の過程を学ぶ。 最終的に、このような授業のテーマ・概観のまとめとして、アカデミック・ライティングの形式にのっとりた文学研究のレポートを作成することをめざします。			
到達目標			
代表的・範例的な諸テキストの集合体からなるイギリス文学・英語文学の特質を、ナショナルだけでなく、ローカル／グローバルにも、狭義の文学を含む現在の英語メディア文化の空間において学ぶことにより、それぞれのレベルにおける歴史・文化のコンテキストおよびテキストで表象・使用される表現・修辞構造を理解することができる。 そのうえで、授業で取り上げた具体的なテキストならびにそのサブテキストを分析・解釈し、アカデミック・ライティングの形式にのっとりたレポートを作成することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業の内容、進め方、等について、および、イギリス文学・英語文学の特質を問うことの意味		
	予習 シラバスを確認し、理解に努める。わからないキーワード等はあらかじめ自分なりに調べておく。		30
第2回	シェイクスピアの歴史劇を中心とする18世紀以前の英文学		
	予習 シェイクスピアの歴史劇を中心とする18世紀以前の英文学を、調べておく。		60
第3回	イギリス教養小説を中心とする19世紀の英文学		
	予習 イギリス教養小説を中心とする19世紀の英文学について調べておく。		60

第4回	20世紀モダニズム以降の英文学	
	予習 20世紀モダニズム以降の英文学について調べておく。	60
第5回	21世紀の現在から見直すローカルな英語文学 ウェールズの神話・文学	
	復習 ここまでの授業を自分なりにまとめ、中間レポートの準備①をする。	60
第6回	21世紀の現在から見直すローカルな英語文学 イングランドとイングリッシュネスの表象	
	予習 イングランドとイングリッシュネスの表象について調べておく。	60
第7回	現在の英語メディア文化の空間におけるローカライゼーションの例	
	予習 現在の英語メディア文化の空間におけるローカライゼーションの例について調べておく。	60
第8回	21世紀の現在から見直すローカルな英語文学 スコットランドの歴史小説・啓蒙主義	
	予習 21世紀の現在から見直すローカルな英語文学 スコットランドの歴史小説・啓蒙主義について調べておく。	60
第9回	中間レビュー 1	
	復習 ここまでの授業を自分なりにまとめ、中間レポートの準備②をする。	60

第10回	グローバル化する英語文学 新たな帝国アメリカ／アメリカナイゼーションに対応するイギリス文学	
	予習 新たな帝国アメリカ／アメリカナイゼーションに対応するイギリス文学について調べておく。	60
第11回	グローバル化する英語文学 コロニアリズム・フェミニズム・セクシュアリティの文学あるいはグローバル冷戦のなかの文学	
	復習 グローバル化する英語文学あるいはグローバル冷戦のなかの文学についてまとめておく。	60
第12回	グローバル化する英語文学 ポストコロニアリズム以降の旧植民地の文学・表象	
	復習 ポストコロニアリズム以降の旧植民地の文学・表象について、自分なりに調べ解釈する。	60
第13回	グローバル化する英語文学 アジア・トランスパシフィックな表象と世界文学の編制・再編	
	予習 アジア・トランスパシフィックな表象と世界文学の編制・再編について調べておく	60
第14回	中間レビュー2	
	予習 ナショナルな日本のなかのグローバルな空間とイギリス文学・英語文学について、各自、調べてまとめておく。	60
第15回	授業のまとめ。	
	予習・復習 これまでの授業全体を自分なりに復習し、まとめとしてのレポートの準備をする。	120

授業の方法

講義を中心に、ディスカッション、中間・期末レポート提出を実施する。テキストの構造的な読みあるいはそれに必要な精読を踏まえて、さまざまなメディアのテキストを、縦横無尽に駆け巡ります。
また、テキストだけでなく、関連するほかの作品について配布プリント、さらにDVDの映像テキストも使います。

成績評価の方法

1・2回の中間レポート（20%程度）、期末レポート（80%程度）を基本としつつ、授業中の発言・質問・ディスカッションなどの積極的な参加をプラスに評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ・代表的・範例的な諸テキストの集合体からなるイギリス文学・英語文学の特質を、ナショナルだけでなく、ローカル／グローバルにも、狭義の文学を含む現在の英語メディア文化の空間において学ぶことにより、それぞれのレヴェルにおける歴史・文化のコンテキストおよびテキストで表象・使用される表現・修辞構造を理解することができるか。
- ・授業で取り上げた典型的なテキストならびにそのサブテキストを、文学的・文化的に分析・解釈し、アカデミック・ライティングの形式にのっとったレポートを作成することができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

なし（あるいは、授業の初回に指示する）
その他、適宜、授業において指示する。

参考書

井野瀬久美恵編『イギリス文化史』京都：昭和堂、2010。

武藤浩史・大田信良ほか編著『愛と戦いのイギリス文化史 1900-1950年』（慶應義塾大学出版会、2007年）
Higgins, Michael, Clarissa Smith, and John Storey. The Cambridge Companion to Modern British Culture. Cambridge: Cambridge UP, 2010.
大谷伴子・大田信良ほか編著『ポスト・ヘリテージ映画—サッチャリズムの英国と帝国アメリカ』東京：上智大学出版、2010。
河島伸子・大谷伴子・大田信良編『イギリス映画と文化政策—ブレア政権以降のポリティカル・エコノミー』東京：慶應義塾大学出版会、2012。

大田信良『帝国の文化とリベラル・イングランド—戦間期イギリスのモダニティ』東京：慶應義塾大学出版会、2010。
大貫隆史・河野真太郎・川端康雄編『文化と社会を読む批評キーワード辞典』東京：研究社、2013。
川端康雄ほか編『愛と戦いのイギリス文化史—1951-2010年』東京：慶應義塾大学出版会、2011。
その他、適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業中、あるいは、終了後に、教室で受け付ける。

科目名	イギリス文学・文化D I		
教員名	小野 俊太郎		
科目ナンバー	1251415207	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
シェイクスピアの作品は、演劇という作り物であることを意識した作品である。そのため登場人物たちは過剰な自意識をもつようになる。そこで、『夏の夜の夢』、『ロミオとジュリエット』、『ハムレット』をとりあげて、「劇中劇」「喜劇と悲劇の違い」「演劇構造の継承」といった観点から作品がもつ演劇性を考えていく。			
到達目標			
シェイクスピアの演劇性がわかるようになる。 喜劇と悲劇の違いや相互の影響を理解できるようになる。 作品の内容や議論を踏まえたレポートを執筆できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	はじめに：シェイクスピア劇の特徴		
	シラバスの内容を熟読し、全体の流れをつかむ。		60
第2回	古典世界と演劇性		
	講義内容の復習と小テストのチェック		60
第3回	シェイクスピアの時代背景		
	講義内容の復習と小テストのチェック		60

第4回	『夏の夜の夢』と三つの世界	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第5回	『夏の夜の夢』と錯誤の森	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第6回	『夏の夜の夢』と劇中劇	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第7回	喜劇と悲劇の関連	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第8回	『ロミオとジュリエット』と対立	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第9回	『ロミオとジュリエット』とずれ違い	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60

第10回	『ロミオとジュリエット』と演劇性	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第11回	演劇構造の継承	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第12回	『ハムレット』と自己劇化	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第13回	『ハムレット』と劇中劇	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第14回	『ハムレット』の喜劇性	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第15回	まとめ：演劇性とシェイクスピア	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60

授業の方法

講義形式による（私語厳禁。違反者は退室させる）。
毎回授業の最後に授業内容確認の小テストをおこなう。
資料配布もレポート提出もSeikei Portalを通じておこなう。

成績評価の方法

期末レポート（70%）と毎回の小テスト（30%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。シェイクスピアの演劇性を理解できているかどうかが評価の基準となる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし（毎回資料を配布する）

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	イギリス文学・文化DII		
教員名	小野 俊太郎		
科目ナンバー	1251415208	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
ジャンル小説としてのミステリーは、イギリスで本格的に形成された。同時に、ミステリーという英語がもつ可能性を追求し続けてきた。心理主義、神秘主義、合理主義などの考えと関連をもつ。聖書やギリシア悲劇から現在に至るまでの作品をたどりながら、新しい考えが試されるジャンルとしてのミステリーを考えていく。なお、すべて犯人などのネタバレをし、楽しむためではなく分析のために読むので注意すること。			
到達目標			
ミステリーの変遷の歴史的・文化的な理解をもつことができるようになる。 小説や映像のミステリーの特徴が理解できるようになる。 内容や議論を踏まえたレポートを執筆できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	はじめに：ミステリーの2つの意味		
	シラバスを熟読し授業の全体を理解する	60	
第2回	聖書とミステリー		
	講義内容の復習と小テストのチェック	60	
第3回	ギリシア悲劇とミステリー		
	講義内容の復習と小テストのチェック	60	

第4回	ゴシック小説とミステリー	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第5回	『荒涼館』と探偵	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第6回	『荒涼館』と出自	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第7回	ディケンズとポーの相互関係	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第8回	『四つの署名』と大英帝国	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第9回	『四つの署名』と階級	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60

第10回	ドイルと心霊主義の影響	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第11回	『オリエント急行殺人事件』と観光	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第12回	『オリエント急行殺人事件』と密室	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第13回	謎解きと合理主義の限界	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第14回	『つぐない』と『わたしを離さないで』	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60
第15回	おわりに：全体のまとめ	
	講義内容の復習と小テストのチェック	60

授業の方法 講義形式（私語厳禁。違反者は退出させる）。 毎回授業の最後に内容確認の小テストがある。 資料の配布やレポート提出はSeikei Portalをつうじておこなう。
成績評価の方法 期末レポート(70%)と小テスト(30%)
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。ミステリーの文化的背景と変遷についてしっかりと理解できたかどうかの評価の基準となる。
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特になし
テキスト 特になし（資料を配布する）
参考書 特になし
質問・相談方法等(オフィス・アワー) 授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	アメリカ文学・文化 A I		
教員名	日比野 啓		
科目ナンバー	1251415209	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
《アメリカン・ミュージカル研究》アメリカン・ミュージカルを分析するための基本概念を学んだあと、以下の三つの作品の映画版・記録音源と、その舞台版脚本を検討することで、これらの基本概念を具体的にどのように作品分析で用いるか、教室でのディスカッションを交えながら学んでいきます。 Oklahoma! (1943年初演) Show Boat (1927年初演) As Thousands Cheer (1933年初演)			
到達目標			
#1 アメリカン・ミュージカル史における重要な画期をなす三つの作品について、その成立の歴史、上演史、作品構造などを知る #2 アメリカン・ミュージカルの通時的特徴と共時的特徴を学び、授業で扱った以外の作品を分析できるようになる これらの目標を達成することによって、DP2・DP3およびDP7を実現します。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション：[映画鑑賞] Oklahoma! (1955年、145分)		
	コメントシート(1)作成・提出	60	
第2回	[映画鑑賞] Oklahoma! (続き)：[講義] アメリカン・ミュージカルの歴史		
	コメントシート(2)作成・提出	60	
第3回	[講義] 統合ミュージカルとレビュー		
	コメントシート(3)作成・提出 Oklahoma! Act 1, Scene 1, pp. 223-238を読んでくる	120	

第4回	〔講義〕 統合ミュージカルとリアリズム	
	コメントシート（4）作成・提出 Oklahoma! Act 1, Scene 1, pp. 239-253を読んでくる	120
第5回	〔テキスト精読〕 Oklahoma! Act 1, Scene 1, pp. 223-253	
	コメントシート（5）作成・提出 Oklahoma! Act 1, Scene 2 & Act 2, pp. 253-273を読んでくる	120
第6回	〔テキスト精読〕 Oklahoma! Act 1, Scene 2 & Act 2, pp. 253-294	
	コメントシート（6）作成・提出 Oklahoma! Act 1, Scene 2 & Act 2, pp. 274-294を読んでくる	120
第7回	〔ディスカッション〕 Oklahoma!	
	授業後課題（1）作成・提出	120
第8回	〔映画鑑賞〕 Show Boat（1936年、113分）	
	コメントシート（7）作成・提出	60
第9回	〔映画鑑賞〕 Show Boat（続き）：〔テキスト精読〕 Show Boat, Act 1, Scenes 1-3, pp. 5-31	
	コメントシート（8）作成・提出 Show Boat, Act 1, Scenes 1-3, pp. 5-31を読んでくる	120

第10回	[テキスト精読] Show Boat, Act 1, Scenes 4-8, pp. 31-61	
	コメントシート(9)作成・提出 Show Boat, Act 1, Scenes 4-8, pp. 31-61を読んでくる	120
第11回	[テキスト精読] Show Boat, Act 2, pp. 62-97	
	コメントシート(10)作成・提出 Show Boat, Act 2, pp. 62-97を読んでくる	120
第12回	[ディスカッション] Show Boat	
	授業後課題(2)作成・提出	120
第13回	[テキスト精読] As Thousands Cheer, Prologue & Act 1, pp. 103-131	
	コメントシート(11)作成・提出 As Thousands Cheer, Prologue & Act 1, pp. 103-131を読んでくる	120
第14回	[テキスト精読] As Thousands Cheer, Act 2, pp. 132-159	
	コメントシート(12)作成・提出 As Thousands Cheer, Act 2, pp. 132-159を読んでくる	120
第15回	[ディスカッション] As Thousands Cheer	
	授業後課題(3)作成・提出	120

授業の方法

講義形式が基本ですが、ディスカッションでは履修者の積極的な発言を求めます。
受講者が十分少なければ報告をしてもらうこともあるかもしれません。

成績評価の方法

コメントシート（4点×12回） 40%
授業後課題（12点×3回） 30%
授業への積極的な参加 10%

期末試験は実施しません。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

American Musicals: The Complete Books and Lyrics of Eight Broadway Classics 1927-1949 Library of America, 2014. ISBN-13: 978-1598532586

参考書

講義で随時指示。日本語の研究文献は皆無に等しいので、受講者の関心・意欲及び語学力に応じて、英語文献を紹介したり、あるいは講義で引用したりします。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	アメリカ文学・文化AⅡ		
教員名	牧野 理英		
科目ナンバー	1251415210	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
このクラスでは、英語圏（アメリカ、イギリス、カナダ）の日系作家の歴史的・文化的背景を考察し、彼らの文学作品を読む。主に短編を中心に、アメリカ文学史上で一定の評価を得た作家との対比によって、どのようなものが文学とみなされているのか？あるいはこういったものが排除されていたのかという点にも留意し、グローバリズム時代における日系文学の重要性を考察する。			
到達目標			
さまざまな作家の作品に当たり、自分の興味のあるテーマを発見できることを目標とする。したがって授業では、主な作家の長編小説全体を読み通すのではなく、短編および長編からの一部抜粋をベースに議論をし、各々の作家に対する理解を深めることに留意する。これは限られた時間内で多くの作家を知ってもらいたいという意図からである。また英語圏文学におけるアジア系とは何を意味するのか？（作家がアジア系であること、テーマがアジア系であることなど）という問題にも取り組んでいきたい。映画などの視覚的教材も適宜とりいれて授業を行う。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション 日系文学の 歴史的・文化的フレーム 日系アメリカ詩紹介		
			なし
第2回	捕囚のナラティヴ：ヒサエ・ヤマモトのメルヴィル論 Hisaye Yamamoto, “A Fire in Fontatana” (1985) Herman Melville, “Benito Cereno” (1855)		
			90
第3回	ヤマモトのベニト・セレノ論 続き “A Fire in Fontatana” (1985) “Benito Cereno” (1855)		
			90

第10回	環境と日系 2 核と日系文学	
	My Year of Meat (1998) Anshu (2010)	90
第11回	日本の表象 1 : イギリス文学 カズオ・イシグロ	
	Kazuo Ishiguro, A Pale View of Hills (1982)	90
第12回	日本の表象 2 : イギリス文学 カズオ・イシグロ 続き	
	Kazuo Ishiguro, An Artist of the Floating World (1986)	90
第13回	日本の表象 3 : アメリカ文学 カレン・テイ・ヤマシタ	
	Karen Tei Yamashita, "The Bath" (1975)	90
第14回	ポストメモリー : 日系アメリカ作家から見る南米 カレン・テイ・ヤマシタ 続き	
	Karen Tei Yamashita, Brazil-Marú (1992)	90
第15回	期末試験	
	レポート 卒業論文につなげるため、自分の一番興味のあるアジア系作家の作品を選びレポートとして発表・提出	90

授業の方法

受講者の人数によって詳細を決めるが、毎回数人ずつのグループを組んで担当を割り当てる。クラスのレベルによって読む量などは調整していく。またこれらの作品がアメリカの学生にどのように読まれ、どのように研究されているのかということなども話す。

成績評価の方法

授業参加点 40% （授業内での発言および発表）、小テスト20%、
期末レポート 40%

受講者の人数によって詳細を決めるが、毎回数人ずつのグループを組んで担当を割り当てる。クラスのレベルによって読む量などは調整する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日系というエスニック集団なので、事前に予備知識を得るのはなかなか難しい。
興味をもって授業に臨んでもらえればよい。

テキスト

随時プリントで配布する。

参考書

随時プリントで配布する。『アメリカ文学入門』（三修社）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

スカイプなどで授業を行うこともある。

科目名	アメリカ文学・文化B I		
教員名	権田 建二		
科目ナンバー	1251415211	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
奴隷制とそのインパクトーアフリカ系アメリカ人の歴史 19世紀半ばまでアメリカ合衆国南部に存在していた奴隷制の歴史をアメリカ建国から廃止までたどると同時に、その影響として現代におけるレイシズムについて考えます。奴隷が書いた手記（slave narratives）や19世紀半ばの文人たちの奴隷制に対する反応等の文学テキストを読むだけでなく、奴隷制を支持する南部知識人の擁護論や裁判の判決や新聞記事等の社会的・文化的言説を通して、また現代における人種問題について語ったテキストを通して、多角的に奴隷制とその影響を見ることになります。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP7（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする 1) アメリカ合衆国のアフリカ系アメリカ人の歴史について理解を深める。 2) 歴史的文献を現代の視点から分析する力を養う。 3) 様々な種類の英文を読解する力を養う。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクションー黒人の歴史・アメリカの歴史		
	【復習】 今回分資料を再読。		60
第2回	黒人の歴史・アメリカの歴史ー黒人歴史月間		
	【復習】 今回分資料を再読。		60
第3回	黒人に対する補償ー奴隷制という過去 新世界における奴隷制		
	【復習】 今回分資料を再読。		60

第4回	黒人に対する補償—現代の貧困 合衆国における奴隷制の発展	
	【復習】 今回分資料を再読。	60
第5回	黒人と経済的格差—Gated Community	
	【復習】 今回分資料を再読。	60
第6回	新世界における奴隷制	
	【復習】 今回分資料を再読。	60
第7回	合衆国における奴隷制の発展	
	【復習】 今回分資料を再読。	60
第8回	合衆国憲法と奴隷制	
	【復習】 今回分資料を再読。	60
第9回	独立革命と奴隷制	
	【復習】 今回分資料を再読。	60

第10回	トマス・ジェファソンと奴隷制	
	【復習】 今回分資料を再読。	60
第11回	奴隷制廃止運動	
	【復習】 今回分資料を再読。	60
第12回	奴隷州と自由州の対立	
	【復習】 今回分資料を再読。	60
第13回	奴隷の法的扱い	
	【復習】 今回分資料を再読。	60
第14回	南北戦争とリンカーン	
	【予習】 セルフレビューに備えこれまでの学習内容を確認する。 【復習】 今回分資料を再読。	60
第15回	授業のまとめ・セルフレビュー	
	【復習】この授業を振り返り、自分の理解度を点検し、不足している知識等を確認し学修する。	60

授業の方法

基本的に講義形式です。教科書は使用しません。毎回こちらで用意するプリントをもとに授業を進めていきます。このため必ず辞書を携帯してください。

成績評価の方法

レスポンス・ペーパー（90%）＋セルフ・レビュー（10%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

この授業では一冊の決まった書籍を教科書として使いません。必要な文献等は毎回プリントにして配布します。

参考書

本田創造『アメリカ黒人の歴史』新版（岩波書店、新版 1994年）
荒このみ『アメリカの黒人演説集』（岩波文庫、2008年）
ベンジャミン・クウォールズ『アメリカ黒人の歴史』（明石書店、1994年）
アイラ・バーリン『アメリカの奴隷制と黒人：五世代にわたる捕囚の歴史』（明石書店、2007年）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	アメリカ文学・文化BⅡ		
教員名	庄司 宏子		
科目ナンバー	1251415212	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
ディアスポラの文学 私たちはグローバリゼーションのいうヒト、モノ、カネ、情報が国境を越えて繋がり、国境を越えた経済活動を可能にする輸送・通信技術の時代を生きています。グローバリゼーションとネットワーク社会は私たちが生きるコミュニティや見る風景を変えていきます。文学とグローバリゼーションの時代との関わりを、人の移動（労働、旅行、移民難民）やディアスポラ（故郷からの離散）をテーマとして、現代アメリカ文学においてプエルト・リコ、ハイチ、パハマ、ジャマイカとの関わりを描いた作品から考察します。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 ・ある土地に成立する文化や習慣、その土地に集積する記憶をトランスナショナルに考察する視点を身につける。 ・文学作品とは、特定の時代の集合的無意識や記憶の集積庫であることを理解する。 ・文学作品の読解を通じて、社会や文化を批評的にみる力を養い、多様な価値観や世界観の存在を認識する。 ・文学作品を通じて、文化的現象をさまざまな関係性において捉える視点を得る。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	授業の内容と方法について説明する。		
	シラバスを読み、授業の内容を把握すること。ディアスポラやグローバリゼーションのもとでの人の移動をめぐる社会の状況について情報を集め、自身の関心を育むこと。		60分
第2回	Luis Rafael Sanchez, "The Airbus" について (1)		
	テキストを読み、その背景にある事柄について調べてくること。		60分
第3回	Luis Rafael Sanchez, "The Airbus" について (2)		
	テキストを読み、その背景にある事柄について調べてくること。		60分

第4回	Luis Rafael Sanchez, "The Airbus" について (3)	
	テキストを読み、その背景にある事柄について調べてくること。	60分
第5回	Edwidge Danticat, "A Wall of Fire Rising" について (1)	
	テキストを読み、その背景にある事柄について調べてくること。	60分
第6回	Edwidge Danticat, "A Wall of Fire Rising" について (2)	
	テキストを読み、その背景にある事柄について調べてくること。	60分
第7回	Edwidge Danticat, "A Wall of Fire Rising" について (3)	
	テキストを読み、その背景にある事柄について調べてくること。	60分
第8回	June Jordan, "Report from the Bahamas" について (1)	
	テキストを読み、その背景にある事柄について調べてくること。	60分
第9回	June Jordan, "Report from the Bahamas" について (2)	
	テキストを読み、その背景にある事柄について調べてくること。	60分

第10回	June Jordan, "Report from the Bahamas" について (3)	
	テキストを読み、その背景にある事柄について調べてくること。	60分
第11回	Michelle Cliff, "Monster" について (1)	
	テキストを読み、その背景にある事柄について調べてくること。	60分
第12回	Michelle Cliff, "Monster" について (2)	
	テキストを読み、その背景にある事柄について調べてくること。	60分
第13回	Michelle Cliff, "Monster" について (3)	
	テキストを読み、その背景にある事柄について調べてくること。	60分
第14回	Michelle Cliff, "Monster" について (4)	
	テキストを読み、その背景にある事柄について調べてくること。	60分
第15回	授業の総括を行う。	
	授業の内容を振り返り、期末レポートに備えて自分の関心に添ったテーマを見つけること。	90分

授業の方法

講義形式。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況、時折のリアクション・ペーパー）20%と期末レポート（4000字程度）80%から評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

アメリカ文学史。

テキスト

取り上げる作品はプリントで配布する。プリントは授業内でのみ配布し、再配布はしないので注意すること。

参考書

サスキア・サッセン『グローバル・シティ—ニューヨーク・ロンドン・東京から世界を読む』（筑摩書房、2008年）
ジョン・アーリ『モビリティーズ——移動の社会学』（作品社、2015年）
Richard J. Barnett and John Cavanagh, Global Dreams: Imperial Corporations and the New World Order (Touchstone 1995) ISBN-10: 0684800276
Mimi Sheller, John Urry, Tourism Mobilities: Places to Play, Places in Play (Routledge, 2004) ISBN-10: 0415338794
今福龍太『クレオール主義』（ちくま学芸文庫、2003年）
その他、文献は適宜授業で紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	アメリカ文学・文化C I		
教員名	相原 直美		
科目ナンバー	1251415213	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
20世紀アメリカを代表する劇作家テネシー・ウィリアムズ (Tennessee Williams, 1911-83)の才能と魅力が全開し、アメリカ演劇史上に新しい歴史を刻んだとされる初期の代表作『欲望という名の電車』(A Streetcar Named Desire, 1947)を精読する。アメリカ南部の清教徒的価値観の中で、自らのhomosexualityと相対峙して生きてきたウィリアムズにとって、自分の内なる促しに従って自由奔放に生きることが、彼自身の内に棲息する罪意識と絶えず格闘することをも意味していた。アメリカ南部を舞台としたこの戯曲は、そのような作者の内的葛藤と苦悩する魂の救済の物語として捉えることも可能であろう。しかし、この戯曲に於ける最大の魅力は、何といてもアメリカ演劇史上類を見ないほどの複雑な美しさを放つヒロイン・ブランチであることには間違いない。彼女の心の中に潜む聖と俗、光と影、欲望と死といった拮抗する力学がこの戯曲そのものを多層的にしており、時代を超えた普遍性を生み出しているのである。本講義では、本作品を理解する上で不可欠な作家の人間像にも迫りながら、ウィリアムズのplastic theatreというドラマツルギーをも視野に入れつつ読み進めていき、最終的には本作品に於ける今日的テーマについても考察していきたい。映像資料も使用する。			
到達目標			
本講義では、演劇という形式のテキストの読み方に慣れ親しみ、エンターテインメントの枠に留まらない文学的世界としての演劇について知識を深めること、そして同時に、本講義で扱う戯曲に提示されるモラル、アイデンティティ、ジェンダーといった今日的テーマについても思考する能力を伸ばすことを目標とする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方の説明をする。 ・テネシー・ウィリアムズと彼の作品世界について説明する。		
	【予習・復習】シラバスをよく読み、あらかじめ講義内容を把握する。		30
第2回	・『欲望という名の電車』が書かれた時代的背景について説明する。 ・Scene Oneを読む。		
	【予習・復習】 Scene One (提示部1) で示される舞台セットの象徴性を意識しつつ、読み進める。		60
第3回	・Scene Two を読む。		
	【予習・復習】 Scene Two (提示部2) までに登場した人物達の性格・関係性を整理しつつ、読み進める。		60

第4回	・ Scene Three を読む。	
	【予習・復習】 Scene Three （提示部3）までに語られる登場人物達の過去と現在についての情報を整理しつつ、読み進める。	60
第5回	・ Scene Four を読む。	
	【予習・復習】 Scene 1～4（提示部）で提示された様々な情報を整理しつつ、最後に提示される劇的葛藤の発端を確認する。	60
第6回	・ Scene Fiveを読む。 ※Scene One ～ Fourの内容についての小テスト。	
	【予習・復習】 Scene Four の最後に提示された劇的葛藤が徐々に高まりを見せていく様を確認しつつ、Scene Five（展開部1）を読み進める。	60
第7回	・ Scene Sixを読む（1）。 ※Scene One ～Fourの小テストの答え合わせ・解説	
	【予習・復習】 劇的葛藤が更に上昇していくきっかけとなる誘発的出来事を確認しつつ、Scene Six（展開部2）を読み進める。	60
第8回	・ Scene Sixを読む（2）。	
	【予習・復習】 劇的葛藤が更に上昇の一途をたどる様を確認しつつ、Scene Sixの最後まで読む。	60
第9回	・ Scene Sevenを読む。 ※Scene Five～Sixの内容についての小テスト。	
	【予習・復習】 クライマックスへと進む様を確認しつつ、読み進める。	60

第10回	・ Scene Eightを読む。 ※Scene Five～Sixの内容について的小テストの答え合わせ・解説	
	【予習・復習】 クライマックスへと進む様を更に確認しつつ、読み進める。	60
第11回	・ Scene Nineを読む。	
	【予習・復習】 クライマックスへと進む様を更に確認しつつ、読み進める。	60
第12回	・ Scene Tenを読む。	
	【予習・復習】 Scene Tenで迎えるクライマックスを確認しつつ、読み進める。	60
第13回	・ Scene Elevenを読む。	
	【予習・復習】 「解決部」となるScene Elevenをよく読み、特にラストシーンの意味を考えながら、読み進める。	60
第14回	・ まとめ ※Scene One～Elevenまでの内容について的小テスト	
	【予習・復習】 作品全体としてどのようなメッセージが込められているのかを考えながら、作品全体を振り返る。	60
第15回	・ 授業のまとめ。 ・ 期末レポートについての最終的な確認。 ※Scene One～Elevenまでの内容について的小テストの答え合わせと解説。	
	【予習・復習】 「期末レポート」のテーマを意識しながら、作品の持つ今日性について考える。	60

授業の方法

- ・基本的に講義形式をとるが、臨機応変な授業時の意見交換などに受講生の積極的な参加を期待する。映像資料も利用する。
- ・小テスト（3回）：戯曲の基本的な内容（登場人物、あらすじなど）が正しく理解できているかを確認する。

成績評価の方法

小テスト（3回・40%）、レポート（50%）、平常点（授業への積極的参加や宿題の提出状況など・10%）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①演劇という形式のテキストの特徴（台詞・ト書き）を捉えて説明できる。
- ②戯曲の中に提示されるモラルや今日的テーマを掘り上げ、分析的に説明できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

A Streetcar Named Desire（『欲望という名の電車』）（金星堂 ISBN4-7647-0325-4 C3082）

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	アメリカ文学・文化CII		
教員名	本合 陽		
科目ナンバー	1251415214	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テーマ：Other Voices, Other Rooms をクィアな視点から読む 概要：1948年に出版された Truman Capote の長編第一作、Other Voices, Other Rooms は少年ジョエルの、ジェンダーやセクシュアリティと切り離すことのできない成長を描く作品である。テキストを読解し、議論を通し、テキストに描かれるクィアな視点を学んでいく。			
到達目標			
クィアな視点からテキストを読解する方法を習得することを目指し、次のことを目標とする。 1. テキストを正確に読む読解力を身につける。 2. テキストを読む視点を深化させる。 3. ジェンダーやセクシュアリティについて考える知識を習得する。 4. 必要なリサーチを行い、論理的な議論を組み立てる能力を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション 授業のやり方を説明する。テキストと作家について簡単に紹介する。テキストの冒頭を読み、どのような予習が必要かを説明する。		
	シラバスをよく読み、授業の方針を理解する。作家や作品について調べておく。	60	
第2回	Other Voices, Other Rooms, Part I の前半 を読む。主人公ジョエルの視点を確認する。読解小テストを兼ねたリアクション・ペーパー。		
	テキストの指定された箇所を読み、自分の解釈を考えておく。	90	
第3回	Other Voices, Other Rooms, Part I の後半を読む。ジェンダーと人種の問題を考える。読解小テストを兼ねたリアクション・ペーパー。		
	テキストの指定された箇所を読み、自分の解釈を考えておく。	90	

第4回	Other Voices, Other Rooms, Part 2 前半を読む。ジョエルのジェンダー・バイアスについて考える。読解小テストを兼ねたリアクション・ペーパー。	
	テキストの指定された箇所を読み、自分の解釈を考えておく。	90
第5回	Other Voices, Other Rooms, Part 2 後半を読む。“queer”について考える。読解小テストを兼ねたリアクション・ペーパー。	
	テキストの指定された箇所を読み、自分の解釈を考えておく。	90
第6回	Other Voices, Other Rooms, Parts 3 and 4 を読む。黒人女性 Zoo の存在を考える。読解小テストを兼ねたリアクション・ペーパー。	
	テキストの指定された箇所を読み、自分の解釈を考えておく。	90
第7回	Other Voices, Other Rooms, Part 5 を読む。ジョエルの過去の記憶について考える。読解小テストを兼ねたリアクション・ペーパー。	
	テキストの指定された箇所を読み、自分の解釈を考えておく。	90
第8回	Other Voices, Other Rooms, Parts 6 and 7 を読む。集団としての記憶を考える。読解小テストを兼ねたリアクション・ペーパー。	
	テキストの指定された箇所を読み、自分の解釈を考えておく。	90
第9回	Other Voices, Other Rooms, Part 8 を読む。ランドルフの過去について考える。読解小テストを兼ねたリアクション・ペーパー。	
	テキストの指定された箇所を読み、自分の解釈を考えておく。	90

第10回	Other Voices, Other Rooms, Parts 9 and 10 を読む。少女 Isabel のジェンダーを考える。読解小テストを兼ねたリアクション・ペーパー。	
	映画についての情報を調べておく。	90
第11回	Other Voices, Other Rooms, Part 11 を読む。象徴的な死について考える。読解小テストを兼ねたリアクション・ペーパー。	
	テキストの指定された箇所を読み、自分の解釈を考えておく。	90
第12回	Other Voices, Other Rooms, Part 12 前半 を読む。“another Joel Knox” とは何かを考える。読解小テストを兼ねたリアクション・ペーパー。	
	テキストの指定された箇所を読み、自分の解釈を考えておく。	90
第13回	Other Voices, Other Rooms, Part 12 後半 を読む。作品のラストを考える。読解小テストを兼ねたリアクション・ペーパー。	
	配布されたプリントを読み、理解し、自分の意見を考えておく。	90
第14回	Other Voices, Other Rooms に関する批評を読む。第一回。	
	配布されたプリントを読み、理解し、自分の意見を考えておく。	90
第15回	Other Voices, Other Rooms に関する批評を読む。第二回。	
	配布されたプリントを読み、理解し、自分の意見を考えておく。	90

授業の方法

毎回読解するテキストの範囲について、質疑応答形式で講読する。従って、毎回予習をしていることが求められる。読解ができているかを問う小テストを兼ねた、リアクション・ペーパー提出を毎回求める。

成績評価の方法

小テストの成績40%、毎回の授業への参加・貢献10%、期末レポート50%。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

小テストにおいては正確な読解が来ているか、毎回の授業への参加・貢献については、読解に貢献する発言などを行っているか、レポートにおいては、参考資料を調べ、テキストの読解と調査に基づき、説得力のある議論が来ているかを判断の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

Capote, Truman. Other Voices, Other Rooms. Penguin Modern Classics.

参考書

Capote, Truman. A Capote Reader. London: Abacus, 1990.

Clarke, Gerald. Capote: A Biography. London: Cardinal, 1989.

越智博美. 『カポーティ』. 東京: 勉誠出版, 2005.

その他、必要に応じて紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

随時、リアクション・ペーパーおよびメールにて受け付ける。

科目名	アメリカ文学・文化DⅠ		
教員名	上原 正博		
科目ナンバー	1251415215	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
多様なアメリカ社会と文化のいくつかを、アメリカ文学作品と映画を通して学んでいきます。複数の作品が扱われていきますので面倒くさそうな感じは否めないのですが、きちんと予習をしたうえで授業に臨むことで、受講生はアメリカ文化の諸相を歴史的背景のなかで理解できるようになります。当該科目DⅠでは20世紀以降のアメリカ文化について造詣が深まるように計画されています。 また、この講義科目の序盤では、文学や映画などの文化的作品を解釈することとはどういうことなのか、どのように文学や映画は意味づけられるものなのか、例を挙げて解説していくことから導入していきますので、そのような行為に親しむことが少なかった学生も理解することができることとなります。 受講生の理解を速めるためと、数多くの多様な作品に触れる機会を増やしたいという気持ちから、文字による作品だけでなく教材として映像化されたもの（映画DVD）も用います。また、適宜、該当作品の原作抜粋や歴史背景に関するプリントを配布します。 受講生は、映像作品から物語の全容を理解することができるようになりますし、また作品抜粋から原文の英語に触れることで、作風についても直接に知識を得ることが可能となります。これらの作業を通して、受講生は、アメリカ文化とその歴史背景を理解し、当時の社会についての考察を深く実践できるようになります。 ただし、内容及び対象とするテキストに変更がでる可能性もあります。			
到達目標			
① 文学や映画のとらえかたの一つが身につく。 ② アメリカ社会や文化への理解が深まる。 ③ アメリカ文学の特質が理解できる。 【予習】 授業各回に取り上げる作品名が記されていますから、事前にそれらの作品について、図書館やWeb上で検索し、調べておくことがよいでしょう。また、作品の抜粋を英語等で配布し、説明することがありますので、その際には、辞書を用いて、わからない単語やフレーズをしっかりと調べておく必要があります。予習には十分時間をかけてください。各回2時間程度の予習が求められます。 【復習】 授業での担当教員の解説や担当教員から出された質問などについて、学修内容の整理をしておきましょう。きちんとノートにまとめると、のちの到達度確認チェックの際に役に立ちます。復習には1時間以上かけてください。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス：授業の内容・進め方、予習・復習の仕方などを説明します。		
	【予習】 シラバスを読んで授業の進め方を理解しておく。		30
第2回	物語を読むこと 1： 物語を読むこととはどういうことか考える。		
	【予習】 課題図書・資料を熟読しておく。また、与えられた質問に対する回答を準備しておく。		60
	【復習】 授業内で説明された点や疑問点を整理しておく。		
第3回	物語を読むこと 2： 物語を読むこととはどういうことか考える。		
	【予習】 課題図書・資料を熟読しておく。また、与えられた質問に対する回答を準備しておく。		60
	【復習】 授業内で説明された点や疑問点を整理しておく。		

第4回	アメリカ社会と文化の諸相 1－1：人種の問題 文学作品にアメリカの社会や文化を読み取る。	
	【予習】 課題図書・資料を熟読しておく。また、与えられた質問に対する回答を準備しておく。 【復習】 授業内で説明された点や疑問点を整理しておく。	120
第5回	アメリカ社会と文化の諸相 1－2：人種の問題 文学作品にアメリカの社会や文化を読み取る。	
	【予習】 課題図書・資料を熟読しておく。また、与えられた質問に対する回答を準備しておく。 【復習】 授業内で説明された点や疑問点を整理しておく。	120
第6回	アメリカ社会と文化の諸相 1－3：人種の問題 映像作品にアメリカの社会や文化を読み取る。	
	【予習】 資料を熟読しておく。また、与えられた質問に対する回答を準備しておく。 【復習】 授業内で説明された点や疑問点を整理しておく。	120
第7回	到達度確認 これまでの学修内容について習熟度・理解度を確認します。	
	【予習】 到達度確認に備え、これまでの学修内容を確認する。	60
第8回	アメリカ社会と文化の諸相 2－1：階級の問題 文学作品にアメリカの社会や文化を読み取る。	
	【予習】 これまでの学修内容を確認する。 【復習】 授業内で説明された点や疑問点を整理しておく。	60
第9回	アメリカ社会と文化の諸相 2－2：階級の問題 文学作品にアメリカの社会や文化を読み取る。	
	【復習】 授業内で説明された点や疑問点を整理しておく。	30

第10回	アメリカ社会と文化の諸相 2－3：階級の問題 映像作品にアメリカの社会や文化を読み取る。	
	【予習】 資料を熟読しておく。また、与えられた質問に対する回答を準備しておく。 【復習】 授業内で説明された点や疑問点を整理しておく。	120
第11回	到達度確認 これまでの学修内容について習熟度・理解度を確認します。	
	【予習】 到達度確認に備え、これまでの学修内容を確認する。	120
第12回	アメリカ社会と文化の諸相 3－1：ジェンダーの問題 文学作品にアメリカの社会や文化を読み取る。	
	【予習】 課題図書・資料を熟読しておく。また、与えられた質問に対する回答を準備しておく。 【復習】 授業内で説明された点や疑問点を整理しておく。	120
第13回	アメリカ社会と文化の諸相 3－2：ジェンダーの問題 文学作品にアメリカの社会や文化を読み取る。	
	【予習】 課題図書・資料を熟読しておく。また、与えられた質問に対する回答を準備しておく。 【復習】 授業内で説明された点や疑問点を整理しておく。	120
第14回	アメリカ社会と文化の諸相 3－3：ジェンダーの問題 映像作品にアメリカの社会や文化を読み取る。	
	【予習】 資料を熟読しておく。また、与えられた質問に対する回答を準備しておく。 【復習】 授業内で説明された点や疑問点を整理しておく。	120
第15回	授業のまとめ、および質疑応答、補遺的解説	
	【復習】 この授業をふり返り、到達目標と自身の理解度とを点検し、以後の学修へつなげるように、学修したことを再度見直しすること。	60

授業の方法

基本的には、担当教員による講義と、担当教員と受講学生との相互的質疑応答による議論形式進めていく予定です。受講生は各回の終了時までレスポンスカードを提出することで自分なりの疑問や意見を伝えます。即時に回答できるものについては授業内に担当教員が解説を加えますが、おそらく、多くの場合は、次回授業にて解説や回答がなされます。その後、その回のトピックへと導入していきます。そのために、受講生はきちんと予習（課題図書を読むなど）して授業に臨むことが大切となります。

成績評価の方法

平常点にて評価します。評価は、授業でのレスポンスカード提出、到達度確認チェック、学期末提出のレポート、および学期を通しての授業貢献度から、総合的に評価します。

レスポンスカード提出 30% （質問10回に対して10回の応答）

到達度確認チェック 20%

学期末レポート 20%

クラス貢献度 30%

なお、出席点はありませんが、欠席にはペナルティで減点します。

欠席1回につきマイナス5点、遅刻1回につきマイナス3点とします。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

上記「到達目標」で示した目標のうち、①を駆使しつつ、②ないし③について、学期末レポートできちんと議論できていること。作品をきちんと読み、①を駆使しつつ、②ないし③に関する自分なりの観点を、具体的な例を挙げながら呈示して論じていく、そしてその論がきちんと整理されていることが課題となる。

- ① 文学の読みかたの一つが身につく。
- ② アメリカ社会や文化への理解が深まる。
- ③ アメリカ文学の特質が理解できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

必須テキスト：

授業内で適宜指示します。

参考書

授業内で適宜指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けるほか、電子メールにて受け付けます。

科目名	アメリカ文学・文化DII		
教員名	生井 英考		
科目ナンバー	1251415216	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
「ポピュラーカルチャーの理論と現実」 アメリカのポピュラーカルチャーは、人種・民族、ジェンダー、階級、世代など多様な背景を持つ人々の集合体を「ひとつにまとめる」（＝統合）の力と、逆にもっと「多様化する」力の両方を発揮する点で、世界的に見てもぬきんでています。このクラスでは「統合」と「多様化」の二軸に添って展開するポピュラーカルチャーの歴史を概観しつつ、「トランプ大統領」の現在をも視野に入れて考察します。			
到達目標			
アメリカのポピュラーカルチャーを単なる雑学的興味ではなく、理論的な観点にもとづいて理解・検討し、それを通して「文化」を具体的に把握することを目標とします。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	はじめにークラスの紹介と導入		
	自分とその周囲（家族・友人・その他）の昔といまにおける「アメリカ」の存在について、具体的な事例を考えてくる。	60	
第2回	「文化」の概念とポピュラーカルチャーの理論		
	第1回目で配布または指示する文献や資料の該当部分をふまえて議論の準備をする。	60	
第3回	年中行事とポピュラーカルチャー		
	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60	

第4回	スペクタクル・スポーツと「法人化」する社会	
	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第5回	遊園地とテクノロジー——もうひとつの消費文化	
	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第6回	映画の社会史	
	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第7回	第一次世界大戦とポピュラーカルチャー	
	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第8回	マシーンエイジとアメリカンドリーム	
	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第9回	第二次世界大戦から冷戦へ	
	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60

第10回	カウンターカルチャーとその遺産	
	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第11回	80年代と「保守」の文化	
	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第12回	グローバル化と文化変容(1)	
	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第13回	グローバル化と文化変容(2)	
	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第14回	グローバル化と文化変容(3)	
	指示された文献・資料の該当部分などをふまえて議論の準備をする。	60
第15回	まとめ	
	これまでの議論をふまえ、論点を整理し、疑問点その他を明らかにしておく。	60

授業の方法

このクラスでは独自のテキストを用意し、初回に配布または指示します。なかには映像も含まれ、そのときは準備学習の時間が増えます。授業は講義部分と討論部分から成りますが、進行につれて両者の配分が変化し、出席者の関わりによって全体の流れが変容します。それゆえ出席は「当然の前提」となります。

成績評価の方法

大前提として出席を重視します。但し出席は単位取得を保障するものではありません。授業は講義部分と討論部分から成りますが、進行につれて両者の配分が変化し、出席者の関わりによって全体の流れが変容します。この討論と課題と学期末試験の成績を合わせて最終評価を下します。

学期末試験＝50%、平常点＝50%。平常点には「授業への参加」「課題提出」「授業中の質問・発表・発言」「授業後のコメント」などが含まれます。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。開講後、適宜指示します。

テキスト

独自のテキストを用意し、初回授業で配布または指示します。

参考書

有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史』（有斐閣）
ほかは授業で指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業開始または終了後に教室で受け付けます。必要ならそれ以外にも適宜。

科目名	英語学Ⅰ		
教員名	篠原 和子		
科目ナンバー	1251415217	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
日本人の多くが英語を世界共通語と考えており、英語は世界の言語の中心であるかのように思われがちですが、その正体は、地球上に存在する数千にもおよぶ人間の言語のひとつです。英語がどんな言語であるかを理解するには、人間の言語そのものについての理解が重要な鍵になります。本講義では、現代言語学のなかで20世紀後半から発展してきた認知言語学の立場から、人間の言語の成り立ちについて主要なトピックをもとに考察し、英語を相対化して見ることでできる視点をやしません。それによって、英語だけでなく人間の言語の特徴を理論的に理解し、日本語と英語の共通点と相違点にも気づき、ひとつの言語として英語をより深く理解できるようになることを目指します。特に、人間の認知構造のなかで言葉がどのように機能しているかを考えることで、言葉というものの正しい理解を涵養します。 そのために、特に以下を重点的にとりあげます。 ・ 世界の言語のなかでの日本語の位置と特徴 ・ 言語の研究の歴史： 現代言語学の発祥から認知言語学まで ・ 自然言語の特徴 ・ 言語記号の恣意性と有契性 ・ カテゴリー化 ・ メタファーとメトニミー ・ 言語の普遍性と相対性 ・ 認知言語学の言語観			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を涵養するため、次の点を到達目標とする。 1. 日本語・英語を含め、人間の言語を客観的に考察できる。 2. 認知言語学の基本概念を理解し、説明できる。 3. 日本語・英語など知っている言語から、例文や表現などの事例を見つけ出し、言語現象を自分で分析できる。 4. 行った分析結果を整理し、適切にまとめることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 講義内容、授業の進め方などを説明する。 クイズを行い、世界の言語のなかでの日本語の位置づけや特徴について解説する。		
	【予習】 シラバスを読んで講義内容、目標などを理解しておく。 【復習】 クイズの答えについて復習し、日本語の特徴や位置付けについて理解する。	30	
第2回	現代言語学の発祥 【講義】 一 歴史言語学、ソシュール、構造主義		
	【復習】 ノートをきちんと取り、それをもとに講義内容をよく復習し、理解する。	30～60	
第3回	認知言語学への展開 【講義】 一 アメリカ構造主義、生成文法、認知言語学		
	【復習】 ノートをきちんと取り、それをもとに講義内容をよく復習し、理解する。	60	

第4回	自然言語の特徴 【講義・グループ討議】 一 恣意性、生産性、超越性	
	【復習】 講義内容をよく復習し、理解する。	60
第5回	言語記号の恣意性と有契性 [1] 【講義】 - 一 ソシュールの恣意性の概念とその解釈、問題点 - 一 基本色彩語	
	【復習】 講義内容をよく復習し、理解する。	60
第6回	言語記号の恣意性と有契性 [2] 【講義】 - 一 ソシュールの恣意性の概念への反論 - 一 音象徴 - 一 身体性	
	【復習】 講義内容をよく復習し、理解する。	60
第7回	到達度確認テスト： 前半の講義内容についてのテストを行う。	
	【予習】 これまでの内容をよく復習し、テストの準備をしておく。	60～120
第8回	【テストの講評と解説】 カテゴリー化（1） 【講義・実験・グループ討議】 一 プロトタイプ、放射状構造	
	【復習】 テストの内容を復習し、理解を補う。 講義内容をよく復習し、理解する。	60
第9回	カテゴリー化（2） 【講義・実験・グループ討議】 一 基本レベルカテゴリー	
	【復習】 講義内容をよく復習し、理解する。	60

第10回	メタファーとメトニミー 【講義・分析演習】 ー 日本語、英語のメタファー表現、メトニミー表現	
	【復習】 講義内容をよく復習し、理解する。	60
第11回	概念メタファー理論 【講義・分析演習】 ー 理論の枠組み ー 日本語、英語の概念メタファー	
	【予習】 指定された配布物を読んでくる。 【復習】 講義内容をよく復習し、理解する。	60～120
第12回	言語の普遍性と相対性 【講義】 ー 言語相対論、サピア=ウォーフ仮説 ー 英語使用によって思考様式は変わるか ー (日本語のような) 母語は、思考の牢獄か	
	【復習】 講義内容をよく復習し、理解する。	60
第13回	認知言語学の言語観 【講義】 ー 哲学的背景 ー 人工知能と言語	
	【復習】 講義内容をよく復習し、理解する。	60
第14回	到達度確認テスト： 後半の講義内容についてテストを行う。	
	【予習】 到達度確認テストの準備をする。	60～120
第15回	講評と振り返り： ー テストについての講評と解説 ー 講義内容の全体的な振り返りとまとめ	
	【予習】 テスト問題について自分なりに改めて解答を考え、これまでの内容を復習しておく。	60

授業の方法

講義を中心とするが、理解を深めるために、適宜クイズやグループ活動、簡単な実験なども採り入れる。
講義資料はオリジナルの配布物を中心とし、その場で配布して講義や演習を行うので、先の方まで予習をする必要はないが、講義内容をよく理解するために、毎回の復習は重要である。
講義の進度は、受講生の理解度をみながら適宜調整するので、上記の計画とずれることがありうる。状況により、トピックの追加、削除をする可能性がある。
学期を大きく前半と後半に分け、それぞれ理解を確認するため到達度確認テストを行う。

成績評価の方法

以下の項目を総合的に評価する。

1. 授業への出席と積極的な参加、グループ活動、発表やコメント： 20%
2. 到達度確認テスト（前半）： 40%
3. 到達度確認テスト（後半）： 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

プリントを授業にて配布する。

参考書

参考書は必要に際して授業中に紹介する。授業のなかで関連資料を配布することがある。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。
また、随時、電子メールで受け付けます。

科目名	英語学II		
教員名	篠原 和子		
科目ナンバー	1251415218	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
言語の研究には、さまざまなアプローチがある。20世紀後半以降、言語は人間の認知能力のひとつであると考えられるようになり、言語の構造を認知能力の構造の一部として分析し理論化していく研究分野が発展した。そのなかのアプローチのひとつが認知言語学である。本講義では、この立場から、英語などの個別言語にみられる意味的現象のいくつかを検討し、言語の意味構造と人間の身体とが切り離せないことを確認してゆく。とくに空間表現、時間表現、感情表現、音象徴などのトピックをとりあげ、これらにどのような意味的構造がみられるか、また背景となる認知構造や身体的経験の構造がどのように反映されているかを、主要な文献を読解しながら考察する。この作業を通して、言語の意味と認知構造の関係についてのより深い理解と考察力を養成し、英語を言語のひとつとして客観的に見る力を養う。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を涵養するため、次の点を到達目標とする。 1. 認知言語学的な意味理解における「身体性」の重要性を理解する。 2. 講義で取り上げるトピックについて日本語・英語の文献を読解し、講義を聴いて理解する。 3. 学んだ内容を自らの言語体験と関連づけ、英語などの言語にみられる現象を主体的に考察できる力をつける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業の進め方の説明 講義内容の全体的説明 ー 言語の意味とメタファー構造についての概観		
	【予習】 シラバスをよく読み、テーマや目標を理解しておく。		30
第2回	認知と言語における身体性の問題 【講義】 ー 空間、時間、感情、音象徴		
	【復習】 講義内容を復習して理解する。		30
第3回	空間概念 [1] 【講義】 ー 位置関係、空間参照枠		
	【予習】 指定した資料を読んでくる。		60

第4回	空間概念〔2〕【講義】 一 空間参照枠の種類と言語による違い	
	【予習】 指定した資料を読んでくる。	60
第5回	空間概念〔3〕【講義】 一 空間参照枠と認知： 研究事例	
	【予習】 指定し資料を読んでくる。	60
第6回	時間概念〔1〕【講義】 一 概念メタファー理論にもとづく時間概念分析 一 位相関係、移動	
	【予習】 指定した資料を読んでくる。	60
第7回	時間概念〔2〕【講義】 一 経過と移動、前後軸と順序構造	
	【予習】 指定した資料を読んでくる。	60
第8回	時間概念〔3〕【講義】 一 言語による違い、視点と主観性	
	【予習】 指定した資料を読んでくる。	60
第9回	感情メタファー〔1〕【講義】 一 怒りのメタファー	
	【予習】 指定した資料を読んでくる。	60

第10回	感情メタファー〔2〕【講義】 ー 日本語と英語の感情メタファーの違い ー 心のなかの宇宙と自然、身体	
	【予習】 指定した資料を読んでくる。	60
第11回	感情メタファー〔3〕【講義】 ー マルチモーダル・メタファーと文化的差異 ー 漫画にみられる視覚的感情メタファー表現	
	【予習】 指定した資料を読んでくる。	60
第12回	音象徴〔1〕【講義・実験・分析】 ー 恣意性と音象徴 ー 音声素性	
	【予習】 指定した資料を読んでくる。	60
第13回	音象徴〔2〕【講義・グループ討議】 ー 研究事例： ポケモンの名前、商品名など	
	【予習】 指定した資料を読んでくる。	60
第14回	到達度確認テスト ー 講義内容についてのテストを行う	
	【予習】 これまでの講義全体について復習し、テストの準備をする。	60～120
第15回	振り返り ー テストについての解説 ー 講義内容全体の振り返りとまとめ ー レポート課題の説明	
	【予習】 テスト問題について自分なりに改めて解答を考え、これまでの内容を復習しておく。	60

授業の方法

講義を中心とするが、理解を深めるために、適宜クイズやグループ活動、簡単な実験なども採り入れる。
講義資料は授業の中でプリントを配布するが、必要に応じ予習用の資料を指定して読んできてもらう（プリント配布、またはポータルで通知する）。
講義の進度、および英語資料の量は受講生の理解度をみながら調整する。進度によっては上記の計画の入れ替え、追加、削除などがある。

成績評価の方法

以下の項目を総合的に評価する。

1. 授業への出席と積極的な参加、クラス内課題の提出物： 20%
2. 到達度確認テスト： 40%
3. レポート： 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

前期開講の「英語学Ⅰ」を履修していることが望ましい。未履修の場合は相談に応じる。

テキスト

プリントを授業にて配布する。
予習用の読解資料は、授業内で配布、もしくはポータルで通知する。

参考書

参考書や参考資料は必要に応じて授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。
また、随時、電子メールで受け付けます。

科目名	O r a l E n g l i s h I a		
教員名	ジャマール モーリス		
科目ナンバー	1251415301	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
The aim of this course is to improve students' all-round competence in English. As well as the four skills (reading; writing; listening; speaking), students will work on improving the knowledge and use of the language system (grammar; vocabulary; pronunciation; appropriacy)			
到達目標			
In accordance with the university's diploma policy, students will improve communication and indepenedent learning skills. (see: Diploma Policy: 6)			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	Class orientation. Goals and class rules		
	Preview next class and review this one.	60	
第2回	Leisure and Sport: frequency phrases; review of question forms; reading and talking about sports.		
	Preview next class and review this one.	60	
第3回	Reading an interview; preparing and conducting interviews.		
	Preview next class and review this one.	60	

第4回	Firsts and Lasts: review of past forms with time phrases: describing feelings: learning about technology firsts	
	Preview next class and review this one.	60
第5回	Storytelling: personal stories: a narrative	
	Preview next class and review this one.	60
第6回	Work and Rest: Daily routines: expressing ability, obligation, advice	
	Preview next class and review this one.	60
第7回	Jobs and work: duties and responsibilities: choosing an ideal job.	
	Preview next class and review this one.	60
第8回	Special Days: verb phrases, adjective-building: expressing opinions	
	Preview next class and review this one.	60
第9回	Describing special days in your country / community / life	
	Preview next class and review this one.	60

第10回	Your Look: comparative and superlative forms; physical appearance; vocabulary (parts of the body)	
	Preview next class and review this one.	60
第11回	Creating and conducting a survey about "image"	
	Preview next class and review this one.	60
第12回	Going Away: describing plans and intentions; vocabulary building; comparing types of holiday.	
	Preview next class and review this one.	60
第13回	Planning a group holiday; expressing preferences	
	Preview next class and review this one.	60
第14回	Success: describing and discussing achievements; perfect tenses	
	Preview next class and review this one.	60
第15回	End of term test.	
	Review next class and review this one.	60

授業の方法

Students will take part in both pair- and group-work. In addition, time will also be set aside for students to work individually on improving reading fluency and developing their vocabulary.

成績評価の方法

Grades will be based on the following criteria:

Classwork: 50%

Homework: 30%

Test: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

n/a

テキスト

New Cutting Edge Pre-intermediate (ISBN: 978-1-4479-3690-9)

Vocabulary in Use Pre-intermediate (ISBN: 978-1-316-62831-7)

参考書

n/a

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	O r a l E n g l i s h I I a		
教員名	ジャマール モーリス		
科目ナンバー	1251415302	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
The aim of this course is to improve students' all-round competence in English. As well as the four skills (reading; writing; listening; speaking), students will work on improving the knowledge and use of the language system (grammar; vocabulary; pronunciation; appropriacy)			
到達目標			
In accordance with the university's diploma policy, students will improve communication and indepenedent learning skills. (see: Diploma Policy: 6)			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	Places to Live: quantifiers; vocabulary (cities/city life; geographical features); articles		
	review syllabus	60	
第2回	Giving a talk about Canada		
	Preview next class and review this one.	60	
第3回	Old and New: comparing modern vs old; describing past lifestyles; expressing degrees of possibility		
	Preview next class and review this one.	60	

第4回	Describing places: planning a café makeover	
	Preview next class and review this one.	60
第5回	Take Care!: past continuous/used to; health and fitness	
	Preview next class and review this one.	60
第6回	Comparing funny stories: judging the best story	
	Preview next class and review this one.	60
第7回	The Best Things: conditional tenses; adjectives with prepositions; describing likes and dislikes	
	Preview next class and review this one.	60
第8回	Completing a survey / Taking a survey on health and fitness	
	Preview next class and review this one.	60
第9回	Brand New: passive forms; vocabulary building; discussing brands and branding	
	Preview next class and review this one.	60

第10回	The Dragon' s Den: Presenting / Creating a new product or service	
	Preview next class and review this one.	60
第11回	The Right Person: vocabulary (personal characteristics) perfect tenses; discussing relationships	
	Preview next class and review this one.	60
第12回	Discussion: Choosing a Goodwill Ambassador	
	Preview next class and review this one.	60
第13回	Money: narrative tenses review; discussing different kinds of money; reading about films based on money	
	Preview next class and review this one.	60
第14回	Telling a story from picture prompts; discussing the role and importance of money	
	Preview next class and review this one.	60
第15回	End of term test	
	Review course notes / materials	90

授業の方法

Students will take part in both pair- and group-work. In addition, time will also be set aside for students to work individually on improving reading fluency and developing their vocabulary.

成績評価の方法

Grades will be based on the following criteria:

Classwork: 50%

Homework: 30%

Test: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

n/a

テキスト

New Cutting Edge Pre-intermediate (ISBN: 978-1-4479-3690-9)

Vocabulary in Use Pre-intermediate (ISBN: 978-1-316-62831-7)

参考書

n/a

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	O r a l E n g l i s h I b		
教員名	クレイン ジーン		
科目ナンバー	1251415301	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
The aim of this course is to improve students' all-round competence in English. As well as the four skills (reading; writing; listening; speaking), students will work on improving the knowledge and use of the language system (grammar; vocabulary; pronunciation; appropriacy).			
到達目標			
In accordance with the university' s Diploma Policy (see: DP: 6)			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	Course orientation, warm-up activities, class goals and rules explained.		
	Prepare next unit	60	
第2回	Leisure and sport: frequency phrases; review of question forms; reading and talking about sports.		
	Review unit & prepare next unit	60	
第3回	Reading an interview; preparing and conducting interviews.		
	Review unit & prepare next unit	60	

第4回	Firsts and lasts: review of past forms with time phrases: describing feelings: learning about technology firsts.	
	Review unit & prepare next unit	60
第5回	Storytelling: personal stories: a narrative.	
	Review unit & prepare next unit	60
第6回	Work and rest: daily routines: expressing ability, obligation, advice.	
	Review unit & prepare next unit	60
第7回	Jobs and work: duties and responsibilities: choosing an ideal job.	
	Review unit & prepare next unit	60
第8回	Special days: verb phrases, adjective-building: expressing opinions.	
	Review unit & prepare next unit	60
第9回	Describing special days in your country, community/life.	
	Review unit & prepare next unit	60

第10回	Your look: comparative and superlative forms; physical appearance; vocabulary (parts of the body).	
	Review unit & prepare next unit	60
第11回	Creating and conducting a survey about “image” .	
	Review unit & prepare next unit	60
第12回	Going away: describing plans and intentions; vocabulary building; comparing types of holiday.	
	Review unit & prepare next unit	60
第13回	Planning a group holiday; expressing preferences.	
	Review unit & prepare next unit	60
第14回	Success: describing and discussing achievements; perfect tenses.	
	Review unit & prepare next unit	60
第15回	End-of-term test.	
	Review exam	60

授業の方法

Students will take part in both pair- and group-work. In addition, time will also be set aside for students to work individually on improving reading fluency and developing their vocabulary.

成績評価の方法

Grades will be based on the following:

Classwork: 50%

Homework: 30%

Tests: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N/A

テキスト

1) Cutting Edge Pre-Intermediate (ISBN: 978-1-4479-3690-9) 3 Rev ed

2) English Vocabulary in Use, Pre-Intermediate/Intermediate (Student' s Book)
Stuart Redman, Lynda Edwards
Cambridge University Press
ISBN 978-1-316-62831-7 ?

参考書

N/A

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Questions may be asked during class, or immediately before/after class.
Other contact information will be given during the first class.

科目名	O r a l E n g l i s h I I b		
教員名	クレイン ジーン		
科目ナンバー	1251415302	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
The aim of this course is to improve students' all-round competence in English. As well as the four skills (reading; writing; listening; speaking), students will work on improving the knowledge and use of the language system (grammar; vocabulary; pronunciation; appropriacy).			
到達目標			
In accordance with the university' s Diploma Policy (see: DP: 6)			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	Places to live: quantifiers; vocabulary (cities/city life; geographical features); articles.		
	Review the day' s work. Do assigned vocabulary exercises from your textbook.	60	
第2回	Giving a talk about Canada.		
	Review the day' s work. Do assigned vocabulary exercises from your textbook.	60	
第3回	Old and new: comparing modern vs. old; describing past lifestyles; expressing degrees of possibility.		
	Review the day' s work. Do assigned vocabulary exercises from your textbook.	60	

第4回	Describing places: planning a café makeover.	
	Review the day' s work. Do assigned vocabulary exercises from your textbook.	60
第5回	Take care: past continuous/used to; health and fitness.	
	Review the day' s work. Do assigned vocabulary exercises from your textbook.	60
第6回	Comparing funny stories: judging the best story.	
	Review the day' s work. Do assigned vocabulary exercises from your textbook.	60
第7回	The best things: conditional tenses; adjectives with prepositions; describing likes and dislikes.	
	Review the day' s work. Do assigned vocabulary exercises from your textbook.	60
第8回	Completing a survey: taking a survey on health and fitness.	
	Review the day' s work. Do assigned vocabulary exercises from your textbook.	60
第9回	Brand new: passive forms; vocabulary building; discussing brands and branding.	
	Review the day' s work. Do assigned vocabulary exercises from your textbook.	60

第10回	The dragon' s den: presenting/creating a new product or service.	
	Review the day' s work. Do assigned vocabulary exercises from your textbook.	60
第11回	The right person: vocabulary (personal characteristics); perfect tenses; discussing relationships.	
	Review the day' s work. Do assigned vocabulary exercises from your textbook.	60
第12回	Discussion: choosing a goodwill ambassador	
	Review the day' s work. Do assigned vocabulary exercises from your textbook.	60
第13回	Money; narrative tenses review; discussing different kinds of money; reading about films based on money.	
	Review the day' s work. Do assigned vocabulary exercises from your textbook.	60
第14回	Telling a story from picture prompts; discussing the role and importance of money.	
	Review the day' s work. Do assigned vocabulary exercises from your textbook.	60
第15回	End-of-term test.	
	Review exam.	60

授業の方法

Students will take part in both pair- and group-work. In addition, time will also be set aside for students to work individually on improving reading fluency and developing their vocabulary.

成績評価の方法

Grades will be based on the following:

Classwork: 50%

Homework: 30%

Tests: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

N/A

テキスト

1) Cutting Edge Pre-Intermediate (ISBN: 978-1-4479-3690-9) 3 Rev ed

2) English Vocabulary in Use, Pre-Intermediate/Intermediate (Student' s Book)

Stuart Redman, Lynda Edwards

Cambridge University Press

ISBN 978-1-316-62831-7 ?

参考書

N/A

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Questions may be asked during class, or immediately before/after class.

Other contact information will be given during the first class.

科目名	O r a l E n g l i s h I I I a		
教員名	ザブスラック ロナルド ステファン		
科目ナンバー	1251415303	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
The aim of this course is to improve students' all-round competence in English. As well as the four skills (reading; writing; listening; speaking), students will work on improving the knowledge and use of the language system (grammar; vocabulary; pronunciation; appropriacy)			
到達目標			
In accordance with the university's diploma policy, students will improve communication and indepenedent learning skills. (see: Diploma Policy: 6)			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	Class orientation. Goals and class rules		
	Preview next class and review this one.	60分	
第2回	Leisure and Sport: frequency phrases; review of question forms; reading and talking about sports.		
	Preview next class and review this one.	60分	
第3回	Reading an interview; preparing and conducting interviews.		
	Preview next class and review this one.	60分	

第4回	Firsts and Lasts: review of past forms with time phrases: describing feelings: learning about technology firsts	
	Preview next class and review this one.	60分
第5回	Storytelling: personal stories: a narrative	
	Preview next class and review this one.	60分
第6回	Work and Rest: Daily routines: expressing ability, obligation, advice	
	Preview next class and review this one.	60分
第7回	Jobs and work: duties and responsibilities: choosing an ideal job.	
	Preview next class and review this one.	60分
第8回	Special Days: verb phrases, adjective-building: expressing opinions	
	Preview next class and review this one.	60分
第9回	Describing special days in your country / community / life	
	Preview next class and review this one.	60分

第10回	Your Look: comparative and superlative forms; physical appearance; vocabulary (parts of the body)	
	Preview next class and review this one.	60分
第11回	Creating and conducting a survey about "image"	
	Preview next class and review this one.	60分
第12回	Going Away: describing plans and intentions; vocabulary building; comparing types of holiday.	
	Preview next class and review this one.	60分
第13回	Planning a group holiday; expressing preferences	
	Preview next class and review this one.	60分
第14回	Success: describing and discussing achievements; perfect tenses	
	Preview next class and review this one.	60分
第15回	End of term test.	
	Review next class and review this one.	60分

授業の方法

Students will take part in both pair- and group-work. In addition, time will also be set aside for students to work individually on improving reading fluency and developing their vocabulary.

成績評価の方法

Grades will be based on the following criteria:

Classwork: 50%

Homework: 30%

Test: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

n/a

テキスト

New Cutting Edge Pre-intermediate (ISBN: 978-1-4479-3690-9)

Vocabulary in Use Pre-intermediate (ISBN: 978-1-316-62831-7)

参考書

n/a

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	O r a l E n g l i s h I V a		
教員名	ザブスラック ロナルド ステファン		
科目ナンバー	1251415304	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
The aim of this course is to improve students' all-round competence in English. As well as the four skills (reading; writing; listening; speaking), students will work on improving the knowledge and use of the language system (grammar; vocabulary; pronunciation; appropriacy)			
到達目標			
In accordance with the university's diploma policy, students will improve communication and indepenedent learning skills. (see: Diploma Policy: 6)			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	Places to Live: quantifiers; vocabulary (cities/city life; geographical features); articles		
	review syllabus	60分	
第2回	Giving a talk about Canada		
	Preview next class and review this one.	60分	
第3回	Old and New: comparing modern vs old; describing past lifestyles; expressing degrees of possibility		
	Preview next class and review this one.	60分	

第4回	Describing places: planning a café makeover	
	Preview next class and review this one.	60分
第5回	Take Care!: past continuous/used to; health and fitness	
	Preview next class and review this one.	60分
第6回	Comparing funny stories: judging the best story	
	Preview next class and review this one.	60分
第7回	The Best Things: conditional tenses; adjectives with prepositions; describing likes and dislikes	
	Preview next class and review this one.	60分
第8回	Completing a survey / Taking a survey on health and fitness	
	Preview next class and review this one.	60分
第9回	Brand New: passive forms; vocabulary building; discussing brands and branding	
	Preview next class and review this one.	60分

第10回	The Dragon' s Den: Presenting / Creating a new product or service	
	Preview next class and review this one.	60分
第11回	The Right Person: vocabulary (personal characteristics) perfect tenses; discussing relationships	
	Preview next class and review this one.	60分
第12回	Discussion: Choosing a Goodwill Ambassador	
	Preview next class and review this one.	60分
第13回	Money: narrative tenses review; discussing different kinds of money; reading about films based on money	
	Preview next class and review this one.	60分
第14回	Telling a story from picture prompts; discussing the role and importance of money	
	Preview next class and review this one.	60分
第15回	End of term test	
	Review course notes / materials	90分

授業の方法

Students will take part in both pair- and group-work. In addition, time will also be set aside for students to work individually on improving reading fluency and developing their vocabulary.

成績評価の方法

Grades will be based on the following criteria:

Classwork: 50%

Homework: 30%

Test: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

n/a

テキスト

New Cutting Edge Pre-intermediate (ISBN: 978-1-4479-3690-9)

Vocabulary in Use Pre-intermediate (ISBN: 978-1-316-62831-7)

参考書

n/a

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	O r a l E n g l i s h I I I b		
教員名	ケネディ デイビッド ハリス		
科目ナンバー	1251415303	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
The aim of this course is to improve students' all-round competence in English.			
到達目標			
As well as the four skills (reading; writing; listening; speaking), students will work on improving the knowledge and use of the language system (grammar; vocabulary; pronunciation; appropriacy)			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	Course orientation; Warm-up activities; Class goals and rules explained		
	Read the syllabus.	60	
第2回	Leisure and Sport: frequency phrases; review of question forms; reading and talking about sports.		
	a) ~~R~~ review the day's work. b) ~~D~~ some vocabulary exercises from your blue textbook.	60	
第3回	Reading an interview; preparing and conducting interviews.		
	a) ~~R~~ review the day's work. b) ~~D~~ some vocabulary exercises from your blue textbook.	60	

第4回	Firsts and Lasts: review of past forms with time phrases: describing feelings: learning about technology firsts	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第5回	Storytelling: personal stories: a narrative	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第6回	Work and Rest: Daily routines: expressing ability, obligation, advice	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第7回	Jobs and work: duties and responsibilities: choosing an ideal job.	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第8回	Special Days: verb phrases, adjective-building: expressing opinions	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第9回	Describing special days in your country / community/life	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60

第10回	Your Look: comparative and superlative forms; physical appearance; vocabulary (parts of the body)	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第11回	Creating and conducting a survey about "image"	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第12回	Going Away: describing plans and intentions; vocabulary building; comparing types of holiday.	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第13回	Planning a group holiday; expressing preferences	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第14回	Success: describing and discussing achievements; perfect tenses	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第15回	End of term test	
	Prepare for the test.	60

授業の方法

Students will take part in both pair- and group-work. In addition, time will also be set aside for students to work individually on improving reading fluency and developing their vocabulary.

成績評価の方法

Grades will be based on the following:

Classwork: 50%

Homework: 30%

Tests: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Cutting Edge Pre-Intermediate (ISBN: 978-1-4479-3690-9)
English Vocabulary in Use Pre-Intermediate/Intermediate
(ISBN: 978-1-316-62831-7)

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	O r a l E n g l i s h I V b		
教員名	ケネディ デイビッド ハリス		
科目ナンバー	1251415304	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
The aim of this course is to improve students' all-round competence in English.			
到達目標			
As well as the four skills (reading; writing; listening; speaking), students will work on improving the knowledge and use of the language system (grammar; vocabulary; pronunciation; appropriacy).			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	Places to Live: quantifiers; vocabulary (cities/city life; geographical features); articles		
	Read the syllabus.	60	
第2回	Giving a talk about Canada		
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60	
第3回	Old and New: comparing modern vs old; describing past lifestyles; expressing degrees of possibility		
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60	

第4回	Describing places: planning a café makeover	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第5回	Take Care!: past continuous/used to; health and fitness	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第6回	Comparing funny stories: judging the best story	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第7回	The Best Things: conditional tenses; adjectives with prepositions; describing likes and dislikes	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第8回	Completing a survey / Taking a survey on health and fitness	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第9回	Brand New: passive forms; vocabulary building; discussing brands and branding	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60

第10回	The Dragon's Den: Presenting / Creating a new product or service	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第11回	The Right Person: vocabulary (personal characteristics) perfect tenses; discussing relationships	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第12回	Discussion: Choosing a Goodwill Ambassador	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第13回	Money: narrative tenses review; discussing different kinds of money; reading about films based on money	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第14回	Telling a story from picture prompts; discussing the role and importance of money	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60
第15回	End of term test	
	Prepare for the test.	60

授業の方法

Students will take part in both pair- and group-work. In addition, time will also be set aside for students to work individually on improving reading fluency and developing their vocabulary.

成績評価の方法

Grades will be based on the following:

Classwork: 50%

Homework: 30%

Tests: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Cutting Edge Pre-Intermediate (ISBN: 978-1-4479-3690-9)

English Vocabulary in Use Pre-Intermediate/Intermediate
(ISBN: 978-1-316-62831-7)

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	O r a l E n g l i s h I I I c		
教員名	ビーゲル ケネス		
科目ナンバー	1251415303	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
The aim of this course is to improve students' all-round competence in English. As well as the four skills (reading; writing; listening; speaking), students will work on improving the knowledge and use of the language system (grammar; vocabulary; pronunciation; appropriacy).			
到達目標			
In accordance with the university' s Diploma Policy (see: DP: 6).			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	Course orientation; Warm-up activities; Class goals and rules explained.		
	a) ~~R~~ a view the day' s work. b) ~~D~~ o some vocabulary exercises from your blue textbook.		Usually 60 to 120 min.
第2回	Leisure and Sport: frequency phrases; review of question forms; reading and talking about sports.		
	a) ~~R~~ a view the day' s work. b) ~~D~~ o some vocabulary exercises from your blue textbook.		60-120 min.
第3回	Reading an interview; preparing and conducting interviews.		
	a) ~~R~~ a view the day' s work. b) ~~D~~ o some vocabulary exercises from your blue textbook.		60-120 min.

第4回	Firsts and Lasts: review of past forms with time phrases; describing feelings; learning about technology firsts.	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.
第5回	Storytelling: personal stories; a narrative.	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.
第6回	Work and Rest: Daily routines; expressing ability, obligation, advice.	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.
第7回	Jobs and work: duties and responsibilities; choosing an ideal job.	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.
第8回	Special Days: verb phrases, adjective-building; expressing opinions.	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.
第9回	Describing special days in your country / community/ life.	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.

第10回	Your Look: comparative and superlative forms; physical appearance; vocabulary (parts of the body).	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.
第11回	Creating and conducting a survey about "image."	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.
第12回	Going Away: describing plans and intentions; vocabulary building; comparing types of holiday.	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.
第13回	Planning a group holiday; expressing preferences.	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.
第14回	Success: describing and discussing achievements; perfect tenses.	
	Review and prepare for the end of term test.	60-120 min.
第15回	End of term test.	
	Review of the term test.	90 min.

授業の方法

Students will take part in both pair- and group-work. In addition, time will also be set aside for students to work individually on improving reading fluency and developing their vocabulary.

成績評価の方法

Grades will be based on the following:

Classwork: 50%

Homework: 30%

Tests: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

You will automatically fail this course if you miss more than 1/3 of the classes.

テキスト

・ Cutting Edge Pre-Intermediate (ISBN: 978-1-4479-3690-9)

・ English Vocabulary in Use Pre-Intermediate/Intermediate
(ISBN: 978-1-316-62831-7)

参考書

Relevant resources or books will be introduced as needed.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	O r a l E n g l i s h I V c		
教員名	ビーゲル ケネス		
科目ナンバー	1251415304	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
The aim of this course is to improve students' all-round competence in English. As well as the four skills (reading; writing; listening; speaking), students will work on improving the knowledge and use of the language system (grammar; vocabulary; pronunciation; appropriacy).			
到達目標			
In accordance with the university' s Diploma Policy (see: DP: 6)			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	Places to Live: quantifiers; vocabulary (cities/city life; geographical features); articles.		
	a) ~~R~~ review the day' s work. b) ~~D~~ some vocabulary exercises from your blue textbook.		Usually 60 to 120 min.
第2回	Giving a talk about Canada.		
	a) ~~R~~ review the day' s work. b) ~~D~~ some vocabulary exercises from your blue textbook.		60-120 min.
第3回	Old and New: comparing modern vs old; describing past lifestyles; expressing degrees of possibility.		
	a) ~~R~~ review the day' s work. b) ~~D~~ some vocabulary exercises from your blue textbook.		60-120 min.

第4回	Describing places: planning a café makeover.	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.
第5回	Take Care!: past continuous/used to; health and fitness.	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.
第6回	Comparing funny stories: judging the best story.	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.
第7回	The Best Things: conditional tenses; adjectives with prepositions; describing likes and dislikes.	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.
第8回	Completing a survey / Taking a survey on health and fitness.	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.
第9回	Brand New: passive forms; vocabulary building; discussing brands and branding.	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.

第10回	The Dragon' s Den: Presenting / Creating a new product or service.	
	a) Review the day' s work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.
第11回	The Right Person: vocabulary (personal characteristics) perfect tenses; discussing relationships.	
	a) Review the day' s work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.
第12回	Discussion: Choosing a Goodwill Ambassador.	
	a) Review the day' s work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.
第13回	Money: narrative tenses review; discussing different kinds of money; reading about films based on money.	
	a) Review the day' s work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.
第14回	Telling a story from picture prompts; discussing the role and importance of money.	
	a) Review the day' s work. b) Do some vocabulary exercises from your blue textbook.	60-120 min.
第15回	End of term test.	
		90 min.

授業の方法

Students will take part in both pair- and group-work. In addition, time will also be set aside for students to work individually on improving reading fluency and developing their vocabulary.

成績評価の方法

Grades will be based on the following:

Classwork: 50%

Homework: 30%

Tests: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

You will automatically fail this course if you miss more than 1/3 of the classes.

テキスト

・ Cutting Edge Pre-Intermediate (ISBN: 978-1-4479-3690-9)

・ English Vocabulary in Use Pre-Intermediate/Intermediate
(ISBN: 978-1-316-62831-7)

参考書

Relevant resources or books will be introduced as needed.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	O r a l E n g l i s h V a		
教員名	ケンブ ジョン パーナード		
科目ナンバー	1251415305	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
The aim of this course is to improve students' all-round competence in English.			
到達目標			
As well as the four skills (reading; writing; listening; speaking), students will work on improving the knowledge and use of the language system (grammar; vocabulary; pronunciation; appropriacy).			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	Course orientation; Warm-up activities; Class goals and rules explained		
	Read the syllabus.		60
第2回	Your World: People around you; lifestyle myths; vocabulary building		
	a)Review the day's work. b)Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.		60
第3回	Responding to a questionnaire; discussing lifestyles		
	a)Review the day's work. b)Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.		60

第4回	Memory: past tense forms: learning about your memory	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第5回	Storytelling: remembering the past / childhood	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第6回	Discussing past events / important memories	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第7回	Discussing past events / important memories	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第8回	Adjective-building: describing and recommending places	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第9回	Real Lives: perfect tenses review: describing life events: ambitions and plans	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60

第10回	Vocabulary building (personal qualities); Discussion: nominating someone for an Inspiration Award	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第11回	Learning about influential people; researching people you admire	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第12回	Go For It! Future forms; discussing ways to succeed; ambitions	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第13回	Life choices (if and when); discussing strengths and weaknesses; choosing the best candidate	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第14回	Writing your CV; writing skills; language register	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第15回	End of term test	
	Prepare for the test.	60

授業の方法

Students will take part in both pair- and group-work. In addition, time will also be set aside for students to work individually on improving reading fluency and developing their vocabulary.

成績評価の方法

Grades will be based on the following:

Classwork: 50%

Homework: 30%

Tests: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Cutting Edge Intermediate (ISBN: 978-1-4479-3687-9)

English Collocations in Use Intermediate (ISBN: 978-1-316-62975-8)

参考書

Please keep up to date with current events. The Japan Times, Tribune/Asahi and Daily Yomiuri are recommended.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	O r a l E n g l i s hVI a		
教員名	ケンブ ジョン パーナード		
科目ナンバー	1251415306	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
The aim of this course is to improve students' all-round competence in English.			
到達目標			
As well as the four skills (reading; writing; listening; speaking), students will work on improving the knowledge and use of the language system (grammar; vocabulary; pronunciation; appropriacy).			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	True Stories: reported speech; coincidences; collocations (say and tell)		
	Read the syllabus.		60
第2回	Discussing and comparing disasters; storytelling (using adverbs)		
	a)Review the day's work. b)Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.		60
第3回	Real Life Dramas (Chilean miners; Apollo 13). Online research and report		
	a)Review the day's work. b)Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.		60

第4回	Must See!: the passive; ed/ing adjectives; discussing entertainment	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第5回	Film Quiz; Reading and discussing newspaper stories; extreme adjectives	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第6回	Social Life: polite requests; vocabulary building; discussing how to spend an evening out	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第7回	Collocations (verbs and nouns); discussing modern manners; explaining cultural norms and customs	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第8回	Stuff! Relative clauses; talking about shopping habits; vocabulary building	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第9回	Society and Change: making predictions; numbers and statistics; predicting changes to society	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60

第10回	Making predictions/discussing likelihood: discussing unlikely possibilities	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第11回	Republic of Peakoolia: speaking; discussing improvements to a community	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第12回	Rules: obligation and permission; discussing exclusive clubs	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第13回	Crimes and Punishments; reading/discussing famous crimes	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第14回	Giving opinions: Discussion: suggesting changes to society's laws; reading/discussing an opinion essay (prison sentences)	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第15回	End of term test	
	Prepare for the test.	60

授業の方法

Students will take part in both pair- and group-work. In addition, time will also be set aside for students to work individually on improving reading fluency and developing their vocabulary.

成績評価の方法

Grades will be based on the following:

Classwork: 50%

Homework: 30%

Tests: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Cutting Edge Intermediate (ISBN: 978-1-4479-3687-9)

English Collocations in Use Intermediate (ISBN: 978-1-316-62975-8)

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	O r a l E n g l i s h V b		
教員名	ケネディ デイビッド ハリス		
科目ナンバー	1251415305	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
The aim of this course is to improve students' all-round competence in English.			
到達目標			
As well as the four skills (reading; writing; listening; speaking), students will work on improving the knowledge and use of the language system (grammar; vocabulary; pronunciation; appropriacy).			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	Course orientation; Warm-up activities; Class goals and rules explained		
	Read the syllabus.		60
第2回	Your World: People around you; lifestyle myths; vocabulary building		
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.		60
第3回	Responding to a questionnaire; discussing lifestyles		
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.		60

第4回	Memory: past tense forms: learning about your memory	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第5回	Storytelling: remembering the past / childhood	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第6回	Discussing past events / important memories	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第7回	Discussing past events / important memories	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第8回	Adjective-building: describing and recommending places	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第9回	Real Lives: perfect tenses review: describing life events: ambitions and plans	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60

第10回	Vocabulary building (personal qualities); Discussion: nominating someone for an Inspiration Award	
	a)  view the day's work. b)  some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第11回	Learning about influential people; researching people you admire	
	a)  view the day's work. b)  some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第12回	Go For It! Future forms; discussing ways to succeed; ambitions	
	a)  view the day's work. b)  some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第13回	Life choices (if and when); discussing strengths and weaknesses; choosing the best candidate	
	a)  view the day's work. b)  some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第14回	Writing your CV; writing skills; language register	
	a)  view the day's work. b)  some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第15回	End of term test	
	Prepare for the test.	60

授業の方法

Students will take part in both pair- and group-work. In addition, time will also be set aside for students to work individually on improving reading fluency and developing their vocabulary.

成績評価の方法

Grades will be based on the following:

Classwork: 50%

Homework: 30%

Tests: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Cutting Edge Intermediate (ISBN: 978-1-4479-3687-9)

English Collocations in Use Intermediate (ISBN: 978-1-316-62975-8)

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	O r a l E n g l i s hVI b		
教員名	ケネディ デイビッド ハリス		
科目ナンバー	1251415306	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
The aim of this course is to improve students' all-round competence in English.			
到達目標			
As well as the four skills (reading; writing; listening; speaking), students will work on improving the knowledge and use of the language system (grammar; vocabulary; pronunciation; appropriacy).			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	True Stories: reported speech; coincidences; collocations (say and tell)		
	Read the syllabus.	60	
第2回	Discussing and comparing disasters; storytelling (using adverbs)		
	a) ~~R~~ review the day's work. b) ~~D~~ o some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60	
第3回	Real Life Dramas (Chilean miners; Apollo 13). Online research and report		
	a) ~~R~~ review the day's work. b) ~~D~~ o some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60	

第4回	Must See!: the passive; ed/ing adjectives; discussing entertainment	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第5回	Film Quiz; Reading and discussing newspaper stories; extreme adjectives	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第6回	Social Life: polite requests; vocabulary building; discussing how to spend an evening out	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第7回	Collocations (verbs and nouns); discussing modern manners; explaining cultural norms and customs	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第8回	Stuff! Relative clauses; talking about shopping habits; vocabulary building	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第9回	Society and Change: making predictions; numbers and statistics; predicting changes to society	
	a) Review the day's work. b) Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60

第10回	Making predictions/discussing likelihood: discussing unlikely possibilities	
	a) ☐ Review the day's work. b) ☐ Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第11回	Republic of Peakoolia: speaking; discussing improvements to a community	
	a) ☐ Review the day's work. b) ☐ Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第12回	Rules: obligation and permission; discussing exclusive clubs	
	a) ☐ Review the day's work. b) ☐ Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第13回	Crimes and Punishments; reading/discussing famous crimes	
	a) ☐ Review the day's work. b) ☐ Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第14回	Giving opinions: Discussion: suggesting changes to society's laws; reading/discussing an opinion essay (prison sentences)	
	a) ☐ Review the day's work. b) ☐ Do some vocabulary exercises from the yellow textbook.	60
第15回	End of term test	
	Prepare for the test.	60

授業の方法

Students will take part in both pair- and group-work. In addition, time will also be set aside for students to work individually on improving reading fluency and developing their vocabulary.

成績評価の方法

Grades will be based on the following:

Classwork: 50%

Homework: 30%

Tests: 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Cutting Edge Intermediate (ISBN: 978-1-4479-3687-9)

English Collocations in Use Intermediate (ISBN: 978-1-316-62975-8)

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	Advanced Oral English		
教員名	ケネディ デイビッド ハリス		
科目ナンバー	1151415307	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

This course will help students understand what intercultural communication means in a broad range of contexts.

到達目標

Because language is a social act, speakers sometimes face difficulties or embarrassing situations when speaking with someone from another culture. The purpose of this course is:

1. To explore what 'culture' means and how an individual is connected to it.
2. To explore the heart of this culture (i.e. Japan) and why Japanese tend to behave the way they do.
3. To look at English-speaking cultures and what English speakers tend to expect from the people they interact with.
4. To let students discover how to communicate comfortably, flexibly, and confidently in English-speaking cultures.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Course introduction	
	Carefully read the syllabus	60
第2回	Conceptions of culture	
	Reading 1 plus comments	60
第3回	Inside vs outside	
	Reading 2 plus comments	60

第4回	Moving across cultures	
	Reading 3 plus comments	60
第5回	Stereotypes	
	Reading 4 plus comments	60
第6回	Race, ethnicity, subcultures, and identity	
	Reading 5 plus comments	60
第7回	The individual and the group	
	Reading 6 plus comments	60
第8回	Values	
	Reading 7 plus comments	60
第9回	Time	
	Reading 8 plus comments	60

第10回	Explanation of semester project	
	Consolidate notes	60
第11回	Discuss research	
	Research topic	60~90
第12回	Organize presentation	
	Research topic	60~90
第13回	Organize presentation	
	Research topic	60~90
第14回	Student presentations and discussion	
	Finish and practice presentation	60~90
第15回	Review	
	Write semester reflections	60

授業の方法

Readings will often be given as homework. Students are expected to come to class with questions and opinions about these readings. Class time will be a mixture of short lecture and discussion. Students should listen carefully to the lectures and take notes. During discussions, participation is required. Questions are encouraged at any time.

成績評価の方法

Active participation 30%
Assignments/preparation 35%
Semester presentation 35%

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

There is no textbook for this course. All materials will be provided by the instructor.

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	Advanced Oral English		
教員名	ケネディ デイビッド ハリス		
科目ナンバー	1151415308	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
This course will help students understand what intercultural communication means in a broad range of contexts.			
到達目標			
Because language is a social act, speakers sometimes face difficulties or embarrassing situations when speaking with someone from another culture. The purpose of this course is:			
1. To explore what 'culture' means and how an individual is connected to it.			
2. To explore the heart of this culture (i.e. Japan) and why Japanese tend to behave the way they do.			
3. To look at English-speaking cultures and what English speakers tend to expect from the people they interact with.			
4. To let students discover how to communicate comfortably, flexibly, and confidently in English-speaking cultures.			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	Course introduction		
	Carefully read syllabus		60
第2回	Verbal communication norms		
	Reading 1 plus comments		60
第3回	Communication styles (1)		
	Reading 2 plus comments		60

第4回	Communication styles (2)	
	Reading 3 plus comments	60
第5回	Politeness and interaction	
	Reading 4 plus comments	60~90
第6回	Taboo language	
	None	60
第7回	Nonverbal communication	
	Reading 5	60
第8回	Gender as culture	
	Reading 6	60
第9回	Explanation of semester project	
	Consolidate notes	60

第10回	Discuss research	
	Research topic	60~90
第11回	Analyze questionnaire results	
	Collect questionnaire data	60~90
第12回	Organize presentation	
	Research topic	60~90
第13回	Organize and practice presentation	
	Research topic	60~90
第14回	Student presentations and discussion	
	Practice for presentation	60~90
第15回	Review	
	Write semester reflections	60

授業の方法

Readings will often be given as homework. Students are expected to come to class with questions and opinions about these readings. Class time will be a mixture of short lecture and discussion. Students should listen carefully to the lectures and take notes. During discussions, participation is required. Questions are encouraged at any time.

成績評価の方法

Active participation 30%
Assignments/preparation 35%
Semester presentation 35%

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

There is no textbook for this course. All materials will be provided by the instructor.

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	翻訳・通訳セミナーA		
教員名	森住 史		
科目ナンバー	1251415401	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
通訳や翻訳は、「縦のものを横に、横のものを縦に」すれば良いわけではありません。目指すのは、1つの言語（source language: 起点言語）で作られ出された「メッセージ」を別の言語（target language: 目標言語）で再構築し再表現することです。この授業では、翻訳と通訳の理論を学び、実際に翻訳や通訳をすることで、そのことを各自体験してもらいます。前期は特に通訳理論が中心になります。			
到達目標			
DP2に準じ、コースワークを通して以下の目標をめざす。 ・ 翻訳と通訳に関する理論的関心と理解を深めること。 ・ 実際に翻訳や通訳を経験し、自分なりに理論を消化し理解を発展させること。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	通訳と翻訳：共通点と相違点の総括		
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。		60
第2回	通訳学と通訳理論の発展 1		
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。		60
第3回	通訳学と通訳理論の発展 2		
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。		60

第4回	通訳理論、訓練と実践 1	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	60
第5回	通訳理論、訓練と実践 2	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	60
第6回	通訳理論、訓練と実践 3	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	60
第7回	通訳理論、訓練と実践 4	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	60
第8回	通訳理論、訓練と実践 5	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	90
第9回	よりリアルな通訳実践 1	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	90

第10回	よりリアルな通訳実践 2	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	90
第11回	よりリアルな通訳実践 3	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	90
第12回	Back to basics - 理論の見直し	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	90
第13回	よりリアルな通訳実践 4	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	90
第14回	よりリアルな通訳実践 5	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	90
第15回	通訳テストと全体の復習	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	90

授業の方法

講義と実践演習の両方が行われます。
ペアワークやグループワークも多くありますので、予習復習をしたうえで積極的に参加することが求められます。
授業に積極的に参加することがこの授業ではもっとも重視されますので、欠席や遅刻には厳しい態度がとられます。
通訳の訓練と実践に関しては、クラス全員に聞こえる大きな声で日本語・英語で話せることが求められます。
学期末には、ターム・ペーパーを書くことが課されます。
なお、毎週の授業計画は、クラス人数や授業の進度によって、変更されることがあります。

成績評価の方法

授業への貢献と授業中のパフォーマンス	45%	
課題の予習復習		30%
学期末レポート	15%	
学期末テスト	10%	

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

ベルジュロ伊藤宏美 他 2009 「よくわかる逐次通訳」 東京外国語大学出版会

参考書

Gile, D. 2009. Basic Concepts and Models for Interpreter and Translator Training. John Benjamins.
Pochhammer, F. and Schlesinger, M. (Eds.) 2001. The Interpreting Studies Reader. Routledge.
Munday, J. 2008. Introducing Translation Studies.. 2nd edition. Routledge.
Hatim, B. and Munday, J. 2004. Translation: An advanced resource book. Routledge.
Jones, R. 2002. Conference Interpreting Explained. 2nd edition. St. Jerome Publishing.
Seleskovitch, D. 1998. Interpreting for International Conferences. 3rd edition. Pen and Booth.
Baker, M. 2011. In Other Words: A Course Book on Translation. Routledge.
ジェレミー・マンデイ（鳥飼玖美子訳） 2009 「翻訳学入門」 みすず書房
小松達也 2005 「通訳の技術」研究社
水野真木子 他 2002 「グローバル時代の通訳」 三修社
村上春樹、柴田元幸 2000 「翻訳夜話」 文藝春秋
ノア・S・ブラネン、沢登春仁 1988「機能的翻訳のすすめ」バベル・プレス

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	翻訳・通訳セミナーB		
教員名	森住 史		
科目ナンバー	1251415402	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
通訳や翻訳は、「縦のものを横に、横のものを縦に」すれば良いわけではありません。目指すのは、1つの言語（source language: 起点言語）で作られ「メッセージ」を別の言語（target language: 目標言語）で再構築し再表現することです。この授業では、翻訳と通訳の理論を学び、実際に翻訳や通訳をすることで、そのことを各自経験してもらいます。後期は特に通訳理論とその実践を中心に取上げます。			
到達目標			
DP 2に準じ、コースワークを通して以下の目標を目指します。 ・ 翻訳と通訳に関する理論的関心と理解を深めること。 ・ 実際に翻訳や通訳を経験し、自分なりに理論を消化し理解を発展させること。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	通訳と翻訳：共通点と相違点の総括		
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。		60
第2回	通訳学と通訳理論の発展 1		
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。		60
第3回	通訳学と通訳理論の発展 2		
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。		60

第4回	通訳理論、訓練と実践 1	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	60
第5回	通訳理論、訓練と実践 2	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	60
第6回	通訳理論、訓練と実践 3	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	60
第7回	通訳理論、訓練と実践 4	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	60
第8回	通訳理論、訓練と実践 5	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	90
第9回	よりリアルな通訳実践 1	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	90

第10回	よりリアルな通訳実践 2	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	90
第11回	よりリアルな通訳実践 3	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	90
第12回	Back to basics - 理論の見直し	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	90
第13回	よりリアルな通訳実践 4	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	90
第14回	よりリアルな通訳実践 5	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	90
第15回	通訳テストと全体の復習	
	学習内容を振り返り、理解を深める。 与えられた課題に取り組む。	90

授業の方法

講義と実践演習の両方が行われます。
ペアワークやグループワークも多くありますので、予習復習をしたうえで積極的に参加することが求められます。
授業に積極的に参加することがこの授業ではもっとも重視されますので、欠席や遅刻には厳しい態度がとられます。
通訳の訓練と実践に関しては、クラス全員に聞こえる大きな声で日本語・英語で話せることが求められます。
学期末には、ターム・ペーパーを書くことが課されます。
なお、毎週の授業計画は、クラス人数や授業の進度によって、変更されることがあります。

成績評価の方法

授業への貢献と授業中のパフォーマンス	45%	
課題の予習復習		30%
学期末レポート	15%	
学期末テスト	10%	

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

下記に載せた参考書を中心に、適宜配布物が渡されます。

参考書

Gile, D. 2009. Basic Concepts and Models for Interpreter and Translator Training. John Benjamins.
Pochhacker, F. and Schlesinger, M. (Eds.) 2001. The Interpreting Studies Reader. Routledge.
Munday, J. 2008. Introducing Translation Studies.. 2nd edition. Routledge.
Hatim, B. and Munday, J. 2004. Translation: An advanced resource book. Routledge.
Jones, R. 2002. Conference Interpreting Explained. 2nd edition. St. Jerome Publishing.
Seleskovitch, D. 1998. Interpreting for International Conferences. 3rd edition. Pen and Booth.
Baker, M. 2011. In Other Words: A Course Book on Translation. Routledge.
ジェレミー・マンデイ（鳥飼玖美子訳） 2009 「翻訳学入門」 みすず書房
ベルジュロ伊藤宏美 他 2009 「よくわかる逐次通訳」 東京外国語大学出版会
小松達也 2005 「通訳の技術」研究社
水野真木子 他 2002 「グローバル時代の通訳」 三修社
村上春樹、柴田元幸」2000 「翻訳夜話」 文藝春秋
ノア・S・ブラネン、沢登春仁 1988「機能的翻訳のすすめ」バベル・プレス

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	Topics in BrC. A		
教員名	ケンブ ジョン パーナード		
科目ナンバー	1251415403	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
Topics in British Culture is a content-based course centred on the UK. This class is taught all in English.			
到達目標			
In the first term we focus on the UK – England, Scotland, Wales and Northern Ireland, some of the well-known aspects of each country, the unification of England and Scotland and the 2014 Scottish referendum, Brexit. The following might also be considered: changes in the law of primogeniture, the royal family and their finances, Japanese companies in the UK, the 800th anniversary of Magna Carta, would-be immigrants to the UK. Some less central issues of British life will also be considered, such as making tea and the lives of figures in the entertainment business. Student response to some extent determines which topics are considered. It is hoped some parallels can be seen with Japanese culture.			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	Course introduction plus a lead-in to the first topic.		
	Review	Between 60 and 120 minutes.	
第2回	Topic 1		
	Review	Between 60 and 120 minutes.	
第3回	Topic 1		
	Review	Between 60 and 120 minutes.	

第4回	Topic 2	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第5回	Topic 2	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第6回	Topic 3	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第7回	Topic 3	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第8回	Topic 4	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第9回	Topic 4	
	Review	Between 60 and 120 minutes.

第10回	Topic 5	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第11回	Topic 5	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第12回	Topic 6	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第13回	Topic 6	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第14回	Review -	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第15回	End of term test	
	Review	Between 60 and 120 minutes.

授業の方法

There is usually a short introduction followed by a questionnaire or similar, DVD and / or a reading with accompanying worksheets. These involve some kind of information gap activity or discussion to find or check answers. The amount of time spent on each topic might be lengthened or shortened according to student interest.

成績評価の方法

Assessment is based on mini tests OR mini tests and group presentations according to student choice.

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. Assessment is as follows: class participation 20%: mini tests and, depending on student choice, group presentations - 80%.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

This class is suitable for students with lower intermediate to advanced levels of English.

テキスト

There is no course book. Students will be given printed material.

参考書

Comment about what we are doing is welcome. It is hoped students enjoy this class.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	Topics in BrC. B		
教員名	ケンブ ジョン パーナード		
科目ナンバー	1251415404	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

Topics in British Culture is a content-based course centred on the UK. This class is taught all in English.

到達目標

In the second term we focus on some prominent figures. Possible subjects include Shakespeare, George Orwell, Charles Darwin, Lord Byron, Isaac Newton, Queen Victoria, J. K. Rowling. Some less central issues of British life will also be looked at, such as venues popular among visitors to the UK, including The British Museum, Stonehenge, The Tower of London, Highgate Cemetery (the burial place of Karl Marx & other famous people). The following might also be considered if not already covered in term 1: changes in the law of primogeniture, the royal family and their finances, Japanese companies in the UK, ongoing negotiations over Brexit, the 800th anniversary of Magna Carta, would-be immigrants to the UK. Student response to some extent determines which topics are considered. It is hoped some parallels can be seen with Japanese culture.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	Introduction to the course: introduction to the first topic	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第2回	The first topic	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第3回	The first topic	
	Review	Between 60 and 120 minutes.

第4回	The second topic	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第5回	The second topic	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第6回	The third topic	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第7回	The third topic	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第8回	The fourth topic	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第9回	The fourth topic	
	Review	Between 60 and 120 minutes.

第10回	The fifth topic	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第11回	The fifth topic	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第12回	The sixth topic	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第13回	The sixth topic	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第14回	Review -	
	Review	Between 60 and 120 minutes.
第15回	End of term test	
	Review	Between 60 and 120 minutes.

授業の方法

There is usually a short introduction followed by a DVD and/ or a reading with accompanying worksheets. These involve some kind of information gap activity or discussion to find or check answers.
Topics might be lengthened, shortened or cut according to student interest.

成績評価の方法

Assessment is based on mini tests OR mini tests and group presentations according to student choice.

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39. Assessment is as follows: class participation 20%, mini tests and, depending on numbers and student choice, group presentations - 80%.
Please Note: In principle, four or more absences will automatically result in a grade of F.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

This class is suitable for students with lower intermediate to advanced levels of English.

テキスト

There is no course book. Students will be given printed material.

参考書

Comment about what we are doing is welcome. It is hoped students enjoy this class.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	Topics in AmC. A		
教員名	ヴァンペンタイゼン ロバート		
科目ナンバー	1251415405	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

This course provides students an opportunity to explore many different aspects of American culture. Areas of study will include the arts, popular entertainment, regional cultures, ethnic sub-cultures, government, gender, family relationships, politics, and youth culture. This class is taught all in English.

到達目標

The first goal of this course is to increase students' knowledge and understanding of American culture. The second goal is to strengthen English skills through reading, discussion, and writing.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	These are examples of the topics that we will learn about in this class. The order of study and some of the topics are subject to change.	
	Course introduction: What is culture?	
	Introductory readings	60 minutes
第2回	Native Americans	
	Reading assignment and preparation for discussion	60 minutes
第3回	Immigration	
	Reading assignment and preparation for discussion	60 minutes

第4回	Sports	
	Reading assignment and preparation for discussion	60 minutes
第5回	TV	
	Reading assignment and preparation for discussion	60 minutes
第6回	Education System	
	Reading assignment and preparation for discussion	60 minutes
第7回	Mid-term review and discussion	
	Reaction paper #1	60-120 minutes
第8回	Government	
	Reading assignment and preparation for discussion	60 minutes
第9回	African American History and Culture	
	Reading assignment and preparation for discussion	60 minutes

第10回	Blues Music	
	Reading assignment and preparation for discussion	60 minutes
第11回	Asian American History and Culture	
	Reading assignment and preparation for discussion	60 minutes
第12回	Women's Rights	
	Reading assignment and preparation for discussion	60 minutes
第13回	Review and Discussion	
	Reaction paper #2	60-120 minutes
第14回	Discuss individual research topics	
	Research paper	120 minutes
第15回	Final discussion	
	Prepare discussion notes	60 minutes

授業の方法

Students will explore American culture through readings, and through visual and audio material. The focus will be on individual cases that illustrate more general issues in American culture. There will be a weekly reading assignment given as homework. Classwork will include discussion of readings, discussion of students' research, written responses to topics, and viewing of visual materials. All coursework will be conducted in English.

成績評価の方法

Classwork: 50% (active participation in class, preparation of homework assignments, completion of in-class assignments)

Reaction papers: 25% (short writing assignments in response to topics that have been covered in class)

Research paper: 25% (research on a topic of interest to the student)

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Learning materials will be distributed in class.

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	Topics in AmC. B		
教員名	ヴァンペンタイゼン ロバート		
科目ナンバー	1251415406	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
This course provides students an opportunity to explore many different aspects of American culture. Areas of study will include the arts, popular entertainment, regional cultures, ethnic sub-cultures, government, gender, religion, politics, and youth culture. This class is taught all in English.			
到達目標			
The first goal of this course is to increase students' knowledge and understanding of American culture. The second goal is to strengthen English skills through reading, discussion and writing.			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	These are examples of the topics that we will learn about in this class. The order of study and some of the topics are subject to change.		
	Course introduction		
	Reading assignment and preparation for discussion		60 minutes
第2回	Hispanic American History and Culture		
	Reading assignment and preparation for discussion		60 minutes
第3回	Family		
	Reading assignment and preparation for discussion		60 minutes

第4回	Food	
	Reading assignment and preparation for discussion	60 minutes
第5回	Guns	
	Reading assignment and preparation for discussion	60 minutes
第6回	Rock Music	
	Reading assignment and preparation for discussion	60 minutes
第7回	Mid-term review and discussion	
	Reaction paper #!	60-120 minutes
第8回	Regional Differences	
	Reading assignment and preparation for discussion	60 minutes
第9回	Business and Advertising	
	Reading assignment and preparation for discussion	60 minutes

第10回	Movies	
	Reading assignment and preparation for discussion	60 minutes
第11回	Movies	
	Reading assignment and preparation for discussion	60 minutes
第12回	Music: Jazz	
	Reading assignment and preparation for discussion	60 minutes
第13回	Review and discussion	
	Reaction paper #2	60-120 minutes
第14回	Discuss individual research topics	
	Individual topic research paper	60-120 minutes
第15回	Final discussion	
	Discussion notes	60 minutes

授業の方法

Students will explore American culture through readings, and through visual and audio material. The focus will be on individual cases that illustrate more general issues in American culture. There will be a weekly reading assignment given as homework. Classwork will include discussion of readings, discussion of students' research, written responses to topics, and viewing of visual materials. All coursework will be conducted in English.

成績評価の方法

Classwork: 50% (active participation in class, preparation of homework assignments, completion of in-class assignments)
Reaction papers: 25% (short writing assignments in response to topics that have been covered in class)
Research paper: 25% (research on a topic of interest to the student)

成績評価の基準

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

Learning materials will be distributed in class.

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	キリスト教思潮 A		
教員名	江口 再起		
科目ナンバー	1251415501	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
聖書入門 キリスト教は欧米の文化や思想に、そして今日では日本をも含んだ全世界の文化思想に大きな影響を与えています。そのキリスト教の基礎となっているのが「聖書」という書物です。 この「聖書」の語る内容を、初歩から学び考えます。この学びを通して、キリスト教とは何かが見えてきます。			
到達目標			
(1) キリスト教の基本的な考え方について知ることができる。 (2) 「聖書」の概要について知ることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス(授業内容、進め方等の説明) 宗教とは何か 1 (現代人と宗教)		
	(予習) シラバスを読んでおくこと		60
第2回	宗教とは何か 2 (宗教の定義)		
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと		60
第3回	キリスト教とは何か 1 (キリスト教の概略)		
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと		60

第4回	キリスト教とは何か 2 (キリスト教の歴史)	
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと	60
第5回	旧約聖書 1 (全体の概略)	
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと	60
第6回	旧約聖書 2 (アダムとイブの物語)	
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと	60
第7回	旧約聖書 3 (十戒)	
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと	60
第8回	新約聖書 1 (全体の概略)	
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと	60
第9回	新約聖書 2 (パウロの手紙)	
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと	60

第10回	イエス・キリスト 1 (誕生物語)	
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと	60
第11回	イエス・キリスト 2 (青年時代)	
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと	60
第12回	イエス・キリスト 3 (その教え)	
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと	60
第13回	イエス・キリスト 4 (その活動)	
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと	60
第14回	イエス・キリスト 5 (十字架と復活)	
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと	60
第15回	授業のまとめ	
	(復習) ノート全体を読み返しておくこと	60

授業の方法

講義形式です（ノートを、きちんととって下さい）。

成績評価の方法

次の(1)と(2)から総合的に評価します。

- (1) 平常点（授業への参加状況・態度） 30%
- (2) 試験 70%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

- 入門的な内容ですので、とくに予備知識は必要ありません。
- この「キリスト教思潮A」の受講者は、できるだけ「キリスト教思潮B」も受講することをすすめます。

テキスト

「聖書」（新共同訳、日本聖書協会発行） - 他の訳の「聖書」でもかまいません。

参考書

授業の中で指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	キリスト教思潮B		
教員名	江口 再起		
科目ナンバー	1251415502	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
キリスト教的人間像 - ルターの場合 キリスト教はヨーロッパ社会の基盤となっており、生活・文化・思想に大きな影響を与えています。 そこで歴史的にみて代表的なキリスト者の一人、16世紀のドイツの宗教改革者マルティン・ルターをとりあげ、そもそもキリスト教的人間とは何か、ひいてはヨーロッパ的人間とは何かを考えます。			
到達目標			
(1) キリスト教の基本的な考え方について知ることができる。 (2) ヨーロッパ社会とキリスト教の関係を知ることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス(授業内容、進め方等の説明)		
	(予習) シラバスを読んでおくこと	60	
第2回	キリスト教という宗教(その歴史と概略)		
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと	60	
第3回	キリスト教の基本的な考え方 1 (神(キリスト)について)		
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと	60	

第4回	キリスト教の基本的な考え方 2 (人間について)	
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと	60
第5回	カトリックとプロテスタント	
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと	60
第6回	宗教改革運動	
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと	60
第7回	ルター 1 (誕生と青年時代)	
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと	60
第8回	ルター 2 (塔の体験)	
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと	60
第9回	ルター 3 (改革運動)	
	(復習) 前回のノートを読んでおくこと	60

第10回	宗教改革の三大原理 1 （聖書をめぐって）	
	（復習）前回のノートを読んでおくこと	60
第11回	宗教改革の三大原理 2 （信仰をめぐって）	
	（復習）前回のノートを読んでおくこと	60
第12回	宗教改革の三大原理 3 （教会をめぐって）	
	（復習）前回のノートを読んでおくこと	60
第13回	ルターの影響 1 （職業・仕事について）	
	（復習）前回のノートを読んでおくこと	60
第14回	ルターの影響 2 （良心について）	
	（復習）前回のノートを読んでおくこと	60
第15回	授業のまとめ	
	（復習）ノート全体を読み返しておくこと	60

授業の方法

講義形式ですすめます（ノートを、きちんととって下さい）。

成績評価の方法

次の(1)と(2)から総合的に評価します。

- (1) 平常点（授業への参加状況・態度）30%
- (2) 試験 70%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

できるだけ「キリスト教思潮A」を受講しておくことが望ましい。
ただし、入門的な内容なので予備知識がない人でも、わかると思います。

テキスト

江口再起『ルターと宗教改革500年』（NHK出版、カルチャーラジオ・歴史再発見）

参考書

授業の中で指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	ヨーロッパの文学A		
教員名	天沼 春樹		
科目ナンバー	1251415503	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
ヨーロッパの文化を文学という縦糸に古代から現代まで読み解くためのガイド的講義です。文学の底を流れる「精神」のありようを、背骨としてとりあつかい、わかりやすく解説します。たとえば、文学の背後にある宗教観(世界観)ひとつとっても、時代や文化圏によって様々であり、また変遷していきます。本講義は、まず神話・宗教から文学への流れをわかりやすく伝えて、またその神話的思考が現代まで意識・無意識に強く脈打っているようすも話していきたいと思います。難しいことはありません。また、難しいことでもありません。要するに人間の想像力を刺激するイメージのことなのです。そのイメージのありかたを、時代をくだりながら、紹介していきます。各回のテーマは、基本的に計画どおりにすすめるが、ときにはふいに注目すべきテーマが現れて差し替えることもある。			
到達目標			
ヨーロッパ文学のストーリーだけではなく、そこに流れる思想・宗教観・時代性など、そのバックボーンに気づき、ヨーロッパ人の精神世界理解の一助としてもらいたい。なによりも、その想像力と創造力のエネルギーを感じてほしい。そして、最後に「人はなぜ物語るか？」を考えてほしい。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	神話から文学へ。 「神話」とはなにか？ ヨーロッパ精神の源流(1)旧約・新約聖書の世界		
	関心をもった実際に著作にあたってみる事です。以下同文。旧約聖書・新約聖書の伝統は強い。	60分程度	
第2回	ヨーロッパ精神の源流(2)ギリシア・ローマ文化 ホメロス『オデッセイ』『イーリアス』の世界		
	ギリシア・ローマ神話(任意)以下、取り扱った作品で興味があるもの実際にふれてみる事です。	60分	
第3回	北欧神話・ゲルマン神話の世界 ジークフリートとは何者なのか？		
	ナチスとゲルマン神話	60分	

第4回	中世イタリア文学の華 『デカメロン』『ペンタロン』の世俗的世界	
	同時代のイタリア史	60分
第5回	ダンテ『神曲』の隠された秘密 なぜダンテは地獄めぐりの旅にでたか。イタリアの都市国家フィレンツェの政治闘争。	
	フィレンツェの歴史	60分
第6回	騎士道物語からセルバンテス『ドン・キ・ホーテ』の誕生。セルバンテスの知られざる経歴について。	
	世界三大海戦のひとつレパントの海戦に加わった若きセルバンテス。	60分
第7回	『ガリヴァー旅行記』 最後の寄港地はどこであったか？	
	ガリバーの訪ねた国々。	60分
第8回	恋多き男たち列伝(一部色事師) ドン・ジュアン、カサノヴァ、バイロン卿、マルキ・ド・サド、ナボコフ、ゲーテの伝説と文学	
	エロチシズムとはなにか。	60分
第9回	女流作家の歩んだ道 ジョルジュ・サンド、コレット、ヴァージニア・ウルフからフランソワーズ・サガン、M. デュラスまで。 フランソワーズ・サガンとマルグリット・デュラスまで。	
	フェミニズムとはなにか。	60分

第10回	ハーマン・メルヴィル『白鯨』の時代 クジラと男たちの物語——捕鯨の歴史と現在——	
	捕鯨の歴史	60分
第11回	アンデルセン童話の光と影 H. C. アンデルセンとは誰であったか。その人と作品。グリム兄弟との関連は(後期のドイツ文化・文化史特講で詳述する) 全童話を翻訳してきづいたこと。	
	アンデルセン童話をどれでもひとつきちんと読みかえしてみよう!	60分
第12回	ノーベル文学賞作品を読む(1) メーテルリンク『青い鳥』 キプリング『ジャングルブック』の世界観	
	知ってるつもり、読んだつもりではないか? 読んでみてこそ、わかる世界。	60分
第13回	ノーベル文学賞作品を読む(2) 20世紀の作家たち。ヘルマン・ヘッセ、トーマス・マン、ヘミングウェイとW. W. II。	
	20世、大戦の時代と文学者の立場に思いをはせる。	60分
第14回	ノーベル文学賞作品を読む(3) 英語で書いたタゴールの詩とカズオ・イシグロの文学にふれる。	
	スウェーデン・アカデミーが英語で読める作家しか受賞できない!!	60分
第15回	世界文学の(総論)	
	とにかく読まずに語れない。	60分

授業の方法

講義による。画像・映像資料、テキストの一部。関連した文化事象もとりあげる。

成績評価の方法

学期末のレポート。1600字程度。ヨーロッパの文学の作家・作品のいずれかを選択し、批評せよ。その際、自分なりの評価や感想などが必須であり、書籍からの引用は出典を明記すること。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にない。

テキスト

特に定めない。ハンドアウトを配布の予定。

参考書

その都度指示する。成蹊大学図書館をおおいに利用すること。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

講義前昼休み時間帯。（要予約）

科目名	ヨーロッパの文学B		
教員名	横山 裕人		
科目ナンバー	1251415504	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
【ヨーロッパ文学の展開とレトリック教育の影響】 ヨーロッパ文学、主にフランス文学の歴史を、レトリック（普通、弁論術あるいは修辞学と訳されている）とその教育の観点からたどります。レトリックは、すでに古代ギリシア・ローマで弁論の技法として理論化されたものですが、中世、ルネサンスの文化を通じて後世に伝えられ、現代欧米の文化の土台となっています。 この講義では、古代ギリシア・ローマから説き起こし、中世・ルネサンスを経て、16世紀以降のフランスへと進んでいきます。 作品を織り成す言語は、作家が無から創造するわけではなく、作家の属する社会のなかで育まれた言語能力から生み出されたものでしょう。その能力は、作家の個人的な努力によって磨かれた部分も当然あるわけですが、その土台の部分は作家の受けた教育によって形成されているはずです。近代までのヨーロッパにおいては、基礎教育を超えた部分は、実はレトリックを中心にすえた人文主義的な教育理念が支配していました。 そこでこうした教育の実情を踏まえながら、各時代の作品をいくつか比較しながら検討し、教育の影響と教育を受容したり拒絶したりする作家の個性、あるいは時代の特性を見定めることが、新たな研究の目標です。 しかしながら、このような観点からの研究は、ほとんど未開拓の分野ですので、概論的な教科書を解説するという講義はできません。学生みなさんにも一緒に考えてもらいながら進めて行きたいと思います。			
到達目標			
DP6、DP7を実現するため、次の3点を到達目標とします。 ・古代ギリシアから近代ヨーロッパまでフランスを軸として文学の流れをとらえることができる。 ・ヨーロッパ文化におけるレトリックの重要性を理解することができる。 ・レトリックの観点から文学作品を分析することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	レトリックとは何か、日本における受容		
	シラバスを読み、参考書などを探しておく。		60分
第2回	古典レトリック理論の概観		
	前週に指定された課題に取り組む。 参考書などを通して、レトリックの理論に自分でも触れてみる。		90分
第3回	古代ギリシア・ローマ文学とレトリックの成立		
	古代ギリシア・ローマ文学の参考書に目を通しておく。		90分

第4回	弁論におけるレトリックの活用：キケローの弁論作品	
	指定されたキケローのテキストに目を通す。	90分
第5回	演劇におけるレトリックの活用：古代ギリシア・ローマの演劇	
	指定されたエウリーピデースやセネカなどの作品に目をとおしておく。	90分
第6回	古代ギリシア・ローマ世界のレトリック教育：弁論予備練習と古代小説	
	指定された古代ギリシア・ローマの小説に目を通しておく。	90分
第7回	中世におけるレトリック	
	指定されたテキストに目を通す。	90分
第8回	ルネサンス人文主義と古典レトリック復興：ペトラルカ	
	指定されたテキストに目を通す。	90分
第9回	人文主義教育の拡大：エラスムス	
	指定されたテキストに目を通す。	90分

第10回	人文主義教育と16世紀フランス文学：ラブレー、モンテーニュ	
	指定されたテキストに目を通す。 フランス文学史の参考書に目を通す。	90分
第11回	イエズス会の教育	
	指定されたテキストに目を通す。	90分
第12回	17世紀フランス文学：コルネイユ	
	指定されたテキストに目を通す。	90分
第13回	17世紀フランス文学：ラシーヌとイエズス会以外の教育	
	指定されたテキストに目を通す。	90分
第14回	中等教育と19世紀フランス文学：フロベール。	
	指定されたテキストに目を通す。	90分
第15回	中等教育とブルースト。	
	指定されたテキストに目を通す。	90分

授業の方法

講義が主ですが、可能であれば部分的に演習形式（文献講読やミニレポート）も取り入れたいと思います。必要に応じて映像（劇作の上演）も見ます。

成蹊ポータルを通して、授業資料を事前に配布し、準備すべき事柄を指示しますので、毎回チェックしてください。
指定されたテキストは、日本語に訳されたものです。

成績評価の方法

小レポートや毎回のコメントペーパー（平常点として約2割）、期末試験（レポートの可能性もある）（約8割）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。レトリック理論と文学へのレトリックの影響について、どのくらい理解できているかを評価します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識は必要ありませんが、フランス語や古典語（ギリシア語・ラテン語）を少しでも学んでいると一層興味が湧くと思います。

テキスト

プリントを配布します。

参考書

- 1) 古典レトリック理論
 - ・ハインリッヒ・ラウスベルク著、萬沢正美訳『文学修辞学：文学作品のレトリック分析』東京都立大学出版会、2001.
 - ・オリヴィエ・ルブール著、佐野泰雄訳『レトリック』白水社、2000（文庫クセジュ833）.
 - ・ロラン・バルト著、沢崎浩平訳『旧修辞学』みすず書房、2005.
 - ・サム・リース著、松下祥子訳『レトリックの話 話のレトリック：アリストテレス修辞学から大統領のスピーチまで』論創社、2014.
 - 2) 古代ギリシア・ローマ（ラテン）文学史
 - ・松本仁助他著『ギリシア文学を学ぶ人のために』世界思想社、1991.
 - ・松本仁助他著『ラテン文学を学ぶ人のために』世界思想社、1995.
 - ・高橋宏幸著『はじめて学ぶラテン文学史』ミネルヴァ書房、2008.
 - 3) フランス文学史
 - ・横山安由美他編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2002.
 - ・柏木隆雄他編『エクリチュールの冒険：新編フランス文学史』大阪大学出版会、2003.
- 詳しくは成蹊ポータルの授業資料で示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	日本文学入門 a		
教員名	吉田 幹生		
科目ナンバー	1251421101	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

大学で4年間勉強していくうえで基礎になるものの考え方や調査方法を身につける。
 具体的には、古典和歌の読解を通して、高校までの古文学習から大学での古典文学研究への橋渡しをすることを目指す。

到達目標

DP6（文化現象の総合的理解）を実現するため、次の2点を到達目標とする。
 ①日本語のしくみについて、基本的な内容が理解できており、かつそれが読解に応用できる。
 ②古典和歌の表現のしくみについて、基本的な内容が理解できており、かつそれが読解に応用できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	日本語について	
	日本語文の構造について改めて意識的に考えてみる。	60
第2回	和歌の構文 1	
	授業内容をよく復習する。	60
第3回	和歌の構文 2	
	授業内容をよく復習する。	60

第4回	和歌特有の語法	
	授業内容をよく復習する。	60
第5回	序詞 1	
	授業内容をよく復習する。	60
第6回	序詞 2	
	授業内容をよく復習する。	60
第7回	掛詞・縁語 1	
	授業内容をよく復習する。	60
第8回	掛詞・縁語 2	
	授業内容をよく復習する。	60
第9回	自然と人事の二重構造 1	
	授業内容をよく復習する。	60

第10回	自然と人事の二重構造 2	
	授業内容をよく復習する。	60
第11回	贈答歌の読解 1	
	授業内容をよく復習する。	60
第12回	贈答歌の読解 2	
	授業内容をよく復習する。	60
第13回	引き歌 1	
	授業内容をよく復習する。	60
第14回	引き歌 2	
	授業内容をよく復習する。	60
第15回	まとめ	
	後期の授業を振り返り、古典和歌を読解する際のポイントについて理解を深め、具体的に実践してみる。	60

授業の方法

授業の前半はその回のポイントを講義するが、後半は各自が与えられた課題を解くことを通してそれを具体的に実践することになる。

成績評価の方法

平常点および毎回課す課題を基に総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

特に次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①日本語のしぐみに基づいて、古典和歌が読解できる。
- ②表現のしぐみに基づいて、古典和歌が読解できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

プリントを配布する。

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本文学入門 b		
教員名	木谷 真理子		
科目ナンバー	1251421101	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
『伊勢物語』を読みながら、次のような一連のプロセスが行えるようになることを目指します。 (1) 文学作品にかんする基礎的調査を行う。 (2) 文学作品のなかに疑問点を見出す。 (3) その疑問に答えるために必要な追加調査を行う。 (4) 調査の結果分かったことを整理、考察して論を立てる。 (5) 自分の論を、人に伝わるように発表し、レポートにまとめる。 (6) 人の論の疑問点を的確に指摘し、議論する。			
到達目標			
D P 6（文化現象の総合的理解）、D P 7（問題発見能力および多面的な分析能力）、D P 8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の4点を到達目標とします。 ①古典文法を理解している。 ②変体仮名表を参照すれば、変体仮名を読むことができる。 ③『伊勢物語』について、ゼミ発表・レポート作成を適切に行うことができる。 ④討論に参加することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	『伊勢物語』発表①		
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。		*
第2回	『伊勢物語』発表②		
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。		*
第3回	『伊勢物語』発表③		
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。		*

第4回	『伊勢物語』発表④	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第5回	『伊勢物語』発表⑤	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第6回	『伊勢物語』発表⑥	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第7回	『伊勢物語』発表⑦	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第8回	『伊勢物語』発表⑧	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第9回	『伊勢物語』発表⑨	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*

第10回	『伊勢物語』発表⑩	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第11回	『伊勢物語』発表⑪	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第12回	『伊勢物語』発表⑫	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第13回	『伊勢物語』発表⑬	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第14回	『伊勢物語』発表⑭	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第15回	『伊勢物語』発表⑮	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*

授業の方法

○発表とそれを受けての討論により進めていきます。
○毎回、発表の前に小テストを行います。その日の発表範囲を読んできたか、重要単語を覚えているか、古典文法を理解しているか、変体仮名を読むことができるか、などを確認するための小テストです。
* 発表者は、少なくとも発表の3週間前から準備をすること。
* 発表者以外は、その日の発表範囲をあらかじめよく読み、単語や文法などを確認してくること。学修時間の目安は60分。

成績評価の方法

3分の2以上の出席を単位取得の前提とします。
平常点（小テスト、発言など）を40%、発表・レポートを60%、の割合で評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。
次の点に着目し、その達成度により評価します。
①古典文法を理解しているか。
②変体仮名表を参照すれば、変体仮名を読むことができるか。
③『伊勢物語』について、ゼミ発表・レポート作成を適切に行うことができるか。
④討論に参加することができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

古典文法の基礎的な知識が必要です。古典文法が苦手という方は御相談ください。

テキスト

『新版 伊勢物語 付現代語訳』（石田穰二訳注、角川ソフィア文庫、1979年、778円（税込）、ISBN-13: 978-4044005016）

参考書

授業中に紹介します。
毎回の授業に、古語辞典（古語辞典が含まれていれば電子辞書でも可）を持ってくること。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	日本文学入門 c		
教員名	浜田 雄介		
科目ナンバー	1251421101	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
研究の基本的技術を実践的に身につける。			
到達目標			
DP2(課題の発見と解決)、DP3(他者との協働)、DP4(自発性、積極性)、DP5(表現力・発信力)の実現のため、以下を到達目標とする。 ①テキストや人の意見に想像力を働かせ、適切に質問することができる。 ②自ら課題を見出し、調査を行い、考えをまとめて適切に発表することができる。 ③簡単な変体仮名や旧字体は読むことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	「小説神髓」を読む(1)		
	復習を行う。		60
第2回	「小説神髓」を読む(2)		
	指定の課題を行う。		60
第3回	「小説神髓」を読む(3)		
	指定の課題を行う。		60

第4回	「小説神髓」を読む（４）	
	指定の課題を行う。	60
第5回	「小説神髓」を読む（５）	
	指定の課題を行う。	60
第6回	「小説神髓」を読む（６）	
	指定の課題を行う。	60
第7回	短編テキストを読む（１）	
	指定の課題を行う。	60
第8回	短編テキストを読む（２）	
	指定の課題を行う。	60
第9回	短編テキストを読む（３）	
	指定の課題を行う。	60

第10回	短編テキストを読む（４）	
	指定の課題を行う。	6 0
第11回	短編テキストを読む（５）	
	指定の課題を行う。	6 0
第12回	短編テキストを読む（６）	
	指定の課題を行う。	6 0
第13回	短編テキストを読む（７）	
	指定の課題を行う。	6 0
第14回	短編テキストを読む（８）	
	指定の課題を行う。	6 0
第15回	短編テキストを読む（９）	
	指定の課題を行う。	6 0

授業の方法

講義と、作業またはディスカッションとをおよそ半分ずつの目安で行う。
「小説神髓」については、内容把握とともに、変体仮名、旧字体を学ぶ。
短編テキストについては、授業中にテキストを決定し、一つのテキストについて複数の発表を戦わせる。

成績評価の方法

授業中の発表や発言と、授業内のレポートとをそれぞれ50%程度の割り振りで評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

主としてプリントを用いる。相談のうえ、後半は文庫本を用いる可能性がある。

参考書

授業中に随時紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本文学入門 d		
教員名	牧 藍子		
科目ナンバー	1251421101	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
『狂歌百鬼夜狂』（江戸の化け物をお題に詠んだ狂歌の作品集）を読むことを通じて、日本文学を読み解くのに必要な知識や文献の調査方法の基礎を学び、調べた内容をわかりやすくまとめて発表、討議する訓練を行う。また作品を原本で読む際に必須となるくずし字解読のスキルを養う。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 ・日本文学研究のための基礎的な文献調査の方法を身につける。 ・簡単なくずし字を読むことができる。 ・古典文法の知識に基づき、古文を自分の力で現代語訳することができる。 ・調べたことをわかりやすくまとめ、発表することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス この授業の進め方について		
	シラバスを読んでおく。		30
第2回	狂歌と『狂歌百鬼夜狂』について		
	指定の課題を行う。		60
第3回	くずし字の解読方法①		
	指定の課題を行う。		60

第4回	くずし字の解読方法②	
	指定の課題を行う。	60
第5回	『狂歌百鬼夜狂』を読む①	
	指定の課題を行う。	60
第6回	『狂歌百鬼夜狂』を読む②	
	指定の課題を行う。	60
第7回	『狂歌百鬼夜狂』を読む③	
	指定の課題を行う。	60
第8回	『狂歌百鬼夜狂』を読む④	
	指定の課題を行う。	60
第9回	『狂歌百鬼夜狂』を読む⑤	
	指定の課題を行う。	60

第10回	『狂歌百鬼夜狂』を読む⑥	
	指定の課題を行う。	60
第11回	『狂歌百鬼夜狂』を読む⑦	
	指定の課題を行う。	60
第12回	『狂歌百鬼夜狂』を読む⑧	
	指定の課題を行う。	60
第13回	『狂歌百鬼夜狂』を読む⑨	
	指定の課題を行う。	60
第14回	『狂歌百鬼夜狂』を読む⑩	
	指定の課題を行う。	60
第15回	授業のまとめ	
	これまでの学修内容を確認しておく。	60～

授業の方法

はじめの数回は講義形式で行い、それ以降はグループワークを取り入れた演習形式をとる。
発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめること。
くずし字の小テストを行う。

成績評価の方法

授業への参加具合・発表60%、課題レポート（あるいは到達度確認テスト）40%による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・日本文学研究のための基礎的な文献調査の方法が身についたか。
- ・簡単なくずし字を読むことができるか。
- ・古典文法の知識に基づき、古文を自分の力で現代語訳することができるか。
- ・調べたことをわかりやすくまとめ、発表することができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『字典かな』改訂版、笠間影印叢刊刊行会編、笠間書院、1972年、410円
ほか、プリントを配布する。

参考書

『くずし字解説辞典』普及版、児玉幸多編、東京堂出版、1993年

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本文学研究の基礎		
教員名	小橋 孝子		
科目ナンバー	1251421102	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
文学研究のための方法の基礎を学ぶ。			
到達目標			
(日本文学科) DP6実現のため以下を到達目標とする。 ①文学作品の専門的な研究のあり方を知る。 ②日本文学への関心を高め知識の幅を広げる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス		
	シラバスを読み、授業の概略を確認する。	30分	
第2回	自筆原稿を読む		
	【予習】 配布プリントを読む。 【復習】 授業内容を振り返り、学んだことを身につける。	60分	
第3回	書誌について		
	【予習】 配布プリントを読み、小レポートを作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、用語の確認をするとともに、考察を深める。	60分	

第4回	詩歌の鑑賞①	
	【予習】 配布プリントを読み、小レポートを作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、考察を深める。	60分
第5回	詩歌の鑑賞②	
	【予習】 配布プリントを読み、小レポートを作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、考察を深める。	60分
第6回	小説の語りと文体①	
	【予習】 配布プリントを読み、小レポートを作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、考察を深める。	60分
第7回	小説の語りと文体②	
	【予習】 配布プリントを読み、小レポートを作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、考察を深める。	60分
第8回	小説の語りと文体③	
	【予習】 配布プリントを読み、小レポートを作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、考察を深める。	60分
第9回	歴史的文化的事象について	
	【予習】 配布プリントを読む。 【復習】 授業内容を振り返り、考察を深める。	60分

第10回	時代背景について	
	【予習】 配布プリントを読む。 【復習】 授業内容を振り返り、考察を深める。	60分
第11回	典拠・パロディについて	
	【予習】 配布プリントを読み、小レポートを作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、考察を深める。	60分
第12回	文学と美術	
	【予習】 配布プリントを読み、小レポートを作成する。 【復習】 授業内容を振り返り、考察を深める。	60分
第13回	資料の収集について	
	【予習】 配布プリントを読む。 【復習】 授業内容を振り返り、課題に取り組む。	60分
第14回	論文の書き方について	
	【予習】 配布プリントを読む。 【復習】 授業内容を振り返り、学んだことを身につける。	60分
第15回	まとめ	
	前期の学修を振り返り、考察を深める。	60分

授業の方法

講義形式を中心としながら、受講生による小レポートの作成とそれに基づくディスカッションを取り入れる。また、リアクションペーパーにより、授業の双方向化を図る。

成績評価の方法

発言を含む受講姿勢（20%）と通常授業時の提出物（80%）によって評価する。講義の展開と受講生の反応により変更する可能性があるが、その場合は講義およびポータルサイトにて事前に告知する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

プリントを配布する。

参考書

授業の中で随時紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。電子メールで受け付ける。

科目名	日本語研究の基礎		
教員名	井島 正博		
科目ナンバー	1251421103	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
日本語学の基本的な研究分野、音韻、文字、語彙、文法、文体、意味、方言、辞書、語用論、認知言語学などを広く概観する。日本語というと、普段使っていて今さら何を勉強するのか、と思う学生も少なくないと思われるが、何気なく使っている日本語も、改めて見直してみると、思いの外複雑な仕組みが背後にあることが了解できるのではないだろうか。			
到達目標			
・日本語研究にはどのような研究分野があり、それぞれの分野の基本的な知識を身につける。 ・日本語を自分で分析対象として検討する能力を身につける。 ・卒業論文で日本語学を選択する学生にテーマを決めるきっかけを与える。 ・将来国語の教員を目指す学生に知っておいてほしい基本的な日本語の知識を提供する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	近代言語学の理論的な基礎を築いたソシュールの考え方の枠組みを紹介する。そこからどのようにして音韻論や意味論が成立したかを示す。		
	シラバスをよく読み、どのような授業が行われるのか、あらかじめ確認しておく。	30分	
第2回	明治時代になって近代的な日本語研究が出発して、現代に至るまでの研究の経緯を概観する。特に文法の研究がどのように現在のような形になったかを明らかにする。		
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分	
第3回	【意味・語彙】意味論の基本的な原理を説明し、職業、年齢、性別、地域などによって使われる語彙が異なるありさま（位相差）を見ていく。		
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分	

第4回	【文字】日本語には、平仮名、片仮名そして漢字が用いられるが、それらがどのようにして成立したのか、歴史的な変化の跡をたどる。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第5回	【音韻・音声1】音韻論と音声学の違いを説明し、音声記号の表す内容を理解する。さらにそれらを組み合わせてどのように拍（モーラ）が構成されるかを見る。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第6回	【音韻・音声2】歴史的な音韻・音声の変化を概観する。さらにアクセントの原理を説明し、アクセントの体系がどのようになっているかを確認する。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第7回	【文法1】文法に関しては、後期の「日本語法」で詳しく講義するが、それに先んじて、まず文法研究にはどのような研究分野があるかを概説する。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第8回	【文法2】文法の研究分野は、ヴォイス（態）、アスペクト（相）、テンス（時制）、ムード（法）に大きく分けられるが、それ以外の分野も含め簡単に通観する。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第9回	【待遇表現】日本語の敬語のシステムは、世界的にも珍しいものであり、また敬語を表す語彙だけではなく、その背後にある原理そのものが時代的に変化している。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分

第10回	【文体1】日本語学で文体というと、個人の文章の特徴を言うのではなく、一般的な文章の類型のことであるが、平安時代に成立した文体の特徴を概観する。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第11回	【文体2】平安時代以降、どのように文体が変化していったのか、そして現代の文体までにどのようにつながっているのかを概観する。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第12回	【辞書】辞書の項目の並べ方には、音引き、部首引き、意味分類の3つの方法があるが、それぞれの辞書がどのように成立したのかを概観する。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第13回	【方言】方言がどのように区画に分けられるか、方言がどのような伝播の仕方をするか、方言の分布と地形がどのように関わるかなど、いくつかのテーマで説明する。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第14回	【語用論】語用論とはどのような研究分野であるか、また語用論の中にはさらにどのような領域があるかを具体的に見ていく。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第15回	【認知言語学】認知言語学は、およそ1980～90年代にアメリカで、いくつかの流派として成立した。その経緯と、それぞれどのような特徴を持っているかを概観する。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分

授業の方法

テキストやプリントをもとに講義形式で行う。

成績評価の方法

毎回出席を採り、8割以上の出席者に対して学期末に試験を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

沖森卓也編『日本語概説』朝倉書店

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	日本語法		
教員名	井島 正博		
科目ナンバー	1251421104	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
1980年代後半から現在に至るまで、日本語の文法は長足の発展を見た。その間に展開された日本語文法の各研究分野、ヴォイス（使役・受身など）、アスペクト・テンス、モダリティ（推量、否定疑問文など）、形式名詞述語文、主題、条件文、副助詞などの各研究分野の研究成果を紹介する。			
到達目標			
・日本語文法の各研究分野の現在の研究状況を知る。 ・普段使っている日本語を、文法という観点で批判的に検討する力を身につける。 ・卒業論文などで日本語文法をとる学生がテーマを探す一助となる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	【日本語文法の研究分野】1980年代後半以降に長足の展開を見た日本語文法の研究分野にはどのようなものがあるか、あらあらと見渡してみる。		
	あらかじめシラバスをよく読み、日本語文法にはどのような研究領域があるのかを理解するとともに、図書館などで関連する書籍を読んでおく。	30分	
第2回	【ガとハ】しばしば問題にされるガとハの使い分けに関して、従来はどちらも“主語、を表すと言われていたが、まったく違う領域で働くことを明らかにする。		
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分	
第3回	【主題】前回でハは情報構造という研究領域で働くこと論じたが、そのなかでも「主題」を表すものである。それでは主題とはどのようなものであるか、わかりやすく説明する。		
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分	

第4回	【ヴォイス1 受身】次にガであるが、これは他の格助詞ヲ・ニ・ヘ・ト・ヨリ・カラ・デとともに、格構造を表すものであることを示し、受身がその中でどのような現象であるかを明らかにする。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第5回	【ヴォイス2 使役その他】欧米語では、受身と使役とはまったく異なった文法領域であるが、日本語では両者は対照的な文法現象であることを示す。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第6回	【授受動詞】ヤル・クレル・モラウというやりもらいの表現を授受表現と言うが、これは前回・前々回に見たヴォイスと共通する原理が働いていることを示す。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第7回	【アスペクトとテンス1】まず、テンスに関して、従来は単純に過去・現在・未来を表す表現であると考えられてきたが、視点の置き方と深く関わることを明らかにする。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第8回	【アスペクトとテンス2】アスペクトの表現の中でも、テイルがどのような働きをしているか、「続ける」などと対比しながら解明していく。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第9回	【アスペクトとテンス3】前回の講義を受けて、アスペクト表現全体がどのような体系をなすものであるのか、また主文だけでなく従属文のアスペクトにも言及する。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分

第10回	【モダリティ1】モダリティとは、話し手が命題（文の事柄的部分）をどのようなものと位置づけるか、聞き手にどのように持ちかけるかを表す部分であるが、特に推量に関して概観する。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第11回	【モダリティ2】モダリティの中で最も研究が進んだ領域は、推量であるが、それ以外の研究分野、比定疑問文や命令文などについて概観する。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第12回	【ノダ文・形式名詞述語文】文末に用いるノダはどのように用いるのか、すぐに説明できる人は少ないのではなかろうか。見えにくいノダやコトダ・モノダ・ワケダ等の使い方を見ていく。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第13回	【文末表現】すでに見た、推量助動詞・比定疑問文・ノダ文あるいはそれ以外の形式名詞述語文も一種の文末表現であるが、終助詞などそれ以外の文末表現の働きも見ていく。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第14回	【条件表現】順接・逆接、あるいは仮定・確定といった基準で分類される条件表現が、どのような仕組みであるのか—決して論理的関係ではない—を明らかにする。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分
第15回	【副助詞】副助詞は名前の通り、意味を“添える”、働きの助詞ではない。それではどのような働きをしているのか、それぞれの助詞の分析を通して明らかにする。	
	【復習】前回の講義の内容やプリントを改めて振り返って、よく理解できなかったところは図書館などで確認する。 【予習】次の講義内容を前もって図書館などで調べておく。	60分

授業の方法

テキストやプリントをもとに講義形式で行う。

成績評価の方法

毎回出席を採り、8割以上の出席者に対して学期末に試験を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

なし

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	古典文学基礎研究Ⅰ a		
教員名	吉田 幹生		
科目ナンバー	1151421201	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
『新古今和歌集』の読解演習。 古典文学作品を正しく解釈するためには、本文の異同を調査したり、語句の用例を調べたり、場合によっては諸注釈書や論文に目を通して問題点を整理したりするなど、様々な過程が必要となる。この授業では、それらの調査を実際に体験してもらうことを通して、作品解釈の手順や方法を身につけてもらうことをねらいとする。解釈そのものではなく、その解釈を支える根拠に目を向けてもらいたい。どういう資料に即した時に何が言えて何が言えないのか、「分からない」ということが分かる力も作品解釈には必要不可欠である。1～2首の和歌について、各自が調べたことの報告およびそれに基づいての討論が中心となる。			
到達目標			
DP 7（問題発見能力および多面的な分析能力）およびDP 8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①諸注釈書の説明を比較するなどして、何が問題なのかを発見することができる。 ②用例の収集・分析等を通して、客観的に問題を解決することができる。 ③自分の考えを他者にわかりやすく論理的に伝えることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 担当する和歌を決める。		
	当日配布するプリントをよく読み、どのような手順で調査をするのか概要を把握する。	60	
第2回	調査 1		
	第 1 回の授業で配布されたプリントに基づき、重要だと思うポイントを明確にしてくる。	60	
第3回	調査 2		
	第 1 回の授業で配布されたプリントに基づき、重要だと思うポイントを明確にしてくる。	60	

第4回	調査 3	
	第1回の授業で配布されたプリントに基づき、重要だと思うポイントを明確にしてくる。	60
第5回	発表 1	
	発表予定の和歌について、自分なりに意味を考え、重要だと思うポイント、質問すべき事柄などを明確にしてくる。	60
第6回	討議 1	
	発表内容を踏まえながら、議論すべきポイントやそのために必要なデータなどについて、明確にしてくる。	60
第7回	発表 2	
	発表予定の和歌について、自分なりに意味を考え、重要だと思うポイント、質問すべき事柄などを明確にしてくる。	60
第8回	討議 2	
	発表内容を踏まえながら、議論すべきポイントやそのために必要なデータなどについて、明確にしてくる。	60
第9回	発表 3	
	発表予定の和歌について、自分なりに意味を考え、重要だと思うポイント、質問すべき事柄などを明確にしてくる。	60

第10回	討議 3	
	発表内容を踏まえながら、議論すべきポイントやそのために必要なデータなどについて、明確にしてくる。	60
第11回	発表 4	
	発表予定の和歌について、自分なりに意味を考え、重要だと思うポイント、質問すべき事柄などを明確にしてくる。	60
第12回	討議 4	
	発表内容を踏まえながら、議論すべきポイントやそのために必要なデータなどについて、明確にしてくる。	60
第13回	発表 5	
	発表予定の和歌について、自分なりに意味を考え、重要だと思うポイント、質問すべき事柄などを明確にしてくる。	60
第14回	討議 5	
	発表内容を踏まえながら、議論すべきポイントやそのために必要なデータなどについて、明確にしてくる。	60
第15回	まとめ	
	半期の授業を振り返り、古典和歌読解の際のポイントや調査の仕方などについて確認する。	60

授業の方法

演習形式による。具体的には、平安時代の「歌合」の方法を体験してもらいたいと考えている。
前期は、発表と討議とを隔週で行う。

成績評価の方法

演習への参加度合・口頭発表・レポート課題（場合によっては学期末試験）に基づいて評価する。詳細は授業中に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

口頭発表については、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①何が問題なのかを把握できているか。
- ②問題を客観的に解決できているか。
- ③自分の考えをわかりやすく伝えられているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

小林大輔編『新古今和歌集』（角川ソフィア文庫）

参考書

授業中に説明する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	古典文学基礎研究II a		
教員名	吉田 幹生		
科目ナンバー	1251421202	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
『新古今和歌集』の読解演習。 古典文学作品を正しく解釈するためには、本文の異同を調査したり、語句の用例を調べたり、場合によっては諸注釈書や論文に目を通して問題点を整理したりするなど、様々な過程が必要となる。この授業では、それらの調査を実際に体験してもらうことを通して、作品解釈の手順や方法を身につけてもらうことをねらいとする。解釈そのものではなく、その解釈を支える根拠に目を向けてもらいたい。どういう資料に即した時に何が言えて何が言えないのか、「分からない」ということが分かる力も作品解釈には必要不可欠である。1～2首の和歌について、各自が調べたことの報告およびそれに基づいての討論が中心となる。			
到達目標			
DP 7（問題発見能力および多面的な分析能力）およびDP 8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①諸注釈書の説明を比較するなどして、何が問題なのかを発見することができる。 ②用例の収集・分析等を通して、客観的に問題を解決することができる。 ③自分の考えを他者にわかりやすく論理的に伝えることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 担当する和歌を決める。		
	前期に配布したプリントをよく読み、どのような手順で調査をするのか概要を再確認する。	60	
第2回	発表と討議 1		
	発表予定の和歌について、自分なりに意味を考え、重要だと思うポイント、質問すべき事柄などを明確にしておく	60	
第3回	発表と討議 2		
	発表予定の和歌について、自分なりに意味を考え、重要だと思うポイント、質問すべき事柄などを明確にしておく	60	

第4回	発表と討議 3	
	発表予定の和歌について、自分なりに意味を考え、重要だと思うポイント、質問すべき事柄などを明確にしてくる	60
第5回	発表と討議 4	
	発表予定の和歌について、自分なりに意味を考え、重要だと思うポイント、質問すべき事柄などを明確にしてくる。	60
第6回	発表と討議 5	
	発表予定の和歌について、自分なりに意味を考え、重要だと思うポイント、質問すべき事柄などを明確にしてくる	60
第7回	発表と討議 6	
	発表予定の和歌について、自分なりに意味を考え、重要だと思うポイント、質問すべき事柄などを明確にしてくる。	60
第8回	発表と討議 7	
	発表予定の和歌について、自分なりに意味を考え、重要だと思うポイント、質問すべき事柄などを明確にしてくる	60
第9回	発表と討議 8	
	発表予定の和歌について、自分なりに意味を考え、重要だと思うポイント、質問すべき事柄などを明確にしてくる。	60

第10回	発表と討議 9	
	発表予定の和歌について、自分なりに意味を考え、重要だと思うポイント、質問すべき事柄などを明確にしてくる	60
第11回	発表と討議 10	
	発表予定の和歌について、自分なりに意味を考え、重要だと思うポイント、質問すべき事柄などを明確にしてくる。	60
第12回	発表と討議 11	
	発表予定の和歌について、自分なりに意味を考え、重要だと思うポイント、質問すべき事柄などを明確にしてくる	60
第13回	発表と討議 12	
	発表予定の和歌について、自分なりに意味を考え、重要だと思うポイント、質問すべき事柄などを明確にしてくる。	60
第14回	発表と討議 13	
	発表予定の和歌について、自分なりに意味を考え、重要だと思うポイント、質問すべき事柄などを明確にしてくる	60
第15回	まとめ	
	半期の授業を振り返り、古典和歌読解の際のポイントや調査の仕方などについて確認する。	60

授業の方法

演習形式による。具体的には、平安時代の「歌合」の方法を体験してもらいたいと考えている。

成績評価の方法

演習への参加度合・口頭発表・レポート課題（場合によっては学期末試験）に基づいて評価する。詳細は授業中に説明する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

口頭発表については、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①何が問題なのかを把握できているか。
- ②問題を客観的に解決できているか。
- ③自分の考えをわかりやすく伝えられているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

小林大輔編『新古今和歌集』（角川ソフィア文庫）

参考書

授業中に説明する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	古典文学基礎研究Ⅰ b		
教員名	木谷 真理子		
科目ナンバー	1151421201	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
「古典文学基礎研究Ⅰ・Ⅱ」のbクラスでは、前期は『堤中納言物語』、後期は『落窪物語』を読んでいます。以下、前期分について記します。 『堤中納言物語』は平安時代頃の短編物語集で、10編の物語と1つの断章から成っています。そのなかから、『落窪物語』の理解を助けてくれそうな4編を選び、読んでいきます。すなわち、いろごのみの貴公子の失敗譚「花桜折る中将」、身分ごとに異なる恋模様を描く「ほどほどの懸想」、母のいない子を応援する「貝合」、男に捨てられた女の姿に泣き笑う「はいずみ」を取り上げます。短編物語の技巧や表現を楽しみながら、じっくり読んでいきましょう。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の4点を到達目標とします。 ①辞書などを参照すれば、古文を正確に訳すことができる。 ②変体仮名表を参照すれば、変体仮名を読むことができる。 ③『堤中納言物語』について、ゼミ発表・レポート作成を適切に行うことができる。 ④討論に参加することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の進め方や発表すべき内容などについて説明し、発表順を決めます。かならず出席してください。		
	授業の進め方や発表すべき内容などについて確認する。		30
第2回	調査方法 ・調べ方について説明し、実際に調べてもらいます。		
	調査方法について確認し、宿題を行う。		60
第3回	発表①		
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。		*

第4回	発表②	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第5回	発表③	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第6回	発表④	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第7回	発表⑤	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第8回	発表⑥	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第9回	発表⑦	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*

第10回	発表⑧	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第11回	発表⑨	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第12回	発表⑩	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第13回	発表⑪	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第14回	発表⑫	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第15回	発表⑬	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*

授業の方法

・「古典文学基礎研究Ⅰ・Ⅱ」のbクラスでは、前期と後期のどちらか一方で1回、発表をしてもらいます。発表しない学期は5回、「質問担当者」になってもらいます。
・毎回、発表にひきつづき、討論を行います。参加者は、遠慮せずにどんどん発言・質問をしてください。質問が出てこない時は、未発言の「質問担当者」を指名しますので、指名されたらかならず質問・意見を述べてください。
・毎回、発表の前に小テストを行います。その日の発表範囲を読んできたか、前回までのあらすじが頭に入っているか、重要単語を覚えているか、古典文法を理解しているか、などを確認するための小テストです。
*発表者は、少なくとも発表の2週間前から準備をしてください。
*発表者以外は、その日の発表範囲をあらかじめよく読み、単語や文法を確認してきてください。学修時間の目安は60分です。

成績評価の方法

3分の2以上の出席を単位取得の前提とします。
小テストを30%、発表・討論での発言・レポートを70%、の割合で評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ①辞書などを参照すれば、古文を正確に訳すことができるか。
- ②変体仮名表を参照すれば、変体仮名を読むことができるか。
- ③『堤中納言物語』について、ゼミ発表・レポート作成を適切に行うことができるか。
- ④討論に参加することができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

古典文法の知識が必要です。古典文法がよく分かっていないという方は御相談ください。

テキスト

『堤中納言物語（笠間文庫—原文&現代語訳シリーズ）』（池田利夫訳注、笠間書院、2006年、1,620円、ISBN-13: 978-4305704191）

参考書

参考書は、授業中に紹介します。
毎回の授業に、古語辞典（古語辞典が含まれていれば電子辞書でも可）を持ってきてください。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知します。

科目名	古典文学基礎研究Ⅱ b		
教員名	木谷 真理子		
科目ナンバー	1251421202	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
「古典文学基礎研究Ⅰ・Ⅱ」のbクラスでは、前期は『堤中納言物語』、後期は『落窪物語』を読んでいます。以下、後期分について記します。 『落窪物語』の成立は平安時代の中頃、『源氏物語』よりもやや早いとされています。継母に虐められていた姫君を、貴公子が見そめて結婚、姫君を窮地から救い出して、継母に復讐するという話です。あらすじだけ聞くと、「面白くなさそうだな」と思うかもしれませんが、『源氏物語』に近い時期の作品だけあって、その小説作法は侮れません。物語を面白くしているさまざまな技法・工夫に注目しながら、最初のクライマックス「姫君と貴公子の結婚」までを楽しく読んでいきましょう。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の4点を到達目標とします。 ①辞書などを参照すれば、古文を正確に訳すことができる。 ②変体仮名表を参照すれば、変体仮名を読むことができる。 ③『落窪物語』について、ゼミ発表・レポート作成を適切に行うことができる。 ④討論に参加することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	発表①		
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。		*
第2回	発表②		
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。		*
第3回	発表③		
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。		*

第4回	発表④	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第5回	発表⑤	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第6回	発表⑥	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第7回	発表⑦	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第8回	発表⑧	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第9回	発表⑨	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*

第10回	発表⑩	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第11回	発表⑪	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第12回	発表⑫	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第13回	発表⑬	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第14回	発表⑭	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*
第15回	発表⑮	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読し、小テストに備える。	*

授業の方法

・「古典文学基礎研究Ⅰ・Ⅱ」のbクラスでは、前期と後期のどちらか一方で1回、発表をしてもらいます。発表しない学期は5回、「質問担当者」になってもらいます。

・毎回、発表にひきつづき、討論を行います。参加者は、遠慮せずにどんどん発言・質問をしてください。質問が出てこない時は、未発言の「質問担当者」を指名しますので、指名されたらかならず質問・意見を述べてください。

・毎回、発表の前に小テストを行います。その日の発表範囲を読んできたか、前回までのあらすじが頭に入っているか、重要単語を覚えているか、古典文法を理解しているか、変体仮名を読むことができるか、などを確認するための小テストです。

*発表者は、少なくとも発表の2週間前から準備をしてください。

*発表者以外は、その日の発表範囲をあらかじめよく読み、単語や文法を確認してきてください。学修時間の目安は60分です。

成績評価の方法

3分の2以上の出席を単位取得の前提とします。

小テストを30%、発表・討論での発言・レポートを70%、の割合で評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ①辞書などを参照すれば、古文を正確に訳すことができるか。
- ②変体仮名表を参照すれば、変体仮名を読むことができるか。
- ③『落窪物語』について、ゼミ発表・レポート作成を適切に行うことができるか。
- ④討論に参加することができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

古典文法の知識が必要です。古典文法がよく分かっていないという方は御相談ください。

テキスト

『新版 落窪物語 上 現代語訳付き』（室城秀之訳注、角川ソフィア文庫、2004年、1080円、ISBN-13: 978-4043742011）

参考書

参考書は、授業中に紹介します。

毎回の授業に、古語辞典（古語辞典が含まれていれば電子辞書でも可）を持ってきてください。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知します。

科目名	古典文学基礎研究Ⅰ c		
教員名	清水 由美子		
科目ナンバー	1151421201	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要			
『古今著聞集』を影印（京都大学付属図書館蔵本）で読む。 日本の中世における散文文学の中でも注目すべきジャンルに説話集がある。上代から中世に及ぶ長い時代、天皇から庶民に及ぶ広い階層、仏教を中心とした宗教的なものから日常生活に取材した内容までから取材した様々な説話は当時の社会の様相や人々の暮らしを教えてくれるとともに、そのような話を語り継ぐこと、編纂して一つの文学作品にまとめることの意味を通して、文学ということの意義まで考えさせるアイテムである。 本演習では、13世紀半ばに橘成季の手によって編纂されたとされる、全20巻30篇からなる説話集『古今著聞集』を取り上げる。話の内容によって巻が分かれ、七百以上の話を載せた大部の作品である。履修人数によって進め方を変える場合もあるが、原則的に、発表者は自分の興味のあるテーマに基づいて、それに関して考察できる説話を一つ取り上げ、指示に従って、影印の翻刻、校異の確認、語釈、現代語訳、類話、典拠、史実との比較、背景となる歴史的事情や思想、先行研究などといった様々な面から調査し、考察を付して資料を作成し、報告する。その他の出席者は、必ず何らかの質問、意見、感想を述べることを原則とする。			

到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力・多面的な分析能力）、DP8（他者理解能力・自己伝達能力）を実現するため、以下の五点を到達目標とする。 ①変体仮名を読み解くことができる。 ②『古今著聞集』の担当話について、丁寧に調査し、正確な注釈や現代語訳をつけることができる。 ③『古今著聞集』の担当話の内容から、自分の興味にひきつけた問題点をみつけ、それに関して様々に調べた上で、自分なりの考察を展開できる。 ④調べたことをわかりやすくまとめたレジュメを作成し、それに基づいてプレゼンテーションできる。 ⑤他の学生の発表をきちんと聞き、その内容を踏まえてディスカッションを深められる。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス・変体仮名入門		
	シラバスを読んでおく。配布プリントを確認しておく。		60
第2回	変体仮名読解練習・担当話や発表順の決定		
	『古今著聞集』から興味ある話をピックアップしておく。配布された影印のコピーを読んでみる。		60
第3回	『古今著聞集』を影印で読んでみよう。		
	授業内容の確認。 配布された資料に目を通しておく。		60

第4回	中世文学とは。説話文学とは。	
	授業内容の確認。 配布された資料に目を通しておく。	60
第5回	『古今著聞集』について	
	授業内容の確認。 配布された資料に目を通しておく。	60
第6回	演習ガイダンス（教員による発表サンプル、発表の仕方の説明など）	
	授業内容の確認。 配布された資料に目を通しておく。テストに向けての準備をする。	60
第7回	くずし字確認小テスト（『古今著聞集』の影印）	
	テストの復習。次回取り上げる話に目を通し、疑問点を明らかにしておく。	60
第8回	担当者による発表とディスカッション1	
	次回取り上げる話に目を通し、疑問点を明らかにしておく。	60
第9回	担当者による発表とディスカッション2	
	次回取り上げる話に目を通し、疑問点を明らかにしておく。	60

第10回	担当者による発表とディスカッション3	
	次回取り上げる話に目を通し、疑問点を明らかにしておく。	60
第11回	担当者による発表とディスカッション4	
	次回取り上げる話に目を通し、疑問点を明らかにしておく。	60
第12回	担当者による発表とディスカッション5	
	次回取り上げる話に目を通し、疑問点を明らかにしておく。	60
第13回	担当者による発表とディスカッション6	
	到達度確認テストへ向けた準備をする。	120
第14回	到達度確認テスト	
	テストの復習。	60
第15回	補足・総括	
	半期の内容の復習をしておく。	60

授業の方法

受講者は必ず口頭発表を行う。その際には、指示に従って発表レジュメを作成し、それにもとづいて報告する。その他の学生は、コメントシートにメモしながら発表を聞き、発表後それに基づいて全員で討議する。

成績評価の方法

発表内容（40%）、到達度確認テスト（40%）、授業への参加、発言、講評シートの内容（20%）で総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中世文学や説話文学への関心を持った上で受講すること。また、各自の関心についても考えておくこと。

テキスト

『辞典かな（改訂版）』（笠間書院）360円
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書

適宜、授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	古典文学基礎研究II c		
教員名	清水 由美子		
科目ナンバー	1251421202	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要			
『古今著聞集』を影印（京都大学付属図書館蔵本）で読む。 日本の中世における散文文学の中でも注目すべきジャンルに説話集がある。上代から中世に及ぶ長い時代、天皇から庶民に及ぶ広い階層、仏教を中心とした宗教的なものから日常生活に取材した内容までから取材した様々な説話は当時の社会の様相や人々の暮らしを教えてくれるとともに、そのような話を語り継ぐこと、編纂して一つの文学作品にまとめることの意味を通して、文学ということの意義まで考えさせるアイテムである。 本演習では、13世紀半ばに橘成季の手によって編纂されたとされる、全20巻30篇からなる説話集『古今著聞集』を取り上げる。話の内容によって巻が分かれ、七百以上の話を載せた大部の作品である。履修人数によって進め方を変える場合もあるが、原則的に、発表者は自分の興味のあるテーマに基づいて、それに関して考察できる説話を一つ取り上げ、指示に従って、影印の翻刻、校異の確認、語釈、現代語訳、類話、典拠、史実との比較、背景となる歴史的事情や思想、先行研究などといった様々な面から調査し、考察を付して資料を作成し、報告する。その他の出席者は、必ず何らかの質問、意見、感想を述べることを原則とする。			

到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力・多面的な分析能力）、DP8（他者理解能力・自己伝達能力）を実現するため、以下の五点を到達目標とする。 ①変体仮名を読み解くことができる。 ②『古今著聞集』の担当話について、丁寧に調査し、正確な注釈や現代語訳をつけることができる。 ③『古今著聞集』の担当話の内容から、自分の興味にひきつけた問題点をみつけ、それに関して様々に調べた上で、自分なりの考察を展開できる。 ④調べたことをわかりやすくまとめたレジュメを作成し、それに基づいてプレゼンテーションできる。 ⑤他の学生の発表をきちんと聞き、その内容を踏まえてディスカッションを深められる。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス		
	配布プリントを確認しておく。次回取り上げる話に目を通し、疑問点を明らかにしておく。		60
第2回	担当者による発表とディスカッション1		
	次回取り上げる話に目を通し、疑問点を明らかにしておく。		60
第3回	担当者による発表とディスカッション2		
	次回取り上げる話に目を通し、疑問点を明らかにしておく。		60

第4回	担当者による発表とディスカッション3	
	次回取り上げる話に目を通し、疑問点を明らかにしておく。	60
第5回	担当者による発表とディスカッション4	
	くずし字確認テストの準備。	60
第6回	くずし字確認小テスト・発表の補足1	
	次回取り上げる話に目を通し、疑問点を明らかにしておく。	60
第7回	担当者による発表とディスカッション5	
	次回取り上げる話に目を通し、疑問点を明らかにしておく。	60
第8回	担当者による発表とディスカッション6	
	次回取り上げる話に目を通し、疑問点を明らかにしておく。	60
第9回	担当者による発表とディスカッション7	
	次回取り上げる話に目を通し、疑問点を明らかにしておく。	60

第10回	担当者による発表とディスカッション8	
	くずし字確認テストの準備。	60
第11回	くずし字確認小テスト・発表の補足2	
	次回取り上げる話に目を通し、疑問点を明らかにしておく。	60
第12回	担当者による発表とディスカッション9	
	次回取り上げる話に目を通し、疑問点を明らかにしておく。	60
第13回	担当者による発表とディスカッション10	
	到達度確認テストの準備。	120
第14回	到達度確認テスト	
	テストの復習	60
第15回	補足・総括	
	半期の内容の復習をしておく。	60

授業の方法

受講者は必ず口頭発表を行う。その際には、指示に従って発表レジュメを作成し、それにもとづいて報告する。その他の学生は、コメントシートにメモしながら発表を聞き、発表後それに基づいて全員で討議する。

成績評価の方法

発表内容（40%）、到達度確認テスト（40%）、授業への参加、発言、講評シートの内容（20%）で総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中世文学や説話文学への関心を持った上で受講すること。また、各自の関心についても考えておくこと。

テキスト

『辞典かな（改訂版）』（笠間書院）360円
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書

適宜、授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	古典文学基礎研究Ⅰ d		
教員名	牧 藍子		
科目ナンバー	1151421201	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
芭蕉は江戸時代前期に活躍した俳諧師であるが、芭蕉によって見出された季節感や美意識は、現代を生きる私たちの中に今なお息づいている。この授業では、芭蕉の紀行文『おくのほそ道』を中尾本の影印をテキストとして精読することを通じて、古典文学の基本的な読解方法について学ぶ。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 ・近世文学の基本的な調べ方や、テキストの扱い方を習得する。 ・江戸時代の文献等を調査し、作品の読みを深める。 ・先行する文芸作品との関係を考え、『おくのほそ道』の俳文・紀行文としての特徴を理解する。 ・調べたことをわかりやすく口頭発表し、討議することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス 授業の進め方について		
	シラバスを読んでおく。		30
第2回	俳句と俳諧		
	授業時に配布されたプリントを読み直し、確認する。		60
第3回	芭蕉と『おくのほそ道』について		
	授業時に配布されたプリントを読み直し、確認する。		60

第4回	模擬発表	
	授業時に配布されたプリントを読み直し、確認する。	60
第5回	『おくのほそ道』発表①	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60
第6回	『おくのほそ道』発表②	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60
第7回	『おくのほそ道』発表③	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60
第8回	『おくのほそ道』発表④	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60
第9回	『おくのほそ道』発表⑤	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60

第10回	『おくのほそ道』発表⑥	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60
第11回	『おくのほそ道』発表⑦	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60
第12回	『おくのほそ道』発表⑧	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60
第13回	『おくのほそ道』発表⑨	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60
第14回	『おくのほそ道』発表⑩	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60
第15回	『おくのほそ道』発表⑪	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60

授業の方法

はじめの数は講義を行い、教員による模擬発表の後、受講者が発表し、参加者全員で質疑応答を行う演習形式とする。
担当箇所は授業時に指定する。
発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめること。発表後のディスカッションに積極的に加わることができるよう、発表者以外もテキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。
毎回小テストを行い、予習・復習ができているか確認する。

成績評価の方法

発表40%、発表に対する発言等、授業への参加具合・小テスト30%、課題レポート30%による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・近世文学の基本的な調べ方や、テキストの扱い方を習得できたか。
- ・江戸時代の文献等を調査し、作品の読みを深めることができたか。
- ・先行する文芸作品との関係を考え、『おくのほそ道』の俳文・紀行文としての特徴を理解したか。
- ・調べたことをわかりやすく口頭発表し、討議することができたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『新版 おくのほそ道』 瀬原退蔵・尾形仿訳注、角川書店、2003年、778円
ほか、プリントを配布する。

参考書

『芭蕉自筆 奥の細道』 上野 洋三・桜井 武次郎編、岩波書店、1997年
『新編日本文学全集71 松尾芭蕉集②』 井本農一・久富哲雄・村松友次・堀切実校注・訳、小学館、1997年
ほか、授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	古典文学基礎研究II d		
教員名	牧 藍子		
科目ナンバー	1251421202	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
芭蕉は江戸時代前期に活躍した俳諧師であるが、芭蕉によって見出された季節感や美意識は、現代を生きる私たちの中に今なお息づいている。この授業では、芭蕉の紀行文『おくのほそ道』を中尾本の影印をテキストとして精読することを通じて、古典文学の基本的な読解方法について学ぶ。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 ・近世文学の基本的な調べ方や、テキストの扱い方を習得する。 ・江戸時代の文献等を調査し、作品の読みを深める。 ・先行する文芸作品との関係を考え、『おくのほそ道』の俳文・紀行文としての特徴を理解する。 ・調べたことをわかりやすく口頭発表し、討議することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	『おくのほそ道』発表①		
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。		60
第2回	『おくのほそ道』発表②		
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。		60
第3回	『おくのほそ道』発表③		
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。		60

第4回	『おくのほそ道』発表④	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60
第5回	『おくのほそ道』発表⑤	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60
第6回	『おくのほそ道』発表⑥	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60
第7回	『おくのほそ道』発表⑦	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60
第8回	『おくのほそ道』発表⑧	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60
第9回	『おくのほそ道』発表⑨	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60

第10回	『おくのほそ道』発表⑩	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60
第11回	『おくのほそ道』発表⑪	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60
第12回	『おくのほそ道』発表⑫	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60
第13回	『おくのほそ道』発表⑬	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60
第14回	『おくのほそ道』発表⑭	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。 小テストの準備。	60
第15回	授業のまとめ	
	これまでの学修内容を確認しておく。	60～

授業の方法

受講者が発表し、参加者全員で質疑応答を行う演習形式とする。

担当箇所は授業時に指定する。

発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめること。発表後のディスカッションに積極的に加わることができるよう、発表者以外もテキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。

毎回小テストを行い、予習・復習ができていないか確認する。

成績評価の方法

発表40%、発表に対する発言等、授業への参加具合・小テスト30%、課題レポート30%による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・近世文学の基本的な調べ方や、テキストの扱い方を習得できたか。
- ・江戸時代の文献等を調査し、作品の読みを深めることができたか。
- ・先行する文芸作品との関係を考え、『おくのほそ道』の俳文・紀行文としての特徴を理解したか。
- ・調べたことをわかりやすく口頭発表し、討議することができたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『新版 おくのほそ道』 瀬原退蔵・尾形仿訳注、角川書店、2003年、778円

ほか、プリントを配布する。

参考書

『芭蕉自筆 奥の細道』 上野 洋三・桜井 武次郎編、岩波書店、1997年

『新編日本文学全集71 松尾芭蕉集②』 井本農一・久富哲雄・村松友次・堀切実校注・訳、小学館、1997年

ほか、授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	近・現代文学基礎研究Ⅰ a		
教員名	林 廣親		
科目ナンバー	1151421203	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
川端康成の短編小説を順次読み進みながら、調べと読み解きながら問題設定と論議のセンスなど専門的研究の基礎となる力を培う。			
到達目標			
〈日本文学科〉DP6～8実現のため以下を到達目標とする。 ①日本文学研究に必要な先行論文等の資料を探して入手しそれらに対論的に扱える。 ②小説の専門的な読み解きというものがあることを知る。 ③すぐれた小説に親しむことを通じて日本語表現の美しさや伝統的な感性を理解する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス授業 諸説明と注意、各自の発表担当作品を決める。		
	【予習】 川端康成について文学事典で予備知識を得る。シラバスを読む。 【復習】 授業内容を振り返り必要なメモをとる。	60分 予習・復中合わせて。以下同	
第2回	発表要領講義 1 「バッタと鈴虫」を例として		
	【予習】 「バッタと鈴虫」を読み。感想や疑問点をチェック。初読メモを書く。 【復習】 授業内容を振り返り必要なメモをとる。	60分	
第3回	発表要領講義 2 同上		
	【予習】 配布資料を読み込む。 【復習】 授業内容を振り返り必要なメモをとる	60分	

第4回	「二十年」・発表と論議 1	
	(以下この項目は発表担当者以外の受講者の場合) 【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第5回	「夏の靴」・発表と論議 2	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第6回	「神います」・発表と論議 3	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第7回	「金銭の道」・発表と論議 4	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第8回	「時雨の駅」・発表と論議 6	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第9回	中間点での共同討議「ざくろ」・発表と論議 6	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分

第10回	「笑わぬ男」・発表と論議 7	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第11回	「日本人アンナ」・発表と論議 8	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第12回	「ざくろ」・発表と論議 9	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第13回	「十七歳」・発表と論議 10	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第14回	「わかめ」・発表と論議 11	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第15回	総括	
	【予習】 授業を振り返り各自の反省点および評価しうる点をチェックする。 【復習】 授業を通観して自分の学びえたものを省みる。	60分

授業の方法

毎回2名ないし3名による個別発表とそれをめぐる論議というスタイルになる。
次回の担当者がコメンテーターとして論議のきっかけ作りに努める。
発言の際にはまず名のつてからはじめること。
発表者以外は〈自問自答メモ〉を毎回授業のはじめに入場券がわりに提出すること。
なお、作品のリストは予定である。

成績評価の方法

総合評価。授業への参加状況（30%）、メモ、レポート等の評価（35%）、調べの優劣、読みの優劣、問題提起の新しさなど発表内容の充実度、発言回数等（35%）。なお発表が開始されて10分以上遅刻してきた場合は2回で欠席1回にカウントする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ①読解のための情報や先行論文等の資料を積極的に収集しそれらを対論的に扱えるか。
- ②小説の専門的な読み解きのありようを理解しているか。
- ③日本語表現の美しさや伝統的な感性を理解しているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキストはプリントを配布するが、サブとして次の文庫本を入手すること。

テキスト

川端康成『掌の小説』 新潮文庫 ISBN 9 7 8-4-1 0-1 0 0 1 0 5-0

参考書

適宜指示

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	近・現代文学基礎研究II a		
教員名	林 廣親		
科目ナンバー	1251421204	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
志賀直哉と芥川龍之介の中短編小説を読み進む作業を通して、調べと読解から問題設定と論議のセンスなど専門的研究の基礎となる力を伸ばしていく。			
到達目標			
〈日本文学科〉DP6～8実現のため以下を到達目標とする。 ①日本文学研究に必要な先行論文等の資料を探して入手しそれらに対論的に扱える。 ②小説の専門的な読み解きというものがあることを知る。 ③すぐれた小説に親しむことを通じて日本語表現の美しさや伝統的な感性を理解する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	・ガイダンス授業 ・発表要領講義 短編小説へのアプローチ		
	【予習】 志賀直哉と芥川龍之介について文学事典で予備知識を得る。シラバスを読む。 【復習】 授業内容を振り返り必要なメモをとる。		60分
第2回	志賀直哉と芥川龍之介の文学について		
	【予習】 指示された文献を読む。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。		90分
第3回	発表と論議 1 志賀直哉「網走まで」		
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。		90分

第4回	発表と論議 2 志賀直哉「出来事」	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第5回	発表と論議 3 志賀直哉「赤西蠣太」	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第6回	発表と論議 4 志賀直哉「焚火」	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第7回	発表と論議 5 志賀直哉「真鶴」	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第8回	共同研究	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第9回	発表と論議 6 芥川龍之介「手巾」	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分

第10回	発表と論議 7 芥川龍之介「開化の良人」	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第11回	発表と論議 8 芥川龍之介「蜜柑」	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第12回	発表と論議 9 「文章」	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第13回	発表と論議 10 「蜃気楼」	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第14回	共同研究	
	【予習】 テキストを読み、初読メモを書く、必要な調べをし、質問箇所をチェックする。 【復習】 授業内容を振り返り自分の参加姿勢を顧みる。	90分
第15回	総括	
	【予習】 各自後期授業を振り返り、その間の演習への参加態度等、評価点と反省点を整理しておく。	90分

授業の方法

毎回2名ないし3名による個別発表とそれをめぐる論議というスタイルになる。
次回の担当者がコメンテーターとして論議のきっかけ作りに努める。
発表者以外は各回の対象作品についての〈自問自答メモ〉を授業のはじめに必ず提出すること。
発表の水準が著しく低い場合はペナルティを課す。
なお予定の作品は他と差し替える場合がある。

成績評価の方法

総合評価。授業への参加状況、宿題の提出状況等の平常点（45%）、調べの優劣、読みの優劣、問題提起の新しさなど発表内容の充実度、発言回数等（45%）、レポート等（10%）。なお10分以上の遅刻は2回で欠席1回にカウントする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ① 先行論文等の資料を積極的に収集評価しそれらに対論的に扱えるか。
- ② 小説の専門的な読み解きのありようを理解しているか。
- ③ 日本語表現の美しさや伝統的な感性を理解しているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本近代文学関連の講義、および比較文学。

テキスト

プリントを配布する。

参考書

適宜指示

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	近・現代文学基礎研究Ⅰ b		
教員名	浜田 雄介		
科目ナンバー	1151421203	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
明治、大正、昭和期の、主として短編作品を読む。 扱う作家は二葉亭四迷、樋口一葉、島崎藤村、夏目漱石、谷崎潤一郎、近松秋江、森鷗外、志賀直哉、永井荷風、芥川龍之介、泉鏡花、徳田秋声、葉山嘉樹、横光利一、川端康成、井伏鱒二、梶井基次郎、宮沢賢治、太宰治、坂口安吾、原民喜、林芙美子、三島由紀夫、武田泰淳の予定。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、3（他者との協働）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発進力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①日本の近代文学作品に向き合い、基礎調査を行い、考察を深める。 ②考察をまとめ、レジュメ等を作成して発表し、討議に参加し、レポートなどにまとめる。 ③作品読解とディスカッションを通して、多彩な視点を身につけ、質問力を養う。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス1 作品の概略を確認し、発表の担当を決める。		
	テキストに目を通し、担当希望を決めておく。		*
第2回	ガイダンス2 レジュメの作り方を確認する。		
	発表準備を始める。		*
第3回	発表と討議 1		
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。		*

第4回	発表と討議 2	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第5回	発表と討議 3	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第6回	発表と討議 4	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第7回	発表と討議 5	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第8回	発表と討議 6	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第9回	発表と討議 7	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*

第10回	発表と討議 8	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第11回	発表と討議 9	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第12回	発表と討議 10	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第13回	発表と討議 11	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第14回	発表と討議 12	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第15回	反省会	
	半期の学習を振り返る。	*

授業の方法

随時、必要に応じて講義形式を採るかもしれないが、基本は輪番による発表とそれをめぐる討議である。

* 準備学修は、通常の回は45分程度を目安にテキストを読み自発的な調査を行う。自らが発表する回は、早めに準備を始め、600分程度を目安に調査をし、レジメを作成する。また、レポート作成にも400分程度の時間を要するであろう。

成績評価の方法

第一に発表内容。これは、レジメの充実度やプレゼンテーションの工夫も含む。第二に演習への参加度。出席は重視するが、発言はそれ以上に重視する。参加態度も考慮する。第三にレポート。この三者をそれぞれ約30～35パーセントの割り振りで評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

あらゆる学問は互いに関連しあっている。

テキスト

『近代の短編』文学史研究会、笠間書院

参考書

随時指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	近・現代文学基礎研究II b		
教員名	浜田 雄介		
科目ナンバー	1251421204	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

明治、大正、昭和期の、主として短編作品を読む。
扱う作家は二葉亭四迷、樋口一葉、島崎藤村、夏目漱石、谷崎潤一郎、近松秋江、森鷗外、志賀直哉、永井荷風芥川龍之介、泉鏡花、徳田秋声、葉山嘉樹、横光利一、川端康成、井伏鱒二、梶井基次郎、宮沢賢治、太宰治、坂口安吾、原民喜、林芙美子、三島由紀夫、武田泰淳の予定。

到達目標

D P 2（課題の発見と解決）、3（他者との協働）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発進力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。

- ①日本の近代文学作品に向き合い、基礎調査を行い、考察を深める。
- ②考察をまとめ、レジュメ等を作成して発表し、討議に参加し、レポートなどにまとめる。
- ③作品読解とディスカッションを通して、多彩な視点を身につけ、質問力を養う。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス1 作品の概略を確認し、発表の担当を決める。	
	テキストに目を通し、担当希望を決めておく。	*
第2回	発表と討議1	
	発表準備を始める。	*
第3回	発表と討議2	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*

第4回	発表と討議3	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第5回	発表と討議4	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第6回	発表と討議5	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第7回	発表と討議6	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第8回	発表と討議7	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第9回	発表と討議8	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*

第10回	発表と討議9	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第11回	発表と討議10	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第12回	発表と討議11	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第13回	発表と討議12	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第14回	発表と討議13	
	発表者は、レジュメを作成して発表の準備をする。発表者以外は、扱う作品を読み、感想をまとめておく。	*
第15回	反省会	
	半期の学習を振り返る。	*

授業の方法

随時、必要に応じて講義形式を採るかもしれないが、基本は輪番による発表とそれをめぐる討議である。

* 準備学修は、通常の回は45分程度を目安にテキストを読み自発的な調査を行う。自らが発表する回は、早めに準備を始め、600分程度を目安に調査をし、レジュメを作成する。また、レポート作成にも400分程度の時間を要するであろう。

成績評価の方法

第一に発表内容。これは、レジュメの充実度やプレゼンテーションの工夫も含む。第二に演習への参加度。出席は重視するが、発言はそれ以上に重視する。参加態度も考慮する。第三にレポート。この三者をそれぞれ約30～35パーセントの割り振りで評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

あらゆる学問は互いに関連しあっている。

テキスト

『近代の短編』文学史研究会、笠間書院

参考書

随時指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	近・現代文学基礎研究Ⅰ c		
教員名	猪狩 友一		
科目ナンバー	1151421203	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
近・現代文学（明治期以降の文学）を大学で学ぶために必要な基礎的な知識や研究方法、演習形式の授業のルールや参加の仕方などを学ぶ。口頭発表（プレゼンテーション）や期末レポートを通して、それらを具体的に活用、実践する。 Ⅰ（前期）は、樋口一葉の小説について、いくつかの部分ごとに分担して発表する「段落別発表」と、作品全体についてテーマを決めて発表する「テーマ別発表」を行う（2種類の口頭発表）。なお、受講者の人数等によって授業計画を調整することがある。			
到達目標			
①近・現代文学に関する基礎的な知識や研究方法を修得する。 ②作品の調査・分析を通して、文学作品を自ら論じることができる。 ③演習形式の授業での発表の仕方、参加の仕方などを修得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	導入(1) ・前期の作品紹介 ・授業の進め方の説明		
	【予習】シラバスを読み、授業の概要を把握しておく。 【復習】授業で説明された内容を確認しておく。		30
第2回	導入(2) ・口頭発表の内容説明 ・段落別発表の分担決め		
	【予習】指示された作品を読んでおく。 【復習】口頭発表の内容と自分の担当部分を確認しておく。		90
第3回	導入(3) ・段落①（冒頭部）の口頭発表 （サンプルとして教員が行う）		
	【予習】段落①を詳しく読んでおく。 【復習】授業の内容を確認しておく。		60

第4回	口頭発表(1) ・段落②～④ ※段落分けの詳細は分担決めの時に指示する。	
	【予習】段落②～④を詳しく読み、発表等の準備をしておく。 【復習】授業の内容を確認しておく。	60～120
第5回	口頭発表(2) ・段落⑤～⑦	
	【予習】段落⑤～⑦を詳しく読み、発表等の準備をしておく。 【復習】授業の内容を確認しておく。	60～120
第6回	口頭発表(3) ・段落⑧～⑩	
	【予習】段落⑧～⑩を詳しく読み、発表等の準備をしておく。 【復習】授業の内容を確認しておく。	60～120
第7回	口頭発表(4) ・段落⑪～⑬	
	【予習】段落⑪～⑬を詳しく読み、発表等の準備をしておく。 【復習】授業の内容を確認しておく。	60～120
第8回	口頭発表(5) ・段落⑭～⑯	
	【予習】段落⑭～⑯を詳しく読み、発表等の準備をしておく。 【復習】授業の内容を確認しておく。	60～120
第9回	口頭発表(6) ・段落⑰～⑱	
	【予習】段落⑰～⑱を詳しく読み、発表等の準備をしておく。 【復習】授業の内容を確認しておく。	60～120

第10回	口頭発表(7) ・段落⑳～㉒ ※併せてテーマ別発表の予告	
	【予習】段落⑳～㉒を詳しく読み、発表等の準備をしておく。 【復習】授業の内容を確認しておく。	60～120
第11回	導入(4) ・テーマ別発表の説明＋分担決め ※併せて期末レポートについて指示する。	
	【予習】作品全体を読み直し、予告されたテーマについて考えておく。 【復習】授業の内容を確認しておく。	60～120
第12回	口頭発表(8) ・テーマ別発表(1)	
	【予習】作品全体を読み直し、発表等の準備をしておく。 【復習】授業の内容を確認しておく。	60～120
第13回	口頭発表(9) ・テーマ別発表(2)	
	【予習】作品全体を読み直し、発表等の準備をしておく。 【復習】授業の内容を確認しておく。	60～120
第14回	口頭発表(10) ・テーマ別発表(3)	
	【予習】作品全体を読み直し、発表等の準備をしておく。 【復習】授業の内容を確認するとともに、期末レポートの準備を始めておく。	60～120
第15回	・前期のまとめ	
	【予習】期末レポートの準備を進めておく。 【復習】授業の内容を確認しておく。	60～120

授業の方法

基本的に演習形式で行うが、基礎的な事柄を説明するために講義形式をとることもある。
まず担当者による口頭発表があり、次に質疑応答（ディスカッション）の時間を設ける。
口頭発表は原則として個別（1人ずつ）で行うが、一部グループ発表を導入する場合もある。

成績評価の方法

主として口頭発表（40%）及び期末レポート（40%）で評価するが、授業のための学修の努力や授業中のディスカッションに積極的に参加したかどうかなども評価に加える（20%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
口頭発表や期末レポートでは、主に次の点に着目し、その達成度により評価する。
①独創性（先行研究等の模倣・追随ではなく、自分独自の分析・考察ができる。）
②実証性（作品本文や文献等をよく調べ、具体的な論拠を的確に示すことができる。）
③論理性（論理的な筋道が通った、説得力のある議論をすることができる。）

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

必要な文章等はプリントで配布する。

参考書

必要な参考文献は授業で指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近・現代文学基礎研究II c		
教員名	猪狩 友一		
科目ナンバー	1251421204	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
近・現代文学（明治期以降の文学）を大学で学ぶために必要な基礎的な知識や研究方法、演習形式の授業のルールや参加の仕方などを学ぶ。口頭発表（プレゼンテーション）や期末レポートを通して、それらを具体的に活用、実践する。 （後期）は、いくつかの近代文学（主に短編小説）について各自の作品研究を発表する。なお、受講者の人数によって授業計画を調整することがある。			
到達目標			
①近・現代文学に関する基礎的な知識や研究方法を修得する。 ②作品の調査・分析を通して、文学作品を自ら論じることができる。 ③演習形式の授業での発表の仕方、参加の仕方などを修得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	導入(1) ・取り上げる作品（9作品程度）の紹介 ・授業の進め方、発表内容の説明(1) ・後期の分担決め		
	【予習】シラバスを読み、授業の概要を把握しておく。 【復習】授業で説明された内容や自分の担当作品を確認しておく。		60～120
第2回	導入(2) ・授業の進め方、発表内容の説明(2)		
	【予習】自分の担当作品を読んでおく。 【復習】授業の内容を確認しておく。		60～120
第3回	口頭発表(1) ・作品a～c（プレ発表） ※プレ発表では、担当作品の基本的な情報等を確認するとともに、本発表のテーマを説明する。		
	【予習】作品a～cを読み、発表等の準備をしておく。 【復習】授業の内容を確認しておく。		60～120

第4回	口頭発表(2) ・ 作品 a (本発表) ※本発表では、各自のテーマに即して作品を分析し、先行研究も参考にしながら結論を導き出す。	
	【予習】 作品 a を読み、発表等の準備をしておく。 【復習】 授業の内容を確認しておく。	60～120
第5回	口頭発表(3) ・ 作品 b (本発表)	
	【予習】 作品 b を読み、発表等の準備をしておく。 【復習】 授業の内容を確認しておく。	60～120
第6回	口頭発表(4) ・ 作品 c (本発表)	
	【予習】 作品 c を読み、発表等の準備をしておく。 【復習】 授業の内容を確認しておく。	60～120
第7回	口頭発表(5) ・ 作品 d～f (ブレ発表)	
	【予習】 作品 d～f を読み、発表等の準備をしておく。 【復習】 授業の内容を確認しておく。	60～120
第8回	口頭発表(6) ・ 作品 d (本発表)	
	【予習】 作品 d を読み、発表等の準備をしておく。 【復習】 授業の内容を確認しておく。	60～120
第9回	口頭発表(7) ・ 作品 e (本発表)	
	【予習】 作品 e を読み、発表等の準備をしておく。 【復習】 授業の内容を確認しておく。	60～120

第10回	口頭発表(8) ・作品 f (本発表)	
	【予習】作品 f を読み、発表等の準備をしておく。 【復習】授業の内容を確認しておく。	60～120
第11回	口頭発表(9) ・作品 g ～ i (ブレ発表)	
	【予習】作品 g ～ i を読み、発表等の準備をしておく。 【復習】授業の内容を確認しておく。	60～120
第12回	口頭発表(10) ・作品 g (本発表)	
	【予習】作品 g を読み、発表等の準備をしておく。 【復習】授業の内容を確認しておく。	60～120
第13回	口頭発表(11) ・作品 h (本発表)	
	【予習】作品 h を読み、発表等の準備をしておく。 【復習】授業の内容を確認しておく。	60～120
第14回	口頭発表(12) ・作品 i (本発表) ※この授業までに期末レポートについて指示する。	
	【予習】作品 i を読み、発表等の準備をしておく。 【復習】授業の内容を確認するとともに、期末レポートの準備を始めておく。	60～120
第15回	・後期のまとめ	
	【予習】期末レポートの準備を進めておく。 【復習】授業の内容を確認しておく。	60～120

授業の方法

基本的に演習形式で行うが、基礎的な事柄を説明するために講義形式をとることもある。
まず担当者による口頭発表があり、次に質疑応答（ディスカッション）の時間を設ける。
口頭発表は原則として個別（1人ずつ）で行うが、一部グループ発表を導入する場合もある。
司会役（＊本発表の司会を務める）、質問役（＊率先して質問をする）を交代で指名する。

成績評価の方法

主として口頭発表（40%）及び期末レポート（40%）で評価するが、授業のための学修の努力や授業中のディスカッションに積極的に参加したかどうかなども評価に加える（20%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
口頭発表や期末レポートでは、主に次の点に着目し、その達成度により評価する。
①独創性（先行研究等の模倣・追随ではなく、自分独自の分析・考察ができる。）
②実証性（作品本文や文献等をよく調べ、具体的な論拠を的確に示すことができる。）
③論理性（論理的な筋道が通った、説得力のある議論をすることができる。）

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

授業で指示する（取り上げる作品が載っている文庫本など）。
その他、必要な文章等はプリントで配布する。

参考書

必要な参考文献は授業で指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近・現代文学基礎研究Ⅰ d		
教員名	小林 幸夫		
科目ナンバー	1151421203	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
梶井基次郎の小説を研究する。梶井は、感覚や思弁を通して人間や文学の問題を追究した。その意義や価値について考察する。その際、作品本文の詳細な分析と、歴史状況や風俗の調査の二点を重視して考究してゆく。			
到達目標			
1. 梶井基次郎の作品の特質を理解する。 2. 研究の手順と発表資料の作り方を会得する。 3. 作品の特質や問題を、証拠を挙げて説明できるようにする。 4. 先行研究を把握し、それを踏まえて自論が述べられるようにする。 5. 研究発表に対して、意見を述べられる力を得る。 6. 研究論文が書けるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
第1回	準備学修(予習・復習等) 1. 研究の方法と手順(説明) 2. 発表資料の作り方(説明) 3. 発表担当者の決定		
	〔準備〕 テキストを入手しておく 〔予習〕 シラバスを読んで授業内容を理解しておく。		20分
第2回	1. 研究ノート の作り方(説明) 2. 梶井基次郎の人と文学1(概説)		
	〔予習〕 図書館の梶井研究文献を確認しておく。		30分
第3回	梶井基次郎の人と文学2(概説)		
	〔予習〕 参考書を読んでおく。 〔復習〕 授業のノートを読み、梶井に関する知識を自分のものにする。		90分

第4回	研究発表 「魚服記」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第5回	研究発表 「檸檬」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第6回	研究発表 「城のある町にて」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第7回	研究発表 「ある心の風景」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第8回	研究発表 「Kの昇天」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第9回	研究発表 「冬の日」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分

第10回	研究発表 「蒼穹」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第11回	研究発表 「笈の話」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第12回	研究発表 「器楽的幻覚」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第13回	研究発表 「冬の蠅」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第14回	研究発表 「桜の樹の下には」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第15回	まとめ	
	〔予習〕 論文（レポート）の書き方で、疑問点をノートしておく。	60分

授業の方法

第1～3回は、授業の目的と方法について教員が講義をし、第4回～14回は、担当者が研究発表をし、それを皆で討議して、作品の持つ質や問題点を明らかにする。その際、まずグループで討議し、そこで出た疑問や意見を代表者が発言し、次に発表者との質疑応答を行い、教員がまとめてゆく。第15回は、教員が総括をする。

成績評価の方法

研究発表、発表資料、論文（レポート）、授業時における発言、リアクションペーパー等を総合して評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

作品のなかの、意味のわからない言葉を調べておく。

テキスト

『檸檬』 集英社（文庫）
I S B N 4-08-752013-7

参考書

『新潮日本文学アルバム 梶井基次郎』 新潮社 1983年
I S B N 4-10-620627-7 1010円

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	近・現代文学基礎研究II d		
教員名	小林 幸夫		
科目ナンバー	1251421204	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
横光利一の小説を研究する。横光利一は新感覚派の旗手として新しい文学の試みをした。その意義や価値について考察する。その際、作品本文の詳細な分析と、歴史状況や風俗の調査の二点を重視して考究してゆく。			
到達目標			
1. 各作品の特質を理解する。 2. 研究の手順と発表資料の作り方を会得する。 3. 作品の特質や問題を、証拠を挙げて説明できるようにする。 4. 先行研究を把握し、それを踏まえて自論が述べられるようにする。 5. 研究発表に対して、意見を述べられる力を得る。 6. 研究論文が書けるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	1. 研究の方法と手順(説明) 2. 発表資料の作り方(説明) 3. 発表者の決定		
	[準備] テキストを入手しておく。 [予習] シラバスを読んで授業内容を理解しておく。		20分
第2回	1. 研究ノート の作り方(説明) 2. 横光利一の人と文学1(概説)		
	[予習] 図書館で横光研究文献を確認しておく。 [復習] 授業で知ったことをノートにまとめる。		30分
第3回	横光利一の人と文学2(概説)		
	[予習] 参考書を読んでおく。 [復習] 授業で知ったことをノートにまとめる。		90分

第4回	研究発表 「御身」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第5回	研究発表 「ナポレオンと田虫」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第6回	研究発表 「春は馬車に乗って」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第7回	研究発表 「時間」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第8回	研究発表 「機械」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第9回	研究発表 「比叡」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分

第10回	研究発表 「厨房日記」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第11回	研究発表 「睡蓮」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第12回	研究発表 「罌粟の中」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第13回	研究発表 「微笑」	
	〔予習〕 当該作品を読んで、疑問や意見をノートする。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第14回	昭和前期の文学における横光利一	
	〔予習〕 授業で扱った作品を読み直しておく。 〔復習〕 授業で知ったことをノートにまとめる。	90分
第15回	まとめ	
	〔予習〕 論文（レポート）の書き方で、疑問点をノートしておく。	60分

授業の方法

第4～13回は、前期開講の「近・現代文学基礎研究Ⅰd」を踏まえて、担当者が研究発表をし、それを皆で討議して、作品のもつ質や問題点を明らかにする。その際、まずグループで討議し、そこで出た疑問や意見を代表者が発言し、次に発表者との質疑応答を行い、教員がまとめてゆく。第14・15回は、教員が総括をする。

成績評価の方法

研究発表、発表資料、論文（レポート）、授業時における発言、リアクションペーパー等を総合して評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

作品のなかの、意味のわからない言葉を調べておく。

テキスト

横光利一 『春は馬車に乗って』 新潮社（文庫）
I S B N 4-10-100202-9 514円

参考書

『新潮日本文学アルバム 横光利一』 新潮社 1994年
I S B N 4-10-620647-1 1300円

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本語学基礎研究Ⅰ a		
教員名	吉田 永弘		
科目ナンバー	1151421205	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
中古和文の代表的作品である源氏物語をテキストとして、古典の読解方法を演習形式で学ぶことを目的とする。まず、源氏物語の影印を翻刻し、読みやすい形にした本文を作成する。そして、助動詞・助詞・敬語の用法に注意しながら、的確な現代語訳を目指す。また、類例を調査する方法も学ぶ。			
到達目標			
DP 6、7、8を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①古語辞典と注釈書とを参考にしながら、古典の現代語訳に取り組むことが出来るようになる。 ②国語教師となっても困らない程度に、古典の本文をわかりやすく解説することができる。 ③変体仮名がある程度読むことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	源氏物語の本文の解説と演習方法の説明。		
	講義の内容と演習の方法を理解する。		60
第2回	担当教員による演習(1) 影印の読解方法を中心に解説する。		
	講義の内容と演習の方法を理解する。		60
第3回	担当教員による演習(2) 現代語訳の方法を中心に解説する。		
	講義の内容と演習の方法を理解する。		60

第4回	担当教員による演習（3） 問題点の調査方法を中心に解説する。	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	60
第5回	学生による発表（1） 担当範囲 1・2	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	60
第6回	学生による発表（2） 担当範囲 3・4	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	60
第7回	学生による発表（3） 担当範囲 5・6	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	60
第8回	学生による発表（4） 担当範囲 7・8	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	60
第9回	学生による発表（5） 担当範囲 9・10	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	60

第10回	学生による発表（6） 担当範囲 1 1 ・ 1 2	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	6 0
第11回	学生による発表（7） 担当範囲 1 3 ・ 1 4	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	6 0
第12回	学生による発表（8） 担当範囲 1 5 ・ 1 6	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	6 0
第13回	学生による発表（9） 担当範囲 1 7 ・ 1 8	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	6 0
第14回	学生による発表（10） 担当範囲 1 9 ・ 2 0	
	レポートを作成する。	6 0
第15回	総括と質疑応答	
	講義内容全体を復習する。	6 0

授業の方法

演習形式による。

- ①発表担当日前週までに資料を作成・配布する。
- ②発表時の質疑応答を踏まえたレポートを期末に提出する。

成績評価の方法

発表（４０％）、レポート（４０％）、聴講時の積極性（２０％）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ①必要十分な形式で資料が作れているか。
- ②説得力のある発表・質疑応答ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

古典文法の基礎知識が身につけていることが望ましい。

テキスト

特になし。

参考書

初回の授業時に多数示す。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	日本語学基礎研究II a		
教員名	吉田 永弘		
科目ナンバー	1251421206	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
前期に引き続き、中古和文の代表的作品である源氏物語をテキストとして、古典の読解方法を演習形式で学ぶことを目的とする。まず、源氏物語の影印を翻刻し、読みやすい形にした本文を作成する。そして、助動詞・助詞・敬語の用法に注意しながら、的確な現代語訳を目指す。また、類例を調査する方法も学ぶ。			
到達目標			
DP 6、7、8 を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①古語辞典と注釈書とを参考にしながら、古典の現代語訳に取り組むことができるようになる。 ②国語教師となっても困らない程度に、古典の本文をわかりやすく解説することができる。 ③変体仮名がある程度読むことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	演習方法の説明。		
	講義の内容と演習の方法を理解する。		60
第2回	学生による発表(1) 担当範囲1・2		
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。		60
第3回	学生による発表(2) 担当範囲3・4		
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。		60

第4回	学生による発表（3） 担当範囲 5・6	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	60
第5回	学生による発表（4） 担当範囲 7・8	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	60
第6回	学生による発表（5） 担当範囲 9・10	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	60
第7回	学生による発表（6） 担当範囲 11・12	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	60
第8回	学生による発表（7） 担当範囲 13・14	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	60
第9回	学生による発表（8） 担当範囲 15・16	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	60

第10回	学生による発表（9） 担当範囲 17・18	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	60
第11回	学生による発表（10） 担当範囲 19・20	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	60
第12回	学生による発表（11） 担当範囲 21・22	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	60
第13回	学生による発表（12） 担当範囲 23・24	
	次週の発表資料を熟読する。 自らの発表資料の作成・レポートに向けての調査を行う。	60
第14回	学生による発表（13） 担当範囲 25・26	
	レポートを作成する。	60
第15回	総括と質疑応答	
	講義内容全体を復習する。	60

授業の方法

演習形式による。

- ①発表担当日前週までに資料を作成・配布する。
- ②発表時の質疑応答を踏まえたレポートを期末に提出する。

成績評価の方法

発表（４０％）、レポート（４０％）、聴講時の積極性（２０％）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

- ①必要十分な形式で資料が作れているか。
- ②説得力のある発表・質疑応答ができているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本語学基礎研究Ⅰ aを受講していること。

テキスト

特になし。

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	日本語学基礎研究Ⅰ b		
教員名	仁科 明		
科目ナンバー	1151421205	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
ここでは、ことばの意味について考える方法を身につけ、考えを説明できるようになることを目指す。 個々の単語には、複数の意味が結びついていることが多い（例えば「て」には「働き手」の意味もあるし、「あし」には「移動手段」の意味もある）。一つの語に結びつく意味にはどのような関係があるのだろうか。また、よく似た意味の単語が微妙な違いをもって使い分けられていることもある（例えば「はだし」と「すあし」、「にちがいない」と「はずだ」）。どんな基準で使い分けられているのだろうか。ことばの意味を考えるときには、こうした部分にも説明が必要になる。 自立語（名詞・動詞・形容詞など）に限定せず、付属語（助詞や助動詞およびそれに準ずる形式）についても対象としたい。			
到達目標			
・意味記述の方法について学ぶ。 ・用例調査の基礎を身につける。 ・自分の内容を説明する方法を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス1 ・授業の概要説明をする。 ・グループ分けと発表担当日の決定を行う。		
	シラバスに目を通しておく。	30	
第2回	ガイダンス2 ・調査対象の決定を行う。		
	参考文献のいくつか目に通し、調査対象となる語を考えておく。	60	
第3回	共同討議1（発表の準備作業） 発表の準備作業として、グループごとに討議を行う。		
	前回の話し合いにもとづき、対象について調査・考察をしておく。	60	

第4回	共同討議2（発表の準備作業） 発表の準備作業として、グループごとに討議を行う。	
	前回の話し合いにもとづき、対象について調査・考察をしておく。	60
第5回	受講生の発表と議論 ・発表者（グループ）は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60
第6回	受講生の発表と議論 ・発表者（グループ）は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60
第7回	受講生の発表と議論 ・発表者（グループ）は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60
第8回	受講生の発表と議論 ・発表者（グループ）は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60
第9回	受講生の発表と議論 ・発表者（グループ）は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60

第10回	受講生の発表と議論 ・発表者（グループ）は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60
第11回	受講生の発表と議論 ・発表者（グループ）は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60
第12回	受講生の発表と議論 ・発表者（グループ）は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60
第13回	受講生の発表と議論 ・発表者（グループ）は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60
第14回	受講生の発表と議論 ・発表者（グループ）は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60
第15回	まとめ。 ・全体の振り返りを行う。	
	これまでの各グループの発表について見なおしておく。	60

授業の方法

演習形式で進める。参考文献を参照しながら自分（たち）で具体的な事例を選んで調査（用例収集と整理、アンケート調査）にもとづく意味記述作業を行い、結果を発表していく（前期のI bでは複数人のグループでの発表を考えている）。

成績評価の方法

成績評価の前提として、70%以上の出席を要求する。出席率が70%未満の場合、成績評価の対象とならないので、注意すること。成績は、発表内容、授業参加度、期末レポートにより総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本語の語彙・文法についての基礎知識

テキスト

特に指定せず。

参考書

利用すべきものは初回の授業で指示するほか、必要に応じて、適宜、紹介を行う。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業の前後に教室で受け付ける。

科目名	日本語学基礎研究II b		
教員名	仁科 明		
科目ナンバー	1251421206	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
前期の日本語学基礎研究 I b にひきつづき、ことばの意味について考える方法を身につけ、考えを説明できるようになることを目指す。 個々の単語には、複数の意味が結びついていることが多い（例えば「て」には「人員」の意味もあるし、「あし」には「移動手段」の意味もある）。一つの語に結びつく意味にはどのような関係があるのだろうか。また、よく似た意味の単語が微妙な違いをもって使い分けられていることもある（例えば「はだし」と「すあし」、「にちがいない」と「はずだ」）。どんな基準で使い分けられているのだろうか。ことばの意味を考えるときには、こうした部分にも説明が必要になる。 自立語（名詞・動詞・形容詞など）に限定せず、付属語（助詞や助動詞およびそれに準ずる形式）についても対象としたい。			
到達目標			
・意味記述の方法について学ぶ。 ・用例調査の基礎を身につける。 ・自分の内容を説明する方法を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の概要説明をする。 ・調査対象の決定を行う。 ・発表の担当と担当日を決定する。		
	シラバスに目を通しておく。 参考文献のいくつかに目を通し、調査対象となる語を考えておく。		30
第2回	受講生の発表と議論 ・発表者は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。		
	発表の対象となる語について、各自考えておく。		60
第3回	受講生の発表と議論 ・発表者は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。		
	発表の対象となる語について、各自考えておく。		60

第4回	受講生の発表と議論 ・発表者は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60
第5回	受講生の発表と議論 ・発表者は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60
第6回	受講生の発表と議論 ・発表者は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60
第7回	受講生の発表と議論 ・発表者は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60
第8回	受講生の発表と議論 ・発表者は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60
第9回	受講生の発表と議論 ・発表者は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60

第10回	受講生の発表と議論 ・発表者は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60
第11回	受講生の発表と議論 ・発表者は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60
第12回	受講生の発表と議論 ・発表者は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60
第13回	受講生の発表と議論 ・発表者は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60
第14回	受講生の発表と議論 ・発表者は資料を作成し、それに沿って発表を行う。 ・発表を踏まえて、全体で議論を行う。	
	発表の対象となる語について、各自考えておく。	60
第15回	まとめ ・全体の振り返りを行う。	
	これまでの発表について見なおしておく。	60

授業の方法

演習形式で進める。参考文献を参照しながら自分で具体的な事例を選んで調査（用例収集と整理、アンケート調査）にもとづく意味記述作業を行い、結果を発表していく（前期の日本語学基礎研究Ⅰbに対し、後期のⅡbではより少人数での調査・発表を考えている）。

成績評価の方法

成績評価の前提として、70%以上の出席を要求する。出席率が70%未満の場合、成績評価の対象とならないので、注意すること。成績は、発表内容、授業参加度、期末レポートにより総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本語の語彙・文法についての基礎知識。前期の日本語学基礎研究Ⅰbを履修していることがのぞましい。

テキスト

特に指定せず。

参考書

利用すべきものは初回の授業で指示するほか、必要に応じて、適宜、紹介を行う。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業の前後に教室で受け付ける。

科目名	日本語学基礎研究Ⅰ c		
教員名	井島 正博		
科目ナンバー	1151421205	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
テーマ：「類義表現研究」 概 要：現代日本語の類義的文法形式(意味の似通った文法形式、例えば、「雨が降っているようだ」のヨウダと「雨が降っているらしい」のラシイは共に「推定」を表すという意味で類義的文法形式である)を二つ取り上げ、両者がどのように似通い、どのように異なるのかを、実際の用例調査やアンケートなどを行うことで、明らかにしてゆく。			
到達目標			
1. 文法研究に関する基礎的な方法論がわかるようになる。 2. 資料収集や用例調査の方法についても習熟する。 3. 自分で調べた内容を論理的に説明できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス（１） ・ 演習の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・ 発表担当者を決定する。		
	シラバスをよく読んで演習の内容を理解しておく。	30	
第2回	ガイダンス（２） ・ 各自の発表テーマを決定する。 ・ 資料収集や用例調査の仕方を説明する。		
	【予習】 指定された参考文献などをもとに、各自、発表テーマを複数考えておく。 【復習】 授業中のコメントを参考にして、発表テーマを深化させる。	60	
第3回	受講生の発表・全体討議（１） ・ 自分が決めたテーマについて考察したことをレジュメにまとめて発表を行う。 ・ 発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。		
	【予習】 発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジュメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】 授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120	

第4回	受講生の発表・全体討議（2） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第5回	受講生の発表・全体討議（3） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第6回	受講生の発表・全体討議（4） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第7回	受講生の発表・全体討議（5） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第8回	受講生の発表・全体討議（6） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第9回	受講生の発表・全体討議（7） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120

第10回	受講生の発表・全体討議（8） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第11回	受講生の発表・全体討議（9） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第12回	受講生の発表・全体討議（10） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第13回	受講生の発表・全体討議（11） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第14回	受講生の発表・全体討議（12） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第15回	受講生の発表・全体討議（13） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120

授業の方法

演習形式で授業を行う。受講者は比較検討を行う任意の二つ(以上)の類義的文法形式を選び、辞書、参考書等で両者の基本的な意味の違いを確認した上で、実際の用例調査やアンケートを行って、両者の相違点について分析し、その内容を発表する。発表後、発表内容について参加者全員で討議を行う。発表者以外の参加者にも意見を求めるので積極的に授業に参加して欲しい。
また、必要に応じて、日本語文法の基礎知識に関する講義を行うこともある。

成績評価の方法

成績評価の前提として、70%以上の出席を要求する。出席率が70%未満の場合、成績評価の対象とならないので、注意すること。
成績は、発表内容、授業参加度、期末レポートにより総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本語の文法に関する基礎知識

テキスト

使用しない

参考書

授業中に指示する

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本語学基礎研究II c		
教員名	井島 正博		
科目ナンバー	1251421206	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

テーマ：「類義表現研究」
 概要：前期に引き続き、現代日本語の類義的文法形式（意味の似通った文法形式、例えば、「雨が降っているようだ」のヨウダと「雨が降っているらしい」のラシイは共に「推定」を表すという意味で類義的文法形式である）を二つ取り上げ、両者がどのように似通い、どのように異なるのかを、実際の用例調査やアンケートなどを行うことで、明らかにしてゆく。

到達目標

1. 文法研究に関する基礎的な方法論がわかるようになる。
2. 資料収集や用例調査の方法についても習熟する。
3. 自分で調べた内容を論理的に説明できるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の進め方について確認する。 受講生の発表・全体討議（1） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジュメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジュメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第2回	受講生の発表・全体討議（2） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジュメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジュメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第3回	受講生の発表・全体討議（3） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジュメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジュメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120

第4回	受講生の発表・全体討議（４） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第5回	受講生の発表・全体討議（５） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第6回	受講生の発表・全体討議（６） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第7回	受講生の発表・全体討議（７） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第8回	受講生の発表・全体討議（８） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第9回	受講生の発表・全体討議（９） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120

第10回	受講生の発表・全体討議（10） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジュメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジュメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第11回	受講生の発表・全体討議（11） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジュメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジュメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第12回	受講生の発表・全体討議（12） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジュメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジュメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第13回	受講生の発表・全体討議（13） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジュメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジュメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第14回	受講生の発表・全体討議（14） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジュメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジュメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120
第15回	受講生の発表・全体討議（15） ・自分が決めたテーマについて考察したことをレジュメにまとめて発表を行う。 ・発表後、クラス全体で討議を行い、発表内容を深化させる。	
	【予習】発表予定者は、用例収集および用例分析を行い、その内容をレジュメにまとめておく。それ以外の受講者は、発表テーマに関する予備知識を参考書等で確認しておく。 【復習】授業中のコメントを参考にして、発表内容を深化させる。	120

授業の方法

演習形式で授業を行う。受講者は比較検討を行う任意の二つ(以上)の類義的文法形式を選び、辞書、参考書等で両者の基本的な意味の違いを確認した上で、実際の用例調査やアンケートを行って、両者の相違点について分析し、その内容を発表する。発表後、発表内容について参加者全員で討議を行う。発表者以外の参加者にも意見を求めるので積極的に授業に参加して欲しい。
また、必要に応じて、日本語文法の基礎知識に関する講義を行うこともある。

成績評価の方法

成績評価の前提として、70%以上の出席を要求する。出席率が70%未満の場合、成績評価の対象とならないので、注意すること。
成績は、発表内容、授業参加度、期末レポートにより総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本語の文法に関する基礎知識

テキスト

使用しない

参考書

授業中に指示する

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本語学基礎研究Ⅰ d		
教員名	山本 真吾		
科目ナンバー	1151421205	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
院政鎌倉時代の言語は、国語史研究の谷間と言われることもあり、なお実態が明らかでないところが多い。この演習では、当代の言語の実態について、文化、社会、宗教的背景を踏まえながら説明することを目的とする。 日本語史研究の基礎的方法の修得を目指し、今昔物語集を取り上げ、正確に文字を判読し、本文を読解する態度を身につけるとともに、語学上の問題を発見し、解決の道筋を模索する訓練を行う。			
到達目標			
1、古文獻の文字を判読し、読解する能力を身につけるようにする。 2、日本語史の基礎的な知識や研究方法を習得する。 3、文献に内在する問題を発見し、解決してゆく道筋をたてる訓練をする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	演習の目標の解説とテキスト概説。		
	【予習】日本文学史における説話というジャンルについて調べておく。 【復習】当日配布のプリントを熟読し、内容の確認をしておく。		60
第2回	基礎編の模擬演習。教員が発表し、質問を受ける。		
	【予習】事前に扱う説話の分からない古語について調べておく。 【復習】当日配布のプリントを熟読し、内容の確認をしておく。		60
第3回	研究編の模擬演習。教員が発表し、質問を受ける。		
	【予習】事前に扱う説話の分からない古語について調べておく。 【復習】当日配布のプリントを熟読し、内容の確認をしておく。		60

第4回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 1 ・ 巻 2 7 第2話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第5回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 2 ・ 巻 2 7 第3話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第6回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 3 ・ 巻 2 7 第4話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第7回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 4 ・ 巻 2 7 第5話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第8回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 5 ・ 巻 2 7 第6話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第9回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 6 ・ 巻 2 7 第7話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60

第10回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 7 ・ 巻 2 7 第8話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第11回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 8 ・ 巻 2 7 第9話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第12回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 9 ・ 巻 2 7 第10話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第13回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 1 0 ・ 巻 2 7 第11話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第14回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 1 1 ・ 巻 2 7 第12話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第15回	本授業の総括	
	【予習】口頭発表や質疑応答を振り返り、課題について自分でどれくらい達成できたかと反省すべき点をまとめておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	90

授業の方法

鈴鹿本今昔物語集を対象文献として、各自1話（長文の場合は適宜分割する）を担当する。本演習は、基礎編と研究編の2部で構成される。それぞれの課題内容はおおよそ以下のとおりである。

1. 基礎編…担当箇所の正確な読解作業。翻字本文の作成、漢字字体の検討、語釈、通釈など。

2. 研究編…担当箇所から語学上の問題点を取り上げ、索引等を利用して、調査考察する。

担当者は、上記の作業をプリントにして、受講者に配布して口頭発表を行い、相互の討論を経て、教員が纏める。

成績評価の方法

期末レポート（50%）、質疑応答への参加状況（50%）により総合的に評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、達成度により評価する。

- ・論理的、実証的に研究する手法が身についているか。
- ・発表資料を適切に作成しているか。
- ・発表内容を正確に理解し、問題点を指摘できるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

特定の教科書は用いない。プリント配布。

参考書

随時授業の中で紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本語学基礎研究II d		
教員名	山本 真吾		
科目ナンバー	1251421206	単位数	1
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
院政鎌倉時代の言語は、国語史研究の谷間と言われることもあり、なお実態が明らかでないところが多い。この演習では、当代の言語の実態について、文化、社会、宗教的背景を踏まえながら解明することを目的とする。 日本語史研究の基礎的方法の修得を目指し、今昔物語集を取り上げ、正確に文字を判読し、本文を読解する態度を身につけるとともに、語学上の問題を発見し、解決の道筋を模索する訓練を行う。			
到達目標			
1、古文献の文字を判読し、読解する能力を身につけるようにする。 2、日本語史の基礎的な知識や研究方法を習得する。 3、文献に内在する問題を発見し、解決してゆく道筋をたてる訓練をする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答1 ・巻27第13話（前半）を読む		
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。		60
第2回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答2 ・巻27第13話（後半）を読む		
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。		60
第3回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答3 ・巻27第14話を読む		
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。		60

第4回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 4 ・ 巻27第15話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第5回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 5 ・ 巻27第16話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第6回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 6 ・ 巻27第17話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第7回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 7 ・ 巻27第18話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第8回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 8 ・ 巻27第19話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第9回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 9 ・ 巻27第20話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60

第10回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 1 0 ・ 巻27第21話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第11回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 1 1 ・ 巻27第22話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第12回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 1 2 ・ 巻27第23話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第13回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 1 3 ・ 巻27第24話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第14回	鈴鹿本『今昔物語集』口頭発表及び質疑応答 1 4 ・ 巻27第25話を読む	
	【予習】テキストの指定された箇所を熟読し、質疑応答の際に質問や意見が出せるように準備しておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	60
第15回	本授業の総括	
	【予習】口頭発表や質疑応答を振り返り、課題について自分でどれくらい達成できたかと反省すべき点をまとめておく。 【復習】授業で紹介された研究文献を読んで理解を深める。	90

授業の方法

鈴鹿本今昔物語集を対象文献として、各自1話（長文の場合は適宜分割する）を担当する。本演習は、基礎編と研究編の2部で構成される。それぞれの課題内容はおおよそ以下のとおりである。

1. 基礎編…担当箇所の正確な読解作業。翻字本文の作成、漢字字体の検討、語釈、通釈など。

2. 研究編…担当箇所から語学上の問題点を取り上げ、索引等を利用して、調査考察する。

担当者は、上記の作業をプリントにして、受講者に配布して口頭発表を行い、相互の討論を経て、教員が纏める。

成績評価の方法

口頭発表の内容（50%）と質疑応答への参加状況（50%）により総合的に評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、達成度により評価する。

- ・論理的、実証的に研究する手法が身についているか。
- ・発表資料を適切に作成しているか。
- ・発表内容を正確に理解し、問題点を指摘できるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

特定の教科書は用いない。プリント配布。

参考書

随時授業の中で紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本文学演習Ⅰ a		
教員名	吉田 幹生		
科目ナンバー	1151421207	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
古代和歌を読む。 『万葉集』から『新古今和歌集』前夜までを対象とし、前期は四季の歌、後期は恋の歌を中心に1首1首丁寧に読んでいく。日本の季節観や恋愛観の形成過程を浮き彫りにすると同時に、それぞれの歌人がどのように言葉を組み立てているのか、どこに表現上の工夫があるのか、といった考察を通して、和歌の「鑑賞眼」も養ってもらいたいと考えている。			
到達目標			
DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）およびDP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①諸注釈書の説明を比較するなどして、何が問題なのかを発見することができる。 ②用例の収集・分析等を通して、客観的に問題を解決することができる。 ③自分の考えを他者にわかりやすく論理的に伝えることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ゼミの進め方等を説明し、発表分担を確認する。		
	事前配布してあるプリントをよく読み、どのような手順で調査をするのか概要を把握しておく。	30	
第2回	模擬発表		
	事前配布してあるプリントと見比べながら、どういう点をどのように調査するのか、確認する。	90	
第3回	万葉集の春の歌		
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60	

第4回	万葉集の秋の歌	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60
第5回	万葉集の冬の歌	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60
第6回	三代集の春の歌	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60
第7回	三代集の夏の歌	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60
第8回	三代集の秋の歌	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60
第9回	三代集の冬の歌	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60

第10回	平安後期の春の歌	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60
第11回	平安後期の夏の歌	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60
第12回	平安後期の秋の歌	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60
第13回	平安後期の冬の歌	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60
第14回	4年生の卒論週間発表	
	予め示された指定文献をよく読み、発表テーマについての予備知識を身に付けておく。	90
第15回	前期のまとめ 古代和歌における季節歌のありかたについて振り返り、その特徴をまとめる。	
	授業で取り扱った歌を中心に、古代和歌の表現の仕組みを確認するとともに、季節観の形成過程について自分なりに説明できるようにする。	90

授業の方法

演習形式による。

成績評価の方法

演習への参加度合・口頭発表・レポートに基づいて評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

口頭発表については、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①何が問題なのかを把握できているか。
- ②問題を客観的に解決できているか。
- ③自分の考えをわかりやすく伝えられているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

教室で指示する。

参考書

教室で指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本文学演習II a		
教員名	吉田 幹生		
科目ナンバー	1151421208	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
古代和歌を読む。 『万葉集』から『新古今和歌集』前夜までを対象とし、前期は四季の歌、後期は恋の歌を中心に1首1首丁寧に読んでいく。日本の季節観や恋愛観の形成過程を浮き彫りにすると同時に、それぞれの歌人がどのように言葉を組み立てているのか、どこに表現上の工夫があるのか、といった考察を通して、和歌の「鑑賞眼」も養ってもらいたいと考えている。			
到達目標			
DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）およびDP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①諸注釈書の説明を比較するなどして、何が問題なのかを発見することができる。 ②用例の収集・分析等を通して、客観的に問題を解決することができる。 ③自分の考えを他者にわかりやすく論理的に伝えることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	4年生の卒論中間発表 および、発表分担の確認		
	予め示された指定文献をよく読み、発表テーマについての予備知識を身に付けておく。		90
第2回	4年生の卒論中間発表		
	予め示された指定文献をよく読み、発表テーマについての予備知識を身に付けておく。		90
第3回	万葉集の相聞歌 1		
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。		60

第4回	万葉集の相聞歌 2	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60
第5回	万葉集の相聞歌 3	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60
第6回	万葉集の相聞歌 4	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60
第7回	三代集の恋歌 1	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60
第8回	三代集の恋歌 2	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60
第9回	三代集の恋歌 3	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60

第10回	三代集の恋歌 4	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60
第11回	平安後期の恋歌 1	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60
第12回	平安後期の恋歌 2	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60
第13回	平安後期の恋歌 3	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60
第14回	平安後期の恋歌 4	
	第1回の授業で確定した歌について、自分なりに意味を考え、どのような点で優れているのか、またどのような点がわかりにくいのかを明らかにしてくる。	60
第15回	後期のまとめ 古代和歌における恋歌のありかたについて振り返り、その特徴をまとめる。	
	授業で取り扱った歌を中心に、古代和歌の表現の仕組みを確認するとともに、恋愛観の形成過程について自分なりに説明できるようにする。	90

授業の方法

演習形式による。

成績評価の方法

演習への参加度合・口頭発表・レポートに基づいて評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

口頭発表については、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①何が問題なのかを把握できているか。
- ②問題を客観的に解決できているか。
- ③自分の考えをわかりやすく伝えられているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

教室で指示する。

参考書

教室で指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本文学演習Ⅰ b		
教員名	吉田 幹生		
科目ナンバー	1151421207	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
『源氏物語』明石巻を読む。 明石巻では、物語の重要人物の一人である明石の君と光源氏との出会いや別れが描かれる。今年度は、そのような二人の恋物語に十分配慮しながら、琴の伝承や光源氏召還の論理などの問題にも目配りしつつ、参加者全員で『源氏物語』の世界を読み解き味わい尽くしていきたいと考えている。また、物語がどのように伏線を張り巡らせているのか、どのような視点から語っているのかといった、物語文学の表現分析にも、時間の許す限り取り組みたいと思う。			
到達目標			
DP 7（問題発見能力および多面的な分析能力）およびDP 8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①諸注釈書の説明を比較するなどして、何が問題なのかを発見することができる。 ②用例の収集・分析等を通して、客観的に問題を解決することができる。 ③自分の考えを他者にわかりやすく論理的に伝えることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス		
	事前配布してあるプリントをよく読み、どのような手順で調査をするのか概要を把握しておく。		60
第2回	明石巻 1		
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。		60
第3回	明石巻 2		
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。		60

第4回	明石巻 3	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第5回	明石巻 4	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第6回	明石巻 5	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第7回	明石巻 6	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第8回	明石巻 7	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第9回	明石巻 8	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60

第10回	明石巻 9	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第11回	明石巻 10	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第12回	明石巻 11	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第13回	明石巻 12	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第14回	明石巻 13	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第15回	前期のまとめ	
	前期の範囲を復習して、テキストの内容について自分なりの解釈を予め用意しておく。	90

授業の方法

演習形式による。

成績評価の方法

演習への参加度合・口頭発表・レポート（授業中に課す課題）に基づいて評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

口頭発表については、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①何が問題なのかを把握できているか。
- ②問題を客観的に解決できているか。
- ③自分の考えをわかりやすく伝えられているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

阿部秋生ほか校注『新編日本古典文学全集 源氏物語2』（小学館）

参考書

授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本文学演習II b		
教員名	吉田 幹生		
科目ナンバー	1151421208	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
『源氏物語』 濡標巻を読む。 濡標巻では、明石から帰京した光源氏が中央政界で昇進していくさまが描かれる。今年度後半は、そのような物語の大きな流れを追うと同時に、法華八講や五十日の祝いなど文化的な側面にも目配りしつつ、参加者全員で『源氏物語』の世界を読み解き味わい尽くしていきたいと考えている。また、物語がどのように伏線を張り巡らせているのか、どのような視点から語っているのかといった、物語文学の表現分析にも、時間の許す限り取り組みたいと思う。			
到達目標			
DP 7（問題発見能力および多面的な分析能力）およびDP 8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①諸注釈書の説明を比較するなどして、何が問題なのかを発見することができる。 ②用例の収集・分析等を通して、客観的に問題を解決することができる。 ③自分の考えを他者にわかりやすく論理的に伝えることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	濡標巻 1		
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60	
第2回	濡標巻 2		
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60	
第3回	濡標巻 3		
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60	

第4回	滯標巻 4	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第5回	滯標巻 5	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第6回	滯標巻 6	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第7回	滯標巻 7	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第8回	滯標巻 8	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第9回	滯標巻 9	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60

第10回	滞標巻 1 0	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第11回	滞標巻 1 1	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第12回	滞標巻 1 2	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第13回	滞標巻 1 3	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第14回	滞標巻 1 4	
	テキストの担当箇所を熟読して、自力で現代語訳できるようにしてくる。また、内容について疑問に思った所や興味をひかれる所など、自分なりの意見を予め用意しておく。	60
第15回	後期のまとめ	
	後期の範囲を復習して、テキストの内容について自分なりの解釈を予め用意しておく。	90

授業の方法

演習形式による。

成績評価の方法

演習への参加度合・口頭発表・レポート（授業中に課す課題）に基づいて評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

口頭発表については、次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①何が問題なのかを把握できているか。
- ②問題を客観的に解決できているか。
- ③自分の考えをわかりやすく伝えられているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

阿部秋生ほか校注『新編日本古典文学全集 源氏物語2』（小学館）

参考書

授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本文学演習Ⅰ Ⅱ		
教員名	木谷 真理子		
科目ナンバー	1151421207	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要
「日本文学演習Ⅰ～Ⅳ」のⅡクラスでは、一年をかけて『源氏物語』の「関屋」「絵合」「松風」という連続する三巻を読んでいきます。この三巻の物語は、冷泉帝が即位した年の秋から始まります。帝本人は知りませんが、彼の実父は光源氏。帝の父母である源氏と藤壺は、まだ十代前半の息子の治世をどのように支えていくのか、丁寧に読み解いていきましょう。三巻は連続していますが、それぞれ異なる色合いを持っているので、『源氏物語』の多様な側面を学ぶことができます。なお、「関屋」「絵合」「松風」巻の発表のほか、卒業論文に向けた発表もしてもらいます。

到達目標
D P 6（文化現象の総合的理解）、D P 7（問題発見能力および多面的な分析能力）、D P 8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の5点を到達目標とします。
①『源氏物語』のあらすじを説明することができる。
②王朝文学を研究するために必要な調査を行うことができる。
③王朝文学にかんして論を立てることができる。
④自分の考えを分かりやすく表現することができる。
⑤人の発表・論文の問題点を指摘することができる。

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	小テスト①：「桐壺」～「若紫」巻 ガイダンス①	
	小テストの範囲を読む。 ゼミの進め方・発表内容・調査方法などについて確認・復習する。	*
第2回	小テスト②：「末摘花」巻 ガイダンス②	
	小テストの範囲を読む。 調査方法などについて確認・復習し、宿題を行う。	*
第3回	小テスト③：「紅葉賀」～「花宴」巻 「関屋」「絵合」「松風」発表（4年生）①②	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読する。 全員、小テストの範囲を読む。	*

第4回	「関屋」「絵合」「松風」発表（4年生）③④	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読する。 全員、次回小テストの範囲を読む。	*
第5回	小テスト④：「葵」～「花散里」巻 「関屋」「絵合」「松風」発表（4年生）⑤⑥	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読する。 全員、小テストの範囲を読む。	*
第6回	「関屋」「絵合」「松風」発表（4年生）⑦	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読する。 全員、次回小テストの範囲を読む。	*
第7回	小テスト⑤：「須磨」～「明石」巻 「関屋」「絵合」「松風」発表（3年生）①	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読する。 全員、小テストの範囲を読む。	*
第8回	「関屋」「絵合」「松風」発表（3年生）②	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読する。 全員、次回小テストの範囲を読む。	*
第9回	小テスト⑥：「濡標」～「関屋」巻 3年生第1回卒業論文発表①	
	発表者は、しっかり準備をする。 全員、小テストの範囲を読む。	*

第10回	3年生第1回卒業論文発表②	
	発表者は、しっかり準備をする。 全員、次回小テストの範囲を読む。	*
第11回	小テスト⑦：「絵合」～「松風」巻 3年生第1回卒業論文発表③	
	発表者は、しっかり準備をする。 全員、小テストの範囲を読む。	*
第12回	3年生第1回卒業論文発表④ 4年生第1回卒業論文発表①	
	発表者は、しっかり準備をする。 全員、次回小テストの範囲を読む。	*
第13回	小テスト⑧：「薄雲」～「朝顔」巻 4年生第1回卒業論文発表②	
	発表者は、しっかり準備をする。 全員、小テストの範囲を読む。	*
第14回	4年生第1回卒業論文発表③	
	発表者は、しっかり準備をする。 全員、次回小テストの範囲を読む。	*
第15回	小テスト⑨：「少女」～「玉鬘」巻 4年生第1回卒業論文発表④	
	発表者は、しっかり準備をする。 全員、小テストの範囲を読む。	*

授業の方法

○「閑屋」「絵合」「松風」巻の発表と、それを受けての討論により進めていきます。
発表者には、諸本・諸注釈書を見合わせ、自分の担当範囲を読み込み、小さな疑問を大切に調べ考え、その成果を分かりやすく発表することを求めます。
また、毎回かならず、ゼミの参加者全員に発言してもらいます。
○「閑屋」「絵合」「松風」巻の発表のほかに、卒業論文に向けた発表等もしてもらいます。
また、3年生には奨賞への応募を義務づけています。
○3年生のうちに『源氏物語』を読み通すことも、このゼミの課題です。
1ヶ月に2～3回のペースで『源氏物語』の小テストを行います。初回の授業のときに、『源氏物語』の第1巻「桐壺」～第5巻「若紫」について小テストを行いますので、かならず読んでください。
*発表準備も小テストの準備も、かなりの長時間を要します。早くから準備するようにしてください。
*「閑屋」「絵合」「松風」巻の発表範囲を熟読したうえで参加しないと、討論で発言できません。全員発言するまでゼミが終わりませんので、予習を怠らないようにしてください。
○夏休み中に、小テスト⑩：「初音」～「藤裏葉」巻、および、4年生第2回卒業論文発表を行います。

成績評価の方法

発表と討論での発言を70%、『源氏物語』について的小テストを30%、の割合で評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ①『源氏物語』のあらすじを説明することができるか。
- ②王朝文学を研究するために必要な調査を行うことができるか。
- ③王朝文学にかんして論を立てることができるか。
- ④自分の考えを分かりやすく表現することができるか。
- ⑤人の発表・論文の問題点を指摘することができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

古典文法の知識が必要です。古典文法がよく分かっていないという方は御相談ください。

テキスト

『新編日本古典文学全集21 源氏物語②』（阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男校注・訳、小学館、1994年、本体4,457円+税、ISBN-13: 978-4096580219）

参考書

授業中に紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	日本文学演習II c		
教員名	木谷 真理子		
科目ナンバー	1151421208	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要			
「日本文学演習Ⅰ～Ⅳ」のcクラスでは、一年をかけて『源氏物語』の「関屋」「絵合」「松風」という連続する三巻を読んでいきます。この三巻の物語は、冷泉帝が即位した年の秋から始まります。帝本人は知りませんが、彼の実父は光源氏。帝の父母である源氏と藤壺は、まだ十代前半の息子の治世をどのように支えていくのか、丁寧に読み解いていきましょう。三巻は連続していますが、それぞれ異なる色合いを持っているので、『源氏物語』の多様な側面を学ぶことができます。なお、「関屋」「絵合」「松風」巻の発表のほか、卒業論文に向けた発表もしてもらいます。			

到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の5点を到達目標とします。 ①『源氏物語』のあらすじを説明することができる。 ②王朝文学を研究するために必要な調査を行うことができる。 ③王朝文学にかんして論を立てることができる。 ④自分の考えを分かりやすく表現することができる。 ⑤人の発表・論文の問題点を指摘することができる。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	小テスト①：「若菜上」～「柏木」巻 「関屋」「絵合」「松風」発表（3年生）③		
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読する。 全員、小テストの範囲を読む。		*
第2回	「関屋」「絵合」「松風」発表（3年生）④		
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読する。 全員、次回小テストの範囲を読む。		*
第3回	「関屋」「絵合」「松風」発表（3年生）⑤		
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読する。 全員、次回小テストの範囲を読む。		*

第4回	「関屋」「絵合」「松風」発表（3年生）⑥	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読する。 全員、次回小テストの範囲を読む。	*
第5回	小テスト⑫：「横笛」～「幻」巻 「関屋」「絵合」「松風」発表（3年生）⑦	
	発表者は、しっかり準備をする。 発表者以外は、発表範囲を熟読する。 全員、小テストの範囲を読む。	*
第6回	卒業論文相談	
	担当の卒業論文を添削する。 全員、次回小テストの範囲を読む。	*
第7回	卒業論文添削会	
	担当の卒業論文を添削する。 全員、次回小テストの範囲を読む。	*
第8回	4年生第3回卒業論文発表①	
	発表者は、しっかり準備をする。 全員、次回小テストの範囲を読む。	*
第9回	4年生第3回卒業論文発表②	
	発表者は、しっかり準備をする。 全員、次回小テストの範囲を読む。	*

第10回	小テスト⑬：「勾兵部卿」～「椎本」巻 4年生第3回卒業論文発表③	
	発表者は、しっかり準備をする。 全員、小テストの範囲を読む。	*
第11回	4年生第3回卒業論文発表④	
	発表者は、しっかり準備をする。 全員、次回小テストの範囲を読む。	*
第12回	3年生第2回卒業論文発表①	
	発表者は、しっかり準備をする。 全員、次回小テストの範囲を読む。	*
第13回	小テスト⑭：「総角」～「宿木」巻 3年生第2回卒業論文発表②	
	発表者は、しっかり準備をする。 全員、小テストの範囲を読む。	*
第14回	3年生第2回卒業論文発表③	
	発表者は、しっかり準備をする。 全員、次回小テストの範囲を読む。	*
第15回	小テスト⑮：「東屋」～「夢浮橋」巻 3年生第2回卒業論文発表④	
	発表者は、しっかり準備をする。 全員、小テストの範囲を読む。	*

授業の方法

- 「閑屋」「絵合」「松風」巻の発表と、それを受けての討論により進めていきます。
発表者には、諸本・諸注釈書を見合わせ、自分の担当範囲を読み込み、小さな疑問を大切に調べ考え、その成果を分かりやすく発表することを求めます。
また、毎回かならず、ゼミの参加者全員に発言してもらいます。
- 「閑屋」「絵合」「松風」巻の発表のほかに、卒業論文に向けた発表等もしてもらいます。
また、3年生には奨賞への応募を義務づけています。
- 3年生のうちに『源氏物語』を読み通すことも、このゼミの課題です。
1ヶ月に1回のペースで『源氏物語』の小テストを行いますので、かならず読んでください。
*発表準備も小テストの準備も、かなりの長時間を要します。早くから準備するようにしてください。
*「閑屋」「絵合」「松風」巻の発表範囲を熟読したうえで参加しないと、討論で発言できません。全員発言するまでゼミが終わりませんので、予習を怠らないようにしてください。
- 発表や小テストの回数・番号は、前期および夏休みからの続きになっています。

成績評価の方法

発表＋討論での発言＋3年生は奨賞論文を70%、『源氏物語』について的小テストを30%、の割合で評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ①『源氏物語』のあらすじを説明することができるか。
- ②王朝文学を研究するために必要な調査を行うことができるか。
- ③王朝文学にかんして論を立てることができるか。
- ④自分の考えを分かりやすく表現することができるか。
- ⑤人の発表・論文の問題点を指摘することができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

古典文法の知識が必要です。古典文法がよく分かっていないという方は御相談ください。

テキスト

『新編日本古典文学全集21 源氏物語②』（阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男校注・訳、小学館、1994年、本体4,457円＋税、ISBN-13: 978-4096580219）

参考書

授業中に紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	日本文学演習Ⅰ d		
教員名	清水 由美子		
科目ナンバー	1151421207	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
院政期末から鎌倉幕府成立にいたるまでの、いわゆる治承寿永の内乱を描いた『平家物語』を取り上げる。日本の軍記文学を代表すると同時に、中世文学の代表的な作品でもあり、中学校や高等学校でも教材として取り上げられる、日本人にはなじみの深い作品である。史実に基づきつつも、各所に編纂意図に基づいた創作を施し、また、本筋とは離れた展開として多くの説話を持ち、和歌も多く、中世文学に対する理解を深め、日本の中世という時代における社会、文化、宗教などに触れることができる。また研究の蓄積も豊富で文学研究の手法を学ぶためにも適している。前期中に各自で『平家物語』を読み通すことを前提に、前期には、作品の概要についての説明や、作品の様々な点についての資料や研究論文を使っの全員での討議などを通して、作品に対する理解を深めるところからはじめる。以後、後期にかけては、一つの章段、一人の人物の描かれ方、一つの戦いについてなど各自の関心に基づいて報告を行う（学生の希望によっては、一つの巻を輪読することもある）。また、四年生は、卒論について、テーマの報告、中間発表、最終報告、と段階ごとに卒論への取り組みを報告してもらい、充実した卒論の完成をめざしたい。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力・多面的な分析能力）、DP8（他者理解能力・自己伝達能力）を実現するため、以下の五点を到達目標とする。 ①『平家物語』を正しく音読し、注釈をつけ、現代語訳するなど、古典文学読解についての高い能力を身につける。 ②『平家物語』について調査することで、特に軍記文学研究の手法を身につける。 ③『平家物語』から読み取れることを通して、文学研究に対する思索を深める。 ④調べたことをわかりやすくまとめたレジュメを作成し、それに基づいてプレゼンテーションできる。 ⑤他の学生の発表をきちんと聞き、その内容を踏まえてディスカッションを深められる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 演習の進め方について、発表順の決定		
	シラバスを読んでおく。配布プリントの確認		60
第2回	演習ガイダンス（『平家物語』概説、調査および発表方法の説明）		
	担当希望の人物や出来事を考えておく。		60
第3回	演習ガイダンス（教員による発表サンプル）		
	配布された資料に目を通しておく。次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。		60

第4回	担当者による発表とディスカッション1	
	配布された資料に目を通しておく。次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第5回	担当者による発表とディスカッション2	
	配布された資料に目を通しておく。次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第6回	担当者による発表とディスカッション3	
	配布された資料に目を通しておく。次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第7回	担当者による発表とディスカッション4	
	配布された資料に目を通しておく。次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第8回	担当者による発表とディスカッション5	
	配布された資料に目を通しておく。次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第9回	担当者による発表とディスカッション6	
	配布された資料に目を通しておく。次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60

第10回	担当者による発表とディスカッション7	
	配布された資料に目を通しておく。次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第11回	担当者による発表とディスカッション8	
	配布された資料に目を通しておく。次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第12回	担当者による発表とディスカッション9	
	配布された資料に目を通しておく。次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第13回	担当者による発表とディスカッション10	
	配布された資料に目を通しておく。次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第14回	担当者による発表とディスカッション11	
	配布された資料に目を通しておく。次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第15回	補足・総括・ふり返り	
	半期の復習をする。	60

授業の方法

受講者は必ず口頭発表を行う。その際には、指示に従って発表レジュメを作成し、それにもとづいて報告する。その他の学生は、コメントシートにメモしながら発表を聞き、発表後それに基づいて全員で討議する。

成績評価の方法

発表内容（60%）、課題への取り組みと議論への参加状況（40%）で総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

大津雄一・平藤幸編『平家物語 覚一本 全 改訂版』（武蔵野書院 I S B N 978-4-8386-0650-4）
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書

適宜、授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	日本文学演習II d		
教員名	清水 由美子		
科目ナンバー	1151421208	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
院政期末から鎌倉幕府成立にいたるまでの、いわゆる治承寿永の内乱を描いた『平家物語』を取り上げる。日本の軍記文学を代表すると同時に、中世文学の代表的な作品でもあり、中学校や高等学校でも教材として取り上げられる、日本人にはなじみの深い作品である。史実に基づきつつも、各所に編纂意図に基づいた創作を施し、また、本筋とは離れた展開として多くの説話を持ち、和歌も多く、中世文学に対する理解を深め、日本の中世という時代における社会、文化、宗教などに触れることができる。また研究の蓄積も豊富で文学研究の手法を学ぶためにも適している。前期中に各自で『平家物語』を読み通すことを前提に、前期には、作品の概要についての説明や、作品の様々な点についての資料や研究論文を使っの全員での討議などを通して、作品に対する理解を深めるところからはじめる。以後、後期にかけては、一つの章段、一人の人物の描かれ方、一つの戦いについてなど各自の関心に基づいて報告を行う（学生の希望によっては、一つの巻を輪読することもある）。また、四年生は、卒論について、テーマの報告、中間発表、最終報告、と段階ごとに卒論への取り組みを報告してもらい、充実した卒論の完成をめざしたい。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力・多面的な分析能力）、DP8（他者理解能力・自己伝達能力）を実現するため、以下の五点を到達目標とする。 ①『平家物語』を正しく音読し、注釈をつけ、現代語訳するなど、古典文学読解についての高い能力を身につける。 ②『平家物語』について調査することで、特に軍記文学研究の手法を身につける。 ③『平家物語』から読み取れることを通して、文学研究に対する思索を深める。 ④調べたことをわかりやすくまとめたレジュメを作成し、それに基づいてプレゼンテーションできる。 ⑤他の学生の発表をきちんと聞き、その内容を踏まえてディスカッションを深められる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	前期のふり返り・後期の進め方について		
	前期の発表資料などを見直しておく。		60
第2回	演習ガイダンス（『平家物語』についての補足・前期の問題点の解説など）		
	配布プリントの確認		60
第3回	担当者による発表とディスカッション		
	配布された資料に目を通しておく。 次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。		60

第4回	担当者による発表とディスカッション	
	配布された資料に目を通しておく。 次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第5回	担当者による発表とディスカッション	
	配布された資料に目を通しておく。 次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第6回	担当者による発表とディスカッション	
	配布された資料に目を通しておく。 次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第7回	担当者による発表とディスカッション	
	配布された資料に目を通しておく。 次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第8回	担当者による発表とディスカッション	
	配布された資料に目を通しておく。 次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第9回	担当者による発表とディスカッション	
	配布された資料に目を通しておく。 次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60

第10回	担当者による発表とディスカッション	
	配布された資料に目を通しておく。 次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第11回	担当者による発表とディスカッション	
	配布された資料に目を通しておく。 次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第12回	担当者による発表とディスカッション	
	配布された資料に目を通しておく。 次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第13回	担当者による発表とディスカッション	
	配布された資料に目を通しておく。 次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第14回	担当者による発表とディスカッション	
	配布された資料に目を通しておく。 次回発表予定の人物や出来事に関して、辞典やインターネットなどで情報を収集しておく。	60
第15回	総括・感想（あらためて『平家物語』について考えること）など	
	後期の発表資料などを見直しておく。	60

授業の方法

受講者は必ず口頭発表を行う。その際には、指示に従って発表レジュメを作成し、それにもとづいて報告する。その他の学生は、コメントシートにメモしながら発表を聞き、発表後それに基づいて全員で討議する。

成績評価の方法

発表内容（60%）、課題への取り組みと議論への参加状況（40%）で総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

大津雄一・平藤幸編『平家物語 覚一本 全 改訂版』（武蔵野書院 I S B N 978-4-8386-0650-4）
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書

適宜、授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	日本文学演習Ⅰ e		
教員名	牧 藍子		
科目ナンバー	1151421207	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

朋誠堂喜三二作の黄表紙『文武二道万石通』を読む。黄表紙は、江戸時代初期から江戸で出版されていた、草双紙と呼ばれる絵本の流れを汲むものである。今回取り上げる『文武二道万石通』には、松平定信の寛政の改革における文武奨励策をうがって茶化す仕掛けが随所にちりばめられているが、こうした「うがち」を当時の人々と同じように楽しむためには、作品の背景にある社会的・文化的側面に目を向ける必要がある。そこで本演習では、現代の注釈書・研究書を手がかりにしながらも、なるべく多くの同時代の文献資料に目を通して注釈の作業を行う。

到達目標

DP2（課題の発見と解決）、3（他者との協働）、5（表現力、発信力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の4点を到達目標とする。

- ・近世文学研究に必要とされる専門的な知識や文献調査の方法を習得する。
- ・自分の力で作品の論点を見つけ、分析する力を養う。
- ・ディスカッションを通じて他者と意見を交換し、その成果を自分の研究に反映することができる。
- ・卒業論文を書くにあたって必要となる構成力や文章力を磨く。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の進め方について	
	シラバスを読んでおく。	30
第2回	近世文学史の流れ	
	授業時に配布されたプリントを読み直し、確認する。	60
第3回	四年生発表①『文武二道万石通』	
	授業時に配布されたプリントを読み直し、確認する。	60

第4回	四年生発表②③『文武二道万石通』	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。	60
第5回	四年生発表④⑤『文武二道万石通』	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。	60
第6回	四年生発表⑥⑦『文武二道万石通』	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。	60
第7回	四年生発表⑧⑨『文武二道万石通』	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。	60
第8回	三年生発表①『文武二道万石通』	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。	60
第9回	三年生発表②『文武二道万石通』	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。	60

第10回	三年生発表③『文武二道万石通』	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。	60
第11回	四年生卒論発表①②	
	発表者は、十分に事前準備を行い、原稿を用意する。 発表者以外は、事前に配布された原稿を読み、添削しておく。	60
第12回	四年生卒論発表③④	
	発表者は、十分に事前準備を行い、原稿を用意する。 発表者以外は、事前に配布された原稿を読み、添削しておく。	60
第13回	四年生卒論発表⑤⑥	
	発表者は、十分に事前準備を行い、原稿を用意する。 発表者以外は、事前に配布された原稿を読み、添削しておく。	60
第14回	四年生卒論発表⑦⑧	
	発表者は、十分に事前準備を行い、原稿を用意する。 発表者以外は、事前に配布された原稿を読み、添削しておく。	60
第15回	四年生卒論発表⑨	
	発表者は、十分に事前準備を行い、原稿を用意する。 発表者以外は、事前に配布された原稿を読み、添削しておく。	60

授業の方法

はじめの数は講義を行い、その後、受講者が発表し、参加者全員で質疑応答を行う演習形式とする。
発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめること。発表後のディスカッションに積極的に加わることができるよう、発表者以外もテキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく（毎回予習をしてきたかを確認する小テストを行う）。
黄表紙を読むのと並行して、卒業論文完成に向けて準備を行い、それに関する発表や課題もこなしてもらう。四年生は執筆した卒業論文の原稿を事前に配布し、他の履修者はそれを読み、各自添削した上で授業に臨む。

成績評価の方法

発表40%、発表に対する発言等、授業への参加具合・小テスト30%、課題レポート30%による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・近世文学研究に必要とされる専門的な知識や文献調査の方法を習得できたか。
- ・自分の力で作品の論点を見つけ、分析する力を養えたか。
- ・ディスカッションを通じて他者と意見を交換し、その成果を自分の研究に反映することができるか。
- ・卒業論文を書くにあたって必要となる構成力や文章力が身についたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『新編日本古典文学全集79 黄表紙・川柳・狂歌』棚橋正博・鈴木勝忠・宇田敏彦注解、小学館、1999年、5030円

参考書

授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本文学演習II e		
教員名	牧 藍子		
科目ナンバー	1151421208	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

朋誠堂喜三二作の黄表紙『文武二道万石通』を読む。黄表紙は、江戸時代初期から江戸で出版されていた、草双紙と呼ばれる絵本の流れを汲むものである。今回取り上げる『文武二道万石通』には、松平定信の寛政の改革における文武奨励策をうがって茶化す仕掛けが随所にちりばめられているが、こうした「うがち」を当時の人々と同じように楽しむためには、作品の背景にある社会的・文化的側面に目を向ける必要がある。そこで本演習では、現代の注釈書・研究書を手がかりにしながらも、なるべく多くの同時代の文献資料に目を通して注釈の作業を行う。

到達目標

DP2（課題の発見と解決）、3（他者との協働）、5（表現力、発信力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の4点を到達目標とする。

- ・近世文学研究に必要とされる専門的な知識や文献調査の方法を習得する。
- ・自分の力で作品の論点を見つけ、分析する力を養う。
- ・ディスカッションを通じて他者と意見を交換し、その成果を自分の研究に反映することができる。
- ・卒業論文を書くにあたって必要となる構成力や文章力を磨く。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	三年生卒論課題発表	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。	60
第2回	三年生発表④『文武二道万石通』	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。	60
第3回	三年生発表⑤『文武二道万石通』	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。	60

第4回	三年生発表⑥『文武二道万石通』	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。	60
第5回	三年生発表⑦『文武二道万石通』	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。	60
第6回	三年生発表⑧『文武二道万石通』	
	発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめる。 発表者以外も、テキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく。	60
第7回	論文の書き方	
	授業時に配布されたプリントを読み直し、確認する。	60
第8回	四年生卒論発表①	
	発表者は、十分に事前準備を行い、原稿を用意する。 発表者以外は、事前に配布された原稿を読み、添削しておく。	60
第9回	四年生卒論発表②③	
	発表者は、十分に事前準備を行い、原稿を用意する。 発表者以外は、事前に配布された原稿を読み、添削しておく。	60

第10回	四年生卒論発表④⑤	
	発表者は、十分に事前準備を行い、原稿を用意する。 発表者以外は、事前に配布された原稿を読み、添削しておく。	60
第11回	四年生卒論発表⑥⑦	
	発表者は、十分に事前準備を行い、原稿を用意する。 発表者以外は、事前に配布された原稿を読み、添削しておく。	60
第12回	四年生卒論発表⑧⑨	
	発表者は、十分に事前準備を行い、原稿を用意する。 発表者以外は、事前に配布された原稿を読み、添削しておく。	60
第13回	三年生卒論構想発表①②③	
	発表者は、十分に事前準備を行い、その場で出た意見を踏まえながら、卒業論文の執筆に着手する。	60
第14回	三年生卒論構想発表④⑤⑥	
	発表者は、十分に事前準備を行い、その場で出た意見を踏まえながら、卒業論文の執筆に着手する。	60
第15回	三年生卒論構想発表⑦⑧	
	発表者は、十分に事前準備を行い、その場で出た意見を踏まえながら、卒業論文の執筆に着手する。	60

授業の方法

受講者が発表し、参加者全員で質疑応答を行う演習形式とする。
発表者は、十分に事前準備を行い、わかりやすくレジュメにまとめること。発表後のディスカッションに積極的に加わることができるよう、発表者以外もテキストを事前に読み、質問事項等を各自で整理しておく（毎回予習をしてきたかを確認する小テストを行う）。
黄表紙を読むのと並行して、卒業論文完成に向けて準備を行い、それに関する発表や課題もこなしてもらう。四年生は執筆した卒業論文の原稿を事前に配布し、他の履修者はそれを読み、各自添削した上で授業に臨む。

成績評価の方法

発表40%、発表に対する発言等、授業への参加具合・小テスト30%、課題レポート30%による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 近世文学研究に必要とされる専門的な知識や文献調査の方法を習得できたか。
- ・ 自分の力で作品の論点を見つけ、分析する力を養えたか。
- ・ ディスカッションを通じて他者と意見を交換し、その成果を自分の研究に反映することができるか。
- ・ 卒業論文を書くにあたって必要となる構成力や文章力が身についたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『新編日本古典文学全集79 黄表紙・川柳・狂歌』棚橋正博・鈴木勝忠・宇田敏彦注解、小学館、1999年、5030円

参考書

授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本文学演習Ⅰ f		
教員名	林 廣親		
科目ナンバー	1151421207	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
テーマは〈近代文学の名作を知る〉。3年生にはあらかじめこちらでリストアップした近現代の中短編小説（含詩・戯曲）の中から担当作品を選択してもらふ。作品を自分なりに読み解き、また論じ合う中で名作の名作たるゆえんが分かるような力を培いたい。なおリストには見当たらない作品を取り上げたい場合は相談に応じる。 4年生は各自の卒業論文テーマに関連した作品について発表する。 以上、コンセプトは演習gと同じだが、各発表者の作品選択によりそれぞれの演習の具体的な内容はおのずと全く別のものになる。毎回取り上げられる作品については、必ず〈初読メモ〉（あるいは〈自問自答メモ〉）を書いてくることが最低限の義務である。			
到達目標			
〈日本文学科〉DP6～8実現のため、次の4点を到達目標とする。 ① 作品を〈読む〉とはどういうことかを理解している。 ② 作品論の方法やセンスが身についている。 ③ さまざまなジャンルの作品を読みこなす文学的感性を備えている。 ④ 作品の読解を楽しみ、その感動を他の人と共有することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス。 スケジュール確認他		
	【予習】シラバスをよく読んで演習の進め方を理解しておく。		60
第2回	4年生による発表とそれをめぐる論議		
	【予習】指定された作品を読む。渡された資料をよく読んで内容を理解する。初読メモ（200字）を用意する。 【復習】学修したものを省みる。		60
第3回	4年生による発表とそれをめぐる論議		
	【予習】指定された作品を読む。 【復習】学修したものを省みる。		60

第4回	4年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書いて持参する。 【復習】講義から学修したものと比較して予習内容を省みる	90
第5回	4年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第6回	4年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第7回	4年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第8回	4年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第9回	共同研究	
	【予習】指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90

第10回	共同研究	
	【予習】 指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】 演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	9 0
第11回	3 年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】 指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】 演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	9 0
第12回	3 年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】 指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】 演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	9 0
第13回	3 年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】 指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】 演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	9 0
第14回	3 年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】 指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】 演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	9 0
第15回	総括	
	【予習】 それぞれなりに評価点反省点を願みて授業に臨む。	6 0

授業の方法 原則として1回1作品を取り上げ、担当者が準備した資料と口頭発表の後に質問や賛否の意見をメンバー全員で出し合い、最終的に作品のテーマやモチーフおよび評価に関する共通理解を導く。 毎回司会とコメンテーターを用意する。司会は次回発表者、コメンテーターは3年生が2名ずつ務める。 全員毎回〈初読メモ〉（あるいは〈自問自答メモ〉）を司会者に提出すること。また機会を設けて卒論の中間報告他の共同研究を行う。 なお4年生の事情によっては予定が動くこともありうる。 また発表が水準に達していない場合は再発表を要求されることもありうる。
成績評価の方法 総合評価。平常点（授業への参加状況）50%、発表内容30%、〈初読メモ〉あるいは〈自問自答メモ〉、レポート20%の。受講者各自の発言はカウントし評価材料とする。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. ・ 作品を〈読む〉とはどういうことかを理解しているか ・ 作品論の方法やセンスが身についているか ・ さまざまなジャンルを問わない読みの感性を培えたか。 ・ 作品の読解を楽しみ、その感動を他の人と共有することができるか。
必要な予備知識／先修科目／関連科目 【関連科目】比較文学、および近代文学関係の講義
テキスト 適宜指示、あるいは配布する。
参考書 特になし
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知する。

科目名	日本文学演習II f		
教員名	林 廣親		
科目ナンバー	1151421208	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テーマは〈近代文学の名作を知る〉で 前期 I f に同じ。後期は3年生による発表が主軸となる。あらかじめこちらでリストアップした中から選んだ作品と取り組み、研究の手順を身につけながら自分なりの読み解きと立論の力を培いたい。 後期もコンセプトは日本文学演習II gと同じだが、各発表者の作品選択によりゼミそれぞれの内容はおのずと全く別のものになる。 なおリストには見当たらない作品を取り上げたい場合は相談に応じる。 4年生の卒論中間発表共同研究の機会も設けていきたい。 毎回取り上げられる作品については、全員〈初読メモ〉（あるいは〈自問自答メモ〉）を書いてくること。			
到達目標			
〈日本文学科〉DP 6～8実現のため、次の4点を到達目標とする。 ① 作品を〈読む〉とはどういうことかを理解している。 ② 作品論の方法やセンスが身についている。 ③ さまざまなジャンルの作品を読みこなす文学的感性を備えている。 ④ 作品の読解を楽しみ、その感動を他の人と共有することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	3年生による発表とそれをめぐる論議		
	【予習】前期の反省点を考えてくる。【復習】学修したものを省みる。		60
第2回	3年生による発表とそれをめぐる論議		
	【予習】指定された作品を読む。初読メモを書く。 【復習】学修したものを省みる。		90
第3回	3年生による発表とそれをめぐる論議		
	【予習】指定された作品を読む。初読メモを書く。 【復習】学修したものを省みる。		90

第4回	3年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書く。 【復習】学修したものを省みる	90
第5回	共同研究	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書く。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第6回	共同研究	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書く。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第7回	3年生による二巡目の発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書く。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第8回	3年生による二巡目の発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書く。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第9回	3年生による二巡目の発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書く。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90

第10回	3年生による二巡目の発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書く。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第11回	3年生による二巡目の発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書く。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第12回	3年生による二巡目の発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書いて持参する。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第13回	3年生による二巡目の発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書いて持参する。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第14回	3年生による二巡目の発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書いて持参する。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第15回	総括	
	【予習】それぞれなりに後期の評価点反省点を顧みて授業に臨む。	60

授業の方法

原則として1回1作品を取り上げ、担当者が準備した資料と口頭発表の後に質問や賛否の意見をメンバー全員で出し合い、最終的に作品のテーマやモチーフおよび評価に関する共通理解を導く。

毎回司会とコメンテーターを用意する。司会は次回発表者、コメンテーターは3年生が2名ずつ務める。

水準に達しない発表は再発表を要求されることもありうる。

成績評価の方法

総合評価。平常点（授業への参加状況）50%、発表内容30%、〈初読メモ〉（あるいは〈自問自答メモ〉）、レポート等20%。受講者各自の発言はカウントし評価材料とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ・ 作品を〈読む〉とはどういうことかを理解しているか
- ・ 作品論の方法やセンスが身についているか
- ・ さまざまなジャンルを問わない読みの感性を培えたか。
- ・ 作品の読解を楽しみ、その感動を他の人と共有することができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

【関連科目】比較文学、および近代文学関係の講義

テキスト

適宜指示、あるいは配布する

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本文学演習Ⅰ g		
教員名	林 廣親		
科目ナンバー	1151421207	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
テーマは〈近代文学の名作を知る〉。3年生にはあらかじめこちらでリストアップした近現代の中短編小説（含詩・戯曲）の中から担当作品を選択してもらおう。作品を自分なりに読み解き、また論じ合う中で名作の名作たるゆえんが分かるような力を培いたい。なおリストには見当たらない作品を取り上げたい場合は相談に応じる。 4年生は各自の卒業論文テーマに関連した作品について発表する。 以上、コンセプトは演習fと同じだが、各発表者の作品選択によりそれぞれの演習の具体的な内容はおのずと全く別のものになる。毎回取り上げられる作品については、必ず〈初読メモ〉（あるいは〈自問自答メモ〉）を書いてくることが最低限の義務である。			
到達目標			
〈日本文学科〉DP6～8実現のため、次の4点を到達目標とする。 ① 作品を〈読む〉とはどういうことかを理解している。 ② 作品論の方法やセンスが身についている。 ③ さまざまなジャンルの作品を読みこなす文学的感性を備えている。 ④ 作品の読解を楽しみ、その感動を他の人と共有することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス。 スケジュール確認他		
	【予習】シラバスをよく読んで演習の進め方を理解しておく。		60
第2回	4年生による発表とそれをめぐる論議		
	【予習】指定された作品を読む。渡された資料をよく読んで内容を理解する。初読メモ（200字）を用意する。 【復習】学修したものを省みる。		60
第3回	4年生による発表とそれをめぐる論議		
	【予習】指定された作品を読む。 【復習】学修したものを省みる。		60

第4回	4年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書いて持参する。 【復習】講義から学修したものと比較して予習内容を省みる	90
第5回	4年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第6回	4年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第7回	4年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第8回	4年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第9回	4年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90

第10回	共同研究	
	【予習】 指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】 演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第11回	共同研究	
	【予習】 指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】 演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第12回	3年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】 指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】 演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第13回	3年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】 指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】 演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第14回	3年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】 指定された作品を読み、初読めもを書いて持参する。 【復習】 演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第15回	総括	
	【予習】 それぞれなりに評価点反省点を顧みて授業に臨む。	60

授業の方法 原則として1回1作品を取り上げ、担当者が準備した資料と口頭発表の後に質問や賛否の意見をメンバー全員で出し合い、最終的に作品のテーマやモチーフおよび評価に関する共通理解を導く。 毎回司会とコメンテーターを用意する。司会は次回発表者、コメンテーターは3年生が2名ずつ務める。 全員毎回〈初読メモ〉（あるいは〈自問自答メモ〉）を司会者に提出すること。また機会を設けて卒論の中間報告他の共同研究を行う。 なお4年生の事情によっては予定が動くこともありうる。 また発表が水準に達していない場合は再発表を要求されることもありうる。
成績評価の方法 総合評価。平常点（授業への参加状況）50%、発表内容30%、〈初読メモ〉あるいは〈自問自答メモ〉、レポート20%の。受講者各自の発言はカウントし評価材料とする。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. ・ 作品を〈読む〉とはどういうことかを理解しているか ・ 作品論の方法やセンスが身についているか ・ さまざまなジャンルを問わない読みの感性を培えたか。 ・ 作品の読解を楽しみ、その感動を他の人と共有することができるか。
必要な予備知識／先修科目／関連科目 【関連科目】比較文学、および近代文学関係の講義
テキスト 適宜指示、あるいは配布する。
参考書 特になし
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知する。

科目名	日本文学演習II g		
教員名	林 廣親		
科目ナンバー	1151421208	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

テーマは〈近代文学の名作を知る〉で 前期 I g に同じ。後期は3年生による発表が主軸となる。あらかじめこちらでリスタアップした中から選んだ作品と取り組み、研究の手順を身につけながら自分なりの読み解きと立論の力を培いたい。後期もコンセプトは日本文学演習 II f と同じだが、各発表者の作品選択によりゼミそれぞれの内容はおのずと全く別のものになる。なおリストには見当たらない作品を取り上げたい場合は相談に応じる。4年生の卒論中間発表共同研究の機会も設けていきたい。毎回取り上げられる作品については、全員〈初読メモ〉（あるいは〈自問自答メモ〉）を書いてくること。

到達目標

- 〈日本文学科〉DP 6～8実現のため、次の4点を到達目標とする。
- ① 作品を〈読む〉とはどういうことかを理解している。
 - ② 作品論の方法やセンスが身についている。
 - ③ さまざまなジャンルの作品を読みこなす文学的感性を備えている。
 - ④ 作品の読解を楽しみ、その感動を他の人と共有することができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	3年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】前期の反省点を考えてくる。【復習】学修したものを省みる。	60
第2回	3年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読む。初読メモを書く。 【復習】学修したものを省みる。	90
第3回	3年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読む。初読メモを書く。 【復習】学修したものを省みる。	90

第4回	3年生による発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書く。 【復習】学修したものを省みる	90
第5回	共同研究	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書く。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第6回	共同研究	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書く。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第7回	3年生による二巡目の発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書く。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第8回	3年生による二巡目の発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書く。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第9回	3年生による二巡目の発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書く。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90

第10回	3年生による二巡目の発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書く。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第11回	3年生による二巡目の発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書く。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第12回	3年生による二巡目の発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書いて持参する。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第13回	3年生による二巡目の発表とそれをめぐる論議	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書いて持参する。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第14回	共同研究	
	【予習】指定された作品を読み、初読メモを書いて持参する。 【復習】演習を通じて学修したものと比較して自らの読解力の問題点を省みる。	90
第15回	総括	
	【予習】それぞれなりに後期の評価点反省点を顧みて授業に臨む。	60

授業の方法 原則として1回1作品を取り上げ、担当者が準備した資料と口頭発表の後に質問や賛否の意見をメンバー全員で出し合い、最終的に作品のテーマやモチーフおよび評価に関する共通理解を導く。 毎回司会とコメンテーターを用意する。司会は次回発表者、コメンテーターは3年生が2名ずつ務める。 水準に達しない発表は再発表を要求されることもありうる。
成績評価の方法 総合評価。平常点（授業への参加状況）50%、発表内容30%、〈初読メモ〉（あるいは〈自問自答メモ〉）、レポート等20%。 受講者各自の発言はカウントし評価材料とする。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. ・ 作品を〈読む〉とはどういうことかを理解しているか ・ 作品論の方法やセンスが身についているか ・ さまざまなジャンルを問わない読みの感性を培えたか。 ・ 作品の読解を楽しみ、その感動を他の人と共有することができるか。
必要な予備知識／先修科目／関連科目 【関連科目】比較文学、および近代文学関係の講義
テキスト 適宜指示、あるいは配布する
参考書 特になし
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知する。

科目名	日本文学演習Ⅰ h		
教員名	浜田 雄介		
科目ナンバー	1151421207	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
4年生には、各自の卒業論文を視野に入れた発表をしてもらう。テーマは多岐にわたると予想されるが、3年生も含め、参加者は事前の告知により予習して演習に臨むことになるので、短編小説などを取り上げることが望ましい。3年生には、第二次大戦の敗戦、他国による「占領」という時代を背景として生まれた作品をとりあえて発表してもらう。今の社会がダイナミックに作られてゆく時代に、文学はどのように向き合ったのか。ある時代の作品たちと対話することは、私たち自身を見直すことに繋がるであろう。			
到達目標			
D P 2（課題の発見と解決）、3（他者との協働）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発進力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①日本の近代文学を対象として、自ら問題やテーマを設定し、その解決のために資料を調査し、テキストを読み込む。 ②調査分析に基づく考察をまとめ、レジュメ等を作成して輪番で発表し、レポートなどにまとめる。 ③参加者との討論を通して多様な読みを知り、文化や世界に対する想像力を養いつつ、自らの思索を深める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 卒論中間発表資料の配付および後記担当作品と順序の調整		
	4年生は、自らの卒業論文の一部（目次と本文2000字以上）を参加人数分用意する。3年生はテキストを読み、担当作品の候補を決めておく。		*
第2回	発表と討議 1		
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。		*
第3回	発表と討議 2		
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。		*

第4回	発表と討議 3	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第5回	発表と討議 4	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第6回	発表と討議 5	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第7回	発表と討議 6	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第8回	発表と討議 7	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第9回	発表と討議 8	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*

第10回	発表と討議9	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第11回	発表と討議10	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第12回	発表と討議11	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第13回	発表と討議12	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第14回	発表と討議 13	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第15回	反省会	
	半期に学んだことを振り返る。	*

授業の方法

輪番形式で発表し、討議を行う。必要に応じ、授業時間を超えて討議や指導を行うことがある。
*準備学修については、自らが発表者である回は一ヶ月ほど前から準備を始め、900分程度を目安としてレジュメを作成する。発表者でない回は、60分程度を目安としてテキストを読了し、初読メモを担当教員に送る。

成績評価の方法

第1に発表内容。これは、レジュメの充実度やプレゼンテーションの工夫も含む。第2に演習への参加度。出席は重視するが、テキスト未読の場合、出席とはみなさない。4年生はこの両者をそれぞれ50%の割り振りで総合評価する。3年生はこれに加えて8000字の期末レポート。3者をそれぞれ30～35%程度の割り振りで総合評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
①日本の近代文学を対象として、自ら問題やテーマを設定し、その解決のために資料を調査し、テキストを読み込んだか。
②調査分析に基づく考察をまとめ、レジュメ等を作成して輪番で発表し、レポートなどにまとめたか。
③参加者との討論を通して多様な読みを知り、文化や世界に対する想像力を養いつつ、自らの思索を深めたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

あらゆる学問はたがいに関連しあっている。

テキスト

『日本文学100年の名作第4巻1944-1953 木の都』新潮文庫、池内 紀、松田 哲夫、川本 三郎編。

参考書

適宜授業中に指示する。学生諸君からの教示も歓迎する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本文学演習II h		
教員名	浜田 雄介		
科目ナンバー	1151421208	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
高度経済成長が始まり、64年のオリンピックに向かう、という時代を背景として生まれた作品を読む。今の社会がダイナミックに作られてゆく時代に、文学はどのように向き合ったのか。ある時代の作品たちと対話することは、私たち自身を見直すことに繋がるであろう。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、3（他者との協働）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発進力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①日本の近代文学を対象として、自ら問題やテーマを設定し、その解決のために資料を調査し、テキストを読み込む。 ②調査分析に基づく考察をまとめ、レジュメ等を作成して輪番で発表し、レポートなどにまとめる。 ③参加者との討論を通して多様な読みを知り、文化や世界に対する想像力を養いつつ、自らの思索を深める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 卒論中間発表資料の配付および後記担当作品と順序の調整		
	4年生は、自らの卒業論文の一部（目次と本文2000字以上）を参加人数分用意する。3年生はテキストを読み、担当作品の候補を決めておく。		*
第2回	卒業論文中間発表1		
	資料をもとに、質疑の準備をする。		*
第3回	卒業論文中間発表2		
	資料をもとに、質疑の準備をする。		*

第4回	卒業論文中間発表 3	
	資料をもとに、質疑の準備をする。	*
第5回	発表と討議 1	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第6回	発表と討議 2	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第7回	発表と討議 3	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第8回	発表と討議 4	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第9回	発表と討議 5	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*

第10回	発表と討議 6	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第11回	発表と討議 7	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第12回	発表と討議 8	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第13回	発表と討議 9	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第14回	発表と討議 10	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第15回	反省会	
	半期に学んだことを振り返る。	*

授業の方法

輪番形式で発表し、討議を行う。必要に応じ、授業時間を超えて討議や指導を行うことがある。
*準備学修については、自らが発表者である回は一ヶ月ほど前から準備を始め、900分程度を目安としてレジュメを作成する。発表者でない回は、60分程度を目安としてテキストを読了し、初読メモを担当教員に送る。

成績評価の方法

第1に発表内容。これは、レジュメの充実度やプレゼンテーションの工夫も含む。第2に演習への参加度。出席は重視するが、テキスト未読の場合、出席とはみなさない。第3に、期末試験。これらをそれぞれ30～35%程度の割り振りで、いずれも総合評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
①日本の近代文学を対象として、自ら問題やテーマを設定し、その解決のために資料を調査し、テキストを読み込んだか。
②調査分析に基づく考察をまとめ、レジュメ等を作成して輪番で発表したか。
③参加者との討論を通して多様な読みを知り、文化や世界に対する想像力を養いつつ、自らの思索を深めたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

あらゆる学問はたがいに関連しあっている。

テキスト

『日本文学100年の名作第5巻1954-1963 百万円煎餅』新潮文庫、池内 紀、松田 哲夫、川本 三郎編。

参考書

適宜授業中に指示する。学生諸君からの教示も歓迎する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本文学演習Ⅰ i		
教員名	浜田 雄介		
科目ナンバー	1151421207	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
4年生には、各自の卒業論文を視野に入れた発表をしてもらう。テーマは多岐にわたると予想されるが、3年生も含め、参加者は事前の告知により予習して演習に臨むことになるので、短編小説などを取り上げることが望ましい。3年生には、第二次大戦の敗戦、他国による「占領」という時代を背景として生まれた作品をとりあげて発表してもらう。今の社会がダイナミックに作られてゆく時代に、文学はどのように向き合ったのか。ある時代の作品たちと対話することは、私たち自身を見直すことに繋がるであろう。			
到達目標			
D P 2（課題の発見と解決）、3（他者との協働）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発進力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①日本の近代文学を対象として、自ら問題やテーマを設定し、その解決のために資料を調査し、テキストを読み込む。 ②調査分析に基づく考察をまとめ、レジュメ等を作成して輪番で発表し、レポートなどにまとめる。 ③参加者との討論を通して多様な読みを知り、文化や世界に対する想像力を養いつつ、自らの思索を深める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 卒論中間発表資料の配付および後記担当作品と順序の調整		
	4年生は、自らの卒業論文の一部（目次と本文2000字以上）を参加人数分用意する。3年生はテキストを読み、担当作品の候補を決めておく。		*
第2回	発表と討議 1		
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。		*
第3回	発表と討議 2		
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。		*

第4回	発表と討議 3	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第5回	発表と討議 4	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第6回	発表と討議 5	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第7回	発表と討議 6	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第8回	発表と討議 7	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第9回	発表と討議 8	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*

第10回	発表と討議9	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第11回	発表と討議10	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第12回	発表と討議11	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第13回	発表と討議12	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第14回	発表と討議 13	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第15回	反省会	
	半期に学んだことを振り返る。	*

授業の方法

輪番形式で発表し、討議を行う。必要に応じ、授業時間を超えて討議や指導を行うことがある。
*準備学修については、自らが発表者である回は一ヶ月ほど前から準備を始め、900分程度を目安としてレジュメを作成する。発表者でない回は、60分程度を目安としてテキストを読了し、初読メモを担当教員に送る。

成績評価の方法

第1に発表内容。これは、レジュメの充実度やプレゼンテーションの工夫も含む。第2に演習への参加度。出席は重視するが、テキスト未読の場合、出席とはみなさない。4年生はこの両者をそれぞれ50%の割り振りで総合評価する。3年生はこれに加えて8000字の期末レポート。3者をそれぞれ30～35%程度の割り振りで総合評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
①日本の近代文学を対象として、自ら問題やテーマを設定し、その解決のために資料を調査し、テキストを読み込んだか。
②調査分析に基づく考察をまとめ、レジュメ等を作成して輪番で発表し、レポートなどにまとめたか。
③参加者との討論を通して多様な読みを知り、文化や世界に対する想像力を養いつつ、自らの思索を深めたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

あらゆる学問はたがいに関連しあっている。

テキスト

『日本文学100年の名作第4巻1944-1953 木の都』新潮文庫、池内 紀、松田 哲夫、川本 三郎編。

参考書

適宜授業中に指示する。学生諸君からの教示も歓迎する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本文学演習II i		
教員名	浜田 雄介		
科目ナンバー	1151421208	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
高度経済成長が始まり、64年のオリンピックに向かう、という時代を背景として生まれた作品を読む。今の社会がダイナミックに作られてゆく時代に、文学はどのように向き合ったのか。ある時代の作品たちと対話することは、私たち自身を見直すことに繋がるであろう。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、3（他者との協働）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発進力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①日本の近代文学を対象として、自ら問題やテーマを設定し、その解決のために資料を調査し、テキストを読み込む。 ②調査分析に基づく考察をまとめ、レジュメ等を作成して輪番で発表し、レポートなどにまとめる。 ③参加者との討論を通して多様な読みを知り、文化や世界に対する想像力を養いつつ、自らの思索を深める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 卒論中間発表資料の配付および後記担当作品と順序の調整		
	4年生は、自らの卒業論文の一部（目次と本文2000字以上）を参加人数分用意する。3年生はテキストを読み、担当作品の候補を決めておく。		*
第2回	卒業論文中間発表1		
	資料をもとに、質疑の準備をする。		*
第3回	卒業論文中間発表2		
	資料をもとに、質疑の準備をする。		*

第4回	卒業論文中間発表 3	
	資料をもとに、質疑の準備をする。	*
第5回	発表と討議 1	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第6回	発表と討議 2	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第7回	発表と討議 3	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第8回	発表と討議 4	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第9回	発表と討議 5	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*

第10回	発表と討議 6	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第11回	発表と討議 7	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第12回	発表と討議 8	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第13回	発表と討議 9	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第14回	発表と討議 10	
	テキストを読み、調査を行い、初読メモを送る。発表者はレジュメを作成する。	*
第15回	反省会	
	半期に学んだことを振り返る。	*

授業の方法

輪番形式で発表し、討議を行う。必要に応じ、授業時間を超えて討議や指導を行うことがある。
*準備学修については、自らが発表者である回は一ヶ月ほど前から準備を始め、900分程度を目安としてレジュメを作成する。発表者でない回は、60分程度を目安としてテキストを読了し、初読メモを担当教員に送る。

成績評価の方法

第1に発表内容。これは、レジュメの充実度やプレゼンテーションの工夫も含む。第2に演習への参加度。出席は重視するが、テキスト未読の場合、出席とはみなさない。第3に、期末試験。これらをそれぞれ30～35%程度の割り振りで、いずれも総合評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
①日本の近代文学を対象として、自ら問題やテーマを設定し、その解決のために資料を調査し、テキストを読み込んだか。
②調査分析に基づく考察をまとめ、レジュメ等を作成して輪番で発表したか。
③参加者との討論を通して多様な読みを知り、文化や世界に対する想像力を養いつつ、自らの思索を深めたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

あらゆる学問はたがいに関連しあっている。

テキスト

『日本文学100年の名作第5巻1954-1963 百万円煎餅』新潮文庫、池内 紀、松田 哲夫、川本 三郎編。

参考書

適宜授業中に指示する。学生諸君からの教示も歓迎する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本語学演習Ⅰ a		
教員名	常盤 智子		
科目ナンバー	1151421211	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
日本語の実態・変化に関する問題点を追及する。前半は、四年生が、卒業論文に関わる内容の発表を行う。後半は、三年生が、現在関心を持っている、音韻、文字・表記、文法、敬語、語彙・意味等の問題について、資料を調査し、考察して発表する。			
到達目標			
DP2(課題の発見と解決)、5(表現力、発信力)、6(専門分野の知識・理解)を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①的確に日本語の用例を収集、分析することができる。 ②説得力のある発表を行うことができる。 ③日本語学・日本語資料に関する基礎的な事項を理解し、説明することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス 発表者の割り当て		
	発表テーマを考える。		30
第2回	四年生の発表		
	発表準備を行う。		30
第3回	四年生の発表		
	発表準備を行う。		60

第4回	四年生の発表	
	発表準備を行う。	60
第5回	四年生の発表	
	発表準備を行う。	60
第6回	四年生の発表	
	発表準備を行う。	60
第7回	三年生の発表	
	発表準備を行う。	60
第8回	三年生の発表	
	発表準備を行う。	60
第9回	三年生の発表	
	発表準備を行う。	60

第10回	三年生の発表	
	発表準備を行う。	60
第11回	三年生の発表	
	発表準備を行う。	60
第12回	三年生の発表	
	発表準備を行う。	60
第13回	三年生の発表	
	発表準備を行う。	60
第14回	三年生の発表	
	発表準備を行う。	60
第15回	まとめ	
	発表内容の確認を行う。	60

授業の方法

演習形式

成績評価の方法

発表内容（50%）、授業中の発言や質問など授業への積極的な参加（50%）により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その到達度により評価する。
①的確に用例を収集し、分析することができる。
②説得力のある発表を行うことができる。
③日本語学・日本語資料に関する基礎的な事項を理解し、説明できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本語学演習II a		
教員名	常盤 智子		
科目ナンバー	1151421212	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
日本語の実態・変化に関する問題点を追究する。前半は、四年生が卒業論文の中間発表を行う。後半は、三年生が、卒業論文で追究しようと考えている、音韻、文字・表記、文法、敬語、語彙・意味等の問題について、資料を調査し、考察して発表する。			
到達目標			
D P 2 (課題の発見と解決)、5 (表現力、発信力)、6 (専門分野の知識・理解)を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ①的確に日本語の用例を収集し、分析することができる。 ②説得力のある発表を行うことができる。 ③日本語学・日本語資料に関する基礎的な事項を理解し、説明することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	四年生の発表		
	発表の準備		60
第2回	四年生の発表		
	発表の準備		60
第3回	四年生の発表		
	発表の準備		60

第4回	四年生の発表	
	発表の準備	60
第5回	四年生の発表	
	発表の準備	60
第6回	三年生の発表	
	発表の準備	60
第7回	三年生の発表	
	発表の準備	60
第8回	三年生の発表	
	発表の準備	60
第9回	三年生の発表	
	発表の準備	60

第10回	三年生の発表	
	発表の準備	60
第11回	三年生の発表	
	発表の準備	60
第12回	三年生の発表	
	発表の準備	60
第13回	三年生の発表	
	発表の準備	60
第14回	三年生の発表	
	発表の準備	60
第15回	まとめ	
	発表内容の確認	60

授業の方法

演習形式

成績評価の方法

発表内容（50%）、授業中の発言や質問など授業への積極的な参加（50%）により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その到達度により評価する。
①的確に日本語の用例を収集し、分析することができる。
②説得力のある発表を行うことができる。
③日本語学・日本語資料に関する基礎的な事項を理解し、分かりやすく説明することができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本語学演習Ⅰ b		
教員名	森 雄一		
科目ナンバー	1151421211	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
卒業論文執筆を意識しながら、現代日本語の分析方法を学んでいく。3年前期には、どのような研究対象・研究方法があるのか概略をつかむことを目標にする。前期のゼミ授業時間においては、テキスト①を用いて「認知言語学」「語用論」「社会言語学」の方法のそれぞれ基本を丁寧に検討する。その後テキスト②の検討にうつるが、この本は平易な記述ながらもことばについて考えることの面白さを凝縮しているといってもよい名著であり、じっくり取り組めば、ことばへの新しい視点が必ずや拓かれると思う。テキスト③④は、前期中に自分で通読してもらう（折にふれ確認テストを行う可能性あり）。①では、ポライトネス・敬語・比喩・言語変化・命名論など、②では、ことばと視点・変化の表現・形容詞の意味など、③では、位相語・役割語・敬語・ことばのゆれ・やさしい日本語など、④では、文字表記・語感・あいまい表現などが扱われており、卒業論文のテーマとなりうるもののうち、かなりの部分はカバーできると思う。			
到達目標			
DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・日本語学の基礎知識を確実に把握しているとともに最新動向を理解している。 ・独力で自分の関心のある言語現象が分析できる。 ・他者に向けてわかりやすく分析した内容を述べることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション		
	シラバスを読み、授業の流れを理解しておく。		10
第2回	テキスト①第1章、第2章の講読と討論		
	テキストを読み、内容を理解しておく。		60
第3回	テキスト①第3章、第4章の講読と討論		
	テキストを読み、内容を理解しておく。		60

第4回	テキスト①第5章、第6章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第5回	テキスト①第7章、第8章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第6回	テキスト①第9章、第10章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第7回	テキスト①第11章、第12章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第8回	テキスト①第13章、第14章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第9回	テキスト①第15章、テキスト②第1章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60

第10回	テキスト②第2章～第5章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第11回	テキスト②第6章～第9章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第12回	テキスト②第10章～第13章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第13回	テキスト②第14章～第17章の講読と討論テキスト	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第14回	テキスト②第18章～第21章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第15回	まとめ	
	テキストを読み、内容を理解しておく。 テキスト全体を復習しておく。	120

授業の方法

演習形式

成績評価の方法

出席・予習状況が良好であることが単位取得の前提である。発言など授業への参加度（30％）、発表・コメントの質（70％）により成績評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・日本語学、認知言語学、語用論の基本的知識が十分身についているか。
- ・日本語の言語現象の分析が独力でできるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目

「日本語研究の基礎」「日本語法」「日本語学講義」「日本語・日本文学のためのコンピュータ」

テキスト

- ①『新しい言語学』（滝浦真人編・放送大学教育振興会）
- ②『知覚と行為の認知言語学』（本多啓著・開拓社）
- ③『ケーススタディ 日本語のパラエティ』（上野智子他編・おうふう）
- ④『ケーススタディ 日本語の表現』（多門靖容他編・おうふう）

参考書

授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本語学演習II b		
教員名	森 雄一		
科目ナンバー	1151421212	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
卒業論文執筆を意識しながら、現代日本語の分析方法を学んでいく。後期には、3年生に各自の問題設定をもとに発表してもらい、受講生皆で討論を行う。 なお、語彙力の増強と現代日本語学の基礎知識の確認をウォーミングアップとして行うこともある。			
到達目標			
DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・日本語学の基礎知識を確実に把握しているとともに最新動向を理解している。 ・独力で自分の関心のある言語現象が分析できる。 ・他者に向けてわかりやすく分析した内容を述べることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	シラバスを読み、授業の流れを理解する。	10	
第2回	受講生の発表とそれをもとにした討論		
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持つておく。	60	
第3回	受講生の発表とそれをもとにした討論		
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持つておく。	60	

第4回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持っておく。	60
第5回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持っておく。	60
第6回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持っておく。	60
第7回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持っておく。	60
第8回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持っておく。	60
第9回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持っておく。	60

第10回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持っておく。	60
第11回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持っておく。	60
第12回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持っておく。	60
第13回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持っておく。	60
第14回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持っておく。	60
第15回	授業のまとめ	
	今学期の授業内容全体を復習する。	60

授業の方法

演習形式

成績評価の方法

出席状況が良好であることが単位取得の前提である。発言など授業への参加度（20％）、発表・コメントの質（80％）により成績評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・日本語学の最新の研究知識が身についているか。
- ・自分で調査した内容を的確に発表できるか。
- ・他の受講生の発表を聞き適切なコメントができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目

「日本語研究の基礎」「日本語法」「日本語学講義」「日本語・日本文学のためのコンピュータ」

テキスト

- ①『新しい言語学』（滝浦真人編・放送大学教育振興会）
- ②『知覚と行為の認知言語学』（本多啓著・開拓社）
- ③『ケーススタディ 日本語のパラエティ』（上野智子他編・おうふう）
- ④『ケーススタディ 日本語の表現』（多門靖容他編・おうふう）

参考書

授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本語学演習 I c		
教員名	森 雄一		
科目ナンバー	1151421211	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
卒業論文執筆を意識しながら、現代日本語の分析方法を学んでいく。3年前期には、どのような研究対象・研究方法があるのか概略をつかむことを目標にする。前期のゼミ授業時間においては、テキスト①を用いて「認知言語学」「語用論」「社会言語学」の方法のそれぞれ基本を丁寧に検討する。その後テキスト②の検討にうつるが、この本は平易な記述ながらもことばについて考えることの面白さを凝縮しているといってもよい名著であり、じっくり取り組めば、ことばへの新しい視点が必ずや拓かれると思う。テキスト③④は、前期中に自分で通読してもらう（折にふれ確認テストを行う可能性あり）。①では、ポライトネス・敬語・比喻・言語変化・命名論など、②では、ことばと視点・変化の表現・形容詞の意味など、③では、位相語・役割語・敬語・ことばのゆれ・やさしい日本語など、④では、文字表記・語感・あいまい表現などが扱われており、卒業論文のテーマとなりうるもののうち、かなりの部分はカバーできると思う。			
到達目標			
DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・日本語学の基礎知識を確実に把握しているとともに最新動向を理解している。 ・独力で自分の関心のある言語現象が分析できる。 ・他者に向けてわかりやすく分析した内容を述べることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション		
	シラバスを読み、授業の流れを理解しておく。	10	
第2回	テキスト①第1章、第2章の講読と討論		
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60	
第3回	テキスト①第3章、第4章の講読と討論		
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60	

第4回	テキスト①第5章、第6章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第5回	テキスト①第7章、第8章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第6回	テキスト①第9章、第10章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第7回	テキスト①第11章、第12章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第8回	テキスト①第13章、第14章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第9回	テキスト①第15章、テキスト②第1章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60

第10回	テキスト②第2章～第5章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第11回	テキスト②第6章～第9章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第12回	テキスト②第10章～第13章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第13回	テキスト②第14章～第17章の講読と討論テキスト	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第14回	テキスト②第18章～第21章の講読と討論	
	テキストを読み、内容を理解しておく。	60
第15回	まとめ	
	テキストを読み、内容を理解しておく。 テキスト全体を復習しておく。	120

授業の方法

演習形式

成績評価の方法

出席・予習状況が良好であることが単位取得の前提である。発言など授業への参加度（30％）、発表・コメントの質（70％）により成績評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・日本語学、認知言語学、語用論の基本的知識が十分身についているか。
- ・日本語の言語現象の分析が独力でできるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目

「日本語研究の基礎」「日本語法」「日本語学講義」「日本語・日本文学のためのコンピュータ」

テキスト

- ①『新しい言語学』（滝浦真人編・放送大学教育振興会）
- ②『知覚と行為の認知言語学』（本多啓著・開拓社）
- ③『ケーススタディ 日本語のパラエティ』（上野智子他編・おうふう）
- ④『ケーススタディ 日本語の表現』（多門靖容他編・おうふう）

参考書

授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本語学演習II c		
教員名	森 雄一		
科目ナンバー	1151421212	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
卒業論文執筆を意識しながら、現代日本語の分析方法を学んでいく。後期には、3年生に各自の問題設定をもとに発表してもらい、受講生皆で討論を行う。 なお、語彙力の増強と現代日本語学の基礎知識の確認をウォーミングアップとして行うこともある。			
到達目標			
DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・日本語学の基礎知識を確実に把握しているとともに最新動向を理解している。 ・独力で自分の関心のある言語現象が分析できる。 ・他者に向けてわかりやすく分析した内容を述べることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	シラバスを読み、授業の流れを理解する。	10	
第2回	受講生の発表とそれをもとにした討論		
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持つておく。	60	
第3回	受講生の発表とそれをもとにした討論		
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持つておく。	60	

第4回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持っておく。	60
第5回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持っておく。	60
第6回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持っておく。	60
第7回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持っておく。	60
第8回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持っておく。	60
第9回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持っておく。	60

第10回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持つておく。	60
第11回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持つておく。	60
第12回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持つておく。	60
第13回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持つておく。	60
第14回	受講生の発表とそれをもとにした討論	
	テキスト中の発表内容に関わる部分を読み直し、自分なりの問題意識を持つておく。	60
第15回	授業のまとめ	
	今学期の授業内容全体を復習する。	60

授業の方法

演習形式

成績評価の方法

出席状況が良好であることが単位取得の前提である。発言など授業への参加度（２０％）、発表・コメントの質（８０％）により成績評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・日本語学の最新の研究知識が身についているか。
- ・自分で調査した内容を的確に発表できるか。
- ・他の受講生の発表を聞き適切なコメントができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目

「日本語研究の基礎」「日本語法」「日本語学講義」「日本語・日本文学のためのコンピュータ」

テキスト

- ①『新しい言語学』（滝浦真人編・放送大学教育振興会）
- ②『知覚と行為の認知言語学』（本多啓著・開拓社）
- ③『ケーススタディ 日本語のパラエティ』（上野智子他編・おうふう）
- ④『ケーススタディ 日本語の表現』（多門靖容他編・おうふう）

参考書

授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	古代日本文学史 A		
教員名	吉田 幹生		
科目ナンバー	1251425101	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
古代日本文学の展開を、具体的な作品に即しながら講義する。前期は、韻文作品を対象とする。			
到達目標			
DP 6（文化現象の総合的理解）を実現するために、次の2点を到達目標とする。 ①古代日本文学（韻文作品）の展開について、その具体的な変遷過程が説明できる。 ②個別の作品についても、自分の力でそれを鑑賞し、史的に位置づけることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	古代文学史概説		
	古代日本文学とは何か、それはどのように展開していったのか、という点について、概要を理解する。	60	
第2回	古代歌謡		
	大学図書館にある概説書などを利用して、古代歌謡の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60	
第3回	万葉集の世界		
	大学図書館にある概説書などを利用して、『万葉集』の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60	

第4回	柿本人麻呂	
	大学図書館にある概説書などを利用して、柿本人麻呂の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第5回	山上憶良	
	大学図書館にある概説書などを利用して、山上憶良の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第6回	大伴家持	
	大学図書館にある概説書などを利用して、大伴家持の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第7回	懷風藻から勅撰三漢詩文集へ	
	大学図書館にある概説書などを利用して、古代前期の漢詩文の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第8回	菅原道真	
	大学図書館にある概説書などを利用して、菅原道真の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第9回	古今和歌集の世界	
	大学図書館にある概説書などを利用して、古今和歌集の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60

第10回	紀貫之	
	大学図書館にある概説書などを利用して、紀貫之の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第11回	平安和歌の展開	
	大学図書館にある概説書などを利用して、平安和歌の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第12回	和泉式部	
	大学図書館にある概説書などを利用して、和泉式部の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第13回	院政期の和歌	
	大学図書館にある概説書などを利用して、院政期の和歌の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第14回	藤原俊成	
	大学図書館にある概説書などを利用して、藤原俊成の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第15回	まとめ	
	前期の授業を振り返り、自分なりに古代日本文学史の展開が説明できるか、など到達目標と自分の理解度を比較して、不足している知識等を学修する。	90

授業の方法

講義形式による。

成績評価の方法

学期中に課す課題（４０％）及び学期末試験（６０％）を中心とした総合評価。
ただし、私語は授業妨害と見なして「不合格」とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。
初心者を念頭に置いて講義をするので特別な知識は必要ないが、中学校レベルの日本史の知識や文学作品の名前は既知っているものとして話をする。

テキスト

プリントを配布する。

参考書

初めて古代日本文学を学ぶ人向けの入門書などはその都度紹介する。
なお、研究書などより高度な「参考書」を知りたい人は、直接質問してほしい。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	古代日本文学史B		
教員名	吉田 幹生		
科目ナンバー	1251425102	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
古代日本文学の展開を、具体的な作品に即しながら講義する。後期は、散文作品を対象とする。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）を実現するために、次の2点を到達目標とする。 ①古代日本文学（散文作品）の展開について、その具体的な変遷過程が説明できる。 ②個別の作品についても、自分の力でそれを鑑賞し、史的に位置づけることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	古事記と日本書紀 1		
	大学図書館にある概説書などを利用して、古事記や日本書紀（特に神話世界）の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60	
第2回	古事記と日本書紀 2		
	大学図書館にある概説書などを利用して、古事記や日本書紀（特に天皇の歴史）の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60	
第3回	日本霊異記		
	大学図書館にある概説書などを利用して、日本霊異記および古代伝承の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60	

第4回	竹取物語	
	大学図書館にある概説書などを利用して、竹取物語の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第5回	伊勢物語	
	大学図書館にある概説書などを利用して、伊勢物語を中心とする歌物語の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第6回	平安朝日記文学	
	大学図書館にある概説書などを利用して、平安朝日記文学の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第7回	平安前期物語	
	大学図書館にある概説書などを利用して、落窪物語・うつほ物語の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第8回	枕草子 1	
	大学図書館にある概説書などを利用して、枕草子（特に類聚章段・随想章段）の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第9回	枕草子 2	
	大学図書館にある概説書などを利用して、枕草子（特に日記回想章段）の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60

第10回	源氏物語 1	
	大学図書館にある概説書などを利用して、源氏物語（特に第一部）の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第11回	源氏物語 2	
	大学図書館にある概説書などを利用して、源氏物語（特に第二部・第三部）の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第12回	平安後期物語	
	大学図書館にある概説書などを利用して、浜松中納言物語・夜の寝覚・狭衣物語の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第13回	歴史物語	
	大学図書館にある概説書などを利用して、栄花物語や大鏡の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第14回	今昔物語集	
	大学図書館にある概説書などを利用して、今昔物語集の特徴について自分なりに要点をまとめる。	60
第15回	まとめ	
	後期の授業を振り返り、自分なりに古代日本文学史の展開が説明できるか、など到達目標と自分の理解度を比較して、不足している知識等を学修する。	90

授業の方法

講義形式による。

成績評価の方法

学期中に課す課題（４０％）及び学期末試験（６０％）を中心とした総合評価。
ただし、私語は授業妨害と見なして「不合格」とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。
初心者を含めて講義をするので特別な知識は必要ないが、中学校レベルの日本史の知識や文学作品の名前は既知っているものとして話をする。

テキスト

プリントを配布する。

参考書

初めて古代日本文学を学ぶ人向けの入門書などはその都度紹介する。
なお、研究書などより高度な「参考書」を知りたい人は、直接質問してほしい。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	近世日本文学史 A		
教員名	牧 藍子		
科目ナンバー	1251425105	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
日本近世の文学史について講義する。 前期の授業では、近世前期の文学を中心に取り上げる。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・近世文学史の基礎的な知識を身につけ、その展開を説明できる。 ・近世の文学作品の背景となっている社会や思想などに関する理解を深める。 ・作品を原文で読解する力を養い、文体・表現上の特徴を味わう。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・授業の進め方について		
	シラバスを読んでおく。		30
第2回	仮名草子『仁勢物語』 ・『仁勢物語』を読み、近世初期のパロディの手法について考える。		
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。		60
第3回	浮世草子① ・西鶴について学び、浮世草子の第一作である『好色一代男』を読んで、その特色を把握する。		
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。		60

第4回	浮世草子② ・西鶴『世間胸算用』を読み、町人文化について理解を深める。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第5回	浮世草子③ ・其磧『世間娘気質』を読み、西鶴以後の浮世草子の展開について学ぶ。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第6回	近世の出版文化 ・木版印刷の技術等によってもたらされた、書物のあり方や文学の享受者層の変化が、近世の文芸に与えた影響について学ぶ。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第7回	近世の古典註釈 ・江戸時代に書かれた『徒然草』注釈書を比較し、近世における古典受容のあり方を考える。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第8回	俳諧① ・俳諧史の流れのつかむ。 ・連句の基本的なルールを確認する。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第9回	俳諧② ・芭蕉について学び、その作風を知る。 ・不易流行の思想について考える。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60

第10回	俳諧③ ・『おくのほそ道』を読み、芭蕉の俳文の表現を味わう。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第11回	俳諧④ ・蕪村について学び、その作風を知る。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第12回	川柳 ・俳諧から川柳への展開について学び、雑俳の性格を理解する。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第13回	狂歌 ・代表的な作者の作品を解釈し、狂歌という文芸の特徴を把握する。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第14回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテストを行う。	
	これまでの学修内容を確認し、必要な事項を暗記する。	60～
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答 ・授業のまとめ	
	到達度確認テストの結果を受けて自己の理解度を確認し、授業内容を振り返って不足している知識を補う。	60～

授業の方法

・文学史に関する基礎的な事項を説明した後、原文で作品を読み、その特徴を確認する。講義形式であるが、授業中質問をしたり、リアクションペーパーを提出してもらったりする。

・授業時間内では、作品全体を扱うことができない場合も多い。関連する作品も含め、予習・復習として読んでおくこと。

・到達度確認テストでは、授業全体の学習内容について理解度を確認する。作品の内容理解に加え、近世文学史の流れを的確な用語で説明できるかどうかを問う。

成績評価の方法

授業への参加具合（リアクションペーパー等を含む）40%、到達度確認テスト60%による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・近世文学史の基礎的な知識を身につけ、その展開を的確な用語を用いて説明できる。
- ・近世の文学作品の背景となっている社会や思想などに関する理解を深め、内容を把握している。
- ・近世文学の文体・表現上の特徴について、本授業で取り上げた作品等に即して具体的に指摘することができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。ただし、古文を原文で読むので、基本的な文法知識のあることが望ましい。

テキスト

プリントを配布する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	近世日本文学史B		
教員名	牧 藍子		
科目ナンバー	1251425106	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
日本近世の文学史について講義する。 後期の授業では、近世後期の文学を中心に取り上げる。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・近世文学史の基礎的な知識を身につけ、その展開を説明できる。 ・近世の文学作品の背景となっている社会や思想などに関する理解を深める。 ・作品を原文で読解する力を養い、文体・表現上の特徴を味わう。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・授業の進め方について		
	シラバスを読んでおく。		30
第2回	読本① ・上田秋成について学び、その代表作である『雨月物語』を読んで、翻案の手法について学ぶ。		
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。		60
第3回	読本② ・前回に引き続き『雨月物語』を読んで、翻案の手法について学ぶ。		
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。		60

第4回	国学 ・本居宣長『源氏物語玉の小櫛』を読み、国学の方法や思想について学ぶ。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第5回	浮世絵 ・近世庶民の生活と深く結びついた浮世絵について解説する。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第6回	草双紙 ・山東京伝の黄表紙『江戸生艶気棒焼』を読み、絵入り本としての草双紙の特徴を把握し、京伝の文芸活動について学ぶ。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第7回	洒落本 ・山東京伝『傾城買四十八手』を読み、近世における遊里文化について学ぶ。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第8回	人情本 ・為永春水『春色梅児誉美』を読み、人情本の特徴を確認する。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第9回	近世の旅 ・近世の旅の事情について、当時の旅行案内記等の資料を読んで理解を深める。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60

第10回	滑稽本 ・十返舎一九『東海道中膝栗毛』を読み、その滑稽性について考える。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第11回	芸能① ・近松門左衛門の作品を取り上げ、浄瑠璃の歴史や上演形態について学ぶ。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。可能ならば、歌舞伎の実際の舞台や映像等をみる。	60
第12回	芸能② ・歌舞伎の上演形態や舞台装置、代表的な作家やその作劇法について学び、時代による変遷とその特色を把握する。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。可能ならば、歌舞伎の実際の舞台や映像等をみる。	60
第13回	芸能③ ・鶴屋南北『東海道四谷怪談』を取り上げ、前回学んだ内容を具体的に確認する。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。可能ならば、歌舞伎の実際の舞台や映像等をみる。	60
第14回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテストを行う。	
	これまでの学修内容を確認し、必要な事項を暗記する。	60～
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答 ・授業のまとめ	
	到達度確認テストの結果を受けて自己の理解度を確認し、授業内容を振り返って不足している知識を補う。	60～

授業の方法

・文学史に関する基礎的な事項を説明した後、原文で作品を読み、その特徴を確認する。講義形式であるが、授業中質問をしたり、リアクションペーパーを提出してもらったりする。

・授業時間内では、作品全体を扱うことができない場合も多い。関連する作品も含め、予習・復習として読んでおくこと。

・到達度確認テストでは、授業全体の学習内容について理解度を確認する。作品の内容理解に加え、近世文学史の流れを的確な用語で説明できるかどうかを問う。

成績評価の方法

授業への参加具合（リアクションペーパー等を含む）40%、到達度確認テスト60%による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・近世文学史の基礎的な知識を身につけ、その展開を的確な文学用語を用いてを説明できる。
- ・近世の文学作品の背景となっている社会や思想などに関する理解を深め、内容を把握している。
- ・近世文学の文体・表現上の特徴について、本授業で取り上げた作品等に即して具体的に指摘することができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。ただし、古文を原文で読むので、基本的な文法知識のあることが望ましい。

テキスト

プリントを配布する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本語の歴史 A		
教員名	矢田 勉		
科目ナンバー	1251425201	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
日本語の歴史—古代語 古代語（奈良時代語・平安時代語）を範囲とした国語史（日本語史）の梗概を講ずる。			
到達目標			
日本語を対象とする言語史研究の基礎知識と基礎的方法を身につけ、初歩的な古代語研究が出来るようになる。その水準に達していない者には単位は与えられない。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	国語史とはどのような学問か		
	高等学校程度の古典文法の復習		180
第2回	言語史と語史		
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読		90
第3回	上代特殊仮名遣い		
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読		90

第4回	上代特殊仮名遣いの発展	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第5回	日本語表記の創始	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第6回	訓点資料と訓点語	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第7回	片仮名・平仮名の創出	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第8回	平安時代語の音韻(1)母音	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第9回	平安時代語の音韻(2)子音	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90

第10回	平安時代語の音韻(3) アクセント	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第11回	平安時代における文法変化(1) 格表示の変化	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第12回	平安時代における文法変化(2) さまざまな変化	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第13回	古代敬語の変遷	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第14回	奈良・平安時代の方言	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第15回	まとめ	
	これまでの講義内容の復習	120

授業の方法

講義。適宜小課題・小テストを課す。

成績評価の方法

平常点（小課題または小テスト）40%、期末レポート60%。小課題・小テスト・期末レポートのいずれも、それぞれの段階で必要な水準に達しているかの観点から、厳正に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高等学校での学習範囲程度の古典文法の知識および古典読解能力が必須である。

テキスト

プリントを使用する。

参考書

適宜授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付け。

科目名	日本語の歴史B		
教員名	矢田 勉		
科目ナンバー	1251425202	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
日本語の歴史―近代語 近代語（院政鎌倉時代語～江戸時代語）を範囲とした国語史（日本語史）の梗概を講ずる。			
到達目標			
日本語を対象とする言語史研究の基礎知識と基礎的方法を身につけ、初歩的な近代語研究が出来るようになる。その水準に達していない者には単位は与えられない。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	国語史の時代区分		
	日本語の歴史Aの内容の復習、もしくは国語史概説書の古代語部分の精読	240	
第2回	室町時代語の資料		
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90	
第3回	江戸時代語の資料		
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90	

第4回	近代語の文法変化(1)旧終止形の衰退	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第5回	近代語の文法変化(2)係り結びの衰退	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第6回	近代語の文法変化(3)助動詞体系の変化	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第7回	近代語の文法変化(4)二段活用的一段化	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第8回	室町時代語の音韻(1)母音など	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第9回	室町時代語の音韻(2)子音・音便など	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90

第10回	江戸時代語の音韻(1)母音など	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第11回	江戸時代語の音韻(2)子音など	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第12回	江戸時代における文法変化	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第13回	近代敬語の変遷	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第14回	室町・江戸時代の方言	
	授業内容に該当する範囲の概説書の熟読	90
第15回	まとめ	
	これまでの講義内容の復習	120

授業の方法

講義。適宜小課題・小テストを課す。

成績評価の方法

平常点（小課題または小テスト）40%、期末レポート60%。小課題・小テスト・期末レポートのいずれも、それぞれの段階で必要な水準に達しているかの観点から、厳正に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本語の歴史Aを履修していることが望ましい。国語史の古代語領域に関する知識を持っていることを前提として講義を進める。

テキスト

プリントを使用する。

参考書

適宜授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付け。

科目名	日本語学講義 A		
教員名	常盤 智子		
科目ナンバー	1251425203	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
資料から読み取る日本語史 日本語史上の音声・表記・語彙・文法・表現等の中からいくつかのトピックをとりあげ、それらに関する資料を辿りながら、史的变化の実際や史的变化の要因・方向性について学ぶ。 教員からの一方的な講義だけでなく、学生が主体となって自主的に日本語史を考察する機会を設けたい。			
到達目標			
D P 2 (課題の発見と解決)、5 (表現力、発信力)、6 (専門分野の知識・理解)を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①日本語史の重要なトピックについて、知識を得る。 ②自ら疑問を発見し、問題点について文章で指摘できる。 ③日本語史の根拠となる事例を知り、その変化の要因や方向について考察する力を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	授業概要の説明 ・ 授業の目標、内容、スケジュール、評価基準について周知する 日本語史の学び方 ・ 日本語史を学ぶ方法、と授業でのアプローチについて確認する		
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の内容を把握する 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する		60
第2回	時代区分・研究分野について ・ 考察の前提となる知識を確認し、時代区分や研究分野などについての基本的な枠組みを知る ・ 資料の新旧についてのプリントを配付し、各資料の位置づけやその根拠について考察する		
	【復習】授業内容についての理解を確認する 【予習】配付プリントについて、自分なりの説明を考える		60
第3回	資料の新旧 ・ 学生の考察の発表・紹介 ・ 資料の新旧についてのプリント解説 ・ 平仮名・片仮名についてのプリント配付・考察		
	【復習】授業内容についての理解を確認する 【予習】配付プリントについて、自分なりの説明を考える		60

第4回	平仮名・片仮名 ・学生の考察の発表・紹介 ・平仮名・片仮名についてのプリント解説 ・音声と表記についてのプリント配付・考察	
	【復習】授業内容についての理解を確認する 【予習】配付プリントについて、自分なりの説明を考える	60
第5回	音声と表記 ・学生の考察の発表・紹介 ・音声と表記についてのプリント解説 ・補助符号についてのプリント配付・考察	
	【復習】授業内容についての理解を確認する 【予習】配付プリントについて、自分なりの説明を考える	60
第6回	補助符号 ・学生の考察の発表・紹介 ・補助符号についての解説 ・名詞のプリント配付・考察	
	【復習】授業内容についての理解を確認する 【予習】配付プリントについて、自分なりの説明を考える	60
第7回	名詞 ・学生の考察の発表・紹介 ・名詞についての解説 ・代名詞のプリント配付・考察	
	【復習】授業内容についての理解を確認する 【予習】配付プリントについて、自分なりの説明を考える	60
第8回	代名詞 ・学生の考察の発表・紹介 ・代名詞についての解説 ・副詞のプリント配付・考察	
	【復習】授業内容についての理解を確認する 【予習】配付プリントについて、自分なりの説明を考える	60
第9回	副詞 ・学生の考察の発表・紹介 ・副詞についての解説 ・助動詞のプリント配付・考察	
	【復習】授業内容についての理解を確認する 【予習】配付プリントについて、自分なりの説明を考える	60

第10回	助動詞 ・ 学生の考察の発表・紹介 ・ 助動詞についての解説 ・ 動詞のプリント配付・考察	
	【復習】授業内容についての理解を確認する 【予習】配付プリントについて、自分なりの説明を考える	60
第11回	動詞 ・ 学生の考察の発表・紹介 ・ 動詞についての解説 ・ 可能表現のプリント配付・考察	
	【復習】授業内容についての理解を確認する 【予習】配付プリントについて、自分なりの説明を考える	60
第12回	可能表現 ・ 学生の考察の発表・紹介 ・ 可能表現についての解説 ・ 媒体の変化についての課題	
	【復習】授業内容についての理解を確認する 【予習】配付プリントについて、自分なりの説明を考える	60
第13回	媒体の変化 ・ 学生の考察の発表・紹介 ・ 媒体の変化についての解説 ・ 各トピックのまとめと変化の方向性について	
	【復習】授業内容についての理解を確認する 【予習】配付プリントについて、自分なりの説明を考える	60
第14回	到達度確認テスト	
	【予習】到達度確認テストに備えて授業で取り扱ったトピックについて復習しておく	120
第15回	授業のまとめ ・ 到達度確認テストの解説	
	【復習】授業の内容について自身の理解を振り返り、授業内で得た知見を確認しておく。	60

授業の方法

- ・基本的には、前半は各トピックに関する講義を行い、後半で次回トピックに関する配布プリントをもとに課題を考察する時間を設ける。学生はその結果をコメントシートして提出し、翌週は、教員がその考察結果をふまえ、それらについて解説の講義を行う。
- ・受講人数・授業の進捗によって、内容を一部変更する場合がある

成績評価の方法

平常点（各時間に提出するリアクションペーパー、授業への参加状況）60%、到達度確認テスト40%による総合評価を基本にして評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ①日本語史の重要なトピックについて、知識を得ている。
- ②自ら疑問を発見し、問題点について文章で指摘できる。
- ③日本語史の根拠となる事例を知り、その変化の要因や方向について考察する力を身につけている。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特別な知識は不要であるが、高等学校の古典で習得した知識を前提とした説明を行うため、必要な場合は予習・復習を行うこと。

テキスト

特になし（プリントで配付）。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本語学講義B		
教員名	常盤 智子		
科目ナンバー	1251425204	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
明治時代の日本語史の資料を読む 明治時代の日本語史の資料を複数読み、自ら疑問点を発見することを通して、それらの疑問点がどのように日本語史のトピックと繋がっているのかを理解する。			
到達目標			
DP2(課題の発見と解決)、5(表現力、発信力)、6(専門分野の知識・理解)を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①明治時代の日本語史の資料について、知識を得る。 ②自ら疑問を発見し、問題点について文章で指摘できる。 ③日本語史上の明治時代の位置づけについて理解する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	授業概要の説明 ・授業の目標、内容、スケジュール、評価基準について周知する		
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義の内容を把握する 【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認する	60	
第2回	翻訳小説：小公子（1） ・資料について ・資料の一部を読み、疑問点を提出する		
	【復習】授業内容についての理解を確認する	60	
第3回	小公子（2） ・明治時代の日本語概説 ・提出された疑問点の紹介と解説		
	【予習】配付プリントの資料を精読する。 【復習】授業内容についての理解を確認する	60	

第4回	小公子（3） ・ 日本語史研究からの解説	
	【予習】配付プリントの資料を精読する。 【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第5回	国内小説：坊っちゃん（1） ・ 資料について ・ 資料の一部を読み、疑問点を提出する	
	【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第6回	坊っちゃん（2） ・ 明治時代の資料の諸相 ・ 提出された疑問点の紹介と解説	
	【予習】配付プリントの資料を精読する。 【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第7回	坊っちゃん（3） ・ 日本語史研究からの解説	
	【予習】配付プリントの資料を精読する。 【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第8回	会話書：会話篇（1） ・ 資料について ・ 資料の一部を読み、疑問点を提出する	
	【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第9回	会話篇（2） ・ 英学資料の解説 ・ 提出された疑問点の紹介と解説	
	【予習】配付プリントの資料を精読する。 【復習】授業内容についての理解を確認する	60

第10回	会話篇（3） ・日本語史研究からの解説	
	【予習】配付プリントの資料を精読する。 【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第11回	文法書：日本語口語入門（1） ・資料について ・資料の一部を読み、疑問点を提出する	
	【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第12回	日本語口語入門（2） ・西洋人の日本語研究についての解説 ・提出された疑問点の紹介と解説	
	【予習】配付プリントの資料を精読する。 【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第13回	日本語口語入門（3） ・日本語史研究からの解説	
	【予習】配付プリントの資料を精読する。 【復習】授業内容についての理解を確認する	60
第14回	到達度確認テスト	
	【予習】到達度確認テストに備えて授業で取り扱った日本語史のトピックについて復習しておく	120
第15回	授業のまとめ ・到達度確認テストの解説 ・各資料の特徴について	
	【復習】授業の内容について自身の理解を振り返り、授業内で得た知見を確認しておく。	60

授業の方法

- ・授業は、3回で一つの資料の精読を行う。
- ・各回の終わりに、プリントや授業内容に対する考察をリアクションペーパーで提出することを課す。これをもとに、学生の意見を紹介したり、学生自身が発表したり説明したりする時間を設ける
- ・授業の進捗・受講人数などによって、内容を一部変更する場合がある

成績評価の方法

平常点（各時間に提出するリアクションペーパー、授業への参加状況）60%、到達度確認テスト40%による総合評価を基本にして評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ①明治時代の日本語史の資料について、知識を得ている。
- ②自ら疑問を発見し、問題点について文章で指摘できる。
- ③日本語史上の明治時代の位置づけについて理解している。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本語学講義Aでは日本語史に関するトピックを取り扱うため、日本語史の予備知識がない場合は併せて受講することが望ましい。

テキスト

特になし（プリントで配付）。

参考書

参考書は必要に応じて授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本語学講義C		
教員名	屋名池 誠		
科目ナンバー	1251425205	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

日本語の音声・音韻

英語などの音声・音韻については外国語学習の過程で多くを学ぶにもかかわらず、われわれの母語である日本語の音声・音韻については基礎から学ぶ機会がなく、その知識はきわめて乏しい。本講義では、言語の音声・音韻を分析する方法と基礎概念を紹介しつつ、日本語の音声・音韻を概観する。身近なことを客観的に見直すことで、われわれにとって絶対的な存在である母語も、数ある人類の言語のひとつにすぎないと相対化できる柔軟な見方を養いたい。

後期の日本語学講義Dも一連の内容なので、引き続いて履修のこと。

到達目標

1. 言語の音声・音韻の一般的な性質を理論的・体系的に理解する。
2. 日常生活で遭遇する、音声・音韻をめぐる種々の問題を的確に捉え、分析し、対処するために応用できる力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	言語の諸機能	
	言語は何の役に立っているのかについて考えておく。	60分
第2回	媒体としての音声	
	音声を用いないコミュニケーションはどのようなものになるか考えておく。	60分
第3回	言語記号の基本的特性	
	教科書全体にざっと目を通しておく。	60分

第4回	3種の音声学、調音音声学の前提	
	教科書全体にざっと目を通しておく。	60分
第5回	音声器官	
	教科書の音声器官のくだりを読んでおく。	60分
第6回	音声記号	
	音声器官について復習しておく。	60分
第7回	母音と子音	
	音声記号について復習しておく。	60分
第8回	母音の分類、日本語の母音	
	教科書の母音のくだりに目を通しておく。	60分
第9回	子音の分類	
	教科書の子音のくだりに目を通しておく。	60分

第10回	日本語の子音	
	授業で学んだことを、日常生活で即日検証する。	60分
第11回	日本語の子音（承前）	
	授業で学んだことを、日常生活で即日検証する。	60分
第12回	日本語の子音（承前）	
	教科書の母音・子音のくだりを読み直しておく。	60分
第13回	音声の同化	
	教科書の音声同化のくだりに目を通しておく。	60分
第14回	音節・モーラ	
	教科書の音節・モーラのくだりに目を通しておく。	60分
第15回	分節音のまとめ	
	ノートをもう一度丁寧に読みかえしておく。	60分

授業の方法

講義形式でおこなう。

成績評価の方法

定期試験ないしレポート（９０％）、平常点（１０％）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特別な知識は必要としない。
引き続いて日本語学講義Ⅱを履修のこと。

テキスト

斎藤純男『日本語音声学入門 改訂版』（三省堂）

参考書

上野善道編『朝倉日本語講座 3 音声・音韻』（朝倉書店）
窪田晴夫『現代言語学入門 日本語の音声』（岩波書店）
服部四郎『音声学』（岩波書店）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本語学講義D		
教員名	屋名池 誠		
科目ナンバー	1251425206	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

日本語の音声・音韻

英語などの音声・音韻については外国語学習の過程で多くを学ぶにもかかわらず、われわれの母語である日本語の音声・音韻については基礎から学ぶ機会がなく、その知識はきわめて乏しい。本講義では、言語の音声・音韻を分析する方法と基礎概念を紹介しつつ、日本語の音声・音韻を概観する。身近なことを客観的に見直すことで、われわれにとって絶対的な存在である母語も、数ある人類の言語のひとつにすぎないと相対化できる柔軟な見方を養いたい。

前期の日本語学講義Cから引き続いて履修のこと。

到達目標

1. 言語の音声・音韻の一般的な性質を理論的・体系的に理解する。
2. 日常生活で遭遇する、音声・音韻をめぐる種々の問題を的確に捉え、分析し、対処するために応用できる力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	音韻論とは	
	前期のノートをよく読み返して復習しておく。	60分
第2回	音韻論の諸原理	
	前回の授業内容を復習し、理解を深めておく。	60分
第3回	音韻論の諸原理(承前)	
	前回までの授業内容を復習し、理解を深めておく。	60分

第4回	音韻論の諸原理（承前）	
	前回までの授業内容を復習し、理解を深めておく。	60分
第5回	弁別特徴	
	前回までの授業内容を復習し、理解を深めておく。	60分
第6回	日本語の音韻体系	
	前期にあつかった日本語の母音・子音について復習しておく。	60分
第7回	アクセントとは	
	英語のアクセントについて復習しておく。	60分
第8回	日本語のアクセント体系	
	前回の授業内容を復習し、理解を深めておく。	60分
第9回	日本語のアクセント体系（承前）	
	授業で学んだことを、日常生活の中で検証する。	60分

第10回	音韻史の方法	
	過去の音声・音韻はどのようにしたら知ることができるのか考えておく。	60分
第11回	音韻史の史料	
	前回の授業で学んだような方法を適用できる史料にはどのようなものがあるか考えておく。	60分
第12回	上代語の音韻体系	
	授業で学んだことを、文献史料について確認しておく。	60分
第13回	中世語の音韻体系	
	授業で学んだことを、文献史料について確認しておく。	60分
第14回	音韻変化	
	過去の音韻を知ることが、文学研究などにどう役立つのか考えておく。	60分
第15回	音韻論、超分節音、音韻史のまとめ	
	ノートをもう一度丁寧に読みかえしておく。	60分

授業の方法

講義形式でおこなう。

成績評価の方法

定期試験ないしレポート（90％）、平常点（10％）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特別な知識は必要としない。
日本語学講義Cから引き続いて履修のこと。

テキスト

斎藤純男『日本語音声学入門 改訂版』（三省堂）

参考書

上野善道編『朝倉日本語講座 3 音声・音韻』（朝倉書店）
ヤーコブソン『音と意味についての六章』（みすず書房）
金田一春彦『国語アクセントの史的研究』（塙書房）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本語学講義E		
教員名	小木曾 智信		
科目ナンバー	1251425207	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

昨今、コーパスにもとづいた言語の研究が注目を集めている。コーパスとはコンピュータに蓄えられた大規模な言語資料のことで、これにより従来では行うことのできなかった研究が可能になった。日本語学においてもコーパスを活用した研究が進み、研究の基本資料として欠かせないものになりつつある。

この授業では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を中心に、コーパスの概要、コーパス構築に用いられている技術、コーパスの利用方法などについて講義する。後半では、実際にコーパスを使って各自の課題について調査する実習を行う。

到達目標

コーパスを利用して各自の課題について調査する方法を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	紹介するWeb上の資料を読んで復習する。	60分
第2回	日本語コーパスの紹介 (1) コーパスの概要	
	配布する資料を読んで復習する。	60分
第3回	日本語コーパスの紹介 (2) コーパスの設計とサンプリング	
	配布する資料を読んで復習する。	60分

第4回	コーパスの形態論情報と形態素解析 「Web茶まめ」の利用	
	形態素解析に仕組みについて復習し、自分で解析が行えるようにする。	60分
第5回	Web版コーパス検索ツールの利用 (1) 「中納言」の紹介	
	「中納言」の基本操作を復習する。	90分
第6回	Web版コーパス検索ツールの利用 (2) 「中納言」の利用	
	「中納言」の操作方法に習熟する。	90分
第7回	検索結果の集計と分析 (1) 表計算ソフト	
	検索結果を集計する方法について復習する。	90分
第8回	検索結果の集計と分析 (2) ピボットテーブル	
	ピボットテーブルの操作に習熟する。	90分
第9回	検索結果の集計と分析 (3) データの加工と集計	
	文字列関数などを用いたデータの処理方法を復習する。	90分

第10回	レポートに向けた調査と質問(1)	
	レポートで取り上げるテーマを検討し、コーパスで調査する。	120分
第11回	レポートに向けた調査と質問(2)	
	レポートで取り上げるテーマを検討し、コーパスで調査する。	120分
第12回	テーマ発表(1)	
	レポートで取り上げるテーマについてスライドにまとめ発表を行う。	120分
第13回	テーマ発表(2)	
	レポートで取り上げるテーマについてスライドにまとめ発表を行う。	120分
第14回	文書構造を意識したレポート執筆 Wordのスタイル機能、相互参照等	
	レポートで取り上げるテーマについて調査し、レポート執筆に着手する。	120分
第15回	まとめ	
	レポートで取り上げるテーマについて調査し質問項目をまとめる。(予習) レポートのための調査・執筆を継続する。	120分

授業の方法

コンピュータに教材を提示しながら講義するとともに、各自がパソコンを操作する実習を行う。
ただし、受講者の人数によっては方法を変更する場合がある。

成績評価の方法

授業参加状況（40％）・小レポート（10％）・期末レポート（50％）等を総合して評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特定の教科書は使用しない。Webページの形で提示するほか、必要に応じてプリントを配布する。

参考書

授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けるほか、授業時に紹介するメールアドレスで対応する。

科目名	日本語学講義 F		
教員名	梅林 博人		
科目ナンバー	1251425208	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
近現代日本語の語彙語法の諸問題 身近な日本語を観察し、そこに存在する諸問題を把握し、それについて考察を行う。			
到達目標			
DP 6【文化現象の総合的理解】を実現するため、次の2点を到達目標とする。 1) 日本語の語彙語法に関する諸問題を理解し論ずるために必要な、基礎的な学術用語を修得する。 2) 日常で遭遇する、日本語の語彙語法に関する種々の問題を的確に捉え、分析し、その内容を説明できる力を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	授業概説		
	【予習・復習】シラバスを読んで、講義内容について確認しておく。		60分
第2回	国語辞典(1)―概説―		
	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする		60分
第3回	国語辞典(2)―ことばの意味記述の諸問題―		
	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする		60分

第4回	近現代日本語のオノマトペ（１）—概説—	
	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60分
第5回	近現代日本語のオノマトペ（２）—近現代日本語における変化—	
	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60分
第6回	近現代日本語の位相と位相語（１）—概説—	
	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60分
第7回	近現代日本語の位相と位相語（２）—気づかれにくい方言—	
	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60分
第8回	近現代日本語の位相と位相語（３）—役割語—	
	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60分
第9回	近現代日本語の位相語（４）—文章表現と口頭語—	
	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60分

第10回	近現代日本語の副詞・接続詞（１）—概説—	
	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60分
第11回	近現代日本語の副詞・接続詞（２）—副詞「全然」—	
	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60分
第12回	近現代日本語の副詞・接続詞（３）—接続詞「しかし」—	
	【予習】授業で扱う予定のキーワードについて下調べをしておく 【復習】授業で扱ったキーワードについてその内容を説明できるようにする	60分
第13回	まとめ	
	【予習・復習】２～１２回のキーワードについて確認し、説明できるようにする。	90分
第14回	到達度確認テスト	
	【予習】テストに備え、各回の内容について確認しておく	120分
第15回	フィードバック	
	【復習】到達度確認テストの結果を受けて、到達目標と自分の理解を確認し、不足の箇所については、内容の再確認を行う	60分

授業の方法 講義形式で行う。授業では、定期的に課題を提示し、リアクションペーパーの提出を課す。また、学期末には授業全体を通して、到達度確認テストを行う。具体的には以下の通りである。 1) 課題に対するリアクションペーパーの提出：キーワードの確認や、事象の簡単な説明を行う。 2) 到達度確認テスト：授業全体についての理解度を確認する。
成績評価の方法 リアクションペーパー（30%）、平常点（授業への参加状況や提出物の提出状況）（20%）、到達度確認テスト（50%）による総合評価。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特別な知識は必要としない。
テキスト 特になし。プリントを配布する。
参考書 必要に応じて授業中に紹介する。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) 授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	文学作品をどう読むか		
教員名	小橋 孝子		
科目ナンバー	1251425301	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
日本近現代文学の作品を取り上げ、それぞれにどのようなアプローチが可能かを考えつつ、読んで行く。			
到達目標			
文学作品のさまざまな研究方法を学ぶ。 主体的に課題に取り組み、また、ディスカッションを通して読解を深める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス		
	シラバスを読み、授業の概略を理解する。		30分
第2回	詩歌の鑑賞文①		
	プリントを読み、理解を深める。		60分
第3回	詩歌の鑑賞文②		
	【予習】詩歌の鑑賞文を作成する。 【復習】詩歌鑑賞のポイントについて理解を深める。		90分

第4回	井伏鱒二「山椒魚」を読む①	
	【予習】 作品を読み、小レポートを作成する。 【復習】 プリント資料を読み、理解を深める。	90分
第5回	井伏鱒二「山椒魚」を読む②	
	【予習】 課題レポートを作成する。 【復習】 講義を通して考えたことをまとめる。	90分
第6回	泉鏡花の短編を読む①	
	【予習】 作品を読み、小レポートを作成する。 【復習】 プリント資料を読み、理解を深める。	90分
第7回	泉鏡花の短編を読む②	
	【予習】 作品を読み、小レポートを作成する。 【復習】 プリント資料を読み、理解を深める。	90分
第8回	泉鏡花の短編を読む③	
	【予習】 作品を読み、小レポートを作成する。 【復習】 作品についての考えをまとめる。	90分
第9回	正岡子規の写生文運動①	
	【予習】 作品を読み、小レポートを作成する。 【復習】 プリント資料を読み、理解を深める。	90分

第10回	正岡子規の写生文運動②	
	【予習】 作品を読み、小レポートを作成する。 【復習】 授業を振り返り、考察を深める。	90分
第11回	横光利一の短編を読む①	
	【予習】 作品を読み、小レポートを作成する。 【復習】 プリント資料を読み、理解を深める。	90分
第12回	横光利一の短編を読む②	
	【予習】 作品を読み、小レポートを作成する。 【復習】 作品についての考えをまとめる。	90分
第13回	深沢七郎「櫓山節考」を読む①	
	【予習】 作品を読み、小レポートを作成する。 【復習】 プリント資料を読み、理解を深める。	90分
第14回	深沢七郎「櫓山節考」を読む②	
	【予習】 作品を読み、小レポートを作成する。 【復習】 作品についての考えをまとめる。	90分
第15回	まとめ	
	期末レポートを作成する。	120分

授業の方法

受講生による小レポートの作成とそれに基づくディスカッションを行い、その上で担当教員が講義を行う。

成績評価の方法

授業時の発言・小レポート 70%
期末レポート 30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

プリントを配布する。

参考書

授業の中で随時紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。電子メールで受け付ける。

科目名	古代日本文学講義 A		
教員名	中嶋 真也		
科目ナンバー	1251425302	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
奈良時代に成立した『万葉集』の平安時代における状況を学びます。主に紫式部や清少納言が活躍した西暦1000年頃の『万葉集』の様相を見ていきます。単なる概要に終わらずに、作品の精読を心掛けていきます。			
到達目標			
DP 6（文化現象の総合的理解）を実現するため、次の3点を到達目標とします。 ①『万葉集』に関する基礎知識を習得する。 ②平安時代の韻文の文学史を理解する。 ③古代文学のさまざまな背景を理解する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス		
	『万葉集』と『古今和歌集』に関して、本などから理解を深めましょう。	60	
第2回	『万葉集』概説		
	1回目の授業を復習し、人物などの理解が的確か確認しましょう。	60	
第3回	受け継がれる『万葉集』		
	2回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60	

第4回	三代集概説	
	3回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第5回	和歌文学史上の藤原公任	
	4回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第6回	『古今和歌集』 「仮名序」 読解	
	5回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第7回	『拾遺和歌集』 季節歌と『万葉集』	
	6回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第8回	『拾遺和歌集』 恋歌と『万葉集』	
	7回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第9回	『後拾遺和歌集』 「仮名序」と『万葉集』	
	8回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60

第10回	『和漢朗詠集』上巻と『万葉集』	
	9回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第11回	『和漢朗詠集』下巻と『万葉集』	
	10回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第12回	『古今和歌六帖』と『万葉集』	
	11回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第13回	平安時代中期の『万葉集』	
	12回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第14回	到達度確認テスト	
	到達度確認テストに向けて、これまでの学修内容を確認しましょう。	120
第15回	到達度確認テストの解説 授業のまとめ	
	到達度確認テストの結果を受けて、不足している学習内容を再確認しましょう。	60

授業の方法

- ・講義形式で行いますが、適宜ワークシートなど利用して、自ら思考してもらいます。
- ・漢字のみで書かれた『万葉集』が、仮名が成立してから、どのように受け止められていたか、具体的に作品を読み解き、理解を深めます。

成績評価の方法

到達度確認テスト70%、平常点（授業への参加状況や課題遂行状況）30%。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ・『万葉集』や古典文学史に関する基礎知識を習得しているか。
- ・講義内容を理解し、自分自身のことばで、的確に記述できているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

後期に開講される古代日本文学講義Bは、本講義に深く関連する科目です。

テキスト

必要に応じて、プリントを配布します。

参考書

必要に応じて、授業中に指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	古代日本文学講義B		
教員名	中嶋 真也		
科目ナンバー	1251425303	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
古代の恋歌を具体的な景物を通して学びます。 この授業では、歌に詠まれた「衣」と「風」に関する理解を深めます。 作品としては『万葉集』と『古今和歌集』を主な対象とします。			
到達目標			
DP 6（文化現象の総合的理解）を実現するため、次の3点を到達目標とします。 ①『万葉集』に関する基礎知識を習得する。 ②『古今和歌集』に関する基礎知識を習得する。 ③古代文学のさまざまな背景を理解する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス		
	『万葉集』と『古今和歌集』に関して、本などから理解を深めましょう。		60
第2回	『万葉集』概説		
	1回目の授業を復習し、人物などの理解が的確か確認しましょう。		60
第3回	『古今和歌集』概説		
	2回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。		60

第4回	『万葉集』の「衣」	
	3回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第5回	『古今和歌集』の「衣」	
	4回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第6回	「衣」の表象	
	5回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第7回	「形見」をめぐる	
	6回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第8回	額田王の「風」	
	7回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第9回	研究史の整理	
	8回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60

第10回	七夕歌の「風」	
	9回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第11回	『万葉集』の「風」	
	10回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第12回	『古今和歌集』の「風」	
	11回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第13回	「衣」と「風」のまとめ	
	12回目の授業で学んだ内容を再確認し、事前に読むよう指示のあった作品では、表現性が同じかどうか考えましょう。	60
第14回	到達度確認テスト	
	到達度確認テストに向けて、これまでの学修内容を確認しましょう。	120
第15回	到達度確認テストの解説 授業のまとめ	
	到達度確認テストの結果を受けて、不足している学習内容を再確認しましょう。	60

授業の方法

- ・講義形式で行いますが、適宜ワークシートなどを利用して、自ら思考してもらいます。
- ・『万葉集』や『古今和歌集』を精読し、「衣」や「風」が古代の恋歌でどのように表現されているか、具体的に理解していきます。

成績評価の方法

到達度確認テスト70%、平常点（授業への参加状況や課題遂行状況）30%。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・『万葉集』『古今和歌集』に関する基礎知識を習得しているか。
- ・講義内容を理解し、自分自身のことばで、的確に記述できているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

後期に開講される古代日本文学講義Aは、本講義に深く関連する科目です。

テキスト

『新校注 萬葉集』、井手至・毛利正守、和泉書院 ISBN:978-4-7576-0490-2
必要に応じて、プリントも配布します。

参考書

必要に応じて、授業中に指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	古代日本文学講義C		
教員名	吉野 瑞恵		
科目ナンバー	1251425304	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
『源氏物語』の天皇像 単なる恋物語とみなされることも多い『源氏物語』であるが、実はこの物語は背後に存在するそれぞれ異なる性格と持つ天皇たちの「歴史」を物語っている。 この講義では、『源氏物語』に描かれた4人の天皇（桐壺帝・朱雀帝・冷泉帝・今上帝）の造型の特徴について、光源氏の物語とからめながら読み解いていきたい。 具体的には次のような問題設定をしながら考察する予定である。 ① 『源氏物語』が想定する理想的な天皇像とはどのようなものか。 ② 平安時代において天皇を描くことにタブーはないのか。 ③ 光源氏はそれぞれの天皇とどのように関わっているのか。			
到達目標			
① 文学作品の読解を通して、作品を深く理解する力を身に着ける。 ② 『源氏物語』の特質について考察を深める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、意図などについて説明する。		
	あらかじめシラバスを読み、授業の概要を頭に入れておく。	60	
第2回	『源氏物語』概説 ・物語の概要を解説する。		
	『源氏物語』についての文学史的な知識を確認し、配布資料を熟読する。	60	
第3回	古注釈の準拠説 ・『源氏物語』の注釈で、物語のモデルはどのように考えられていたか見ていく。		
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した古注釈の該当箇所を熟読。	60	

第4回	桐壺帝① ・桐壺巻を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した桐壺巻の該当箇所を熟読。	60
第5回	桐壺帝② ・紅葉賀巻を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した紅葉賀巻の該当箇所を熟読。	60
第6回	桐壺帝③ ・明石巻を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した明石巻の該当箇所を熟読。	60
第7回	朱雀帝① ・賢木巻を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した賢木巻の該当箇所を熟読。	60
第8回	朱雀帝② ・須磨巻、明石巻を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した須磨・明石巻の該当箇所を熟読。	60
第9回	朱雀帝③ ・若菜上巻を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した若菜上巻の該当箇所を熟読。	60

第10回	冷泉帝① ・歴史上の冷泉帝について考える。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した歴史物語などの資料を熟読。	60
第11回	冷泉帝② ・薄雲巻を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した薄雲巻の該当箇所を熟読。	60
第12回	冷泉帝③ ・行幸巻を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した行幸巻の該当箇所を熟読。	60
第13回	今上帝 ・宇治十帖を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した宇治十帖の該当箇所を熟読。	60
第14回	まとめ ・天皇の年代記	
	これまでの学習内容を振り返り、各項目の関連性について考える。	120
第15回	到達度確認テスト ・これまでの学習内容について理解度を確認するためのテスト	
	到達度確認テストに備え、これまでの学習内容を確認する。	60

授業の方法

- ・ 授業は講義を中心に進める。授業中には毎回リアクションペーパーを提出してもらい、理解度を確認する。また、リアクションペーパーでは授業に関する質問も受け付け、質問が記されていた場合には次回の授業で補足説明を行なう。
- ・ 到達度テストは、授業全体の内容について理解度を確認するものである。
- ・ 授業の進捗状況に応じて、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの内容）30%、到達度確認テスト70%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 授業中に扱った作品の文学史的な位置づけについて説明できる。
- ・ 授業中に扱った作品の原文の意味を正しく解釈できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

『源氏物語』に関する基礎的な知識。

テキスト

必要なものについては、コピーして授業中に配布する。

参考書

『源氏物語 1～6』小学館、新編日本古典文学全集。

関連論文などは授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	古代日本文学講義 D		
教員名	吉野 瑞恵		
科目ナンバー	1251425305	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
『源氏物語』の後妃像 『源氏物語』には、光源氏の母・桐壺更衣をはじめとして、天皇の後宮の女性たちが多数登場する。そうした中でも存在感があるのは、后と呼ばれる女性たちである。后は他の後宮の女性たちとは異なり、天皇の治世に対して一定の発言権を持つ存在である。 この講義では、『源氏物語』に登場する4人の后たち（弘徽殿太后・藤壺中宮・秋好中宮・明石中宮）に着目し、彼女たちが物語の中江どのような役割を果たしていたのか考察したい。また、当時の社会において、女性たちがどのような役割を担っていたのかについても明らかにしたい。			
到達目標			
① 文学作品の読解を通して、作品を深く理解する力を身に着ける。 ② 『源氏物語』の特質について考察を深める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、意図などについて説明する。		
	あらかじめシラバスを読み、授業の概要を頭に入れておく。		60
第2回	『源氏物語』概説 ・物語の概要を解説する。		
	『源氏物語』についての文学史的な知識を確認し、配布資料を熟読する。		60
第3回	平安時代の後宮の制度 ・平安時代の天皇の後宮の制度について解説する。		
	授業前には平安時代の歴史的な知識を確認する。授業後は、配布した資料の該当箇所を熟読。		60

第4回	弘徽殿太后① ・桐壺巻を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した桐壺巻の該当箇所を熟読。	60
第5回	弘徽殿太后② ・賢木巻を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した賢木巻の該当箇所を熟読。	60
第6回	弘徽殿太后③ ・須磨、明石巻を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した須磨、明石巻の該当箇所を熟読。	60
第7回	藤壺中宮① ・桐壺巻を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した桐壺巻の該当箇所を熟読。	60
第8回	藤壺中宮② ・賢木巻を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した賢木巻の該当箇所を熟読。	60
第9回	藤壺中宮③ ・濡標、絵合巻を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した濡標、絵合巻の該当箇所を熟読。	60

第10回	藤壺中宮④ ・薄雲巻を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した薄雲巻の該当箇所を熟読。	60
第11回	秋好中宮① ・霽標巻を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した霽標巻の該当箇所を熟読。	60
第12回	秋好中宮② ・絵合巻を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した絵合巻の該当箇所を熟読。	60
第13回	明石中宮① ・藤裏葉巻を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した藤裏葉巻の該当箇所を熟読。	60
第14回	明石中宮② ・宇治十帖を読む。	
	授業前には『源氏物語』の流れを確認する。授業後は、配布した宇治十帖の該当箇所を熟読。	120
第15回	到達度確認テスト ・これまでの学習内容について理解度を確認するためのテスト	
	到達度確認テストに備え、これまでの学習内容を確認する。	60

授業の方法

- ・ 授業は講義を中心に進める。授業中には毎回リアクションペーパーを提出してもらい、理解度を確認する。また、リアクションペーパーでは授業に関する質問も受け付け、質問が記されていた場合には次回の授業で補足説明を行なう。
- ・ 到達度テストは、授業全体の内容について理解度を確認するものである。
- ・ 授業の進捗状況に応じて、内容を一部変更する場合がある。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況やリアクションペーパーの内容）30%、到達度確認テスト70%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 授業中に扱った作品の文学史的な位置づけについて説明できる。
- ・ 授業中に扱った作品の原文の意味を正しく解釈できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

『源氏物語』に関する基礎的な知識。
古代日本文学講義D

テキスト

必要なものについては、コピーして授業中に配布する。

参考書

『源氏物語 1～6』小学館、新編日本古典文学全集。
関連論文などは授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	古代日本文学講義 E		
教員名	桜井 宏徳		
科目ナンバー	1251425306	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
* 『紫式部日記』を読む * 『紫式部日記』は、平安時代中期、一条天皇の中宮彰子（藤原道長の娘）に女房として仕えた紫式部が、彰子をはじめとする道長一家の栄華を賛美を込めて記録しつつ、みずからの考えや思いも交えながら綴った日記文学で、紫式部自身が書いた『源氏物語』についてもたびたび言及しています。 この授業では、『紫式部日記』を丁寧に読み解くことを通じて、平安時代の日記文学に親しむとともに、貴族社会と平安文学における女房の役割についても考えてゆきます。			
到達目標			
『紫式部日記』の読解を通じて、平安時代の日記文学を各自で主体的に鑑賞できる力を身につけるとともに、平安文学と女房の関わりについても理解を深めることを目標とします。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	『紫式部日記』概説（ガイダンスを含む）		
	【予習】シラバスに目を通しておく。		30
第2回	出産の秋、到来～中宮の姿・朝霧の中の贈答～道長の威風・しめやかなる夕暮れ～若き頼通の雅		
	【予習】テキストの「一 出産の秋、到来～中宮の姿」から「三 しめやかなる夕暮れ～若き頼通の雅」までを読む。		60
第3回	八月～待機する貴顕たち・八月二十六日～若宮乳母の美しさ・九月九日朝～中宮の母倫子の気遣い・九月九日夜～兆し		
	【予習】テキストの「四 八月～待機する貴顕たち」から「七 九月九日夜～兆し」までを読む。		60

第4回	九月十日～御産始まる・九月十一日未明～大事を見守る人々	
	【予習】テキストの「八 九月十日～御産始まる」「九 九月十一日未明～大事を見守る人々」を読む。	60
第5回	九月十一日午の刻～男子誕生・九月十一日午後～それぞれの思い	
	【予習】テキストの「十 九月十一日午の刻～男子誕生」「十一 九月十一日午後～それぞれの思い」を読む。	60
第6回	九月十七日～御帳台の彰子・十月十余日まで～好々爺道長・行幸前～沈む心	
	【予習】「十九 九月十七日～御帳台の彰子」「二十一 十月十余日まで～好々爺道長」「二十二 行幸前～沈む心」を読む。	60
第7回	五十日の祝い～酔い乱れる公卿たち・五十日の祝い～道長の野心・五十日の祝い～倫子の不機嫌	
	【予習】テキストの「三十二 五十日の祝い～酔い乱れる公卿たち」から「三十四 五十日の祝い～倫子の不機嫌」までを読む。	60
第8回	十一月上旬～御冊子作り・十一月中旬～物思い・物思い～変わってしまった私	
	【予習】テキストの「三十五 十一月上旬～御冊子作り」から「三十七 物思い～変わってしまった私」までを読む。	60
第9回	中宮女房たちのハンディと問題点～もっと風情を	
	【予習】テキストの「五十二 中宮女房たちのハンディと問題点～もっと風情を」を読む。	60

第10回	消極性の原因・消極性の実害	
	【予習】テキストの「五十三 消極性の原因」「五十四 消極性の実害」を読む。	60
第11回	才女批評～和泉式部と赤染衛門・才女批評～清少納言・そして自己	
	【予習】テキストの「五十五 才女批評～和泉式部と赤染衛門」「五十六 才女批評～清少納言・そして自己」を読む。	60
第12回	人付き合いの極意～「おいらか」への自己陶冶・すべて人はおいらかに～自律こそ処世の鍵	
	【予習】テキストの「五十七 人付き合いの極意～「おいらか」への自己陶冶」「五十八 すべて人はおいらかに～自律こそ処世の鍵」を読む。	60
第13回	漢才の用い方・出家の念願・御文にえ書き続け侍らぬことを～消息体跋文	
	【予習】テキストの「五十九 漢才の用い方」から「六十一 御文にえ書き続け侍らぬことを～消息体跋文」までを読む。	60
第14回	年月日不明記事～源氏の物語と訪問者	
	【予習】テキストの「六十三 年月日不明記事～源氏の物語と訪問者」までを読む。	60
第15回	授業内試験	
	【復習】試験終了後に配布される解答に基づく自己採点。不正解の箇所については、プリント・ノート等を見直して確認すること。	60

授業の方法

講義形式で行います。テキストとプリント、板書をもとに授業を進めてゆきます。

なお、時間の都合で『紫式部日記』の全文を授業で取り上げることはできず、授業内でその回の範囲の本文や現代語訳をすべて音読することもしませんので、予習が不可欠となります。本文（古文）や注が難しくて理解しにくい場合は、現代語訳だけでもよいので、必ず次の範囲に目を通してから授業に臨んでください。

第1回の授業では、授業の内容や進め方などについてガイダンスを行いますので、履修希望者は必ず出席してください。

成績評価の方法

授業内試験75%・平常点（授業への参加状況など）25%によって評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

授業内試験では、『紫式部日記』と作者紫式部、平安時代の女房などについての知っておくべき基礎知識が着実に身についているかどうかを確認します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に予備知識は必要ありませんが、他の平安文学に関する科目とあわせて履修すると、より理解が深まります。

なお、私語は他の履修者の学習の妨げとなりますので、厳に慎んでください。

テキスト

山本淳子 訳注『紫式部日記 現代語訳付き』（角川ソフィア文庫）（角川学芸出版、2010年） 定価1,080円（税込）

参考書

藤岡忠美・中野幸一・犬養廉・石井文夫 校注・訳『和泉式部日記 紫式部日記 更級日記 讃岐典侍日記』（新編日本古典文学全集）（小学館、1994年）

山本利達 校注『紫式部日記 紫式部集』（新潮日本古典集成）（新潮社、1980年）

曾沢太吉・森重敏 著『紫式部日記新釈』（武蔵野書院、1964年）

山本淳子 編『紫式部日記』（角川ソフィア文庫 ビギナーズ・クラシックス 日本の古典）（角川学芸出版、2009年）

福家俊幸 著『紫式部日記の表現世界と方法』（武蔵野書院、2006年）

山本淳子 著『紫式部日記と王朝貴族社会』（和泉書院、2016年）

質問・相談方法等（オフィス・アワー）

授業時およびその前後に随時受けつけます。

科目名	古代日本文学講義 F		
教員名	桜井 宏徳		
科目ナンバー	1251425307	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
『大鏡』を読む 平安時代後期の歴史物語『大鏡』は、藤原道長の栄華へと至る摂関政治史の動向を鋭く見据えながら、従来の物語文学とは一線を画して、政治の世界を力強く生き抜く人びとの姿を対話形式で生き生きと描いた「意欲と行動の文学」です。 この授業では、『大鏡』を多角的に読み解くことを通じて、平安時代の文学に親しむとともに、それを生んだ貴族社会や摂関政治のあり方についても理解を深めることをめざします。			
到達目標			
『大鏡』を学ぶことを通じて、平安時代の物語文学や貴族社会、摂関政治のあり方についての基礎的な知識を身につけること、あわせて『大鏡』について自分自身の考えを記述することができるようになることを目標とします。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	『大鏡』概説（ガイダンスを含む）		
	【予習】シラバスに目を通しておく。		30
第2回	雲林院の菩提講と語り手たちの登場（序）		
	【予習】事前に配布されるテキスト（コピー）を読んでおく。		60
第3回	花山天皇の出家（「六十五代 花山院」）		
	【予習】事前に配布されるテキスト（コピー）を読んでおく。		60

第4回	三条天皇と禰子内親王（「六十七代 三条院」）	
	【予習】事前に配布されるテキスト（コピー）を読んでおく。	60
第5回	藤原時平と菅原道真（「左大臣時平」）	
	【予習】事前に配布されるテキスト（コピー）を読んでおく。	60
第6回	敦明親王の東宮退位（「左大臣師尹」）	
	【予習】事前に配布されるテキスト（コピー）を読んでおく。	60
第7回	中宮安子の嫉妬（「右大臣師輔」）	
	【予習】事前に配布されるテキスト（コピー）を読んでおく。	60
第8回	藤原公季とその母（「太政大臣公季」）	
	【予習】事前に配布されるテキスト（コピー）を読んでおく。	60
第9回	藤原道長の剛胆（「太政大臣道長」）	
	【予習】事前に配布されるテキスト（コピー）を読んでおく。	60

第10回	藤原道長と姉・詮子（「太政大臣道長」）	
	【予習】事前に配布されるテキスト（コピー）を読んでおく。	60
第11回	藤原鎌足・不比等をめぐる伝承（藤原氏物語）／レポート課題発表	
	【予習】事前に配布されるテキスト（コピー）を読んでおく。	60
第12回	藤原道長の母・時姫とその家系（「太政大臣兼家」「太政大臣道長」・藤原氏物語）	
	【予習】事前に配布されるテキスト（コピー）を読んでおく。	60
第13回	大宅世次の夢（藤原氏物語）	
	【予習】事前に配布されるテキスト（コピー）を読んでおく。	60
第14回	醍醐天皇と村上天皇（雑々物語）	
	【予習】事前に配布されるテキスト（コピー）を読んでおく。	60
第15回	歴史語りの終幕（雑々物語）／レポート提出	
	【予習】事前に配布されるテキスト（コピー）を読んでおく。	60

授業の方法

講義形式で行います。テキスト（毎回、次回の範囲のコピーを配布します）とプリント、板書をもとに授業を進めてゆきます。
なお、時間の都合で『大鏡』の全文を授業で取り上げることはできず、授業内でその回の範囲の本文や現代語訳をすべて音読することもしませんので、予習が不可欠となります。本文（古文）や注が難しくて理解しにくい場合は、現代語訳だけでもよいので、必ず次回の範囲に目を通してから授業に臨んでください。
第1回の授業では、授業の内容や進め方などについてガイダンスを行いますので、履修希望者は必ず出席してください。

成績評価の方法

レポート75%・平常点（授業への参加状況など）25%によって評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
レポートは、『大鏡』についての自分の考えが、与えられたテーマに即して論理的かつ具体的に記述されているかどうかを重視して評価します。レポートの課題は、第11回の授業で発表する予定です。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に予備知識は必要ありませんが、他の平安文学に関する科目とあわせて履修すると、より理解が深まります。
なお、私語は他の履修者の学習の妨げになりますので、厳に慎んでください。

テキスト

特定のテキストは指定しません。毎回、次回の範囲のコピーを配布し、テキストとして使用します。

参考書

橘健二・加藤静子 校注・訳『大鏡』（新編日本古典文学全集）（小学館、1996年）
永井路子『大鏡』（古典を読む）（岩波書店、1984年）
渡辺実『大鏡の人びと 行動する一族』（中公新書）（中央公論社、1987年）
加藤静子『王朝歴史物語の生成と方法』（風間書房、2003年）
福長進『歴史物語の創造』（笠間書院、2011年）
桜井宏徳『物語文学としての大鏡』（新典社、2009年）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業時及びその前後に随時受け付けます。

科目名	中世日本文学講義 A		
教員名	清水 由美子		
科目ナンバー	1251425401	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
軍記文学や説話文学に見られる「夢」を読み解く。 中世と総称される時代に生きた人々は、現代人の理解を超えた、様々な「不思議」に囲まれた世界に生きていたと言えるだろう。その中世の文学を代表するジャンルである軍記文学の諸作品は、史実として認められる戦乱をテーマにしているのであるが、一方でそうした非現実的なできごとを描いた記述も多く持つ。また、当時の人々の間に広まっていた話や伝承をまとめたとされる説話文学の諸作品にも、現実にはあり得ないものが活躍する場面が多く見られる。本講義では、それら軍記文学と説話文学作品を中心に、そこで語られる中世の人々にとっては身近だったと思われる非現実的な世界を、夢というモチーフに注目することで読み解き、中世文学の真髓に触れ、また、中世の人々の精神世界に迫ることを目的とする。			
到達目標			
①「夢」にまつわる記事を読むことを通して、中世散文文学の代表的な作品の文章に親しみ、また諸作品についての知識を広める。 ②「夢」をめぐる話の読解から、現代人と中世の人々との本質的な違いまたは変わらない点を考え、その背景にある歴史的な事情や宗教の影響を考察することで、日本人の精神の歴史やそれを映してきた文学作品に対する認識を深める。 ③基本的に講義形式だが、本文の音読、現代語訳などを課題として課し、古文読解力を高めることも目指す。 ④他の学生の意見を聞くことで、物事に対する多様な見方を習得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	授業ガイダンス 「中世」という時代の定義、中世社会の様相、中世文学の特徴など		
	シラバスを読んでおく。配布プリントを確認しておく。		60
第2回	軍記文学概説、説話文学概説		
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。		60
第3回	夢とは。現代社会における夢について		
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。		60

第4回	古代の夢と中世の夢の違い① 誰が夢を見るか？	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60
第5回	古代の夢と中世の夢の違い② どこで夢を見るか？	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60
第6回	夢の中で姿をあらわす神々	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60
第7回	『平家物語』における夢① 平家の運命と政権の行方を告げる夢。	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60
第8回	『平家物語』における夢② 夫の死を予告する夢を見るのは妻の役目か。	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60
第9回	『平家物語』における夢③ 太陽と月を手に入れる夢の暗示すること。	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60

第10回	『平家物語』における夢④ 夢を買った女。	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60
第11回	夢解きと夢語り	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60
第12回	説話集における夢の話① 『今昔物語集』から	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60
第13回	説話集における夢の話② 『宇治拾遺物語集』などから	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60
第14回	明恵と夢	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。到達度確認テストの準備をする。	120
第15回	到達度確認・補足・総括	
	前期の内容のふりかえり。	60

授業の方法

基本的には講義形式で行う。ただし、本文の音読や現代語訳を指名してやってもらう、または、意見や質問への解答などの発言も求める。授業の最後には、コメントを記入し提出する。次回はそれへの対応から授業を開始するなど、なるべく双方向の授業をめざすつもりである。

成績評価の方法

到達度確認試験（50%）、リアクションペーパーの内容や発言内容、適宜課す課題への取り組みなど（50%）を総合して評価する。また、3分の2以上の出席が必須。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

適宜、レジュメを配布する。

参考書

適宜、授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	中世日本文学講義B		
教員名	清水 由美子		
科目ナンバー	1251425402	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
日本文学にあらわれる魔物・蛇・龍・天狗・妖怪たちを考える。 日本の文学や絵画の重要なモチーフに、冥界に住むものたちがいる。現代でもアニメやゲームの題材とされるもののルーツとも言えよう。こうしたものを、古代、中世の日本人は、あるときは畏怖の対象とし、あるときは親しみを持って、あるときは教訓を示すものとして身近に感じていた。本講義では、主に、中世の軍記文学や説話諸作品を題材にして、魔物・地獄に住む者・蛇・龍・天狗などがどのように語られているのかを見ていく。また、そうしたことを通して、中世の人々の精神生活に触れ、それを描いた古代から中世の日本の古典文学の真髄に触れる。			
到達目標			
①魔物、龍、天狗などが登場する記事を読むことを通して、中世散文文学の代表的な作品の文章に親しみ、また諸作品についての知識を広める。 ②魔物、龍、天狗などをめぐる話の読解から、現代人と中世の人々との本質的な違いまたは変わらない点を考え、その背景にある歴史的な事情や宗教の影響を考察することで、日本人の精神の歴史やそれを映してきた文学作品に対する認識を深める。 ③他の学生の意見を聞くことで、物事に対する多様な見方を習得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	授業ガイダンス 地獄からの手紙 将門の場合		
	シラバスを読んでおく。配布プリントを確認しておく。		60
第2回	地獄を巡った者たち 日蔵上人や建礼門院徳子の見たもの。		
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。		60
第3回	魔道に堕ちた者たち① 頼豪の祟り		
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。		60

第4回	魔道に堕ちた者たち② 崇徳院の祟り	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60
第5回	御霊信仰とは	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60
第6回	蛇の話① 中世に語られた三輪山伝説	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60
第7回	蛇の話② 説話の世界での蛇	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60
第8回	龍をめぐる① 龍の正体は何か。	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60
第9回	龍をめぐる② 龍に囲まれた日本の国土	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60

第10回	龍をめぐる③ 『平家物語』で語られる龍の意味	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60
第11回	龍をめぐる④ 説話の世界での様々な龍	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60
第12回	天狗をめぐる① 天狗の姿の変貌	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60
第13回	天狗をめぐる② 『太平記』に登場する天狗	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。指示に従って次回の準備をする。	60
第14回	御伽草子に登場する妖怪たち	
	配布プリントの確認と今回のキーワードの確認をする。到達度確認テストの準備をする。	120
第15回	到達度確認・補足・総括	
	半期のふりかえりを行う。	60

授業の方法

基本的には講義形式で行う。ただし、本文の音読や現代語訳を指名してやってもらう、または、意見や質問への解答などの発言も求める。授業の最後には、コメントを記入し提出する。次回はそれへの対応から授業を開始するなど、なるべく双方向の授業をめざすつもりである。

成績評価の方法

到達度確認試験（50%）、リアクションペーパーの内容や発言内容、適宜課す課題への取り組みなど（50%）を総合して評価する。また、3分の2以上の出席が必須。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

適宜、レジュメを配布する。

参考書

適宜、授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	中世日本文学講義 C		
教員名	石澤 一志		
科目ナンバー	1151425403	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
中世韻文史概説。「中世」という時代の始まりから説き起こし、韻文の展開を中心に据えて、中世文学とその時代を概観する。和歌・連歌・歌謡、そして漢詩文がその中心となるが、本講義では、和歌の歴史とその時代展開を中心として講義する。			
到達目標			
上代・中古からの流れを承け、近世へとつながっていく、日本文学に於ける韻文史を理解することを目標とする。 猶、本講義では、鎌倉時代までを中心にしていきたい。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	「中世」という時代とその文学		
	高校までの日本史における中世について（予習・復習）	30	
第2回	「中世」の始まり ―後三条・白河の文事―		
	院政期概略について（予習・復習）	30	
第3回	白河院と堀河天皇、二つの勅撰集『後拾遺和歌集』『金葉和歌集』		
	院政期概略について（予習・復習）特に白河院政期について	30	

第4回	鳥羽と崇徳と『詞花和歌集』	
	鳥羽院政について（予習・復習）	30
第5回	後白河院 『梁塵秘抄』と『千載和歌集』	
	平家物語の時代（予習・復習）	30
第6回	『平家物語』と和歌	
	平家物語の時代（予習・復習）	30
第7回	俊恵・源頼政、歌林苑に集う人々	
	平家物語の時代（予習・復習）	30
第8回	西行 —佐藤兵衛尉義清—	
	平家物語の時代（予習・復習）	30
第9回	俊成・定家 —御子左家をめぐって	
	百人一首について（予習・復習）	30

第10回	後鳥羽院と和歌 ―『新古今和歌集』前夜	
	百人一首について（予習・復習）	30
第11回	『新古今和歌集』の成立	
	鎌倉時代の始まりについて（予習・復習）	30
第12回	源実朝と関東歌壇	
	鎌倉時代前期の政治状況（予習・復習）	30
第13回	『新古今和歌集』その後 後鳥羽院・定家・家隆、百人一首と時代不同歌合をめぐって	
	承久の乱前後・百人一首について（予習・復習）	30
第14回	『新勅撰和歌集』とその周辺	
	承久の乱後の政治情勢（予習・復習）	30
第15回	まとめ 中世和歌史 前半部分	
	前期講義内容の復習	120

授業の方法

講義形式で進める。板書するだけではないので、自分で講義内容を判断してまとめ、メモをとり、ノートを作成すること。

成績評価の方法

小テスト（講義内で適宜実施）の成績、定期試験、講義への取り組み・貢献度を、総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本史・美術史・書道史について、あらかじめ目を通しておくとよい。

テキスト

必要な資料については、講義中に適宜配布する。

参考書

風巻景次郎『中世の文学伝統』（岩波文庫・著作集にもあり）そのほか、適宜講義中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	中世日本文学講義D		
教員名	石澤 一志		
科目ナンバー	1151425404	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
中世韻文史概説。「中世」という時代の始まりから説き起こし、韻文の展開を中心に据えて、中世文学とその時代を概観する。和歌・連歌・歌謡、そして漢詩文がその中心となるが、中でも和歌の時代展開を柱として講義する。			
到達目標			
上代・中古からの流れを承け、近世へとつながっていく、日本文学に於ける韻文史を理解することを目指す。 猶、本講義では、鎌倉時代時代と南北朝・室町時代前期までを中心にしていきたい。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	「中世」という時代とは ―中世の始発と『新古今和歌集』とその後		
	鎌倉時代通じての政治的背景（予習・復習）	30	
第2回	『新勅撰和歌集』と定家・後鳥羽院		
	鎌倉時代初期の政治状況（予習・復習）	30	
第3回	『続後撰和歌集』と『続古今和歌集』 ―為家と反為家の動き		
	鎌倉時代前期の政治的背景（予習・復習）	30	

第4回	『続拾遺和歌集』と為氏	
	鎌倉時代中期の政治的背景（予習・復習）	30
第5回	両統迭立と和歌① 二条派と京極派和歌	
	鎌倉時代後期の政治的背景（予習・復習）	30
第6回	両統迭立と和歌② 『新後撰和歌集』・『玉葉和歌集』、そして『続千載和歌集』	
	鎌倉時代後期の政治的背景（予習・復習）	30
第7回	両統迭立と和歌③ 『続後拾遺和歌集』と『風雅和歌集』	
	鎌倉時代後期から南北朝期の政治的背景（予習・復習）	30
第8回	南北朝時代の和歌連歌 『新千載和歌集』と『菟玖波集』	
	鎌倉時代後期から南北朝期の政治的背景（予習・復習）	30
第9回	南北朝時代の和歌 ―二条家の断絶と二条派	
	鎌倉時代後期から南北朝期の政治的背景（予習・復習）	30

第10回	連歌の歴史、漢詩文の隆盛と和漢連句	
	鎌倉時代後期から南北朝期の政治的背景（予習・復習）	30
第11回	飛鳥井家の勅撰和歌集『新続古今和歌集』と冷泉家	
	室町時代前期の政治的背景（予習・復習）	30
第12回	二条派・冷泉派の拮抗 ―堯孝と正徹	
	室町時代前期の政治的背景（予習・復習）	30
第13回	応仁・文明の乱と和歌・連歌 ―古今伝授の開始と展開	
	室町時代後期の政治的背景（予習・復習）	30
第14回	室町時代後期の和歌から近世の和歌へ	
	室町時代後期の政治的背景（予習・復習）	30
第15回	まとめ ―中世和歌史と韻文史	
	後期講義内容の復習	120

授業の方法

講義形式で進める。板書するだけではないので、自分で講義内容を判断してまとめ、メモをとり、ノートを作成すること。

成績評価の方法

小テスト（講義内で適宜実施）の成績、定期試験、講義への取り組み・貢献度を、総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本史・美術史・書道史などの文化史全般について、あらかじめ目を通しておくとよい。

テキスト

必要な資料については、講義中に適宜配布する。

参考書

風巻景次郎『中世の文学伝統』（岩波文庫・著作集にもあり）そのほか、適宜講義中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	近世日本文学講義 A		
教員名	安原 眞琴		
科目ナンバー	1251425501	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
江戸文化の二大文化―歌舞伎と遊廊― 江戸文化は、実は京都で誕生しました。 どのような背景から、どのように誕生し、どう発展して、今に至っているのか、 江戸の二大文化を中心に学習していきます。			
到達目標			
日本文化を代表する江戸二大文化の歴史と特徴を説明することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション 授業内容の説明		
	江戸時代の始まりを、いつ、誰が、に注目して調べる。授業後、答え合わせして覚える。	30分	
第2回	江戸時代のはじまり		
	織田信長と豊臣秀吉について簡単に調べる。授業後、2人について覚える。	40分	
第3回	「洛中洛外図」屏風		
	屏風とは何か調べる。授業後、屏風について覚える。	50分	

第4回	京都の地理	
	京都の地理や主要な寺社などについて調べる。授業後、京都の地理を覚える。	60分
第5回	「洛中洛外図」屏風に描かれた京都を見る	
	洛中洛外図屏風に何がどのように描かれているのかを調べる。授業後それを覚える。	60分
第6回	江戸の二大文化	
	「二大悪所」について調べる。授業後それを覚える。	60分
第7回	風流	
	風流（ふりゅう）について調べる。授業後それを覚える。	80分
第8回	かぶき者	
	かぶき者について調べる。授業後それを覚える。	80分
第9回	歌舞伎	
	歌舞伎について調べる。授業後それについて覚える。	80分

第10回	浄瑠璃	
	浄瑠璃について調べる。授業後それについて覚える。	80分
第11回	遊廓の誕生	
	遊廓について調べる。授業後それについて覚える。	80分
第12回	三都の遊廓とその歴史	
	吉原について調べる。授業後それについて覚える。	80分
第13回	浮世絵	
	浮世絵について調べる。授業後それについて覚える。	80分
第14回	草双紙	
	草双紙について調べる。授業後それについて覚える。	80分
第15回	まとめ	
	まとめ	80分

授業の方法

主に講義形式だが、画像や動画を見るなどアクティブラーニングも取り入れる。

成績評価の方法

リアクションペーパー 40%、期末レポート 40%、宿題または中間レポート 20%。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

授業で指示する。

参考書

洛中洛外図屏風（舟木本）e国宝（webサイト）
奥平俊六『洛中洛外図 舟木本―町のにぎわいが聞こえる』（小学館、2001年）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。
安原真琴公式サイトからもコンタクト可能です。
<http://www.makotooffice.net/>

科目名	近世日本文学講義B		
教員名	安原 眞琴		
科目ナンバー	1251425502	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
場所（トボス）を軸に、文化（カルチャー）を知る。 2020年に東京でオリンピックが開催されますね。それに伴い、日本文化への関心が高まっています。でも私たちは、「東京」の歴史や文化をあまり知りません。そこで、改めて「東京」に注目し、エリアごとに町の特徴や、そこで形成された文化について学習したいと思います。			
到達目標			
東京の町の歴史や文化が説明できるようになり、江戸／東京を舞台にした文学作品の読解にも役立てられる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション 授業の概要説明		
	「東京の地図」を1枚コピーし、JR山手線の駅に赤丸を付ける。授業後、各駅のおよその位置を覚える。	30分	
第2回	東京の成り立ち		
	いまの東京の土台を、いつ、誰が作ったか調べる。授業後、どんな性質の町だったのか覚える。	40分	
第3回	水の都		
	「東京の地図」の神田川を水色で塗る。授業後、神田川に実際に行ってみる。	40分	

第4回	上野エリア	
	上野公園の歴史を調べる。授業後、その歴史を覚える。	40分
第5回	上野エリア	
	上野公園の歴史のうち、1つに注目し、詳しく調べる。授業後、実際に行って見学あるいは体験してくる。	60分
第6回	日本橋エリア	
	日本橋の歴史を調べる。授業後、日本橋の歴史を覚える。	60分
第7回	秋葉原・神田エリア	
	秋葉原・神田の歴史を調べる。授業後、その歴史を覚える。	60分
第8回	両国エリア	
	両国の歴史を調べる。授業後、その歴史を覚える。	60分
第9回	浅草エリア	
	浅草の歴史を調べる。授業後、その歴史を覚える。	60分

第10回	浅草エリア	
	浅草の歴史を調べる。授業後、その歴史を覚える。	60分
第11回	吉原エリア	
	吉原の歴史を調べる。授業後、その歴史を覚える。	60分
第12回	吉原エリア	
	吉原の歴史を調べる。授業後、その歴史を覚える。	60分
第13回	武家地と郊外地	
	巣鴨、池袋、四谷、東京、汐留、原宿、青山、新宿などの各町の歴史を調べる。授業後、その歴史を覚える。	60分
第14回	武家地と郊外地	
	巣鴨、池袋、四谷、東京、汐留、原宿、青山、新宿などの各町の歴史を調べる。授業後、その歴史を覚える。	60分
第15回	まとめ	
	今までのノートやリアクションペーパーを見直す。	120分

授業の方法

主に講義形式だが、画像や映像を用いたアクティブラーニングを取り入れる。

成績評価の方法

リアクションペーパー40%、期末レポート30%、宿題30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

安原真琴『東京おいしい老舗散歩』（東海教育研究所、2017年、1800円）

参考書

安原真琴『東京の老舗を食べる』（亜紀書房、2016年、1600円）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

その他、安原真琴公式サイトURLからもコンタクト可能です。

<http://www.makotooffice.net/>

科目名	近・現代日本文学講義 A		
教員名	松村 友視		
科目ナンバー	1251425601	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
「鴎外文学とその時代」をテーマとする。 近代日本文学においてその成立期からつねに先導的な役割を果たした森鴎外の文学世界は、同時代の社会や思想との関わりにおいても重要な意味を担っており、近代日本の抱えたさまざまな問題をそこに見出すことができる。 本講義では、夏目漱石との比較などを視野に入れつつ、森鴎外の作品系譜をたどりながら、それぞれの時代状況・文化状況との関わりを考える。 前期は、初期から明治末年までの鴎外文学の軌跡を辿る。			
到達目標			
①森鴎外の作品系譜を視座として近代文学を捉え返し、同時代の社会状況・文化状況との関連の中にそれを位置づける視野をもつこと。 ②近代日本文学を論ずるための自分自身の観点や問題意識を身につけること。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	留学まで 夏目漱石と比較しながら森鴎外のドイツ留学までの事跡をたどり、近代日本における知識人の起点について考える。		
	留学までの鴎外の事跡の概要を把握しておく。		60
第2回	鴎外の西洋体験 ドイツ留学を通じた西欧文化との出会いが鴎外の思想形成および文学の成立にもたらしたものの意味を考察する。		
	鴎外のドイツ留学の概要を確認しておく。		60
第3回	漱石の西洋体験 森鴎外と比較すると対照的な夏目漱石のロンドン留学体験を位置づけ、近代知識人にとっての西洋体験のもつ意味を考える。		
	漱石のロンドン留学の概要を確認しておく。		60

第4回	ドイツ思想の受容 ドイツ留学時代の鷗外が医学研究のかたわら受容した西洋思想は、生涯にわたって医学と文学の双方に関わり続けた鷗外の基盤をなしている。その思想受容の意味を考える。	
	「妄想」を読んでおく。	60
第5回	「ドイツ三部作」の世界Ⅰ 「舞姫」を取り上げ、鷗外文学およびロマン主義文学の起点としての位置づけについて考える。	
	「舞姫」を読んでおく。	60
第6回	「ドイツ三部作」の世界Ⅱ 「うたかたの記」を取り上げ、鷗外において近代的な自我意識に担う意味について考える。	
	「うたかたの記」を読んでおく。	60
第7回	「ドイツ三部作」の世界Ⅲ 「文づかひ」を取り上げ、家制度の中での個の位置づけについて考察する。	
	「文づかひ」を読んでおく。	60
第8回	小倉左遷と倫理への模索 小倉左遷時代に鷗外が示した利他的な思想への関心の具体的様相を確認し、その後の活動を視野に入れつつ、その意味を考える。	
	小倉左遷時代の鷗外の事跡を確認しておく。	60
第9回	鷗外／漱石と日露戦争 日露戦争に対する鷗外と漱石の位相の差を視野に入れ、近代知識人にとっての日露戦争の位置づけについて考える。	
	日露戦争と文学者たちとの関わりの様相を確認しておく。	60

第10回	文壇復帰の背景 夏目漱石の登場など、鷗外に文壇復帰を促した同時代の文学状況を確認し、短篇「半日」の位置を考察する。	
	「半日」を読んでおく。	60
第11回	他者へのまなざし 鷗外の文学的な視線が描き出した他者との関係性とその意味を、戯曲「仮面」、短篇「鶏」を通して考える。	
	「仮面」を読んでおく。	60
第12回	鷗外における〈書くこと〉の意味 同時代の自然主義文学の流行を視野に、鷗外が自らの文学に託そうとしたものについて考える。	
	「キタ・セクスアリス」を読んでおく。	60
第13回	科学と魂Ⅰ 自然科学と人間の魂との関わりに対する鷗外の関心について、「里芋の芽と不動の目」「金比羅」を対象に考察する。	
	「金比羅」を読んでおく。	60
第14回	科学と魂Ⅱ 自然科学と人間の魂との関わりに対する鷗外の関心について、「蛇」「鼠坂」を対象に考察する。	
	「蛇」を読んでおく。	60
第15回	到達度確認テスト これまでの講義内容についての理解度を確認するためのテスト。	
	到達度テストに備え、これまでの講義内容について自分自身の観点から記述できるようにしておく。	180

授業の方法

授業は講義形式で行う。作品本文の抜萃や関連文献からの引用を記載した資料を毎回配布し、それに基づきながら講義を進める。対象作品をあらかじめ読んでおくことが望ましい。

成績評価の方法

平常点（30%）、到達度確認テスト（70%）を基本に総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

近代日本文学史に関する基本的な知識をもっていることが望ましい。

テキスト

毎回、講義資料を配布する。

参考書

必要に応じて講義中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	近・現代日本文学講義B		
教員名	松村 友視		
科目ナンバー	1251425602	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
「鴎外文学とその時代」をテーマとする。 近代日本文学においてその成立期からつねに先導的な役割を果たした森鴎外の文学世界は、同時代の社会や思想との関わりにおいても重要な意味を担っており、近代日本の抱えたさまざまな問題をそこに見出すことができる。 本講義では、夏目漱石との比較などを視野に入れつつ、森鴎外の作品系譜をたどりながら、それぞれの時代状況・文化状況との関わりを考える。 後期は前期を引き継ぐ形で明治末年から晩年までの作品を扱う。			
到達目標			
①森鴎外の作品系譜を視座として近代文学を捉え返し、同時代の社会状況・文化状況との関連の中にそれを位置づける視野をもつこと。 ②近代日本文学を論ずるための自分自身の観点や問題意識を身につけること。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	同時代との距離Ⅰ 同時代状況に対する鴎外の違和と距離の感覚を「普請中」「あそび」を対象に考える。		
	「普請中」を読んでおく。		60
第2回	同時代との距離Ⅱ 同時代状況に対する鴎外の違和の感覚を「百物語」「あそび」を対象に考える。		
	「百物語」を読んでおく。		60
第3回	鴎外／漱石と大逆事件 夏目漱石や同時代文学者との比較を視野に、鴎外と大逆事件との関係を跡づけ、その文学的な反映について考える。		
	大逆事件に対する文学者たちの反応の様相を確認しておく。		60

第4回	「青年」の模索 長篇「青年」に託されたさまざまな模索について、同時代状況を視野に入れつつ考察する。	
	「青年」の内容を確認しておく。	60
第5回	女性表象と「雁」 長篇「雁」の語りの構造に着目し、その構造に託された女性表象の意味を考える。	
	「雁」の内容を確認しておく。	60
第6回	思想的模索のゆくえ 「灰燼」「妄想」を取り上げ、そこに託された思想的模索のゆくえを考える。	
	「灰燼」の内容を確認しておく。	60
第7回	五条秀麿ものⅠ 五条秀麿を主人公に、同時代の社会状況の中で人間の心のありようを模索する連作から「かのやうに」などを取り上げ、そこに託された鷗外のメッセージについて考える。	
	「かのやうに」を読んでおく。	60
第8回	五条秀麿ものⅡ 五条秀麿を主人公に、同時代の社会状況の中で人間の心のありようを模索する連作から「鋸一下」などを取り上げ、そこに託された鷗外のメッセージについて考える。	
	「鋸一下」を読んでおく。	60
第9回	乃木殉死と鷗外 乃木希典の殉死事件以後、鷗外はすべての作品の舞台を歴史的時代にするようになる。 鷗外文学に決定的な変容をもたらした乃木殉死事件の意味を考える。	
	乃木希典の殉死事件とその反響の様相を確認しておく。	60

第10回	歴史小説Ⅰ 「興津弥五右衛門の遺書」「阿部一族」を対象に、一連の歴史小説に託された同時代的な意味を考察する。	
	「興津弥五右衛門の遺書」を読んでおく。	60
第11回	歴史小説Ⅱ 「護持院原の敵討」などを対象に、一連の歴史小説に託された同時代的な意味を考察する。	
	「護持院原の敵討」を読んでおく。	60
第12回	歴史小説Ⅲ 「大塩平八郎」「堺事件」を対象に、一連の歴史小説に託された同時代的な意味を考察する。	
	「堺事件」を読んでおく。	60
第13回	歴史小説Ⅳ 「安井夫人」「山椒大夫」などを対象に、歴史小説に描かれた女たちの生き方に託された主題を考える。	
	「安井夫人」を読んでおく。	60
第14回	史伝の世界 鷗外の文学的営為が最後に行き着いた「史伝」の位置づけについて考える。	
	「渋江抽斎」の作品内容を確認しておく。	60
第15回	到達度確認テスト これまでの講義内容についての理解度を確認するためのテスト。	
	到達度テストに備え、これまでの講義内容について自分自身の観点から記述できるようにしておく。	180

授業の方法

授業は講義形式で行う。作品本文の抜萃や関連文献からの引用を記載した資料を毎回配布し、それに基づきながら講義を進める。対象作品をあらかじめ読んでおくことが望ましい。

成績評価の方法

平常点（30%）、到達度確認テスト（70%）を基本に総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

近代日本文学史に関する基本的な知識をもっていることが望ましい。

テキスト

毎回、講義資料を配布する。

参考書

必要に応じて講義中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	近・現代日本文学講義C		
教員名	井上 隆史		
科目ナンバー	1251425603	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
大江健三郎を読むー日本を代表する作家のひとりである大江の代表作を読んでゆきます。			
到達目標			
日本文学史、世界文学史の中での大江の位置づけについて考察した上で、これからの文学の可能性を展望します。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	導入ー文学とは何か		
	文学のみならず、歴史、思想にの幅広い関心を持ってください。		60
第2回	大江健三郎について		
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。		60
第3回	初期短編①		
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。		60

第4回	初期短編②	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第5回	『芽むしり仔撃ち』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第6回	『日常生活の冒険』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第7回	『個人的な体験』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第8回	『万延元年のフットボール』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第9回	『みずから我が涙をぬぐいたまう日』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60

第10回	『同時代ゲーム』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第11回	『「雨の木」（レイン・ツリー）を聴く女たち』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第12回	『M/Tと森のフシギの物語』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第13回	『懐かしい年への手紙』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第14回	『取り替え子』／『憂い顔の童子』／『さようなら、私の本よ!』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第15回	総括	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60

授業の方法

講義形式で行います。適宜資料を配布します。

成績評価の方法

レポートを課し、成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠して評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

適宜資料を配布します。

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	近・現代日本文学講義D		
教員名	井上 隆史		
科目ナンバー	1251425604	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
村上春樹を読むー日本を代表する作家のひとりである村上春樹の代表作を読んでゆきます。			
到達目標			
日本文学史、世界文学史の中での村上春樹の位置づけについて考察した上で、これからの文学の可能性を展望します。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
第1回	導入ー文学とは何か		
	文学のみならず、歴史、思想にの幅広い関心を持ってください。		60
第2回	村上春樹について		
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。		60
第3回	『風の歌を聴け』		
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。		60

第4回	『1973年のピンボール』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第5回	『羊をめぐる冒険』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第6回	『世界の終わりとハードボイルドワンダーランド』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第7回	『ノルウェイの森』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第8回	『国境の南、太陽の西』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第9回	『ねじまき鳥クロニクル』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60

第10回	『スプートニクの恋人』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第11回	『海辺のカフカ』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第12回	『1Q84』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第13回	『色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の旅』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第14回	『騎士団長殺し』	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60
第15回	総括	
	クラスフォーラムなどで事前に指示します。	60

授業の方法

講義形式で行います。

成績評価の方法

レポートを課し、成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠して評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

適宜資料を配布します。

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	日本語・日本文学総合テーマ講義C		
教員名	浅見 和彦		
科目ナンバー	1151426103	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
中世の隠者文学を深める			
到達目標			
西行、長明、兼好などを理解する			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	はじめに		
	中世文学史を理解する	60	
第2回	西行の世界(1)		
	山家集を読む	60	
第3回	西行の世界(2)		
	山家集を読む	60	

第4回	西行の世界(3)	
	山家集を読む	60
第5回	西行の世界(4)	
	山家集を読む	60
第6回	日本文学の総合講義	
	中世文学を読む	60
第7回	長明の世界(1)	
	方丈記を読む	60
第8回	長明の世界(2)	
	方丈記を読む	60
第9回	長明の世界(3)	
	方丈記を読む	60

第10回	長明の世界(4)	
	方丈記を読む	60
第11回	日本文学の総合講義	
	中世文学を読む	60
第12回	兼好の世界(1)	
	徒然草を読む	60
第13回	兼好の世界(2)	
	徒然草を読む	60
第14回	兼好の世界(3)	
	徒然草を読む	60
第15回	まとめと試験	
	徒然草を考える	60

授業の方法

中世の隠者文学を読む。古典と京都の関わりも考察する。毎時、1週間の出来事について新聞等を使い、解説する。教室への入室は開始後10分まで。その後の入室はぜひ遠慮してほしい。授業途中の入場や無断の途中退室は授業の障碍となるので控えてください。名前が判明次第、適切な措置をとります。

成績評価の方法

授業内試験を重視（ほぼ100%）するので、必ず授業内試験は受験すること。未受験の場合は単位を認定することはできないので注意してほしい。不合格者が出ることも少なからず、一所懸命勉強してほしい。なお、現地調査をお願いすることもあります。前期・後期それぞれ1、2回レポートの提出（手書きに限定）あり。専用用紙を配布、期限内に必ず提出すること、提出のない場合、単位認定の資格を失うので、充分注意してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

西行全歌集（岩波文庫）

参考書

方丈記（ちくま学芸文庫）、徒然草（角川ソフィア文庫）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本語・日本文学総合テーマ講義D		
教員名	浅見 和彦		
科目ナンバー	1151426104	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
中世の隠者文学を深める			
到達目標			
長明、西行、兼好を中心に知識を得る			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	はじめに		
	西行の基礎を知る	60	
第2回	山家集(1)		
	西行の理解	60	
第3回	山家集(2)		
	西行の理解	60	

第4回	山家集（3）	
	西行の理解	60
第5回	日本文学の総合講義	
	日本文学の理解	60
第6回	方丈記（1）	
	長明の理解	60
第7回	方丈記（2）	
	長明の理解	60
第8回	徒然草（1）	
	兼好の理解	60
第9回	徒然草（2）	
	兼好の理解	60

第10回	徒然草（3）	
	兼好の理解	60
第11回	徒然草（4）	
	兼好の理解	60
第12回	徒然草（5）	
	兼好の理解	60
第13回	徒然草（6）	
	兼好の理解	60
第14回	日本文学の総合講義	
	日本文学の理解	60
第15回	まとめと試験	
	兼好を理解する	60

授業の方法

西行、長明、兼好を読む。毎時、1週間の出来事を新聞等を使いながら解説する。
教室への入室は開始後10分まで。その後の入室はぜひ遠慮してほしい。授業途中の入場や無断の途中退室は授業の障碍となるので控えてください。名前が判明次第、適切な措置をとります。

成績評価の方法

授業内試験を重視（ほぼ100%）するので、必ず授業内試験は受験すること。未受験の場合は単位を認定することはできないので注意してほしい。不合格者が出ることも少なからず、一所懸命勉強してほしい。なお、現地調査をお願いすることもあります。前期・後期それぞれ1、2回レポートの提出（手書きに限定）あり。専用紙を配布、期限内に必ず提出すること、提出のない場合、単位認定の資格を失うので、充分注意してください。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

徒然草（角川ソフィア文庫）

参考書

西行全歌集（岩波文庫）、方丈記（ちくま学芸文庫）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本漢文学 A		
教員名	山口 旬		
科目ナンバー	1251426201	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
江戸漢詩文入門（漢詩篇）として江戸時代の漢詩を取り上げる。全体を三章に分け、第一章ではその読解の留意点を理解し実践する。第二章では江戸漢詩の幾つかの分野についてその多様な特色の一端を理解し読解法を応用する。第三章では江戸の流行詩人大窪詩仏の詩を時代順に読解しその詩の性質や詩風の展開を学ぶ。			
到達目標			
①漢詩の読解法を理解し実践する。 ②江戸時代の漢詩の特色を理解する。 ③江戸時代の詩人の活動を理解する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	第一章 江戸漢詩の読み方（１）注釈的読解 広瀬淡窓		
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60	
第2回	第一章 江戸漢詩の読み方（２）解釈的読解と批判的読解 広瀬淡窓		
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60	
第3回	第二章 江戸漢詩アンソロジー・叙景詩（１）格調派の方法 石川丈山と服部南郭		
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60	

第4回	第二章 江戸漢詩アンソロジー・叙景詩（2）清新派の方法 六如と菅茶山	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60
第5回	第二章 江戸漢詩アンソロジー・日常詠と題詠（1）清新派の展開 菊池五山と頼山陽	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60
第6回	第二章 江戸漢詩アンソロジー・日常詠と題詠（2）詩人の技術の展開 大沼枕山と大槻磐溪	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60
第7回	第二章 江戸漢詩アンソロジー・艶麗詩（1）女流・階層の拡大 江馬細香	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60
第8回	第二章 江戸漢詩アンソロジー・艶麗詩（2）題材の拡大 市河寛斎と柏木如亭	
	【予習】江戸詩人選集 第五巻『市河寛斎・大窪詩仏』の大窪詩仏の解説の項と年譜を読む。	60
第9回	第三章 江戸の流行詩人・大窪詩仏（1）最初の詩集『卜居集』詩の修行	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60

第10回	第三章 江戸の流行詩人・大窪詩仏（2）若き日の詩論『詩聖堂詩話』格調から清新へ	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60
第11回	第三章 江戸の流行詩人・大窪詩仏（3）詠物詩の出発『詩聖堂詩集初編』詠物の詩	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60
第12回	第三章 江戸の流行詩人・大窪詩仏（4）流行詩人としての活躍『詩聖堂詩集二編』応酬の詩	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60
第13回	第三章 江戸の流行詩人・大窪詩仏（5）遊歴の旅『西遊詩草』旅の詩	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60
第14回	第三章 江戸の流行詩人・大窪詩仏（6）晩年の生活『詩聖堂詩集三編』晩年の日常詠	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60
第15回	終章 まとめ	
	【復習】第一章の江戸漢詩の読み方のプリントを再読し、それを念頭に置いて第二章・第三章の資料を読み直す。	90

授業の方法

授業は講義形式で進め必要に応じて練習の時間を設ける。

成績評価の方法

平常点 50%と学期末に課する筆記試験またはレポートの成績 50%とで総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

授業時に資料を配布する。

参考書

漢詩一般として、一海知義『漢詩入門』岩波ジュニア新書、松浦友久『漢詩 美の在りか』岩波新書、江戸漢詩理解に、中村真一郎『江戸漢詩』岩波同時代ライブラリー、富士川英郎『江戸後期の詩人たち』東洋文庫、論文集として、揖斐高『江戸詩歌論』汲古書院、文学理論的理解に、川本皓嗣『日本詩歌の伝統』岩波書店、安良岡康作『文芸作品研究法』笠間書院などがある。各詩人の作品を読むには、『江戸詩人選集（各巻）』岩波書店、江馬細香は『江戸漢詩選3女流』岩波書店、菊池五山は揖斐高『江戸の詩壇ジャーナリズム』角川書店、柏木如亭は『柏木如亭詩集1・2』（平凡社東洋文庫）がある。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本漢文学B		
教員名	山口 旬		
科目ナンバー	1251426202	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
江戸漢詩文入門（漢文篇）として江戸時代の漢文（散文）を取り上げる。全体を三章に分け、第一章では江戸期の漢文を文芸作品として読む方法を理解し実践する。第二章では江戸漢文から特色ある作品を数編取り上げ読解法を応用する。第三章では江戸詩壇を主導した漢詩批評誌『五山堂詩話』を章段の性質ごとに読解して詩話中の詩人や漢詩をめぐる世界を学ぶ。			
到達目標			
①漢文の読解法を理解し実践する。 ②江戸時代の漢文の特色を理解する。 ③江戸時代の漢詩壇の構造を理解する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	第一章 江戸漢文の読み方（１）注釈、解釈、批判の応用		
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60	
第2回	第一章 江戸漢文の読み方（２）短文数章の読解		
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60	
第3回	第二章 江戸漢文アンソロジー・随筆（１）服部南郭『大東世語』歴史エピソード集		
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60	

第4回	第二章 江戸漢文アンソロジー・随筆（2）中根香亭『香亭雅談』江戸文人のエピソード集	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60
第5回	第二章 江戸漢文アンソロジー・紀行文（1）齋藤拙堂『月瀬記勝』名所の発見	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60
第6回	第二章 江戸漢文アンソロジー・紀行文（2）安積良斎『良斎文略』学者の登山	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60
第7回	第二章 江戸漢文アンソロジー・戯作 寺門静軒『江戸繁昌記』江戸の生活	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60
第8回	第三章 『五山堂詩話』に見る江戸漢詩の世界（1）菊池五山の自伝的章段	
	【予習】新日本古典大系65『日本詩史 五山堂詩話』の「五山堂詩話解説」の項を読む。	90
第9回	第三章 『五山堂詩話』に見る江戸漢詩の世界（2）無名詩人の紹介その一	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60

第10回	第三章 『五山堂詩話』に見る江戸漢詩の世界（3）清新派の詩論	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60
第11回	第三章 『五山堂詩話』に見る江戸漢詩の世界（4）有名詩人の紹介	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60
第12回	第三章 『五山堂詩話』に見る江戸漢詩の世界（5）考証の段	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60
第13回	第三章 『五山堂詩話』に見る江戸漢詩の世界（6）無名詩人の紹介その二	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60
第14回	第三章 『五山堂詩話』に見る江戸漢詩の世界（7）回想の段	
	【復習】授業時の配布プリントと自身のノート・メモを五回熟読し、発見や疑問をメモする。	60
第15回	終章 まとめ	
	【復習】第一章の江戸漢文の読み方のプリントを再読し、それを念頭に置いて第二章・第三章の資料を読み直す。	90

授業の方法

授業は講義形式で進め必要に応じて練習の時間を設ける。

成績評価の方法

平常点 50%と学期末に課する筆記試験またはレポートの成績 50%とで総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本漢文学Aと連続して履修することが望ましい。

テキスト

授業時に資料を配布する。

参考書

前期の参考文献に加えて、漢文読解一般として、奥平卓『漢文の読みかた』岩波ジュニア新書、加地伸行『漢文法基礎』講談社学術文庫、日本漢文の注釈として、菅野礼行『漢文名作選5 日本漢文』大修館書店、『五山堂詩話』について、新日本古典大系 65 『日本詩史 五山堂詩話』岩波書店、揖斐高『江戸の詩壇ジャーナリズム』角川書店がある。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	漢文学 A		
教員名	伊藤 文生		
科目ナンバー	1151426203	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
漢文学を学修することを通じて、大学生の一般教養として、よりよく生きるために役立つような知見を広め、深める。 テキストとして、太宰春台（1680～1747）の『和読要領』を精読しつつ、『訓点復古』ほか関連する資料にも目を配り、なるべく多くの文献に関心をもつことによって、漢文学に親しむ。 なお、『和読要領』は漢文訓読の方法を述べた書物。漢籍の学習法などにも触れ、漢文の原義を生かした訓読を採用しようと主張する。実例を豊富かつ詳密に示しており、江戸後半期から明治初期にかけて大きな影響をもった。			
到達目標			
友人に教えたいような、また、子孫に伝えたいような面白くかつ有意義な名作や名句・名言を一つ以上見つけて、それを簡潔的確にわかりやすく説明できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の進め方について説明する。 ・漢文学の基礎知識を確認し、『和読要領』について概説する。		
	復習として、配布資料に一通り目を通し、疑問点についてまとめる。		毎週90分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第2回	「和読の総説」を読む		
	配付資料に見える未知の漢字や語句について、漢和辞典等を使ってできるかぎり調べ、疑問点を整理する。		〃
第3回	「日本に文字無き説」を読む		
	〃		〃

第4回	「中国の文字始めて此の方に行はるる説」を読む	
	”	”
第5回	「和音の説（上）」を読む	
	”	”
第6回	「和音の説（下）」を読む	
	”	”
第7回	「和語の説」を読む	
	”	”
第8回	「顛倒の読み文義を害する説（上）」を読む	
	”	”
第9回	「顛倒の読み文義を害する説（下）」を読む	
	”	”

第10回	「和音正誤」を読む	
	〃	〃
第11回	「和語正誤」を読む	
	〃	〃
第12回	「和読正誤（上）」を読む	
	〃	〃
第13回	「和読正誤（下）」を読む	
	〃	〃
第14回	「書を読む法」を読む	
	〃	〃
第15回	まとめ（予備日とする） ・資料を再点検し、質問に答える。	
	〃	〃

授業の方法

『和読要領』の精読を中心として、数回の小テストを実施する。毎回、講義内容に関する質問を受け付け、次回、可能な限り講義に取り入れて回答する。

成績評価の方法

小テスト50%、課題レポート20%、平常点30%とし、授業態度を総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高等学校卒業程度の日本語理解力と漢和辞典が使えること。

テキスト

資料プリントを配付する。

参考書

『新明解現代漢和辞典』、影山輝國ほか、三省堂、2,800円、ISBN978-4-385-13755-1
その他は授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	漢文学B		
教員名	伊藤 文生		
科目ナンバー	1151426204	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
漢文学を学修することを通じて、大学生の一般教養として、よりよく生きるために役立つような知見を広め、深める。 テキストとして、太宰春台（1680～1747）の『和読要領』を精読しつつ、『訓点復古』ほか関連する資料にも目を配り、なるべく多くの文献に関心をもつことによって、漢文学に親しむ。 なお、『和読要領』は漢文訓読の方法を述べた書物。漢籍の学習法などにも触れ、漢文の原義を生かした訓読を採用しようと主張する。実例を豊富かつ詳密に示しており、江戸後半期から明治初期にかけて大きな影響をもった。			
到達目標			
友人に教えたいような、また、子孫に伝えたいような面白くかつ有意義な名作や名句・名言を一つ以上見つけて、それを簡潔的確にわかりやすく説明できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の進め方について説明する。 ・漢文学の基礎知識を確認し、『和読要領』について概説する。		
	復習として、配付資料に一通り目を通し、疑問点についてまとめる。		毎週90分程度を目安として、各自の理解度および意欲に応じて取り組むこと。
第2回	「書を点ずる法（上）」を読む		
	配付資料に見える未知の漢字や語句について、漢和辞典等を使ってできるかぎり調べ、疑問点を整理する。		〃
第3回	「書を点ずる法（下）」を読む		
	〃		〃

第4回	「書を抄する法」を読む	
	”	”
第5回	「音を発する法」を読む	
	”	”
第6回	和読の例（一）として、「子虚の賦（上）」を読む	
	”	”
第7回	和読の例（二）として、「子虚の賦（中）」を読む	
	”	”
第8回	和読の例（三）として、「子虚の賦（下）」を読む	
	”	”
第9回	和読の例（四）として、「上林の賦（上）」を読む	
	”	”

第10回	和読の例（五）として、「上林の賦（中）」を読む	
	〃	〃
第11回	和読の例（六）として、「上林の賦（下）」を読む	
	〃	〃
第12回	和読の例（七）として、「古詩十九首（上）」を読む	
	〃	〃
第13回	和読の例（八）として、「古詩十九首（下）」を読む	
	〃	〃
第14回	「学則・学戒」を読む	
	〃	〃
第15回	まとめ（予備日とする） ・資料を再点検し、質問に答える。	
	〃	〃

授業の方法

『和読要領』の精読を中心として、数回の小テストを実施する。毎回、講義内容に関する質問を受け付け、次回、可能な限り講義に取り入れて回答する。

成績評価の方法

小テスト50%、課題レポート20%、平常点30%とし、授業態度を総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高等学校卒業程度の日本語理解力と漢和辞典が使えること。

テキスト

資料プリントを配付する。

参考書

『新明解現代漢和辞典』、影山輝國ほか、三省堂、2,800円、ISBN978-4-385-13755-1
その他は授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	比較文学A		
教員名	有光 隆司		
科目ナンバー	1251426207	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
森鷗外、国木田独歩、夏目漱石、上田敏、芥川龍之介等の作品を例に、比較文学の諸相について研究する。			
到達目標			
比較文学という文学研究の方法論について、その起源と展開の概要を捉える。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	1. 比較文学の原点1		
	テキスト第1章を読んでくること。 「比較文学」という呼称について調べてくること。 第1回の復習をすること。		120分
第2回	1. 比較文学の原点2		
	芥川龍之介『蜘蛛の糸』を読んでくること。 第2回の復習をすること。		120分
第3回	1. 比較文学の原点3		
	ポール・ケーラス『カルマ』、トルストイ『カルマ』、ドストエフスキー『カラマーゾフの兄弟』について調べること。 第3回の復習をすること。		120分

第4回	2. 文学研究の歩みと比較文学1	
	「文学」について調べること。 第4回の復習をすること。	120分
第5回	2. 文学研究の歩みと比較文学2	
	「古典主義文学」について調べること。 第5回の復習をすること。	120分
第6回	2. 文学研究の歩みと比較文学3	
	「ロマン主義文学」について調べること。 第6回の復習をすること。	120分
第7回	3. 文体研究と作品解釈1	
	上田敏『海潮音』について調べること。 第7回の復習をすること。	120分
第8回	3. 文体研究と作品解釈2	
	カール・ブッセについて調べること。 第8回の復習をすること。	120分
第9回	3. 文体研究と作品解釈3	
	「リズム」と「韻律」について調べること。 第9回の復習をすること。	120分

第10回	4. 伝記的事実と作品解釈1	
	松尾芭蕉『野ざらし紀行』について調べること。 第10回の復習をすること。	120分
第11回	4. 伝記的事実と作品解釈2	
	幸田露伴『白芥子句考』について調べること。 第11回の復習をすること。	120分
第12回	4. 伝記的事実と作品解釈3	
	「伝記」について調べること。 第12回の復習をすること。	120分
第13回	5. 短編小説をめぐる1	
	「短篇小説」の起源について調べること。 第13回の復習をすること。	120分
第14回	5. 短編小説をめぐる2	
	ボッカチオ『デカメロン』について調べること。 第14回の復習をすること。	120分
第15回	5. 短編小説をめぐる3	
	ゴーリキー『センツァマニ』（森鷗外訳）を読んでくこと。 第15回の復習をすること。	120分

授業の方法

原則として3回完結型形式で講義する。

成績評価の方法

毎回提出のリアクション・ペーパー、1回提出のレポート、参加状況等を合わせて総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

比較文学B

テキスト

『比較文学への誘い―東西文学十六章―』（新田義之著、大学教育出版）

参考書

『講座比較文学』全8巻（芳賀徹他編、東京大学出版）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	比較文学B		
教員名	有光 隆司		
科目ナンバー	1251426208	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
巖谷小波、浜田広介、夏目漱石、上田敏、小泉八雲、等の作品を例に、比較文学の諸相について研究する。			
到達目標			
比較文学という文学研究の方法論について、その可能性と限界を検証する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	1. メールヒエンとお伽噺1		
	「メールヒエン」について調べてくること。 第1回の復習をすること。		120分
第2回	1. メールヒエンとお伽噺2		
	巖谷小波について調べること。 第2回の復習をすること。		120分
第3回	2. お伽噺から童話へ1		
	浜田広介について調べること。 第3回の復習をすること。		120分

第4回	2. お伽噺から童話へ2	
	アンデルセン童話について調べること。 第4回の復習をすること。	120分
第5回	3. 杵物語の系譜1	
	「杵物語」について調べること。 第5回の復習をすること。	120分
第6回	3. 杵物語の系譜2	
	『千夜一夜物語』について調べること。 第6回の復習をすること。	120分
第7回	4. 文学研究方法をめぐる1	
	「書誌学」「本文校訂」「訓詁・語釈」「作家研究」とはなにか、調べること。 第7回の復習をすること。	120分
第8回	4. 文学研究方法をめぐる2	
	「韻律学」「民俗学」「社会学」とはなにか、調べること。 第8回の復習をすること。	120分
第9回	5. 日本の説話1	
	「昔話」「伝説」について調べること。 第9回の復習をすること。	120分

第10回	5. 日本の説話2	
	ハーン『怪談』を読んでくること。 第10回の復習をすること。	120分
第11回	6. 叙事詩とバラード	
	「叙事詩」とはなにか調べること。 第11回の復習をすること。	120分
第12回	7. 抒情的なものについて	
	「抒情詩」とはなにか、調べること。 第12回の復習をすること。	120分
第13回	8. 悲劇的なものについて	
	ソポクレス『エディプス王』を読んでくること。 第13回の復習をすること。	120分
第14回	9. 比較文学から比較文化へ1	
	夏目漱石『虞美人草』、『三四郎』を読んでくること。 第14回の復習をすること。	120分
第15回	9. 比較文学から比較文化へ2	
	「文学」と「文化」について調べること。 第15回の復習をすること。	120分

授業の方法

原則として2回完結型形式で講義する。

成績評価の方法

毎回提出のリアクション・ペーパー、1回提出のレポート、参加状況等を合わせて総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

比較文学A

テキスト

『比較文学への誘い—東西文学十六章—』（新田義之著、大学教育出版）

参考書

『講座比較文学』全8巻（芳賀徹他編、東京大学出版）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本探究特別講義 A （古筆で味わう日本文学）		
教員名	石澤 一志		
科目ナンバー	1151427105	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要			
日本の著名な古典文学作品を「古筆」で読む。万葉集や源氏物語、古今和歌集や伊勢物語などを、鎌倉時代・室町時代に書かれた典籍や、その断簡である「古筆切」で読む。くずし字・変体仮名を読む力を付けるとともに、よく知られた古典文学作品が、どうやって現代の我々の手元に届いたのか、その実際を知るための講義を行う。			

到達目標			
有名な作品を、古い時代の写本・古筆切などで読んでいく。鎌倉時代以前に成立したものを題材に、それらの鎌倉時代・室町時代くらいまでに写されたもので読んでいく。それらを通じて、鎌倉時代・室町時代、ひいては江戸時代の人々がそれらを読み、受け継いできた気持ちが分かるようになることを目標とする。			

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	「古筆」とは何か ―その範囲と特質、享受の歴史	
	日本史・文化史・書道史など	30
第2回	「古筆」を見る ―万葉集の古筆切①	
	日本史（奈良・平安時代）・文化史・書道史など	30
第3回	「古筆」を読む ―万葉集の古筆切②	
	日本史（奈良・平安時代）・文化史・書道史など	30

第4回	「古筆」を見る ―古今和歌集の古筆切①	
	日本史（平安・鎌倉時代）・文化史・書道史など	30
第5回	「古筆」を読む ―古今和歌集の古筆切②	
	日本史（平安・鎌倉時代）・文化史・書道史など	30
第6回	「古筆」を見る・読む ―古今和歌集周辺の古筆切	
	日本史（平安・鎌倉時代）・文化史・書道史など	30
第7回	「古筆」を見る ―和漢朗詠集の古筆切①	
	日本史（平安時代）・文化史・書道史など	30
第8回	「古筆」を読む ―和漢朗詠集の古筆切②	
	日本史（平安時代）・文化史・書道史など	30
第9回	「古筆」を見る ―西本願寺本三十六人集①	
	日本史（平安時代）・文化史・書道史など	30

第10回	「古筆」を読む ―西本願寺本三十六人集②	
	日本史（平安時代）・文化史・書道史など	30
第11回	「古筆」を見る ―源氏物語①	
	日本史（平安・鎌倉時代）・文化史・書道史など	30
第12回	「古筆」を読む ―源氏物語②	
	日本史（平安・鎌倉時代）・文化史・書道史など	30
第13回	「古筆」を見る・読む ―さまざまな作品の古筆①	
	日本史（鎌倉・室町時代）・文化史・書道史など	30
第14回	「古筆」を見る・読む ―さまざまな作品の古筆②	
	日本史（鎌倉・室町時代）・文化史・書道史など	30
第15回	「古筆」を見る・読む ―さまざまな作品の古筆③	
	日本史（鎌倉・室町時代）・文化史・書道史など	120

授業の方法

古筆を見て、鑑賞する。また、その字を読む。何と書いてあるかの判読は、内容の理解とつながる。そこを同時に見ていきたい。また、文学作品そのものについての知識、歴史的時代背景、その後代的影響などについても、同時に講じていきたい。文学史・文化史・書道史・美術史など、多方面へとつながっていく講義を目指す。

成績評価の方法

小テスト（講義内で適宜実施）の成績、定期試験、講義への取り組み・貢献度を、総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本文学史・日本史・美術史・書道史などについて、あらかじめ目を通しておくとよい。

テキスト

笠間影印叢刊刊行会編『字典かな』（笠間書院）その他、必要な資料については、講義内で適宜配布する。

参考書

笠間影印叢刊刊行会編『字典かな』（笠間書院）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	日本探究特別講義B（古典で読む奇談・怪談）		
教員名	牧 藍子		
科目ナンバー	1151427205	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
奇妙な出来事や現象、不思議な生物など、「怪しいもの」に心ひかれるのは現代人ばかりではない。古典文学の時代においても、奇談や怪異譚はさまざまな形で人々に享受されてきた。この授業では、いわゆる怪談をはじめ、怪異や怨霊、化物、妖怪などを扱った江戸時代の話幅広く取り上げ、それらの話が近世以前の文芸と連続性を保ちつつ、近世ならではの展開を見せるさまを追う。また、原文を読み解くことを通じて、書き手、読み手、時代背景、文芸ジャンル等々の違いから生まれてくる表現上の特徴についても考える。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・近世における奇談・怪談の変遷とその特徴について、具体的な資料分析によって理解する。 ・奇談・怪談を読み解くことを通じて、その背景にある社会や風俗・思想を学び見識を広める。 ・原文で書かれた多くの資料を読むことで、古文読解の力を養う。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の進め方について		
	シラバスを読んでおく。		30
第2回	近世以前の奇談・怪談の様相		
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。		60
第3回	恋愛心理と怪異		
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。		60

第4回	商人倫理と因果応報	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第5回	前世と親不孝話	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第6回	死骸を食す	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第7回	奇談・怪談の文芸化の様相	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第8回	井原西鶴の奇談① 『西鶴諸国ばなし』を扱う。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第9回	井原西鶴の奇談② 『西鶴諸国ばなし』を扱う。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60

第10回	上田秋成の怪異小説① 『雨月物語』を扱う。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第11回	上田秋成の怪異小説② 『雨月物語』を扱う。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第12回	鶴屋南北の怪談① 『東海道四谷怪談』を扱う。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第13回	鶴屋南北の怪談② 『東海道四谷怪談』を扱う。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第14回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテストを行う。	
	これまでの学修内容を確認しておく。	60～
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答 ・授業のまとめ	
	到達度確認テストの結果を受けて自己の理解度を確認し、授業内容を振り返って不足している知識を補う。	60～

授業の方法

・講義形式であるが、授業中質問をしたり、リアクションペーパーを提出してもらったりする。また適宜グループワークを取り入れて指定の課題に取り組んでもらう。
・前半は各回テーマ毎に奇談・怪談の近世的展開を追う。後半は西鶴・秋成・南北の著名な作品を取り上げ、前半に学修した近世における奇談・怪談の変遷やその特徴がどのように個々の作品に反映しているかを具体的に確認する。

成績評価の方法

授業への参加具合（リアクションペーパー等を含む）50%、到達度確認テスト（あるいは期末試験、課題レポート）50%による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・近世における奇談・怪談の変遷とその特徴について、具体的な資料分析によって理解できたか。
- ・奇談・怪談を読み解くことを通じて、その背景にある社会や風俗・思想を学び見識を広められたか。
- ・原文で書かれた多くの資料を読むことで、古文読解の力が身についたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。ただし、古文を原文で読むので、基本的な文法知識のあることが望ましい。

テキスト

プリントを配布する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本美術史 A		
教員名	塩澤 寛樹		
科目ナンバー	1251427301	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
本講は、日本列島で生み出された造形作品（美術）の中から、各時期の特徴ある作品や作家を取り上げ、その流れを概観し、それを通して日本造形文化の特質の一端を理解しようとするものである。また、作品はは背景としてその当時の政治・経済状況や宗教事情などとも密接にかかわっており、こうした周辺分野についても触れながら幅広い視点での把握を目指す。 扱う分野においては、彫刻、絵画、工芸、建築など、なるべく巾広く取り上げ、時間幅については、概ね縄文時代から平安時代後期を範囲とする。なお、鎌倉時代以降については「日本美術史B」で扱う。			
到達目標			
・日本美術史上の縄文時代から平安時代後期に至る展開について、基礎的な知識を修得する。 ・縄文時代から平安後期の主要作品について、その鑑賞はもとより、定説的な見方と異論、及びそれら根拠を認識する。 ・日本美術に関する基本的な考え方や多角的な視点、方法論を理解する。 ・上記をふまえ、日本の造形及びそれを通して日本文化に関する教養を深める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	「導入」 授業の目的・ねらい及び本講の視点について説明すると共に、「日本」美術を学ぶにあたっての前提となることにも触れる。		
	予習としてシラバスを読み、あらかじめ授業内容を把握すると共に、授業で示した全体像や考え方、学習方法や評価基準を確認する。	60	
第2回	「縄文と弥生の造形」 日本列島における縄文時代と弥生時代の造形物について学ぶ。		
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60	
第3回	「古墳とその時代の造形」 日本列島における古墳とその時代の造形を学ぶ。		
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60	

第4回	「法隆寺と飛鳥時代の造形」 法隆寺を中心に飛鳥時代の仏教造形を学ぶ。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第5回	「東大寺大仏の造立と奈良時代の造形」 東大寺大仏造立の意義と奈良時代の造形を学ぶ。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第6回	「東大寺、興福寺と奈良時代の造形」 東大寺や興福寺を中心に奈良時代の造形を、適宜大陸の作品と比較しながら学ぶ。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第7回	「古代寺院の空間」 古代寺院の建築と空間を学ぶ。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第8回	「正倉院の奇跡」 正倉院の歴史とその収蔵品の特質を学ぶ。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第9回	「神社の成立と神社建築」 神社の成立について、その思想と建築の特質について学ぶと共に、様々な神社建築について、仏教建築とも比較しながら学ぶ。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60

第10回	「神仏習合の造形Ⅰ－神像の成立」 日本列島古来の神々に対する信仰と外来宗教である仏教が融合する様やその背景のもとで成立した神像について学ぶ。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第11回	「密教とその造形」 密教の思想と造形について学ぶ。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第12回	「平等院－平安後期の宗教と造形」 平等院の建築・彫刻・絵画の特質について学び、併せて浄土教美術について概観する。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第13回	「やまと絵」 やまと絵の概念とその特徴について学ぶ。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第14回	「日本の陶磁Ⅰ」 日本列島における土器から陶器の展開とその特徴について学ぶ。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第15回	「まとめ」	
	これまでの授業を振り返り、授業全体の把握をする。	90

授業の方法

- ・ 授業は講義形式を中心とする。各回の授業においては、配付プリントに基づいて概要を説明したり、プロジェクターを用いた画像により視覚的理解を図ることを交互に繰り返す。
- ・ 授業の進捗によって、内容を一部変更することがある。

成績評価の方法

平常点15%、中間レポート40%、期末レポート45%を合計して評価する。

成績評価の基準

- 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
- ・ 各項目の基本的な理解がなされているか。
 - ・ 主要な作品や作家についての基本的な理解がなされているか。
 - ・ 多様な考え方や異説に対して、整理した理解がなされているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中学卒業程度の日本史の基本知識があれば十分が、高校の日本史で学んだ文化史の知識とは必ずしも整合しない。

テキスト

特に定めないが、事前にプリントを配付する。

参考書

授業時に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けるほか、質問方法については授業時に説明する。

科目名	日本美術史B		
教員名	塩澤 寛樹		
科目ナンバー	1251427302	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
本講は、日本列島で生み出された造形作品（美術）の中から、各時期の特徴ある作品や作家を取り上げ、その流れを概観し、それを通して日本造形文化の特質の一端を理解しようとするものである。また、作品は背景としてその当時の政治・経済状況や宗教事情などとも密接にかかわっており、こうした周辺分野についても触れながら幅広い視点での把握を目指す。 扱う分野においては、彫刻、絵画、工芸、建築など、なるべく巾広く取り上げ、時間幅については、概ね鎌倉時代から江戸時代を範囲とする。なお、平安時代後期までは「日本美術史A」で扱う。			
到達目標			
・日本美術史上の鎌倉時代から江戸時代に至る展開について、基礎的な知識を修得する。 ・鎌倉時代から江戸時代の主要作品について、その鑑賞はもとより、定説的な見方と異論、及びそれら根拠を認識する。 ・日本美術に関する基本的な考え方や多角的な視点、方法論を理解する。 ・上記をふまえ、日本の造形及びそれを通して日本文化に関する教養を深める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	「鎌倉時代の彫刻Ⅰ」 著名な彫刻作家である運慶、快慶を中心に、鎌倉時代の新しい彫刻様式を学習する。		
	予習としてシラバスを読み、あらかじめ授業内容を把握すると共に、授業で示した全体像や考え方、学習方法や評価基準を確認する。		60
第2回	「鎌倉時代の彫刻Ⅱ」 鎌倉時代を代表する造像契機であった南都復興を取り上げ、運慶・快慶だけではない、鎌倉時代の多様な彫刻表現を概観すると共に、中世における造像と社会についても学ぶ。		
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。		60
第3回	「神仏習合の造形Ⅱ」 神仏習合の思の展開想を理解すると共に、それに基づいて生みだされた特色ある造形を学ぶ。		
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。		60

第4回	「肖像Ⅰ」 作例が豊かに残される中世の肖像のうち、主に僧侶肖像について、一部の古代作例を含めながら概観し、併せて肖像における「写実性」についても考える。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第5回	「水墨画」 大陸より新しくもたらされた絵画ジャンルである水墨画について、中世の展開を中心に取り上げる。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第6回	「漆の工芸」 日本列島における代表的工芸である漆工について、大陸作品との比較をしながら学ぶ。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第7回	「禅の造形」 中世の社会と文化に多大な影響を与えた禅の思想とそれに基づいて生みだされた特色ある造形を学び、併せて唐物の受容にも触れる。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第8回	「狩野派一元信と永徳」 室町時代中期以降、御用絵師として画壇をリードした狩野派について、元信と永徳を中心に概観する。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第9回	「肖像Ⅱ」 中世から近世にかけての武家などの俗人肖像について学ぶ。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60

第10回	「黄檗の美術」 江戸時代に新たにもたらされ、流行した黄檗派（黄檗宗）の特色ある造形を学ぶ。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第11回	「琳派―俵屋宗達、尾形光琳、酒井抱一」 江戸時代の代表的流派である琳派について、俵屋宗達、尾形光琳、酒井抱一を中心に概観し、またその特色ある継承についても学習する。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第12回	「伊藤若冲」 江戸時代に出現し、特異な才能を発揮した「奇想」の画家伊藤若冲を取り上げ、その作品の魅力を探る。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第13回	「日本の陶磁Ⅱ」 江戸時代に各地で開花した多才な陶磁器文化について、磁器を中心に概観する。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第14回	「浮世絵」 江戸時代に誕生した浮世絵について、ジャンルとしての特色を学び、春信、歌麿、写楽、北斎、広重などの主要な作家を中心に、その表現上の特色を概観する。	
	予習として事前配付プリントの当該箇所を目を通して内容を把握し、授業で説明した要点やキーワードを復習して確認する。	60
第15回	「拾遺とまとめ」	
	これまでの授業を振り返り、授業全体の把握をする。	90

授業の方法

- ・ 授業は講義形式を中心とする。各回の授業においては、配付プリントに基づいて概要を説明したり、プロジェクターを用いた画像により視覚的理解を図ることを交互に繰り返す。
- ・ 授業の進捗によって、内容を一部変更することがある。

成績評価の方法

平常点15%、中間レポート40%、期末レポート45%を合計して評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

- ・ 各項目の基本的な理解がなされているか。
- ・ 主要な作品や作家についての基本的な理解がなされているか。
- ・ 多様な考え方や異説に対して、整理した理解がなされているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

中学卒業程度の日本史の基本知識があれば十分が、高校の日本史で学んだ文化史の知識とは必ずしも整合しない。

テキスト

特に定めないが、事前にプリントを配付する。

参考書

授業時に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けるほか、質問方法については授業時に説明する。

科目名	日本民俗学 A		
教員名	山崎 祐子		
科目ナンバー	1251427303	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

民俗学の分野のうち、衣食住、通過儀礼、民間信仰、口承文芸などを取り上げる。それらを異界という概念で読み解き、私たちの祖先が、生命をどのように考えていたのかをさぐる。すでに行われなくなった民俗ばかりではなく、現代の身近な事象も取り上げる。

到達目標

基本的な民俗学の考え方を学び、学術語彙学術語彙を理解する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	ガイダンス 授業の進め方、参考文献や辞典の使い方、取り上げる資料などについての説明をする。 民俗学の概説を行う。	
	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60 分
第2回	衣食住（住居） 民家における晴と褻の空間認識を考察する。間取り図の読み方を学ぶ。	
	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60分
第3回	衣食住（自給自足の暮らし方） 映像を視聴し、水田のなかった山村の暮らし方を知る。	
	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60分

第4回	衣食住（食生活） 「主食とは何か」をテーマに雑穀、イモ類の重要性や晴の食としての米の意味考察する。	
	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60分
第5回	通過儀礼（出産と産育） 大正末年から昭和初年にかけての出産の記録を読み、通過儀礼の意味を考察する。	
	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。配布資料が多いので読み返しておく。	60分
第6回	通過儀礼（結婚） 結婚の形態を学び、嫁入婚の儀礼と葬送儀礼の類似点を考察する。	
	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60分
第7回	通過儀礼（葬送と供養） 各地の死後供養の事例を学び、「祖霊」について考察する。	
	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60分
第8回	異界をのぞく（幽霊と妖怪） 柳田國男「妖怪談義」を読み、柳田の妖怪の考え方を考察する。	
	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60分
第9回	異界をのぞく（昔話） 「夜」について日本の昔話ではどのように表現しているか考察する。	
	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60分

第10回	異界をのぞく（祈願） 呪い、占い、祈願の各地の事例を学び、現代の不安と民俗について考察する。	
	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60分
第11回	異界をのぞく（伝説 「番町皿屋敷」「累ヶ淵」を江戸という都市開発の視点で読む。	
	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60分
第12回	異界をのぞく（都市伝説 学校の怪談や都市伝説を資料として、現代の不安について考察する。	
	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60分
第13回	異界をのぞく（遠野物語） 柳田国男の「遠野物語」を山と女性という視点で読む。	
	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60分
第14回	異界をのぞく（狐） 狐の窓、多摩ニュータウンの狐話などを例に、狐にかかわる伝承の意味を考察する。	
	授業で取り上げた学術語彙や民俗語彙を復習する。	60分
第15回	到達度の確認・まとめ	
	前期の復習をする。	60分

授業の方法

講義形式で行う。

成績評価の方法

到達度確認テスト70パーセントと平常点30パーセントで総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に専門知識を必要とはしていない。

テキスト

使用しない。毎回、資料のプリントを配布する。

参考書

配布資料に記載するほか、適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本民俗学B		
教員名	山崎 祐子		
科目ナンバー	1251427304	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
民俗学の分野のうち、年中行事、祭礼、民俗芸能を取り上げ、一年の暮らしのリズムがどのように組み立てられていたのかを考察する。			

第4回	年中行事（正月） 年の区切りの考え方を学ぶ。来訪神が登場する各地の伝説や年中行事について考察する。	
	重要語句の復習をする。	60分
第5回	年中行事（七夕と盆） 織姫・彦星ではない日本各地の七夕の民俗を学び、盆行事について考察する。	
	重要語句の復習をする。	60分
第6回	年中行事（概説、年中行事の諸相） 年中行事の構造を学ぶ。端午の節供を例に年中行事の由来を語る昔話を考察する。	
	重要語句の復習をする。	60分
第7回	民俗芸能（神楽） 中神楽をの映像を視聴する。仮設の舞台の構造や装置を、依代について考察する。	
	重要語句の復習をする。ワークシートの記入をする。	60分
第8回	民俗芸能（概説） 民俗芸能の基礎知識を学ぶ。	
	重要語句の復習をする。	60分
第9回	民俗芸能（神楽） 三河の花祭の映像を視聴し、民俗芸能の伝承の場について考察する。	
	重要語句の復習をする。ワークシートの記入をする。	60分

第10回	民俗芸能（田楽） 西浦田楽の映像を視聴し、民俗芸能の重要な学術語彙を復習、確認する。	
	重要語句の復習をする。ワークシートの記入をする。	60分
第11回	祭礼と競技 祭礼の中で競技が行われる意義を考察する。	
	重要語句の復習をする。	60分
第12回	子どもの成長と年中行事 子どもが中心になって行う年中行事を取り上げ、教育としての民俗の役割を考察する。	
	重要語句の復習をする。	60分
第13回	正月と厄払い 「東都歳事記」などを資料として、各地の事例と比較しつつ江戸の正月について考察する。	
	重要語句の復習をする。	60分
第14回	東日本大震災の復興と民俗芸能	
	重要語句の復習をする。	60分
第15回	到達度確認・まとめ	
	到達度確認テストにそなえ、重要語句の復習をする。	60分

授業の方法

講義形式であるが、映像を多く取り入れた授業を行う。

成績評価の方法

到達度確認テスト50パーセント、民俗芸能のまとめのワークシート30パーセント、平常点20パーセントとし、総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

テキストは使用しないが、毎回、授業で用いる資料のプリントを配布する。

参考書

配付資料に記載するほか、授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本思想講義A（古代文学から学ぶ）		
教員名	内田 濤子		
科目ナンバー	1251427313	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
本講義では、古代日本で人々がどのような「思想」をもって生活していたのか、説話を中心にした文学作品などに描かれる人の営みに着目し、これを精読することでさぐります。 ごく当たり前のことですが、「考える」という営為には「ことば」が不可欠で、「ことば」は「文字」で伝えられます。逆に、伝えられてきた「文字」を丁寧に読み「ことば」を拾うことから、当時の人々がどのような「考え」に寄り添いながら、あるいは囚われながら行動していたのか、さまざまな「思想」を読み取って行きます。 なお、本講義では日本の「古代」をおよそ摂関期ころまでとしています。			
到達目標			
・古典作品を精読し、その背景にある当時の「思想」について知る。 ・人々の考え方の多様性を客観的に観察・考察する視座を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	・ガイダンス ・古代日本概観		
	適宜		20
第2回	・8世紀以前1 * 説話集を中心とした文学作品や歴史史料などからテーマに則した話を適宜選び、関連資料と共に授業毎にレジュメとして配付します。尚、テーマは授業の進捗状況他に連動して変更する場合があります。以下同。		
	復習 ・知らない言葉やよく判らない言葉に出合った時、『日本国語大辞典』（小学館）他の辞書を利用し、こまめに確認する習慣をつけて下さい。 ・レジュメに採り上げた古典作品他の資料を、声に出して読んでください。		30
第3回	・8世紀以前2		
	同上		30

第4回	・漢字文化圏	
	同上	30
第5回	・『風土記』他	
	同上	30
第6回	・『日本靈異記』他1	
	同上	30
第7回	・『日本靈異記』他2	
	同上	30
第8回	・『日本靈異記』他3	
	同上	30
第9回	・御霊	
	同上	30

第10回	・『今昔物語集』他1	
	同上	30
第11回	・『今昔物語集』他2	
	同上	30
第12回	・『今昔物語集』他3	
	同上	30
第13回	・『往生要集』他1	
	同上	30
第14回	・『往生要集』他2	
	同上	30
第15回	・総括	
	同上	30

授業の方法

講義形式で行います。
授業毎のリアクションペーパーを、ミニレポートと位置付けます。

成績評価の方法

期末レポート(50%)、授業毎のミニレポート(25%)、出席状況などの平常点(25%)を総合的に判断します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ①講義内容を踏まえ、
 - ②自らの問題意識によって疑問やテーマを見つけ出し、
 - ③それを自らの言葉で論理的に説明するための意欲・努力がなされているか
- という点に注視して達成度を評価します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません

テキスト

特にありません。
授業中に資料を配付します。

参考書

授業中に必要に応じて示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けることを原則とします。

科目名	日本思想講義B (中世文学から学ぶ)		
教員名	内田 澤子		
科目ナンバー	1251427314	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
本講義では、中世日本で人々がどのような「思想」をもって生活していたのか、説話を中心にした文学作品他に描かれる人の営みに着目し、これを精読することでさぐります。 ごく当たり前のことですが、「考える」という営為には「ことば」が不可欠で、「ことば」は「文字」で伝えられます。逆に、伝えられてきた「文字」を丁寧に読み「ことば」を拾うことから、当時の人々がどのような「考え」に寄り添いながら、あるいは囚われながら行動していたのか、さまざまな「思想」を読み取って行きます。 なお、本講義では日本の「中世」をおよそ院政期ころから戦国期ころまでとしています。			
到達目標			
・古典作品を精読し、その背景にある当時の「思想」について知る。 ・人々の考え方の多様性を客観的に観察・考察する視座を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	・ガイダンス ・中世日本概観		
	適宜		20
第2回	・公家1 * 説話集を中心とした諸作品・資料からテーマに則した話を適宜撰び、関連資料と共に授業毎にレジュメとして配付します。尚、テーマは授業の進捗状況他に連動して変更する場合があります。 以下同。		
	復習 ・知らない言葉やよく判らない言葉に出合った時、『日本国語大辞典』(小学館)他の辞書を利用し、こまめに確認する習慣をつけて下さい。 ・レジュメに採り上げた古典作品他の資料を、声に出して読んでください。		30
第3回	・公家2		
	同上		30

第4回	・公家3	
	同上	30
第5回	・公家4	
	同上	30
第6回	・武家1	
	同上	30
第7回	・武家2	
	同上	30
第8回	・武家3	
	同上	30
第9回	・武家4	
	同上	30

第10回	・「念仏」1	
	同上	30
第11回	・「念仏」2	
	同上	30
第12回	・「神仙」	
	同上	30
第13回	・「無常」1	
	同上	30
第14回	・「無常」2	
	同上	30
第15回	・総括	
	同上	30

授業の方法

講義形式で行います。
授業毎のリアクションペーパーを、ミニレポートと位置付けます。

成績評価の方法

成績評価の方法
期末レポート(50%)、授業毎のミニレポート(25%)、出席状況などの平常点(25%)を総合的に判断します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ①講義内容を踏まえ、
 - ②自らの問題意識によって疑問やテーマを見つけ出し、
 - ③それを自らの言葉で論理的に説明するための意欲・努力がなされているか
- という点に注視して達成度を評価します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

前期開講の「日本思想講義A」を受講していることが望ましい。

テキスト

特にありません。
授業中に資料を配付します。

参考書

授業中に必要に応じて示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了時、教室で受けることを原則とします。

科目名	物語と絵画 A		
教員名	木谷 真理子		
科目ナンバー	1151427309	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
テーマ：物語絵の工夫 さまざまな物語絵を取りあげて、何をどのように表現しているのか、詳しく見ていきます。物語絵を楽しみながら、表現について考えていきましょう。			
到達目標			
DP 6（文化現象の総合的理解）、DP 8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の2点を到達目標とします。 ①物語絵にかんする基本的な知識を有している。 ②物語を絵画で表現するためのさまざまな工夫について、具体例を挙げて説明することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	シラバスを読み、あらかじめ講義の内容を把握する。		60
第2回	表現媒体①		
	指定された課題を行う。		60
第3回	表現媒体②		
	指定された課題を行う。		60

第4回	場面選択①	
	指定された課題を行う。	60
第5回	場面選択②	
	指定された課題を行う。	60
第6回	何を表現するのか①	
	指定された課題を行う。	60
第7回	何を表現するのか②	
	指定された課題を行う。	60
第8回	絵では表しにくいことを如何に表現するか①	
	指定された課題を行う。	60
第9回	絵では表しにくいことを如何に表現するか②	
	指定された課題を行う。	60

第10回	人物の表現①	
	指定された課題を行う。	60
第11回	人物の表現②	
	指定された課題を行う。	60
第12回	つなが・区切る①	
	指定された課題を行う。	60
第13回	つなが・区切る②	
	指定された課題を行う。	60
第14回	到達度確認テスト	
	到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。	300
第15回	到達度確認テストの解説 授業のまとめ	
	到達度確認テストの結果を受けて、不足している知識等を確認し、学修する。	60

授業の方法

- ・講義形式で進めます。
- ・ほぼ毎回、授業中に課題を示し、授業終了時（場合によっては次回）に提出を求めます。

成績評価の方法

授業時の課題を30%、中間レポートを35%、到達度確認テストを35%の割合で評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ①物語絵にかんする基本的な知識を有しているか。
- ②物語を絵画で表現するためのさまざまな工夫について、具体例を挙げて説明することができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

後期の「物語と絵画B」で、源氏絵（『源氏物語』の絵画化作品）を取り上げます。

テキスト

プリントを配布します。

参考書

授業中に紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	物語と絵画B		
教員名	木谷 真理子		
科目ナンバー	1151427310	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

テーマ：源氏絵の工夫

『源氏物語』の絵画化作品を源氏絵といいます。この授業では、さまざまな源氏絵を取りあげて、『源氏物語』を表現するためにどのような工夫をしているか、そもそも『源氏物語』とはどのような作品なのか、を詳しく見ていきます。源氏絵と『源氏物語』を楽しみながら、表現について考えていきましょう。

到達目標

DP6（文化現象の総合的理解）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の2点を到達目標とします。

- ①源氏絵と『源氏物語』にかんする基本的な知識を有している。
- ②『源氏物語』を絵画で表現するためのさまざまな工夫について、具体例を挙げて説明することができる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	シラバスを読み、あらかじめ講義の内容を把握する。	60
第2回	『源氏物語』の概要	
	指定された課題を行う。	60
第3回	源氏絵の歴史・表現媒体	
	指定された課題を行う。	60

第4回	場面選択①	
	指定された課題を行う。	60
第5回	場面選択②	
	指定された課題を行う。	60
第6回	何を表現するのか①	
	指定された課題を行う。	60
第7回	何を表現するのか②	
	指定された課題を行う。	60
第8回	何を表現するのか③	
	指定された課題を行う。	60
第9回	何を表現するのか④	
	指定された課題を行う。	60

第10回	人物の表現①	
	指定された課題を行う。	60
第11回	人物の表現②	
	指定された課題を行う。	60
第12回	連作①	
	指定された課題を行う。	60
第13回	連作②	
	指定された課題を行う。	60
第14回	到達度確認テスト	
	到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。	300
第15回	到達度確認テストの解説 授業のまとめ	
	到達度確認テストの結果を受けて、不足している知識等を確認し、学修する。	60

授業の方法

- ・講義形式で進めます。
- ・ほぼ毎回、授業中に課題を示し、授業終了時（場合によっては次回）に提出を求めます。

成績評価の方法

授業時の課題を30%、中間レポートを35%、到達度確認テストを35%の割合で評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ①源氏絵と『源氏物語』にかんする基本的な知識を有しているか。
- ②『源氏物語』を絵画で表現するためのさまざまな工夫について、具体例を挙げて説明することができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

前期の「物語と絵画A」も併せて受講したほうが理解しやすいでしょう。

テキスト

プリントを配布します。

参考書

授業中に紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知します。

科目名	日本演劇史 A		
教員名	池山 晃		
科目ナンバー	1251427311	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

テーマ 近世の演劇史

近世（江戸時代）の演劇、歌舞伎に関する概説を行う。演者・演目・劇場などについて具体的にとりあげる。もう一つの分野である人形浄瑠璃についても随時言及する。

到達目標

江戸時代の代表的な演劇である歌舞伎について知識を身につけることを目標とする。近世前期歌舞伎の成立と展開について理解を深め、これらのことを説明できるようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	初期歌舞伎（１）その成立	
	歌舞伎に関する基本的な知識を確認する。	60分
第2回	初期歌舞伎（２）出雲の阿国	
	配布した資料を熟読する。	60分
第3回	初期歌舞伎（３）芝居地景観	
	配布した資料を熟読する。	60分

第4回	野郎歌舞伎（１）芝居地整備	
	配布した資料を熟読する。	60分
第5回	野郎歌舞伎（２）劇場の様相①	
	配布した資料を熟読する。	60分
第6回	野郎歌舞伎（３）劇場の様相②	
	配布した資料を熟読する。	60分
第7回	元禄期歌舞伎（１）江戸の役者・演目①	
	配布した資料を熟読する。	60分
第8回	元禄期歌舞伎（２）江戸の役者・演目②	
	配布した資料を熟読する。	60分
第9回	元禄期歌舞伎（３）上方の役者・演目①	
	配布した資料を熟読する。	60分

第10回	元禄期歌舞伎（４）上方の役者・演目②	
	配布した資料を熟読する。	60分
第11回	享保期歌舞伎（１）当局の規制	
	配布した資料を熟読する。	60分
第12回	享保期歌舞伎（２）劇場の整備	
	配布した資料を熟読する。	60分
第13回	宝暦期歌舞伎（１）劇場機構の発達	
	配布した資料を熟読する。	60分
第14回	宝暦期歌舞伎（２）演目	
	配布した資料を熟読する。	60分
第15回	まとめ	
	これまでの知識を総合する。	60分

授業の方法

授業は講義方式で行うが、毎回コメントペーパーを提出してもらい、その内容について次回の講義で質問に回答したり、内容に言及したりする。

成績評価の方法

毎回の授業のコメント（20％）、記述式の学期末試験（80％）により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
歌舞伎の演者・演目・劇場等の様相・変遷に関して、基本的な理解ができているか。江戸時代の庶民の娯楽について説明できるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本演劇史B

テキスト

毎回プリントを配布する。

参考書

参考書は授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本演劇史B		
教員名	池山 晃		
科目ナンバー	1251427312	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テーマ 近世の演劇史 近世（江戸時代）の演劇、歌舞伎に関する概説を行う。日本演劇史Aで扱った時期に続いて、近世後期から近代に至るまでの歌舞伎の展開を扱う。歌舞伎と共に近世の二大演劇を形成した人形浄瑠璃についてもとりあげる。			
到達目標			
江戸時代の二大演劇である歌舞伎と人形浄瑠璃について知識を身につけることを目標とする。近代に至るまでの歌舞伎の展開について理解を深め、これらのことを説明できるようにする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	近世前期歌舞伎概観（A既修者のおさらい。Bからの履修者の前提習得。）		
	近世前期歌舞伎に関する基本的な知識を確認する。	60分	
第2回	人形浄瑠璃（1）その成立		
	配布した資料を熟読する。	60分	
第3回	人形浄瑠璃（2）代表的作者とその作品		
	配布した資料を熟読する。	60分	

第4回	人形浄瑠璃（3）盛況と衰退	
	配布した資料を熟読する。	60分
第5回	人形浄瑠璃（4）歌舞伎化（義太夫狂言）	
	配布した資料を熟読する。	60分
第6回	天明期江戸歌舞伎（1）文化的発展	
	配布した資料を熟読する。	60分
第7回	天明期江戸歌舞伎（2）劇場・役者の様相	
	配布した資料を熟読する。	60分
第8回	天明期江戸歌舞伎（3）舞踊の発達	
	配布した資料を熟読する。	60分
第9回	後期上方歌舞伎（1）劇場内外の様相	
	配布した資料を熟読する。	60分

第10回	後期上方歌舞伎（2）格下の芝居	
	配布した資料を熟読する。	60分
第11回	後期上方歌舞伎（3）地方の芝居	
	配布した資料を熟読する。	60分
第12回	文化文政期江戸歌舞伎（1）作者と作品①	
	配布した資料を熟読する。	60分
第13回	文化文政期江戸歌舞伎（2）作者と作品②	
	配布した資料を熟読する。	60分
第14回	幕末明治期歌舞伎	
	配布した資料を熟読する。	60分
第15回	まとめ	
	これまでの知識を総合する。	60分

授業の方法

授業は講義方式で行うが、毎回コメントペーパーを提出してもらい、その内容について次回の講義で質問に回答したり、内容に言及したりする。

成績評価の方法

毎回の授業のコメント（20％）、記述式の学期末試験（80％）により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
歌舞伎・人形浄瑠璃に関して基本的な理解ができているか。近世後期から近代に至るまでの歌舞伎の歴史的展開について説明できるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本演劇史A

テキスト

毎回プリントを配布する。

参考書

参考書は授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本語を正しく話す a		
教員名	新村 衣里子		
科目ナンバー	1251428101	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
本講座は、普段何気なく口に出している言葉の見直しから、あらたまった場でのスピーチの仕方まで、様々な角度から「日本語を正しく話す」ことについて考え、実践することによって言語伝達能力の向上を目指すものです。 まずは、時と場に応じて適切な言葉を選び、正しく使いこなすことができるように、基本的な挨拶や場面に応じた会話の型、言葉のマナーや敬語などを学習します。また、名文とされる文章や古典を教材に取り上げつつ、発声や滑舌の練習を行い、豊かな音声表現法を身につけるとともに言葉への感度を高めます。さらに、情報を整理したうえで自分の意思や主張を論理的に説明し、聞き手に正確に理解してもらえるような表現力をも身につけていきたいと考えています。			
到達目標			
・自分の伝えたいことを整理し、自信を持って生き生きと話す力を身につける。 ・日本語の音声表現に興味を持ち、よりよいコミュニケーション方法を習得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	正しくわかりやすく話す、ということ		
	【予習】自己紹介のための準備 【復習】スピーチの要約と今後の課題分析、滑舌練習（毎回）		60分
第2回	効果的な話し方とは		
	【予習】1分間スピーチのための準備 【復習】スピーチの要約と今後の課題分析		60分
第3回	明瞭な発音のために		
	【予習】1分間スピーチのための準備 【復習】スピーチの要約と今後の課題分析		60分

第4回	言葉のマナーについて	
	【予習】1分間スピーチのための準備 【復習】スピーチの要約と今後の課題分析	60分
第5回	正しい敬語の使い方	
	【予習】1分間スピーチのための準備 【復習】スピーチの要約と今後の課題分析	60分
第6回	間違いやすい言葉、気になる言葉	
	【予習】1分間スピーチのための準備 【復習】スピーチの要約と今後の課題分析	60分
第7回	※小テスト（敬語や語句、間違いやすい言葉などの確認のためのテスト）	
	【予習】小テストと1分間スピーチのための準備 【復習】小テストの見直し。スピーチの要約と今後の課題分析	100分
第8回	円滑なコミュニケーションのために	
	【予習】1分間スピーチのための準備 【復習】スピーチの要約と今後の課題分析	60分
第9回	「聞く」ことの重要性	
	【予習】1分間スピーチのための準備 【復習】スピーチの要約と今後の課題分析	60分

第10回	話りの力	
	【予習】1分間スピーチのための準備 【復習】スピーチの要約と今後の課題分析	60分
第11回	声について	
	【予習】1分間スピーチのための準備 【復習】スピーチの要約と今後の課題分析	60分
第12回	豊かな音声表現のために	
	【予習】1分間スピーチのための準備 【復習】スピーチの要約と今後の課題分析	60分
第13回	説得するための方法	
	【予習】1分間スピーチのための準備 【復習】スピーチの要約と今後の課題分析	60分
第14回	到達度確認テスト	
	【予習】到達度確認テストと1分間スピーチのための準備 【復習】スピーチの要約と今後の課題分析	120分
第15回	到達度確認テストの解説 授業のまとめ	
	【予習】1分間スピーチのための準備 【復習】到達度確認テストを見直して、この授業を振り返る。自身の今後の課題を設定する。	60分

授業の方法 講義と発話演習（1分間程度のスピーチ）を中心に行います。発声、滑舌、音読の練習も適宜行います。授業中に課題や小レポートを課すこともあります。 上に示した準備学修に関しての時間はあくまで目安ですので、各自の達成度や理解度に応じて積極的に取り組んでください。なお、授業の進捗状況によっては計画内容を一部変更する場合があります。
成績評価の方法 平常点（授業への参加状況）（25％）、技能到達度（スピーチの内容、構成、伝達面における到達度）（25％）、提出物（スピーチの記録など）やテスト（小テストと到達度確認テスト）（50％）で総合的に評価します。
成績評価の基準 ・ 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。 ・ 到達目標に掲げた点に主に着目して、その達成度により評価します。
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特に予備知識を必要としませんが、授業で発表する1分間スピーチや朗読などの題材集めのために、日ごろから自分の好きな文学作品や名言、また関心のある分野や時事関連の記事などを心に留めておいてください。
テキスト 特になし
参考書 授業において紹介します。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) 授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	上級表現講座（短歌創作）a		
教員名	林　あまり		
科目ナンバー	1251428202	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
創作の喜びは、人生を豊かにします。胸の奥深くにしまってきたことを、言葉にしてみませんか。この授業では、まず自分自身と向き合い、心の内を作文にしてもらいます。少ししんどいかもしれませんが、ものを書くためには必須の作業です。短歌に限らず、詩でも小説でもエッセイでも「書く」ことに興味のある人にはもちろん、編集者・国語教師をめざす人にとっても、参考になる授業をめざします。DVDも使って、現代短歌に楽しくふれていきます。			
到達目標			
まず作文を書くことで、心を言葉に出来るように。最終的に１０首程度の短歌に仕上げる。自分にも表現が出来るという実感をつかむ。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス		
	* 皆さんの理解度・進行度によってシラパスの内容を変更することがあります		
	講師の説明のあと、自宅で時間をかけて、自分のこれまでの振り返る。毎回、講師のアドバイスを参考に、作品完成に向けて、作業を少しずつ進めてくる。	*30	
第2回	「心の地図」を描こう		
	初回参照	*60	
第3回	作文の＜やり取り＞の回		
	初回参照	*180	

第4回	作文の＜やり取り＞の回	
	初回参照	*60
第5回	作文の＜やり取り＞の回	
	初回参照	*60
第6回	現代短歌にふれる	
	初回参照	*60
第7回	作文の＜やり取り＞の回	
	初回参照	*120
第8回	短歌完成に向けて＜やり取り＞	
	初回参照	*120
第9回	短歌完成に向けて＜やり取り＞	
	初回参照	*120

第10回	DVDで映画を観る（寺山修司）	
	初回参照	*30
第11回	DVDで映画を観る（寺山修司）	
	初回参照	*30
第12回	短歌仕上げ	
	初回参照	*90
第13回	本とのつきあいかた	
	初回参照	*30
第14回	短歌仕上げ	
	初回参照	*90
第15回	現代詩を聴く	
	初回参照	*30

授業の方法

授業の半分以上は、講師と学生の1対1の面談による“やり取り”の時間です。楽しさも感じられる面談にしたいと願っています。講師のアドバイスによって、ひとりひとりが毎回少しずつ自分の短歌をつくりあげていきます。残りの時間で現代短歌にふれていきます。*自宅でゆっくり考える時間として、第2回のが1時間、第3回のは3時間ほどかかるでしょう。あとは3回に一度、1時間かかるくらいでしょうか。

成績評価の方法

平常点50%、課題提出への取り組み40%（出来不出来でなく作品完成までの姿勢）、授業での積極性10%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 心を言葉にしようと努力し、講師と話し合いながら、作業を進めることが出来たか。現代短歌を読んで、感想などを積極的に発言出来たか。授業に真面目な態度でのぞんだか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

なし。そのつど、プリントを配ります。

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本語・日本文学のためのコンピュータ		
教員名	小木曾 智信		
科目ナンバー	1251428302	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
近年、日本語・日本文学の分野でもコンピュータの利用が盛んになり、研究を進めるうえでコンピュータの知識はいっそう重要度を増しつつある。この授業では、日本語学・日本文学を研究していく上で必要なコンピュータの知識・技術を習得し、今後の研究に活かせるようになることを目指す。内容的には、日本語テキストの処理を行う方法、電子化資料を利用して用例の検索や集計を行う方法が中心となる。			
到達目標			
日本語学・日本文学を研究していく上で必要なコンピュータの知識・技術（テキストエディタ・正規表現・表計算ソフト・文書の構造化）を習得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション（授業内容の紹介，デモ）		
	紹介するWeb上の資料内容を読んでおく。（復習）		60分
第2回	電子化テキストの紹介		
	紹介するWeb上の資料内容を読んでおく。（復習）		60分
第3回	テキストエディタ		
	テキストエディタの基本操作を復習する。		60分

第4回	正規表現	
	正規表現を使ったテキストの検索方法を復習する。	90分
第5回	高度な正規表現	
	やや高度な正規表現を使ったテキストの処理方法を復習する。	90分
第6回	全文検索ソフト「ひまわり」と構造化文書	
	「ひまわり」を使った検索方法を復習する。	60分
第7回	表計算ソフトによる「ひまわり」検索結果の利用	
	「ひまわり」による検索結果を表計算ソフトで扱う方法を復習する	90分
第8回	ピボットテーブル（表計算ソフトの利用）	
	「ひまわり」による検索結果をピボットテーブルを用いて集計する方法を復習する	90分
第9回	表計算ソフトによる集計（文字列関数）	
	検索結果を集計する方法について復習する。	90分

第10回	さまざまなテキストコーパスの紹介	
	紹介されたテキストコーパスの利用方法を確認する。（復習）	60分
第11回	コーパスの紹介（少納言の利用と中納言の案内）	
	Webで利用可能なコーパスの使い方を確認する。（復習）	60分
第12回	レポートテーマの確認と調査	
	レポートで取り上げるテーマを検討し、調査する。	120分
第13回	レポートテーマの確認の調査	
	レポートで取り上げるテーマについて調査した結果の短いプレゼンテーションを行う。	120分
第14回	Wordでレポートを書く（文書の構造化）	
	文書の構造化を意識してソフトウェアの機能を使いこなしつつ、レポート執筆に着手する。	120分
第15回	レポートの作成と質問	
	レポートで取り上げるテーマについての調査中で質問項目をまとめておく。（予習） 質問への回答を踏まえてレポートのための調査・執筆を継続する。	120分

授業の方法

実際にコンピュータを使って課題をこなしていくことで知識と技術を身につける演習形式の授業である。前半は、説明を受けての知識・技術を身につけることが中心となる。後半は、各自で設定した課題について調査しレポートとしてまとめていくことが中心となる。

成績評価の方法

授業への参加状況（40%）・小テスト（10%）・レポート（50%）を総合して評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特定の教科書は使用しない。教材はファイルやWebページの形で提示するほか、必要に応じてプリントを配布する。

参考書

授業時に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けるほか、授業時に紹介するメールアドレスで対応する。

科目名	上級漢字講座		
教員名	矢田 勉		
科目ナンバー	1251428301	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
日本漢字音の諸相 日本漢字音の多層性（古音・呉音・漢音・唐音・慣用音など）とその各々の特質について講ずる。			
到達目標			
中国語音韻学の基本的知識に基づき、日本語漢字音の概要について学問的に正確な知識を身につけ、説明できるようになる。その水準に達していない者には単位は与えられない。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
第1回	漢字音とは		
	漢和辞典の凡例等にある漢字音についての解説の精読		120
第2回	中国語音韻学の基礎		
	前回授業内容の復習		90
第3回	中国中古音（1）韻母と切韻系韻書		
	前回授業内容の復習		90

第4回	中国中古音（2）声母と等韻図	
	前回授業内容の復習	90
第5回	呉音の資料	
	前回授業内容の復習	90
第6回	呉音の特徴	
	前回授業内容の復習	90
第7回	漢音の資料	
	授業前回授業内容の復習	90
第8回	漢音の特徴	
	前回授業内容の復習	90
第9回	新漢音	
	前回授業内容の復習	90

第10回	漢字音の日本化	
	前回授業内容の復習	90
第11回	中世唐音（宋音）の資料	
	前回授業内容の復習	90
第12回	中世唐音（宋音）の特徴	
	前回授業内容の復習	90
第13回	近世唐音の資料	
	前回授業内容の復習	90
第14回	近世唐音の特徴	
	前回授業内容の復習	90
第15回	まとめ	
	これまでの講義内容の復習	120

授業の方法

講義。適宜小課題・小テストを課す。

成績評価の方法

平常点（小課題または小テスト）40%、期末レポート60%。小課題・小テスト・期末レポートのいずれも、それぞれの段階で必要な水準に達しているかの観点から、厳正に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高等学校での学習範囲程度の漢文の知識があることが望ましい。

テキスト

プリントを使用する。

参考書

適宜授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付け。

科目名	国際文化研究の現在		
教員名	川村 陶子、竹内 敬子、松浦 義弘、堀内 正樹、墓田 桂、細谷 広美、中野 由美子、有富 純也、佐々木 紳		
科目ナンバー	1251431101	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
新入生がこれから4年間、国際文化学科で勉強してくうえで必要な基礎知識や方法論、多様な研究分野の学問的視座について紹介する。当講義は、本学科での勉学の方向性を明確に理解してもらうための、導入部としても位置づけられる。			
国際文化学科の専任教員全員及び学外からのゲスト講師が授業を担当し、それぞれの専門分野や研究テーマについてわかりやすく講義する。			

第4回	「トルコと日本」(佐々木)	
	講義のノート、配布資料を見直すとともに、紹介された文献資料等を読む。	60分
第5回	ゲスト講師 (調整中)	
	講義のノート、配布資料を見直すとともに、紹介された文献資料等を読む。	60分
第6回	「ジェンダーの歴史学」(竹内)	
	講義のノート、配布資料を見直すとともに、紹介された文献資料等を読む。	60分
第7回	「図像から見るフランス革命」(松浦)	
	講義のノート、配布資料を見直すとともに、紹介された文献資料等を読む。	60分
第8回	ゲスト講師 (調整中)	
	講義のノート、配布資料を見直すとともに、紹介された文献資料等を読む。	60分
第9回	「21世紀の難民問題」(墓田)	
	講義のノート、配布資料を見直すとともに、紹介された文献資料等を読む。	60分

第10回	ゲスト講師 (調整中)	
	講義のノート、配布資料を見直すとともに、紹介された文献資料等を読む。	60分
第11回	「アンデスの先住民文化」(細谷)	
	講義のノート、配布資料を見直すとともに、紹介された文献資料等を読む。	60分
第12回	「中東の音文化」(堀内)	
	講義のノート、配布資料を見直すとともに、紹介された文献資料等を読む。	60分
第13回	「アメリカにおける人種差別克服への挑戦」(中野)	
	講義のノート、配布資料を見直すとともに、紹介された文献資料等を読む。	60分
第14回	到達度確認テスト	
	試験準備。	240分
第15回	テストの講評	
	講義のノート、配布資料を見直し、試験のふり返しを行う。	60分

授業の方法

配布プリントなどを使った講義形式が中心となる。そのほか、パワーポイントや視聴覚教材を利用する場合もある。

授業の予定については、ゲスト講師の都合により担当講師の順番等が変わる可能性がある。
第1回目の授業の際に改めて正式なスケジュールを告知する。

成績評価の方法

平常点30%、到達度確認テスト70%。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

なし。

参考書

参考書については、それぞれの講義において適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	国際文化基礎演習 I a		
教員名	有富 純也		
科目ナンバー	1251431102	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
「新書を熟読してみよう」「日本文化を外国人にプレゼンテーションする準備をしよう!」という2つのテーマで演習をします。それを通して、2年生以降における演習における発表の方法、あるいは質疑応答の作法、レポートの作成方法などを学びます。			
到達目標			
D P 2（課題の発見と解決）、5（表現力、発信力）を実現するため、次の3点を到達目標とします。 ・あらゆる授業・演習において、より良いプレゼンテーションができるようになる。 ・他人の発表を聞いて質疑ができるようになる。 ・日本文化を外国人に説明できるよう、ある程度の知識を得る。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス～授業の方法と簡単な自己紹介～		
	【予習】シラバスなどをよく読んでおく。 【復習】レジュメの作り方をよく確認しておく。		60
第2回	新書の読み方・学び方		
	【予習】事前に指定された新書を購入、目次などに目を通しておく。 【復習】個人的に別の新書も選定し、読んでみる。		60
第3回	新書熟読①		
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業で熟読した部分について確認する。		60

第4回	新書熟読②	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業で熟読した部分について確認する。	60
第5回	新書熟読③	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業で熟読した部分について確認する。	60
第6回	新書熟読④	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業で熟読した部分について確認し、中間レポートの作成に備える	120
第7回	個別報告①（ジブリと日本映画）	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】改めて当該文化について確認する。	60
第8回	個別報告②（和菓子と和食）	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】改めて当該文化について確認する。	60
第9回	個別報告③（富士山・伊勢神宮・法隆寺）	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】改めて当該文化について確認する。	60

第10回	個別報告④（沖縄・アイヌの過去・現在・未来）	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】改めて当該文化について確認する。	60
第11回	個別報告⑤（武士道と切腹）	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】改めて当該文化について確認する。	60
第12回	個別報告⑥（天皇制度）	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】改めて当該文化について確認する。	60
第13回	個別報告⑦（現在の安全保障）	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】改めて当該文化について確認する。	60
第14回	個別報告⑧（日本と東アジア）	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】改めて当該文化について確認する。	60
第15回	総まとめ	
	【予習・復習】最終レポートの準備。	60

授業の方法

基本的には学生さんの発表、質疑応答です。発表者の「日本文化」に関する発表を聞くことで、お互いの見識が深まればと思っています。軌道にのれば、教師がまったく発言せずに授業が終わる・・・なんていう授業を目指します。なお、受講生の希望があれば、シラバスを変更して授業をする可能性もあります。

成績評価の方法

2度の発表（40%）、質疑応答における積極性（30%）、レポート（30%）。目に余るほどの欠席をした学生には、単位を認めません。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目して、その達成度により評価する。

- ・あらゆる授業・演習において、より良いプレゼンテーションができるようになるための準備が行えたか。
- ・他人の発表を聞いて質疑ができるようになったか。
- ・日本文化を外国人に説明できるよう、ある程度の知識を得られたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。

テキスト

新書については、初回のときに3冊ほど提示し、そのなかから、みなさんに決定してもらいます。

参考書

小笠原喜康『新版 大学生のための論文・レポート術』講談社現代新書、2009。川村陶子監修『レポート・論文の書き方』旺文社、2015。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	国際文化基礎演習 I b		
教員名	川村 陶子		
科目ナンバー	1251431102	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
このゼミでは、18世紀末にイマヌエル・カントが著した『永遠平和のために』を講読する。 『永遠平和のために』は今から200年以上も前の著作であるが、現代にも通用する論点が数多く含まれている。国際連合や日本国憲法第9条の理念のもととなっており、〈ひと〉の視点も含めた幅広い平和や国際関係のあり方を問いかける古典である。 授業では最近出版された現代語の抄訳を中心的テキストとするが、1980年代に出版された別の訳者による完訳を補足的に読み、異なる翻訳のアプローチを比較することも試みる。また、カントの生きた時代や地域と彼の思想との関係、カントの展開した議論が現代の国際関係分析においてどのように評価され、応用されているかなどについても、他の文献を用いつつ検討したい。 * 授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等によって調整、変更する可能性がある。			
到達目標			
全体を通して、古典といわれる文章を読むおもしろさを味わうこと、そして世界への関わり方や平和についての考えを深め、意見交換できるようにすることを目指す。また、短い文章の内容の広がりを読み取り、そこから発展的テーマや討論の議題を設定する力を身につける。 大学での勉強に必要な各種スキル（文章の読解、文献の調査、文章の表現、プレゼンテーション、討論における質問や意見表明、自主的な学習態度等）の修得も、前期の基礎演習に引き続き進めていく。 こうした作業を通じて、DP1（教養の修得）、2（課題の発見）、3（他者との協働）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発信力）を総合的に実現したい。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	<以下の計画は、おおよその目安である。受講者の人数や構成、問題関心等を見た上で、開講後に修正を加える可能性がある。> イントロダクション ・授業担当者の問題意識と授業の概要（全体像、進め方など）を説明する。 ・受講者の自己紹介を行い、授業への関心や希望を聴取し、今後のスケジュールを調整する。 【予習】テキストを入手し、ざっと目を通しておく。 【復習】授業で配布した資料をおさらいし、ゼミの概要を確認する。コピーを配布したテキスト（池内訳）を含め、2冊のテキストの全体を眺めてみる。		40
第2回	文献にとりくむ準備作業（1） テキスト『永遠平和のために』の概要をつかむ。著者カントとはどのような人物であったのかを知り、なぜ本書を書いたのかを考える。それぞれの本の訳者の人物像も調べる。 テキスト報告の担当者を決定する。 【予習】池内・宇都宮両訳本のまえがきと解説、別途配布の参考資料を読み、指定された課題についてメモを取る。必要に応じ、ネットや文献等でさらに調査を行う。 テキスト講読で自分が報告してみたいセクションの候補をいくつか選んでおく。 【復習】授業で整理した情報をおさらいし、『永遠平和のために』の執筆背景について理解を深める。		60～90
第3回	文献に取り組む準備作業（2） カントの平和論が書かれた地域と時代が、現代国際関係の基礎をなす主権・国民国家体制の発展の中でどのような位置にあったかを考える。『永遠平和のために』が日本語で翻訳出版された背景を考察する。 【予習】事前指定の参考資料を読み、課題についてメモを取ってくる。必要に応じ、さらにネットや文献等で調査を行う。 【復習】授業で整理した情報をおさらいし、カントの生きた時代の国際関係史の中での位置づけや、『永遠平和のために』の日本における受容について理解を深める。		60～90

第4回	序文、テキスト第1章 その1 (平和条約)	
	テキストの該当部分を講読する。カントがこの文章を執筆した時代背景を考えると同時に、平和の定義や歴史上の主要な講和条約等について考察し理解を深める。 【予習】報告者はテキストを要約し、文章や翻訳についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストから導かれる発展的テーマについての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	180 (報告者) 60 (報告者以外)
第5回	テキスト第1章 その2 (国の独立)	
	テキストの該当部分を講読する。カントがこの文章を執筆した時代背景を考えると同時に、国家の定義や近代における国際関係のあり方等について考察し理解を深める。 【予習】報告者はテキストを要約し、文章や翻訳についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストから導かれる発展的テーマについての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	180 (報告者) 60 (報告者以外)
第6回	テキスト第1章 その3 (常備軍)	
	テキストの該当部分を講読する。カントがこの文章を執筆した時代背景を考えると同時に、軍隊の定義、日本国憲法第9条、自衛隊、集団的安全保障等について考察し理解を深める。 【予習】報告者はテキストを要約し、文章や翻訳についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストから導かれる発展的テーマについての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	180 (報告者) 60 (報告者以外)
第7回	テキスト第1章 その4 (国債)	
	テキストの該当部分を講読する。カントがこの文章を執筆した時代背景を考えると同時に、国債とは何か、戦争と経済、安全保障のディレンマ等について考察し理解を深める。 【予習】報告者はテキストを要約し、文章や翻訳についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストから導かれる発展的テーマについての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	180 (報告者) 60 (報告者以外)
第8回	テキスト第1章 その5 (内政干渉)	
	テキストの該当部分を講読する。カントがこの文章を執筆した時代背景を考えると同時に、内政干渉や人道的介入、「対テロ戦争」等について考察し理解を深める。 【予習】報告者はテキストを要約し、文章や翻訳についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストから導かれる発展的テーマについての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	180 (報告者) 60 (報告者以外)
第9回	テキスト第1章 その6 (信頼)	
	テキストの該当部分を講読する。カントがこの文章を執筆した時代背景を考えると同時に、国際人道法や非人道的兵器等について考察し理解を深める。 【予習】報告者はテキストを要約し、文章や翻訳についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストから導かれる発展的テーマについての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	180 (報告者) 60 (報告者以外)

第10回	中間討論 テキスト第1章の内容をふり返る。第1章から導かれる発展的問題、およびまたは、第2章に関連したアクチュアルな問題等に関して討論を行う。	
	【予習】テキスト第1章を総括し、事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	60～90
第11回	テキスト第2章 まえがき、その1 （共和制） テキストの該当部分を講読する。カントがこの文章を執筆した時代的背景を考えると同時に、民主主義やデモクラティック・ピース論等について考察し理解を深める。	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章や翻訳についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストから導かれる発展的テーマについての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	180（報告者） 60（報告者以外）
第12回	テキスト第2章 その2 （自由な国家の連合） テキストの該当部分を講読する。カントがこの文章を執筆した時代的背景を考えると同時に、国民国家体制、国際連盟や国際連合、地域統合等について考察し理解を深める。	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章や翻訳についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストから導かれる発展的テーマについての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	180（報告者） 60（報告者以外）
第13回	テキスト第2章 その3 （世界市民法と友好の条件） テキストの該当部分を講読する。カントがこの文章を執筆した時代的背景を考えると同時に、出入国管理、国籍やシティズンシップと外国人の権利、西洋と非西洋の関係、世界市民主義等について考察し理解を深める。	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章や翻訳についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストから導かれる発展的テーマについての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	180（報告者） 60（報告者以外）
第14回	総括討論（1） テキスト第2章の内容をふり返り、同章から導かれる発展的問題に関して討論を行う。第1章やその他読み切れなかった部分を含めたテキスト全体のふり返りも、授業の進捗状況に応じて開始する。	
	【予習】テキスト後半部分（および、進捗状況によってはテキスト全体）を総括し、事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。 期末レポートの執筆も、この時期やその前後に行うことが望ましい。	60～120
第15回	総括討論（2） テキスト全体の内容を総括し、そこから導かれる問題に関して討論を行う。1学期間のゼミ活動のふり返りを行う。	
	【予習】テキスト全体を総括し、事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。期末レポートを執筆する。 【復習】報告や討論の内容をふり返り、ゼミでの学習で達成できたことや反省点をまとめ、今後の学習に生かしていく。	60～120

授業の方法

テキストの内容、および毎回のテーマに関連する応用的調査研究の報告と、それに対する討論を中心とした演習形式で行う。
調査研究と報告は、2名～数名のグループで実施する予定である。グループワークにあたっては、仲間と早めに相談し、協力して準備を行うこと。準備開始時には、調査テーマや議題の設定等に関して、事前に教員と相談することを推奨する。
報告者以外の者も、テキストや事前課題の予習を自主的かつ積極的に行うことを求める。
テキストへの理解を深めるため、学期前半には導入的講義や補足的資料等の講読を交える。このほか必要に応じ、補足的な資料講読や調査などを交える可能性もある。

成績評価の方法

平常点（報告、討論への参加、各種提出物等）：80%
期末課題：20%
をめやすに、総合的に評価する。
報告者以外の者も全員が、毎回ある程度の分量の文献を読み、論点や疑問点を整理してることが出席の条件となる。自主的に調べ、発言し、授業に積極的に参加する受講者、協力して充実した研究を行ったグループの受講者には、平常点においてプラスの評価を与える。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

インターネットの利用を含めたコンピュータの基本操作を身につけていることが望ましい。世界史や政治経済、倫理等の基礎知識が要求されるが、高校で選択していなくても自分なりに勉強する意欲があれば受講を歓迎する。
受講者には、積極的に本を読み、メディア報道やインターネット情報等に注意を向けるなどして、授業の関連トピックについてアンテナを張ることを求める。
先修科目：「フレッシュャーズ・セミナー」
関連科目：「国際関係論」「平和学」等。

テキスト

イマヌエル・カント（池内紀訳）『永遠平和のために』集英社、2015年。
カント（宇都宮芳明訳）『永遠平和のために』岩波文庫、1985年。
いずれのテキストも、初回授業までに各自で用意しておくこと。
他に使用する文献は、開講時および授業中に指定する。

参考書

カント（中山元訳）『永遠平和のために／啓蒙とは何か 他3編』光文社古典新訳文庫、2006年。
小和田恒・山影進『国際関係論』放送大学教育振興会、2002年。
加藤陽子『それでも、日本人は「戦争」を選んだ』朝日出版社、2009年。
小牧治『カント』（Century Books 人と思想）清水書院、2000年。
旺文社編『レポート・論文の書き方』旺文社、2015年。
このほか、授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	国際文化基礎演習Ⅰ c		
教員名	佐々木 紳		
科目ナンバー	1251431102	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
この授業では、国際文化学科が扱う学問領域のうち、「歴史・地域文化研究」に関連するテーマを考えながら、大学での学修活動、とくに演習形式の授業で求められる学術的技能の習得をめざす。はじめに、共通のテキストを読み進めながら、情報収集、報告（プレゼンテーション）、討論（ディスカッション）の練習を重ねる。次に、各自でテーマを選定し、授業内で報告する。最後に、この授業での学修成果を報告書（レポート）にまとめてもらう。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、5（表現力、発信力）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、下記の点を到達目標とする。 ・学術的なプレゼンテーションやディスカッションの経験を積む。 ・レポートの作成作業を通して、学術的な文章を作成するための基礎的技法を習得する。 ・歴史学研究の最新の動向と成果に触れることで、知見と視野を広げる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	授業の紹介と導入		
	【予習】 シラバスを読む。簡単な自己紹介の準備をしておく。 【復習】 テキストを用意し、概要を確認しておく。	60	
第2回	プレゼンテーションとディスカッションの練習		
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60	
第3回	プレゼンテーションとディスカッションの練習		
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60	

第4回	プレゼンテーションとディスカッションの練習	
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第5回	プレゼンテーションとディスカッションの練習	
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第6回	プレゼンテーションとディスカッションの練習	
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第7回	プレゼンテーションとディスカッションの練習	
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第8回	プレゼンテーションとディスカッションの練習	
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第9回	プレゼンテーションとディスカッションの練習	
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60

第10回	プレゼンテーションとディスカッションの練習	
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第11回	プレゼンテーションとディスカッションの練習	
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第12回	プレゼンテーションとディスカッションの練習	
	【予習】 テキストの該当部分を熟読し、要点や疑問点を明らかにしておく。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第13回	レポート作成の準備	
	【予習】 レポートで取り上げるテーマを選び、準備を進める。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第14回	レポート作成の準備	
	【予習】 レポートで取り上げるテーマを選び、準備を進める。 【復習】 今後の授業で留意すべき点を整理しておく。	60
第15回	授業の総括と確認	
	【予習・復習】 授業を通して得た技能・知見・考え方のなかで、今後の各自の学修活動に活かせるものを見きわめる。	60

授業の方法

- ・ 演習形式でおこなう。前半はグループ報告、後半は個別報告で進める。
- ・ 毎回、担当者（または担当グループ）を決めてプレゼンテーションをおこない、その後、関連するディスカッションをおこなう
- ・ 報告者（報告グループ）は、報告後に報告内容と今後の展望をまとめた事後レポートを提出する。

成績評価の方法

- ・ 授業への取り組み（30%）、授業内報告（30%）、課題レポート（40%）。
- ・ 授業への取り組みについては、ディスカッションでの発言の回数や内容も評価の判断材料とする。
- ・ プレゼンテーション・ディスカッション・課題レポートでは、体裁や形式についても評価の判断材料とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

共通テキストには歴史学に関する文献を用いるが、当面は手持ちの日本史・世界史の知識だけで十分。

テキスト

- ・ 木畑洋一『20世紀の歴史』（岩波新書）（岩波書店、2014年）
- ・ 川村陶子（監修）『大学生の文章術：レポート・論文の書き方』（旺文社、2015年）

参考書

授業内で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	国際文化基礎演習 I d		
教員名	井出 弘毅		
科目ナンバー	1251431102	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
大学における研究、特に資料を探し集め読み込むというインプットと、レジメ作成・口頭発表・レポート作成などのアウトプットの技法について、学生自らが自覚的に身につけることを目的とします。			
到達目標			
DP2(課題の発見と解決)、5(表現力、発信力)を実現するため、次の3点を到達目標とします。 ・書籍や論文などの読み込み方と、レジメへのまとめ方、発表の仕方を身につけることができる。 ・質疑応答の仕方を身につけることができる。 ・情報リテラシーについて基礎的な事柄を学ぶことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス		
	【予習】シラバスなどをよく読んでおくこと。 【復習】このゼミで何をするか考えておく。		30分
第2回	大学で学ぶための技法		
	【予習】関連する書籍やウェブサイト等を参照しておくこと。 【復習】様々な技法について、確認する。		60分
第3回	デモンストレーション		
	【予習】関連する書籍やウェブサイト等を参照しておくこと。 【復習】デモンストレーションを受けて、自分なりの方法について確認する。		60分

第4回	発表テーマの決定	
	【予習】発表テーマを決めるための事前準備 【復習】発表テーマについて下調べをする。	90分
第5回	発表 1 ・発表とゼミ全員による質疑、討論。	
	【予習】発表の準備 【復習】質疑、討論を受けて、授業中に解決できなかった課題について取り組む。	90分
第6回	発表 2 ・発表とゼミ全員による質疑、討論。	
	【予習】発表の準備 【復習】質疑、討論を受けて、授業中に解決できなかった課題について取り組む。	90分
第7回	発表 3 ・発表とゼミ全員による質疑、討論。	
	【予習】発表の準備 【復習】質疑、討論を受けて、授業中に解決できなかった課題について取り組む。	90分
第8回	発表 4 ・発表とゼミ全員による質疑、討論。	
	【予習】発表の準備 【復習】質疑、討論を受けて、授業中に解決できなかった課題について取り組む。	90分
第9回	発表 5 ・発表とゼミ全員による質疑、討論。	
	【予習】発表の準備 【復習】質疑、討論を受けて、授業中に解決できなかった課題について取り組む。	90分

第10回	発表 6 ・発表とゼミ全員による質疑、討論。	
	予習】発表の準備 【復習】質疑、討論を受けて、授業中に解決できなかった課題について取り組む。	90分
第11回	発表 7 ・発表とゼミ全員による質疑、討論。	
	予習】発表の準備 【復習】質疑、討論を受けて、授業中に解決できなかった課題について取り組む。	90分
第12回	発表 8 ・発表とゼミ全員による質疑、討論。	
	予習】発表の準備 【復習】質疑、討論を受けて、授業中に解決できなかった課題について取り組む。	90分
第13回	発表 9 ・発表とゼミ全員による質疑、討論。	
	予習】発表の準備 【復習】質疑、討論を受けて、授業中に解決できなかった課題について取り組む。	90分
第14回	発表10 ・発表とゼミ全員による質疑、討論。	
	予習】発表の準備 【復習】質疑、討論を受けて、授業中に解決できなかった課題について取り組む。	90分
第15回	まとめ これまでの収穫と不足点について学修する。	
	【予習】これまでの収穫と不足点について考えておく。 【復習】このゼミを通して、自分が身につけたことと、不十分であったことについて自覚的に振り返る。期末レポートの準備。	90分

授業の方法

演習方式。参加者全員が調べて発表する訓練が中心で、発表者に対するコメントと積極的に議論に参加することが求められる。基本的なリテラシーやレジメの作成方法などについては最初の方で簡単に解説する。それを受けた上で、自分自身の関心がある事柄について調べ、レジメにまとめ、発表し、全体で議論する。議論の内容も加えて最終的にレポートとしてまとめる。

成績評価の方法

発表（30%）、期末レポート（30%）、演習中の質疑応答など、演習への積極的な参加（40%）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する

次の点に着目して、その達成度により評価する。

- ・書籍や論文などの読み込み方と、レジメへのまとめ方、発表の仕方を身につけることができたか。
- ・質疑応答の仕方を身につけることができたか。
- ・情報リテラシーについて基礎的な事柄を身につけることができたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

授業の中で随時紹介する。

参考書

川村陶子監修『大学生の文章術 レポート・論文の書き方』旺文社、2015年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	国際文化基礎演習Ⅰ e		
教員名	木村 秀雄		
科目ナンバー	1251431102	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要			
専門をどう選ぶか、いろいろな可能性を試しながら、自分にもっとも合いそうな分野を選ぶ手助けをしたい。教員の専門は人類学で、ラテンアメリカを調査地としているが、開発学・制度主義経済学・神話学など人類学から広がる分野も研究領域に含まれている。受講生の関心を確かめた上で、みんなが専門を決める手助けをしたい。			

到達目標			
受講生が自分の専門領域を決めるための手助けをすることを目標とする。そのためには、専門の学問領域の面白さを知ってもらうことを目標とする。話の中心は人類学になると思うが、それにこだわらず学問の面白さを知ってもらうことを目標とする。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	受講生の関心の確認		
	特になし		0
第2回	専門を決める前に考えること		
	特になし		0
第3回	専門の勉強とは何か(1) 言葉＝個人の経験を越えるもの		
	特になし		0

第4回	専門の勉強とは何か（2） 身体＝「私」ではないもの	
	前週の復習	30
第5回	専門の勉強とは何か（3） 自己と他者＝決して理解できないもの	
	前週の復習	30
第6回	専門の勉強とは何か（4） 人と繋がるとはどういうことか	
	前週の復習	30
第7回	ディシプリンとアプローチ（1） 国際関係論	
	前週の復習	30
第8回	ディシプリンとアプローチ（2） 個人と制度	
	前週の復習	30
第9回	ディシプリンとアプローチ（3） 人間の安全保障	
	前週の復習	30

第10回	ディシプリンとアプローチ（４） 人類学	
	前週の復習	30
第11回	人類学のいろいろ（１） 神話と口頭伝承	
	前週の復習	30
第12回	人類学のいろいろ（２） SFと人類学	
	前週の復習	30
第13回	人類学のいろいろ（３） 習慣と儀礼的行為	
	前週の復習	30
第14回	人類学のいろいろ（４） 言語・身体と人類学	
	前週の復習	30
第15回	まとめ 専門の勉強をすること	
	前週の復習	30

授業の方法

教員の講義と受講生のディスカッションを組み合わせる授業を構成する

成績評価の方法

出席と授業への貢献度で評価

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし

参考書

授業中に指示する

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	国際文化基礎演習Ⅰ f		
教員名	中野 由美子		
科目ナンバー	1251431102	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
日本で海外渡航が自由化された1964年以降、ピーク時の97年には、日本を出国した人の約13パーセントに相当する221万人余りが訪れた場所-それが本演習の対象とするハワイである。2000年代の訪問者数は年間100万人程度に減少したとはいえ、現在でもハワイは「定番」の海外旅行先といえるだろう。 本演習では、ハワイの歴史を概観したうえで、歴史的に重要な出来事（たとえば、合衆国によるハワイ併合や第二次世界大戦など）について、誰によって何が語られたのか、あるいは語られなかったのかを主に日系移民や先住民といった複数の視点を踏まえて検討する。これらの事例研究を通じて、最終的には、国民国家主体の歴史観を相対化することを目指す。 なお、本演習では、上記のテーマに基づき、コラムの作成とともに、説得力のあるディスカッション、プレゼンテーションをするトレーニングも行う。			
到達目標			
DP2（問題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の4点を到達目標とする。			
① 500字程度の文章を、形式的・内容的に過不足なく書くことができる。			
② 事前に準備したレジュメに基づいて、説得力あるプレゼンテーションを行うことができる。			
③ ハワイの歴史に関する事例研究を通じて、歴史叙述における「視点」の多様性を理解し、説明できる。			
④ 主に社会史・文化史的観点から、ハワイの歴史と文化の特質を説明できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	概説：国民国家と島嶼地域 ・演習の進め方を説明する。 ・事例研究の対象であるハワイについて、その概要を学 修する。		
	【予習・復習】 指定テキストのプロローグを、よく読んでおくこと。		60
第2回	世界史の中のハワイ - 欧米・日本・ハワイ ・高校で使用している「世界史」の教科書の一部と比較しながら、指定テキストの特徴を理解する。		
	【予習・復習】 指定テキストの第1章の1を、よく読んでおくこと。		60
第3回	日本人移民とハワイ - (1)労働者としての官約移民 ・日本人移民の歴史について、映像もみながら学修する。		
	【予習・復習】 指定テキストの第1章の2と3を、よく読んでおくこと。		60

第4回	日本人移民とハワイ - (2) 日本人移民の生活 ・日本人移民の歴史について、映像もみながら学修する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第1章の4を、よく読んでおくこと。	60
第5回	小括 - 文書・映像資料に基づくグループワーク ・映画を題材として、日本人移民社会の内部の多様性や性差について理解する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第1章を、もう一度よく読んでおくこと。	60
第6回	ハワイ先住民にとっての「故郷」 - (1) 日・米・ハワイ関係史 ・ハワイ先住民の視点を踏まえつつ、ハワイの歴史について学修する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第4章の1・2を、よく読んでおくこと。	60
第7回	ハワイ先住民にとっての「故郷」 - (2) ハワイ王朝の歴史 ・ハワイ先住民の視点を踏まえつつ、ハワイの歴史について学修する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第4章の2を、よく読んでおくこと。	60
第8回	ハワイ先住民にとっての「故郷」 - (3) ハワイ先住民と観光業 ・ハワイ先住民の視点を踏まえつつ、ハワイの歴史について学修する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第4章の3を、よく読んでおくこと。	60
第9回	小括 - 文書・映像資料に基づくグループワーク ・映画を題材として、ハワイ先住民と合衆国によるハワイ併合について学修する。とくに、歴史叙述における視点の違いとはなにかを理解する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第3章の1と2を、よく読んでおくこと。	60

第10回	第二次大戦とハワイ – (1) パールハーバーと日米開戦 ・「パールハーバー」をめぐる歴史的経験や解釈の違いについて、学修する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第2章の1を、よく読んでおくこと。	60
第11回	第二次大戦とハワイ – (2) パールハーバーの「記憶」の継承と変容 ・「パールハーバー」をめぐる歴史的記憶をめぐる論争について、その意義を把握する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第2章の2と3を、よく読んでおくこと。	60
第12回	小括 – 文書・映像資料に基づくグループワーク ・「パールハーバー」をめぐる戦争観の違いについて、映像史料に基づいて分析する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第2章の4を、よく読んでおくこと。	60
第13回	プレゼンテーション ・レジュメに基づき、発表する。また、プレゼンテーションに関連した質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 グループのメンバーが作成したレジュメを、よく読んでおくこと。	60
第14回	プレゼンテーション ・レジュメに基づき、発表する。 また、プレゼンテーションに関連した質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 グループのメンバーが作成したレジュメを、よく読んでおくこと。	60
第15回	プレゼンテーションのレビュー ・プレゼンテーション全般を振り返り、改善点について学修する。	
	【予習・復習】 指定テキストの第3章を、よく読んでおくこと。	60

授業の方法

演習形式で行う。テキストの精読については、事前に担当者を決める形で行う。文書・映像史料分析については、ペアワーク・グループワーク、あるいはクラス全体に対するプレゼンテーションの形で行う。クラスメートに迷惑をかけるので、遅刻は厳禁。

成績評価の方法

授業中の発言と事前あるいは授業中に課す簡単な課題＝本セミナーの平常点として換算（60%）、レジュメに基づく要約とコメント（20%）、プレゼンテーション（20%）による総合評価とする。さらに授業中の発言や質問、ペアワークやグループワークでの積極的な貢献に対しては、10%を上限として加算することがある。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

主に以下の点について、その到達度により評価する。

- ・ハワイの歴史に関する基礎的な歴史知識を修得しているか。
- ・現代史の大きな流れの中にハワイの歴史を位置づけ、その歴史的意義を理解しているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校卒業レベルの世界史の基礎知識は必要であるが、未履修者はテキスト・参考書を事前に熟読して基礎知識の習得に努めること。

テキスト

矢口祐人『ハワイの歴史と文化-悲劇と誇りのモザイクの中で』中公新書、2002年。

ISBN: 4-12-101644-0

参考書

ロナルド・タカキ『パウ・ハナ-ハワイ移民の社会史』刀水書房、1986年。

ハウナニ=ケイ・トラスク『大地にしがみつけ-ハワイ先住民女性の訴え』春風社、2002年。

矢口祐人・中山京子・森茂岳雄『真珠湾を語る-歴史・記憶・教育』東京大学出版会、2011年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	国際文化基礎演習II a		
教員名	墓田 桂		
科目ナンバー	1251431103	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
【21世紀の平和の課題】			
私たちはどのような世界に生きているのだろうか？			
経済の相互依存に加え、交通網の発達とインターネットの普及により、諸国民の交流は盛んになった。22世紀の到来を感じさせるような技術革新を目にする機会も増えた。しかし、その一方で、所得の格差は拡大し、テロや暴力行為は後を絶たない。各地で頻発する武力紛争、過激主義の広がり、既存の国家の崩壊、戦争のIT化やサイバー空間での争いなど、数々の問題やリスクが顕在する。米国の力の低下と中国の台頭に伴い世界的なパワーバランスが変化する中、世界は「混迷の時代」を迎えたと言えよう。			
この授業ではそうした複雑な現代の世界を「平和の課題」というキーワードで読み解いていく。			
到達目標			
DP1（総合的思考力）、DP2（課題の発見と解決）、DP5（表現力、発信力）、DP6（専門分野の知識・理解）、DP7（多面的な分析能力）を実現するため、下記を到達目標とする。 ・世界と日本が直面する課題を自ら発見できる。 ・ゼミ発表や議論を通じて基礎的な学習技術を習得する。 ・授業で扱うテーマについて幅広い視野を持ち、自身の意見を述べることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	(おおよそ下記の授業計画に従って授業を進める。変更する場合もある。)		
	ガイダンス（※具体的な発表のテーマや授業の進め方などを説明する。)		
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。		90
第2回	映像資料の視聴		
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。		90
第3回	映像資料の視聴		
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。		90

第4回	英文読解	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第5回	発表①	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第6回	発表②	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第7回	英文読解	
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第8回	発表③	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第9回	発表④	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90

第10回	発表⑤	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第11回	英文読解	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第12回	発表⑥	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第13回	発表⑦	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第14回	映像資料の視聴	
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第15回	まとめ	
	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	90

授業の方法

-ゼミ発表：ゼミで扱うテーマについて、持ち回りで発表する。それについて討論者が意見を述べ、皆で議論する。
-レポート：初回の授業で指定する数冊の本を読み、「21世紀の平和の課題」についてレポートを執筆する（3,000字程度）。

成績評価の方法

発表（20%）、討論（20%）、平常点（20%）、レポート（40%）を組み合わせた総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

初回の授業で指示する。

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	国際文化基礎演習III a		
教員名	墓田 桂		
科目ナンバー	1251431104	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
【21世紀の平和の課題】 私たちはどのような世界に生きているのだろうか？ 経済の相互依存に加え、交通網の発達とインターネットの普及により、諸国民の交流は盛んになった。22世紀の到来を感じさせるような技術革新を目にする機会も増えた。しかし、その一方で、所得の格差は拡大し、テロや暴力行為は後を絶たない。各地で頻発する武力紛争、過激主義の広がり、既存の国家の崩壊、戦争のIT化やサイバー空間での争いなど、数々の問題やリスクが顕在する。米国の力の低下と中国の台頭に伴い世界的なパワーバランスが変化する中、世界は「混迷の時代」を迎えたと言えよう。 この授業ではそうした複雑な現代の世界を「平和の課題」というキーワードで読み解いていく。			
到達目標			
DP1（総合的思考力）、DP2（課題の発見と解決）、DP5（表現力、発信力）、DP6（専門分野の知識・理解）、DP7（多面的な分析能力）を実現するため、下記を到達目標とする。 ・世界と日本が直面する課題を自ら発見できる。 ・ゼミ発表や議論を通じて基礎的な学習技術を習得する。 ・授業で扱うテーマについて幅広い視野を持ち、自身の意見を述べることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	(おおよそ下記の授業計画に従って授業を進める。変更する場合もある。) ガイダンス (※具体的な発表のテーマや授業の進め方などを説明する。)		
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。		90
第2回	映像資料の視聴		
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。		90
第3回	映像資料の視聴		
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。		90

第4回	英文読解	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第5回	発表①	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第6回	発表②	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第7回	英文読解	
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第8回	発表③	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第9回	発表④	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90

第10回	発表⑤	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第11回	英文読解	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第12回	発表⑥	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第13回	発表⑦	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第14回	映像資料の視聴	
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第15回	まとめ	
	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	90

授業の方法

-ゼミ発表：ゼミで扱うテーマについて、持ち回りで発表する。それについて討論者が意見を述べ、皆で議論する。
-レポート：初回の授業で指定する数冊の本を読み、「21世紀の平和の課題」についてレポートを執筆する（3,000字程度）。

成績評価の方法

発表（20%）、討論（20%）、平常点（20%）、レポート（40%）を組み合わせた総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

初回の授業で指示する。

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	国際文化基礎演習II b		
教員名	細谷 広美		
科目ナンバー	1251431103	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要			
文化人類学の演習です。文化人類学は「文化とは何か」、「人間とは何か」を実践的に考える学問です。その重要な方法論として現地調査をおこなうフィールドワークがあります。グローバル化が進展する中、私たちはマスメディアやインターネットを通じて海外の情報を手に入れることができるようになりました。しかし、他方でグローバル化が進展すればするほど、世界の多様性を知り、多様な文化の存在、多様な価値観の存在を知り、互いの違いに気づきます。そもそも異文化を理解するとはどういうことなのでしょう？私たちはどのように異文化を理解し、共存していくことができるのでしょうか？本演習を通じてこの問いに取り組んで下さい。本演習では文献を読むとともに、フィールドワークの手ほどきをします。			

到達目標			
DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を身につけるため、以下を到達目標とする。 多様な文化、多様な価値観の存在に気づく。 グローバリゼーションについての考察を深める。 自分で課題を発見し、取り組む力をつける。 情報を鵜呑みにせず、考え、判断する力をつける。メディア・リテラシーを高める。 文献を探し、分析し、批判的に読み込む力をつける。クリティカル・シンキングの力をつける。 ディベート及びプレゼンテーション力をつける。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	導入部 授業の進め方についての説明 レジュメの書き方についての説明 発表担当のグループ分け。		
	発表準備のためのスケジュールをたてる。		30分
第2回	映像		
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。		90分
第3回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。		
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。		90分

第4回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第5回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第6回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第7回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第8回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第9回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分

第10回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第11回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第12回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第13回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第14回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第15回	まとめ	
	学期末レポート作成。	90分

授業の方法

演習形式です。グループ作業を伴います。フィールドワーク実習をする場合シラバスは流動的になります。

成績評価の方法

ゼミへの貢献度（プレゼンテーション、ディスカッションなど。） 50%
レポート 50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

文化人類学の基本的考え方を知る。

異文化への想像力を持つ。

フィールドワークの方法論を理解する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

文化人類学の入門書を読んでおいて下さい。

文化人類学関係の科目を受講しておくか、並行して受講することが望ましいです。（文化人類学、社会人類学、民族誌論、フィールドワーク論、開発の人類学、エスニック・スタディーズ、文化人類学特講、社会人類学特講）

テキスト

初回授業の際に伝えます。

参考書

授業中、適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	国際文化基礎演習III b		
教員名	細谷 広美		
科目ナンバー	1251431104	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
文化人類学の演習です。文化人類学は「文化とは何か」、「人間とは何か」を実践的に考える学問です。その重要な方法論として現地調査をおこなうフィールドワークがあります。グローバル化が進展する中、私たちはマスメディアやインターネットを通じて海外の情報を手に入れることができるようになりました。しかし、他方でグローバル化が進展すればするほど、世界の多様性を知り、多様な文化の存在、多様な価値観の存在を知り、互いの違いに気づきます。そもそも異文化を理解するとはどういうことなのでしょう？私たちはどのように異文化を理解し、共存していくことができるのでしょうか？本演習を通じてこの問いに取り組んで下さい。本演習では文献を読むとともに、フィールドワークの手ほどきをします。			
到達目標			
DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を身につけるため、以下を到達目標とする。 多様な文化、多様な価値観の存在に気づく。 グローバリゼーションについての考察を深める。 自分で課題を発見し、取り組む力をつける。 情報を鵜呑みにせず、判断し、考える力をつける。メディア・リテラシーを高める。 文献を探し、分析し、批判的に読み込む力をつける。クリティカル・シンキングの力をつける。 プレゼンテーション及びディベートの力をつける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	導入部 授業の進め方についての説明 レジュメの書き方についての説明 発表担当のグループ分け。		
	発表準備のためのスケジュールをたてる。	30分	
第2回	映像		
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分	
第3回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。		
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分	

第4回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第5回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第6回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第7回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第8回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第9回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分

第10回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第11回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第12回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第13回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第14回	発表担当者がレジュメをもとに発表、質疑応答、ディスカッション。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	90分
第15回	まとめ	
	学期末レポート作成。	90分

授業の方法

演習形式です。
グループ作業を伴います。
フィールドワーク実習をする場合、シラバスは流動的になります。

成績評価の方法

ゼミへの貢献度（プレゼンテーション、ディスカッションなど。） 50%
レポート 50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

文化人類学の基本的考え方を知る。
異文化への想像力を持つ。
フィールドワークの方法論を理解する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

文化人類学の入門書を読んでおいて下さい。
文化人類学関係の科目を受講しておくか、並行して受講することが望ましいです。（文化人類学、社会人類学、民族誌論、フィールドワーク論、開発人類学、エスニック・スタディーズ、文化人類学特講、社会人類学特講）
外国語を学んでおくと、より可能性が広がります。

テキスト

初回授業で伝えます。

参考書

授業中、適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	国際文化基礎演習II c		
教員名	竹内 敬子		
科目ナンバー	1251431103	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
2020年の東京オリンピック・パラリンピックをにらみ、「スポーツと文化」について考える。 それを踏まえ、成蹊大学が地域と連携しながらオリンピックにどう関わっていったら良いか、学生の立場から考え、実際に大学に対して提案をする。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、以下を到達目標とする。 ①テキストを読み、さらに新聞や他の文献を調べ、自分の意見を持ち、それを発表する力をつける。 ②「スポーツと文化」についての基本的な知識を身につける。 ③「スポーツと文化」をさまざまな地域やさまざまな時代のコンテキストの中で複眼的に分析できる力をつける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション 授業の概要の説明と報告者のグループ分け		
	テーマに関連する新聞記事を読む。		60
第2回	「序」を読み、議論する。 「オリンピックと大学」について議論する。		
	テキストを読み、関連する新聞記事を読む。 報告者はレジュメを用意する。		60 報告者は180
第3回	「I 近代スポーツの成立と発展」を読み、議論する。		
	テキストを読み、関連する新聞記事を読む。 報告者はレジュメを用意する。		60 報告者は180

第4回	「II メディア化するスポーツ」を読み、議論する。	
	テキストを読み、関連する新聞記事を読む。 報告者はレジュメを用意する。	60 報告者は180
第5回	「III 消費文化としてのスポーツ」を読み、議論する。	
	テキストを読み、関連する新聞記事を読む。 報告者はレジュメを用意する。	60 報告者は180
第6回	小活	
	これまでの復習	60
第7回	「IV スポーツと政治・権力」を読み、議論する。	
	テキストを読み、関連する新聞記事を読む。 報告者はレジュメを用意する。	60 報告者は180
第8回	「V スポーツとジェンダー」を読み、議論する。	
	テキストを読み、関連する新聞記事を読む。 報告者はレジュメを用意する。	60 報告者は180
第9回	映画『42』を鑑賞し、議論する。	
	これまでの復習。	60 報告者は180

第10回	引き続き『42』を鑑賞し、議論する。	
	第9回に鑑賞したところについての感想をまとめる。	60 報告者は180
第11回	「VI スポーツする身体」を読み、議論する。	
	テキストを読み、関連する新聞記事を読む。 報告者はレジュメを用意する。	60 報告者は180
第12回	「XVII スポーツ文化研究の視点と方法」を読み、議論する	
	テキストを読み、関連する新聞記事を読む。 報告者はレジュメを用意する。	60 報告者は180
第13回	2020年東京オリンピック・パラリンピックで武蔵野市がホストするルーマニアからの留学生（あるいは日本在住のルーマニア人）との交流	
	これまでの復習。 交流の感想をまとめる。	60 報告者は180
第14回	成蹊大学に対し行う、具体的な提案を考える	
	提案を考えてくる。 授業後、提案をまとめる。	60 報告者は180
第15回	まとめ	
	授業全体の振り返り。	60

授業の方法

- ①学生の報告と議論が中心。
- ②適宜、スタディ・スキルについての話をする。

成績評価の方法

学期末レポート(50%)、報告・グループワーク(20%)、授業中の発言など(10%)、適宜課す宿題(20%)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

井上俊他編著『よくわかるスポーツ文化論』(ミネルヴァ書房)

参考書

授業中に紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	国際文化基礎演習III c		
教員名	竹内 敬子		
科目ナンバー	1251431104	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
2020年の東京オリンピック・パラリンピックをにらみ、「スポーツと文化」について考える。 それを踏まえ、成蹊大学が地域と連携しながらオリンピックにどう関わっていったら良いか、学生の立場から考え、実際に大学に対して提案をする。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7(問題発見能力および多面的な分析能力)、DP8(他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力)を実現するため、以下を到達目標とする。 ①テキストを読み、さらに新聞や他の文献を調べ、自分の意見を持ち、それを発表する力をつける。 ②「スポーツと文化」についての基本的な知識を身につける。 ③「スポーツと文化」をさまざまな地域やさまざまな時代のコンテキストの中で複眼的に分析できる力をつける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション 授業の概要の説明と報告者のグループ分け		
	テーマに関連する新聞記事を読む。	60	
第2回	「序」を読み、議論する。 「オリンピックと大学」について議論する。		
	テキストを読み、関連する新聞記事を読む。 報告者はレジュメを用意する。	60 報告者は180	
第3回	2020年東京オリンピック・パラリンピックで武蔵野市がホストするルーマニア国からの留学生あるいは地域在住のルーマニアの方との交流。		
	交流の感想をまとめる	60	

第4回	「VIII スポーツと教育」を読み、議論する。	
	テキストを読み、関連する新聞記事を読む。 報告者はレジュメを用意する。	60 報告者は180
第5回	「IX スポーツと地域社会」を読み、議論する。	
	テキストを読み、関連する新聞記事を読む。 報告者はレジュメを用意する。	60 報告者は180
第6回	「XI スポーツ・ファンの文化」を読み、議論する。	
	テキストを読み、関連する新聞記事を読む。 報告者はレジュメを用意する。	60 報告者は180
第7回	小活	
	これまでの復習	60
第8回	「XII スポーツと芸術」を読み、議論する。	
	テキストを読み、関連する新聞記事を読む。 報告者はレジュメを用意する。	60 報告者は180
第9回	「XIII 日本のスポーツ文化」を読み、議論する。	
	テキストを読み、関連する新聞記事を読む。 報告者はレジュメを用意する。	60 報告者は180

第10回	『栄光のランナー1936ベルリン』を鑑賞し、議論する。	
	これまでの復習。	60
第11回	引き続き『栄光のランナー1936ベルリン』を鑑賞し、議論する。	
	感想をまとめる。	60
第12回	「XIV グローバル化するスポーツ」を読み、議論する。	
	テキストを読み、関連する新聞記事を読む。 報告者はレジュメを用意する。	60 報告者は180
第13回	「XV スポーツをめぐる社会問題」を読み、議論する	
	これまでの復習。 交流の感想をまとめる。	60 報告者は180
第14回	成蹊大学に対し行う、具体的な提案を考える	
	提案を考えてくる。 授業後、提案をまとめる。	60
第15回	まとめ	
	授業全体の振り返り。	60

授業の方法

- ①学生の報告と議論が中心。
- ②適宜、スタディ・スキルについての話をする。

成績評価の方法

学期末レポート(50%)、報告・グループワーク(20%)、授業中の発言など(10%)、適宜課す宿題(20%)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

井上俊他編著『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房

参考書

授業中に紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	国際文化基礎演習II d		
教員名	松浦 義弘		
科目ナンバー	1251431103	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
【テーマ】フランス革命と民衆の政治参加 【概要】フランス革命期には、現在とはちがって、政治は個々人の生活において中心的な役割を果たした。政治の領域が劇的に拡大し、だれもが国家の政治問題に関して何らかの意見を表明することを期待され、さまざまな人々が政治に参加したのである。本演習では、概説書などには名前が出てこない、その意味で無名の人びとの革命期における活動について紹介した文献を読むことをつうじて、フランス革命期における政治の問題を考えていきたい。また、その作業と並行して、文献の探索の仕方、口頭発表の仕方、レジュメの作り方、レポートの書き方など、今後の研究や学習にとって必要不可欠な知識や技術も習得できるようにしたい。			
到達目標			
DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の3点を目標とする。 ①課題を提起し、その解決のために、調査・分析能力を高める。 ②プレゼンテーション能力を身につける。 ③フランス革命のプロセスを学び、その意味を考える。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	導入		
	シラバスを読んでおく。		20
第2回	フランス革命の概要を高校教科書で学ぶ。		
	配布されたプリントを読んでおく。		60
第3回	テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答		
	テキストを読み、その内容について理解する。		60

第4回	テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答	
	テキストを読み、その内容について理解する。で考える。	60
第5回	史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など	
	テキストを読み、その内容について理解する。	60
第6回	史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など	
	テキストを読み、その内容について理解する。	60
第7回	史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など	
	テキストを読み、その内容について理解する。	60
第8回	テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答	
	テキストを読み、その内容について理解する。いて考える。	60
第9回	史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など	
	テキストを読み、その内容について理解する。	60

第10回	史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など	
	テキストを読み、その内容について理解する。	60
第11回	史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など	
	テキストを読み、その内容について理解する。	60
第12回	史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など	
	テキストを読み、その内容について理解する。	60
第13回	史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など	
	テキストを読み、その内容について理解する。	60
第14回	演習全体をふりかえる	
	課題にかんしてレポートを書く。	120
第15回	レポートの講評	
	課題にかんしてレポートを書く。	120

授業の方法

演習参加者が順番にテキストにかんして報告し、それにかんして質疑応答するという形式で演習をすすめる。

成績評価の方法

平常点（60パーセント）、課題レポート（40パーセント）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ・自分の興味関心に即したテーマに関して一定水準以上の卒論を執筆できる力をつけることができたか

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

フランス革命期の民衆の政治参加について論じたテキスト（“Voices from the Streets in the French Revolution”）を読む。なお、テキストはプリントして配布する。

参考書

授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	国際文化基礎演習III d		
教員名	松浦 義弘		
科目ナンバー	1251431104	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
【テーマ】フランス革命と民衆の政治参加 【概要】フランス革命期には、現在とはちがって、政治は個々人の生活において中心的な役割を果たした。政治の領域が劇的に拡大し、だれもが国家の政治問題に関して何らかの意見を表明することを期待され、さまざまな人々が政治に参加したのである。本演習では、概説書などには名前が出てこない、その意味で無名の人びとの革命期における活動について紹介した文献を読むことをつうじて、フランス革命期における政治の問題を考えていきたい。また、その作業と並行して、文献の探索の仕方、口頭発表の仕方、レジュメの作り方、レポートの書き方など、今後の研究や学習にとって必要不可欠な知識や技術も習得できるようにしたい。			
到達目標			
DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の3点を目標とする。 ①課題を提起し、その解決のために、調査・分析能力を高める。 ②プレゼンテーション能力を身につける。 ③フランス革命のプロセスを学び、その意味を考える。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	導入		
	シラバスを読んでおく。		20
第2回	フランス革命の概要を高校教科書で学ぶ。		
	配布されたプリントを読んでおく。		60
第3回	テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答		
	テキストを読み、その内容について理解する。		60

第4回	テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答	
	テキストを読み、その内容について理解する。で考える。	60
第5回	史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など	
	テキストを読み、その内容について理解する。	60
第6回	史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など	
	テキストを読み、その内容について理解する。	60
第7回	史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など	
	テキストを読み、その内容について理解する。	60
第8回	テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答	
	テキストを読み、その内容について理解する。いて考える。	60
第9回	史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など	
	テキストを読み、その内容について理解する。	60

第10回	史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など	
	テキストを読み、その内容について理解する。	60
第11回	史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など	
	テキストを読み、その内容について理解する。	60
第12回	史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など	
	テキストを読み、その内容について理解する。	60
第13回	史料にかんする演習参加者の報告と質疑応答テキストの輪読とコメント、質疑応答、文献探索の仕方など	
	テキストを読み、その内容について理解する。	60
第14回	演習全体をふりかえる	
	課題にかんしてレポートを書く。	120
第15回	レポートの講評	
	課題にかんしてレポートを書く。	120

授業の方法

演習参加者が順番にテキストにかんして報告し、それにかんして質疑応答するという形式で演習をすすめる。

成績評価の方法

平常点（60パーセント）、課題レポート（40パーセント）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ・自分の興味関心に即したテーマに関して一定水準以上の卒論を執筆できる力をつけることができたか

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

フランス革命期の民衆の政治参加について論じたテキスト（“Voices from the Streets in the French Revolution”）を読む。なお、テキストはプリントして配布する。

参考書

授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	国際文化基礎演習II e		
教員名	有富 純也		
科目ナンバー	1251431103	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
現代のソマリアと日本中世社会を比較します。現在、世界中で最も危険な地域の一つと考えられているソマリアですが、国家として成り立っておらず、「崩壊国家」と呼ばれることすらあります。同時に、ソマリアの習俗・習慣をみると、不思議なことに日本中世社会のそれらととても共通点があることに気付かされます。そこで本演習では、いくつかの著作・論文を通読し、議論することで、ソマリアと日本中世社会のあり方を検討するとともに、「国家とはなにか」という難題の解明に挑みたいと思います。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、5（表現力、発信力）を実現するため、次の3点を到達目標とします。 ・ソマリア社会の歴史・現状について把握する。 ・日本中世社会の（異様な）習俗について、理解する。 ・国家の歴史と現在について、ある程度の知識を有するようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス		
	【予習】シラバスをよく読んでおく。 【復習】インターネットなどを利用して、最近のソマリアの混乱について調べておく。		60
第2回	「ブラックホークダウン」の視聴（前半）		
	【予習】【復習】当時のソマリア社会について、テキストおよび参考文献を用いながら把握しておく。		60
第3回	「ブラックホークダウン」の視聴（後半）		
	【予習】【復習】当時のソマリア社会について、テキストおよび参考文献を用いながら把握しておく。		60

第4回	テキスト①第一章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第5回	テキスト①第二章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第6回	テキスト①第三章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第7回	テキスト①第四章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第8回	テキスト①第六章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第9回	テキスト②第一章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60

第10回	テキスト②第二章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第11回	テキスト②第三章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第12回	テキスト③第一章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第13回	テキスト③第二章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第14回	テキスト③第三章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第15回	総まとめ、およびレポート作成における注意	
	【予習】【復習】授業全体で、ソマリア文化および日本中世文化について詳しく確認し、レポートの準備をする。	60

授業の方法

演習形式で行います。担当者がテキストの要約および論点を提示し、出席者とともに議論するという形です。
テキスト①での議論をもとに、新たな論点を深化させる必要があれば、途中で授業内容を変更する可能性があります。

成績評価の方法

授業中の発表（４０％）、授業中の発言（２０％）、最終レポート（４０％）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目して、その達成度により評価する。

- ・ソマリア社会の歴史・現状について把握する。
- ・日本中世社会の（異様な）習俗について、理解する。
- ・国家の歴史と現在について、ある程度の知識を有するようになる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。

テキスト

高野秀行・清水克行『世界の辺境とハードボイルド室町時代』集英社インターナショナル、2015（①）
遠藤真『崩壊国家と国家安全保障』有斐閣、2015、のなかの論文（②）
柴田久史『ソマリアで何が？』岩波書店、1993（③）
（①は必ず購入してください。②③については、授業中に指示します）

参考書

高野秀行『謎の独立国家 ソマリランド』集英社文庫、2017
清水克行『喧嘩両成敗の誕生』講談社、2006

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	国際文化基礎演習III e		
教員名	有富 純也		
科目ナンバー	1251431104	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
現代のソマリアと日本中世社会を比較します。現在、世界中で最も危険な地域の一つと考えられているソマリアですが、国家として成り立っておらず、「崩壊国家」と呼ばれることすらあります。同時に、ソマリアの習俗・習慣をみると、不思議なことに日本中世社会のそれらととても共通点があることに気付かされます。そこで本演習では、いくつかの著作・論文を通読し、議論することで、ソマリアと日本中世社会のあり方を検討するとともに、「国家とはなにか」という難題の解明に挑みたいと思います。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、5（表現力、発信力）を実現するため、次の3点を到達目標とします。 ・ソマリア社会の歴史・現状について把握する。 ・日本中世社会の（異様な）習俗について、理解する。 ・国家の歴史と現在について、ある程度の知識を有するようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス		
	【予習】シラバスをよく読んでおく。 【復習】インターネットなどを利用して、最近のソマリアの混乱について調べておく。		60
第2回	「ブラックホークダウン」の視聴（前半）		
	【予習】【復習】当時のソマリア社会について、テキストおよび参考文献を用いながら把握しておく。		60
第3回	「ブラックホークダウン」の視聴（後半）		
	【予習】【復習】当時のソマリア社会について、テキストおよび参考文献を用いながら把握しておく。		60

第4回	テキスト①第一章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第5回	テキスト①第二章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第6回	テキスト①第三章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第7回	テキスト①第四章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第8回	テキスト①第六章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第9回	テキスト②第一章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60

第10回	テキスト②第二章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第11回	テキスト②第三章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第12回	テキスト③第一章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第13回	テキスト③第二章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第14回	テキスト③第三章	
	【予習】個別報告の準備。 【復習】授業中に登場したソマリア文化および日本中世文化について、詳しく確認しておく。	60
第15回	総まとめ、およびレポート作成における注意	
	【予習】【復習】授業全体で、ソマリア文化および日本中世文化について詳しく確認し、レポートの準備をする。	60

授業の方法

演習形式で行います。担当者がテキストの要約および論点を提示し、出席者とともに議論するという形です。
テキスト①での議論をもとに、新たな論点を深化させる必要があれば、途中で授業内容を変更する可能性があります。

成績評価の方法

授業中の発表（４０％）、授業中の発言（２０％）、最終レポート（４０％）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目して、その達成度により評価する。

- ・ソマリア社会の歴史・現状について把握する。
- ・日本中世社会の（異様な）習俗について、理解する。
- ・国家の歴史と現在について、ある程度の知識を有するようになる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。

テキスト

高野秀行・清水克行『世界の辺境とハードボイルド室町時代』集英社インターナショナル、2015（①）

遠藤真『崩壊国家と国家安全保障』有斐閣、2015、のなかの論文（②）

柴田久史『ソマリアで何が？』岩波書店、1993（③）

（①は必ず購入してください。②③については、授業中に指示します）

参考書

高野秀行『謎の独立国家 ソマリランド』集英社文庫、2017

清水克行『喧嘩両成敗の誕生』講談社、2006

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	国際文化基礎演習II f		
教員名	中野 由美子		
科目ナンバー	1251431103	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
ハリウッド—映画が好きな人はもちろんのこと、映画を一年に一度くらいしか観ないという人も、この言葉を聞いたことがない人はほとんどいないだろう。しかし、ハリウッドひいてはアメリカの映画産業の歴史について、史実を踏まえて説明できる人は、それほど多くないのではないだろうか。 本演習では、合衆国のポピュラーカルチャーの歴史という文脈に即して、主にハリウッド映画における「人種」表象の変遷を考察することを課題とする。最初に、合衆国における映画産業の発展を通史的に概観する。続いて、主にハリウッド映画を題材として、映画における人種・エスニシティの表象がどのように変化してきたのかを理解し、その今日的意味は何かを探究する。 なお、本演習では、上記のテーマに基づき、コラムの作成とともに、説得力のあるディスカッション、プレゼンテーションをするトレーニングも行う。			
到達目標			
DP2（問題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。			
① 700～1000字程度の文章を、形式的・内容的に過不足なく書くことができる。			
② 映像資料・文字史料を批判的に分析し、説得力あるプレゼンテーションを行うことができる。			
③ 合衆国におけるポピュラーカルチャーの歴史に関する基礎知識を修得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション ・ 演習の内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・ グループ分けを行う。 ・ 指定テキストの特徴を理解する。		
	テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。		60分
第2回	映画の起源 - 文化史的考察(その1) ・ 映像資料の活用方法について、理解する。		
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。		60
第3回	映画の起源 - 文化史的考察(その2) ・ 映像資料の活用方法について、理解する。		
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。		60

第4回	事例研究（グループワーク） ・文書や映像史料から得た情報を、簡潔にまとめる方法を学修する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第5回	ハリウッド前史 - 文化史的考察（その1） ・ハリウッド前史について、指定テキストに基づきディスカッションを行う。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第6回	ハリウッド前史 - 文化史的考察（その2） ・ハリウッド前史について、指定テキストに基づきディスカッションを行う。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第7回	映画のなかのアフリカ系アメリカ人- 1910年代 ・古典的ハリウッド映画を事例として、指定テキストに基づきディスカッションを行う。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第8回	映画なかのアフリカ系アメリカ人- 1930年代 ・古典的ハリウッド映画を事例として、指定テキストに基づきディスカッションを行う。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第9回	大衆文化と映画 ・古典的ハリウッド映画について、指定テキストに基づき分析する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60

第10回	創られる先住民像 - 社会史的考察（その1） ・ハリウッド映画を題材として、先住民に対するイメージがどのように変化してきたのかを理解する。 ・映像史料の分析方法を学修する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第11回	創られる先住民像 - 社会史的考察（その2） ・ハリウッド映画を題材として、先住民に対するイメージがどのように変化してきたのかを理解する。 ・映像資料の分析方法を学修する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第12回	事例研究（グループワーク） ・ハリウッド映画を題材として、先住民イメージの生成過程とその今日的意義について分析する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第13回	プレゼンテーション ・レジュメに基づき、発表する。また、プレゼンテーションに関連した質疑応答を行う。	
	グループのメンバーが作成したレジュメを、よく読んでおくこと。	60
第14回	プレゼンテーション ・レジュメに基づき、発表する。また、プレゼンテーションに関連した質疑応答を行う。	
	グループのメンバーが作成したレジュメを、よく読んでおくこと。	60
第15回	プレゼンテーションのレビュー ・プレゼンテーション全般を振り返り、改善点について学修する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60

授業の方法

演習形式で行う。テキストの精読については、事前に担当者を決める形で行う。文書・映像史料分析については、ペアワーク・グループワーク、あるいはクラス全体に対するプレゼンテーションの形で行う。クラスメートに迷惑をかけるので、遅刻は厳禁。

成績評価の方法

授業中の発言と事前あるいは授業中に課す課題＝本演習の平常点として換算（60%）、レジュメに基づく要約とコメント（20%）、プレゼンテーション（20%）による総合評価とする。さらに授業中の発言や質問、ペアワークやグループワークでの積極的な貢献に対しては、10%を上限として加算することがある。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

主に以下の点について、その到達度により評価する。

- ・合衆国における娯楽産業の歴史に関する基礎的な歴史知識を修得しているか。
- ・アメリカ社会史全体の流れのなかに映画産業を位置づけ、その歴史的意義を理解しているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校卒業レベルの世界史の基礎知識は必要であるが、未履修者はテキスト・参考書を事前に熟読して基礎知識の習得に努めること。

テキスト

北野圭介『新版 ハリウッド100年史講義—夢の工場から夢の王国へ—』平凡社新書、2017年。

※本演習では、主に前半（序章、第Ⅰ部）を扱う。

※2017年に出版された＜新版＞を使用する。購入する際、ISBNを必ず確認すること。

ISBN-10: 458285849X

ISBN-13: 978-4582858495

参考書

阿部珠理編『アメリカ先住民を知るための62章』明石書店、2016年。

鎌田遵『ネイティブ・アメリカン—先住民社会の現在』岩波新書、2009年。

Calloway, Colin G. First Peoples: A Documentary Survey of American Indian History, 4th ed.

New York: Bedford/St. Martin's: 2012.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	国際文化基礎演習III f		
教員名	中野 由美子		
科目ナンバー	1251431104	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
ハリウッド映画が好きな人はもちろんのこと、映画を一年に一度くらいしか観ないという人も、この言葉を聞いたことがない人はほとんどいないだろう。しかし、ハリウッドひいてはアメリカの映画産業の歴史について、史実を踏まえて説明できる人は、それほど多くないのではないだろうか。 本演習では、合衆国のポピュラーカルチャーの歴史という文脈に即して、主にハリウッド映画における「人種」表象の変遷を考察することを課題とする。最初に、合衆国における映画産業の発展を通史的に概観する。続いて、主にハリウッド映画を題材として、映画における人種・エスニシティの表象がどのように変化してきたのかを理解し、その今日的意味は何かを探究する。 なお、本演習では、上記のテーマに基づき、コラムの作成とともに、説得力のあるディスカッション、プレゼンテーションをするトレーニングも行う。			
到達目標			
DP2（問題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。			
① 700～1000字程度の文章を、形式的・内容的に過不足なく書くことができる。			
② 事前に準備したレジュメに基づいて、説得力あるプレゼンテーションを行うことができる。			
③ 合衆国におけるポピュラーカルチャーの歴史に関する基礎知識を修得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション ・ 演習の内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・ グループ分けを行う。 ・ 指定テキストの特徴を理解する。		
	テキストの指定箇所をよく読んでおくこと。		60
第2回	映画の起源 - 文化史的考察（その1） ・ 映像資料の活用方法について、理解する。		
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。		60
第3回	映画の起源 - 文化史的考察（その2） ・ 映像資料の活用方法について、理解する。		
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。		60

第4回	事例研究（グループワーク） ・文書や映像史料から得た情報を、簡潔にまとめる方法を学修する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第5回	ハリウッド前史 - 文化史的考察（その1） ・ハリウッド前史について、指定テキストに基づきディスカッションを行う。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第6回	ハリウッド前史 - 文化史的考察（その2） ・ハリウッド前史について、指定テキストに基づきディスカッションを行う。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第7回	映画の中のアフリカ系アメリカ人（その1） ・古典的ハリウッド映画を事例として、指定テキストに基づきディスカッションを行う。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第8回	映画の中のアフリカ系アメリカ人（その2） ・古典的ハリウッド映画を事例として、指定テキストに基づきディスカッションを行う。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第9回	大衆文化と映画 ・古典的ハリウッド映画について、指定テキストに基づき分析する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60

第10回	創られる先住民像（その1） ・ハリウッド映画を題材として、先住民に対するイメージがどのように変化してきたのかを理解する。 ・映像史料の分析方法を学修する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第11回	創られる先住民像（その2） ・ハリウッド映画を題材として、先住民に対するイメージがどのように変化してきたのかを理解する。 ・映像史料の分析方法を学修する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第12回	事例研究（グループワーク） ・ハリウッド映画を題材として、先住民イメージの生成過程とその今日的意義について分析する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第13回	プレゼンテーション ・レジュメに基づき、発表する。また、プレゼンテーションに関連した質疑応答を行う。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第14回	プレゼンテーション ・レジュメに基づき、発表する。また、プレゼンテーションに関連した質疑応答を行う。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60
第15回	プレゼンテーションのレビュー ・プレゼンテーション全般を振り返り、改善点について学修する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んで自分の言葉でまとめておくこと。	60

授業の方法

演習形式で行う。テキストの精読については、事前に担当者を決める形で行う。文書・映像史料分析については、ペアワーク・グループワーク、あるいはクラス全体に対するプレゼンテーションの形で行う。クラスメートに迷惑をかけるので、遅刻は厳禁。

成績評価の方法

授業中の発言と事前あるいは授業中に課す簡単な課題＝本セミナーの平常点として換算（60%）、レジュメに基づく要約とコメント（20%）、プレゼンテーション（20%）による総合評価とする。さらに授業中の発言や質問、ペアワークやグループワークでの積極的な貢献に対しては、10%を上限として加算することがある。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

主に以下の点について、その到達度により評価する。

- ・合衆国における娯楽産業の歴史に関する基礎的な歴史知識を修得しているか。
- ・アメリカ社会史全体の流れのなかに映画産業を位置づけ、その歴史的意義を理解しているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校卒業レベルの世界史の基礎知識は必要であるが、未履修者はテキスト・参考書を事前に熟読して基礎知識の習得に努めること。

テキスト

北野圭介『新版 ハリウッド100年史講義—夢の工場から夢の王国へ—』平凡社新書、2017年。

※本演習では、主に前半（序章、第Ⅰ部）を扱う。

※2017年に出版された＜新版＞を使用する。購入時に、ISBNを必ず確認すること。ISBN-10: 458285849X

ISBN-13: 978-4582858495

参考書

阿部珠理編『アメリカ先住民を知るための62章』明石書店、2016年。

鎌田遵『ネイティブ・アメリカン—先住民社会の現在』岩波新書、2009年。

Calloway, Colin G. First Peoples: A Documentary Survey of American Indian History, 4th ed.

New York: Bedford/St. Martin's: 2012.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I a		
教員名	有富 純也		
科目ナンバー	1151431105	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

日本・東アジア社会の歴史と文化

やや難しい概説書を読解することで、日本を中心とした東アジアの歴史と文化を学びます。

到達目標

DP 2（課題の発見と解決）、5（表現力、発信力）、6（専門分野の知識・理解）を実現するため、次の到達目標とします。

- ・的確に情報を収集、分析することができる。
- ・説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。
- ・一次史料の読解を通じて、歴史的思考力を身につけられる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス。演習の内容などを説明する。	
	【予習・復習】シラバスをよく読んで演習の進め方を理解しておく。	60
第2回	受講生テキスト第1章前半部分の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第3回	受講生テキスト第1章後半部分の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60

第4回	受講生テキスト第2章前半部分の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第5回	受講生テキスト第2章後半部分の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第6回	受講生テキスト第3章前半部分の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第7回	受講生テキスト第3章後半部分の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第8回	受講生テキスト第4章前半部分の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第9回	受講生テキスト第4章後半部分の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60

第10回	受講生テキスト第5章前半部分の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第11回	受講生テキスト第5章後半部分の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第12回	受講生テキスト第6章前半部分の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第13回	受講生テキスト第6章後半部分の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第14回	受講生テキスト第7章前半部分の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第15回	受講生テキスト第7章後半部分の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60

授業の方法

演習形式です。

成績評価の方法

発表（４０％）、レポート（４０％）、および議論における積極的な発言（２０％）をによる総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本の歴史と文化 A・B

テキスト

今のところ、事前に連絡した著書を予定していますが、受講生と相談のうえ、変更する可能性もあります。

参考書

歴史学研究会編『日本史史料〈１〉～〈４〉』岩波書店、1997～2006年
五味文彦ほか『史料を読み解く〈１〉～〈４〉』山川出版社、2006～2009年
日本歴史学会編『演習 古文書選』吉川弘文館、1971～1980年

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II a		
教員名	有富 純也		
科目ナンバー	1151431106	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
日本・東アジア社会の歴史と文化 それぞれがやや易しい学術論文を読解することで、日本を中心とした東アジアの歴史と文化を学びます。			
到達目標			
DP 2（課題の発見と解決）、5（表現力、発信力）、6（専門分野の知識・理解）を実現するため、次のを到達目標とします。 ・的確に情報を収集、分析することができる。 ・説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 ・一次史料の読解を通じて、歴史的思考力を身につけられる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス。演習の内容などを説明する。		
	【予習・復習】シラバスをよく読んで演習の進め方を理解しておく。	60	
第2回	論文その1の報告。		
	【予習】論文を熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60	
第3回	論文その2の報告。		
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60	

第4回	論文その3の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第5回	論文その4の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第6回	論文その5の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第7回	論文その6の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第8回	論文その7の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第9回	論文その8の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60

第10回	論文その9の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第11回	論文その10の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第12回	論文その11の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第13回	論文その12の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第14回	論文その13の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60
第15回	論文その14の報告。	
	【予習】テキストを熟読しておく。 【復習】授業内で議論した問題点について、整理して改めて自分の意見を提示できるようにしておく。	60

授業の方法

演習形式です。

成績評価の方法

発表（４０％）、レポート（４０％）、および議論における積極的な発言（２０％）をによる総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本の歴史と文化 A・B

テキスト

個々の受講生と相談のうえ、決定します。

参考書

歴史学研究会編『日本史史料〈１〉～〈４〉』岩波書店、1997～2006年
五味文彦ほか『史料を読み解く〈１〉～〈４〉』山川出版社、2006～2009年
日本歴史学会編『演習 古文書選』吉川弘文館、1971～1980年

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I b		
教員名	川村 陶子		
科目ナンバー	1151431105	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
このゼミでは、「国際関係に文化の視点から取り組む」試みを行う。とくに、 (1)文化の接触と変容、(2)文化の多様性、(3)文化の活用 の諸問題に焦点を当てる。 前期は、文化触変論の観点から国際関係を考察した国際文化論のテキスト講読を通じ、上記(1)の問題を中心的に検討する。 これと並行して、論文の作成方法について指導する時間、各人が関心あるテーマについて発表する機会を設け、卒論執筆準備に役立てる。			
到達目標			
テキスト講読では、国際関係と社会・文化研究の基礎知識と思考枠組みを共有する。 卒業論文執筆の準備では、年度末までに卒論のテーマと研究の視角・方法を固めることが目標である。 ゼミ全体を通して、「聞く」「課題を発見する」「情報を収集する」「情報を整理する」「読む」「書く」「分析する」「プレゼンする」といった、研究を遂行するための力を総合的に養いたい。また、仲間（学生、教員）との討論や共同作業を通じて、さまざまな異なる立場をふまえて、自分の意見をまとめ、表現できるようになること、そういったプロセスの楽しさを感じられるようになることを目指したい。 こうした作業を通じて、DP1（教養の修得）、2（課題の発見）、3（他者との協働）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発信力）を総合的に実現したい。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	<全般的注意> ・当ゼミでは、講読、個人報告、サブゼミ（グループワーク）、卒論研究指導などを同時並行的に行う。シラバスに示した授業計画や準備学修時間は、主に各回の授業時間で行う活動に関連するものである。詳しい授業計画表は、開講時に配布する。 ・シラバスで示した計画は、おおよその目安である。受講者の関心、シラバス作成後に生じた研究状況や現実世界の変化等に応じて、開講時および開講後に修正を加える可能性がある。 イントロダクション 当ゼミの問題意識、授業の概要等についての説明を行う。 受講者の自己紹介を行い、関心事項や授業への要望を聴取する。 サブゼミのグループ分けを行う。		60
第2回	卒業研究のオリエンテーション 3・4年で行う卒業研究の流れと、今後の作業における主な注意点を解説する。 テキスト講読の担当者を決定する。		60～90
第3回	「はじめに」の講読＋テキストの概要をつかむ （テキストの著者の人となり、本書の問題関心、出版背景などを理解する）		60～90
	【予習】テキストの該当箇所を読み、必要に応じ補足的な調査を行い、事前に指定された課題に対する解答をまとめておく。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。		

第4回	第2章「国際関係における文化」の講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	(報告者) 180 (報告者以外) 60
第5回	第3章「文化の変化」の講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	(報告者) 180 (報告者以外) 60
第6回	第4章「文化の接触と変容」の講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	(報告者) 180 (報告者以外) 60
第7回	サブゼミ中間報告 サブゼミのグループ研究の進捗状況を報告し、今後の研究の方向性について互いに助言し合う。	
	【予習】グループ研究の進捗状況をプレゼンにまとめる。 【復習】授業で得た助言をもとに、グループ研究を進める。	180
第8回	第5章「文化触変への『抵抗』」の講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	(報告者) 180 (報告者以外) 60
第9回	第6章「文化触変の結果」の講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	

	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	(報告者) 180 (報告者以外) 60
第10回	第7章「抵抗としての文化触変」の講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	(報告者) 180 (報告者以外) 60
第11回	第8章「文化触変論から見た近代アジア・日本の変化」の講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	(報告者) 180 (報告者以外) 60
第12回	第9章「文化変容と文化交流」の講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。)	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	(報告者) 180 (報告者以外) 60
第13回	資料調査と情報検索	
	ゼミや卒業研究において必要となるさまざまな資料とそれらの活用法、高度な検索技術、情報図書館および学外情報源の応用的な利用法などを修得する。	
	【予習】参考書の該当部分を熟読する。 自分の研究テーマや、サブゼミのテーマに関連して、情報検索や資料収集を行ってみる。そこで生じた悩みや問題をメモしておく。 【復習】授業の内容をおさらいし、得られた知識やスキルを応用して、個人研究やサブゼミの調査を進める。	60～90
第14回	第10章「おわりに」の講読 (テキストの指定箇所について、論点の確認、内容への批判や発展的な討論を行う。テキスト全体のふり返しをする。)	

	【予習】テキストの該当部分を読むと同時に全体をふり返り、事前に指定された課題についてメモを取る。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	90
第15回	前期のまとめ 前期のゼミ活動全体のふり返りを行う。 卒業研究の中間報告を行う。	
	【予習】前期の学習内容全体をさらしておく。進行中の卒業研究の概要（テーマ、問題関心等、項目を事前に指定）をレジュメにまとめる。 【復習】授業での討論や研究への助言をふり返り、夏休みの研究や後期の学習に備える。	90～120
授業の方法		
(1) 講読 テキストの各章を、担当者を決めて報告を受けながら読み進める。報告者は、関連する文献やテーマを調査し、自分なりの論点を加えながら発表を行うことが求められる。また、テキストに示された課題についての調査や、著者および報告者が提示した論点についての討論を、参加者全員で行う。なお、テキスト報告は2名ペアで行うケースもあるが、その場合は一緒に報告をする相手と十分に相談しながら作業を行うこと。 (2) 卒業研究 テキスト講読と並行して、各人で文献を収集・講読し、関心のある話題などを折々にゼミ仲間の前で発表しながら、自分のテーマを探していく。また、論理構成や資料調査のエクササイズとして、数名でのグループ研究（サブゼミ）を行う。 (3) その他、必要に応じて、別途補足的資料を読んだり、グループに分かれて調査を行ったりする。		
成績評価の方法		
平常点。(A)報告（プレゼンとレジュメ）、(B)討論やグループワークへの参加、(C)提出物、(D)ゼミや卒論準備に取り組む姿勢などを総合的に評価する。 評価の基準は(A)40%、(B)30%、(C)30%をめやすとし、(D)については顕著な成果が認められた者に加点を与える。 毎回の出席は必須。テキストは全員が必ず読み、論点や疑問点を整理してることが「出席」カウントの条件である。		
成績評価の基準		
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
コンピュータの基本操作、演習系授業の基本的スキル（レジュメの作成、情報の検索と調査、プレゼン等）を身につけておくことが望ましい。世界史や政治経済、倫理等の基礎知識が要求されるが、高校で選択していなくても自分なりに勉強する意欲があれば受講を歓迎する。受講者には、積極的に本を読み、メディア報道やインターネット情報等に注意を向けるなどして、文化や国際関係について自分なりのアンテナを張ることを求める。 先修科目：フレッシュャーズ・セミナー、国際文化基礎演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 関連科目：演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳb		
テキスト		
平野健一郎『国際文化論』東京大学出版会、2000年。 上記文献を、必要に応じ他の文献を補いつつ読む。 このほか、時間的余裕や履修者の関心に応じて、研究の方法や具体的なテーマに関するテキストを取り上げる可能性がある。		
参考書		
山田剛史・林創『大学生のためのリサーチ・リテラシー入門』ミネルヴァ書房、2011年。 『レポート・論文の書き方』旺文社、2015年。 その他、授業中に適宜指示する。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
学内専用ホームページで周知する。		

科目名	演習II b		
教員名	川村 陶子		
科目ナンバー	1151431106	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
このゼミでは、「国際関係に文化の視点から取り組む」試みを行う。とくに、 （１）文化の接触と変容、（２）文化の多様性、(3)文化の活用 の諸問題に、焦点を当てる。 後期は、上記(1)(2)(3)に関連する内容のテキストを、受講者の関心や希望も取り入れつつ選び、講読する。 これと並行して、論文の作成方法について指導する時間、各人が関心あるテーマについて発表する機会を設け、卒論執筆準備に役立てる。			
到達目標			
テキスト講読では、国際関係と社会・文化研究の基礎知識と思考枠組みを共有する。 卒業論文執筆の準備では、年度末までに卒論のテーマと研究の視角・方法を固めることが目標である。 ゼミ全体を通して、「聞く」「課題を発見する」「情報を収集する」「情報を整理する」「読む」「書く」「分析する」「プレゼンする」といった、研究を遂行するための力を総合的に養いたい。また、仲間（学生、教員）との討論や共同作業を通じて、さまざまな異なる立場をふまえつつ、自分の意見をまとめ、表現できるようになること、そういったプロセスの楽しさを感じられるようになることを目指したい。 こうした作業を通じて、DP1（教養の修得）、2（課題の発見）、3（他者との協働）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発信力）を総合的に実現したい。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	<全般的注意> ・当ゼミでは、講読、個人報告、サブゼミ（グループワーク）、卒論研究指導などを同時並行的に行う。シラバスに示した授業計画や準備学修時間は、主に各回の授業時間で行う活動に関連するものである。詳しい授業計画表は、開講時に配布する。 ・シラバスで示した計画は、おおよその目安である。受講者の関心、シラバス作成後に生じた研究状況や現実世界の変化等に応じて、開講時および開講後に修正を加える可能性がある。 イントロダクション （後期ゼミの問題意識、授業の概要等についての説明と相談を行う。 ゼミ生の関心や希望をふまえて講師が用意したテキストをもとに、後期の授業計画をたてる。 卒業研究の進捗を簡単に報告する。）		
	【予習】授業内容について、自分自身の関心や希望をさらにはっきりさせ、授業計画に備える。 【復習】ゼミ活動の概要を確認し、今後のテキスト報告に備える。サブゼミグループで、調査研究の相談を開始する。		60～90
第2回	ブレインストーミング 導入的な共通テキストを用意する予定である。このテキストを全員で読み、論点について討論する。		
	【予習】テキストの該当箇所を読み、必要に応じ補足的な調査を行い、事前に指定された課題に対する解答をまとめておく。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。		60～90
第3回	テキスト講読（１） （論点を確認し、内容への批判や発展的な討論を行う。）		
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。		（報告者）180 （報告者以外）60

第4回	テキスト講読（2） （論点を確認し、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	（報告者）180 （報告者以外）60
第5回	テキスト講読（3） （論点を確認し、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	（報告者）180 （報告者以外）60
第6回	テキスト講読（4） （論点を確認し、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	（報告者）180 （報告者以外）60
第7回	サブゼミ中間報告 サブゼミのグループ研究の進捗状況を報告し、今後の研究の方向性について互いに助言し合う。	
	【予習】グループ研究の進捗状況をプレゼンにまとめる。 【復習】授業で得た助言をもとに、グループ研究を進める。	180
第8回	テキスト講読（5） （論点を確認し、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	（報告者）180 （報告者以外）60
第9回	テキスト講読（6） （論点を確認し、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	（報告者）180 （報告者以外）60

第10回	テキスト講読（7） （論点を確認し、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	（報告者）180 （報告者以外）60
第11回	テキスト講読（8） （論点を確認し、内容への批判や発展的な討論を行う。）	
	【予習】報告者はテキストを要約し、文章についての疑問や気づきをまとめるとともに、テキストで紹介された事例や用語についての調査研究を行う。ゼミの前までに、他のメンバーに予習課題または議題を告知する。 他のメンバーは、テキスト概要部分を熟読し、報告者から事前に告知された予習課題あるいは議題に関して予習を行う。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	（報告者）180 （報告者以外）60
第12回	テキストのふり返し （これまでに読んだテキストの概要をおさらいし、各著者のアプローチの独自性やその問題点について議論する。これまでのゼミで行った自主調査や討論の成果も話し合う。補足文献資料を用いる可能性がある。）	
	【予習】テキストの全体を総括し、補足文献を読むとともに、必要に応じ補足的な調査を行い、事前に指定された課題に対する解答をまとめておく。 【復習】報告や討論の内容をふりかえり、残った疑問やさらなる論点があれば次回の授業で提示する。	60～90
第13回	卒論スタートアップ 卒業論文に向けた研究計画の個人報告を行う。	
	【予習】卒業論文の研究計画を作成する。 【復習】授業で得た質問や意見、他のゼミ生の報告内容などをふり返し、それらをふまえて卒業研究を進める。	120
第14回	サブゼミ研究報告会 （各グループ20分程度で、これまで行った研究の成果を報告し、その内容についてゼミ全体で討論する。演習IVbの4年生と合同セッション形式で行う予定。）	
	【予習】グループ毎にこれまでの研究成果をプレゼンテーションにまとめる。 【復習】報告や討論の内容をふまえて、サブゼミ研究の報告レポートを執筆する。	180
第15回	後期のまとめ （後期、および一年間のゼミ活動全体のふり返しを行う。 今後の卒業研究の計画を報告する。）	
	【予習】一年間の学習内容全体をさらっておく。進行中の卒業研究の概要を計画書にまとめる。 【復習】授業での討論や研究への助言をふり返し、卒業研究を進める。	90～120

授業の方法

(1) 講読

各回分のテキストについて担当者を決め、報告を受けながら読み進める。報告者は、関連する文献やテーマを調査し、自分なりの論点を加えながら発表を行うことが求められる。また、テキストに示された課題についての調査や、著者および報告者が提示した論点についての討論を、参加者全員で行う。なお、テキスト報告は2名ペアで行うケースもあるが、その場合は一緒に報告をする相手と十分に相談しながら作業を行うこと。

(2) 卒業研究

テキスト講読と並行して、各人で文献を収集・講読し、関心のある話題などを折々にゼミ仲間の前で発表しながら、自分のテーマを探していく。また、論理構成や資料調査のエクササイズとして、数名でのグループ研究（サブゼミ）を行う。

(3) その他、必要に応じて、別途補足的資料を読んだり、グループに分かれて調査を行ったりする。

成績評価の方法

平常点。(A) 報告（プレゼンとレジュメ）、(B) 討論やグループワークへの参加、(C) 提出物、(D) ゼミや卒論準備に取り組む姿勢などを総合的に評価する。

評価の基準は(A) 40%、(B) 30%、(C) 30%をめやすとし、(D) については顕著な成果が認められた者に加点を与える。

毎回の出席は必須。テキストは全員が必ず読み、論点や疑問点を整理してくることが「出席」カウントの条件である。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

コンピュータの基本操作、演習系授業の基本的スキル（レジュメの作成、情報の検索と調査、プレゼン等）を身につけておくことが望ましい。世界史や政治経済、倫理等の基礎知識が要求されるが、高校で選択していなくても自分なりに勉強する意欲があれば受講を歓迎する。受講者には、積極的に本を読み、メディア報道やインターネット情報等に注意を向けるなどして、文化や国際関係について自分なりのアンテナを張ることを求める。

先修科目：フレッシュャーズ・セミナー、国際文化基礎演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、演習Ⅰb

関連科目：演習ⅢⅠ・Ⅳb

テキスト

開講時に受講者と相談しながら決定する。

参考書

山田剛史・林創『大学生のためのリサーチ・リテラシー入門』ミネルヴァ書房、2011年。

『レポート・論文の書き方』旺文社、2015年。

その他、授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	演習 I c		
教員名	佐々木 紳		
科目ナンバー	1151431105	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

【テーマ】アジア・アフリカの歴史と文化

【概要】この授業では、アジアおよびアフリカの歴史を広く世界史のなかに位置づける視点を身につけることをめざす。この目標を達成するには、一方では各自の〈研究の基軸〉となる地域・テーマ・史料を選定しつつ、他方では〈比較と連関〉の視座を身につけて視野を広げ必要がある。前期は、各自の興味関心に沿って〈研究の基軸〉を探る作業を進める。

到達目標

DP2（課題の発見と解決）、5（表現力、発信力）、6（文化現象の総合的理解）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、下記の点を到達目標とする。

- ・従来の一国的（≡縦割り型、閉鎖的）な歴史理解を相対化する。
- ・グローバル時代を生き抜くために必要な、広やかで奥行きのある歴史的思考力を身につける。
- ・各自の〈研究の基軸〉を定める。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	授業の紹介と導入	
	【予習】 シラバスを読む。授業への抱負を含む自己紹介の準備をしておく。 【復習】 授業を通して、各自の〈研究の基軸〉づくりに活かせるものを見きわめる。	90
第2回	報告と討論	
	【予習】 参加者全員が次回の報告内容について基本的な情報を確認し、理解を深めておく。 【復習】 授業を通して、各自の〈研究の基軸〉づくりに活かせるものを見きわめる。	90
第3回	報告と討論	
	【予習】 参加者全員が次回の報告内容について基本的な情報を確認し、理解を深めておく。 【復習】 授業を通して、各自の〈研究の基軸〉づくりに活かせるものを見きわめる。	90

第4回	報告と討論	
	【予習】 参加者全員が次回の報告内容について基本的な情報を確認し、理解を深めておく。 【復習】 授業を通して、各自の〈研究の基軸〉づくりに活かせるものを見きわめる。	90
第5回	報告と討論	
	【予習】 参加者全員が次回の報告内容について基本的な情報を確認し、理解を深めておく。 【復習】 授業を通して、各自の〈研究の基軸〉づくりに活かせるものを見きわめる。	90
第6回	報告と討論	
	【予習】 参加者全員が次回の報告内容について基本的な情報を確認し、理解を深めておく。 【復習】 授業を通して、各自の〈研究の基軸〉づくりに活かせるものを見きわめる。	90
第7回	報告と討論	
	【予習】 参加者全員が次回の報告内容について基本的な情報を確認し、理解を深めておく。 【復習】 授業を通して、各自の〈研究の基軸〉づくりに活かせるものを見きわめる。	90
第8回	報告と討論	
	【予習】 参加者全員が次回の報告内容について基本的な情報を確認し、理解を深めておく。 【復習】 授業を通して、各自の〈研究の基軸〉づくりに活かせるものを見きわめる。	90
第9回	報告と討論	
	【予習】 参加者全員が次回の報告内容について基本的な情報を確認し、理解を深めておく。 【復習】 授業を通して、各自の〈研究の基軸〉づくりに活かせるものを見きわめる。	90

第10回	報告と討論	
	【予習】 参加者全員が次回の報告内容について基本的な情報を確認し、理解を深めておく。 【復習】 授業を通して、各自の〈研究の基軸〉づくりに活かせるものを見きわめる。	90
第11回	報告と討論	
	【予習】 参加者全員が次回の報告内容について基本的な情報を確認し、理解を深めておく。 【復習】 授業を通して、各自の〈研究の基軸〉づくりに活かせるものを見きわめる。	90
第12回	報告と討論	
	【予習】 参加者全員が次回の報告内容について基本的な情報を確認し、理解を深めておく。 【復習】 授業を通して、各自の〈研究の基軸〉づくりに活かせるものを見きわめる。	90
第13回	報告と討論	
	【予習】 参加者全員が次回の報告内容について基本的な情報を確認し、理解を深めておく。 【復習】 授業を通して、各自の〈研究の基軸〉づくりに活かせるものを見きわめる。	90
第14回	報告と討論	
	【予習】 参加者全員が次回の報告内容について基本的な情報を確認し、理解を深めておく。 【復習】 授業を通して、各自の〈研究の基軸〉づくりに活かせるものを見きわめる。	90
第15回	授業の総括と確認	
	【予習・復習】 授業を通して身につけた技能・知見・考え方のなかで、後期の授業および卒業論文作成に向けて活かせるものを見きわめ、〈研究の基軸〉を定める。	90

授業の方法

- ・ 毎回、担当者（または担当グループ）を決めて報告をおこない、その後、関連する討論をおこなう。
- ・ 報告は、〈研究の基軸〉を選定するにあたって基礎となる概説書、研究書、専門論文の紹介を中心とする。
- ・ 報告者（報告グループ）は、報告後に報告内容と今後の展望をまとめた事後レポートを提出する。

成績評価の方法

- ・ 授業への取り組み（30%）、授業内報告（30%）、課題レポート（40%）。
- ・ 授業への取り組みについては、討論での発言内容も評価の判断材料とする。
- ・ 課題レポートでは、〈研究の基軸〉についての展望が明確に描けているかどうかを評価の判断基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

- ・ アジアないしアフリカに対する何らかの興味関心があれば、地域・時代・テーマは問わない。
- ・ 関連科目①：「アジアの歴史と文化A」では、アジア・アフリカ史の一環をなすオスマン帝国の歴史を扱う。
- ・ 関連科目②：「アジアの歴史と文化B」では、現代アジア史の一環をなすトルコ共和国の歴史を扱う。
- ・ 関連科目③：「文化交流史」では、トルコ系諸民族（テュルク）から見たユーラシア世界史を扱う。
- ・ 関連科目④：成蹊教養カリキュラム「歴史トピックス（中東地域史の諸問題）」では、アジア・アフリカ史の一環をなす中東地域史の諸問題を扱う。

テキスト

参加者と相談のうえ選定する。

参考書

授業内で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II c		
教員名	佐々木 紳		
科目ナンバー	1151431106	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

【テーマ】アジア・アフリカの歴史と文化

【概要】この授業では、アジアおよびアフリカの歴史を広く世界史のなかに位置づける視点を身につけることをめざす。この目標を達成するには、一方では各自の〈研究の基軸〉となる地域・テーマ・史料を選定しつつ、他方では〈比較と連関〉の視座を身につけて視野を広げる必要がある。後期は、卒業論文作成の準備を視野に入れて、各自の〈研究の基軸〉を掘り下げ、〈比較と連関〉の視座から議論を深める。

到達目標

DP2（課題の発見と解決）、5（表現力、発信力）、6（文化現象の総合的理解）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、下記の点を到達目標とする。

- ・従来の一国的（≡縦割り型、閉鎖的）な歴史理解を相対化する。
- ・グローバル時代を生き抜くために必要な、広やかで奥行きのある歴史的思考力を身につける。
- ・〈比較と連関〉の視座から〈研究の基軸〉についての理解を深める。
- ・卒業論文執筆に向けての方向性を定める。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	授業の紹介と導入	
	【予習】 シラバスを読む。（夏休みの学修状況を含む）今後の研究の方向性を報告する準備をしておく。 【復習】 授業を通して、〈比較と連関〉の視座から各自の研究に活かせるものを見きわめる。	180
第2回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する学修・研究を進める。 【復習】 授業を通して、〈比較と連関〉の視座から各自の研究に活かせるものを見きわめる。	180
第3回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する学修・研究を進める。 【復習】 授業を通して、〈比較と連関〉の視座から各自の研究に活かせるものを見きわめる。	180

第4回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する学修・研究を進める。 【復習】 授業を通して、〈比較と連関〉の視座から各自の研究に活かせるものを見きわめる。	180
第5回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する学修・研究を進める。 【復習】 授業を通して、〈比較と連関〉の視座から各自の研究に活かせるものを見きわめる。	180
第6回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する学修・研究を進める。 【復習】 授業を通して、〈比較と連関〉の視座から各自の研究に活かせるものを見きわめる。	180
第7回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する学修・研究を進める。 【復習】 授業を通して、〈比較と連関〉の視座から各自の研究に活かせるものを見きわめる。	180
第8回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する学修・研究を進める。 【復習】 授業を通して、〈比較と連関〉の視座から各自の研究に活かせるものを見きわめる。	180
第9回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する学修・研究を進める。 【復習】 授業を通して、〈比較と連関〉の視座から各自の研究に活かせるものを見きわめる。	180

第10回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する学修・研究を進める。 【復習】 授業を通して、〈比較と連関〉の視座から各自の研究に活かせるものを見きわめる。	180
第11回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する学修・研究を進める。 【復習】 授業を通して、〈比較と連関〉の視座から各自の研究に活かせるものを見きわめる。	180
第12回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する学修・研究を進める。 【復習】 授業を通して、〈比較と連関〉の視座から各自の研究に活かせるものを見きわめる。	180
第13回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する学修・研究を進める。 【復習】 授業を通して、〈比較と連関〉の視座から各自の研究に活かせるものを見きわめる。	180
第14回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する学修・研究を進める。 【復習】 授業を通して、〈比較と連関〉の視座から各自の研究に活かせるものを見きわめる。	180
第15回	授業の総括と確認	
	【予習・復習】 授業を通して身につけた技能・知見・考え方のなかで、次年度の卒業論文作成に向けて活かせるものを見きわめる。	180

授業の方法

- ・ 毎回、担当者（または担当グループ）を決めて報告をおこない、その後、関連する討論をおこなう。
- ・ 報告は、〈研究の基軸〉に関する史資料、または〈比較と連関〉に関する研究文献の紹介を中心とする。
- ・ 報告者（報告グループ）は、報告後に報告内容と今後の展望をまとめた事後レポートを提出する。

成績評価の方法

- ・ 授業への取り組み（30%）、授業内報告（30%）、課題レポート（40%）。
- ・ 授業への取り組みについては、討論での発言内容も評価の判断材料とする。
- ・ 課題レポートでは、〈比較と連関〉の視点から〈研究の基軸〉についての理解が深まっているかどうかを評価の判断基準とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

- ・ アジアないしアフリカに対する何らかの興味関心があれば、地域・時代・テーマは問わない。
- ・ 関連科目①：「アジアの歴史と文化A」では、アジア・アフリカ史の一環をなすオスマン帝国の歴史を扱う。
- ・ 関連科目②：「アジアの歴史と文化B」では、現代アジア史の一環をなすトルコ共和国の歴史を扱う。
- ・ 関連科目③：「文化交流史」では、トルコ系諸民族（テュルク）から見たユーラシア世界史を扱う。
- ・ 関連科目④：成蹊教養カリキュラム「中東地域史の諸問題」では、アジア・アフリカ史の一環をなす中東地域史の諸問題を扱う。

テキスト

参加者と相談のうえ選定する。

参考書

授業内で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I d		
教員名	五味 知子		
科目ナンバー	1151431105	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
中国語圏の国・地域（中国・台湾・香港）と日本は地理的に近く、歴史・文化面でも、多くの影響を与え合ってきたが、歴史的な背景や文化的な相違が、相互理解を難しくしている。この授業では、中国語圏と日本や韓国との関係の歴史に重点を置き、中国語圏の歴史・文化・ジェンダーについて学びつつ、異なる文化を持った地域への理解力を養う。			
到達目標			
DP6(文化現象の総合的理解)、DP7(問題発見能力および多面的な分析能力)、DP8(他者を理解する能力および自己を他者に伝達する能力)を実現するため、次の5点を到達目標とする。 ①中国の歴史と文化に関する知識を身につける。 ②歴史的な分析ができるようになる。 ③学術的問いを立て、自ら情報を探して分析できるようになる。 ④レジュメを準備し、口頭で発表し、教員・他の学生からの質問に答えることができるようになる。 ⑤平易で論理的な文章を書くことができるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス		
	【予習】シラバスを読む。自己紹介を考えておく。 【復習】配布資料を熟読する。		90
第2回	東アジア史研究文献の紹介と批評		
	【予習】配布プリントを読んで、疑問点をメモする。		90
第3回	テキストの講読と討議(1) 『中国ナショナリズム』序章		
	【予習】テキストの指定範囲を読み、疑問点や気づいたことをメモする。担当者はレジュメを作成する。		90

第4回	テキストの講読と討議（2） 『中国ナショナリズム』第一章	
	【予習】テキストの指定範囲を読み、疑問点や気づいたことをメモする。担当者はレジュメを作成する。	90
第5回	テキストの講読と討議（3） 『中国ナショナリズム』第二章	
	【予習】テキストの指定範囲を読み、疑問点や気づいたことをメモする。担当者はレジュメを作成する。	90
第6回	テキストの講読と討議（4） 『中国ナショナリズム』第三章	
	【予習】テキストの指定範囲を読み、疑問点や気づいたことをメモする。担当者はレジュメを作成する。	90
第7回	テキストの講読と討議（5） 『中国ナショナリズム』第四章	
	【予習】テキストの指定範囲を読み、疑問点や気づいたことをメモする。担当者はレジュメを作成する。	90
第8回	テキストの講読と討議（6） 『中国ナショナリズム』第五章	
	【予習】テキストの指定範囲を読み、疑問点や気づいたことをメモする。担当者はレジュメを作成する。	90
第9回	『中国ナショナリズム』まとめ 読書レポートの提出と振り返り	
	【予習】読書レポートを読み返し、概要をまとめておく。疑問点は調べておく。	90

第10回	課題レポートへの取り組み方についての説明 映像資料視聴・ディスカッション	
	【復習】配布プリントを熟読する。	90
第11回	映像資料視聴・ディスカッション	
	【復習】配布プリントを熟読する。	90
第12回	テキストの講読と討議（7） 『上海游记・江南游记』上海游记	
	【予習】テキストの指定範囲を読み、疑問点や気づいたことをメモする。担当者はレジュメを作成する。	90
第13回	テキストの講読と討議（8） 『上海游记・江南游记』江南游记	
	【予習】テキストの指定範囲を読み、疑問点や気づいたことをメモする。担当者はレジュメを作成する。	90
第14回	テキストの講読と討議（9） 『上海游记・江南游记』長江游记・北京日記抄・雑信一束	
	【予習】テキストの指定範囲を読み、疑問点や気づいたことをメモする。担当者はレジュメを作成する。	90
第15回	課題レポート構想発表（文献リスト、テーマ）とディスカッション	
	【予習】夏休みの課題レポートに向け、テーマと構成を決定し、文献リストを作成する。	120

授業の方法 (1) テキスト講読にもとづく報告・討議 テキストの指定箇所を全員が事前に読み、授業に臨む。報告者は、指定箇所の要旨をまとめるほか、関連する文献や疑問点について調べ、自分なりの見解を加えながら発表を行う。その後、参加者全員でディスカッションをする。 (2) 研究発表 各自、自分の関心に基づいて文献を収集・講読し、レポートを執筆したり、発表したりしながら、卒業論文につながるテーマを探す。 (3) その他 映像資料視聴と討論、研究文献の紹介と批評などもおこなう。
成績評価の方法 授業への取り組み(30%)、授業内報告(30%)、読書レポート(40%)。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 関連科目：近現代アジア史
テキスト 小野寺史郎『中国ナショナリズム』中央公論新社、2017年 芥川龍之介『上海游記・江南游記』講談社、2000年
参考書 授業中に指示する。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II d		
教員名	五味 知子		
科目ナンバー	1151431106	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
中国語圏の国・地域（中国・台湾・香港）と日本は地理的に近く、歴史・文化面でも、多くの影響を与え合ってきたが、歴史的な背景や文化的な相違が、相互理解を難しくしている。この授業では、中国語圏と日本や韓国との関係の歴史に重点を置き、中国語圏の歴史・文化・ジェンダーについて学びつつ、異なる文化を持った地域への理解力を養う。			
到達目標			
DP6(文化現象の総合的理解)、DP7(問題発見能力および多面的な分析能力)、DP8(他者を理解する能力および自己を他者に伝達する能力)を実現するため、次の5点を到達目標とする。 ①中国の歴史と文化に関する知識を身につける。 ②歴史的な分析ができるようになる。 ③学術的問いを立て、自ら情報を探して分析できるようになる。 ④レジュメを準備し、口頭で発表し、教員・他の学生からの質問に答えることができるようになる。 ⑤平易で論理的な文章を書くことができるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イザベラ・バードについての概説、時代背景の解説		
	【予習】シラバスを熟読する。自分のレポートを見直す。 【復習】配布プリントを読みなおす。		90
第2回	研究発表（1）		
	【予習】自分の研究発表のためのレジュメを作成する（担当者）。 【復習】レジュメを読みなおす。		120
第3回	研究発表（2）		
	【予習】自分の研究発表のためのレジュメを作成する（担当者）。 【復習】レジュメを読みなおす。		120

第4回	研究発表（3）	
	【予習】自分の研究発表のためのレジюмеを作成する（担当者）。 【復習】レジюмеを読みなおす。	120
第5回	研究発表（4）	
	【予習】自分の研究発表のためのレジюмеを作成する（担当者）。 【復習】レジюмеを読みなおす。	120
第6回	テキストの講読と討議（1） 『中国奥地紀行1』第1章・第2章・第3章	
	【予習】テキストの指定範囲を読み、疑問点や気づいたことをメモする。担当者はレジюмеを作成する。	120
第7回	テキストの講読と討議（2） 『中国奥地紀行1』第4章・第5章・第6章	
	【予習】テキストの指定範囲を読み、疑問点や気づいたことをメモする。担当者はレジюмеを作成する。	120
第8回	テキストの講読と討議（3） 『中国奥地紀行1』第7章・第8章・第9章	
	【予習】テキストの指定範囲を読み、疑問点や気づいたことをメモする。担当者はレジюмеを作成する。	120
第9回	テキストの講読と討議（4） 『中国奥地紀行1』第10章・第11章・第12章	
	【予習】テキストの指定範囲を読み、疑問点や気づいたことをメモする。担当者はレジюмеを作成する。	120

第10回	テキストの講読と討議（５） 『中国奥地紀行１』第13章・第14章・第15章	
	【予習】テキストの指定範囲を読み、疑問点や気づいたことをメモする。担当者はレジュメを作成する。	120
第11回	『中国奥地紀行』の時代の日本と朝鮮：イザベラ・バードの日本紀行と朝鮮紀行	
	【復習】配布プリントを読みなおす。	90
第12回	テキストの講読と討議（６） 『中国奥地紀行１』第16章・第17章・第18章	
	【予習】テキストの指定範囲を読み、疑問点や気づいたことをメモする。担当者はレジュメを作成する。	120
第13回	テキストの講読と討議（７） 『中国奥地紀行１』第19章・第20章・第21章	
	【予習】テキストの指定範囲を読み、疑問点や気づいたことをメモする。担当者はレジュメを作成する。	120
第14回	テキストの講読と討議（８） 『中国奥地紀行１』第22章・第23章・第24章	
	【予習】テキストの指定範囲を読み、疑問点や気づいたことをメモする。担当者はレジュメを作成する。	120
第15回	まとめ	
	【予習】今までのレジュメやテキストを読みなおす。	120

授業の方法 (1) テキスト講読にもとづく報告 テキストの指定箇所を全員が事前に読み、授業に臨む。報告者は、指定箇所の要旨をまとめるほか、関連する文献や疑問点について調べ、自分なりの見解を加えながら発表を行う。その後、参加者全員でディスカッションをする。 (2) 研究発表 各自、自分の関心に基づいて文献を収集・講読し、レポートを執筆したり、発表したりしながら、卒業論文につながるテーマを探す。卒業論文制作に向けて、アカデミックスキルを磨くことも意識して進めていく。 (3) その他 適宜、研究文献の紹介と批評などもおこなう。
成績評価の方法 授業への取り組み (30%)、授業内報告 (30%)、課題レポート (40%)。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準 (学則第39条) に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 関連科目：近現代アジア史
テキスト イザベラ・L・バード『中国奥地紀行1』(平凡社ライブラリー) 2013年
参考書 授業中に指示する。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I e		
教員名	竹内 敬子		
科目ナンバー	1151431105	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
現代を相対化するという、歴史学の役割のひとつを、イギリス史を多面的に研究する中で学びます。並行して、次年度の卒業論文執筆に向け、「研究の方法」を学びつつ、各自のテーマを少しずつ深めます。			
到達目標			
DP6(文化現象の総合理解)、DP7(問題発見能力および多面的な分析能力)、DP8(他者を理解する能力および自己を他者に伝達する能力)を実現するため、次の5点を到達目標とする。 ①イギリスの歴史と文化に関する知識を身につける。 ②歴史的な物の見方が出来るようになる。 ③研究の方法を身につける。 ④研究の方法を実践し、自分の研究をまとめ、口頭および文章で表現出来るようになる。 ⑤参加者相互で建設的な議論を構築出来るようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション		
	各自の研究計画を考えてくる	60	
第2回	『花の命はノーフューチャー』を読み、議論する。		
	テキストを読み、関連する文献を読む。 報告者はレジュメを作成。	60 報告者は180	
第3回	『花の命はノーフューチャー』を読み、議論する。		
	テキストを読み、関連する文献を読む。 報告者はレジュメを作成。	60 報告者は180	

第4回	『花の命はノーフューチャー』を読み、議論する。	
	テキストを読み、関連する文献を読む。 報告者はレジュメを作成。	60 報告者は180
第5回	『イギリス現代史』を読み、議論する	
	テキストを読み、関連する文献を読む。 報告者はレジュメを作成。	60 報告者は180
第6回	『イギリス現代史』を読み、議論する	
	テキストを読み、関連する文献を読む。 報告者はレジュメを作成。	60 報告者は180
第7回	『イギリス現代史』を読み、議論する。	
	テキストを読み、関連する文献を読む。 報告者はレジュメを作成。	60 報告者は180
第8回	図書館オリエンテーション&書評の書き方	
	自分の興味あるテーマのキーワードを考えてくる。 事後学修として、学修した方法を使い、文献リストを作成する。 また、文献リストに基づき、昼休みを利用して個人面談を行う。	120
第9回	『イギリス現代史』を読み、議論する。	
	テキストを読み、関連する文献を読む。 報告者はレジュメを作成。	60 報告者は180

第10回	『イギリス現代史』を読み、議論する。	
	テキストを読み、関連する文献を読む。 報告者はレジュメを作成。	60 報告者は180
第11回	テキストに関連する映画を鑑賞し、イギリスの歴史と文化の特徴について考える。どの映画を鑑賞するかは『映画でまなぶイギリス文化』を参考に話し合ってから決める。	
	テキストの復習。 映画の背景について調べる。	60
第12回	映画の続きを観て、2冊のテキストで学んだことと関連づけながら、イギリスの歴史と文化について議論する。	
	テキストの復習。 映画の背景について調べる。	60
第13回	書評のアウトライン発表。	
	自分の研究テーマに関連する本の書評のアウトラインの発表の準備。	60
第14回	書評のアウトライン発表。	
	自分の研究テーマに関連する本の書評のアウトラインの発表の準備。	60
第15回	全体のまとめ	
	全体の復習	60

授業の方法

- ①報告者がテキストの担当部分について報告し、その報告に基づき議論する。
- ②「研究の方法」については、講義と参加型アクティビティの組み合わせ。
- ③適宜、映像資料も利用する。

成績評価の方法

- ①担当部分のレジュメ、口頭報告の内容（35%）、②適宜課す、レポートや課題（35%）。③授業中の発言、積極的参加の態度、（30%）を目安に総合的に判断する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「イギリスの歴史と文化AB」「イギリス文化・文化史特講AB」などの履修が望ましい。

テキスト

小坂剛『酒場天国イギリス』（中公新書ラクレ）
笠原俊彦『ふしぎなイギリス』（講談社現代新書）

参考書

授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II e		
教員名	竹内 敬子		
科目ナンバー	1151431106	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
現代を相対化するという、歴史学の役割のひとつを、イギリス史を多面的に研究する中で学びます。並行して、次年度の卒業論文執筆に向け、「研究の方法」を学びつつ、各自のテーマを少しずつ深めます。			
到達目標			
DP6(文化現象の総合理解)、DP7(問題発見能力および多面的な分析能力)、DP8(他者を理解する能力および自己を他者に伝達する能力)を実現するため、次の5点を到達目標とする。 ①イギリスの歴史と文化に関する知識を身につける。 ②歴史的な物の見方が出来るようになる。 ③研究の方法を身につける。 ④研究の方法を実践し、自分の研究をまとめ、口頭および文章で表現出来るようになる。 ⑤参加者相互で建設的な議論を構築出来るようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	夏休みの宿題(卒論に向けて)の発表 報告者は報告準備。 それ以外の学生は、宿題に基づき、さらに自分の研究を進める。		
			報告者は120 それ以外の学生は60
第2回	夏休みの宿題(卒論に向けて)の発表 報告者は報告準備。 それ以外の学生は、宿題に基づき、さらに自分の研究を進める。		
			報告者は120 それ以外の学生は60
第3回	夏休みの宿題(卒論に向けて)の発表 報告者は報告準備。 それ以外の学生は、宿題に基づき、さらに自分の研究を進める。		
			報告者は120 それ以外の学生は60

第4回	夏休みの宿題（卒論に向けて）の発表	
	報告者は報告準備。 それ以外の学生は、宿題に基づき、さらに自分の研究を進める。	報告者は120 それ以外の学生は60
第5回	『女性参政権運動とプロパガンダ』を読み議論する	
	報告者は報告準備。 それ以外の学生は、宿題に基づき、さらに自分の研究を進める。	報告者は120 それ以外の学生は60
第6回	『女性参政権運動とプロパガンダ』を読み議論する	
	報告者はレジュメを作成し、報告の準備をする。 それ以外の学生はテキストを読み、質問やコメントをまとめる。	報告者は180 それ以外の学生は60
第7回	『女性参政権運動とプロパガンダ』を読み議論する	
	報告者はレジュメを作成し、報告の準備をする。 それ以外の学生はテキストを読み、質問やコメントをまとめる。	報告者は180 それ以外の学生は60
第8回	『女性参政権運動とプロパガンダ』を読み議論する	
	報告者はレジュメを作成し、報告の準備をする。 それ以外の学生はテキストを読み、質問やコメントをまとめる。	報告者は180 それ以外の学生は60
第9回	『女性参政権運動とプロパガンダ』を読み議論する	
	報告者はレジュメを作成し、報告の準備をする。 それ以外の学生はテキストを読み、質問やコメントをまとめる。	報告者は180 それ以外の学生は60

第10回	映画『未来を花束にして』を鑑賞する。	
	テキストを読み返す。	60
第11回	映画『未来を花束にして』の続きを鑑賞し、テキストと結びつけて議論をする。	
	テキストを読み返し、映画との関連を考える。	60
第12回	研究の方法① 卒論作成に必要なスタディ・スキルを学ぶ	
	報告者はレジュメを作成し、報告の準備をする。 それ以外の学生はテキストを読み、質問やコメントをまとめる。	報告者は180 それ以外の学生は60
第13回	研究の方法② 卒論作成に必要なスタディ・スキルを学ぶ	
	報告者はレジュメを作成し、報告の準備をする。 それ以外の学生はテキストを読み、質問やコメントをまとめる。	報告者は180 それ以外の学生は60
第14回	卒論合評会（4年生と合同。4年生の卒論の報告会）	
	4年生の卒論を1本読み、コメンテータとしてコメントを考える。	120
第15回	全体のまとめ	
	全体の復習	60

授業の方法

- ①報告者がテキストの担当部分について報告し、その報告に基づき議論する。
- ②「研究の方法」については、講義と参加型アクティビティの組み合わせ。
- ③適宜、映像資料も利用する。

成績評価の方法

- ①担当部分のレジュメ、口頭報告の内容（35%）、②適宜課す、レポート課題（35%）。③授業中の発言、積極的参加の態度（30%）を目安に総合的に判断する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「イギリスの歴史と文化AB」「イギリス文化・文化史特講AB」などの履修が望ましい。

テキスト

佐藤蘭香『イギリス女性運動とプロパガンダーエドワード朝の視覚的表象と女性像』（彩流社）

参考書

授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I f		
教員名	中野 由美子		
科目ナンバー	1151431105	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
この演習の目的は、主に以下の二点である。 ・テキストの精読とディスカッション： 多文化・多民族国家アメリカ合衆国における文化的多様性と国民統合について、複数のテーマを設定して理解を深める。具体的には、奴隷制の遺産、エスニックアイデンティティと国民意識の形成等について、その歴史的意義と現代社会における遺産について検討する。基本的な史実を確認した後、複数の当事者による同一テーマについて書かれた史料を比較・対比する作業を行なう。この作業を通じて、当事者たちの主張の類似点と相違点を見極め、少数者（マイノリティ）であっても一枚岩ではないことを理解する。そして、人々が抱える葛藤や願望へも留意しながら、私たちが現在生活をしている日本を含む現代社会との比較や歴史的意義について検討する。 ・論文執筆計画と研究報告： 4年次に提出する卒業論文の執筆にむけて、文献の検索方法、研究計画書の書き方とスケジュール作成、テーマ設定などについて、基本的なスキルを身につけるためのトレーニングを随時行う。			
到達目標			
DP2（問題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 ① 的確に情報を収集、分析することができる。 ② 事前に準備したレジュメに基づき、説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 ③ 主に、アメリカ社会史・文化史に関する基本的問題を理解し、説明することができる。 ④ 指定されたフォーマットに従い、論理的な文章を書くことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション - 演習の目的と課題について ・演習の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・グループ分けを行う。		
	【予習・復習】 シラバスをよく読んで、演習の進め方を理解しておく。	60	
第2回	4年次に提出する卒論について - 課題の内容 ・卒業論文で課されている形式的、内容的な課題について、理解する。		
	【予習・復習】 卒業論文の執筆要綱（詳しくは、演習時に説明する）を、事前によく読んでおくこと。	60	
第3回	個人的な関心から研究テーマへ - アカデミック・スキルの基本 ・自分の関心あるテーマについて、グループでディスカッションを行う。		
	【予習・復習】 演習時に、事前に配布した資料をよく読んでおくこと。	60	

第4回	事例研究 - アメリカ社会史・文化史の基礎知識（その1） ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第5回	事例研究 - アメリカ社会史・文化史の基礎知識（その2） ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第6回	事例研究 - アメリカ社会史・文化史の基礎知識（その3） ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第7回	グループワーク - テーマ設定のための作業 ・グループに分かれて、ブレインストーミングと質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第8回	事例研究 - 大衆文化と「人種」・エスニシティ（その1） ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第9回	事例研究 - 大衆文化と「人種」・エスニシティ（その2） ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60

第10回	事例研究 - 大衆文化と「人種」・エスニシティ（その3） ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第11回	グループワーク - 論理的な文章とは？文章作成のコツ ・グループに分かれて、文書を作成し、互いに講評する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第12回	事例研究 - アメリカ合衆国の文化・宗教・思想（その1） ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第13回	事例研究 - アメリカ合衆国の文化・宗教・思想（その2） ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第14回	事例研究 - アメリカ合衆国の文化・宗教・思想（その3） ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第15回	全体のまとめ ・プレゼンテーション全般を振り返り、改善点について学修する。	
	【予習】 プレゼンテーション全般のレビューを各自しておく。	60

授業の方法

大きく分けて以下の二つの作業を行なう。

- ・テキストの精読とディスカッション：原則として、指定テキストに沿って進める。加えて、関連する一次史料・二次史料の精読も随時行う。分からないところがあってもかまわないが、まずは自力で事前に読んでおくことが求められる。
- ・論文執筆計画と研究報告：最初に、アメリカ社会史・文化史の主要なトピックについての先行研究を確認する。次に、各自の研究テーマについて、テーマ設定の仕方、学術論文の基本的なルール、研究計画書（＝3年次の末に提出）の書き方、口頭での研究発表の仕方などのトレーニングを行なう。

成績評価の方法

平常点＝ディスカッションへの参加と貢献（50%）、口頭発表（20%）、書評や研究計画書を含むレポート（30%）による総合評価。ほぼ毎回、全員にごく簡単な課題（たとえば翌週扱う予定の史料の読解やそれに関する質問など）を課す。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

アメリカ合衆国のみならず、自国や諸外国の歴史・文化に関連する講義を積極的に受講することが望ましい。なおこの演習では英語の文献も扱うので、日々英語の勉強を欠かさないこと。

テキスト

開講時に、受講者と相談のうえ決定する。また、この演習では、適宜、配布資料の形で英語の文献も使用する。

参考書

<参考書>

以下の文献のほか、必要に応じて適宜紹介する。

- ・笹田直人・堀真理子・外岡尚美編『概説 アメリカ文化史』ミネルヴァ書房、2002年。
- ・網野徹哉、橋川健竜編『南北アメリカの歴史』放送大学教育振興会、2014年。
- ・和田光弘編『大学で学ぶアメリカ史』ミネルヴァ書房、2014年。

<卒論、レジュメ、レポートで使用するフォーマット等について>

卒論執筆時に使用するフォーマットは、アメリカ史・アメリカ研究で一般的に用いられているシカゴ方式に準拠すること。その他、下記の文献も適宜参照のこと。

- ・白井利明・高橋一郎『よくわかる 卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房、2014年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習Ⅱ f		
教員名	中野 由美子		
科目ナンバー	1151431106	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
この演習の目的は、主に以下の二点である。 ・テキストの精読とディスカッション： この演習では、多文化・多民族国家アメリカ合衆国における文化的多様性と国民統合というテーマについて検討する。引き続き、奴隷制の遺産、エスニックアイデンティティと国民意識の形成に関する具体的なトピックを取り上げ、その歴史的意義と現代社会における遺産について理解を深める。基本的な史実を確認した後、複数の当事者による同一のテーマについて書かれた史料を比較・対比する作業を行なう。この作業を通じて、私たちが現在生活をしている日本を含む現代社会との比較を行うことで、「現在」を相対化する。 ・論文執筆計画と研究報告： 4年次に提出する卒業論文の執筆にむけて、文献の検索方法、研究計画書の書き方とスケジュール作成、テーマ設定などについて、基本的なスキルを身につけるためのトレーニングを随時行う。			
到達目標			
DP 2（問題の発見と解決）、DP 3（他者との協働）、DP 5（表現力、発信力）、DP 7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の4点を到達目標とする。			
① 的確に情報を収集、分析することができる。			
② 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。			
③ 主に、アメリカ社会・文化史に関する基本的問題を理解し、説明することができる。			
④ 指定されたフォーマットに従い、論理的な文章を書くことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション - 演習の目的と課題について ・演習の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・グループ分けを行う。		
	【予習・復習】 シラバスをよく読んで、演習の進め方を理解しておく。		60
第2回	4年次に提出する卒論について - 課題の内容 ・卒業論文で課されている形式的、内容的な課題について、理解する。		
	【予習・復習】 卒業論文の執筆要綱（詳しくは、演習時に説明する）を、事前によく読んでおくこと。		60
第3回	個人的な関心から研究テーマへ - アカデミック・スキルの基本 ・自分の関心あるテーマについて、グループでディスカッションを行う。		
	【予習・復習】 演習時に、事前に配布した資料をよく読んでおくこと。		60

第4回	事例研究 - アメリカ合衆国の政治・外交・経済 (その1) ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第5回	事例研究 - アメリカ合衆国の政治・外交・経済 (その2) ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第6回	事例研究 - アメリカ合衆国の政治・外交・経済 (その3) ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第7回	グループワーク - テーマ設定のための作業 ・グループに分かれて、ブレインストーミングと質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第8回	事例研究 - アメリカ合衆国の社会問題 (その1) ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第9回	事例研究 - アメリカ合衆国の社会問題 (その2) ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60

第10回	事例研究 - アメリカ合衆国の社会問題 (その3) ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第11回	グループワーク - 論理的な文章とは？文章作成のコツ ・グループに分かれて、文書を作成し、互いに講評する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第12回	事例研究 - アメリカ合衆国の文化・宗教・思想 (その1) ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第13回	事例研究 - アメリカ合衆国の文化・宗教・思想 (その2) ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第14回	事例研究 - アメリカ合衆国の文化・宗教・思想 (その3) ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第15回	全体のまとめ ・プレゼンテーション全般を振り返り、改善点について学修する。	
	【予習】 プレゼンテーション全般のレビューを各自しておく。	60

授業の方法

大きく分けて以下の二つの作業を行なう。

- ・テキストの精読とディスカッション：原則として、指定テキストに沿って進める。加えて、関連する一次史料・二次史料の精読も随時行う。分からないところがあってもかまわないが、まずは自力で事前に読んでおくことが求められる。
- ・論文執筆計画と研究報告：まず、合衆国に関連したさまざまな分野の基本文献や主なアプローチ方法などを確認する。次に、各自の研究テーマについて、テーマ設定の仕方、学術論文の基本的なルール、研究計画書（＝3年次の末に提出）の書き方、口頭での研究発表の仕方などのトレーニングを行なう。

成績評価の方法

平常点＝ディスカッションへの参加と貢献（50%）、口頭発表（20%）、書評や研究計画書を含むレポート（30%）による総合評価。ほぼ毎回、全員にごく簡単な課題（たとえば翌週扱う予定の史料の読解やそれに関する質問など）を課す。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

アメリカ合衆国のみならず、自国や諸外国の歴史・文化に関連する講義を積極的に受講することが望ましい。なおこの演習では英語の文献も扱うので、日々英語の勉強を欠かさないこと。

テキスト

開講時に、受講者と相談のうえ決定する。なおこの演習では、適宜、配布資料の形で英語の文献も使用する。

参考書

<参考書>

以下の文献のほか、必要に応じて適宜紹介する。

- ・堀内一史『アメリカと宗教 保守化と政治化のゆくえ』中公新書、2010年。
- ・笹田直人・堀真理子・外岡尚美編『概説 アメリカ文化史』ミネルヴァ書房、2002年。
- ・和田光弘編『大学で学ぶアメリカ史』ミネルヴァ書房、2014年。

<卒論、レジュメ、レポートで使用するフォーマット等について>

卒論執筆時に使用するフォーマットは、アメリカ史・アメリカ研究で一般的に用いられているシカゴ方式に準拠すること。その他、下記の文献も適宜参照のこと。

- ・白井利明・高橋一郎『よくわかる 卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房、2014年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I g		
教員名	墓田 桂		
科目ナンバー	1151431105	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
2010年代、世界情勢は不確実性を増している。国家といえども決して安泰な存在ではない。シリアやイラクを始めとしたイスラム圏で既存の国家が弱体化し、暴力に浸食される事態が起きている。加えて、諸国間のパワーバランスの変化も著しい。アメリカの存在の希薄化やEUの混乱、ロシアや中国の覇権主義はその一端である。北朝鮮の核・ミサイル開発も北東アジア情勢を不安定なものとしている。リーダー不在の「Gゼロ」の状況にあって、世界は流動を余儀なくされている。 混沌とした時代に、どのようにして世界の、そして日本の平和と安全を実現するのか ―。国連に期待できる状況にはなく、各国はそれぞれに存立を図っているのが実情である。日本では平和安全法制の整備などの前向きな動きはあるものの、国民的理解の醸成や防衛体制の構築といった課題が残されている。 このゼミでは、世界の厳しい現実を見据え、紛争や政治的緊張の原因（中国の海洋進出や北朝鮮の核・ミサイル、イスラム主義の台頭）、脅威の多様性（核・通常兵器、テロ、大量難民、サイバー戦争、世論・心理戦、海賊、シーレーンの遮断、エボラ熱などの感染症を含む）、それらの解決や軽減に向けた取り組みを多面的に学んでいく。人間の安全保障やNGOや国連機関による人道援助、さらには平和維持活動（PKO）も検証する。 夢想的な平和主義に陥ることなく、リアリズムをもって世界と日本の平和を考えていきたい。			
到達目標			
DP1（総合的思考力）、DP2（課題の発見と解決）、DP5（表現力、発信力）、DP6（専門分野の知識・理解）、DP7（多面的な分析能力）を実現するため、下記を到達目標とする。 ・世界を巨視的に眺めながら、国際政治を論じることができる。 ・日本を客観視できる。 ・世界と日本が直面する課題を自ら発見できる。 ・自分の意見を積極的に述べるができる。 ・読解しやすく、説得力のある文章が書ける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	（おおよそ下記の授業計画に従って授業を進める。変更する場合もある。） ガイダンス ゼミのテーマに関連する事項を予習する。		
		90	
第2回	映像資料の視聴 ゼミのテーマに関連する事項を予習する。		
		90	
第3回	発表① 課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。		
		90	

第4回	発表②	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第5回	英文読解	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第6回	発表③	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第7回	発表④	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第8回	英文読解	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第9回	発表⑤	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90

第10回	発表⑥	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第11回	映像資料の視聴	
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第12回	映像資料の視聴	
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第13回	英文読解	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第14回	英文読解	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第15回	まとめ	
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90

授業の方法

- ゼミ発表：ゼミで扱うテーマについて、持ち回りで発表する。それについて討論者が意見を述べ、皆で議論する。
- 英文読解：事前に渡された英文を日本語に訳し、ゼミで発表する（背景についても調べておく）。
- その他、詳細は授業で説明する。

成績評価の方法

発表（20%）、討論（20%）、平常点（20%）、3年次レポート（40%）を組み合わせた総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

国際系の科目

テキスト

特になし

参考書

イアン・ブレマー『「Gゼロ」後の世界 —— 主導国なき時代の勝者はだれか』（日本経済新聞出版社、2012年）

その他、授業中に指示または推奨する。また新聞・雑誌（英文、和文）などから時々のトピックを取り上げる予定。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II g		
教員名	墓田 桂		
科目ナンバー	1151431106	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
2010年代、世界情勢は不確実性を増している。国家といえども決して安泰な存在ではない。シリアやイラクを始めとしたイスラム圏で既存の国家が弱体化し、暴力に浸食される事態が起きている。加えて、諸国間のパワーバランスの変化も著しい。アメリカの存在の希薄化やEUの混乱、ロシアや中国の覇権主義はその一端である。北朝鮮の核・ミサイル開発も北東アジア情勢を不安定なものとしている。リーダー不在の「Gゼロ」の状況にあって、世界は流動を余儀なくされている。 混沌とした時代に、どのようにして世界の、そして日本の平和と安全を実現するのか ―。国連に期待できる状況ではなく、各国はそれぞれに存立を図っているのが実情である。日本では平和安全法制の整備などの前向きな動きはあるものの、国民的理解の醸成や防衛体制の構築といった課題が残されている。 このゼミでは、世界の厳しい現実を見据え、紛争や政治的緊張の原因（中国の海洋進出や北朝鮮の核・ミサイル、イスラム主義の台頭）、脅威の多様性（核・通常兵器、テロ、大量難民、サイバー戦争、世論・心理戦、海賊、シーレーンの遮断、エボラ熱などの感染症を含む）、それらの解決や軽減に向けた取り組みを多面的に学んでいく。人間の安全保障やNGOや国連機関による人道援助、さらには平和維持活動（PKO）も検証する。 夢想的な平和主義に陥ることなく、リアリズムをもって世界と日本の平和を考えていきたい。			
到達目標			
DP1（総合的思考力）、DP2（課題の発見と解決）、DP5（表現力、発信力）、DP6（専門分野の知識・理解）、DP7（多面的な分析能力）を実現するため、下記を到達目標とする。 ・世界を巨視的に眺めながら、国際政治を論じることができる。 ・日本を客観視できる。 ・世界と日本が直面する課題を自ら発見できる。 ・自分の意見を積極的に述べることができる。 ・読解しやすく、説得力のある文章が書ける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	（おおよそ下記の授業計画に従って授業を進める。変更する場合もある。） ガイダンス ゼミのテーマに関連する事項を予習する。		
		90	
第2回	課題図書の報告① 課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。		
		90	
第3回	課題図書の報告② 課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。		
		90	

第4回	発表①	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第5回	発表②	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第6回	英文読解	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第7回	発表③	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第8回	発表④	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第9回	映像資料の視聴	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90

第10回	発表⑤	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第11回	発表⑥	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第12回	英文読解	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第13回	3年次レポートの報告①	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第14回	3年次レポートの報告②	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第15回	まとめ	
	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	90

授業の方法

-ゼミ発表：ゼミで扱うテーマについて、持ち回りで発表する。それについて討論者が意見を述べ、皆で議論する。
-英文読解：事前に渡された英文を日本語に訳し、ゼミで発表する（背景についても調べておく）。
-課題図書の報告：夏休み中に卒論執筆につながるような図書を3冊読んで、その内容を報告する（別途、書評も提出）。
-12月までに3年次レポート（8,000字）を提出する。これを土台に4年次で卒論（学科規定で20,000字）を執筆する（余力があれば、別のテーマで卒論を書いても構わない）。

成績評価の方法

発表（20%）、討論（20%）、平常点（20%）、3年次レポート（40%）を組み合わせた総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

国際系の科目

テキスト

特になし

参考書

イアン・ブレマー『「Gゼロ」後の世界 ―― 主導国なき時代の勝者はだれか』（日本経済新聞出版社、2012年）

その他、授業中に指示または推奨する。また新聞・雑誌（英文、和文）などから時々のトピックを取り上げる予定。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I h		
教員名	細谷 広美		
科目ナンバー	1151431105	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
グローバル化が進展するなか、ヒト、モノ、カネ、情報が行き来し、世界は均質になるかにみえます。グローバル・コミュニティという概念も生まれています。しかし、実際にはグローバル化が進めば進むほど、これまで接することがなかった人々、地域、文化が会うことになり、互いの相違が明らかになってきます。本演習では、グローバル化とローカルな現場の関係について、文化の多様性を視野に入れて実践的に考察を深めていきます。 また、フィールドワークをおこなう可能性があります。 並行して卒業論文執筆への準備をはじめます。希望があれば英語論文を読み、英語文献を読む力を養います。			
到達目標			
DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を身につけるため、以下を到達目標とする。 ・フィールドワークを重要な手法としてきた文化人類学の観点から、現場のリアリティと人間を視野に入れてグローバルな課題への理解を深める。 ・メディア・リテラシーを鍛える。 ・文献を批判的に読む力、クリティカル・シンキングを鍛える。 ・データを分析的に読み取る力を高める。 ・論理的な思考力を高める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	導入部 授業の進め方、レジュメの書き方についての説明 発表担当の割当		
	発表に向けてテキストを読む。		120
第2回	映画		
	発表に向けて準備を進めておく。		120
第3回	文献をもとにレジュメの作成、発表、ディスカッション		
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。		120

第4回	文献をもとにレジュメの作成、発表、ディスカッション	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第5回	文献をもとにレジュメの作成、発表、ディスカッション	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第6回	文献をもとにレジュメの作成、発表、ディスカッション	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第7回	文献をもとにレジュメの作成、発表、ディスカッション	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第8回	文献をもとにレジュメの作成、発表、ディスカッション	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第9回	文献をもとにレジュメの作成、発表、ディスカッション	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120

第10回	文献をもとにレジュメの作成、発表、ディスカッション	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第11回	文献をもとにレジュメの作成、発表、ディスカッション	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第12回	文献をもとにレジュメの作成、発表、ディスカッション	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第13回	文献をもとにレジュメの作成、発表、ディスカッション	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第14回	文献をもとにレジュメの作成、発表、ディスカッション	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第15回	文献をもとにレジュメの作成、発表、ディスカッション	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120

授業の方法

演習方式です。発表担当者がレジュメを作成して発表をし、それをもとに質疑応答、ディスカッションをします。テキストは毎回受講生全員がわからない内容を調べながら丁寧に読んできて下さい。フィールドワークをおこなう場合は、シラバスは流動的になります。

成績評価の方法

ゼミへの貢献度（発表内容、プレゼンテーションの仕方、ディスカッションへの参加など。） 50%
レポート 50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

文化人類学の基本的概念と方法論を身につけたか。

文献を読む力がついたか。

文献を批判的に読み、分析する力をつけることができたか。

論理的思考ができ、それを説得力がある形で伝え、文章にすることができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

文化人類学の入門書を読んでおいてください。外国語文献を読むことができる語学力があると、扱うことができる文献の幅が広がるので、語学力をつけておいたほうがよいです。

2年生までに人類学関係の講義科目を一通り受講しておくことが望ましいです。

テキスト

初回授業時に伝えます。

参考書

テキストのなかで紹介されている文献の他に、授業中適宜紹介していきます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	演習II h		
教員名	細谷 広美		
科目ナンバー	1151431106	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
グローバル化が進展するなか、ヒト、モノ、カネ、情報が行き来し、世界は均質になるかにみえます。グローバル・コミュニティという概念も生まれています。しかし、実際にはグローバル化が進めば進むほど、これまで接することがなかった人々、地域、文化が会うことになり、互いの相違が明らかになってきます。本演習では、グローバル化とローカルな現場の関係について、文化の多様性を視野に入れて実践的に考察を深めていきます。 また、フィールドワークをおこなう可能性があります。 並行して卒業論文執筆への準備をはじめます。希望があれば英語論文を読み、英語文献を読む力を養います。			
到達目標			
DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を身につけるため、以下を到達目標とします。 メディア・リテラシーを含むリテラシーを鍛えます。 文献を批判的に読む力を鍛えます。 データを分析的に読み取る力を鍛えます。 論理的な思考力を鍛え、それを表現し、文章にする力を養います。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	各自が卒業論文のテーマと概要を発表する。		
	夏期休業中に、卒業論文のテーマを考えておく。	120	
第2回	文献を読み、担当者がレジュメを作成して発表する。これをもとに、質疑応答、ディスカッションをする。		
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120	
第3回	文献を読み、担当者がレジュメを作成して発表する。これをもとに、質疑応答、ディスカッションをする。		
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120	

第4回	文献を読み、担当者がレジュメを作成して発表する。これをもとに、質疑応答、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第5回	文献を読み、担当者がレジュメを作成して発表する。これをもとに、質疑応答、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第6回	文献を読み、担当者がレジュメを作成して発表する。これをもとに、質疑応答、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第7回	文献を読み、担当者がレジュメを作成して発表する。これをもとに、質疑応答、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第8回	文献を読み、担当者がレジュメを作成して発表する。これをもとに、質疑応答、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第9回	文献を読み、担当者がレジュメを作成して発表する。これをもとに、質疑応答、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120

第10回	文献を読み、担当者がレジュメを作成して発表する。これをもとに、質疑応答、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第11回	文献を読み、担当者がレジュメを作成して発表する。これをもとに、質疑応答、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第12回	文献を読み、担当者がレジュメを作成して発表する。これをもとに、質疑応答、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第13回	文献を読み、担当者がレジュメを作成して発表する。これをもとに、質疑応答、ディスカッションをする。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。 全員が事前にテキストを読み、質疑応答、ディスカッションにそなえる。 テキストのわからない部分、疑問点を調べておく。	120
第14回	卒業論文の構想発表、質疑応答。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。	120
第15回	卒業論文の構想発表、質疑応答。	
	発表担当者はレジュメを用意し、発表方法についても十分準備しておく。	120

授業の方法

演習方式です。発表担当者がレジュメを作成して発表をし、それをもとに質疑応答、ディスカッションをします。文献は毎回受講生全員が適宜内容を調べながら丁寧に読んできて下さい。また、必要に応じて事前に文献でとりあげられている参考文献にも目を通して下さい。フィールドワークをおこなう場合は、シラバスは流動的になります。

成績評価の方法

ゼミへの貢献度（プレゼンテーション、ディスカッションへの参加など） 50%

レポート 50%

文化人類学の基本的概念と方法論を身につけたか。

文献を読む力がついたか。

文献を批判的に読み、分析する力をつけることができたか。

論理的思考ができ、それを説得力があるかたちで伝えることができ、また文章にすることができるか。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

文化人類学の入門書等を読んでおいて下さい。外国語文献を読むことができる語学力があると、扱うことができる文献の幅が広がるので、語学力をつけておいたほうがよいです。

文化人類学関係の講義科目を一通り受講しておくことが望ましいです。

テキスト

テキストは授業で指示します。

参考書

授業中適宜紹介していきます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I i		
教員名	堀内 正樹		
科目ナンバー	1151431105	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
本演習は社会人類学ゼミである。文化、社会、民俗、音文化、中東、イスラムなどのキーワードのいずれかに関連したテーマを各自が設定し、2年間にわたって独自の研究を進める。後期以降の授業では受講者がレジュメを用意して、研究の成果を順番に発表する。その発表を受けて全員が批判的な討議をし、共同で問題点を明らかにしてゆく。 3年前期の本演習は、上記の計画に向かって、その準備をする。 2年間の本演習を通じて重視するのは、単に情報を収集・整理することだけではなく、いかに問題を明確にし、いかに考え抜くかという思考力・想像力の鍛錬である。しかもそれを独断を排して他人（他の受講生）との対話を通して実現してゆくことに重きを置く。			
到達目標			
DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の5点を到達目標とする。 1. 積極的かつ建設的な議論ができる。 2. 批判能力を高める。 3. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 4. 意見を文章で表現できる。 5. 形式の整った文章を作成できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス(1) ・演習の内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 ・資料の探し方を説明する。		
	[復習]資料の検索方法を理解しておく。		30
第2回	ガイダンス(2) ・論文やレポートの作成形式を説明する。 ・論文の形式マニュアルを配布して説明する。		
	[復習]実際に例文を書いてみて、論文の形式を確認しておく。		90
第3回	自己プレゼンテーション(1) ・セルフアピールの練習として、自己紹介をプレゼンテーション形式で行う。		
	[予習]セルフアピールの準備をしておく。 [復習]他の人のプレゼンテーションを記録して、整理しておく。		60

第4回	自己プレゼンテーション(2) ・セルフアピールの練習として、自己紹介をプレゼンテーション形式で行う。	
	[予習]セルフアピールの準備をしておく。 [復習]他の人のプレゼンテーションを記録して、整理しておく。	60
第5回	ディスカッション(1) ・自分の問題とするテーマを絞り込むために、全員で構想を討議する。	
	[予習]自分が何を研究テーマとしたいのか、その構想を練っておく。	90
第6回	ディスカッション(2) ・自分の問題とするテーマを絞り込むために、全員で構想を討議する。	
	[予習]自分が何を研究テーマとしたいのか、その構想を練っておく。	90
第7回	学外実習 ・テーマに応じた場所を訪れ、聞き取りなどのフィールドワークを体験する。	
	[予習]訪問する場所に関する情報を集めておく。 [復習]聞き取ったことや撮影したことなどを記録・整理しておく。	120
第8回	プレゼンテーション技法(1) ・ワードやエクセル等の使い方を学修する。	
	[復習]実際に自分のPCを使って確認作業をしておく。	60
第9回	プレゼンテーション技法(2) ・パワーポイントの使い方を学修する。	
	[復習]プレゼンテーションの粗稿をパワーポイントで作ってみる。	90

第10回	プレゼンテーション技法(3) ・音声データと映像・画像データの処理方法を学修する。 ・アナログデータをデジタルデータに変換する方法を学修する。	
	[予習・復習]アナログデータを用意して、スキャニングなどの作業を自分なりにやってみる。	60
第11回	学外実習 ・資料やデータの実際のプレゼンテーションの様子を知るために、博物館等を訪れる。	
	[復習]博物館等でどのようにモノやデータが扱われているのかをまとめる。	60
第12回	ディベート(1) ・時事問題を取り上げ、賛否両方のグループに分かれて討論する。 ・議論の進め方を学修する。 ・論理的に相手方を批判できるようにする。	
	[予習]できれば海外のインターネットのニュースサイトで最新のニュースを入手し、必要な関連情報を集めておく。 [復習]相手グループの主張を整理し、問題点がなかったかどうか確認する。	90
第13回	ディベート(2) ・別の時事問題を取り上げ、賛否両方のグループに分かれて討論する。 ・議論の進め方を学修する。 ・論理的に相手方を批判できるようにする。	
	[予習]できれば海外のインターネットのニュースサイトで最新のニュースを入手し、必要な関連情報を集めておく。 [復習]相手グループの主張を整理し、問題点がなかったかどうか確認する。	90
第14回	課題報告 ・後期以降、自分がどのように研究テーマを追求してゆくかを一人ずつ報告する。 ・報告には入念に準備された報告資料を用いる。	
	[予習]自分の研究テーマをうまく伝えられるよう、紙媒体ないしデジタル媒体でプレゼンテーションの準備をする。 [復習]他人が行ったプレゼンテーションを分析し、不備や齟齬がなかったかどうか確認する。	90
第15回	授業の総括 ・プレゼンテーション、資料検索、報告書作成等についての不備を自己確認し、改善点を見出す。	
	[復習]これまでの授業を振り返り、後期の授業に向けて何を準備すべきかを整理しておく。	60

授業の方法 「授業の計画・内容」に記したとおりである。毎回1人最低1回は発言をし、全員でそれを批判的に討議する作業を行う。発言者は自らの問題意識に即してオリジナルな意見を述べる。他人の発言に対しては問題提起的なコメントを必ず返すこと。ゼミの進行は参加者の意向に応じて柔軟な形にしてゆくつもりである。
成績評価の方法 レジュメの内容(20%)、討論態度(40%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(20%)などによる総合評価。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 以下の点に沿って、その達成度に応じて評価する。 1. 積極的かつ建設的な議論ができる。 2. 批判能力を高める。 3. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 4. 意見を文章で表現できる。 5. 形式の整った文章を作成できる。
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特になし
テキスト 特になし
参考書 議論の展開に応じて、授業中に指示する。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II i		
教員名	堀内 正樹		
科目ナンバー	1151431106	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

本演習は社会人類学ゼミである。文化、社会、民俗、音文化、中東、イスラムなどのキーワードのいずれかに関連したテーマを各自が設定し、2年間にわたって独自の研究を進める。
 3年後期の本授業では、レジュメを用意して、夏休み中の研究の成果を順番に発表する。その発表を受けて全員が批判的な討議をし、共同で問題点を明らかにしてゆく。
 2年間の本演習を通じて重視するのは、単に情報を収集・整理することだけではなく、いかに問題を発見し、いかに考え抜くかという思考力・想像力の鍛錬である。しかもそれを独断を排して他人（他の受講生）との対話を通して実現してゆくことに重きを置く。

到達目標

DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の5点を到達目標とする。

1. 積極的かつ建設的な議論ができる。
2. 批判能力を高める。
3. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。
4. 意見を文章で表現できる。
5. 形式の整った文章を作成できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	授業の計画・内容 準備学修(予習・復習等)	
	研究の中間報告(1) ・ 毎回1人ずつ自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第2回	研究の中間報告(2) ・ 毎回1人ずつ自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第3回	研究の中間報告(3) ・ 毎回1人ずつ自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60

第4回	研究の中間報告（4） ・ 毎回1人ずつ自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第5回	研究の中間報告（5） ・ 毎回1人ずつ自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第6回	研究の中間報告（6） ・ 毎回1人ずつ自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第7回	研究の中間報告（7） ・ 毎回1人ずつ自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第8回	中間総括 ・ これまでの授業を振り返り、不備だった点や改善点などを話し合う。	
	[復習]プレゼンテーションやディスカッションの方法を洗い直しておく。	120
第9回	研究の中間報告（8） ・ 毎回1人ずつ自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60

第10回	研究の中間報告（9） ・ 毎回1人ずつ自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第11回	研究の中間報告（10） ・ 毎回1人ずつ自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第12回	研究の中間報告（11） ・ 毎回1人ずつ自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第13回	研究の中間報告（12） ・ 毎回1人ずつ自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第14回	研究の中間報告（13） ・ 毎回1人ずつ自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第15回	研究の中間報告（14） ・ 毎回1人ずつ自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]これまでの授業を振り返り、次年度の授業に向けて何を準備すべきかを整理しておく。	120

授業の方法 「授業の計画・内容」に記したとおりである。発表者を中心に全員でディスカッションをする。参加者は毎回1人最低1回は発言をし、発言者は自らの問題意識に即してオリジナルな意見を述べる。他人の発言に対しては問題提起的なコメントを必ず返すこと。ゼミの進行は参加者の意向に応じて柔軟な形にしてゆくつもりである。
成績評価の方法 レジュメの内容(20%)、討論態度(40%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(20%)などによる総合評価。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 以下の点に沿って、その達成度に応じて評価する。 1. 積極的かつ建設的な議論ができる。 2. 批判能力を高める。 3. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 4. 意見を文章で表現できる。 5. 形式の整った文章を作成できる。
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特になし
テキスト 特になし
参考書 議論の展開に応じて、授業中に指示する。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I j		
教員名	松浦 義弘		
科目ナンバー	1151431105	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

【テーマ】フランス革命と現代
【概要】フランス革命は、新しい国民をつくりだそうとする過程で、政治と文化にかんする現代の私たちの考え方や実践の多くを生み出した。プロパガンダの技術、大衆政党の可能性と下層民衆の政治的動員、社会や日常生活の政治化・・・これらはすべて、フランス革命において生みだされたものであった。このゼミでは、現代の政治と文化の問題を考えるための手がかりとして、まず『フランス革命 歴史における劇薬』（岩波ジュニア新書）を読む。本書は、誰にでもわかるようにじつに平明に書かれているが、生涯を革命史研究にささげた大家が、深い学識を背景としてフランス革命の偉大さと悲惨さを情熱をもって語りかけた書で、感動をさそう。このゼミでは、このテキスト意外に、ゼミ参加者と相談の上でもう一冊、歴史にかんするテキストを読みたいと考えている。これらのテキストを読みながら、歴史学の発想や方法を学んでいければと思う。またこの作業を通じて、みずから歴史に問いかける姿勢を培い、卒論のテーマを絞り込んでゆけるようにしたい。

到達目標

- DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の4点を目標とする。
- ①近現代フランスの政治・文化に関する基礎知識を習得する。
 - ②歴史学の発想や方法を学ぶことをめざす。
 - ③みずから歴史に問いかける姿勢を培い、卒論のテーマを絞り込んでゆけるようにする。
 - ④レポートの作成を通じて、明快で正確な文章作成能力を身につける。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	フランス革命に関して導入的な講義をおこなう。	
	シラバスを読み、ゼミの計画・内容を把握する。	60
第2回	演習参加者による報告と質疑応答	
	テキストの該当部分を読み、問題点を指摘できるようにしておく。	60
第3回	演習参加者による報告と質疑応答	
	テキストの該当部分を読み、問題点を指摘できるようにしておく。	90

第4回	演習参加者による報告と質疑応答	
	テキストの該当部分を読み、問題点を指摘できるようにしておく。	90
第5回	演習参加者による報告と質疑応答	
	テキストの該当部分を読み、問題点を指摘できるようにしておく。	90
第6回	演習参加者による報告と質疑応答	
	テキストの該当部分を読み、問題点を指摘できるようにしておく。	90
第7回	演習参加者による報告と質疑応答	
	テキストの該当部分を読み、問題点を指摘できるようにしておく。	90
第8回	演習参加者による報告と質疑応答	
	テキストの該当部分を読み、問題点を指摘できるようにしておく。	90
第9回	演習参加者による報告と質疑応答	
	テキストの該当部分を読み、問題点を指摘できるようにしておく。	90

第10回	演習参加者による報告と質疑応答	
	テキストの該当部分を読み、問題点を指摘できるようにしておく。	90
第11回	演習参加者による報告と質疑応答	
	テキストの該当部分を読み、問題点を指摘できるようにしておく。	90
第12回	演習参加者による報告と質疑応答	
	テキストの該当部分を読み、問題点を指摘できるようにしておく。	90
第13回	演習参加者による報告と質疑応答	
	テキストの該当部分を読み、問題点を指摘できるようにしておく。	90
第14回	演習参加者による報告と質疑応答	
	テキストの該当部分を読み、問題点を指摘できるようにしておく。	90
第15回	まとめ	
	テキスト全体を読み直し、その評価を提示できるようにしておく。	120

授業の方法

この演習は、テキストを演習参加者が順番に報告する形式で進めてゆく。報告者は、テキスト以外の参考文献も参照しながら、あらかじめ報告の準備をすること。また参加者には毎回全員に発言してもらうので、テキストを事前に読んで予習しておくこと。

成績評価の方法

平常点（60パーセント）、卒業論文の準備を兼ねてのレポート（40パーセント）による総合評価。ゼミでの発言や質問など、ゼミへの積極的な参加をプラスに評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39

- ・ 近現代フランスの政治・文化に関する基礎知識を習得しているか。
- ・ 歴史学の発想や方法を身につけているか。
- ・ みずから歴史に問いかける姿勢がみについているか。
- ・ 明快で正確な文章作成能力を身につけているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

遅塚忠躬『フランス革命-歴史における劇薬』（岩波ジュニア新書）
その後のテキストはゼミ参加者と相談のうえ、決定したい。

参考書

ゼミ開始後、適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II j		
教員名	松浦 義弘		
科目ナンバー	1151431106	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
フランス革命は、新しい国民をつくりだそうとする過程で、政治と文化にかんする現代の私たちの考え方や実践の多くを生みだした。プロパガンダの技術、大衆政党の可能性と下層民衆の政治的動員、社会や日常生活の政治化・・・これらはすべて、フランス革命において生みだされたものであった。このゼミでは、現代の政治と文化の問題を考えるための手がかりとして、まず『フランス革命 歴史における劇薬』（岩波ジュニア新書）を読む。本書は、誰にでもわかるようにじつに平明に書かれているが、生涯を革命史研究にささげた大家が、深い学識を背景としてフランス革命の偉大さと悲慘さを情熱をもって語りかけた書で、感動をさそう。このゼミでは、このテキスト意外に、ゼミ参加者と相談の上でもう一冊、歴史にかんするテキストを読みたいと考えている。これらのテキストを読みながら、歴史学の発想や方法を学んでいければと思う。またこの作業を通じて、みずから歴史に問いかける姿勢を培い、卒論のテーマを絞り込んでゆけるようにしたい。			
到達目標			
・近現代フランスの政治・文化に関する基礎知識を習得する。 ・歴史学の発想や方法を学ぶことをめざす。 ・みずから歴史に問いかける姿勢を培い、卒論のテーマを絞り込んでゆけるようにする。 ・レポートの作成を通じて、明快で正確な文章作成能力を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	演習参加者による報告と質疑応答		
	テキストの該当部分を読み、問題点を指摘できるようにしておく。		60
第2回	演習参加者による報告と質疑応答		
	テキストの該当部分を読み、問題点を指摘できるようにしておく。		60
第3回	演習参加者による報告と質疑応答		
	テキストの該当部分を読み、問題点を指摘できるようにしておく。		60

第4回	演習参加者による報告と質疑応答	
	テキストの該当部分を読み、問題点を指摘できるようにしておく。	60
第5回	演習参加者による報告と質疑応答	
	テキストの該当部分を読み、問題点を指摘できるようにしておく。	60
第6回	卒業論文執筆の手引き（１）	
	卒業論文執筆の手引き（１）を読んでおく。	60
第7回	卒業論文執筆の手引き（２）	
	卒業論文執筆の手引き（２）を読んでおく。	60
第8回	演習参加者の独自テーマに関する報告と質疑応答	
	報告者の報告について自分なりの考えをまとめる。	60
第9回	演習参加者の独自テーマに関する報告と質疑応答	
	報告者の報告について自分なりの考えをまとめる。	60

第10回	演習参加者の独自テーマに関する報告と質疑応答	
	報告者の報告について自分なりの考えをまとめる。	60
第11回	演習参加者の独自テーマに関する報告と質疑応答	
	報告者の報告について自分なりの考えをまとめる。	60
第12回	演習参加者の独自テーマに関する報告と質疑応答	
	報告者の報告について自分なりの考えをまとめる。	60
第13回	演習参加者の独自テーマに関する報告と質疑応答	
	報告者の報告について自分なりの考えをまとめる。	60
第14回	演習参加者の独自テーマに関する報告と質疑応答	
	報告者の報告について自分なりの考えをまとめる。	60
第15回	まとめ	
	卒論テーマについてのレポートを書く。	120

授業の方法

この演習は、テキストを演習参加者が順番に報告する形式で進めてゆく。報告者は、テキスト以外の参考文献も参照しながら、あらかじめ報告の準備をすること。また参加者には毎回全員に発言してもらうので、テキストを事前に読んで予習しておくこと。夏のゼミ合宿およびゼミの後半では、各人が関心をもっているテーマに関する発表の時間を設けて、卒業論文への橋渡しをめざす。

成績評価の方法

平常点（60パーセント）、卒業論文の準備を兼ねてのレポート（40パーセント）による総合評価。ゼミでの発言や質問など、ゼミへの積極的な参加をプラスに評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39

- ・ 近現代フランスの政治・文化に関する基礎知識を習得しているか。
- ・ 歴史学の発想や方法を身につけているか。
- ・ みずから歴史に問いかける姿勢が身についているか。
- ・ 明快で正確な文章作成能力を身につけているか。
- ・ 卒業論文のテーマが絞り込まれたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

遅塚忠躬『フランス革命-歴史における劇薬』（岩波ジュニア新書）
その後のテキストはゼミ参加者と相談のうえ、決定したい。

参考書

ゼミ開始後、適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習III a		
教員名	有富 純也		
科目ナンバー	1151431107	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
卒業論文に向けて、ゼミ形式で授業を行ないます。 1回の授業を前半と後半に分けます。 前半は『侍従長の回想』を輪読し、一次史料から論点をいかに抽出するかを学びます。 後半は卒業論文の準備報告をしてもらいます。			
到達目標			
DP 2（課題の発見と解決）、5（表現力、発信力）、6（専門分野の知識・理解）を実現するため、次のを到達目標とします。 ・的確に情報を収集、分析することができる。 ・説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 ・一次史料の読解を通じて、歴史的思考力を身につけられる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンスとテキストの説明		
	【予習・復習】3年生で学んだことをよく復習しておく。	60	
第2回	卒論準備報告と史料読解		
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60	
第3回	卒論準備報告と史料読解		
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60	

第4回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第5回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第6回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第7回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第8回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第9回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60

第10回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第11回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第12回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第13回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第14回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第15回	総まとめ	
	最終レポートの準備。	60

授業の方法

基本的にはゼミ形式です。発表者は事前に周知な準備をします。それ以外の学生は、発表者が事前に提示した資料を熟読します。

成績評価の方法

発表（５０点）と期末レポート（５０点）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・的確に情報を収集できるか。
- ・説得力のあるプレゼンテーションをできるか。
- ・一次史料をしっかりと読みこなしているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。

テキスト

藤田尚徳『侍従長の回想』講談社学術文庫、2015年。を予定していますが、授業の最初に相談します。

参考書

川村陶子監修『レポート・論文の書き方』旺文社、2015

小笠原喜康『新版 大学生のための論文・レポート術』講談社現代新書、2009

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習IV a		
教員名	有富 純也		
科目ナンバー	1151431108	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
卒業論文に向けて、ゼミ形式で授業を行ないます。 1回の授業を前半と後半に分けます。 前半は『侍従長の回想』を輪読し、一次史料から論点をいかに抽出するかを学びます。 後半は卒業論文の準備報告をしてもらいます。			
到達目標			
DP 2（課題の発見と解決）、5（表現力、発信力）、6（専門分野の知識・理解）を実現するため、次のを到達目標とします。 ・的確に情報を収集、分析することができる。 ・説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 ・一次史料の読解を通じて、歴史的思考力を身につけられる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンスとテキストの説明		
	【予習・復習】3年生で学んだことをよく復習しておく。		60
第2回	卒論準備報告と史料読解		
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。		60
第3回	卒論準備報告と史料読解		
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。		60

第4回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第5回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第6回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第7回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第8回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第9回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60

第10回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第11回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第12回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第13回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第14回	卒論準備報告と史料読解	
	【予習】個別報告の準備と該当史料を確認しておく。 【復習】一次史料の論点を確認し、重要歴史単語を復習しておく。	60
第15回	総まとめ	
	最終レポートの準備。	60

授業の方法

基本的にはゼミ形式です。発表者は事前に周知な準備をします。それ以外の学生は、発表者が事前に提示した資料を熟読します。

成績評価の方法

発表（５０点）と期末レポート（５０点）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・的確に情報を収集できるか。
- ・説得力のあるプレゼンテーションをできるか。
- ・一次史料をしっかりと読みこなしているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。

テキスト

藤田尚徳『侍従長の回想』講談社学術文庫、2015年。

参考書

川村陶子監修『レポート・論文の書き方』旺文社、2015

小笠原喜康『新版 大学生のための論文・レポート術』講談社現代新書、2009

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習III b		
教員名	川村 陶子		
科目ナンバー	1151431107	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
この授業では、以下の項目についての学習を、ゼミ全員で討論・意見交換を行いながら進めていく。 (1) 課題の発見と論理の構成 (2) 先行研究の調査・分析 (3) 現地調査やインタビューの実施 (4) 論理的でわかりやすい文章の作成 (5) 論文のルールとマナーの習得 学習においては、学際的なテーマを研究することの意味と方法、および人文社会研究における幅広い意味での文化の扱いに、とりわけ注意を払う。			
到達目標			
3年次演習での経験をふまえて、各自の問題関心をさらに深め、自分の研究内容を卒業論文にまとめることを目標とする。ゼミ全体を通して、DP1（教養の修得）、2（課題の発見）、3（他者との協働）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発信力）を総合的に実現したい。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	以下の計画は、大まかな流れである。受講者の研究進捗状況等の諸要因を考慮し、各回の授業内容、学習の順番、進行の早さなどを調整する可能性もある。 オリエンテーション (卒業論文執筆の流れについて解説を行い、前期の予定を確認する。春休みの進捗を報告し合う。)		
	【予習・復習】 シラバスをよく読んで、演習の進め方を理解しておく。	30	
第2回	学術論文の要件 (論文の構成の仕方、テーマの絞り方などについて解説を行い、受講者が抱える問題を共有し助言し合う。)		
	【予習】資料をよく読み、各自が抱える問題を洗い出しておく。 【復習】授業での解説や助言の内容を確認し、それぞれの研究に活用する。	60～90	
第3回	調査のヒント (文献調査、聞き取り調査、実地調査などのやり方について、解説を行い、受講者が抱える問題を共有し助言し合う。)		
	【予習】資料をよく読み、各自が抱える問題を洗い出しておく。 【復習】授業での解説や助言の内容を確認し、それぞれの研究に活用する。	60～90	

第4回	文章の構成 (論理的な文章の作り方について解説を行い、受講者が抱える問題を共有し助言し合う。)	
	【予習】資料をよく読み、各自が抱える問題を洗い出しておく。 【復習】授業での解説や助言の内容を確認し、それぞれの研究に活用する。	60～90
第5回	題目のつくりかた (分かりやすく魅力的なタイトルのつけ方について解説を行い、受講者が抱える問題を共有し助言し合う。)	
	【予習】資料をよく読み、各自が抱える問題を洗い出しておく。 【復習】授業での解説や助言の内容を確認し、それぞれの研究に活用する。	60～90
第6回	文章の表現 (平明で論文らしい文章の表現方法について解説を行い、受講者が抱える問題を共有し助言し合う。)	
	【予習】資料をよく読み、各自が抱える問題を洗い出しておく。 【復習】授業での解説や助言の内容を確認し、それぞれの研究に活用する。	60～90
第7回	注のつけかた・引用のしかた (注や引用のルールについて解説を行い、受講者が抱える問題を共有し助言し合う。)	
	【予習】資料をよく読み、各自が抱える問題を洗い出しておく。 【復習】授業での解説や助言の内容を確認し、それぞれの研究に活用する。	60～90
第8回	文献・資料の表記のしかた (文献情報の表記方法、リストの作り方などについて、解説を行い、受講者が抱える問題を共有し助言し合う。)	
	【予習】資料をよく読み、各自が抱える問題を洗い出しておく。 【復習】授業での解説や助言の内容を確認し、それぞれの研究に活用する。	60～90
第9回	引用注の表記 (複雑な引用注の表記方法について解説を行い、受講者が抱える問題を共有し助言し合う。)	
	【予習】資料をよく読み、各自が抱える問題を洗い出しておく。 【復習】授業での解説や助言の内容を確認し、それぞれの研究に活用する。	60～90

第10回	図表・付録について (論文付属資料の意義や作成方法などについて解説を行い、受講者が抱える問題を共有し助言し合う。)	
	【予習】資料をよく読み、各自が抱える問題を洗い出しておく。 【復習】授業での解説や助言の内容を確認し、それぞれの研究に活用する。	60～90
第11回	研究成果報告会(1) (受講者がそれぞれの研究の進捗を交代で報告し、お互いの研究について助言を行う。)	
	【予習】資料や参考書、これまでのゼミでの学習内容を活用しながら、各人の研究の進捗をまとめる。 【復習】報告や助言の内容をふり返り、それぞれの研究に活用する。	60～120
第12回	研究成果報告会(2) (受講者がそれぞれの研究の進捗を交代で報告し、お互いの研究について助言を行う。)	
	【予習】資料や参考書、これまでのゼミでの学習内容を活用しながら、各人の研究の進捗をまとめる。 【復習】報告や助言の内容をふり返り、それぞれの研究に活用する。	60～120
第13回	研究成果報告会(3) (受講者がそれぞれの研究の進捗を交代で報告し、お互いの研究について助言を行う。)	
	【予習】資料や参考書、これまでのゼミでの学習内容を活用しながら、各人の研究の進捗をまとめる。 【復習】報告や助言の内容をふり返り、それぞれの研究に活用する。	60～120
第14回	研究成果報告会(4) (受講者がそれぞれの研究の進捗を交代で報告し、お互いの研究について助言を行う。)	
	【予習】資料や参考書、これまでのゼミでの学習内容を活用しながら、各人の研究の進捗をまとめる。 【復習】報告や助言の内容をふり返り、それぞれの研究に活用する。	120
第15回	ゼミの総括 (前期の授業をふり返り、夏休み以降の研究計画を固める。)	
	【予習・復習】前期の学習内容をふまえ、夏休みの研究計画をまとめる。	60～120

授業の方法

演習形式で実施する。各回のテーマに沿って予習に基づく作業を行うとともに、各人が自分のテーマに関する調査結果や執筆状況を報告し、全員で批判・助言を行う。
必要に応じ、授業時間の枠外で、個人面接や、共通するテーマ毎に組んだ小グループでの作業を行う。

成績評価の方法

平常点。授業への参加(A)、報告、研究に取り組む姿勢(B)、研究内容の充実度(C)に加え、ゼミ仲間の研究報告に対するコメントや助言など(D)も評価の対象に加える。
評価の基準は(A)40%、(B)20%、(C)20%、(D)20%をめやすとし、各項目でとりわけ顕著な成果が認められた者には加点を与える。
毎回の出席は必須。事前に資料の指定箇所を読み、論点や疑問点を整理してることが「出席」カウントの条件である。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

先修科目：演習Ⅰ・Ⅱb

テキスト

資料・プリントを授業にて配布する。

参考書

山田剛史・林創『大学生のためのリサーチ・リテラシー入門』ミネルヴァ書房、2011年。
『レポート・論文の書き方』旺文社、2015年。
このほか、論文の書き方に関する市販の参考書を各自で読み、論文執筆の基礎的なルールを身につけること。授業の中でも、必要に応じて適宜文献を指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	演習Ⅳ b		
教員名	川村 陶子		
科目ナンバー	1151431108	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
この授業では、以下の項目についての学習を、ゼミ全員で討論・意見交換を行いながら進めていく。 (1) 課題の発見と論理の構成 (2) 先行研究の調査・分析 (3) 現地調査やインタビューの実施 (4) 論理的でわかりやすい文章の作成 (5) 論文のルールとマナーの習得 学習においては、学際的なテーマを研究することの意味と方法、および人文社会研究における幅広い意味での文化の扱いに、とりわけ注意を払う。			
到達目標			
3年次演習での経験をふまえて、各自の問題関心をさらに深め、自分の研究内容を卒業論文にまとめることを目標とする。ゼミ全体を通じて、DP1（教養の修得）、2（課題の発見）、3（他者との協働）、4（自発性、積極性）、5（表現力、発信力）を総合的に実現したい。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	以下の計画は、大まかな流れである。受講者の研究進捗状況等の諸要因を考慮し、各回の授業内容、学習の順番、進行の速度などを調整する。 オリエンテーション (夏合宿の反省を行い、後期の予定を確認する。)		
	【予習・復習】 シラバスをよく読んで、演習の進め方を理解しておく。		30
第2回	多様な資料情報の調査分析法の総復習 (前期の学習内容をふり返りつつ、より高度な技術の解説を行い、各人が抱える問題点に対して助言し合う。)		
	【予習】資料をよく読み、各自が抱える問題を洗い出しておく。 【復習】授業での解説や助言の内容を確認し、それぞれの研究に活用する。		60～120
第3回	文章作成術の総復習(1) (前期の学習内容をふり返りつつ、より高度な技術の解説を行い、各人が抱える問題点に対して助言し合う。)		
	【予習】資料をよく読み、各自が抱える問題を洗い出しておく。 【復習】授業での解説や助言の内容を確認し、それぞれの研究に活用する。		60～120

第4回	文章作成術の総復習（2） （前期の学習内容をふり返りつつ、より高度な技術の解説を行い、各人が抱える問題点に対して助言し合う。）	
	【予習】資料をよく読み、各自が抱える問題を洗い出しておく。 【復習】授業での解説や助言の内容を確認し、それぞれの研究に活用する。	60～120
第5回	文章作成術の総復習（3） （前期の学習内容をふり返りつつ、より高度な技術の解説を行い、各人が抱える問題点に対して助言し合う。）	
	【予習】資料をよく読み、各自が抱える問題を洗い出しておく。 【復習】授業での解説や助言の内容を確認し、それぞれの研究に活用する。	60～120
第6回	論文進捗報告会（1） （受講者がそれぞれの研究の進捗を交代で報告し、お互いの研究について助言を行う。）	
	【予習】資料や参考書、これまでのゼミでの学習内容を活用しながら、各人の研究の進捗をまとめる。 【復習】報告や助言の内容をふり返り、それぞれの研究に活用する。	60～180
第7回	論文進捗報告会（2） （受講者がそれぞれの研究の進捗を交代で報告し、お互いの研究について助言を行う。）	
	【予習】資料や参考書、これまでのゼミでの学習内容を活用しながら、各人の研究の進捗をまとめる。 【復習】報告や助言の内容をふり返り、それぞれの研究に活用する。	60～180
第8回	論文進捗報告会（3） （受講者がそれぞれの研究の進捗を交代で報告し、お互いの研究について助言を行う。）	
	【予習】資料や参考書、これまでのゼミでの学習内容を活用しながら、各人の研究の進捗をまとめる。 【復習】報告や助言の内容をふり返り、それぞれの研究に活用する。	60～180
第9回	論文のルールとマナーの総復習（1） （論文のまとめに向けて、これまでの学習内容を総括し、お互いに対する助言を行う。）	
	【予習】資料をよく読み、各自が抱える問題を洗い出しておく。 【復習】授業での解説や助言の内容を確認し、それぞれの研究に活用する。	60～120

第10回	論文のルールとマナーの総復習（2） （論文のまとめに向けて、これまでの学習内容を総括し、お互いに対する助言を行う。）	
	【予習】資料をよく読み、各自が抱える問題を洗い出しておく。 【復習】授業での解説や助言の内容を確認し、それぞれの研究に活用する。	60～120
第11回	論文のルールとマナーの総復習（3） （論文のまとめに向けて、これまでの学習内容を総括し、お互いに対する助言を行う。）	
	【予習】資料をよく読み、各自が抱える問題を洗い出しておく。 【復習】授業での解説や助言の内容を確認し、それぞれの研究に活用する。	60～120
第12回	仕上げ作業に関する注意点の確認 （論文の提出に関わる諸注意を全員で確認し、最終仕上げを行う。）	
	【予習】資料や参考書をよく読んでおく。 【復習】報告や助言の内容をふり返り、論文の仕上げ作業を行う。	60～120
第13回	卒業論文完成報告会 （完成した論文の概要、アピールポイント、反省点を報告し合い、お互いの論文の内容について討論を行う。）	
	【予習】プレゼンテーションと質疑応答の準備を行う。ゼミ仲間の論文を読む。 【復習】報告や助言の内容をふり返り、ゼミの総括に備える。	120
第14回	後輩の研究への助言 （3年生の研究発表を聴いて討論に参加し、後輩の研究へのアドバイスをを行う。）	
	【予習】自らの卒業研究の経験をふまえ、後輩への助言をまとめる。 【復習】後輩の研究報告から得られた刺激を、各人の研究の反省に役立てる。	60
第15回	ゼミの総括 （卒業研究と2年間のゼミのふり返りを行う。）	
	【予習・復習】卒業研究および2年間のゼミでの活動を総括し、各個人の達成点や反省点、ゼミ運営改善のためのアドバイスなどをまとめる。	60

授業の方法

演習形式で実施する。各回のテーマに沿って予習に基づく作業を行うとともに、各人が自分のテーマに関する調査結果や執筆状況を報告し、全員で批判・助言を行う。
必要に応じ、授業時間の枠外で、個人面接や、共通するテーマ毎に組んだ小グループでの作業を行う。

成績評価の方法

平常点。授業への参加(A)、報告、研究に取り組む姿勢(B)、研究内容の充実度(C)に加え、ゼミ仲間の研究報告に対するコメントや助言など(D)も評価の対象に加える。
評価の基準は(A)40%、(B)20%、(C)20%、(D)20%をめやすとし、各項目でとりわけ顕著な成果が認められた者には加点を与える。
毎回の出席は必須。事前に資料の指定箇所を読み、論点や疑問点を整理してることが「出席」カウントの条件である。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

先修科目：演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲb

テキスト

資料・プリントを授業にて配布する。

参考書

山田剛史・林創『大学生のためのリサーチ・リテラシー入門』ミネルヴァ書房、2011年。
『レポート・論文の書き方』旺文社、2015年。
このほか、論文の書き方に関する市販の参考書を各自で読み、論文執筆の基礎的なルールを身につけること。授業の中でも、必要に応じて適宜文献を指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	演習III c		
教員名	佐々木 紳		
科目ナンバー	1151431107	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
【テーマ】アジア・アフリカの歴史と文化 【概要】この授業では、アジアおよびアフリカの歴史を広く世界史のなかに位置づける視点を身につけ、卒業論文を完成させることをめざす。この目標を達成するには、一方では各自の〈研究の基軸〉となる地域・テーマ・史料についての分析を進めつつ、他方では〈比較と連関〉の視座を応用して考察を深める必要がある。前期は、各自の〈研究の基軸〉に関する情報収集と分析を進める。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、5（表現力、発信力）、6（文化現象の総合的理解）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、下記の点を到達目標とする。 ・卒業論文作成に向けて、各自の〈研究の基軸〉に関する理解を深める。 ・卒業論文の構成を定め、草稿を執筆する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	授業の紹介と導入		
	【予習】 シラバスを読む。卒業論文の方向性と作業進捗状況を報告できるようにしておく。 【復習】 授業を通して、卒業論文執筆に活かせるものを見きわめる。	120	
第2回	報告と討論		
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する研究を進める。 【復習】 授業を通して、卒業論文執筆に活かせるものを見きわめる。	120	
第3回	報告と討論		
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する研究を進める。 【復習】 授業を通して、卒業論文執筆に活かせるものを見きわめる。	120	

第4回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する研究を進める。 【復習】 授業を通して、卒業論文執筆に活かせるものを見きわめる。	120
第5回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する研究を進める。 【復習】 授業を通して、卒業論文執筆に活かせるものを見きわめる。	120
第6回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する研究を進める。 【復習】 授業を通して、卒業論文執筆に活かせるものを見きわめる。	120
第7回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する研究を進める。 【復習】 授業を通して、卒業論文執筆に活かせるものを見きわめる。	120
第8回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する研究を進める。 【復習】 授業を通して、卒業論文執筆に活かせるものを見きわめる。	120
第9回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する研究を進める。 【復習】 授業を通して、卒業論文執筆に活かせるものを見きわめる。	120

第10回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する研究を進める。 【復習】 授業を通して、卒業論文執筆に活かせるものを見きわめる。	120
第11回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する研究を進める。 【復習】 授業を通して、卒業論文執筆に活かせるものを見きわめる。	120
第12回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する研究を進める。 【復習】 授業を通して、卒業論文執筆に活かせるものを見きわめる。	120
第13回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する研究を進める。 【復習】 授業を通して、卒業論文執筆に活かせるものを見きわめる。	120
第14回	報告と討論	
	【予習】 各自の〈研究の基軸〉に関する研究を進める。 【復習】 授業を通して、卒業論文執筆に活かせるものを見きわめる。	120
第15回	授業の総括と確認	
	【予習・復習】 授業を通して得た技能・知見・考え方のなかで、卒業論文作成に向けて活かせるものを見きわめる。	120

授業の方法

- ・ 毎回、担当者（または担当グループ）を決めて報告をおこない、その後、関連する討論をおこなう。
- ・ 報告は、卒業論文作成に関連する作業進捗状況や調査報告を中心とする。

成績評価の方法

- ・ 授業への取り組み（50%）、授業内報告（50%）。
- ・ 授業への取り組みについては、卒業論文草稿執筆作業の進捗状況も評価の判断材料とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

- ・ 先修科目：演習Ⅰ・Ⅱ

テキスト

とくに設けない。

参考書

授業内で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習Ⅳ c		
教員名	佐々木 紳		
科目ナンバー	1151431108	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

【テーマ】アジア・アフリカの歴史と文化
 【概要】この授業では、アジアおよびアフリカの歴史を広く世界史のなかに位置づける視点を身につけ、卒業論文を完成させることをめざす。この目標を達成するには、一方では各自の〈研究の基軸〉となる地域・テーマ・史料についての分析を進めつつ、他方では〈比較と連関〉の視座を応用して考察を深める必要がある。後期は、各自の〈研究の基軸〉に沿って〈比較と連関〉の視座を応用しながら卒業論文の執筆を進める。

到達目標

DP2（課題の発見と解決）、5（表現力、発信力）、6（文化現象の総合的理解）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、下記の点を到達目標とする。
 ・卒業論文を完成させる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業の紹介と導入	
	【予習・復習】 卒業論文の執筆	120
第2回	報告と討論	
	【予習・復習】 卒業論文の執筆	120
第3回	報告と討論	
	【予習・復習】 卒業論文の執筆	120

第4回	報告と討論	
	【予習・復習】 卒業論文の執筆	120
第5回	報告と討論	
	【予習・復習】 卒業論文の執筆	120
第6回	報告と討論	
	【予習・復習】 卒業論文の執筆	120
第7回	報告と討論	
	【予習・復習】 卒業論文の執筆	120
第8回	報告と討論	
	【予習・復習】 卒業論文の執筆	120
第9回	報告と討論	
	【予習・復習】 卒業論文の執筆	120

第10回	報告と討論	
	【予習・復習】 卒業論文の執筆	120
第11回	報告と討論	
	【予習・復習】 卒業論文の執筆	120
第12回	報告と討論 ※卒業論文提出（予定）	
	【予習・復習】 卒業論文の執筆	120
第13回	報告と討論	
	【予習・復習】 卒業論文報告会に向けての準備	60
第14回	報告と討論	
	【予習・復習】 卒業論文報告会に向けての準備	60
第15回	報告と討論	
	【予習・復習】 卒業論文報告会に向けての準備	60

授業の方法

- ・ 毎回、担当者（または担当グループ）を決めて報告をおこない、その後、関連する討論をおこなう。
- ・ 報告は、卒業論文作成に関する作業進捗状況や調査報告を中心とする。

成績評価の方法

- ・ 授業への取り組み（50%）、授業内報告（50%）。
- ・ 授業への取り組みについては、卒業論文執筆作業の進捗状況も評価の判断材料とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

- ・ 先修科目：演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

テキスト

とくに設けない。

参考書

授業内で適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習III d		
教員名	田中 一嘉		
科目ナンバー	1151431107	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
この演習では、比較文化研究をキーワードに、さまざまな地域社会の歴史・伝統を踏まえた上で、現代的な意義を探っていくことを目的とする。 ゼミ参加者は自分自身の問題意識を明確にすること、そして自分以外のメンバーの多様な問題意識に積極的にコミットしていくことが求められる。 発表に際しては、自身のテーマの詳細な説明ができることが前提となるが、そのためには必要な資料を十分に集められているか、そしてそれらをきちんと読み込んでいるかが重要となる。そして、発表の際のディスカッションを通して、問題解決の糸口と方策を練り上げていくことになる。			
到達目標			
研究対象について正確かつ詳細な情報を修得する。 分析的な視点から研究対象を眺め、自分なりの問題意識を見つける。 問題解決のために必要な方法・手順を考察する力を身に付ける。 上記手順に従って研究対象を分析・批評することによって、自分なりの結論を導き出す。 以上のことを学術的文章として表現する力を身に付ける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 各自の研究テーマの確認 (ゼミ内での研究テーマの共有) 各自、読むべき文献などの選定		
	【予習】シラバスをよく読んで演習の進め方を理解しておく。		60分
第2回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション		
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。		60分
第3回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション		
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。		60分

第4回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第5回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第6回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第7回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第8回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第9回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分

第10回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第11回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第12回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第13回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第14回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第15回	総括	
	【復習】これまでの成果を卒論に反映させていく。	60分

授業の方法

ゼミ生の研究発表が中心となる。ゼミの人数によって変動はあるが、発表の目安は20分程度。その後、参加者全員でディスカッションをする。ディスカッションの時間は40～50分程度。本演習はディスカッションに重きを置いているので、初回時に共有した各自のテーマについて、発表者のプレゼンに対して発言できることが求められる。

成績評価の方法

プレゼンテーション（30%）、ディスカッションへの積極的な参加（70%）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

自分の研究対象に関する基礎知識および参考文献がどの程度あるかといった情報は最低条件として有してなければならない。

テキスト

特になし

参考書

ゼミ中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業後およびメールにて受け付ける。

科目名	演習Ⅳ d		
教員名	田中 一嘉		
科目ナンバー	1151431108	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
この演習では、比較文化研究をキーワードに、さまざまな地域社会の歴史・伝統を踏まえた上で、現代的な意義を探っていくことを目的とする。 ゼミ参加者は自分自身の問題意識を明確にすること、そして自分以外のメンバーの多様な問題意識に積極的にコミットしていくことが求められる。 発表に際しては、自身のテーマの詳細な説明ができることが前提となるが、そのためには必要な資料を十分に集められているか、そしてそれらをきちんと読み込んでいるかが重要となる。そして、発表の際のディスカッションを通して、問題解決の糸口と方策を練り上げていくことになる。			
到達目標			
研究対象について正確かつ詳細な情報を修得する。 分析的な視点から研究対象を眺め、自分なりの問題意識を見つける。 問題解決のために必要な方法・手順を考察する力を身に付ける。 上記手順に従って研究対象を分析・批評することによって、自分なりの結論を導き出す。 以上のことを学術的文章として表現する力を身に付ける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 各自の研究テーマの確認 (ゼミ内での研究テーマの共有) 各自、読むべき文献などの選定		
	【予習】シラバスをよく読んで演習の進め方を理解しておく。		60分
第2回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション		
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。		60分
第3回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション		
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。		60分

第4回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第5回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第6回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第7回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第8回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第9回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分

第10回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第11回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第12回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第13回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第14回	課題発表 各自のテーマについての発表とディスカッション	
	【予習】発表者はプレゼン資料を作成。またゼミの進捗状況に合わせて、卒論本文の執筆を進める。 【復習】ディスカッション時の意見を踏まえ、卒論に反映させていく。	60分
第15回	総括	
	【復習】これまでの成果を卒論に反映させていく。	60分

授業の方法

ゼミ生の研究発表が中心となる。ゼミの人数によって変動はあるが、発表の目安は20分程度。その後、参加者全員でディスカッションをする。ディスカッションの時間は40～50分程度。本演習はディスカッションに重きを置いているので、初回時に共有した各自のテーマについて、発表者のプレゼンに対して発言できることが求められる。

成績評価の方法

プレゼンテーション（30%）、ディスカッションへの積極的な参加（70%）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

自分の研究対象に関する基礎知識および参考文献がどの程度あるかといった情報は最低条件として有してなければならない。

テキスト

特になし

参考書

ゼミ中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業後およびメールにて受け付ける。

科目名	演習III e		
教員名	竹内 敬子		
科目ナンバー	1151431107	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
現代を相対化するという、歴史学が果たしうる一つの役割を、イギリス史を多面的に研究しながら学びます。並行して、卒業論文執筆に向け、卒論中間報告も取り入れます。卒論執筆のための「研究の方法」も引き続き行います。			
到達目標			
DP6(文化現象の総合的理解)、DP7(問題発見能力および多面的な分析能力)、DP8(他者を理解する能力および自己を他者に伝達する能力)を実現するため、次の6点を到達目標とする。 ①イギリスの歴史と文化に関する知識を身につける。 ②歴史的な物の見方が出来るようになる。 ③研究の方法を身につける。 ④研究の方法を実践し、自分の研究をまとめ、口頭および文章で表現出来るようになる。 ⑤参加者相互で建設的な議論を構築出来るようになる。 ⑥卒業論文に研究の成果を結実させる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション：前期の授業計画についての説明。 各自の卒論研究計画の発表。 (授業開始に先立ち3年生と合同で4月3日に卒論中間報告会を実施します。4年生は出席すること) 春休みの宿題(ブレ卒論10000字)の最終チェックを行う。 卒論の研究計画を作成する。 学期末提出予定の詳細なアウトラインの作成準備を進める。 昼休みを利用して春休みの宿題に基づく面接を行うので、面接の順番にあたっている人は、その準備も行うこと。		
第2回	『暮らしのイギリス史』を読み議論する。 卒論中間発表 研究の方法1：論文とは？ テキストを読む。 報告者はレジュメ作成。 卒論中間発表の報告者はレジュメ作成。 学期末提出予定の詳細なアウトラインの作成準備を進める。 昼休みを利用して春休みの宿題に基づく面接を行うので、面接の順番にあたっている人は、その準備も行うこと。		
第3回	『暮らしのイギリス史』を読み議論する。 卒論中間発表。 研究の方法2：研究計画 テキストを読む。 報告者はレジュメ作成。 卒論中間発表の報告者はレジュメ作成。 学期末提出予定の詳細なアウトラインの作成準備を進める。 昼休みを利用して春休みの宿題に基づく面接を行うので、面接の順番にあたっている人は、その準備も行うこと。		
第4回	『暮らしのイギリス史』を読み議論する。 卒論中間発表。 研究の方法3：情報の収集。		

	テキストを読む。 報告者はレジュメ作成。 卒論中間発表の報告者はレジュメ作成。 学期末提出予定の詳細なアウトラインの作成準備を進める。 昼休みを利用して春休みの宿題に基づく面接を行うので、面接の順番にあたっている人は、その準備も行うこと。	報告者は180。それ以外のものは120。
第5回	『暮らしのイギリス史』を読み議論する。 卒論中間発表 研究の方法4:情報の整理	
	テキストを読む。 報告者はレジュメ作成。 卒論中間発表の報告者はレジュメ作成。 学期末提出予定の詳細なアウトラインの作成準備を進める。 昼休みを利用して春休みの宿題に基づく面接を行うので、面接の順番にあたっている人は、その準備も行うこと。	報告者は180。それ以外のものは120。
第6回	『暮らしのイギリス史』を読み議論する。 卒論中間発表 研究の方法5: 学術論文の構造（テキストを利用）	
	テキストを読む。 報告者はレジュメ作成。 卒論中間発表の報告者はレジュメ作成。 学期末提出予定の詳細なアウトラインの作成準備を進める。 昼休みを利用して春休みの宿題に基づく面接を行うので、面接の順番にあたっている人は、その準備も行うこと。	報告者は180。それ以外のものは120。
第7回	『暮らしのイギリス史』を読み議論する。 卒論中間発表 研究の方法6: 学術論文の構造（テキストを利用）（続き）	
	テキストを読む。 報告者はレジュメ作成。 卒論中間発表の報告者はレジュメ作成。 学期末提出予定の詳細なアウトラインの作成準備を進める。 昼休みを利用して春休みの宿題に基づく面接を行うので、面接の順番にあたっている人は、その準備も行うこと。	報告者は180。それ以外のものは120。
第8回	『暮らしのイギリス史』を読み議論する。 卒論中間発表 研究の方法7: 学術論文の構造（テキストを利用）（続き）	
	テキストを読む。 報告者はレジュメ作成。 卒論中間発表の報告者はレジュメ作成。 学期末提出予定の詳細なアウトラインの作成準備を進める。 昼休みを利用して春休みの宿題に基づく面接を行うので、面接の順番にあたっている人は、その準備も行うこと。	報告者は180。それ以外のものは120。

第9回	『暮らしのイギリス史』を読み議論する。 卒論中間発表 研究の方法8：学術論文の構造（テキストを利用）（続き）	
	テキストを読む。 報告者はレジュメ作成。 卒論中間発表の報告者はレジュメ作成。 学期末提出予定の詳細なアウトラインの作成準備を進める。 昼休みを利用して春休みの宿題に基づく面接を行うので、面接の順番にあたっている人は、その準備も行うこと。	報告者は180。それ以外のものは120。
第10回	『暮らしのイギリス史』を読み議論する。 卒論中間発表。 研究の方法9：情報の組み立て	
	報告者はレジュメ作成。 卒論中間発表の報告者はレジュメ作成。 学期末提出予定の詳細なアウトラインの作成準備を進める。 昼休みを利用して春休みの宿題に基づく面接を行うので、面接の順番にあたっている人は、その準備も行うこと。	報告者は180。それ以外のものは120
第11回	『暮らしのイギリス史』を読み議論する。 卒論中間発表。 研究の方法10：情報の組み立て（続き）	
	報告者はレジュメ作成。 卒論中間発表の報告者はレジュメ作成。 学期末提出予定の詳細なアウトラインの作成準備を進める。 昼休みを利用して春休みの宿題に基づく面接を行うので、面接の順番にあたっている人は、その準備も行うこと。	報告者は180。それ以外のものは120
第12回	『暮らしのイギリス史』を読み議論する。 卒論中間発表。 研究の方法11：執筆上の注意	
	報告者はレジュメ作成。 卒論中間発表の報告者はレジュメ作成。 学期末提出予定の詳細なアウトラインの作成準備を進める。 昼休みを利用して春休みの宿題に基づく面接を行うので、面接の順番にあたっている人は、その準備も行うこと。	報告者は180。それ以外のものは120
第13回	『暮らしのイギリス史』を読み議論する。 卒論中間発表。 研究の方法12：執筆上の注意	

	報告者はレジュメ作成。 卒論中間発表の報告者はレジュメ作成。 学期末提出予定の詳細なアウトラインの作成準備を進める。 昼休みを利用して春休みの宿題に基づく面接を行うので、面接の順番にあたっている人は、その準備も行うこと。	報告者は180。それ以外のものは120
第14回	『暮らしのイギリス史』を読み議論する。 卒論中間発表。 研究の方法13：注の付け方	
	報告者はレジュメ作成。 卒論中間発表の報告者はレジュメ作成。 学期末提出予定の詳細なアウトラインの作成準備を進める。 昼休みを利用して春休みの宿題に基づく面接を行うので、面接の順番にあたっている人は、その準備も行うこと。	報告者は180。それ以外のものは120
第15回	まとめ：前期のふりかえり 各自の今後の研究計画の発表。	
	夏休み以降の研究計画作成。	60
授業の方法		
①報告者がテキストの担当部分について報告し、その報告に基づき議論する。 ②報告者は卒論中間報告をする。 ③「研究の方法」については、講義と参加型アクティビティの組み合わせ。 ④適宜、映像資料も利用する。		
成績評価の方法		
①報告を担当した時のレジュメ、口頭報告の内容（30%）、②適宜課す、レポート課題（40%）。③授業中の発言、積極的参加の態度、授業中の「研究の方法」に関するアクティビティ（30%）を目安に総合的に判断する。		
成績評価の基準		
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
「イギリスの歴史と文化AB」「イギリス文化・文化史特講AB」などの履修が望ましい。		
テキスト		
ルーシー・ワースリー『暮らしのイギリス史』（NTT出版）		
参考書		
授業中に適宜指示する。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
ポータルサイトで周知する。		

科目名	演習Ⅳ e		
教員名	竹内 敬子		
科目ナンバー	1151431108	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
現代を相対化するという、歴史学が果たしうる一つの役割を、イギリス史を多面的に研究しながら学びます。並行して、卒業論文執筆に向け、卒論中間報告も取り入れます。卒論執筆のための「研究の方法」も引き続き行います。			
到達目標			
DP6(文化現象の総合理解)、DP7(問題発見能力および多面的な分析能力)、DP8(他者を理解する能力および自己を他者に伝達する能力)を実現するため、次の6点を到達目標とする。 ①イギリスの歴史と文化に関する知識を身につける。 ②歴史的な物の見方が出来るようになる。 ③研究の方法を身につける。 ④研究の方法を実践し、自分の研究をまとめ、口頭および文章で表現出来るようになる。 ⑤参加者相互で建設的な議論を構築出来るようになる。 ⑥卒業論文に研究の成果を結実させる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	後期の卒論執筆の研究計画を立てる		60
第2回	卒論中間報告。 研究の方法：前回までに提出された原稿に基づき、卒論執筆上の注意、助言を与えます。 (並行して授業外で提出された原稿に基づき、個人面談を行います)		
	卒論の執筆を進め、卒論作成上の質問をリストアップしてくる。 卒論草稿に基づく面接(昼休みなど利用)にあたっている学生はその準備もすること。		120
第3回	卒論中間報告。 研究の方法：前回までに提出された原稿に基づき、卒論執筆上の注意、助言を与えます。 (並行して授業外で提出された原稿に基づき、個人面談を行います)		
	卒論の執筆を進め、卒論作成上の質問をリストアップしてくる。 卒論草稿に基づく面接(昼休みなど利用)にあたっている学生はその準備もすること。		120

第4回	卒論中間報告。 研究の方法：前回までに提出された原稿に基づき、卒論執筆上の注意、助言を与えます。 （並行して授業外で提出された原稿に基づき、個人面談を行います）	
	卒論の執筆を進め、卒論作成上の質問をリストアップしてくる。 卒論草稿に基づく面接（昼休みなど利用）にあたっている学生はその準備もすること。	120
第5回	卒論中間報告。 研究の方法：前回までに提出された原稿に基づき、卒論執筆上の注意、助言を与えます。 （並行して授業外で提出された原稿に基づき、個人面談を行います）	
	卒論作成上の質問をリストアップしてくる。 卒論草稿に基づく面接（昼休みなど利用）にあたっている学生はその準備もすること。	120
第6回	卒論中間報告。 研究の方法：前回までに提出された原稿に基づき、卒論執筆上の注意、助言を与えます。 （並行して授業外で提出された原稿に基づき、個人面談を行います）	
	卒論の執筆を進め、卒論作成上の質問をリストアップしてくる。 卒論草稿に基づく面接（昼休みなど利用）にあたっている学生はその準備もすること。	120
第7回	卒論中間報告。 研究の方法：前回までに提出された原稿に基づき、卒論執筆上の注意、助言を与えます。 （並行して授業外で提出された原稿に基づき、個人面談を行います）	
	卒論の執筆を進め、卒論作成上の質問をリストアップしてくる。 卒論草稿に基づく面接（昼休みなど利用）にあたっている学生はその準備もすること。	120
第8回	卒論中間報告。 研究の方法：前回までに提出された原稿に基づき、卒論執筆上の注意、助言を与えます。 （並行して授業外で提出された原稿に基づき、個人面談を行います）	
	卒論の執筆を進め、卒論作成上の質問をリストアップしてくる。 卒論草稿に基づく面接（昼休みなど利用）にあたっている学生はその準備もすること。	120
第9回	卒論中間報告。 研究の方法：前回までに提出された原稿に基づき、卒論執筆上の注意、助言を与えます。 （並行して授業外で提出された原稿に基づき、個人面談を行います）	
	卒論の執筆を進め、卒論作成上の質問をリストアップしてくる。 卒論草稿に基づく面接（昼休みなど利用）にあたっている学生はその準備もすること。	120

第10回	卒論中間報告。 研究の方法：前回までに提出された原稿に基づき、卒論執筆上の注意、助言を与えます。 （並行して授業外で提出された原稿に基づき、個人面談を行います）	
	卒論の執筆を進め、卒論作成上の質問をリストアップしてくる。 卒論草稿に基づく面接（昼休みなど利用）にあたっている学生はその準備もすること。	180
第11回	卒論中間報告。 研究の方法：前回までに提出された原稿に基づき、卒論執筆上の注意、助言を与えます。 （並行して授業外で提出された原稿に基づき、個人面談を行います）	
	卒論の執筆を進め、卒論作成上の質問をリストアップしてくる。 卒論草稿に基づく面接（昼休みなど利用）にあたっている学生はその準備もすること。	120
第12回	卒論中間報告。 研究の方法：前回までに提出された原稿に基づき、卒論執筆上の注意、助言を与えます。 （並行して授業外で提出された原稿に基づき、個人面談を行います）	
	卒論の執筆を進め、卒論作成上の質問をリストアップしてくる。 卒論草稿に基づく面接（昼休みなど利用）にあたっている学生はその準備もすること。	120
第13回	卒論発表会	
	発表の準備	120
第14回	卒論発表会	
	発表の準備	120
第15回	まとめ	
	卒論執筆のふりかえり	60

授業の方法

- ①報告者は卒論の中間報告をし、それに基づき議論をする。
- ②卒論執筆上の質問に答える。
- ③提出された原稿に基づき、卒論執筆上の注意や助言を与える。
- ④授業外で提出された原稿に基づき、面接を行う。

成績評価の方法

- ①報告を担当した時のレジュメ、口頭報告の内容（35%）、②授業中の発言、積極的参加の態度（35%）、③卒論草稿の提出の頻度や内容（30%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「イギリスの歴史と文化AB」「イギリス文化・文化史特講AB」などの履修が望ましい。

テキスト

参考書

授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習III f		
教員名	中野 由美子		
科目ナンバー	1151431107	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
この演習では、各自の卒業論文の完成という目標を達成するために、主に以下の二つの作業を行う。 ・先行研究と基本概念・理論の確認：アメリカ合衆国の社会・文化史あるいは日米関係に関する主要なテーマ、あるいは各自の卒業論文に即したテーマをいくつか取り上げ、基本文献や先行研究の動向を確認すると同時に、基本的な概念・理論について共通の文献を精読することによって理解を深める。必要に応じて、複数の同一テーマについて書かれた一次史料を比較・対比しながら読み解く作業も行う。これらの作業を通じて、卒論執筆時に活用しうる一次史料・二次文献の多様性と特徴を把握しながら、重層的・多角的な分析方法を習得することを目指す。 ・論文執筆計画と研究報告：卒業論文の執筆のために必ず必要なスキルを確認する。具体的には、文献の検索方法、研究計画書の書き方とスケジュール作成、テーマ設定などについて、3年次に作成したプランを加筆修正していく。また、注や文献リストについても、その作成方法などの基本的なルールについて確認する。			
到達目標			
DP2（問題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 ① 的確に情報を収集、分析することができる。 ② 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 ③ アメリカ社会史・文化史に関する基礎的知識を修得し、それに基づく論文を書くことができる。 ④ 形式的なルールや課題内容を理解し、説得力ある文章、論理的な文章を書くことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション - 演習の目的と課題について ・演習の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・グループ分けを行う。		
	【予習・復習】 シラバスをよく読んで、演習の進め方を理解しておく。	60	
第2回	4年次に提出する卒論について - 課題の内容 ・卒業論文で課されている形式的、内容的な課題について、理解する。		
	【予習・復習】 卒業論文の執筆要綱（詳しくは、演習時に説明する）を、事前によく読んでおくこと。	60	
第3回	卒論のテーマ紹介 ・自分の関心あるテーマについて、グループでディスカッションを行う。		
	【予習・復習】 演習時に、事前に配布した資料をよく読んでおくこと。	60	

第4回	プレゼンテーション 1 ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第5回	プレゼンテーション 2 ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第6回	プレゼンテーション 3 ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第7回	グループワーク - テーマ設定・章立てのための作業 ・グループに分かれて、各自の卒論のテーマや構成に関するブレインストーミングと質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第8回	プレゼンテーション 4 ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第9回	プレゼンテーション 5 ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60

第10回	プレゼンテーション 6 ・ 指定テキストの内容について、把握する。 ・ 事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第11回	グループワーク - 論理的な文章とは？文章作成のコツ ・ グループに分かれて、文書を作成し、互いに講評する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第12回	プレゼンテーション 7 ・ 指定テキストの内容について、把握する。 ・ 事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第13回	グループワーク 各自の卒論のテーマと構成について、グループに分かれてお互いに講評しあう。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第14回	グループワーク 各自の卒論のテーマと構成について、グループに分かれてお互いに講評しあう。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第15回	全体のまとめ ・ プレゼンテーション全般を振り返り、改善点について学修する。	
	【予習】 プレゼンテーション全般のレビューを各自しておく。	60

授業の方法

大きく分けて以下の二つの作業を行なう。

- ・テキストの精読とディスカッション： 各自の卒論のテーマに関連する一次史料・二次史料の精読を行う。分からないところがあってもかまわないが、まずは自力で事前に読んでおくことが求められる。
- ・論文執筆計画と研究報告： 最初に、アメリカ合衆国の社会史・文化史の事例に即して、基本文献や主なアプローチ方法などを確認する。次に、各自の研究テーマについて、テーマ設定の仕方、学術論文の基本的なルール、研究計画書の書き方（＝3年次の末に提出済みのものを加筆修正していく）、口頭での研究発表の仕方などのトレーニングを行なう。
- ・卒業論文で求められている形式的な審査基準を確認する。そのうえで、より論理的で一貫性のある論文にするためのスキルをテキストに基づき習得し、実際の執筆に生かす。

成績評価の方法

ディスカッションへの参加と貢献（50%）、口頭発表（20%）、書評や研究計画書を含むレポート（30%）による総合評価。ほぼ毎回、全員にごく簡単な課題（たとえば翌週扱う予定の史料の読解やそれに関する質問など）を課す。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

アメリカ合衆国のみならず、自国や諸外国の歴史・文化に関連する講義を積極的に受講することが望ましい。なおこの演習では英語の文献も扱うので、日々英語の勉強を欠かさないこと。

テキスト

開講時に、受講者と相談のうえ決定する。なおこの演習では、適宜、配布資料の形で英語の文献も使用する。

参考書

<参考書>

以下の文献のほか、必要に応じて適宜紹介する。

- ・堀内一史『アメリカと宗教 保守化と政治化のゆくえ』中公新書、2010年。
- ・笹田直人・堀真理子・外岡尚美編『概説 アメリカ文化史』ミネルヴァ書房、2002年。
- ・和田光弘編『大学で学ぶアメリカ史』ミネルヴァ書房、2014年。

<卒論、レジュメ、レポートで使用するフォーマット等について>

卒論執筆時に使用するフォーマットは、アメリカ史・アメリカ研究で一般的に用いられているシカゴ方式に準拠すること。その他、下記の文献も適宜参照のこと。

- ・白井利明・高橋一郎『よくわかる 卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房、2014年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習Ⅳ f		
教員名	中野 由美子		
科目ナンバー	1151431108	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
この演習では、各自の卒業論文の完成という目標を達成するために、主に以下の二つの作業を行う。 ・先行研究と基本概念・理論の確認：アメリカ合衆国の社会・文化史あるいは日米関係に関する主要なテーマ、あるいは各自の卒業論文に即したテーマをいくつか取り上げ、基本文献や先行研究の動向を確認すると同時に、基本概念・理論の基礎について共通の文献を精読することによって理解を深める。必要に応じて、複数の同一テーマについて書かれた一次史料を比較・対比しながら読み解く作業も行う。これらの作業を通じて、卒論執筆時に活用しうる一次史料・二次文献の多様性と特徴を把握しながら、重層的・多角的な分析方法を身に着けることを目指す。 ・論文執筆計画と研究報告：卒業論文の執筆のために必ず必要なスキルを確認する。具体的には、文献の検索方法、研究計画書の書き方とスケジュール作成、テーマ設定などについて、3年次に作成したプランを加筆修正していく。また、注や文献リストについても、その作成方法などの基本的なルールについて理解を深める。			
到達目標			
DP2（問題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 ① 的確に情報を収集、分析することができる。 ② 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 ③ アメリカ社会・文化史に関する基礎的知識を修得し、それに基づく論文を書くことができる。 ④ 形式的なルールや課題内容を理解し、説得力ある文章、論理的な文章を書くことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	オリエンテーション - 演習の目的と課題について ・演習の内容、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・グループ分けを行う。		
	【予習・復習】 シラバスをよく読んで、演習の進め方を理解しておく。	60	
第2回	4年次に提出する卒論について - 課題の内容 ・卒業論文で課されている形式的、内容的な課題について、理解する。		
	【予習・復習】 卒業論文の執筆要綱（詳しくは、演習時に説明する）を、事前によく読んでおくこと。	60	
第3回	卒論のテーマ紹介 ・自分の関心あるテーマについて、グループでディスカッションを行う。		
	【予習・復習】 演習時に、事前に配布した資料をよく読んでおくこと。	60	

第4回	プレゼンテーション 1 ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第5回	プレゼンテーション 2 ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第6回	プレゼンテーション 3 ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第7回	グループワーク - テーマ設定・章立てのための作業 ・グループに分かれて、各自の卒論のテーマや構成に関するブレインストーミングと質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第8回	プレゼンテーション 4 ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第9回	プレゼンテーション 5 ・指定テキストの内容について、把握する。 ・事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60

第10回	プレゼンテーション 6 ・ 指定テキストの内容について、把握する。 ・ 事前に決めた担当者によるプレゼンテーションと、質疑応答を行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第11回	グループワーク - 論理的な文章とは？文章作成のコツ ・ グループに分かれて、文書を作成し、互いに講評する。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第12回	グループワーク 各自の卒論について、形式的なチェックを相互に行う。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第13回	グループワーク 各自の卒論のテーマと構成について、グループに分かれてお互いに講評しあう。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第14回	グループワーク 各自の卒論のテーマと構成について、グループに分かれてお互いに講評しあう。	
	【予習・復習】 テキストの指定された箇所を、よく読んでおくこと。	60
第15回	全体のまとめ ・ プレゼンテーション全般を振り返り、改善点について学修する。	
	【予習】 プレゼンテーション全般のレビューを各自しておく。	60

授業の方法

大きく分けて以下の二つの作業を行なう。

- ・テキストの精読とディスカッション： 各自の卒論のテーマになるべく関連する一次史料・二次史料の精読を行う。分からないところがあってもかまわないが、まずは自力で事前に読んでおくことが求められる。
- ・論文執筆計画と研究報告： 最初に、アメリカ合衆国の社会史・文化史の事例に即して、基本文献や主なアプローチ方法などを確認する。次に、各自の研究テーマについて、テーマ設定の仕方、学術論文の基本的なルール、研究計画書の書き方（＝3年次の末に提出済みのものを加筆修正していく）、口頭での研究発表の仕方などのトレーニングを行なう。
- ・卒業論文で求められている形式的な審査基準を確認する。そのうえで、より論理的で一貫性のある論文にするために、各自で何ができるのかを具体的に考え、実際の執筆に生かす。

成績評価の方法

ディスカッションへの参加と貢献（50%）、口頭発表（20%）、書評や研究計画書を含むレポート（30%）による総合評価。ほぼ毎回、全員にごく簡単な課題（たとえば翌週扱う予定の史料の読解やそれに関する質問など）を課す。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

アメリカ合衆国のみならず、自国や諸外国の歴史・文化に関連する講義を積極的に受講することが望ましい。なおこの演習では英語の文献も扱うので、日々英語の勉強を欠かさないこと。

テキスト

開講時に、受講者と相談のうえ決定する。また、適宜、配布資料の形で英語の文献も使用する。

参考書

<参考書>

以下の文献のほか、必要に応じて適宜紹介する。

- ・堀内一史『アメリカと宗教 保守化と政治化のゆくえ』中公新書、2010年。
- ・笹田直人・堀真理子・外岡尚美編『概説 アメリカ文化史』ミネルヴァ書房、2002年。
- ・和田光弘編『大学で学ぶアメリカ史』ミネルヴァ書房、2014年。

<卒論、レジュメ、レポートで使用するフォーマット等について>

卒論執筆時に使用するフォーマットは、アメリカ史・アメリカ研究で一般的に用いられているシカゴ方式に準拠すること。その他、下記の文献も適宜参照のこと。

- ・白井利明・高橋一郎『よくわかる 卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房、2014年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習III g		
教員名	墓田 桂		
科目ナンバー	1151431107	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
今日、世界の陸地のほぼ全域が190あまりの主権国家によって埋め尽くされている。好むと好まざると、我々は国家の中で、国家と結びついて生きている。しかし、「人工的な人間」（ホッブス）である国家は決して安泰な存在ではない。既存の国家や秩序に対する異議申し立てが世界各地で起きているのが現状である。世界レベルでの国家間のパワーバランスの変化に加え、各地での民族や宗派、歴史のうねりは、世界情勢を今後も流動的なものとするだろう。 そうした中、いかにして紛争の予防と解決を図り、世界の、そして日本の平和と安全を実現するのか。一言で「平和」と言っても、それを実現する手法や主体（アクター）、その概念は多様である。 このゼミでは、世界の厳しい現実を見据え、紛争や政治的緊張の原因（領土問題を含む）、脅威の多様性（エボラ出血熱のような非伝統的な安全保障の脅威を含む）、それらの解決や軽減に向けた多様な取り組みとその限界、さらには紛争被害を軽減するための人道援助などについて多面的に学んでいく。「地球市民」が語られる中、国家を考察の中心に据え、リアリズムをもって世界と日本の今後を考えたい。			
到達目標			
DP1（総合的思考力）、DP2（課題の発見と解決）、DP5（表現力、発信力）、DP6（専門分野の知識・理解）、DP7（多面的な分析能力）を実現するため、下記を到達目標とする。 ・世界を巨視的に眺めながら、国際政治を論じることができる。 ・日本を客観視できる。 ・世界と日本が直面する課題を自ら発見できる。 ・自分の意見を積極的に述べることができる。 ・読解しやすく、説得力のある文章が書ける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	（おおよそ下記の授業計画に従って授業を進める。変更する場合もある。） ガイダンス		
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90	
第2回	映像資料の視聴		
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90	
第3回	発表①		
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90	

第4回	発表②	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第5回	英文読解	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第6回	発表③	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第7回	発表④	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第8回	英文読解	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第9回	発表⑤	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90

第10回	発表⑥	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第11回	映像資料の視聴	
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第12回	映像資料の視聴	
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第13回	英文読解	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第14回	英文読解	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第15回	まとめ	
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90

授業の方法

- ゼミ発表：ゼミで扱うテーマについて、持ち回りで発表する。それについて討論者が意見を述べ、皆で議論する。
- 英文読解：事前に渡された英文を日本語に訳し、ゼミで発表する（背景についても調べておく）。
- その他、詳細は授業で説明する。

ただし、4年次は就職活動を行なう学生が大半なので、授業計画は臨機応変に対応する。また、適宜、卒業論文の指導を行う。

成績評価の方法

発表（20%）、討論（20%）、平常点（20%）、卒業論文の執筆につながるレポート（40%）を組み合わせた総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

国際系の科目

テキスト

特になし

参考書

- ・ 中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』（有斐閣、2013年）
- ・ 防衛大学校安全保障学研究会『安全保障学入門 新訂第4版』（亜紀書房、2009年）

その他、授業中に指示ないしは推奨する。また新聞・雑誌（英文、和文）などから時々トピックを取り上げる予定。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習Ⅳ g		
教員名	墓田 桂		
科目ナンバー	1151431108	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
今日、世界の陸地のほぼ全域が190あまりの主権国家によって埋め尽くされている。好むと好まざると、我々は国家の中で、国家と結びついて生きている。しかし、「人工的な人間」（ホッブス）である国家は決して安泰な存在ではない。既存の国家や秩序に対する異議申し立てが世界各地で起きているのが現状である。世界レベルでの国家間のパワーバランスの変化に加え、各地での民族や宗派、歴史のうねりは、世界情勢を今後も流動的なものとするだろう。 そうした中、いかにして紛争の予防と解決を図り、世界の、そして日本の平和と安全を実現するのか。一言で「平和」と言っても、それを実現する手法や主体（アクター）、その概念は多様である。 このゼミでは、世界の厳しい現実を見据え、紛争や政治的緊張の原因（領土問題を含む）、脅威の多様性（エボラ出血熱のような非伝統的な安全保障の脅威を含む）、それらの解決や軽減に向けた多様な取り組みとその限界、さらには紛争被害を軽減するための人道援助などについて多面的に学んでいく。「地球市民」が語られる中、国家を考察の中心に据え、リアリズムをもって世界と日本の今後を考えたい。			
到達目標			
DP1（総合的思考力）、DP2（課題の発見と解決）、DP5（表現力、発信力）、DP6（専門分野の知識・理解）、DP7（多面的な分析能力）を実現するため、下記を到達目標とする。 ・世界を巨視的に眺めながら、国際政治を論じることができる。 ・日本を客観視できる。 ・世界と日本が直面する課題を自ら発見できる。 ・自分の意見を積極的に述べることができる。 ・読解しやすく、説得力のある文章が書ける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	（おおよそ下記の授業計画に従って授業を進める。変更する場合もある。） ガイダンス ゼミのテーマに関連する事項を予習する。		
		90	
第2回	映像資料の視聴 ゼミのテーマに関連する事項を予習する。		
		90	
第3回	映像資料の視聴 ゼミのテーマに関連する事項を予習する。		
		90	

第4回	発表①	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第5回	発表②	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第6回	英文読解	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第7回	発表③	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第8回	発表④	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第9回	映像資料の視聴	
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90

第10回	発表⑤	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第11回	発表⑥	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第12回	英文読解	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第13回	英文読解	
	課題を準備する。ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第14回	映像資料の視聴	
	ゼミのテーマに関連する事項を予習する。	90
第15回	まとめ	
	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	90

授業の方法

- ゼミ発表：ゼミで扱うテーマについて持ち回りで発表する。それについて討論者が意見を述べ、皆で議論する。
- 英文読解：事前に渡された英文を日本語に訳し、ゼミで発表する（背景についても調べておく）。
- その他、詳細は授業で説明する。

ただし、4年次は就職活動を行なう学生が大半なので、授業計画は臨機応変に対応する。また、適宜、卒業論文の指導を行う。

成績評価の方法

発表（20%）、討論（20%）、平常点（20%）、卒業論文の執筆につながるレポート（40%）を組み合わせた総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「平和学」、「平和学特講」など

テキスト

特になし

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習III h		
教員名	細谷 広美		
科目ナンバー	1151431107	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
文化人類学のゼミです。卒業論文執筆に向け、自らテーマを見だし、文献研究、フィールドワーク等を実施し、データを集め、分析、考察し、論理的文章を書くことを目指します。			
到達目標			
(DP7) <問題発見能力及び多面的な分析能力>を身につけることを到達目標とします。 自分で課題を見だし、調査研究をし分析をする力、論理的に思考しそれを文章にする力を養います。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	卒業論文執筆の進捗状況について報告する。		
	卒業論文執筆に向けて文献調査、フィールドワークを実施する。	60	
第2回	卒論の構想について、目的、章立て、内容、文献目録を中心にゼミ生が順番に発表し、全員で質疑応答、ディスカッションをする。		
	卒業論文執筆に向けて文献調査、フィールドワークを実施する。	60	
第3回	卒論の構想について、目的、章立て、内容、文献目録を中心にゼミ生が順番に発表し、全員で質疑応答、ディスカッションをする。		
	卒業論文執筆に向けて文献調査、フィールドワークを実施する。	60	

第4回	卒論の構想について、目的、章立て、内容、文献目録を中心にゼミ生が順番に発表し、全員で質疑応答、ディスカッションをする。	
	卒業論文執筆に向けて文献調査、フィールドワークを実施する。	60
第5回	卒論の構想について、目的、章立て、内容、文献目録を中心にゼミ生が順番に発表し、全員で質疑応答、ディスカッションをする。卒業論文執筆に向けて文献調査、フィールドワークを実施する。仮題目提出に向けて、卒業論文の題目を決める。	
	卒業論文執筆に向けて文献調査、フィールドワークを実施する。	60
第6回	卒論の構想について、目的、章立て、内容、文献目録を中心にゼミ生が順番に発表し、全員で質疑応答、ディスカッションをする。前回の発表の結果を受け、さらにバージョンアップしたものを発表する。	
	卒業論文執筆に向けて文献調査、フィールドワークを実施する。	60
第7回	卒論の構想について、目的、章立て、内容、文献目録を中心にゼミ生が順番に発表し、全員で質疑応答、ディスカッションをする。前回の発表の結果を受け、さらにバージョンアップしたものを発表する。	
	卒業論文執筆に向けて文献調査、フィールドワークを実施する。	60
第8回	卒論の構想について、目的、章立て、内容、文献目録を中心にゼミ生が順番に発表し、全員で質疑応答、ディスカッションをする。前回の発表の結果を受け、さらにバージョンアップしたものを発表する。	
	卒業論文執筆に向けて文献調査、フィールドワークを実施する。	60
第9回	卒論の構想について、目的、章立て、内容、文献目録を中心にゼミ生が順番に発表し、全員で質疑応答、ディスカッションをする。前回の発表の結果を受け、さらにバージョンアップしたものを発表する。	
	卒業論文執筆に向けて文献調査、フィールドワークを実施する。	60

第10回	卒論の構想について、目的、章立て、内容、文献目録を中心にゼミ生が順番に発表し、全員で質疑応答、ディスカッションをする。前回の発表の結果を受け、さらにバージョンアップしたものを発表する。	
	卒業論文執筆に向けて文献調査、フィールドワークを実施する。	60
第11回	卒論の構想について、目的、章立て、内容、文献目録を中心にゼミ生が順番に発表し、全員で質疑応答、ディスカッションをする。前回の発表の結果を受け、さらにバージョンアップしたものを発表する。	
	卒業論文執筆に向けて文献調査、フィールドワークを実施する。	60
第12回	卒論の構想について、目的、章立て、内容、文献目録を中心にゼミ生が順番に発表し、全員で質疑応答、ディスカッションをする。前回の発表の結果を受け、さらにバージョンアップしたものを発表する。	
	卒業論文執筆に向けて文献調査、フィールドワークを実施する。	60
第13回	卒論の構想について、目的、章立て、内容、文献目録を中心にゼミ生が順番に発表し、全員で質疑応答、ディスカッションをする。前回の発表の結果を受け、さらにバージョンアップしたものを発表する。	
	卒業論文執筆に向けて文献調査、フィールドワークを実施する。	60
第14回	卒論の構想について、目的、章立て、内容、文献目録を中心にゼミ生が順番に発表し、全員で質疑応答、ディスカッションをする。前回の発表の結果を受け、さらにバージョンアップしたものを発表する。	
	卒業論文執筆に向けて文献調査、フィールドワークを実施する。	60
第15回	夏期休業中の卒業論文の執筆スケジュールについて確認をする。また、論文を執筆する際の技術的ルールについて確認をする。	
	卒業論文執筆に向けて文献調査、フィールドワークを実施する。	60

授業の方法

順番に発表者を決め、レジュメを作成して発表をし、それをもとにディスカッションをします。
発表者は発表の結果をもとに卒業論文執筆に向けての調査研究の再検討、さらなる文献、調査データの追加、論旨を明確にすることに務めます。

成績評価の方法

平常点。ゼミへの貢献度（発表内容、プレゼンテーションの仕方、ディスカッションへの参加など）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

自らテーマを見だし、文献調査もしくはフィールドワークを実施し、データを集め、分析、考察し、説得力のある論理的文章で他者に伝えることができる。オリジナリティが高い課題に取り組む。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

外国語文献を読むことができる語学力があると扱うことができる文献の幅が広がるので、語学力をつけておいたほうがよいです。

テキスト

特にありません。

参考書

授業中適宜指示していきます。『異文化の学び方、描き方』（世界思想社）は、論文執筆にあたって役に立つので所持して参考にして下さい。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習IV h		
教員名	細谷 広美		
科目ナンバー	1151431108	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

文化人類学を専門分野とします。
 自ら課題を見つける。
 文献及びフィールドワークを通じて調査研究をする。
 収集したデータを多角的に分析、検討、考察する。
 論理的かつ説得力のある文章を書く。
 卒業論文を完成する。

到達目標

DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を身につけるため、以下を到達目標とします。
 ・自分で問題設定をし、調査研究、分析をする力、論理的に思考し、それを文章にする力を養います。
 ・メディアリテラシーをはじめとして、文献や情報を批判的に読む力をつけます。
 ・思考力を鍛えます。
 ・現象を分析し、判断する能力を養います。
 ・グローバル化が進展する国際社会で、多様な状況に対応する力を養います。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	夏期休業中の卒業論文執筆の進捗状況についての報告	
	文献調査及びフィールドワークの実施 論文の執筆	60
第2回	執筆した卒業論文の草稿をもとに発表をし、質疑応答、ディスカッションをする。	
	文献調査及びフィールドワークの実施 論文の執筆	60
第3回	執筆した卒業論文の草稿をもとに発表をし、質疑応答、ディスカッションをする。	
	文献調査及びフィールドワークの実施 論文の執筆	60

第4回	執筆した卒業論文の草稿をもとに発表をし、質疑応答、ディスカッションをする。	
	文献調査及びフィールドワークの実施 論文の執筆	60
第5回	執筆した卒業論文の草稿をもとに発表をし、質疑応答、ディスカッションをする。	
	文献調査及びフィールドワークの実施 論文の執筆	60
第6回	卒業論文の本題目提出に向けて、卒業論文の題目の最終決定をする。	
	文献調査及びフィールドワークの実施 論文の執筆	60
第7回	執筆した卒業論文の草稿をもとに発表をし、質疑応答、ディスカッションをする。 発表者は前回の発表結果をもとに、さらに練り上げ論旨を明確にし精緻化した草稿を発表する。	
	文献調査及びフィールドワークの実施 論文の執筆	60
第8回	執筆した卒業論文の草稿をもとに発表をし、質疑応答、ディスカッションをする。 発表者は前回の発表結果をもとに、さらに練り上げ論旨を明確にし精緻化した草稿を発表する。	
	文献調査及びフィールドワークの実施 論文の執筆	60
第9回	執筆した卒業論文の草稿をもとに発表をし、質疑応答、ディスカッションをする。 発表者は前回の発表結果をもとに、さらに練り上げ論旨を明確にし精緻化した草稿を発表する。	
	文献調査及びフィールドワークの実施 論文の執筆	60

第10回	執筆した卒業論文の草稿をもとに発表をし、質疑応答、ディスカッションをする。 発表者は前回の発表結果をもとに、さらに練り上げ論旨を明確にし精緻化した草稿を発表する。	
	文献調査及びフィールドワークの実施 論文の執筆	60
第11回	卒業論文提出に向けて論文執筆の最終段階に入る。 形式、文献の引用の仕方をはじめとする論文執筆のルール、参考文献の書き方などを確認する。	
	文献調査及びフィールドワークの実施 論文の執筆	60
第12回	卒業論文提出に向けて論文執筆の最終段階に入る。 形式、文献の引用の仕方をはじめとする論文執筆のルール、参考文献の書き方などを確認する。	
	文献調査及びフィールドワークの実施 論文の執筆	60
第13回	卒業論文の口頭試問(1)	
	口頭試問に向けてのレジメの用意とディフェンスの準備	60
第14回	卒業論文の口頭試問(2)	
	口頭試問に向けてのレジメの用意とディフェンスの準備	60
第15回	卒業論文の口頭試問(3)	
	口頭試問に向けてのレジメの用意とディフェンスの準備	60

授業の方法

順番に発表者を決め、レジュメを作成して発表をし、それをもとにディスカッションをします。
発表者は発表の結果をもとに卒業論文執筆に向けての調査研究の再検討、さらなる参考文献、調査データの追加、論旨を精緻化、明確化することに務めます。

成績評価の方法

平常点。ゼミへの貢献度（発表内容、プレゼンテーションの仕方、ディスカッションへの参加など）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

自ら課題を見つけ、調査（文献、フィールドワーク）分析を行い、考察し、論理的文章を書く。
オリジナリティの高いテーマを見つける。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

外国語文献を読むことができる語学力があると、扱うことができる文献の幅が広がるので、語学力をつけておいたほうがよいです。

テキスト

特にありません。

参考書

授業中適宜指示していきます。『異文化の学び方、描き方』（世界思想社）は、論文執筆にあたって役に立つので所持して参考にして下さい。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習III i		
教員名	堀内 正樹		
科目ナンバー	1151431107	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
本演習は社会人類学ゼミである。文化、社会、民俗、音文化、中東、イスラムなどのキーワードのいずれかに関連したテーマを各自が設定し、2年間にわたって独自の研究を進める。 4年前期の本授業では、卒業論文の執筆に向けた研究の成果を順番に発表する。その発表を受けて全員で討議をし、共同で問題点を明らかにしてゆく。 2年間の本演習を通じて重視するのは、単に情報を収集・整理することだけではなく、いかに問題を発見し、いかに考え抜くかという思考力・想像力の鍛錬である。しかもそれを独断を排して他人（他の受講生）との対話を通して実現してゆくことに重きを置く。			
到達目標			
DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の5点を到達目標とする。 1. 積極的かつ建設的な議論ができる。 2. 批判能力を高める。 3. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 4. 意見を文章で表現できる。 5. 形式の整った文章を作成できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	研究の報告(1) ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。		
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。		60
第2回	研究の報告(2) ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。		
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。		60
第3回	研究の報告(3) ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。		
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。		60

第4回	研究の報告（4） ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第5回	研究の報告（5） ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第6回	研究の報告（6） ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第7回	研究の報告（7） ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第8回	中間総括 ・ これまでの授業を振り返り、不備だった点や改善点などを話し合う。	
	[復習]プレゼンテーションやディスカッションの方法を洗い直しておく。	120
第9回	研究の報告（8） ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60

第10回	研究の報告 (9) ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第11回	研究の報告 (10) ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第12回	研究の報告 (11) ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第13回	研究の報告 (12) ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第14回	研究の報告 (13) ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の発表に役立てる。	60
第15回	研究の報告 (14) ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]これまでの授業を振り返り、次年度の授業に向けて何を準備すべきかを整理しておく。	120

授業の方法

「授業の計画・内容」に記したとおりである。発表者を中心に全員でディスカッションをする。参加者は毎回1人最低1回は発言をし、発言者は自らの問題意識に即してオリジナルな意見を述べる。他人の発言に対しては問題提起的なコメントを必ず返すこと。学期末には卒業論文のドラフトを提出する。

成績評価の方法

レジュメの内容(20%)、討論態度(40%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(20%)などによる総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
以下の点に沿って、その達成度に応じて評価する。

1. 積極的かつ建設的な議論ができる。
2. 批判能力を高める。
3. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。
4. 意見を文章で表現できる。
5. 形式の整った文章を作成できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし

参考書

議論の展開に応じて、授業中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習Ⅳ i		
教員名	堀内 正樹		
科目ナンバー	1151431108	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
本演習は社会人類学ゼミである。文化、社会、民俗、音文化、中東、イスラムなどのキーワードのいずれかに関連したテーマを各自が設定し、2年間にわたって独自の研究を進める。 4年後期の本授業では、2年間の研究の集大成として、卒業論文の完成をめざす。ドラフトの発表を受けて全員で討議をし、共同で問題点を明らかにする。 本演習で重視するのは、単に情報をまとめるだけではなく、結論を導き出すプロセスをいかに説得的に提示するかである。			
到達目標			
DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）およびDP8（他者を理解する能力および自己を他者に伝達する能力）を実現するため、次の5点を到達目標とする。 1. 積極的かつ建設的な議論ができる。 2. 批判能力を高める。 3. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 4. 意見を文章で表現できる。 5. 形式の整った文章を作成できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	研究の報告 (1) ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。		
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の研究に役立てる。	60	
第2回	研究の報告 (2) ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。		
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の研究に役立てる。	60	
第3回	研究の報告 (3) ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。		
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の研究に役立てる。	60	

第4回	研究の報告（4） ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の研究に役立てる。	60
第5回	研究の報告（5） ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の研究に役立てる。	60
第6回	研究の報告（6） ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の研究に役立てる。	60
第7回	研究の報告（7） ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の研究に役立てる。	60
第8回	中間総括 ・ これまでの授業を振り返り、不備だった点や改善点などを話し合う。	
	[復習]文章執筆の方法を確認しておく。	120
第9回	研究の報告（8） ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の研究に役立てる。	60

第10回	研究の報告（9） ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の研究に役立てる。	60
第11回	研究の報告（10） ・ 毎回1人ずつ卒業論文に向けた自分の研究成果を発表する。 ・ その発表を受けて、全員で討議を行う。	
	[復習]発表者の発言を整理し、また全員による討議で提出されたポイントを押さえ、自分の研究に役立てる。	60
第12回	論文の最終確認 卒業論文の内容と形式の最終チェックを全員で行う。	
	[復習]各自の論文が完成していることを確認し、修正すべき箇所を修正しておく。	120
第13回	卒業論文の合評（1） 各自が提出した卒業論文の骨子を発表し、全員で検討する。	
	[復習]発表者の論旨を整理し、自分の論文と比較して、不足していた点や課題を明確にする。	90
第14回	卒業論文の合評（2） 各自が提出した卒業論文の骨子を発表し、全員で検討する。	
	[復習]発表者の論旨を整理し、自分の論文と比較して、不足していた点や課題を明確にする。	90
第15回	卒業論文の合評（3） 各自が提出した卒業論文の骨子を発表し、全員で検討する。	
	[復習]発表者の論旨を整理し、自分の論文と比較して、不足していた点や課題を明確にする。	90

授業の方法 「授業の計画・内容」に記したとおりである。発表者を中心に全員でディスカッションをする。参加者は毎回1人最低1回は発言をし、発言者は自らの問題意識に即してオリジナルな意見を述べる。他人の発言に対しては問題提起的なコメントを必ず返すこと。
成績評価の方法 レジュメの内容(20%)、討論態度(40%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(20%)などによる総合評価。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 以下の点に沿って、その達成度に応じて評価する。 1. 積極的かつ建設的な議論ができる。 2. 批判能力を高める。 3. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 4. 意見を文章で表現できる。 5. 形式の整った文章を作成できる。
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特になし
テキスト 特になし
参考書 議論の展開に応じて、授業中に指示する。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知する。

科目名	演習III j		
教員名	松浦 義弘		
科目ナンバー	1151431107	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

3年次の演習の内容の継続。自分の興味関心に即したテーマないしは卒論のテーマについての演習参加者の報告とそれにかんする質疑応答を中心に演習をすすめる。

到達目標

DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、自分の興味関心に即したテーマに関して一定水準以上の卒論を執筆できる力をつけることを目標とする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	卒業論文のテーマに関する話し合い	
	卒論テーマを考える。	60
第2回	卒業論文のテーマに関する話し合い	
	卒論テーマを考える。	60
第3回	卒論テーマに関する演習参加者の報告と質疑応答	
	報告者の報告をもとに自分の卒論の方向性を考える。	60

第4回	卒論テーマに関する演習参加者の報告と質疑応答	
	報告者の報告をもとに自分の卒論の方向性を考える。	60
第5回	卒論テーマに関する演習参加者の報告と質疑応答	
	報告者の報告をもとに自分の卒論の方向性を考える。	60
第6回	卒論テーマに関する演習参加者の報告と質疑応答	
	報告者の報告をもとに自分の卒論の方向性を考える。	60
第7回	卒論テーマに関する演習参加者の報告と質疑応答	
	報告者の報告をもとに自分の卒論の方向性を考える。	60
第8回	卒論テーマに関する演習参加者の報告と質疑応答	
	報告者の報告をもとに自分の卒論の方向性を考える。	60
第9回	卒論テーマに関する演習参加者の報告と質疑応答	
	報告者の報告をもとに自分の卒論の方向性を考える。	60

第10回	卒論テーマに関する演習参加者の報告と質疑応答	
	報告者の報告をもとに自分の卒論の方向性を考える。	60
第11回	卒論テーマに関する演習参加者の報告と質疑応答	
	報告者の報告をもとに自分の卒論の方向性を考える。	60
第12回	卒論テーマに関する演習参加者の報告と質疑応答	
	報告者の報告をもとに自分の卒論の方向性を考える。	60
第13回	卒論テーマに関する演習参加者の報告と質疑応答	
	報告者の報告をもとに自分の卒論の方向性を考える。	60
第14回	卒論テーマに関する演習参加者の報告と質疑応答	
	報告者の報告をもとに自分の卒論の方向性を考える。	60
第15回	まとめ	
	卒論テーマについてのレポートを書く。	120

授業の方法

演習参加者が順番に自分の関心のあるテーマにかんして報告し、それにかんして質疑応答するという形式で演習をすすめる。

成績評価の方法

平常点（60パーセント）、卒業論文の準備を兼ねてのレポート（40パーセント）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ・自分の興味関心に即したテーマに関して一定水準以上の卒論を執筆できる力をつけることができたか

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

とくになし。

参考書

授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習Ⅳ j		
教員名	松浦 義弘		
科目ナンバー	1151431108	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
自分の卒業論文のテーマに関する報告と執筆を中心に演習を進める。			
到達目標			
D P 7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、自分の興味関心に即したテーマに関して一定水準以上の卒論を執筆できる力をつけることを目標とする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	演習参加者による報告と質疑応答		
	報告準備		120
第2回	演習参加者による報告と質疑応答		
	報告準備		120
第3回	演習参加者による報告と質疑応答		
	報告準備		120

第4回	演習参加者による報告と質疑応答	
	報告準備	120
第5回	演習参加者による報告と質疑応答	
	報告準備	120
第6回	演習参加者による報告と質疑応答	
	報告準備	120
第7回	演習参加者による報告と質疑応答	
	報告準備	120
第8回	自分の卒業論文のテーマに関する執筆と相談	
	卒業論文の執筆	120
第9回	自分の卒業論文のテーマに関する執筆と相談	
	卒業論文の執筆	120

第10回	自分の卒業論文のテーマに関する執筆と相談	
	卒業論文の執筆	120
第11回	自分の卒業論文のテーマに関する執筆と相談	
	卒業論文の執筆	120
第12回	自分の卒業論文のテーマに関する執筆と相談	
	卒業論文の執筆	120
第13回	自分の卒業論文のテーマに関する執筆と相談	
	卒業論文の執筆	120
第14回	卒業論文の執筆完成とチェック	
	卒業論文の執筆と完成	120
第15回	卒業論文の執筆完成とチェック	
	卒業論文の執筆と完成	120

授業の方法

演習の前半は、演習参加者が順番に自分の関心のあるテーマにかんして報告し、それにかんして質疑応答するという形式で演習をすすめる。演習の後半は、卒業論文を各自執筆し、その内容について相談をうけるかたちで演習をすすめる。

成績評価の方法

平常点（40パーセント）、卒業論文の執筆（60パーセント）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ・一定水準以上の卒業論文を執筆することができたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

とくになし。

参考書

授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	国際関係論		
教員名	川村 陶子		
科目ナンバー	1251433101	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
この授業では、国際関係研究（国際関係論、International Relations）とよばれる学問分野についての概説を行う。国境を越えるさまざまな現象を把握し理解するための基礎概念や思考枠組みを、実際のニュースや国際問題を取り上げながら解説する。 国際関係研究は、その名が示すように、「国家から成る世界」を前提として20世紀に確立した新しい学問である。その一方で、研究対象たる現実の世界が大きく変化していく中、学問的意義や有効性がつねに問い直される状況にある。講義では、学問研究と現実世界の相互関係を重視し、社会・世界を研究することのおもしろさを受講者に伝えられればと考えている。 * 授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等によって調整、変更する可能性がある。			
到達目標			
国際関係論の基礎概念や思考枠組みについて理解を深めるとともに、現代の国際関係や、国際社会の歴史的变化を、自分なりに分析し考察できるようになることを目標とする。 講義内容は主としてDP1（教養の修得）の実現につながるが、インタラクティブな授業を通して間接的にDP2（課題の発見と解決）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）の実現も目指している。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	（以下のような流れで進める予定である。実際の内容は、現実の国際情勢や研究の動向、受講者の構成や反応などにより、修正することがある。） イントロダクション 講師の問題関心と授業の概要について説明し、受講者の関心を聴取する。 【予習・復習】シラバスをよく読み、授業の概要を把握する。国際関係の現象や研究に関連して自分がもっている問題関心を整理し、今後の勉強の計画をたてる。。		
第2回	国際社会をとらえる基礎概念（1） 国際社会という「場」の特徴を整理し、それを構成する主体の多様性についても理解を深める。 【予習】ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。		
第3回	国際社会をとらえる基礎概念（2） 国際社会のベースとなる主権・国民国家体制について、その形成過程を解説し、矛盾を考察する。 【予習】ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。		

第4回	国際関係をとらえる基礎概念（3） パワーの概念について解説し、その諸側面を考察する。	
	【予習】 ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】 授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60
第5回	国際社会のとらえかた（1） リアリズムの考え方について解説し、勢力均衡、安全保障のディレンマといった鍵概念への理解を深める。	
	【予習】 ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】 授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60
第6回	国際社会のとらえかた（2） リベラリズムと相互依存論の考え方を解説する。	
	【予習】 ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】 授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60
第7回	国際社会のとらえかた（3） 国際関係に対する「南」からの視点について解説するとともに、グローバル化の概念にも議論を広げる。	
	【予習】 ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】 授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60
第8回	国際関係のマネジメント（1） 主権国家間関係の運営である外交の基本原則について概説する。	
	【予習】 ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】 授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60
第9回	国際関係のマネジメント（2） 一国の立場からみた対外政策について、その形成過程や主要な研究上のテーマを概説する。	
	【予習】 ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】 授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60

第10回	国際関係のマネジメント（3） 外交の発展と変容について、国際関係の歴史的展開とからめながら考察する。	
	【予習】 ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】 授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60
第11回	国際関係の制度化（1） 国家間の利害を調整し、国際協力を推進する仕組みとしての国際制度・国際組織について概説する。	
	【予習】 ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】 授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60
第12回	国際関係の制度化（2） 前回に引き続き、国際関係をより確実なものとする仕組みについて概説する。国家間協力よりも一歩進んだ取り組みとしての地域統合にも目を向ける。	
	【予習】 ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】 授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60
第13回	国際関係研究の地平の拡大 主権・国民国家システムの変容期である現在の国際関係の特徴を整理し、新しい研究課題を紹介する。	
	【予習】 ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】 授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60
第14回	まとめ 一学期間の授業をふりかえり、要点を確認する。 到達度確認テストに向けた復習のポイントを説明する。	
	【予習・復習】 一学期間の学修をふり返り、自分の知識や考察の広がり、疑問や批判などを整理する。 授業で説明された要点もふまえつつ、到達度確認テストに向けて勉強する。	60
第15回	到達度確認テスト これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテストを行う。 受講人数が多い場合は、期末テスト期間中にテストを行う。	
	【予習】 到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。 【復習】 到達度確認テストの結果をふまえつつ、この授業をふり返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	120

授業の方法

講義を中心とするが、できるだけ双方向の授業をめざす。毎回の講義の後、受講者にリアクションペーパーで授業内容に関する質問や意見をフィードバックしてもらい、次回の授業で解説を行う。受講者の構成や授業の進度により、学期の途中で小規模な課題を課すことも考えている。

授業では、講義の要点や参考文献を掲載したレジュメを配布する。受講者には、毎回のノートの復習のほか、世界や身の回りで起きているものごとにメディア等を通して注意を払う、授業内で紹介する参考文献を読む等、自主的かつ積極的な学修を求める。

成績評価の方法

リアクションペーパーおよび課題70%、到達度確認テスト（1回）30%をめやすに評価する。

リアクションペーパーで有意義な質問やコメントを寄せるなど、とくに積極的に参加した受講者には、プラス評価を加味する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

世界史や政治経済、倫理等の基礎知識があると、授業の理解に役立つ。高校で選択していないなど、苦手意識のある受講者には、自主的な学修を推奨する。

関連科目：平和学、国際文化論、国際政治経済学等

テキスト

特に指定しない。

参考書

田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』有斐閣、2010年。

村田晃司ほか編『国際政治学をつかむ』（新版）、有斐閣、2015年。

ほか、開講時および授業中に随時紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	平和学		
教員名	墓田 桂		
科目ナンバー	1251433102	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
【平和と安全はどのように維持できるか -安全保障の多面的考察】			
「平和」とはどのような状態を指すのだろうか？誰が、どのように維持しているのだろうか？混沌とした国際情勢にあって、「国際の平和と安全」を維持する目的で作られた国連は今でも有効だろうか？			
この授業では、伝統的な安全保障論では必ずしも取り上げられなかった様々な論点を取り上げながら、平和と安全保障にかかわる学説や政策論議を多面的に考察する。			
より具体的には、国連やNGO、さらには軍を含めた、平和と安全の多様な担い手（アクター）の活動に着目しつつ、平和と安全保障の個別の課題（イシュー）を検証する。			
（おおよそ下記の授業計画に従って授業を進める。変更する場合もある。）			
到達目標			
DP1（総合的思考力）、DP2（課題の発見と解決）、DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、下記を到達目標とする。			
・ 国際関係を巨視的な観点で考えることができる。			
・ 現代世界が直面する諸問題を理解できる。			
・ 国際平和と安全保障における課題を自ら発見することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	（おおよそ下記の授業計画に従って授業を進める。変更する場合もある。）		
	ガイダンス -この授業で何を学ぶか		
	授業に関連する事項を予習する。	90	
第2回	「平和」と「安全」の概念		
	授業に関連する事項を予習する。	90	
第3回	変動する国際環境と現代の戦争		
	授業に関連する事項を予習する。	90	

第4回	国連の発足　－平和のための国際機関	
	授業に関連する事項を予習する。	90
第5回	国連と集団安全保障体制	
	授業に関連する事項を予習する。	90
第6回	国連の平和維持活動	
	授業に関連する事項を予習する。	90
第7回	武力紛争下の人々の救済	
	授業に関連する事項を予習する。	90
第8回	平和構築の取り組み	
	授業に関連する事項を予習する。	90
第9回	人権の促進と保護に向けた国際的な取り組み	
	授業に関連する事項を予習する。	90

第10回	大規模な人権侵害・人道に対する罪の処遇 -移行期正義の課題	
	授業に関連する事項を予習する。	90
第11回	多様な安全保障の方法論	
	授業に関連する事項を予習する。	90
第12回	人道と平和のアクターとしてのNGO	
	授業に関連する事項を予習する。	90
第13回	「人間の安全保障」の思想とその限界	
	授業に関連する事項を予習する。	90
第14回	到達度試験	
	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	※到達度試験の準備学習は、個人の判断に委ねる。
第15回	まとめ	
	これまでの授業で学んだ事項を復習する。	90

授業の方法

講義形式。関連した映像資料を見る予定。なお、上記の授業計画は変更することもある。

成績評価の方法

平常点（20%）、到達度確認テスト（80%）を組み合わせた総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

国際系の科目を履修しておくのが望ましいが、それらの知識がなくとも履修は可能。

テキスト

特に指定しない。

参考書

授業中に配布するレジュメの中で提示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	国際文化論		
教員名	川村 陶子		
科目ナンバー	1251433103	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
この授業では、「国際関係における文化」をめぐるさまざまなトピックを扱う。その際に、文化という概念の歴史的変遷や、その多義的な意味内容に十分に注意を払う。各トピックに関する主要な研究動向と、現実世界の歴史的展開や今日の状況、国際関係と私たち自身とのつながりを、バランスよく学修することを目指す。 授業の前半では、国際関係を分析する「枠組み」としての文化、後半では、国際関係を媒介する「要素」としての文化に焦点を当てる。全体を通して、「国家（政府）間だけではない国際関係」や、「いわゆる政治や経済とは異なった領域の国際関係」に注目することになるであろう。授業全体を通して、そうした「文化の国際関係」が、「国家（政府）間の国際関係」や「政治や経済とよばれる領域の国際関係」と密接に関連しており、ときにはそれらを規定し動かす力をもっていることを、認識していければと考えている。 * 授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等により調整、変更する可能性がある。			
到達目標			
講義全体を通して、「国際関係における文化」に関する研究や議論の広がりを見渡し、主要な研究・議論の大まかな内容をつかむことをねらいとする。国際関係を、国家間の関係や狭い意味での政治・安全保障に限定せず、より幅広い、かつ私たちの身近なものとして考える手がかりを提供できればと考えている。 講義内容は主としてDP1（教養の修得）の実現につながるが、インタラクティブな授業を通して間接的にDP2（課題の発見と解決）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）の実現も目指している。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	以下のような流れで進める予定である。 受講者の構成や関心などによって、講義の構成や進度を調整する可能性もある。 イントロダクション 講師の問題意識と授業の概要を説明し、受講者の関心を聴取する。		
	【予習・復習】	シラバスをよく読み、授業の概要を把握する。国際関係や文化に関連して自分がもっている問題関心を整理し、今後の勉強の計画をたてる。	40
第2回	文化の概念 研究の基本概念である「文化」について、その意味の広がりや概念の歴史的形成・発展を理解する。		
	【予習】	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。	60
	【復習】	授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	
第3回	国際関係の研究史と文化の視点 国際関係研究の発展史を概説し、「文化の視点」が必要とされる背景を明らかにする。		
	【予習】	ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。	60
	【復習】	授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	
第4回	文化からみる国際関係（1） 国民国家と文化 国際関係の基本的単位主体ある国民国家が「文化的まとまり」であることを解説し、国民文化という「あたりまえ」の裏にある問題性について考察する。		

	【予習】ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60
第5回	文化からみる国際関係（2）文化と「西洋近代」 国際関係研究のもとになっている欧米や西洋の考え方と、それとは違う考え方との関係、西洋と非西洋の関係について考察する。	
	【予習】ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60
第6回	文化からみる国際関係（3）文化的境界に沿った対立・衝突 20世紀後半以降、文化相対主義的な考え方が国際関係の現実や研究に及ぼしたインパクトを、批判的に考察する。	
	【予習】ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60
第7回	文化からみる国際関係（4）グローバル化の中の偏見と憎悪 ポスト冷戦、とりわけ「9・11」後の世界において、「対立と憎悪の負のスパイラル」が生じている状況を概説する。	
	【予習】ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60
第8回	文化からみる国際関係（5）負のスパイラルを乗り越えるために 文化的境界線に沿った対立・衝突を乗り越え、多様な人びとが共生するための方策を考察する。	
	【予習】ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60
第9回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（1）国際関係の文化的運営 「国際関係が異文化間関係であるならば、文化的手段を用いて国際関係を形づくることができる」という考え方を紹介し、文化を資源・媒介とした国際関係の運営のさまざまなパターンを解説する。	
	【予習】ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60
第10回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（2）国際関係の文化的運営の歴史的展開・1 国際関係の文化的運営の歴史を概説する。主に「帝国主義の時代」までの時期を扱う。	

	【予習】ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60
第11回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（3） 国際関係の文化的運営の歴史・2 国際関係の文化的運営の歴史を概説する。主に「世界大戦の時代」から「冷戦の時代」にかけてを扱う。	
	【予習】ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60
第12回	文化でつくる／文化がつくる国際関係（4） グローバル化時代の国際文化関係運営 ポスト冷戦期における国際文化関係運営の新しい発想やトレンドを紹介するとともに、そうした新しい動きがもたらす可能性と問題性を考察する。	
	【予習】ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60
第13回	文化の視点からみえてくるもの 地域を単位とした国際文化関係運営の試みが進む一方で、「意図せざる文化交流」が国際関係を動かすようになっている今日の現実注目し、国際関係における「文化の視点」の重要性を確認する。	
	【予習】ネット、新聞等で国際情勢や時事問題を把握しておく。 【復習】授業のノートをおさらいし、基礎概念やキーワードについて説明できるようにする。関連の参考文献を読む。	60
第14回	まとめ 一学期間の授業をふりかえり、要点を確認する。 到達度確認テストに向けた復習のポイントを説明する。	
	【予習・復習】一学期間の学修をふり返り、自分の知識や考察の広がり、疑問や批判などを整理する。 授業で説明された要点もふまえつつ、到達度確認テストに向けて勉強する。	60
第15回	到達度確認テスト これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテストを行う。 受講人数が多い場合は、期末テスト期間中にテストを行う方向で調整する。	
	【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を確認する。 【復習】到達度確認テストの結果をふまえつつ、この授業をふり返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	120
授業の方法		

講義を中心とするが、できるだけ双方向の授業をめざす。 授業内容に関連する質問項目について、アンケートや小課題の形式で受講者に答えてもらい、その分析結果を手がかりにして講義を進めていく。 これとは別に、毎回の講義でリアクションペーパーを配布し、授業を簡単に振り返ってもらおうと同時に、受講者からの質問や意見を受け付ける。寄せられた質問等に対しては、次回の授業で解説を行い、理解を深める手助けとする。 授業では、講義の要点や参考文献を掲載したレジュメを配布する。受講者には、毎回のノートの復習のほか、世界や身の回りで起きているものごとにメディア等を通して注意を払う、授業内で紹介する参考文献を読む等、自主的かつ積極的な学修を求める。
成績評価の方法 リアクションペーパーおよび課題70%、到達度確認テスト（1回）30%をめやすに評価する。 リアクションペーパーで有意義な質問やコメントを寄せた受講者には、成績評価の際にプラス評価を加味する。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 受講者は、報道や身の回りの事象に目配りするなどして、現代世界の動向につねに注意を払うことが求められる。高校の世界史履修は必須ではないが、講義は現代史の知識を前提とした内容になるので、苦手意識のある受講者は自主的な学修を行うことが望ましい。 本講義は、米国を中心に発展してきた国際関係論（International Relations、国際政治学）を批判的に乗り越える立場から組み立てられている。国際政治学の基礎的知識がなくても理解できるように講義しているが、意欲のある受講者は「参考書」欄に挙げた図書等の概説書を用いて自習することを奨めたい。 また、「国際関係論」、「国際政治経済学」、「平和学」、「文化人類学」等、関連する基礎的科目を、先に（あるいは、一緒に）履修すると、講義の理解がより容易になるであろう。
テキスト 決まったテキストは使用しない。
参考書 講義内容に直接関連する文献やネットの情報は、授業中に適宜紹介する。 以下は一般的な国際関係論（国際政治学）のテキストとハンドブックである。本講義とは内容を異にするが、講義内容の理解を深めるための参考として勉強を奨めたい。 村田晃司ほか『国際政治学をつかむ』（新版）有斐閣、2015年。 ジョゼフ・S. ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ（田中明彦・村田晃司訳）『国際紛争—理論と歴史 原書第9版』有斐閣、2013年。 田中明彦・中西寛編『新・国際政治経済の基礎知識』[新版] 有斐閣ブックス、2010年。 山影進『国際関係論講義』東京大学出版会、2012年。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) 学内専用ホームページで周知する。

科目名	国際協力論		
教員名	小峯 茂嗣		
科目ナンバー	1251433104	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
一国では解決できない問題の解決や低減について、国境を越えて取り組む行動の総称である国際協力は、開発、環境、自然保護、安全保障、経済、人権保護、保健衛生、人道支援といった様々な課題のものがある。またそれらに取り組むアクターも、国連その他の国際機関、政府や政府系援助機関、民間企業、NGO/NPOといったグローバルな市民社会など多様である。方法もまた多様であり、たとえば途上国において直接的な支援活動等を行うものから、貧困や環境といった国際的な問題について広く関心を喚起する取り組みや、政策提言によって市民社会が各国政府を動かすという取り組みもある。この授業は国際協力の概論として、これらの具体的な課題やアクター、その方法論について講義を行う。			
到達目標			
国際協力の諸課題と、様々なアクターがどのような方法でその解決や低減に取り組んでいるかを理解する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション-授業の概要と進め方について		
	シラバスを確認しておくこと。		15分
第2回	国際開発協力（１）-第二次世界大戦後の国際開発協力の沿革 ・ 反共政策としての戦後復興支援計画 ・ 植民地独立後の開発協力 ・ 経済開発から社会開発、参加型開発へ		
	事前に配布する資料の熟読。		60
第3回	国際開発協力（２）-ミレニアム開発目標（MDGs）／持続可能な開発目標（SDGs） ・ 国連ミレニアムサミットとMDGs ・ MDGsの評価とSDGs		
	事前に配布する資料の熟読。		60
第4回	国際開発協力（３）-ソーシャルビジネス、BoP（貧困層）ビジネス ・ ソーシャルビジネス、BoPビジネスという概念 ・ グラミン銀行 ・ ソーシャルビジネス、BoPビジネスの製品・サービスの具体例 ・ （株）日本ポリグルの水質浄化剤とその国際展開の事例		
	事前に配布する資料の熟読。		60

第5回	国際協力活動事例報告（１）	
	事前に配布する資料の熟読。	60
第6回	国際平和協力（１）-冷戦と国連の紛争解決 ・ 国連による紛争の平和的解決制度 ・ 平和維持活動（PKO）の誕生と発展	
	事前に配布する資料の熟読。	60
第7回	国際平和協力（２）-冷戦後の武力紛争と国際平和協力の変容 ・ 冷戦の終結 ・ 局地的武力紛争頻発の背景 ・ 国連事務総長報告「平和への課題」 ・ 開発援助機関が取り組む平和構築の課題 ・ 冷戦後の紛争事例（カンボジア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ルワンダ、コソボ、東ティモール、アフガニスタン、シリア、イラク 等）	
	事前に配布する資料の熟読。	60
第8回	国際協力活動事例報告（２）	
	事前に配布する資料の熟読。	60
第9回	国際協力活動事例報告（３）	
	事前に配布する資料の熟読。	60
第10回	国際平和協力（４）-国連平和維持活動（PKO） ・ 冷戦後のPKOの変容 ・ 文民保護、「保護する責任（R2P）」 ・ 南スーダンPKOの事例	

	事前に配布する資料の熟読。	60
第11回	国際平和協力（５）—シリア内戦と難民問題 ・ シリア内戦の背景 ・ シリア難民が置かれている状況 ・ 難民支援の実情と課題	
	事前に配布する資料の熟読。	60
第12回	国際平和協力（６）—人命救助は平和をつくるのか？ ・ 国際人道支援の沿革 ・ 国際人道支援と平和構築 ・ 国際人道支援の今後の課題	
	事前に配布する資料の熟読。	60
第13回	国際平和協力（７）—武力紛争と子ども兵士問題 ・ 子どもが紛争に動員される背景 ・ 紛争が子ども兵士に与える心身への影響 ・ 子ども兵士の社会復帰の問題	
	事前に配布する資料の熟読。	60
第14回	国際平和協力（８）—紛争鉱物とその取り締まり ・ 天然資源が紛争を助長する構造 ・ 紛争ダイヤモンド問題の事例 ・ 資源を通じて先進国と紛争国の関係の理解を深める	
	事前に配布する資料の熟読。	60
第15回	振り返りグループワーク	
	第2回から第14回の復習。	60
授業の方法		

講義を中心に行うが、グループディスカッション（5～6人で一組）などによる参加型・双方向の授業にも重点を置く。このような形態に馴染めない、または積極的に取り組めない者は、履修しないことをすすめる。

理解を深めるために、資料映像等も使用していく。

2回程度の宿題を課する。内容に関して疑問に思ったことを「問い」として立て、それについての答えを文献資料等の調査を踏まえて論ずる。

成績評価の方法

平常点、2回の宿題、期末レポートにより、評価する。

評価項目ごとの評価割合（%）は、平常点（30%）、2回の宿題の提出（20%）、期末レポート（50%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

配点は、平常点（30点）、2回の宿題の提出（20点）、期末レポート（50点）。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

●関連科目：平和学

テキスト

特になし。

参考書

授業中に提示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	国際政治経済学		
教員名	須田 祐子		
科目ナンバー	1251433105	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
本講義は、国際政治学のアプローチからグローバリゼーション、とくにその経済的側面に対する理解を深めることを目的とする。コースの前半では、国境を越えるモノ、サービス、情報、カネ（資本）、人の移動によって進展するグローバリゼーションのさまざまな様相を概観する。後半では、グローバリゼーションへの政策的対応を「規制」という切り口から検討し、どのような規制がグローバルおよびナショナルなレベルで作成、実施されているのかを具体例を挙げて論じる。グローバリゼーションと呼ばれる事象が現代の政治、経済、社会にどのような影響をもたらしているのかを探ることが講義全体の大きなテーマである。			
到達目標			
グローバリゼーション時代に世界が直面するさまざまな問題を国際政治経済学の文脈で理解できるようになる。また国際政治経済を律する取り決めが国内に（しかも意外に身近なところにまで）どのような影響を及ぼしているのかを理解できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	グローバリゼーションとは？ 「グローバリゼーション」という言葉が何を意味するのかを説明する。また「国際化」など関連する概念も合わせて説明する。		
	レジュメで取り上げた用語の意味を理解し把握する。資料を読み直す。必要があれば参考書を参照する。	60	
第2回	モノの移動 国際貿易を律するグローバルな枠組みであるG A T Tと世界貿易機関（W T O）の歴史的展開と現在の課題について解説する。		
	レジュメで取り上げた用語の意味を理解し把握する。資料を読み直す。必要があれば参考書を参照する。	60	
第3回	T R I P Sと医薬品アクセス問題 貿易関連知的財産権（T R I P S）協定について学ぶ。医薬品アクセス問題を取り上げる。		
	レジュメで取り上げた用語の意味を理解し把握する。資料を読み直す。必要があれば参考書を参照する。	60	

第4回	サービスの移動 サービス貿易一般協定（GATS）について通信分野と放送分野に焦点をあてて解説する。	
	レジュメで取り上げた用語の意味を理解し把握する。資料を読み直す。必要があれば参考書を参照する。	60
第5回	情報の移動 情報通信の発達を概観する。また国家間のデジタルデバインド（情報格差）の問題について考える。	
	レジュメで取り上げた用語の意味を理解し把握する。資料を読み直す。必要があれば参考書を参照する。	60
第6回	資本の移動 生産の多国籍化について多国間投資条約（MAI）とOECD外国公務員贈賄防止条約の事例を通じて考える。	
	レジュメで取り上げた用語の意味を理解し把握する。資料を読み直す。必要があれば参考書を参照する。	60
第7回	人の移動 GATSと「人の移動」、FTA・EPAによる労働力移動の自由化について解説する。 ※課題（1）配布	
	レジュメで取り上げた用語の意味を理解し把握する。資料を読み直す。必要があれば参考書を参照する。課題に取り組む。	90
第8回	グローバルな不法経済 麻薬と資金洗浄への対策を事例として、国際的取り決めがどのように国内規制に影響を及ぼすのかを見る。 ※課題（1）提出	
	レジュメで取り上げた用語の意味を理解し把握する。資料を読み直す。必要があれば参考書を参照する。	60
第9回	環境問題（1） オゾン層保護と気候変動対策（地球温暖化防止）に関する国際的枠組みを比較しながら地球環境問題に対する国際的取組みについて考える。	
	レジュメで取り上げた用語の意味を理解し把握する。資料を読み直す。必要があれば参考書を参照する。	60

第10回	環境問題（2） 有害物質のグローバルな規制について有害廃棄物の越境移動に関するバーゼル条約と水銀に関する水俣条約などを例として考える。	
	レジュメで取り上げた用語の意味を理解し把握する。資料を読み直す。必要があれば参考書を参照する。	60
第11回	遺伝子組み換え作物 生物多様性条約カルタヘナ議定書とコーデックスガイドラインを対比させて、貿易と環境の交錯するところでの国際規制の難しさを考える。	
	レジュメで取り上げた用語の意味を理解し把握する。資料を読み直す。必要があれば参考書を参照する。課題で間違えた箇所があればしっかり確認する。	60
第12回	認証と資源管理 森林管理協議会（FSC）と海洋管理協議会（MSC）の認証制度について学ぶ。またキンバリープロセスについて学ぶ。 ※課題（1）返却、解説	
	レジュメで取り上げた用語の意味を理解し把握する。資料を読み直す。必要があれば参考書を参照する。	60
第13回	インターネットで変わった？ インターネット時代の著作権保護、プライバシー保護、児童ポルノ規制について、国際的な取り決めがどのように発展してきたのかを考える。 ※課題（2）配布	
	レジュメで取り上げた用語の意味を理解し把握する。資料を読み直す。必要があれば参考書を参照する。課題に取り組む。	90
第14回	宇宙開発 GPS（全地球測位システム）を切り口として宇宙開発を国際政治経済学の視点から見てみる。 ※課題（2）提出	
	レジュメで取り上げた用語の意味を理解し把握する。資料を読み直す。必要があれば参考書を参照する。	60
第15回	たばこアルコールの規制 たばこ規制枠組み条約の事例から国際的規制の国内への影響について考える。 ※課題（2）返却、解説	
	レジュメで取り上げた用語の意味を理解し把握する。資料を読み直す。必要があれば参考書を参照する。課題で間違えた箇所があればしっかり確認する。期末試験に備えて総復習する。	120

授業の方法

授業は講義形式で行う。毎回、授業の概要をまとめたレジュメと参考資料を配布する。適宜、映像資料を教材として使用する。授業で学習したことを復習し、知識の定着を図るため、学期中に2回、課題を出す。

成績評価の方法

授業中に提出する2回の課題（各20%、合計40%）と学期末試験（60%）によって総合的に成績を評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。期末試験では、授業で取り上げたさまざまな問題について基本的理解ができているかどうか、またそれらの問題の背景と経緯を的確に説明できるかどうかを評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

野林健・大芝亮・納家政嗣・山田敦・長尾悟著『国際政治経済学・入門』第3版、有斐閣、2007年。
飯田敬輔『国際政治経済』東京大学出版会、2007年。
田所昌幸『国際政治経済学』名古屋大学出版会、2008年。
村田 晃嗣他『国際政治学をつかむ』有斐閣、2009年。
山田高敬・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論』有斐閣、2006年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	国際協力論特講 A		
教員名	滝澤 美佐子		
科目ナンバー	1151433106	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
グローバル化の進展が新たな問題を生み、人々の安心や安全を世界大で再考する必要性が生じている。本講義ではグローバル化が一層進む世界における主要な課題とそれに対する多主体の協働によるグローバル・ガバナンスの在り方について考える。とくに人間の安全保障の観点から問題を包括的・多面的にとらえて考察をしていく。講義は2つの部分から成る。前半は、グローバル・ガバナンスにかかわる様々な基礎概念や理論、行為主体（アクター）や制度について学ぶ。後半は、主要なグローバル課題を取り上げて、対処への協働の現状と可能性について考えていく。国際協力は誰もが学ぶべき教養であるほどに重要な問題になっていることをお伝えしたい。さらに、将来プロフェッショナルとして社会人として国際協力を実践しようとする学生にとっての入門としたい。			
到達目標			
1 グローバル化する世界の主要課題について理解することができる。 2 グローバル・ガバナンスについて、主要概念、制度、アクターについて理解し説明することができる。 3 講義で扱うグローバル課題への国際協力の在り方について問題を見つけることができる。 4 自らグローバル課題について調べて、論拠を示しながら論述することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	グローバル課題と国際協力 ・グローバルな課題にはどのようなものがあるのか。日本の常識が世界の常識でないところから考えてさらに国際社会の仕組みを考える。国際協力の意味を学び、それが国際交流とは異なること、「言うは易し行は難し」であることを学ぶ。		
	テキスト該当箇所の予習		45
第2回	グローバル・ガバナンスの担い手 1 国家 ・最も主要な行為主体である国家についてその役割を学ぶ。役割を果たす能力や意思がない国家についての問題についても学ぶ。		
	テキスト該当箇所の予習		60
第3回	グローバル・ガバナンスの担い手 2 国際機構 ・グローバル・ガバナンスの中でも多国間協力を担う国際機構について学ぶ。国連、ユネスコ、ILOなどの普遍的機構とEU、AU、ASEANなどの地域的機構について学び、協調、連携と競合の問題について考える。		
	テキスト該当箇所の予習		60

第4回	グローバル・ガバナンスの担い手 3 赤十字・市民社会組織 ・赤十字ならびにCSO、NGO、NPOともいわれる市民社会組織は、グローバル・ガバナンスのパートナーとして活躍する余地が拡大していることを学ぶ。	
	テキスト該当箇所の予習	60
第5回	グローバル・ガバナンスの担い手 4 企業と私たち ・企業の社会的責任（CSR）の考え方が浸透し、国連グローバルコンパクト（GC）といったビジネス社会規範が形成される中、企業が率先してグローバル課題に取り組んでいること、さらに私たちの役割についても学ぶ。	
	テキスト該当箇所の予習	60
第6回	グローバル・ガバナンスと国際規範 ・グローバル課題に関する国際法、ソフトロー、グローバルスタンダードなどを学び、それらを国家のみならず様々な行為主体が実践しようとしていることを学ぶ。	
	テキスト該当箇所の予習	60
第7回	グローバルな課題 1 武力紛争と保護する責任 「国家が保護されない人々を、国際社会はいかに救えるのか」	
	テキスト該当箇所の予習	60
第8回	グローバルな課題 2 移動する人々・難民・国内避難民 「移動する人々は、国家システムにどのような挑戦を与えているか」	
	テキスト該当箇所の予習	60
第9回	グローバルな課題 3 核兵器・武器からの保護 「武器の蔓延とレアメタルそして私たち」	
	テキスト該当箇所の予習	60

第10回	グローバルな課題 4 人権の保障 「ほしいものと必要なもの—子どもの権利ワークショップから人権を考える」	
	テキスト該当箇所の予習	60
第11回	グローバルな課題 5 貧困と児童労働 「2030年の世界を考える—貧困の終焉を目指すSDGsの実現」	
	テキスト該当箇所の予習	60
第12回	グローバルな課題 6 保健衛生 「感染症対策のためのグローバルパートナーシップ」	
	テキスト該当箇所の予習	60
第13回	グローバルな課題 7 ジェンダー 「ライフサイクルアプローチとHeforShe—ジェンダーをライフサイクルと男性女性の両者から考える」	
	テキスト該当箇所の予習	60
第14回	グローバルな課題8 気候変動と新技術 「2050年の世界を考える—気候変動、遺伝子技術、AIと将来」	
	テキスト該当箇所の予習	60
第15回	総括—グローバル課題に取り組むために私たちが克服すべきことは何か	
	テキスト該当箇所の予習	60

授業の方法

講義形式をとる。各回に「問いかけ」を用意し、その「問いかけ」について考えるために予習をしてもらう。授業の最後に、自らの考えをリアクションペーパーに論じてもらう。

成績評価の方法

出席（30%）、リアクションペーパーの内容と講義への貢献度（30%）、最終試験（40%）を総合して評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

上記に掲げた到達目標に達成したかどうかにより成績評価をする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

長有紀枝『入門人間の安全保障』中公新書、2012年

参考書

東大作『人間の安全保障と平和構築』日本評論社、2017年

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	国際関係論特講 A		
教員名	山本 哲史		
科目ナンバー	1151433108	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

国際社会は日々動いている。この授業では、国際関係論の基礎理論を前提としつつ、国際社会における各種の動きを洞察する力を養う。学術内容的には国際関係論であるものの、現代社会を自分なりに観察し、自身の将来の活動の助けとなるような情報察知能力および解析リテラシーの習得を目指しながら、より端的に言えばニュース・リテラシーや論理思考能力を鍛錬することを主眼としている。

到達目標

1. 国際関係論の主要な理論の概要およびエッセンスの習得。
2. 各種メディアを鵜呑みにしない批判的思考能力の養成。
3. アジア、アフリカ、欧州、米州などの各地域に関する主要知識の概要的網羅。
4. 地球レベルで戦略的に展開される各種政治力学の分析視点の養成。
5. 事例研究を自ら行う能力構築。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション・国際関係論とは何か	
	国際関係論に関する基本書などに軽く目を通しておく(予習)。	60
第2回	現実主義 (Realism)	
	授業後半に示す次のニュースに関する調査。	60
第3回	リベラル制度論 (Liberal Institutionalism)	
	授業後半に示す次のニュースに関する調査。	60

第4回	社会構成主義 (Social Constructionalism)	
	授業後半に示す次回のニュースに関する調査。	60
第5回	マルキシズムと批判理論 (Marxism and Critical Theories)	
	授業後半に示す次回のニュースに関する調査。	60
第6回	パワー概念 (Power)	
	授業後半に示す次回のニュースに関する調査。	60
第7回	安全保障 (Security)	
	授業後半に示す次回のニュースに関する調査。	60
第8回	多様性とアイデンティティ (Diversity and Identity)	
	授業後半に示す次回のニュースに関する調査。	60
第9回	戦争と平和 I (War and Peace)	
	授業後半に示す次回のニュースに関する調査。	60

第10回	戦争と平和 II (War and Peace)	
	授業後半に示す次回のニュースに関する調査。	60
第11回	人間の安全保障 I (金融と恐慌 Finance and Panic)	
	授業後半に示す次回のニュースに関する調査。	60
第12回	人間の安全保障 II (国家と国民 State and Nation)	
	授業後半に示す次回のニュースに関する調査。	60
第13回	人間の安全保障 III (難民 Refugee)	
	授業後半に示す次回のニュースに関する調査。	60
第14回	人間の安全保障 IV (富の分配 Distribution of Goods and Money)	
	授業後半に示す次回のニュースに関する調査。	60
第15回	まとめ	
	授業後半に示す次回のニュースに関する調査。	60

授業の方法

毎回の最後に、次回扱うテーマに関するニュース（時事のもの）を話題として紹介する。学生はそれについて調べて、その概要を説明できるようにしておき、かつ、見解を求められた場合に意見を述べることにできるように準備する。

授業では国際関係論の基礎理論を順次紹介しつつ、後半部分ではニュースに関する解説を行う。たとえば北朝鮮によるミサイル実験などの概要を紹介した上で、学生同士で討論を行うことを想定している。その際の論点は教員が示す。この場合に、概要紹介を学生に委ねる場合がある。

なお、こうした内容は受講学生の数と希望に応じて適宜調整する予定であるため、必ずしもこの内容にこだわるものではない。学生の積極的な意思を最優先する

成績評価の方法

1. 5000字程度のエッセイ（期末課題） 40 %
2. 筆記試験（期末実施）40%
3. 受講態度（出席状況および発言内容等）20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

国際関係論の基礎理論。ただし本講義内で適宜教授するため必須の予備知識とはしない。

テキスト

開講時に指示する。

参考書

開講時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	平和学特講		
教員名	小林 周		
科目ナンバー	1251433110	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
平和とは何か。戦争や武力衝突がなければ平和なのか。「平和でない」状態とはどのようなものなのか。 日本を含めた国際社会はこれまで「平和」をどのように定義し、どのように「平和」を作り出そうとしてきたのか。 現代の世界において、平和はどのようにして脅かされるのか。 本講義は、時事問題にも適宜触れながら、主権国家の成立から現代に至る、平和と紛争をめぐる様々な問題を発見し、分析し、理解するための視点を提供する。国際関係や国際安全保障、国際協力など、関連する学問分野についても整理し、履修者が講義で扱う様々な問題に関する知識と理解を深められるようにする。			
到達目標			
1. 世界で起きている時事問題を知り、その概要と背景を理解できる。 2. 平和を実現するための社会の条件を理解できる。 3. 国際社会と日本、そして自分自身との関わりを具体的に理解できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス		
	・ 国際関係とは何か ・ 平和および「平和でない」とはどのような状態なのか		45
第2回	戦争と平和（１） 主権国家の成立と勢力均衡		
	・ 主権国家の要件とは何か ・ 勢力均衡とは何か		60
第3回	戦争と平和（２）2つの大戦：集団防衛体制と集団安全保障体制		
	・ 第1次・2次大戦についての基礎知識 ・ 集団防衛体制、集団安全保障体制とは何か		60

第4回	戦争と平和（3）冷戦と核	
	・冷戦についての基礎知識 ・核兵器、核抑止についての基礎知識	60
第5回	戦争と平和（4）内戦と介入	
	・内戦とは何か ・内戦を防ぐためには何が必要なのか ・外部の介入によって紛争は防げる／止められるのか	60
第6回	戦争と平和（5）9.11と対テロ戦争	
	・9/11事件とは何か、なぜ発生したのか ・テロリズム、対テロ戦争とは何か ・非対称紛争とは何か	60
第7回	戦争と平和（6）国家の崩壊	
	・崩壊国家、脆弱国家、失敗国家とは何か	60
第8回	揺れる中東：「アラブの春」から「イスラーム国」まで	
	・「アラブの春」「イスラーム国」およびシリア内戦について整理しておくこと	60
第9回	移民・難民問題	
	・現在の移民・難民問題について整理しておくこと	60

第10回	国境を越える脅威：感染症、気候変動	
	・感染症や気候変動の問題について整理しておくこと	60
第11回	国連のPKO活動と平和構築	
	・国連の役割とは何か ・PKOおよび平和構築とは何か	60
第12回	「人間の安全保障」と日本の国際平和への貢献	
	・「人間の安全保障」とは何か ・日本は国際平和のためにどのような活動をしているのか（海賊対策や南スーダンへの自衛隊派遣など） ・日本は国際平和に貢献するために何をすべき／すべきでないのか	60
第13回	講義のまとめ：平和を脅かすものは何か	
	これまで学んだ内容について確認し、理解しておくこと	60
第14回	講義内試験	
	これまで学んだ内容について確認し、理解しておくこと	120
第15回	試験結果の講評・講義の振り返り	
	これまで学んだ内容について確認し、理解しておくこと	45

授業の方法

- ・講義内容に応じて、グループディスカッションやゲスト講演などを予定している。
- ・理解を深めるために、講義中に映像資料を用いる。
- ・講義はシラバスに記載の予定に基本的には従うが、授業の進捗に応じて内容を変更することがある。

成績評価の方法

平常点（30％）と試験（70％）

平常点には、出席、講義中の質疑や発言、リアクションペーパーの提出を含む。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

国際政治や安全保障、各地域の社会・文化に関する科目を履修しておくのが望ましいが、それらの知識がなくとも履修は可能。

テキスト

特に指定しない。

参考書

授業中に配布するレジュメの中で提示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。適宜ポータルでも示します。

科目名	文化人類学		
教員名	細谷 広美		
科目ナンバー	1251433201	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

本授業は文化人類学の入門で、これから文化人類学を学ぶための必須の授業です。
文化人類学は、「文化とは何か?」「人間とは何か?」を実践的に考える学問です。グローバル化が進展するなか、私たちはマスメディアやインターネットを通じて世界の様々な情報を得ることが可能になっています。しかし、他方で、文化、宗教、歴史的背景等の相違による互いの違いも明らかになっています。今日、異文化を知ること、異文化理解はますます重要になっています。しかし、異文化を理解する、ということはそもそもどのようなことを意味するのでしょうか?文化人類学はフィールドワークを通じて、実践的に異文化理解に取り組んできました。本講義では、文化人類学の学問的対象、フィールドワークという方法論が生まれた背景を概観した後、人種、民族に関する理解を深めます。

到達目標

DP（7問題発見能力及び多面的な分析能力）を身につけるため以下を到達目標とする。

- ①文化人類学の基本的考え方を学ぶ。
- ②フィールドワークの方法論と重要性を知る。
- ③（国内を含め）多様な文化の存在に気づき、視野を広げる。
- ④グローバル化が進展する、国際社会の現在についての理解を深める。
- ⑤メディア・リテラシーを高め、情報を批判的に読み取る力を養う。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	導入 文化人類学の学問的対象とは? 文化とは? 文化はなぜ複数形なのか?	
	文化人類学の入門書等を読んでおく。 文化についてどのようなイメージをもっているか考え整理しておく。 シラバスを読んでおく。	60分
第2回	異文化理解の歴史とフィールドワーク（1） マリノフスキーとトロブリアンド諸島	
	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60分
第3回	異文化理解の歴史とフィールドワーク（2） 参与観察	
	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60分

第4回	異文化理解の歴史とフィールドワーク（3） 自文化中心主義と文化相対主義	
	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60分
第5回	人種とは？（1） 大航海時代と人種主義	
	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60分
第6回	人種とは？（2） 進化論と人種主義 社会、文化的区分としての人種	
	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60分
第7回	人種とは？（3） 先住民と国民国家	
	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60分
第8回	人種とは？（4） 先住民と国民国家	
	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60分
第9回	人種とは？（5） フランク・ファノンと人種主義 植民地主義の内面化 ポストコロニアル状況への視点	
	事前にファノンの文献、配布資料を読んでおく。講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	100分

第10回	民族とは？（1） 民族をめぐる議論 エスニック・グループ、エスニシティ、民族境界 国民国家と民族	
	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60分
第11回	民族とは？（2） ルワンダのジェノサイドは民族紛争か？	
	事前にルワンダ及びジェノサイドについて文献等を読んで調べておくこと。 講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	100分
第12回	民族とは？（4） ルワンダのジェノサイドは民族紛争か？	
	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60分
第13回	民族とは？（5） 国際社会と平和への取り組み	
	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	100分
第14回	人類学の新たな射程	
	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60分
第15回	授業のまとめ	
	講義後、ノート、配布資料を読み、復習をし、疑問点を明らかにして調べるとともに、適宜授業で紹介した参考文献を読む。	60分

授業の方法

理解を深めるために、適宜映像資料を用います。

成績評価の方法

評価は平常点（30％）と試験（70％）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

文献を読む力、疑問点を発見して調べる力、自分で考える力を養うことが必要です。

1. 「文化」「人種」「民族」とは何かを理解する。
2. 植民地主義、人種主義への理解を深める。
2. 特定の現象への分析力をもつ。
3. データを分析し、考察できる。
4. 国際社会で必要とされる強要を身につける。
5. クリティカル・シンキングの能力を高める。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識はありませんが、文化人類学の入門書等を読んでおいて下さい。

後期開講の「フィールドワーク論」と連続しているので、あわせて受講することが望ましいです。

文化人類学関係の科目、「開発人類学」、「民族誌論」、「エスニック・スタディーズ」、「社会人類学特講」、「文化人類学特講」等を受講する前段階の、文化人類学入門としての位置づけにあります。合わせて「社会人類学」も受講することが望ましいです。

英語をはじめとする外国語で文献を読む力をつけておくことにより可能性が広がります。

国際文化学科基礎演習（Ⅰ、Ⅱ）、フレッシュャーズセミナーで文化人類学関係の演習を受講する場合は並行受講すると理解が深まります。

テキスト

なし。

参考書

『人類学のコンセンサス-文化人類学入門』浜本満他著 学術図書出版社

『異文化の学び方、描き方-なぜ、どのように研究するのか』住原則也他著 世界思想社

その他授業の中で適宜紹介していきます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会人類学		
教員名	堀内 正樹		
科目ナンバー	1251433206	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
本授業は「社会人類学」の入門講座である。社会人類学とはなにか、そしてどのような考え方を特徴とするのか。19世紀の社会人類学の誕生から今日までの展開を説明し、その功罪とともに、課題と展望を浮かび上がらせる。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）を実現するため、次の4点を到達目標とする。 1. 国別の人類学の特徴を説明できる。 2. 社会人類学と植民地主義のつながりを理解し、その功罪を指摘できる。 3. 異文化理解というスローガンの由来と問題点を説明できる。 4. 文化のしくみを理解する際の障壁を指摘できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス：授業の内容、進め方、予習・復習の仕方などを説明する。 導入 ・社会人類学との出会いを説明する。		
	[予習]自分がもっている社会人類学または文化人類学についてのイメージを整理しておく。	60	
第2回	社会人類学と各国人類学の成立 ・19世紀の西欧の知的背景と人類学的思考の成立を学修する。 ・英・独・仏・米・日の「人類学」の誕生を理解する。		
	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90	
第3回	文化進化論の時代(1) ・生物進化論や古生物学、地質学などと社会人類学の関係を理解する。 ・文化進化論とマルクス主義の関係を理解する。		
	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90	

第4回	文化進化論の時代（2） ・モーガン、タイラーなどによる文化進化の段階を理解する。	
	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第5回	文化進化論の時代（3） ・呪術と宗教の進化についての理論をフレーザーに即して理解する。 ・フロイトの精神分析学との関係を理解する。	
	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第6回	文化進化論の時代（4） ・文化圏説・文化伝播論、文化史学派の理論を理解する。	
	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第7回	近代社会人類学の曙 ・スペンサー＆ギレンによるオーストラリア・アボリジンの調査からケンブリッジ大学トーレス海峡調査隊までのフィールドワークのプロセスを理解する。	
	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第8回	構造・機能主義の時代（1） ・マリノフスキーの生涯と理論を理解する。	
	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第9回	構造・機能主義の時代（2） ・マリノフスキーの呪術・宗教論を理解する。 ・フランスの社会学者デュルケムの理論的影響を理解する。	
	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90

第10回	構造・機能主義の時代（3） ・ R・ブラウンの生涯と理論を理解する。	
	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第11回	親族理論の基礎 ・ 社会人類学の大きな支柱である親族理論の基礎を学修する。	
	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第12回	アメリカ文化人類学の展開 ・ パーソナリティ学派の展開プロセスを理解する。 ・ 人類学と国家政策の関係を理解する。	
	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第13回	構造主義革命 ・ 記号論・音韻論の基礎を学修する。 ・ レヴィ・ストロースの構造主義を理解する。	
	[予習・復習]キーワードについて説明できるようにする。	90
第14回	達成度確認テスト ・ これまでの学修内容についての理解を確認するためのテストを行う。	
	[予習]到達度確認テストに備え、これまでの学習内容を確認する。	120
第15回	実験民族誌とポストモダン ・ 到達度確認テストの結果をもとにして、構造主義以後の社会人類学の展開を把握する。 ・ 今日の課題のありかを理解する。	
	[復習]この授業を振り返り、より高度な社会人類学へのステップを考える。	60

授業の方法

パワーポイントを用いた講義になる。講義内容は時代を追ったものなので、前回の講義内容を理解していないと講義は理解できない。毎回復習をしっかりする必要がある。

成績評価の方法

到達度確認テスト（５０％）、講義中の発言や質問など授業への参加状況（５０％）などによる総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・進化論の思想特徴を説明できる。
- ・社会人類学とイギリス植民地主義の連携を説明できる。
- ・「異文化理解」という考え方の功罪を明確に説明できる。
- ・現代の課題を指摘できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし

参考書

必要に応じて授業中指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	民族誌		
教員名	関谷 雄一		
科目ナンバー	1251433202	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
文化人類学で行う基本的な作業には1) フィールドワーク、2) 民族誌作成がある。本講義では、おもにアフリカ地域において行われたフィールドワークをもとに、人類学者の手により作成された民族誌を紹介しながら、人類学の学說的潮流、今日的な民族誌の位置づけに関して明らかにしてゆく。			
到達目標			
アフリカをフィールドとした民族誌を扱いながら、民族誌的研究の概要をつかむ。民族誌をどのように読んで内容をつかむかがわかるようになれば望ましい。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス		
	予習：文化人類学の基礎がわかるテキストを読んでみる。 復習：ガイダンスの内容とテキストを比較してみる。		60
第2回	アフリカ民族誌概論		
	予習：アフリカの地図を眺めてみる。 復習：授業で紹介された代表的研究を地図にマッピングしてみる。		60
第3回	親族構造・祖先崇拝に関する民族誌		
	予習：親族に関する知識をそろえる。 復習：自分の家系図を書いてみる。		60

第4回	呪術・宗教に関する民族誌	
	予習：日本の宗教について知っていることを整理してみる。 復習：日本人の信仰について考える。	60
第5回	呪術・宗教に関する民族誌	
	予習：アフリカの宗教について少し調べてみる。 復習：授業で考えさせられたことを整理する。	60
第6回	生業活動に関する民族誌	
	予習：アフリカの代表的産業は何か調べてみる。 復習：アフリカで仕事をする場合、自分だったらどんな仕事をするか考える。	60
第7回	移動する人々に関する民族誌	
	予習：アフリカを移動する人々にはどんな人たちがいるか考える。 復習：移動する人々が抱える問題について整理してみる。	60
第8回	物質文化に関する民族誌	
	予習：アフリカ文化について知っていることを整理してみる。 復習：物質文化にかかわる民族誌を読んでみる。	60
第9回	歴史に関わる民族誌	
	予習：アフリカの歴史について知っていることを整理してみよう。 復習：アフリカの歴史を扱った民族誌を読んでみよう。	60

第10回	言語文化に関わる民族誌	
	予習：アフリカの言葉について調べてみる。 復習：自分が調べた言葉に関し、授業で聞いた研究の枠組みから考察してみる。	60
第11回	芸術・音楽に関わる民族誌	
	予習：アフリカの芸術・音楽に触れてみる。 復習：アフリカ芸術の流れを整理して考える。	60
第12回	都市文化の民族誌	
	予習：アフリカの都市文化で知っていることを整理してみる。 復習：都市の民族誌を読んでみる。	60
第13回	メディア・コミュニケーションに関わる民族誌	
	予習：アフリカの携帯の普及について調べてみる。 復習：アフリカのコミュニケーションの特色に関して整理して考える。	60
第14回	社会開発に関わる民族誌	
	予習：アフリカ社会開発で知っていることを整理してみる。 復習：開発にかかわる民族誌を読んでみる。	60
第15回	まとめ	
	予習：14回の授業の内容をおさらいする。わからなかったことをメモしておく。 復習：よい期末レポートを書いてください。	60

授業の方法

講義が中心となるが、積極的な授業への貢献（発言やコメント）を歓迎する。

成績評価の方法

授業リフレクション（35%）・期末レポート（65%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

文化人類学の基礎をできれば勉強しておいてほしい。

テキスト

適宜紹介する。

参考書

適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

質問は、随時下記メールアドレスにて受け付ける予定。
sekiya@anthro.c.u-tokyo.ac.jp

科目名	開発の人類学		
教員名	木村 秀雄		
科目ナンバー	1251433203	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
開発の現場において用いられる主要な学問分野である国際政治学と開発経済学の特徴と人類学の関係を考えることをとおして、開発に対する人類学の貢献について論じる。具体的なイメージをつかんでもらうために、日本や世界における開発の現場に関する具体例を挙げながら進める。			
到達目標			
現在の世界や日本で起こっている開発の実態を知ってもらうことを通じて、世界と日本がひとつながりであることを実感してもらうことを目標にする			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	開発と言ったときに何を思い浮かべるか、受講生一人一人に聞いて、その知識や関心を確認する		
	とくになし		0
第2回	前回の授業で多くの人が関心を示した問題について、その現状について講義する		
	とくになし		0
第3回	国際政治学(1) 開発に影響を与える政治問題を考える(日本)		
	前回は指示したネット検索		30

第4回	国際政治学（2） 開発に影響を与える政治問題を考える（アジア）	
	前回に指示したネット検索	30
第5回	国際政治学（3） 開発に影響を与える政治問題を考える（アフリカ）	
	前回に指示したネット検索	30
第6回	国際政治学と人類学（1） 政治と人類学（日本）	
	第3回授業の復習	30
第7回	国際政治学と人類学（2） 政治と人類学（アジア）	
	第4回授業の復習	30
第8回	国際政治学と人類学（3） 政治と人類学（アフリカ）	
	第5回授業の復習	30
第9回	開発経済学（1） 開発における経済の役割を考える（アジア）	
	前回に指示したネット検索	30

第10回	開発経済学（2） 開発における経済の役割を考える（アフリカ）	
	前回に指示したネット検索	30
第11回	開発経済学（3） 開発における経済の役割を考える（ラテンアメリカ）	
	前回に指示したネット検索	30
第12回	開発経済学と人類学（1） 経済と人類学（アジア）	
	第9回授業の復習	30
第13回	開発経済学と人類学（2） 経済と人類学（アフリカ）	
	第10回授業の復習	30
第14回	開発経済学と人類学（3） 経済と人類学（ラテンアメリカ）	
	第11回授業の復習	30
第15回	開発と人類学 開発における人類学の役割をまとめる	
	これまで全体の復習	30

授業の方法

第1回目を除いて、パワーポイントを映写しての講義。授業の中で適宜、こちらから受講生に質問したり、意見を聞いたりすることを組み合わせる。

成績評価の方法

期末テスト、毎回提出してもらう短いペーパー、出席を総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし

テキスト

とくにさだめない

参考書

授業中に指示する

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	フィールドワーク論		
教員名	細谷 広美		
科目ナンバー	1251433204	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
異文化理解を実践的にこなう文化人類学の重要な方法論として、フィールドワークがあります。本授業では、インカ帝国が栄えたアンデスの先住民文化とグローバル化が進展する世界における先住民の現在を、フィールドワークの経験談等を交えながら扱うことを通じて、異文化理解の知見を深めます。 また、アンデス先住民の多大な犠牲を生んだ国内紛争とその後の平和構築を検討することにより、国際社会における平和構築の課題、真実やリアリティの多元性、記憶と歴史の関係性について考察を深めます。			
到達目標			
DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を身につけるため、以下を到達目標とします。 文化人類学のフィールドワークという方法論について理解を深めます。 先住民という存在について考えます。 植民地主義への理解を深めます。 ラテンアメリカ地域や先住民から歴史をみることを通じて世界史を相対化します。 国際社会とローカル現場の関係性について考えます。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	導入部 ラテンアメリカ地域の概観		
	事前に『ペルーを知るための66章』を1度読んでおく。 授業後、配布資料、ノートを読み返す。	60分	
第2回	最初のアメリカ人、アンデスの古代文明		
	事前に教科書を読む。 授業後、ノート、配布資料を読み返す。	60分	
第3回	インカ帝国		
	事前に教科書を読む。 授業後、ノート、配布資料を読み返す。	60分	

第4回	大航海時代とアメリカ大陸の「発見」 インカ帝国の征服と植民地支配	
	事前に教科書を読む。 授業後、ノート、配布資料を読み返す。	60分
第5回	アンデス文明とヨーロッパ文明の遭遇 コンタクト・ゾーン（接触領域）	
	事前に教科書を読む。 授業後、ノート、配布資料を読み返す。	60分
第6回	人種と社会 文化的シティズンシップ	
	事前に教科書を読む。 授業後配布資料、ノートを読み返す。	60分
第7回	アンデスの宗教（1）	
	事前に教科書を読む。 授業後配布資料、ノートを読み返す。	60分
第8回	アンデスの宗教（2）	
	事前に教科書を読む。 授業後配布資料、ノートを読み返す。	60分
第9回	妖怪と他者、植民地主義、征服の記憶	
	事前に教科書を読む。 授業後、ノート、配布資料を読み返す。	60分

第10回	移行期正義と真実委員会	
	授業後、ノート、配布資料を読み返す。 適宜参考文献を読む。	60分
第11回	平和構築と人権、正義	
	授業後、ノート、配布資料を読み返す。 適宜参考文献を読む。	60分
第12回	グローバル化と格差、移民（１）	
	授業後、ノート、配布資料を読み返す。 適宜参考文献を読む。	60分
第13回	グローバル化と格差、移民（２）	
	授業後、ノート、配布資料を読み返す。 適宜参考文献を読む。	60分
第14回	開発援助と地域文化	
	授業後、ノート、配布資料を読み返す。 適宜参考文献を読む。	60分
第15回	人類学の多様な射程	
	授業後、ノート、配布資料を読み返す。 適宜参考文献を読む。	60分

授業の方法

授業は講義形式です。理解を深めるために、適宜映像資料を使用します。

成績評価の方法

平常点 30%、学期末試験 70%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

文化人類学におけるフィールドワークについて理解する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

- ・ 授業開始前、あるいは授業開始後の早い段階で教科書を1度読了しておいて下さい。
- ・ 前期開講の「文化人類学」を履修していることが望ましいです。
- ・ 学科の専門科目として様々な文化人類学関係の科目（開発の人類学、民族誌論、社会人類学、エスニック・スタディーズ、文化人類学特講、社会人類学特講等）が開講されているので、あわせて受講すると理解が深まります。

ラテンアメリカのほとんどの国でスペイン語が話されています。また地域文化論Bはラテンアメリカの文化を扱います。

テキスト

『ペルーを知るための66章』（明石書店）（第2版） 細谷広美編 明石書店 2000円＋税

* 第1版（64章）と誤って購入しないように注意して下さい。

参考書

『アンデスの宗教的世界ーペルーにおける山の神信仰の現在性』細谷広美著 明石書店 1997年

『他者の帝国ーインカはいかにして「帝国」となったか』染田秀藤、関雄二著 世界思想社 2008年

『復習と赦しのあいだージェノサイドと大規模暴力の後で歴史と向き合う』マーサ・ミノウ著 荒木教夫、駒井圭吾訳 信山社 1998年

その他授業中に適宜紹介していきます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	エスニック・スタディーズ		
教員名	石橋 純		
科目ナンバー	1251433205	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要			
カリブ、ラテンアメリカの音楽を素材とし、その社会・歴史・政治・文化と民衆音楽との関係を中心に論じます。まず総論としてラテンアメリカ音楽の特徴、スペイン・ポルトガル音楽との相違点、文化混濁と音楽などについて論じます。つぎにキューバを一例としてとりあげ、この島の伝統音楽が国際的に広まり、こんにちのサルサへと変貌し、グローバルマーケットに受容されるまでを論じます。中盤では「うた」に着目し、ロマンティック歌謡や社会批評の歌などを、地域横断で聴いていきます。このシリーズではとりわけ歌詞に着目します。講師の得意分野はベネズエラをはじめとするカリブ海域の音楽です。授業中に一度ラテンダンスの体験学習を実践します。またなんらかのかたちでライブ演奏を実施したいとも考えています。			

到達目標			
講義中に批判的な聴取を実践し、最終課題としてまとまりのある批評文を書くトレーニングを実践します。			

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーションと教師自己紹介	
	不要	0
第2回	ラテンアメリカ音楽の概要	
	不要	0
第3回	学生自己紹介セッション	
	各人のお気に入りのラテンアメリカ音楽を紹介しあう	120

第4回	ラテンアメリカ音楽の歴史と現在：キューバを例に	
	不要	0
第5回	アフロキューバン音楽の発展とサルサの誕生	
	不要	0
第6回	サルサの発展と凋落・再生　サルサ化したキューバ音楽	
	不要	0
第7回	トロピカルラテン音楽の現在　ヒップホップ、レゲトン、チカーノ音楽	
	不要	0
第8回	実践演習：サルサを踊る	
	不要	0
第9回	ラテンアメリカの歌①　ロマンティック歌謡の伝統	
	不要	0

第10回	ラテンアメリカの歌② 社会批評の歌	
	不要	0
第11回	レポートの書き方ガイダンス	
	不要	0
第12回	受講生発表	
	最終課題で取り上げる候補のアーティストの楽曲をプレイバックして紹介していただきます	120
第13回	ベネズエラの音楽① 日本ではほとんど知られていないベネズエラ音楽について概説します。	
	不要	0
第14回	ベネズエラの音楽② ホローボ、ガイタ、タンボール、カリプソなどベネズエラ音楽の個別ジャンルについて説明します。	
	不要	0
第15回	まとめ	
	不要	0

授業の方法

授業の方法はおもに音源と映像の再生に教師の解説をまじえた形式です。毎時間授業の終わりにリアクションペーパーを書いていただきます。

成績評価の方法

リアクションペーパー／（50.0%）

レポート／（50.0%）

その他／最終レポート（2000～4000字）提出が単位認定の条件です。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

第3回の授業で自己紹介を兼ねて各人のお気に入りのラテンアメリカ音楽やアーティストについて語っていただきます。いままでラテンアメリカ音楽を進んで聴いたことのない方は受講までに何かしらのラミ音楽を聴いてみてください。ジャンルは問いません。最終レポートのためには、ご自分でラテンアメリカ音楽の音源あるいはライブコンサートを選び、入手あるいは聴きに行つて、その体験にもとづいて批評文を書いていただきます。平素からメディアに発表される音楽評論を読んでみてください。ジャンルは問いません。

テキスト

プリント配布

参考書

石橋純『熱帯の祭りと宴：カリブ海音楽紀行』つけ書房新社、2002年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	文化人類学特講		
教員名	上杉 妙子		
科目ナンバー	1251433207	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
テーマ：戦争と軍隊の人類学 2001年の米国同時多発テロとそれに続く「テロとの戦い」は、世界のあり方を大きく変えてしまいました。特に注目されるのが軍隊と社会の関係です。 前線と後方の区別がなくなったということが指摘されて久しいですが、今日では、home-grown terrorist（自国育ちのテロリスト）の出現が、戦場と生活世界がずれつつ重なっているという事実を私たちに突きつけています。社会融和の思想であった多文化主義は、テロとの戦いに従事する軍隊の組織原理として用いられています。文化・社会人類学者を戦争遂行のために動員しようとする国家があるため、テロとの戦いは「人類学者の戦争」であるという人がいます。このような状況下で、ジェンダー解放運動でさえ軍事化の影響を被っているとする指摘があります。軍事関連の産業なくしては国民経済ないし地域経済が成り立たないという国家ないし地域社会があります。徴兵制を実施している社会では、軍隊生活を経験するということが一人前の男性になるための通過儀礼であるとみなされています。社会の軍事化という要素を無視して、現代の文化・社会の動態を理解することは、ますます難しくなりました。加えて、第二次世界大戦後70年以上にわたり平和を享受してきた日本においても、軍事的脅威の存在が論じられ、軍隊と社会の距離について考えさせられる機会が増えています。 そこで、この講義では、現代社会についての理解を深めるために、戦争と軍隊についての文化人類学的研究の成果を紹介し検討を行います。			
到達目標			
戦争と軍隊についての文化・社会人類学的研究の成果を学ぶことにより、現代社会や国際情勢を理解し批判的に洞察する上で必要な学問的知見を獲得する。 自分の考えについて平易な文章で説明できるようにする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	1. 導入-戦争と軍隊の人類学 授業の概要と評価基準、学習の仕方などについて説明する。		
	小課題に取り組み、次回の授業時に提出する。この小課題は授業内容の理解の促進と次回の授業に向けた準備を目的とするものである。講評を聞き、日々の学習に生かす。	復習と予習：合わせて60分程度	
第2回	2. 人類学と戦争-未開の戦争と文明の戦争、紛争の民族誌		
	同上	同上	
第3回	3. 戦争・軍隊の変容-「低強度紛争」と「新しい戦争」 第二次世界大戦以降の戦争・紛争の変容について学修する。		
	同上	同上	

第4回	4. 戦争・軍隊の変容-近代の軍隊と「ポストモダンな軍隊」 近代以降の軍隊組織の変容について学修する。	
	同上	同上
第5回	5. 市民権／国籍と軍務-歴史の変遷 市民権／国籍と軍務の結びつきの歴史の変遷について学修する。	
	同上	同上
第6回	6. 市民権・国籍と軍務 軍務が特定の階層や民族に集中していたり、外国人兵士が雇用されたりすることについて理解を深める。	
	同上	同上
第7回	7. 民間軍事会社 民間軍事会社の出現の要因について学修する。	
	同上	同上
第8回	8. 民間軍事会社の利点と問題点 具体的な事例を参考としながら、民間軍事会社の利点と問題点について学修する。	
	同上	同上
第9回	9. 軍隊とジェンダー-女性兵士と現代の軍隊 女性兵士の出現がもたらした様々な葛藤や問題を取り上げ、軍務とジェンダー観念の齟齬について学修する。	
	同上	同上

第10回	10. 軍隊と軍人家族 主に西欧諸国を事例として取り上げながら、軍隊の家族政策について学修する。	
	同上	同上
第11回	11. 軍隊と宗教-政教分離とチャプレン制度 西欧の軍隊で雇用されているチャプレン(従軍司祭)を取り上げ、近代国家における政教分離や宗教の軍事化について学修する。	
	同上	同上
第12回	12. 兵士のPTSD 兵士の心的外傷後ストレス障害について取り上げ、軍隊が期待する兵士像と兵士の葛藤について学修する。	
	同上	同上
第13回	13. 「人類学者の戦争」 米国における文化・社会人類学者の戦争への関与について学修する。	
	同上	同上
第14回	14. 戦争と民族、ナショナリズム 民族紛争の原因について理解を深めるために、エスニシティについての理論を学修する。	
	同上	同上
第15回	15. 到達度確認テスト 到達度確認テストを実施する。終了後に解説を行う。	
	授業ノートを整理して自分の考えをまとめておく。	予習：120分程度

授業の方法

主に講義形式で進めていきます。授業の内容と関連したビデオ視聴や資料配布も実施します。授業内容の理解の促進を図るために、毎回、小課題を提出してもらいます。授業の冒頭で小課題について講評し、質問についても答えます。授業についての質問は随時受け付けます。

都合により授業内容を変更することがあります。

成績評価の方法

主に到達度確認テストと小課題の提出により評価する予定です。評価割合は到達度確認テストを60-70パーセント程度、小課題を30-40パーセントとする予定です。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 評価にあたり、授業内容の理解度と、いくつかの知識を結びつけて理解したり分析したりする創造的理解力の双方を重視します。また、自分の考えを平易かつ正確な文章で表現することができるかどうかを勘案して評価します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特別な予備知識がなくても理解できるよう配慮します。しかし、文化人類学や近現代史、国際情勢について関心があることが望ましいと考えます。関連科目も履修するよう心がけて下さい。また、高校生の時に用いた社会科の教科書・副教材をそろえ適宜参照するようにしてください。毎日、新聞の政治面や経済面、国際面に目を通したり報道番組を視聴したりすることが好ましいです。

テキスト

テキストは指定しません。授業中に参考書を紹介します。

参考書

E. E. エヴァンズ=プリチャード『ヌアー族-ナイル系一民族の生業形態と政治制度の調査記録』（平凡社、1997年）、S. エンロー『策略-女性を軍事化する国際政治』（岩波書店、2006年）、小熊英二『市民と武装 -アメリカ合衆国における戦争と銃規制-』（慶應義塾大学出版会、2004年）、栗本英世『未開の戦争、現代の戦争』（岩波書店、1999年）、P. W. シンガー『戦争請負会社』（NHK出版、2004年）、田中雅一編『軍隊の文化人類学』（風響社、2015年）、三浦瑠麗『シビリアンの戦争-デモクラシーが攻撃的になるとき』（岩波書店、2012年）、S. ヒューズ『対テロ戦争と株式会社-「不安の政治」から営利をむさぼる企業』（河出書房新社、2007年）、G. Caforio (ed.) Handbook of the Sociology of the Military (New York: Springer, 2006), J. Gillis (eds.), The Militarization of the Western World (New Brunswick, NJ: Rutgers University Press, 1989), Moskos, C. C. et al. (eds.) The Postmodern Military: Armed Forces after the Cold War (Oxford: Oxford University Press, 2000) など。

その他の参考書については授業中に紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業前後に教室もしくは非常勤講師控室で受け付けます。気軽に声をかけてください。

科目名	社会人類学特講		
教員名	石田 慎一郎		
科目ナンバー	1251433208	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
本講義では、社会人類学の考え方と方法を学ぶ。 講義全体を貫く関心は、社会人類学の4つの方法的特徴、(1)文化相対主義(人類文化の多様性に対する寛容な理解)、現場主義(フィールドワークをつうじた実証研究)、全体論的アプローチ(文化・社会における部分と全体との関係を深く理解する)、比較(比較を通じた人類の多様性と普遍性の探求)を、具体的な研究事例を通じて理解することである。 第1回から第8回までは、家族内の人間関係をめぐる身近な(現代日本の)諸問題を、社会人類学的視点から批判的に思考し、文化相対主義の考え方と比較研究の実践例を学ぶ。第9回から第14回は、担当教員が実施しているケニア中央高地における社会人類学調査を参考に研究方法(フィールドワークならびに全体論的アプローチ)の具体例を学びつつ、ふたたび文化相対主義の意義と課題を考察する。			
到達目標			
社会人類学の考え方と方法を学ぶ。上記「テーマ・概要」の学習を通じて、「文化」「社会」をキーワードに現代社会を理解するうえでの批判的視点を身につけることを目標とする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	社会人類学への誘い：4つのアプローチ 社会人類学は、研究対象ではなく研究アプローチにおいてユニークな学問である。第1回講義では、文化相対主義・現場主義・全体論的アプローチ・比較の4つのアプローチについて概説することで、社会人類学の特徴を概説する。		
	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。		60
第2回	呼びかけのこぼれに現れる〈私たち〉の文化 社会人類学は、人間の社会的営み、私たちの日常生活のあらゆる側面を研究対象とするため研究テーマは多様である。だが、家族親族論についてとくに多大な研究蓄積をもっており、本講義でも前半はもっぱら家族親族論に相当するテーマを中心にとりあげる。それは家族がくらしと人間関係の基本となるため、人類学的に考えるうえで適した題材をとくに多く含むためでもある。第2回講義では、家族内におけるよびかけの言葉(親族呼称)を題材に、受講生をまじえた疑似フィールドワークの実験を実施し、家族の人類学への誘いをおこなう。		
	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。		60
第3回	親と子(1)「母性愛」再考 第3回講義のテーマは「母性愛」である。ここでは、現代日本の「赤ちゃんポスト」、江戸時代の捨て子を題材に、これらを「母性愛」の対極にある営みととらえるのではない視点を提示し、受講生とともに議論する。「母性愛」を絶対善とする語り口に対して、文化相対主義的視点からの批判的考察は可能か。第3回講義ではこのような問いが重要である。		
	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。		60
第4回	親と子(2)「生みの親」「育ての親」再考 第4回講義でのキーワードならびに論点は、「生物学的親子関係」と「社会的親子関係」の一致／不一致に対する文化的理解である。これは社会人類学の家族親族研究において古くて新しいテーマであり、かつ現代日本において新しいかたちでの問いとして各方面において注目されている。ここでの具体的事例は、代理出産をはじめとする生殖医療技術である。		
	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。		60

第5回	結婚と家族：東アフリカの「女性婚」「幽霊婚」から考える 第5回講義は、前回講義の内容と同一のテーマを東アフリカの民族誌事例から発展的に議論するものである。すなわち「生物学的親子関係」と「社会的親子関係」の一致／不一致の問題を、東アフリカのヌアー、グシイはそれぞれ固有の問題で解決してきた。その具体的な事例として「女性婚」「幽霊婚」を議論する。	
	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第6回	男と女：『サモアの思春期』と文化相対主義 思春期特有の心理的葛藤は、人間が避けることのできない普遍的な現象であるのか。第6回講義では、少年少女が思春期特有の心理的葛藤を経験せずに大人になることのできる社会について論じたマーガレット・ミードの民族誌とそれに対する根本的批判を紹介し、人間存在に対する自然科学的説明にたいする文化的説明を指向してきた社会人類学（文化人類学）の思想史的背景について概説する。ここでは、ミードの議論を一方向的に退けるのではなく、これまでの講義で考察した家族親族論の視点からあらためてその意義について考察する。	
	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第7回	前半の総括、授業内レポートへのコメント 前半の授業であつかったテーマについてあらためて総括し、授業内レポートを執筆する。また、授業内レポートの内容について担当教員がコメントをおこなう。	
	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第8回	文化相対主義の再定位 これまでの講義では、文化相対主義的態度の重要性、普遍主義に対する強力な批判としての可能性を強調してきた。だが、文化相対主義的態度を突き詰めた先に絶対的相対主義として現れる可能性（危険性）にも目をむけていく必要がある。第8回講義では、相対主義と普遍主義との相互補完関係を、浜本満、井上達夫、ロバート・レッドフィールド等の議論をふまえて考察する。	
	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第9回	文化と自由 第13回講義は、ウィル・キムリッカ等の議論の紹介からはじめて、文化と自由をテーマに議論をおこなう。社会人類学（文化人類学）は、個人の自由を束縛する存在としてではなく、補強する存在として文化を語ることはいかにして可能か。こうした問題意識を中心に議論する。	
	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第10回	人類学的実践としての民族誌 これまでの講義をふまえたうえで、ここからは担当教員がケニア中央高地ですべての社会人類学研究の事例を手がかりに、人類学的実践としての民族誌の具体的な内容と、民族誌をふまえたうえでの比較研究の可能性を議論する。	
	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60

第11回	オルタナティブ・ジャスティス：ケニア農耕民メルのムーマ 第10回講義は、ケニア中央高地の農耕民イゲンベ地方におけるムーマ（無罪宣誓）を題材に、いわゆる神判的紛争処理・犯罪解決の合理性について、比較分析的視点で議論をおこなう。ここでの比較対象は日本中世の鉄火起請等である。イゲンベのムーマでは、被告側が呪物を飲み込む等のうえで無罪宣誓をおこない、それに対して原告側は呪物の効果を待ち続けなければならない。裁判人は原告と被告のどちらが正しいかをその場で結論することはしない。そうした紛争処理・犯罪解決の合理性、妥当性をどのように考えることができるのだろうか。それが第10回講義での中心的な問いである。	
	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第12回	嗜好品と文化：ケニア中央高地のミラー 第11回講義では、東アフリカやアラビア半島で地域固有の嗜好品として古くから利用されてきたカート（ミラー）を題材に、嗜好品をめぐる文化と政治について議論する。アメリカをはじめ一部の国ではカートは違法ドラッグとして禁止されており、ケニア産カートの輸出先となっているイギリス等においても根強い禁止論がある。カートをめぐる麻薬化の語り口に対する批判的視点をふまえたうえで、第11回講義では、映画『おいしいコーヒーの真実』においてのエチオピア農民のコーヒー栽培からカート栽培への転換の描き方について受講生とともに議論する。ケニア中央高地の農耕民イゲンベはケニア最大のカート生産者コミュニティであり、ロンドン等在住のソマリ人移民はイギリスにおける最大のカート消費者コミュニティである。	
	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第13回	時間世界と歴史意識：ケニア農耕民の年齢組体系 第12回講義では、分節リネージ体系を特徴とするニューギニア高地エンガ社会ならびにケニア西部高地グシイ社会との比較のなかで、ケニア中央高地の農耕民イゲンベ社会における年齢組体系特有の時間世界・歴史意識について考察する。イゲンベ社会は、祖先の個人名を記憶しない社会でありながら、民族全体の歴史を記憶する社会でもある点で、そして円環的な時間的世界を持つ点で、上記2つの社会とは異なっている。本講義では、もうひとつの比較軸を小馬倣の比較分析的論考に求める。	
	【復習】今回学んだキーワードについて説明できるようにする。配布したレジメに掲載の資料を熟読すること。	60
第14回	後半の総括、授業内レポートへのコメント 後半の授業であつかったテーマについてあらためて総括し、授業内レポートを執筆する。また、授業内レポートの内容について担当教員がコメントをおこなう。	
	【復習】これまでの授業内容を確認し、試験に備える。	120
第15回	総括と試験	
	【復習】試験問題について十分に解答できなかった箇所については担当教員に質問し、学修課題を確認する。	60
授業の方法		

基本的に講義形式で行うが、リアクションペーパーまたは授業内レポートをもちいて受講生との双方向性を高めるよう工夫する。また、映像教材を用いる。

成績評価の方法

授業内での筆記・提出をもとめるリアクションペーパーまたは授業内レポート（50%）と学期末試験（50%）を基本として総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

各回レジメ（A4両面印刷1枚）を配付する。

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フランスの歴史と文化 A		
教員名	増田 都希		
科目ナンバー	1251433301	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
◇マナーブックから読む 16～18 世紀フランス 16世紀から18世紀のフランスで流行した本の1つに「マナーブック」があります。「マナー」とは、ある集団や社会において良好な人間関係を築くことで社会をうまく動かしていくための約束事です。人びとがどのような社会を目指すのかは時代・地域に応じて異なり、反対に社会が個々人に求めるものも異なる以上、「マナー」も時代・地域によって大きく異なり、変化します。 17、18世紀のフランスは、身分制の不平等社会からすべての人間の法の下での平等を宣言した1789年フランス革命へと、政治的、経済的、文化的に大きく揺れながら近代化の道を進んでいました。そのような時代において、どのような人びとが、何を求めてマナーブックを読んだのか、そしてそこには何が書かれていたのか。マナーブックが流行した時代背景を探りながら、近世フランス社会を読み解いていきましょう。			
到達目標			
1) 「社会史」「文化史」の成立の背景を理解し、従来の歴史との違いを明確に説明できる。 2) 16～18 世紀フランスにおけるマナーをめぐる議論の主要な論点を説明できる。 3) マナーブックを通じて見られる16～18世紀フランス（ヨーロッパ）の政治的、社会的特徴とその変化を理解し、説明できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、評価、予習・復習の仕方などについて ・「フランス社会史・文化史」について		
	「実証主義」「社会史」「文化史」「アナル学派」の定義を辞書などで調べてきてください。		60分
第2回	16世紀のヨーロッパとマナーブック（その1）： 流行の背景		
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。		60
第3回	16世紀のヨーロッパとマナーブック（その2）： ・エラスムス『少年行儀作法論』（1530） ・カスティリオーネ『宮廷人』（1528）		
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。		90分

第4回	キリスト教的マナー論と初頭教育： 廉価本のマナーブック『少年行儀作法集』	
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60分
第5回	17, 18世紀フランスのマナーブック（その1）： ジャン＝バティスト・ドラ＝サル 『キリスト教の行儀作法』（1703）	
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60分
第6回	17, 18世紀フランスのマナーブック（その2）： アントワヌ・ド・クルタン 『新 フランス紳士の実践する行儀作法』（1671）	
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60分
第7回	ここまでの小括（映像資料）	
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60分
第8回	17, 18世紀フランスとマナーブック： ふるまいの文明化と絶対王政の成立	
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60
第9回	マナー論争（その1）： マナーは誰のもの？ Civilitéとpolitesseの緊張関係	
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60

第10回	作法論争（その2）： 作法論の宗教および身分論からの解放	
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60
第11回	作法論争（その3）： 文明批判とマナー・・・内面と外見の溝	
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60
第12回	フランス革命と市民的マナーの創設	
	現代日本でのマナーブックを参照し、市民（社会人）に求められるマナー、女性／男性特有の特有のマナーを書き出してください。	75
第13回	「読書の歴史」と「マナーブック」	
	ビジネス・マナーについての書物、冠婚葬祭についての書物など、現在どのような”マナーブック”が出回っているか、どのようなことが書かれているのか、書店など	75
第14回	到達度確認テスト	
	これまでの講義のレジュメを読み直し、試験に備える。	120
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答 授業のまとめ	
	自身の回答を読み返し、質問すべき点を確認する。	60

授業の方法

授業は講義を中心に進める。各講義の最後に与えるテーマについて、リアクション・ペーパーを提出すること。
なお、各リアクション・ペーパー、期末試験の狙いは、下記「成績評価の基準」に挙げた目標と同じ。

成績評価の方法

平常点（出席、各テーマの最後に行うリアクション・ペーパー）4割、期末試験4割、レポート2割
で総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

以下の点に注目し、その達成度によって評価する。

- 1) 「社会史」「文化史」の成立の背景を理解し、従来の歴史との違いを明確に説明できる。
- 2) 16世紀から18世紀フランスにおけるマナーをめぐる議論の主要な論点を説明できる。
- 3) マナーブックを通じて見られる16～18世紀フランス（ヨーロッパ）の政治的、社会的特徴とその変化を理解し、説明できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校で学ぶ世界史程度のフランス史の知識を必要とします。

テキスト

特にありません。プリントを適宜配布します。

参考書

- ・小田中直樹『歴史学ってなんだ？』PHP新書286、2004。
- ・ロジェ・シャルチエ「差異の創出と文化モデルの普及」 in 『読書と読者』長谷川輝夫・宮下志朗訳、みすず書房、1994年。
- ・ジャン・スタロバンスキー「civilisationという語」 in 『病のうちに治療薬』法政大学出版、1993年。
- ・ノルベルト・エリアス『文明化の過程』法政大学出版局、1977年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	フランスの歴史と文化B		
教員名	増田 都希		
科目ナンバー	1251433302	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
◇「砂糖」から見る、世界システムにおけるフランス、ヨーロッパ（16c～19c） 今ではごくありふれた食材である「砂糖」はかつて、現代の石油のように、世界中の国々が文字通り命がけで追い求める希少品であり、生活必需品でした。「砂糖を制する者が世界を制する」時代があったのです。 フランスおよびヨーロッパで果たした砂糖の役割は、イスラム圏、アジア、とりわけ両アメリカ大陸、カリブ海、アフリカ大陸を巻き込む「世界システム」の中でより明らかにすることができます。まさにグローバルな商品であった「砂糖」という一つのモノを通じて、近代フランスの政治、経済、文化を捉えます。			
到達目標			
1）「世界システム論」とは何か、その特徴を簡潔に説明できる。 2）16世紀から19世紀フランス（ヨーロッパ）において、砂糖が担った役割を、政治、経済、文化の3側面から説明できる。 3）砂糖を通じて見られる16～18世紀フランス（ヨーロッパ）の世界史上の位置づけを説明できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス： 授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方、評価など		
	高校で学習した16世紀から19世紀の世界史を見直してください。	60	
第2回	世界商品としての「砂糖」：アジア、イスラム、ヨーロッパ		
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60	
第3回	新世界の「発見」と砂糖プランテーションの拡大： 砂糖から見るヨーロッパの覇権争い		
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60	

第4回	砂糖プランテーションの拡大と奴隷貿易	
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60
第5回	砂糖貿易を支えた人びと ：プランター、奴隷、砂糖精製業者・・・	
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60
第6回	砂糖とヨーロッパ資本主義システム	
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60
第7回	これまでの小括（映像資料）	
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60
第8回	スパイスから砂糖へ、辛味から甘味へ ：中世料理から近代料理へ	
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60
第9回	フランス宮廷料理における甘いデザート：装飾菓子	
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60

第10回	アルコールからノンアルコール飲料へ： イギリスの紅茶、フランスのカフェ	
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60
第11回	アメリカ独立革命、フランス革命、イギリス産業革命（その1）	
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60
第12回	奴隷制の終焉とハイチ、ラテンアメリカの独立、 そしてその後	
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60
第13回	一国史観を越えて：歴史学研究における「世界システム論」	
	前回講義のレジュメを読み直し、復習してください。	60
第14回	到達度テスト	
	これまでの講義のレジュメをすべて読み直して復習してください。	120
第15回	到達度テストの振り返り、質問、授業のまとめ	
	テスト問題を読み直し、質問すべき点を確認してください。	60

授業の方法

授業は講義を中心に進める。各講義の最後に与えるテーマについて、リアクション・ペーパーを提出すること。
なお、各リアクション・ペーパー、期末試験の狙いは、下記「成績評価の基準」に挙げた目標と同じ。

成績評価の方法

平常点（出席、各テーマの最後に行うリアクション・ペーパー）4割、期末試験4割、レポート2割で総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

以下の点に注目し、その達成度によって評価する。

- 1) 「世界システム論」とは何か、その特徴を簡潔に説明できる。
- 2) 16世紀から19世紀フランス（ヨーロッパ）において、砂糖が担った役割を、政治、経済、文化の3側面から説明できる。
- 3) 砂糖を通じて見られる16～18世紀フランス（ヨーロッパ）の世界史上の位置づけを説明できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校で学ぶ世界史程度のフランス史の知識を必要とします。

テキスト

プリントを適宜配布します。

参考書

川北稔『世界システム論講義』ちくま学術文庫、2016年。
武田尚子『チョコレートの世界史—近代ヨーロッパが磨き上げた褐色の宝石』中公新書、2010年。
角山栄『改版 茶の世界史—緑茶の文化と紅茶の社会』中公新書、2017（1980）年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	ドイツの歴史と文化A		
教員名	三浦 國泰		
科目ナンバー	1251433303	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
この授業では、近代ドイツの歴史を時代背景にしながら、ドイツを代表する文豪ゲーテ以降の文学、音楽、思想・哲学などを中心に、ドイツの芸術・精神文化を概観する。			
到達目標			
ドイツの芸術・精神文化を習得することによって、ドイツがより身近な国になり、なぜドイツが現在のヨーロッパ連合の中心的役割を担っているのかを理解できればよい。 英語圏一極中心主義ではなく、多言語・多文化の共存と視野の広い国際感覚を身につけること。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・ドイツ語圏の地理と風土		
	【予習】 ・シラバスをよく読んでおくこと。		30
第2回	神聖ローマ帝国(962~1806)と領邦国家 ・ルターの宗教改革・聖書翻訳		
	【予習】 ・授業に関連する作家などのオリジナル作品を読むこと。 【復習】 ・講義ノートを整理すること。		60
第3回	ゲーテの時代(1) : 18世紀~19世紀初頭 ・『若きウェルテルの悩み』と疾風怒濤文学		
	【予習・復習】 同上。		60

第4回	ゲーテの時代（2） ・『ファウスト』第一部	
	【予習・復習】 同上。	60
第5回	ゲーテの時代（3） ・『ファウスト』第二部（古典主義とロマン主義の融合）	
	【予習・復習】 同上。	60
第6回	ドイツ・ロマン主義（1） ・ロマン主義の理念とロマン派の詩人たち ・ドイツの音楽（バッハ、モーツァルト、ベートーヴェンなど）	
	【予習・復習】 同上。	60
第7回	ドイツ・ロマン主義（2） ・グリム兄弟とドイツ国民精神	
	【予習・復習】 同上。	60
第8回	ドイツの哲学（1） ・啓蒙主義と観念論（カント）	
	【予習・復習】 同上。	60
第9回	ドイツの哲学（2） ・ニーチェ（価値の逆転）	
	【予習・復習】 同上。	60

第10回	ドイツの哲学（3） ・ハイデガー（存在論）	
	【予習・復習】 同上。	60
第11回	近代ドイツ文学（1） ・ヘルマン・ヘッセ（青春彷徨）	
	【予習・復習】 同上。	60
第12回	近代ドイツ文学（2） ・カフカ（不条理の文学）	
	【予習・復習】 同上。	60
第13回	近代ドイツ文学（3） ・トーマス・マン（教養小説）	
	【予習・復習】 同上と到達度確認テストの準備。	120
第14回	近代ドイツ文学（4） ・トーマス・マン『ドイツとドイツ人』 ・悪魔との契約とは？	
	【予習・復習】 同上と到達度確認テストの準備。	120
第15回	到達度確認テスト	
	【復習】 同上と到達度確認テストの準備。	120

授業の方法

- ・講義を中心とするが、できるだけ受講生との対話を心がける。
- ・講義内容と関連する画像・映像の提示、ドイツに関するニュースやエピソードの紹介も行いたい。

成績評価の方法

平常点（リアクションペーパー）20%、授業への積極的な参加20%、達成度確認テスト60%をめやすに総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識は特に必要ないが、関連科目として、ドイツの歴史と文化B、ドイツ文化・文化史特講A・B、ヨーロッパの文学A・B、あるいは、思想・哲学、芸術に関する授業が参考になる。

テキスト

テキストは特に指定しないが、以下の図書を読んでおくと、講義の概要をつかめる。

- ・阿部謹也著 『物語 ドイツの歴史 -ドイツ的とは何か-』 中公新書（1420）。
- ・手塚富雄・神品芳夫著 『増補 ドイツ文学案内』 岩波文庫。
- ・トーマス・マン著（青木順三訳） 『ドイツとドイツ人』 岩波文庫。

参考書

- ・参考書は、授業中に随時指示する。
- ・解説書中心ではなく、この機会にゲーテやトーマス・マン、ヘルマン・ヘッセ、ニーチェなどのオリジナル作品に接して欲しい。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	ドイツの歴史と文化B		
教員名	田中 一嘉		
科目ナンバー	1251433304	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
本講義では、古代から近代にかけての文学・芸術作品からゲルマン民族固有の歴史・文化について学びます。古代から中世にかけては、古代ローマ帝国側から見たゲルマン民族、ゲルマン民族内で伝承された神話・伝説の双方から、当時のゲルマン民族の文化に迫っていきます。 ドイツ語の文学としては12世紀を境に開花・発展の段階に入ります。中世期の代表的な文学作品を題材として、当時のドイツ（神聖ローマ帝国）ひいては西欧世界の特質について学んでいきます。また、中世文学は近代ロマン主義時代以降、現代に至るまで様々な形態で受容・再生産されてきました。その過程を具体例を挙げながら述べていきます。			
到達目標			
古代、中世、近代それぞれの時代の文学・芸術作品から、各時代の社会的・文化的特徴を読み解くことができる。また、ヨーロッパ世界全体の中でドイツがどのような位置にあったのかを分析する視点を養う。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション 授業の進め方、期末レポートについて		
	予めシラバスを読み、関心のある作品・テーマに触れておく。		60
第2回	古代から中世にかけてのゲルマン民族の習俗・文化 タキトウス『ゲルマーニア』、カエサル『ガリア戦記』		
	古代・中世の西洋史を概観できるようにしておく。		90
第3回	北欧神話『エッダ』 ゲルマン的世界観 神族と人間とのつながり 世界の創造と滅亡（ラグナロク）		
	前回の授業内容の復習。		90

第4回	北欧伝説『ヴォルスンガ・サガ』 ヴォルスンガー族の系譜 シグルズ伝説とブルグント伝説	
	前回の授業内容の復習。	90
第5回	中世ヨーロッパ世界の中のドイツ 封建制と宮廷社会 神聖ローマ帝国 十字軍	
	前回の授業内容の復習。	90
第6回	英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』（1） ジーフリット伝説とブルグント伝説（北欧伝説との関連性） 物語中の出来事と歴史事実との照応関係	
	前回の授業内容の復習。	90
第7回	英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』（2）： クリエムヒルト：夫ジーフリット暗殺に対する復讐とブルグントー族の滅亡	
	前回の授業内容の復習。	90
第8回	世俗文学におけるキリスト教の聖者伝 ハルトマン・フォン・アウエ『グレゴorius』、『哀れなハインリヒ』	
	前回の授業内容の復習。	90
第9回	聖杯王伝説とアーサー王伝説 ヴォルフラム・フォン・エッシェンバハ『パルチヴァール』	
	前回の授業内容の復習。	90

第10回	十字軍と文学 『ローランの歌』、十字軍歌謡（抒情詩）	
	前回の授業内容の復習。	90
第11回	ルターの宗教改革と啓蒙主義時代 中世的世界観から近代的世界観への転換点 シラー『ヴィルヘルム・テル』、『ヴァレンシュタイン』、『オルレアンの乙女』	
	前回の授業内容の復習。	90
第12回	中世文学・伝説の近代における受容（1） リヒャルト・ワーグナー『タンホイザー』 タンホイザー伝説とヴァルトブルクの歌合戦伝説 中世詩人の伝説化	
	前回の授業内容の復習。	90
第13回	中世文学・伝説の近代における受容（2） ゲーテ『ファウスト』 中世後期のファウスト伝説	
	前回の授業内容の復習。	90
第14回	中世文学・伝説の近代における受容（3） ノヴァーリス『青い花』 近代ロマン主義時代における中世史観 市民革命と新しい世界像	
	前回の授業内容の復習。	90
第15回	総括 期末レポート執筆に向けた準備	
	前回の授業内容の復習。	90

授業の方法

講義形式で進めます。
毎回コメントペーパーを配布し、授業内容の確認と質問・感想などを記入してもらいます。
期末レポートの執筆に向けて、随時興味・関心のある作品を読み進めてください。

成績評価の方法

平常点（コメントペーパーの内容、授業への貢献度）50%、期末レポート50%による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

ヨーロッパの歴史について高校参考書程度の知識があることが望ましいですが、ひろくヨーロッパ文化圏の文学・思想・芸術や歴史に関心を持っていれば十分です。

テキスト

初回授業で紹介します。

参考書

適宜、授業内で紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	イギリスの歴史と文化 A		
教員名	竹内 敬子		
科目ナンバー	1251433305	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
イギリスの歴史と文化を、いくつかのトピックを取り上げる形で学ぶ。 並行してイギリス史の流れを概観するコーナーも設ける。 イギリスと日本の関係や、イギリスの現代と過去の関係にも留意しながら授業を進める。			
到達目標			
DP 6（文化現象の総合的理解）を実現するため、以下を到達目標とする。 1. イギリスの歴史と文化の基礎的知識を身につける。 2. 過去を学ぶことで現代を相対化する力を身につける。 3. イギリスの文化・歴史を学ぶことで自国や自国史を相対化する力を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	はじめに—ユニオンジャックと4つの国 イギリスは4つの国からなっています。昨年の「スコットランド独立」は、これが3つの国となる可能性をもつものでした。イギリスという国の複雑な成り立ちと4つの国の関係について学びます。 関連する文献や新聞記事を読む		
		60	
第2回	イギリスの政治文化 イギリスは議会政治の母国とも言われます。イギリス議会制度の成り立ちを振り返りながら、今日のイギリスの政治についても学びます。 関連する文献や新聞記事を読む		
		60	
第3回	イギリスの政治文化 イギリスは議会政治の母国とも言われます。イギリス議会制度の成り立ちを振り返りながら、今日のイギリスの政治についても学びます。 関連する文献や新聞記事を読む		
		60	

第4回	イギリスの政治文化	
	イギリスは議会政治の母国とも言われます。イギリス議会制度の成り立ちを振り返りながら、今日のイギリスの政治についても学びます。	
第5回	日本とイギリス	
	第一次世界大戦の時、日本とイギリスは同盟国でした。が、第二次世界大戦では敵国でした。日本とイギリスの関係の歴史について学びます。	
第6回	日本とイギリス	
	第一次世界大戦の時、日本とイギリスは同盟国でした。が、第二次世界大戦では敵国でした。日本とイギリスの関係の歴史について学びます。	
第7回	王室の恋愛と結婚	
	ウィリアム王子とキャサリン妃のロイヤルウェディングは世界的な注目を集めました。が、過去を振り返るなら、王室における恋愛と結婚は「政治そのもの」とも言えます。	
第8回	王室の恋愛と結婚	
	ウィリアム王子とキャサリン妃のロイヤルウェディングは世界的な注目を集めました。が、過去を振り返るなら、王室における恋愛と結婚は「政治そのもの」とも言えます。	
第9回	王室の恋愛と結婚	
	ウィリアム王子とキャサリン妃のロイヤルウェディングは世界的な注目を集めました。が、過去を振り返るなら、王室における恋愛と結婚は「政治そのもの」とも言えます。	

第10回	紅茶と帝国 イギリスと言えば「紅茶」を思い浮かべる人も少なくないでしょう。しかし、イギリスと「紅茶」の関わりは、長いイギリスの歴史の中ではさほど長くありません。「紅茶」は「大英帝国」の形成とも深く関わっています。王室の恋愛と結婚
	関連する文献や新聞記事を読む 60
第11回	紅茶と帝国 イギリスと言えば「紅茶」を思い浮かべる人も少なくないでしょう。しかし、イギリスと「紅茶」の関わりは、長いイギリスの歴史の中ではさほど長くありません。「紅茶」は「大英帝国」の形成とも深く関わっています。
	関連する文献や新聞記事を読む 60
第12回	紅茶と帝国 イギリスと言えば「紅茶」を思い浮かべる人も少なくないでしょう。しかし、イギリスと「紅茶」の関わりは、長いイギリスの歴史の中ではさほど長くありません。「紅茶」は「大英帝国」の形成とも深く関わっています。
	関連する文献や新聞記事を読む 60
第13回	多文化社会イギリス イギリスには、さまざまなエスニシティの人々が住んでいます。摩擦もあるし、共存の試みもあります。多文化社会イギリスについて学びます。
	関連する文献や新聞記事を読む 60
第14回	多文化社会イギリス イギリスには、さまざまなエスニシティの人々が住んでいます。摩擦もあるし、共存の試みもあります。多文化社会イギリスについて学びます。
	関連する文献や新聞記事を読む 60
第15回	まとめ
	これまでの授業の復習 60

授業の方法

講義形式。適宜、映像も利用する。

成績評価の方法

期末レポート（65%）およびレスポンスペーパー（35%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「イギリスの歴史と文化B」「イギリス文化・文化史特講A・B」。

テキスト

授業中にレジュメを配布します。

参考書

井野瀬久美編『イギリス文化史』（昭和堂）

近藤和彦『イギリス史十講』（岩波新書）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	イギリスの歴史と文化B		
教員名	竹内 敬子		
科目ナンバー	1251433306	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
イギリスの歴史と文化を、いくつかのトピックを取り上げる形で学ぶ。 並行してイギリス史の流れを概観するコーナーも設ける。 イギリスと日本の関係や、イギリスの現代と過去の関係にも留意しながら授業を進める。			
到達目標			
DP6(文化現象の総合的理解)を実現するため、以下の3点を到達目標とする。 1. イギリスの歴史と文化の基礎的知識を身につける。 2. 過去を学ぶことで現代を相対化する力を身につける。 3. イギリスの文化・歴史を学ぶことで自国や自国史を相対化する力を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	関連する文献や新聞記事を読む		60
第2回	工業化の光と陰 最初の工業国家となったイギリスは、環境汚染や都市問題などの大規模で深刻な社会問題にも初めて直面することになりました。イギリス人がそれにどう対応しようとしたのか、を学びます。		
	関連する文献や新聞記事を読む		60
第3回	工業化の光と陰 最初の工業国家となったイギリスは、環境汚染や都市問題などの大規模で深刻な社会問題にも初めて直面することになりました。イギリス人がそれにどう対応しようとしたのか、を学びます。		
	関連する文献や新聞記事を読む		60

第4回	工業化の光と陰 最初の工業国家となったイギリスは、環境汚染や都市問題などの大規模で深刻な社会問題にも初めて直面することになりました。イギリス人がそれにどう対応しようとしたのか、を学びます。	
	関連する文献や新聞記事を読む	60
第5回	イギリス人とスポーツ サッカー、テニス、など、私たちが今日楽しんでいるスポーツの多くのルールや制度を整え「近代スポーツ」にしたのはイギリスです。イギリス人とスポーツの関係について学びます。	
	関連する文献や新聞記事を読む	60
第6回	イギリス人とスポーツ サッカー、テニス、など、私たちが今日楽しんでいるスポーツの多くのルールや制度を整え「近代スポーツ」にしたのはイギリスです。イギリス人とスポーツの関係について学びます。	
	関連する文献や新聞記事を読む	60
第7回	イギリス人とスポーツ サッカー、テニス、など、私たちが今日楽しんでいるスポーツの多くのルールや制度を整え「近代スポーツ」にしたのはイギリスです。イギリス人とスポーツの関係について学びます。	
	関連する文献や新聞記事を読む	60
第8回	イギリス人と階級 イギリスを理解するためには「階級」について学ぶ必要がある、と言われます。とても複雑で分かりにくい、しかし、興味深い、イギリス人と階級の関係について学びます。	
	関連する文献や新聞記事を読む	60
第9回	イギリス人と階級 イギリスを理解するためには「階級」について学ぶ必要がある、と言われます。とても複雑で分かりにくい、しかし、興味深い、イギリス人と階級の関係について学びます。	
	関連する文献や新聞記事を読む	60

第10回	イギリス人と階級 イギリスを理解するためには「階級」について学ぶ必要がある、と言われます。とても複雑で分かりにくい、しかし、興味深い、イギリス人と階級の関係について学びます。	
	関連する文献や新聞記事を読む	60
第11回	ジェンダーとセクシュアリティ 世界経済フォーラムによる2015年のジェンダーギャップ指数は日本が101位なのに対し、イギリスは18位。また、イギリスでは同性婚が合法化されています。イギリスにおけるジェンダーとセクシュアリティをその歴史もふりかえりながら学びます。	
	関連する文献や新聞記事を読む	60
第12回	ジェンダーとセクシュアリティ 世界経済フォーラムによる2015年のジェンダーギャップ指数は日本が101位なのに対し、イギリスは18位。また、イギリスでは同性婚が合法化されています。イギリスにおけるジェンダーとセクシュアリティをその歴史もふりかえりながら学びます。	
	関連する文献や新聞記事を読む	60
第13回	イギリス人と学び イギリスの教育制度は複線的でとても複雑です。イギリスにおける教育の歴史と特徴について学びます。	
	関連する文献や新聞記事を読む	60
第14回	イギリス人と学び イギリスの教育制度は複線的でとても複雑です。イギリスにおける教育の歴史と特徴について学びます。	
	関連する文献や新聞記事を読む	60
第15回	まとめ 	
	これまでの授業の復習	60

授業の方法

講義形式。適宜、映像も利用する。

成績評価の方法

期末テスト（65%）およびレスポンスペーパーなど（35%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「イギリスの歴史と文化A」「イギリス文化・文化史特講A・B」。

テキスト

授業中にレジュメを配布します。

参考書

井野瀬久美編『イギリス文化史』（昭和堂）
君塚直隆『物語イギリスの歴史(上)(下)』（中公新書）
近藤和彦『イギリス史十講』（岩波新書）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	アメリカの歴史と文化 A		
教員名	中野 由美子		
科目ナンバー	1251433307	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
アメリカ合衆国は、日常生活から国家間の外交に至るあらゆるレベルにおいて、日本で生活する私たちにとって身近な存在であるように思われる。けれども、日本の大学生がアメリカ合衆国に対して抱くイメージは、一般的に、ニュースや映画などから断片的に得た知識や情報に基づいていることが多いのではないだろうか。 本講義では、多文化・多民族社会アメリカ合衆国の形成・変容過程を歴史的に理解することによって、本質的な「アメリカ」理解のための必要条件の一つを満たすことを第一の目的とする。加えて、現代社会における人種、エスニシティ、ジェンダーなどの差異に関する理論的枠組みの基礎を学ぶ。これらの作業を通じて、現在の日本に生きる私たちにとって身近で切実な諸問題と照らし合わせながら、アメリカ合衆国の歴史と現状への理解を深める。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、DP6（文化現象の総合的理解）を達成するために、以下の3点を到達目標とする。 ① アメリカ合衆国史に関する基礎的な歴史知識を修得する。 ② 現代社会の諸相を理解するうえで不可欠な基礎概念（たとえば、人種、エスニシティ、ジェンダーなど）について理解し、その特質を説明できる。 ③ 社会の諸問題を理解するために必要な文字史料・映像史料を批判的に分析することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	なぜ歴史を学ぶのか - 世界史のなかのアメリカ合衆国 ・講義の内容、進め方、課題等を説明する。		
	テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。		60
第2回	アメリカ史における社会史のアプローチ ・指定テキストの特徴を理解する。 ・本講義が対象としているテーマ、そして時間の都合上扱うことができないテーマ等について確認する。		
	テキストの指定箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。		60
第3回	空間的・環境的観点からみたアメリカ史 ・映像史料に基づき、合衆国の自然環境の多様性を確認する。		
	テキストの指定箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。		60

第4回	多文化社会アメリカの形成－（１）アメリカ先住民の歴史（その１） ・先住民の視点からみたアメリカ史について学修する。	
	テキストの指定箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第5回	多文化社会アメリカの形成－（１）アメリカ先住民の歴史（その２） ・先住民の視点からみたアメリカ史について学修する。	
	テキストの指定箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第6回	多文化社会アメリカの形成－（２）ヨーロッパ系移民の歴史 ・ヨーロッパ系移民の多様性と差異について学修する。	
	テキストの指定箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第7回	多文化社会アメリカの形成－（３）アフリカ系アメリカ人の歴史（その１） ・アメリカ史における奴隷制について学修する。	
	テキストの指定箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第8回	多文化社会アメリカの形成－（３）アフリカ系アメリカ人の歴史（その２） ・アメリカ史における「人種」概念の生成と変容について学修する。	
	テキストの指定箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第9回	小括 ・映像史料をもとに、これまでの内容を復習する。	
	テキストの指定箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60

第10回	多文化社会アメリカの形成- (4) ラティーノ・ヒスパニックの歴史 (その1) ・ラティーノ・ヒスパニックについての基礎知識と、「非合法移民」をめぐる論争を理解する。	
	テキストの指定箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第11回	多文化社会アメリカの形成- (4) ラティーノ・ヒスパニックの歴史 (その2) ・ラティーノ・ヒスパニックについての基礎知識と、「非合法移民」をめぐる論争を理解する。	
	テキストの指定箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第12回	多文化社会アメリカの形成- (5) アジア系移民の歴史 (その1) ・アジア系移民に関するステレオタイプの変遷について、理解する。	
	テキストの指定箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第13回	多文化社会アメリカの形成- (5) アジア系移民の歴史 (その2) ・アジア系移民の流入と移民排斥運動について理解する。	
	テキストの指定箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第14回	小括 ・映像史料に基づき、これまでの内容を復習する。	
	テキストの指定箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60
第15回	全体のまとめ これまでの内容について、全体的におさらいする。	
	テキストの指定箇所をよく読み、自分の言葉でまとめておくこと。	60

授業の方法

通常は講義形式で行う。また、講義中に数回、映像や文書史料などを用いた史料分析のトレーニングも行う。

成績評価の方法

講義中に数回課す課題＝平常点（30％程度）、学期末試験（＝マークシート方式＋記述・論述問題、持ち込み不可）（70％程度）による総合評価。講義中の課題への積極的・独創的な貢献等に対し、さらに加点する場合がある。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

主に以下の点について、その到達度により評価する。

- ・アメリカ史に関する基礎知識を習得しているか。
- ・人種、エスニシティなどの鍵概念を理解し、論理的に説明できるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目は、後期の「アメリカの歴史と文化B」のほか、ヨーロッパ、日本、アジアの歴史や現状、国際関係などを扱う講義・演習など。世界各国・各地域の歴史・文化への関心と理解を深めると同時に、自国の歴史・文化と比較する視点や現代社会の諸制度・価値観を相対化する視点を身につけ、「暗記」ではなく「思考」のトレーニングを繰り返すことが肝要である。

テキスト

以下の文献を教科書として使用する。

有賀夏紀・油井大三郎編『アメリカの歴史-テーマで読む多文化社会の夢と現実』有斐閣アルマ、2003年。
ISBN: 4-641-12162-1 なお前期に行う本講義では、主に、序章と第II部（第4章～第9章）を扱う。

参考書

アメリカ学会訳編『原典アメリカ史-社会史史料集』岩波書店、2006年。
油井大三郎・遠藤泰生編『浸透するアメリカ 拒まれるアメリカ』東京大学出版会、2003年。
網野徹哉、橋川健竜編『南北アメリカの歴史』放送大学教育振興会、2014年。
その他、講義中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	アメリカの歴史と文化B		
教員名	中野 由美子		
科目ナンバー	1251433308	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
アメリカ合衆国は、日常生活から国家間の外交に至るあらゆるレベルにおいて、日本で生活する私たちにとって身近な存在であるように思われる。けれども、日本の大学生がアメリカ合衆国に対して抱くイメージは、一般的に、ニュースや映画などから断片的に得た知識や情報に基づいていることが多いのではないだろうか。 本講義では、多文化・多民族社会アメリカ合衆国の形成・変容過程を歴史的に理解することによって、本質的な「アメリカ」理解のための必要条件の一つを満たすことを第一の目的とする。加えて、20世紀前半のアメリカ社会の事例に即して、格差社会の出現、大量生産・大量消費のライフスタイル、娯楽産業の興隆といったテーマについて考察を加えることによって、現在の日本に生きる私たちにとって身近で切実な諸問題と照らし合わせながら、アメリカ合衆国の歴史と現状への理解を深める。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、DP6（文化現象の総合的理解）を達成するために、以下の3点を到達目標とする。 ① アメリカ合衆国史に関する基礎的な歴史知識を修得する。 ② 現代社会の諸相を理解するうえで不可欠な基礎概念（たとえば、人種、エスニシティ、ジェンダーなど）について理解し、その特質を説明できる。 ③ 社会の諸問題を理解するために必要な文字史料・映像史料を批判的に分析することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	なぜ歴史を学ぶのか - 世界史のなかのアメリカ合衆国 ・講義の内容、進め方、課題等を説明する。		
	テキストの序章の前半を、よく読んでおくこと。	30	
第2回	空間・環境と経済発展 - 合衆国の事例 ・19世紀後半の経済発展について学修する。		
	テキストの序章の後半を、よく読んでおくこと。	60	
第3回	経済発展を支える思想 - 代表的論者の事例 ・19世紀後半の経済発展を支えた思想について学修する。		
	テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。	60	

第4回	格差社会の出現 - 世紀転換期のアメリカ社会 ・映像史料に基づき、当時の社会問題を具体的に把握する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。	60
第5回	小括 ・一次史料・映像史料に基づき、これまでの復習を行う。	
	テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。	60
第6回	大量生産・大量消費のライフスタイル—その1 ・大量生産方式が人々の生活に及ぼした影響について検討する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。	60
第7回	大量生産・大量消費のライフスタイル—その2 ・人々の消費生活の変化を象徴する事例を研究する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。	60
第8回	文化の多様性と国民統合 - その1 ・国民統合のためのシンボルについて、映像史料に基づき学修する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。	60
第9回	文化の多様性と国民統合 - その2 ・国民統合のための祝祭について、映像史料に基づき学修する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。	60

第10回	小括 ・一次史料・映像史料に基づき、これまでの復習を行う。	
	テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。	60
第11回	娯楽産業の興隆 - チームスポーツ ・チームスポーツの隆盛と「人種」問題について学修する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。	60
第12回	娯楽産業の興隆 - ポピュラー音楽 ・ポピュラー音楽の誕生と「人種」問題について学修する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。	60
第13回	娯楽産業の興隆 - 映画産業 ・映画産業の隆盛と「人種」問題について学修する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。	60
第14回	小括 ・一次史料・映像史料に基づき、これまでの内容を復習する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。	60
第15回	全体のまとめ ・全体のレビューを行い、重要な論点を再確認する。	
	テキストの指定箇所を、よく読んでおくこと。	60

授業の方法

通常は講義形式で行う。また、講義中に数回、映像や文書史料などを用いた史料分析のトレーニングも行う。
他の受講生の迷惑になるので、遅刻厳禁。

成績評価の方法

講義中に数回課す課題＝平常点（30%程度）、学期末試験（＝マークシート方式＋記述・論述問題、持ち込み不可）（70%程度）による総合評価。講義中の課題への積極的・独創的な貢献に対しては、さらに加点する場合がある。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目は、前期の「アメリカの歴史と文化A」のほか、ヨーロッパ、日本、アジアの歴史、現状、国際関係に関する講義・セミナーなど。世界各国・各地域の歴史・文化への関心と理解を深めると同時に、自国の歴史・文化と比較する視点や現代社会の諸制度・価値観を相対化する視点を身につけ、「暗記」ではなく「思考」のトレーニングを繰り返すことが肝要である。

テキスト

以下の文献を教科書として使用する。
有賀夏紀『アメリカの20世紀（上）1890年～1945年』中公新書、2002年。
ISBN: 4121016645

参考書

アメリカ学会訳編『原典アメリカ史-社会史史料集』岩波書店、2006年。
網野徹哉、橋川健竜編『南北アメリカの歴史』放送大学教育振興会、2014年。
西田慎、梅崎透編『グローバル・ヒストリーとしての「1968年」』ミネルヴァ書房、2015年。
堀内一史『アメリカと宗教 保守化と政治化のゆくえ』中公新書、2010年。
その他、講義中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本の歴史と文化 A		
教員名	有富 純也		
科目ナンバー	1251433309	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
現在の日本人は、信仰を持たない民族だといわれています。しかし、我々の身近には宗教施設が多くあり、宗教が人生の転換点に多々関与してきます。たとえば、生まれた直後には神社へ「お宮参り」を行い、結婚するときには教会で「結婚式」を挙げ、死後は僧侶を呼び「お葬式」を行います。現在の日本文化として当然のことであり、我々にとってさほど違和感はないと思いますが、他の民族の人たちが聞けば、驚くような混在ぶりでしょう。以上のような、日本人の持つ無宗教観・多宗教観は、どのように成立し、展開したのでしょうか。本講義では、日本史上の宗教、特に仏教の流れを概説することで、日本人にとって宗教とは何なのか、探っていききたいと思います。			
到達目標			
DP 1（教養の修得）、DP 6（文化現象の総合的理解）を実現するため、日本の宗教、特に仏教を中心とした文化を学ぶことを通じて、日本人にとって宗教あるいは仏教文化とは何なのか、ということについて理解を深めることを目標とします。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス		
	【予習】シラバスを熟読し、「現在の生活において仏教はどう関わっているか」について、考えてくる。 【復習】参考文献を書店・図書館などで確認する。		60
第2回	仏教伝来		
	【予習】仏教伝来のあり方について、インターネット、辞典類で調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。		60
第3回	韓国の仏教と日本		
	【予習】韓国の寺院遺跡について、インターネット、辞典類で調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。		60

第4回	仏教の地方伝播と白鳳寺院	
	【予習】瓦のあり方について、インターネット、辞典類で調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60
第5回	東大寺・国分寺の成立と天平文化	
	【予習】東大寺・国分寺について、インターネット、辞典類で調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60
第6回	最澄と空海	
	【予習】最澄・空海について、インターネット、辞典類で調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60
第7回	天台宗の成長と平安時代	
	【予習】天台宗について、インターネット、辞典類で調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60
第8回	到達度確認中間テストとその解説	
	【予習】中間テストに備えて、予習する。 【復習】中間テストを丁寧に復習する。	120
第9回	顕密体制の成立	
	【予習】顕密体制について、インターネット、辞典類で調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60

第10回	新仏教と鎌倉時代	
	【予習】いわゆる鎌倉新仏教について、インターネット、辞典類で調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60
第11回	禅宗と室町時代	
	【予習】中世で渡来した僧侶について、インターネット、辞典類で調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60
第12回	戦国仏教論	
	【予習】一向一揆について、インターネット、辞典類で調べてくる。 。【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60
第13回	江戸時代の仏教	
	【予習】江戸時代の仏教と人々との関わりについて、考えてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60
第14回	現代における仏教とは	
	【予習】現代仏教の役割について、考えてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	120
第15回	到達度確認期末テスト	
	【予習・復習】期末テストのために、予習、あるいは復習する。	60

授業の方法

プリントを配布し、講義形式で行います。また、受講生の意見や希望によっては、授業の内容を微調整する可能性もあります。

成績評価の方法

中間テスト（50%）、期末テスト（50%）。リアクションペーパーによる授業への高度な質問については、評価に加える場合もあります。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その到達度により評価する。

- ・寺院がなぜ流入し、そして続いたのか、理解できているか。
- ・さまざまな意味において、なぜ日本に仏教が定着したかを論理的に説明できるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本の歴史と文化B

テキスト

プリントを配布します。

参考書

末本文美士『日本仏教史』新潮文庫、1996年。

養輪顕量『日本仏教史』春秋社、2015年。

『仏教東漸』京都国立博物館、2015年。

礪波護『隋唐佛教史文物論考』法蔵館、2016年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	日本の歴史と文化B		
教員名	有富 純也		
科目ナンバー	1251433310	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

現在の日本人は、信仰を持たない民族だといわれています。しかし、我々の身近には宗教施設が多くあり、宗教が人生の転換点に多々関与してきます。たとえば、生まれた直後には神社へ「お宮参り」を行い、結婚するときには教会で「結婚式」を挙げ、死後は僧侶を呼び「お葬式」を行います。現在の日本文化として当然のことであり、我々にとってさほど違和感はないと思いますが、他の民族の人たちが聞けば、驚くような混在ぶりでしょう。以上のような、日本人の持つ無宗教観・多宗教観は、どのように成立し、展開したのでしょうか。本講義では、日本史上の宗教、特に神道の流れを概説することで、日本人にとって宗教とは何なのか、探っていききたいと思います。

到達目標

DP1（教養の修得）、DP6（文化現象の総合的理解）を実現するため、日本の宗教、特に神道を中心とした文化を学ぶことを通じて、日本人にとって宗教あるいは神道文化とは何なのか、ということについて理解を深めることを目標とします。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス	
	【予習】シラバスをよく読む。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60
第2回	神道の成立	
	【予習】神道について、インターネット、辞典類で調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60
第3回	神社社殿の成立	
	【予習】近くの神社に赴き、その由来を調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60

第4回	古代の出雲神話	
	【予習】出雲および島根県について、インターネットなどで知識を得る。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60
第5回	沖ノ島とヤマト政権	
	【予習】沖ノ島について、インターネット、辞典類で調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60
第6回	御霊信仰の成立と展開	
	【予習】御霊信仰について、インターネット、辞典類で調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60
第7回	天神信仰の成立と展開	
	【予習】菅原道真・天神信仰について、インターネット、辞典類で調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60
第8回	到達度中間テストとその確認	
	【予習】中間テストに備えて、予習する。 【復習】中間テストを丁寧に復習する。	60
第9回	神仏習合と本地垂迹説	
	【予習】神仏集合・本地垂迹について、インターネット、辞典類で調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60

第10回	神国日本	
	【予習】日本がなぜ神国と呼ばれるようになったかについて、インターネット、辞典類で調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60
第11回	伊勢神道と吉田神道	
	【予習】伊勢神道・吉田神道について、インターネット、辞典類で調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60
第12回	秀吉と家康の神格化	
	【予習】豊田秀吉と徳川家康について、インターネット、辞典類で調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60
第13回	キリスト教の伝来と在来信仰	
	【予習】島原の乱について、インターネット、辞典類で調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60
第14回	近世と近代の宗教	
	【予習】国家神道について、インターネット、辞典類で調べてくる。 【復習】授業プリントを丁寧に復習する。	60
第15回	到達度確認テストとその解説	
	【予習】到達度確認テストに備え、これまでの学習内容を確認する。 【復習】到達度確認テストの復習	120

授業の方法

プリントを配布し、講義形式で行います。

成績評価の方法

中間テスト（50%）、期末テスト（50%）。リアクションペーパーによる授業への高度な質問については、評価に加える場合もあります。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その到達度により評価する。

- ・ 神社がなぜ成立し、そして続いたのか、理解できているか。
- ・ さまざまな意味において、なぜ日本に神道が定着したかを論理的に説明できるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本の歴史と文化 A

テキスト

プリントを配布します。

参考書

伊藤聡『神道の形成と中世神話』吉川弘文館、2016
島藺進『国家神道と日本人』岩波新書、2010
高野信治『武士神格化の研究』吉川弘文館、2017
高埜利彦、安田次郎編『体系日本史 宗教社会史』山川出版社、2012

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	比較文化研究 A		
教員名	寺本 敬子		
科目ナンバー	1251433313	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
この授業では、19世紀にヨーロッパで誕生した「万国博覧会（万博）」の歴史を取り上げ、とりわけその代表的な開催国フランスと、日本の参加に焦点を当てることで、万博という場を通じた異なる文化の交流とそれに伴う諸問題を考察することを目的とする。 万博がどのような歴史的意義を有していたのか、パリ万博を通じたフランスと日本の相互作用のなかでいかなる「日本」像が形成されたのか、といった点を検討する。 フランスは、第二帝政から第三共和政にかけて、19世紀に計5回（1855年、67年、78年、89年、1900年）の万博をパリで継続的に開催し、これらは「19世紀の熱狂」とも評される一大イベントに発展した。一方、日本は、幕末の1867年のパリ万博に初めて公式参加し、明治以降も継続的に全てのパリ万博に参加した。フランスでは1870年代に「ジャポニスム」と呼ばれる文化現象が生まれるなど、パリ万博への日本の参加は「日本」のイメージをフランス社会に広め、日仏間の交流を促進させる重要な媒体として機能したと言えるだろう。本授業では（１）フランスがそれぞれのパリ万博を開催した政治的・経済的・社会的背景および意義を分析し、（２）日本の参加という観点から、フランスと日本の相互作用のなかでいかなる「日本」像が形成されたのか、その過程および変遷を検討する。			
到達目標			
（１）近代において万博が果たした役割を理解する。（２）パリ万博への日本の参加の変遷をたどることで、ヨーロッパや日本の近代史を理解する多角的アプローチを身につける。（３）異文化コミュニケーションのあり方について、歴史的な沿革・諸問題を理解する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス：万国博覧会（万博）とは何か。		
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分	
第2回	万博の前史（１）なぜ万博を開いたのか：産業博覧会と技術競争		
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分	
第3回	万博の前史（２）科学技術、消費社会、異文化の発見		
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分	

第4回	1855年パリ万博（1）第二帝政と産業振興	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第5回	1855年パリ万博（2）ヨーロッパにおける「日本」の情報	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第6回	1867年パリ万博（1）サン・シモン主義と自由貿易	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第7回	1867年パリ万博（2）初の日本公式参加	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第8回	1878年パリ万博（1）第三共和政の成立	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第9回	1878年パリ万博（2）明治政府とジャポニスム	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分

第10回	1889年パリ万博（1）革命百周年の「記憶の場」	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第11回	1889年パリ万博（2）ジャポニズムの陰り	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第12回	1900年パリ万博（1）19世紀の祭典の完成	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第13回	1900年パリ万博（2）日清戦争後の「日本」の表象	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第14回	20世紀のパリ万博：アール・デコ、植民地博	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第15回	パリ万博における「日本」：伝統と近代	
	授業内容を復習し、総括する。	90分

授業の方法

基本的に講義方式で行い、適宜パワーポイント等で写真・図版・映像資料を用いる。課題のテキストは、印刷あるいはポータル・Web Class上で配布する。授業時にコメントシート提出、宿題レポート提出、学期末に試験を実施する。

成績評価の方法

授業時に実施するコメントシート（20%）、宿題レポート（30%）、学期末試験（50%）の合計による相対評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

宿題レポートと学期末の試験はいずれも、以下の項目を重視して評価を行ないます。（1）講義内容を正確に理解していること（2）参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ていること（3）自己の見解を具体的・論理的に展開していること。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目は2018年後期の比較文化研究B（寺本敬子担当授業）、また広い意味での歴史（社会史・文化史・政治史・経済史等）に関わる科目と関連する。

テキスト

参考文献は、毎回の授業のなかで紹介する。

参考書

参考文献は、毎回の授業のなかで紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	比較文化研究B		
教員名	寺本 敬子		
科目ナンバー	1251433314	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
この授業では、19世紀後半にヨーロッパで誕生した「ジャポニスム」という文化現象に焦点を当て、各国でジャポニスムが広がった歴史的経緯、文化的・社会的背景等を比較検討する。 フランスやイギリスをはじめとする諸国において、日本の文化・芸術に対する関心を示す「ジャポニスム」がどのように生まれ、広がり、実際にいかなる文化現象をもたらしたのか。また何故ジャポニスムは生まれたのか、各国の文化的・社会的背景を多角的に検討する。そして「Japan Expo」等、21世紀型の「文化」の伝播・交流のあり方と19世紀のそれとを比較することで、「文化」の越境の仕方を複眼的に捉える分析力を養うことを目標とする。			
到達目標			
19世紀後半のヨーロッパでは、開国した日本の情報や物品が、とりわけ万国博覧会への日本参加を通じて広く伝わり、政治・外交上のみならず文化的にも国際的に認知されるようになる。各国に広がった「ジャポニスム」について多角的に検討し、新たな文化現象が形成されるときにどのような文脈があるのか、あるいはそこにどのような摩擦があるのか、これらの問いを明らかにすること、そしてこうした問いについての社会史的なアプローチ（文化史・経済史・外交史を含む）の意義を理解することが本講義の目標である。 到達目標は、（1）19世紀後半に「ジャポニスム」が誕生した歴史的背景を、政治・経済・文化・社会等から多角的に理解し、（2）異文化コミュニケーションのあり方について、歴史的な沿革・諸問題を理解することである。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス：ジャポニスムとは何か。		
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。		90分
第2回	ジャポニスムの前史（1）日本の情報、18世紀のシノワズリとジャポネズリ		
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。		90分
第3回	ジャポニスムの前史（2）万国博覧会：科学技術、消費社会、異文化の発見		
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。		90分

第4回	フランス（１）	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第5回	フランス（２）	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第6回	イギリス（１）	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第7回	イギリス（２）	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第8回	アメリカ	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第9回	オーストリア、ドイツ	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分

第10回	他のヨーロッパ諸国（１）ベルギー、中央ヨーロッパ	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第11回	他のヨーロッパ諸国（２）イタリア、スペイン	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第12回	他のヨーロッパ諸国（３）北欧、ロシア	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第13回	日本：ジャポニズムの里帰り	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第14回	ジャポニズムの現在（１）	
	授業内容を復習し、授業時に適宜指示されるテキスト（指定した部分）を必ず読み、次の授業に向けた予習をすること。	90分
第15回	ジャポニズムの現在（２）	
	授業内容を復習し、総括する。	90分

授業の方法

基本的に講義方式で行い、適宜パワーポイント等で写真・図版・映像資料を用いる。課題のテキストは、印刷あるいはポータル・Web Class上で配布する。授業時にコメントシート提出、宿題レポート提出、学期末に試験を実施する。

成績評価の方法

授業時に実施するコメントシート（20%）、宿題レポート（30%）、学期末試験（50%）の合計による相対評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

宿題レポートと学期末試験はいずれも、以下の項目を重視して評価を行います。（1）講義内容を正確に理解していること （2）参考文献等を読み、各自でより深い知識を得ていること （3）自己の見解を具体的・論理的に展開していること。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

2018年度前期「比較文化研究A」（寺本敬子担当授業）を先修していることが望ましい（もし先修していない場合は、初回ガイダンス時に申し出ること）。本授業は、広い意味での歴史（社会史・文化史・政治史・経済史等）に関わる科目と関連する。

テキスト

参考文献は、毎回の授業のなかで紹介する。

参考書

参考文献は、毎回の授業のなかで紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	アジアの歴史と文化A		
教員名	佐々木 紳		
科目ナンバー	1251433311	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
【テーマ】オスマン帝国と歴史世界 【概要】20世紀初頭に終焉を迎えるまでのおよそ600年にわたり、中東・北アフリカ・バルカン半島の主要部分を勢力下におさめたオスマン帝国は、世界史のさまざまな局面において、あるときは「主役」として、またあるときは「脇役」として、独特の存在感を示してきた。この授業では、とくに歴史的出来事の「比較と連関」に留意して、同時代の世界史の動向と密接に連動しながら展開していくオスマン帝国の歴史を学ぶ。扱う時代としては、16世紀から20世紀初頭にかけての「近世」と「近代」に重きを置くことにする。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）を実現するため、下記の点を到達目標とする。 ・オスマン帝国史の通時的な見取り図を描けるようになる。 ・オスマン帝国の歴史を、同時代の世界史の動向のなかに位置づけながら説明できるようになる。 ・オスマン帝国の歴史を事例として、世界史を「比較と連関」の視座から把握できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	授業の紹介と導入		
	【予習】 シラバスを読む。高校世界史の教科書などを通して、オスマン帝国の歴史を思い出す。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。		60
第2回	世界史のなかのテュルク		
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。		60
第3回	オスマン帝国の成立		
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。		60
第4回	オスマン帝国の拡大		
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。		60

第5回	オスマン帝国の近世（1）	
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第6回	オスマン帝国の近世（2）	
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第7回	近世から近代へ（1） ※中間レポート提出（予定）。	
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第8回	近世から近代へ（2）	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探求する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第9回	オスマン帝国の近代：改革・立憲・専制（1）	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探求する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第10回	オスマン帝国の近代：改革・立憲・専制（2）	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探求する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60

第11回	オスマン帝国の近代：改革・立憲・専制（3）	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第12回	オスマン帝国の近代：革命・戦争・終焉（1）	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第13回	オスマン帝国の近代：革命・戦争・終焉（2）	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第14回	オスマン帝国の近代：革命・戦争・終焉（3）	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
第15回	授業の総括と確認	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着をはかる。	60
授業の方法		
・講義形式で進める。 ・特定のテキストは用いず、レジュメ等を授業内で適宜配付する。		
成績評価の方法		
・授業への取り組み（20%）、中間レポート（30%）、期末試験（または期末レポート）（50%）。 ・中間レポートの未提出者には期末試験の受験資格（または期末レポートの提出資格）を与えないので注意すること。 ・授業に関する質問や意見を記入する用紙を毎回提出してもらい、授業への取り組みの度合いを判定する材料とする。		

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

- ・オスマン帝国に関する情報だけでなく、各自の興味・関心に応じて、その他の地域や出来事に関する情報も積極的に収集すること。
- ・授業では、日本史を含むさまざまな歴史的出来事に言及することになるので、高校の世界史や日本史の教科書・資料集などを活用して基本的な情報を確認するとよい。
- ・関連科目①：「アジアの歴史と文化B」では、オスマン帝国の後継国家（の一つ）であるトルコ共和国の歴史を扱う。
- ・関連科目②：「文化交流史」では、オスマン帝国を含むユーラシア世界に展開したトルコ系諸民族（テュルク）の歴史を扱う。
- ・関連科目③：成蹊教養カリキュラム「歴史トピックス（中東地域史の諸問題）」では、オスマン帝国を含む中東地域史の諸問題を考察する。

テキスト

とくに設けない。

参考書

関連文献は、日本語・ヨーロッパ諸語のものを中心に授業内で紹介する。通史の理解を助ける参考書・事典類として、下記のものをすすめる。

- ・林佳世子『オスマン帝国500年の平和』（講談社、2008年）
- ・新井政美『トルコ近現代史』（みすず書房、2001年）
- ・C. V. フィンドリー『テュルクの歴史：古代から近現代まで』（明石書店、2017年）
- ・大塚和夫ほか編『岩波イスラーム辞典』（岩波書店、2002年）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	アジアの歴史と文化B		
教員名	佐々木 紳		
科目ナンバー	1251433312	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
【テーマ】トルコ共和国と現代世界 【概要】第一次世界大戦終結直後の1923年に成立したトルコ共和国は、人口の9割以上がイスラーム教徒であるにもかかわらず、トルコ語で「ラーイクリキ」と呼ばれる政教分離・世俗主義の原則を国是とする現代国家として知られている。ところが現在、そのトルコでは、親イスラーム政党が16年にわたり政権与党の座を維持するという「未曾有」の事態が生じている。この16年間はまた、グローバル化が進展する現代世界のなかで、トルコが政治的・経済的に存在感を高め、中東の「地域大国」としての地位を固めていく時期に重なる。この授業では、そうしたトルコ共和国の歴史を現代世界の歴史的展開のなかで考えていく。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）を実現するため、下記の点を到達目標とする。 ・トルコ現代史の通時的な見取り図を描けるようになる。 ・トルコの歴史を、中東情勢や現代世界の動向のなかに位置づけながら説明できるようになる。 ・トルコの視点から現代世界を俯瞰することで、受講者各自のこれまでの現代史理解を相対化することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	授業の紹介と導入		
	【予習】 シラバスを読む。高校世界史の教科書のなかで、トルコ共和国の歴史に関する記述がどれだけあるかをチェックしておく。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の意味と定着を図る。		60
第2回	近代から現代へ		
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の意味と定着を図る。		60
第3回	トルコ共和国の成立（1）		
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の意味と定着を図る。		60

第4回	トルコ共和国の成立（2）	
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第5回	戦間期の世界とトルコ（1）	
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第6回	戦間期の世界とトルコ（2）	
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第7回	戦後の世界とトルコ（1）	
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第8回	戦後の世界とトルコ（2）	
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第9回	戦後の世界とトルコ（3） ※中間レポート提出（予定）。	
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60

第10回	戦後の世界とトルコ（4） ※映画鑑賞（予定）。	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第11回	戦後トルコをめぐる諸問題（1）	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第12回	戦後トルコをめぐる諸問題（2）	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第13回	21世紀のトルコ（1）	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第14回	21世紀のトルコ（2）	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第15回	授業の総括と確認	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60

授業の方法

- ・ 講義形式で進める。
- ・ 特定のテキストは用いず、レジュメ等を授業内で適宜配付する。

成績評価の方法

- ・ 授業への取り組み（20%）、中間レポート（30%）、期末試験（または期末レポート）（50%）。
- ・ 中間レポートの未提出者には期末試験の受験資格（または期末レポートの提出資格）を与えないので注意すること。
- ・ 授業に関する質問や意見を記入する用紙を毎回提出してもらい、授業への取り組みの度合いを判定する材料とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

- ・ トルコに関する情報だけでなく、各自の興味・関心に応じて、その他の地域や出来事に関する情報も積極的に収集すること。
- ・ 授業では、日本史を含むさまざまな歴史的出来事に言及することになるので、高校の世界史や日本史の教科書・資料集などを活用して基本的な情報を確認するとよい。
- ・ 関連科目①：「アジアの歴史と文化A」では、トルコ共和国の前身であるオスマン帝国の歴史を扱う。
- ・ 関連科目②：「文化交流史」では、トルコを含むユーラシア世界に展開したトルコ系諸民族（テュルク）の歴史を扱う。
- ・ 関連科目③：成蹊教養カリキュラム「歴史トピックス（中東地域史の諸問題）」では、トルコを含む中東地域史の諸問題を考察する。

テキスト

とくに設けない。

参考書

関連文献は、日本語・ヨーロッパ諸語のものを中心に授業内で紹介する。授業の理解を助ける参考書・事典類として、下記のをすすめる。

- ・ 新井政美『トルコ近現代史』（みすず書房、2001年）
- ・ 今井宏平『トルコ現代史』（中公新書）（中央公論新社、2017年）
- ・ C. V. フィンドリー『テュルクの歴史：古代から近現代まで』（明石書店、2017年）
- ・ 大塚和夫ほか編『岩波イスラーム辞典』（岩波書店、2002年）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	地域研究 A		
教員名	六反田 豊		
科目ナンバー	1251433315	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

本科目では、朝鮮史の大きな流れと朝鮮時代（1392-1910）の歴史について学ぶ。
授業では、まず古代から近代に至る朝鮮史の展開過程を通史的に概観する。その後、特に朝鮮時代を取り上げ、当該時期の歴史を政治・社会・経済・外交などの側面からやや詳しく解説する。

到達目標

DP6（専門分野の知識・理解）を実現するため、次の3点を到達目標とする。

- ①古代から近代に至る朝鮮史の大きな流れを理解する。
- ②朝鮮時代の政治・社会・経済・外交に対する理解を深める。
- ③授業で得た知見をもとに、歴史的視点から朝鮮の伝統文化・社会の特質や近代化などの問題について考える。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	導入(1)：授業紹介／文献案内 ・授業の全体像、進め方、予習・復習の仕方等を説明する。 ・授業に関連する基礎的な参考文献について紹介する。	
	【予習】シラバスを読み、事前に授業内容を把握する。 【復習】配付資料の内容を確認する。	60
第2回	導入(2)：朝鮮半島の自然環境と地理 ・朝鮮史の舞台である朝鮮半島の自然環境と地理について学修する。	
	【予習】参考書等の該当箇所を読んでおく。 【復習】配付資料の内容を確認する。	60
第3回	朝鮮史概説(1)：古代～高麗時代 ・朝鮮史の展開過程のうち古代から高麗時代について学修する。	
	【予習】参考書等の該当箇所を読んでおく。 【復習】配付資料の内容を確認する。	60

第4回	朝鮮史概説(2)：朝鮮時代 ・朝鮮史の展開過程のうち朝鮮時代について学修する。	
	【予習】参考書等の該当箇所を読んでおく。 【復習】配付資料の内容を確認する。	60
第5回	朝鮮史概説(3)：近代(開港期) ・朝鮮史の展開過程のうち近代(開港期)について学修する。	
	【予習】参考書等の該当箇所を読んでおく。 【復習】配付資料の内容を確認する。	60
第6回	朝鮮史概説(4)：近代(植民地期) ・朝鮮史の展開過程のうち近代(植民地期)について学修する。	
	【予習】参考書等の該当箇所を読んでおく。 【復習】配付資料の内容を確認する。	60
第7回	朝鮮時代史概説(1)：朝鮮の建国過程 ・高麗の滅亡と朝鮮の建国過程について学修する。	
	【予習】参考書等の該当箇所を読んでおく。 【復習】配付資料の内容を確認する。	60
第8回	朝鮮時代史概説(2)：朝鮮時代前半期の政治 ・朝鮮時代前半期の政治史について学修する。	
	【予習】参考書等の該当箇所を読んでおく。 【復習】配付資料の内容を確認する。	60
第9回	朝鮮時代史概説(3)：朝鮮時代前半期の経済 ・朝鮮時代前半期の経済史について学修する。	
	【予習】参考書等の該当箇所を読んでおく。 【復習】配付資料の内容を確認する。	60

第10回	朝鮮時代史概説(4)：朝鮮時代前半期の社会 ・朝鮮時代前半期の社会史について学修する。	
	【予習】参考書等の該当箇所を読んでおく。 【復習】配付資料の内容を確認する。	60
第11回	朝鮮時代史概説(5)：朝鮮時代後半期の政治 ・朝鮮時代後半期の政治史について学修する。	
	【予習】参考書等の該当箇所を読んでおく。 【復習】配付資料の内容を確認する。	60
第12回	朝鮮時代史概説(6)：朝鮮時代後半期の経済 ・朝鮮時代後半期の経済史について学修する。	
	【予習】参考書等の該当箇所を読んでおく。 【復習】配付資料の内容を確認する。	60
第13回	朝鮮時代史概説(7)：朝鮮時代後半期の社会 ・朝鮮時代後半期の社会史について学修する。	
	【予習】参考書等の該当箇所を読んでおく。 【復習】配付資料の内容を確認する。	60
第14回	朝鮮時代史概説(8)：朝鮮時代の対中国関係 ・朝鮮時代の対中国関係について学修する。	
	【予習】参考書等の該当箇所を読んでおく。 【復習】配付資料の内容を確認する。	60
第15回	朝鮮時代史概説(9)：朝鮮時代の対日本関係 ・朝鮮時代の対日本関係について学修する。	
	【予習】参考書等の該当箇所を読んでおく。 【復習】配付資料の内容を確認する。	60

授業の方法

講義形式でおこなう。毎回、配付するレジュメと資料に基づいて進める。
学期末に期末レポートを提出してもらう。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況、30%）と期末レポート（70%）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ①古代から近代に至る朝鮮史の大きな流れを理解しているか。
- ②朝鮮時代の政治・社会・経済・外交に対する基礎的知識を修得しているか。
- ③授業で得た知見をもとに、歴史的視点から朝鮮の伝統文化・社会の特質や近代化などの問題について考えることができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

第1回の授業で紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

随時、電子メールで受け付ける。

科目名	地域研究B		
教員名	田沼 幸子		
科目ナンバー	1251433316	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
中南米（ラテンアメリカ・カリブ諸国）地域の地理、歴史、政治、文化に関して、キューバを事例とした人類学的研究から学ぶ。当該地域を生きる人々が、どんな日常生活を送り、どのように世界を想像しているのか、民族誌的事例からの理解を試みる。具体的には、田沼幸子『革命キューバの民族誌－非常な日常を生きる人びと』（人文書院、2014）に沿って講義を行う。			
到達目標			
キューバは日本から遠く、マスメディアや書籍を通じた情報は、理想化されたものが多い。一見すると他者の理想化は問題がないように思えるかもしれないが、実際に生活する人々の問題を軽視することは、彼らを同じ人間としてではなく、空想上の存在として捉えることに等しい。日本のそれとは大きく異なる、キューバの一般の人々からみた歴史や社会のあり方に徐々に馴染むことによって、自分を他者と同じ立場において考える人類学的なものの見方、考え方を身につけることを目指す。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業の内容、進め方、予習、復習の仕方を説明する。		
	このシラバスをきちんと最初から最後まで読み、履修する目標意識を持った上で参加する。		60分
第2回	キューバに関する事前学習発表と紹介 革命前のキューバ概論		
	第一回のガイダンスにて課された課題を準備する。教科書を買ひ、目次に目を通す。		60分
第3回	『革命キューバの民族誌』序章		
	『革命キューバの民族誌』序章を事前に読む。地図、年表、人物名などを確認する。		60分

第4回	『革命キューバの民族誌』 第1章「『新しい人間』をつくる―フィデルとチェの理想と現実」（1節～4節）	
	左の該当箇所を事前に読む。	60分
第5回	『革命キューバの民族誌』 第1章「『新しい人間』をつくる―フィデルとチェの理想と現実」（5節～8節）	
	左の該当箇所を事前に読む。	60分
第6回	『革命キューバの民族誌』 第2章「同志たちの愛と友情―創設フィクションとしてのキューバ革命」（1節～2節）	
	左の該当箇所を事前に読む。	60分
第7回	『革命キューバの民族誌』 第2章「同志たちの愛と友情―創設フィクションとしてのキューバ革命」（3節～4節）	
	左の該当箇所を事前に読む。	60分
第8回	『革命キューバの民族誌』 第3章「平時の非常期間―ソ連なきあとの非常な日常」（1節～3節）	
	左の該当箇所を事前に読む。	60分
第9回	『革命キューバの民族誌』 第3章「平時の非常期間―ソ連なきあとの非常な日常」（4節～6節）	
	左の該当箇所を事前に読む。	60分

第10回	『革命キューバの民族誌』第4章「ポスト・ユートピアのアイロニー」（1節～3節）	
	左の該当箇所を事前に読む。	60分
第11回	『革命キューバの民族誌』第4章「ポスト・ユートピアのアイロニー」（4節～5節）	
	左の該当箇所を事前に読む。	60分
第12回	映像作品『キューバ・センチメンタル』（田沼幸子監督）上映	
	これまでの内容を見直し、把握しておく。	60分
第13回	『革命キューバの民族誌』第5章「ディアスポラとしての『新しい人間』——『キューバ・センチメンタル』とその後」（1節～2節）	
	左の該当箇所を事前に読む。	60分
第14回	『革命キューバの民族誌』第5章「ディアスポラとしての『新しい人間』——『キューバ・センチメンタル』とその後」（3節～4節）	
	左の該当箇所を事前に読む。	60分
第15回	『革命キューバの民族誌』第6章「アイロニカルな希望」	
	左の該当箇所を事前に読む。	60分

授業の方法

講義およびグループディスカッション。授業後には、その日の気づきや疑問点を書いたコメントカードを提出してもらう。

成績評価の方法

毎回、講義後にその日の気づきや疑問について書くコメントカードを回収する（40%）。また、毎回、異なるディスカッショングループを作成し、事前に読んだ内容についてや、授業内で挙げる議題について議論し、発表してもらう（40%）。テストでは、授業を通じての気づきに関する小論文を課し、コメントカードの内容と合わせ、総合的に判断する（20%）。なお、4回以上の欠席があった時点で、成績をつけない。やむを得ず欠席する場合は、これを証明する書類を提出すること。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

人類学や中南米に関わる知識があった方が理解は高まります。しかし、重要なのは、受動的に講義を受けるだけでなく、事前に読み、疑問点等を明確にし、問題意識を持って受講することです。民族誌は、自社会の常識とは異なる内容が書かれているため、なんとなく読み飛ばすだけでは理解できません。このため、必ず事前の予習と授業後のフィードバックをしてください。

テキスト

田沼幸子『革命キューバの民族誌——非常な日常を生きる人びと』（人文書院、2014年）。専門書であるため、本体6,000円と高額ですが、授業と通じて、それに見合った内容だと思っていただけるように努めます。

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後のコメントカードに記入してください。

科目名	地域研究C		
教員名	木村 友彦		
科目ナンバー	1251433317	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
テーマ…地域研究Cでは、オセアニア地域について、オーストラリアの歴史を中心に学習します。 概要……オーストラリアと日本は、太平洋戦争という不幸な時期を経て、戦後は貿易や観光、留学など様々な分野で交流を発展させてきました。近年の両国関係では、外交安全保障の分野でも緊密化の動きがみられます。オーストラリアは、どのような歴史を持ち、どのような対外政策を展開してきたのでしょうか。ニュージーランドや他のオセアニア諸国については、簡潔に触れる予定です。			
到達目標			
DP1（教養の習得）やDP3（他者との協働）を実現するため、オーストラリアやオセアニア地域の歴史及び日本との関係について、世界史の展開を意識しながら、基礎的な理解を習得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション		
	シラバスを読み、授業の概要を確認する。	30分	
第2回	先住民		
	配布資料及び参考書を読み、内容理解を深める。	60分	
第3回	ヨーロッパ人の到来と入植開始		
	配布資料及び参考書を読み、内容理解を深める。	60分	

第4回	英領植民地としての発展	
	配布資料及び参考書を読み、内容理解を深める。	60分
第5回	オーストラリア連邦の発足と白豪主義	
	配布資料及び参考書を読み、内容理解を深める。	60分
第6回	オーストラリアと第一次世界大戦	
	配布資料及び参考書を読み、内容理解を深める。	60分
第7回	オーストラリアと太平洋戦争	
	配布資料及び参考書を読み、内容理解を深める。	60分
第8回	オーストラリアと冷戦	
	配布資料及び参考書を読み、内容理解を深める。	60分
第9回	オーストラリアと日本との関係	
	配布資料及び参考書を読み、内容理解を深める。	60分

第10回	オーストラリアのアジア関与外交	
	配布資料及び参考書を読み、内容理解を深める。	60分
第11回	白豪主義から多文化主義へ	
	配布資料及び参考書を読み、内容理解を深める。	60分
第12回	近年のオーストラリアの諸問題	
	配布資料及び参考書を読み、内容理解を深める。	60分
第13回	ニュージーランド及び他のオセアニア諸国	
	配布資料及び参考書を読み、内容理解を深める。	60分
第14回	到達度確認テスト	
	これまでの授業内容を復習し、確認テストに向けた準備を行う。	120分
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答 授業のまとめ	
	到達度確認テストの結果を踏まえ、不十分な点があれば、復習をする。	60分

授業の方法

基本的には講義形式によります。（授業の計画には、扱う予定の主な項目を挙げていますが、幾らかの変更も考えられます。）各回にプリントを配布する予定です。
各回にコメントペーパーを配布し、理解の確認をしたり、感想を記したりして貰う予定です。

成績評価の方法

コメントペーパー（30%）と到達度確認テスト（70%）を基本とし、学習への積極性も評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識は特に必要としません。

テキスト

特になし

参考書

- ・次の中公新書の一冊は、各自で入手することをお薦めする。
竹田いさみ著『物語オーストラリアの歴史:多文化ミドルパワーの実験』（中央公論新社、2000年）
- ・以下は、オーストラリア史に関する上記以外の主な日本語文献。他の文献は、授業中に挙げる。
 1. マニング・クラーク著、竹下美保子訳『オーストラリアの歴史:距離の暴虐を超えて』（サイマル出版会、1978年）
 2. ジェフリー・ブレイニー著、加藤めぐみ・鎌田真弓訳『オーストラリア歴史物語』（明石書店、2000年）
 3. 藤川隆男編『オーストラリアの歴史:多文化社会の歴史の可能性を探る』（有斐閣、2004年）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。メールによる質問・相談にも応じる。

科目名	地域研究D		
教員名	草野 佳矢子		
科目ナンバー	1251433318	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
1917年革命以前のロシアの歴史を、特に国家と社会の関係や、統治制度改革、政治改革をめぐる問題に焦点を当て、比較史の視点に留意して、講義する。			
到達目標			
帝政崩壊までのロシア史の流れ、キエフ・ルーシ、モスクワ・ロシアの特徴、ロシア帝国成立後に関しては各皇帝の治世の概要や主要な事件・改革の内容などについて、西ヨーロッパとの比較も含めて説明できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ロシア帝国成立前のロシア① ・キエフ・ルーシからモスクワ・ロシアへ		
	予習：シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握しておく。 復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。		60
第2回	ロシア帝国成立前のロシア② ・モスクワ・ロシアの特徴		
	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。		60
第3回	ピョートル1世の西欧化政策		
	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。		60

第4回	女帝たちの時代	
	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第5回	エカチェリーナ2世の統治	
	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第6回	アレクサンドル1世とニコライ1世	
	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第7回	アレクサンドル2世と大改革①	
	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第8回	アレクサンドル2世と大改革②	
	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第9回	革命運動と政治改革の試み	
	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60

第10回	アレクサンドル3世時代のロシア①	
	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第11回	アレクサンドル3世時代のロシア②	
	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第12回	ニコライ2世の治世－1894～1904年	
	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第13回	第一次ロシア革命	
	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第14回	帝政ロシアの崩壊	
	復習：講義内容について配布レジュメや参考書を読んで理解を深める。	60
第15回	理解度の確認テスト	
	復習：理解度の確認テストを通して、この授業を振り返り、不足している知識等を確認する。	90

授業の方法

授業は配布プリントに沿って、講義を中心に進めます。
出欠は出席票でとり、授業に関して質問があれば記入すること（次回授業始めに解説を行います）。
理解度確認テストの受験は、第15回目の授業を除いて、10回以上の出席がある学生に対し認めます
（20分以上の遅刻は0.5回の出席とします）。
上に示された予復習時間はあくまでも目安であって、各自の理解度に応じて取り組んでください。

成績評価の方法

理解度確認テスト80%、質問など授業への取り組み20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ・近代ロシア史の流れ、ロシアの国家・社会の特徴を西欧のそれと比較して理解しているかに着目して評価します。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校世界史程度の西洋史（ロシア史を含む）の知識があること。

テキスト

特定の教科書は用いません。

参考書

『ロシアを知る事典』、平凡社
世界歴史体系『ロシア史1～3』、山川出版
藤本和貴夫他編著『ロシア近現代史』、ミネルヴァ書房
栗生沢猛夫『図説 ロシアの歴史』 河出書房新社
土肥恒之『図説 帝政ロシア』 河出書房新社
マルク・ラエフ（石井規衛訳）『ロシア史を読む』名古屋大学出版会

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	文化交流史		
教員名	佐々木 紳		
科目ナンバー	1251433319	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

【テーマ】テュルク・ユーラシア世界の歴史と文化
【概要】一般に「トルコ人」（テュルク）といえば、現在のアナトリア半島に位置するトルコ共和国の住民を思い浮かべることが多い。しかし、そもそも東部ユーラシア北方に起源を有するテュルクは、長い年月をかけてユーラシア世界を西進し、その過程でさまざまな集団や文化と接触し、交流と混交を繰り返しながら、中央アジアや中東に居住空間を広げた。そこからさらに、南アジア、北アフリカ、ヨーロッパをめざすテュルクもいた。この授業では、ユーラシア規模で展開したテュルクの歴史を古代から現代まで通観することで、総合的かつ新しいユーラシア世界史理解の可能性を探究する。

到達目標

DP6（文化現象の総合的理解）を実現するため、下記の点を到達目標とする。
・古代から現代までのテュルクの歴史の通時的な見取り図を描けるようになる。
・テュルクの視点からユーラシア世界全体の歴史を展望できるようになる。
・ユーラシア世界の歴史を広く比較と連関の視座から捉え、説明できるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業の紹介と導入	
	【予習】 シラバスを読む。高校世界史の教科書などで、トルコ系諸民族（テュルク）に関する記述をチェックしておく。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第2回	テュルク・ユーラシア史のアウトライン	
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第3回	先駆者たちの時代（1）：テュルク以前の騎馬遊牧民	
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60

第4回	先駆者たちの時代（2）：テュルクの登場	
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第5回	テュルク化とイスラーム化（1）：内陸ユーラシアの変容	
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第6回	テュルク化とイスラーム化（2）：西部ユーラシアへの展開	
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第7回	近世帝国の競演（1）：ティムール朝とムガル朝	
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第8回	近世帝国の競演（2）：オスマン朝とサファヴィー朝	
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第9回	テュルク・ユーラシアの近代（1）：テュルク・ユーラシア史の「大分岐」 ※中間レポート提出（予定）。	
	【予習】 中間レポートの作成に向けて、課題図書を選定し、読み進める。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60

第10回	テュルク・ユーラシアの近代（2）：内陸ユーラシアのテュルク	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第11回	テュルク・ユーラシアの近代（3）：中東のテュルク	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第12回	テュルク・ユーラシアの現代（1）：「長い20世紀」のテュルクたち	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第13回	テュルク・ユーラシアの現代（2）：ロシア=ソ連のテュルク、トルコのテュルク	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第14回	テュルク・ユーラシアの現代（3）：グローバル・テュルク	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60
第15回	授業の総括と確認	
	【予習】 期末試験に向けて、授業を通して得た知見や学説が他地域・他分野に応用できるかどうかを探究する。 【復習】 参考書や事典類を用いて、用語や出来事の理解と定着を図る。	60

授業の方法

- ・ 講義形式で進める。
- ・ 特定のテキストは用いず、レジュメ等を授業内で適宜配布する。

成績評価の方法

- ・ 授業への取り組み（20%）、中間レポート（30%）、期末試験（または期末レポート）（50%）。
- ・ 中間レポートの未提出者には期末試験の受験資格（または期末レポートの提出資格）を与えないので注意すること。
- ・ 授業に関する質問や意見を記入する用紙を毎回提出してもらい、授業への取り組みの度合いを判定する材料とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

- ・ 授業では、日本史を含むユーラシア世界のさまざまな歴史的出来事に言及することになるので、高校の世界史や日本史の教科書や資料集などを活用して基本的な情報を確認するとよい。
- ・ 関連科目①：「アジアの歴史と文化A」では、テュルク系国家の一つであるオスマン帝国の歴史を扱う。
- ・ 関連科目②：「アジアの歴史と文化B」では、テュルク系国家の一つであるトルコ共和国の歴史を扱う。
- ・ 関連科目③：成蹊教養カリキュラム「歴史トピックス（中東地域史の諸問題）」では、テュルクの活動舞台の一つである中東地域史の諸問題を扱う。

テキスト

とくに設けない。

参考書

関連文献は、日本語・ヨーロッパ諸語のものを中心に授業内で紹介する。授業の理解を助ける参考書・事典類として、下記のをすすめる。

- ・ C. V. フィンドリー『テュルクの歴史：古代から近現代まで』（明石書店、2017年）
- ・ 小松久男編『テュルクを知るための61章』（明石書店、2016年）
- ・ 大塚和夫ほか編『岩波イスラーム辞典』（岩波書店、2002年）
- ・ 小松久男ほか編『中央ユーラシアを知る事典』（平凡社、2005年）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	ギリシア・ローマ文化B		
教員名	井上 秀太郎		
科目ナンバー	1251433321	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
【テーマ】碑文を通してみる古代ローマの歴史と文化 【概要】歴史を研究する上で最大の拠り所となるのは、当時の人々が書き残した文字史料である。現代人は、それらを読むことで、古代人の声に耳を傾け、彼らの挙措を垣間見ることができる。しかし、現存する史料の中で、書かれたものがそのまま残存しているものはほとんどない。古典文学史料などは、中世の修道院で筆写を繰り返すことによって後世に伝えられており、純然たる一次史料とは言い難い。その点で、作成時の文章がそのまま伝わっている碑文は、史料として比類のない価値を持つということが出来る。授業では、それらの現存する膨大な碑文の中から、特に歴史的・文化史的に興味深いものを取り上げ、それらが刻まれた歴史的背景と取り巻く文化状況などを探っていく。一見無味乾燥な石の板から、意外なくらいに生々しい古代人の声を聞き取れることを知ってほしい。			
到達目標			
(1) 碑文史料の特質を理解する (2) 代表的な碑文の概要を理解する (3) 個々の碑文のローマ史・ローマ文化史上の位置づけを理解する (4) ローマ史に関する本を独力で読めるようになる			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	第一部：皇帝の権威 神皇アウグストゥス業績録（碑文の女王、初代皇帝アウグストゥスの事績）		
	【予習】授業の終了時に次回のキーワードを伝えるので、それについて事典やネット等で調べておく。 【復習】授業で配布した資料を熟読しておく。		60分
第2回	属州民による神格化を拒否するティベリウス帝の回答（皇帝の神格化の在り方）		
	【予習】授業の終了時に次回のキーワードを伝えるので、それについて事典やネット等で調べておく。 【復習】授業で配布した資料を熟読しておく。		60分
第3回	ハドリアヌス帝の軍団兵への訓示（皇帝と軍隊の関係）		
	【予習】授業の終了時に次回のキーワードを伝えるので、それについて事典やネット等で調べておく。 【復習】授業で配布した資料を熟読しておく。		60分

第4回	第二部：建築碑文 オスティアの運河開通記念碑文（港湾都市の整備）	
	【予習】授業の終了時に次回のキーワードを伝えるので、それについて事典やネット等で調べておく。 【復習】授業で配布した資料を熟読しておく。	60分
第5回	マッジョーレ門の碑文（水道網の整備）	
	【予習】授業の終了時に次回のキーワードを伝えるので、それについて事典やネット等で調べておく。 【復習】授業で配布した資料を熟読しておく。	60分
第6回	トラヤヌス帝の記念柱（大規模建設事業による地形の変更）	
	【予習】授業の終了時に次回のキーワードを伝えるので、それについて事典やネット等で調べておく。 【復習】授業で配布した資料を熟読しておく。	60分
第7回	第三部：墓碑 トイトブルク森の戦いで死んだ兵士の墓碑（百人隊長の軍装）	
	【予習】授業の終了時に次回のキーワードを伝えるので、それについて事典やネット等で調べておく。 【復習】授業で配布した資料を熟読しておく。	60分
第8回	パン屋の墓碑（パンの製造工程）	
	【予習】授業の終了時に次回のキーワードを伝えるので、それについて事典やネット等で調べておく。 【復習】授業で配布した資料を熟読しておく。	60分
第9回	アウレリア・フィレマティウムの墓碑（解放奴隷夫婦の肖像）	
	【予習】授業の終了時に次回のキーワードを伝えるので、それについて事典やネット等で調べておく。 【復習】授業で配布した資料を熟読しておく。	60分

第10回	第四部：法・決議・勅令 教師・医師の特権に関するドミティアヌス帝の命令（職業教育の在り方）	
	【予習】授業の終了時に次回のキーワードを伝えるので、それについて事典やネット等で調べておく。 【復習】授業で配布した資料を熟読しておく。	60分
第11回	パルミラの関税法（東西交易の結節点）	
	【予習】授業の終了時に次回のキーワードを伝えるので、それについて事典やネット等で調べておく。 【復習】授業で配布した資料を熟読しておく。	60分
第12回	ディオクレティアヌス帝の最高価格令（インフレとの闘い）	
	【予習】授業の終了時に次回のキーワードを伝えるので、それについて事典やネット等で調べておく。 【復習】授業で配布した資料を熟読しておく。	60分
第13回	第五部：市民生活 船主組合への配慮を確認する碑文（食糧供給と海運業者）	
	【予習】授業の終了時に次回のキーワードを伝えるので、それについて事典やネット等で調べておく。 【復習】授業で配布した資料を熟読しておく。	60分
第14回	戦車競走馭者の経歴を記した碑文（パンとサーカス）	
	【予習】授業の終了時に次回のキーワードを伝えるので、それについて事典やネット等で調べておく。 【復習】授業で配布した資料を熟読しておく。	60分
第15回	奴隷の首輪（奴隷に対する管理の実態）	
	【予習】授業の終了時に次回のキーワードを伝えるので、それについて事典やネット等で調べておく。 【復習】授業で配布した資料を熟読しておく。	60分

授業の方法

基本的には講義形式で進める。史料の日本語訳などはプリントで配布し、適宜画像資料も活用する。

成績評価の方法

試験の結果に基づいて評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

テキストは使用しない。適宜配布するプリントに則って授業を進める。

参考書

樋脇博敏・長谷川岳男著『古代ローマを知る事典』東京堂出版 2004年
本村凌二監修『ラテン語碑文で楽しむ古代ローマ』研究社 2011年
ローレンス・ケッピー著『碑文から見た古代ローマ生活誌』原書房 2006年
古山正人ほか編訳『西洋古代史料集』第2版 東京大学出版会 2002年

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	フランス文化・文化史特講A		
教員名	山崎 耕一		
科目ナンバー	1151433322	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
フランスにおける代表制（もしくは議会制）民主主義の形成。18世紀のモンテスキューとJ.-J. ルソーの政治思想を概観し、フランス革命期における代表制の出現と定着の過程を、主にシエスとロベスピエールを中心に考察する。民主主義といえば住民全員が参加する直接民主制を考えるのが常識だった時代に、代表制がいかんして成立したのか、代表制がどのような利点と問題点を含んでいたのかを考えるのがテーマとなる。			
到達目標			
現在はポピュリズムの影響などで、主要先進国の代表制民主主義が十分に機能していないと言われる。代表制の成立史に改めて目を向けることで、①歴史を通して現在の問題を考える、②現在の問題を歴史に投影することで、歴史を新たな目で見直す、という双方向の視点を身に付けることを目標とする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	講義計画の説明と問題の設定		
	フランス啓蒙思想やフランス革命についてこれまで学んだことを復習し、知識を整理しておく。		60分
第2回	J.-J. ルソーの生涯		
	参考文献、講義で配った資料、みずからのノートを見直し、知識の定着をはかるとともに、上記のテーマや到達目標に関してみずから考え、疑問点を整理する。		90分
第3回	ルソーの思想 1：人間不平等起源論		
	参考文献、講義で配った資料、みずからのノートを見直し、知識の定着をはかるとともに、上記のテーマや到達目標に関してみずから考え、疑問点を整理する。		90分

第4回	ルソーの思想 2 : 社会契約論	
	参考文献、講義で配った資料、みずからのノートを見直し、知識の定着をはかるとともに、上記のテーマや到達目標に関してみずから考え、疑問点を整理する。	90分
第5回	ルソーの思想の同時代への影響	
	参考文献、講義で配った資料、みずからのノートを見直し、知識の定着をはかるとともに、上記のテーマや到達目標に関してみずから考え、疑問点を整理する。	90分
第6回	モンテスキューの生涯	
	参考文献、講義で配った資料、みずからのノートを見直し、知識の定着をはかるとともに、上記のテーマや到達目標に関してみずから考え、疑問点を整理する。	90分
第7回	モンテスキューの思想 1 : 三政体の本性と原理	
	参考文献、講義で配った資料、みずからのノートを見直し、知識の定着をはかるとともに、上記のテーマや到達目標に関してみずから考え、疑問点を整理する。	90分
第8回	モンテスキューの思想 2 : 政治的自由と市民的自由	
	参考文献、講義で配った資料、みずからのノートを見直し、知識の定着をはかるとともに、上記のテーマや到達目標に関してみずから考え、疑問点を整理する。	90分
第9回	モンテスキューの思想の同時代への影響	
	参考文献、講義で配った資料、みずからのノートを見直し、知識の定着をはかるとともに、上記のテーマや到達目標に関してみずから考え、疑問点を整理する。	90分

第10回	国民主権の成立とシェス：1789年	
	参考文献、講義で配った資料、みずからのノートを見直し、知識の定着をはかるとともに、上記のテーマや到達目標に関してみずから考え、疑問点を整理する。	90分
第11回	立憲君主制：1790年－92年	
	参考文献、講義で配った資料、みずからのノートを見直し、知識の定着をはかるとともに、上記のテーマや到達目標に関してみずから考え、疑問点を整理する。	90分
第12回	革命政府とロベスピエール：1793年－94年	
	参考文献、講義で配った資料、みずからのノートを見直し、知識の定着をはかるとともに、上記のテーマや到達目標に関してみずから考え、疑問点を整理する。	90分
第13回	95年憲法、総裁政府とシェス：1795年－99年	
	参考文献、講義で配った資料、みずからのノートを見直し、知識の定着をはかるとともに、上記のテーマや到達目標に関してみずから考え、疑問点を整理する。	90分
第14回	革命と共和制：帝政期とそれ以降	
	参考文献、講義で配った資料、みずからのノートを見直し、知識の定着をはかるとともに、上記のテーマや到達目標に関してみずから考え、疑問点を整理する。	90分
第15回	全体のまとめ	
	参考文献、講義で配った資料、みずからのノートを見直し、知識の定着をはかるとともに、上記のテーマや到達目標に関してみずから考え、疑問点を整理する。	90分

授業の方法

講義形式で行なう。パワーポイントなどは特に使用しない。必要な資料、年表などはその都度、教室で配布する。

成績評価の方法

学期末にレポートを課する。レポートの成績を8割、平常点を2割ほどの割合で評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

18世紀フランスの状況や主要なできごと、啓蒙思想、フランス革命について、高校の授業で扱うレベルの知識は持っているという前提で講義する。

テキスト

なし

参考書

モンテスキュー『法の精神』岩波文庫、平岡昇責任編集『ルソー』中央公論社（「世界の名著」第36巻）、柴田三千雄『フランス革命』岩波現代文庫、遅塚忠躬『フランス革命－歴史における劇薬』岩波ジュニア新書、シイエス『第三身分とは何か』岩波文庫

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。講義の内容に直接関係する質問は、手を挙げてくれれば、講義中にも受け付けます。

科目名	ドイツ文化・文化史特講 A		
教員名	天沼 春樹		
科目ナンバー	1151433324	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
ドイツおよびドイツ語文化圏の歴史的・文化的トピックを各週ごとに1テーマ選択し、その特質とその後の歴史、また外国への影響など、グローバルな視点も加えながら解説していく。その際、既存の文化史的クロニカルな解説ではなく、さらに本質をついて考える訓練を養うように指導していきたい。書籍を読めばわかる情報をつたえるだけでは意味がないと考える。よくある書籍を読めばたりる編年体のドイツ文化史ではない。また、そのとき、あらたにドイツに関する大きなテーマや事件が生じたときは、講義にくみこむこともある。			
到達目標			
ひとつのテーマや事件・人物がただ単独で発生したわけではない。そういう関連の世界や発展的洞察を「なぜ?」「どうして?」という疑問から、推理したり分析したりする思考も養ってもらいたい。情報をまるうつしにして、わかったつもりになっているのは、学者も・学生も一緒に、もう一歩つっこんだアプローチができるようにのぞんでいる。文化史はクイズの解答者を育てるためにあるのではない。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	総論 ゲルマン民族とはなにか? なぜ彼らは大移動(その実態は?)したのか。歴史が動くとき、なにが起こっているのか?		
	ドイツの地図参照		60分
第2回	ゲルマンの神話・伝説 ジークフリートはなぜ殺されたか		
	復習として、テーマを発展的に調査してみる。以下、復習はそういうことである。		60分
第3回	ゲルマン人の台頭 カール大帝は一代でフランク王国を築いたわけではない。		
	復習と発展。		60分

第4回	ゲルマン世界とローマ世界	
	復習と発展。	60分
第5回	ニュルンベルクは「シリコンバレー」だった？ ゲーテンベルクのメディア革命がもたらしたもの。 メディアと文化	
	復習と発展。	60分
第6回	その時歴史が動いた!! マルチン・ルターはなぜたちあがったのか？ 宗教改革の真実。その光と影	
	復習と発展。	60分
第7回	神聖ローマ帝国皇帝カレル4世の黄金のプラハを訪ねて。錬金術師・芸術家たちの都	
	復習と発展。	60分
第8回	ドイツロマン派とはなんであったのか？ ヨーロッパの激動のなかのドイツ	
	復習と発展。	60分
第9回	ゲーテとは誰であったのか？ 世界的知の巨人の足跡。『ファウスト』は現代もつながるテーマだった。	
	復習と発展。	60分

第10回	知られざるドイツ・ロマン派文学 ノバーリスだけがロマン派ではない。ロマン派への誤解を解く。	
	復習と発展。	60分
第11回	グリム兄弟の真実。メルヒェン蒐集だけじゃない学者兄弟。だけじゃない、闘う文化人!! ドイツ統一。そのとき、ヤーコプ・グリムが提言したこととは。ドイツ憲法へのメッセージ。グリム兄弟の知られざる「心」	
	復習と発展。	60分
第12回	もうひとつの空へ挑戦。ドイツ。シュヴァーベン魂。ツェッペリン伯爵。飛行船と現代。ツェッペリン伯爵は15,000キロを無着陸で日本まで飛行した!	
	復習と発展。	60分
第13回	ナチス高官たちの肖像。ヒトラー、ゲッベルス、ヒムラー、ゲーリング、そして副総統ルードルフ・ヘス。知られざる実態。	
	復習と発展。	60分
第14回	「友よその調べではなく!」シラーの詩にたくされたドイツの精神。そして今。ドイツの哲学を眺める。	
	復習と発展。	60分
第15回	ドイツの現在。メルケル首相のスタンス。環境大国ドイツ。ドイツの今を歩いてみる。	
	復習と発展。	60分以上

授業の方法

講義による。視聴覚教材(ビジュアル)を提示しながら、基本的事項とそれにかかわる批判・分析を試みながら、すこしでも興味をひいてもらいたいとの願いをこめて伝えていくつもりである。学問とは、情報の暗記やコピーのことではない。それに対して、「問いかける」からこそ学・問なのだ。

成績評価の方法

学期末のレポートによる。文化史のなかから1テーマを自由選択し、分析・論述すること。

成績評価の基準

既存の情報をうつしてきただけでは、評価はあまりよくならないだろう。テーマの選択、問題提起、分析。真摯に考えた結果を評価したい。また、着眼点も注意したい。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

ドイツの地勢的な位置をはじめ、固定的イメージにとらわれなくて、あらためて調べてみることを。現代の情報ソースを十分活用すること。ただし、批判的に。批判的とは、「うのみにしないで、考えることであり、すこしでも疑問があればさらに情報をさがすという態度である」書いてあることが正しいとはかぎらない。「紙はしんぼうづよい」というドイツのことわざがあるが、紙媒体にかぎらず、ネット情報であっても、すぐに信用すべきではないのである。

テキスト

とくに定めない。毎回ハンドアウトとして基本資料は配布する。参考文献や情報ソースはその都度指示する。

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業時間後10分。必要なら事前に予約してください。

科目名	イギリス文化・文化史特講 A		
教員名	小野 俊太郎		
科目ナンバー	1151433326	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
「ルールと逸脱」をテーマとする。サッカーには「オフサイド」のような不思議なルールがあるが、制約を発明して得失点差を少なくし勝負を伯仲させることに長けているのがイギリス文化だろう。ギャンブルや賭け事、笑いやファッションに、独特な味をもつ。また成文としての憲法をもたず、サリカ法などにさかのぼる古い規則を残しながら、大胆に時代に合わせてルールを変えてきた。この授業では、一見相互に関係ないように見える「ガーデニング」「スポーツ」「コメディ」「ファンタジー」「ファッション」などを通じて、イギリス文化がルールとその逸脱についてどのような展開してきたかを見ていきたい。			
到達目標			
1. 「ルールと逸脱」という観点からイギリス文化を理解するのに必要な知識が身につく。 2. 自分なりにイギリス文化に関する資料を集めてレポートの形にまとめられる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	はじめに：逸脱とルール		
	シラバスを熟読しておくこと。配布プリントの項目を復習すること。		60
第2回	都会と田舎（１）産業革命と近代化		
	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。		60
第3回	都会と田舎（２）田園都市		
	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。		60

第4回	ガーデニングの功罪	
	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第5回	動物虐待と動物愛護	
	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第6回	スポーツとルール	
	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第7回	賭けとフェアプレイ	
	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第8回	コメディと逸脱	
	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第9回	ミステリーと正義	
	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60

第10回	裁判と法	
	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第11回	幽霊と屋敷	
	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第12回	ファンタジー愛好熱	
	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第13回	ファッションと階級	
	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第14回	若者とストリート文化	
	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60
第15回	全体のまとめ	
	ウェブや図書館で事前に調査しておくこと。配布プリントの項目や英文を復習しておくこと。	60

授業の方法

配布プリントに基づく講義形式で行う。私語厳禁。期末レポートや授業外での資料の配布はSEIKEI PORTALを通じて行う。

成績評価の方法

授業内小テスト（30%）と期末レポート（70%）によって総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。イギリス文化についての知識の獲得および「逸脱とルール」についての理解が到達目標に達したかを基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし（毎回プリントを配布する）

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	アメリカ文化・文化史特講A		
教員名	細谷 典子		
科目ナンバー	1151433328	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
2008年、アメリカ合衆国で初のアフリカ系アメリカ人のバラク・オバマ大統領の誕生は、アフリカ系アメリカ人の歴史においては言うまでもなく、アメリカ合衆国の歴史においても、重大な画期となったことは紛れもない事実である。しかしながら、同国における人種差別問題は未だ解決したとは言い難い。そこで、現代アメリカの実情をより深く理解することを念頭において、アメリカ合衆国におけるアフリカ系アメリカ人の歴史を学ぶ。 具体的には、アフリカ大陸から強制的に連行され、奴隷として南部のプランテーションでの労働を強いられた時代に始まり、奴隷としての身分からは解放されたものの人種隔離という新たな差別構造の中で苦悩した時代、人種隔離制度の廃止を目指した公民権運動の時代、公民権運動後の流れを扱う。その際、「人種」は歴史的に構築されてきたものという視点から、それぞれの時代について、政治・経済・社会状況を背景に「人種」がどのように定義、再定義され、人種差別を内包する社会が成立していたのかという点にも触れていきたい。			
到達目標			
① アメリカ合衆国のアフリカ系アメリカ人の歴史的知識を習得する。 ② 多人種・多文化・多民族社会であるアメリカ合衆国のマイノリティの歴史を学び、社会の差別構造やマイノリティの復権について深く考察することによって、歴史や社会を観る際に相対化できる思考力を養うことを目標とする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の全体像、進め方、予習、復習の仕方等を説明する ・大統領選挙、黒人大統領の誕生について講義する。		
	【予習】 シラバスをよく読んで、講義内容を把握する。教科書のプロローグを読む。 【復習】 授業の全体像や進め方を確認する。		30
第2回	黒人奴隷制共和国アメリカ（第一章） ・大西洋奴隷貿易における北米植民地の位置づけを理解する。 ・アメリカ建国期における奴隷制の発展を理解する。 ・南部のプランテーションのシステムと発展を学修する。		
	【予習】 テキスト第一章(1～3)を熟読。 【復習】 年表を作成する。授業内で学修した事件や人物について詳細に記入する。		60
第3回	黒人奴隷制共和国アメリカ（第一章、続き） ・奴隷制下の黒人の抵抗と奴隷制廃止運動について学修する。 ・南北の奴隷制をめぐる政治対立と南北戦争に至る過程を把握する。		
	【予習】 第一章(4～5)を熟読。 【復習】 学修した内容をできるだけ詳細に記入した年表を作成する。		60

第4回	『地下鉄道』 ・ 奴隷の逃亡を助けた組織「地下鉄道」について学ぶ。	
	【予習】 『アンクル・トムの小屋』を読む。 【復習】 学修した内容をできるだけ詳細に記入した年表を作成する。	60
第5回	映画『グローリー』 ・ 鑑賞	
	【予習】 南北戦争時代と奴隷解放宣言について調べる 【復習】 映画に関連する史実を調べる。	60
第6回	映画『グローリー』 ・ 鑑賞（続き） ・ ディスカッション	
	【予習】 ディスカッションの論点を考える。 【復習】 『グローリー』という映画の現代的意味を考察する。	90
第7回	南北戦争から「どん底」の時代へ（第二章） ・ 南北戦争と再建の時代を学修する。	
	【予習】 第二章（1～2）を熟読。 【復習】 学修した内容をできるだけ詳細に記入した年表を作成する。	60
第8回	南北戦争から「どん底」の時代へ（第二章、続き） ・ 革新主義の時代、第一次世界大戦時の黒人の置かれた状況を把握する。 ・ ハーレム・ルネッサンスを学修する。	
	【予習】 第二章（3～4）を熟読。 【復習】 学修した内容を詳細に記入した年表を作成する。	60
第9回	大恐慌・第二次世界大戦期の黒人（第三章） ・ 南部のプランテーションシステムの動揺を把握する。 ・ ニューディール期の労働者の組織化の進展と黒人の状況の変化を把握する。	
	【予習】 第三章（1～2）を熟読。 【復習】 授業で学修した内容を詳細に記入した年表を作成する。	60

第10回	大恐慌・第二次大戦期の黒人(第三章、続き) ・第二次世界大戦期の黒人の前進を把握する。	
	【予習】 第三章(3～4)を熟読。 【復習】 授業で学修した内容を詳細に記入した年表を作成する。	90
第11回	冷戦下の公民権運動(第四章) ・冷戦下の赤狩りの時代の人種差別を把握する。 ・公民権運動の始まり(バスボイコット運動)について学修する。	
	【予習】 第四章(1～2)を熟読。 【復習】 授業で学修した内容を詳細に記入した年表を作成する。	60
第12回	冷戦下の公民権運動(第四章、続き) ・公民権運動とその成果を学修する。 ・公民権法成立後の運動と、投票権法の成立について学修する。映画「42」、ジャッキー・ロビンソンについて議論。	
	【予習】 第四章(3～4)を熟読。 【復習】 授業で学修した内容を詳細に記入した年表を作成する。	60
第13回	脱人種「白人保守革命」の時代(第五章) ・人種暴動とキングの暗殺について把握する。 ・「ブラック・パワー」について学修する。	
	【予習】 第五章を熟読。 【復習】 授業で学修した内容を詳細に記入した年表を作成する。	60
第14回	到達度確認テスト ・これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテスト。	
	【予習】 到達度確認テストに備え、これまでの学修内容を復習する。	240
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答 授業のまとめ	
	【復習】 到達度確認テストの結果を受け、授業内容を再度確認した上で、理解度や不足している知識等を確認し、学修する。	60

授業の方法

講義を中心とする。後半は映画鑑賞とそれに関連したグループでの議論を行う。映画鑑賞に際し、レポート提出を課題とする。到達度確認テストで授業全体の学修内容についての理解度を確認する。

成績評価の方法

小テストと課題(30%)、到達度確認テスト(40%)、講義中の発言や質問、授業への積極的な参加、グループでの議論への積極的な参加(300%)による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

以下の点の達成度を評価する。

- ・アフリカ系アメリカ人の歴史に関する知識を十分に学修できているか。
- ・それぞれの時代のアフリカ系アメリカ人が置かれた状況と差別について理解し説明ができるか。
- ・アフリカ系アメリカ人の復権運動を理解し説明できるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『アメリカ黒人の歴史』上杉忍著、中公新書 ISBN978-4-12-102209-7

参考書

授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本文化・文化史特講 A		
教員名	高松 百香		
科目ナンバー	1151433330	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
テーマは「女院をめぐる政治文化史」。 摂関時代に成立した女院という地位は、皇后の地位や国母（天皇生母）の権威、そして摂関政治という政治形態を背景に創設された。ただし女院の身分は、男性の院に準拠していたため、ジェンダー（歴史・文化・社会などの環境によって作られた性のあり方）を超えた存在となり、特に摂関・院政期の政治・文化に多くの影響を与えていくことになる。 本科目では、女院からみた摂関・院政期の政治と文化を考えていく。			
到達目標			
女院の成立と展開、日本の歴史上に与えた影響を理解し、説明することができる。 日本の歴史をジェンダー的視点で見直し、新たな日本史像をイメージすることができる。 単に新知見を受け入れるだけでなく、既存の自分の知識と照らし合わせた上で、自分なりの意見を持ち、それを他者に口頭や文章で伝えることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス		
	【予習】高校日本史程度の摂関・院政期の知識と古典（古文・漢文）の文法の確認		120分
第2回	女院の成立-摂関政治と後宮制度-		
	【予習】事前配付資料を熟読 【復習】学修内容の確認		60分
第3回	女院の制度-男院との比較を中心に-		
	【予習】事前配付資料を熟読 【復習】学修内容の確認		60分

第4回	東三条院-最初の女院-	
	【予習】事前配付資料を熟読 【復習】学修内容の確認	60分
第5回	上東門院-二人目の女院、最強の「吉例」-	
	【予習】事前配付資料を熟読 【復習】学修内容の確認	60分
第6回	陽明門院-三人目の女院、院政期への架け橋-	
	【予習】事前配付資料を熟読 【復習】学修内容の確認	60分
第7回	二条院・郁芳門院-四・五例目の女院、国母ではない女院-	
	【予習】事前配付資料を熟読 【復習】学修内容の確認	60分
第8回	小テスト・および解説	
	【予習】小テストに備え、これまでの学修内容の確認 【復習】小テストの結果を受けて、ここまでの学修内容を点検する	120分
第9回	高陽院・待賢門院・美福門院-六・七・八例目の女院、鳥羽院の妻たち-①	
	【予習】事前配付資料を熟読 【復習】学修内容の確認	60分

第10回	高陽院・待賢門院・美福門院-六・七・八例目の女院、鳥羽院の妻たち-②	
	【予習】事前配付資料を熟読 【復習】学修内容の確認	60分
第11回	八条院-鳥羽院鍾愛の娘、后を経ない女院、女院領荘園の領主-	
	【予習】事前配付資料を熟読 【復習】学修内容の確認	60分
第12回	建春門院-後白河院の寵妃、平氏政権との架け橋-	
	【予習】事前配付資料を熟読 【復習】学修内容の確認	60分
第13回	建礼門院-平清盛の娘、悲劇の女院の人生-	
	【予習】事前配付資料を熟読 【復習】学修内容の確認	60分
第14回	到達度確認テスト	
	【予習】【復習】到達度確認テストに備え、これまでの学修内容の確認	120分
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答 授業のまとめ	
	【復習】到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	60分

授業の方法

主に講義形式。

予習として次回分の事前配付資料を熟読してくることが望ましい。

授業中の発言や、授業後のリアクションペーパーなどで、受講生の意見を求めることがある。

小テストは第7回までの学修内容についての基本的な理解度を確認する。

小テスト・到達度確認テストともに、配付資料と手書きのノートのみ持ち込み可とする。

成績評価の方法

小テスト（1回：20%）、到達度確認テスト（1回：40%）、授業中の発言や質問・授業評価アンケートへの回答など授業への積極的な参加度（40%）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

①女院の成立と展開、日本の歴史上に与えた影響を理解し、説明することができる。

②日本の歴史をジェンダー的視点で見直し、新たな日本史像をイメージすることができる。

③単に新知見を受け入れるだけでなく、既存の自分の知識と照らし合わせた上で、自分なりの意見を持ち、それを相手に口頭や文章で伝えることができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

高校の「日本史B」程度の日本前近代史の知識と、古典（古文・漢文）の文法を理解していることを前提に授業を進める。

自信がない場合は、授業開始前にじっくり確認しておくこと。

テキスト

特に定めない。

授業中にプリントを配布する。

参考書

授業内で適宜指示もしくは配布する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	アジア文化・文化史特講 A		
教員名	フフバートル		
科目ナンバー	1151433332	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
アジアの多様な文化のなかでモンゴルは、自然環境、生業、歴史、文化、宗教、文字が他のアジア諸民族と大きく異なります。この授業ではモンゴル国の貴重な映画作品を通して様々な視点からモンゴルについて学びますが、20世紀のモンゴル社会史に焦点をおいて講義します。本講座では講師自身の翻訳による日本語字幕付きの作品を使用しながら学びます。			
到達目標			
20世紀のモンゴル映画はモンゴルの歴史、文化、自然の「教科書」だけでなく、20世紀のモンゴルの「社会史」でもあります。この科目では、20世紀のモンゴル映画作品を通して、モンゴル民族の歴史文化とモンゴル国の社会について理解を深めます。それによって、アジアの文化的多様性を見る視野を広げます。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	導入 モンゴルの近代史の流れ		
	【予習】 シラバスを確認し、関連キーワードについて調べ、予備知識をもつようにします。		60
第2回	モンゴルにとっての映画 1930年代のモンゴル 近代化への第一歩 モンゴル国最初の無声映画「ノルジマーの道」(1938年)とその解説		
	20世紀のモンゴルにおける社会史の流れの中で関連キーワードを焦点に、その内容について事前に調べます。		60
第3回	1930年代のモンゴル 独立と建国 モンゴル国最初の有声映画「モンゴルの息子」(1936年)とその解説 1		
	20世紀のモンゴルにおける社会史の流れの中で関連キーワードを焦点に、その内容について事前に調べます。		60

第4回	1930年代のモンゴル 独立と建国 モンゴル国最初の有声映画「モンゴルの息子」(1936年)とその解説 2	
	20世紀のモンゴルにおける社会史の流れの中で関連キーワードを焦点に、その内容について事前に調べます。	60
第5回	1930年代のモンゴル 独立と建国 モンゴル国最初の有声映画「モンゴルの息子」(1936年)とその解説 3	
	20世紀のモンゴルにおける社会史の流れの中で関連キーワードを焦点に、その内容について事前に調べます。	60
第6回	1950年代のモンゴル 遊牧から集団化へ 「新文字先生」とその解説 1	
	20世紀のモンゴルにおける社会史の流れの中で関連キーワードを焦点に、その内容について事前に調べます。	60
第7回	1950年代のモンゴル 遊牧から集団化へ 「新文字先生」とその解説 2	
	20世紀のモンゴルにおける社会史の流れの中で関連キーワードを焦点に、その内容について事前に調べます。	60
第8回	1950年代のモンゴル 遊牧から集団化へ 「新文字先生」とその解説 3	
	モンゴル近代史や社会史の流れの中で、 20世紀のモンゴルにおける社会史の流れの中で関連キーワードを焦点に、その内容について事前に調べます。	60
第9回	1960年代のモンゴル 農地開拓という社会主義化 「フフの結婚」とその解説 1	
	20世紀のモンゴルにおける社会史の流れの中で関連キーワードを焦点に、その内容について事前に調べます。	60

第10回	1960年代のモンゴル 農地開拓という社会主義化 「フフの結婚」とその解説 2	
	20世紀のモンゴルにおける社会史の流れの中で関連キーワードを焦点に、その内容について事前に調べます。	60
第11回	1980年代のモンゴル 地方の社会とどかな生活風景 「ゴビの蜃気楼」とその解説 1	
	20世紀のモンゴルにおける社会史の流れの中で関連キーワードを焦点に、その内容について事前に調べます。	60
第12回	1980年代のモンゴル 地方の社会とどかな生活風景 「ゴビの蜃気楼」とその解説 2	
	20世紀のモンゴルにおける社会史の流れの中で関連キーワードを焦点に、その内容について事前に調べます。	60
第13回	1980年代のモンゴル 地方ののどかな生活風景 「ゴビの蜃気楼」とその解説 3	
	20世紀のモンゴルにおける社会史の流れの中で関連キーワードを焦点に、その内容について事前に調べます。	60
第14回	1990年代のモンゴル 内モンゴルの定住化と伝統文化の喪失 「白い馬の季節」	
	20世紀のモンゴルにおける社会史の流れの中で関連キーワードを焦点に、その内容について事前に調べます。	60
第15回	まとめ	
	これまでのメモやディスカッションの内容をまとめ、指定のレポートを提出します。	60

授業の方法

日本語の字幕付き（字幕がない作品もあるが）の映画を見ながら学ぶ授業ですが、作品の内容について理解することを目的とするため、「準備学修」の指示通りの予習と授業での取り組みを強く求めます。
毎回作品内容についてメモを取らせ、一つの作品について一回ディスカッションを行います。特定の作品の内容や時代背景などについてレポートを書かせます。

成績評価の方法

平常点30%、レポートの評価70%。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

モンゴルの歴史文化と社会主義制度などについて入門書などを読み、予備知識をもつことを求めます。

テキスト

DVD作品を教材とし、プリント資料を配布することもあります。

参考書

授業で紹介し、指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	世界の言語文化A（ペルシア語）		
教員名	小澤 一郎		
科目ナンバー	1151435105	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
ペルシア語はイラン、アフガニスタンの公用語であるとともに、歴史的経緯から中央アジア、南アジアでも大きな文化的影響力を持っている。この言語に関する知識を深めることは、単に言語能力の修得にとどまらず、現在の国際情勢の中でも重要な地位を占めるイランを中心とした西アジア・中央アジア・南アジアの文化的背景に関する理解を深めることにもつながる。また、これらの地域から日本にやってくる人々も近年増えてきており、ペルシア語やそれに関連する知識は彼らとのコミュニケーション構築にも資するであろう。本講義ではペルシア語の初級段階の文法を解説していくとともに、イランを中心とした地域の政治・文化・歴史に関する様々なテーマについて講義を行う。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、3（他者との協働）、6（文化現象の総合的理解）を実現するため、以下の2点を到達目標とする。 ①ペルシア語の初級段階の運用能力（ペルシア文字による筆記、簡単な作文・会話）を習得する。 ②イランを中心とした地域の政治・文化・歴史に関する理解を深める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	全体のイントロダクション ペルシア語という言語について		
	予習：シラバスを読んで授業内容を確認しておく。書籍・インターネットなどでペルシア語に関する簡単な情報を得ておく。 復習：ペルシア語に関する基礎的な事項を確認しておく。		60
第2回	ペルシア文字の習得1 イラン概要		
	予習：配布されるテキストを確認し、次回の授業内容を確認しておく。 復習：当該回に学んだ文字の書き取りを行う。		60
第3回	ペルシア文字の習得2 イランの政治体制		
	予習：配布されるテキストを確認し、次回の授業内容を確認しておく。 復習：当該回に学んだ文字の書き取りを行う。		60

第4回	ペルシア文字の習得3 イランの風俗・習慣	
	予習：配布されるテキストを確認し、次回の授業内容を確認しておく。 復習：ここまで学んだペルシア文字を総合的に復習・書き取りをし、小テストに備える。	120
第5回	文法1（人称代名詞1、「である」「いる」の表現） 小テスト（ペルシア文字）	
	予習：配布されるテキストを確認し、次回の授業内容を確認しておく。 復習：授業で扱った文法事項・単語を利用して短文を作成し、書き取りを行う。	60
第6回	文法2（指示代名詞、疑問文） イランの歴史1	
	予習：配布されるテキストを確認し、次回の授業内容を確認しておく。 復習：授業で扱った文法事項・単語を利用して短文を作成し、書き取りを行う。	60
第7回	文法3（エザーフエ、「～のもの」の表現） イランの歴史2	
	予習：配布されるテキストを確認し、次回の授業内容を確認しておく。 復習：授業で扱った文法事項・単語を利用して短文を作成し、書き取りを行う。	60
第8回	文法4（人称代名詞2） イランの食	
	予習：配布されるテキストを確認し、次回の授業内容を確認しておく。 復習：授業で扱った文法事項・単語を利用して短文を作成し、書き取りを行う。	60
第9回	文法5（数詞1、時間・値段の表現） イランの文学・映画	
	予習：配布されるテキストを確認し、次回の授業内容を確認しておく。 復習：ここまで学んだ文法事項を総合的に復習し、小テストに備える。	120

第10回	文法6（数詞2、時刻・曜日の表現） 小テスト（第9回までの内容）	
	予習：配布されるテキストを確認し、次回の授業内容を確認しておく。 復習：授業で扱った文法事項・単語を利用して短文を作成し、書き取りを行う。	60
第11回	文法7（数詞3、月日の表現） イランと日本	
	予習：配布されるテキストを確認し、次回の授業内容を確認しておく。 復習：授業で扱った文法事項・単語を利用して短文を作成し、書き取りを行う。	60
第12回	文法8（「持つ」の表現、複数形） アフガニスタンの政治・文化・歴史	
	予習：配布されるテキストを確認し、次回の授業内容を確認しておく。 復習：授業で扱った文法事項・単語を利用して短文を作成し、書き取りを行う。	60
第13回	文法9（動詞の過去形・現在形） 中央アジアとペルシア語	
	予習：配布されるテキストを確認し、次回の授業内容を確認しておく。 復習：授業で扱った文法事項・単語を利用して短文を作成し、書き取りを行う。	60
第14回	南アジアとペルシア語 到達度確認テスト	
	予習：これまで学んだ内容を総合的に復習し、到達度確認テストに備える	120
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答 全体のまとめ	
	復習：到達度確認テストの結果を踏まえて自身の学習の到達度を確認し、不足している学習内容をもう一度見直す。	60

授業の方法

初回と第14回・第15回を除き、毎回1時間程度ペルシア語の文法に関する講義を行い、残りの時間で政治・文化・歴史に関する解説を行う。授業の進行度合いにより、上記に記載の各回の授業内容に変更が生じる可能性がある。ペルシア語の文法事項に関する小テスト2回、到達度確認テストを1回を行い、期末にはイランを中心とした地域の政治・経済・文化に関するレポートを提出してもらう。ペルシア語文法解説の際に書き取りを同時に行うため、大学ノート・筆記具を必ず用意すること。

成績評価の方法

小テスト（2回：25%）、到達度確認テスト（1回：25%）、期末レポート（1回：30%）に加え、授業への参加姿勢（20%）を勘案した総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、到達度により評価する。

- ①初級ペルシア語の運用能力を習得できているか。
- ②イランを中心とした地域の政治・文化・歴史に関する理解を深められているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に必要ないが、高校世界史・地理における西アジア東部（イラン、アフガニスタン）、中央アジア、南アジアに関する箇所を復習しておくといよい。

テキスト

浜畑祐子『ニューエクスプレス ペルシア語』、白水社、3120円、978-4560085844

必要箇所は授業で扱う前の週にコピーを配布するため購入する必要はないが、付属のCDが必要な場合は購入すること。

参考書

①黒柳恒男『現代ペルシア語辞典』、大学書林、16200円、978-4475000857

②吉枝聡子『ペルシア語文法ハンドブック』、白水社、4752円、978-4560085691

③岡田恵美子ほか『イランを知るための65章 エリア・スタディーズ』、白水社、978-4750319803

いずれも購入は必須ではない。①は高価なため図書館で利用するのがよい。各回に関する参考文献はその都度紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。また、電子メールでも随時受け付ける。

科目名	世界の言語文化B（ブルトン語）		
教員名	原 聖		
科目ナンバー	1151435205	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
フランス、ブルターニュ（ブレイス）地方の言語ブレイス（ブルトン）語とその文化について学習する。			
到達目標			
ケルト語に属するブレイス（ブルトン）語の特徴を理解し、その言語文化についての知識を深める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ケルト諸語の概略を解説し、そのなかでのブレイス（ブルトン）語の特徴について分析する。		
	印欧諸語とそのなかでのケルト語について学習する。		60分
第2回	ブレイス語の学習（1）： 日常会話と特徴的発音を学習する。		
	授業で紹介されたネット情報でブレイス語に触れる。		60分
第3回	ブレイス語の学習（2）： 日常会話と文法の初歩を学習する。とりわけ名詞の語頭変化に注目する。		
	授業で紹介されたネット情報によりブレイス語を学習する。		60分

第4回	ブレイス語の学習（3）： 日常会話と文法の初歩を学習する。とりわけ動詞の人称変化に注目する。	
	授業で紹介されたネット情報によりブレイス語を学習する。	60分
第5回	ブレイス語の学習（4）： 日常会話と文法の初歩を学習する。とりわけ前置詞の人称変化に注目する。	
	授業で紹介されたネット情報によりブレイス語を学習する。	60分
第6回	ブレイス語の学習（5）： 日常会話と文法の初歩を学習する。とりわけ動詞の時制に注目する。	
	授業で紹介されたネット情報によりブレイス語を学習する。	60分
第7回	ブルターニュ地方の歴史の概略を解説する。	
	授業で紹介された文献についてレポートをまとめる。	120分
第8回	ブルターニュ地方の文化の概略を解説する。	
	授業で紹介された文献についてレポートをまとめる。	120分
第9回	ブレイス語の学習（6）： 日常会話と文法の初歩を学習する。とりわけその会話表現に注目する。	
	授業で紹介されたネット情報によりブレイス語を学習する。	60分

第10回	ブレイス語の学習（7）： 日常会話と文法の初歩を学習する。とりわけその音韻体系に注目する。	
	授業で紹介されたネット情報によりブレイス語を学習する。	60分
第11回	ブレイス語の学習（8）： 日常会話と文法の初歩を学習する。さらに近接するカムリー（ウェールズ）語との比較を試みる。	
	授業で紹介されたネット情報によりブレイス語を学習する。	60分
第12回	ブレイス語の学習（9）： 日常会話と文法の初歩を学習する。さらにケルト諸語のなかでのブレイス語の位置について考える。	
	授業で紹介されたネット情報によりブレイス語を学習する。	60分
第13回	ブレイス語の学習（10）： 日常会話と文法の初歩を学習する。文法についてまとめる。	
	授業で紹介されたネット情報によりブレイス語を学習する。	60分
第14回	ブレイス語文化の概略を解説する。	
	授業で紹介された文献についてレポートをまとめる。	120分
第15回	ブルターニュ地方の言語文化についてまとめる。	
	授業で紹介された文献についてレポートをまとめる。	60分

授業の方法

言語文化の解説については講義が中心となるが、言語の学習は受講者の能動的参加が求められる。

成績評価の方法

授業での積極性（50%）、レポートの内容（50%）により評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくにない。

テキスト

とくにない。

参考書

最初の授業時に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	世界の宗教文化（ヨーロッパの教会と都市）		
教員名	原田 晶子		
科目ナンバー	1151435304	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
現代の日本に住むわたしたちには理解しにくい欧米社会の基層文化ともいえるキリスト教文化について、この文化が誕生した西洋中世の、特に多くの人が集まる場である都市に焦点を当てて、一般信徒の目線からみた当時のキリスト教のあり方を考察します。（主に歴史学の立場から考察していきます。）			
到達目標			
宗教の社会における役割や意義を考えることを通じて、現代の日本に生きるわたしたちとは異なる価値観を理解する方法を習得していきます。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス（ガイダンスの後、すぐ授業に入ります） 授業：西洋中世における政治とキリスト教		
	予習 ・自分が持っているキリスト教や中世のイメージをまとめてくること。 復習 ・授業資料を読み返し、授業ノートを整理すること。 ・授業中に出てきた意味があいまいな単語など調べること。 ・授業を通じて生じた疑問・興味を持った内容に関する文献を読むこと。	60	
第2回	西洋中世の都市に建てられた教会建築 ロマネスクからゴシックへ		
	予習 ・SEIKEI POTALにて授業資料を事前に配信します。熟読し、意味の分からない語句など調べておくこと。 復習 ・授業資料を読み返し、授業ノートを整理すること。 ・授業中に出てきた意味があいまいな単語など調べること。 ・授業を通じて生じた疑問・興味を持った内容に関する文献を読むこと。	90	
第3回	市民の信仰心（1） 死者の魂の救済：天国～煉獄～地獄		
	予習 ・SEIKEI POTALにて授業資料を事前に配信します。熟読し、意味の分からない語句など調べておくこと。 復習 ・授業資料を読み返し、授業ノートを整理すること。 ・授業中に出てきた意味があいまいな単語など調べること。 ・授業を通じて生じた疑問・興味を持った内容に関する文献を読むこと。	90	

第4回	市民の信仰心（2） 聖人崇敬と聖母マリア信仰	
	予習 ・SEIKEI POTALにて授業資料を事前に配信します。熟読し、意味の分からない語句など調べておくこと。 復習 ・授業資料を読み返し、授業ノートを整理すること。 ・授業中に出てきた意味があいまいな単語など調べること。 ・授業を通じて生じた疑問・興味を持った内容に関する文献を読むこと。	90
第5回	西洋中世末期の死生観 死の芸術の流行	
	予習 ・SEIKEI POTALにて授業資料を事前に配信します。熟読し、意味の分からない語句など調べておくこと。 復習 ・授業資料を読み返し、授業ノートを整理すること。 ・授業中に出てきた意味があいまいな単語など調べること。 ・授業を通じて生じた疑問・興味を持った内容に関する文献を読むこと。	90
第6回	市民による教会への寄進（1） 装飾品の寄進	
	予習 ・SEIKEI POTALにて授業資料を事前に配信します。熟読し、意味の分からない語句など調べておくこと。 復習 ・授業資料を読み返し、授業ノートを整理すること。 ・授業中に出てきた意味があいまいな単語など調べること。 ・授業を通じて生じた疑問・興味を持った内容に関する文献を読むこと。	90
第7回	市民による教会への寄進（2） ミサや讃美歌の寄進	
	予習 ・SEIKEI POTALにて授業資料を事前に配信します。熟読し、意味の分からない語句など調べておくこと。 復習 ・授業資料を読み返し、授業ノートを整理すること。 ・授業中に出てきた意味があいまいな単語など調べること。 ・授業を通じて生じた疑問・興味を持った内容に関する文献を読むこと。	90
第8回	教区教会の社会的役割の違い	
	予習 ・SEIKEI POTALにて授業資料を事前に配信します。熟読し、意味の分からない語句など調べておくこと。 復習 ・授業資料を読み返し、授業ノートを整理すること。 ・授業中に出てきた意味があいまいな単語など調べること。 ・授業を通じて生じた疑問・興味を持った内容に関する文献を読むこと。	90
第9回	キリスト教的慈善活動 兄弟団と施療院	
	予習 ・SEIKEI POTALにて授業資料を事前に配信します。熟読し、意味の分からない語句など調べておくこと。 復習 ・授業資料を読み返し、授業ノートを整理すること。 ・授業中に出てきた意味があいまいな単語など調べること。 ・授業を通じて生じた疑問・興味を持った内容に関する文献を読むこと。	90

第10回	西洋中世の修道院の歴史	
	予習 ・ SEIKEI POTALにて授業資料を事前に配信します。熟読し、意味の分からない語句など調べておくこと。 復習 ・ 授業中に出てきた意味があいまいな単語など調べること。 ・ 授業を通じて生じた疑問・興味を持った内容に関する文献を読むこと。	90
第11回	都市に誕生した修道院 托鉢修道会	
	予習 ・ SEIKEI POTALにて授業資料を事前に配信します。熟読し、意味の分からない語句など調べておくこと。 復習 ・ 授業資料を読み返し、授業ノートを整理すること。 ・ 授業中に出てきた意味があいまいな単語など調べること。 ・ 授業を通じて生じた疑問・興味を持った内容に関する文献を読むこと。	90
第12回	都市におけるキリスト教的宗教儀礼 行列と入試式	
	予習 ・ SEIKEI POTALにて授業資料を事前に配信します。熟読し、意味の分からない語句など調べておくこと。 復習 ・ 授業資料を読み返し、授業ノートを整理すること。 ・ 授業中に出てきた意味があいまいな単語など調べること。 ・ 授業を通じて生じた疑問・興味を持った内容に関する文献を読むこと。	90
第13回	宗教改革（１） プロテスタント教会の誕生	
	予習 ・ SEIKEI POTALにて授業資料を事前に配信します。熟読し、意味の分からない語句など調べておくこと。 復習 ・ 授業資料を読み返し、授業ノートを整理すること。 ・ 授業中に出てきた意味があいまいな単語など調べること。 ・ 授業を通じて生じた疑問・興味を持った内容に関する文献を読むこと。	90
第14回	宗教改革（２） キリスト教世界の拡大	
	予習 ・ SEIKEI POTALにて授業資料を事前に配信します。熟読し、意味の分からない語句など調べておくこと。 復習 ・ 授業資料を読み返し、授業ノートを整理すること。 ・ 授業中に出てきた意味があいまいな単語など調べること。 ・ 授業を通じて生じた疑問・興味を持った内容に関する文献を読むこと。	90
第15回	到達度確認テストと解説	
	予習 ・ これまでの授業内容を復習し、ノートにまとめ直しておくこと。 復習 ・ 授業を通じて生じた疑問・興味を持った内容に関する文献を読むこと。	120

授業の方法

講義形式で行います。事前にSEIKEI PORTALを通して配信する授業資料に基づいて講義を進めますので、十分な予習が必要です。毎回、授業の終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。提出がなかった場合、あるいは授業の感想や質問を一切書いていなかった場合は欠席扱いとします。

できるだけ具体的なイメージが持てるよう、図像や映像資料を積極的に使用する予定です。

授業の進度や受講者の関心に応じて、内容・順序を変更することがあります。

成績評価の方法

平常点：40%（出席を重視します。なお授業終了時のリアクションペーパー提出をもって出席とみなします。）

試験：60%（論述形式。自筆のノートのみ持込可とします。なおインターネットからの丸写しの回答と判断した場合は、大幅に減点します。特に学術的に信用のおけないサイトからの場合は不可とします。）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その到達度により評価します。

- ・到達度確認試験において、宗教的・歴史的事象に関する詳細な説明ができ、それに対する独自の見解を論理的に述べることができる。
- ・毎回、講義および使用した授業資料を十分に理解したうえで、リアクションペーパーを提出している。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし

参考書

河原温『都市の創造力（ヨーロッパ中世2）』岩波書店、2009年

松本宣郎編『キリスト教の歴史』山川出版社、2009年

その他、授業の中でも紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。また随時、電子メールアドレスでも受け付けます。

科目名	国際文化研究 A		
教員名	見市 雅俊		
科目ナンバー	1151435401	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
人間社会の営みは、いつの時代、どこでも同じであるところと、まったく違うところの両面を持ち合わせています。この授業では、そのことを念頭に置きながら、比較史の観点から、日常生活にまつわる、様々な文化の現象を論じてゆきます。			
到達目標			
日常的な次元において、自分の国と異国の文化の両方をしっかり見極める方法を学ぶ。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	「文化」とはなにか		
	シラバスを読んでくる。		15
第2回	日本文化の基本的なかたちを考える その(一) 中国文明とのかかわりのなかで		
	授業で取り上げた日本の文化にかかわるさまざまな事象について自分で調べてみる。		60
第3回	日本文化の基本的なかたちを考える その(二) 西洋文明とのかかわりのなかで		
	授業で取り上げた日本の文化にかかわるさまざまな事象について自分で調べてみる、		60

第4回	食の文化について考える その（一） 狩猟採集社会から農業社会へ	
	授業で取り上げた原始時代の生活について復習する。	30
第5回	食の文化について考える その（二） パン食と米食を比較する	
	授業で取り上げた西洋と日本の食文化の相違点と共通点について復習する。	30
第6回	食の文化について考える その（三） 現代日本の「雑食」文化について	
	第2回と第3回の日本文化論と、この第6回の授業の内容をつなぎ合わせてみる、	60
第7回	ことばの歴史をみる その（一） 「読み書き能力」について	
	ことばの社会的機能について復習する。	30
第8回	ことばの歴史をみる その（二） フランス語を話せないフランス人について	
	近代フランス史を復習し、授業の内容とつなげてみる。	60
第9回	病気と医療の歴史 その（一） 進歩、開発、伝染病の「誕生」	
	ここで語られる農業開発と伝染病の関係について、第4回の授業の内容とつなぎ合わせてみる。	60

第10回	病気と医療の歴史 その（二） ペストと西洋社会	
	疾病と社会とのかかわりについて復習する。	30
第11回	病気と医療の歴史 その（三） 近代衛生改革	
	日常生活のなかの衛生という「文化」について復習する。	30
第12回	景観・国土・地理 その（一） 島国論	
	授業で展開される日英比較について復習する。	30
第13回	景観・国土・地理 その（二） 観光旅行と「国土」	
	観光を「文化」現象としてみるものの意味について復習する。	30
第14回	景観・国土・地理 その（三） 都市計画	
	日本の住まいの文化について復習する。	30
第15回	まとめ	
	授業で話されたことをヒントにして、身の回りの「ミクロ」の事象から、「マクロ」の世界について考察することの筋道を考えてみる	60

授業の方法

講義形式をとる。シラバスを毎回、配布し、それにもとづいて授業を進める。

成績評価の方法

学期の途中で、テーマを設定して「小レポート」の提出を求める。そして期末試験。持込不可の筆記試験となる。小レポートと期末試験の両方を総合して成績を評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

なし。

参考書

授業のなかで、適宜、紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	国際文化研究B		
教員名	川村 陶子		
科目ナンバー	1151435402	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要			
「文化多様性からみる現代ドイツ」 この授業では、ひとつの国ないし社会を、文化多様性という見地から、多角的かつ歴史的にとらえ直すことを試みる。具体例として、ヨーロッパの中心国であり、西ドイツ時代以来「ひらかれた民主主義」の建設を目指してきたドイツ連邦共和国を取りあげる。同時に、日本の状況についても折々に比較、考察する。 多様なものの共生は、今日の国際社会において、摩擦や対立を生み出す原因であると同時に、新たな創造性の源でもある。授業では、ドイツやヨーロッパで行われている多様性マネジメントの試み（政策、活動等）にも注目し、文化多様性をよりよい社会づくりに生かすためのヒントを受講者とともに考えたい。 なお、授業の具体的な内容や予定は、履修者の状況等によって修正・調整する可能性がある。			

到達目標			
主としてDP1（教養の修得）を実現するため、以下のことを目標とする。 ・現代ドイツが内包するさまざまな意味での「多様性」をひもとくことにより、ドイツを新たな目で理解する。 ・多様性のもたらす困難や課題と、それが内包する創造性や可能性について考察を広げる。 ・さまざまな国や社会を、文化多様性という見地から批判的にとらえる眼を養う。 加えて、インタラクティブな授業形態により、間接的にDP2（課題の発見と解決）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）の実現も目指す。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	(以下のような流れで進める予定である。実際の内容は、現実の社会や研究の動向、受講者の構成や反応などにより、修正することがある。) 《イントロダクション》 講師の問題関心と授業の概要について説明し、受講者の関心を聴取する。		
	シラバスをよく読み、授業の概要を把握する。テーマに関連した自分の関心や事前知識を整理し、今後の勉強の計画をたてる。	30	
第2回	《文化の多様性と現代の諸問題》 文化多様性とはどのようなことか、それが今日の世界におけるどのような事象と関連しているかについて、概略的に整理する。		
	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返しを行う。	60	
第3回	《ドイツとは何か》 ドイツという国、社会がはらむ複雑さと、それを規定する多様性について理解を深める。		
	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返しを行う。	60	

第4回	《多様性からみるドイツ（１）地方とヨーロッパA》 地理的な広がり と 多彩な地方色について理解を深める。歴史的な経緯にとりわけ注目する。	
	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返しを行う。	60
第5回	《多様性からみるドイツ（１）地方とヨーロッパB》 地理的な広がり と 多彩な地方色について理解を深める。現代的な状況にとりわけ注目する。	
	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返しを行う。	60
第6回	《多様性からみるドイツ（２）冷戦と東西A》 ドイツにおける「東と西」について理解を深める。とくに、20世紀後半の冷戦と国家分断がもたらした影響に注目する。	
	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返しを行う。	60
第7回	《多様性からみるドイツ（２）冷戦と東西B》 ドイツにおける「東と西」について理解を深める。今日における東西ドイツの違いや、それが政治や社会に及ぼす影響にとりわけ注目する。	
	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返しを行う。	60
第8回	《多様性からみるドイツ（３）世代と歴史・社会観A》 人びとを分ける世代について理解を深める。近現代史の流れの中で、世代を形成する要因となった出来事にとりわけ注目する。	
	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返しを行う。	60
第9回	《多様性からみるドイツ（３）世代と歴史・社会観B》 人びとを分ける世代について理解を深める。現代史の諸問題に関する公的認識の形成に、世代が及ぼした役割についても考察する。	
	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返しを行う。	60

第10回	《多様性からみるドイツ（４）人の移動と受け入れ・統合Ａ》 人の移動が生み出す多様性について理解を深める。ドイツをめぐる人の移動の歴史的な流れに、とりわけ注目する。	
	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返しを行う。	60
第11回	《多様性からみるドイツ（４）人の移動と受け入れ・統合Ｂ》 人の移動が生み出す多様性について理解を深める。とくに今日における移民・難民の受け入れや統合に注目する。	
	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返しを行う。	60
第12回	《多様性からみるドイツ（５）ジェンダーとセクシュアリティ》 ジェンダーや家族に関する考え方、性的指向や性的自認の多様性の扱いについて理解を深める。歴史的な経緯と現代における展開の双方に注目する。	
	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返しを行う。	60
第13回	《国際社会における文化多様性のマネジメント》 世界における多文化の共生と、そこにおけるドイツの取り組みについて理解を深める。	
	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返しを行う。	60
第14回	《多様性がもたらす課題と可能性》 今日、ドイツの国レベル、および国際社会のレベルにおいて、多様性がもたらす諸問題と、それが生み出す革新や創造について総括的に議論する。	
	関連の文献や資料、ネット、新聞等を用いて自習する。授業のノートを読み直し、授業のふり返しを行う。	60
第15回	《まとめ》 一学期の授業のふり返しを行う。受講者数が多数の場合、到達度確認テストを実施する。	
	授業内容の総括と復習を行う。 関連したテーマの期末レポートを作成する。 (受講者数が多数の場合、レポートの代わりに到達度確認テストを実施する。)	120

授業の方法

講義を中心とするが、できるだけ双方向の授業をめざす。（履修者の人数等によっては、より参加型の性格が強い授業とする可能性もある。）

毎回の講義でリアクションペーパーを配布し、授業を簡単に振り返ってもらくと同時に、受講者からの質問や意見を受け付ける。寄せられた質問等に対しては、次回の授業で解説を行い、理解を深める手助けとする。

授業では、講義の要点や関連する文献や視聴覚資料、ネット情報等を掲載したレジュメを配布する。また、授業内容に関連する映画を紹介し、小課題の形で鑑賞、批評を行うことも検討している。履修者には、授業で得た情報や自分自身で収集した情報を活用し、自主的かつ積極的に学修を行うことを求める。

成績評価の方法

期末レポート（ないし到達度確認テスト）30%、リアクションペーパーを含む各種提出物70%をめやすに、総合的に評価する。

履修者の人数等によって、評価方法を調整することがある。その場合は授業で速やかに周知する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

履修にあたっては、事前に、および授業と並行して、世界史とくに近現代史に関する全般的な学習を行うこと、ドイツやヨーロッパ、世界の情勢について文献やネット等で自主的な情報収集を行うことが望ましい。

ドイツの歴史や文化に関して、事前の知識は必須ではないが、関連授業の履修や自主的な学習は授業の内容理解に役立つ。

ドイツ語に関する知識も必要ないが、あれば授業の内容理解に役立つ。

関連科目：国際関係論、国際文化論、ドイツの歴史と文化、ドイツ文化・文化史特講、その他近現代史およびドイツ・ヨーロッパに関する科目

テキスト

決まったテキストは使用しない。開講時および授業中に、参考書や関連文献を紹介する。

参考書

田野大輔・柳原伸洋編著『教養のドイツ現代史』ミネルヴァ書房、2016年。

森井裕一編著『ドイツの歴史を知るための50章』明石書店、2016年。

ほか、開講時および授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	西洋美術史		
教員名	人見 伸子		
科目ナンバー	1251435405	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
現在、我々の周囲には様々なイメージがあふれている。たとえば西洋美術の作品を例にとっても、画集やテレビ、ビデオ、インターネットなどの多様なメディアを通して、自宅にいながらにしてその画像イメージを見ることができる。あるいは各地の美術館やギャラリーに足を運べば、実際の美術作品を鑑賞することも可能である。 1点の作品に出会ったとき、美しい、自分の好みにあっている、感動的だというように、いわば感覚的に鑑賞することが多いかもしれない。しかし、その作品が意味するもの、あるいは画家が作品を制作した背景や真の意図を理解したとき、我々と作品との絆はより一層強くなるだろう。 今年度の授業は、西洋美術のさまざまなジャンルや表現方法について学び、基本的な知識を身につけることを目的とする。授業に出席するのみならず、日々の生活でも様々な機会を捉え、美術作品に触れる機会を増やしてほしい。			
到達目標			
西洋美術の柱のひとつであるキリスト教美術を中心に、その主題や機能、画材や技法に関して基本的知識を身につけ、絵を読み解く力を養うことを目的とする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	授業の概要 ・授業の計画や進め方、参考文献について説明 ・西洋美術を読み解く鍵となる「アトリビュート」について理解を深める。		
	シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。		60分
第2回	壁画 / フレスコ ・教会・礼拝堂の壁や天井に描かれた壁画について、代表的な作例を紹介する。 ・壁画によく使われたフレスコ技法について、理解を深める。		
	参考文献で予習・復習するとともに、画集やインターネットを利用して、他の事例を確認する。		60分
第3回	祭壇画 / テンペラ ・カトリック教会で祭壇に設置される宗教画について、基礎的な知識を学ぶ。 ・宗教画によく使用されたテンペラやグリザイユといった技法について理解する。		
	・参考文献での予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認		60分

第4回	写本装飾画 / タペストリー ・手書きの書物につけられた挿絵：写本装飾画や、建物の壁面を飾ったタペストリーについて、基本的な知識を身につける。	
	・参考文献での予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認	60分
第5回	アダムとエヴァ ・『旧約聖書』の冒頭に登場する最初の人類、アダムとエヴァを扱った美術について学ぶ。	
	・参考文献での予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認	60分
第6回	受胎告知 / 降誕 ・宗教画のうち、マリアへのお告げを扱った「受胎告知」やキリストの「降誕」の主題について紹介する。	
	・参考文献での予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認	60分
第7回	キリストの洗礼 / 最後の晩餐 ・キリストの生涯を扱った宗教画のうち、「洗礼」と「最後の晩餐」のテーマや代表例について学ぶ。	
	・参考文献での予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認	60分
第8回	キリストの磔刑 / 復活 ・キリストの生涯を扱った宗教画のうち、「磔刑」と「復活」のテーマと代表例について理解する。	
	・参考文献での予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認	60分
第9回	聖母マリアの美術 ・聖母マリアを中心にすえた美術作品の代表例について学ぶ。	
	・参考文献での予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認	60分

第10回	最後の審判 / 天使 ・世界の終わりに再臨したキリストの「最後の審判」を扱った美術について学ぶ。 ・宗教画に登場する天使のイメージをを理解する。	
	・参考文献での予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認	60分
第11回	油彩 ・油彩技法の歴史と代表例について学ぶ。	
	・参考文献での予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認	60分
第12回	水彩 / パステル ・水彩やパステルを用いた作品の代表例と発展について学ぶ。	
	・参考文献での予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認	60分
第13回	版画 ・版画の多様な技法とその具体例について学ぶ。	
	・参考文献での予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認	60分
第14回	彫刻 / 浮彫 ・三次元的な表現である彫刻について、多様な具体例を紹介する。	
	・参考文献での予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認	60分
第15回	授業のまとめ ・宗教画の流れを概観し、新しい表現の可能性を探る。	
	・参考文献での予習・復習 ・画集やインターネットを利用して、他の事例を確認	60分

授業の方法

毎回スライド等で作品の画像を提示しながら、講義形式で授業を進める。最新の展覧会情報を提供するので、美術館に足を運び、実際の作品に接する機会をぜひ作ってほしい。

成績評価の方法

中間のレポート提出（30%）と学期末の筆記試験（50%）、および出席点（20%）を総合して評価する。
単位認定には3分の2以上の出席、レポート提出、および期末試験を受けることが必要である。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

（高校の）世界史の既習が望ましいが、必須ではない。

テキスト

とくに定めない。

参考書

高橋裕子著 『西洋美術のことば案内』 小学館
千足伸行監修 『すぐわかる キリスト教絵画の見方』 東京美術
三浦篤著 『まなざしのレッスン ①西洋伝統絵画』 東京大学出版会
その他、授業中に随時紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	東洋美術史		
教員名	嶋田 さな絵		
科目ナンバー	1251435406	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
本講義では、山水文化（山水をめぐる人間の活動）をテーマとした美術を、庭園や絵画等について解説します。対象とする時代は、山水文化が大きく展開した魏晉南北朝時代から宋・元代までを中心とします。世界史的時代背景とともに、最新の学会の動向も紹介しながら講義を行います。			
到達目標			
東洋的山水文化をテーマとした美術の系譜を理解する。「風景」に関する理解を深める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス。講義の内容やの進め方、学習の方法を説明します。		
	【予習・復習】シラバスを読み、講義の全体像を把握する。	60分	
第2回	ユーラシア大陸の美術について。新石器時代から隋唐時代までの中国の美術を、世界システムの発展と世界宗教圏の誕生の視点から解説します。		
	【復習】配布プリントをよく読み、用語や図の説明ができるようにする。おおまかな中国史の流れを把握する。	60分	
第3回	江南文化の展開について。山水文化の母体となった江南文化の誕生と展開を、第2回の講義をふまえて具体的に解説します。		
	【復習】配布プリントをよく読み、用語や図の説明ができるようにする。	60分	

第4回	風景について。山水文化発展のきっかけとなった「風景」という価値の発見、およびその美術史における意義を解説します。	
	【復習】配布プリントをよく読み、用語や図の説明ができるようにする。	60分
第5回	山水と風景の関連について。中国における「山水」と「風景」の語義や概念について解説します。	
	【復習】配布プリントをよく読み、用語や図の説明ができるようにする。	60分
第6回	中国の風景庭園について。中国の風景庭園について、西洋の風景庭園と比較しながら解説します。	
	【復習】配布プリントをよく読み、用語や図の説明ができるようにする。	60分
第7回	中国の知識人について。中国における山水をテーマとした美術的活動の主たる担い手であった知識人（文人）とはどのような人々であったのかを解説します。	
	【復習】これまでの配布プリントをよく読み、用語や図の説明ができるようにし、小テストに備える。	90分
第8回	小テスト。これまでの学修内容について、理解度を確認するためのテストです。	
	【予習】配布プリントを熟読。 【復習】これまでの講義やテストの疑問点等をまとめておく。	90分
第9回	小テスト解説、および第7回までの講義の質疑応答、まとめと補足を行います。	
	【復習】小テストの結果をふまえ、これまでの講義の内容をもう一度見直す。	60分

第10回	竹林七賢を題材とした美術について。魏晉の知識人である竹林七賢をモチーフとした美術の変遷について解説します。	
	【復習】配布プリントをよく読み、用語や図の説明ができるようにする。	60分
第11回	顧愷之の『洛神賦図』について。現存する『洛神賦図』のうち、顧愷之『洛神賦図』の模本と伝承される作品について、制作年代ごとの特徴を解説します。	
	【復習】配布プリントをよく読み、用語や図の説明ができるようにする。	60分
第12回	都市と山水の分極化と統合について。都市に庭園を造営するうえでの基本的な考え方を、東洋と西洋を比較しながら、歴史の観点から解説します。	
	【復習】配布プリントをよく読み、用語や図の説明ができるようにする。	60分
第13回	東洋的山水庭園の系譜と日本庭園について。世界史における東洋的山水庭園の位置づけ、および日本庭園について解説します。	
	【復習】これまでの配布プリントを熟読し、用語や図の説明ができるようにして、到達度確認テストに備える。	90分
第14回	到達度確認テスト。第2回から第13回までの講義の内容の理解度を確認するためのテストです。	
	【予習】配布プリントを熟読。 【復習】これまでの講義やテストの疑問点等をまとめておく。	90分
第15回	到達度確認テストの解説、および講義の補足と質疑応答を行います。	
	【復習】テストの結果をふまえ、到達目標と自己の理解度を点検し、不足している知識を確認して学修する。	60分

授業の方法

授業は、講義を中心に進めます。毎回プリントを配布しますので、熟読し、積極的にノートをとってください。

- ・小テスト 第2回から第7回までの講義の内容について、基本的な理解度を確認します。
- ・到達度確認テスト 講義全体の学修内容についての理解度を確認します。

成績評価の方法

小テスト（30%）、到達度確認テスト（40%）、平常点（授業への参加状況や学習の姿勢）（30%）により、総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

1. 魏晉南北朝時代から宋・元代までの世界史の流れを説明できる。
2. 山水文化をテーマとした美術について、誕生と発展の流れを説明できる。
3. 山水と都市の調和について、考察できる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。授業中にプリントを配布します。

参考書

授業のなかで適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	アラビア語の世界 I		
教員名	堀内 里香		
科目ナンバー	1151435407	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
北アフリカ、アラビア半島、ヨルダン、シリア、イラクなどの国々の主要言語であるアラビア語は、国連の公用語のひとつであるとともに、聖典コーランがアラビア語で書かれていることでも、アラビア語は重要な言語といえます。パソコンや携帯電話の普及により、アラビア語でメールを打ったり、アラビア語のニュース動画を見たり、新聞を読んだりすることが手軽にできるようになりました。 本講義は、15回の講義を通してアラビア語のアルファベットの習得を目標としています。ですから、イスラム教に興味がある人、独学でつまずいた人、アラビア文字を用いるペルシャ語など他言語の学習に役立てたい人にも適しています。 文字の習得のためにアルファベットカードや文字タイルなどを用います。将来アラビア文字を教えてみたい人、アラビア文字の学習法に興味のある人、社会人、他大学の学生の参加も歓迎しています。授業は日本語で行いますが、テキストはアラビア語のみか英語表記を用います。 「アラビア語の世界I」は前期開講の授業で、後期開講の「アラビア語の世界II」を履修する学生には必須の授業です。前期のみの履修も可能ですが、前期はアラビア文字の習得に終始しますので、文章や文法まで理解を深めたい学生は後期も続けて履修しましょう。			
到達目標			
1. アラビア文字のアルファベットを完全に習得する。 ①独立形と連結形②つながらない文字③基本単語 2. 50音表を習得してシャクルのない単語を読み書きできる。 ①日本語をアラビア文字に変える②アラビア文字で書かれた日本語や英語を読む			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 1、学習の手引きのプリント配布してアラビア語の学習教材について説明 2、単語を読み書きして、アラビア文字に慣れる		
	復習 配布資料		60
第2回	3、アラビア文字の形に慣れるために、幾つかの単語を板書する 4、板書した単語を発音する 5、板書した単語を読む 6、文字の区切りを理解する 確認テスト		
	復習 単語、独立形		60
第3回	7、綴りの仕組みを学ぶ 8、アルファベットを読む 9、独立形を書く 10、単語を読む		
	復習 単語、独立形		60

第4回	1 1、アルファベットを読む 1 2、綴りの仕組みを学ぶ 1 3、独立形を書く 確認テスト	
	復習 単語、独立形	60
第5回	1 4、独立形の復習 1 5、綴りの仕組みを学ぶ 1 6、連結形を書く 1 7、単語を読む	
	復習 単語、連結形	60
第6回	1 8、連結形を書く 1 9、単語を読む 2 0、単語を書く	
	復習 単語、連結形	60
第7回	2 1、つながらない文字とは 2 2、単語を書く 2 3、単語と単語で文をつくる 2 4、会話文	
	復習 単語、つながらない文字	60
第8回	2 5、会話文 2 6、アラビア文字の綴り方のまとめ 確認テスト	
	復習 単語、つながらない文字	60
第9回	2 7、50音とは 2 8、会話	
	復習 会話、50音	60

第10回	29、50音で単語を読む 30、会話	
	復習 会話、50音	60
第11回	31、50音で単語を書く 確認テスト	
	復習 会話、50音	60
第12回	32、会話 33、地名を読む	
	復習 地名	60
第13回	34、品名を読む 35、人名を読む 確認テスト	
	復習 品名	60
第14回	36、単語を学ぶ 37、人名を書く	
	復習 単語、人名	60
第15回	総括	
	特になし	60

授業の方法

プリントと板書で説明します。文字カードを多用して難解なアラビア文字を取得できるように進行します。
講義の最初の0-5分 本日の講義内容のポイントと流れを説明。

- 10-20分 前回までの内容の復習、前回の確認テスト返却し補足説明。
- 20-30分 新しい内容、重要点を解説。
- 40-50分 配布プリントの問題を各人解く。
- 50-60分 確認テストを行う。
- 60-70分 発音、会話を練習。
- 80-90分 質疑応答。

確認テストの実施は授業の進行により前後します。

成績評価の方法

確認テスト50点（1回10点）＋平常点15点＋宿題レポート35点＝合計100点の総合評価。
出席は毎回とる。遅刻は減点の対象です。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識・先修科目はない。関連科目としては、継続して「アラビア語の世界2」を受講すると発展的なアラビア語の学習を可能にする。中東や北アフリカ地域の宗教や文化、多言語環境や多文化理解へと発展させることが可能である。

テキスト

自作のプリントを配布する。

参考書

『イスラーム世界研究のための 現代アラビア語マニュアル 2009』京都大学イスラーム地域研究センター

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

講師室は授業前後の1時間を利用ください。確認テストで質問することもできます。

科目名	アラビア語の世界II		
教員名	堀内 里香		
科目ナンバー	1151435408	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

本講義は、アラビア語の世界Iで習得したアラビア語のアルファベットを使って、単語や文の読み書きと会話を学ぶ。すでに文字を習得していることが前提であるため、アラビア語の世界1を履修していることが望ましい。
 会話テキストでフレーズが自然と口について出てくるように繰り返して発音することと並行して、文法テキストで該当する文法をリンクして学び、最終的にアラビア語圏の小学校1年生程度のアラビア語力を身に付ける。旅行や留学先でアラビア語圏の人びとと出会ったときに、スムーズに会話できることを目標としている。

到達目標

1. 動詞のない文型と疑問文を書く
2. 基本的な会話とその応用を話す
3. 多言語環境を理解するために、日本語の単語をアラビア文字化する

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	アラビア語Iの復習、総括 授業の概要	
	プリント	60
第2回	会話テキスト これは～です 文法テキスト 連結形と母音符号（ファタハ）	
	プリントの復習	60
第3回	会話テキスト これは～です 文法テキスト 連結形と母音符号（カスラ）	
	単語の復習	60

第4回	会話テキスト これは何ですか、男性名詞 文法テキスト 母音符号（ダンマ、スクーン、シャッダ）	
	文型の復習	60
第5回	会話テキスト これは何ですか、女性名詞 文法テキスト 長母音	
	会話の復習	60
第6回	会話テキスト これは～ですか、親族名称 文法テキスト タンウィーン	
	文型の復習	60
第7回	会話テキスト 人称代名詞 文法テキスト 母音符号のまとめ	
	単語の復習	60
第8回	会話テキスト 所有格 文法テキスト 地名を読む	
	文型の復習	60
第9回	会話テキスト 身体名称 文法テキスト 定冠詞	
	定冠詞の復習	60

第10回	文法テキスト 定冠詞	
	単語の復習	60
第11回	文法テキスト 定冠詞まとめ	
	文型の復習	60
第12回	単語テスト	
	動詞の復習	60
第13回	会話テキスト 親族を紹介する 文法テキスト 数詞	
	会話の復習	60
第14回	会話テキスト 親族を紹介する、職業名詞 文法テキスト 定冠詞を使った文	
	なし	60
第15回	総括	
	なし	60

授業の方法

アラビア語のみの会話のテキストと英語解説の文法のテキストを併用して授業を行う。毎回の授業に持参して、指示された復習と予習を行うとよい。コメントシートの往復によって正確な理解を促す。

成績評価の方法

コメントシート25点(1回5点)＋平常点15点＋宿題レポート60点の総合評価。
宿題レポートの詳細は12月はじめに伝えます。
遅刻は減点の対象になります。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

先修科目としては「アラビア語の世界I」から継続して履修することを前提としています。アラビア語のアルファベットを学んだ経験があるならば、例外的に未履修者も受け付けています。関連科目は、イスラム教や中東の文化、アラビア語を母語としないたとえばインドネシアのイスラム教徒のアラビア語教育などに視野を広げることが可能であり、多文化理解の学習に役立つでしょう。

テキスト

自作のテキストを配布します。

参考書

Buckwalter, T. & Parkinson, D. 『a Frequency dictionary of ARABIC』 2011, New York.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業後に教室で時間を設けます。また、確認テストを利用することもできます。

科目名	実践国際コミュニケーションA		
教員名	須田 祐子		
科目ナンバー	1251435410	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
テレビニュースの視聴を通じて、英語のリスニング・スキルの向上をはかる。日本の学習者向けに作られた教材ではなく、アメリカのABC（主に World News）とイギリスのBBC（主に 10 0' Clock News）のニュースをそのまま教材として使用する。			
到達目標			
英語のニュースを的確に聴き取れるようになることによって、海外のメディアから情報を集める実践的な能力を高めることが授業の最終的な目標である。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	Changing the Labels		
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。	60	
第2回	Chocolate Labelling		
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。	60	
第3回	Languages in Primary Schools		
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。 単語テストに備える。	60	

第4回	Global Warming	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。	60
第5回	Daylight Saving Time ※単語テスト	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。	60
第6回	Finding British Food in France	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。単語テストに備える。	60
第7回	Japan in Economic Standstill	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。	60
第8回	Asteroid ※単語テスト（2）	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。	60
第9回	English Students Falling Behind in Maths	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。単語テストに備える。	60

第10回	Short Sleepers	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。	60
第11回	Wikipedia 10 Years Old ※単語テスト（3）	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。	60
第12回	Import Increases Food Miles	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。	60
第13回	Long in the Tooth	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。単語テストに備える。	60
第14回	到達度確認テスト リスニング力の到達度を確認するテスト ※単語テスト（4）	
	テストの内容を復習する。	60
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答	
	到達度テストの結果を受けて、この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している点を確認する。	60

授業の方法

1回の授業で1本のニュースを視聴する。その際、2種類の聞き取りのエクササイズを行なう。ひとつはニュースの内容に関する質問に答えるものであり、もうひとつはトランスクリプトの空欄を補充するものである。最後に、その日のニュースで使われた語彙と表現をプリントを使って確認する。講義形式をとるが、基本的に参加体験型の授業であり、授業に集中して取り組むことが求められる。

成績評価の方法

単語テストを4回実施する。単語テストの問題は毎回の授業のプリントから出題する。さらに期末試験としてリスニングのテストを実施する。最終的な成績に反映される比率は、単語テストが各20パーセント（合計80パーセント）、期末試験が20パーセントである。リスニングの能力には個人差があっても、単語テストは努力次第であるので頑張ってもらいたい。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識は必要ないが、「外の世界」に対する好奇心は不可欠である。

テキスト

適宜、指示する。

参考書

意欲と興味のある学生にはABCのウェブサイト（<http://abcnews.go.com/>）やBBCのウェブサイト（<http://news.bbc.co.uk/>）を参照することを薦める。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	実践国際コミュニケーションB		
教員名	須田 祐子		
科目ナンバー	1251435411	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テレビニュースの視聴を通じて、英語のリスニング・スキルの向上をはかる。日本の学習者向けに作られた教材ではなく、アメリカのABC（主に World News）とイギリスのBBC（主に 10 0' Clock News）のニュースをそのまま教材として使用する。			
到達目標			
英語のニュースを的確に聴き取れるようになることによって、海外のメディアから情報を集める実践的な能力を高めることが授業の最終的な目標である。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	Healthy Living Getting Enough Sleep		
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。	60	
第2回	Tired Teens		
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。	60	
第3回	Processed Meat Linked to Early Death		
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。 単語テストに備える。	60	

第4回	Teenage Drivers ※単語テスト（1）	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。	60
第5回	Raising University Fees	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。	60
第6回	College Costs	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。単語テストに備える。	60
第7回	Spain' s Lost Generation? ※単語テスト（2）	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。	60
第8回	Big Changes in SATs	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。	60
第9回	Girl Scout Cookies	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。単語テストに備える。	60

第10回	Extreme Weather ※単語テスト（3）	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。	60
第11回	Cookery for 11-year-olds	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。	60
第12回	Eat Less Beef and Get an Energy Audit	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。	60
第13回	Pandas from China	
	トランスクリプトと練習問題を読み返して表現や文法事項を復習する。単語テストに備える。	60
第14回	到達度確認テスト リスニング力の到達度を確認するテスト ※単語テスト（4）	
	テストの内容を復習する。	60
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答	
	到達度テストの結果を受けて、この授業を振り返り、到達目標と自分の理解度とを点検し、不足している点を確認する。	60

授業の方法

1回の授業で1本のニュースを視聴する。その際、2種類の聞き取りのエクササイズを行なう。ひとつはニュースの内容に関する質問に答えるものであり、もうひとつはトランスクリプトの空欄を補充するものである。最後に、その日のニュースで使われた語彙と表現をプリントを使って確認する。講義形式をとるが、基本的に参加体験型の授業であり、授業に集中して取り組むことが求められる。

成績評価の方法

単語テストを4回実施する。単語テストの問題は毎回の授業のプリントから出題する。さらに期末試験としてリスニングのテストを実施する。最終的な成績に反映される比率は、単語テストが各20パーセント（合計80パーセント）、期末試験が20パーセントである。リスニングの能力には個人差があっても、単語テストは努力次第であるので頑張ってもらいたい。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識は必要ないが、「外の世界」に対する好奇心は不可欠である。

テキスト

適宜、指示する。

参考書

意欲と興味のある学生にはABCのウェブサイト（<http://abcnews.go.com/>）やBBCのウェブサイト（<http://news.bbc.co.uk/>）を参照することを薦める。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	現代社会入門		
教員名	内藤 準		
科目ナンバー	1251441101	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
この講義では現代社会のさまざまなトピックを学びます。わたしたちの生きる現代社会は、どのような社会であり、どのような社会問題が生じているのでしょうか。ある社会問題について、どのような立場の違いがあり、いかなる解決策が考えられるのでしょうか。 この授業ではこうした問いに対して、とくに人びとの「自由」や「アイデンティティ」と、社会の「秩序」や「社会規範」との関係という観点から取り組んでいきます。各回のテーマについて学びながら、これからの人生で、社会生活を通じて役に立つ「社会と人についての見方」を身につけていきましょう。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、以下の到達目標を設定します。 ①現代社会のさまざまな現象について、その成り立ちや問題点を理解できるようになる。（DP6、DP7） ②さまざまな資料やデータや文献の見方を学び、自ら調べて確かめる姿勢を身につける。（DP6、DP7） ③現代社会の諸問題について分析するための、基礎的な概念や基本的な理論枠組みを理解し、身につける。（DP6、DP7）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション (以下の各回のテーマは一例です。その時々々の社会情勢や授業の進捗に応じて入れ替わる可能性があります。)		
	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読む。	60	
第2回	現代社会の分析の基礎 1 ～社会的行為と社会規範		
	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読む。	60	
第3回	現代社会の分析の基礎 2 ～相互行為と社会的協力、コンフリクト		
	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読む。	60	

第4回	現代社会の分析の基礎3 ～社会秩序と社会の変化	
	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む．	60
第5回	性の多様化とジェンダー	
	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む．	60
第6回	障害者差別と自立生活，ノーマライゼーション	
	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む．	60
第7回	学歴社会と機会の平等	
	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む．	60
第8回	貧困の連鎖と社会的排除	
	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む．	60
第9回	中間まとめ	
	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む．	60

第10回	近代家族と家族の多様化	
	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む．	60
第11回	仕事と家庭，ワークライフバランス	
	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む．	60
第12回	少子高齢化と社会福祉	
	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む．	60
第13回	監視社会における自律性，リスク社会と個人化	
	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む．	60
第14回	公共性，ボランティア，町内会	
	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む．	60
第15回	授業のまとめ	
	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む．	60

授業の方法

基本的に講義形式でおこないます。講義では学術的な概念を用いるので、適宜簡単な小テストなどをおこないます。小テストの内容については前の回の授業で予告します。

進捗と復習の必要に応じて、中間テストをおこなう可能性があります。

授業の進捗度によって、内容が変更されることがあります。

成績評価の方法

平常点、小テストや課題、到達度確認テストなどから総合的に評価します。

平常点（授業への参加状況や課題の提出状況） 10%，小テストや課題 30%，到達度確認テスト 60%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識はとくに必要ありませんが、社会階層論、経済社会学、教育社会学、ジェンダーの社会学を学んでいるとより理解が深まります。

テキスト

授業時に資料を配付し、テキストとして使用するほか、適宜授業内で指示します。

参考書

小林盾ほか『社会学入門』朝倉書店。

本田由紀編『現代社会論』有斐閣。

など、授業内で随時指定します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	社会学入門		
教員名	澁谷 智子		
科目ナンバー	1251441104	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

社会学は、異なる人々が共存していくあり方に目を向け、時代による変化の中で、人々の関係性や規範や制度がどう作用しあっているのか、そこから生み出される社会現象の構造などを読み解いていく学問である。この授業では、そうした社会学の基本となる考え方を勉強する。

到達目標

DP1「教養の修得」、DP6「文化現象の総合的理解」を実現するため、以下の2点を到達目標とする。
 ①社会学という学問分野において、これまでどのような議論がなされてきたのかを学び、その基礎的な知識を習得する。
 ②その作業を通して、社会の構造を読み解く視点と思考を身に付け、今後の勉強に役立てられるようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	公共空間と親密空間	
	配布資料を読み、理解する。	60
第2回	公共空間の変容	
	配布資料を読み、理解する。	60
第3回	自殺論	
	配布資料を読み、理解する。	60

第4回	プロテスタンティズムと資本主義の精神	
	配布資料を読み、理解する。	60
第5回	相互行為	
	配布資料を読み、理解する。	60
第6回	規律と訓練	
	配布資料を読み、理解する。	60
第7回	専門職の管理・献身と自己決定	
	配布資料を読み、理解する。	60
第8回	組織と人間—マクドナルド化する社会	
	配布資料を読み、理解する。	60
第9回	国家とグローバリゼーション	
	配布資料を読み、理解する。	60

第10回	家族とライフコース	
	文献を読み、自分の意見をまとめる。	60
第11回	ジェンダー	
	文献を読み、自分の意見をまとめる。	60
第12回	格差と階層、文化と再生産	
	文献を読み、自分の意見をまとめる。	60
第13回	歴史と記憶	
	文献を読み、自分の意見をまとめる。	60
第14回	到達度確認テスト	
	これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。	120
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答	
	到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、さらなる理解に努める。	60

授業の方法

毎回プリントを配布し、必要に応じて、映像やインターネット等を使いながら、講義を行なう。授業の中で、課題を行なうこともある。

成績評価の方法

到達度確認テスト（60％）と、平常点（授業中の課題など）（40％）で、総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目として、「現代社会入門」がある。

テキスト

必要に応じて資料を配布する。

参考書

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志，2007，『社会学』有斐閣.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	コミュニケーション論入門		
教員名	見城 武秀		
科目ナンバー	1251441102	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
『ドラえもん』に出てくる「ほんやくコンニャク」が欲しいと思ったことはないでしょうか？食べればどんな言葉をしゃべる人ともコミュニケーションできるほんやくコンニャクは、夢のような道具です。しかも、人工知能研究が急速に進んでいる今、ほんやくコンニャクはそう遠くない将来実現しそうな道具にも思えます。ところが驚くべきことに、現在のコミュニケーション論に大きな影響をおよぼしている「構造主義」という考え方は、ほんやくコンニャクという道具が原理上（つまり、技術的理由ではなく）存在し得ないということを示しました。一体構造主義は、どのような仕方で「ほんやくコンニャクが存在し得ないこと」を示したのでしょうか。そもそも構造主義とは、どのような物の見方なのでしょう。また、現在進みつつある自動翻訳研究は無駄な試みなのでしょうか。これらの問いに答えながら、一体コミュニケーションとは何か、多角的に考察していきます。			
到達目標			
DP1（教養の修得）、DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を達成するため、次の3点を到達目標とします。 （１）現代社会におけるコミュニケーションの特徴を理解すること。 （２）構造主義の基礎概念や歴史的展開を理解すること。 （３）構造主義的翻訳観と現在の自動翻訳技術の根底にある翻訳観を比較することで、コミュニケーションとは何かという問いに対する自分なりの考えを深めること。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション		
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。		60
第2回	<モノ語り>と現代のコミュニケーション		
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。		60
第3回	“やさしさ”と現代のコミュニケーション		
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。		60

第4回	大衆社会としての現代とコミュニケーション-現代人の「孤独」	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第5回	消費社会としての現代とコミュニケーション-現代人を駆り立てる「差異」と「意味」	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第6回	言葉の「意味」とは何か-言葉と文化の「構造」性	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第7回	構造主義の源流-ソシュールの言語学	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第8回	言語の差異性／恣意性／体系性-構造主義の基礎概念	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第9回	言語は「現実」や「思考」とどのように関係するか-構造主義と言語相対主義	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60

第10回	言語学から記号論へー構造主義の展開	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第11回	構造主義以後のコミュニケーション論がかかえる問題（１）－「ほんやくコンニャク」があれば本当に「異文化理解」ができるのか？	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第12回	構造主義以後のコミュニケーション論がかかえる問題（２）－「言語相対主義」をめぐって	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第13回	人工知能研究がコミュニケーション論にもたらす新たな課題（１）	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第14回	人工知能研究がコミュニケーション論にもたらす新たな課題（２）	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第15回	まとめ	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60

授業の方法

配布プリントに基づく講義形式。授業に関連した課題に答える機会が3回あります。

成績評価の方法

期末試験の評価（100点満点）を中心に、上記提出課題に対する評価（3回×5点＝15点満点）を加味しておこないます。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。

- （1）現代社会におけるコミュニケーションの特徴を理解しているか。
- （2）構造主義の基礎概念や歴史的展開を理解しているか。
- （3）講義内容を踏まえ、コミュニケーションとは何かという問いに対する自分なりの考えを深めることができたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし

参考書

多数。授業中に適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	メディア論入門		
教員名	西 兼志		
科目ナンバー	1251441105	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
この授業では、メディアを、「人間」と「社会＝世界」を結びつける「技術＝モノ」と定義することで、いまや私たちの環境となっているメディアを広い視点から理解できるようにしていきます。メディアの展開——書物、写真、映画、テレビ、ソーシャル・メディアなど——を辿りながら、現代社会におけるメディアの成り立ちについて考えていきたいと思います。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次のような到達目標を設定します：メディアを、狭義の「マス・メディア」として捉えることにとどまらず、より広く、人間的・社会的現象として捉えられるようになること。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション：人間・社会・技術		
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60分
第2回	メディア、情報、記号（1）		
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60分
第3回	メディア、情報、記号（2）：メディアと情報社会		
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。		60分

第4回	メディア、情報、記号（3）：メディアと記号	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第5回	メディアとしての文字	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第6回	メディアとしての新聞	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第7回	メディアとしての写真	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第8回	中間まとめ	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第9回	メディアとしての映画（1）	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分

第10回	メディアとしての映画（1）	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第11回	メディアとしてのテレビ（1）	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第12回	メディアとしてのテレビ（2）	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第13回	メディアと監視社会（1）	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第14回	メディアと監視社会（2）	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第15回	まとめ	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分

授業の方法

講義形式で進めていきます。

(なお、授業内容は、展開に応じて、変更されることがあります。)

成績評価の方法

期末レポート＝80%、コメントシートなど＝20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ・ 授業で取り上げた各メディアの特質を理解できているか。
- ・ 各自にとって身近なメディア現象を、メディア論の観点から位置づけられているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に、ありません。

テキスト

ポータルサイトを通じて随時、配布していきます。

参考書

西兼志『＜顔＞のメディア論：メディアの相貌』法政大学出版局、2016.

その他、授業中に随時、指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	社会学史		
教員名	中江 桂子		
科目ナンバー	1251441107	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
社会学の古典のなかの学者および学説を学び、社会学という学問の歴史、社会学が時代から要請されてきた役割、そして現代の社会学が目指すものについて、を考える。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次のような到達目標を設定する。社会学の基本的な学者と学説を学び、基礎概念についての理解を深め、自分でも勉強のなかで利用できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	社会学と社会——社会学の誕生とその歴史的背景について		
	プリントなどの配布類、自分のノートをわかりやすく記録し、学習すること。次週のためのプリントを呼んでくること。	60	
第2回	オーギュスト・コント なぜ、社会学が必要だったのか		
	プリントなどの配布類、自分のノートをわかりやすく記録し、学習すること。次週のためのプリントを呼んでくること。	60	
第3回	カール・マルクス 社会は誰のものか		
	プリントなどの配布類、自分のノートをわかりやすく記録し、学習すること。次週のためのプリントを呼んでくること。	60	

第4回	エミール・デュルケム 道徳と社会——自殺論の背景	
	プリントなどの配布類、自分のノートをわかりやすく記録し、学習すること。次週のためのプリントを呼んでくること。	60
第5回	マックス・ウェーバー 宗教と社会——私たちはなぜこんなに働くのか	
	プリントなどの配布類、自分のノートをわかりやすく記録し、学習すること。次週のためのプリントを呼んでくること。	60
第6回	ゲオルグ・ジンメル 大都市における人々の精神のありか	
	プリントなどの配布類、自分のノートをわかりやすく記録し、学習すること。次週のためのプリントを呼んでくること。	60
第7回	社会学の古典学者たちのまとめ	
	プリントなどの配布類、自分のノートをわかりやすく記録し、学習すること。次週のためのプリントを呼んでくること。	60
第8回	フランクフルト学派 20世紀前半のヨーロッパの課題と社会学	
	プリントなどの配布類、自分のノートをわかりやすく記録し、学習すること。次週のためのプリントを呼んでくること。	60
第9回	シカゴ学派 アメリカ社会学のインパクト	
	プリントなどの配布類、自分のノートをわかりやすく記録し、学習すること。次週のためのプリントを呼んでくること。	60

第10回	マーソンの社会学 「中間」がもつ社会力	
	プリントなどの配布類、自分のノートをわかりやすく記録し、学習すること。次週のためのプリントを呼んでくること。	60
第11回	ゴフマンの社会学 演技とパフォーマンスと社会関係	
	プリントなどの配布類、自分のノートをわかりやすく記録し、学習すること。次週のためのプリントを呼んでくること。	60
第12回	ディビッド・リースマンのみた社会 まわりを気にする人間の行動の型をとらえる	
	プリントなどの配布類、自分のノートをわかりやすく記録し、学習すること。次週のためのプリントを呼んでくること。	60
第13回	フーコーの暴いた権力 知識も権力もつくられる	
	プリントなどの配布類、自分のノートをわかりやすく記録し、学習すること。次週のためのプリントを呼んでくること。	60
第14回	20世紀の社会学のながれを追う ——20世紀から21世紀への課題	
	プリントなどの配布類、自分のノートをわかりやすく記録し、学習すること。これまでのプリントやノートの全体の復習をすること。	60
第15回	多様で、多元的な社会をとらえるために	
	これまでのプリントやノートの全体の復習をすること。	60

授業の方法

講義形式。

成績評価の方法

授業内試験（コメントペーパーを含む）（80%）、授業参加への積極性（10パーセント）その他（10%）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

現代社会学科の1年生の必修科目（現代社会入門・社会学入門・コミュニケーション論入門など）の内容を確実に身に付けておくことが望ましい。

テキスト

那須寿編『クロニクル社会学—人と理論の魅力を語る』有斐閣アルマ

参考書

授業内で指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	メディア史入門		
教員名	今田 絵里香		
科目ナンバー	1251441108	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
本講義では、さまざまなメディアの歴史を一つひとつ丹念に読み解きながら、メディアそのものの独自性に固執することなく、むしろそのメディアを取り囲んでいる社会的な文脈にこそ目を向け、日本社会の歴史的な動向を把握していくことにしたい。さまざまなメディアがどのような社会のなかでどのように創出されてきたのか。また、メディアはどのような社会的現象を創出してきたのか。このような問いに取り組んでいく。そして、歴史資料を読み解くなかで、メディアが、階級、ジェンダーなどの社会的カテゴリーを創出するプロセスを把握する。また、同時に、そのような社会的カテゴリーの生成とともに新たなメディアが生み出されるプロセスをとらえる。このような作業を繰り返すことによって、メディアは決して社会と切り離された存在ではないことを確認し、メディアというフィルターを通して社会そのものを読み解いていきたい。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次のような到達目標を設定する。 社会の「常識」や、社会現象やメディアの定型的な語りから脱し、さまざまな視点から社会現象やメディアを捉えられるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	メディア史について		
	【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90	
第2回	「子ども」向けメディアの誕生① 漢文体から言文一致体へ（1）		
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90	
第3回	「子ども」向けメディアの誕生② 漢文体から言文一致体へ（2）		
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90	

第4回	「子ども」向けメディアの誕生③ 「お伽噺」から童話・少年少女文学へ	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第5回	少年少女雑誌の誕生① 「少年」	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第6回	少年少女雑誌の誕生② 「少年」「少女」	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第7回	少年少女雑誌の誕生③ 「少年」「少女」の変遷	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第8回	都市新中間層と子ども雑誌『赤い鳥』	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第9回	少年少女雑誌と読者たち① メディアが作る読者ネットワーク	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90

第10回	少年少女雑誌と読者たち② メディアが作る読者ネットワーク	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第11回	少年少女雑誌と読者たち③ メディアが作る読者ネットワーク	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第12回	少年少女雑誌と読者たち④ メディアが作る読者ネットワーク	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第13回	雑誌が作る女同士の親密な関係 エス	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第14回	雑誌が作る戦後日本の異性愛文化	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第15回	まとめ	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90

授業の方法

講義形式。

成績評価の方法

提出物（論文・レポートなど。60%）、平常点（40%）によって、総合的に評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

参考書

とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	現代社会研究の基礎 a		
教員名	内藤 準		
科目ナンバー	1251441201	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
幅広い関心を持った現代社会学科の学生として学んでいくにあたって、どんな分野であっても必要とされるスタディー・スキル（情報収集、プレゼンテーション、論文・レポートの執筆の方法など）を実践的に身につけていきます。			
到達目標			
DP3（他者との協働）およびDP5（表現力、発信力）を実現することを目標とします。具体的には、クラス内でのディスカッションを通じて、興味を持ったテーマについて、必要な情報を収集し、問題を立て、自分の考えを伝達できるようになります。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60
第2回	グループワークの方法（１）		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60
第3回	グループワークの方法（２）		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60

第4回	グループワークの方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	ディスカッションの方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	ディスカッションの方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	ディスカッションの方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	レポート・論文の構成の方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	レポート・論文の構成の方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	レポート・論文の構成の方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	レポート・論文の執筆の方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	レポート・論文の執筆の方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	レポート・論文の執筆の方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

授業ごとに設定された課題について、それぞれの学生の成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40%、授業中の発言など＝30%、提出課題＝30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」で、アプリケーションソフトの使い方などを身につけ、その知識を活用できるようにしてください。

テキスト

適宜、各担当教員が指示します。

参考書

適宜、各担当教員が指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで場所や時間を周知します。教員によっては授業終了時に教室で受け付けたり、随時、電子メールで受け付けるなどします。詳しくは各担当教員が初回授業時に説明します。

科目名	現代社会研究の基礎 b		
教員名	堀口 剛		
科目ナンバー	1251441201	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要			
幅広い関心を持った現代社会学科の学生として学んでいくにあたって、どんな分野であっても必要とされるスタディー・スキル（情報収集、プレゼンテーション、論文・レポートの執筆の方法など）を実践的に身につけていきます。			

到達目標			
DP3（他者との協働）およびDP5（表現力、発信力）を実現することを目標とします。具体的には、クラス内でのディスカッションを通じて、興味を持ったテーマについて、必要な情報を収集し、問題を立て、自分の考えを伝達できるようになります。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60
第2回	グループワークの方法（１）		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60
第3回	グループワークの方法（２）		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60

第4回	グループワークの方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	ディスカッションの方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	ディスカッションの方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	ディスカッションの方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	レポート・論文の構成の方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	レポート・論文の構成の方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	レポート・論文の構成の方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	レポート・論文の執筆の方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	レポート・論文の執筆の方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	レポート・論文の執筆の方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

授業ごとに設定された課題について、それぞれの学生の成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40%、授業中の発言など＝30%、提出課題＝30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」で、アプリケーションソフトの使い方などを身につけ、その知識を活用できるようにしてください。

テキスト

適宜、各担当教員が指示します。

参考書

適宜、各担当教員が指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで場所や時間を周知します。教員によっては授業終了時に教室で受け付けたり、随時、電子メールで受け付けるなどします。詳しくは各担当教員が初回授業時に説明します。

科目名	現代社会研究の基礎 c		
教員名	飯塚 邦彦		
科目ナンバー	1251441201	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
幅広い関心を持った現代社会学科の学生として学んでいくにあたって、どんな分野であっても必要とされるスタディー・スキル（情報収集、プレゼンテーション、論文・レポートの執筆の方法など）を実践的に身につけていきます。			
到達目標			
DP3（他者との協働）およびDP5（表現力、発信力）を実現することを目標とします。具体的には、クラス内でのディスカッションを通じて、興味を持ったテーマについて、必要な情報を収集し、問題を立て、自分の考えを伝達できるようになります。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60
第2回	グループワークの方法（１）		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60
第3回	グループワークの方法（２）		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60

第4回	グループワークの方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	ディスカッションの方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	ディスカッションの方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	ディスカッションの方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	レポート・論文の構成の方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	レポート・論文の構成の方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	レポート・論文の構成の方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	レポート・論文の執筆の方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	レポート・論文の執筆の方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	レポート・論文の執筆の方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

授業ごとに設定された課題について、それぞれの学生の成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40%、授業中の発言など＝30%、提出課題＝30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」で、アプリケーションソフトの使い方などを身につけ、その知識を活用できるようにしてください。

テキスト

適宜、各担当教員が指示します。

参考書

適宜、各担当教員が指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで場所や時間を周知します。教員によっては授業終了時に教室で受け付けたり、随時、電子メールで受け付けるなどします。詳しくは各担当教員が初回授業時に説明します。

科目名	現代社会研究の基礎 d		
教員名	石堂 彰彦		
科目ナンバー	1251441201	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
幅広い関心を持った現代社会学科の学生として学んでいくにあたって、どんな分野であっても必要とされるスタディー・スキル（情報収集、プレゼンテーション、論文・レポートの執筆の方法など）を実践的に身につけていきます。			
到達目標			
DP3（他者との協働）およびDP5（表現力、発信力）を実現することを目標とします。具体的には、クラス内でのディスカッションを通じて、興味を持ったテーマについて、必要な情報を収集し、問題を立て、自分の考えを伝達できるようになります。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60
第2回	グループワークの方法（１）		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60
第3回	グループワークの方法（２）		
	各担当教員が初回授業時に説明します		60

第4回	グループワークの方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	ディスカッションの方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	ディスカッションの方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	ディスカッションの方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	レポート・論文の構成の方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	レポート・論文の構成の方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	レポート・論文の構成の方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	レポート・論文の執筆の方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	レポート・論文の執筆の方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	レポート・論文の執筆の方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

授業ごとに設定された課題について、それぞれの学生の成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40%、授業中の発言など＝30%、提出課題＝30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」で、アプリケーションソフトの使い方などを身につけ、その知識を活用できるようにしてください。

テキスト

適宜、各担当教員が指示します。

参考書

適宜、各担当教員が指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで場所や時間を周知します。教員によっては授業終了時に教室で受け付けたり、随時、電子メールで受け付けるなどします。詳しくは各担当教員が初回授業時に説明します。

科目名	現代社会研究の基礎 e		
教員名	川端 健嗣		
科目ナンバー	1251441201	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

幅広い関心を持った現代社会学科の学生として学んでいくにあたって、どんな分野であっても必要とされるスタディー・スキル（情報収集、プレゼンテーション、論文・レポートの執筆の方法など）を実践的に身につけていきます。

到達目標

DP3（他者との協働）およびDP5（表現力、発信力）を実現することを目標とします。具体的には、クラス内でのディスカッションを通じて、興味を持ったテーマについて、必要な情報を収集し、問題を立て、自分の考えを伝達できるようになります。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	イントロダクション	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第2回	グループワークの方法（１）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第3回	グループワークの方法（２）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

第4回	グループワークの方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	ディスカッションの方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	ディスカッションの方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	ディスカッションの方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	レポート・論文の構成の方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	レポート・論文の構成の方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	レポート・論文の構成の方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	レポート・論文の執筆の方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	レポート・論文の執筆の方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	レポート・論文の執筆の方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

授業ごとに設定された課題について、それぞれの学生の成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40%、授業中の発言など＝30%、提出課題＝30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」で、アプリケーションソフトの使い方などを身につけ、その知識を活用できるようにしてください。

テキスト

適宜、各担当教員が指示します。

参考書

適宜、各担当教員が指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで場所や時間を周知します。教員によっては授業終了時に教室で受け付けたり、随時、電子メールで受け付けるなどします。詳しくは各担当教員が初回授業時に説明します。

科目名	現代社会研究の基礎 f		
教員名	渡邊 悟史		
科目ナンバー	1251441201	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
幅広い関心を持った現代社会学科の学生として学んでいくにあたって、どんな分野であっても必要とされるスタディー・スキル（情報収集、プレゼンテーション、論文・レポートの執筆の方法など）を実践的に身につけていきます。			
到達目標			
DP3（他者との協働）およびDP5（表現力、発信力）を実現することを目標とします。具体的には、クラス内でのディスカッションを通じて、興味を持ったテーマについて、必要な情報を収集し、問題を立て、自分の考えを伝達できるようになります。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション		
	各担当教員が初回授業時に説明します	60	
第2回	グループワークの方法（１）		
	各担当教員が初回授業時に説明します	60	
第3回	グループワークの方法（２）		
	各担当教員が初回授業時に説明します	60	

第4回	グループワークの方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	ディスカッションの方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	ディスカッションの方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	ディスカッションの方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	レポート・論文の構成の方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	レポート・論文の構成の方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	レポート・論文の構成の方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	レポート・論文の執筆の方法（1）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	レポート・論文の執筆の方法（2）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	レポート・論文の執筆の方法（3）	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	各担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

授業ごとに設定された課題について、それぞれの学生の成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40%、授業中の発言など＝30%、提出課題＝30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」で、アプリケーションソフトの使い方などを身につけ、その知識を活用できるようにしてください。

テキスト

適宜、各担当教員が指示します。

参考書

適宜、各担当教員が指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで場所や時間を周知します。教員によっては授業終了時に教室で受け付けたり、随時、電子メールで受け付けるなどします。詳しくは各担当教員が初回授業時に説明します。

科目名	現代社会研究の方法Ⅰ a		
教員名	西 兼志		
科目ナンバー	1251441202	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
1年次に「フレッシュャーズ・セミナー」および「現代社会研究の基礎」で学んだスタディー・スキルをさらに発展させ、現代社会について考察する力と、考察した結果をレポートや論文、口頭発表などの形で表現する力を実践的に身につけていきます。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）およびDP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現することを目的とします。具体的には、社会学やメディア研究の代表的文献を読む作業を通じて論文における問いの立て方や議論の進め方を学び、引用や参照を交えた体系的な文章を執筆できる能力を得ます。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第2回	社会学の代表的文献を読む（1）		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第3回	社会学の代表的文献を読む（2）		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	

第4回	社会学の代表的文献を読む（3）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	メディア研究の代表的文献を読む（1）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	メディア研究の代表的文献を読む（2）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	メディア研究の代表的文献を読む（3）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	研究テーマを決める（1）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	研究テーマを決める（2）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	先行研究をレビューする（1）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	先行研究をレビューする（2）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	先行研究をレビューする（3）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	先行研究をレビューする（4）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

設定された課題を通じてそれぞれの学生の理解および成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。担当教員によって、進め方、講読文献、課題などが異なります。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40％、授業中の発言など＝30％、提出課題＝30％

期末レポート、期末試験は実施されない

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」、「フレッシュャーズ・セミナー」、「現代社会研究の基礎」

テキスト

各担当教員が以下の中から適宜指示します。原則として文学部共同研究室にてコピーされます。

（社会学）ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、デュルケーム『自殺論』中公文庫、ジンメル『ジンメルコレクション』ちくま学芸文庫、マルクス・エンゲルス『共産党宣言』岩波文庫、フロム『自由からの逃走』東京創元社

（メディア研究）マクルーハン『ゲートンベルクの銀河系』みすず書房、ベンヤミン『複製技術時代の芸術』晶文社クラシックス、前田愛『近代読者の成立』岩波現代文庫、リップマン『世論』岩波文庫、マーヴィン『古いメディアが新しかった時』新曜社、オング『声の文化と文字の文化』藤原書店

参考書

各担当教員が適宜指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	現代社会研究の方法II a		
教員名	西 兼志		
科目ナンバー	1251441203	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
1年次に「フレッシュャーズ・セミナー」および「現代社会研究の基礎」で学んだスタディー・スキルをさらに発展させ、現代社会について考察する力と、考察した結果をレポートや論文、口頭発表などの形で表現する力を実践的に身につけていきます。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）およびDP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現することを目的とします。具体的には、1・2年次で学んだスタディー・スキルの集大成として、グループごとに研究テーマを設定し、現代社会学科卒業論文の形式にそって共同論文を完成させることで、卒業論文の執筆に取り組む能力を得ます。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第2回	問いを立てる、仮説を設定する（1）		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第3回	問いを立てる、仮説を設定する（2）		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	

第4回	問いを立てる、仮説を設定する (3)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	原稿を執筆する (1)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	原稿を執筆する (2)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	原稿を執筆する (3)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	原稿を執筆する (4)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	原稿を執筆する (5)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	原稿を執筆する (6)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	論文内容をプレゼンテーションする (1)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	論文内容をプレゼンテーションする (2)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	論文内容をプレゼンテーションする (3)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

設定された課題を通じてそれぞれの学生の理解および成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。担当教員によって、進め方、講読文献、課題などが異なります。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40%、授業中の発言など＝30%、提出課題＝30%

期末レポート、期末試験は実施されません

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」、「フレッシュャーズ・セミナー」、「現代社会研究の基礎」

テキスト

各担当教員が適宜指示します。

参考書

各担当教員が以下の中から適宜指示します。原則として文学部共同研究室にてコピーされます。

（社会学）ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、デュルケーム『自殺論』中公文庫、ジンメル『ジンメルコレクション』ちくま学芸文庫、マルクス・エンゲルス『共産党宣言』岩波文庫、フロム『自由からの逃走』東京創元社
（メディア研究）マクルーハン『グーテンベルクの銀河系』みすず書房、ベンヤミン『複製技術時代の芸術』晶文社クラシックス、前田愛『近代読者の成立』岩波現代文庫、リップマン『世論』岩波文庫、マーヴィン『古いメディアが新しかった時』新曜社、オング『声の文化と文字の文化』藤原書店

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	現代社会研究の方法Ⅰ b		
教員名	堀口 剛		
科目ナンバー	1251441202	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
1年次に「フレッシュャーズ・セミナー」および「現代社会研究の基礎」で学んだスタディー・スキルをさらに発展させ、現代社会について考察する力と、考察した結果をレポートや論文、口頭発表などの形で表現する力を実践的に身につけていきます。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）およびDP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現することを目的とします。具体的には、社会学やメディア研究の代表的文献を読む作業を通じて論文における問いの立て方や議論の進め方を学び、引用や参照を交えた体系的な文章を執筆できる能力を得ます。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第2回	社会学の代表的文献を読む（1）		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第3回	社会学の代表的文献を読む（2）		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	

第4回	社会学の代表的文献を読む（3）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	メディア研究の代表的文献を読む（1）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	メディア研究の代表的文献を読む（2）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	メディア研究の代表的文献を読む（3）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	研究テーマを決める（1）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	研究テーマを決める（2）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	先行研究をレビューする（1）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	先行研究をレビューする（2）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	先行研究をレビューする（3）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	先行研究をレビューする（4）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

設定された課題を通じてそれぞれの学生の理解および成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。担当教員によって、進め方、講読文献、課題などが異なります。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40％、授業中の発言など＝30％、提出課題＝30％

期末レポート、期末試験は実施されない

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」、「フレッシュャーズ・セミナー」、「現代社会研究の基礎」

テキスト

各担当教員が以下の中から適宜指示します。原則として文学部共同研究室にてコピーされます。

（社会学）ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、デュルケーム『自殺論』中公文庫、ジンメル『ジンメルコレクション』ちくま学芸文庫、マルクス・エンゲルス『共産党宣言』岩波文庫、フロム『自由からの逃走』東京創元社

（メディア研究）マクルーハン『ゲートンベルクの銀河系』みすず書房、ベンヤミン『複製技術時代の芸術』晶文社クラシックス、前田愛『近代読者の成立』岩波現代文庫、リップマン『世論』岩波文庫、マーヴィン『古いメディアが新しかった時』新曜社、オング『声の文化と文字の文化』藤原書店

参考書

各担当教員が適宜指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	現代社会研究の方法Ⅱ b		
教員名	堀口 剛		
科目ナンバー	1251441203	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
1年次に「フレッシュャーズ・セミナー」および「現代社会研究の基礎」で学んだスタディー・スキルをさらに発展させ、現代社会について考察する力と、考察した結果をレポートや論文、口頭発表などの形で表現する力を実践的に身につけていきます。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）およびDP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現することを目的とします。具体的には、1・2年次で学んだスタディー・スキルの集大成として、グループごとに研究テーマを設定し、現代社会学科卒業論文の形式にそって共同論文を完成させることで、卒業論文の執筆に取り組む能力を得ます。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第2回	問いを立てる、仮説を設定する（1）		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第3回	問いを立てる、仮説を設定する（2）		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	

第4回	問いを立てる、仮説を設定する (3)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	原稿を執筆する (1)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	原稿を執筆する (2)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	原稿を執筆する (3)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	原稿を執筆する (4)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	原稿を執筆する (5)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	原稿を執筆する (6)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	論文内容をプレゼンテーションする (1)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	論文内容をプレゼンテーションする (2)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	論文内容をプレゼンテーションする (3)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

設定された課題を通じてそれぞれの学生の理解および成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。担当教員によって、進め方、講読文献、課題などが異なります。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40%、授業中の発言など＝30%、提出課題＝30%

期末レポート、期末試験は実施されません

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」、「フレッシュャーズ・セミナー」、「現代社会研究の基礎」

テキスト

各担当教員が適宜指示します。

参考書

各担当教員が以下の中から適宜指示します。原則として文学部共同研究室にてコピーされます。

（社会学）ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、デュルケーム『自殺論』中公文庫、ジンメル『ジンメルコレクション』ちくま学芸文庫、マルクス・エンゲルス『共産党宣言』岩波文庫、フロム『自由からの逃走』東京創元社

（メディア研究）マクルーハン『グーテンベルクの銀河系』みすず書房、ベンヤミン『複製技術時代の芸術』晶文社クラシックス、前田愛『近代読者の成立』岩波現代文庫、リップマン『世論』岩波文庫、マーヴィン『古いメディアが新しかった時』新曜社、オング『声の文化と文字の文化』藤原書店

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	現代社会研究の方法Ⅰ c		
教員名	石堂 彰彦		
科目ナンバー	1251441202	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

1年次に「フレッシュャーズ・セミナー」および「現代社会研究の基礎」で学んだスタディー・スキルをさらに発展させ、現代社会について考察する力と、考察した結果をレポートや論文、口頭発表などの形で表現する力を実践的に身につけていきます。

到達目標

DP6（文化現象の総合的理解）およびDP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現することを目的とします。具体的には、社会学やメディア研究の代表的文献を読む作業を通じて論文における問いの立て方や議論の進め方を学び、引用や参照を交えた体系的な文章を執筆できる能力を得ます。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	イントロダクション	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第2回	社会学の代表的文献を読む（1）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第3回	社会学の代表的文献を読む（2）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第4回	社会学の代表的文献を読む（3）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	メディア研究の代表的文献を読む（1）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	メディア研究の代表的文献を読む（2）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	メディア研究の代表的文献を読む（3）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	研究テーマを決める（1）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	研究テーマを決める（2）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	先行研究をレビューする（1）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	先行研究をレビューする（2）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	先行研究をレビューする（3）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	先行研究をレビューする（4）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

設定された課題を通じてそれぞれの学生の理解および成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。担当教員によって、進め方、講読文献、課題などが異なります。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40％、授業中の発言など＝30％、提出課題＝30％

期末レポート、期末試験は実施されない

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」、「フレッシュャーズ・セミナー」、「現代社会研究の基礎」

テキスト

各担当教員が以下の中から適宜指示します。原則として文学部共同研究室にてコピーされます。

（社会学）ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、デュルケーム『自殺論』中公文庫、ジンメル『ジンメルコレクション』ちくま学芸文庫、マルクス・エンゲルス『共産党宣言』岩波文庫、フロム『自由からの逃走』東京創元社

（メディア研究）マクルーハン『ゲートンベルクの銀河系』みすず書房、ベンヤミン『複製技術時代の芸術』晶文社クラシックス、前田愛『近代読者の成立』岩波現代文庫、リップマン『世論』岩波文庫、マーヴィン『古いメディアが新しかった時』新曜社、オング『声の文化と文字の文化』藤原書店

参考書

各担当教員が適宜指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	現代社会研究の方法II c		
教員名	石堂 彰彦		
科目ナンバー	1251441203	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
1年次に「フレッシュャーズ・セミナー」および「現代社会研究の基礎」で学んだスタディー・スキルをさらに発展させ、現代社会について考察する力と、考察した結果をレポートや論文、口頭発表などの形で表現する力を実践的に身につけていきます。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）およびDP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現することを目的とします。具体的には、1・2年次で学んだスタディー・スキルの集大成として、グループごとに研究テーマを設定し、現代社会学科卒業論文の形式にそって共同論文を完成させることで、卒業論文の執筆に取り組む能力を得ます。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第2回	問いを立てる、仮説を設定する（1）		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第3回	問いを立てる、仮説を設定する（2）		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	

第4回	問いを立てる、仮説を設定する (3)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	原稿を執筆する (1)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	原稿を執筆する (2)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	原稿を執筆する (3)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	原稿を執筆する (4)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	原稿を執筆する (5)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	原稿を執筆する (6)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	論文内容をプレゼンテーションする (1)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	論文内容をプレゼンテーションする (2)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	論文内容をプレゼンテーションする (3)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

設定された課題を通じてそれぞれの学生の理解および成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。担当教員によって、進め方、講読文献、課題などが異なります。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40%、授業中の発言など＝30%、提出課題＝30%

期末レポート、期末試験は実施されません

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」、「フレッシュャーズ・セミナー」、「現代社会研究の基礎」

テキスト

各担当教員が適宜指示します。

参考書

各担当教員が以下の中から適宜指示します。原則として文学部共同研究室にてコピーされます。

（社会学）ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、デュルケーム『自殺論』中公文庫、ジンメル『ジンメルコレクション』ちくま学芸文庫、マルクス・エンゲルス『共産党宣言』岩波文庫、フロム『自由からの逃走』東京創元社

（メディア研究）マクルーハン『グーテンベルクの銀河系』みすず書房、ベンヤミン『複製技術時代の芸術』晶文社クラシックス、前田愛『近代読者の成立』岩波現代文庫、リップマン『世論』岩波文庫、マーヴィン『古いメディアが新しかった時』新曜社、オング『声の文化と文字の文化』藤原書店

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	現代社会研究の方法 I d		
教員名	金崎 一郎		
科目ナンバー	1251441202	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
1年次に「フレッシュャーズ・セミナー」および「現代社会研究の基礎」で学んだスタディー・スキルをさらに発展させ、現代社会について考察する力と、考察した結果をレポートや論文、口頭発表などの形で表現する力を実践的に身につけていきます。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）およびDP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現することを目的とします。具体的には、社会学やメディア研究の代表的文献を読む作業を通じて論文における問いの立て方や議論の進め方を学び、引用や参照を交えた体系的な文章を執筆できる能力を得ます。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション		
	担当教員が初回授業時に説明します		60
第2回	社会学の代表的文献を読む（1）		
	担当教員が初回授業時に説明します		60
第3回	社会学の代表的文献を読む（2）		
	担当教員が初回授業時に説明します		60

第4回	社会学の代表的文献を読む（3）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	メディア研究の代表的文献を読む（1）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	メディア研究の代表的文献を読む（2）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	メディア研究の代表的文献を読む（3）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	研究テーマを決める（1）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	研究テーマを決める（2）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	先行研究をレビューする（1）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	先行研究をレビューする（2）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	先行研究をレビューする（3）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	先行研究をレビューする（4）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

設定された課題を通じてそれぞれの学生の理解および成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。担当教員によって、進め方、講読文献、課題などが異なります。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40％、授業中の発言など＝30％、提出課題＝30％

期末レポート、期末試験は実施されない

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」、「フレッシュャーズ・セミナー」、「現代社会研究の基礎」

テキスト

各担当教員が以下の中から適宜指示します。原則として文学部共同研究室にてコピーされます。

（社会学）ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、デュルケーム『自殺論』中公文庫、ジンメル『ジンメルコレクション』ちくま学芸文庫、マルクス・エンゲルス『共産党宣言』岩波文庫、フロム『自由からの逃走』東京創元社

（メディア研究）マクルーハン『ゲートンベルクの銀河系』みすず書房、ベンヤミン『複製技術時代の芸術』晶文社クラシックス、前田愛『近代読者の成立』岩波現代文庫、リップマン『世論』岩波文庫、マーヴィン『古いメディアが新しかった時』新曜社、オング『声の文化と文字の文化』藤原書店

参考書

各担当教員が適宜指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	現代社会研究の方法II d		
教員名	金崎 一郎		
科目ナンバー	1251441203	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
1年次に「フレッシュャーズ・セミナー」および「現代社会研究の基礎」で学んだスタディー・スキルをさらに発展させ、現代社会について考察する力と、考察した結果をレポートや論文、口頭発表などの形で表現する力を実践的に身につけていきます。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）およびDP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現することを目的とします。具体的には、1・2年次で学んだスタディー・スキルの集大成として、グループごとに研究テーマを設定し、現代社会学科卒業論文の形式にそって共同論文を完成させることで、卒業論文の執筆に取り組む能力を得ます。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第2回	問いを立てる、仮説を設定する（1）		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第3回	問いを立てる、仮説を設定する（2）		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	

第4回	問いを立てる、仮説を設定する (3)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	原稿を執筆する (1)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	原稿を執筆する (2)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	原稿を執筆する (3)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	原稿を執筆する (4)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	原稿を執筆する (5)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	原稿を執筆する (6)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	論文内容をプレゼンテーションする (1)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	論文内容をプレゼンテーションする (2)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	論文内容をプレゼンテーションする (3)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

設定された課題を通じてそれぞれの学生の理解および成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。担当教員によって、進め方、講読文献、課題などが異なります。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40％、授業中の発言など＝30％、提出課題＝30％

期末レポート、期末試験は実施されません

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」、「フレッシュャーズ・セミナー」、「現代社会研究の基礎」

テキスト

各担当教員が適宜指示します。

参考書

各担当教員が以下の中から適宜指示します。原則として文学部共同研究室にてコピーされます。

（社会学）ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、デュルケーム『自殺論』中公文庫、ジンメル『ジンメルコレクション』ちくま学芸文庫、マルクス・エンゲルス『共産党宣言』岩波文庫、フロム『自由からの逃走』東京創元社
（メディア研究）マクルーハン『グーテンベルクの銀河系』みすず書房、ベンヤミン『複製技術時代の芸術』晶文社クラシックス、前田愛『近代読者の成立』岩波現代文庫、リップマン『世論』岩波文庫、マーヴィン『古いメディアが新しかった時』新曜社、オング『声の文化と文字の文化』藤原書店

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	現代社会研究の方法Ⅰ e		
教員名	川端 健嗣		
科目ナンバー	1251441202	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

1年次に「フレッシュャーズ・セミナー」および「現代社会研究の基礎」で学んだスタディー・スキルをさらに発展させ、現代社会について考察する力と、考察した結果をレポートや論文、口頭発表などの形で表現する力を実践的に身につけていきます。

到達目標

DP6（文化現象の総合的理解）およびDP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現することを目的とします。具体的には、社会学やメディア研究の代表的文献を読む作業を通じて論文における問いの立て方や議論の進め方を学び、引用や参照を交えた体系的な文章を執筆できる能力を得ます。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	イントロダクション	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第2回	社会学の代表的文献を読む（1）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第3回	社会学の代表的文献を読む（2）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第4回	社会学の代表的文献を読む（3）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	メディア研究の代表的文献を読む（1）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	メディア研究の代表的文献を読む（2）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	メディア研究の代表的文献を読む（3）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	研究テーマを決める（1）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	研究テーマを決める（2）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	先行研究をレビューする（1）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	先行研究をレビューする（2）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	先行研究をレビューする（3）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	先行研究をレビューする（4）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

設定された課題を通じてそれぞれの学生の理解および成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。担当教員によって、進め方、講読文献、課題などが異なります。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40％、授業中の発言など＝30％、提出課題＝30％

期末レポート、期末試験は実施されない

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」、「フレッシュャーズ・セミナー」、「現代社会研究の基礎」

テキスト

各担当教員が以下の中から適宜指示します。原則として文学部共同研究室にてコピーされます。

（社会学）ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、デュルケーム『自殺論』中公文庫、ジンメル『ジンメルコレクション』ちくま学芸文庫、マルクス・エンゲルス『共産党宣言』岩波文庫、フロム『自由からの逃走』東京創元社

（メディア研究）マクルーハン『ゲートンベルクの銀河系』みすず書房、ベンヤミン『複製技術時代の芸術』晶文社クラシックス、前田愛『近代読者の成立』岩波現代文庫、リップマン『世論』岩波文庫、マーヴィン『古いメディアが新しかった時』新曜社、オング『声の文化と文字の文化』藤原書店

参考書

各担当教員が適宜指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	現代社会研究の方法II e		
教員名	川端 健嗣		
科目ナンバー	1251441203	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
1年次に「フレッシュャーズ・セミナー」および「現代社会研究の基礎」で学んだスタディー・スキルをさらに発展させ、現代社会について考察する力と、考察した結果をレポートや論文、口頭発表などの形で表現する力を実践的に身につけていきます。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）およびDP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現することを目的とします。具体的には、1・2年次で学んだスタディー・スキルの集大成として、グループごとに研究テーマを設定し、現代社会学科卒業論文の形式にそって共同論文を完成させることで、卒業論文の執筆に取り組む能力を得ます。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション		
	担当教員が初回授業時に説明します		60
第2回	問いを立てる、仮説を設定する(1)		
	担当教員が初回授業時に説明します		60
第3回	問いを立てる、仮説を設定する(2)		
	担当教員が初回授業時に説明します		60

第4回	問いを立てる、仮説を設定する (3)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	原稿を執筆する (1)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	原稿を執筆する (2)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	原稿を執筆する (3)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	原稿を執筆する (4)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	原稿を執筆する (5)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	原稿を執筆する (6)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	論文内容をプレゼンテーションする (1)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	論文内容をプレゼンテーションする (2)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	論文内容をプレゼンテーションする (3)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

設定された課題を通じてそれぞれの学生の理解および成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。担当教員によって、進め方、講読文献、課題などが異なります。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40%、授業中の発言など＝30%、提出課題＝30%

期末レポート、期末試験は実施されません

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」、「フレッシュャーズ・セミナー」、「現代社会研究の基礎」

テキスト

各担当教員が適宜指示します。

参考書

各担当教員が以下の中から適宜指示します。原則として文学部共同研究室にてコピーされます。

（社会学）ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、デュルケーム『自殺論』中公文庫、ジンメル『ジンメルコレクション』ちくま学芸文庫、マルクス・エンゲルス『共産党宣言』岩波文庫、フロム『自由からの逃走』東京創元社
（メディア研究）マクルーハン『グーテンベルクの銀河系』みすず書房、ベンヤミン『複製技術時代の芸術』晶文社クラシックス、前田愛『近代読者の成立』岩波現代文庫、リップマン『世論』岩波文庫、マーヴィン『古いメディアが新しかった時』新曜社、オング『声の文化と文字の文化』藤原書店

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	現代社会研究の方法Ⅰ f		
教員名	渡邊 悟史		
科目ナンバー	1251441202	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
1年次に「フレッシュャーズ・セミナー」および「現代社会研究の基礎」で学んだスタディー・スキルをさらに発展させ、現代社会について考察する力と、考察した結果をレポートや論文、口頭発表などの形で表現する力を実践的に身につけていきます。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）およびDP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現することを目的とします。具体的には、社会学やメディア研究の代表的文献を読む作業を通じて論文における問いの立て方や議論の進め方を学び、引用や参照を交えた体系的な文章を執筆できる能力を得ます。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第2回	社会学の代表的文献を読む（1）		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第3回	社会学の代表的文献を読む（2）		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	

第4回	社会学の代表的文献を読む（3）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	メディア研究の代表的文献を読む（1）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	メディア研究の代表的文献を読む（2）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	メディア研究の代表的文献を読む（3）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	研究テーマを決める（1）	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	研究テーマを決める (2)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	先行研究をレビューする (1)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	先行研究をレビューする (2)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	先行研究をレビューする (3)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	先行研究をレビューする (4)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

設定された課題を通じてそれぞれの学生の理解および成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。担当教員によって、進め方、講読文献、課題などが異なります。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40％、授業中の発言など＝30％、提出課題＝30％

期末レポート、期末試験は実施されない

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」、「フレッシュャーズ・セミナー」、「現代社会研究の基礎」

テキスト

各担当教員が以下の中から適宜指示します。原則として文学部共同研究室にてコピーされます。

（社会学）ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、デュルケーム『自殺論』中公文庫、ジンメル『ジンメルコレクション』ちくま学芸文庫、マルクス・エンゲルス『共産党宣言』岩波文庫、フロム『自由からの逃走』東京創元社

（メディア研究）マクルーハン『ゲートンベルクの銀河系』みすず書房、ベンヤミン『複製技術時代の芸術』晶文社クラシックス、前田愛『近代読者の成立』岩波現代文庫、リップマン『世論』岩波文庫、マーヴィン『古いメディアが新しかった時』新曜社、オング『声の文化と文字の文化』藤原書店

参考書

各担当教員が適宜指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	現代社会研究の方法II f		
教員名	渡邊 悟史		
科目ナンバー	1251441203	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
1年次に「フレッシュャーズ・セミナー」および「現代社会研究の基礎」で学んだスタディー・スキルをさらに発展させ、現代社会について考察する力と、考察した結果をレポートや論文、口頭発表などの形で表現する力を実践的に身につけていきます。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）およびDP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現することを目的とします。具体的には、1・2年次で学んだスタディー・スキルの集大成として、グループごとに研究テーマを設定し、現代社会学科卒業論文の形式にそって共同論文を完成させることで、卒業論文の執筆に取り組む能力を得ます。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第2回	問いを立てる、仮説を設定する（1）		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第3回	問いを立てる、仮説を設定する（2）		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	

第4回	問いを立てる、仮説を設定する (3)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	原稿を執筆する (1)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	原稿を執筆する (2)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	原稿を執筆する (3)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	中間まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	原稿を執筆する (4)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	原稿を執筆する (5)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	原稿を執筆する (6)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	論文内容をプレゼンテーションする (1)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	論文内容をプレゼンテーションする (2)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	論文内容をプレゼンテーションする (3)	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	まとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

設定された課題を通じてそれぞれの学生の理解および成果を発表・共有・確認しながら、演習形式で進めていきます。担当教員によって、進め方、講読文献、課題などが異なります。

成績評価の方法

成績については、以下の配分で評価します：

平常点（授業への参加状況）＝40%、授業中の発言など＝30%、提出課題＝30%

期末レポート、期末試験は実施されません

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「情報基礎」、「フレッシュャーズ・セミナー」、「現代社会研究の基礎」

テキスト

各担当教員が適宜指示します。

参考書

各担当教員が以下の中から適宜指示します。原則として文学部共同研究室にてコピーされます。

（社会学）ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』岩波文庫、デュルケーム『自殺論』中公文庫、ジンメル『ジンメルコレクション』ちくま学芸文庫、マルクス・エンゲルス『共産党宣言』岩波文庫、フロム『自由からの逃走』東京創元社
（メディア研究）マクルーハン『グーテンベルクの銀河系』みすず書房、ベンヤミン『複製技術時代の芸術』晶文社クラシックス、前田愛『近代読者の成立』岩波現代文庫、リップマン『世論』岩波文庫、マーヴィン『古いメディアが新しかった時』新曜社、オング『声の文化と文字の文化』藤原書店

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I a		
教員名	伊藤 昌亮		
科目ナンバー	1D51441204	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

【テーマ】デジタルメディア論

デジタルメディアのあり方、そしてそこから形作られる新しい社会のあり方を、特に集合行動という観点から考えます。

到達目標

DP3（他者との協働）、5（表現力、発信力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の2点を到達目標とする。

①メディア研究の方法を習得することにより、論文執筆のための基礎的な力を身につける。

②理論枠組み、社会現象、調査方法の3つを組み合わせ、自分なりのやり方で研究テーマにアプローチできるようになる（基礎段階）。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第2回	4年生卒論構想発表	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第3回	4年生卒論構想発表	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第4回	4年生卒論構想発表	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第5回	4年生卒論構想発表	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第6回	4年生卒論構想発表	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第7回	文献講読ガイダンス	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第8回	ゲストトーク	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第9回	文献講読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第10回	文献講読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第11回	文献講読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第12回	文献講読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第13回	文献講読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第14回	文献講読	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第15回	まとめ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

授業の方法

前半は発表中心に進めます。後半は講読中心に進めます。担当者が報告し、全員で議論します。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）：50%、報告発表：50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

授業中に随時指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II a		
教員名	伊藤 昌亮		
科目ナンバー	1D51441205	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

【テーマ】デジタルメディア論

デジタルメディアのあり方、そしてそこから形作られる新しい社会のあり方を、特に集合行動という観点から考えます。

到達目標

DP3（他者との協働）、5（表現力、発信力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次の2点を到達目標とする。

①メディア研究の方法を習得することにより、論文執筆のための実践的な力を身につける。

②理論枠組み、社会現象、調査方法の3つを組み合わせ、自分なりのやり方で研究テーマにアプローチできるようになる（実践段階）。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第2回	卒論テーマ懇談	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第3回	ディベート&ディスカッション	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第4回	ディベート&ディスカッション	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第5回	調査法ガイダンス	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第6回	調査法ガイダンス	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第7回	卒論テーマ懇談	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第8回	ディベート&ディスカッション	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第9回	ディベート&ディスカッション	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第10回	研究構想発表	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第11回	研究構想発表	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第12回	研究構想発表	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第13回	研究構想発表	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第14回	4年生卒論発表	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第15回	4年生卒論発表	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

授業の方法

前半は実習中心に進めます。後半は発表中心に進めます。担当者が報告し、全員で議論します。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）：50%、報告発表：50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

授業中に随時指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習III a		
教員名	伊藤 昌亮		
科目ナンバー	1151441206	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
報告と討議を繰り返しながら、卒業論文執筆のための諸作業を進めます。			
到達目標			
DP3（他者との協働）、5（表現力、発信力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次のような到達目標を設定する。 研究計画書に沿って卒業論文執筆のための諸作業を進める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60	
第2回	卒論構想発表		
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60	
第3回	卒論構想発表		
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60	

第4回	卒論構想発表	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第5回	卒論構想発表	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第6回	卒論構想発表	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第7回	卒論の書き方	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第8回	卒論の書き方	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第9回	卒論作業	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第10回	卒論作業	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第11回	卒論進捗報告	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第12回	卒論進捗報告	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第13回	卒論進捗報告	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第14回	卒論進捗報告	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第15回	卒論進捗報告	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

授業の方法

報告と討議を繰り返しながら進めます。担当者が報告し、全員で議論します。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）：50%、報告発表：50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

授業中に随時指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習IV a		
教員名	伊藤 昌亮		
科目ナンバー	1151441207	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
報告と討議を繰り返しながら、卒業論文を完成させます。			
到達目標			
DP3（他者との協働）、5（表現力、発信力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次のような到達目標を設定する。 卒業論文を完成させる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60	
第2回	卒論進捗報告		
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60	
第3回	卒論進捗報告		
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60	

第4回	卒論進捗報告	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第5回	卒論作業	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第6回	卒論作業	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第7回	卒論ブレ提出	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第8回	卒論フィードバック	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第9回	卒論フィードバック	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第10回	卒論チェック	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第11回	卒論チェック	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第12回	卒論締め切り	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第13回	卒論振り返り	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第14回	卒論発表	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第15回	卒論発表	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

授業の方法

報告と討議を繰り返しながら進めます。担当者が報告し、全員で議論します。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況や宿題の提出状況）：50%、報告発表：50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

授業中に随時指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I b		
教員名	稲葉 佳奈子		
科目ナンバー	1D51441204	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
本演習の学修において主に対象とするのは、社会的文化的現象としてのスポーツ・身体文化・「からだ」にかかわる多様なふるまいである。スポーツや身体をめぐる諸現象は、わたしたちの社会で多くの人が共有する価値観や認識のあり方を反映する一方で、新たな価値観や認識の形成にもかかわっている。現代社会の諸問題がスポーツや身体をめぐる具体的現象において、どのように立ちあらわれるのか。スポーツあるいは「からだ」がもつ社会的文化的意味とは何か。こうした問いを共有しながら、多様な事例を取りあげて考察・議論する。			
到達目標			
①ものごとを学問的に追究する態度を身につけることができる。 ②現代社会の諸問題とスポーツとのかかわりや、スポーツや身体に付与された社会・文化的意味について理解することができる。 ③各テーマについて学問的根拠にもとづいて考察し、論理的に表現することができる。 ④スポーツや身体文化の諸現象をとらえる視点や方法論に関する知識を習得することができる。 以上4点を到達目標とし、とくにDP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP6（文化現象の総合的理解）DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）の実現を目指す。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス（授業の概要、必要な予備知識等についての説明）、発表の分担決定		
	シラバスの内容を把握する。		60
第2回	スポーツ社会学的研究の諸様式		
	スポーツ社会学の視点について理解を深め、次回以降の発表に活かすための考察をする。		60
第3回	テキスト担当部分の発表		
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。		60

第4回	テキスト担当部分の発表	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第5回	テキスト担当部分の発表	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第6回	テキスト担当部分の発表	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第7回	発表と議論のまとめと振り返り、次回以降の分担決定	
	これまでの発表全体を振り返り、課題を把握し、課題改善について考察する。	60
第8回	映画にみられるスポーツの諸問題	
	映画の内容と授業で議論したことについて振り返り、自己の考察を深める。	60
第9回	テキスト担当部分の発表とディスカッションの運営	
	発表の準備をする。発表内容や議論をふまえて自己の考察を深める。運営の課題を把握する。	60

第10回	テキスト担当部分の発表とディスカッションの運営	
	発表の準備をする。発表内容や議論をふまえて自己の考察を深める。運営の課題を把握する。	60
第11回	テキスト担当部分の発表とディスカッションの運営	
	発表の準備をする。発表内容や議論をふまえて自己の考察を深める。運営の課題を把握する。	60
第12回	テキスト担当部分の発表とディスカッションの運営	
	発表の準備をする。発表内容や議論をふまえて自己の考察を深める。運営の課題を把握する。	60
第13回	発表と議論のまとめと振り返り	
	これまでの発表と議論の全体的な課題、および自己の発表の課題をふまえ、課題改善に向けた考察をする。	60
第14回	研究テーマの検討	
	自己の興味関心を研究テーマに発展させるための予備考察をする。	60
第15回	まとめ	
	これまで学修したことをすべて把握しレポート作成に備える。	60

授業の方法

テキストとして定めた基本的な文献を読み、レジュメにまとめ、発表や議論をする。
各回2～3名が発表を担当し、発表者以外が司会などの進行・運営役を担当する。
発表の内容について参加者全員で議論する。

成績評価の方法

発表内容（40%）、議論・運営への参加度（40%）、レポート（20%）の評価をもとにして、総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ものごとを学問的に追究する態度を身につけることができるか
- ・授業内容を理解し、スポーツや身体文化に関する学問的知識を習得することができるか。
- ・各テーマについて学問的根拠にもとづいて考察し、論理的に表現することができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。ただし現代社会学科における既修科目を通して社会的な視点および基礎知識を習得していることが望ましい。

テキスト

ゼミ生の興味関心をふまえて決定する。

参考書

ゼミ生の興味関心を考慮しながら適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II b		
教員名	稲葉 佳奈子		
科目ナンバー	1D51441205	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
本演習の学修において主に対象とするのは、社会的文化的現象としてのスポーツ・身体文化・「からだ」にかかわる多様なふるまいである。スポーツや身体をめぐる諸現象は、わたしたちの社会で多くの人びとが共有する価値観や認識のあり方を反映する一方で、新たな価値観や認識の形成にもかかわっている。現代社会の諸問題がスポーツや身体をめぐる具体的現象において、どのように立ちあらわれるのか。スポーツあるいは「からだ」がもつ社会的文化的意味とは何か。こうした問いを共有しながら、多様な事例を取りあげて考察・議論する。			
到達目標			
①ものごとを学問的に追究する態度を身につけることができる。 ②現代社会の諸問題とスポーツとのかかわりや、スポーツや身体に付与された社会・文化的意味について理解することができる。 ③各テーマについて学問的根拠にもとづいて考察し、論理的に表現することができる。 ④スポーツや身体文化の諸現象をとらえる視点や方法論に関する知識を習得することができる。 以上4点を到達目標とし、とくにDP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP6（文化現象の総合的理解）DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）の実現を目指す。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス（課題レポートについての発表、次回以降の発表の分担決定）		
	課題レポートの発表準備をする。	60	
第2回	研究テーマと関連文献の検討		
	授業での検討を受け、自己の研究テーマおよび関連文献について考察を深める。	60	
第3回	研究テーマに関連する文献についての発表とディスカッションの運営		
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60	

第4回	研究テーマに関連する文献についての発表とディスカッションの運営	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第5回	研究テーマに関連する文献についての発表とディスカッションの運営	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第6回	研究テーマに関連する文献についての発表とディスカッションの運営	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第7回	発表と議論のまとめと振り返り、次回以降の分担決定	
	これまでの発表全体を振り返り、課題を把握し、課題改善について考察する。	60
第8回	映画にみられるスポーツの諸問題	
	映画の内容と授業で議論したことについて振り返り、自己の考察を深める。	60
第9回	先行研究の批判的検討に関する発表とディスカッションの運営	
	発表の準備をする。発表内容や議論をふまえて自己の考察を深める。運営の課題を把握する。	60

第10回	先行研究の批判的検討に関する発表とディスカッションの運営	
	発表の準備をする。発表内容や議論をふまえて自己の考察を深める。運営の課題を把握する。	60
第11回	先行研究の批判的検討に関する発表とディスカッションの運営	
	発表の準備をする。発表内容や議論をふまえて自己の考察を深める。運営の課題を把握する。	60
第12回	先行研究の批判的検討に関する発表とディスカッションの運営	
	発表の準備をする。発表内容や議論をふまえて自己の考察を深める。運営の課題を把握する。	60
第13回	発表と議論のまとめと振り返り	
	これまでの発表と議論の全体的な課題、および自己の発表の課題をふまえ、課題改善に向けた考察をする。	60
第14回	研究テーマと研究計画の検討	
	自己の興味関心を研究テーマに発展させるための予備考察をする。	60
第15回	まとめ	
	これまで学修したことをすべて把握しレポート作成に備える。	60

授業の方法

各自の研究テーマに関連する文献を読み、レジュメにまとめ、発表や議論をする。
各回2～3名が発表を担当し、発表者以外が司会などの進行・運営役を担当する。
発表の内容について参加者全員で議論する。

成績評価の方法

発表内容（40%）、議論・運営への参加度（40%）、レポート（20%）の評価をもとにして、総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ものごとを学問的に追究する態度を身につけることができるか
- ・授業内容を理解し、スポーツや身体文化に関する学問的知識を習得することができるか。
- ・各テーマについて学問的根拠にもとづいて考察し、論理的に表現することができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。ただし現代社会学科における既修科目を通して社会的な視点および基礎知識を習得していることが望ましい。

テキスト

ゼミ生の興味関心をふまえて決定する。

参考書

ゼミ生の興味関心を考慮しながら適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習III b		
教員名	稲葉 佳奈子		
科目ナンバー	1151441206	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
本演習の学修において主に対象とするのは、社会的文化的現象としてのスポーツ・身体文化・「からだ」にかかわる多様なふるまいである。スポーツや身体をめぐる諸現象は、わたしたちの社会で多くの人が共有する価値観や認識のあり方を反映する一方で、新たな価値観や認識の形成にもかかわっている。現代社会の諸問題がスポーツや身体をめぐる具体的現象において、どのように立ちあらわれるのか。スポーツあるいは「からだ」がもつ社会的文化的意味とは何か。こうした問いを共有しながら、多様な事例を取りあげて考察・議論する。			
到達目標			
①ものごとを学問的に追究する態度を身につけることができる。 ②現代社会の諸問題とスポーツとのかかわりや、スポーツや身体に付与された社会・文化的意味について理解することができる。 ③各テーマについて学問的根拠にもとづいて考察し、論理的に表現することができる。 ④スポーツや身体文化の諸現象をとらえる視点や方法論に関する知識を習得することができる。 以上4点を到達目標とし、とくにDP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP6（文化現象の総合的理解）DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）の実現を目指す。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス（授業の概要、必要な予備知識等についての説明）、発表の分担決定		
	シラバスの内容を把握する。		60
第2回	スポーツ社会学的研究の諸様式		
	スポーツ社会学の視点について理解を深め、次回以降の発表に活かすための考察をする。		60
第3回	研究発表（先行研究の検討）		
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。		60

第4回	研究発表（先行研究の検討）	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第5回	研究発表（調査計画の検討）	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第6回	研究発表（調査計画の検討）	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第7回	発表と議論のまとめと振り返り	
	これまでの発表全体を振り返り、課題を把握し、課題改善について考察する。	60
第8回	研究発表（調査結果と分析）	
	映画の内容と授業で議論したことについて振り返り、自己の考察を深める。	60
第9回	研究発表（調査結果と分析）	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60

第10回	研究発表（調査結果と分析）	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第11回	研究発表（考察・議論）	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第12回	研究発表（考察・議論）	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第13回	研究発表（考察・議論）	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第14回	発表と議論の振り返り	
	これまでの議論の流れを把握し、論点の整理や課題の抽出をおこなう。	60
第15回	まとめ	
	これまで学修したことをすべて把握する。	60

授業の方法

各自の関心にそった研究テーマを定め、進捗状況をレジュメにまとめ、発表や議論をする。
各回2～3名が発表を担当し、発表者以外が司会などの進行・運営役を担当する。
発表の内容について参加者全員で議論する。

成績評価の方法

発表内容（40%）、議論・運営への参加度（40%）、レポート（20%）の評価をもとにして、総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ものごとを学問的に追究する態度を身につけることができているか。
- ・授業内容を理解し、スポーツや身体文化に関する学問的知識を習得することができるか。
- ・各テーマについて学問的根拠にもとづいて考察し、論理的に表現することができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。ただし現代社会学科における既修科目を通して社会的な視点および基礎知識を習得していることが望ましい。

テキスト

ゼミ生の興味関心をふまえて決定する。

参考書

ゼミ生の興味関心を考慮しながら適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習Ⅳ b		
教員名	稲葉 佳奈子		
科目ナンバー	1151441207	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
本演習の学修において主に対象とするのは、社会的文化的現象としてのスポーツ・身体文化・「からだ」にかかわる多様なふるまいである。スポーツや身体をめぐる諸現象は、わたしたちの社会で多くの人が共有する価値観や認識のあり方を反映する一方で、新たな価値観や認識の形成にもかかわっている。現代社会の諸問題がスポーツや身体をめぐる具体的現象において、どのように立ちあらわれるのか。スポーツあるいは「からだ」がもつ社会的文化的意味とは何か。こうした問いを共有しながら、多様な事例をとりあげて考察・議論する。			
到達目標			
①ものごとを学問的に追究する態度を身につけることができる。 ②現代社会の諸問題とスポーツとのかかわりや、スポーツや身体に付与された社会・文化的意味について理解することができる。 ③各テーマについて学問的根拠にもとづいて考察し、論理的に表現することができる。 ④スポーツや身体文化の諸現象をとらえる視点や方法論に関する知識を習得することができる。 以上4点を到達目標とし、とくにDP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP6（文化現象の総合的理解）DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）の実現を目指す。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス、発表の分担決定		
	シラバスの内容を把握する。		60
第2回	スポーツ社会学的研究の諸様式		
	スポーツ社会学の視点について理解を深め、次回以降の発表に活かすための考察をする。		60
第3回	研究発表（調査結果と分析）		
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。		60

第4回	研究発表（調査結果と分析）	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第5回	研究発表（調査結果と分析）	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第6回	研究発表（調査結果と分析）	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第7回	発表と議論のまとめと振り返り	
	これまでの発表全体を振り返り、課題を把握し、課題改善について考察する。	60
第8回	研究発表（考察・議論）	
	映画の内容と授業で議論したことについて振り返り、自己の考察を深める。	60
第9回	研究発表（考察・議論）	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60

第10回	研究発表（考察・議論）	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第11回	研究発表（考察・議論）	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第12回	研究成果発表	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第13回	研究成果発表	
	発表の準備をする。発表内容と議論をふまえて自己の考察を深める。	60
第14回	発表と議論の振り返り	
	これまでの議論の流れを把握し、論点の整理や課題の抽出をおこなう。	60
第15回	まとめ	
	これまで学修したことをすべて把握する。	60

授業の方法

各自の関心にそった研究テーマを定め、進捗状況をレジュメにまとめ、発表や議論をする。
各回2～3名が発表を担当し、発表者以外が司会などの進行・運営役を担当する。
発表の内容について参加者全員で議論する。

成績評価の方法

発表内容（40%）、議論・運営への参加度（40%）、レポート（20%）の評価をもとにして、総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ものごとを学問的に追究する態度を身につけることができるか。
- ・授業内容を理解し、スポーツや身体文化に関する学問的知識を習得することができるか。
- ・各テーマについて学問的根拠にもとづいて考察し、論理的に表現することができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。ただし現代社会学科における既修科目を通して社会的な視点および基礎知識を習得していることが望ましい。

テキスト

ゼミ生の興味関心をふまえて決定する。

参考書

ゼミ生の興味関心を考慮しながら適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習Ⅰ c		
教員名	今田 絵里香		
科目ナンバー	1E51441204	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
このゼミでは、「近現代日本のメディアが、どのようなジェンダーにかんするイメージを作り出してきたか」について考察する。たとえば、「夫は仕事、妻は家事・育児・介護を担わなければならない」という性別役割分業、「恋愛によって結婚するべきである」という恋愛と結婚にかんするイデオロギー、「母親は父親以上に子どもをかわいがらなければならない」という母性愛にかんする規範など。このようなジェンダーにかんするルールは、近代社会が生み出したものだといわれている。逆にいうと、近世社会では、そのようなルールはなかったといわれている。このようなルールを人びとにわかりやすく、かつ魅力的な形で広めたのが、新聞、雑誌などのメディアである。メディアの作り出すジェンダーのイメージをあきらかにすることは、わたしたちを取り巻いているジェンダーのイメージをあきらかにすることにつながるといえる。 わたしたちは、ふだん、なにげなく、ジェンダーにかんするルールにしたがって、行動している。「女子はお手伝いをしなければならない」「男子は涙してはならない」など。このゼミでは、このようなジェンダーのルールが、どのようにして生まれたのか、そこにメディアがどのようにかわかってきたのかを、あきらかにしていくことをめざす。そして、わたしたちが「常識」だと思い込んでいるジェンダーのルールが、はたして「常識」なのかどうかを考えていく。そして、わたしたちの「常識」が決して「常識」ではないことをあきらかにしていく。すなわち、さまざまな社会現象を相対化する視点を獲得していく。 また、メディアが作り出してきたジェンダーのルールを明らかにする方法として、メディア（雑誌、新聞など）の内容分析、作品分析、インタビュー調査、フィールドワーク調査を学び、実践していく。			
到達目標			
DP3（他者との協働）、5（表現力、発信力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次のような到達目標を設定する。 社会を歴史的な視点からとらえられるようになる。 その結果、社会に関する固定的なイメージを捨て去ることができ、社会をさまざまな視点から把握できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ジェンダーとメディアの歴史を学ぶために		
	初回授業時に説明します	90	
第2回	基本的文献に関する報告（1）		
	初回授業時に説明します	90	
第3回	基本的文献に関する報告（2）		
	初回授業時に説明します	90	

第4回	基本的文献に関する報告（3）	
	初回授業時に説明します	90
第5回	基本的文献に関する報告（4）	
	初回授業時に説明します	90
第6回	基本的文献に関する報告（5）	
	初回授業時に説明します	90
第7回	基本的文献に関する報告（6）	
	初回授業時に説明します	90
第8回	基本的文献に関する報告（7）	
	初回授業時に説明します	90
第9回	基本的文献に関する報告（8）	
	初回授業時に説明します	90

第10回	基本的文献に関する報告（ 9 ）	
	初回授業時に説明します	90
第11回	基本的文献に関する報告（ 1 0 ）	
	初回授業時に説明します	90
第12回	基本的文献に関する報告（ 1 1 ）	
	初回授業時に説明します	90
第13回	基本的文献に関する報告（ 1 2 ）	
	初回授業時に説明します	90
第14回	基本的文献に関する報告（ 1 3 ）	
	初回授業時に説明します	90
第15回	基本的文献に関する報告（ 1 4 ）	
	初回授業時に説明します	90

授業の方法

演習形式。

成績評価の方法

提出物（論文・レポートなど。40%）、平常点（30%）、議論への貢献度（30%）によって、総合的に評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

とくに指定しない。

参考書

ゼミ生の興味関心に合わせて選択します。今田絵里香『「少女」の社会史』（勁草書房）、ランドル・コリンズ（井上俊・磯部卓三訳）『脱常識の社会学 第二版 社会の読み方入門』（岩波書店）など。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II c		
教員名	今田 絵里香		
科目ナンバー	1E51441205	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
このゼミでは、「近現代日本のメディアが、どのようなジェンダーにかんするイメージを作り出してきたか」について考察する。たとえば、「夫は仕事、妻は家事・育児・介護を担わなければならない」という性別役割分業、「恋愛によって結婚するべきである」という恋愛と結婚にかんするイデオロギー、「母親は父親以上に子どもをかわいがらなければならない」という母性愛にかんする規範など。このようなジェンダーにかんするルールは、近代社会が生み出したものだといわれている。逆にいうと、近世社会では、そのようなルールはなかったといわれている。このようなルールを人びとにわかりやすく、かつ魅力的な形で広めたのが、新聞、雑誌などのメディアである。メディアの作り出すジェンダーのイメージをあきらかにすることは、わたしたちを取り巻いているジェンダーのイメージをあきらかにすることにつながるといえる。 わたしたちは、ふだん、なにげなく、ジェンダーにかんするルールにしたがって、行動している。「女子はお手伝いをしなければならない」「男子は涙してはならない」など。このゼミでは、このようなジェンダーのルールが、どのようにして生まれたのか、そこにメディアがどのようにかわかってきたのかを、あきらかにしていくことをめざす。そして、わたしたちが「常識」だと思い込んでいるジェンダーのルールが、はたして「常識」なのかどうかを考えていく。そして、わたしたちの「常識」が決して「常識」ではないことをあきらかにしていく。すなわち、さまざまな社会現象を相対化する視点を獲得していく。 また、メディアが作り出してきたジェンダーのルールを明らかにする方法として、メディア（雑誌、新聞など）の内容分析、作品分析、インタビュー調査、フィールドワーク調査を学び、実践していく。			
到達目標			
DP3（他者との協働）、5（表現力、発信力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次のような到達目標を設定する。 社会を歴史的な視点からとらえられるようになる。 その結果、社会に関する固定的なイメージを捨て去ることができ、社会をさまざまな視点から把握できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ジェンダーとメディアの歴史を学ぶために		
	初回授業時に説明します	90	
第2回	研究テーマに関連する文献についての報告（1）		
	初回授業時に説明します	90	
第3回	研究テーマに関連する文献についての報告（2）		
	初回授業時に説明します	90	

第4回	研究テーマに関連する文献についての報告（3）	
	初回授業時に説明します	90
第5回	研究テーマに関連する文献についての報告（4）	
	初回授業時に説明します	90
第6回	研究テーマに関連する文献についての報告（5）	
	初回授業時に説明します	90
第7回	研究テーマに関連する文献についての報告（6）	
	初回授業時に説明します	90
第8回	研究テーマに関連する文献についての報告（7）	
	初回授業時に説明します	90
第9回	研究テーマに関連する文献についての報告（8）	
	初回授業時に説明します	90

第10回	研究テーマに関連する文献についての報告（9）	
	初回授業時に説明します	90
第11回	研究テーマに関連する文献についての報告（10）	
	初回授業時に説明します	90
第12回	研究テーマに関連する文献についての報告（11）	
	初回授業時に説明します	90
第13回	研究テーマに関連する文献についての報告（12）	
	初回授業時に説明します	90
第14回	研究テーマに関連する文献についての報告（13）	
	初回授業時に説明します	90
第15回	研究テーマに関連する文献についての報告（14）	
	初回授業時に説明します	90

授業の方法

演習形式。

成績評価の方法

提出物（論文・レポートなど。40%）、平常点（30%）、議論への貢献度（30%）によって、総合的に評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

とくに指定しない。

参考書

ゼミ生の興味関心に合わせて選択します。今田絵里香『「少女」の社会史』（勁草書房）、ランドル・コリンズ（井上俊・磯部卓三訳）『脱常識の社会学 第二版 社会の読み方入門』（岩波書店）など。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I d		
教員名	今田 絵里香		
科目ナンバー	1E51441204	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
このゼミでは、「近現代のメディアによって、どのような若者文化が生まれてきたのか（いるのか）」をあきらかにする。メディアは、たとえば、「男子はたくましく、女子はかわいらしく振る舞わなければならない」など、さまざまなイメージを作り出し、広めていく。一方、読者は、ときにこのメディアのイメージを受け入れ、ときに批判する。そして、読者は、そのメディアのイメージを利用して、独自の文化を作っていく。それが子ども文化となり、若者文化となっていく。たとえば、近代日本では、少女たちが少女雑誌の投稿欄を利用して、コミュニティを作っていた（今田絵里香『「少女」の社会史』勁草書房）。また、現代のアメリカでは、少女たちがガール・ジンという手作りのメディアを作り、雑誌、テレビなど、大人たちのメディアのイメージに抵抗したり、逆に利用したりして、コミュニティを作ってきた（アリスン・ピーブマイヤー『ガール・ジン』太田出版）。このような若者文化についてあきらかにしていく。 この作業をとおして、わたしたちの「常識」がどのように作られていくのかをあきらかにしていく。そして、わたしたちの「常識」が決して「常識」ではないことを示していく。すなわち、さまざまな社会現象を相対化する視点を獲得していく。 また、メディアをもとにした若者文化をあきらかにする方法として、メディア（雑誌、新聞など）の内容分析、作品分析、インタビュー調査、フィールドワーク調査を学び、実践していく。			
到達目標			
D P 3（他者との協働）、5（表現力、発信力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次のような到達目標を設定する。 社会を歴史的な視点からとらえられるようになる。 その結果、社会に関する固定的なイメージを捨て去ることができ、社会をさまざまな視点から把握できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	子ども・若者文化とメディアの歴史を学ぶために		
	初回授業時に説明します	90	
第2回	基本的文献に関する報告（1）		
	初回授業時に説明します	90	
第3回	基本的文献に関する報告（2）		
	初回授業時に説明します	90	

第4回	基本的文献に関する報告（3）	
	初回授業時に説明します	90
第5回	基本的文献に関する報告（4）	
	初回授業時に説明します	90
第6回	基本的文献に関する報告（5）	
	初回授業時に説明します	90
第7回	基本的文献に関する報告（6）	
	初回授業時に説明します	90
第8回	基本的文献に関する報告（7）	
	初回授業時に説明します	90
第9回	基本的文献に関する報告（8）	
	初回授業時に説明します	90

第10回	基本的文献に関する報告（ 9 ）	
	初回授業時に説明します	90
第11回	基本的文献に関する報告（ 1 0 ）	
	初回授業時に説明します	90
第12回	基本的文献に関する報告（ 1 1 ）	
	初回授業時に説明します	90
第13回	基本的文献に関する報告（ 1 2 ）	
	初回授業時に説明します	90
第14回	基本的文献に関する報告（ 1 3 ）	
	初回授業時に説明します	90
第15回	基本的文献に関する報告（ 1 4 ）	
	初回授業時に説明します	90

授業の方法

演習形式。

成績評価の方法

提出物（論文・レポートなど。40%）、平常点（30%）、議論への貢献度（30%）によって、総合的に評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

とくに指定しない。

参考書

ゼミ生の興味関心に合わせて選択します。今田絵里香『「少女」の社会史』（勁草書房）、ランドル・コリンズ（井上俊・磯部卓三訳）『脱常識の社会学 第二版 社会の読み方入門』（岩波書店）など。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習IⅡ d		
教員名	今田 絵里香		
科目ナンバー	1E51441205	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
このゼミでは、「近現代のメディアによって、どのような若者文化が生まれてきたのか（いるのか）」をあきらかにする。メディアは、たとえば、「男子はたくましく、女子はかわいらしく振る舞わなければならない」など、さまざまなイメージを作り出し、広めていく。一方、読者は、ときにこのメディアのイメージを受け入れ、ときに批判する。そして、読者は、そのメディアのイメージを利用して、独自の文化を作っていく。それが子ども文化となり、若者文化となっていく。たとえば、近代日本では、少女たちが少女雑誌の投稿欄を利用して、コミュニティを作っていた（今田絵里香『「少女」の社会史』勁草書房）。また、現代のアメリカでは、少女たちがガール・ジンという手作りのメディアを作り、雑誌、テレビなど、大人たちのメディアのイメージに抵抗したり、逆に利用したりして、コミュニティを作ってきた（アリスン・ビーブマイヤー『ガール・ジン』太田出版）。このような若者文化についてあきらかにしていく。 この作業をとおして、わたしたちの「常識」がどのように作られていくのかをあきらかにしていく。そして、わたしたちの「常識」が決して「常識」ではないことを示していく。すなわち、さまざまな社会現象を相対化する視点を獲得していく。 また、メディアをもとにした若者文化をあきらかにする方法として、メディア（雑誌、新聞など）の内容分析、作品分析、インタビュー調査、フィールドワーク調査を学び、実践していく。			
到達目標			
D P 3（他者との協働）、5（表現力、発信力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次のような到達目標を設定する。 社会を歴史的な視点からとらえられるようになる。 その結果、社会に関する固定的なイメージを捨て去ることができ、社会をさまざまな視点から把握できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	子ども・若者文化とメディアの歴史を学ぶために		
	初回授業時に説明します		90
第2回	研究テーマに関連する文献についての報告（1）		
	初回授業時に説明します		90
第3回	研究テーマに関連する文献についての報告（2）		
	初回授業時に説明します		90

第4回	研究テーマに関連する文献についての報告（3）	
	初回授業時に説明します	90
第5回	研究テーマに関連する文献についての報告（4）	
	初回授業時に説明します	90
第6回	研究テーマに関連する文献についての報告（5）	
	初回授業時に説明します	90
第7回	研究テーマに関連する文献についての報告（6）	
	初回授業時に説明します	90
第8回	研究テーマに関連する文献についての報告（7）	
	初回授業時に説明します	90
第9回	研究テーマに関連する文献についての報告（8）	
	初回授業時に説明します	90

第10回	研究テーマに関連する文献についての報告（ 9 ）	
	初回授業時に説明します	90
第11回	研究テーマに関連する文献についての報告（ 1 0 ）	
	初回授業時に説明します	90
第12回	研究テーマに関連する文献についての報告（ 1 1 ）	
	初回授業時に説明します	90
第13回	研究テーマに関連する文献についての報告（ 1 2 ）	
	初回授業時に説明します	90
第14回	研究テーマに関連する文献についての報告（ 1 3 ）	
	初回授業時に説明します	90
第15回	研究テーマに関連する文献についての報告（ 1 4 ）	
	初回授業時に説明します	90

授業の方法

演習形式。

成績評価の方法

提出物（論文・レポートなど。40%）、平常点（30%）、議論への貢献度（30%）によって、総合的に評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

とくに指定しない。

参考書

ゼミ生の興味関心に合わせて選択します。今田絵里香『「少女」の社会史』（勁草書房）、ランドル・コリンズ（井上俊・磯部卓三訳）『脱常識の社会学 第二版 社会の読み方入門』（岩波書店）など。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I e		
教員名	見城 武秀		
科目ナンバー	1F51441204	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
昨年、「ポスト・トゥルース (post-truth)」という言葉が「the Oxford Dictionaries Word of the Year」に選ばれたことが話題になりました。これはイギリスのEU離脱の可否を問う国民投票やアメリカの大統領選挙に関連し、この言葉が「世論の形成において、感情や個人的信念への訴求が客観的事実よりも影響力をもつような状況」を指すために盛んに用いられた事態を受けたものです。さらにトランプ大統領の就任後、大統領が自分に対して批判的な報道を「フェイクニュース」と呼んで非難し、メディアは「ファクトチェック」によって大統領の発言が事実に基づいていないことを批判するといった応酬が続いています。 「誰が真実／事実を伝えているか」をめぐるこれらの論争が白熱すればするほど、私たちの盲点に入ってしまう問いがあります。それは「そもそも真実／事実とは何か」、「真実／事実を伝えるとはいかなることを意味するのか」という問いです。「誰が真実／事実を伝えているか」をめぐる論争の前提は、誰にとっても同じ真実／事実が存在すること、そして私たちはその真実／事実を「正しく」伝えることができることですが、これらの前提は無条件に受け入れられるものなのでしょうか。まずはこれらの前提が成立するか否か、成立するとすればいかなる意味において成立するのかが慎重に問われるべきではないでしょうか。この演習では、「事実をありのままに記録すること」と考えられることの多いドキュメンタリーという表現ジャンルについてさまざまな角度から考察することで、「ポスト・トゥルース」や「フェイクニュース」をめぐる議論を批判的に捉えなおすことを目指します。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を達成するため、次の3点を到達目標とします。 （１）「ポスト・トゥルース」、「フェイクニュース」、「ファクトチェック」をめぐる議論を、これまでおこなわれてきたコミュニケーション研究、メディア研究の文脈の中に位置づけて理解する。 （２）「ポスト・トゥルース」、「フェイクニュース」、「ファクトチェック」をめぐる議論を、その歴史的・社会的背景と関連づけながら批判的に捉え直す。 （３）自分が理解し、考察したことを、口頭での議論や文章を通じてお互いに表現し合い、それを踏まえて自分の考えを反省的に振り返り、練り上げていく。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション		
	配付資料の内容をもう一度確認し、授業の進め方やスケジュールについて確実に理解する。		60
第2回	演習を進めていく上での基本的知識の共有（１）		
	配布資料に沿って授業で説明された事柄を復習し、確実に身につける。		60
第3回	演習を進めていく上での基本的知識の共有（２）		
	配布資料に沿って授業で説明された事柄を復習し、確実に身につける。		60

第4回	演習を進めていく上での基本的知識の共有（3）	
	配布資料に沿って授業で説明された事柄を復習し、確実に身につける。	60
第5回	文献の講読（1）	
	課題文献を読んだ上で発表資料を用意し、指定した期日までにポータルサイトにアップする。また、授業前に他の履修者の発表資料に目を通しておく。	90
第6回	文献の講読（2）	
	課題文献を読んだ上で発表資料を用意し、指定した期日までにポータルサイトにアップする。また、授業前に他の履修者の発表資料に目を通しておく。	90
第7回	文献の講読（3）	
	課題文献を読んだ上で発表資料を用意し、指定した期日までにポータルサイトにアップする。また、授業前に他の履修者の発表資料に目を通しておく。	90
第8回	文献の講読（4）	
	課題文献を読んだ上で発表資料を用意し、指定した期日までにポータルサイトにアップする。また、授業前に他の履修者の発表資料に目を通しておく。	90
第9回	文献の講読（5）	
	課題文献を読んだ上で発表資料を用意し、指定した期日までにポータルサイトにアップする。また、授業前に他の履修者の発表資料に目を通しておく。	90

第10回	文献の講読（6）	
	課題文献を読んだ上で発表資料を用意し、指定した期日までにポータルサイトにアップする。また、授業前に他の履修者の発表資料に目を通しておく。	90
第11回	文献の講読（7）	
	課題文献を読んだ上で発表資料を用意し、指定した期日までにポータルサイトにアップする。また、授業前に他の履修者の発表資料に目を通しておく。	90
第12回	文献の講読（8）	
	課題文献を読んだ上で発表資料を用意し、指定した期日までにポータルサイトにアップする。また、授業前に他の履修者の発表資料に目を通しておく。	90
第13回	文献の講読（9）	
	課題文献を読んだ上で発表資料を用意し、指定した期日までにポータルサイトにアップする。また、授業前に他の履修者の発表資料に目を通しておく。	90
第14回	文献の講読（10）	
	課題文献を読んだ上で発表資料を用意し、指定した期日までにポータルサイトにアップする。また、授業前に他の履修者の発表資料に目を通しておく。	90
第15回	文献の講読（11）	
	課題文献を読んだ上で発表資料を用意し、指定した期日までにポータルサイトにアップする。また、授業前に他の履修者の発表資料に目を通しておく。	90

授業の方法

履修者は毎回、課題文献を批判的にレビューした発表資料を用意し、指定期日までにポータルサイトにアップします。その上で他の履修者の発表資料を読んで授業に臨み、他の参加者と議論を交わします。

成績評価の方法

(1) 平常点 (授業への参加状況) (40%)、(2) 発表資料 (30%)、(3) 議論への貢献度 (30%) に基づき評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準 (学則第39条) に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。

- (1) 文献を的確に読解・理解しているか。
- (2) (1) に基づき、自分なりの視点から批判的な考察をおこなっているか。
- (3) 自分が考察・理解したことを的確に表現するための努力・工夫が見られるか。
- (4) 自分の考えと他者の考えを関連づけることによって自分の議論を練り上げようとする努力・工夫が見られるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目として、コミュニケーション論入門

テキスト

必要に応じてコピーを配布します。

参考書

鹿島茂『勝つための論文の書き方』文春新書、など。授業中に指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II e		
教員名	見城 武秀		
科目ナンバー	1F51441205	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
前期に学んだスタディスキルをさらに磨きながら、小論文を仕上げていきます。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を達成するため、次の2点を到達目標とします。 （1）論文のテーマを定める／先行研究を精査する／論文の問いを設定する／論文の構成を考える／論理的に文章を展開する、といった卒業論文執筆に必要な一連のステップを一通り経験し、自分の得意な作業／苦手な作業を把握する。 （2）苦手な作業については「なぜ、それが苦手なのか」を自己分析することで、卒業論文執筆に備える。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	配付資料の内容をもう一度確認し、授業の進め方やスケジュールについて確実に理解する。	60	
第2回	文献の集め方・論文のテーマの決め方		
	配布資料に沿って授業で説明された事柄を復習し、確実に身につける。 小論文の研究テーマを定め、データベースを用いて先行研究の検索をおこなう。	60	
第3回	研究テーマ・文献調査状況発表		
	さらに先行研究の調査を進め、小論文のテーマ／目次／概要を発表資料の形にまとめる。	60	

第4回	論文のテーマ／目次／概要発表	
	発表に対する感想・コメントを踏まえ、必要に応じて論文のテーマ／目次／概要に修正を加える。	60
第5回	中間発表（１）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第6回	中間発表（２）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第7回	中間発表（３）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第8回	論文の体裁の整え方	
	配布資料に沿って授業で説明された事柄を復習し、確実に身につける。	60
第9回	中間発表（４）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60

第10回	中間発表（５）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第11回	中間発表（６）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第12回	中間発表（７）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第13回	中間発表（８）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第14回	論文発表会	
	発表に対する感想・コメントを踏まえ、必要に応じて論文に修正を加える。	60
第15回	まとめ	
	論文執筆作業全体を振り返り、達成できた点、できなかった点を自己分析する。達成できなかった点についてはその理由についても分析し、４年次の卒業論文執筆に活かすようにする。	60

授業の方法

各自研究テーマを定め、「問いの設定」・「資料収集」・「資料の批判的検討」・「議論の組み立て」などの作業を段階的に進めながら、最終的に小論文を完成させます。

成績評価の方法

(1) 平常点(ゼミ合宿も含む参加状況)(30%)、(2) 発表資料(20%)、(3) 議論への貢献度(20%)、(4) 小論文の内容(30%)、の4つをもとに評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。

- (1) 自分の研究テーマに関連する先行研究を的確に調査・理解しているか。
- (2) (1)に基づき、自分なりの視点から批判的な考察をおこなっているか。
- (3) 自分が考察・理解したことを的確に表現するための努力・工夫が見られるか。
- (4) 自分の考えと他者の考えを関連づけることによって自分の議論を練り上げようとする努力・工夫が見られるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目として、コミュニケーション論入門

テキスト

特になし。

参考書

鹿島茂『勝つための論文の書き方』文春新書、など。授業中に指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習III e		
教員名	見城 武秀		
科目ナンバー	1151441206	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
3年次に学んだスタディスキルをさらに磨きながら、卒業論文の完成に向けて問いを明確化し、調査・考察を進めていきます。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を達成するため、次の3点を到達目標とします。 （1）自分の研究テーマを先行研究の流れの中に位置づけ、独自の問いを立てる。 （2）立てた問いに対して説得力のある答えを導き出すため、先行研究を批判的に検討し、議論を組み立てる。 （3）自分の考えを他者に理解してもらうために文章表現を工夫し、また他者の意見を踏まえて自分の考えをより広い文脈の中に位置づけ直す。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	配付資料の内容をもう一度確認し、授業の進め方やスケジュールについて確実に理解する。	60	
第2回	文献の集め方、研究テーマの決め方の復習		
	配布資料に沿って授業で説明された事柄を復習し、確実に身につける。卒業論文のテーマを定め、データベースを用いて先行研究の検索をおこなう。	60	
第3回	研究テーマ・文献調査状況発表		
	さらに先行研究の調査を進め、卒業論文のテーマ・目次・概要を発表資料の形にまとめる。	60	

第4回	論文のタイトル／目次／概要発表	
	発表に対する感想・コメントを踏まえ、論文のタイトル・目次・概要を固める。	60
第5回	発表（1）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第6回	発表（2）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第7回	発表（3）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第8回	論文の体裁の整え方	
	配布資料に沿って授業で説明された事柄を復習し、確実に身につける。	60
第9回	発表（4）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60

第10回	発表（５）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第11回	発表（６）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第12回	発表（７）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第13回	発表（８）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第14回	発表（９）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第15回	まとめ	
	論文執筆作業全体を振り返り、達成できた点、できなかった点を自己分析する。達成できなかった点についてはその理由についても分析し、残りの論文執筆作業に活かせるようにする。	60

授業の方法

「問いの設定」・「資料収集」・「資料の批判的検討」・「議論の組み立て」などの作業を段階的に進めながら、発表と議論を通じて論文を形にし、文章を練り上げていきます。

成績評価の方法

(1) 平常点 (ゼミ合宿も含む参加状況) (30%)、(2) 発表資料の出来 (40%)、(3) 議論への貢献度 (30%) に基づいて評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準 (学則第39条) に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。

- (1) 自分の研究テーマに関連する先行研究を的確に調査・理解しているか。
- (2) (1) に基づき、自分なりの視点から批判的な考察をおこなっているか。
- (3) 自分が考察・理解したことを的確に表現するための努力・工夫が見られるか。
- (4) 自分の考えと他者の考えを関連づけることによって自分の議論を練り上げようとする努力・工夫が見られるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

鹿島茂『勝つための論文の書き方』文春新書、など。授業中に指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習Ⅳ e		
教員名	見城 武秀		
科目ナンバー	1151441207	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
発表と議論を繰り返しながら、卒業論文を仕上げていきます。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を達成するため、次の3点を到達目標とします。 （1）自分の研究テーマを先行研究の流れの中に位置づけ、独自の問いを立てる。 （2）立てた問いに対して説得力のある答えを導き出すため、先行研究を批判的に検討し、議論を組み立てる。 （3）自分の考えを他者に理解してもらうために文章表現を工夫し、また他者の意見を踏まえて自分の考えをより広い文脈の中に位置づけ直す。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	配付資料の内容をもう一度確認し、授業の進め方やスケジュールについて確実に理解する。	60	
第2回	発表（1）		
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60	
第3回	発表（2）		
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60	

第4回	発表（3）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第5回	発表（4）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第6回	発表（5）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第7回	発表（6）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第8回	論文の体裁の整え方	
	配布資料に沿って授業で説明された事柄を復習し、確実に身につける。	60
第9回	発表（7）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60

第10回	発表（8）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第11回	発表（9）	
	発表者は発表資料をまとめる。発表者以外の者は、論文の執筆作業を進める。	60
第12回	論文執筆過程に関する振り返り（1）	
	論文執筆過程全体を振り返り、達成できた点、不十分だった点などを自己分析し、発表資料にまとめる。	60
第13回	論文執筆過程に関する振り返り（2）	
	論文執筆過程全体を振り返り、達成できた点、不十分だった点などを自己分析し、発表資料にまとめる。	60
第14回	論文発表会	
	発表に対する感想・コメントを踏まえ、執筆した論文についてももう一度振り返る。	60
第15回	まとめ	
	大学生活の集大成としての卒業論文執筆を終えた時点から、自分が過ごしてきた大学生活全体を振り返る。	60

授業の方法

発表資料の作成、発表、議論を繰り返しながら、卒業論文を完成させます。

成績評価の方法

(1) 平常点 (ゼミ合宿への参加状況も含む) (30%)、(2) 発表資料 (40%)、(3) 議論への貢献度 (30%) に基づき評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準 (学則第39条) に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。

- (1) 自分の研究テーマに関連する先行研究を的確に調査・理解しているか。
- (2) (1) に基づき、自分なりの視点から批判的な考察をおこなっているか。
- (3) 自分が考察・理解したことを的確に表現するための努力・工夫が見られるか。
- (4) 自分の考えと他者の考えを関連づけることによって自分の議論を練り上げようとする努力・工夫が見られるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

鹿島茂『勝つための論文の書き方』文春新書、など。授業中に指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I f		
教員名	小林 盾		
科目ナンバー	1F51441204	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
テーマ：社会心理学 概要：このゼミでは、社会と心理がどのように関係しているのかを検討していきます。そのうえで、卒業論文の完成にむけて、作業をすすめます。 前期のトピック：マクロ統計の検討、先行研究の検討、リサーチ・クエスチョン設定など 後期のトピック：データ収集、分析、執筆、プレゼンテーションなど			
到達目標			
DP3（他者との協働）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、 (1) 社会心理学にかんする重要な考え方を身につける。 (2) 現代社会のライフスタイルやライフコースについて、メカニズムを説明できる。 (3) データ分析を通じて、社会全体の動きを把握できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第2回	トピック 1		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第3回	トピック 2		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	

第4回	トピック 3	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	トピック 4	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	トピック 5	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	トピック 6	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	トピック 7	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	トピック 8	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	トピック 9	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	トピック 10	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	トピック 11	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	トピック 12	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	トピック 13	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	授業のまとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

演習（ゼミ）．グループで作業し発表する

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況）＝40％ 授業中の発言など＝30％ 提出課題＝30％

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし

テキスト

小林盾『ライフスタイルの社会学』東京大学出版会
小林盾『アクティブ・ラーニング入門』ハーベスト社

参考書

とくになし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習I f		
教員名	小林 盾		
科目ナンバー	1F51441205	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テーマ：社会心理学 概要：このゼミでは、社会と心理がどのように関係しているのかを検討していきます。そのうえで、卒業論文の完成にむけて、作業をすすめます。 前期のトピック：マクロ統計の検討、先行研究の検討、リサーチ・クエスチョン設定など 後期のトピック：データ収集、分析、執筆、プレゼンテーションなど			
到達目標			
DP3（他者との協働）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、 (1) 社会心理学にかんする重要な考え方を身につける。 (2) 現代社会のライフスタイルやライフコースについて、メカニズムを説明できる。 (3) データ分析を通じて、社会全体の動きを把握できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	担当教員が初回授業時に説明します		60
第2回	トピック 1		
	担当教員が初回授業時に説明します		60
第3回	トピック 2		
	担当教員が初回授業時に説明します		60

第4回	トピック 3	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	トピック 4	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	トピック 5	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	トピック 6	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	トピック 7	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	トピック 8	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	トピック 9	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	トピック 10	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	トピック 11	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	トピック 12	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	トピック 13	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	授業のまとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

演習（ゼミ）．グループで作業し発表する

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況）＝40％ 授業中の発言など＝30％ 提出課題＝30％

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし

テキスト

小林盾『ライフスタイルの社会学』東京大学出版会
小林盾『アクティブ・ラーニング入門』ハーベスト社

参考書

とくになし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習III f		
教員名	小林 盾		
科目ナンバー	1151441206	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
テーマ：社会心理学 概要：このゼミでは、社会と心理がどのように関係しているのかを検討していきます。そのうえで、卒業論文の完成にむけて、作業をすすめます。 前期のトピック：マクロ統計の検討、先行研究の検討、リサーチ・クエスチョン設定など 後期のトピック：データ収集、分析、執筆、プレゼンテーションなど			
到達目標			
DP3（他者との協働）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、 (1) 社会心理学にかんする重要な考え方を身につける。 (2) 現代社会のライフスタイルやライフコースについて、メカニズムを説明できる。 (3) データ分析を通じて、社会全体の動きを把握できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	担当教員が初回授業時に説明します		60
第2回	トピック 1		
	担当教員が初回授業時に説明します		60
第3回	トピック 2		
	担当教員が初回授業時に説明します		60

第4回	トピック 3	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	トピック 4	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	トピック 5	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	トピック 6	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	トピック 7	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	トピック 8	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	トピック 9	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	トピック 10	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	トピック 11	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	トピック 12	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	トピック 13	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	授業のまとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

演習（ゼミ）．グループで作業し発表する

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況）＝40％ 授業中の発言など＝30％ 提出課題＝30％

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし

テキスト

小林盾『ライフスタイルの社会学』東京大学出版会
小林盾『アクティブ・ラーニング入門』ハーベスト社

参考書

とくになし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習IV f		
教員名	小林 盾		
科目ナンバー	1151441207	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テーマ：社会心理学 概要：このゼミでは、社会と心理がどのように関係しているのかを検討していきます。そのうえで、卒業論文の完成にむけて、作業をすすめます。 前期のトピック：マクロ統計の検討、先行研究の検討、リサーチ・クエスチョン設定など 後期のトピック：データ収集、分析、執筆、プレゼンテーションなど			
到達目標			
DP3（他者との協働）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、 (1) 社会心理学にかんする重要な考え方を身につける。 (2) 現代社会のライフスタイルやライフコースについて、メカニズムを説明できる。 (3) データ分析を通じて、社会全体の動きを把握できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第2回	トピック 1		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	
第3回	トピック 2		
	担当教員が初回授業時に説明します	60	

第4回	トピック 3	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	トピック 4	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	トピック 5	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	トピック 6	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	トピック 7	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	トピック 8	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	トピック 9	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	トピック 10	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	トピック 11	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	トピック 12	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	トピック 13	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	授業のまとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

演習（ゼミ）．グループで作業し発表する

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況）＝40％ 授業中の発言など＝30％ 提出課題＝30％

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし

テキスト

小林盾『ライフスタイルの社会学』東京大学出版会
小林盾『アクティブ・ラーニング入門』ハーベスト社

参考書

とくになし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I g		
教員名	澁谷 智子		
科目ナンバー	1G51441204	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

テーマ：ケアの社会学

ケアは一生のうちで誰が必要とするものであり、幼い時期、老いていく時期、病気の時などには、誰かのケアを受けることになる。また、人が働く時には、心身の休養や栄養の摂取、衛生面の管理といった“労働力”のメンテナンスが大切になってくる。この授業では、家族や人のつながり、働き方を切り口として、ケアの問題を考えていく。

到達目標

DP2「課題の発見と解決」、DP5「表現力、発信力」、DP7「問題発見能力および多面的な分析能力」を実現するため、以下の3点を到達目標とする。

- ①今日の日本の社会情勢の中で、いかに、ケアをふまえた働き方が構築されつつあるのかを知る。
- ②20代から30代にかけてのキャリア形成と家族のケアをすることがどのように重なってくるのか、その時に何が難しさとして感じられるのかを、時代状況や他国との比較をふまえて整理し、理解する。
- ③自分の関心を持ったテーマについて調べ、分析し、その内容と自らの意見を他の人にもわかりやすく伝える。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	課題論文を読んでくる。	60
第2回	文献精読①	
	課題論文を読んでくる。	60
第3回	文献精読②	
	課題論文を読んでくる。	60

第4回	文献精読③	
	課題論文を読んてくる。	60
第5回	フィールドワークとは	
	文献を読んてくる。	60
第6回	フィールドワーク	
	フィールドノーツをまとめる。	60
第7回	インタビュー	
	インタビューの質問を考え、内容を記録する。	60
第8回	データの整理	
	テブ起こしを行う。	90
第9回	分析①	
	コーディングを行う。	90

第10回	分析②	
	コーディングを行う。	90
第11回	グループワーク①	
	発表についてグループ内で話し合い、発表の構成を決める。	90
第12回	グループワーク②	
	発表の配布資料、スライド、発表のための原稿などを作成する。	120
第13回	グループ発表①	
	発表の配布資料、スライド、発表のための原稿などを作成する。	120
第14回	グループ発表②	
	論文執筆に向けて文献を読む。	120
第15回	まとめ	
	論文執筆に向けて文献を読む。	120

授業の方法

前半は、テキストの精読とレジュメを用いた発表を行う。必要に応じて、映像や記事などを見たり、実際の現場の視察も行う。グループワークでは、子育てや働き方改革などのテーマを分担して調べ、グループとして発表する。4年生は、卒業論文執筆を進め、3年生は、小論文作成に向けて準備をする。

成績評価の方法

平常点（授業での発表や議論への参加）（60%）、発表資料や論文原稿（40%）を基に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

ゼミ生の関心に基づいて、読む文献を決定する。

参考書

山田昌弘, 2005, 『迷走する家族——戦後家族モデルの形成と解体』 有斐閣.
武田卓也, 2015, 『若年介護——介護を続けながら夢と希望をもって生きるために』 風詠社.
筒井淳也, 2015, 『仕事と家族——日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』 中央公論新社. など

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II g		
教員名	澁谷 智子		
科目ナンバー	1G51441205	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

テーマ：ケアの社会学
 ケアは一生のうちで誰が必要とするものであり、幼い時期、老いていく時期、病気の時などには、誰かのケアを受けることになる。また、人が働く時には、心身の休養や栄養の摂取、衛生面の管理といった“労働力”のメンテナンスが大切になってくる。この授業では、家族や人のつながり、働き方を切り口として、ケアの問題を考えていく。

到達目標

DP2「課題の発見と解決」、DP5「表現力、発信力」、DP7「問題発見能力および多面的な分析能力」を実現するため、以下の3点を到達目標とする。

- ①今日の日本の社会情勢の中で、いかに、ケアをふまえた働き方が構築されつつあるのかを知る。
- ②20代から30代にかけてのキャリア形成と家族のケアをすることがどのように重なってくるのか、その時に何が難しさとして感じられるのかを、時代状況や他国との比較をふまえて整理し、理解する。
- ③自分の関心を持ったテーマについて調べ、分析し、その内容と自らの意見を他の人にもわかりやすく伝える。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	参考文献について	
	課題論文を読んでくる。	60
第2回	論文を読む①	
	課題論文の要約を作る。	60
第3回	引用や注について	
	課題論文を読んでくる。	60

第4回	論文を読む②	
	課題論文の要約を作る。	60
第5回	接続詞、査読について	
	課題論文を読んできく。	60
第6回	論文を読む③	
	課題論文の要約を作る。	60
第7回	卒業論文発表①	
	3年生は4年生の卒論の要約をまとめ、4年生は自分の卒論について発表する。	90
第8回	卒業論文発表②	
	3年生は4年生の卒論の要約をまとめ、4年生は自分の卒論について発表する。	90
第9回	卒業論文発表③	
	3年生は4年生の卒論の要約をまとめ、4年生は自分の卒論について発表する。	90

第10回	卒業論文発表④	
	3年生は4年生の卒論の要約をまとめ、4年生は自分の卒論について発表する。	90
第11回	グループワーク①	
	発表についてグループ内で話し合い、発表の構成を決める。	90
第12回	グループワーク②	
	発表の配布資料、スライド、発表のための原稿などを作成する。	120
第13回	グループ発表①	
	発表の配布資料、スライド、発表のための原稿などを作成する。	120
第14回	グループ発表②	
	論文執筆に向けて文献を読む。	120
第15回	まとめ	
	論文執筆に向けて文献を読む。	120

授業の方法

前半は論文の書き方を勉強し、4年生は卒業論文執筆を進め、3年生は小論文作成に向けて準備をする。。グループワークでは、街づくりや子どもの居場所などのテーマを分担して調べ、グループとして発表する。

成績評価の方法

平常点（授業での発表や議論への参加）（60%）、発表資料や論文原稿（40%）を基に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

ゼミ生の関心に基づいて、読む文献を決定する。

参考書

山田昌弘, 2005, 『迷走する家族——戦後家族モデルの形成と解体』 有斐閣.
武田卓也, 2015, 『若年介護——介護を続けながら夢と希望をもって生きるために』 風詠社.
筒井淳也, 2015, 『仕事と家族——日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』 中央公論新社. など

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I h		
教員名	澁谷 智子		
科目ナンバー	1G51441204	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

テーマ：都市社会学・福祉の社会学
 このゼミでは、人口減少、共働き、少子高齢化、街づくりといった視点から、都市や地域の活性化や空間づくりに焦点を当てる。近年、都心部ではタワーマンションが建設され、子どもが増えすぎて学校が手狭になるという状況が起きている一方で、空き家や高齢化に頭を悩ませる地域も少なくない。ゼミでは、これからの時代、人々の賑わいや居心地の良さをどのように作っていけばいいのかを考えていく。

到達目標

DP2「課題の発見と解決」、DP5「表現力、発信力」、DP7「問題発見能力および多面的な分析能力」を実現するため、以下の3点を到達目標とする。

- ①今日の時代状況において顕在化してきた問題は何かを理解する。
- ②自分やそのまわりの人にとっての「well-being（健康で安心し、満足できる生活状態）」、居心地の良い空間はどのように実現できるのかを、思い浮かべられるようにする。
- ③自分の関心を持ったテーマについて調べ、分析し、その内容と自らの意見を他の人にもわかりやすく伝える。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	課題論文を読んでくる。	60
第2回	文献精読①	
	課題論文を読んでくる。	60
第3回	文献精読②	
	課題論文を読んでくる。	60

第4回	文献精読③	
	課題論文を読んてくる。	60
第5回	フィールドワークとは	
	文献を読んてくる。	60
第6回	フィールドワーク	
	フィールドノーツをまとめる。	60
第7回	インタビュー	
	インタビューの質問を考え、内容を記録する。	60
第8回	データの整理	
	テブ起こしを行う。	90
第9回	分析①	
	コーディングを行う。	90

第10回	分析②	
	コーディングを行う。	90
第11回	グループワーク①	
	発表についてグループ内で話し合い、発表の構成を決める。	90
第12回	グループワーク②	
	発表の配布資料、スライド、発表のための原稿などを作成する。	120
第13回	グループ発表①	
	発表の配布資料、スライド、発表のための原稿などを作成する。	120
第14回	グループ発表②	
	論文執筆に向けて文献を読む。	120
第15回	まとめ	
	論文執筆に向けて文献を読む。	120

授業の方法

前半は、テキストの精読とレジュメを用いた発表を行う。必要に応じて、映像や記事などを見たり、実際の現場の視察も行う。グループワークでは、街づくりや子どもの居場所作りなどのテーマを分担して調べ、グループとして発表する。4年生は卒業論文執筆を進め、3年生は小論文作成に向けて準備をする。

成績評価の方法

平常点（授業での発表や議論への参加）（60%）、発表資料や論文原稿（40%）を基に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

ゼミ生の関心に基づいて、読む文献を決定する。

参考書

饗庭伸, 2015, 『都市をたたむ——人口減少時代をデザインする都市計画』花伝社.
シャロン・ズーキン, 2013, 『都市はなぜ魂を失ったか——ジェイコブズ後のニューヨーク論』講談社. など

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習II h		
教員名	澁谷 智子		
科目ナンバー	1G51441205	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

テーマ：都市社会学・福祉の社会学
 このゼミでは、人口減少、共働き、少子高齢化、街づくりといった視点から、都市や地域の活性化や空間づくりに焦点を当てる。近年、都心部ではタワーマンションが建設され、子どもが増えすぎて学校が手狭になるという状況が起きている一方で、空き家や高齢化に頭を悩ませる地域も少なくない。ゼミでは、これからの時代、人々の賑わいや居心地の良さをどのように作っていけばいいのかを考えていく。

到達目標

DP2「課題の発見と解決」、DP5「表現力、発信力」、DP7「問題発見能力および多面的な分析能力」を実現するため、以下の3点を到達目標とする。

- ①今日の時代状況において顕在化してきた問題は何かを理解する。
- ②自分やそのまわりの人にとっての「well-being（健康で安心し、満足できる生活状態）」、居心地の良い空間はどのように実現できるのかを、思い浮かべられるようにする。
- ③自分の関心を持ったテーマについて調べ、分析し、その内容と自らの意見を他の人にもわかりやすく伝える。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	参考文献について	
	課題論文を読んでくる。	60
第2回	論文を読む①	
	課題論文の要約を作る。	60
第3回	引用や注について	
	課題論文を読んでくる。	60

第4回	論文を読む②	
	課題論文の要約を作る。	60
第5回	接続詞、査読について	
	課題論文を読んできく。	60
第6回	論文を読む③	
	課題論文の要約を作る。	60
第7回	卒業論文発表①	
	3年生は4年生の卒論の要約をまとめ、4年生は自分の卒論について発表する。	60
第8回	卒業論文発表②	
	3年生は4年生の卒論の要約をまとめ、4年生は自分の卒論について発表する。	90
第9回	卒業論文発表③	
	3年生は4年生の卒論の要約をまとめ、4年生は自分の卒論について発表する。	90

第10回	卒業論文発表④	
	3年生は4年生の卒論の要約をまとめ、4年生は自分の卒論について発表する。	90
第11回	グループワーク①	
	発表についてグループ内で話し合い、発表の構成を決める。	90
第12回	グループワーク②	
	発表の配布資料、スライド、発表のための原稿などを作成する。	120
第13回	グループ発表①	
	発表の配布資料、スライド、発表のための原稿などを作成する。	120
第14回	グループ発表②	
	論文執筆に向けて文献を読む。	120
第15回	まとめ	
	論文執筆に向けて文献を読む。	120

授業の方法

前半は論文の書き方を勉強し、4年生は卒業論文執筆を進め、3年生は小論文作成に向けて準備をする。。グループワークでは、街づくりや子どもの居場所などのテーマを分担して調べ、グループとして発表する。

成績評価の方法

平常点（授業での発表や議論への参加）（60%）、発表資料や論文原稿（40%）を基に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

ゼミ生の関心に基づいて、読む文献を決定する。

参考書

饗庭伸, 2015, 『都市をたたむ——人口減少時代をデザインする都市計画』花伝社.
シャロン・ズーキン, 2013, 『都市はなぜ魂を失ったか——ジェイコブズ後のニューヨーク論』講談社. など

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習 I i		
教員名	内藤 準		
科目ナンバー	1H51441204	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
このゼミでは、現代社会における社会的ネットワーク、社会的資源の分配と不平等、人びとの自由と主体性、コミュニティのあり方、仕事やライフスタイル、アイデンティティ、その他の諸問題を扱います。 これらはいずれも、現代社会の成り立ちの根幹にかかわります。そのため、このゼミでは、社会科学の基本的テキストや理論的な文献などで、社会学的な思考の枠組みを身につけます。2018年度は、とくに社会的ネットワークの基本文献を読む予定です。 例えば、現代社会では、社会・経済・政治などにかかわるさまざまな資源がやりとりされています。お金や高い地位を持っている人は持たない人より多くのことを自由におこなうことができますし、まったく持っていないなら、街で食べ物を手に入れることもできません。 また、人びとの人間関係のネットワークは、お互いに助け合って資源の不足を補ったり、お互いに利益を得るための資源になりえます。一方、そうした人間関係は、地域社会レベルでの信頼や安心、社会参加などにも関わってきます。 このように、収入や財産、仕事、社会的地位や属性、資格や能力、家族関係、周囲の人間関係などは、その持ち主の境遇を大きく左右する資源であり、資源に恵まれているかどうかで、生き方の自由さも異なってきます。何が資源になるかは、さまざまな社会規範によって規定されたり、人びとの共同的な意思決定によっても決まってきます。貧困や差別などで資源をもたない社会的弱者は、さまざまな困難にも見舞われます。そのため、資源分配の公平さをめぐる社会問題や、その解決のための街づくりの試みもおこっています。 このように、社会的資源の分配、社会規範の働き、人びとの共同性、といった社会科学の基本的な枠組みを応用しながら、ゼミのメンバーそれぞれの研究テーマを考えていきます。			
到達目標			
DP3（他者との共同）、DP5（表現力、発信力）、DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、以下の到達目標を設定します。			
①現代社会の諸現象について、身近な経験や実感から連想するだけでなく、見知らぬ他者をも含む社会全体の状況として理解する力を身につける。（DP6、DP7、DP8）			
②社会の構造から影響を受けつつ、他者とともに社会を作り出す行為者として、自分自身を社会の中に位置づける思考力を身につける。（DP6、DP7、DP8）			
③不平等をはじめ、さまざまな社会現象がどのように形成されるのか、いつ、なぜ問題になるのかを理解する。（DP6、DP7）			
④演習メンバーでの共同研究や調査、相互の発表とそれに対する深い理解と討論などを通じて、共同で問題を発見・解決する能力、表現力と発信力、他者の理解と自己を伝達する能力を身につける。（DP3、DP5、DP8）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション		
	=====		
	教員からの基本的な説明と、報告担当者決めなどをおこないます。		
	【復習】配布された資料を読み直す。	60	
第2回	報告とディスカッション1		
	【予習】指定文献を読む。		
	報告者・討論者は資料を作成する。		
	その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。		
第3回	報告とディスカッション2		
	【予習】指定文献を読む。		
	報告者・討論者は資料を作成する。		
	その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。		

第4回	報告とディスカッション3	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第5回	報告とディスカッション4	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第6回	報告とディスカッション5	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第7回	報告とディスカッション6	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第8回	報告とディスカッション7	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第9回	報告とディスカッション8	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60

第10回	報告とディスカッション9	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第11回	報告とディスカッション10	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第12回	報告とディスカッション11	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第13回	報告とディスカッション12	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第14回	報告とディスカッション13	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第15回	まとめ	
	【予習・復習】指定文献を読む。	60

授業の方法

前期は、社会的ネットワーク論や社会階層論および社会学の入門書、ゼミ生の興味関心にもとづく基本文献を輪読します。報告者とコメントーターの発表をもとにしながら議論します。

後期は、各自の卒業論文のテーマに基づいて、研究計画の検討や進捗状況の報告を中心におこないます。

卒業論文で設定するテーマは基本的に自由です。ただし、テーマへの取り組みでは、かならず社会学的な概念や理論枠組みを用いるようにしてください。

どんな取り組み方が適切かは、理論的な研究、歴史資料の分析、統計的なデータ分析、あるいは自分の足による調査など、テーマについて学ぶなかで考えていきます。

成績評価の方法

平常点(授業への参加状況や課題の提出状況)40%、議論への貢献・授業中の発言など30%、提出課題30%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

卒業論文では多くの場合、何らかの調査やデータ分析（質的・量的）をおこなうことになります。そのため、社会調査に関する科目を履修していることが望ましいです。

その他の予備知識はとくに必要ありませんが、各自、興味関心があるテーマについての社会学的な文献を、常日頃から読み進めておくこと。卒業論文のテーマは自分自身で見つけ出す必要があるからです。

また、さまざまな社会学関連科目を事前に学んでいるとより理解が深まります（例えば、社会階層論・社会心理学・経済社会学・教育社会学・家族社会学・労働社会学・ジェンダーの社会学など）。

テキスト

ゼミ生と相談しながら決めますが、はじめのうちは教員から基本的な文献を指示する予定です。

参考書

稲葉陽二『ソーシャル・キャピタル入門』

竹ノ下弘久『仕事と不平等の社会学』

小林盾ほか編『社会学入門』

筒井淳也『仕事と家族』

吉川徹『現代日本の「社会の心」』 など。

その他、参考文献や文献は必要に応じて随時指定します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	演習II i		
教員名	内藤 準		
科目ナンバー	1H51441205	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
このゼミでは、現代社会における社会的ネットワーク、社会的資源の分配と不平等、人びとの自由と主体性、コミュニティのあり方、仕事やライフスタイル、アイデンティティ、消費行動その他の諸問題を扱います。 これらはいずれも、現代社会の成り立ちの根幹にかかわります。そのため、このゼミでは、社会科学の基本的テキストや理論的な文献などで、社会学的な思考の枠組みを身につけます。 例えば、現代社会では、社会・経済・政治などにかかわるさまざまな資源がやりとりされています。お金や高い地位を持っている人は持たない人より多くのことを自由におこなうことができますし、まったく持っていないなら、街で食べ物を手に入れることもできません。 また、人びとの人間関係のネットワークは、お互いに助け合って資源の不足を補ったり、お互いに利益を得るための資源になります。一方、そうした人間関係は、地域社会レベルでの信頼や安心、社会参加などにも関わってきます。 社会的資源や人間関係の分配は、労働、経済、ジェンダー、家族、教育、福祉、地域活動など、社会生活のきわめて広い範囲にかかわり、人びとの暮らしやアイデンティティを左右するものです。このゼミでは、社会的資源の分配、社会規範の働き、人びとの共同性、といった社会科学の基本的な枠組みを応用しながら、ゼミのメンバーそれぞれの研究テーマを考えていきます。 後期は、ゼミ生たちが自らの関心に基づいた重要文献を購読し、卒論テーマの設定と深化、執筆する卒業の論文の改善と完成へ向けた作業をおこないます。			
到達目標			
DP3（他者との共同）、DP5（表現力、発信力）、DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、以下の到達目標を設定します。			
①現代社会の諸現象について、身近な経験や実感から連想するだけでなく、見知らぬ他者をも含む社会全体の状況として理解する力を身につける。（DP6、DP7、DP8）			
②社会の構造から影響を受けつつ、他者とともに社会を作り出す行為者として、自分自身を社会の中に位置づける思考力を身につける。（DP6、DP7、DP8）			
③不平等をはじめ、さまざまな社会現象がどのように形成されるのか、いつ、なぜ問題になるのかを理解する。（DP6、DP7）			
④演習メンバーでの共同研究や調査、相互の発表とそれに対する深い理解と討論などを通じて、共同で問題を発見・解決する能力、表現力と発信力、他者の理解と自己を伝達する能力を身につける。（DP3、DP5、DP8）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション		
	=====		
	教員からの基本的な説明と、報告担当者決めなどをおこないます。		
	自分の関心やすでに執筆中の論文について、参考文献リストを用意し、とくに重要な文献を選定します。		
	自らの関心に基づいて、参考文献文献リストを作成し、持参する。		60
第2回	報告とディスカッション1		
	【予習】指定文献を読む。		
	報告者・討論者は資料を作成する。		60
	その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。		
第3回	報告とディスカッション2		
	【予習】指定文献を読む。		
	報告者・討論者は資料を作成する。		60
	その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。		

第4回	報告とディスカッション3	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第5回	報告とディスカッション4	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第6回	報告とディスカッション5	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第7回	報告とディスカッション6	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第8回	報告とディスカッション7	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第9回	報告とディスカッション8	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60

第10回	報告とディスカッション9	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第11回	報告とディスカッション10	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第12回	報告とディスカッション11	
	【予習】指定文献を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第13回	論文執筆・研究計画作成1	
	【予習】教員や参加者に相談したいことをまとめておく。 すでに論文を執筆中の者は、自らの論文の改善をおこなう。 このあと論文執筆に入るものは、今後の研究計画をまとめる作業をおこなう。	60
第14回	論文執筆・研究計画作成2	
	【予習】教員や参加者に相談したいことをまとめておく。 すでに論文を執筆中の者は、自らの論文の改善をおこなう。 このあと論文執筆に入るものは、今後の研究計画をまとめる作業をおこなう。	60
第15回	まとめ	
	【予習・復習】論文・研究計画の仕上げをおこなう。	60

授業の方法

後期は、各自の卒業論文のテーマに基づいた文献の講読、研究計画の検討や進捗状況の報告を中心におこないます。
最終的には、各自の論文の執筆を進め、あるいは研究計画をまとめ、完成へ向けて改善することを目指します。
各自の発表内容に合わせて、学外でのフィールドワークや調査が課される可能性があります。

成績評価の方法

平常点(授業への参加状況や課題の提出状況)30%、議論への貢献・授業中の発言など30%、提出課題40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

卒業論文では多くの場合、何らかの調査やデータ分析(質的・量的)をおこなうことになります。そのため、社会調査に関する科目を履修していることが望ましいです。

その他の予備知識はとくに必要ありませんが、各自、興味関心があるテーマについての社会学的な文献を、常日頃から読み進めておくこと。卒業論文のテーマは自分自身で見つけ出す必要があるからです。

また、さまざまな社会学関連科目を事前に学んでいるとより理解が深まります(例えば、社会階層論・社会心理学・経済社会学・教育社会学・家族社会学・労働社会学・ジェンダーの社会学など)。

テキスト

後期は、報告者の執筆する論文のために、報告者自身または教員が指定した文献を講読します。その他、社会的ネットワーク論などの基本文献を扱う可能性があります。

参考書

ゼミ生それぞれの関心に基づいて、文献を持ち寄り、選定します。

その他、

竹ノ下弘久『仕事と不平等の社会学』

小林盾ほか編『社会学入門』

筒井淳也『仕事と家族』

稲葉陽二『ソーシャル・キャピタル入門』

吉川徹『現代日本の「社会の心」』 など。

その他、参考論文や文献は必要に応じて随時指定します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	演習III i		
教員名	内藤 準		
科目ナンバー	1151441206	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
このゼミでは、現代社会における社会的ネットワーク、社会的資源の分配と不平等、人びとの自由と主体性、コミュニティのあり方、仕事やライフスタイル、アイデンティティ、消費行動、サブカルチャーその他の諸問題を扱います。 3年生までに身につけた社会学的な思考枠組みを用いて、ゼミ生たちが自らの関心に基づいた重要文献を購読し、フィールドワークその他の調査について報告し、卒論テーマの設定と深化、執筆する卒業論文の改善と完成へ向けた作業をおこないます。 前期はとくに、卒論執筆の進捗報告と、相互批判を通じた改善、足りないデータの指摘と新たな調査計画の策定などを中心におこなう予定です。			
到達目標			
DP3（他者との共同）、DP5（表現力、発信力）、DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、以下の到達目標を設定します。			
①現代社会の諸現象について、身近な経験や実感から連想するだけでなく、見知らぬ他者をも含む社会全体の状況として理解する力を身につける。（DP6、DP7、DP8）			
②社会の構造から影響を受けつつ、他者とともに社会を作り出す行為者として、自分自身を社会の中に位置づける思考力を身につける。（DP6、DP7、DP8）			
③演習メンバーでの共同研究や、卒業論文へ向けたフィールドワークなどの調査、相互の発表と討論などを通じて、共同で問題を発見・解決する能力、表現力と発信力、他者を理解し自己を伝達する能力を身につける。（DP3、DP5、DP8）			
④卒業論文を執筆し、相互の発表と議論による改善し、完成させることを通じて、豊かな表現力、発信力と正確な理解力、伝達力を身につける（DP3、DP5、DP8）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション		
	=====		
	教員からの基本的な説明と、報告担当者決めなどをおこないます。		
	自分の関心やすでに執筆中の論文について、参考文献リストを用意し、とくに重要な文献を選定します。		
	自らの関心に基づいて、参考文献リストを作成し、持参する。	60	
第2回	報告とディスカッション1		
	【予習】指定文献と資料を読む。		
	報告者・討論者は資料を作成する。		
	その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。		
第3回	報告とディスカッション2		
	【予習】指定文献と資料を読む。		
	報告者・討論者は資料を作成する。		
	その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。		

第4回	報告とディスカッション3	
	【予習】指定文献と資料を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第5回	報告とディスカッション4	
	【予習】指定文献と資料を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第6回	報告とディスカッション5	
	【予習】指定文献と資料を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第7回	報告とディスカッション6	
	【予習】指定文献と資料を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第8回	報告とディスカッション7	
	【予習】指定文献と資料を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第9回	報告とディスカッション8	
	【予習】指定文献と資料を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60

第10回	報告とディスカッション9	
	【予習】指定文献と資料を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第11回	報告とディスカッション10	
	【予習】指定文献と資料を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第12回	報告とディスカッション11	
	【予習】指定文献と資料を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第13回	論文執筆・研究計画修正1	
	【予習】指定文献と資料を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第14回	論文執筆・研究計画修正2	
	【予習】指定文献と資料を読む。 報告者・討論者は資料を作成する。 その他の参加者も必要に応じてメモやコメントをまとめておくこと。	60
第15回	まとめ	
	【予習・復習】論文・研究計画の仕上げをおこなう。	60

授業の方法

各自の卒業論文にかんする研究計画の検討や、調査・分析の進捗状況の報告を中心におこないます。
各自の論文の執筆を進め、完成へ向けて改善していきます。
テーマは基本的に自由です。ただし、テーマへの取り組みではかならず社会学的な概念や理論枠組みを用いるようにしてください。
3年次までの蓄積を踏まえ、各自が積極的に調査・データ分析と文献講読を進めることが必要になります。
各自の発表内容に合わせて、学外でのフィールドワークや調査が課される可能性があります。

成績評価の方法

平常点(授業への参加状況や課題の提出状況)30%、議論への貢献・授業中の発言など50%、提出課題20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

各自の卒論テーマに関する予備知識は、3年次までにある程度蓄積してあることが前提となります。そのため、各自、興味関心があるテーマについての社会学的な文献を、常日頃から読み進めておくこと。
卒業論文では多くの場合、何らかの調査やデータ分析（質的・量的）をおこなうことになります。そのため、社会調査に関する科目を履修していることが望ましいです。
また、さまざまな社会学関連科目を事前に学んでいるとより理解が深まります（例えば、社会階層論・社会心理学・経済社会学・教育社会学・家族社会学・労働社会学・ジェンダーの社会学など）。

テキスト

必要に応じて、報告者の執筆する論文の先行研究を購読します。

参考書

竹ノ下弘久『仕事と不平等の社会学』
小林盾ほか編『社会学入門』
筒井淳也『仕事と家族』
稲葉陽二『ソーシャル・キャピタル入門』
吉川徹『現代日本の「社会の心」』
など。
その他、参考論文や文献は必要に応じて随時指定します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	演習Ⅳ i		
教員名	内藤 準		
科目ナンバー	1151441207	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
このゼミでは、現代社会における社会的ネットワーク、社会的資源の分配と不平等、人びとの自由と主体性、コミュニティのあり方、仕事やライフスタイル、アイデンティティ、消費行動、サブカルチャーその他の諸問題を扱います。 前期までに身につけた社会学的な思考枠組みを用いて、ゼミ生たちが自らの関心に基づいた重要文献を購読し、フィールドワークその他の調査について報告し、卒論テーマの設定と深化、執筆する卒業論文の改善と完成へ向けた作業をおこないます。 後期はとくに、卒論執筆の草稿発表と、相互批判を通じた改善、足りないデータの指摘と最終仕上げをおこなう予定です。			
到達目標			
DP3（他者との共同）、DP5（表現力、発信力）、DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、以下の到達目標を設定します。			
①現代社会の諸現象について、身近な経験や実感から連想するだけでなく、見知らぬ他者をも含む社会全体の状況として理解する力を身につける。（DP6、DP7、DP8）			
②社会の構造から影響を受けつつ、他者とともに社会を作り出す行為者として、自分自身を社会の中に位置づける思考力を身につける。（DP6、DP7、DP8）			
③演習メンバーでの共同研究や、卒業論文へ向けたフィールドワークなどの調査、相互の発表と討論などを通じて、共同で問題を発見・解決する能力、表現力と発信力、他者を理解し自己を伝達する能力を身につける。（DP3、DP5、DP8）			
④卒業論文を執筆し、相互の発表と議論による改善し、完成させることを通じて、豊かな表現力、発信力と正確な理解力、伝達力を身につける（DP3、DP5、DP8）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション		
	===== 執筆中の論文についての草稿と、参考文献リストを用意し、報告担当者決めなどをおこないます。		
	【予習】 執筆中の卒論の草稿、文献リスト、調査データなどを用意する。	90	
第2回	報告とディスカッション1		
	【予習】 執筆中の卒論の草稿、文献リスト、調査データなどを用意する。	90	
第3回	報告とディスカッション2		
	【予習】 執筆中の卒論の草稿、文献リスト、調査データなどを用意する。	90	
第4回	報告とディスカッション3		

	【予習】 執筆中の卒論の草稿、文献リスト、調査データなどを用意する。	90
第5回	報告とディスカッション4	
	【予習】 執筆中の卒論の草稿、文献リスト、調査データなどを用意する。	90
第6回	卒業論文 暫定原稿 ゼミ内発表 1	
	【予習】 卒論の原稿を暫定的に完成させて用意する。	90
第7回	卒業論文 暫定原稿 ゼミ内発表 2	
	【予習】 卒論の原稿を暫定的に完成させて用意する。	90
第8回	卒業論文 暫定原稿 ゼミ内発表 3	
	【予習】 卒論の原稿を暫定的に完成させて用意する。	90
第9回	卒業論文 原稿完成 1	
	【予習】 卒論の原稿を最終的に完成させる。	90
第10回	卒業論文 原稿完成 2	

	【予習】 卒論の原稿を最終的に完成させる。	90
第11回	卒業論文 原稿完成 3	
	【予習】 卒論の原稿を最終的に完成させる。	90
第12回	卒業論文 提出原稿発表 1	
	【予習】 卒論の内容の要約と反省点を用意する。	90
第13回	卒業論文 提出原稿発表 2	
	【予習】 卒論の内容の要約と反省点を用意する。	90
第14回	卒業論文 提出原稿発表 3	
	【予習】 卒論の内容の要約と反省点を用意する。	90
第15回	まとめ	
	【予習】 相互の卒論についてコメントをし、総括する。	90
授業の方法		

各自の卒業論文の草稿や、調査・分析の進捗状況の報告を中心におこないます。最終的に、卒業論文を完成させます。 テーマは基本的に自由です。ただし、テーマへの取り組みではかならず社会学的な概念や理論枠組みを用いるようにしてください。 前期までの蓄積を踏まえ、各自が積極的に調査・データ分析と文献講読を進めることが必要になります。 各自の発表内容に合わせて、学外でのフィールドワークや調査が課される可能性があります。
成績評価の方法 平常点(授業への参加状況や課題の提出状況)30%、議論への貢献・授業中の発言など50%、提出課題20%
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 この時期には、卒業論文のテーマに関するかなりの知識を修得していることが前提になります。そのため、各自、興味関心があるテーマについての社会学的な文献を、常日頃から読み進めておくこと。 卒業論文では多くの場合、何らかの調査やデータ分析(質的・量的)をおこなうことになります。そのため、社会調査に関する科目を履修していることが望ましいです。 また、さまざまな社会学関連科目を事前に学んでいるとより理解が深まります(例えば、社会階層論・社会心理学・経済社会学・教育社会学・家族社会学・労働社会学・ジェンダーの社会学など)。
テキスト 必要に応じて、報告者の執筆する論文の先行研究を購読します。
参考書 竹ノ下弘久『仕事と不平等の社会学』 小林盾ほか編『社会学入門』 筒井淳也『仕事と家族』 稲葉陽二『ソーシャル・キャピタル入門』 吉川徹『現代日本の「社会の心」』 など。 その他、参考論文や文献は必要に応じて随時指定します。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) ポータルサイトで周知します。

科目名	演習 I j		
教員名	中江 桂子		
科目ナンバー	1H51441204	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

広義の意味における文芸や芸術などをとりあげ、その作品やスタイルが登場した時代とその社会的な背景などについて、研究を深める演習としたい。小説、文学、絵画、建築、デザイン、音楽、映画、など、さまざまな造形物は生活文化のなかに生かされながら、人びとの精神のありようと深い関係をもつ。具体的にひとつひとつの対象に接近し、それを通して、私たち自身の文化と社会の姿を吟味することを目的とする。多様なジャンルを研究する仲間が集まると、刺激が相乗作用を起こして楽しいと思う。互いに学びあえるようなゼミにしたいと思います。

到達目標

DP 5（表現力・発信力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）、を実現するため、次のような目標を設定する。卒業論文の執筆にむけて、自分の研究テーマを選び、その研究のための基礎的な準備を整えること。また、ディスカッションなどを通して、自分が気づかなかった問題の発見や、論理的転回の整備などを、みずから進められるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ゼミのすすめかた。卒論の準備の仕方などについて	
	自分の研究テーマについて、発表できるように準備すること。	60
第2回	研究テーマのみつけかた、しぼりかたについて	
	自分の研究テーマについて、発表できるように準備すること。	60
第3回	互いのテーマについての意見交換。	
	自分の研究テーマについて、発表できるように準備すること。次週からのテキストの予習	60

第4回	基礎テキストを読む（１）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第5回	基礎テキストを読む（２）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第6回	基礎テキストを読む（３）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第7回	基礎テキストを読む（４）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第8回	中間の整理。——文献を自分の研究テーマに生かす方法。	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第9回	基礎テキストを読む（５）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60

第10回	基礎テキストを読む（6）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第11回	基礎テキストを読む（7）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第12回	基礎テキストを読む（8）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第13回	卒論に向けた研究発表（1）	
	卒論のための準備段階の報告と課題についての整理。	60
第14回	卒論に向けた研究発表（2）	
	卒論のための準備段階の報告と課題についての整理。	60
第15回	卒論に向けた総括。	
	卒論のための準備段階の報告と課題についての整理。	60

授業の方法

ゼミ形式

成績評価の方法

ゼミ報告（40％）、各種貢献度（20％）自分の課題への熱意（40％）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

自分の研究テーマにかかわる学科専門科目の十分な修養が望ましい。

テキスト

なし。

参考書

適宜、指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ゼミ時間中、およびゼミの前後に受け付ける。

科目名	演習II j		
教員名	中江 桂子		
科目ナンバー	1H51441205	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要			
広義の意味における文芸や芸術などをとりあげ、その作品やスタイルが登場した時代とその社会的な背景などについて、研究を深める演習としたい。小説、文学、絵画、建築、デザイン、音楽、映画、など、さまざまな造形物は生活文化のなかに生かされながら、人びとの精神のありようと深い関係をもつ。具体的にひとつひとつの対象に接近し、それを通して、私たち自身の文化と社会の姿を吟味することを目的とする。多様なジャンルを研究する仲間が集まると、刺激が相乗作用を起こして楽しいと思う。互いに学びあえるようなゼミにしたいと思います。			

到達目標			
DP 5（表現力・発信力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）、を実現するため、次のような目標を設定する。卒業論文の執筆にむけて、自分の研究テーマを選び、その研究のための基礎的な準備を整えること。また、ディスカッションなどを通して、自分が気づかなかった問題の発見や、論理的転回の整備などを、みずから進められるようになる。			

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	夏休みの研究報告（１）	
	自分の研究テーマについて、発表できるように準備すること。	60
第2回	夏休みの研究報告（２）	
	自分の研究テーマについて、発表できるように準備すること。	60
第3回	夏休みの研究報告（３）	
	自分の研究テーマについて、発表できるように準備すること。次週からのテキストの予習	60

第4回	応用テキストを読む（1）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第5回	応用テキストを読む（2）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第6回	応用テキストを読む（3）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第7回	応用テキストを読む（4）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第8回	中間の整理。——文献を自分の研究テーマに生かす方法。	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第9回	応用テキストを読む（5）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60

第10回	応用テキストを読む（6）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第11回	応用テキストを読む（7）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第12回	応用テキストを読む（8）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第13回	卒論に向けた研究発表（1） 4年生の卒論発表への参加と講評。	
	卒論の報告と課題についての整理。	60
第14回	卒論に向けた研究発表（2） 4年生の卒論発表への参加と講評。	
	卒論の報告と課題についての整理。	60
第15回	来年度の卒論執筆に向けた総括。	
	卒論の報告と課題についての整理。	60

授業の方法

ゼミ形式

成績評価の方法

ゼミ報告（40％）、各種貢献度（20％）自分の課題への熱意（40％）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

研究テーマにかかわる学科専門科目の十分な修養が望ましい。

テキスト

なし。

参考書

適宜、指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ゼミ時間中、およびゼミの前後に受け付ける。

科目名	演習III j		
教員名	中江 桂子		
科目ナンバー	1151441206	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
幸福や生きがい、言い換えれば価値観や思想などの、人間の生を支え、人々によって生きられている文化の研究。社会意識や社会心理などに注目し、私たちが無意識に依存しながら生きている文化の基層とは何か、そこにあらわれる人間の自我のありさまや人間関係のかたちとは何か、生活者と生活の歴史のなかにある文化の問題をとらえたい。日本文化・生活文化・生活感覚・伝統と革新など、身近なテーマを深めたい。 いずれも、現代の私たち自身を相対化して考えることが重要であるので、このため、研究テーマを歴史的軸や空間的な軸を動かしてみることが大切である。文化の表面だけでなく、その背後にあるものも理解するよう努力したいと思います			
到達目標			
DP 5（表現力・発信力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）、を実現するため、次のような目標を設定する。卒業論文の執筆にむけて、自分の研究テーマを選び、その研究のための基礎的な準備を整えること。また、ディスカッションなどを通して、自分が気づかなかった問題の発見や、論理的転回の整備などを、みずから進められるようにする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ゼミのすすめかた。卒論の準備の仕方などについて		
	自分の研究テーマについて、発表できるように準備すること。	60	
第2回	研究テーマのみつけかた、しぼりかたについて		
	自分の研究テーマについて、発表できるように準備すること。	60	
第3回	互いのテーマについての意見交換。		
	自分の研究テーマについて、発表できるように準備すること。次週からのテキストの予習	60	

第4回	基礎テキストを読む（１）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第5回	基礎テキストを読む（２）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第6回	基礎テキストを読む（３）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第7回	基礎テキストを読む（４）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第8回	中間の整理。——文献を自分の研究テーマに生かす方法。	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第9回	基礎テキストを読む（５）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60

第10回	基礎テキストを読む（6）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第11回	基礎テキストを読む（7）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第12回	基礎テキストを読む（8）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第13回	卒論に向けた研究発表（1）	
	卒論のための準備段階の報告と課題についての整理。	60
第14回	卒論に向けた研究発表（2）	
	卒論のための準備段階の報告と課題についての整理。	60
第15回	卒論に向けた総括。	
	卒論のための準備段階の報告と課題についての整理。	60

授業の方法

ゼミ形式

成績評価の方法

ゼミ報告（40％）、各種貢献度（20％）自分の課題への熱意（40％）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

研究テーマにかかわる学科専門科目の十分な修養が望ましい。

テキスト

なし。

参考書

適宜、指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ゼミ時間中、およびゼミの前後に受け付ける。

科目名	演習Ⅳ j		
教員名	中江 桂子		
科目ナンバー	1151441207	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
幸福や生きがい、言い換えれば価値観や思想などの、人間の生を支え、人々によって生きられている文化の研究。社会意識や社会心理などに注目し、私たちが無意識に依存しながら生きている文化の基層とは何か、そこにあらわれる人間の自我のありさまや人間関係のかたちとは何か、生活者と生活の歴史のなかにある文化の問題をとらえたい。日本文化・生活文化・生活感覚・伝統と革新など、身近なテーマを深めたい。 いずれも、現代の私たち自身を相対化して考えることが重要であるので、このため、研究テーマを歴史的軸や空間的な軸を動かしてみることが大切である。文化の表面だけでなく、その背後にあるものも理解するよう努力したいと思います。			
到達目標			
DP 5（表現力・発信力）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）、を実現するため、次のような目標を設定する。卒業論文の執筆にむけて、自分の研究テーマを選び、その研究のための基礎的な準備を整えること。また、ディスカッションなどを通して、自分が気づかなかった問題の発見や、論理的転回の整備などを、みずから進められるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	夏休みの研究報告（1）		
	自分の研究テーマについて、発表できるように準備すること。	60	
第2回	夏休みの研究報告（2）		
	自分の研究テーマについて、発表できるように準備すること。	60	
第3回	夏休みの研究報告（3）		
	自分の研究テーマについて、発表できるように準備すること。次週からのテキストの予習	60	

第4回	卒論の進捗報告（1）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第5回	卒論の進捗報告（2）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第6回	卒論の進捗報告（3）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第7回	卒論の進捗報告（4）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第8回	中間の整理。——結論をまとめる方法	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第9回	文献・図表。・注などの確認（1）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60

第10回	文献・図表・注などの確認（2）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第11回	文章を推敲する方法（1）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第12回	文章を推敲する（2）	
	ゼミ討論の整理、および次週のテキストの予習。	60
第13回	卒論の研究発表（1）	
	卒論の報告と残された課題についての整理。	60
第14回	卒論の研究発表（2）	
	卒論の報告と残された課題についての整理。	60
第15回	卒論の研究発表（3）	
	卒論の報告と残された課題についての整理。	60

授業の方法

ゼミ形式

成績評価の方法

ゼミ報告（40％）、各種貢献度（20％）自分の課題への熱意（40％）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

自己の研究テーマにかかわる学科専門科目の十分な修養が望ましい。

テキスト

なし。

参考書

適宜、指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ゼミ時間中、およびゼミの前後に受け付ける。

科目名	演習 I k		
教員名	西 兼志		
科目ナンバー	1H51441204	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

私たちの日常生活で、スマホやPC、テレビ、雑誌、新聞といったメディアとの接触は欠かせないものとなっています。いまやメディアは自然環境と同じく重要な環境となっていると言えるでしょう。このゼミでは、このようなメディア環境を、そこで成立しているコミュニケーションやコンテンツの観点から考えていきます。なかでも、「そもそもなぜ、私たちはメディアと接触するのか？」ということに注目したいと思います。言い換えれば、「何が」伝えられているのかだけでなく、それが「どう」伝えられているのかに注目したメディア分析と言えるでしょう。そのため、言葉だけでなくイメージによるメディア・コミュニケーションや、シリアス・コンテンツからエンターテインメント・コンテンツまでが視野に入ってきます。具体的な対象を取り上げ、分析することによって、わたしたちの生きるメディア環境について考えていきます。

到達目標

DP3（他者との協働）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次のような到達目標を設定します：①具体的なコンテンツを理論的に分析できるようになること ②その分析をアカデミックな成果としてまとめ、広く発信できるようになること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	テキストの該当箇所を読み直すこと、および、コンテンツ分析を進めること。	60分
第2回	テキスト読解およびコンテンツ分析 1	
	テキストの該当箇所を読み直すこと、および、コンテンツ分析を進めること。	60分
第3回	テキスト読解およびコンテンツ分析 2	
	テキストの該当箇所を読み直すこと、および、コンテンツ分析を進めること。	60分

第4回	テキスト読解およびコンテンツ分析 3	
	テキストの該当箇所を読み直すこと、および、コンテンツ分析を進めること。	60分
第5回	テキスト読解およびコンテンツ分析 4	
	テキストの該当箇所を読み直すこと、および、コンテンツ分析を進めること。	60分
第6回	テキスト読解およびコンテンツ分析 5	
	テキストの該当箇所を読み直すこと、および、コンテンツ分析を進めること。	60分
第7回	テキスト読解およびコンテンツ分析 6	
	テキストの該当箇所を読み直すこと、および、コンテンツ分析を進めること。	60分
第8回	テキスト読解およびコンテンツ分析 7	
	テキストの該当箇所を読み直すこと、および、コンテンツ分析を進めること。	60分
第9回	テキスト読解およびコンテンツ分析 8	
	テキストの該当箇所を読み直すこと、および、コンテンツ分析を進めること。	60分

第10回	テキスト読解およびコンテンツ分析 9	
	テキストの該当箇所を読み直すこと、および、コンテンツ分析を進めること。	60分
第11回	テキスト読解およびコンテンツ分析 1 0	
	テキストの該当箇所を読み直すこと、および、コンテンツ分析を進めること。	60分
第12回	テキスト読解およびコンテンツ分析 1 1	
	テキストの該当箇所を読み直すこと、および、コンテンツ分析を進めること。	60分
第13回	テキスト読解およびコンテンツ分析 1 2	
	テキストの該当箇所を読み直すこと、および、コンテンツ分析を進めること。	60分
第14回	テキスト読解およびコンテンツ分析 1 3	
	テキストの該当箇所を読み直すこと、および、コンテンツ分析を進めること。	60分
第15回	まとめ	
	テキストの該当箇所を読み直すこと、および、コンテンツ分析を進めること。	60分

授業の方法

担当者による発表と、それに基づいてのディスカッションを中心に進めて行きます。
3年生には、テキストについての発表を行い、メディア現象を理解するために必要な概念や言葉を身につけられるようにしてもらいます。
4年生には、関心のあるテーマについて、具体的なコンテンツを取り上げながら、その成果を発表してもらいます。
(なお、授業内容は、展開に応じて変更されることがあります。)

成績評価の方法

期末レポート＝50%、授業への参加（≠出席）＝50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ・テキストで取り上げられている理論を正確に理解できているか。
- ・具体的なコンテンツを理論的に分析できているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。

テキスト

石田英敬『大人のためのメディア論講義』ちくま新書、2016他。

参考書

西兼志『＜顔＞のメディア論：メディアの相貌』法政大学出版局、2016.

その他、授業中に随時指示していきます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	演習II k		
教員名	西 兼志		
科目ナンバー	1H51441205	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

私たちの日常生活で、スマホやPC、テレビ、雑誌、新聞といったメディアとの接触は欠かせないものとなっています。いまやメディアは自然環境と同じく重要な環境となっていると言えるでしょう。このゼミでは、このようなメディア環境を、そこで成立しているコミュニケーションやコンテンツの観点から考えていきます。なかでも、「そもそもなぜ、私たちはメディアと接触するのか？」ということに注目したいと思います。言い換えれば、「何が」伝えられているのかだけでなく、それが「どう」伝えられているのかに注目したメディア分析と言えるでしょう。そのため、言葉だけでなくイメージによるメディア・コミュニケーションや、シリアス・コンテンツからエンターテインメント・コンテンツまでが視野に入ってきます。具体的な対象を取り上げ、分析することによって、わたしたちの生きるメディア環境について考えていきます。

到達目標

DP3（他者との協働）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次のような到達目標を設定します：①具体的なコンテンツを理論的に分析できるようになること ②その分析をアカデミックな成果としてまとめ、広く発信できるようになること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第2回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 1	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第3回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 2	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分

第4回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 3	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第5回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 4	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第6回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 5	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第7回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 6	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第8回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 7	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第9回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 8	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分

第10回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 9	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第11回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 1 0	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第12回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 1 1	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第13回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 1 2	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第14回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 1 3	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第15回	まとめ	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分

授業の方法

担当者による発表と、それに基づいてのディスカッションを中心に進めて行きます。
3年生には、関心のあるテーマについて、具体的なコンテンツを取り上げながら、その分析についての発表をしてもらいます。
4年生には、分析を論文としてまとめてもらいます。
(なお、授業内容は、展開に応じて変更されることがあります。)

成績評価の方法

期末レポート＝50%、授業への参加（≠出席）＝50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ・具体的なコンテンツを理論的に分析できているか。
- ・その分析の成果をアカデミックな論文としてまとめられているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。

テキスト

随時、授業中に配布していきます。

参考書

西兼志『＜顔＞のメディア論：メディアの相貌』法政大学出版局、2016.

その他、授業中に随時指示していきます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	演習III k		
教員名	西 兼志		
科目ナンバー	1151441206	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

私たちの日常生活で、スマホやPC、テレビ、雑誌、新聞といったメディアとの接触は欠かせないものとなっています。いまやメディアは自然環境と同じく重要な環境となっていると言えるでしょう。このゼミでは、このようなメディア環境を、そこで成立しているコミュニケーションやコンテンツの観点から考えていきます。なかでも、「そもそもなぜ、私たちはメディアと接触するのか？」ということに注目したいと思います。言い換えれば、「何が」伝えられているのかだけでなく、それが「どう」伝えられているのかに注目したメディア分析と言えるでしょう。そのため、言葉だけでなくイメージによるメディア・コミュニケーションや、シリアス・コンテンツからエンターテインメント・コンテンツまでが視野に入ってきます。具体的な対象を取り上げ、分析することによって、わたしたちの生きるメディア環境について考えていきます。

到達目標

DP3（他者との協働）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次のような到達目標を設定します：①具体的なコンテンツを理論的に分析できるようになること ②その分析をアカデミックな成果としてまとめ、広く発信できるようになること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第2回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 1	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第3回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 2	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分

第4回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 3	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第5回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 4	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第6回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 5	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第7回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 6	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第8回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 7	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第9回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 8	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分

第10回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 9	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第11回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 1 0	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第12回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 1 1	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第13回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 1 2	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第14回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 1 3	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第15回	まとめ	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分

授業の方法

担当者による発表と、それに基づいてのディスカッションを中心に進めて行きます。
3年生には、関心のあるテーマについて、具体的なコンテンツを取り上げながら、その分析についての発表をしてもらいます。
4年生には、分析を論文としてまとめてもらいます。
(なお、授業内容は、展開に応じて変更されることがあります。)

成績評価の方法

期末レポート＝50%、授業への参加（≠出席）＝50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ・具体的なコンテンツを理論的に分析できているか。
- ・その分析の成果をアカデミックな論文としてまとめられているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。

テキスト

随時、授業中に配布していきます。

参考書

西兼志『＜顔＞のメディア論：メディアの相貌』法政大学出版局、2016.

その他、授業中に随時指示していきます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	演習IV k		
教員名	西 兼志		
科目ナンバー	1151441207	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

私たちの日常生活で、スマホやPC、テレビ、雑誌、新聞といったメディアとの接触は欠かせないものとなっています。いまやメディアは自然環境と同じく重要な環境となっていると言えるでしょう。このゼミでは、このようなメディア環境を、そこで成立しているコミュニケーションやコンテンツの観点から考えていきます。なかでも、「そもそもなぜ、私たちはメディアと接触するのか？」ということに注目したいと思います。言い換えれば、「何が」伝えられているのかだけでなく、それが「どう」伝えられているのかに注目したメディア分析と言えるでしょう。そのため、言葉だけでなくイメージによるメディア・コミュニケーションや、シリアス・コンテンツからエンターテインメント・コンテンツまでが視野に入ってきます。具体的な対象を取り上げ、分析することによって、わたしたちの生きるメディア環境について考えていきます。

到達目標

DP3（他者との協働）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を実現するため、次のような到達目標を設定します：①具体的なコンテンツを理論的に分析できるようになること ②その分析をアカデミックな成果としてまとめ、広く発信できるようになること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第2回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 1	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第3回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 2	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分

第4回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 3	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第5回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 4	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第6回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 5	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第7回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 6	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第8回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 7	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第9回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 8	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分

第10回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 9	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第11回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 1 0	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第12回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 1 1	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第13回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 1 2	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第14回	コンテンツ分析と論文執筆の実践 1 3	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分
第15回	まとめ	
	コンテンツ分析および論文の執筆を進めること。	60分

授業の方法

担当者による発表と、それに基づいてのディスカッションを中心に進めて行きます。
3年生には、関心のあるテーマについて、具体的なコンテンツを取り上げながら、その分析についての発表をしてもらいます。
4年生には、分析を論文としてまとめてもらいます。
(なお、授業内容は、展開に応じて変更されることがあります。)

成績評価の方法

期末レポート＝50%、授業への参加（≠出席）＝50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ・具体的なコンテンツを理論的に分析できているか。
- ・その分析の成果をアカデミックな論文としてまとめられているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。

テキスト

随時、授業中に配布していきます。

参考書

西兼志『＜顔＞のメディア論：メディアの相貌』法政大学出版局、2016.

その他、授業中に随時指示していきます。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	演習ⅠⅠ		
教員名	渡邊 大輔		
科目ナンバー	1H51441204	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
このゼミでは、家族やコミュニティをライフコースという視点を通して分析することで、近代社会の特徴やその変化のプロセスを考え、理解することを目指す。例えば、なぜ子育てについての意見の対立が世代間で起きるのか、それは「高齢者」と「若者」の対立なのか、ある経験をした／せざるをえなかった／できなかった集団の対立なのかと、問題を歴史的視点と現在の視点の双方を往復させて考え、この視点を踏まえて、各自の問題関心に基づく研究テーマを設定し、社会調査を行った上でプレ卒論の執筆を行う。			
到達目標			
DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）の達成を目指す。具体的には、家族社会学やコミュニティ研究、ライフコース論の基本的理解を得るとともに、社会調査を用いた卒業論文のテーマを明確にする。その上で、設定したテーマを考察するための先行研究の整理およびブレ調査を行い、卒業論文の基盤となるブレ卒論を執筆する能力を得る。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション		
	【予習】個人研究テーマ発表の準備を行う		90
第2回	基本文献の輪読1		
	【予習】テキスト第1章を読む 【復習】テキスト第1章を再読する		90
第3回	基本文献の輪読2		
	【予習】テキスト第2章を読む 【復習】テキスト第2章を再読する		90

第4回	基本文献の輪読3	
	【予習】テキスト第3章を読む 【復習】テキスト第3章を再読する	90
第5回	基本文献の輪読4	
	【予習】テキスト第4章を読む 【復習】テキスト第4章を再読する	90
第6回	基本文献の輪読5	
	【予習】テキスト第5章、終章を読む 【復習】テキスト第5章、終章を再読する	90
第7回	個人研究テーマの発表	
	【予習】個人研究テーマの先行研究を渉猟し、整理する	90
第8回	個人研究テーマの発表	
	【予習】個人研究テーマの先行研究を渉猟し、整理する 【復習】議論とコメントを踏まえ、個人研究テーマを練り直す	120
第9回	基本文献の輪読6	
	【予習】ゼミ生の関心に応じて指定したテキストを読む 【復習】指定したテキストを再読する	120

第10回	基本文献の輪読7	
	【予習】ゼミ生の関心に応じて指定したテキストを読む 【復習】指定したテキストを再読する	90
第11回	基本文献の輪読8	
	【予習】ゼミ生の関心に応じて指定したテキストを読む 【復習】指定したテキストを再読する	90
第12回	基本文献の輪読9	
	【予習】ゼミ生の関心に応じて指定したテキストを読む 【復習】指定したテキストを再読する	90
第13回	個人研究テーマの発表	
	【予習】夏休みの調査計画を構想し、発表準備を行う	120
第14回	個人研究テーマの発表	
	【予習】夏休みの調査計画を構想し、発表準備を行う	120
第15回	個人研究テーマの発表	
	【予習】夏休みの調査計画を構想し、発表準備を行う 【復習】議論とコメントを踏まえ、夏休みの調査計画を練り直す	120

授業の方法

対話型の演習形式で行う。卒業論文執筆のための研究は、個人作業だけでなく、互いに議論しあうなかでおおくの発想や知見をえることができるという意味で共同作業でもある。学生同士が相互に対話し、学びあうことを重視するため、積極的な議論への参加を求める。

成績評価の方法

平常点（40%）、発表（20%）、議論への積極的な参加（20%）、および^レ卒業論文執筆のための研究報告と^レ卒業論文（20%）を総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「家族社会学」「ライフコース論」「コミュニティの社会学」「質的調査II」などを事前に履修するか、並行して履修することが望ましい。

テキスト

筒井淳也『仕事と家族』中央公論新社。（各自購入すること）
その他のテキストは、コピーを配布する。

参考書

松田茂樹, 2013, 『少子化論』勁草書房.
ホックシールド, 2012, 『タイムバインド』明石書店.
大和礼子, 2008, 『生涯ケアラーの誕生』学文社.
嶋崎尚子, 2008, 『ライフコースの社会学』学文社.
藤村正之編, 2011, 『いのちとライフコースの社会学』弘文堂.
デランティ, 2006, 『コミュニティ』NTT出版.
辻竜平・佐藤嘉倫編, 2013, 『ソーシャルキャピタルと格差社会』東京大学出版会.
その他多数。講義内で適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習ⅠⅠⅠ		
教員名	渡邊 大輔		
科目ナンバー	1H51441205	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
このゼミでは、家族をライフコースという視点を通して分析することで、近代社会の特徴やその変化のプロセスを考え、理解することを目指す。具体的には、家族形成（結婚・出産）や離婚、性別役割分業、高齢者介護、少子高齢化、晩婚化、親密性とその変化、夫婦別姓など各自の問題関心に基づく研究テーマを設定し、社会調査を行った上でプレ卒論（3年次）、卒業論文（4年次）の執筆を行う。			
到達目標			
DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）の達成を目指す。具体的には、家族社会学やライフコース論の基本的理解を得るとともに、社会調査を用いた卒業論文のテーマを明確にする。その上で、3年次は設定したテーマを考察するための先行研究の整理およびプレ調査を行い、卒業論文の基盤となるプレ卒論を執筆する能力を得る。4年次は卒業論文を執筆する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	個人研究テーマの発表		
	【予習】夏休みの調査結果をまとめる		120
第2回	個人研究テーマの発表		
	【予習】夏休みの調査結果をまとめる 【復習】議論とコメントを踏まえ、個人研究テーマを練り直す		120
第3回	基本文献の輪読1		
	【予習】ゼミ生の関心に応じて指定したテキストを読む 【復習】指定したテキストを再読する		90

第4回	基本文献の輪読2	
	【予習】ゼミ生の関心に応じて指定したテキストを読む 【復習】指定したテキストを再読する	90
第5回	基本文献の輪読3	
	【予習】ゼミ生の関心に応じて指定したテキストを読む 【復習】指定したテキストを再読する	90
第6回	基本文献の輪読4	
	【予習】ゼミ生の関心に応じて指定したテキストを読む 【復習】指定したテキストを再読する	90
第7回	個人研究テーマの発表	
	【予習】個人研究の中間報告を行う	120
第8回	個人研究テーマの発表	
	【予習】個人研究の中間報告を行う 【復習】議論とコメントを踏まえ、個人研究テーマを練り直す	120
第9回	基本文献の輪読5	
	【予習】ゼミ生の関心に応じて指定したテキストを読む 【復習】指定したテキストを再読する	90

第10回	基本文献の輪読6	
	【予習】ゼミ生の関心に応じて指定したテキストを読む 【復習】指定したテキストを再読する	90
第11回	基本文献の輪読7	
	【予習】ゼミ生の関心に応じて指定したテキストを読む 【復習】指定したテキストを再読する	90
第12回	基本文献の輪読8	
	【予習】ゼミ生の関心に応じて指定したテキストを読む 【復習】指定したテキストを再読する	90
第13回	個人研究テーマの発表	
	【予習】ブレ卒論の執筆状況の報告、および、春休みの調査計画を構想し、発表準備を行う	120
第14回	個人研究テーマの発表	
	【予習】ブレ卒論の執筆状況の報告、および、春休みの調査計画を構想し、発表準備を行う	120
第15回	個人研究テーマの発表	
	【予習】ブレ卒論の執筆状況の報告、および、春休みの調査計画を構想し、発表準備を行う 【復習】議論とコメントを踏まえ、ブレ卒論の構成と春休みの調査計画を練り直す	120

授業の方法

対話型の演習形式で行う。卒業論文執筆のための研究は、個人作業だけでなく、互いに議論しあうなかでおおくの発想や知見をえることができるという意味で共同作業でもある。学生同士が相互に対話し、学びあうことを重視するため、積極的な議論への参加を求める。

成績評価の方法

平常点（40%）、発表（20%）、議論への積極的な参加（20%）、および^レ卒業論文執筆のための研究報告と^レ卒業論文（20%）を総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「家族社会学」「ライフコース論」「質的調査II」などを事前に履修するか、並行して履修することが望ましい。

テキスト

筒井淳也『仕事と家族』中央公論新社。（各自購入すること）
その他のテキストは、コピーを配布する。

参考書

松田茂樹, 2013, 『少子化論』勁草書房.
ホックシールド, 2012, 『タイムバインド』明石書店.
大和礼子, 2008, 『生涯ケアラーの誕生』学文社.
嶋崎尚子, 2008, 『ライフコースの社会学』学文社.
藤村正之編, 2011, 『いのちとライフコースの社会学』弘文堂.
デランティ, 2006, 『コミュニティ』NTT出版.
辻竜平・佐藤嘉倫編, 2013, 『ソーシャルキャピタルと格差社会』東京大学出版会.
その他多数。講義内で適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	演習III I		
教員名	渡邊 大輔		
科目ナンバー	1151441206	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

このゼミでは、家族やコミュニティをライフコースという視点を通して分析することで、近代社会の特徴やその変化のプロセスを考え、理解することを目指す。例えば、なぜ子育てについての意見の対立が世代間で起きるのか、それは「高齢者」と「若者」の対立なのか、ある経験をした／せざるをえなかった／できなかった集団の対立なのかと、問題を歴史的視点と現在の視点の双方を往復させて考え、この視点を踏まえて、各自の問題関心に基づく研究テーマを設定し、社会調査を行った上でプレ卒論の執筆を行う。

到達目標

DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）の達成を目指す。具体的には、家族社会学やコミュニティ研究、ライフコース論の基本的理解を得るとともに、社会調査を用いた卒業論文のテーマを明確にする。その上で、設定したテーマを考察するための先行研究の整理および調査を行い、卒業論文を執筆する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	個人研究発表の準備を行う	120
第2回	卒業論文の構想報告（1）	
	個人研究発表の準備を行い、卒論調査を実施する	120
第3回	卒業論文の構想報告（2）	
	個人研究発表の準備を行い、卒論調査を実施する	120

第4回	卒業論文の構想報告（3）	
	個人研究発表の準備を行い、卒論調査を実施する	120
第5回	卒業論文の構想報告（4）	
	個人研究発表の準備を行い、卒論調査を実施する	120
第6回	卒業論文の構想報告（5）	
	個人研究発表の準備を行い、卒論調査を実施する	120
第7回	卒業論文の構想報告（6）	
	個人研究発表の準備を行い、卒論調査を実施する	120
第8回	卒業論文調査の報告（1）	
	個人研究発表の準備を行い、卒論調査を実施する	120
第9回	卒業論文調査の報告（2）	
	個人研究発表の準備を行い、卒論調査を実施する	120

第10回	卒業論文調査の報告（3）	
	個人研究発表の準備を行い、卒論調査を実施する	120
第11回	卒業論文調査の報告（4）	
	個人研究発表の準備を行い、卒論調査を実施する	120
第12回	卒業論文調査の報告（5）	
	個人研究発表の準備を行い、卒論調査を実施する	120
第13回	卒業論文の構想再報告（1）	
	卒業論文を執筆する	120
第14回	卒業論文の構想再報告（2）	
	卒業論文を執筆する	120
第15回	卒業論文の構想再報告（3）	
	卒業論文を執筆する	120

授業の方法

対話型の演習形式で行う。卒業論文執筆のための研究は、個人作業だけでなく、互いに議論しあうなかでおおくの発想や知見をえることができるという意味で共同作業でもある。学生同士が相互に対話し、学びあうことを重視するため、積極的な議論への参加を求める。

成績評価の方法

平常点（40%）、発表（20%）、議論への積極的な参加（20%）、および卒業論文執筆のための研究報告（20%）を総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「家族社会学」「ライフコース論」「コミュニティの社会学」「質的調査II」などを事前に履修するか、並行して履修することが望ましい。

テキスト

必要に応じて指示する。

参考書

久米郁夫(2013)『原因を推論する』有斐閣.
キングラ(2008)『社会科学のリサーチデザイン』勁草書房.
前田拓也ほか編(2015)『最強の社会調査入門』.
岸政彦ほか編(2015)『質的社会調査の方法』有斐閣.
佐藤郁也(2002)『フィールドワークの技法』新曜社.
保城広至(2015)『歴史から理論を創造する方法』勁草書房.
その他、適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	演習ⅣⅠ		
教員名	渡邊 大輔		
科目ナンバー	1151441207	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
このゼミでは、家族やコミュニティをライフコースという視点を通して分析することで、近代社会の特徴やその変化のプロセスを考え、理解することを目指す。例えば、なぜ子育てについての意見の対立が世代間で起きるのか、それは「高齢者」と「若者」の対立なのか、ある経験をした／せざるをえなかった／できなかった集団の対立なのかと、問題を歴史的視点と現在の視点の双方を往復させて考え、この視点を踏まえて、各自の問題関心に基づく研究テーマを設定し、社会調査を行った上でプレ卒論の執筆を行う。			
到達目標			
DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）の達成を目指す。具体的には、家族社会学やコミュニティ研究、ライフコース論の基本的理解を得るとともに、社会調査を用いた卒業論文のテーマを明確にする。その上で、設定したテーマを考察するための先行研究の整理および調査を行い、卒業論文を執筆する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション		
	個人研究発表の準備を行う		120
第2回	卒業論文調査の報告（1）		
	個人研究発表の準備を行い、卒論調査を実施し、卒業論文を執筆する		120
第3回	卒業論文調査の報告（2）		
	個人研究発表の準備を行い、卒論調査を実施し、卒業論文を執筆する		120

第4回	卒業論文調査の報告（3）	
	個人研究発表の準備を行い、卒論調査を実施し、卒業論文を執筆する	120
第5回	卒業論文調査の報告（4）	
	個人研究発表の準備を行い、卒論調査を実施し、卒業論文を執筆する	120
第6回	卒業論文調査の報告（5）	
	個人研究発表の準備を行い、卒論調査を実施し、卒業論文を執筆する	120
第7回	卒業論文調査の報告（6）	
	個人研究発表の準備を行い、卒論調査を実施し、卒業論文を執筆する	120
第8回	卒業論文最終ドラフトの提出	
	個人研究発表の準備を行い、卒論調査を実施する	120
第9回	卒業論文ドラフトの修正（1）	
	個人研究発表の準備を行い、コメントを踏まえ、卒業論文を再執筆する	120

第10回	卒業論文ドラフトの修正（2）	
	個人研究発表の準備を行い、コメントを踏まえ、卒業論文を再執筆する	120
第11回	卒業論文ドラフトの修正（3）	
	個人研究発表の準備を行い、コメントを踏まえ、卒業論文を再執筆する	120
第12回	卒業論文ドラフトの修正（4）	
	個人研究発表の準備を行い、コメントを踏まえ、卒業論文を再執筆する	120
第13回	卒業論文の報告（1）	
	個人研究発表の準備を行う	120
第14回	卒業論文の報告（2）	
	個人研究発表の準備を行う	120
第15回	卒業論文の報告（3）	
	個人研究発表の準備を行う	120

授業の方法

対話型の演習形式で行う。卒業論文執筆のための研究は、個人作業だけでなく、互いに議論しあうなかでおおくの発想や知見をえることができるという意味で共同作業でもある。学生同士が相互に対話し、学びあうことを重視するため、積極的な議論への参加を求める。

成績評価の方法

平常点（40%）、発表（20%）、議論への積極的な参加（20%）、および卒業論文執筆のための研究報告（20%）を総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「家族社会学」「ライフコース論」「コミュニティの社会学」「質的調査II」などを事前に履修するか、並行して履修することが望ましい。

テキスト

必要に応じて指示する。

参考書

久米郁夫(2013)『原因を推論する』有斐閣.
キングら(2008)『社会科学のリサーチデザイン』勁草書房.
前田拓也ほか編(2015)『最強の社会調査入門』.
岸政彦ほか編(2015)『質的社会調査の方法』有斐閣.
佐藤郁也(2002)『フィールドワークの技法』新曜社.
保城広至(2015)『歴史から理論を創造する方法』勁草書房.
その他、適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	家族社会学		
教員名	渡邊 大輔		
科目ナンバー	1251445101	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
本講義のテーマは、家族をめぐる過去・現在・未来における諸問題を理解することにある。 ごく自然な存在として理解されている、両親と子どもを中心とした家族は、戦後の日本社会において確立した制度であり、決して自明なものでも古来からの伝統でもない。本講義では、私たちが自然に感じる「家族」がいかんにして形作られ、自然化していったかを産業化の過程を踏まえて議論し、またその家族が現在どのような危機を迎えているかを議論する。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）の達成のため、家族社会学における「家族」のとらえ方やその社会的機能について理解できるようになるとともに、現在の家族を取り巻く諸問題を把握し、その実践的な対応策を構想することができるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	【家族とは何か 1～3】 イントロダクション ～なぜ家族を考えるのか？		
	【復習】講義で指定した課題の実施（家族へのヒヤリング）	90	
第2回	ファミリー・アイデンティティと家族類型 ～家族を主観的に捉える		
	【予習】自身と家族の家族観を把握する 【復習】講義での知見を踏まえ、家族と家族イメージについて議論する	90	
第3回	家族類型 ～核家族、直系家族、拡大家族、複合家族、夫婦家族		
	【復習】身近な事例から、講義で紹介した類型の事例を探す	90	

第4回	【近代家族の成立 4～6】 近代家族の成立1 ～ロマンティッククラブという考え方	
	【予習】参考文献2第1章前半を読む 【復習】参考文献2第1章前半を再読する	60
第5回	近代家族の成立2 ～主婦の登場と性別役割分業の明確化、母性神話の構築	
	【予習】参考文献2第1章後半を読む 【復習】参考文献2第1章後半を再読する	60
第6回	近代家族の成立3 ～産業革命と産業構造の変化	
	【予習】参考文献3第1部を読む 【復習】参考文献3第1部を再読する	90
第7回	【日本における近代家族の成立と変容 7～10】 「家」制度の近代における読み替え ～長子相続と血縁主義の結合	
	【予習】テキスト第3章を読む 【復習】テキスト第3章を再読する	60
第8回	戦後における近代家族の構築 ～男性稼ぎ手-専業主婦モデルと日本的経営	
	【予習】テキスト第4章を読む 【復習】テキスト第4章を再読する	60
第9回	近代家族の大衆化 ～マイホームと家族イメージの浸透と変容	
	【予習】テキスト第5章を読む 【復習】テキスト第5章を再読する	60

第10回	近代家族の揺らぎとライフコースの変化 ～少子化、晩婚化、外部サービスの普及	
	【予習】テキスト第6章を読む 【復習】テキスト第6章を再読する	60
第11回	【現代の家族をめぐる諸問題 11～15】 家族形成の変容1 ～晩婚化と婚活現象、単身世帯の増加)	
	【予習】『厚生労働白書』を読む 【復習】資料を再読する	90
第12回	家族形成の変容2 ～少子化対策、育児支援NPOによる外部サポート	
	【予習】『少子化社会対策白書』を読む 【復習】資料を再読する	90
第13回	家庭内暴力と介入の難しさ ～DV、児童虐待、高齢者虐待	
	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	60
第14回	グローバル化と家族 ～移動労働と国境を越える家族のつながり	
	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	60
第15回	まとめ ～家族は選べるのか	
	【復習】すべてのハンドアウトを再読する	90

授業の方法

講義形式で行う。家族は私たちにとってもっとも身近な領域であり、相対化が難しい領域でもある。そこで、映像資料の鑑賞なども行う。また、一部の課題では自身の家族や身近な人への聞き取りも行う。

成績評価の方法

小レポート（45%）とテークホーム試験（45%）、および平常点（10%）によって行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「ライフコース論」（2年次以降に履修可能）を履修するとより理解が深まる。

テキスト

山田昌弘『迷走する家族-戦後家族モデルの形成と解体』有斐閣、2004年。

参考書

以下のものを指定する。この他のものは適宜講義中に紹介する。

1. 岩間暁子・大和礼子・田間泰子『問いからはじめる家族社会学-多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣、2015年。
2. 千田有紀『日本型近代家族-どこから来て、どこへ行くのか』勁草書房、2011年。
3. 上野千鶴子『家父長制と資本制』岩波現代文庫、2009年（旧版1990年）。
4. 野沢雅彦・宮本みち子『新版 データで読む家族問題』日本放送出版協会、2008年。
5. 野沢雅彦『データで読む平成期の家族問題-四半世紀で昭和とどう変わったか』朝日新聞出版、2014年。
6. 野々山久也編『論点ハンドブック 家族社会学』世界思想社、2009年。
7. 筒井淳也『仕事と家族-日本はなぜ働きづらく、産みにくいのか』中央公論新社、2015年。

上記に加えて、関連する白書（いずれも下記WEBページから参照可能）、および、国立社会保障・人口問題研究所（<http://www.ipss.go.jp/>）にて公表されている各種データや報告書を参考にすることが望ましい。

厚生労働省『厚生労働白書』：http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/

内閣府共生社会政策統括官『少子化社会対策白書』：<http://www8.cao.go.jp/shoushi/whitepaper/index-w.html>

内閣府共生社会政策統括官『高齢社会白書』：<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	都市社会学		
教員名	澁谷 智子		
科目ナンバー	1251445102	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

産業革命以降、世界の人口は大幅に増え、都市に住む人も増加した。都市では、その社会状況に応じて、住宅、産業施設、交通、盛り場などが作られ、限られた空間にさまざまに異なる人々が共存する状況が生み出された。この授業では、主に近代以降の都市に注目しながら、都市の成り立ちとその変容を学び、社会構造の変化の中における“場所”と人のつながりの意味を考える。

到達目標

DP1「教養の修得」、DP7「問題発見能力および多面的な分析能力」を実現するため、以下の2点を到達目標とする。
 ①今、私たちが目にしている都市が、どのように形づくられ、現在の姿になってきたのか、どう変わろうとしているのかについて、意識する。
 ②情報化が進む今日の社会において、“場所”の魅力やその意味が、どのように演出され、消費されるのか、自覚的に考えられるようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	配布資料を読み、理解する。	60
第2回	都市とは？	
	配布資料を読み、理解する。	60
第3回	近代のまなざしと都市	
	配布資料を読み、理解する。	60

第4回	シカゴ学派と都市社会学	
	配布資料を読み、理解する。	60
第5回	郊外の開発	
	配布資料を読み、理解する。	60
第6回	都市のドラマトゥルギー	
	配布資料を読み、理解する。	60
第7回	日本の高度経済成長期と都市	
	配布資料を読み、理解する。	60
第8回	「東京」のイメージ	
	配布資料を読み、理解する。	60
第9回	グローバル化と都市の変容	
	配布資料を読み、理解する。	60

第10回	ジェントリフィケーション	
	文献を読み、自分の意見をまとめる。	60
第11回	ゲーテッド・コミュニティ	
	文献を読み、自分の意見をまとめる。	60
第12回	コンパクトシティ	
	文献を読み、自分の意見をまとめる。	60
第13回	都市と記憶、今日のまちづくり	
	文献を読み、自分の意見をまとめる。	60
第14回	到達度確認テスト	
	これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。	120
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答	
	到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、さらなる理解に努める。	60

授業の方法

毎回プリントを配布し、必要に応じて、映像やインターネット等を使いながら、講義を行なう。授業の中で、課題を行なうこともある。

成績評価の方法

到達度確認テスト（60％）と、平常点（授業中の課題など）（40％）で、総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

中筋直哉・五十嵐泰正編著，2013，『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房。
町村敬志，2007，「空間と場所」長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志著『社会学』有斐閣，201-239.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会心理学		
教員名	小林 盾		
科目ナンバー	1251445103	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

社会と心理がどのように関係しているのかを勉強していきます。そのために、さまざまな身近なトピックをとりあげ、メカニズムを分析します。授業は、グループによるプレゼンテーションを中心に進めます。そのため、1人につき2～3回プレゼンテーションすることになります。

到達目標

- DP2（課題の発見と解決），6（文化現象の総合的理解），7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、
- (1) 社会心理学にかんする重要な考え方を身につける。
 - (2) 現代社会のさまざまなトピックについて、メカニズムを説明できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第2回	トピック 1	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第3回	トピック 2	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第4回	トピック 3	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第5回	トピック 4	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第6回	トピック 5	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第7回	トピック 6	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第8回	トピック 7	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第9回	トピック 8	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

第10回	トピック 9	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第11回	トピック 10	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第12回	トピック 11	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第13回	トピック 12	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第14回	トピック 13	
	担当教員が初回授業時に説明します	60
第15回	授業のまとめ	
	担当教員が初回授業時に説明します	60

授業の方法

グループで作業し発表する

成績評価の方法

プレゼンテーション・授業中の発言＝20% 提出課題・テスト＝80%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし

テキスト

小林盾『ライフスタイルの社会学』東京大学出版会

参考書

とくになし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	歴史と社会		
教員名	今田 絵里香		
科目ナンバー	1251445104	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
本講義の目的は、誰もが経験しているジェンダー、家族、教育を切り口にして、それらを取り巻く社会全体の歴史をとらえなおすことである。わたしたちは、ジェンダー、家族、教育にかんして、固定的なイメージを抱きやすい。たとえば、「男は仕事、女は家事・育児・介護をするべきである」、「教育はもっぱら学校で行われるべきである」、「家族はお互いに愛情を持って接するべきである」、「子どもはかわいがるべきである」などというイメージを持ちやすい。このようなイメージは、わたしたちにとっては、もはや「常識」となっているきらいもある。しかしながら、このようなイメージのほとんどは近代以降に生まれたものである。つまり、「常識」でも、「当たり前のこと」でもないのである。 本講義では、ジェンダー、家族、教育の歴史を学びながら、これらのステレオタイプ化されたイメージを疑っていくことにしたい。そして、わたしたちの「常識」を疑っていくことにしたい。その上で、ジェンダー、家族、教育とは何か、という問いに、取り組んでいくことにしたい。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次のような到達目標を設定する。 社会を歴史的な視点からとらえられるようになる。 ジェンダー、家族、教育という身近なものの歴史を社会全体の歴史と関連させて考えることができるようになる。 社会に関する固定的なイメージにとらわれず、より広い視点からそれらを把握できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	「ジェンダー」		
	【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90	
第2回	性別役割分業① 「主婦」の誕生		
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90	
第3回	性別役割分業② 日本における「主婦」とサラリーマンの誕生		
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90	

第4回	性別役割分業③ 現代日本社会の性別役割分業	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第5回	「近代家族」の誕生	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第6回	「子ども」の誕生	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第7回	教育とは何か	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第8回	「学校」とは何か①	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第9回	「学校」とは何か②	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90

第10回	日本の社会と学校の歴史① 江戸後期の社会と子どもの教育	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第11回	日本の社会と学校の歴史② 明治以降の社会と子どもの教育	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第12回	「教育する」家族の誕生	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第13回	良妻賢母主義教育とは何か	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第14回	「何を教えるか」をめぐる歴史① 経験主義	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第15回	「何を教えるか」をめぐる歴史② 学問中心主義	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90

授業の方法

講義形式。

成績評価の方法

提出物（論文・レポートなど。60%）、平常点（40%）によって、総合的に評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

参考書

とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	ジェンダーの社会学		
教員名	坪田 美貴		
科目ナンバー	1251445105	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
この授業では社会のなかにある「ジェンダー」というものについて、それはどういう概念であるのか、どういう事柄として表れているのか、そして、それによってどのような人と人との関係性ができているのかについて理解を深めていきます。 ジェンダー関係は私たち自身のアイデンティティである場合も多く、社会のなかで起きている事柄として客観的に捉えにくく、気が付かないということもあります。 この講義を通じて、ジェンダーがどういうものであり、社会でどのような作用を持っているのか、私たちがどのように影響を受けているのか、考えていきたいと思います。			
到達目標			
自分なりの言葉でジェンダーについて説明できるようになる。 日本内外で起きている事柄について、ジェンダーの視点で読み解くことができるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション： フェミニズムからジェンダーへ		
	配布プリントの見直し。	60	
第2回	ジェンダーと近代国家		
	配布プリントを読む。 配布プリントの見直し。	60	
第3回	家族関係		
	配布プリントを読む。 配布プリントの見直し。	60	

第4回	教育	
	配布プリントを読む。 配布プリントの見直し。	60
第5回	言語と映像	
	配布プリントを読む。 配布プリントの見直し。	60
第6回	セクシュアリティ・パフォーマンス・アイデンティティ①	
	配布プリントを読む。 配布プリントの見直し。	60
第7回	セクシュアリティ・パフォーマンス・アイデンティティ②	
	配布プリントを読む。 配布プリントの見直し。	60
第8回	法	
	配布プリントを読む。 配布プリントの見直し。	60
第9回	戦争・軍隊	
	配布プリントを読む。 配布プリントの見直し。	60

第10回	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	
	配布プリントを読む。 配布プリントの見直し。	60
第11回	性と生殖	
	配布プリントを読む。 配布プリントの見直し。	60
第12回	開発とジェンダー	
	配布プリントを読む。 配布プリントの見直し。	60
第13回	国際移動①	
	配布プリントを読む。 配布プリントの見直し。	60
第14回	国際移動②	
	配布プリントを読む。 配布プリントの見直し。	60
第15回	ジェンダー・民族・宗教	
	配布プリントを読む。 配布プリントの見直し。	60

授業の方法

講義およびグループワーク。

成績評価の方法

提出物（レスポンスペーパーとレポート）の総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に指定なし。

テキスト

特に指定なし、

参考書

千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013.

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	労働社会学		
教員名	内藤 準		
科目ナンバー	1251445106	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
この授業では労働社会学の入門的講義をおこないます。 今日の日本社会では、仕事をして報酬を得ることが、生きる糧を得るためのおもな手段となっています。なかでも中心的な仕事の場となっているのが、企業や役所で働く雇用労働です。 そこでこの授業では、現代日本における人びとの暮らしを、仕事や家族や社会福祉をめぐる社会制度、産業構造などの中に位置づけ、制度や構造の形成過程とその問題点を読み解いていくことを目的とします。 また、雇用と労働をめぐる権利などについての基礎知識も学習し、非正規雇用の増加や貧困やブラック企業といった今日的なトピック、ジェンダー的な不平等、背景となる社会福祉制度の枠組みとその問題点などを理解することを目指します。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、以下の到達目標を設定します。			
①「労働（はたらくこと）」に関するさまざまなトピックや社会問題について、その成り立ちや問題点を理解し、自分なりの考えを整理できるようにする。（DP2、DP6、DP7） ②企業と社員と社会や政治との関係について冷静な社会科学的な視点を身につける。（DP2、DP6、DP7） ③さまざまな資料やデータや文献の見方を学び、自ら調べて確かめる方法と姿勢を身につける。（DP2、DP6、DP7） ④これから生きていく中で、自分自身が、仕事と生活をめぐる問題に直面したときに、冷静に問題に対処できるよう、労働をめぐる法律や権利などの基礎知識を習得する。（DP2、DP6、DP7）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション ===== 授業全体の説明をおこない、参考資料などを紹介します。 また、基本的な概念についての概説をおこないます。 （授業内容は、そのときどきの労働をめぐる社会的論点や授業の進捗によって変わることがあります。）		
	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読む。		60
第2回	日本型雇用慣行（日本的雇用システム） 1 ===== いわゆる企業における日本型雇用慣行（日本的雇用システム）の基本的特徴について、他の雇用システムを比べながら検討します。		
	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読む。		60
第3回	日本型雇用慣行（日本的雇用システム） 2 ===== 日本的雇用システムの特徴について、その形成過程を踏まえて検討します。		
	【復習】配布資料や参考文献、ノートを読む。		60

第4回	日本型雇用慣行（日本的雇用システム） 3 =====	
	日本の雇用システムの背景となる社会制度や、日本的雇用システムを中心とする日本的な社会福祉の特徴について検討します。 【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。	60
第5回	キャリア形成 1 （労働市場・移動・賃金） =====	
	働いて自らのキャリアを形成していくことが，どのような「能力」をめぐるって，どのような制度や環境のなかでなされるのか，どのような問題点があるのかを検討します。 【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。	60
第6回	キャリア形成 2 （就職と学校） =====	
	就職活動のあり方と時代による変化，問題点などを検討します。 【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。	60
第7回	労使間関係 =====	
	雇用する者とされる者の関係や，コミュニケーションについて検討します。 【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。	60
第8回	職場における仕事の変化と疎外への取り組み =====	
	職場における働き方が，技術革新などによってどのように変化してきたか，働き方による疎外感などについて検討します。 【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。	60
第9回	小括 =====	
	理解を深めるため，ここまでの授業内容をまとめ，補足的なトピックを補います。 【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。	60
第10回	職場・家庭とジェンダー 1 =====	
	日本型雇用慣行を中心とした社会と，そこで当然とされてきた働き方が，どのような家族のあり方を前提としているのか，今日どのような問題点が生じているのかを検討します。	

	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。	60
第11回	職場・家庭とジェンダー 2 ===== 家族のあり方の変化や，ジェンダーと労働をめぐる法律の変化などを検討します。	
	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。	60
第12回	働き方の多様化，非正規雇用の増加と問題点 ===== 近年の非正規雇用の増加の流れとその背景，利点や問題点について検討します。	
	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。	60
第13回	ブラック企業問題 ===== 近年，若年層を中心に問題となっている，いわゆるブラック企業をめぐる問題について検討します。	
	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。	60
第14回	身近な労働問題 ===== 労働や生活をめぐる身近な問題の具体例をみながら，これまで学習してきたことを復習し，理解を深めます。	
	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。	60
第15回	授業の総合的なまとめ	
	【復習】配布資料や参考文献，ノートを読む。	60
授業の方法		

基本的に講義形式でおこないます。講義では学術的な概念を用いるので、適宜小テストをおこないます。小テストの内容については前の回の授業で予告します。また、到達度の確認と復習のため、中間テストをおこなう可能性があります。なお、授業の進捗度によって、内容は適宜変更されることがあります。

成績評価の方法

平常点、小テストや課題、到達度確認テストなどから総合的に評価します。

平常点（授業への参加状況や課題の提出状況） 10%、小テストおよび課題 30%、到達度確認テスト 60%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識はとくに必要ありませんが、社会階層論、経済社会学、教育社会学、ジェンダーの社会学、社会調査法を事前に学んでいるとより理解が深まります。

テキスト

授業時に資料を配付し、テキストとして使用するほか、適宜授業内で指示します。

参考書

佐藤博樹・佐藤厚編『仕事の社会学——変貌する働き方（改訂版）』有斐閣。

上林千恵子編『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房。

濱口桂一郎『新しい労働社会——雇用システムの再構築へ』岩波書店。

など。その他、授業内で随時指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	アイデンティティの社会学		
教員名	石田 仁		
科目ナンバー	1251445107	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テーマ◇日本社会におけるLGBT ―アイデンティティと制度― 概要◇LGBT等（性的マイノリティ）に対する社会の関心が高まっている。この授業では、社会学の専門科目として、LGBT等に関するアイデンティティと、直面する困難・課題、課題を克服する制度等について扱う。社会科学の一領域であるため、量的調査・法制度にも触れる。			
到達目標			
日本社会における性的マイノリティをとりまく歴史・アイデンティティ・制度などを理解する。 また、それらの理解を通じて、各人が何を考え、どう対応すればよいかを追究する。 あるいはそうした考えが、逆に何を見えなくさせるのかについても注意を払えるような、多相的な社会認識を獲得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション「LGBTブーム」		
	テキスト プロローグの章	60	
第2回	性的マイノリティの分類(1)		
	テキスト プロローグの章	60	
第3回	性的マイノリティの分類(2) カミングアウトとアウティング		
	テキスト カミングアウトの章	60	

第4回	性的マイノリティにとっての学校空間 世界の動向と日本の性教育のずれ	
	テキスト 教育の章	60
第5回	心の健康・体の健康	
	テキスト 健康の章	60
第6回	性同一性障害（性別違和）の医療・法制度 性の健康と権利	
	テキスト 医療・法律の章	60
第7回	職場での性的ダイバーシティ 職場環境（勤続意欲、ダイバーシティ意識）	
	テキスト 経済の章	60
第8回	「LGBT市場」考察	
	テキスト 経済の章	60
第9回	婚姻(1) 法律婚	
	テキスト 法律の章 および 杉浦編『パートナーシップ・生活と制度』（増補改訂版）	60

第10回	婚姻(2) 事実婚	
	テキスト 法律の章 および 杉浦編『パートナーシップ・生活と制度』(増補改訂版)	60
第11回	婚姻(3) 同性パートナーシップ、民事連帯契約、同性婚	
	テキスト 法律の章 および 杉浦編『パートナーシップ・生活と制度』(増補改訂版)	60
第12回	婚姻(4) 日本の同性パートナー認定制度とニーズ	
	テキスト 行政の章	60
第13回	「LGBT人口は13人に1人」は信じてよいか	
	テキスト 調査の章	60
第14回	クィアという姿勢	
	テキスト 文化・エピローグの章	60
第15回	レビューとオーバービュー	
	テキスト全体	120

授業の方法

講義形式。数回に一度、理解度などをはかるため、ポータルアンケートを用いる。

成績評価の方法

履修者の人数で変動する。50名程度以下ならば、期末レポート形式。50名を超える場合は、期末レポート形式もしくはテスト形式とする。期末レポートあるいはテスト…配点70%。
達成度確認クイズ（単元内容の達成度測るため、ポータルアンケート機能を使う）…配点30%。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特段の予備知識は必要としないが、さまざまな差別や社会問題、ジェンダー的な課題に関心を払ってほしい。社会科学の科目であるため、量的調査や法制度も扱う。非当事者も当事者も関心をもって受講してほしい。

テキスト

石田仁『LGBT（仮題）』（スッキリわかるシリーズ）ナツメ社 【2018年上半期に発売の予定。後期の授業開始までに必ず購入のこと】

参考書

加藤秀一・石田仁・海老原暁子『図解雑学ジェンダー』ナツメ社。
杉浦郁子ほか編『パートナーシップ・生活と制度』（増補改訂版）緑風出版。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	コミュニティの社会学		
教員名	渡邊 大輔		
科目ナンバー	1251445108	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
本講義では、社会学の視点からコミュニティについて議論する。 コミュニティは社会学のなかでももっとも古い概念であると同時に、現代社会の政治、経済、社会、文化のあらゆる側面において重視されている概念でもある。この講義では、コミュニティという概念の展開について議論するとともに、その概念がなぜこれほどまでに多様に、かつ、ときに無思慮にもちいられてきたかを議論する。また、近年注目されている社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）の議論を整理し、流動する社会におけるネットワークとコミュニティの関係について整理する。その上で、現代のコミュニティが直面する問題について、身近な具体的例を取り上げて論じる。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）の達成のため、社会学におけるコミュニティという考え方の意義とその難しさについて理解できるとともに、現代社会においてコミュニティが、そしてそのコミュニティに生きる人々が直面する問題について理解できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション ～なぜ今、コミュニティを議論するのか		
	【復習】配布資料を読み直す	60	
第2回	コミュニティとは何か1 ～コミュニティ概念の展開		
	【予習】自分が「コミュニティ」だと思うもののリストを作成する 【復習】配布資料を読み直す	90	
第3回	コミュニティとは何か2 ～コミュニティと地域		
	【予習】両親や祖父母の地域観とその理由を質問する 【復習】参考資料3第5章を読む	90	

第4回	コミュニティとは何か3 ～コミュニティと都市化、人のつながり	
	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第5回	コミュニティとは何か4 ～コミュニティを支える制度、祭事	
	【予習】自分自身が居住する地域の地域団体（町内会、自治会）を把握する 【復習】配布資料を読み直す	90
第6回	社会ネットワーク① ～弱い紐帯の強さ	
	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第7回	社会ネットワーク② ～ネットワーク分析の現在	
	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第8回	社会関係資本① ～信頼とネットワークとその効果	
	【予習】参考資料4の一部を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第9回	社会関係資本② ～社会関係資本のダークサイド、社会関係資本は作れるか	
	【予習】社会関係資本をどうすれば測定できるか考える 【復習】配布資料を読み直す	90

第10回	コミュニティの現代的展開1 ～商店街の衰退と再生	
	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第11回	コミュニティの現代的展開2 ～少子高齢化問題とコミュニティの潜勢力	
	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第12回	コミュニティの現代的展開3 ～監視社会と安全	
	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第13回	コミュニティの現代的展開4 ～コミュニティをつくる／を活用する	
	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を読み直す	90
第14回	場所としてのコミュニティ1 ～伝統でも、モダンでもないコミュニティ	
	【予習】参考資料2を読む 【復習】参考資料2を読み直す	90
第15回	場所としてのコミュニティ2 ～守るべきものは何か まとめ	
	【予習】参考資料2を読む 【復習】すべての配布資料を読み直す	120

授業の方法

講義形式で行う。履修者数が少なければ、グループによる調査も行う。

成績評価の方法

期末レポート（90%）、平常点（10%）によって行う。

なお、履修者が少なくグループによる発表行う場合には、期末レポート（60%）、グループ発表（30%）、平常点（10%）とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

都市社会学、ボランティア・NPOの社会学、コミュニティ演習などが関連科目として想定される。

テキスト

とくに指定しない。

参考書

以下のものを指定する。この他のものは適宜講義中に紹介し、配布する。

1. 船津衛・浅川達人『現代コミュニティ論』、放送大学出版会、2006年。
2. デランティ『コミュニティ・グローバル化と社会理論の変容』、NTT出版、2006年。
3. 野沢慎司『リーディングス ネットワーク論-家族・コミュニティ・社会関係資本』、勁草書房、2006年。
4. パットナム『孤独なボーリング-米国コミュニティの崩壊と再生』、柏書房、2006年。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	環境社会学		
教員名	高田 昭彦		
科目ナンバー	1251445109	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
様々な環境問題について、社会学的な視点から事例に即しながら考えられるようになることを目指します。 授業では、まず環境社会学についての一般的・基礎的な内容について論文等を読み、次に環境問題に取り組む具体的事例を考察し、受講生からの要望があれば、武蔵野市で活動しているいくつかの環境団体等を実際に訪問し、環境問題へのリアリティを高めます。			
到達目標			
環境問題について、社会学的な視点から実証的に考えることができるようにすることを目指します。 希望する受講生には、環境問題に取り組んでいる団体を訪問し、活動にボランティアで参加することによって、環境問題はごく身近にあるということを実感してもらおうと思っています。その結果、地域のさまざまな人たちと知り合い、諸君たちの学生生活が有意義になることを目指します。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	授業全体の説明と、受講生の環境問題への関心を調べる。人数によっては班分けを行う。		
	各自自分の身近なあるいは地球規模で気になる環境問題を考えてくること。	60	
第2回	日本の環境問題の概略的把握。(戦前から高度経済成長期にかけて)		
	宮本憲一「日本における環境問題の政策形成」を読む。	60	
第3回	環境社会学のアプローチ (1) (環境社会学の対象と方法)		
	飯島伸子「環境問題の歴史と環境社会学」を読む。	70	

第4回	環境社会学のアプローチ（2）（加害・被害論）	
	船橋晴俊「公害問題研究の視点と方法—加害・被害・問題解決」を読む。	80
第5回	環境社会学のアプローチ（3）（生活環境主義）	
	古川彰「環境の社会史研究の視点と方法—生活環境主義という方法」を読む。	60
第6回	環境社会学のアプローチ（4）（社会的ジレンマ論）	
	船橋晴俊「社会的ジレンマ論」を読む。	60
第7回	環境問題への対応の事例（1）（日本の伝統的な環境保全の知恵）	
	三輪大介「入会における利用形態の変容と環境保全機能」を読む。	60
第8回	環境問題への対応の事例（2）（小樽の運河保存運動）	
	堀川三郎「歴史的環境保全と地域再生—小樽の町並み保存における場所性の争点化」を読む。	70
第9回	環境問題への対応の事例（3）（福山市鞆港の歴史的環境保全運動）	
	森久聡「地域社会の紐帯と歴史的環境—鞆港保存運動を例として」を読む。	60

第10回	環境問題への対応の事例（４）（原発事故による放射能被害と現地の対応）	
	藤川賢「福島原発事故における被害構造の特徴」を読む。	60
第11回	環境問題への対応の事例（５）（環境正義論の沖縄・辺野古地区への適用）	
	熊本博之「環境正義の観点から描き出される不正義の連鎖―米軍基地と名護市辺野古地区」を読む。	60
第12回	環境問題への対応の事例（６）（川越におけるパートナーシップによる町並み保全運動）	
	高田昭彦「川越式ネットワーク―川越一番街の重要伝統的建造物群保存地区の制定をめぐって」を読む。	70
第13回	武蔵野市環境団体の訪問（１） （学生からの希望をもとに）	
	子供たちへの環境教育とビオトープを進める「武蔵野自然塾」	訪問の日時を相談。
第14回	武蔵野市環境団体の訪問（２） （学生からの希望をもとに）	
	武蔵野市境の境山野緑地で雑木林の再生に取り組む「武蔵野の森を育てる会」	訪問の日時を相談。
第15回	武蔵野市環境団体の訪問（３） （学生からの希望をもとに）	
	武蔵野市でコミュニティ・ガーデンの運動を進めている「武蔵野ガーデン倶楽部」	訪問の日時を相談。

授業の方法 配布したテキストを基にレポーターを決め、対話形式で授業を進める。教室内での積極的な発言を歓迎します。 受講者の人数によっては班に分けることもあります。 テキストを読み、希望する受講生には訪問したい市民団体を紹介します。 授業としての訪問が授業日以外の日時になったときは、その訪問をその週の授業の振替とします。
成績評価の方法 授業への意欲と積極的な発言（25%）、環境団体でのボランティア（25%）、期末テスト（問題は事前に知らせる）（50%）により、評価します。実際にボランティアに行けない場合は、別途考えます。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特になし。
テキスト 必要な文献や論文は毎回コピーして渡します。
参考書 『環境社会学研究』（2008年～2017年）。 成蹊大学 武蔵野地域研究報告書『武蔵野市のNP0・市民活動』（2012年度～2016年度）。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) 授業終了後、あるいはメールでアポイントメントを取って、随時相談を受け付けます。

科目名	生活文化史		
教員名	中江 桂子		
科目ナンバー	1251445110	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

日本の近代史は西洋化や産業化などの影響から、きわめて変化の激しい時代である。この時代に日本の庶民の生活はどのように変化してきたか、および、人々はどのようにこの変化を乗り越えて、生活形式を形成してきたか。とくに、「生活」および「文化」という側面に注目しながらこの歴史を振り返ることによって、現在では当たり前になっている生活の根源を見直す授業である。

到達目標

DP 2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次のような目標を設定する。私たちが当たり前に受け止めているライフスタイルや日常の文化が、実際にはどのような歴史的な経緯を経て作られてきたかを理解し、私たちの常識を相対化することができるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	生活文化、という言葉の意味するものとは何か	
	授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。	60
第2回	近代＝時間に縛られた時代。 チャップリンのインパクト——生活は豊かになるのか？	
	授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。	60
第3回	時間管理システムの誕生。 手帳・家計簿・カレンダー・そして電子手帳へ——生活管理の文化史。	
	授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。	60

第4回	労働者と近代生活——その現場をつたえる「漫画」メディアと文化運動。	
	授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。	60
第5回	世界は広がる。 旅行と旅行誌の誕生——多様な生活文化が知られるとどうなるか？	
	授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。	60
第6回	子供たちの路地裏——戦後復興の生活史と紙芝居文化を考える。	
	授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。	60
第7回	前半のまとめ	
	授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。	60
第8回	演歌とフォークソング——民衆の心情を分かち合う文化。	
	授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。	60
第9回	ジェンダーを乗り越えろ！ ——性の自由と生活文化との関連について。	
	授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。	60

第10回	戦後強くなったのは「ストッキングと女性」という言説について——ファッションと豊かさという問題を考える。	
	授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。	60
第11回	料理番組と食文化の歴史——目指すべき健康のありかとは何だったのか。	
	授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。	60
第12回	自然はどこへ行った？ ——生活の日常から失われていく自然と、自然への憧憬——トトロやハクはなぜ生まれたか	
	授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。	60
第13回	人間は自然のなかの一部である——自然破壊と生活文化。	
	授業内容の復習。 次回プリントあるいはテキストの予習。	60
第14回	後半のまとめ。	
	授業内容の復習。 全体の復習。	60
第15回	授業の全体を振り返って——私たちは生活文化の担い手である。	
	全体の復習	60

授業の方法

授業形式。

コメントを書いてもらい、理解の程度を確認することがある。

受講人数によっては、グループワークも取り入れることがある。

成績評価の方法

試験40%、授業内レポート（コメントシートを含む）40%、授業参加積極性20%を基本とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

現代社会学科の基礎科目の知識を持つことが望ましい。

テキスト

中江桂子『昭和文化のダイナミズム』ミネルヴァ書房

参考書

授業内で指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業前後に受け付ける。

科目名	教育社会学		
教員名	犬塚 典子		
科目ナンバー	1251445201	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
教育社会学は、対象領域の広い学問分野であり、学習者に広い視野と柔軟な思考を求めます。教育を、社会との関わりにおいて理解し分析する教育社会学の基礎を身につけ、現実の教育現象を多角的に観察・分析・考察することを学びます。 教育社会学（Sociology of Education）の祖といわれるフランスの社会学者エミール・デュルケム（Emile Durkheim, 1858- 1917）は、教育現象を社会的事実として、客観的・実証的に研究する教育科学（sciences de l' education）の確立をめざしました。その系譜を継ぐ本講義では、「学び」や教育について考察しますが、「～勉強法」や「指導の技術」は扱いません。しかし、教育社会学の学修によって得られた概念や理論、実証的な考察方法は、これまで受けてきた教育や今後の大学生活・職業生活を新たな角度から解釈する手助けとなることでしょう。			
到達目標			
(1) 社会学の理論で、教育現象を説明できる。 (2) 教育問題を自分の個人的な感想や印象でなく、社会的な背景を含めて、理論的に位置づけて理解できる。 (3) 教育事象についての自分の考えが、どのような社会的文脈で構築されてきたのかを自覚的に理解し、省察することができる。 (4) 教育政策の根拠になっている政府統計や基礎的データをに入手し、その内容や手法を分析することができる。 (5) 調べたこと（予習）、授業で学んだこと（復習）を、簡潔に文章で表現することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	『教育社会学の対象と方法』 教育事象を社会事象として分析し考察する教育社会学の意義と特徴について学ぶ。社会の実証的な見方と、教育社会学の対象と方法を理解する。		
	【予習】予習・講義記録・復習用に、A4ノート（20～30枚程度）1冊を用意し教室に持参する。 【復習】講義ノートを読み、新たな気づきや今後の学びについて、400字程度で自分の考えをまとめる。		30
第2回	『人間の発達と社会化』 市民革命期の教育思想家による人間形成論を手がかりに、生物としてのヒトが、社会的な存在である人間になっていくことについて考える。また、より近代のピアジェやミードによる心理学の枠組みを学び、人間の「社会化」を理解するための基礎的知識を得る。		
	【予習】ジョン・ロック（John Locke, 1632-1704）の活躍した時代背景と「タブラ・ラサ」説について要点をノートに記す。 【復習】予習ノートと、講義ノートとを照らし合わせ、新たな気づきや今後の学びについて、400字程度で自分の考えをまとめる。		70
第3回	『家族と子ども』 子どもが、生物としてのヒトから社会的存在へと育っていく過程において、家族が果たす機能について学ぶ。多様化する現代の家族像を視野に入れながら、家族に関する社会学の基礎理論を習得する。		
	【予習】同性カップルの結婚と養子縁組について、フランスの法律の動向を調べ、何が当事者にとって重要な問題になっているのか、要点をノートに記す。 【復習】第2回の学習活動と同じ。		70
第4回	『幼児期のケアと教育』 子どもが、親や家族を離れ、他の子ども集団と過ごす幼児期のケアや教育の機能について学ぶ。社会学の枠組みに基づき、子どもと「遊び」「集団」「役割」などとの関係を理解する。また、政策形成におけるアンケート調査の位置づけについて基礎的知識を得る。		

	【予習】『武蔵野市子ども・子育て支援に関するアンケート調査報告書【概要版】』を市のウェブサイトから入手し、調査の目的、背景、実施概要の要点をノートに記す。 【復習】第2回の学習活動と同じ。	70
第5回	『近代学校の成立と特徴』 初等教育の特性を、教育学と社会学の理論に基づいて理解する。「イニシエーション」「実社会への橋渡し」などの側面から、学校教育の「社会化」「選別」「正当化」などの機能について学ぶ。	
	【予習】文部科学省ウェブサイトから「学校基本調査」のページにアクセスし、調査の目的、根拠法令、対象、抽出方法、調査事項、調査の時期と方法、沿革について要点をノートに記す。 【復習】第2回の学習活動と同じ。	70
第6回	『学校化社会』 教育制度の拡大過程と、中等教育段階の機能について学ぶ。子どもの心身の発達段階や、公教育の組織化という側面から、中学校・高等学校の教育を多角的に理解する。	
	【予習】文部科学省ウェブサイトから、「諸外国の教育統計」平成29（2017）年版の各国の学校系統図にアクセスし、ドイツの初等・中等教育制度の概要について、要点をノートに記す。 【復習】第2回の学習活動と同じ。	70
第7回	『高等教育の大衆化』 大学の歴史について概要を学んだ後、大衆化、多様化によってどのような変化が起きているのか考える。少子化・グローバル化によって変わりゆく大学のなかで、自身が学ぶことを相対化し客観的に捉えられるようにする。	
	【予習】マックス・ウェーバー（Max Weber, 1864-1920）の経歴と大学観について調べ、要点をノートに記す。 【復習】第2回の学習活動と同じ。	70
第8回	『現代日本の教師』 学校教育制度に欠かせない存在である教師という職業の社会的役割、機能、現在おかれている状況について理解する。諸外国との比較から、日本の学校と教師の特徴について、仮説を立てて分析を試みられるようにする。	
	【予習】文部科学省ウェブサイトの「学校教員統計調査」にアクセスし、平成28年度調査結果の概要を読み、「週当たり教科等担任授業時数」「離職状況」「離職の理由」の要点と、それに対する自分の考えをノートに記す。 【復習】第2回の学習活動と同じ。	70
第9回	『非行・逸脱と生活指導・教育相談』 学校における様々な逸脱現象を、構造的な問題や、現代的な特殊要因に焦点をあてて理解する。教育をめぐる問題状況の背景や原因、また支援のあり方について、仮説を立てて分析を試みられるようにする。	
	【予習】「政府統計ポータルサイト（e-Stat）」にアクセスし、「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」の平成28年度「小・中学校の長期欠席（不登校等）」（2017年10月26日公表）のデータから興味をもった項目をとりあげ、その要点と自分の考えをノートにまとめる。 【復習】第2回の学習活動と同じ。	70
第10回	『階層と文化的再生産論』 職業階層、社会的地位との関係から、現代の教育制度の機能を理解する。社会的格差と学校教育との関係について、近年の理論や学説を学ぶ。自身が受けてきた教育に対する考えが、どのような社会的文脈で構築されてきたのか省察する。	

	【予習】文部科学省ウェブサイトから、『図表でみる教育』OECDインディケータにアクセスして、「2017年版（カントリー・ノート：日本）」を読み、①科学関連分野を専攻する女子学生、②高等教育及び幼児教育に対する支出、③高等教育修了率と留学状況について要点をノートに記す。 【復習】第2回の学習活動と同じ。	70
第11回	『教育政策と教育改革』 「市場化」「グローバル化」などのマクロな社会動向を理解した後、学習指導要領、学力テストなどの教育改革について社会学的な考察の視点を身につける。	
	【予習】「学習指導要領」の変遷を調べ、1958年の改訂以降について、告示年順に（1968年、1977年、1989年、1998年、2008年）、要点をノートに記す。 【復習】第2回の学習活動と同じ。	70
第12回	『ジェンダーと教育』 社会的、文化的に作られた性差や関係性を示す「ジェンダー」概念を手掛かりに、学校教育の隠された機能について、教育社会学の理論に基づき考える。	
	【予習】「隠れたカリキュラム」(Hidden Curriculum)という概念について調べ、その内容と、自分の考えをノートにまとめる。 【復習】第2回の学習活動と同じ。	70
第13回	『共生と教育』 社会的マイノリティの学習権、多文化社会における教育のあり方について学ぶ。「シティズンシップ教育」、「多文化共生教育」の理念と内容を理解し、その課題と可能性を考える。	
	【予習】本シラバスの参考書欄に記載されているDVDから1作を選んで視聴し、映画の背景と自分の考えをノートにまとめる。 【復習】第2回の学習活動と同じ。	120
第14回	『生涯学習社会』 生涯にわたって学び続けることの必要性和意義を理解する。学習メディアや人間関係の変化によって、社会がどのように変わっていくのか予測し、今後必要とされる調査や研究について考える。	
	【予習】近隣の生涯学習センター、公民館、民間教育サービス施設から、一施設を訪問し、今後、需要が高まると考えられるプログラムのチラシなどを入手し、教室に持参する。 【復習】入手した教育プログラムの特徴や背景について考察し、その概要と自分の考えをノートにまとめる。	120
第15回	『現代の教育問題と教育社会学』 講義の内容を振り返り、重要な論点を整理し、それらに対する自分の考えを述べられるようにする。	
	【予習】全講義ノートを読み返す。 【復習】学生生活を通して、半期に一度は、講義ノートを読み返す。自らの学生生活や日本の教育事象を、教育社会学の概念、理論、枠組みによって常に捉えなおしていく。	90
授業の方法 講義形式で進めていく。学生は、本シラバスに書かれている予習・復習活動を行い、講義ノートを作成する。各回のテーマや講義の進行に合わせて、理解度を確認するための小テストや到達度確認テストを行う。		

成績評価の方法

授業中の活動と到達度確認テストにより評価する。

総合評価に占める割合は、授業中の活動50%、到達度確認テスト50%を目安とする。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

以下の点に着目し、その達成度により評価する。

- (1) 社会学の理論を活用して、教育現象を説明できる。
- (2) 教育問題を、社会的な背景を含めて、理論的に位置づけて述べることができる。
- (3) 実証的な考察手法を身につけ、データや事実を分析、解釈できる。
- (4) 理解したことや自分の考えを、簡潔に文章で表現することができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

【関連科目】

「教育原論」などの教職科目との関連性が強いが、特に必要な予備知識はない。

テキスト

特に指定しない。プリントを配布し、参考文献を紹介する。

参考書

下記の他、講義の進行に合わせて、参考文献を紹介する。

- (1) デュルケム 『教育と社会学』（誠信書房、1976年）
- (2) ウェーバー 『職業としての学問（改訂版）』（岩波文庫、1980年）
- (3) パーソンズ 『核家族と子どもの社会化（上）（下）』（黎明書房、1970・1971年）
- (4) イリッチ 『脱学校の社会』（東京創元社、1977年）
- (5) アリエス 『〈子供〉の誕生』（みすず書房、1980年）
- (6) ウィリス 『ハマータウンの野郎ども』（筑摩書房、1985年）
- (7) ブルデュー／パスロン 『再生産—教育・社会・文化』（藤原書店、1991年）
- (8) 近藤博之・岩井八郎 『教育の社会学』（放送大学教育振興会、2015年）
- (9) 広田照幸監修 『リーディングス 日本の教育と社会（全20巻）』（日本図書センター、2006～2009年）
- (10) 加野芳正 『アカデミック・ウーマン—女性学者の社会学』（東信堂、1988年）
- (11) 内田良 『柔道事故』（河出書房新社、2013年）
- (12) 西村大志・松浦雄介編 『映画は社会学する』（法律文化社、2016年）
- (13) 日本教育社会学会編 『教育社会学のフロンティア—学問としての展開と課題』（岩波書店、2017年）

DVD（＊は、大学図書館所蔵）

- (1) 『炎のランナー』（1981年、イギリス、＊）
- (2) 『青春の輝き』（1992年、アメリカ、＊）
- (3) 『17歳のカルテ』（1999年、アメリカ、＊）
- (4) 『リトル・ダンサー』（2000年、イギリス、＊）
- (5) 『パリ20区、僕たちのクラス』（2008年、フランス、＊）
- (6) 『しあわせの隠れ場所』（2010年、アメリカ、＊）
- (7) 『ちいさな哲学者たち』（2009年、フランス、＊）
- (8) 『ぼくたちのムッシュ・ラザール』（2011年、カナダ、＊）
- (9) 『ローマの教室で 我らの佳き日々』（2015年、イタリア）
- (10) 『6才のボクが、大人になるまで。』（2015年、アメリカ）
- (11) 『桐島、部活やめるってよ』（2016年、日本、＊）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	社会階層論		
教員名	内藤 準		
科目ナンバー	1151445202	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
この講義では、現代社会のさまざまな不平等を分析する、社会階層論の授業をおこないます。社会階層論では、仕事上の地位や収入や学歴など、人びとのさまざまな上下関係を「社会階層」として捉えます。さまざまな社会階層が生じたり、時代によって変化したりする様子を実証的に分析し、社会階層が人びとの暮らしや意識に影響を与える仕組みを明らかにします。 (1) 現代社会の社会階層： 仕事や働き方を中心に、階層的な不平等が生まれたり再生産されたりするメカニズムを検討します。親子間の社会階層の再生産、学歴社会の意味、といった現代的なトピックを検討します。 (2) 社会階層と階層意識： 受講者自身の実感とも結びつけやすい階層意識のトピックに向かいます。教員自身の研究成果もふまえながら、上流・中流・下流といった階層アイデンティティや、生活満足感や幸福感などの意識、人びとが享受する生き方の自由と、社会階層との関係について学びます。また、人間関係がもたらす社会的サポートの格差などについても学び、「平等な社会」の可能性について考えます。 (3) データ分析の基礎を、量的な分析手法を中心に学べます。社会調査法・量的調査法を用いた分析結果や文献の読み方を身につけます。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、以下の到達目標を設定します。 ①現代社会の不平等について、身近な経験や実感から連想するだけでなく、社会全体の状況として把握する力を身につける。（DP2、DP6、DP7） ②社会の構造から影響を受けつつ社会を作り出す行為者として、自分自身を社会の中に位置づける思考力を身につける。（DP2、DP6、DP7） ③さまざまな不平等がどのように形成されるのか、いつ・なぜ問題になるのかを理解する。そのうえで、社会問題としての不平等の解決について考える力を身につける。（DP2、DP6、DP7）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション：不平等はなぜ問題なのか ===== 授業全体の流れを説明します。社会階層論で使うデータや資料などについて説明し、残った時間で基本的な概念や、社会的な不平等が問題となる理由などについて解説します。これらの概念については該当するトピックを扱う際に復習します。 【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。		
			60
第2回	現代社会の社会階層 1：社会階層とは何か ===== 社会学的な「社会階層」の概念と、その関連概念について説明します。社会階層と社会階級との違い、社会階層が規定する社会意識としての「階層意識」についても説明します。 【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。		
			60
第3回	現代社会の社会階層 2：社会階層の再生産と機会の平等(1) ===== 親と子の社会階層の「再生産」は、社会階層論の中心的テーマの一つです。親の地位によって子の地位が決まってしまう社会は、機会が不平等で個人の努力が実を結ばない閉鎖的な社会だと考えられるからです。 はじめに、階層の再生産や機会の平等などを、データから分析する方法を学びます。 【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。		
			60

第4回	現代社会の社会階層3： 社会階層の再生産と機会の平等(2)	
	===== 親と子の社会階層の「再生産」は、社会階層論の中心的テーマの一つです。親の地位によって子の地位が決まってしまう社会は、機会が不平等で個人の努力が実を結ばない閉鎖的な社会だと考えられるからです。 前回学んだ方法を用いて、階層再生産をめぐる戦後から現在までの流れを分析・検討します。 【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。	60
第5回	現代社会の社会階層4：社会階層と教育、学歴社会	
	===== 教育は、人びとをさまざまな仕事に振り分ける媒介として機能し、本人の努力を反映する業績主義の指標とも考えられてきました。社会階層と教育、教育と仕事や収入との関係を学びます。 【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。	60
第6回	現代社会の社会階層5：増加する非正規雇用と仕事の変化	
	===== 近年、非正規雇用の増加に象徴される雇用の流動化が進み、新卒採用・終身雇用・性別分業という従来の職業構造は変化しつつあります。正規雇用と非正規雇用の格差や、非正規雇用の担い手の変化などについて検討します。 【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。	60
第7回	現代社会の社会階層6：女性の労働と性別分業	
	===== 今日の日本社会では女性のフルタイム就業が進み、片働きから共働きへと働き方が変わってきました。また男性の非正規雇用も増加し、夫婦ともに非正規雇用であることも珍しくなくなっています。ここでは日本社会の男女格差や、共働き夫婦のワーク・ライフ・バランス、性別分業をめぐる問題点などを検討します。 【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。	60
第8回	小括	
	===== ここまでの授業で学んだことについて復習し、理解を深めます。 【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。	60
第9回	社会階層と階層意識 1：階層意識とは何か	
	===== ときに、人びとの「意識」は純粋に個人的な事柄と考えられがちです。しかし、人びとの「意識」や「態度」は、その人の社会階層による影響を受けています。ここでは社会階層と階層意識との関係について理解します。 【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。	60

第10回	社会階層と階層意識 2：社会階層とアイデンティティ ===== 人びとは、社会の中に自らを位置づけながら生活を送っています。ここでは、日本の「総中流社会」をめぐる論争ともなった「階層帰属意識（階層アイデンティティ）」をめぐり、戦後の「中流意識」の趨勢や、人びとのアイデンティティが「個人化」している可能性などを検討します。	60
	【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。	
第11回	社会階層と階層意識 3：社会階層と暮らしの満足・幸福・自由 ===== 私たちの生活満足感や幸福感、私たちの自由についての実感は、職業的な地位や経済的な裕福さ、家族関係などによってどのように規定されているのでしょうか。こうしたさまざまな「主観的福祉」と社会階層との関連を検討します。	60
	【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。	
第12回	社会階層と階層意識 4：社会階層と結婚・出産、家族形成 ===== 非正規雇用の拡大や雇用の不安定化といった変化は、職業的地位や収入の格差とともに、結婚や出産などの家族形成における格差をもたらしているとされます。こうした側面から、機会の不平等について検討します。	60
	【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。	
第13回	社会階層と階層意識 5：社会階層とサポートネットワーク (1) ===== 人びとは他者との人間関係（ネットワーク）を形成し、その中で生活しています。人間関係から切り離され、支援（サポート）を得られない人びとは、社会的孤立や排除の状態にあるとされ、社会問題として近年注目されるトピックです。	60
	【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。	
第14回	社会階層と階層意識 6：社会階層とサポートネットワーク (2) ===== 災害や貧困、失業などで困ったとき、他人からサポートが得られることは大きな助けとなります。しかしこうしたサポートを利用する機会は、果たして誰でも自由に使えるものなのでしょうか。 ここでは、人間関係や社会的サポートの有無にも、社会階層との関連があることを学び、その仕組みを検討します。	60
	【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。	
第15回	まとめ ===== この授業で学んだことについて総合的に復習します。	60
	【復習】授業資料や授業内で紹介した文献を読む。	

授業の方法

基本的に講義形式でおこないます。講義では学術的な概念を用いるので、到達度の確認と復習のため、適宜、小テストや中間テストをおこなう可能性があります。
なお、授業の進捗度によって、内容は適宜変更されることがあります。

成績評価の方法

平常点、小テストや課題、到達度確認テストなどから総合的に評価します。
平常点（授業への参加状況や課題の提出状況） 10%、小テストおよび課題 30%、到達度確認テスト 60%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識はとくに必要ありませんが、労働社会学、経済社会学、教育社会学、ジェンダーの社会学、社会調査法を事前に学んでいるとより理解が深まります。

テキスト

授業時に資料を配付し、テキストとして使用します。
その他、適宜授業内で指定します。

参考書

以下の文献を中心に、参考図書や論文は随時指定します。

武川正吾・白波瀬佐和子編，2012，『格差社会の福祉と意識』東京大学出版会。
盛山和夫ほか編，2011，『日本の社会階層とそのメカニズム——不平等を問い直す』白桃書房。
竹ノ下弘久，2013，『仕事と不平等の社会学』弘文堂。
原純輔・盛山和夫，1999，『社会階層——豊かさの中の不平等』東京大学出版会。
山田昌弘・小林盾編，2015，『ライフスタイルとライフコース——データで読む現代社会』新曜社。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	ライフコースの社会学		
教員名	渡邊 大輔		
科目ナンバー	1251445203	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
10歳のときから多くの人が働き始める社会で生きることと、22歳で働き始める社会で生きすることは、同じ働くということでもまったく異なる経験となるだろう。そして、働き始めるという一見普遍的な事柄は、社会の変化によってそのタイミングも、個人にとっての意味も、具体的な内容も常に変化するものであった。 本講義で扱うライフコース・アプローチは、人間の一生を普遍的な過程としてとらえるのではなく、社会的・歴史的コンテキスト（文脈）によって構築されたものとみなす点から出発する。そして、人々の人生がその年齢や時代、世代によって影響を受け、変化してゆく過程を理解する、学際的な手法となっている。このライフコースという考え方の意義や、実践方法について1学期間を通して議論する。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）の達成のため、ライフコースという視点の意味と限界を理解し、現代社会における個人の経験を年齢、歴史、世代という3つの観点からとらえるための基礎的な知識や概念を学び、活用することができるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション ～変動する社会における個人の経験		
	【復習】家族の経験を聞き取る		90
第2回	ライフサイクルとは何か ～発達心理学・役割理論の発展と限界		
	【予習】自分のこれまでの人生を段階として振り返る 【復習】ハンドアウトと付属資料を読み直す		90
第3回	【ライフコース研究の概念と方法3～9】 社会的地位と社会的役割、役割移行		
	【予習】参考文献を読む 【復習】自分の社会的地位、社会的役割を確認し、その将来を予想する		60

第4回	時間の導入 ～変化と持続をとらえる	
	【予習】参考文献を読む 【復習】自分のライフイベントカレンダーを作成する	60
第5回	年齢・時代・コーホート ～APC効果	
	【予習】参考文献を読む 【復習】家族の経験をAPC空間に図示する	60
第6回	世代と家族時間、タイミング	
	【予習】参考文献を読む 【復習】自分の家族の家族時間を整理する	90
第7回	コンボイ	
	【予習】参考文献を読む 【復習】自分のコンボイを概念図として描く	60
第8回	ライフコースを質的に観察する ～ライフヒストリーの聞き取り	
	【予習】配布資料を読む 【復習】配布資料を再読する	90
第9回	ライフコースを量的に観察する ～長期継続調査、長期パネル調査の活用	
	【予習】21世紀出生児縦断調査のサイトを調べる 【復習】21世紀出生児縦断調査の報告書を読む	90

第10回	【現代社会とライフコース 10～14】 高齢化社会とライフコースの変容	
	【予習】『高齢社会白書』を読む 【復習】『高齢社会白書』を再読する	90
第11回	経済不況とライフコース ～大恐慌と平成不況、就職活動の変遷	
	【予習】就職活動について両親に聞き取りをする 【復習】現在の就職活動の実態を調べる	90
第12回	悲劇とライフコース ～震災経験と世代	
	【予習】阪神大震災について調べる 【復習】鑑賞した映像資料の感想をまとめる	90
第13回	文化とライフコース ～文化を支える技術（テクノロジー）	
	【予習】自分自身の音楽体験を言語化する 【復習】配布資料を読み込む	90
第14回	想像力とライフコース ～未来イメージと都市	
	【予習】2030年の将来像を考える 【復習】配布資料を読み込む	60
第15回	まとめ	
	【復習】すべてのハンドアウトを再読する	90

授業の方法

講義形式で行う。履修者数が少なければ、グループによる調査も行う。また、講義では映画の鑑賞を行うなど映像資料も用いる。

成績評価の方法

期末レポート（90%）と平常点（10%）によって行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「家族社会学」と深い関係をもつため、あわせて履修することでより理解が深まる。

テキスト

とくに指定しない。

参考書

講義時に適宜紹介する。主とするものは以下である。

- ・ 嶋崎尚子 2008 『ライフコースの社会学（早稲田社会学ブックレット-社会学のポテンシャル）』 学文社。
- また、重要文献としては以下があげられる（絶版が多い）。
- ・ エルダー 1997 『新版・大恐慌の子どもたち-社会変動と人間発達』 明石書店。
- ・ ハレーブン 2001 『家族時間と産業時間 新装版』 早稲田大学出版部。
- ・ ブラス 1985 『日本人の生き方-現代における成熟のドラマ』 岩波書店。
- ・ エルダー・ジール 2003 『ライフコース研究の方法』 明石書店。
- ・ エルダー・ジール 2013 『ライフコース研究の技法』 明石書店。

内閣府共生社会政策統括官『高齢社会白書』：<http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>
厚生労働省「21世紀出生児縦断調査（平成13年出生児）」<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/27-9.html>
厚生労働省「21世紀出生児縦断調査（平成22年出生児）」<http://www.mhlw.go.jp/toukei/list/27-22.html>

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	ボランティア・NPOの社会学		
教員名	高田 昭彦		
科目ナンバー	1251445204	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

現在、ボランティアやNPOは普通によく聞く言葉となっています。両者の大きな違いは、ボランティアは個人、NPOは組織を指しているところにあります。ボランティアは日本では1995年の阪神淡路大震災から、NPOは1990年頃から社会的に注目されるようになりました。しかしNPOは、ボランティアの自発的参加がなければ存立できません。両者は切っても切れない関係にあります。

本講義では両者の関係を、自発性、公益性、パートナーシップ等の視点から、とても分かりやすく書かれた論文を読むことによって捉えていきます。さらに、学生諸君からの要望の高い武蔵野市内のNPOを実際に訪問して、現場の息吹に触れながら、NPOがわれわれの生活にとってごく身近な存在であることを理解していきます。

到達目標

NPOや市民活動を理解し、ボランティアを奇特新変った人たちと見なくなり、自らの活動をどんどん新しい領域に広げていき、地域のいろいろな人と友達になって、社会とのつながりをもった有意義な学生生活がおくれるようになることを目指します。みなさんは、権威があるとされる有名人やマスコミの言いなりになるのではなく、自分で見て、考えて、行動する人（つまり「市民」）になっていただきたいと考えています。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業計画全体の説明と受講学生がどのようなボランティア・NPOへ関心度があるのかを調べる。人数によっては班分けを行う。	
	日本社会において今何が問題であるかを考えてくること。 もしボランティアに行くのであれば、どんな領域に行きたいかを考えてくること。	60分
第2回	NPOは何かということと、日本社会におけるNPOの現状について	
	山岡義典「NPOの意義と現状」を読んでくること。	60分
第3回	NPOとボランティアとの関連について	
	早瀬 昇「NPOとボランティア」を読んでくること。	60分

第4回	NPOと企業との関連について	
	田代正美「NPOと企業の社会貢献」を読んでくること。	60分
第5回	NPOと行政との関連について	
	久住剛「NPOと自治体行政」を読んでくること。	90分
第6回	NPOを支えるNPO＝NPOサポートセンターについて	
	土屋真美子「NPOサポートセンターを考える」を読んでくること。	60分
第7回	武蔵野市におけるNPO団体の活動の実際（１）	
	武蔵野地域研究「武蔵野市におけるNPO・市民活動（２）」から1団体を選んで読む。	80分
第8回	武蔵野市におけるNPO団体の活動の実際（２）	
	武蔵野地域研究「武蔵野市におけるNPO・市民活動（３）」から1団体を選んで読む。	80分
第9回	武蔵野市におけるNPO団体の活動の実際（３）	
	武蔵野地域研究「武蔵野市におけるNPO・市民活動（４）」から1団体を選んで読む。	80分

第10回	武蔵野市におけるNPO団体の活動の実際（4）	
	武蔵野地域研究「武蔵野市におけるNPO・市民活動（5）」から1団体を選んで読む。	80分
第11回	武蔵野地域研究で読んだ団体から1団体を選んで実際に訪問し、代表者・事務局長等にインタビューを行う。	
	例えば「テンミリオンハウス・くるみの木」あるいは「テンミリオンハウス・月見路」（候補）（高齢者の地域の居場所）	訪問先の都合に合わせて日時を決める。
第12回	武蔵野地域研究で読んだ団体から1団体を選んで実際に訪問し、代表者・事務局長等にインタビューを行う。	
	例えば「武蔵野の森を育てる会」あるいは「武蔵野ガーデン倶楽部」（候補）（都会の雑木林の保護、コミュニティ・ガーデンづくり）	訪問先の都合に合わせて日時を決める。
第13回	武蔵野地域研究で読んだ団体から1団体を選んで実際に訪問し、代表者・事務局長等にインタビューを行う。	
	例えば「北町高齢者センター」（日本初の単独型デイサービスを始めたところ）	訪問先の都合に合わせて日時を決める。
第14回	武蔵野地域研究で読んだ団体から1団体を選んで実際に訪問し、代表者・事務局長等にインタビューを行う。	
	例えば「けやきコミュニティセンター」（候補）（地域でのコミュニティ形成活動）	訪問先の都合に合わせて日時を決める。
第15回	講義全体のまとめと、受講学生の一部のレポート発表。	
	特に感銘を受けたNPOを一つ選び、そのプラス面、マイナス面、改善の仕方を書いたレポート（A4で2枚）を提出する。それについてみんなで討論をする。	90分

授業の方法

配布したテキストを基にレポーターを決め、対話形式で授業を進める。教室内での積極的な発言を歓迎する。受講者の人数によって班に分けることもある。

テキストを読み、NPOを訪問するだけでなく、地域におけるNPOと行政との協働を見るために、武蔵野市の市民活動推進課のNPO担当へのインタビューや、NPOを支援している武蔵野プレイスへの訪問も考えている。これらは受講学生の意欲に応じて実施する。訪問が授業日以外の日時になったときは、訪問参加をその週の授業の振替とする。訪問の人数が限られた場合は、訪問に参加した者が授業の中でその訪問の報告を行う。

成績評価の方法

授業への意欲(20%)と積極的な発言(20%)、出席(10%)期末レポート(50%)により、評価する。
授業及び実地訪問で、それに参加できない場合は事前に連絡すること。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

本講義の次の時間の授業、火曜日4限の「武蔵野地域研究」も同時に履修することを薦めます。

テキスト

2012年度と2013年度、2014年度、2015年度、2016年度の「武蔵野地域研究」報告書および『NPO基礎講座』からのコピーを、事前に配付します。それ以外の参考資料も毎回コピーで配布します。「武蔵野地域研究」報告書は大学ボランティアセンターで閲覧できます。

参考書

山岡義典編『NPO基礎講座』（1～3）、ぎょうせい、1997年～1999年。（新版2005年）
山岡義典編『NPO実践講座』（1～3）、ぎょうせい、2000年～2003年。
『コミセンによるコミュニティづくり』（2011年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNPO・市民活動（1）』（2012年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNPO・市民活動（2）』（2013年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNPO・市民活動（3）』（2014年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNPO・市民活動（4）』（2015年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）
『武蔵野市のNPO・市民活動（5）』（2016年度「成蹊大学 武蔵野地域研究」報告書）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

講義終了後に直接、あるいはメールや電話で連絡してください。いつでも応じます。

科目名	文化社会学		
教員名	加藤 裕康		
科目ナンバー	1251445205	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
文化に関する理論は、文化人類学やフランクフルト学派の文化産業論、カルチュラル・スタディーズなど多様にありますが、文化社会学は、一つとしては、意味秩序を問う学問であると言えます。それは、必ずしも伝統文化を指しません。では、文化とは何か。 具体的に、ビデオゲームというメディアから何が見えるのか、文化の生成過程と私たちの社会について考えます。メディア社会の現象は、ビデオゲーム一つをとってみても、単一の要因だけでは理解できません。多くの人が集まる都市には、消費者の欲望を刺激するさまざまな余暇産業が入り込み、伝統的共同体とはまったく異なる人間関係が生成しています。 本講義では、近代以降の社会の変遷を踏まえつつ、特に余暇産業の一つであるゲームセンターと、情報社会を象徴するものの一つであるビデオゲームを題材に取り上げ、そこに生まれる意味秩序、ひいては現代社会に生きる私たち人間を考察します。			
到達目標			
メディアと密接な関係にある文化を分析するための、基本的な概念、視点、理論について学びます。そして、私たちの生きる時代や社会背景を、政治的・経済的・文化的視点から批判的に読み解く思考力を養うことを到達目標とします。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	文化とは何か (1) 文化社会学の視座		
	テキスト・参考文献は、該当箇所を各自であらかじめ読んでおいて、問題意識を持って授業に参加してください。読んだ箇所は、要点を自分なりの言葉でまとめておきましょう。	60	
第2回	文化とは何か (2) サブカルチャーとポピュラー文化		
	テキスト・参考文献は、該当箇所を各自であらかじめ読んでおいて、問題意識を持って授業に参加してください。読んだ箇所は、要点を自分なりの言葉でまとめておきましょう。	60	
第3回	イデオロギーとヘゲモニー 基本概念整理 (記号、コード、表象など) とイデオロギー理論 (マルクス、グラムシ、アルチュセール、ブルデューなど)		
	テキスト・参考文献は、該当箇所を各自であらかじめ読んでおいて、問題意識を持って授業に参加してください。読んだ箇所は、要点を自分なりの言葉でまとめておきましょう。	60	

第4回	メディアの効果研究 ゲームが人に及ぼす影響	
	テキスト・参考文献は、該当箇所を各自であらかじめ読んでおいて、問題意識を持って授業に参加してください。読んだ箇所は、要点を自分なりの言葉でまとめておきましょう。	60
第5回	レジャー産業とビデオゲームの歴史 メディア史と産業との関わりを検討する	
	テキスト・参考文献は、該当箇所を各自であらかじめ読んでおいて、問題意識を持って授業に参加してください。読んだ箇所は、要点を自分なりの言葉でまとめておきましょう。	60
第6回	ゲームセンターのドラマトゥルギー 相互行為を考える	
	テキスト・参考文献は、該当箇所を各自であらかじめ読んでおいて、問題意識を持って授業に参加してください。読んだ箇所は、要点を自分なりの言葉でまとめておきましょう。	60
第7回	コミュニケーション・ノート 公共圏を考える	
	テキスト・参考文献は、該当箇所を各自であらかじめ読んでおいて、問題意識を持って授業に参加してください。読んだ箇所は、要点を自分なりの言葉でまとめておきましょう。	60
第8回	イラスト・ノート 自己と他者	
	テキスト・参考文献は、該当箇所を各自であらかじめ読んでおいて、問題意識を持って授業に参加してください。読んだ箇所は、要点を自分なりの言葉でまとめておきましょう。	60
第9回	伝言板 メディアとしての落書き	
	テキスト・参考文献は、該当箇所を各自であらかじめ読んでおいて、問題意識を持って授業に参加してください。読んだ箇所は、要点を自分なりの言葉でまとめておきましょう。	60

第10回	オンラインゲーム インターネットと「廃人」問題	
	テキスト・参考文献は、該当箇所を各自であらかじめ読んでおいて、問題意識を持って授業に参加してください。読んだ箇所は、要点を自分なりの言葉でまとめておきましょう。	60
第11回	プリクラ・写真・ケータイ 記憶をめぐる冒険	
	テキスト・参考文献は、該当箇所を各自であらかじめ読んでおいて、問題意識を持って授業に参加してください。読んだ箇所は、要点を自分なりの言葉でまとめておきましょう。	60
第12回	カジュアル化とソーシャルゲーム 手軽に遊べるゲームがもたらした文化	
	テキスト・参考文献は、該当箇所を各自であらかじめ読んでおいて、問題意識を持って授業に参加してください。読んだ箇所は、要点を自分なりの言葉でまとめておきましょう。	60
第13回	オンライン化するゲームセンター デジタルと場の意味	
	テキスト・参考文献は、該当箇所を各自であらかじめ読んでおいて、問題意識を持って授業に参加してください。読んだ箇所は、要点を自分なりの言葉でまとめておきましょう。	60
第14回	e-スポーツとゲーム実況 デジタルと身体	
	テキスト・参考文献は、該当箇所を各自であらかじめ読んでおいて、問題意識を持って授業に参加してください。読んだ箇所は、要点を自分なりの言葉でまとめておきましょう。	60
第15回	総括	
	テキスト・参考文献は、該当箇所を各自であらかじめ読んでおいて、問題意識を持って授業に参加してください。読んだ箇所は、要点を自分なりの言葉でまとめておきましょう。	60

授業の方法

講義形式で行います。講義は、映像や写真を用いて視覚的に理解できるよう構成し、SNSを活用して問題意識を明確化していく予定です。

成績評価の方法

定期試験100%、任意レポートをプラス α （授業中に指示します）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

『ゲームセンター文化論——メディア社会のコミュニケーション』加藤裕康、新泉社

参考書

『文化社会学入門』井上俊、長谷正人編、ミネルヴァ書房
『文化社会学の視座——のめりこむメディア文化とそこにある日常の文化』南田勝也、辻泉編、ミネルヴァ書房
『デジタルの際——情報と物質が交わる現在地点』河島茂生編、聖学院大学出版会
『ポピュラー文化論を学ぶ人のために』ドミニク・ストリナチ、世界思想社
『テレビゲームと子どもの心——子どもたちは凶暴化していくのか?』坂元章、メタモル出版
『人はなぜ形のないものを買うのか——仮想世界のビジネスモデル』野島美保、NTT出版
『情報倫理の挑戦——「生きる意味」へのアプローチ』河島茂生、竹之内禎編、学文社
その他、授業中に適宜、紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	スポーツ社会学		
教員名	渡 正		
科目ナンバー	1251445206	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
本講義の目的は、スポーツという社会的・文化的現象を通して、私たちの生きるこの社会についての洞察を深めることである。社会的現象としてのスポーツは、単に競技やレジャーにおける実践としてあるわけではなく、さまざまな意味や価値が付与されたものであり、私たちの生きる社会そのものでもある。そのため本講義では、スポーツそのものが抱える文化的・社会的意義や課題を理解することを目指すとともに、現代社会においてスポーツという現象が占める社会的位置について学習することで、スポーツそのものと社会についておよび両者のつながりについて理解を深める。			
到達目標			
・スポーツ社会学の基礎的な知識や考え方を理解し説明することができる。 ・スポーツの意義や課題を社会的な視点から考察することができる。 ・スポーツを通して現代社会の特質や課題を説明することができる。 ・以上の点から、社会とスポーツの関係について考察することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	【オリエンテーション+スポーツ社会学の概要】 ガイダンス（授業の概要・成績評価の方法）やスポーツ社会学/社会学という学問領域の説明		
	【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。 【復習】 講義で提示する本時のテーマに関わる課題に取り組み、ポータルサイト上あるいは次回授業時に提出する。	60	
第2回	【社会学的想像力の発揮】 スポーツマンガと社会の関連性を考える。社会学的視点の応用をデモンストレーションする。		
	【予習】 前回授業時提示する予習課題に取り組み、授業テーマに関する基礎的知識を学んでおく。 【復習】 講義で提示する本時のテーマに関わる課題に取り組み、ポータルサイト上あるいは次回授業時に提出する。	60	
第3回	【スポーツの成立と発展】 近代社会の成立と近代スポーツの成立について考える。特に両者の特徴および両者の並行性や「近代」という時代について考える。		
	【予習】 前回授業時提示する予習課題に取り組み、授業テーマに関する基礎的知識を学んでおく。 【復習】 講義で提示する本時のテーマに関わる課題に取り組み、ポータルサイト上あるいは次回授業時に提出する。	60	

第4回	【スポーツと階級性】 近代スポーツのもつ特徴である、スポーツマンシップやアスレティズムといった概念がどのような社会において産まれたのかを考える。	
	【予習】 前回授業時提示する予習課題に取り組み、授業テーマに関する基礎的知識を学んでおく。 【復習】 講義で提示する本時のテーマに関わる課題に取り組み、ポータルサイト上あるいは次回授業時に提出する。	60
第5回	【近代オリンピック】 近代オリンピックはいかなる理由によって誕生し、そこにはどんな特徴があるのかを考える。また、オリンピックムーブメントとオリンピック憲章についての理解を深める。	
	【予習】 前回授業時提示する予習課題に取り組み、授業テーマに関する基礎的知識を学んでおく。 【復習】 講義で提示する本時のテーマに関わる課題に取り組み、ポータルサイト上あるいは次回授業時に提出する。	60
第6回	【オリンピックと都市】 第2次大戦後から現代におけるスポーツと都市（開発）について概観する。特に1964年、72年、98年とこれまでに日本で行われたオリンピックと都市の問題に着目し、2020年のオリンピック・パラリンピックについて理解を深める。	
	【予習】 前回授業時提示する予習課題に取り組み、授業テーマに関する基礎的知識を学んでおく。 【復習】 講義で提示する本時のテーマに関わる課題に取り組み、ポータルサイト上あるいは次回授業時に提出する。	60
第7回	【スポーツのグローバリゼーション】 イギリスで誕生したスポーツはどのように現在のような全世界的な社会的・文化的現象へと変化していったのか。またそれによってスポーツの特徴にはどのような変化があったのかを考える。	
	【予習】 前回授業時提示する予習課題に取り組み、授業テーマに関する基礎的知識を学んでおく。 【復習】 講義で提示する本時のテーマに関わる課題に取り組み、ポータルサイト上あるいは次回授業時に提出する。	60
第8回	【スポーツとナショナリズム】 スポーツが生む熱狂はどのような社会的効果をもつだろうか。特に、「国」を代表すること、「〇〇人」であることとは、いかなることかというナショナリズム・ナショナルアイデンティティの観点から考える。	
	【予習】 第7回までの授業内容について確認しておく。 【復習】 修得できていなかった内容について確認し理解に務める。	60
第9回	【スポーツと政治】 スポーツは決して純粋無垢な現象ではない。1936年のベルリン・オリンピックはナチスドイツのユダヤ人迫害を隠蔽するために政治利用された。あるいは、スポーツ自体が人種差別などのさまざまな社会的な問題を発露させてきた。こうしたスポーツと政治について考える。	
	【予習】 前回授業時提示する予習課題に取り組み、授業テーマに関する基礎的知識を学んでおく。 【復習】 講義で提示する本時のテーマに関わる課題に取り組み、ポータルサイト上あるいは次回授業時に提出する。	60

第10回	【スポーツとメディア・消費社会】 スポーツとメディアは現在ではお互いがお互いを必要としている相互依存的なものである。このメディアの存在はスポーツにとってどのようなものであるのかを考える。	
	【予習】 前回授業時提示する予習課題に取り組み、授業テーマに関する基礎的知識を学んでおく。 【復習】 講義で提示する本時のテーマに関わる課題に取り組み、ポータルサイト上あるいは次回授業時に提出する。	60
第11回	【ジェンダー・セクシュアリティとスポーツ】 スポーツにおいてジェンダーやセクシュアリティはどのように扱われてきただろうか。また逆にジェンダーやセクシュアリティの観点からスポーツをどのように捉えることができるだろうか。こうした「性」のあり様とスポーツの関連を考える。	
	【予習】 前回授業時提示する予習課題に取り組み、授業テーマに関する基礎的知識を学んでおく。 【復習】 講義で提示する本時のテーマに関わる課題に取り組み、ポータルサイト上あるいは次回授業時に提出する。	60
第12回	【パラリンピックと日本】 パラリンピックとはなんだろうか。パラリンピックの開催は日本社会にどのような影響を与えてきたのか。日本社会はパラリンピックや障害者スポーツをどのように捉えてきたのかを考える。	
	【予習】 前回授業時提示する予習課題に取り組み、授業テーマに関する基礎的知識を学んでおく。 【復習】 講義で提示する本時のテーマに関わる課題に取り組み、ポータルサイト上あるいは次回授業時に提出する。	60
第13回	【障害者スポーツ】 障害者スポーツとはいったいどのような営みなのか。そしてそれは、「近代スポーツ」とどのような関係を切り結んで来て、今後どうなっていくべきなのか。障害者スポーツという現象それ自体を考えるとともに、そこからスポーツそれ自体の未来も考える。	
	【予習】 前回授業時提示する予習課題に取り組み、授業テーマに関する基礎的知識を学んでおく。 【復習】 講義で提示する本時のテーマに関わる課題に取り組み、ポータルサイト上あるいは次回授業時に提出する。	60
第14回	【日本の体育・スポーツ】 日本において、体育・スポーツはどのように開始されたのか。また、日本の体育・スポーツの文化的特質とは一体どのようなものだろうか。日本のスポーツの特徴や部活動の在り方、体育の意味を社会的に考察する。	
	【予習】 前回授業時提示する予習課題に取り組み、授業テーマに関する基礎的知識を学んでおく。 【復習】 講義で提示する本時のテーマに関わる課題に取り組み、ポータルサイト上あるいは次回授業時に提出する。	60
第15回	【システム論からみたスポーツ】 これまで見てきたように、スポーツは社会と密接に関連している。では、こうしたスポーツ自体は社会にたいしてどのような影響を与えているのだろうか。本時では、現代社会におけるスポーツの社会的機能を社会システム論という視点から考察する。	
	【予習】 前回授業時提示する予習課題に取り組み、授業テーマに関する基礎的知識を学んでおく。 【復習】 講義で提示する本時のテーマに関わる課題に取り組み、ポータルサイト上あるいは次回授業時に提出する。	60

授業の方法

各回のテーマに即した資料（スライド・ビデオ・配布資料等）や教科書を用いながら、基本的には講義形式で授業を進める。ただし、出来る限り受講生同士の能動的な学習（ワーク）やディスカッションの時間を設けるためノートパソコンやタブレットPC等を積極的に活用すること。

授業計画は進行状況により多少前後したり変更したりする場合がある。

授業は原則として1回に一つのテーマで実施するが、それぞれは相互に関連するため、テーマごとのつながりを意識してほしい。

成績評価の方法

授業中の取り組み（出席課題や授業中のワークへの取り組み）：30%

授業外の取り組み（事前課題・事後課題への取り組み）：20%

中間・最終レポート／試験：50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

- ・提示されたり指示されたりしたワークやディスカッションに積極的に取り組んでいるか。
- ・スポーツにかかわる諸現象について社会的な視点から理解・考察し説明できるか。
- ・スポーツが内包する現代的な課題を理解し説明することができるか。
- ・現代社会の課題や可能性について、スポーツを具体例として理解・考察し説明することができるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に必要としないが、現代社会学科開設科目における学修内容は本講義にも深く関連するため、これまでの学修を自ら積極的に活用してほしい。

講義のスライドおよび必要な資料等は適宜ポータルサイトにアップロードするため、授業の予習・復習等のため頻繁にチェックし活用すること。

テキスト

多木浩二（1995）『スポーツを考える』ちくま新書 821円

参考書

井上俊・菊幸一編著（2012）『よくわかるスポーツ文化論』ミネルヴァ書房。

井上俊・亀山佳明編（1999）『スポーツ文化を学ぶ人のために』世界思想社。

日本スポーツ社会学会編（2013）『21世紀のスポーツ社会学』創文企画。

上記以外にも授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了時に教室で受け付けるとともに、随時、電子メールやポータルサイト上でも受け付ける。

科目名	経済社会学		
教員名	藤原 翔		
科目ナンバー	1251445207	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
経済社会学は経済現象や経済的行為を社会的にとらえる社会学の一領域である。すでに経済学が経済を対象とした固有の方法として存在しているが、本講義では社会学（者）がどのように経済現象や経済的行為にアプローチしてきたのか、その歴史の変遷を示したうえで、現代における経済社会学の関心およびその意義を明らかにする。講義では経済社会学の理論的な側面だけではなく、様々なトピック（例えば制度、ネットワーク、ジェンダー、労働、社会階層、家族、教育、学校など）を取り上げた上で、現代社会の諸問題に関する理論的な見方そして社会調査や実験による測り方についての理解を深める。なお、受講者の関心に従って内容を変更する場合もあるので、初回のガイダンス時に積極的に関心や問題意識を示してもらいたい。			
到達目標			
(1) 経済社会学の歴史の変遷をおさえる (2) 現代における経済社会学の特徴とアプローチを理解する (3) 関心のある社会・経済的現象について、経済社会学の理論や方法を適用する 知識を身につけるだけではなく、それを活用した社会の見方を習得することを目標とする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業で扱う内容、進め方、復習の仕方、コメントシートの書き方、評価の方法を説明する。 受講者の関心について把握する。		
	【予習】第1回目の授業で皆さんには経済や社会と関連した各自の関心をコメントシートに記入し、提出してもらうので、論文、著書、ニュースなどをみて、準備をしてください。		60
第2回	経済社会学の特徴 ・社会学は経済学的に、経済学は社会的になっているという見方もあり、両分野の垣根は低くなっているともいわれています。その上で、どのような関心の違いや特徴があるのかを明らかにする。		
	【復習】経済学的なトピックと考えられているものを調べる。それに対して社会学がどのようにアプローチしてきたのか（してこなかったのか）Google ScholarやCiNiiなどで調査する。		60
第3回	経済社会学の過去と現在 ・社会学者がどのように経済現象にとりくんできたのかを明らかにし、その一般的な関心を共有する。また近年の経済社会学の動向を紹介する。		
	【復習】関心のあるトピックについて重点的に調べてみる。		60

第4回	経済社会学の重要トピック1 ・マクロ社会学的視点からみた経済について検討する。	
	【復習】とりあげた複数のトピックのうち、1つをとりあげ重点的に調べる。	60
第5回	経済社会学の重要トピック2 ・経済制度と経済行動の社会学について検討する。	
	【復習】とりあげた複数のトピックのうち、1つをとりあげ重点的に調べる。	60
第6回	経済社会学の重要トピック3 ・企業、組織、産業の社会学について検討する。	
	【復習】とりあげた複数のトピックのうち、1つをとりあげ重点的に調べる。	60
第7回	経済と社会の見方・測り方 ・社会をモデルでみるための方法を中心に説明する。	
	【復習】とりあげた複数の方法のうち、1つをとりあげ重点的に調べる。	60
第8回	前半のまとめ・中間試験	
	【予習】これまでの講義内容を踏まえて、キーワードや方法などについて、説明できるようにすること。基本的な理解度を確認する。	120
第9回	仕事、職業の社会学1 ・これまで社会学が仕事や職業にどのようにアプローチしてきたのかを説明する。また近年の格差論との関連も明らかにする。 ・中間試験の結果についての説明も行う。	
	【復習】格差のメカニズムを複数の視点からとらえる。	60

第10回	仕事、職業の社会学2 ・職業、仕事、階級がひとびとの経済生活とどのように関連しているのかを明らかにする。	
	【復習】格差生成のメカニズムをモデルとして示す。	60
第11回	教育制度の社会学 ・学校と他の制度との関連を明らかにする。またジェンダーの問題についても同時に扱う。	
	【復習】日本における学校制度がもし今と異なっていたら、人々の行為にどのような変化が見られるのかを理論的に予測する。	60
第12回	文化と消費の社会学 ・文化と消費における格差の実態とメカニズムを説明する。	
	【復習】ある文化的活動や消費について、なぜ階層的な格差が生じるのかについて複数のメカニズムを考える。また授業で扱わなかった活動・消費について予測する。	60
第13回	国際比較からみた経済と社会 ・国際比較の視点から、経済と社会にアプローチする方法を、実証分析を例に示す。	
	【復習】関心のある国の制度を調べ、日本とどのような違いがあるのか、またそれが人々の行為にどのように異なる影響を与えうるのかを考える。	60
第14回	到達度確認テスト	
	【予習】これまでの講義内容を踏まえた上で、経済社会学の扱ってきた問題を理解すること。各自の関心について、経済社会学的アプローチを適用すること。	180
第15回	到達度確認テストについてのコメントおよび授業のまとめ	
	【復習】コメントとまとめを踏まえて、到達度確認テストで不十分であった点を理解する。	60

授業の方法

配布資料を基に講義形式で行うが、受講生からの質問・疑問を歓迎する。授業終了時にコメントペーパーを配布し、授業内容を踏まえた上でのコメントを提出することが求められる。中間試験と最終授業内試験については、必ず授業の内容を踏まえた上で解答する必要がある。

成績評価の方法

授業内のコメントペーパー（40%）、中間試験（20%）、最終授業内試験（40%）による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。必要な資料については授業時に配布する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	科学技術の社会学		
教員名	河村 賢		
科目ナンバー	1251445208	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
現代社会は、一国の政策から一人の人生における意思決定まで、あらゆる場面において科学的知識が用いられるようになったことによって特徴づけられます。現代社会を生きる我々も、単に科学的知識を身につけるだけでなく、何が科学的知識であり、何が科学的知識ではないかをその都度実践的に見分けることが要求されています。本講義では科学と疑似科学をどのようにして区別するかという問題に対して、これまでの科学哲学・科学社会学がどのように取り組んできたかを学んだ後、地球温暖化・原発問題・歴史修正主義といった自然科学・社会科学にまたがる具体的な問題を題材に、科学と疑似科学の境界はいかにして引くことができるのかを考えます。			
到達目標			
科学的知識のあり方が、社会的文脈によって強く規定されていることを理解できるようになること。同時にそれぞれの文脈において科学と疑似科学は実践的に区別できるということを学ぶこと。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	「ガイダンス」 ・授業の進め方と、成績評価について説明します。		
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ授業の形式を把握しておいてください。		30
	【復習】授業の全体像や進め方、評価基準等について確認してください。		30
第2回	「近代科学の成立」 ・ヨーロッパにおける科学の制度化について知り、科学者集団の性質について考えます。		
	【復習】返却されたレポートを、コメントを踏まえて修正しつつ、電子ファイルに打ち直していただくことを勧めます。また、他の学生のレポートを見て考えたことを、再度文章にしておくのもよいでしょう。		60
第3回	「境界確定問題：科学と疑似科学」 ・科学と疑似科学の境界を明確に区別するためにはどうしたらよいのかという問題関心が科学哲学においてどのようにして生まれてきたのかを学び、そうした考えの有効性と限界について幾つかの事例をもとに考えます。		
	【復習】返却されたレポートを、コメントを踏まえて修正しつつ、電子ファイルに打ち直していただくことを勧めます。また、他の学生のレポートを見て考えたことを、再度文章にしておくのもよいでしょう。		60

第4回	「科学と反証可能性」 ・科学と疑似科学を分ける基準として提示された反証可能性の概念と、それに対する批判について学びます。	
	【復習】返却されたレポートを、コメントを踏まえて修正しつつ、電子ファイルに打ち直してみることを勧めます。また、他の学生のレポートを見て考えたことを、再度文章にしておくのもよいでしょう。	60
第5回	「科学とパラダイム」 ・科学哲学者トマス・クーンが導入したパラダイム論の基本的な考え方を学びます。	
	【復習】返却されたレポートを、コメントを踏まえて修正しつつ、電子ファイルに打ち直してみることを勧めます。また、他の学生のレポートを見て考えたことを、再度文章にしておくのもよいでしょう。	60
第6回	「科学の社会学」 ・科学的知識の生産過程において社会的要因が効いていることを論じてきた科学社会学の潮流について学びます。	
	【復習】返却されたレポートを、コメントを踏まえて修正しつつ、電子ファイルに打ち直してみることを勧めます。また、他の学生のレポートを見て考えたことを、再度文章にしておくのもよいでしょう。	60
第7回	「実践としての科学」 ・実験室において実験や観測といった実践がいかにして行なわれているかをフィールドワークによって調べることで、科学という実践の特徴を記述しようとしたエスノメソドロジーの達成について学びます。	
	【復習】返却されたレポートを、コメントを踏まえて修正しつつ、電子ファイルに打ち直してみることを勧めます。また、他の学生のレポートを見て考えたことを、再度文章にしておくのもよいでしょう。	60
第8回	地球温暖化問題（1） ・地球温暖化問題の概要と、「地球温暖化問題など本当は存在しない」とする懐疑派の議論について検討します。	
	【復習】返却されたレポートを、コメントを踏まえて修正しつつ、電子ファイルに打ち直してみることを勧めます。また、他の学生のレポートを見て考えたことを、再度文章にしておくのもよいでしょう。	60
第9回	地球温暖化問題（2） ・地球温暖化問題に対する懐疑派の議論を批判的に検討することで、科学と疑似科学を実践的に区別するために必要なことは何かを学びます。	
	【復習】返却されたレポートを、コメントを踏まえて修正しつつ、電子ファイルに打ち直してみることを勧めます。また、他の学生のレポートを見て考えたことを、再度文章にしておくのもよいでしょう。	60

第10回	原発問題（１） ・ 原発推進／脱原発という議論の対立を概観した後、両陣営においてしばしば疑似科学的な知識が紛れ込む実態について学びます。	
	【復習】返却されたレポートを、コメントを踏まえて修正しつつ、電子ファイルに打ち直してみることを勧めます。また、他の学生のレポートを見て考えたことを、再度文章にしておくのもよいでしょう。	60
第11回	原発問題（２） ・ 原発推進／脱原発という議論の対立において、科学と疑似科学を実践的に区別するために必要なことは何かを学びます。	
	【復習】返却されたレポートを、コメントを踏まえて修正しつつ、電子ファイルに打ち直してみることを勧めます。また、他の学生のレポートを見て考えたことを、再度文章にしておくのもよいでしょう。	60
第12回	歴史修正主義（１） ・ ナチスドイツによるホロコーストの実在性を否定するなど、自国の過去の戦争犯罪を否認するタイプの議論は歴史修正主義と呼ばれます。ドイツや日本の事例をもとに、歴史修正主義の主張においていかにして疑似科学的な主張が用いられているのかを学びます。	
	【復習】返却されたレポートを、コメントを踏まえて修正しつつ、電子ファイルに打ち直してみることを勧めます。また、他の学生のレポートを見て考えたことを、再度文章にしておくのもよいでしょう。	60
第13回	歴史修正主義（２） ・ 歴史修正主義の問題において、科学と疑似科学を実践的に区別するために必要なことは何かを学びます。	
	【復習】返却されたレポートを、コメントを踏まえて修正しつつ、電子ファイルに打ち直してみることを勧めます。また、他の学生のレポートを見て考えたことを、再度文章にしておくのもよいでしょう。	60
第14回	現代社会とテロリズム ・ いまなお続く国際テロリズムの問題において、科学的知識が対テロ政策を形成するにあたって果たしてきた役割について批判的に検討します。	
	【復習】返却されたレポートを、コメントを踏まえて修正しつつ、電子ファイルに打ち直してみることを勧めます。また、他の学生のレポートを見て考えたことを、再度文章にしておくのもよいでしょう。	60
第15回	まとめ ・ 成績評価について報告し、授業全体を総括します。	
	【復習】返却されたレポートを、コメントを踏まえて修正しつつ、電子ファイルに打ち直してみることを勧めます。また、他の学生のレポートを見て考えたことを、再度文章にしておくのもよいでしょう。	60

授業の方法

毎回の90分の授業のうち、60～70分程度講義を行い、その後20～30分程度時間をとって、A5一枚のミニレポートを作成してもらいます。毎回のミニレポートを3～0点で評価し、次回の授業のレポート提出時に返却します（前回欠席した場合は、前々回のレポートを返却します）。最終レポートや試験は行いません。

成績評価の方法

すべてのレポートの合計点で成績評価をします。5回以上欠席した場合は、単位を認定しません。また、最終回には出席して、それまでに提出したレポートを受け取るようにしてください。どうしても受け取れない場合は、事前に連絡してください。提出したレポートをすべて受け取らなければ単位を認定しません。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。

テキスト

特に指定しません。

参考書

伊勢田哲治、2002年、『疑似科学と科学の哲学』名古屋大学出版会。また各トピックに関連する参考文献は授業内で適宜指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

随時、電子メール（kawamura0823@gmail.com）で受け付けます。また授業終了後に教室でも受け付けます。

科目名	グローバリゼーションの社会学		
教員名	中田 英樹		
科目ナンバー	1251445209	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
今日、あちこちでグローバリゼーションなどよく聞くようになったが、いったいこれは、この日常の何がどうなることか。とりわけ戦後高度成長期以降の20世紀末を経て現在に至り、何がその結果としてもたらされてきたのかを考える。 日系ブラジル人や中国人研修生・留学生といった多様な国籍や文化を生きてきた人たちが、ごくごく身近なコンビニやスーパーなどで一緒に暮らすようになった、この「多文化共生」「多民族共存」の現代社会。そして、「若者の貧困」や「非正規雇用」、「派遣切り」といった、新自由主義がグローバルに展開するなか、より一層、貧困問題は悲惨なニュースをもたらし、生き延びることに困難を抱えるようになった私たちのこの格差社会。 こうした、私たちの生きる、あるいはこれから生きようとする現代社会が、どのような時代経てきたのかを考え、学生の一人一人において、これから飛び込んでいく社会とはどのようなものなのだろうか。グローバリゼーションという大きな視野を踏まえつつ、自ら主体的に考えられることが、この授業のメインテーマである。			
到達目標			
日本と中南米との間を行き来した移住者たちのつくってきた地域社会を事例とながら、とりわけ日本とラテンアメリカの関係に焦点を置いたグローバリゼーションの世界的動向についての基礎的知識や、学問的な諸概念を習得してもらう。 また、本授業での対象たるラテンアメリカという「遠い異国の世界」を愉しむという授業ではなく、学生自身の身近なバイトや大学での生活に響くような授業をするので、身近な日常生活に、大きなグローバリゼーションによる諸現象を感じ取る力を身につけて頂きたい。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション（本授業の構成とレポート作成についての解説、授業に臨む際の注意事項等の説明）		
	予習に関してはとくにないが、復習として、授業で触れた事項に関して、自分で身近な例（民族や国籍に起因したコンフリクト）をひとつ見つけだすこと。	60分	
第2回	グローバリゼーションにおける人の移動と移入者排斥という社会問題 —— 私たちの生きる多文化主義の時代を考える		
	予習は不要。復習として、授業内容を自らの興味のある側面から論じ、リアクションペーパーに記入して提出すること。	60分	
第3回	東日本大震災を経た日本社会での外国人の取ったアクション —— 「被災地へ送られてきた百万丁の豆腐」		
	自らの経験を思い出し、何か、震災後に外国人に関して、何か社会的なニュースがあったか調べてみる。復習は上に同じ。	60分	

第4回	明治期のラテンアメリカへの移住民が作った地域社会を考える① ——メキシコへの移民の事例から（定住農民社会と移動商人社会）	
	明治期に日本から多くの日系移民を、アメリカ大陸に送ってきたことは知られている。ネットでもいいので、関連記事にいくつか目を通しておくこと。復習は同上。	60分
第5回	ブラジル側での日系人移民受け入れ施策の変化と日本の帝国主義 ——「放っておくと我がブラジルは第二の満州になる」	
	日本における日系ブラジル人について、自分なりに調べ、現代日本社会の一員として自らの考えを用意すること。復習同上。	60分
第6回	戦後の引揚者と戦後開拓移民・戦後海外移住施策：岩手県奥中山戦後開拓農村を事例として① ——一大軍馬産地だった奥中山	
	予習は不要。できれば、ネットなどで岩手のイメージを色々抱負にして授業に臨むこと。	60分
第7回	戦後の引揚者と戦後開拓移民・戦後海外移住施策：岩手県奥中山戦後開拓農村を事例として② ——奥中山の戦後開拓の過程と戦後農村施策の大規模化路線	
	予習は不要。復習としては、日本には数多の戦後開拓農村があるので、それらについて調べ、それらがどういう地にあるのか、自分なりに考えてみることに。	60分
第8回	戦後の引揚者と戦後開拓移民・戦後海外移住施策：岩手県奥中山戦後開拓農村を事例として③ ——岩手からの海外への戦後移住を考える	
	予習はとくに不要。復習としては、次週から南米の話になるので、この奥中山という事例を時系列的に振り返っておくこと。	90分
第9回	高度経済成長とラテンアメリカの日系社会 ——「世界システム」における日本高度成長期の特徴	
	日本の「高度成長期」とはどのような時代なのか、について、自分のイメージを持って授業に臨むこと。復習は授業のおさらい。	60分

第10回	日本社会の少子高齢化と農村の過疎化 —— グローバリゼーションの「世界システム」と日本農業の国際化	
	予習はとくに必要ない。復習は授業内容をよく把握しておくこと。次週からのミクロなパラグアイの事例紹介の見取り図となる。	60分
第11回	パラグアイでの日系移民の自給農業における奮闘 —— 「ペオン peon」という現地パラグアイ人日雇い人夫の視点	
	予習は不要。復習としては、この日の授業を踏まえて、次回12回の予習を充実させること。	60分
第12回	自由貿易協定の世界的展開と地域の伝統的食文化や農業の変容——パラグアイにおける大豆の大規模栽培化・機械化と遺伝子組み換え大豆の問題	
	「自由貿易協定」概念について調べること。復習は授業の復習。	90分
第13回	「デカセギ」をとして日本に来るようになった人たちの背景 —— 入管法改正・研修制度改正・派遣法改正	
	自らの日本現代社会のことなので、とにかく復習に専念すること。	90分
第14回	海外への日系移民排出から途上国への「開発援助」という新たな動き —— 戦後海外移民施策→海外の途上国への国際協力	
	上に同じ	90分
第15回	総括 「棄民」を考える —— 統治の学としての地域研究ではない開かれた「グローバリゼーションの社会学」へ	
	十分に15回のシリーズを振り返っておくこと。	60分

授業の方法

- ・授業は、大半において、パワーポイントを使用する。
- ・また、各回の授業において言及するテーマを掘り下げて論じた文献や論文、あるいはインターネット・ページの一覧などを、資料として配付する。

成績評価の方法

本授業の最終第15回授業終了時刻を締切（厳守）として、（できればSEIKEI PORTALで）課題レポートを提出してもらい、通常授業のレポートと合わせて成績評価の基準とする。詳しくは第1回目の授業の際に説明するので、受講する学生は初回時には必ず出席すること。

成績評価は、このレポートにおおくを参考とするが、授業への参加度も加味したい。授業の各回でのコメントペーパーにはE-learningを用いる。コメントペーパーは、授業への参加度として評価対象とする。

学生各々の成績は、メインとなる「レポート」や「課題レポート」などを合算して評価する。配分としては、レポート（60%）／授業への参加度（40%）とする。レポートの課題は、初回の授業時に詳説するので（後日も要綱は常に入手可）。各回での授業は、「出席率」ではなく「参加姿勢」を評価において重視する。したがって、授業の初回でも述べるように、リアクションペーパーは一週間後を提出期限とするので、その間に毎回の授業を咀嚼して、自らの日常に接続させたリアクションペーパーをつくって提出すること。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
「自分自身で考えたレポートが作れているのか」という点を成績評価の基準とする。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

普段から、日本に暮らす外国人をめぐる諸問題（諸記事）はもとより、「在日朝鮮人」や「外国人研修生」といった、さまざまな「外国人」としての出来事や動向に関して、新聞やネットでのニュースに目を光らせておくこと。

テキスト

とくにテキストは指定しない。おもに授業は、各回の授業の簡単な進行のポイントを記し、写真や動画をもとに授業は構成されている。

参考書

野添憲治、1978年『海を渡った開拓農民』NHKブックス
野添憲治、1978年『原始林の日本人移民 南米・パラグアイ紀行』たいまつ社
瀬川深、2015年『SOY！大いなる豆の物語』筑摩書房
猪瀬浩平、2015年『原発とむら』農文協
中田英樹、2013『トウモロコシの先住民とコーヒーの国民 ——人類学が書きえなかった『未開』社会』（有志舎）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会福祉概論		
教員名	澁谷 智子		
科目ナンバー	1251445210	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
流動化が進む今日の社会の中で、私たちが、働いてお金を稼ぎ、心身の健康を保ち、子どもを育てていこうとする時、「健康で安心し、満足できる生活状態」を意味する「well-being」から学ぶことは多い。この授業では、社会福祉の基本的視点と体系、具体的な制度を学ぶことを通して、生活の質を良くする仕組みについて考える。			
到達目標			
DP2「課題の発見と解決」、DP7「問題発見能力および多面的な分析能力」を実現するため、以下の2点を到達目標とする。 ①日本の社会福祉の考え方と特徴、現在の問題を理解する。 ②福祉サービスの特徴と種類を知り、自分が利用する時にはどうするかを思い描けるようにする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	日本の社会保障制度の特徴と変遷		
	テキストの該当箇所を読み、プリントを復習する。	60	
第2回	社会保障の目的と機能		
	テキストの該当箇所を読み、プリントを復習する。	60	
第3回	現代の貧困		
	配布資料を読み、自分の考えをまとめる。	60	

第4回	社会福祉の法律	
	テキストの該当箇所を読み、プリントを復習する。	60
第5回	少子高齢化時代とライフコース	
	これまでの授業内容を受け、自分自身に引きつけながら、意見をまとめる。	60
第6回	家族・ジェンダーと社会福祉	
	授業の内容に即して、自分の意見をまとめる。	60
第7回	社会保険とは何か	
	テキストの該当箇所を読み、プリントを復習する。	60
第8回	公的年金制度・医療保険制度	
	テキストの該当箇所を読み、プリントを復習する。	60
第9回	雇用保険制度など、社会福祉の体系	
	テキストの該当箇所を読み、プリントを復習する。	60

第10回	ソーシャルワーク、高齢者福祉①	
	文献を読み、自分の意見をまとめる。	60
第11回	高齢者福祉②	
	文献を読み、自分の意見をまとめる。	60
第12回	障害者福祉	
	文献を読み、自分の意見をまとめる。	60
第13回	子ども家庭福祉	
	文献を読み、自分の意見をまとめる。	60
第14回	到達度確認テスト	
	これまでの学習内容を復習し、到達度確認テストに備える。	120
第15回	到達度確認テストの解説・質疑応答	
	到達度確認テストの結果を受けて、この授業を振り返り、さらなる理解に努める。	60

授業の方法

毎回プリントを配布し、必要に応じてインターネットや映像等を使いながら、講義を行う。

成績評価の方法

学期末の筆記試験（60％）と、授業中の課題（40％）で、総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目として、「社会福祉事業史」「地域福祉論」「老人福祉論」がある。

テキスト

授業で配布するプリント

厚生労働省，2017，『平成29年版 厚生労働白書』（インターネットで閲覧可能）。

参考書

山縣文治・岡田忠克編，2016，『よくわかる社会福祉 第11版』ミネルヴァ書房，2500円＋税。
最低賃金を引き上げる会，2009，『最低賃金で1か月暮らしてみました。』亜紀書房，1200円＋税。
湯浅誠，2008，『反貧困—すべり台社会からの脱出』岩波新書，740円＋税。
神原文子，2010，『子づれシングル—ひとり親家族の自立と社会的支援—』明石書店，2800円＋税。
など

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会福祉事業史		
教員名	三谷 宗一郎		
科目ナンバー	1251445211	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
現代社会には、様々な社会福祉制度が存在する。これらの制度はいつ、なぜ形成されたのか。どのような過程を辿って現在の姿になったのか。時として非合理的とも感じられる制度が、改革されずに長年にわたって存続しているのはなぜなのか。こうした制度・政策の過去の経緯をめぐる素朴な疑問を抱いたとき、それらの問いに対して、私たちは一体どのようにアプローチしたらよいのだろうか。この授業では、制度・政策の歴史的経緯を探究する方法論にも触れながら、欧米および日本の社会福祉制度の歴史について講義する。			
到達目標			
社会福祉分野における制度・政策の歴史や人物等に関する知識・理解を獲得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	社会福祉の歴史の概観		
	【復習】配布資料の復習		60
第2回	イギリスの社会福祉史①		
	【予習】テキスト第1章、第2章 【復習】配布資料の復習		60
第3回	イギリスの社会福祉史②		
	【予習】テキスト第3章、第4章 【復習】配布資料の復習		60

第4回	アメリカの社会福祉史	
	【予習】テキスト第4章、第8章 【復習】配布資料の復習	60
第5回	ドイツの社会福祉史／福祉国家の形成・発展	
	【予習】テキスト第9章 【復習】配布資料の復習	60
第6回	戦前日本の社会福祉史①—近代以前から明治期までの救済・慈善事業	
	【予習】テキスト第13章 【復習】配布資料の復習	60
第7回	戦前日本の社会福祉史②—近代社会福祉事業の形成	
	【予習】テキスト第13章 【復習】配布資料の復習	60
第8回	戦前日本の社会福祉史③—大正・昭和初期の制度発展	
	【予習】テキスト第13章 【復習】配布資料の復習	60
第9回	戦前日本の社会福祉史④—終戦前後の福祉制度	
	【予習】テキスト第14章 【復習】配布資料の復習	60

第10回	戦後日本の社会福祉史①—生活保護	
	【予習】 【復習】配布資料の復習	60
第11回	戦後日本の社会福祉史②—児童福祉	
	【予習】 【復習】配布資料の復習	60
第12回	戦後日本の社会福祉史③—母子福祉	
	【予習】 【復習】配布資料の復習	60
第13回	戦後日本の社会福祉史④—障がい者福祉	
	【予習】 【復習】配布資料の復習	60
第14回	戦後日本の社会福祉史⑤—高齢者福祉	
	【予習】 【復習】配布資料の復習	60
第15回	まとめ	
	【復習】これまでの復習	60

授業の方法

パワーポイントや映像資料等を用いた講義形式で行い、適宜授業内でディスカッションする。

成績評価の方法

学期末試験（60％）と授業レポート（40％）によって成績評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「社会福祉概論」「地域福祉論」「老人福祉論」を履修していることが望ましい。

テキスト

金子光一（2005）『社会福祉のあゆみ』有斐閣アルマ

参考書

清水教恵・朴光駿編著（2011）『よくわかる社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房
この他、講義中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	社会調査入門		
教員名	小林 盾		
科目ナンバー	1251445305	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を学ぶ.			

第4回	プライバシー，人権	
	【予習】教科書184～185ページを読む 【復習】教科書と配布プリントを再読する	60
第5回	世論操作	
	【復習】配布プリントを再読する	60
第6回	社会を量的に捉える（量的調査）	
	【復習】配布プリントを再読する	60
第7回	社会を質的に捉える（質的調査）	
	【復習】配布プリントを再読する	60
第8回	社会を複数の個体として捉える（統計的調査）	
	【復習】配布プリントを再読する	60
第9回	社会を1つの個体として捉える（事例研究法）	
	【復習】配布プリントを再読する	60

第10回	国の姿を調べる（国勢調査）	
	【復習】配布プリントを再読する	60
第11回	経済や生活を調べる（官庁統計）	
	【復習】配布プリントを再読する	60
第12回	人びとはどう考えているのか（世論調査）	
	【復習】配布プリントを再読する	60
第13回	人びとはなにを欲しがっているのか（市場調査）	
	【復習】配布プリントを再読する	60
第14回	世の中はいまどうなっているのか（学術調査）	
	【復習】配布プリントを再読する	60
第15回	まとめ	
	【復習】配布プリントを再読する	60

授業の方法

講義.

成績評価の方法

平常点, 提出物 (論文・レポートなど), 試験

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準 (学則第39条) に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

社会調査士資格の関連科目 (カリキュラムA)。課程登録者以外でも履修できます。

テキスト

金井雅之・小林盾・渡邊大輔編『社会調査の応用』弘文堂, ISBN: 978-4335551512

参考書

とくになし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会調査の方法		
教員名	渡邊 大輔		
科目ナンバー	1251445306	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を学ぶ。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決），6（文化現象の総合的理解）を実現するために，社会調査による資料収集について，基礎的知識と理論的枠組みを理解できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	【調査の企画 1～2】 調査目的を決める（調査目的）		
	【予習】教科書2-1を読む 【復習】調査の企画を考える		90
第2回	調査方法を決める（調査方法の決め方，調査企画と設計）		
	【予習】教科書2-1を再読する 【復習】調査の方法を計画する		90
第3回	【仮説構成 3～4】 仮説を立てる（仮説構成）		
	【予習】教科書2-2を読む 【復習】調査テーマを決め、仮説案を考える		90

第4回	仮説を確認する（仮説の検証）	
	【予習】教科書2-3を読む 【復習】仮説を明確に立てる	90
第5回	【サンプリング 5～7】 対象と地域を選定する（全数調査と標本調査，無作為抽出）	
	【予習】教科書2-6を読む 【復習】居住自治体とその隣接自治体の人口統計を調べる	90
第6回	標本を選ぶ（サンプリングの諸方法）	
	【予習】教科書2-6を読む 【復習】演習問題を解く	90
第7回	どれだけの標本が必要か（標本数と誤差）	
	【予習】配布資料を読む 【復習】演習問題を解く	90
第8回	【調査票の構成と質問文の作り方 8～10】 質問文を作る（ワーディング）	
	【予習】教科書2-4を読む 【復習】質問文を実際に作る	90
第9回	選択肢を作る（操作的定義，尺度）	
	【予習】教科書1-0-2，2-4を読む 【復習】質問文と選択肢のセットを作る	90

第10回	調査票を構成する（フェイスシート）	
	【予習】教科書2-5を読む 【復習】調査票全体の設計をする	90
第11回	【調査の方法 11～12】 実査の準備をする（実査の方法）	
	【予習】教科書2-7を読む 【復習】演習問題を解く	90
第12回	実施する（調査票の配布と回収法）	
	【予習】教科書2-7を読む 【復習】演習問題を解く	90
第13回	【調査データの整理 13～15】 データを集計する（エディティング、コーディング）	
	【予習】教科書2-8を読む 【復習】演習問題を解く	90
第14回	データを整理する（データクリーニング、コードブック作成）	
	【予習】教科書2-9を読む 【復習】調査の企画を考える	90
第15回	まとめ	
	【復習】配布プリントをすべて再読する	120

授業の方法

講義

成績評価の方法

平常点、提出物(論文・レポートなど)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

社会調査士資格の関連科目(カリキュラムB)。課程登録者以外でも履修できます。

テキスト

『社会調査の応用』, 金井雅之・小林盾・渡邊大輔編, 弘文堂

参考書

講義時に指示する

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する

科目名	量的調査入門（統計学）		
教員名	川端 健嗣		
科目ナンバー	1251445301	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
官庁統計や簡単な調査報告が読めるための基本的知識を学ぶ。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、社会調査データを用いた基本的な資料とデータの分析方法について理解し、また実際に分析を行い、データを解釈する能力を身につけることが目標となる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	(統計資料の整理) 1. 統計資料を整理する（既存統計資料の収集と読み方）		
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く		60
第2回	2. データを表にする（単純集計、度数分布）		
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く		90
第3回	3. データをグラフにする（グラフの読み方）		
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く		90

第4回	(記述統計) 4. データの代表を表現する1 (代表値, 平均)	
	【復習】教科書1-0-2と配布プリントを再読し、課題の演習問題を解く	90
第5回	5. データの代表を表現する2 (中央値, 最頻値)	
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90
第6回	6. データの散らばりを表現する1 (分散)	
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90
第7回	7. データの散らばりを表現する2 (標準偏差)	
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90
第8回	8. 違いを調べる (平均の比較)	
	【復習】教科書2-10と配布プリントを再読し、課題の演習問題を解く	90
第9回	(関連を調べる) 9. データから関連を読みとる (散布図, クロス集計表)	
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90

第10回	10. 関連を数値にする1（相関係数）	
	【復習】教科書2-11と配布プリントを再読し、課題の演習問題を解く	90
第11回	11. 関連を数値にする2（順序相関）	
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90
第12回	（因果関係と相関関係） 12. 原因を調べる（因果関係と相関関係の区別）	
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90
第13回	13. 見かけの原因を見ぬく（擬似相関）	
	【復習】教科書1-1と配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90
第14回	14. 隠れた原因を見つける（変数のコントロール）	
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90
第15回	15. まとめ	
	【復習】配布プリントをすべて再読し、間違えた演習問題をもう一度解く	120

授業の方法

基本的に講義。講義時に出题される課題を解くこと、講義の復習することが求められる。
ただしSPSS等の統計ソフトを用いた実習を行い、グループ・個人での小課題や発表を行う演習もありうる。

成績評価の方法

平常点, 提出物(論文・レポートなど), 試験

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

社会調査士資格の関連科目(カリキュラムC)だが、課程登録者以外でも履修できます。

テキスト

『社会調査の応用』, 金井雅之・小林盾・渡邊大輔編, 2012, 弘文堂, 2,400円

参考書

授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業中・授業後に教室で受け付ける。

科目名	質的調査入門（資料分析）		
教員名	今田 絵里香		
科目ナンバー	1151445302	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
質的調査のデータ収集方法と分析方法について学ぶ。フィールドワーク、インタビュー、ライフヒストリー分析、ドキュメント分析、内容分析について、その目的とデータ収集方法を理解する。また、実際にそれぞれの方法を用いて行われた調査を事例として参照し、それぞれの方法がどのような目的に適し、どのようなことを解明してきたのかを考察する。その後、質的調査の進め方について具体的に学ぶ。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、質的調査の技法と分析方法を習得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	質的調査とは何か：目的とデータ収集方法の種類		
	【復習】配布プリントを読み直す	60	
第2回	フィールドワーク1：目的とデータ収集方法		
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90	
第3回	フィールドワーク2：事例		
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90	

第4回	インタビュー1：目的とデータ収集方法	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第5回	インタビュー2：事例	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】フィールドワークかインタビュー調査を行ったミニレポートを書く	120
第6回	会話分析1：目的とデータ収集方法	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第7回	会話分析2：事例	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第8回	ライフストーリー分析1：目的とデータ収集方法	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第9回	ライフストーリー分析2：事例	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントを読み直し、会話分析かライフストーリー分析を用いたミニレポートを書く	90

第10回	ドキュメント分析：目的とデータ収集方法、事例	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第11回	内容分析1：目的とデータ収集方法	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第12回	内容分析2：事例	
	【予習】配布する参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直した上で、内容分析を使ったミニレポートを書く	120
第13回	質的調査の企画・設計	
	【予習】配布する参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントを読み直し、質的調査の企画・設計を行う。	120
第14回	質的調査のデータ収集・分析	
	【復習】質的調査を行う	120
第15回	質的調査の公表・倫理	
	【復習】配布プリントを読み直し、質的調査をレポートにまとめる	120

授業の方法

講義、および、演習形式。

成績評価の方法

提出物（論文・レポートなど。40%）、平常点（30%）、議論への貢献度（30%）によって、総合的に評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

社会調査士資格の関連科目（カリキュラムF）。課程登録者以外でも履修できます。

テキスト

とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

参考書

とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	量的調査法（統計分析）		
教員名	内藤 準		
科目ナンバー	1251445303	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、基礎的な統計学的知識を学ぶ。			
到達目標			
社会統計学について、基礎的知識と理論的枠組みを身につけることを目標とします。 DP2（課題の発見と解決）、DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、以下の到達目標を設定します。 (1) 実際の全国調査データを使用した実習を通じて、さまざまな社会的・文化的トピックについて総合的に理解する。（DP6） (2) 学生が自らの関心に照らして、具体的な社会問題を分析の課題として設定できる力を身につける。（DP2, DP7） (3) 各自の課題に対して、実際の全国調査データを用いた実習により、複数の分析手法と多面的な要因を考慮しつつ分析する能力を身につける。（DP2, DP7）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	関連を表す（相関係数）		
	【復習】教科書2-10と配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90	
第2回	原因はなにか1（疑似相関、変数のコントロール）		
	【復習】教科書1-1と配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90	
第3回	原因はなにか2（偏相関係数）		
	【復習】教科書1-3と配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90	

第4回	偶然を表現する（変数，期待値）	
	【復習】配布プリントを再読し、課題の演習問題を解く	90
第5回	データの形を調べる（正規分布）	
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90
第6回	標本から母集団を推定する（記述統計と推測統計，推定の理論）	
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90
第7回	平均を推定する（信頼区間）	
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90
第8回	3つの分布の違い（母集団分布，標本分布，標本平均の分布）	
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90
第9回	母集団ではどうなっているのか（検定の理論，中心極限定理，標準誤差）	
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90

第10回	仮説を立てる（帰無仮説と対立仮説，背理法）	
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90
第11回	データと仮説のずれを調べる（検定統計量，有意確率，帰無仮説の棄却）	
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90
第12回	検定での注意点（両側検定と片側検定，第一種の誤りと第二種の誤り）	
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90
第13回	母集団でも差はあるのか（平均の差の検定，比率の差の検定）	
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90
第14回	母集団でも関連はあるのか（独立性の検定）	
	【復習】配布プリントを読み、課題の演習問題を解く	90
第15回	まとめ	
	【復習】配布プリントをすべて再読し、間違えた演習問題をもう一度解く	120

授業の方法

講義。

成績評価の方法

提出物（論文・レポートなど）、平常点（授業への参加状況や課題の提出状況）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 /Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

社会調査士資格の関連科目（カリキュラムD）だが、課程登録者以外でも履修できます。

テキスト

『社会調査の応用』，金井雅之・小林盾・渡邊大輔編，弘文堂，2,400円

参考書

授業中に適宜指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業中・授業後に教室で受け付ける。

科目名	質的調査法（インタビュー）		
教員名	渡邊 悟史		
科目ナンバー	1151445304	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
質的調査を実際に自分で使えるようにするための課題解決型の授業です。ケーススタディやロールプレイを通して、とにかく聴けるようになる、文章を書けるようになる、という実践的な力を鍛えることにこだわります。マニュアル的な説明は行わず、ディスカッションによって授業を進めます。卒論やレポートのためにインタビューをやりたいのだけれど、教科書を見てもよくわからない。あるいは一回インタビューをやってみたのだけれど、どうもしっくりこない、うまく書けないといった人たち向けです。これまでの社会調査経験は問いません。実際のインタビューをもとにしたケースや研究成果を検討していくことでインタビューとはどのようなコミュニケーション様式なのかを考えましょう。			
到達目標			
1. ケース教材の検討によって質的調査法に関する実践的なスキルを身に着けます。一連の演習を通して、どのように社会的・学術的に意義のある知識を生み出すのかを考えます。 2. 質的調査を用いた学术论文を精読するスキルを身に着けます。他人の調査経験をしっかり「読む」ことは自身の調査経験を「読む」ために必須の作業です。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション ・全体の講義計画の説明 ・履修者の興味や関心の把握		
	シラバスを読んだうえで、日々疑問に思っていること、知りたいことをまとめてきてください。	10	
第2回	インタビュー調査① ・地域社会学を例に社会調査におけるインタビューの位置づけを考えます。		
	ケース教材の検討。	90	
第3回	インタビュー調査② ・動物政策を例にインタビュー調査の戦略的な構築を考えます。		
	ケース教材の検討。	90	

第4回	インタビュー調査③ ・いくつかのインタビューシーンを例に、インタビューに働いている社会的な力を検討します。	
	ケース教材の検討。	90
第5回	インタビュー調査④ ・インタビュー結果をどのように書き留めればよいのか、それをどのように文章にしていくなかを検討します。	
	ケース教材の検討。	90
第6回	インタビュー調査計画(仮)中間発表会 ・履修者の調査テーマを発表し、論評を互いに行います。	
	発表の準備。	120
第7回	研究事例① ・アメリカの家族の調査 ・調査計画の発表から実施までのリアルな経緯を実例を通して学びます。	
	リーディング教材を読み、予習問題を検討する。	90
第8回	研究事例② ・アメリカの家族の調査 ・得られたインタビューデータをどう文章化するのか実例を通して学びます。	
	リーディング教材を読み、予習問題を検討する。	90
第9回	研究事例③ ・人生経験を聴く意味 ・介護の現場や地域史などの実例を通じ、インタビュー調査が持つ社会的意味を考えます。	
	リーディング教材を読み、予習問題を検討する。	90

第10回	研究事例④ ・問題の現場に分け入る ・ブラック企業や公害などの事例を通じ、「社会問題」へのインタビュー調査によるアプローチ方法を考えます。	
	リーディング教材を読み、予習問題を検討する。	90
第11回	研究事例⑤ ・聴きにくいことを聴く ・インタビュー調査はどこまで踏み込んでよいのでしょうか。語りたくない過去は誰にでもあるはずです。	
	リーディング教材を読み、予習問題を検討する。	90
第12回	研究事例⑥ ・論文の表現を精査する ・語り手が口角を動かしたのを「彼は笑った」と書くのと「苦笑いした」と書くのではまったく意味が異なってきます。 ・事例を通して論文における表現のあり方を考えます。	
	リーディング教材を読み、予習問題を検討する。	90
第13回	インタビューの広がり① ・日常生活におけるインタビューとそのポリティクス：自己紹介、病院、就活	
	ケース教材の検討。	90
第14回	インタビューの広がり② ・植物にインタビューは可能か？：インタビューについての言葉	
	ケース教材の検討。	90
第15回	調査計画最終発表会 ・調査計画(仮)を発表し、論評し合います。	
	発表の準備。	120

授業の方法

- ・配布資料のリーディングや履修生の報告に基づいたディスカッション。並行して調査計画の作成を進めていただきます(実際に調査を行うか行わないかは任意です)。もちろんすでに調査をした結果を持ち込んでもらっても構いません。みんなで悩みましょう。
- ・履修者の上限は30名。超えた場合は選抜を行います。
- ・ミニ計画書は期間内ならばいつでも何回でも添削します。

成績評価の方法

ホームワーク(10回程度、40%)、授業中の積極的な発言(30%)、調査計画発表および2,000字のミニ計画書(30%)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

1. インタビュー・参与観察の強みと弱み、リスクを理解し、自身の調査方法の選択理由を説明できる。
2. 質的調査にもとづいた学術論文を批判的に論評できる。
3. 無理のない調査計画を立て、説得力のある形で発表することができる。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくにありません。ただし授業中に積極的に発言することが苦手な人は、苦手を克服する覚悟が必要です。

テキスト

PDF等にて配布します。

参考書

大門正克、2017、『語る歴史、聞く歴史』岩波書店。
六車由美、2012、『驚きの介護民俗学』医学書院。
渡辺靖、2004、『アフターアメリカ』慶應義塾大学出版会。
米澤穂信、2015、『王とサーカス』東京創元社。
その他授業中に紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に話しかけてください。メール(授業内にて公表)でもつねに受け付けます。

科目名	情報社会論		
教員名	西 兼志		
科目ナンバー	1251445401	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
現代社会は情報社会だと言われるようになって久しいですが、この講義では、毎回5個（程度）のキーワードを取り上げることで、現代の情報社会を理解できるようになることを目指します。			
到達目標			
D P 2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次のような到達目標を設定します：情報社会、さらに現代社会をメディア論の観点から位置づけられるようになること。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション		
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分	
第2回	キーワード1～5		
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分	
第3回	キーワード6～10		
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分	

第4回	キーワード11～15	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第5回	キーワード16～20	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第6回	キーワード 2 1～25	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第7回	キーワード26～30	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第8回	中間まとめ	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第9回	キーワード31～35	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分

第10回	キーワード36～40	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第11回	キーワード41～45	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第12回	キーワード46～50	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第13回	キーワード51～55	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第14回	キーワード56～60	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分
第15回	まとめ	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60分

授業の方法

講義形式で進めていきます。

（なお、授業内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）

成績評価の方法

期末レポート＝80%、コメントシートなど＝20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ・ 取り上げたキーワードを理解できているか。
- ・ その上で、各自の身の回りの現象を明らかにできるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に、ありません。

テキスト

ポータルサイトを通じて随時、配布します。

参考書

授業中に随時、指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	メディア文化論		
教員名	加藤 裕康		
科目ナンバー	1251445402	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
メディアを抜きにして現代を語ることはできません。私たちの文化はメディアとの関係のなかでのみ成り立つもの。では、文化はメディアからどのようにつくられ、メディアは文化からどのようにつくられるのでしょうか。この授業では、人間が複合的なメディアとともに歩んできたことをたどりながらメディアの捉え方を学んでいき、歴史の大きな流れとメディアとの関係に焦点を当てます。			
到達目標			
1. メディアのとらえ方について理解する。 2. メディアの大まかな歴史を知る。 3. メディア文化について関心を持ってもらう。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	半期の授業内容と評価方法などを説明し、メディアとは何かを講義する。		
	指定した教科書・参考文献を読み進め、ノートを作成すること。	60	
第2回	「書かれたもの」文字の誕生 メディアを考える際の第一歩である文字を扱う。		
	教科書・参考文献を読み、ノートを作成すること。また任意レポートに取り組む。	60	
第3回	ホメロスとプラトンのあいだ 文字が浸透し、文化に及ぼした影響とは何かを考察する。		
	教科書・参考文献を読み、ノートを作成すること。また任意レポートに取り組む。	60	

第4回	プレ・グーテンベルグ時代の写本と写字生 活版印刷術の誕生以前までの書物の歴史を扱う。	
	教科書・参考文献を読み、ノートを作成すること。また任意レポートに取り組む。	60
第5回	印刷と社会 (1) 活版印刷術誕生の社会的背景を探る。	
	教科書・参考文献を読み、ノートを作成すること。また任意レポートに取り組む。	60
第6回	印刷と社会 (2) 活版印刷術が社会や人びとに与えた影響はいかなるものだったのかを理解する。	
	教科書・参考文献を読み、ノートを作成すること。また任意レポートに取り組む。	60
第7回	新聞ジャーナリズム (1) 新聞の登場と、ジャーナリズムの萌芽としての公共圏を学ぶ。	
	教科書・参考文献を読み、ノートを作成すること。また任意レポートに取り組む。	60
第8回	新聞ジャーナリズム (2) 新聞ジャーナリズムの変遷過程を歴史的に検討する。	
	教科書・参考文献を読み、ノートを作成すること。また任意レポートに取り組む。	60
第9回	光の魔術と映画 映画誕生前後の視覚メディアと時代背景を検討する。	
	教科書・参考文献を読み、ノートを作成すること。また任意レポートに取り組む。	60

第10回	電気メディアの可能性 電気メディアが登場し、人々の生活がどのように変わりうるのかを理解する。	
	教科書・参考文献を読み、ノートを作成すること。また任意レポートに取り組む。	60
第11回	マス・メディアの時代 ラジオ、テレビといったマス・メディアが台頭した時代の足跡を辿る。	
	教科書・参考文献を読み、ノートを作成すること。また任意レポートに取り組む。	60
第12回	地球村の戦争と平和 マス・メディアが浸透した時代の報道を歴史的に検証する。	
	教科書・参考文献を読み、ノートを作成すること。また任意レポートに取り組む。	60
第13回	ネット・インキュナブラの時代 インターネットの登場は社会に何をもたらし、どう変わりうるのか。歴史を踏まえて考える。	
	教科書・参考文献を読み、ノートを作成すること。また任意レポートに取り組む。	60
第14回	ネット時代のリテラシー リテラシーとは何かを学ぶ。	
	教科書・参考文献を読み、ノートを作成すること。また任意レポートに取り組む。	60
第15回	まとめ これまでのまとめを行う。	
	教科書・参考文献を読み、ノートを作成すること。また任意レポートに取り組む。	60

授業の方法

講義形式で行います。

成績評価の方法

定期試験100%、任意レポートをプラス α (授業中に指示します)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

『メディアとコミュニケーションの文化史』伊藤明己、世界思想社

参考書

適宜、紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	ネットワーク社会論		
教員名	伊藤 昌亮		
科目ナンバー	1251445403	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

ネットワーク社会のあり方を、その歴史的な経緯と理論的な分析との両面から論じます。「環境編」では、インターネットやスマートフォンなどのテクノロジーに注目し、ネットワーク社会の成り立ちとその動向を捉えます。「理論編」では、ネットワーク社会について考えるための枠組みとなる理論として、複雑ネットワーク論、ソーシャルキャピタル論などを取り上げます。

到達目標

DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の3点を到達目標とする。

- ① ネットワーク社会の成り立ちとその動向をさまざまな領域から捉え、その概略を説明できるようになる。
- ② ネットワーク社会について考えるための枠組みとなる理論について、その概略を説明できるようになる。
- ③ ネットワーク社会に固有の社会現象を適切な理論に基づいて把握し、検討できるようになる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	イントロダクション	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第2回	【基礎編】 ネットワーク社会とは何か	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第3回	【環境編】 パソコンからインターネットへ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第4回	【環境編】ケータイからスマートフォンへ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第5回	【環境編】Google革命の衝撃	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第6回	【理論編】複雑ネットワーク①	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第7回	【理論編】複雑ネットワーク②	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第8回	【環境編】iPodは何を変えたのか	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第9回	【環境編】GoogleからFacebookへ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第10回	【環境編】SNS社会の深層	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第11回	【理論編】ソーシャルキャピタル①	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第12回	【理論編】ソーシャルキャピタル②	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第13回	【番外編】都市伝説	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第14回	到達度確認テスト	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第15回	まとめ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

授業の方法

配布資料に基づく講義形式。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況やコメントシートの提出状況）：50%、試験：50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

授業中に随時指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	メディア産業論		
教員名	伊藤 昌亮		
科目ナンバー	1251445404	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要			
マスメディアとデジタルメディアとが混淆する過程にあるものとしてのメディア産業のあり方を論じます。テレビ、新聞、出版、音楽、アニメ、ゲーム、ネットのそれぞれの領域から、メディア産業の成り立ちとその動向を捉えるとともに、その意義、問題点、将来展望などについて考えます。			

到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①メディア産業の成り立ちとその動向をさまざまな領域から捉え、その概略を説明できるようになる。 ②メディア産業をめぐるさまざまな論点について、その概略を説明し、自分なりの考えを表明できるようになる。			

授業の計画と準備学修		
回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第2回	テレビ産業の成り立ち	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第3回	番組から動画へ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第4回	新聞産業の成り立ち	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第5回	出版産業の成り立ち	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第6回	笑いの社会学	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第7回	ゲストトーク	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第8回	音楽産業の成り立ち	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第9回	アニメ産業の成り立ち	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第10回	ゲーム産業の成り立ち	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第11回	ネット産業の成り立ち	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第12回	メディアミックス	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第13回	ゲストトーク	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第14回	到達度確認テスト	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第15回	まとめ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

授業の方法

配布資料に基づく講義形式。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況やコメントシートの提出状況）：50%、試験：50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

授業中に随時指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	メディア制度史		
教員名	堀口 剛		
科目ナンバー	1251445406	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
本講義では、近現代日本のメディアにまつわる制度の歴史について概観していきます。 近現代日本において、メディアは飛躍的に発展を遂げました。その発展に合わせて、さまざまな制度・規制も登場しています。 では、そうしたメディアにまつわる制度はどのようなものだったのでしょうか。本講義では、明治期から戦後にかけてのメディアに関する制度についてとりあげ、その歴史的な展開について論じていきます。			
到達目標			
近現代日本のメディアに関する制度について、その歴史的な展開を理解することを目標とします。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション		
	【復習】配布した資料を読み直す。	30	
第2回	出版法と新聞紙法		
	【復習】配布した資料を読み直す。	60	
第3回	検閲と発禁 (1)		
	【復習】配布した資料を読み直す。	60	

第4回	検閲と発禁 (2)	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第5回	ラジオと戦前の放送制度	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第6回	大正期の警察と活動写真	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第7回	映画法の制定	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第8回	新聞統一 1 県 1 紙体制の確立	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第9回	情報局の設立	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60

第10回	治安維持法と横浜事件	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第11回	占領期のメディア統制（1）	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第12回	占領期のメディア統制（2）	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第13回	戦後放送制度の確立	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第14回	日本国憲法と表現の自由	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第15回	到達度確認テスト	
	【復習】到達度確認テストの内容について、これまでの資料を読み直す。	60

授業の方法

配布した資料に基づいて講義を行っていきます。

成績評価の方法

到達度確認テスト：40%
毎回のリアクションペーパー：60%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

とくに指定しません。参考資料については、講義内で適宜紹介・配布します。

参考書

とくに指定しません。参考資料については、講義内で適宜紹介・配布します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

講義に関する質問等は講義後およびリアクションペーパーにて受け付けます。

科目名	マス・コミュニケーション論		
教員名	奥野 昌宏		
科目ナンバー	1251445408	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

マス・コミュニケーションの存在を抜きにしては現代の社会も文化も語ることはできません。マス・コミュニケーションは、私たちの意識や行動あるいは社会のさまざまな動きと深くかかわっているからです。現代社会にあつては、マス・コミュニケーションがそれだけ社会的に重要な位置を占めているということでもあります。しかしながら一方で、こうしたかかわりの深さに対応するだけの適正な理解が私たちに共有されていないのも事実です。

この授業では、マス・コミュニケーションにかんする理論と実態を紹介することによって、マス・コミュニケーションにかんする知的関心の喚起と的確な理解を促したいと考えています。理論的検討と現実分析の双方から、まさに現代の重要な問題領域であるマス・コミュニケーションについて考察したいと思います。

なお、マス・コミュニケーションに関連する時宜に応じた話題も取り上げたいと考えています。これらの話題との関係等で下記の授業計画を変更することがあります。

到達目標

マス・コミュニケーションにかんする知識と関心を養い、対象にたいする自らの観点を獲得すること。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	コミュニケーションの原理	
	自分とマス・コミュニケーションとのかかわりを考えておく。	60分
第2回	マス・コミュニケーションの特質	
	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60分
第3回	マス・コミュニケーションと擬似環境	
	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60分

第4回	マス・コミュニケーションの社会的機能	
	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60分
第5回	マス・コミュニケーションの受容と読み（1）	
	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60分
第6回	マス・コミュニケーションの受容と読み（2）	
	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	90分
第7回	マス・コミュニケーションへの意識と行動	
	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60分
第8回	トピック・まとめ	
	第1回～第7回の復習と内容の整理	90分
第9回	マス・コミュニケーションと政治（1）	
	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60分

第10回	マス・コミュニケーションと政治（2）	
	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60分
第11回	マス・コミュニケーションと広告	
	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	90分
第12回	マス・コミュニケーションと文化	
	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60分
第13回	グローバリゼーションとメディアの国際化	
	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60分
第14回	マス・コミュニケーションと市民社会	
	前回の授業内容の復習と今回の内容についての予習	60分
第15回	まとめ	
	第9回～第14回の復習と授業内容全体の整理	90分

授業の方法

履修者には講義用のプリントを逐次配布し、これを参照しながら授業を進めます。また、必要に応じてビデオなどの視聴覚素材も使います。
授業は基本的に講義形式で進めますが、授業中に短いエッセイを書いてもらったり、コメントを求めたりします。

成績評価の方法

定期試験の得点に授業時のエッセイやコメント等の実績を加え、定期試験70%、平常点30%を基準として総合的に評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識や先修科目はとくにありません。

テキスト

とくに定めません。

参考書

竹内郁郎他編著『新版メディア・コミュニケーション論I』『同II』北樹出版、2005年（I）2, 400円 ISBN4-89384-990-5、（II）1, 800円 ISBN4-89384-999-9
春原昭彦他編『ゼミナール 日本のマス・メディア（第2版）』日本評論社、2005年、2, 300円、ISBN4-535-51330-9
天野勝文他編『新現代マスコミ論のポイント』学文社、2004年、2, 600円、ISBN4-7620-1309-9 S. J. バラン、D. K. デイビス著、宮崎寿子監訳『マス・コミュニケーション理論 メディア・文化・社会』（上）（下）、新曜社、（上）3, 600円、ISBN978-7885-1050-0、（下）3, 300円、ISBN978-4-7885-1051-7
伊藤守編著『よくわかるメディア・スタディーズ』ミネルヴァ書房、2009年、2, 500円 ISBN978-4-623-05206
その他適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業時または終了後に教室で受け付けます。

科目名	メディア・リテラシー論		
教員名	見城 武秀		
科目ナンバー	1251445409	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
皆さんは「メディア・リテラシー」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？「メディアと主体的・批判的に付き合う能力」といった説明がされることの多いこの言葉ですが、実はメディアという存在をどのように捉えるかによって、そこから導かれるメディア・リテラシー観も大きく違ってきます。 この授業ではまず、メディア・リテラシーを理解するための前提となる基礎概念（＝メディアの文法性、／メディアの文脈依存性／メディアに対する批判性）について、映像を中心とした実際のメディア作品を題材に解説していきます。次に、メディアの役割を「現実の反映」と見る立場から導かれる「反映主義的メディア・リテラシー観」と、メディアの役割を「現実の構成」と見る立場から導かれる「構成主義的メディア・リテラシー観」とを対比させることで、両者にとって「メディア批判」がもつ意味がまったく異なることを明らかにします。このような作業を通じて最終的にメディア・リテラシーについて論ずる上での「落とし穴」の存在に気づいてもらうことが、この講義の目的です。			
到達目標			
DP6（文化現象の総合的理解）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を達成するため、次の2点を到達目標とします。 （１）反映主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー論と構成主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー観の違いを、両者における「メディア批判」の意味の違いを中心として理解すること。 （２）（１）の理解に基づき、現実におこなわれている「メディア批判」における「批判」の意味を反省的に捉え直す視点を身につけること。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション		
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60	
第2回	メディア・リテラシーとは何か		
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60	
第3回	2つのメディア像-「反映」するメディアと「構成」するメディア（１）		
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60	

第4回	2つのメディア像-「反映」するメディアと「構成」するメディア（2）	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第5回	メディアの文法性-登場人物の「心の声」はどう表現される？	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第6回	メディアの文脈依存性-なぜ変身アイテムはくり返し壊れるの？	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第7回	メディアに対する批判性とは何か	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第8回	ドキュメンタリーは嘘をつく	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第9回	メッセージを意味づけるフレームの多層性	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60

第10回	ドキュメンタリーは「嘘をついている」のか？	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第11回	東京オリンピック（1964年）とロンドンオリンピック（2012年）を比較することで見てくる「映像の位置付け」の違い	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第12回	2つのメディア像と2つのメディア・リテラシー観	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第13回	反映主義的メディア・リテラシー観を超えて	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第14回	成蹊大学「メディア・リテラシー演習」について	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60
第15回	まとめ	
	配付資料とそこに記されている指示に即して、予習・復習をする。	60

授業の方法

配布プリントに基づく講義形式。授業に関連した課題を提出する機会が3回あります。

成績評価の方法

期末試験の評価（100点満点）を中心に、上記提出課題（3回×5点＝15点満点）に対する評価を加味しておこないます。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。

- （1）反映主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー論と構成主義的メディア観から出発するメディア・リテラシー観の違いを、両者における「メディア批判」の意味の違いを中心として理解しているか。
- （2）反映主義的メディア観に基づくメディア批判と構成主義的メディア観に基づくメディア批判が混在していることから生ずるメディア・リテラシー論の落とし穴を理解できたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

先修しておいた方が望ましい科目として、コミュニケーション論入門。

テキスト

特になし。

参考書

授業中に適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	ジャーナリズム論		
教員名	石堂 彰彦		
科目ナンバー	1351445501	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
「ジャーナリズム」というと身構えてしまうかもしれませんが、わかりやすくいえば、ジャーナリズムとは「日々のできごとを伝える活動」です。テレビから流れてくるニュース、スマホのアプリが通知するニュース……これらもジャーナリズムの活動のひとつです。わたしたちはこうしたニュースを通じて、身近なできごとから地球の裏側の事件まで知ることができます。しかしジャーナリズムは、生活のなかに空気のように存在する一方で、わたしたちが生きている世界がどんな状況に置かれているのかという感覚を、気づかぬうちに作り出している怖い存在でもあります。本講義ではこのようなジャーナリズムについて、基本的なことから少しかたい話まで取り上げていきます。			
到達目標			
現代のジャーナリズムにはどのような役割や課題があるかを理解する。そのうえで、ネット時代におけるジャーナリズムとの接し方について、自らの考えをもつ。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション		
	【予習】シラバスを読み、講義の概要を把握する。		30
第2回	<ジャーナリズム論の基本> 基本（１）ニュースとジャーナリズム		
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。		60
第3回	基本（２）ジャーナリズムの役割		
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。		60

第4回	基本（3）ジャーナリズムの歴史	
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	60
第5回	<メディアとジャーナリズム> メディアとジャーナリズム（1）新聞・雑誌	
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	60
第6回	メディアとジャーナリズム（2）テレビ	
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	60
第7回	メディアとジャーナリズム（3）インターネット	
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	60
第8回	メディアとジャーナリズム（4）環境としてのジャーナリズム	
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	60
第9回	<ジャーナリズムの論点> 論点（1）世論とジャーナリズム	
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	60

第10回	論点（２）政治とジャーナリズム	
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	60
第11回	論点（３）戦争とジャーナリズム	
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	60
第12回	論点（４）調査報道とジャーナリズム	
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	60
第13回	論点（５）読者・視聴者とジャーナリズム	
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	60
第14回	到達度確認テスト	
	【予習】講義全体を振り返り、到達度確認テストに備える。	120
第15回	テストの講評とまとめ	
	【復習】到達度確認テストおよび講義全体を振り返り、自らの到達度を確認する。	60

授業の方法

配布資料やスライドを用いながら講義形式で進行する。小テストや適宜求めるコメントによって、受講者の理解を確認しつつ進める。ただし、講義の進捗状況等に応じて内容を変更することがある。コメントは、講義内容に対する質問や意見、感想等を記述する。コメントに対する回答は必要に応じて講義中に提示する。

成績評価の方法

到達度確認テスト50%、小テスト20%、平常点（授業参加態度、コメント提出状況）30%により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識、先修科目は不要。関連科目は、メディアやジャーナリズムに関する科目全般。

テキスト

特になし。毎回の講義冒頭にプリントを配布する。

参考書

原寿雄『ジャーナリズムの可能性』岩波新書、2009年
その他、初回講義時に提示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

講義終了後に教室で受け付ける。電子メールでも随時受け付ける。メールアドレスは初回講義時に提示する。

科目名	新聞論		
教員名	石堂 彰彦		
科目ナンバー	1251445502	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
新聞は、ジャーナリズムの中心的存在として、現在の民主主義社会の基礎を築いたといっても過言ではない。しかし今日の新聞は、インターネット、そしてスマートフォンの登場によって、その存在意義を根底から問われる事態に直面している。さらに権力との癒着、信頼性の喪失、若年層の新聞離れなど、自ら招いたともいえる現状において、新聞はいずれ消滅するとさえいわれている。本講義では、このような危機的状況にある新聞の諸問題を検討するとともに、民主主義社会において新聞が担ってきた言論、報道の意味を確認し、インターネット社会における新聞のあるべき姿を模索する。			
到達目標			
今日の新聞が抱える諸問題と、ジャーナリズムとしての新聞の役割を理解する。そのうえで、新聞というメディアが、これからの社会のなかでどのような役割を担うべきか、自らの考えをもつ。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション ・講義の全体像、進行のしかた、参考文献などについて説明する。		
	【予習】シラバスを読み、講義の概要を把握する。		30
第2回	新聞とジャーナリズム (第2回および第3回は、日本の新聞の時間的・空間的な位置づけを確認する) ・新聞はジャーナリズムの中心的存在としての役割を担ってきた。その歴史を振り返りつつ、新聞の意義を再確認する。		
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。		60
第3回	世界の新聞・日本の新聞 ・世界の新聞と日本の新聞は、何が同じで、何が違うのだろうか。世界の新聞の現状を知り、日本の新聞の特徴を理解する。		
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。		60

第4回	企業としての新聞社 (第4回および第5回は、新聞の企業の側面を取り上げる) ・新聞社もひとつの企業である。しかし他の産業の企業とは大きく異なる点があり、そこに新聞社が抱える問題もある。	
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	60
第5回	新聞の販売 ・なぜ日本の新聞の発行部数は多いのか。背景には、新聞の販売を維持する特権的制度がある。その利点と欠点を考える。	
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	60
第6回	報道機関としての新聞社／小テスト (第6回から第10回は、新聞の報道について取り上げる) ・新聞が伝えるニュースは、どのように生産されているのだろうか。取材から新聞の印刷に至るまでの過程を理解する。 (小テストは第5回までの講義内容の理解度を確認)	
	【予習】第1回～第5回の講義を復習し、小テストに備える。 【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	90
第7回	記者クラブ ・記者クラブは新聞にとってきわめて重要な情報源である。その利点と欠点を考える。	
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	60
第8回	報道の自由 ・報道の自由とは何か。なぜ必要なのか。新聞ジャーナリズムを支える原点から考える。	
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	60
第9回	報道の規制 ・報道であれば、すべてが許されるわけではない。報道の自由と規制の境界線がどこにあるのかを考える。	
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	60

第10回	誤報と新聞 ・誤報はジャーナリズムにとって不可避の問題である。誤報の事例と要因を検討することを通じて、新聞の報道のあり方を考える。	
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	60
第11回	新聞とテレビ／小テスト (第11回から第13回は、新聞と他のメディアの関係を取り上げる) ・日本の新聞とテレビは密接な関係がある。その歴史的経緯と問題点を考える。 (小テストは第6回～第10回の講義内容の理解度を確認)	
	【予習】第6回～第10回の講義を復習し、小テストに備える。 【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	90
第12回	新聞の機能 ・新たなメディアが登場するたびに、新聞はその機能を変化させてきた。ラジオからインターネットの登場に至るまでの新聞の変化を考える。	
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	60
第13回	新聞とインターネット ・ニュースサイト、ニュースアプリなどのネットメディアは、新聞にどのような影響を与えているのか。新聞の生き残りをかけた対応を検討する。	
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	60
第14回	新聞の未来 ・新聞の消滅もささやかれるなか、ジャーナリズムとしての新聞に求められる役割とは何か。ここまで学んできたことを総括しつつ、これからの新聞のあるべき姿を考える。	
	【復習】講義レジュメ等により論点を再確認する。	60
第15回	到達度確認テスト ・本講義の到達目標に達しているかどうかを確認するためのテスト。	
	【予習】講義全体を振り返り、到達度確認テストに備える。	120

授業の方法

配布資料やスライドを用いながら講義形式で進行する。2回の小テストや適宜求めるコメントによって、受講者の理解を確認しつつ進める。ただし、講義の進捗状況等に応じて内容を変更することがある。

- ・小テストでは、それぞれ実施直前までの5回分の講義内容の理解度を確認する。
- ・到達度確認テストでは、講義の到達目標に達しているかどうかを確認する。
- ・コメントは、講義内容に対する質問や意見、感想等を記述する。コメントに対する回答は必要に応じて講義中に提示する。

成績評価の方法

到達度確認テスト50%、小テスト30%、平常点（授業参加態度、コメント提出状況）20%により総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・今日の新聞の諸問題、ジャーナリズムとしての新聞の役割を理解しているか。
- ・新聞のあるべき姿について、自らの考えを具体的に説明できるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識、先修科目は不要。関連科目は、メディアやジャーナリズムに関する科目全般。

テキスト

特になし。毎回の講義冒頭にプリントを配布する。

参考書

春原昭彦・武市英雄編（2016）『ゼミナール 日本のマス・メディア 第3版』日本評論社
その他、授業開始時に提示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。電子メールでも随時受け付ける。メールアドレスは初回講義時に提示する。

科目名	出版論		
教員名	今田 絵里香		
科目ナンバー	1251445503	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
本講義の目的は、日本の出版の歴史をたどりながら、本、雑誌などという文字にかんするメディアが作り出してきたものについて考察することである。それは、たんに一つの本・雑誌が生み出され、忘れられていったことを追うのではない。それだけでなく、一つの本・雑誌が生み出された社会のありようを明らかにし、また、一つの本・雑誌が作り出した社会のありようを明らかにすることでもある。ひいては、人が文字にかんする文化、文字が紡ぎだす世界をどのようにとらえてきたかを明らかにすることでもあるのである。本講義では、一つひとつの本・雑誌の誕生と忘却とともに、それらをめぐる社会のありようを考察し、そのような問いに取り組んでいくことにしたい。			
到達目標			
D P 2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次のような到達目標を設定する。 出版の歴史を把握するとともに、出版が社会のなかで果たしてきた役割について把握することができる。 文字にかんする文化、文字が作り出す世界について考えることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	本・雑誌など、出版文化をどのようにとらえるか		
	【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90
第2回	少年文学叢書と愛子叢書 子どものとらえかた		
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90
第3回	婦人雑誌 「主婦」と新しい家族		
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す		90

第4回	総合雑誌 学歴貴族と教養主義	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第5回	大衆雑誌 反教養主義	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第6回	少年少女雑誌 都市新中間層の子どものジェンダー	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第7回	文字文化をどうとらえるか① 作文教育と雑誌の投稿文化	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第8回	文字文化をどうとらえるか② 『赤い鳥』と新しい作文教育、雑誌の投稿文化	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第9回	『赤い鳥』『少年戦旗』 童心主義的児童文学とプロレタリア児童文学	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90

第10回	植民地朝鮮の少年少女雑誌	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第11回	本と戦争	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第12回	戦後の子ども雑誌	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第13回	戦後の異性愛文化と雑誌① 夫婦雑誌	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第14回	戦後の異性愛文化と雑誌② 少年少女雑誌	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90
第15回	雑誌とスター 美少年・美少女の創出	
	【予習】参考文献の指定部分を読む 【復習】配布プリントと参考文献を読み直す	90

授業の方法

講義形式。

成績評価の方法

提出物（論文・レポートなど。60%）、平常点（40%）によって、総合的に評価を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

参考書

とくに指定しない。毎回プリントを配布し、参考文献を紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	放送通信論		
教員名	西 兼志		
科目ナンバー	1251445504	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
現在の放送文化、そしてメディア文化一般において、＜アイドル＞は欠かすことができないものとなっています。この授業では、＜アイドル＞というメディア的形象を切り口にして、放送通信を中心とした現在のメディア文化のあり方を考えると同時に、メディアの理論の重要な概念を身につけることを目指します。			
到達目標			
D P 2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次のような到達目標を設定します：メディア文化・メディア理論の展開を理解することで、各自が身近なメディア現象をメディア論の観点から分析できるようになること。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション		
	教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60	
第2回	1980年と＜アイドル＞		
	教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60	
第3回	メディア環境と＜アイドル＞（1）		
	教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60	

第4回	メディア環境と＜アイドル＞（2）	
	教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第5回	メディアの現象学と＜アイドル＞（1）	
	教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第6回	メディアの現象学と＜アイドル＞（2）	
	教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第7回	メディア・ハビトゥスと＜アイドル＞	
	教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第8回	中間まとめ	
	教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第9回	リアルTV的なものと＜アイドル＞	
	教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60

第10回	<キャラ>文化と<アイドル>（1）	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第11回	<キャラ>文化と<アイドル>（2）	
	教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第12回	「卒業」と<アイドル>（1）	
	教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第13回	「卒業」と<アイドル>（2）	
	教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第14回	メディア行為と<アイドル>	
	教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第15回	まとめ	
	教科書・参考資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60

授業の方法

教科書に沿って、＜アイドル＞文化の展開を辿ると同時に、メディア理論を理解できるようにしていきます。この授業の目標は、メディア論として＜アイドル＞文化を考察することであり、アイドルについてのおしゃべりをするのではないので、その点をよく理解した上で受講するようにしてください。

（なお、授業内容は、展開に応じて、変更されることがあります。）

成績評価の方法

期末レポート＝80%、コメントシートなど＝20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ・メディアの理論を＜アイドル＞という観点から理解できているか。
- ・その上で、各自の身の回りの現象を明らかにできるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

授業までに教科書に目を通し、授業で扱われるメディアの理論がどのようなものを十分把握しておくようにしてください。

テキスト

西兼志『アイドル／メディア論講義』東京大学出版会、2017.

参考書

西兼志『＜顔＞のメディア論：メディアの相貌』法政大学出版局、2016.

その他は、授業中に随時、指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	広告論		
教員名	高橋 千暁		
科目ナンバー	1251445505	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
広告は、今、大きく動いています。グローバル化とWeb進展を背景にプレーヤーの役割・機能・モデルが変化しています。単なる広告表現ではなく、統合的なコンテンツの役割=コンテンツマーケティングがより重要になってきています。この講義では、まず、講師が広告マンとして足かけ約45年間向かい合ってきた広告市場の変遷と広告産業の現状、そして次代への展望をグローバルへの視点、webマーケティングの視点、さらには業界でのブラック問題が顕在化してきた今、我が国の広告産業ビジネスモデルの見直しも併せて提起していきます。 そして、「時代」を映す鏡としてあるべき明日、近未来社会のイマジネーションを提示していく広告コンテンツのマスメディアからインターネット、モバイル等双方向メディアへの適応と変革が、現代社会にどういった影響を与えているか、そしてどのような課題があるかを講義していきます。 また、授業の中で、小課題を設定しての広告クリエイティブ発想演習を複数回実施し、受講生個々の発想評価／レビューを通して、コトバとイマジネーションづくりに関してのコーチングも行っていきます。			
到達目標			
本講義では、広告＝マーケティングコミュニケーションの社会的意味と役割を理解するための歴史的認識を深め、現代社会における役割と課題を理解していくと共に、広告コンテンツの本質ともいえるべき、自己のイマジネーションを豊かに、そして他者のイマジネーションを理解していくための発想法の基本を身につけていくことを目標とします。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・ 広告論講義の背景、授業内容、進め方を説明 ・ 最新の広告事例（世界／日本）紹介 広告市場の現状 ・ 広告市場規模推移、産業特性、メディア特性 ・ マーケティングコミュニケーションの基本理論		
	【予習】 シラバスをよく読んでおくことと、テレビ・雑誌・Web（PC／スマホ）等での広告に出来るだけ多く接触していく。 【復習】 電通ホームページから日本の広告統計のデータ及び分析を読み、日本の広告市場の現状を確認していく。		60分
第2回	世界の広告史概要 ・ 広告の起源である古代エジプトから20世紀までの世界の広告の全体潮流 ・ 20世紀以降の経済と広告市場の中心となり、現在も世界の広告をリードし続けている米国の広告発展史		
	【復習】 19世紀末から20世紀初頭に花開いたアールヌーヴォーの文化運動とその作品群に触れていくことで、広告表現進化を確認していく。 米国文化史に関連した書籍・資料も合わせて触れてみることで、米国発の広告発展を確認していく。		60分
第3回	戦後日本の広告進展と日本型産業モデル成立 ・ 戦後の日本の広告の進展、電通がリードし博報堂がチャレンジしていく事から形成されていった日本型広告産業モデルとは？ ・ 時代を映し出していた、広告作品、新聞広告とテレビCM中心に多くの事例を紹介		
	【復習】 日本の戦後世相に関連した資料・新聞縮刷版等で戦後文化史も学習。 時間にゆとりがあったら汐留カレッタのアドミュージアムで日本の広告表現の歴史を視察・確認していく		60分

第4回	日本の広告産業の組織・機能とメディアの進化 ・戦後日本の広告産業をリードしていった電通とそれに対抗していった博報堂の組織・機能の変遷から、日本型広告産業モデルを学習 ・広告を動かしているマスメディア、プロモーションメディア・PR手法の特性・Webメディアの進展	
	【復習】 電通及び博報堂のホームページにアクセスし、両社の沿革と機能、企業ビジョン等を確認していく。	60分
第5回	広告クリエイターから見ていく現代の広告表現① ◎佐藤可士和の広告表現世界 ・アートのチカラからのソリューションへ ●小課題による発想演習①の実施	
	【復習】 佐藤可士和のホームページ及び著作等にアクセスし、最新のアートワークを通して現代社会との関わりを理解していく。	60分
第6回	広告クリエイターから見ていく現代の広告表現② ◎高松聡の広告表現世界 ・ブランデッドエンターテインメントの旗手 ●発想演習①の評価とレビュー	
	【復習】 高松聡のフェイスブック or ホームページにアクセスしていくことから理解を深めていく。	60分
第7回	広告クリエイターから見ていく現代の広告表現③ ◎森本千絵の広告表現世界 ・やわらかく、温かい、ハッピーアートワーク ●小課題による発想演習②の実施	
	【復習】 森本千絵のフェイスブック or ホームページにアクセスし、最新のアートワークに接触していくことから理解を深めていく。	60分
第8回	広告クリエイターから見ていく現代の広告表現④ ◎澤本嘉光の広告表現世界 ・コンテンツとしてのクリエイティブワーク ●発想演習②の評価とレビュー	
	【復習】 澤本が企画しているソフトバンクホワイト家族シリーズ、トヨタドラえもんシリーズ等のCMにYouTubeからアクセスし、理解を深めていく。	60分
第9回	ブランディング広告① ◎ブランド価値の構築と広告マネジメント ・ブランド価値の構造化モデル ・HONDA企業ブランディングケース ●小課題による発想演習③の実施	

	【復習】 授業の中で紹介していくブランド本に接触し、ブランディング手法への理解を深めていく。	60分
第10回	ブランディング広告② ◎アサヒスーパードライ ケーススタディ ・戦後最大のサクセスブランディングストーリー ・対キリンラガービールブランド戦略 等 ●発想演習③の評価とレビュー	
	【復習】 アサヒビール及びキリンビールのホームページにアクセスし、最新のビールCMを視聴することで理解を深めていく。	60分
第11回	ブランディング広告③ ◎コカコーラのブランディング ケーススタディ ・世界最強ブランドの日本でのブランディングの推移を広告表現から分析していく ●小課題による発想演習④の実施	
	【復習】 日本コカコーラのホームページにアクセスし、企業沿革、商品ライン等を確認し、最新の商品／ブランド広告を視聴することで理解を深めていく。	60分
第12回	ブランディング広告④ ◎資生堂のブランディング ケーススタディ ・資生堂企業／商品ブランディングの推移 ・T S U B A K I、マキアージュ等ブランド戦略 ●発想演習④の評価とレビュー	
	【復習】 資生堂のホームページにアクセスし、企業沿革、企業理念、商品ライン等を確認し、合わせて最新の商品／ブランド広告を視聴することで理解を深めていく。	60分
第13回	ブランディング広告⑤ ◎世界最強のサムスン・アップル グローバルブランディングケーススタディ ・最強エレクトロニクスブランド Samsung ・世界No.1「アップル」ブランディング ●小課題による発想演習⑤の実施	
	【復習】 サムソン・アップルのホームページ等にアクセスし、最新企業戦略とブランディング戦略を確認していく。 インターブランド社グローバルブランドランキングを同社ホームページからアクセスし、グローバルブランドの現状を学習していく。	60分
第14回	広告戦略プランニングと表現開発 ・ターゲット・ポジショニング・コンセプト ・クリエイティブブリーフ等表現プランニング ●発想演習⑤の評価とレビュー	

	【復習】 ブランディング①～⑤のレジメを再度読み込みブランディングから広告プランニングの理解を深めていく。	60分
第15回	Web 基軸の最新広告パースペクティブ ・コンテンツマーケティング ・SNSクチコミマーケティング ・ダイレクトリスポンスマーケティング ・講義総括	
	【復習】 Web から検索しての最新コンテンツ、及びCS放送ショッピングチャンネル等から最新潮流を確認していく。 講義で配布したレジメを再度読み込み、期末レポートに反映させていく。	60分
授業の方法		
配布プリント・広告事例・ケーススタディにより講義を行っていく。 テレビコマーシャルやWEB広告等の画像、映像をできるだけ見せていきたい。 また、5回／5テーマを設定しての発想演習とその評価レビューを行っていく。		
成績評価の方法		
課題設定による期末レポート提出を行う。 出席を毎回とり、かつ、5回の小課題設定による発想法演習を実施しての平常点20%、発想演習30%、期末レポート50%のウエイトで成績評価を行う。		
成績評価の基準		
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 以下の点を考慮した評価を行っていく ①広告に関する歴史的認識と今後の課題についてどう理解できたか ②ブランディングの手法とブランディング広告に関する認識 ③広告コンテンツ事例研究と演習を通しての広告的発想力		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
広告の「今」を主テーマとしていくため、テレビ・雑誌・屋外広告・インターネット、モバイル／スマホ等を通してのWEB広告等、日常的な広告に出来るだけ接触し、その背景や狙いを考えていって欲しい。 関連科目：広告史・マーケティング論・メディア論・心理学・言語学・美学・コミュニケーション論		
テキスト		
特に設定しない。 毎回、講義の要旨をプリントした資料を配布していく。		
参考書		
「シリウスの道」（藤原伊織著：文芸春秋社） その他、講義の中で適宜、紹介していく。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
授業終了後に教室で受け付ける。 配布する出席票／コメントペーパーに質問を記入してもらい、翌週の授業で回答していく。		

科目名	デジタル・メディア論		
教員名	伊藤 昌亮		
科目ナンバー	1251445506	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
デジタルメディアのあり方を、特にそこから形成される集合行動という観点から論じます。「理論編」では、デジタルメディアについて考えるための枠組みとなる理論として、集合行動論、社会運動論、大衆社会論、集合知論などを取り上げます。「現象編」では、デジタルメディアをめぐる新しい社会現象として、フラッシュモブ、デモ、ネット右翼、炎上などを取り上げます。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次の2点を到達目標とする。 ①デジタルメディアについて考えるための枠組みとなる理論について、その概略を説明できるようになる。 ②デジタルメディアをめぐる新しい社会現象を適切な理論に基づいて把握し、検討できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60
第2回	【基礎編】 デジタルメディアとは何か		
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60
第3回	【現象編】 フラッシュモブ		
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。		60

第4回	【理論編】集合行動論	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第5回	【現象編】デモ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第6回	【理論編】社会運動論	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第7回	【現象編】ネット右翼	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第8回	【理論編】大衆社会論	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第9回	【現象編】炎上	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

第10回	【理論編】集合知論	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第11回	【番外編】出会い	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第12回	【番外編】モビリティ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第13回	【番外編】共感	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第14回	到達度確認テスト	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60
第15回	まとめ	
	【復習】 資料を読み直し、ポイントを整理する。	60

授業の方法

配布資料に基づく講義形式。なお、展開に応じて授業内容が変更されることがあります。

成績評価の方法

平常点（授業への参加状況やコメントシートの提出状況）：50%、試験：50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

特になし。

参考書

伊藤昌亮『フラッシュモブズ-儀礼と運動の交わる場所』（NTT出版）

伊藤昌亮『デモのメディア論-社会運動社会のゆくえ』（筑摩書房）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	情報デザイン論		
教員名	高橋 裕行		
科目ナンバー	1251445507	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
この授業では、様々な情報デザインの歴史を振り返り、過去と現在の姿を学ぶ一方、実社会においても有効とされている情報デザインの諸手法を身につけます。 コンピュータの発展によって、物質だけでなく、情報の視点から、私たちはデザインを考えることができるようになりました。その意味で、情報デザインは、コンピュータの発明、普及と不可分なものです。かつて、デザインといえば、色や形、素材などを組み合わせることを意味していました。しかし、現在では、文字、数値はもちろん、画像や音声、動画、動きや位置情報などを組み合わせた多様な表現が可能になっています。 一方で、情報が人間の処理速度を超えて急速に増え続け、人と人、人とモノの関係性を一層複雑にしていることから様々な新たな問題も生まれてきています。そのような状況のなかで、いかにして、私たちは、情報を適切に咀嚼し、新たな価値や質として発信できるのか。そのための知識とスキルを提供します。			
到達目標			
(1) 情報デザインの歴史知識を習得する。 (2) 情報デザインの現状における課題や問題を構造的に把握する。 (3) 情報の収集（インプット）、編集（プロセス）、発信（アウトプット）に関わる諸手法の基本を習得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	イントロダクション ・授業内容、進め方、講師の紹介と、基本概念（情報、デザイン、情報デザインなど）の整理を行う。		
	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにする。		60分
第2回	地図の情報デザイン ・地図の歴史を振り返り、情報デザイン上の発明や工夫を理解する。		
	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにする。		60分
第3回	本と図書館の情報デザイン ・本と図書館の歴史を振り返り、情報デザイン上の発明や工夫を理解する。		
	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにする。		60分

第4回	学校と教育の情報デザイン ・学校と教育の歴史を振り返り、情報デザイン上の発明や工夫を理解する。	
	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにする。	60分
第5回	美術館と博物館の情報デザイン ・美術館と博物館の歴史を振り返り、情報デザイン上の発明や工夫を理解する。	
	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにする。	60分
第6回	20世紀型メディア（新聞、ラジオ、テレビ）の情報デザイン ・新聞、ラジオ、テレビの歴史を振り返り、情報デザイン上の発明や工夫を理解する。	
	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにする。	60分
第7回	通信とインターネットの情報デザイン ・通信とインターネットの歴史を振り返り、情報デザイン上の発明や工夫を理解する。	
	復習：授業中に触れたキーワードを説明できるようにする。	60分
第8回	筆記テスト（到達度確認テスト）	
	予習：第1回から第7回までに紹介したキーワードを説明できるようにする。	60分
第9回	インプット手法1（情報の収集） 文献調査、インタビュー、フィールドワークの諸手法の概略、特徴、活用方法を理解する。	
	復習：授業中に紹介した手法をつかって、実際に情報を収集する。	60分

第10回	インプット手法2（情報の収集） 文献調査、インタビュー、フィールドワークの諸手法を使って実際に情報収集した結果を発表する。	
	予習：授業中に紹介した手法をつかって、実際に情報を収集する。	60分
第11回	プロセス手法1（情報の整理と発想） 情報整理法、発想法、編集、キュレーションの諸手法の概略、特徴、活用方法を理解する。	
	復習：授業中に紹介した手法をつかって、実際に情報を整理、発想する。	60分
第12回	プロセス手法2（情報の整理と発想） 情報整理法、発想法、編集、キュレーションの諸手法を使って実際に情報を整理、発想した結果を発表する。	
	予習：授業中に紹介した手法をつかって、実際に情報を整理、発想する。	60分
第13回	アウトプット手法1（情報の表現） 情報を空間と時間に配置する諸手法を展覧会、ワークショップを例として理解する。	
	復習：授業中に紹介した手法をつかって、実際に情報を表現する。	60分
第14回	アウトプット手法2（情報の表現） 情報を空間と時間に配置する諸手法を展覧会、ワークショップを例として実践する。	
	予習：授業中に紹介した手法をつかって、実際に情報を表現する。	60分
第15回	まとめ 授業全体を振り返り、質疑応答を行う。	
	復習：授業全体を振り返り、到達目標と自分の理解度を比較し、不足しているものがあれば、復習する。	60分

授業の方法

基本的には、スライドを使った講義形式で進めます。履修生の数に応じて、グループ・ディスカッションやミニ・ワークショップ、意見発表の時間を設けます。授業資料は、成蹊ポータル等で配布します。

成績評価の方法

課題レポート 40%、筆記テスト（到達度確認テスト）40%、リアクションシートへの記入と授業態度20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その到達度により評価する。

- (1) 情報デザインの歴史知識を習得している。
- (2) 情報デザインの現状における課題や問題を構造的に把握している。
- (3) 情報の収集（インプット）、編集（プロセス）、発信（アウトプット）に関わる諸手法の基本を習得している。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特になし

参考書

授業内で適宜指示します。また、各回の参考資料を、成蹊ポータル等を通じて適宜配布します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。随時、メールも受け付けます。

科目名	グローバリゼーションとメディア		
教員名	村瀬 真文		
科目ナンバー	1251445508	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
第二次世界大戦・太平洋戦争期から最近に至るまでの期間にみられたメディアと社会の関係、ならびにグローバル化する世界とメディアの関係にかかわる象徴的な事例をとり上げ、グローバル化した世界におけるメディアのあり方を考える。			
到達目標			
メディアと社会の関係、ならびにグローバル化する世界におけるメディアの役割、あり方、課題、および、メディアに接する際に留意すべきことは何かを考え、かつ、考えを説明できる力を持つことができるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	1. 講義の概要・ガイダンス		
	【予習】 シラバスを読み、講義の内容や進め方をあらかじめ把握する。 【復習】 第1回授業で説明する授業の問題意識、授業計画を理解するとともに、授業で使う基本的な用語や概念についての説明を理解する。	90分	
第2回	2. メディアと戦時期(1) 1930年代ナチス・ドイツ時代のメディア		
	【予習】 第二次世界大戦の経緯についての概括的な歴史を調べておく。 【復習】 授業で取り上げる第二次大戦中のメディアによるプロパガンダ、および、そのメカニズムについて考える。	90分	
第3回	3. メディアと戦時期(2) 1940年代太平洋戦争直前の日本のメディア		
	【予習】 太平洋戦争の時期の日本社会についての概括的な知識を調べておく。 【復習】 太平洋戦争に至る時期の日本のメディアの行動、社会状況について理解を深める。	90分	

第4回	4. メディアと戦時期 (3) 太平洋戦争期の日米のメディア	
	【予習】 太平洋戦争の経緯についての概括的な歴史を調べておく。 【復習】 太平洋戦争中のアメリカのメディアの活動について考える。また、同時期の日本のメディアと比較して考える。	90分
第5回	5. 戦後冷戦時代のテレビ・ジャーナリスト：エド・マローの場合	
	【予習】 東西冷戦、アメリカにおける「赤狩り旋風」について調べておく。 【復習】 ジャーナリズムやジャーナリストの役割について考える。	90分
第6回	6. テレビ時代の選挙キャンペーン：アメリカ大統領選挙とメディア	
	【予習】 選挙とメディア、政治とメディアの関係について、どのような問題があるのか、考えておく。 【復習】 政治や選挙とメディアの関係、メディアを通じて政治が社会に与える影響について考える。	90分
第7回	7. 1960年代：東西冷戦下のメディアとコミュニケーション-キューバ危機の場合	
	【予習】 1962年に起きた「キューバ危機」の経緯について調べておく。 【復習】 政治的意思決定、政治指導者間の意思疎通、情報の公開とメディアについて考える。	90分
第8回	8. 1960-70年代：東西冷戦下のメディアとコミュニケーション-ベトナム戦争の場合	
	【予習】 ベトナム戦争の経緯について調べておく。 【復習】 国際政治に対するメディアの関わりについて考える。	90分
第9回	9. 1970年代：南北間のメディアとコミュニケーションをめぐる論争-新世界情報コミュニケーション秩序論争	
	【予習】 グローバルな格差や資源問題など、いわゆる「南北問題」について、論調、問題点、課題を調べておく。 【復習】 とくに南北間の情報流通、メディアの活動、コミュニケーションのあり方、問題点について考える。	90分

第10回	10. 1980-90年代：国境を越えるテレビと東西ヨーロッパ冷戦の終焉	
	【予習】 1980年代末から起きたヨーロッパにおける東西冷戦構造の終焉、旧社会主義国の自由主義体制への変革の歴史を調べておく。 【復習】 メディアが伝える情報が国際関係、国内の政治・社会秩序に及ぼす影響について考える。	90分
第11回	11. 2000年代：世界的なメディアと情報流通の多様化と国際理解の課題 (1) イラク戦争と中東の衛星放送局アルジャジーラ	
	【予習】 9. 11. 後の世界の変化、イラク戦争の経緯について調べておく。 【復習】 インターネットを含むメディアを通じた国際的な情報流通の多様化の意味と課題について考える。	90分
第12回	12. 2000年代：世界的なメディアと情報流通の多様化と国際理解の課題 (2) イラク戦争とジャーナリズム	
	【予習】 世界的にメディアや情報量が増えてきたことと、国際理解とが結びついているかどうか、結びつけるための課題は何かを考えておく。 【復習】 メディアを通じた世界的な情報流通の多様化が国際理解と結びつくための課題について考える。	90分
第13回	13. メディアのグローバルな活動と国際世論の形成	
	【予習】 日本以外の国や地域のニュースや情報を日常的にどのように得ているか、点検しておく。 【復習】 メディアが伝える情報と国際的な世論形成の関係について考える。	90分
第14回	14. インターネット時代のメディアと社会	
	【予習】 インターネットが普及した社会において、既存のマスメディア、ソーシャル・メディア、人々の情報行動の関係、問題点にはどのようなものがあるか考えておく。 【復習】 インターネットが普及した社会における意見の形成について考え、メディアへの向き合い方を考える。	90分
第15回	15. 国際平和のためのメディアの課題	
	【予習】 文化、歴史、政治・経済体制を異にする国・社会が相互理解するために、メディアが果たすべき役割は何かを考えておく。 【復習】 これまでの授業をふまえ、グローバル化が進むなかで、平和な国際関係の構築のため、メディアやコミュニケーションのあり方、我々の姿勢について考えを深める。	90分

授業の方法

講義形式で行う。ビデオ教材を利用し、随時、コメント・カードの提出を求める。

成績評価の方法

レポート(70%)、コメント・カード提出状況(30%)

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

メディア、マス・コミュニケーション関連の講義を履修していることが望ましい。

テキスト

特になし。

参考書

授業内で、随時、紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	メディアの理論		
教員名	西 兼志		
科目ナンバー	1251445509	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
あらゆるものが産業化されていく現代社会において、文化もその例外ではありません。この授業では、文化産業をめぐる重要な文献を取り上げ、その展開を辿ることで、現代社会を理解するにあたって不可欠な考え方を身につけることを目指します。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、次のような到達目標を設定します：文化産業・メディア文化、さらに現代社会一般を広い視点から位置づけられるようになること。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60	
第2回	文化産業論の源流（１）		
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60	
第3回	文化産業論の源流（２）		
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60	

第4回	文化産業論の源流（3）	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第5回	文化産業と群衆（1）	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第6回	文化産業と群衆（2）	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第7回	文化産業と群衆（3）	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第8回	中間まとめ	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第9回	文化産業とメディア（1）	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60

第10回	文化産業とメディア（2）	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第11回	文化産業とメディア（3）	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第12回	文化産業とデジタル技術（1）	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第13回	文化産業とデジタル技術（2）	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第14回	文化産業とデジタル技術（3）	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60
第15回	まとめ	
	配付資料をよく読み、授業内容を整理し直すことで、理解できるようにする。	60

授業の方法

文化産業についての重要文献の講読を中心とした講義形式で進めていきます。
(なお、授業内容は、展開に応じて、変更されることがあります。)

成績評価の方法

期末レポート＝80%、コメントシートなど＝20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価します。

- ・文化産業（論）の展開を理解できているか。
- ・その上で、各自の身の回りの現象を明らかにできるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特にありません。

テキスト

ポータルサイトを通じて随時、配布します。

参考書

授業中に随時、指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	社会調査演習 I		
教員名	小林 盾		
科目ナンバー	1151445601	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
社会調査士資格関連科目の集大成として、調査の企画から報告書の作成までの社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学ぶ。授業では、調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問と調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施、データ入力とデータクリーニング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成を体験する。			
到達目標			
DP3（他者との協働）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、社会調査に関する知識を活用して、社会調査を実施できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	教科書の該当箇所を予習し、授業後に宿題の作業をおこなう	60	
第2回	調査を企画する		
	教科書の該当箇所を予習し、授業後に宿題の作業をおこなう	60	
第3回	テーマ設定1		
	教科書の該当箇所を予習し、授業後に宿題の作業をおこなう	60	

第4回	テーマ設定2	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	60
第5回	仮説作成1	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	60
第6回	仮説作成2	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	60
第7回	質問作成1	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	60
第8回	質問作成2	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	60
第9回	調査票作成1	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	60

第10回	調査票作成2	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	60
第11回	調査票作成3	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	60
第12回	サンプリング1	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	60
第13回	サンプリング2	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	60
第14回	実査	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	60
第15回	全体のまとめ	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	60

授業の方法

実習（班単位での作業中心です。授業外での作業が生じます）

成績評価の方法

平常点、提出物（論文・レポートなど）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

社会調査士資格の関連科目（カリキュラム6）、「社会調査演習II」とセットで履修してください。課程登録者のみ履修できます。予備登録が必要ですので、かならずガイダンスに参加してください。

テキスト

金井雅之・小林盾・渡邊大輔編『社会調査の応用』弘文堂、ISBN: 978-4335551512

参考書

とくになし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会調査演習II		
教員名	小林 盾		
科目ナンバー	1151445602	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
社会調査士資格関連科目の集大成として、調査の企画から報告書の作成までの社会調査の全過程を、実習を通じて体験的に学ぶ。授業では、調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問と調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施、データ入力とデータクリーニング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成を体験する。			
到達目標			
DP3（他者との協働）、6（文化現象の総合的理解）、7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するために、社会調査に関する知識を活用して、社会調査を実施できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション		
	教科書の該当箇所を予習し、授業後に宿題の作業をおこなう	60	
第2回	調査を企画する		
	教科書の該当箇所を予習し、授業後に宿題の作業をおこなう	60	
第3回	テーマ設定1		
	教科書の該当箇所を予習し、授業後に宿題の作業をおこなう	60	

第4回	テーマ設定2	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	60
第5回	仮説作成1	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	60
第6回	仮説作成2	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	60
第7回	質問作成1	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	60
第8回	質問作成2	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	60
第9回	調査票作成1	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	60

第10回	調査票作成2	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	6 0
第11回	調査票作成3	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	6 0
第12回	サンプリング1	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	6 0
第13回	サンプリング2	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	6 0
第14回	実査	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	6 0
第15回	全体のまとめ	
	教科書の該当箇所を予習し，授業後に宿題の作業をおこなう	6 0

授業の方法

実習（班単位での作業中心です。授業外での作業が生じます）

成績評価の方法

平常点、提出物（論文・レポートなど）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

社会調査士資格の関連科目（カリキュラム6）、「社会調査演習II」とセットで履修してください。課程登録者のみ履修できます。予備登録が必要ですので、かならずガイダンスに参加してください。

テキスト

金井雅之・小林盾・渡邊大輔編『社会調査の応用』弘文堂、ISBN: 978-4335551512

参考書

とくになし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	メディア・リテラシー演習 A		
教員名	見城 武秀		
科目ナンバー	1251445603	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
この演習では、武蔵野・三鷹地域における地域情報発信の担い手である団体の協力を得ながらテレビ番組やラジオ番組を制作し、完成作品を実際に武蔵野・三鷹地域に向けて発信していきます。「演習 A」では、NPO 法人「むさしのみたか市民テレビ局」の協力の下にテレビ番組を制作します。完成した番組は地元ケーブルテレビ局でオンエアされます。 実際にテレビ番組を作る作業を通じ、皆さんは自然とテレビというメディアの特質やその問題点を理解することでしょう。また実際に地域情報を発信する作業を通じ、皆さんの目は自然と「受け手に興味をもってもらえる情報って何だろう?」「地域メディアと全国メディアはどう違うのだろうか?」「NPO って何だろう?」といった問題に向けられ、その答えを見出していきましょう。これらの体験はきっと、皆さんがこれからの社会を生きていく上での貴重な財産となるはずです			
到達目標			
DP3（他者との協働）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を達成するため、次の3 点を到達目標とします。 （1）テレビ番組制作に関する基本的な知識を習得し、企画・取材・編集という一連の作業を経験しながら、視聴者に的確にメッセージを伝える番組を完成させる。 （2）グループ作業においてお互いがもっている意見や情報を共有し合い、番組の完成という目標に向けて分業と協業をおこなう。 （3）情報の送り手としてテレビと関わることにより、情報の受け手として接するときとは異なる視点からテレビというメディアを見つめ直し、その特徴についての理解を深める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	日本におけるCATVの歴史／むさしのみたか市民テレビ局とは？		
	授業内容を復習し、授業スケジュールをしっかりと確認・理解する。	60	
第2回	番組制作のための基礎知識		
	授業内容を配布プリントに即して復習する。	60	
第3回	番組制作実習 1（練習作品の制作）：企画会議その他		
	チームで話し合いの場をもち、企画を完成させる。	60	

第4回	番組制作実習 1（練習作品の制作）撮影・編集	
	撮影内容を確認し、必要に応じて次回授業時までに追加撮影作業をおこなう。	60
第5回	番組制作実習 1（練習作品の制作）：編集	
	必要に応じて追加の編集作業をおこなう。	60
第6回	番組制作実習 1（練習作品の制作）：番組発表会	
	番組発表会で自分たちの作品に寄せられた感想・コメントを振り返り、うまくいった点、いかなかった点を整理して番組作成に活かせるようにする。	60
第7回	番組制作実習 2（「地域の抱える問題」を番組にしよう）：企画会議その他	
	チームで話し合いの場をもち、企画を完成させ、プレゼンテーションの準備をする。	60
第8回	番組制作実習 2（「地域の抱える問題」を番組にしよう）：企画プレゼン・撮影準備	
	実施したプレゼンテーションに対して寄せられたコメントをチームとして振り返り、企画に修正を加える。	60
第9回	番組制作実習 2（「地域の抱える問題」を番組にしよう）：撮影・編集／制作報告	
	必要に応じて取材・編集作業を進めておく。	60

第10回	番組制作実習2（「地域の抱える問題」を番組にしよう）：撮影・編集／制作報告	
	必要に応じて取材・編集作業を進めておく。	60
第11回	番組制作実習2（「地域の抱える問題」を番組にしよう）：撮影・編集／制作報告	
	必要に応じて取材・編集作業を進めておく。	60
第12回	番組制作実習2（「地域の抱える問題」を番組にしよう）：撮影・編集／制作報告	
	必要に応じて取材・編集作業を進めておく。	60
第13回	番組制作実習2（「地域の抱える問題」を番組にしよう）：撮影・編集／制作報告	
	必要に応じて取材・編集作業を進め、番組を完成させる。	60
第14回	番組制作実習2（「地域の抱える問題」を番組にしよう）：番組発表会	
	発表会で自分たちの作品に寄せられた感想・コメントを振り返り、必要に応じて作品に修正を加える。	60
第15回	実習全体を振り返ってのまとめ	
	授業全体を振り返り、番組制作やチーム作業から自分が学んだことを整理する。	60

授業の方法

番組制作の実作業を中心とする演習形式。作業は4人1グループで進める予定です。この授業の履修を希望する方は、かならず「メディア・リテラシー演習ガイダンス」（4月2日（月）に開催）に出席してください。事情によりガイダンスに出席できない場合、なるべく早く教務部（文学部チーム）にその旨を申し出てください。

成績評価の方法

作品制作過程への参加状況（60%）と完成した作品の質（40%）を総合的に見て評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。

- （1）テレビ番組の制作にかかわる基本的な知識と技能を身につけているか。
- （2）番組を完成させるという目標に向け、自分が果たすべき役割を自覚し、その達成に向けて努力しているか。
- （3）グループのメンバーや取材協力者、番組の視聴者に自分の考えや意見を的確に伝えるための工夫や努力をしているか。
- （4）情報の送り手としてテレビと関わることで、情報の受け手として接するときとは異なる視点からテレビというメディアを見つめ直し、その特徴についての理解を深めることができたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目として、メディア・リテラシー論／放送通信論／情報デザイン論／デジタル・メディア論

テキスト

特になし

参考書

授業中に紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学内専用ホームページで周知する。

科目名	メディア・リテラシー演習B		
教員名	見城 武秀		
科目ナンバー	1351445604	単位数	4
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
この演習では、武蔵野・三鷹地域における地域情報発信の担い手である団体の協力を得ながらテレビ番組やラジオ番組を制作し、完成作品を実際に武蔵野・三鷹地域に向けて発信していきます。「演習B」では、コミュニティFM局「エフエムむさしの」の協力の下にラジオ番組を制作し、同局でオンエアします。こうした作業を通じ、皆さんはラジオというメディアの特質を理解するでしょう。また実際に地域情報の発信に携わることで、皆さんの目は自然と「受け手が興味をもつ情報って何だろう?」「地域メディアと全国メディアはどう違うのだろう」といった問題に向けられ、答えを見出していくでしょう。これらの体験はきっと、皆さんがこれからの社会を生きていく上での貴重な財産となるはずです			
到達目標			
DP3（他者との協働）、DP4（自発性、積極性）、DP5（表現力、発信力）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）、DP8（他者を理解する能力および自己を他者に正確に伝達する能力）を達成するため、次の3点を到達目標とします。 （1）ラジオ番組制作に関する基本的な知識を習得し、企画・取材・編集という一連の作業を経験しながら、番組を通してリスナーに伝えたいメッセージを的確に表現した番組を完成させる。 （2）グループ作業においてお互いがもっている意見や情報を共有し合い、番組の完成という目標に向けて分業と協業をおこなう。 （3）情報の送り手としてラジオに関わることで、情報の受け手として接するときとは異なる視点からラジオというメディアを見つめ直し、その特徴についての理解を深める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	コミュニティFMの歩みと現在／「エフエムむさしの」について		
	授業内容を復習し、授業スケジュールをしっかりと確認・理解する。	60	
第2回	演習のテーマに関する説明とディスカッション／前回制作作品の試聴		
	授業内容を配布プリントに即して復習する。	60	
第3回	スタジオ見学とリポーター体験		
	授業中の説明内容を整理し、しっかりと理解する。	60	

第4回	番組制作のための基礎知識（機材、取材、構成など）	
	機材の使い方、取材上の注意事項など、授業で説明されたことを整理し、しっかり理解する。	60
第5回	取材練習および取材テーマに関するディスカッション	
	チーム毎に取材テーマについて話し合いの場をもち、確定させる。	60
第6回	取材先の下見・リサーチ	
	テーマにふさわしい取材先について下調べをし、取材先を絞り込んでおく。	60
第7回	取材（１）：取材、インタビュー	
	取材先にアポイントをとったり、取材した内容について整理したりといった作業をチームで進めておく。	60
第8回	取材（２）：取材、インタビュー	
	取材先にアポイントをとったり、取材した内容について整理したりといった作業をチームで進めておく。	60
第9回	取材（３）：取材、インタビュー	
	取材先にアポイントをとったり、取材した内容について整理したりといった作業をチームで進めておく。	60

第10回	取材（４）：取材、インタビュー	
	取材先にアポイントをとったり、取材した内容について整理したりといった作業をチームで進めておく。	60
第11回	編集（１）	
	必要に応じて追加取材や編集作業を進めておく。	60
第12回	編集（２）	
	必要に応じて追加取材や編集作業を進めておく。	60
第13回	編集（３）	
	必要に応じて追加取材や編集作業を進め、番組を完成させる。	60
第14回	制作番組のオンエア	
	自分たちの制作したラジオ番組がオンエアされた感想についてまとめておく。	60
第15回	制作番組発表会・意見交換と講評	
	授業全体を振り返り、番組制作やチーム作業から自分が学んだことを整理する。	60

授業の方法

番組制作の実作業を中心とする演習形式。作業は4人1グループで進める予定です。この授業の履修を希望する方は、かならず「メディア・リテラシー演習ガイダンス」（4月2日（月）に開催）に出席してください。事情によりガイダンスに出席できない場合、なるべく早く教務部（文学部チーム）にその旨を申し出てください。

成績評価の方法

作品制作過程への参加状況（60％）と完成した作品の質（40％）を総合的に見て評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠しつつ、以下の基準に照らして評価します。

- （1）ラジオ番組の制作にかかわる基本的な知識と技能を身につけているか。
- （2）番組を完成させるという目標に向け、自分が果たすべき役割を自覚し、その達成に向けて努力しているか。
- （3）グループのメンバーや取材協力者、番組のリスナーに自分の考えや意見を的確に伝えるための工夫をしているか。
- （4）情報の送り手としてラジオと関わることにより、情報の受け手として接するときとは異なる視点からラジオというメディアを見つめ直し、その特徴についての理解を深めることができたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目として、メディア・リテラシー論／放送通信論／情報デザイン論／デジタル・メディア論

テキスト

特になし

参考書

授業中に紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	コミュニティ演習A		
教員名	伊藤 昌亮		
科目ナンバー	1051445605	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
この授業では、成蹊大学の位置する武蔵野市や近隣自治体に関わる具体的な授業テーマを設定し、関係者へのインタビューや質問紙調査などの手法を用いながら研究を進め、その研究成果を地域に向けて発信していきます。 2018年度のテーマは「表現を通じた共生―武蔵野アール・ブリュットに向けて」です。障害のある方などによる芸術活動、アール・ブリュットが武蔵野市でどのように進められているのかを調査し、その成果を映像作品として表現するとともに、学内外の人たちを招いて開催する最終報告会などの場で公表します。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、以下の3点を到達目標とする。 ①現在の地域の状況とその背景を知り、どのような課題が認識されているかを理解する。 ②自分とは異なる時代や地域に生きてきた人々の経験についての関心や想像力を養う。 ③フィールドワークや聞き取り調査などを通して得られた情報を分析し、今後に役立つ提案にまとめ、わかりやすく伝える。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション		
	授業の予定を理解するとともに、背景となる知識を整理し、次回の調査と取材に備える。	60	
第2回	調査と取材		
	収集したデータを整理する。	90	
第3回	データの分析と次回行動計画の策定		
	前回のデータに基づき、次回のために調査項目、取材項目等をまとめる。	90	

第4回	調査と取材	
	収集したデータを整理する。	90
第5回	データの分析と次回行動計画の策定	
	前回のデータに基づき、次回のために調査項目、取材項目等をまとめる。	90
第6回	調査と取材	
	収集したデータを整理する。	90
第7回	データの分析と次回行動計画の策定	
	前回のデータに基づき、次回のために調査項目、取材項目等をまとめる。	90
第8回	調査と取材	
	収集したデータを整理する。	90
第9回	データの分析	
	上映映像と発表資料の作成を念頭に置きながら、これまでのデータを整理し、論点をまとめる。	90

第10回	上映映像の構成	
	グループごとに映像上映会のための映像構成作業を進める。	90
第11回	発表資料の構成	
	グループごとに最終報告会のための資料構成作業を進める。	90
第12回	上映映像の作成	
	グループごとに映像上映会のための映像作成作業を進める。	90
第13回	映像上映会	
	映像上映会の成果を踏まえた振り返り。	60
第14回	発表資料の作成	
	グループごとに最終報告会のための資料作成作業を進める。	90
第15回	最終報告会	
	最終報告会の成果を踏まえた振り返り。	60

授業の方法

グループワークを前提とした演習形式で行う。

この授業は、コミュニティ演習Aとコミュニティ演習Bを一体のものとし、2コマ連続で実施する。履修者は必ずコミュニティ演習Aとコミュニティ演習Bの両方を履修することになるので、注意してください。

成績評価の方法

授業内外で行う各種作業への参加状況とその成果：50%、映像上映会・最終報告会における発表内容とその質：50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目として「コミュニティの社会学」「武蔵野地域研究」がある。

テキスト

特になし。

参考書

授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	コミュニティ演習B		
教員名	伊藤 昌亮		
科目ナンバー	1051445606	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
この授業では、成蹊大学の位置する武蔵野市や近隣自治体に関わる具体的な授業テーマを設定し、関係者へのインタビューや質問紙調査などの手法を用いながら研究を進め、その研究成果を地域に向けて発信していきます。 2018年度のテーマは「表現を通じた共生―武蔵野アール・ブリュットに向けて」です。障害のある方などによる芸術活動、アール・ブリュットが武蔵野市でどのように進められているのかを調査し、その成果を映像作品として表現するとともに、学内外の人たちを招いて開催する最終報告会などの場で公表します。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、DP3（他者との協働）、DP5（表現力、発信力）、DP7（問題発見能力および多面的な分析能力）を実現するため、以下の3点を到達目標とする。 ①現在の地域の状況とその背景を知り、どのような課題が認識されているかを理解する。 ②自分とは異なる時代や地域に生きてきた人々の経験についての関心や想像力を養う。 ③フィールドワークや聞き取り調査などを通して得られた情報を分析し、今後に役立つ提案にまとめ、わかりやすく伝える。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション		
	授業の予定を理解するとともに、背景となる知識を整理し、次回の調査と取材に備える。	60	
第2回	調査と取材		
	収集したデータを整理する。	90	
第3回	データの分析と次回行動計画の策定		
	前回のデータに基づき、次回のために調査項目、取材項目等をまとめる。	90	

第4回	調査と取材	
	収集したデータを整理する。	90
第5回	データの分析と次回行動計画の策定	
	前回のデータに基づき、次回のために調査項目、取材項目等をまとめる。	90
第6回	調査と取材	
	収集したデータを整理する。	90
第7回	データの分析と次回行動計画の策定	
	前回のデータに基づき、次回のために調査項目、取材項目等をまとめる。	90
第8回	調査と取材	
	収集したデータを整理する。	90
第9回	データの分析	
	上映映像と発表資料の作成を念頭に置きながら、これまでのデータを整理し、論点をまとめる。	90

第10回	上映映像の構成	
	グループごとに映像上映会のための映像構成作業を進める。	90
第11回	発表資料の構成	
	グループごとに最終報告会のための資料構成作業を進める。	90
第12回	上映映像の作成	
	グループごとに映像上映会のための映像作成作業を進める。	90
第13回	映像上映会	
	映像上映会の成果を踏まえた振り返り。	60
第14回	発表資料の作成	
	グループごとに最終報告会のための資料作成作業を進める。	90
第15回	最終報告会	
	最終報告会の成果を踏まえた振り返り。	60

授業の方法

グループワークを前提とした演習形式で行う。

この授業は、コミュニティ演習Aとコミュニティ演習Bを一体のものとし、2コマ連続で実施する。履修者は必ずコミュニティ演習Aとコミュニティ演習Bの両方を履修することになるので、注意してください。

成績評価の方法

授業内外で行う各種作業への参加状況とその成果：50%、映像上映会・最終報告会における発表内容とその質：50%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目として「コミュニティの社会学」「武蔵野地域研究」がある。

テキスト

特になし。

参考書

授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	現代社会研究 A		
教員名	茶谷 誠一		
科目ナンバー	1251445701	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

近代日本の「戦争の時代」における国家、社会（前線の出征兵士や学徒兵、銃後の女性の生活）、個人の関係について考察していく。出征兵士や特攻隊員が書いた日記、遺書、故郷の家族が出征兵士に宛てた手紙などを読んだり、女性雑誌に掲載された挿絵などを見ることで、国家が行っていた戦争を社会がどう受けとめていたのかを探っていきたい。また、同時代の社会を描いた映像資料も随時視聴しながら、授業の理解を深めていく。

到達目標

戦時中における国家と社会、個人の関係につき、現代の日本社会と比較しながら、国家による一方的な社会、個人への統制がいかに危ない側面を抱えているのかという点を理解できるようにする。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	1：ガイダンス、授業導入（赤紙とは）	
	【予習】シラバスをよく読み、授業の進め方を理解しておく。	60
第2回	戦時中の動員システム	
	【復習】配布したプリントを読み直し、赤紙がどのようなものであったかを再確認する。	60
第3回	映像資料視聴「最後の赤紙配達人」、専門的内容の補足説明	
	【予習】前回授業の内容を理解しておく。 【復習】視聴した映像資料と補足した説明が把握できるようにする。	60

第4回	出征兵士たちの手紙を読む	
	【復習】配布したプリントを読み直し、授業で学んだ内容を深く認識する。	60
第5回	学徒出陣のしくみ（「特攻隊」となった学徒兵たちが経験した戦争）	
	【復習】授業でほかの履修者の感想について取りあげているはずなので、自分との感じ方の違いを認識する。	60
第6回	「特攻隊」にかんする映像資料の視聴、特攻隊のまとめ	
	【復習】「特攻隊」という異常な戦争の実態につき、授業中に紹介した隊員の遺書などを読み直すこと。	60
第7回	銃後の生活（戦没兵士の母親の心境）	
	【復習】映像資料の内容を思い起こし、特攻攻撃について理解を深める。	60
第8回	靖国神社とは（慰霊と顕彰）	
	【復習】配布プリントを読み直し、授業内容の理解を深める。	60
第9回	国家による戦没者の扱い（アッツ島の玉砕を事例に）	
	【復習】授業で視聴した映像と配布プリントの内容を比較し、内容を理解する。	60

第10回	戦時中の国家と女性 1 『主婦の友』の挿絵、口絵から読み解く時局	
	【復習】授業で取りあげた履修者の見解と自分の感想とを比較し、授業内容の理解を深めていく。	60
第11回	戦時中の国家と女性 2 女性と戦争の関係（軍国少女と戦争）	
	【復習】配布プリントを読み直し、授業内容を理解しておくこと。	60
第12回	戦時中の国家と女性3 従軍看護婦たちがみた戦争	
	【復習】視聴した映像資料とプリントの内容を比較し、自身で理解を深める。	60
第13回	メディアと戦争 1 新聞報道の変化（玉音放送を題材に）	
	【復習】配布プリントを読み直し、授業内容を理解する。	60
第14回	メディアと戦争 2 メディアの戦争協力の実態	
	【復習】視聴した映像資料とプリントの内容を比較し、自身で理解を深める。	60
第15回	授業全体のまとめ	
	【復習】講義内容と自分で学んできたことを思い返し、全体をよく把握しておくこと。	60

授業の方法

テキストは指定せず、こちらで用意するプリントを適宜配布する。テーマごとに履修者の意見を聞きながら授業を進めていきたい。また、映像資料も各テーマの導入時や終了時など、適宜、利用しながら理解を深めていく。

成績評価の方法

平常点…30% 授業時のコメントと課題…30% レポート…40%。毎回出席をとる。欠席や遅刻、途中退室には厳正に対処するので、注意すること。平常点の割合が高いため、授業時に実施する作業など積極的な参加姿勢が重要となる。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

とくに指定しない。適宜、プリントを配布する。

参考書

吉見義明『草の根のファシズム』（東京大学出版会、1987年）、若桑みどり『戦争がつくる女性像』（ちくま学芸文庫、2000年）、藤井忠俊『兵たちの戦争』（朝日選書、2000年）、吉田敏治『赤紙と徴兵』（彩流社2011年）、森岡清美『若き特攻隊員と太平洋戦争』（吉川弘文館、2011年）など。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

リアクションペーパーへの記述のほか、授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	現代社会研究B		
教員名	堀口 剛		
科目ナンバー	1251445702	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
本講義では戦後の出版をめぐる歴史を概観していきます。 本の「出版」という営みは「文化」とは切っても切れない関係にあります。ある出版者は本を通じた「文化の配達」こそが自身の使命であると任じていました。 では、こうした「出版」が形作った「文化」とはどのようなものなのでしょうか？ 本講義では、日本の戦後から現代に至るまでの個別具体的な事例を紹介することによって、日本の出版文化のあゆみについて理解することを目指します。			
到達目標			
戦後日本の出版文化のあゆみについて知り、説明することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション		
	【復習】配布した資料を読み直す。	60	
第2回	終戦直後のカストリ雑誌		
	【復習】配布した資料を読み直す。	60	
第3回	『平凡』の時代		
	【復習】配布した資料を読み直す。	60	

第4回	『暮らしの手帖』の登場	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第5回	「週刊誌」の登場	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第6回	戦後の「文庫」・「新書」ブーム	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第7回	『サンデー』と『マガジン』	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第8回	「人生雑誌」と働く青年	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第9回	『ぴあ』の時代	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60

第10回	「音楽雑誌」の登場	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第11回	『anan』と『non-no』	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第12回	「ニューアカ」と「人文書」	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第13回	「ライトノベル」の誕生	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第14回	Amazonと電子書籍の時代	
	【復習】配布した資料を読み直す。	60
第15回	到達度確認テスト	
	【復習】到達度確認テストの内容について、これまでの資料を読み直す。	60

授業の方法

配布した資料に基づいて講義を行っていきます。

成績評価の方法

到達度確認テスト：40% □□

毎回のリアクションペーパー：60%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

とくに指定しません。参考資料については、講義内で適宜紹介・配布します。

参考書

とくに指定しません。参考資料については、講義内で適宜紹介・配布します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

講義に関する質問等は講義後およびリアクションペーパーにて受け付けます。

科目名	トピック・セミナーA		
教員名	川端 有子		
科目ナンバー	1251468101	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』『鏡の国のアリス』を取り上げ、実写・アニメを問わず多岐にわたるその映像化作品やさまざまな挿絵画家による視覚化を比較し、その変遷と多様化をたどる。			
到達目標			
原作とその映画化、挿絵といったアダプテーションを通して、時代背景や表現方法の多様性を発見し、それを自らの言葉で表現できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンスとオリエンテーション		
	指定された本や配布物を受け取り、翌週にそなえて読んでおく。		60分
第2回	『不思議の国のアリス』について		
	事前に作品を読んでおく。復習として学んだことをまとめておく。		60分
第3回	『鏡の国のアリス』について		
	事前に作品を読んでおく。復習として学んだことをまとめておく。		60分

第4回	もっとも古い映像を鑑賞し、意見交換。	
	授業後、見た映像についてまとめておく。次回発表してもらう。	60分
第5回	ディズニー版『アリス』を鑑賞。その切り取り方について意見交換。	
	授業後、見た映像についてまとめておく。次回発表してもらう。	60分
第6回	72年版ミュージカルを鑑賞。その特徴について意見交換。	
	授業後、見た映像についてまとめておく。次回発表してもらう。	60分
第7回	85年版ミュージカルを鑑賞。その特徴について意見交換。	
	授業後、見た映像についてまとめておく。次回発表してもらう。	60分
第8回	88年ヤン・シュヴァンクマイエル版を鑑賞。その特異性について意見交換。	
	授業後、見た映像についてまとめておく。次回発表してもらう。	60分
第9回	英国ロイヤルバレエ団のバレエ版を鑑賞。バレエの表現について意見交換。	
	授業後、見た映像についてまとめておく。次回発表してもらう。 いろいろな挿絵をなるべく集めておく。	60分

第10回	さまざまな挿絵について比較しつつ意見交換。	
	授業後、挿絵画家一人を選び短いレポートにまとめる。	60分
第11回	ティム・パートン監督2010年版映画を鑑賞。そのアダプテーションについて意見交換。	
	授業後、見た映像についてまとめておく。次回発表してもらう。	60分
第12回	未定であるがそのほかのアリス映画化作品を鑑賞。その特徴について意見交換。	
	授業後、見た映像についてまとめておく。次回発表してもらう。	60分
第13回	未定であるがそのほかのアリス映画化作品を鑑賞。その特徴について意見交換。	
	授業後、見た映像についてまとめておく。次回発表してもらう。自分が最も興味を持った映像について発表の用意を進める。	60分
第14回	各自選んだ視覚化作品について発表	
	自分が最も興味を持った映像について発表の用意を進める。	60分
第15回	各自選んだ視覚化作品について発表	
	期末レポートの作成にかかる。	120分～

授業の方法

映画を一区切り観た後、解説を加えるので、そのあとは出席者の意見交換が主となる。授業後、意見をまとめ、次の最初に口頭で発表してもらう。主体的な参加が必要であり、出席は必須。

成績評価の方法

毎回の出席と発表 30% 中間レポート30% 期末レポート40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

少なくとも翻訳で『不思議の国のアリス』『鏡の国のアリス』を読んでおくこと。

テキスト

授業中に配布、または指示する。

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	トピック・セミナーB		
教員名	牧 藍子		
科目ナンバー	1251468102	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
近世文学の基本的な性格の一つにパロディが挙げられる。パロディの方法は作品ごとに多種多様で、それぞれに効果が生まれている。本授業では、誰しも一度はその名を耳にしたことがあるような、有名な日本古典文学作品を下敷きにした近世の作品を取り上げ、そのパロディのありようについて考える。近世以前に成立した作品との比較を通じて、近世文学の特徴を学ぶとともに、その魅力を味わってほしい。			
到達目標			
DP2（課題の発見と解決）、6（文化現象の総合的理解）を実現するため、次の3点を到達目標とする。 ・日本古典文学についての基礎的な知識を身につける。 ・近世文学におけるパロディの手法を、具体的な作品の読解を通じて学ぶ。 ・近世文学の特徴について理解を深め、庶民文芸としての面白さを味わう。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・授業の進め方について		
	シラバスを読んでおく。		30
第2回	『枕草子』のパロディ ・『尤之双紙』を読む。		
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。		60
第3回	『伊勢物語』のパロディ① ・『仁勢物語』を読む。		
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。		60

第4回	『伊勢物語のパロディ②』 ・『癩癬談』を読む。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第5回	『伊勢物語』のパロディ③ ・『好色一代男』を読む。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第6回	『徒然草』のパロディ ・『吉原徒然草』を読む。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第7回	『源氏物語』のパロディ① ・『修紫田舎源氏』を読む。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第8回	『源氏物語』のパロディ② ・『おくのほそ道』を読む。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第9回	『小倉百人一首』のパロディ ・『犬百人一首』を読む。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60

第10回	『宇治拾遺物語』のパロディ ・『小野篁歌字尽』を読む。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第11回	桃太郎のパロディ① ・『桃太郎後日噺』を読む。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第12回	桃太郎のパロディ② ・『桃太郎後日噺』を読む。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第13回	『義経記』のパロディ① ・「勸進帳」を観る。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第14回	『義経記』のパロディ② ・「勸進帳」を観る。	
	配布プリントや関連資料・作品等を読み、内容を把握する。	60
第15回	授業のまとめ	
	これまでの学修内容を確認しておく。	60～

授業の方法

講義形式とグループワークを取り入れた演習形式を組み合わせで行う。
各回のはじめに、その回で取り上げる作品の文学史的な位置づけを概説し、その後、作品の読解に移る。
適宜小テストを行い、予習・復習ができていないか確認する。

成績評価の方法

授業への参加具合・小テスト50%、期末試験（あるいは到達度確認テスト、課題レポート）50%による総合評価。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。

- ・ 日本古典文学についての基礎的な知識が身についたか。
- ・ 近世文学におけるパロディの手法を、具体的な作品の読解を通じて学ぶことができたか。
- ・ 近世文学の特徴について理解を深め、庶民文芸としての面白さを知ることができたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。ただし、古文を原文で読むので、基本的な文法知識のあることが望ましい。

テキスト

プリントを配布する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	トピック・セミナーC		
教員名	竹内 敬子		
科目ナンバー	1251468103	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
ジェンダー・スタディーズのさまざまなトピックについて学ぶ。グローバル化のすすむ現代社会におけるジェンダーをめぐるさまざまな問題について学び、女性も男性も、そして、多様なジェンダー・アイデンティティやセクシュアリティを持つ人々も、すべての人が自由に生き生きと自分らしく生きられる社会とはどのような社会か、ということについて考える。			
到達目標			
DP6(文化現象の総合理解)、DP7(問題発見能力および多面的な分析能力)、DP8(他者を理解する能力および自己を他者に伝達する能力)を実現するため、次の4点を到達目標とする。 ①ジェンダー・スタディに関する知識を身につける。 ②ジェンダー・センシティブな物の見方を身につける。 ③テキストの理解の上に、自分で調べたことを加えて口頭および文章で表現出来るようになる。 ④参加者相互で建設的な議論を構築出来るようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション		
	ジェンダーに関する新聞、雑誌記事などを読んでくる。		60
第2回	「I ジェンダー・スタディーズの理論」を読み、議論する。		
	テキストを読み、関連する文献や新聞記事を読んだり、TVニュース、ドキュメンタリー番組などを見る。		60 報告者は120
第3回	「II ジェンダー・スタディーズの諸相」「I 文化とジェンダー」「A 育つ・育てる」「B 多様な文化・多様な暮らし」を読み、議論する。		
	テキストを読み、関連する文献や新聞記事を読んだり、TVニュース、ドキュメンタリー番組などを見る。		60 報告者は120

第4回	「C “his story”を越えて」「D 想像と創造」を読み、議論する。	
	テキストを読み、関連する文献や新聞記事を読んだり、TVニュース、ドキュメンタリー番組などを見る。	60 報告者は120
第5回	「I1 ジェンダー・スタディーズの諸相」「2 社会とジェンダー」「A 社会システムを考える」「B 心のなかを見つめる」を読み、議論する	
	テキストを読み、関連する文献や新聞記事を読んだり、TVニュース、ドキュメンタリー番組などを見る。	60 報告者は120
第6回	「C お金と労働の間」「人間という存在を問う」を読み議論する。	
	テキストを読み、関連する文献や新聞記事を読んだり、TVニュース、ドキュメンタリー番組などを見る。	60 報告者は120
第7回	「E 法というシステム」を読み、議論する。	
	テキストを読み、関連する文献や新聞記事を読んだり、TVニュース、ドキュメンタリー番組などを見る。	60 報告者は120
第8回	「I1 ジェンダー・スタディーズの諸相」「3 身体とジェンダー」「A 生物としての人間」「B 身体/スポーツを考える」を読み、議論する。	
	テキストを読み、関連する文献や新聞記事を読んだり、TVニュース、ドキュメンタリー番組などを見る。	60 報告者は120
第9回	「C ケアする／される」を読み、議論する。	
	テキストを読み、関連する文献や新聞記事を読んだり、TVニュース、ドキュメンタリー番組などを見る。	60 報告者は120

第10回	映画『オフサイド・ガールズ』を鑑賞する。	
	テキストを読み、関連する文献や新聞記事を読んだり、TVニュース、ドキュメンタリー番組などを見る。	60 報告者は120
第11回	映画『オフサイド・ガールズ』の続きを鑑賞し、議論する。	
	テキストを読み、関連する文献や新聞記事を読んだり、TVニュース、ドキュメンタリー番組などを見る。	60 報告者は120
第12回	「III ジェンダー・スタディーズの最前線」の中の17のテーマの中から選んだテーマをグループで調べ、発表し、議論する。 (発表は2グループずつ)	
	テキストを読み、関連する文献や新聞記事を読んだり、TVニュース、ドキュメンタリー番組などを見る。	60 報告者は120
第13回	「III ジェンダー・スタディーズの最前線」の中の17のテーマの中から選んだテーマをグループで調べ、発表し、議論する。 (発表は2グループずつ)	
	テキストを読み、関連する文献や新聞記事を読んだり、TVニュース、ドキュメンタリー番組などを見る。	60 報告者は120
第14回	「III ジェンダー・スタディーズの最前線」の中の17のテーマの中から選んだテーマをグループで調べ、発表し、議論する。 (発表は2グループずつ)	
	テキストを読み、関連する文献や新聞記事を読んだり、TVニュース、ドキュメンタリー番組などを見る。	60 報告者は120
第15回	まとめ	
	全体の復習	60

授業の方法

学生によるテキストの該当部分の報告（テキスト以外にもさまざまな調査をすること）とそれに基づく議論。

成績評価の方法

レジュメ、報告内容、議論への参加、発言内容など：40%。
期末レポート：60%。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「人権とジェンダー」

テキスト

木村涼子他『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房）

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	トピック・セミナーD		
教員名	茶谷 誠一		
科目ナンバー	1251468104	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テーマとして、「戦争と平和」をきっかけ、いくつかのトピックを取りあげながら、今一度、日本人にとっての過去の戦争とは何だったのか、そして、過去の戦争に関する諸問題が現代においてもいまだ未解決な部分を抱えているという点につき、理解を深めていきたいと考える。 テーマは大きく2つに分け、日中戦争から太平洋戦争において、日本が戦争の加害国となった面、被害国となった面の両面から戦争の実態をながめていく。			
到達目標			
履修者各自が日本が経験した戦争とは何だったのか、現在における平和がいかに貴重で尊いものであるか、ということを深く認識できるようになることを目標とする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	1：ガイダンス（今後の進行予定、成績評価方法など）		
	シラバスをよく読み、授業の進め方をよく理解しておく。		30
第2回	テキスト紹介とグループ分け 各自の関心テーマの決定		
	【復習】授業中に紹介されたテキストを購入するなど、次週以降の授業の準備を進めていくこと。		30
第3回	映像資料視聴：フィリピン戦関係 「兵士たちの戦争 ルソン島決戦」		
	【復習】次週で取りあげる授業内容に関する映像資料の内容をよく理解しておく。		30

第4回	グループ報告1：フィリピン戦関係 質疑応答	
	【予習】グループ報告の担当者は当日までにレジュメ作成、口頭報告の準備を進めておくこと。 【復習】履修者全員が当日のテーマについてレジュメを読み直して理解を深めていくこと。	120 30
第5回	映像資料視聴：東京大空襲 「届かぬ訴え 空襲被害者たちの戦後」	
	【復習】次週で取りあげる授業内容に関する映像資料の内容をよく理解しておく。	30
第6回	グループ報告2：東京大空襲関係 質疑応答	
	【予習】グループ報告の担当者は当日までにレジュメ作成、口頭報告の準備を進めておくこと。 【復習】履修者全員が当日のテーマについてレジュメを読み直して理解を深めていくこと。	120 30
第7回	グループ報告3：原爆投下と甚大な被害 質疑応答	
	【予習】グループ報告の担当者は当日までにレジュメ作成、口頭報告の準備を進めておくこと。 【復習】履修者全員が当日のテーマについてレジュメを読み直して理解を深めていくこと。	120 30
第8回	グループ報告4：沖縄戦での集団自決 質疑応答	
	【予習】グループ報告の担当者は当日までにレジュメ作成、口頭報告の準備を進めておくこと。 【復習】履修者全員が当日のテーマについてレジュメを読み直して理解を深めていくこと。	120 30
第9回	映像資料視聴：沖縄戦時の集団自決 渡嘉敷島での集団自決証言	
	【復習】前の週で取りあげた授業内容に関する映像資料を視聴し、授業内容の理解を深めるとともに、 質疑応答を通じて履修者全員での認識を深めていく。	30

第10回	グループ報告5：従軍慰安婦問題 質疑応答	
	【予習】グループ報告の担当者は当日までにレジュメ作成、口頭報告の準備を進めておくこと。 【復習】履修者全員が当日のテーマについてレジュメを読み直して理解を深めていくこと。	120 30
第11回	映像資料視聴：従軍慰安婦問題 質疑応答	
	【復習】前の週で取りあげた授業内容に関する映像資料を視聴し、授業内容の理解を深めるとともに、 質疑応答を通じて履修者全員での認識を深めていく。	30
第12回	グループ報告6：遺骨収集からみる戦争と戦後 質疑応答	
	【予習】グループ報告の担当者は当日までにレジュメ作成、口頭報告の準備を進めておくこと。 【復習】履修者全員が当日のテーマについてレジュメを読み直して理解を深めていくこと。	120 30
第13回	グループ報告7：加害者としての日本人兵士 質疑応答	
	【予習】グループ報告の担当者は当日までにレジュメ作成、口頭報告の準備を進めておくこと。 【復習】履修者全員が当日のテーマについてレジュメを読み直して理解を深めていくこと。	120 30
第14回	フィールドワーク：武蔵野市役所でのパネル展見学 武蔵野の空襲を記憶する会の方々との質疑応答	
	【復習】パネル展の見学と武蔵野の空襲を記憶する会の方々の話を聞き、授業で扱った東京大空襲の内容と連動させながら、各自で理解を深める。	30
第15回	授業全体のまとめ（日本にとって戦争とは何だったのか）	
	授業の最後にあたり、履修者各自が意見を述べ、どの程度の知識を得られたかを相互に確認しあう。	30

授業の方法

講義と演習の両方（演習が中心）。テーマごとに講義で概要を紹介した後、ゼミ形式による報告へと移る。履修者は、関心のあるテキストを選んでレジュメにまとめ、口頭で報告をおこなう。その後、全員で討議の時間をもちたい。
また、今年度も武蔵野市役所などで開催される武蔵野空襲関係のパネル展を見学に行き（11月頃）、大学の近辺でおこった空襲の実態を認識する機会を設けたいと考えている。

成績評価の方法

平常点（40%）、報告内容（30%）、レポート（30%）の総合評価とする。毎回出席をとり、平常点も重視する。欠席や遅刻には厳正に対処するので注意すること。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

岩波ブックレットのなかから、「戦争と平和」に関するものを複数候補としてあげ、最終的には、履修者が各自で選択する。テキストは最新のものに変更になる場合がある。

参考書

とくに指定しない。必要に応じて指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業開始前、終了後に教室で受け付ける。

科目名	トピック・セミナーE		
教員名	飯塚 邦彦		
科目ナンバー	1251468105	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
日本独自の文化として注目されている、マンガ、アニメ、ゲームを中心とした「おたく文化」。様々な方面から研究が進んでいるが、歴史についての研究は進んでいるとはいいがたい。70年代、どのような背景の上にマンガ、アニメ文化は成立していったのだろうか。80年代、どのような変化の上でおたく文化は急成長していったのだろうか。 本講義では、「マンガ同人誌」の成立過程を軸に、当時の雑誌、同人誌、アニメ作品などに触れながら、今や「歴史」となったおたく文化の「成立」と「成長」について学んでいく。そしてそこから、現在のおたく文化のあり方を考えていく。			
到達目標			
DP1（教養の取得）、DP3（他者との共働）、DP5（表現力・発信力）、DP6（文化現象の総合的理解）に基づいて、次の目標を設定する。 ①現在の文化がどのような歴史的過程に基づいて成立してきたかを理解し、説明できるようになる。 ②マンガ同人誌の成立について概要をつかみ、その他の自己表現との関係を説明できるようになる。 ③メンバーと共働し、説得力のある報告書を作成できるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	イントロダクション ・概要の説明、資料配付 ・グループ分け（ZINE班、女性文化班、男性文化班）、役割分担		
	テキスト『日本のZINEについて知っていることすべて』をよく読んでおく。		60
第2回	歴史的背景 ・60年代末～70年代初頭の若者文化の状況について学ぶ。 ・映像資料を見て、ディスカッションを行なう。		
	感想をOneNoteに書き込み、コメントをつけ合う。		60
第3回	自主的出版について(1) ・ZINE班は、『日本のZINEについて知っていることすべて』について発表を行なう。 ・質疑応答		
	次回のディスカッションの論点を考え、OneNoteに書き込む。『BL進化論』を読み進めておく。		60

第4回	自主的出版について(2) ・ 前回の発表に基づいて、「ZINE」が果たしていた役割、「自主的出版」が果たしていた役割を話し合う。	
	理解できたこと、疑問点などをOneNoteに書き込む。『BL進化論』を読み進めておく。	60
第5回	女性側の文化について(1) ・ 女性文化班は、『BL進化論』について発表を行なう。 ・ 質疑応答	
	次回のディスカッションの論点を考え、OneNoteに書き込む。『おたくの起源』を読み進めておく。	60
第6回	女性側の文化について(2) ・ 前回の発表に基づいて、女性たちがどのようにマンガ同人誌を作っていたか、それまでの「自主的出版」とはどのように違うのかを話し合う。	
	理解できたこと、疑問点などをOneNoteに書き込む。『おたくの起源』を読み進めておく。	60
第7回	男性側の文化について(1) ・ 男性文化班は、『おたくの起源』について発表を行なう。 ・ 質疑応答	
	次回のディスカッションの論点を考え、OneNoteに書き込む。	60
第8回	男性文化について(2) ・ 前回の発表に基づいて、男性たちがどのようにマンガ同人誌を作っていたか、先行するファンジンとの関係はどのようなものであったか、女性との関係はどうであったかを話し合う。	
	理解できたこと、疑問点などをOneNoteに書き込む。同人誌即売会関係者、同人誌印刷所関係者への質問事項を考えておく。	60
第9回	インタビュー調査(1) ・ これまで学んできたことをまとめる。 ・ 同人誌即売会関係者、同人誌印刷所関係者への質問事項を作成する。	
	班ごとに質問事項を確定する。	60

第10回	インタビュー調査(2) ・ 同人誌即売会関係者にインタビューを行う。	
	分担して、文字起こしを進める。起こした文章はOneNoteで共有する。	60
第11回	インタビュー調査(3) ・ 同人誌即売会関係者にインタビューを行う。	
	分担して、文字起こしを進める。起こした文章はOneNoteで共有する。	60
第12回	報告書作成(1) ・ インタビューの内容を共有し、理解できたことをディスカッションする。 ・ 班ごとに、報告書の方向性と分担を進める。	
	各自報告書の作成に入る。	60
第13回	報告書作成(2) ・ 班ごとに進行状況を発表する。 ・ 情報を共有しながら、報告書の作成を進める。	
	メンバー間で連絡を取りながら、報告書の作成を進める。	60
第14回	報告書作成(3) ・ 情報を共有しながら、報告書を完成させる。	
	この講義を通じて得たもの、次に生かしたいことなどを、OneNoteに書き込む。	30
第15回	まとめと振り返り ・ この講義を通じて得たもの、次に生かしたいことなどを、各自発表する。 ・ OneNoteを使ってピアレビューを行なう。	
	他者のコメントを受けて考えたことをOneNoteに書き込み、共有する。	60

授業の方法

演習形式で行なう。グループワークが基本となる。
本講義では、テキストの配布、メンバーとのコラボレーション、情報の共有、報告書の作成などは、成蹊大学のOffice365が提供するクラウドサービス（Yammer、OneNote）で行なう。各自、自分専用のパソコン、タブレットを持っていることが望ましい。
本講義では、授業で学んだ成果を冊子形式の報告書にまとめていく。報告書は印刷し、同人誌即売会などで頒布する予定である。

成績評価の方法

授業への参加状況（特に発表の内容）（40%）＋報告書の内容（40%）＋出席を中心とした平常点（20%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

授業への積極的な参加と、報告書の内容を重視する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。

テキスト

野中モモ、ばるばる『日本のZINEについて知っていることすべて』誠文堂新光社、2017
溝口彰子『BL進化論』太田出版、2015
吉本たいまつ『おたくの起源』NTT出版、2009
いずれもPDF、プリントで配布するが、おたく文化や同人誌の歴史に興味がある場合、購入しておくといよい。

参考書

阿島俊『漫画同人誌エトセトラ'82-'98』久保書店、2004
コミックマーケット準備会『コミックマーケット30'sファイル』コミケット、2005

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

Yammerなどで周知する。

科目名	トピック・セミナーF		
教員名	田中 一嘉		
科目ナンバー	1251468106	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
西欧恋愛文学・思想を読み解く 古今東西、恋愛は文学・思想・芸術の主題としてさまざまに扱われてきました。作品に描かれた恋愛（観）は実に様々で、一見すると現代（日本）に生きる我々の恋愛観とは相容れない要素を多分に含んでいるものがあります。なぜ、そのような違い・違和感が生じるのか、一方で我々の感覚と一致する要素があるとしたら、それはどのようなものか。 この問いについて、本授業では、古代ギリシア・ローマ、中世ヨーロッパ、近代ヨーロッパそれぞれの時代に書かれた恋愛に関するテキストを読み解きながら考えていきます。その際、恋愛を一種の社会的現象あるいは文化的現象として捉え、当時の社会状況と恋愛観との関連性について理解を深めていきます。			
到達目標			
テキスト解釈の際に作品が成立した当時の歴史的・社会的背景を知ることの重要性を認識する。 それを踏まえて、テキストと社会との関連性を様々な角度から分析する視野を養う。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	授業の概要とスケジュールの説明 各回の担当報告者の決定。		
	授業で取り上げる作品の中から少なくともひとつは読み進める。		60
第2回	プラトン『饗宴』、『パイドロス』 「エロス論」について 愛についての宗教的・哲学的理解		
	前回の授業内容の復習。報告担当者は発表準備。		120
第3回	オウィディウス『恋愛の技術（アルス・アマトリア）』 「バックス・ロマーナ」時代の恋愛		
	前回の授業内容の復習。報告担当者は発表準備。		120

第4回	ウェルギリウス『アエネーイス』、オウィディウス『変身物語』 古代ギリシア・ローマ伝来の悲恋	
	前回の授業内容の復習。報告担当者は発表準備。	120
第5回	中世キリスト教と恋愛 アベラールとエロイズの往復書簡 肉欲に対する忌避と熱情	
	前回の授業内容の復習。報告担当者は発表準備。	120
第6回	中世恋愛抒情詩：トルバドール／ミンネザンゲ 婦人礼賛の恋愛思想 叶わぬ恋（「中世風」プラトニック・ラブ）	
	前回の授業内容の復習。報告担当者は発表準備。	120
第7回	アンドレアス・カペルラヌス『宮廷風恋愛について』 恋愛に関する男女の議論 「恋愛法廷」 アモールの戒律	
	前回の授業内容の復習。報告担当者は発表準備。	120
第8回	クレチアン・ド・トロワ『ランスロ、或いは荷車の騎士』 アーサー王の妃と一騎士の恋 不義密通、至純の愛	
	前回の授業内容の復習。報告担当者は発表準備。	120
第9回	ハルトマン・フォン・アウエ『エーレク』、『イーヴェイン』 理想の夫婦像	
	前回の授業内容の復習。報告担当者は発表準備。	120

第10回	ゴットフリート・フォン・シュトラースブルク『トリスタン』 媚薬による愛 愛の宗教化	
	前回の授業内容の復習。報告担当者は発表準備。	120
第11回	ギヨーム・ド・ロリス／ジャン・ド・マン『バラ物語』 （宮廷風）恋愛のアレゴリー（寓意）的解釈 夢、欲望	
	前回の授業内容の復習。報告担当者は発表準備。	120
第12回	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』 芸術家の愛 叶わぬ愛と自殺	
	前回の授業内容の復習。報告担当者は発表準備。	120
第13回	ジェイン・オースティン『自負と偏見』 社会的地位と結婚の幸せ 自由恋愛	
	前回の授業内容の復習。報告担当者は発表準備。	120
第14回	スタンダー『恋愛論』、『赤と黒』 ジャーナリスト的視点による恋愛分析 地位的欲求と恋愛	
	前回の授業内容の復習。報告担当者は発表準備。	120
第15回	総括 期末レポート作成に向けて	
	各自の報告を見直し、問題点を精査した上でレポート作成に反映させるための準備をしてください。	120

授業の方法

ゼミ形式で進めます。
毎回、報告者を決め、報告者は作品・テーマに沿ってレジュメを用意。発表時間の目安は20～30分程度（発表人数により調整）。その後、参加者全員で議論していきますので、参加者は発表テーマについて質問する準備をするよう心掛けてください。参加人数によって、グループ発表形式あるいは複数回発表してもらうことになります。
発表のテーマについては、シラバスに挙げたものを参考にして、発表者各自で自由に設定して構いません。

成績評価の方法

平常点（授業への参加態度・貢献度および発表内容）50%、期末レポート50%を総合して評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

ヨーロッパ文化圏に限らず、ひろく文学・思想・芸術や歴史に関心を持っている学生の参加を期待します。

テキスト

初回授業で紹介します。

参考書

適宜、授業中に紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	Active English Gram		
教員名	松原 知子		
科目ナンバー	1251468201	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

文法知識の整理と徹底的な演習を行い、試験だけでなく会話や作文で使える文法知識の習得を目指す。
2018年度は、英作文のテキストと、「スーパー英語」の文法問題（中級・上級）を課題とし、自習を前提として進める。
テキストは現実的な場面での対話文の和文英訳が中心で、Portalの授業資料を介して音声も聴くこともできる。

到達目標

- ・英語で文法的に正しい文が書ける。
- ・文法規則に合わない英語の表現を正しく書き換えられる。
- ・複雑な構造の文を分析的に読み、その意味を理解できる。
- ・英文の文法的な正しさや間違いを、文法規則にあてはめて説明できる。
- ・予定に合わせて計画的に学習できる。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	・学習の進め方について説明、学習方法についての注意 ・基礎知識診断テスト ・スーパー英語受講	
	・授業予定に合わせて「スーパー英語」とテキストの学習予定を立てる。 ・「スーパー英語」の使い方に慣れ、学習を始める。 ・テキストを入手し、自習を始める。	60分
第2回	・テキストとスーパー英語 (Selected Training) についての注意、質疑応答 ・スーパー英語受講	
	・「スーパー英語」 (Selected Training) とテキストを自習する。	60分
第3回	・テキストの問題の答え合わせと解説 (Unit 1, Unit 2) ・テキストとスーパー英語 (Selected Training) についての注意、質疑応答 ・スーパー英語受講	
	・「スーパー英語」 (Selected Training) とテキストを自習する。 ・小テストに備えて「スーパー英語」とテキストを復習する。	90分

第4回	・小テスト（1） ・テキストの問題の答え合わせと解説（Unit 3, Unit 4） ・テキストとスーパー英語（Selected Training）についての注意、質疑応答 ・スーパー英語受講	
	・「スーパー英語」（Selected Training）とテキストを自習する。 ・小テストに備えて「スーパー英語」とテキストを復習する。	90分
第5回	・テキストの問題の答え合わせと解説（Unit 5, Unit 6） ・テキストとスーパー英語（Selected Training）についての注意、質疑応答 ・スーパー英語受講	
	・「スーパー英語」（Selected Training）とテキストを自習する。 ・小テストに備えて「スーパー英語」とテキストを復習する。	90分
第6回	・小テスト（3） ・テキストの問題の答え合わせと解説（Unit 7, Unit 8） ・テキストとスーパー英語（Selected Training）についての注意、質疑応答、面談 ・スーパー英語受講	
	・「スーパー英語」（Selected Training）とテキストを自習する。 ・小テストに備えて「スーパー英語」とテキストを復習する。	90分
第7回	・小テスト（4） ・テキストの問題の答え合わせと解説（Unit 9, Unit 10） ・テキストとスーパー英語（Selected Training）についての注意、質疑応答、面談 ・スーパー英語受講	
	・「スーパー英語」（Selected Training）とテキストを自習する。 ・小テストに備えて「スーパー英語」とテキストを復習する。	90分
第8回	・小テスト（5） ・テキストの問題の答え合わせと解説（Unit 11, Unit 12） ・テキストとスーパー英語（Selected Training）についての注意、質疑応答、面談 ・スーパー英語受講	
	・「スーパー英語」（Selected Training）とテキストを自習する。 ・小テストに備えて「スーパー英語」とテキストを復習する。	90分
第9回	・小テスト（6） ・テキストの問題の答え合わせと解説（Unit 13, Unit 14） ・テキストとスーパー英語（Selected Training）についての注意、質疑応答、面談 ・スーパー英語受講	
	・「スーパー英語」（Selected Training）とテキストを自習する。 ・小テストに備えて「スーパー英語」とテキストを復習する。	90分

第10回	・小テスト（7） ・テキストの問題の答え合わせと解説（Unit 15, Unit 16） ・テキストとスーパー英語（Selected Training）についての注意、質疑応答、面談 ・スーパー英語受講	
	・「スーパー英語」（Selected Training）とテキストを自習する。 ・小テストに備えて「スーパー英語」とテキストを復習する。	90分
第11回	・小テスト（8） ・テキストの問題の答え合わせと解説（Unit 17, Unit 18） ・テキストとスーパー英語（Selected Training）についての注意、質疑応答 ・スーパー英語受講	
	・「スーパー英語」（Selected Training）とテキストを自習する。 ・小テストに備えて「スーパー英語」とテキストを復習する。	90分
第12回	・小テスト（9） ・テキストの問題の答え合わせと解説（Unit 19, Unit 20） ・テキストとスーパー英語（Selected Training）についての注意、質疑応答 ・スーパー英語受講	
	・「スーパー英語」（Selected Training）とテキストを自習する。 ・小テストに備えて「スーパー英語」とテキストを復習する。	90分
第13回	・小テスト（10） ・テキストとスーパー英語（Selected Training）について質疑応答 ・スーパー英語受講	
	・「スーパー英語」とテキストの総復習をする。	90分
第14回	・総復習テスト ・テキストとスーパー英語（Selected Training）について質疑応答	
	・「スーパー英語」とテキストの総復習をする。	60分
第15回	・全体について注意事項伝達、質疑応答、補足	
	・「スーパー英語」とテキストの総復習をする。	30分

授業の方法

テキストと「スーパー英語」(Selected Training)を教材として、自習を前提として進める。
学生は、テキストを自習し、授業中に答え合わせをして、次の授業時に小テストを受ける。「スーパー英語」も自習し、授業中に小テストを受ける。
授業時間には、教員に質問したり、教室で自習したりできる。
第6回～第10回の授業時に、面談と個別指導を行う。
自習で間違えた問題や理解できなかった事柄は、参考書や辞書などで確かめ、調べても分からない点は、授業時間に質問できるように準備しておくことが望ましい。

初回の授業時は学習の進め方について詳しい説明をするので必ず出席すること。

成績評価の方法

期末テスト(50%)、小テスト(40%)、スーパー英語(10%)を総合して評定する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
小テストと期末テストによって、この授業の目標の到達度を測る。
スーパー英語の学習記録によって、計画的に自習を行うことができたかどうかを判断する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目 Practical English Grammar(後期開講)

テキスト

『話す<使う>ための英文法 Real Grammar for Creative Communication』, 山下広司, Peter Mountford, 南雲堂 本体900円+税

参考書

『表現のための実践ロイヤル英文法』、綿貫陽他、旺文社、例文暗記CD付き 2268円(税込) ; CDなし 1944円(税込)
『ロイヤル英文法 - 徹底例解』、綿貫陽他、旺文社 1944円(税込)

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業中および終了後に教室で、または随時メールで受け付ける。

科目名	P r a c t i c a l E n g l i s h G r		
教員名	松原 知子		
科目ナンバー	1251468202	単位数	1
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
文法知識の整理と徹底的な演習を行う。大学入学前に文法の授業を受けたことがない、TOEFLやTOEICの文法問題が難しすぎて手が出ないなど、基礎を確認したい学生や、さまざまな文法問題に挑戦して実力をつけたい学生が、英語の文法を体系的に身につけ、現実的な場面でその知識を応用できるようになることを目指す。 2018年度は、大学入試レベルのウェブ教材を利用して基礎的な英文法の演習をすると共に、配付する課題によって応用力の育成を図る。			
到達目標			
・大学入試問題の標準的な文法問題に正解できる。 ・文法的に誤った英語の表現を正しく書き換えられる。 ・基礎的な文法規則を実際の場面で応用できる。 ・英文の文法的な正しさや間違いを、文法規則にあてはめて説明できる。 ・予定に合わせて計画的に学習できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	・学習の進め方について説明 ・基礎知識診断テスト ・課題配付		
	復習として、授業時間中に受け取った課題に解答、自習する。 ・授業予定に合わせて学習予定を立てる。		30分
第2回	・課題配付、提出 ・ウェブ教材受講 ・ウェブ教材学習上の注意 ・質疑応答		
	復習として、ウェブ教材「英文法徹底トレーニング」の使い方に慣れ、学習予定を立てて学習を始める。 ・提出課題に解答する。 ・小テストに備えて「英文法徹底トレーニング」の該当箇所を復習する。		60分
第3回	・課題配付、提出 ・ウェブ教材受講 ・質疑応答		
	・「英文法徹底トレーニング」で自習する。 ・提出課題に解答する。 ・小テストに備えて「英文法徹底トレーニング」の該当箇所を復習する。		90分

第4回	・小テスト（1） ・課題配付、提出 ・ウェブ教材受講 ・質疑応答	
	・「英文法徹底トレーニング」で自習する。 ・提出課題に解答する。 ・小テストに備えて「英文法徹底トレーニング」の該当箇所を復習する。	90分
第5回	・小テスト（2） ・課題配付、提出、返却 ・ウェブ教材受講 ・質疑応答	
	・「英文法徹底トレーニング」で自習する。 ・提出課題に解答する。 ・小テストに備えて「英文法徹底トレーニング」の該当箇所を復習する。	90分
第6回	・小テスト（3） ・課題配付、提出、返却 ・ウェブ教材受講 ・質疑応答	
	・「英文法徹底トレーニング」で自習する。 ・提出課題に解答する。 ・小テストに備えて「英文法徹底トレーニング」の該当箇所を復習する。	90分
第7回	・小テスト（4） ・課題配付、提出、返却 ・ウェブ教材受講 ・質疑応答	
	・「英文法徹底トレーニング」で自習する。 ・提出課題に解答する。 ・小テストに備えて「英文法徹底トレーニング」の該当箇所を復習する。	90分
第8回	・小テスト（5） ・課題配付、提出、返却 ・ウェブ教材受講 ・質疑応答	
	・「英文法徹底トレーニング」で自習する。 ・提出課題に解答する。 ・小テストに備えて「英文法徹底トレーニング」の該当箇所を復習する。	90分
第9回	・小テスト（6） ・課題配付、提出、返却 ・ウェブ教材受講 ・質疑応答	
	・「英文法徹底トレーニング」で自習する。 ・提出課題に解答する。 ・小テストに備えて「英文法徹底トレーニング」の該当箇所を復習する。	90分

第10回	・小テスト（7） ・課題配付、提出、返却 ・ウェブ教材受講 ・質疑応答	
	・「英文法徹底トレーニング」で自習する。 ・提出課題に解答する。 ・小テストに備えて「英文法徹底トレーニング」の該当箇所を復習する。	90分
第11回	・小テスト（8） ・課題提出、返却 ・ウェブ教材受講 ・質疑応答	
	・「英文法徹底トレーニング」で自習する。 ・提出課題に解答する。 ・小テストに備えて「英文法徹底トレーニング」の該当箇所を復習する。	90分
第12回	・小テスト（9） ・課題提出、返却 ・ウェブ教材受講 ・質疑応答	
	・「英文法徹底トレーニング」で自習する。 ・提出課題に解答する。 ・小テストに備えて「英文法徹底トレーニング」の該当箇所を復習する。	90分
第13回	・小テスト（10） ・課題提出、返却 ・ウェブ教材受講 ・質疑応答	
	・総復習テストに備えて「英文法徹底トレーニング」と提出課題の総復習をする。	90分
第14回	・総復習テスト ・課題返却	
	・「英文法徹底トレーニング」と提出課題の総復習をする。	90分
第15回	・総復習、注意、補足	
	・「英文法徹底トレーニング」と提出課題の総復習をする。	60分

授業の方法

ウェブ教材と印刷物を教材として、自習を前提として進める。授業時間以外にウェブ教材を受講する環境が必要になる。自宅での受講も可能。
授業時間には、各自の進度に合わせて自習内容についての小テストを受験する。また課題用紙の提出と、評価済みの小テストと課題の返却受領を行う。
教室内では自習したり、教員に質問や相談をすることができる。自習で間違えた問題や理解できなかった事柄は、参考書や辞書などで確かめ、調べても分からない点は、授業時間に質問できるように準備しておくことが望ましい。
初回の授業時は学習の進め方について詳しい説明をするので必ず出席すること。

成績評価の方法

総復習テスト（50%）、小テスト（40%）、ウェブ教材（10%）を総合して評定する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

授業中の小テストと期末のテストによって、この授業の目標の到達度を測る。
ウェブ教材の学習記録によって、計画的に自習を行うことができたかどうかを判断する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

関連科目 Active English Grammar（前期開講）

テキスト

『英文法徹底トレーニング』CHieru.net 2340円（税込）（ウェブ教材。教科書販売所で受講に必要な番号（シリアルキー）を記載したカードを販売する。）

参考書

『表現のための実践ロイヤル英文法』、綿貫陽他、旺文社、例文暗記CD付き 2268円（税込）；CDなし 1944円（税込）

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業中および終了後に教室で、または随時メールで受け付ける。

科目名	ラテン語Ⅰ		
教員名	井上 秀太郎		
科目ナンバー	1251468301	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
現代における欧米文明の基底をなすものの一つに、古典古代文明があります。西洋の人々は常にギリシア・ローマを振り返りつつ、時にはそれを規範として歩んできたのです。そしてその点にこそ、私たちが古典古代について学ぶ意義があります。ギリシア・ローマ時代の作品はもとより、現代の文学作品や報道論説の中に散りばめられた引用、法格言、さらには街中の建築物に刻まれた刻文など、ギリシア語・ラテン語の知識があれば、その理解は更に深く容易になることでしょう。授業ではそのための基礎を身につけるべく、ラテン語文法の初歩を学んでいきます。一切の予備知識が無いことを前提として、日本語で書かれた教科書を使用し、重要事項と練習問題を文法的に詳しく解説していきます。			
到達目標			
ラテン語文法の基礎を習得し、教科書付録の単語帳や辞書を用いて簡単な文章を読むことが出来るようになることを目指します。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	第1課 発音と動詞の活用（現在形）		
	初回から通常形式で授業をおこなうので、必ず事前に教科書を購入して目を通しておいてください。練習問題の復習はもちろん、文法解説部分の例文も繰り返し音読してください。		120分
第2回	第2課 第一変化・第二変化名詞と不規則変化動詞		
	教科書付録の単語帳を使用して、全ての練習問題に取り組み、授業終了後は徹底して音読をしてください。		120分
第3回	第3課 第一変化・第二変化形容詞と人称代名詞		
	練習問題への取り組みと、徹底した音読。		120分

第4回	第4課 未完了過去・未来と第三変化名詞	
	練習問題への取り組みと、徹底した音読。	120分
第5回	第5課 完了系の時制	
	練習問題への取り組みと、徹底した音読。	120分
第6回	第5課 第三変化の形容詞	
	練習問題への取り組みと、徹底した音読。	120分
第7回	第6課 受動相と指示代名詞	
	練習問題への取り組みと、徹底した音読。	120分
第8回	第7課 関係代名詞	
	練習問題への取り組みと、徹底した音読。	120分
第9回	第7課 第四変化・第五変化名詞	
	練習問題への取り組みと、徹底した音読。	120分

第10回	第8課 受動相の完了系時制と目的分詞	
	練習問題への取り組みと、徹底した音読。	120分
第11回	第8課 命令法	
	練習問題への取り組みと、徹底した音読。	120分
第12回	第9課 不規則変化動詞	
	練習問題への取り組みと、徹底した音読。	120分
第13回	第9課 比較級	
	練習問題への取り組みと、徹底した音読。	120分
第14回	第10課 形式受動相動詞	
	練習問題への取り組みと、徹底した音読。	120分
第15回	第11課 絶対的奪格	
	練習問題への取り組みと、徹底した音読。	120分

授業の方法

毎回最初に新出文法事項について解説をした後、教科書の練習問題をおこないます。学生をランダムに指名して和訳をしてもらった後で、教員の方から誤っている箇所やポイントとなる箇所について詳しく解説をします。
毎回授業の終了時に次週おこなう練習問題を指定するので、それらについては必ず予習してくる。授業中に扱わない練習問題については、模範解答を配布するので、分からない点などがあれば授業終了時に質問すること。

成績評価の方法

平常点および学期末に行う試験に基づいて行います。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

中山恒夫（著）『標準ラテン文法』白水社 ISBN 978-4-560-01761-6

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	ラテン語II		
教員名	井上 秀太郎		
科目ナンバー	1251468302	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
前期に引き続き、ラテン語文法の基礎を学んでいきます。後期はいよいよ接続法に入ります。それに伴って文の構造も複雑になってきますが、その論理的な明快さが理解できると、学ぶ楽しさが一層増してくることでしょう。			
到達目標			
単語帳・辞書を使用して簡単な文を読めるようになる。 接続法の用法を理解する			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	第11課 対格＋不定法		
	予習においては練習問題への取り組み、復習においては徹底した音読。		180分
第2回	第12課 動名詞		
	予習においては練習問題への取り組み、復習においては徹底した音読。		180分
第3回	第12課 動形容詞		
	予習においては練習問題への取り組み、復習においては徹底した音読。		180分

第4回	第13課 非人称表現	
	予習においては練習問題への取り組み、復習においては徹底した音読。	180分
第5回	第14課 対格と奪格の用法	
	予習においては練習問題への取り組み、復習においては徹底した音読。	180分
第6回	第15課 接続法：主文における接続法の用法	
	予習においては練習問題への取り組み、復習においては徹底した音読。	180分
第7回	第16課 接続法：時制の対応、間接疑問文	
	予習においては練習問題への取り組み、復習においては徹底した音読。	180分
第8回	第16課 接続法：目的文と結果文	
	予習においては練習問題への取り組み、復習においては徹底した音読。	180分
第9回	第17課 接続法：接続詞cum	
	予習においては練習問題への取り組み、復習においては徹底した音読。	180分

第10回	第17課 接続法：接続詞quod	
	予習においては練習問題への取り組み、復習においては徹底した音読。	180分
第11回	第18課 接続法：条件文	
	予習においては練習問題への取り組み、復習においては徹底した音読。	180分
第12回	第18課 接続法：譲歩文と比較文	
	予習においては練習問題への取り組み、復習においては徹底した音読。	180分
第13回	第19課 接続法：関係文中の接続法	
	予習においては練習問題への取り組み、復習においては徹底した音読。	180分
第14回	第19課 接続法：間接話法	
	予習においては練習問題への取り組み、復習においては徹底した音読。	180分
第15回	第19課 接続法：副文の間接話法	
	予習においては練習問題への取り組み、復習においては徹底した音読。	180分

授業の方法

毎回文法事項について先に解説し、その後練習問題を学生に当てます。ポイントと誤っている箇所の詳しい解説をおこないます。毎回授業終了時に次週おこなう練習問題を指定するので、それらについては徹底的に予習してくる。授業中に扱わない練習問題については、模範解答を配布するので、分からない点などがあれば授業終了時に質問してください。

成績評価の方法

平常点および学期末に行う試験に基づいて行います。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

前期のラテン語Iに相当する内容を理解していることを前提として授業を進めます。

テキスト

中山恒夫（著）『標準ラテン文法』白水社 ISBN 978-4-560-01761-6

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	発信する武蔵野地域文化		
教員名	飯塚 邦彦		
科目ナンバー	1051468401	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
若者の街、吉祥寺。吉祥寺は、70年代から若者向けサブカルチャーの発信地として注目されるようになった。そして2010年代後半の現在、吉祥寺はメインストリームカルチャーとサブカルチャーを、広範囲に発信する街となっている。それでは現在の吉祥寺の文化発信はどのようなものなのであろうか。またどのような問題を抱えているのであろうか。 本講義は、武蔵野における情報発信がどのような経緯を経てきたか、現在どのような発信が行われているかを、吉祥寺の住人と連携して調査し、明らかにしていく。また吉祥寺の情報発信が抱える問題点を明らかにし、街の住人と共働して解決策を提案していく。授業の方法としては、「プロジェクト型授業」(Project/Problem Based Learning, PBL)を採用する。 今年度の講義は、「アニメと吉祥寺」をテーマとする。吉祥寺には多数のアニメスタジオが存在し、日本国内におけるアニメ製作の拠点のひとつになっている。また吉祥寺アニメワンダーランドが開催されるなど、吉祥寺の街とアニメ産業を結び付ける試みもなされている。しかし、「吉祥寺はアニメの生産拠点である」ことは、どれだけ知られているだろうか。 そこで今年度は、吉祥寺とアニメ産業との関係を探っていく。行政関係者やアニメ製作会社に直接インタビューし、吉祥寺とアニメ産業の具体的な関係を聞き出し、ともに考えていく。アニメ、特に産業としてのアニメに興味を持つ学生の受講を期待する。			
到達目標			
DP6、DP7を実現するため、次の2点の目標を設定する。 ①吉祥寺における情報発信が、現在の日本文化においてどのような位置づけにあり、どのような影響力を持っていたかを考察・理解する。 ②コンテンツ企業、街の住人と共働して、現在の吉祥寺が抱える問題を見つけ出し、具体的な解決策を提示する能力を身につける。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	第1回 イントロダクション ・ 授業の方法を説明 ・ グループ分け ・ 資料配付		
	(予習) 武蔵野市を舞台としたアニメにはどのようなものがあるか、Webや文献で調べておく。		60
第2回	第2回 文献調査1 ・ 日本のアニメの歴史についての文献を読む。 ・ 日本のアニメの歴史について簡単にまとめる。		
	(予習) 自分の好きなアニメ作品について調べておく。		30
第3回	第3回 文献調査2 ・ アニメ産業についての文献を読む。 ・ 現在のアニメ産業と、国際的な状況がどうなっているかを理解する。		
	(復習) インタビュー調査の質問事項を作成する。		30

第4回	第4回 インタビュー調査1 ・行政関係者にインタビューを行う。 ・行政関係者が、現在の吉祥寺のアニメ文化についてどのような認識を持っているかを確認する。	
	(復習) グループごとに、インタビュー内容を文字に起こす。	60
第5回	第5回 調査のまとめ1 ・インタビューで得られた情報を示し、グループでディスカッションを行う。	
	(復習) ・ディスカッションで得られた考えをまとめておく。 ・次のインタビューの質問事項を考える。	30
第6回	第6回 インタビュー調査2 ・アニメ製作会社(1)にインタビューを行う。 ・アニメ製作会社が、現在の吉祥寺の文化についてどのような認識を持っているかを確認する。	
	(復習) ・グループごとに、インタビュー内容を文字に起こす。	60
第7回	第7回 調査のまとめ2 ・インタビューで得られた情報を示し、グループでディスカッションを行う。	
	(復習) ・ディスカッションで得られた考えをまとめておく。 ・中間発表の準備を進める。	30
第8回	第8回 中間発表 ・今までの調査、インタビューで分かったことを、グループごとに発表する。	
	(復習) ・最終発表に向けての方針を、メンバー同士で共有し、確認する。	30
第9回	第9回 インタビュー調査3 ・アニメ製作会社(2)にインタビューを行う。 ・アニメ製作会社が、現在の吉祥寺の文化についてどのような認識を持っているかを確認する。	
	(復習) グループごとに、インタビュー内容を文字に起こす。	60

第10回	調査のまとめ3 ・インタビューで得られた情報を示し、グループでディスカッションを行う。	
	(復習) ・ディスカッションで得られた考えをまとめておく。 ・次のインタビューの質問事項を考える。	30
第11回	第11回 インタビュー調査4 ・国際的なアニメ製作会社にインタビューを行う。 ・国際的なアニメ製作会社が、現在の吉祥寺の文化についてどのような認識を持っているかを確認する。またなぜ吉祥寺に拠点を置いたかを確認する。	
	(復習) グループごとに、インタビュー内容を文字に起こす。	60
第12回	第12回 調査のまとめ4 ・今までの調査、インタビューで分かったことを、グループ毎に発表し、ディスカッションを行う。	
	(復習) ・ディスカッションで得られた考えをまとめておく。 ・吉祥寺のアニメ文化が抱えている問題点を明確にし、ポートフォリオにまとめる。	60
第13回	第13回 最終発表準備1 ・グループごとに凝縮ポートフォリオを作成する。 ・凝縮ポートフォリオを共有し、共通する問題点を見つけ出す。	
	(復習) 問題の解決策を考え、OneNoteで共有する。	30
第14回	第14回 最終発表準備2 ・凝縮ポートフォリオを元に、グループごとに問題の解決策を考える。 ・解決策を文章にまとめ、原稿を作成する。	
	(復習) グループごとに、最終発表の準備をする。	60
第15回	最終発表 ・グループごとに凝縮ポートフォリオと解決策を発表する。 ・インタビュー調査を通じて判明した、アニメ文化の現状と、現在の吉祥寺の文化のあり方の特性を発表する。 ・振り返りを行い、達成できた点と反省点をまとめる。	
	(復習) ・印刷所入稿用の原稿を作成する。	120

授業の方法

グループに分かれ、演習形式で発表と議論を行う。またインタビューを複数回行い、文化の実状を調査する。凝縮ポートフォリオと最終発表の内容は冊子にし、同人誌即売会や学園祭などで頒布する。

成績評価の方法

最終課題の評価（50%）＋中間課題の評価（20%）＋授業への参加度合い（20%）＋平常点（10%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

調査、話し合いへの積極的な参加を重視する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

課題の作成、インタビューのまとめ、情報の共有などは、すべてパソコン（OneNote）で行う。また教員側からの情報発信はYammerで行う。パソコンを用意しておくことを強く推奨する（タブレット＋キーボードでも不可能ではない）。これからパソコンを用意する人は、持ち運びしやすい軽量なもの（1.2kg以下）を選択すること。アニメを日常的に見ており、アニメについてある程度の知識を持っていることが望ましい。

テキスト

河島伸子、生稲史彦編著『変貌する日本のコンテンツ産業：創造性と多様性の模索』ミネルヴァ書房、2013
原真志、山本健太、和田崇編『コンテンツと地域：映画・テレビ・アニメ』ナカニシヤ書店、2015
実際の授業ではコピーを配布する。

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

水曜日2限は成蹊大学にいますので、その時間に質問・相談を受けつける。その際はメールなどでアポを取ること。

科目名	実践する日本文化		
教員名	佐藤 雄介		
科目ナンバー	1051468402	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
日本の歴史・文化を学ぼうとする際、その時代の史料（前近代の場合、古文書と呼ぶ）を読む必要がある。本授業では、日本近世（おもに江戸時代）の古文書について、基礎から講義する。受講者が活字の史料のみならず、一定程度崩し字で書かれた史料も読めるようになるよう、授業を進めていく。なお、折に触れて、本授業担当者が出張などで目にした、とくに興味深い史料や調査地の風景などをパワーポイントなどで流したい。			
到達目標			
日本近世の古文書を一定程度読めるようになる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス		
	シラバスを読んでおく	30	
第2回	日本近世の古文書についての基礎知識①		
	配布したレジュメ、および講義中にふれた参考文献を読む	60	
第3回	日本近世の古文書についての基礎知識②		
	配布したレジュメ、および講義中にふれた参考文献を読む	60	

第4回	日本近世の古文書についての基礎知識③	
	配布したレジュメ、および講義中にふれた参考文献を読む	60
第5回	活字史料を読む①	
	配布したレジュメ、および講義中にふれた参考文献を読む	60
第6回	活字史料を読む②	
	配布したレジュメ、および講義中にふれた参考文献を読む	60
第7回	活字史料を読む③	
	配布したレジュメ、および講義中にふれた参考文献を読む	60
第8回	崩し字を読む①（幕末の「旅券添状」を読む）	
	配布したレジュメ、および講義中にふれた参考文献を読む	60
第9回	崩し字を読む②（老中奉書を読む①）	
	配布したレジュメ、および講義中にふれた参考文献を読む	60

第10回	崩し字を読む③（老中奉書を読む②）	
	配布したレジュメ、および講義中にふれた参考文献を読む	60
第11回	崩し字を読む④（寺社文書を読む①）	
	配布したレジュメ、および講義中にふれた参考文献を読む	60
第12回	崩し字を読む⑤（寺社文書を読む②）	
	配布したレジュメ、および講義中にふれた参考文献を読む	60
第13回	崩し字を読む⑥（探索書を読む①）	
	配布したレジュメ、および講義中にふれた参考文献を読む	60
第14回	崩し字を読む⑦（探索書を読む②）	
	配布したレジュメ、および講義中にふれた参考文献を読む	60
第15回	これまでのまとめ	
	これまでのレジュメをしっかりと復習しておく	60

授業の方法

講義形式で行うが、受講者にも積極的に参加してもらいたい。「崩し字を読む」などの回では、適宜古文書のコピーを配布する。毎回講義の最後に、レスポンスカードを書いてもらう。

成績評価の方法

- ①レスポンスカード（60%）
- ②レポートもしくは到達度確認テスト（40%、レポートとテスト、どちらにするかは受講者数によって決める）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくにない。日本近世の古文書について、基礎から講義する。

テキスト

参考書

講義中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	Musashino Culture S		
教員名	ラルフ ジェイムズ パーナビー		
科目ナンバー	1051468403	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

This course will look at the local area of Musashino and talk about different cultural activities. It is intended to be an introduction to arts journalism and administration in various forms, including magazine articles, reviews and blog posts.

The course will be taught in English.

到達目標

The course material will be flexible, based on student needs and interests. It is hoped that there will be opportunities to relate to the local community and possibly even create material in English that may be used for promotional purposes.

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	
第1回	Introduction to the basic principles of arts journalism - who, what, when, where, how and why. Concerns specific to different art forms	
	Review of class materials and planning for next week	Approx. 30 mins
第2回	Challenges in arts administration - what is involved in creating an event?	
	Review of class materials and planning for next week	Approx. 1 hour
第3回	Planning a theoretical event - workshop for students, including S.W.O.T. analysis and other techniques	
	Review of class materials and planning for next week	Approx. 1 hour

第4回	Writing reviews: what to do, what to avoid. Critical reading of various provided reviews	
	Review of class materials and preparation of presentation on Musashino history	Approx. 1 hour
第5回	Know your background: Student-led activity: Musashino history 1	
	Review of class materials and preparation of presentation on Musashino history	Approx. 1 hour
第6回	Know your background: Student-led activity: Musashino history 2	
	Review of class materials and planning for next week	Approx. 1 hour
第7回	Writing arts articles for newspapers and magazines: what to do, what to avoid. Critical reading of various provided articles	
	Review of class materials and preparation of articles for in-class discussion	Approx. 1 hour
第8回	Workshop on student-generated reviews and critical discussion of prepared materials	
	Review of class materials and preparation of articles for in-class discussion	Approx. 1 hour
第9回	Article writing workshop 1: tips, techniques and approaches	
	Review of class materials and preparation of articles for in-class discussion	Approx. 1 hour

第10回	Article writing workshop 2: editorial practices and objectivity vs. subjectivity	
	Review of class materials and preparation of internet-style writing example for in-class discussion	Approx. 1 hour
第11回	Writing for the Internet: what to do, what to avoid. Critical reading of various provided materials	
	Review of class materials and preparation of internet-style writing example for in-class discussion	Approx. 1 hour
第12回	Workshopping Internet-style writing by students and dealing with potential responses	
	Review of class materials and preparation of logistical project	Approx. 1 hour
第13回	Preparation session for groups - complete event planning, including theme, logistics, media and budgeting	
	Review of class materials and preparation of logistical project	Approx. 1 hour
第14回	Presentation of event plan, including Q&A session	
	Review of class materials and preparation of final assignment	Approx. 1 hour
第15回	Overview of course and review of materials	
	Review of course materials and goals	Approx. 30 mins

授業の方法

Classes will use mini-lectures and group work. There will be a balance between teacher-centred and student-centred sections of the lesson. As noted above, instruction will be in English.

成績評価の方法

Assessment will be based on the following:

In-class work and participation: 20%

Written work: 40%

Group presentations and projects: 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

There is no set textbook for this course. Handouts and other materials will be provided.

参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	Japanese Culture St		
教員名	日比野 啓		
科目ナンバー	1051468404	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
The Contemporary Appeals of kabuki While kabuki is one of the traditional performing arts of Japan, it has also been a contemporary art form that reflects the tastes and sensibilities of the audience today. Although most of its repertoire was first produced in the 18th and 19th centuries, kabuki has constantly renewed the way of presenting its old plays: for instance, the acting styles, called kata, have changed over time, although they are supposed to be fixed and preserved. In this seminar students will know the modern appeals of kabuki by studying San'nin Kichisa (Three Thieves) by Kawatake Mokuami. Premiered in 1860, San'nin Kichisa features three thieves identically named Kichisaburo, who happen to get together but finally kill one another to avoid arrest. Starting with the screening of one of the recent productions of Sannin Kichisa in 2007, we'll learn the basic knowledge of kabuki and the play, and then how this old play has been refashioned into one that attracts people who are not familiar with the time-honored customs of kabuki. Students are required to attend a bilingual kabuki workshop by the Zenshin-za Theatre Company, where they can learn how to act a scene or two from San'nin Kichisa.			
到達目標			
Familiarize yourselves with kabuki and its key concepts. Experience the contemporary appeals of the traditional art form by joining a hands-on workshop. By attaining this goal, this course aims at realizing DP1.			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	Introduction/ Lecture: kabuki as a contemporary art form		
	Read Kabuki: A Pocket Guide, Chapter 3.	90	
第2回	Video screening #1: San'nin Kichisa 『三人吉三廓初貫』 / Lecture: the genres of kabuki		
	Read Kabuki: A Pocket Guide, Chapter 6.	90	
第3回	Video screening #2: San'nin Kichisa/ Lecture: the kinds of the music of kabuki		
	Read Kabuki: A Pocket Guide, Chapter 2.	90	

第4回	Video screening #3: San'nin Kichisa/ Lecture: the structure of kabuki theatre	
	Read Kabuki: A Pocket Guide, Chap.1./ Prepare for your presentations.	90
第5回	Presentation: the history of kabuki	
	Read The Three Kichisas and the New Year' s Visit to the Quarters, "Koshin Shrine by the Sumida River" Scene, pp. 253-259.	90
第6回	Lecture & Discussion: The Three Kichisas and the New Year' s Visit to the Quarters, "Koshin Shrine by the Sumida River" Scene, pp. 253-259	
	Read The Three Kichisas and the New Year' s Visit to the Quarters, "Koshin Shrine by the Sumida River" Scene, pp. 260-267.	90
第7回	Lecture & Discussion: The Three Kichisas and the New Year' s Visit to the Quarters, "Koshin Shrine by the Sumida River" Scene, pp. 260-267	
	Read The Three Kichisas and the New Year' s Visit to the Quarters, "Koshin Shrine by the Sumida River" Scene, pp. 268-274.	90
第8回	Lecture & Discussion: The Three Kichisas and the New Year' s Visit to the Quarters, "Koshin Shrine by the Sumida River" Scene, pp. 268-274.	
	Read The Three Kichisas and the New Year' s Visit to the Quarters, "The Graveyard behind Kichijo Temple" Scene, pp. 274-281.	90
第9回	Lecture & Discussion: The Three Kichisas and the New Year' s Visit to the Quarters, "The Graveyard behind Kichijo Temple" Scene, pp. 274-281	
	Read The Three Kichisas and the New Year' s Visit to the Quarters, "The Fire Watchtower at Hongo" Scene, pp. 281-288.	90

第10回	Lecture & Discussion: The Three Kichisas and the New Year's Visit to the Quarters, "The Fire Watchtower at Hongo" Scene, pp. 281-288.	
	Prepare for presentations.	90
第11回	Presentation: The Different Types of Kabuki Plays and the Roles of the Actors	
	Read Kabuki: A Pocket Guide, Chap. 4.	90
第12回	Video screening and lecture on Yoshitsune and the Thousand Cherry Trees (1747/1748) 『義経千本桜』	
	Read related materials the instructor gives in advance.	90
第13回	Video screening and lecture on Kurozuka (1926/1753) 『黒塚』	
	Read related materials the instructor gives in advance.	90
第14回	Video screening and lecture on The Thunder God (1684/1743) 『鳴神』	
	Read related materials the instructor gives in advance.	90
第15回	Video screening and lecture on The Subscription List (1840) 『勤進帳』	
	Read related materials the instructor gives in advance.	90

授業の方法

Lectures are given in English. Japanese will also be used as necessary.

Students' English presentations can be based on a summary of the textbook though it should not be limited to it.

Classroom participation is strongly encouraged. Both English and Japanese will be used as classroom languages.

成績評価の方法

Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

成績評価の基準

Classroom participation: 60%

Presentation: 40%

必要な予備知識／先修科目／関連科目

The DVD will be shown with English commentary. No English subtitles are available for this DVD.

テキスト

(Zeroxed copies of the following translation will be distributed:

Kei Hibino and Alan Cummings (2002) 'The Three Kichisas and the New Year' s First Visit to the Pleasure Quarters [Sannin Kichisa Kuruwa no Hatsugai]. In: Brandon, James R. and Leiter, Samuel L., (eds.), Kabuki Plays on Stage. Vol.3 : Darkness and Desire, 1804-1864. Honolulu: University of Hawai'i Press.)

参考書

河竹黙阿弥『三人吉三廓初買』（新潮社）ISBN-13: 978-4106203657

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

See the portal site.

科目名	日本史概論 I		
教員名	松田 行彦		
科目ナンバー	1191421011	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
・日本史学習の中でも特に手薄になりがちな前近代史を対象とし、学習する上での各事項のポイント、史（資）料を始めとする教材の取り扱い方を中心に講義します。 ・歴史＝暗記科目という認識を持っている学生が大半かと思われますので、史（資）料の取り扱い方を丁寧に解説し、受講生が自主的に教材研究を行い、解説できるようになることを目指します。 ・旧石器時代から平氏政権までを対象とします。			
到達目標			
◎日本史教育を行う上での幅広い知識や、資（史）料の取り扱い方を習得している。 ◎歴史的思考力を身につけ、それを授業実践で論理的に表現できる能力を身につけている。 ○歴史的思考力を持ち、それを現代社会に適切に活用する意欲を有している。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス・旧石器時代 ・授業内容、進め方、予習・復習の仕方などについて解説する。 ・歴史認識・時代区分、研究方法などの、歴史学・考古学の基本的考え方を整理する。 ・旧石器時代研究の難しさを理解する。		
	〔予習〕最低限、高校日本史の知識レベルは習得しておく。 〔復習〕授業内容を確認し、まとめる。		90分
第2回	縄文時代・弥生時代 ・縄文時代・弥生時代の同質性と異質性を正確に理解する。		
	〔予習〕予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕授業内容を確認し、まとめる。		90分
第3回	ヤマト政権の成立 ・B.C. 10～A.D. 50後半にかけてのヤマト政権の成立過程を中国史書の読解により理解する。		
	〔予習〕予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕授業内容を確認し、まとめる。		90分

第4回	ヤマト政権の構造と動揺 ・ 氏姓制度・部民制・屯倉・田荘制など，ヤマト政権の構造とその限界を理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し，まとめる。	90分
第5回	推古期の内政と外交 ・ 中国における久々の統一王朝である隋の成立と，その脅威に対処することを課題とする70初頭の倭国の政権構造を理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し，まとめる。	90分
第6回	乙巳の変と大化改新 ・ 唐の成立によってさらに矛盾の激化した東アジア世界と，それに対処しなければならない倭国の政権構造を理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し，まとめる。	90分
第7回	律令制国家への道 ・ 最終的に律令制国家として完成する，日本の古代国家の成立過程を理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し，まとめる。	90分
第8回	律令制国家の構造（1） ・ 律令制国家として完成した日本の古代国家の構造を理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し，まとめる。	90分
第9回	律令制国家の構造（2） ・ 律令制国家として完成した日本の古代国家の展開過程を理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し，まとめる。	90分

第10回	律令制国家の変容と摂関政治 (1) ・律令制国家が、どのような過程を経て摂関政治に移行するかを理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し、まとめる。	90分
第11回	律令制国家の変容と摂関政治 (2) ・摂関政治が、中国律令を継受して成立した日本の律令制国家であることを理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し、まとめる。	90分
第12回	院政・平氏政権と荘園公領制 (1) ・院政は天皇の父が家父長権を行使する政治形態であるとともに、荘園・知行国が経済基盤であったことを理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し、まとめる。	90分
第13回	院政・平氏政権と荘園公領制 (2) ・武士で最初の政権である平氏政権が、部分的な目新しさを見せながらも、最終的には古代の政権であったことを理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し、まとめる。	90分
第14回	院政・平氏政権と荘園公領制 (3) ・院政、平氏政権、そして後の鎌倉幕府の経済基盤である荘園公領制を理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し、まとめる。	90分
第15回	まとめ 学期末試験	
	〔予習〕 これまでの単元内容を振り返り、内容をまとめる。 〔復習〕 学習内容を振り返る。	90分

授業の方法

- ・授業ごとに根拠となる史（資）料を提示し、解説を加える方法で講義を行います。
- ・その時代・その社会がどのようなものであったかを、グローバルな視点から理解できるよう心掛けたいと思います。
- ・最低限、事前に高等学校の日本史Bの教科書、『シリーズ日本の古代史』（岩波新書）、『JR.日本の歴史』（小学館）を読んだから講義に臨んでください。後二者は最新の研究成果を盛り込み、平易に叙述しているので、極めて参考になると思います。

成績評価の方法

- ・授業終了後、毎回、授業内容について課題を出し、答えてもらいます（【A4判】）。これを成績評価の一部とします（30%）。
- ・学期末試験（70%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本史概論Ⅱに継続します。

テキスト

- ・授業ごとに、必要なレジュメ、史（資）料を配布します。
- ・文献を取り扱う時代になると、講義内容を理解するためには、史料の読解力が要求されます。漢文・古文の復習を行っておいてください。なお、日本史史料研究会監修苅込一志著『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』（吉川弘文館、2015年）を参考図書に挙げておきます。

参考書

- ・高等学校日本史B教科書（前提）
 - ・『岩波講座日本歴史』（岩波書店）
 - ・『日本史史料1古代』（岩波書店）
 - ・『岩波講座日本通史』（岩波書店）
 - ・『日本の時代史』（吉川弘文館）
 - ・『シリーズ日本の古代史①～⑥』（岩波新書）
 - ・『JR（ジュニア）日本の歴史①～⑦』（小学館）
- その他、授業時に随時提示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本史概論II		
教員名	松田 行彦		
科目ナンバー	1191421012	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
・日本史学習の中でも特に手薄になりがちな前近代史を対象とし、学習する上での各事項のポイント、史（資）料を始めとする教材の取り扱い方を中心に講義します。 ・歴史＝暗記科目という認識を持っている学生が大半かと思われますので、史（資）料の扱い方を丁寧に解説し、受講生が自主的に教材研究を行い、解説できるようになることを目指します。 ・鎌倉時代から江戸時代を対象とします。			
到達目標			
◎日本史教育を行う上での幅広い知識や、資（史）料の取り扱い方を習得している。 ◎歴史的思考力を身につけ、それを授業実践で論理的に表現できる能力を身につけている。 ○歴史的思考力を持ち、それを現代社会に適切に活用する意欲を有している。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	治承・寿永の内乱と鎌倉幕府の成立 ・内乱を経て成立した鎌倉幕府がどのような政権であったかを理解する。		
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し、まとめる。		90分
第2回	執権政治の成立と鎌倉幕府政治の展開 ・源氏が3代で滅んだ後、北条氏による執権政治がどのように展開したかを理解する。		
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し、まとめる。		90分
第3回	蒙古襲来と鎌倉幕府の動揺 ・蒙古襲来が鎌倉幕府の成立基盤である御家人制に与えた影響を理解する。		
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し、まとめる。		90分

第4回	南北朝の内乱と室町幕府の成立 ・鎌倉幕府滅亡の必然性と、南北朝の内乱を経て室町幕府が成立する過程を理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し、まとめる。	90分
第5回	室町幕府政治の展開（1） ・室町幕府の構造と、幕府政治の展開過程を理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し、まとめる。	90分
第6回	室町幕府政治の展開（2） ・幕府政治の展開過程と、動揺のあり方を理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し、まとめる。	90分
第7回	庶民と台頭と一揆 ・惣（村）の成立と、この時代の特色である一揆の諸形態を理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し、まとめる。	90分
第8回	戦国大名と分国法 ・明応の政変後、各地に自立する戦国大名と、支配の基本である分国法を理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し、まとめる。	90分
第9回	ヨーロッパ人の来航と織田信長（1） ・宗教改革後のヨーロッパ人の来航と、それを受け入れた戦国期のあり方を理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し、まとめる。	90分

第10回	ヨーロッパ人の来航と織田信長（2） ・ 織田信長の先進性とその限界を理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し、まとめる。	90分
第11回	豊臣政権の成立と展開（1） ・ 豊臣秀吉の業績を通じて、信長とは異なる秀吉の画期性を理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し、まとめる。	90分
第12回	豊臣政権の成立と展開（2） ・ 近世の扉を開いた秀吉の画期性とその限界、それを見抜いていた徳川家康の先見性を理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し、まとめる。	90分
第13回	江戸幕府の成立と展開 ・ 幕藩体制の構造と、幕府政治の展開について理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し、まとめる。	90分
第14回	江戸幕府政治の展開と動揺 ・ 幕藩体制がどのような理由で動揺し始めるかを理解する。	
	〔予習〕 予習内容を教科書等で確認する。 〔復習〕 授業内容を確認し、まとめる。	90分
第15回	まとめ 学期末試験	
	〔予習〕 これまでの単元内容を振り返り、内容をまとめる。 〔復習〕 学習内容を振り返る。	90分

授業の方法

- ・授業ごとに根拠となる史（資）料を提示し、解説を加える方法で授業を展開します。
- ・その時代・その社会がどのようなであったかを、グローバルな視点から理解できるよう心掛けたいと思います。
- ・最低限、事前に高等学校の日本史Bの教科書、『シリーズ日本中世史』（岩波新書）、『シリーズ日本近世史』（岩波新書）、『JR. 日本の歴史①～⑦』（小学館）を読んでから講義に臨んでください。後2者は最新の研究成果を盛り込み、平易に叙述しているので、極めて参考になると思います。

成績評価の方法

- ・授業終了後、毎回、授業内容について課題を出し、答えてもらいます（【B5判】）。これを成績評価の一部とします（30%）。
- ・学期末試験（70%）。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

上記、到達目標の達成度に基づいて評価する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本史概論Ⅰから継続します。

テキスト

- ・授業ごとに、レジュメ、史（資）料を配付します。
- ・講義内容を理解するためには、史料の読解が要求されることになります。漢文・古文の復習を行っておいてください。なお、日本史史料研究会監修苅込一志著『日本史を学ぶための古文書・古記録読法』（吉川弘文館、2015年）を参考図書に挙げておきます。

参考書

- ・高等学校日本史B教科書（前提）
 - ・『日本史史料2中世』（岩波書店）
 - ・『岩波講座日本歴史』（岩波書店）
 - ・『岩波講座日本通史』（岩波書店）
 - ・『日本の時代史』（吉川弘文館）
 - ・『JR.（ジュニア）日本の歴史①～⑦』（小学館）
 - ・『シリーズ日本中世史①～④』（岩波新書）
 - ・『シリーズ日本近世史①～⑤』（岩波新書）
- その他、授業時に随時提示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受ける。

科目名	世界史概論 I		
教員名	井村 行子		
科目ナンバー	1191421021	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
教科としての世界史は今、危機と再生のなかにあると思います。この教科は、戦後70年とほぼ同じだけの時を重ね、さまざまな批判を受けながらも、世界でも類を見ない成果をあげてきました。最大の批判点は外国史であることあることで、世界史なら当然、日本史＝自国史をそのうちに含んでいなくてはならないはずですが、そうなのではないことです。この間、大国史観や西洋中心史観など他の主な批判点の克服には努めてきたものの、科目の設定の条件もあり、この点だけは克服することができませんでした。 ところが、近年、日本史必修化問題という、いわば外圧を受けて、従来の世界史と日本史が一体化した必修科目に近い将来、発足することになっています。この新たな状況に 대응しようとするさまざまな試みが現在、活発に行なわれています。この授業でも、大学における世界史教育という課題に早くから取り組んできたグループが開発した教科書をじっくり読むことによって、このような新たな動向に対応していきたいと思います。 そこで重視されるのは考える力を身につけるということです。みなさんも歴史は暗記ではないというのをたびたび耳にしたことがあると思いますが、現実にはそうなっていません。世界のさまざまな地域、小国の歴史も無視してはならないという善意の蓄積が、情報過多をもたらしている面もあるのですが、生徒や学生の世界史離れを引き起こしているのも事実です。情報量を制限し、その代わりに歴史的に考える力を身につける訓練が必要です。そのためにテキストの「読者への問い」「課題」「まとめの課題」などを活用していきたいと思います。			
到達目標			
① 世界史の基本的な流れを理解する ② それぞれの時代のそれぞれの地域の歴史を簡単に説明できる ③ 歴史的に考える力を身につける			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	教科としての世界史の現状 授業の進め方 報告者の割り当て		
	【予習】序章～第6章までをざっと見て、報告を担当したい節を考えておくこと		60分
第2回	序章 なぜ世界史を学ぶのか 1. 21 世紀の世界で歴史を学ぶ意味 2. 世界史の入り口で		
	【予習】序章1, 2 【復習】課題		60分
第3回	第1章 古代文明・古代帝国と地域世界の形成 1. 文明の誕生と国家の出現 2. 遠距離の移動と交流		
	【予習】第1章1, 2		120分
第4回	第1章 古代文明・古代帝国と地域世界の形成 3. 諸地域世界の成立と古代帝国の栄華 4. 古代帝国の解体と紀元後3～5世紀のユーラシア動乱		

	【予習】第1章3, 4 【復習】まとめの課題	60分
第5回	第2章 地域世界の再編 1. 中央ユーラシアの発展と東アジアの再編 2. 「唐宋変革」と「中央ユーラシア型国家」の時代	
	【予習】第2章1, 2	120分
第6回	第2章 地域世界の再編 3. ユーラシア西方の変動と新しい地域世界の成立 4. ユーラシア南方の変容	
	【予習】第2章3, 4 【復習】まとめの課題	60分
第7回	第3章 海陸の交流とモンゴル帝国 1. 海陸のネットワークの連鎖 2. モンゴル帝国とアフロ・ユーラシアの「グローバル化」	
	【予習】第3章1, 2	120分
第8回	第3章 海陸の交流とモンゴル帝国 3. 14世紀の危機と大崩壊 4. モンゴルの遺産・記憶とその後のユーラシア	
	【予習】第3章3, 4 【復習】まとめの課題	60分
第9回	第4章 近世世界のはじまり 1. 明を中心とする国際秩序 7-1 概説⑦ アジア諸文明のジェンダー秩序 7-2 モンゴル帝国の皇后とチンギス家の婚姻戦略 7-3 明清中国のジェンダー秩序 7-4 後期帝政期中国の文化	
	【予習】第4章1、プリント	120分
第10回	第4章 近世世界のはじまり 2. 西アジア・南アジアの近世帝国 3. ルネサンスと西ヨーロッパ「近代」の胎動	

	【予習】第4章2, 3 【復習】まとめの課題	60分
第11回	第5章 大航海時代 1. ヨーロッパ人の世界進出と「近代世界システム」の形成 8-1 概論⑧ ヨーロッパの拡大・危機とジェンダー 8-2 大航海時代—海を渡る男性と女性 8-3 ルネサンス芸術と女性—描かれた女／描く女 8-4 宗教改革とセクシュアリティ管理の強化	
	【予習】第5章1、プリント	120分
第12回	第5章 大航海時代 2. 銀と火器による東アジアの激動 3. 17世紀の全般的危機	
	【予習】第5章 2, 3 【復習】まとめの課題	60分
第13回	第6章 アジア伝統社会の成熟 1. 東アジア諸国の「鎖国」 2. 18世紀東アジア諸国の成熟と日中の大分岐	
	【予習】第6章1, 2	120分
第14回	第6章 アジア伝統社会の成熟 3. 東南アジア・インド洋世界世界の変容 7-5 朝鮮王朝時代の文化—朱子学と男女有別 7-6 オスマン帝国のジェンダー秩序 7-7 インド中世・近世社会の諸相 7-8 特論⑦ 纏足と辮髪	
	【予習】第6章3、プリント 【復習】まとめの課題	60分
第15回	序論 歴史学におけるジェンダー主流化をめざして 1-1 概説① 歴史を読み直す視点としてのジェンダー 1-2 論点① 家父長制とジェンダー 1-3 論点② アジアの家父長制 1-4 論点③ 人口変動と歴史 1-5 論点④ 身体をどう読むか？ 1-6 論点⑤ 男性性（マスキュリニティ）の歴史 1-8 特論① 国際社会における21世紀の課題	
	【予習】プリント	120分
授業の方法		
各回、原則2人の方に報告していただく。「課題」や「まとめの課題」はできれば、まずその場で一度議論したい。		
成績評価の方法		

課題(30%)、報告(20%)、テスト(50%)
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 課題：テキストの内容を理解した上で自分の力で考えているか 報告：テキストの内容を理解し、わかりやすく伝えることができるか テスト：最低限の知識を試します
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特にありません。
テキスト 『市民のための世界史』大阪大学歴史教育研究会編(大阪大学出版会、2014)、1900円、ISBN978-4-87259-0
参考書 三成美保・姫岡とし子・小浜正子編『歴史を読み替える ジェンダーから見た世界史』（大月書店、2014）、2800円、ISBN978-4-272-50181-6
質問・相談方法等(オフィス・アワー) 授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	世界史概論II		
教員名	井村 行子		
科目ナンバー	1191421022	単位数	2
配当年次	カリキュラムにより異なります。	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
教科としての世界史は今、危機と再生のなかにあると思います。この教科は、戦後70年とほぼ同じだけの時を重ね、さまざまな批判を受けながらも、世界でも類を見ない成果をあげてきました。最大の批判点は外国史であることあることで、世界史なら当然、日本史＝自国史をそのうちに含んでいなくてはならないはずですが、そうってはいないことです。この間、大国史観や西洋中心史観など他の主な批判点の克服には努めてきたものの、科目の設定の条件もあり、この点だけは克服することができませんでした。 ところが、近年、日本史必修化問題という、いわば外圧を受けて、従来の世界史と日本史が一体化した必修科目が近い将来、発足することになっています。このような新たな状況に 대응しようとするさまざまな試みも現在、活発に行なわれています。この授業でも、大学における世界史教育という課題に早くから取り組んできたグループが開発した教科書をじっくり読むことによって、このような新たな動向に対応していきたいと思います。 そこで重視されるのは考える力を身につけるということです。みなさんも歴史は暗記ではないというのをたびたび耳にしたことがあると思いますが、現実にはそうっていません。世界のさまざまな地域、小国の歴史も無視してはならないという善意の蓄積が、情報過多をもたらしている面もあるのですが、生徒や学生の世界史離れを引き起こしているのも事実です。情報量を制限し、その代わりに歴史的に考える力を身につける訓練が必要です。そのためにテキストの「読者への問い」「課題」「まとめの課題」などを活用していきたいと思います。			
到達目標			
① 世界史の基本的な流れを理解する ② それぞれの時代のそれぞれの地域の歴史を簡単に説明できる ③ 歴史的に考える力を身につける			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	教科としての世界史の現状 授業の進め方 報告者の割り当て		
	【予習】第7章～終章までの内容をざっと見て、報告を担当したい節を考えておくこと		60分
第2回	第7章 ヨーロッパの奇跡 1. イギリスとフランスの覇権争奪 2. イギリスの工業化		
	【予習】第7章1, 2		60分
第3回	第7章 ヨーロッパの奇跡 3. 環大西洋革命の展開 10-1 概説⑩ 市民の世紀とジェンダー秩序 10-2 アメリカ独立革命とジェンダー 10-3 フランス人権宣言と「女権宣言」 10-4 近代市民法のジェンダー・バイアス		
	【予習】第7章3、プリント 【復習】まとめの課題		60分
第4回	第8章 近代化の広がり 1. 「パクス・ブリタニカ」の成立 2. 欧米の国民国家建設と工業化		

	【予習】第8章1, 2	120分
第5回	第8章 近代化の広がり 3. 近代化と大衆社会の萌芽 10-5 慈善活動・福祉活動 10-6 48年革命とジェンダー 10-7 工業化と労働のジェンダー化 10-8 階級とジェンダー—労働者大衆の生活と家族	
	【予習】第8章3、プリント 【復習】まとめの課題	60分
第6回	第9章 「ウェスタン・インパクト」とアジアの苦悩 1. イスラーム世界の苦悩 2. 南アジアの植民地化 3. 東南アジアの植民地時代	
	【予習】第9章1, 2, 3	120分
第7回	第9章 「ウェスタン・インパクト」とアジアの苦悩 4. 東アジアの衝撃と模索 5. 「アジア間貿易」とアジアの工業化	
	【予習】第9章4, 5 【復習】まとめの課題	60分
第8回	第10章 帝国主義とアジアのナショナリズム 1. 帝国主義と第一次世界大戦 13-1 概説⑬ 世界大戦の時代 13-2 総力戦とジェンダー 13-3 ソ連の女性と家族 13-4 大衆政治化・バックラッシュ・参政権獲得	
	【予習】第10章1、プリント	120分
第9回	第10章 帝国主義とアジアのナショナリズム 2. アジアのナショナリズム 12-1 概説⑫ アジア・アフリカの社会変動と女性の地位 12-2 近代インドにおける社会改革と民族運動 12-3 オスマン帝国の女性地位改革 12-4 清末の社会変化と女性解放思想の登場	
	【予習】第10章2、プリント 【復習】まとめの課題	60分

第10回	第11章 第二次世界大戦とアジア太平洋戦争 1. 「戦間期」の繁栄と世界恐慌 2. 日中「15年戦争」	
	【予習】第11章1, 2	120分
第11回	第11章 第二次世界大戦とアジア太平洋戦争 3. 第二次世界大戦とアジア太平洋戦争 13-8 朝鮮の植民地化ー「新女性」から「慰安婦」まで 13-9 革命と戦争のなかの中国女性 13-10 ナチズムとジェンダー 13-11 戦争・占領とセクシュアリティ	
	【予習】第11章3、プリント 【復習】まとめの課題	60分
第12回	第12章 冷戦と民族独立の時代 1. 戦後の国際秩序と「冷戦」「熱戦」 2. 脱植民地化と新興国の国民国家建設	
	【予習】第12章1, 2	120分
第13回	第12章 冷戦と民族独立の時代 3. 「平和共存」と高度経済成長 4. ベトナム戦争とアメリカの覇権の動揺 5. 中ソ対立と社会主義の行き詰まり	
	【予習】第12章3, 4, 5 【復習】まとめの課題	60分
第14回	第13章 現代世界の光と影 1. 新自由主義と冷戦の終結 2. 開発と民主化	
	【予習】第13章1, 2	120分
第15回	第13章 現代世界の光と影 3. イスラームの復興と挑戦 4. グローバル化と反グローバル化	

	【予習】第13章3, 4	60分
授業の方法		
各回、原則2人の方に報告していただく。「課題」や「まとめの課題」はできれば、まずその場で一度議論したい。		
成績評価の方法		
課題(30%)、報告(20%)、テスト(50%)		
成績評価の基準		
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 課題：テキストの内容を理解した上で自分の力で考えているか 報告：テキストの内容を理解し、わかりやすく伝えることができるか テスト：最低限の知識を試します		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
特にありません。		
テキスト		
『市民のための世界史』大阪大学歴史教育研究会編(大阪大学出版会、2014)、1900円、ISBN978-4-87259-0		
参考書		
三成美保・姫岡とし子・小浜正子編『歴史を読み替える ジェンダーから見た世界史』（大月書店、2014）、2800円、ISBN978-4-272-50181-6		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
授業終了後に教室で受け付けます。		

科目名	人文地理学		
教員名	小田 宏信		
科目ナンバー	1391421031	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
人文地理学は人間活動の空間的諸相に関わる学問分野である。こんにち、人文地理学の研究対象、またアプローチは多様性に満ちているが、本科目では、教職課程の受講者を念頭において、集落・都市地理学、人口地理学、農業地理学といった系統地理学の各分野における古典的アプローチを中心に概説する。			
到達目標			
DP1（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。 ・人文地理学を構成する各々の研究分野の初歩的な諸概念を活用できる。 ・多様な地図資料等を用いて、また自ら作成することによって、景観・立地・空間構造といった人文地理学の視点から地表上の諸事象を理解できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	人文地理学とは何か		
	・図書館で地理学に関わる概説書を手にとってみる。		60
第2回	人文地理学の見方・考え方：文化要素の地域性を事例に		
	・前回の復習		60
第3回	景観の地理学(1)：平野の地形と土地利用		
	・前回の復習		60

第4回	景観の地理学(2)：村落の立地と景観	
	・ 前回の復習	60
第5回	景観の地理学(3)：城下町の立地と形態	
	・ 前回の復習	60
第6回	景観の地理学(4)：産業化の歴史地理	
	・ 前回の復習	60
第7回	人口と都市の地理学(1)：人口動態と人口移動	
	・ 前回の復習	60
第8回	人口と都市の地理学(2)：都市の類型と都市システム	
	・ 前回の復習	60
第9回	人口と都市の地理学(3)：都市構造とその動態	
	・ 前回の復習	60

第10回	人口と都市の地理学(4) : 大都市問題と大都市政策	
	・ 前回の復習	60
第11回	課題の中間報告	
	・ 発表の準備 ・ 前回の復習	120
第12回	農業生産の地理学(1) : 農業活動の地域性	
	・ 前回の復習	60
第13回	農業生産の地理学(2) : 農業の主産地形成	
	・ 前回の復習	60
第14回	農業生産の地理学(3) : グローバル化と日本の農業	
	・ 前回の復習	60
第15回	まとめ	
	・ これまでの復習	120

授業の方法

講義形式で進める。一部、実習形式で行う場合もある。4回程度、主題図の作成と読み取りに関する課題提出を求める。

成績評価の方法

原則全回出席原則の上で、課題提出40%、期末試験60%。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その達成度により評価する。□□□□□□□□□□

- (1) 人文地理学の各分科の基本概念を理解できているか。
- (2) 主題図を作成し、それを読み取る力が身に付いたか。
- (3) 地理的思考力を身につけたか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

予備知識・先修科目はとくに必要としないが、教養カリの地理学関連科目、経済学部開講の「産業と立地」および「経済地理」の履修を推奨。

テキスト

本年度は使用しません。

参考書

『地理学入門＜改訂版＞』浮田典良。原書房，2200円，ISBN4-5620-9139-8。
『地理学概論（地理学基礎シリーズ1）』上野和彦ほか編，朝倉書店，3465円。
『自然地理学概論（地理学基礎シリーズ2）』矢ヶ崎典隆ほか編，朝倉書店，3465円。
『地誌学概論（地理学基礎シリーズ3）』高橋日出男ほか編，朝倉書店，3465円。
『ジオ・バルNEO—地理学・地域調査便利帖』野間晴雄・香川貴志ほか，海青社，2625円，ISBN4-8609-9265-2
『人文地理学』竹中克行ほか編，ミネルヴァ書房，3000円，ISBN4-6230-5539-6
『地理学への招待』中村和郎ほか編，古今書院，2400円，ISBN4-7722-1227-2
『地域と景観』中村和郎ほか編，古今書院，2800円，ISBN4-7722-1230-2
『人口地理学入門』小笠原節夫，原書房，2100円，ISBN4-562-09026-X
『文化地理学入門』高橋伸夫ほか，東洋書林，2625円，ISBN4-8872-1086-8
『現代都市地理学』北川健次編，古今書院，2600円，ISBN4-7722-3044-0
『新しい都市地理学』高橋伸夫ほか，東洋書林，2625円，ISBN4-8872-1302-6
『商業地理学入門』奥野隆史ほか，東洋書林，2625円，ISBN4-8872-1349-2
『グローバル化に対抗する農林水産業』高柳長直ほか，農林統計出版，2300円，ISBN4-8973-2204-9
『フードシステムの空間構造論—グローバル化の中の農産物産地振興』高柳長直，筑波書房，3500円，ISBN4-8119-0295-5

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	自然地理学 a		
教員名	財城 真寿美		
科目ナンバー	1391421032	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
自然地理学（地形、気候、植生など）の基本的な知識を得ることを目標とする。講義では、地球上で起こっている様々な時空間スケールの環境変化について、現象の説明だけでなく、メカニズムや人々の生活に対する影響まで、映像や写真、図表を多く取り入れて解説していく。			
到達目標			
DP1（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。 自然地理に関する様々な地図やグラフから、自然と人間の相互作用を読み取る力を身に付けます。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	講義ガイダンス ・研究倫理について ・講義計画の確認		
	シラバスを読んで授業計画を確認してくること		60
第2回	地球環境の基礎 1-大気 (1)		
	前回の内容確認		60
第3回	地球環境の基礎 1-大気 (2)		
	前回の内容確認		60

第4回	地球環境の基礎 2-固体地球	
	前回の内容確認	60
第5回	地球環境の基礎 3-地図・図表の読解	
	前回の内容確認	60
第6回	世界の気候とその分布	
	前回の内容確認	60
第7回	エルニーニョ・ラニーニャ現象	
	前回の内容確認	60
第8回	日本の天気と気候	
	前回の内容確認	60
第9回	後期更新世以降の気候変動	
	前回の内容確認	60

第10回	関東地方の地形	
	前回の内容確認	60
第11回	後期更新世以降の地形発達（関東の地形発達）	
	前回の内容確認	60
第12回	ヒートアイランドと緑地の冷却効果 都市型集中豪雨と気象災害	
	前回の内容確認	60
第13回	地球温暖化の現状	
	前回の内容確認	60
第14回	大学入試センター試験「地理A/B」研究	
	前回の内容確認	60
第15回	学期末到達度確認テスト	
	到達度確認テストに向けた、講義内容すべての復習	60

授業の方法

配布プリントとPCプロジェクタを使用して講義を行います。

成績評価の方法

学期末到達度確認テスト（80％）＋平常点（出席・提出物・発言など）（20％）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
自然地理に関する様々な地図やグラフから、自然と人間の相互作用を読み取るスキルを習得したかどうか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に必要な予備知識は求めません。
また、暗記を強要するようなこともありません。

テキスト

- 1) 新詳地理資料 「COMPLETE」：帝国書院，ISBN-10：4807162284
- 2) 中学校や高等学校で使用した地図帳

参考書

新詳資料「地理の研究」：帝国書院，ISBN-10：4807162390

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	自然地理学 <2>		
教員名	財城 真寿美		
科目ナンバー	1391421032	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
自然地理学（地形、気候、植生など）の基本的な知識を得ることを目標とする。講義では、地球上で起こっている様々な時空間スケールの環境変化について、現象の説明だけでなく、メカニズムや人々の生活に対する影響まで、映像や写真、図表を多く取り入れて解説していく。			
到達目標			
DP1（教養の修得）を実現するため、以下を到達目標とする。 自然地理に関する様々な地図やグラフから、自然と人間の相互作用を読み取る力を身に付けます。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	講義ガイダンス ・研究倫理について ・講義計画の確認		
	シラバスを読んで授業計画を確認してくること		60
第2回	地球環境の基礎 1-大気 (1)		
	前回の内容確認		60
第3回	地球環境の基礎 1-大気 (2)		
	前回の内容確認		60

第4回	地球環境の基礎 2-固体地球	
	前回の内容確認	60
第5回	地球環境の基礎 3-地図・図表の読解	
	前回の内容確認	60
第6回	世界の気候とその分布	
	前回の内容確認	60
第7回	エルニーニョ・ラニーニャ現象	
	前回の内容確認	60
第8回	日本の天気と気候	
	前回の内容確認	60
第9回	後期更新世以降の気候変動	
	前回の内容確認	60

第10回	関東地方の地形	
	前回の内容確認	60
第11回	後期更新世以降の地形発達（関東の地形発達）	
	前回の内容確認	60
第12回	ヒートアイランドと緑地の冷却効果 都市型集中豪雨と気象災害	
	前回の内容確認	60
第13回	地球温暖化の現状	
	前回の内容確認	60
第14回	大学入試センター試験「地理A/B」研究	
	前回の内容確認	60
第15回	学期末到達度確認テスト	
	到達度確認テストに向けた、講義内容すべての復習	60

授業の方法

配布プリントとPCプロジェクタを使用して講義を行います。

成績評価の方法

学期末到達度確認テスト（80％）＋平常点（出席・提出物・発言など）（20％）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成度により評価する。
自然地理に関する様々な地図やグラフから、自然と人間の相互作用を読み取るスキルを習得したかどうか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特に必要な予備知識は求めません。
また、暗記を強要するようなことはありません。

テキスト

- 1) 新詳地理資料 「COMPLETE」：帝国書院，ISBN-10：4807162284
- 2) 中学校や高等学校で使用した地図帳

参考書

新詳資料「地理の研究」：帝国書院，ISBN-10：4807162390

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	地誌学		
教員名	小金澤 孝昭		
科目ナンバー	1291421033	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
地誌学の基本的調査方法と分析方法について学ぶ。地誌学は、中学校社会の地理的分野や高校地理の主内容を構成するものです。学習指導要領では、日本の各地方地誌と世界の各地域の地誌を動態的に把握するように指導されています。実際の現場での授業では、各地方・各地域の授業時間が短いために網羅的に扱われやすいのですが、この講義では、地誌学の基本的調査・分析方法を学ぶので、日本と世界について事例を取りあげて具体的に地域の特徴を検討します。日本地誌では、身近な地域、関東地方、日本（人口）の順序で異なるスケール分析を行い地域の特徴を把握します。問題意識としては少子高齢化社会が地域にどのように表れるかを考えます。世界地誌では、オーストラリアを事例に、オーストラリアの自然環境と開発、各州の地域差、都市の構造という順序でスケール分析を行います。オーストラリアでは、人間が自然環境をどのように開発してきたのかという点と多文化・多民族社会がどのように作られてきたのかという点に注目して考察します。			
到達目標			
①身近な地域レベル（ミクروسケール）都道府県、地方レベル（メソスケール）国レベル（マクروسケール）の3つのスケールごとに地域の特徴を整理する方法を学ぶ。 ②身近な地域の分析では、5万分の1地形図（日本の場合）を活用する方法を学ぶ。また都市地域では、居住者の棲み分け（年齢・国籍等）による居住地域の特徴を分析する方法を学ぶ。 ③地方・州レベルの地域分析では、地域間（市町村・都道府県・州）の動向を統計分析による地域類型化の方法を学ぶ。 ④国レベルでは、自然環境の動態や人口の動態を時間的・空間的に把握する方法を学ぶ			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス・授業の内容進め方、予習復習の方法を説明する。 日本の地理：人口問題・少子高齢化問題を地域別的に考察する。世界の地理、国連SDGs 持続可能な開発目標を具体的に知る。		
	[準備]色鉛筆か各色マーカーを準備する。 [復習]地形図の彩色作業の完成		60
第2回	身近な地域①地形図を使って、武蔵野周辺の地域の特徴を講義する。自然環境と歴史的背景を学ぶ。 ・武蔵野の文献リストの紹介		
	[宿題]各自の出身地域の土地利用図の作成とミニレポートの作成。 5万分の1の地形図購入		120
第3回	身近な地域②地形図を使って、開発過程や現在の身近な地域の課題を考える高齢化問題・外国人居住等について学ぶ。		
	[予習]地形図作業で分かったことは疑問点を整理する。		60

第4回	身近な地域③地形図検討会 各自が作成した地形図をみんなで観察して地域の特徴を確認する。	
	[予習] 関東地方のワークシートの作業(水利・自然環境)	60
第5回	関東地方の地域の特徴① 自然環境と人間の生活 ・ 関東地方の文献リストの紹介	
	[予習]ワークシートの作業(関東地方の地域形成史)	60
第6回	関東地方の地域の特徴② 開発の歴史 関東平野の水利と産業地域の形成 関東機業地域(富岡製糸場)	
	[予習]ワークシート(関東地方の農業) 作業	60
第7回	関東地方の地域の特徴③ 産業地域(関東地方の農業立地の特徴)	
	[予習]ワークシート(関東地方の工業)	60
第8回	関東地方の地域の特徴④ 産業地域(関東地方の工業立地の特徴)	
	[復習] 関東地方のトピックスに関するレポートの作成(締切第10回)	120
第9回	関東地方の地域の特徴⑤ 都市問題(とりわけ、東京の居住問題)	
	[予習]地図作業ならびに開発年表の作業 [宿題]オーストラリアに関する論文1と論文2の講読+レポート作成 (締切:論文1は第11回 論文2は第13回)	60

第10回	オーストラリア地誌① なぜオーストラリアを取り上げるのか？自然環境と人間社会による開発（非定住空間と産業革命技術） ・オーストラリアの文献リストの紹介	
	[復習]オーストラリアの修学旅行企画書の作成(締切第11回)	60
第11回	オーストラリア地誌② 自然環境の変動性の確認 オーストラリア開発史	
	[予習]文献の講読	60
第12回	オーストラリア地誌③ 多文化社会・多民族社会オーストラリア・VTR教材	
	作業:VTR教材感想レポートの作成 [予習]文献の講読	60
第13回	オーストラリア地誌④ オーストラリアの移民史と州別の人口移動について	
	[予習]ワークシートの作業(統計)	60
第14回	オーストラリア地誌⑤ 多民族社会の棲み分けと都市問題 シドニーを事例にして	
	[予習]ワークシートの作業(主題図)	60
第15回	到達度確認試験 今まで学習してきた日本地誌とオーストラリア地誌についての理解度を確認する。	
	[復習]テストの結果を確認し、理解が不十分なところ点検する。	60

授業の方法

- ・授業は講義プリントに従って講義中心で行う。講義にあたっては事前配布したワークシートをもとに、疑問点などを出してもらいながら講義を進める。また授業の中では地図作業や統計作業やワークシート作業を行って、参加型の授業を進めていく。
- ・板書も活用するが、課題の設定など中心で、配布した講義プリントにノートする方法です。板書を写すだけのノート取りにならないようにする。
- ・毎回講義感想シートを提出して、理解した点や疑問点を整理する。
- ・課題レポートは、①各自地域の土地利用図作成と特徴を記載したレポート②関東地方のトピックスレポート③オーストラリアの文献レポートの3つ。課題ワークシートは、随時出していく。

成績評価の方法

課題レポート3回、講義感想シート13回、課題ワークシートなどにより、出席状況や学習内容を確認し、到達度確認テストで最終評価を行う。課題レポート2回 講義感想シート8回以上、課題ワークシートすべての提出のない者は、到達度確認テストの受験資格を失う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

新聞を読む習慣を身に付けよう。

テキスト

講義時にプリント資料やワークシート、文献を配布する。

参考書

講義時に参考図書文献を紹介する。
国連パンフレット SDGs

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後や随時電子メールで受け付ける。

科目名	現代の政治学		
教員名	富田 武		
科目ナンバー	1191421041	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
教職課程用政治学として、政治学の基礎を政治思想から政治過程まで、地方自治から国際政治まで下記のテキストを用いて幅広く学ぶ。このテキストは理論的な部分と歴史的な部分と現状分析的な部分とが組み合わさっているので、読みにくいかもしれないが、総合的な理解のためにそうしているのである。なお、テキストに欠けていると思われる「権威主義と民主化」については、講師が独自に補う。これで、日本と世界の現代政治を理解する基本的な用語（概念）と考え方をセットで提供できる。			
到達目標			
中学「公民」、高校「政治経済」を将来教える上で必要な政治学の基本的な知識と考え方を修得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	映像学習 『日本国憲法の誕生』（NHK、2007年）を観て、日本の民主政治の原点を考える。		
	感想文を宿題として書く。		0分
第2回	テキスト第1章 「民主政治の起源」：古代ギリシアから近代市民革命に至る民主政治の制度と理念を理解する。		
	テキスト第1章を読む。		90分
第3回	テキスト第2章 「民主政治の変容」：19世紀までに発展した自由民主主義は、選挙権拡大による大衆民主主義、さらには全体主義の挑戦を受け、再定義を余儀なくされたことを理解する。		
	テキスト第2章を読む。		90分

第4回	テキスト第3章 「福祉と政治」：社会主義国家の登場と世界恐慌が資本主義の変容を促し、先進国で福祉国家を生み出したこと、他方ではリベタリアニズムも生み出したことを理解する。	
	テキスト第3章を読む。	90分
第5回	テキスト第4章 「民主政治のさまざまな仕組み」：議院内閣制と大統領制、日本の議院内閣制、多数決型民主政治と合意型民主政治を学習する。	
	テキスト第4章を読む。	60分
第6回	テキスト第5章 「選挙」：選挙制度を外国や過去も含めて知り、投票行動を説明する理論を学び、日本の選挙と投票の実態を把握する。	
	テキスト第5章を読む。	90分
第7回	テキスト第6章 「議会と政党」：立法過程を知り、議会における政党の役割と政党間の関係（政党システム）を学び、戦後日本の政党政治の歴史を理解する。	
	テキスト第6章を読む。	90分
第8回	映像学習 高齢者の政党と圧力団体の活動の実例をアメリカ、オランダに観る。	
	感想文を宿題として書く。	90分
第9回	テキスト第7章 「政策過程と官僚・利益集団」：政策決定は議会そのものでより、政府与党案の官僚による準備、利益集団による介在（審議会、陳情等）でなされることを理解する。	
	テキスト第7章を読む。	90分

第10回	テキスト第8章 「世論とマスメディア」：選挙でも政策決定でも大きな役割を果たし、「第4の権力」と呼ばれるマスメディアとその作り出す「世論」を検討する。	
	テキスト第8章を読む。	60分
第11回	テキスト第9章 「地方自治」：地方自治における二代表制と住民参加、近年の分権改革と財政問題、最近の地方政治の特徴（首長リード型）を学習する。	
	テキスト第9章を読む。	90分
第12回	テキスト第10章 「グローバル化」：近代の主権国家体制がグローバル化によって揺らぎ、核兵器や環境破壊の問題の共同解決が迫られる中で、国際関係の在り方、グローバル市民社会を考える。	
	テキスト第10章を読む。	90分
第13回	テキスト第11章 「民主政治の現在」：現代の民主主義が「新しい社会運動」やNGO/NPOの「結社ネットワーク」の挑戦を受け、「熟議民主主義」の試みなど試行錯誤していることを学ぶ。	
	テキスト第11章を読む。	90分
第14回	講師補足：権威主義と民主化 テキストが欧米先進国の政治中心なので、発展途上国の政治を理解するために権威主義（開発独裁）体制とその民主化という項目について学ぶ。	
	参考書の『アジア政治を見る眼』を読む。	90分
第15回	まとめ 現行の中学「公民」、高校「政治経済」を教える立場に立って本政治学の内容をいかに翻案すればよいかを考える。参考に「学習指導要領」当該部分を配布する。	
	授業中前に左記の問いに対する自分なりの答えを書いてみる。教科書の当該部分を読んでくる。	90分

授業の方法

毎回パワーポイントに基づいて講義する。DVDも補助教材とし、感想文を書いてもらう。

成績評価の方法

基本的に期末試験で評価するが（90%）、DVDの感想文の提出及び内容も評価に加味される。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

とくになし。

テキスト

川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会、2200円 ISBN978-4-13-032219-5 C3031

参考書

岩崎育夫『アジア政治を見る眼：開発独裁から市民社会へ』中公新書、740円 ISBN4-12-101582-7 C1231

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

簡単な質問は授業終了後に教室で受け付けるが、立ち入った質問や相談はメールまたは名誉教授室で対応する。

科目名	書道（書写を中心とする。） A		
教員名	二瓶 晃一		
科目ナンバー	1251421001	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
中学校の書写指導に必要な知識と技術の習得をめあてとして。 1. 中学校における書写の内容と指導法。 2. 実技指導に必要な技術の習得のための毛筆・硬筆の実技。 3. 書道に関しての基礎的なことがらの理解。 （ア）書の本質論（イ）書道史の概略（ウ）作品の鑑賞 4. 学生同士で指導者の立場での添削指導を実施。			
到達目標			
①中学校の書写指導に必要な知識と基本的な技術の習得。 ②楷書の基本点画を習得することできる。 ③書造型の原理を理解して文字を書くことができる。 ④適切な添削指導ができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、予習・復習の仕方を説明する。		
	現在持っている用具・用材が適切なものかどうかを確認し、不適切なものは新たに用意しておく。	30	
第2回	用具・用材の名称・材料・使用法について。 ・実際に正しく理解して使用できるようにする。		
	使用法について、理解を深めておく。 なお、硯はプラスチックではなく、石製であることが好ましい。	30	
第3回	執筆法・腕法について。		
	「二本がけ」、「懸腕法」で、文字を書くことが出来るよう馴れておく。	30	

第4回	楷書の基本点画について。	
	文字を組み立てている点や画を正しく整えて書くことが出来るように確認しておく。	30
第5回	書造型の原理について。	
	「整齊」な文字を書くための造型の原理を理解しておく。	30
第6回	楷書の基本点画の実際①	
	基本点画〈横画〉が適切に書けるようにする。	60
第7回	楷書の基本点画の実際②	
	基本点画〈縦画〉が実際に適切に書けるようにする。	60
第8回	楷書の基本点画の実際③	
	基本点画〈折れ〉が適切に書けるようにする。	60
第9回	楷書の基本点画の実際④	
	基本点画〈左払い・右払い〉が適切に書けるようにする。	60

第10回	楷書の基本点画の実際⑤	
	基本点画〈折れ・はね〉が適切に書けるようにする。	60
第11回	楷書の基本点画の実際⑥	
	基本点画〈さんずい〉が適切に書けるようにする。	60
第12回	楷書の基本点画の実際⑦	
	基本点画〈しんにょう〉が適切に書けるようにする。	60
第13回	楷書の基本点画の実際⑧	
	基本点画〈曲がり・はね〉が適切に書けるようにする。	60
第14回	楷書の基本点画の実際⑨	
	基本点画〈はね〉が適切に書けるようにする。	60
第15回	まとめ	
	前期に学習した課題を作品集にまとめる。	60

授業の方法

出来る限り実技学習の時間をとり、基本的な書写技術の習得を目指す。

成績評価の方法

学習した実技作品と学生間における添削指導等を総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

テキストは不要。必要に応じ、手本をその場で揮毫する。

参考書

『現代書道全書 1～5』上條信山（尚学図書）各2, 570円
『新書写教育事典』上條信山（木耳社）7, 000円

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	書道（書写を中心とする。）B		
教員名	二瓶 晃一		
科目ナンバー	1251421002	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
中学校の書写指導に必要な知識と技術の習得をめあてとして。 1. 中学校における書写の内容と指導法。 2. 実技指導に必要な技術の習得のための毛筆・硬筆の実技。 3. 書道に関しての基礎的なことがらの理解。 （ア）書の本質論（イ）書道史の概略（ウ）作品の鑑賞 4. 学生同士で指導者の立場での添削指導を実施。			
到達目標			
①中学校の書写指導に必要な知識と基本的な技術の習得。 ②楷書の基本点画を習得することできる。 ③書造型の原理を理解して文字を書くことができる。 ④適切な添削指導ができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修（予習・復習等）	準備学修の目安（分）	
第1回	楷書の基本点画の実際⑩		
	基本点画〈そり・はね〉が適切に書けるようにする。	60	
第2回	楷書の基本点画の実際⑪		
	基本点画〈折れ・そり・はね〉が適切に書けるようにする。	60	
第3回	楷書の基本点画の実際⑫		
	基本点画〈折れ・はね〉が適切に書けるようにする。	60	

第4回	楷書の基本点画の実際⑬	
	基本点画〈とめ〉が適切に書けるようにする。	60
第5回	楷書の基本点画の実際⑭	
	〈はね〉が適切に書けるようにする。	60
第6回	書体の変遷について	
	金文・篆書・隸書・楷書・行書の簡略化の変遷について理解する。	30
第7回	書造型の基本原理の実際①	
	〈水平の原理〉にしたがって適切に書けるようにする。	60
第8回	書造型の基本原理の実際②	
	〈垂直の原理〉にしたがって適切に書けるようにする。	60
第9回	書造型の基本原理の実際③	
	〈平行の原理〉にしたがって適切に書けるようにする。	60

第10回	書造型の基本原理の実際④	
	〈等分割の原理〉にしたがって適切に書けるようにする。	60
第11回	書造型の基本原理の実際⑤	
	〈中心線一貫〉の原理にしたがって適切に書けるようにする。	60
第12回	唐代楷書の写実的臨書①〈二字書〉	
	楷書の古典臨書により、その特質を理解する。(字間に留意し、適切な大きさを書けるようにする。)	60
第13回	唐代楷書の写実的臨書②〈四字書〉	
	楷書の古典臨書により、その特質を理解する。(字間および行間に留意して、書けるようにする。)	60
第14回	唐代楷書の写実的臨書③〈六字書〉	
	楷書の古典臨書により、その特質を理解する。(各行の中心を通すことに留意して書けるようにする。)	60
第15回	まとめ	
	後期に学習した課題を作品集にまとめる。	60

授業の方法

出来る限り実技学習の時間をとり、基本的な書写技術の習得を目指す。

成績評価の方法

学習した実技作品と学生間における添削指導等を総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

テキスト不要。必要に応じて手本をその場で揮毫する。

参考書

『現代書道全書 1～5』上條信山（尚学図書）各 2, 570円
『新書写教育事典』上條信山（木耳社）7, 000円

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	教職総合演習		
教員名	喜岡 淳治		
科目ナンバー	1291432011	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テーマ： 「生と死」について学ぶ。 概要： 吉野源三郎氏の名作『君たちはどう生きるのか』を読み、人間としてどう生きればいいのかを考察する。勇気、いじめ、貧困、格差、教養等、昔も今も変わらないテーマに向き合う、主人公のコベル君と叔父さんの二人の姿勢をもとに、これからの時代をどのように生きていけばよいのかについて議論する。			
到達目標			
1 「生と死」に関する課題を取り上げるなかで、現代がどのような時代であるのかを把握することができる。 2 生物本来のあり方、生命倫理について考察できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・テーマ「生と死について学ぶ」について、説明する。 ・履修者による、この演習を履修した理由と、自己紹介を行う。 ・教科書『君たちはどう生きるか』の説明を行う。		
	【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。演習を履修した目的と自己紹介について、まとめる。 【復習】 授業の全体像や進め方、評価基準等について、確認する。	90	60
第2回	『君たちはどう生きるか』①		
	【予習】 『君たちはどう生きるか』の指定された部分を熟読する。 【復習】 講義内容を理解し、資料等を参考にしながら、振り返りを行う。	90	60
第3回	『君たちはどう生きるか』②		
	【予習】 『君たちはどう生きるか』の指定された部分を熟読する。 【復習】 講義内容を理解し、資料等を参考にしながら、振り返りを行う。	90	60

第4回	外部講師による、「生と死」に関する講義とワークショップ	
	【予習】『君たちはどう生きるか』の指定された部分を熟読する。 【復習】講師による「生と死」に関する講義内容を理解し、資料等を参考にしながら、振り返りを行う。	90 60
第5回	『君たちはどう生きるか』③	
	【予習】 』『君たちはどう生きるか』の指定された部分を熟読する。 【復習】 講義内容を理解し、資料等を参考にしながら、振り返りを行う。	90 60
第6回	『君たちはどう生きるか』④	
	【予習】 』『君たちはどう生きるか』の指定された部分を熟読する。 【復習】 講義内容を理解し、資料等を参考にしながら、振り返りを行う。	90 60
第7回	『君たちはどう生きるか』⑤	
	【予習】 』『君たちはどう生きるか』の指定された部分を熟読する。 【復習】 講義内容を理解し、資料等を参考にしながら、振り返りを行う。	90 60
第8回	『君たちはどう生きるか』⑥	
	【予習】 』『君たちはどう生きるか』の指定された部分を熟読する。 【復習】 講義内容を理解し、資料等を参考にしながら、振り返りを行う。	90 60
第9回	履修者による「生と死」に関する発表①	
	【予習】 発表者は「生と死」に関するテーマに基づいて、30分のプレゼンテーションを行う準備をする。 【復習】 発表内容に関し、自分自身でも問題点等を理解し、全体において振り返りを行う。	90 60

第10回	履修者による「生と死」に関する発表②	
	【予習】 発表者は「生と死」に関するテーマに基づいて、30分のプレゼンテーションを行う準備をする。 【復習】 発表内容に関し、自分自身でも問題点等を理解し、全体において振り返りを行う。	90 60
第11回	履修者による「生と死」に関する発表③	
	【予習】 発表者は「生と死」に関するテーマに基づいて、30分のプレゼンテーションを行う準備をする。 【復習】 発表内容に関し、自分自身でも問題点等を理解し、全体において振り返りを行う。	90 60
第12回	履修者による「生と死」に関する発表④	
	【予習】 発表者は「生と死」に関するテーマに基づいて、30分のプレゼンテーションを行う準備をする。 【復習】 発表内容に関し、自分自身でも問題点等を理解し、全体において振り返りを行う。	90 60
第13回	履修者による「生と死」に関する発表⑤	
	【予習】 発表者は「生と死」に関するテーマに基づいて、30分のプレゼンテーションを行う準備をする。 【復習】 発表内容に関し、自分自身でも問題点等を理解し、全体において振り返りを行う。	90 60
第14回	履修者による「生と死」に関する発表⑥	
	【予習】 発表者は「生と死」に関するテーマに基づいて、30分のプレゼンテーションを行う準備をする。 【復習】 発表内容に関し、自分自身でも問題点等を理解し、全体において振り返りを行う。	90 60
第15回	履修者全員によるまとめ	
	【予習】 履修者は、事前にレポート提出を行う原稿の素案を持ち寄る。 【復習】 履修者全員によって、レポートの素案を共有し、この授業を通して学んだ内容の理解を深める。	120 60

授業の方法

1～8回については、担当者と外部講師による、テーマに関わる講義とワークショップを行う。
9～14回については、受講者が該当グループ、個人に分かれて、与えられた「生と死」に関する項目について学んだことを発表する。
最終回は、全員で討論を行う。

成績評価の方法

発表原稿及び最終レポート 60点 授業内評価 40点
最初の講義で、授業内容及び成績評価に関するオリエンテーションを行う。
出席は必要条件。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

教育相談

テキスト

吉野源三郎著 『君たちはどう生きるか』 岩波文庫 ISBN4-00-331581-2

参考書

森田洋司・清水賢二著 『いじめ 教室の病い』 金子書房 ISBN4-7608-2109-0

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	共生社会実践研究 a		
教員名	松崎 実穂、小林 玄		
科目ナンバー	1191432002	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
(第1回～7回) 共生社会における公助・共助・自助とそこにおける住民の役割、高齢者のからだやこころの特性と介護予防や支援策、また家族介護の問題について学習し、理解を深める。 (第8回～第14回) 特別支援学校での介護等体験を通し、障害のある幼児児童生徒の教育について理解を深める。また、障害の有無にかかわらず全ての子どもたちが相互に人格と個性を尊重し合い共に学び合うインクルーシブ教育の理念に基づいて、教育の在り方を考え、教員としての資質能力の基礎・基本を身につける。			
到達目標			
(第1回～7回) ・「介護等の体験」で実際に接する武蔵野市民の高齢者を念頭に置き、ひとの老化に関わる事象の理解を深める ・高齢者が自立し介護予防となる事業が国及び自治体、地域住民、高齢者とその家族等の連携によって可能になることを理解する ・共生社会の地域福祉を担う一員となる意識、ひとの老化を意識した適切な対応やコミュニケーションを発揮できる素養を養う ・ケアラー（家族介護者）支援についての学習を通して、現代の家族介護の状況への理解を深め、教育活動に反映することができる (第8回～第14回) 以下を身につけることを到達目標とする。 ・世界における障害観の変遷を理解し、共生社会において教育に携わる者として自らの障害観をもつ ・特別支援教育の理念、制度、今後の展望を理解し、インクルーシブ教育の在り方について自分なりの教育観をもつ ・特別支援教育における子どもの実態把握から指導計画までのプロセスを理解し、教育活動に反映することができる ・特別支援学校における教育をテキストや実例をとおして理解し、介護等体験への見通しをもつ			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス 授業内容と進め方・予習・復習の仕方、試験・出席等を含む評価の方法などを説明する 高齢者の生きがいと健康づくり推進事業と武蔵野市における「地域健康クラブ」		
	復習：配布資料を読み、地域健康クラブの開設と現状までを把握する		60
第2回	高齢期のからだところを理解する(1) 運動器官機能・呼吸循環器官機能の老化や障害とADLの回復・維持 心の老化とQOL（生活の質）の維持		
	予習：配布資料を熟読する 復習：からだの老化を理解し、ADLとは何か、どのような動作が該当するかを知る。こころの老化を理解し、QOLの回復・維持のために何が必要かを考える		60
第3回	高齢期のからだところを理解する(2) 脳の機能とその老化・障害への対応		
	予習：配付資料を熟読する 復習：脳の構造を理解し、特に脳神経細胞の機能を確認する。高齢期に分泌が減少しやすい神経伝達物質について理解し、日常的に分泌を低下させない予防法を考える		60

第4回	日本の高齢者福祉の歴史と制度（1） 日本の人口高齢化と高齢者福祉 介護保険制度の概要	
	予習：介護保険制度に関する配付資料を熟読する 復習：介護保険制度の基本的構造を理解する	60
第5回	日本の高齢者福祉の歴史と制度（2） 介護保険制度開始後の高齢者福祉	
	予習：配布資料を熟読する 復習：介護保険制度の変遷と現状を理解する	60
第6回	武蔵野市における「地域健康クラブ」の活動と身体的・精神的・社会的効果	
	予習：配布資料を読み、地域健康クラブの歴史と概要を把握する 復習：地域健康クラブの活動とその効果調査結果から導かれた提言を読み、武蔵野市における取り組みの特徴を把握する。地域を基盤とした共生社会の形成に向けて、武蔵野市の取り組みとその効果から示唆されることを考える	60
第7回	ケアラー（家族介護者）支援と学校教育 家族をケアする子ども・若者の現状と支援への取り組み	
	予習：配布資料を熟読する。 復習：日本における家族介護者、家族をケアする子ども・若者の現状を確認し、学校教育との関わりについて考える	60
第8回	ガイダンス 授業内容と進め方・予習・復習の仕方、試験・出席等を含む評価の方法などを説明する。 障害とは 世界保健機関（WHO）による障害のとらえ方の変化を国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）への変遷に言及しながら解説する。また各自の障害観をグループディスカッションをとおして共有する。	
	【予習】テキスト第Ⅰ章p23、32－35を読んでおく。また障害の概念について自分なりの考えをまとめておく。 【復習】グループディスカッションを振り返る。ICIDH、ICFの障害のとらえ方を理解する。	30
第9回	特別支援教育とインクルーシブ教育 特殊教育から特別支援教育への流れとインクルーシブ教育の理念を解説し、具体的事例をとおして現状の把握と今後の課題について考察する。	

	【予習】テキスト第Ⅰ章p24－31を読み、特別支援教育システムの基礎的な知識を念頭におく。 【復習】場の共有としての統合教育とインクルーシブ教育の理念の違いを理解して整理しておく。	60
第10回	特別支援学校における教育 特別支援学校の制度、教育課程、教育内容、教育の特色等についてテキストを基に解説する。また、特色のある実践教育を展開している学校の例を紹介する。	
	【予習】テキスト第Ⅱ章p47－60を読み、特別支援学校における教育の概略を把握しておく。 【復習】授業で解説した内容を振り返り、参考図書等を参考に特別支援学校における取組みの実例について把握する。	60
第11回	肢体不自由がある子どもの理解と教育 肢体不自由がある子どもの教育とその特色について理解し事例を踏まえながら介護等体験における関わり方や指導の在り方について考える。	
	【予習】テキスト第Ⅲ章p88－101を読んでおく。 【復習】授業で解説した内容を振り返り、環境調整としてのバリアフリーやユニバーサルデザインについて考察する。	60
第12回	視覚や聴覚に障害がある子どもの理解と教育 視覚や聴覚に障害がある子どもの教育とその特色について理解し、事例を踏まえながら介護等体験における関わり方や指導の在り方について考える。	
	【予習】テキスト第Ⅲ章p61－77を読んでおく。 【復習】授業で解説した内容を振り返り、どのようなサポートが求められているか整理する。	60
第13回	知的発達に遅れのある子どもの理解と教育 知的発達に遅れのある子どもの教育とその特色について理解し、事例を踏まえながら介護等体験における関わり方や指導の在り方について考える。	
	【予習】テキスト第Ⅲ章p80－85を読んでおく。 【復習】知的能力や知能指数の意味を復習するとともに、知的障害の診断基準の変化についても十分理解を深めておく。	60
第14回	発達障害がある子どもの教育と教育 自閉症等の発達障害がある子どもの教育とその特色について理解し、事例を踏まえながら介護等体験における関わり方や指導の在り方について考える。	
	【予習】テキスト第Ⅲ章p22を読んでおく。 【復習】配布資料をもとに授業で解説した内容を振り返り発達の偏りによる困難さを理解する。また、ASDのスペクトラムの概念を理解し一見異なる状態像を示すASDについての理解を深める。	60
第15回	到達度確認テスト	

	(試験準備) これまでの学習内容を復習し、試験に備える	120
授業の方法		
(第1回～7回) 講義の実施、およびグループディスカッションを取り入れる (第8回～第14回) 講義形式を基本とするが、ディスカッションやリアクションペーパーなどで双方向のコミュニケーションを図りながら授業を展開する。テキストは必須とし、必要に応じて資料を配布する。		
成績評価の方法		
(第1回～7回) 学期末の筆記試験による理解度と平常点（グループディスカッション、グループ発表への主体的参加状況）を含め、総合的に評価する (第8回～第14回) 学期末の筆記試験65% 平常点（毎回のリアクションペーパーや課題への参加度）35%		
成績評価の基準		
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
(第1回～7回) 「福祉社会に生きる」、「老人福祉論」、「地域福祉論」、「社会福祉事業史」、「社会福祉概論」 (第8回～第14回) 特になし		
テキスト		
(第1回～7回) なし。授業資料を適宜配布する (第8回～第14回) ・全国特別支援学校長会編著（2014） 特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア（インクルーシブ教育システム版） ギアーズ教育新社 ・全国特別支援学校長会編著（2014） フィリアⅡ介護等体験 ルールとマナー ギアーズ教育新社		
参考書		
(第1回～第7回) 大久保洋子『なぜするどうする高齢者体操——スウェーデンに学ぶ高齢者の自立促進』ADL対応型高齢者体操研究会 他、授業内で適宜紹介する。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
授業終了後に教室で受け付ける。		

科目名	共生社会実践研究 b		
教員名	小林 玄、松崎 実穂		
科目ナンバー	1191432002	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
（第1回～7回） 特別支援学校での介護等体験を通し、障害のある幼児児童生徒の教育について理解を深める。また、障害の有無にかかわらず全ての子どもたちが相互に人格と個性を尊重し合い共に学び合うインクルーシブ教育の理念に基づいて、教育の在り方を考え、教員としての資質能力の基礎・基本を身につける。 （第8回～第14回） 共生社会における公助・共助・自助とそこにおける住民の役割、高齢者のからだやこころの特性と介護予防や支援策、また家族介護の問題について学習し、理解を深める。			
到達目標			
（第1回～7回）以下を身につけることを到達目標とする。 ・世界における障害観の変遷を理解し、共生社会において教育に携わる者として自らの障害観をもつ ・特別支援教育の理念、制度、今後の展望を理解し、インクルーシブ教育の在り方について自分なりの教育観をもつ ・特別支援教育における子どもの実態把握から指導計画までのプロセスを理解し、教育活動に反映することができる ・特別支援学校における教育をテキストや実例をとおして理解し、介護等体験への見通しをもつ （第8回～14回） ・「介護等の体験」で実際に接する武蔵野市民の高齢者を念頭に置き、ひとの老化に関わる事象の理解を深める ・高齢者が自立し介護予防となる事業が国及び自治体、地域住民、高齢者とその家族等の連携によって可能になることを理解する ・共生社会の地域福祉を担う一員となる意識、ひとの老化を意識した適切な対応やコミュニケーションを発揮できる素養を養う ・ケアラー（家族介護者）支援についての学習を通して、現代の家族介護の状況への理解を深め、教育活動に反映することができる			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス 授業内容と進め方・予習・復習の仕方、試験・出席等を含む評価の方法などを説明する。 障害とは 世界保健機関（WHO）による障害のとらえ方の変化を国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）への変遷に言及しながら解説する。また各自の障害観をグループディスカッションをとおして共有する。		
	【予習】テキスト第Ⅰ章p23、32－35を読んでおく。また障害の概念について自分なりの考えをまとめておく。 【復習】グループディスカッションを振り返る。ICIDH、ICFの障害のとらえ方を理解する。	60分	
第2回	特別支援教育とインクルーシブ教育 特殊教育から特別支援教育への流れとインクルーシブ教育の理念を解説し、具体的事例をとおして現状の把握と今後の課題について考察する。		
	【予習】テキスト第Ⅰ章p24－31を読み、特別支援教育システムの基礎的な知識を念頭におく。 【復習】場の共有としての統合教育とインクルーシブ教育の理念の違いを理解して整理しておく。	60分	
第3回	特別支援学校における教育 特別支援学校の制度、教育課程、教育内容、教育の特色等についてテキストを基に解説する。また、特色のある実践教育を展開している学校の例を紹介する。		
	【予習】テキスト第Ⅱ章p47－60を読み、特別支援学校における教育の概略を把握しておく。 【復習】授業で解説した内容を振り返り、参考図書等を参考に特別支援学校における取組みの実例について把握する。	60分	

第4回	肢体不自由がある子どもの理解と教育 肢体不自由がある子どもの教育とその特色について理解し事例を踏まえながら介護等体験における関わり方や指導の在り方について考える。	
	【予習】テキスト第Ⅲ章p88－101を読んでおく。 【復習】授業で解説した内容を振り返り、環境調整としてのバリアフリーやユニバーサルデザインについて考察する。	60分
第5回	視覚や聴覚に障害がある子どもの理解と教育 視覚や聴覚に障害がある子どもの教育とその特色について理解し、事例を踏まえながら介護等体験における関わり方や指導の在り方について考える。	
	【予習】テキスト第Ⅲ章p61－77を読んでおく。 【復習】授業で解説した内容を振り返り、どのようなサポートが求められているか整理する。	60分
第6回	知的発達に遅れのある子どもの理解と教育 知的発達に遅れのある子どもの教育とその特色について理解し、事例を踏まえながら介護等体験における関わり方や指導の在り方について考える。	
	【予習】テキスト第Ⅲ章p80－85を読んでおく。 【復習】知的能力や知能指数の意味を復習するとともに、知的障害の診断基準の変化についても十分理解を深めておく。	60分
第7回	発達障害がある子どもの教育と教育 自閉症等の発達障害がある子どもの教育とその特色について理解し、事例を踏まえながら介護等体験における関わり方や指導の在り方について考える。	
	【予習】テキスト第Ⅲ章p22を読んでおく。 【復習】配布資料をもとに授業で解説した内容を振り返り発達の偏りによる困難さを理解する。また、ASDのスペクトラムの概念を理解し一見異なる状態像を示すASDについての理解を深める。	60分
第8回	ガイダンス 授業内容と進め方・予習・復習の仕方、試験・出席等を含む評価の方法などを説明する 高齢者の生きがいと健康づくり推進事業と武蔵野市における「地域健康クラブ」	
	復習：配布資料を読み、地域健康クラブの開設と現状までを把握する	30分
第9回	高齢期のからだところを理解する(1) 運動器官機能・呼吸循環器官機能の老化や障害とADLの回復・維持 心の老化とQOL（生活の質）の維持	
	予習：配布資料を熟読する 復習：からだの老化を理解し、ADLとは何か、どのような動作が該当するかを知る。こころの老化を理解し、QOLの回復・維持のために何が必要かを考える	60分

第10回	高齢期のからだところを理解する(2) 脳の機能とその老化・障害への対応	
	予習：配付資料を熟読する 復習：脳の構造を理解し、特に脳神経細胞の機能を確認する。高齢期に分泌が減少しやすい神経伝達物質について理解し、日常的に分泌を低下させない予防法を考える	60分
第11回	日本の高齢者福祉の歴史と制度(1) 日本の人口高齢化と高齢者福祉 介護保険制度の概要	
	予習：介護保険制度に関する配付資料を熟読する 復習：介護保険制度の基本的構造を理解する	60分
第12回	日本の高齢者福祉の歴史と制度(2) 介護保険制度開始後の高齢者福祉	
	予習：配布資料を熟読する 復習：介護保険制度の変遷と現状を理解する	60分
第13回	武蔵野市における「地域健康クラブ」の活動と身体的・精神的・社会的効果	
	予習：配布資料を読み、地域健康クラブの歴史と概要を把握する 復習：地域健康クラブの活動とその効果調査結果から導かれた提言を読み、武蔵野市における取り組みの特徴を把握する。地域を基盤とした共生社会の形成に向けて、武蔵野市の取り組みとその効果から示唆されることを考える	60分
第14回	ケアラー（家族介護者）支援と学校教育 家族をケアする子ども・若者の現状と支援への取り組み	
	予習：配布資料を熟読する。 復習：日本における家族介護者、家族をケアする子ども・若者の現状を確認し、学校教育との関わりについて考える	60分
第15回	到達度確認テスト	
	(試験準備) これまでの学習内容を復習し、試験に備える	120分

授業の方法 (第1回～7回) 講義形式を基本とするが、ディスカッションやリアクションペーパーなどで双方向のコミュニケーションを図りながら授業を展開する。テキストは必須とし、必要に応じて資料を配布する。 (第8回～14回) 講義の実施、およびグループディスカッションを取り入れる
成績評価の方法 (第1回～7回) 学期末の筆記試験65% 平常点(毎回のリアクションペーパーや課題への参加度)35% (第8回～14回) 学期末の筆記試験による理解度と平常点(グループディスカッション、グループ発表への主体的参加状況)を含め、総合的に評価する
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 (第1回～7回) 特になし (第8回～14回) 「福祉社会に生きる」、「老人福祉論」、「地域福祉論」、「社会福祉事業史」、「社会福祉概論」
テキスト (第1回～7回) ・全国特別支援学校長会編著(2014) 特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア(インクルーシブ教育システム版) ジアーズ教育新社 ・全国特別支援学校長会編著(2014) フィリアⅡ介護等体験 ルールとマナー ジアーズ教育新社 (第8回～14回) なし。授業資料を適宜配布する
参考書 (第8回～14回) 大久保洋子『なぜするどうする高齢者体操——スウェーデンに学ぶ高齢者の自立促進』ADL対応型高齢者体操研究会 他、授業内で適宜紹介する。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) 授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	学校経営と学校図書館		
教員名	伊藤 二郎		
科目ナンバー	1191431001	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
テーマ:情報社会において図書館が果たすべき機能、殊に社会教育及び学校教育という枠組みの中で、如何にして人の知的探求心に応じてゆくかを、多様な観点から考察する。			
概要:まず、図書館の起源より現在までの、社会的機能・位置付けの時系列的変遷と地理的相違を学習し、歴史的・地理的な必然性を理解する。次に、現在図書館が置かれている状況-教育・文化・技術-を知り、それが内包するあるいはその外延的な矛盾点・問題点を理解する。その上で、人類の知的所産としての著作物及び文化施設としての図書館を、どのように未来へ継承すべきか考察する。			
到達目標			
図書館史・資料文化・図書館運営・教育的機能を理解するための基礎知識と、応用力を身につけること。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション:授業の目的・方法・形式等		
	図書館学に関する本を一冊読み、関心あるテーマを発見しておく。		60分
第2回	図書館史Ⅰ:古代 図書館の成立		
	図書館史(西洋)の本を一冊読む。		60分
第3回	図書館史Ⅱ:中世～近世 図書館の衰退と再生		
	図書館史(日本)の本を一冊読む。		60分

第4回	図書館史Ⅲ：近代～現代 図書館の発展と変化	
	西洋を日本の図書館の発展の相違について考察し、まとめておく。	60分
第5回	書誌ユーティリティと図書館ネットワーク	
	図書館ネットワークの本を一冊読む。	60分
第6回	図書館の周辺：書店・出版等と図書館の関わり	
	日本の出版業の現状についてリサーチしておく。	60分
第7回	電子図書館の功罪	
	図書館の電子化について自分の見解をまとめる。	60分
第8回	著作権と図書館	
	図書館における著作権法の例外規定についてまとめておく。	60分
第9回	学校図書館運営の実際～経営計画から図書館評価まで	
	学校図書館運営に関する本を一冊読む。	60分

第10回	学校図書館における技術的活動	
	司書教諭の立場で学校図書館の年間運営計画を立てる。	60分
第11回	図書館資料の選択～書誌・目録を中心として	
	配布プリントにある図書館学の専門用語を復習しておく。	60分
第12回	学校図書館における教育活動～学習スキルとしての図書館利用	
	配布プリントにある基本文献（書誌、目録）を完全に覚えておく。	60分
第13回	読書指導と利用指導	
	学習進度、行事、作家等独自の観点で読書指導計画を作成する。	60分
第14回	図書分類～分類一般論から図書分類へ	
	NDC網目表0類～4類までを覚えておく。	60分
第15回	総括	
	前期の授業を体系的にまとめておく。	60分

授業の方法

講義を基本とし1～2回のグループ討議を行う。また3回程度、ビデオ教材を用いる。

成績評価の方法

復習テストの結果(60%)、質問・自発的なレポート提出等授業への積極的参加(40%)。出席は当然の必要条件。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

図書館・出版・電子化・著作権等のキーワードには、日常的に関心を向けていることが望ましい。

テキスト

特に指定はしないが、ほぼ毎時間、授業内容に関連する図書を回覧し、希望者には貸し出す。

参考書

第1回目に資料リストを配布する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	学校図書館メディアの構成		
教員名	斎藤 憲一郎		
科目ナンバー	1191431002	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
学校図書館で収集、受入している資料（学校図書館メディア）について、資料の選択、収集、組織化（目録作成、件名付与、分類記号付与）、蔵書構築・評価等を取り上げ、講義プラス演習で理解を図って行きます。 情報メディア（資料）の収集では、すべての資料を集めることは出来ませんので選択が必要になります。資料の評価や資料収集方針について学んで行きます。 情報メディア（資料）の組織化では、図書館で収集した資料を利用者がスムーズに利用できるように、どのように資料を書架上に並べ、そして、取り出しているのか、そのためのしくみはどのようになっているのか、どのような道具（規則）が使われ、全国どこにいても情報メディア（資料）を同じ分類記号で書架上で利用出来るのか、どのように標準化が図られているのか等を実際に演習しながら理解を図って行きます。 情報メディア（資料）の集積としての蔵書では、その構築プロセスや評価法について学んで行きます。			
到達目標			
1. 多様な種類の学校図書館メディア（資料）の理解とその書誌情報、引用文献のかたちを読む（識別）できる 2. 読者（図書館）に本が届くまでの出版流通経路・取引慣行について説明できる 3. 資料の組織化（整理、仕舞い方、取り出し方）について説明できる 4. 『昭和史』の分類記号はなぜ210.7で、件名標目はなぜ日本-歴史-昭和時代なのか説明できる 5. 資料組織化で使用する『日本目録規則』、『日本十進分類法』、『基本件名標目表』とはどのような規則か説明できる 6. 資料収集方針とは何か説明できる 7. 学校図書館の蔵書について説明できる			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・ 授業内容の説明 ・ 期末レポートの説明 ・ 到達度確認テスト（授業内期末試験）の説明 ・ 図書館業務と学校図書館メディアの構成		
	・ シラバスに目をとおり、授業内容の概略をつかむ ・ テキストを確認する ・ 資料組織化で使用する3つの規則をどこから用意できるかを確認する		60分
第2回	出版流通：出版流通ルートと取引慣行		
	次のことばを事前にチェック ・ 再販制度		60分
第3回	資料の選択と資料収集方針		
	テキスト第III章を参照		60分

第4回	資料の選択、収集のための情報源、収集業務と受け入れ	
	テキスト第III章を参照	60分
第5回	蔵書構築	
	テキスト第III章を参照	60分
第6回	蔵書評価法	
	テキスト第III章を参照	60分
第7回	資料組織化：『日本目録規則』1987年改訂3版と資料の記述： 図書	
	テキスト第VII章参照 日本目録規則1987年版改訂3版を持参	60分
第8回	資料組織化：『日本目録規則』1987年改定3版と資料の記述： 雑誌	
	テキスト第VII章参照 日本目録規則1987年版改訂3版を持参	60分
第9回	資料組織化：『基本件名標目表』第4版とことばによる主題検索： 件名標目（1）	
	テキスト第VI章参照 基本件名標目表第4版を持参	60分

第10回	資料組織化：『基本件名標目表』第4版とことばによる主題検索： 件名標目（2）	
	テキスト第Ⅵ章参照 基本件名標目表第4版を持参	60分
第11回	資料組織化：『日本十進分類法』新訂9版、新訂10版と分類記号による主題検索： 分類記号（1）	
	テキスト第Ⅴ章参照 日本十進分類法新訂9版を持参	60分
第12回	資料組織化：『日本十進分類法』新訂9版、新訂10版と分類記号による主題検索： 分類記号（2）	
	テキスト第Ⅴ章参照 日本十進分類法新訂9版を持参	60分
第13回	資料組織化の新しい動き	
	学校図書館メディア（図書館資料）の仕舞い方、取り出し方に興味をもって注意を払う、関心をいただく	60分
第14回	情報ファイル資料	
	既存の資料では利用出来ない（収録対象になっていない）資料、公の行事で発生した資料（文化祭、運動会の写真、プログラム、ポスター）等を学校図書館ではどのように利用、提供しているか、への関心	60分
第15回	到達度確認テスト	
	第1回から第14回の授業内容の確認	60分

授業の方法

講義プラス演習

<演習>

資料の組織化のところでは、実際に『日本目録規則』（NCR）1987年版改訂3版、『基本件名標目表』（BSH）第4版、『日本十進分類法』（NDC）新訂9版、或は、新訂10版を使用しながら、目録作成、件名標目付与、分類記号付与の演習を行います。

成績評価の方法

出席前提＋授業への参加度、期末レポート、到達度確認テスト（授業内試験）によって総合的に評価します。

評価項目の評価割合は3分の1ずつですが、平常点＝33％プラス期末レポート33％＝試験未受験の66％で合格という意味ではありません。期末レポートを作成・提出し60％以上の評価を得、授業内試験も受けて60％以上の評価を得て合格という意味です。期末レポートと授業内試験は相互に補い合う形になっています。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

Living with Library、図書館とともに生活がある、或いは、生活の中に図書館が入っているとこの科目の履修を容易にします。

具体的には、図書館で資料を探索する際にOPAC（コンピュータ閲覧目録）を利用したり、その際に、画面ではどのような情報が提供されているか、或は、図書館では本の並べ方・取り出し方をどのようにしているか、そして、本を注文してから読者に本が届くまでのしくみはどのようなになっているのか等を意識して利用する等々です。

テキスト

全国学校図書館協議会「新学校図書館学」編集委員会編

『学校図書館メディアの構成』全国学校図書館協議会、2000
（新学校図書館学；2）

参考書

1. 上田修一・倉田敬子著『情報の発生と伝達』勁草書房、1992
2. 三浦逸雄著『コレクションの形成と管理』雄山閣、1993
3. 緑川信之著『本を分類する』勁草書房、1996
4. 『日本目録規則』1987年版改訂3版 日本図書館協会、2001
5. 『基本件名標目表』第4版 日本図書館協会、1999
6. 『日本十進分類法』新訂9版 日本図書館協会、1995
7. 『日本十進分類法』新訂10版 日本図書館協会、2014

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	学習指導と学校図書館		
教員名	伊藤 二郎		
科目ナンバー	1191431003	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テーマ:学校図書館を運営するうえで必要な技能を修得し、学習支援・自学能力を育成するための効果的かつ効率的な図書館利用指導への応用を、実践的に身につける。			
概要:第1段階-図書分類・図書目録の原理を理解し多様な資料への応用を実践する。 第2段階-受講生自身が授業計画を立て、その為に必要な資料の体系的な選書を行うことで図書分類・図書目録の効果的利用の指導方法を考える。 第3段階-資料の所蔵・所在調査、内容調査、書誌事項調査、事実事項調査等、凡そ考えられる範囲での多様な参考			
調査を行う。それによって、図書館における資料の使い分け、資料・情報の効果的収集方法と提示方法等、学習期に習得すべき情報スキルの指導方法を実践的に考察する。			
到達目標			
目的に応じて、図書館の機能と資料を十分に使いこなせるようになること。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	図書分類～NDCの運用		
	NDC網目表5類～9類までを覚えておく。		60分
第2回	図書分類演習Ⅰ：分類記号の構造理解		
	『NDC日本十進分類法』を通読しておく。		60分
第3回	図書分類演習Ⅱ：形式細目と0記号の使い方		
	前回演習の添削を参考に自主的な補足演習を行う。		60分

第4回	図書分類演習Ⅲ：図書分類の実際	
	前回演習の添削を参考に自主的な補足演習を行う。	60分
第5回	図書目録～NCRの理解と運用	
	前回演習の添削を参考に自主的な補足演習を行う。	60分
第6回	図書目録演習Ⅰ：目録データの理解と区分	
	『NCR日本目録規則』を通読しておく。	60分
第7回	図書目録演習Ⅱ：カード目録作成法	
	前回演習の添削を参考に自主的な補足演習を行う。	60分
第8回	図書目録演習Ⅲ：OPAC及び書誌・目録の利用	
	前回演習の添削を参考に自主的な補足演習を行う。	60分
第9回	参考調査～知を辿る	
	前回演習の添削を参考に自主的な補足演習を行う。	60分

第10回	参考調査演習Ⅰ	
	任意の科目・単元を設定し調べ学習の計画を立てる。	60分
第11回	参考調査演習Ⅱ	
	前回演習の添削を参考に自主的な補足演習を行う。	60分
第12回	参考調査演習Ⅲ	
	前回演習の添削を参考に自主的な補足演習を行う。	60分
第13回	参考調査演習Ⅳ	
	前回演習の添削を参考に自主的な補足演習を行う。	60分
第14回	参考調査演習Ⅴ	
	前回演習の添削を参考に自主的な補足演習を行う。	60分
第15回	総括	
	一年間の授業を統括し最初の発見したテーマをどの程度深く追求できたか考察する。	60分

授業の方法

第1、5、9回は講義、それ以外は図書館で演習を行う。

成績評価の方法

演習課題の結果(60%)、グループ演習における積極性・協調性・責任感(40%)。出席は当然の必要条件。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

前期「学校経営と学校図書館」を修得していることが望ましい。

テキスト

『NDC日本十進分類法』『NCR日本目録規則』（成蹊大学図書館）

参考書

前期「学校経営と学校図書館」で配布する資料リストに含む

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	読書と豊かな人間性		
教員名	杉山 明信		
科目ナンバー	1191431004	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
文章を「読む」ということは、どのような行為なのか。「読む」という行為の楽しみは、どのように読者にもたらされるのか。読書の原点である「読む」ことの内実について学び、文章を読み解く楽しみの再発見を目指す。また、読書周辺の楽しみ方として、文学散歩について学ぶ。実際に文学散歩を体験すると共に、任意の作品を選んで文学散歩の企画立案を行う。さらに、メディア・リテラシーについて学び、情報を批判的に取捨選択していく力を育てる指導について考える。			
到達目標			
1. 文学作品読解の手がかりを知る。 2. 文学作品をより精緻に読解する力をつける。 3. 文学作品読解の面白さを知る。 4. 文学散歩の企画立案が出来るようになる。 5. 読解以外の文学作品の楽しみ方を知る。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	1. 文章のジャンルと「読み」の方向性		
	講義内容の再確認	60	
第2回	2. 「読む」ことの追究（韻文）（１）		
	教材作品読解	60	
第3回	3. 「読む」ことの追究（韻文）（２）		
	教材作品読解	60	

第4回	4. 「読む」ことの追究（韻文）（3）	
	教材作品読解（提出課題あり）	60
第5回	5. 文学散歩の実施、体験	
	配布資料の再読復習	60
第6回	6. 文学散歩についての講義	
	配布資料の再読復習 文学散歩計画の構想	60
第7回	7. 「読む」ことの追究（散文）（1）	
	教材作品読解	60
第8回	8. 「読む」ことの追究（散文）（2）	
	教材作品読解	60
第9回	9. 「読む」ことの追究（散文）（3）	
	教材作品読解	60

第10回	10. 「読む」ことの追究（散文）（4）	
	教材作品読解	60
第11回	11. 文学散歩の企画立案（1）	
	文学散歩計画の構想	60～120
第12回	12. 文学散歩の企画立案（2）	
	文学散歩計画の構想・作成	60～120
第13回	13. 文学散歩企画案発表（1）	
	文学散歩計画書作成 文学散歩計画書印刷	60
第14回	14. 文学散歩企画案発表（2）	
	他の受講生の文学散歩計画書を読む	60
第15回	15. 総括	
	他の受講生の文学散歩計画書を読む	60

授業の方法

講義と共に、小グループを用いての討論や、文学散歩の体験実習、計画立案作業などを行ないつつ授業をすすめる。

成績評価の方法

授業中の学習活動への取り組みの様子によって評価する。小レポートなども評価の対象とする。
出席は必要条件。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし

テキスト

特に定めない。必要な資料は、授業中適宜配布する。

参考書

『東京「探見」』堀越正光、宝島社 1, 524円

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	情報メディアの活用		
教員名	斎藤 憲一郎		
科目ナンバー	1191431005	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
学校図書館で選択・収集、受入、整理、蓄積、そして利用に供している多様な種類の情報メディア（図書館資料）の特性を解説プラス実際にこれらの図書館資料の検索を通して学んでいきます。 情報メディア（図書館資料）を対象にしている『日本目録規則』1987年版改訂3版が2018年には新しい形になる（シラバス作成時点では予定）時代では、これらの情報メディア（図書館資料）の変化と共にその利用の在り方も変化を受けて来ています。特に、速報性のある情報メディアの新聞や雑誌の利用の形が現在進行形のかたちで変化が起きています。また、視聴覚資料についても、LPレコードやカセットテープが若い世代に新鮮なものとして見直されたり、映画がネット配信されたりもしてきています。図書館はこうした情報メディア（図書館資料）を利用に供しています。変化の動向をチェックをしながら、また意見交換も取り入れながら情報メディア（図書館資料）の特徴を考えていきます。			
到達目標			
1. 多様な種類の情報メディア（図書館資料）の特徴を理解し、なぜ図書だけでなく雑誌等もあるのか説明できる 2. 多様な種類の情報メディア（図書館資料）の書誌情報の形を説明（識別）できる 3. 個人情報の適正な利用が使用できる 4. 情報メディア（図書館資料）の公正な利用ができる			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・ 授業内容の説明 ・ 期末レポートの説明 ・ 資料と情報の関係 ・ 情報伝達サイクルと情報メディア（資料）の種類		
	シラバスに目を通し、授業内容の概略をつかむ		60分
第2回	図書の資料特性		
	お気に入りの図書と雑誌を手元において、形態の観点から、例えば、分量（頁数）、本の大きさ等と比較し、更に、図書館での配架場所（資料の提供の仕方）の違い等と比較する		60分
第3回	逐次刊行物（雑誌等）の資料特性		
	お気に入りの逐次刊行物（雑誌）を手元にとり、逐次に刊行している状態がどのように表現されているのかチェックし、図書と雑誌の目次を比較する等、2つの資料の相違を学修する		60分

第4回	新聞の資料特性	
	図書や雑誌と違う新聞の紙面構成やニュースの伝え方をチェックし、図書館での配架（資料の提供の仕方）が図書や雑誌の仕方と違う点等を学修する	60分
第5回	新聞の利用の形は？ イマドキの大学生と新聞：プレゼン発表準備	
	・新しい出来事をどの情報メディアを使って入手しているか、インターネットとSNSの時代に、個人の場合、図書館の場合の利用の形をイメージしておく ・プレゼンテーションの方法を確認	60分
第6回	新聞の利用の形は？ イマドキの大学生と新聞：プレゼン発表	
	・プレゼンテーションの方法・内容を確認する	60分
第7回	視聴覚資料の資料特性	
	お気に入りの音楽、お気に入りの映画等の利用の仕方をイメージしながら、図書館での音声資料や映像資料の提供・利用の仕方と比較する	60分
第8回	電子出版物の資料特性	
	いつも使う図書館では電子書籍をどのように提供しているか調べる すでに電子書籍を利用している場合、 利用の仕方を比較する	60分
第9回	情報検索とは、書誌データベース発展の経緯、 情報の加工、自然語と統制語	
	・図書館が提供するデータベースにはどのような種類のデータベースがあるか、どのように利用するか調べ、実際に利用する機会をつくる	60分

第10回	インターネットとは、ホームページ検索	
	ホームページにアクセスして必要な情報を入手するとき、どのようにして必要な情報源にたどり着いているか、入力するときに使った検索語・文章を確認する	60分
第11回	インターネット上OPACを使った図書、雑誌検索	
	図書館の閲覧目録（OPAC）を利用し、OPACの画面には、自分の必要とする情報がどのように表示されているか、画面のどこに表示されているか、改めてじっくり眺め、確認する	60分
第12回	インターネット上の雑誌記事索引データベースを使った雑誌記事論文の検索	
	特定のテーマの文献を探したいときに参考文献からではなく、国立国会図書館が提供しているインターネット上のデータベース等を使って検索する機会をつくる	60分
第13回	学校図書館と個人情報、プライバシー	
	個人情報の適正な利用の確認	60分
第14回	学校図書館と著作権	
	情報メディア（資料）の公正な利用の確認	60分
第15回	到達度確認テスト	
	第1回から第14回までのおさらい	60分

授業の方法

1. 講義形式
2. 情報検索
3. 意見交換

成績評価の方法

出席前提＋授業への参加度、期末レポート、到達度確認テスト（授業内試験）によって総合的に評価します。
評価項目の評価割合は3分の1ずつですが、平常点33％プラス期末レポート33％＝試験未受験の66％で合格という意味ではありません。
期末レポートを作成・提出し60％以上の評価を得、授業内試験も受けて60％以上の評価を得て合格という意味です。期末レポートと授業内試験は相互に補い合う形になっています。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

Living with Library、図書館とともに大学生活がある、或いは、生活の中に図書館が入っている大学生活のなかで、情報メディア（図書館資料）の提供の仕方、利用の方法へ常に関心を持つことを心がける

テキスト

プリントを配布します。

参考書

1. 全国学校図書館協議会 『情報メディアの活用』同協議会、2002 （新学校図書館学5）
2. 全国学校図書館協議会 『情報メディアの活用』同協議会、2010 （シリーズ学校図書館学第5巻）
3. 渡部満彦[ほか] 著 『情報メディアの活用』 放送大学教育振興会、2000
4. 上田修一、倉田敬子 著 『情報の発生と伝達』 勁草書房、1992
5. 『国立国会図書館月報』（雑誌）
6. 日本図書館協会編 『学校図書館の著作権問題Q&A』 同協会、2006
7. 日本図書館協会編 『図書館活動と著作権Q&A』 同協会、2000

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	日本語教授論Ⅰ		
教員名	佐久間 勝彦		
科目ナンバー	1251481001	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
主として外国人が日本語を勉強する、そのお手伝いをするのが日本語教育です。教える内容は日本語ですが、教える相手が外国人だということを考えるだけでも、日本語教育が日本国内の英語教育や国語教育と異なる点が理解できるでしょう。 日本語教育では、(1) 外国人の立場や置かれている状況について考え、(2) 半ば無意識に習得した日本語を意識的に捉えなおし、(3) 外国語として日本語を教える知識や技術を身につけることが不可欠です。 「日本語教授論」では、上の(1)(2)(3)のそれぞれの基礎的事項について理解を深めていきますが、可能な範囲で、第二外国語学習の意味、国際交流、南北問題、国際協力、共生、開発教育などについて考えます。「日本語教授論Ⅰ」では、日本語教育という専門分野がどのようなものか、その背景や現状について学び、さらに、グローバリゼーション、南北問題、国際協力などについても考えます。			
到達目標			
(1) 日本語を学ぶ外国人の立場や境遇について理解を深める。 (2) 外国人にとって日本語の何がどのように難しいのかについて理解を深める。 (3) 日本語教育の内容や方法の基礎的事項について理解を深める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス a. 日本語について b. 日本語教育について c. 日本語教育よりも大切なことについて		
	【予習】・町の図書館などで、C. ダグラス・ラミス『世界がもし100人の村だったら』を読み、あなたが考える日本語教育にどんな関係があるか、について100字程度にまとめる。		90
第2回	a. 日本語について① ・音声		
	【予習】・教科書の第15章を読む。		90
第3回	b. 日本語教育について① ・日本語教育、国語教育、英語教育		
	【予習】・教科書の第3章、4章を読む。		90

第4回	c. 日本語教育よりも大切かもしれないことについて① ・ 日本語教育、異文化理解教育、国際理解教育、開発教育	
	【予習】・教科書の第9章を読む。 ・ 町の図書館などを利用し、今は絶版の松井やより『市民と援助』（岩波新書）を読む。	180
第5回	a. 日本語について② ・ 文法	
	【予習】・教科書の第14章と第17章を読む。	90
第6回	b. 日本語教育について② ・ 外国語教授法の変遷	
	【予習】・教科書の第10章を読む。	120
第7回	c. 日本語教育よりも大切かもしれないことについて② ・ グローバリゼーション	
	【予習】・教科書の第1章を読む。 ・ ポータルサイトで佐久間(2014)を読む。	120
第8回	a. 日本語について③ ・ 文字、語彙、表現	
	・ 今学期前半の授業で学んだことを確認する15分程度の小テスト 【予習】・教科書の第16章と第19章を読む。	90
第9回	b. 日本語教育について③ ・ 国内の日本語教育	
	【予習】・教科書の第2章を読む。 ・ ポータルサイトで二通(2006)を読む。	120

第10回	c. 日本語教育よりも大切かもしれないことについて③ ・ 南北問題	
	【予習】・教科書の第1章を再読する。 ・ 浜田廣介「泣いた赤鬼」、あまんきみこ「おにたのぼうし」、宮沢賢治「よだかの星」、新美南吉「手袋を買いに」、新美南吉「ごん狐」を読む。	180
第11回	a. 日本語について④ ・ コミュニケーション	
	【予習】・教科書の第12章と18章を読む。	90
第12回	b. 日本語教育について④ ・ 海外の日本語教育	
	【予習】・配布資料を読む。 ・ ポータルサイトで佐久間(2006)を読む。	120
第13回	c. 日本語教育よりも大切かもしれないことについて④ ・ 国際協力としての日本語教育	
	【予習】・配布資料もしくはポータルサイトに載せる資料を読む。	90
第14回	補足・整理	
	【予習】・配布資料もしくはポータルサイトに載せる資料を読む。	120
第15回	今学期の授業で学んだことを確認するテスト	
	【課題】・学んだことを整理してまとめ、とくにに関心のあるトピックについて自分の捉え方（立場・姿勢）を書いておく。	120

授業の方法

- ・グループディスカッションを多く行い、次の3つのテーマを3週間周期でスパイラル(らせん)的に扱っていく。
 - a. 日本語について
 - b. 日本語教育について
 - c. 日本語教育よりも大切なかもしれないことについて
- ・個人的な内容以外の質疑応答や意見交換などは、ポータルサイトを利用し、履修者全員が共有できるようにしたい。
- ・課題や資料の提示などは事前にポータルサイトに載せるので、授業はポータルサイトを見ていることを前提に進める。
- ・授業は15回すべてに出席することを想定して進める。

成績評価の方法

- ・授業での小テスト(20%)、学期末試験(30%)、出席状況(20%)、提出物(30%)に基づき総合的に評価する。

成績評価の基準

- ・成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。
Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
- ・成績評価の基準は、以下のように、「到達目標」に対応する。
 - (1) 日本語を学ぶ外国人の立場や境遇について理解できているか。
 - (2) 外国人にとって日本語の何がどのように難しいのかについて理解できているか。
 - (3) 日本語教育の内容や方法の基礎的事項について理解できているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

- ・必要な予備知識はとくにないが、毎回の授業のために読んだり調べたりする課題の量の多いことは覚悟していただきたい。
- ・将来外国人に日本語を教えてみたいと思う人はもちろん、外国語の勉強が好きな人、外国語の勉強が苦手な人、日本語に興味のある人、国際交流や国際協力に関心のある人などを歓迎する。

テキスト

- ・佐々木泰子編著『ベーシック日本語教育』ひつじ書房 1995円 ISBN978-4-89476-285-5

参考書

- ・必要に応じて、資料を配布したり指示したりポータルサイトに載せたりする。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

- ・授業終了後に教室で受けつけるほか、電子mailでも受けつける。

科目名	日本語教授論II		
教員名	佐久間 勝彦		
科目ナンバー	1251481002	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
主として外国人が日本語を勉強する、そのお手伝いをするのが日本語教育です。教える内容は日本語ですが、教える相手が外国人だということを考えるだけでも、日本語教育が日本国内の英語教育や国語教育と異なる点が理解できるでしょう。 日本語教育では、(1) 外国人の立場や置かれている状況について考え、(2) 半ば無意識に習得した日本語を意識的に捉えなおし、(3) 外国語として日本語を教える知識や技術を身につけることが不可欠です。 「日本語教授論」では、上の(1)(2)(3)のそれぞれの基礎的事項について理解を深めていきますが、可能な範囲で、第二外国語学習の意味、国際交流、南北問題、国際協力、共生、開発教育などについて考えます。「日本語教授論Ⅱ」では、日本語教育の活動がどのようなものか、その現実や課題などについて学び、さらに、グローバリゼーション、南北問題、国際協力などについても考えます。			
到達目標			
(1) 日本語を学ぶ外国人の立場や境遇について理解を深める。 (2) 外国人にとって日本語の何がどのように難しいのかについて理解を深める。 (3) 日本語教育の内容や方法の基礎的事項について理解を深める。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス a. 日本語について b. 日本語教育について c. 日本語教育よりも大切なことについて		
	【予習】・町の図書館などで、C. ダグラス・ラミス『世界がもし100人の村だったら』を読み、あなたが考える日本語教育にどんな関係があるか、について100字程度にまとめる。		120
第2回	a. 日本語について① ・音声		
	【予習】・教科書の第15章を読む。		90
第3回	b. 日本語教育について① ・母語習得と外国語学習		
	【予習】・教科書の第7章、第8章を読む。		90

第4回	c. 日本語教育よりも大切なことについて① ・ 言語と社会、言語と国家	
	【予習】・教科書の第1章、第5章、第6章を読む。 ・ 田中克彦『ことばと国家』（岩波新書）を読む。	180
第5回	a. 日本語について② ・ 文法	
	【予習】・教科書の第14章、第17章を読む。	90
第6回	b. 日本語教育について② ・ 日本語教育の過去・現状・今後	
	【予習】・教科書の第2章、3章、第4章を読む。 ・ ポータルサイトで二通(2006)を読む。	90
第7回	c. 日本語教育よりも大切なことについて② ・ 国際理解教育・開発教育	
	【予習】・資料を読む。	90
第8回	a. 日本語について③ ・ 文字・語彙・表現	
	・ 今学期前半の授業で学んだことを確認する15分程度の小テスト 【予習】・教科書の第16章、第19章を読む。	90
第9回	b. 日本語教育について③ ・ 日本語教育の教材・教科書	
	【予習】・教科書の第13章を読む。 ・ ポータルサイトで佐久間(2006)を読む。	90

第10回	c. 日本語教育よりも大切かもしれないことについて③□ ・開発教育としての日本語教育	
	【予習】・教科書の第を読む。 ・ウィーダ『フランダースの犬』、アンデルセン『マッチ売りの少女』、オスカー・ワイルド「幸福の王子」を読む。	180
第11回	a. 日本語について④ ・コミュニケーション	
	【予習】・教科書の第18章を読む。	90
第12回	b. 日本語教育について④ ・日本語教育の実際	
	【予習】・教科書の第4章、二通（2006）、佐久間（2006）を再読する。	90
第13回	c. 日本語教育よりも大切かもしれないことについて④ ・日本人、“国際人”、“グローバル人材”	
	【予習】・ポータルサイトで佐久間（2014）を読む。	120
第14回	補足、整理	
	【予習】・資料を読む。	120
第15回	今学期の授業で学んだことを確認するテスト	
	【課題】・学んだことを整理してまとめ、とくにに関心のあるトピックについて自分の捉え方（立場・姿勢）を書いておく。	120

授業の方法

- ・グループディスカッションを多く行い、次の3つのテーマを3週間周期でスパイラル(らせん)的に扱っていく。
 - a. 日本語について
 - b. 日本語教育について
 - c. 日本語教育よりも大切なかもしれないことについて
- ・個人的な内容以外の質疑応答や意見交換などは、ポータルサイトを利用し、履修者全員が共有できるようにしたい。
- ・課題や資料の提示などは事前にポータルサイトに載せるので、授業はポータルサイトを見ていることを前提に進める。
- ・授業は15回すべてに出席することを想定して進める。

成績評価の方法

- ・授業での小テスト(20%)、学期末試験(30%)、出席状況(20%)、提出物(30%)に基づき総合的に評価する。

成績評価の基準

- ・成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。
Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
- ・成績評価の基準は、以下のように、「到達目標」に対応する。
 - (1) 日本語を学ぶ外国人の立場や境遇について理解できているか。
 - (2) 外国人にとって日本語の何がどのように難しいのかについて理解できているか。
 - (3) 日本語教育の内容や方法の基礎的事項について理解できているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

- ・必要な予備知識はとくにないが、毎回の授業のために読んだり調べたりする課題の量の多いことは覚悟していただきたい。
- ・将来外国人に日本語を教えてみたいと思う人はもちろん、外国語の勉強が好きな人、外国語の勉強が苦手な人、日本語に興味のある人、国際交流や国際協力に関心のある人などを歓迎する。

テキスト

- ・佐々木泰子編著『ベーシック日本語教育』ひつじ書房 1995円 ISBN978-4-89476-285-5

参考書

- ・必要に応じて、資料を配布したり指示したりポータルサイトに載せたりする。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

- ・授業終了後に教室で受けつけるほか、電子mailでも受けつける。

科目名	日本語教材研究Ⅰ		
教員名	小田切 由香子		
科目ナンバー	1251481003	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
初級（しょきゅう）、中級（ちゅうきゅう）、上級（じょうきゅう）のさまざまな教材（きょうざい）を分析（ぶんせき）します。現場（げんば）で使えるか、使えないか、使えない場合（ばあい）はどうすればいいか。この視点（してん）で教材を批判的（ひはんてき）に読みながら、実践的（じっせんてき）な力をつけます。必要に応じて、「日本語教育能力試験」の出題範囲にある重要な用語も学びます。 *このシラバスは決定ではありません。必要に応じて変更することがあります。			
到達目標			
どのような国（くに）、機関（きかん）、状況（じょうきょう）でも教えることができる力。 特（とく）に教材を選（えら）ぶ力と作（つく）る力をつけます。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	1 クラスについて 2 外国人学習者が書いた文を読む		
	授業に関連した資料など講師が指示したものを読んでください		30分
第2回	初級教科書の比較（模擬授業で）		
	初級教科書を読んでください		30分
第3回	初級前半で重要な課の模擬授業1		
	模擬授業で学んだ専門知識を復習してください		60分

第4回	初級前半で重要な課の模擬授業 2	
	復習：模擬授業で学んだこと	60分
第5回	初級前半で重要な課の模擬授業3	
	復習：模擬授業で学んだこと	60分
第6回	模擬授業で学んだことの復習クイズ グループで課題に取り組む「日本語教育と国語教育の違い」	
	講師が指定した資料を読んでください	30分
第7回	グループで課題に取り組む「初級教材を作る」	
	講師が指定した資料を読んでください	30分
第8回	シラバスについて グループで課題に取り組む「会話分析で学ぶ言語機能」	
	講師が指定した資料を読んでください	60分
第9回	中上級、中級教材分析	
	講師が指定した資料を読んでください	30分

第10回	上級教材分析	
	講師が指定した資料を読んでください	30分
第11回	生教材について 教室で使う方法	
	初級、中級、上級レベルがどのようなものか これまでの資料で復習してください	60分
第12回	グループで取り組む課題「生教材を指導で使える教材に作り上げる」	
	これまで授業で使った資料を読み直してください	60分
第13回	グループで前回の課題を完成させる	
	日本語教育関連出版社が作っている図書一覧を 読んで、どのような教材があるか把握してください。	30分
第14回	つまらない授業を体験して、学生の意欲、動機を殺してしまう要素について考え、教材の活かし方について話し合います。	
	これまでの資料をもう一度読んでください	30分
第15回	最終課題「面白い教材をさがして、紹介する」	
	図書館、本屋へ行って面白い日本語教材、あるいは、日本語を教えるのに使えるような物を探してください	90分

授業の方法 講師（こうし）が模擬授業（もぎじゅぎょう）をして、日本語教育の現場（げんば）のイメージを作ってもらいます。 宿題が3回 クラス時間にグループでする宿題（クラス内宿題）があります。 クイズが1回あります。 個人でする課題があります。 グループワークが中心（ちゅうしん）です。 他の学生に迷惑（めいわく）になるので、遅刻（ちこく）、早退（そうたい）はしないでください。 教室では携帯電話のスイッチは切ってください。辞書や調べもの場合は使って構いません。 発達障害（はったつしょうがい）のある学生は、講師（こうし）に相談（そうだん）してください。
成績評価の方法 宿題, 課題など 70% クイズ50% 最終課題：20% 合計 140% *グループで取り組んだ宿題、課題の成績は、メンバー全員同じです。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 特になし。知識（ちしき）ではなく、体力（たいりょく）・情熱（じょうねつ）を準備してください。
テキスト 特になし。こちらでコピーした資料（しりょう）を使います
参考書 特になし。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) 授業終了後に教室で受け付けます。または、電子メールで受け付けます。

科目名	日本語教材研究ⅠⅠ		
教員名	小田切 由香子		
科目ナンバー	1251481004	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

海外、国内で教える場合に持っていきなくてはならないもの。それは「日本語能力試験」に関（かか）わる指導（しどう）の知識（しちき）と技術（ぎじゅつ）です。クラスでは主に能力試験の教材について勉強します。
*このシラバスは暫定的なものです。

到達目標

日本語能力試験N4とN2を受（う）ける外国の方に対応（たいおう）できる力をつける
学習者の日本語能力が読めるようになる

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
第1回	クラスについて Icebreaker1 日本語能力試験分析	
	宿題：日本語能力試験について知るワークシート	60分
第2回	クラスについて icebreaker2 日本語能力試験 聴解問題分析	
	日本語能力試験聴解	30分
第3回	聴解問題を作る	
	日本語能力試験の練習問題を読んでみてください	30分

第4回	みんなが作った問題をやってみる	
	講師が指定した資料を読んでください 他のレベルの聴解問題も読んでください	30分
第5回	聴解問題の形式と対策を考える。	
	対策本を読んでください。	30分
第6回	N4とN2文字・語彙をやってみる	
	文字・語彙問題の意図が正しいか、問題集などを読んでもう一度検討してください	30分
第7回	N4とN2文字・語彙を覚えるゲームを考える	
	これまでの資料をもう一度読んでください	60分
第8回	文字・語彙ゲームをやってみる	
	講師が指定した資料を読んでください	30分
第9回	初級文法と上級文法について N4とN2文法問題を作る	
	文法問題をやってきてください	30分

第10回	文法問題をやってみる	
	講師が指定した資料を読んでください	30分
第11回	読解 N2とN4レベルの「読む・話す」活動を考える	
	N5, N1読解問題をやってください	30分
第12回	活動をやってみる	
	これまでの資料をもう一度読んでください	30分
第13回	日本留学生試験とセンター試験を比べる。 教材研究の論文に触れる。	
	これまでの資料をもう一度読んでください	30分
第14回	コースデザインについて	
	講師が指定した本を読んでください	60分
第15回	最終課題提出（小学1年生の教科書分析）	
	講師が指定した資料を読んでください	60分

授業の方法

宿題、クラス時間にグループで取り組む宿題（クラス内宿題）、簡単なクイズ、課題があります。クイズをする場合は、必ず1週間前にクイズがあることを伝えます。

グループワークが中心です。

ですから、他の学生に迷惑（めいわく）になるので、遅刻（ちこく）、早退（そうたい）はしないでください。

発達障害（はったつしょうがい）のある学生は、講師（こうし）に相談（そうだん）してください。

教室内では携帯電話のスイッチを切ってください。ただし、辞書、調べものに使う場合は例外です。

成績評価の方法

宿題など40%

課題40%

最終課題20%

合計 100%

* グループでした宿題の評価はメンバー全員同じです。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

特になし。知識（ちしき）よりも体力（たいりょく）、情熱（じょうねつ）、クラスメートを尊敬（そんけい）する姿勢（しせい）を準備してください。

テキスト

特になし。

参考書

特になし

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。または、メールで受け付ける。

科目名	日本語教育実習 a		
教員名	小田切 由香子		
科目ナンバー	1151481005	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
日本語教員養成課程で学んできた知識はもちろん、それ以外の授業で得た知識、ここに至るまでの経験、すべてをさまざまな外国の方に日本語を教えること、交流することに生かせる実習です。 *ここに書いたシラバスは決定ではありません。実習生の都合などにより変更することがあります。			
到達目標			
外国人学習者との信頼関係を築く力、コミュニケーション力をつける			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	実習について、担当決め、教材について 実習模範授業第1, 2, 3回分		
	日本語教育初級文法について勉強してきたノートなどを読み返してください		60分
第2回	実習準備：実習模範授業4, 5回分 生教材の指導準備法 1		
	授業の中で指示された項目について自分で勉強してください		60分
第3回	日本語教育実習1 icebreaker, インタビュー, 基本動詞の導入		
	担当学習者の国、言語について調べる		60分

第4回	実習準備（学習者のニーズにあった教材を作るなど）	
	学習者のプロフィールを分析して、教材を考えてきてください。	30分
第5回	日本語教育実習2 クラス指導：基本動詞の導入とグループ分けおよび辞書形からます形を作る方法	
	次回、自分がインタビューする外国人学習者の国、言語などについて予習してください。	60分
第6回	日本語教育実習3 クラス指導：動詞のない形、丁寧形の否定形（～ません）	
	クラス指導担当者は教案・教材作成、早めに来てリハーサルをします。（リハーサル時間のとれない場合は他の日にします）	60分
第7回	日本語教育実習 4 クラス指導：動詞のた形、丁寧形の過去形（～ました）	
	クラス指導担当者は教案・教材作成、早めに来てリハーサルをします。（リハーサル時間のとれない場合は他の日にします）	60分
第8回	日本語教育実習5 動詞の普通形の否定形（～なかった）、丁寧形の否定形（～ませんでした）	
	クラス指導担当者は教案・教材作成、早めに来てリハーサルをします。（リハーサル時間のとれない場合は他の日にします）	60分
第9回	日本語教育実習6 動詞のて形	
	クラス指導担当者は教案・教材作成、早めに来てリハーサルをします。（リハーサル時間のとれない場合は他の日にします）	60分

第10回	日本語教育実習7 クラス指導：形容詞	
	クラス指導担当者は教案・教材作成、早めに来てリハーサルをします。（リハーサル時間のとれない場合は他の日にします）	60分
第11回	日本語教育実習8 クラス指導 活動を使った参加方授業（内容は担当者が決めます）	
	担当者が決めた内容によります。	60分
第12回	日本語教育実習9 クラス指導「あげます・もらいます・くれます」	
	クラス指導担当者は教案・教材作成、早めに来てリハーサルをします。（リハーサル時間のとれない場合は他の日にします）	60分
第13回	日本語教育実習10 総復習とさよなら会	
	クラス担当者が中心となり、実習生全員で準備します。	60分
第14回	実習中の写真やメッセージを使って記念ボードを作ります	
	最終課題をやってきてください	60分
第15回	実習について全員で話しあいます。	
	最終課題提出日でもあるので、最終課題を完成させてください。	60分

授業の方法

実際に外国人学習者に教える10回の授業について：
クラス形式の授業と1対1の授業の二本立てです。
クラス形式ではクラス授業の基本テクニックと初級文法の教え方を勉強します。また、学習者のレベルに差がある場合はレベルに分けて暮らす授業を行います。
1対1では学習者のニーズに合わせた教材を自分でさがし、または作成し使います。

必要な場合は英語で教えることもあります。（英語の指導も講師がしますので心配しないでください）

成績評価の方法

本番実習中の提出物・連絡など 80% （授業の数日前に講師に教案、教材（作った場合）をメールで送りチェックを受けます。授業後は、その日にした1対1の授業の内容を講師とクラスメートのメールで報告します。同時に内省したことも報告します。）

最終課題10%：担当学習者を一人選び、質問紙に答えます。

完成ポートフォリオ（記念ボード）10%：自分たちの実習の雰囲気を示すコラージュを全員で作ります。

合計：100%

※出席は大切です。特に外国人学習者と1対1で、担当実習生が休むと学習者ががっかりしてしまいます。信頼関係も築くことができます。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ A letter grade in the course is compliant with Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

初級文法を復習しておくに役立ちます。しかし何よりも、忍耐力・体力・気力・愛情が第一です。

テキスト

小田切が作成した教科書『動詞練習帳』（実習室にあります。無料です）

参考書

特になし

質問・相談方法等（オフィス・アワー）

授業終了後に教室で受け付けます。あるいは、随時電子メールで受け付けています。

科目名	日本語教育実習 b		
教員名	小田切 由香子		
科目ナンバー	1151481005	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
日本語教員養成課程で学んできた知識はもちろん、それ以外の授業で得た知識、ここに至るまでの経験、すべてをさまざまな外国の方に日本語を教えること、交流することに生かせる実習です。 *ここに書いたシラバスは決定ではありません。実習生の都合などにより変更することがあります。			
到達目標			
外国人学習者との信頼関係を築く力、コミュニケーション力をつける			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	実習について、担当決め、教材について 実習模範授業第1, 2, 3回分		
	日本語教育初級文法について勉強してきたノートなどを読み返してください		60分
第2回	実習準備：実習模範授業4, 5回分 生教材の指導準備法 1		
	授業の中で指示された項目について自分で勉強してください		60分
第3回	日本語教育実習1 icebreaker, インタビュー, 基本動詞の導入		
	担当学習者の国、言語について調べる		60分

第4回	実習準備（学習者のニーズにあった教材を作るなど）	
	学習者のプロフィールを分析して、教材を考えてきてください。	30分
第5回	日本語教育実習2 クラス指導：基本動詞の導入とグループ分けおよび辞書形からます形を作る方法	
	次回、自分がインタビューする外国人学習者の国、言語などについて予習してください。	60分
第6回	日本語教育実習3 クラス指導：動詞のない形、丁寧形の否定形（～ません）	
	クラス指導担当者は教案・教材作成、早めに来てリハーサルをします。（リハーサル時間のとれない場合は他の日にします）	60分
第7回	日本語教育実習 4 クラス指導：動詞のた形、丁寧形の過去形（～ました）	
	クラス指導担当者は教案・教材作成、早めに来てリハーサルをします。（リハーサル時間のとれない場合は他の日にします）	60分
第8回	日本語教育実習5 動詞の普通形の否定形（～なかった）、丁寧形の否定形（～ませんでした）	
	クラス指導担当者は教案・教材作成、早めに来てリハーサルをします。（リハーサル時間のとれない場合は他の日にします）	60分
第9回	日本語教育実習6 動詞のて形	
	クラス指導担当者は教案・教材作成、早めに来てリハーサルをします。（リハーサル時間のとれない場合は他の日にします）	60分

第10回	日本語教育実習7 クラス指導：形容詞	
	クラス指導担当者は教案・教材作成、早めに来てリハーサルをします。（リハーサル時間のとれない場合は他の日にします）	60分
第11回	日本語教育実習8 クラス指導 活動を使った参加方授業（内容は担当者が決めます）	
	担当者が決めた内容によります。	60分
第12回	日本語教育実習9 クラス指導「あげます・もらいます・くれます」	
	クラス指導担当者は教案・教材作成、早めに来てリハーサルをします。（リハーサル時間のとれない場合は他の日にします）	60分
第13回	日本語教育実習10 総復習とさよなら会	
	クラス担当者が中心となり、実習生全員で準備します。	60分
第14回	実習中の写真やメッセージを使って記念ボードを作ります	
	最終課題をやってきてください	60分
第15回	実習について全員で話しあいます。	
	最終課題提出日でもあるので、最終課題を完成させてください。	60分

授業の方法

実際に外国人学習者に教える10回の授業について：
クラス形式の授業と1対1の授業の二本立てです。
クラス形式ではクラス授業の基本テクニックと初級文法の教え方を勉強します。また、学習者のレベルに差がある場合はレベルに分けて暮らす授業を行います。
1対1では学習者のニーズに合わせた教材を自分でさがし、または作成し使います。

必要な場合は英語で教えることもあります。（英語の指導も講師がしますので心配しないでください）

成績評価の方法

本番実習中の提出物・連絡など 80% （授業の数日前に講師に教案、教材（作った場合）をメールで送りチェックを受けます。授業後は、その日にした1対1の授業の内容を講師とクラスメートのメールで報告します。同時に内省したことも報告します。）

最終課題10%：担当学習者を一人選び、質問紙に答えます。

完成ポートフォリオ（記念ボード）10%：自分たちの実習の雰囲気を示すコラージュを全員で作ります。

合計：100%

※出席は大切です。特に外国人学習者と1対1で、担当実習生が休むと学習者ががっかりしてしまいます。信頼関係も築くことができます。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/ A letter grade in the course is compliant with Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

初級文法を復習しておくに役立ちます。しかし何よりも、忍耐力・体力・気力・愛情が第一です。

テキスト

小田切が作成した教科書『動詞練習帳』（実習室にあります。無料です）

参考書

特になし

質問・相談方法等（オフィス・アワー）

授業終了後に教室で受け付けます。あるいは、随時電子メールで受け付けています。

科目名	教職研究 a		
教員名	喜岡 淳治		
科目ナンバー	1291411001	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
テーマ:わが国における今日の学校教育及び教職の社会的意義を理解する。 概要:①教職の意義や教員の役割について概説し、教職への意欲や適性等について受講者が多角的に考察する機会を提供し、進路選択の過程を支援する。 ②教員の職務内容等について、具体的実践的に理解できるように簡単な演習やグループ討議などを行い、受講者が当事者としてのイメージをもてるようにする。			
到達目標			
①公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。 ②進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	第1章 オリエンテーション授業目標、授業内容、その進め方等を理解する。		
	シラバスを確認し、この授業の進め方を把握する。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。		60分
第2回	第2章 教職科目履修の動機と目指す教師像 ・教職全体の意義を理解する。 ・心に残る教師と目指す教師像を描く。		
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。		60分
第3回	第3章 学校教育の意義 ・社会の仕組みとしての学校教育の意義を理解する。 ・現行学校教育制度と関連法規を理解する。		
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。		60分

第4回	第4章 学校教育の現状と課題 ・学校教育の現状を生活指導面から理解する。 ・今後の課題としてどのようなことが挙げられるかを考察する。	
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。	60分
第5回	第5章 教員の身分と服務義務 ・教員の身分や服務義務について理解する。 ・教科書の解説資料を読み、その内容について理解すると共に議論を展開する。	
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。	60分
第6回	第6章 教員の職務の具体的内容 ・教員の職務のなかで、教科指導以外の具体的内容を理解する。 ・教員の職務において出会う可能性がある問題等に仮に挑戦してみる。	
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。	60分
第7回	第7章と第8章 最近の生徒の発達課題と傾向 ・最近の子供の意識や行動の傾向について理解する。 ・子供が見えなくなると状態とか、子供が「ムカつく」「キレル」状態を理解する。	
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。	60分
第8回	第9章 様々な問題行動と対応の在り方(1)－いじめ・不登校 ・いじめ・不登校の問題を理解し、どのように対応するのかを考察する。 ・教科書の解説資料を読み、いじめや不登校への態様と対応の基本を整理する。	
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。	60分
第9回	第10章 様々な問題行動と対応の在り方(2)－学級崩壊・暴力行為 ・学級崩壊の状態について理解するとともに対応について考察する。 ・学校における暴力行為(校内暴力)について理解するとともに対応について考察する。	
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。	60分

第10回	第11章 学校・家庭・地域社会の役割と連携 ・学校・家庭・地域社会という、三つの「生活の場」の現状を理解する。 ・教科書の解説資料を読み、「生活の場」の役割と連携について考察する。	
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。	60分
第11回	第13章 様々な教育課題と対応の在り方(1)－国際化と教育 ・国際問題で関心のある内容とは何かについて、議論する。 ・教科書の解説資料を読み、国際化の状況について理解する。	
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。	60分
第12回	第16章 様々な教育課題と対応の在り方(4)－高齢社会と教育 ・21世紀は「高齢者の世紀」と呼ばれていることを理解する。 ・高齢者との付き合い方について、普段考えていることを交換する。	
	復習を行う。 自ら資料を探し出し、次回の予習を行う。	60分
第13回	様々な教育課題と対応の在り方－貧困と教育 ・子供たちの貧困の状況を把握する。 ・どのような経済状況にあらうとも、平等に教育を受けられる環境を保障することを確認する。	
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。	60分
第14回	第18章 今後、教員に求められる資質能力 ・教員に必要とされる資質・能力について、議論する。 ・学校社会に対して、周囲から要求されていることが何かを把握する。	
	復習を行う。	60分
第15回	まとめ－今回の授業で取り上げた内容について、振り返りを行う。	
	全体の復習を行う。	120分

授業の方法

授業者の講義が中心となるが、受講者の討論なども入れていく。

成績評価の方法

定期試験(60%) 授業内でのコメントシートや授業で見る視聴映像に対する評価等、総合的に判断する。(40%)
授業への出席は、学生として必要条件である。前期の場合、履修登録していなくとも、第1回めから出席すること。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

教育原論 学校と社会 教育心理学

テキスト

『教職の意義と教員の役割』〔第3版〕篠田信司著 三省堂 2,200円＋税 ISBN978-4-385-36335-6

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	教職研究 b		
教員名	喜岡 淳治		
科目ナンバー	1291411001	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テーマ:わが国における今日の学校教育及び教職の社会的意義を理解する。 概要:①教職の意義や教員の役割について概説し、教職への意欲や適性等について受講者が多角的に考察する機会を提供し、進路選択の過程を支援する。 ②教員の職務内容等について、具体的実践的に理解できるように簡単な演習やグループ討議などを行い、受講者が当事者としてのイメージをもてるようにする。			
到達目標			
①公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。 ②進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	第1章 オリエンテーション-授業目標、授業内容、その進め方等を理解する。		
	シラバスを確認し、この授業の進め方を把握する。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。		60分
第2回	第2章 教職科目履修の動機と目指す教師像 ・教職全体の意義を理解する。 ・心に残る教師と目指す教師像を描く。		
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。		60分
第3回	第3章 学校教育の意義 ・社会の仕組みとしての学校教育の意義を理解する。 ・現行学校教育制度と関連法規を理解する。		
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。		60分

第4回	第4章 学校教育の現状と課題 ・学校教育の現状を生活指導面から理解する。 ・今後の課題としてどのようなことが挙げられるかを考察する。	
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。	60分
第5回	第5章 教員の身分と服務義務 ・教員の身分や服務義務について理解する。 ・教科書の解説資料を読み、その内容について理解すると共に議論を展開する。	
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。	60分
第6回	第6章 教員の職務の具体的内容 ・教員の職務のなかで、教科指導以外の具体的内容を理解する。 ・教員の職務において出会う可能性がある問題等に仮に挑戦してみる。	
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。	60分
第7回	第7章と第8章 最近の生徒の発達課題と傾向 ・最近の子供の意識や行動の傾向について理解する。 ・子供が見えなくなると状態とか、子供が「ムカつく」「キレル」状態を理解する。	
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。	60分
第8回	第9章 様々な問題行動と対応の在り方(1)－いじめ・不登校 ・いじめ・不登校の問題を理解し、どのように対応するのかを考察する。 ・教科書の解説資料を読み、いじめや不登校への態様と対応の基本を整理する。	
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。	60分
第9回	第10章 様々な問題行動と対応の在り方(2)－学級崩壊・暴力行為 ・学級崩壊の状態について理解するとともに対応について考察する。 ・学校における暴力行為(校内暴力)について理解するとともに対応について考察する。	
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。	60分

第10回	第11章 学校・家庭・地域社会の役割と連携 ・学校・家庭・地域社会という、三つの「生活の場」の現状を理解する。 ・教科書の解説資料を読み、「生活の場」の役割と連携について考察する。	
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。	60分
第11回	第13章 様々な教育課題と対応の在り方(1)－国際化と教育 ・国際問題で関心のある内容とは何かについて、議論する。 ・教科書の解説資料を読み、国際化の状況について理解する。	
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。	60分
第12回	第16章 様々な教育課題と対応の在り方(4)－高齢社会と教育 ・21世紀は「高齢者の世紀」と呼ばれていることを理解する。 ・高齢者との付き合い方について、普段考えていることを交換する。	
	復習を行う。 自ら資料を探し出し、次回の予習を行う。	60分
第13回	様々な教育課題と対応の在り方－貧困と教育 ・子供たちの貧困の状況を把握する。 ・どのような経済状況にあらうとも、平等に教育を受けられる環境を保障することを確認する。	
	復習を行う。 教科書の資料を読み、次回の予習を行う。	60分
第14回	第18章 今後、教員に求められる資質能力 ・教員に必要とされる資質・能力について、議論する。 ・学校社会に対して、周囲から要求されていることが何かを把握する。	
	復習を行う。	60分
第15回	まとめ－今回の授業で取り上げた内容について、振り返りを行う。	
	全体の復習を行う。	120分

授業の方法

授業者の講義が中心となるが、受講者の討論なども入れていく。

成績評価の方法

定期試験(60%) 授業内でのコメントシートや授業で見る視聴映像に対する評価等、総合的に判断する。(40%)
授業への出席は、学生として必要条件である。前期の場合、履修登録していなくとも、第1回めから出席すること。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

教育原論 学校と社会 教育心理学

テキスト

『教職の意義と教員の役割』〔第3版〕篠田信司著 三省堂 2,200円＋税 ISBN978-4-385-36335-6

参考書

授業中に紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	教育原論 a		
教員名	馬上 美知		
科目ナンバー	1291412001	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶ。 新しい教育や、よりよい教育を構想し実践していくためには、これまでどのような教育が行われてきたのかをよく知る必要がある。この授業では、教育に関する歴史や思想、理念、今日における教育の課題について学ぶ。そして、教育という営みが、人間にとってどのような意味を持つのか探究することで、これからの教育を担っていく教師としての資質能力を養う。			
到達目標			
・教育構想や実践における教育思想の重要性を理解する。 ・学校教育の背景にある教育思想や歴史を説明できる。 ・自身の教育体験を相対化し、これからの教育について考え始める力を獲得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	授業の内容と進め方		
	教職課程での科目の位置づけ、シラバスの確認をする。 授業内で示した課題を完成する。		30 60
第2回	今日における多様な学校教育		
	授業時に提示したテーマについて考えてくる。 授業の復習。小レポートの作成。		90 90
第3回	教育思想と教育目的		
	授業時に提示したテーマについてグループで調べる。 授業の復習。小レポートの作成。		90 90

第4回	教育は誰のためにあるのか	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第5回	〈教育〉と'education'の語源	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第6回	学校と教育の歴史的展開（１） レトリックと教育	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第7回	学校と教育の歴史的展開（４） 近代学校の成立	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第8回	社会科組織としての学校	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第9回	個性を尊重する教育とは	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90

第10回	子どもの貧困	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第11回	学力格差	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第12回	学校と教育の歴史的展開 日本における学校教育	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第13回	社会化組織としての地域と家庭	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第14回	到達度の確認	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第15回	振り返り	
	これまでの講義ノートを熟読する。 授業の復習。レポートの作成。	90 90

授業の方法

- ・ 講義による解説を中心とし、それに基づく小レポートによって考えをまとめ、深める。DVDなどの映像資料を用いたり、グループワークや発表を行う。
- ・ 状況に応じて授業内容が変更になる場合がある。

成績評価の方法

授業毎の小レポート 40% グループワークへの積極的な参加 20%
学期末のレポート 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

特になし。適宜プリントを配布する。

参考書

今井康雄（編）『教育思想史』有斐閣アルマ
岡部美香（編）『子どもと教育の未来を考える II』北樹出版
藤田英典・田中孝彦・寺崎弘昭『教育学入門』岩波書店

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	教育原論 b		
教員名	馬上 美知		
科目ナンバー	1291412001	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶ。 新しい教育や、よりよい教育を構想し実践していくためには、これまでどのような教育が行われてきたのかをよく知る必要がある。この授業では、教育に関する歴史や思想、理念、今日における教育の課題について学ぶ。そして、教育という営みが、人間にとってどのような意味を持つのか探究することで、これからの教育を担っていく教師としての資質能力を養う。			
到達目標			
・教育構想や実践における教育思想の重要性を理解する。 ・学校教育の背景にある教育思想や歴史を説明できる。 ・自身の教育体験を相対化し、これからの教育について考え始める力を獲得する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	授業の内容と進め方		
	教職課程での科目の位置づけ、シラバスの確認をする。 授業内で示した課題を完成する。		30 60
第2回	今日における多様な学校教育		
	授業時に提示したテーマについて考えてくる。 授業の復習。小レポートの作成。		90 90
第3回	教育思想と教育目的		
	授業時に提示したテーマについてグループで調べる。 授業の復習。小レポートの作成。		90 90

第4回	教育は誰のためにあるのか	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第5回	〈教育〉と'education'の語源	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第6回	学校と教育の歴史的展開（１） レトリックと教育	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第7回	学校と教育の歴史的展開（４） 近代学校の成立	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第8回	社会科組織としての学校	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第9回	個性を尊重する教育とは	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90

第10回	子どもの貧困	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第11回	学力格差	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第12回	学校と教育の歴史的展開 日本における学校教育	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第13回	社会化組織としての地域と家庭	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第14回	到達度の確認	
	配布したプリントを熟読する。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第15回	振り返り	
	これまでの講義ノートを熟読する。 授業の復習。レポートの作成。	90 90

授業の方法

- ・講義による解説を中心とし、それに基づく小レポートによって考えをまとめ、深める。DVDなどの映像資料を用いたり、グループワークや発表を行う。
- ・状況に応じて授業内容が変更になる場合がある。

成績評価の方法

授業毎の小レポート 40% グループワークへの積極的な参加 20%
学期末のレポート 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

特になし。適宜プリントを配布する。

参考書

今井康雄（編）『教育思想史』有斐閣アルマ
岡部美香（編）『子どもと教育の未来を考える II』北樹出版
藤田英典・田中孝彦・寺崎弘昭『教育学入門』岩波書店

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	学校と社会 a		
教員名	生駒 俊樹		
科目ナンバー	1291412002	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
1. 教育職員免許法、同法施行規則に基づき、教育の社会的な役割、近代学校制度の成立と発展、特に学校教育と社会との相互関係と、児童・生徒に及ぼす影響に焦点を当てて学修する。 2. 本講義では、学生の「社会理解」と「向社会性」を促すことにも意を配り、卒業後の就職支援のための「キャリアガイダンス」も加えて講義を行う。			
到達目標			
1. 教育の社会的な役割を理解することができる。 2. 近代学校制度の概要及び教育政策を理解することができる。 3. 教育と社会（児童・生徒）との関わり及びその課題を理解し、問題について考察することができる。 4. 汎用的な就業力の基盤を身に付けることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	受講ガイダンス。受講上の注意、成績と評価基準、諸連絡。自己紹介シートの作成。 単位修得志望者は初回から出席すること。		
	配布したレジュメ・プリントを基に、復習を行う。	60分程度を目安に、復習を行う。	
第2回	人間と教育 ー人間には何故、教育が必要なのかー		
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。	
第3回	教育の社会的機能 1 ー「社会化」ー		
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。	

第4回	教育の社会的機能 2 －「選別」－	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第5回	教育の社会的機能 3 －「正当化」－	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第6回	近代公教育制度の成立 －コンドルセ（condorcet）の教育思想－	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第7回	日本における近代学校制度の歴史的展開 －戦前・戦後の学校系統－	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第8回	戦前の学校教育と日本人の精神形成 1 －「修身科」の歴史的展開－	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第9回	戦前の学校教育と日本人の精神形成 2 －「大日本帝国憲法」と「教育勅語」－	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。

第10回	戦前の学校教育と社会 1 －「職業指導」－	
	配布したレジュメ・プリント、参考書を基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第11回	戦前の学校教育と社会 2 －「普通教育・実業教育」－	
	配布したレジュメ・プリント、参考書を基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第12回	戦後の学校教育と日本人の精神形成 －「社会科」の新設－	
	配布したレジュメ・プリント、参考書を基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第13回	戦後の学校教育と社会 1 －「進路指導」－	
	配布したレジュメ・プリント、参考書を基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第14回	戦後の学校教育と社会 2 －学校での「キャリア教育」、大学での「キャリアガイダンス」の義務化－	
	次回のアクションペーパーの作成のため、レジュメ・プリント、参考書を基に、講義全体の復習を行う。	次回のアクションペーパーの作成の準備として、120分程度を目安に講義全体の復習に取り組む。
第15回	全体のまとめ、アクションペーパーの作成	
	リアクションペーパーの作成を通じて、学修の理解度が低い項目については、復習を行う。	60分程度を目安に、復習を行う。

授業の方法 1. レジューメ・配布プリント、参考書を基にした講義を中核にして、学生との双方向的なやり取り、グループワークを重視し、ビデオ教材の視聴を組み込む。 2. 受講生の「社会理解」の促進と「向社会性」の育成を基に、学生の「キャリアガイダンス」を継続的に行う。 3. 「汎用的な就業力」育成の観点から、ノートをとる、傾聴する、発表する、マナー（学習規律）を守る、発問への的確なレスポンスを体得していくことを重視する。
成績評価の方法 1. 受講の姿勢と意欲、発問への回答、グループワークへの積極的な取り組み、ビデオ視聴時のレポート、出席カード記載のコメント、特にリアクションペーパーの内容を重視して、平常点で評価する。追試なし。 2. 出席は評価のための必要条件。遅刻・早退は、0.5回の出席。遅刻・早退2回で欠席1回と扱う。 3. 初回から出席を取るのを、必ず出席すること。なお、カードリーダーは使用しない。 4. 講義最終日の遅刻・欠席者は、本科目修了の認定不可。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.
必要な予備知識／先修科目／関連科目 1. 配布するレジューメ及び時事問題プリントを、講義の予習・復習のために精読すること。 2. 教師や教育に関わる新聞記事やテレビのニュースを読み、観ておくこと。 3. 高等学校で学習した地歴科（特に近代日本史・近代世界史）を、教科書を基に復習しておくこと。 4. 「教職研究」及び「教育原論」を先に修得し、「教育史」を併修して受講することが望ましい。
テキスト 特に指定しない。
参考書 1. 『実践 キャリアデザイン-高校・専門学校・大学-』、生駒俊樹編著、ナカニシヤ出版、2, 000円＋税、ISBN978-4-7795-0382-5 2. 『キャリアデザイン支援と職業学習』、生駒俊樹・梅澤正、ナカニシヤ出版、2, 700円＋税、ISBN978-4-7795-0770-0 3. 『キャリアデザイン支援ハンドブック』、日本キャリアデザイン学会監修、ナカニシヤ出版、3000円＋税、ISBN978-4-7795-0886-8 本講義の後半では、上記の2を使用する。
質問・相談方法等(オフィス・アワー) 授業終了後、教室で受け付ける。

科目名	学校と社会 b		
教員名	生駒 俊樹		
科目ナンバー	1291412002	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
1. 教育職員免許法、同法施行規則に基づき、教育の社会的な役割、近代学校制度の成立と発展、特に学校教育と社会との相互関係と、児童・生徒に及ぼす影響に焦点を当てて学修する。 2. 本講義では、学生の「社会理解」と「向社会性」を促すことにも意を配り、卒業後の就職支援のための「キャリアガイダンス」も加えて講義を行う。			
到達目標			
1. 教育の社会的な役割を理解することができる。 2. 近代学校制度の概要及び教育政策を理解することができる。 3. 教育と社会（児童・生徒）との関わり及びその課題を理解し、問題について考察することができる。 4. 汎用的な就業力の基盤を身に付けることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	受講ガイダンス。受講上の注意、成績と評価基準、諸連絡。自己紹介シートの作成。 単位修得志望者は初回から出席すること。		
	配布したレジュメ・プリントを基に、復習を行う。	60分程度を目安に、復習を行う。	
第2回	人間と教育 －人間には何故、教育が必要なのか－		
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。	
第3回	教育の社会的機能 1 －「社会化」－		
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。	

第4回	教育の社会的機能 2 －「選別」－	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第5回	教育の社会的機能 3 －「正当化」－	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第6回	近代公教育制度の成立 －コンドルセ（condorcet）の教育思想－	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第7回	日本における近代学校制度の歴史的展開 －戦前・戦後の学校系統－	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第8回	戦前の学校教育と日本人の精神形成 1 －「修身科」の歴史的展開－	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第9回	戦前の学校教育と日本人の精神形成 2 －「大日本帝国憲法」と「教育勅語」－	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。

第10回	戦前の学校教育と社会 1 －「職業指導」－	
	配布したレジュメ・プリント、参考書を基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第11回	戦前の学校教育と社会 2 －「普通教育・実業教育」－	
	配布したレジュメ・プリント、参考書を基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第12回	戦後の学校教育と日本人の精神形成 －「社会科」の新設－	
	配布したレジュメ・プリント、参考書を基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第13回	戦後の学校教育と社会 1 －「進路指導」－	
	配布したレジュメ・プリント、参考書を基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第14回	戦後の学校教育と社会 2 －学校での「キャリア教育」、大学での「キャリアガイダンス」の義務化－	
	次回のアクションペーパーの作成のため、レジュメ・プリント、参考書を基に、講義全体の復習を行う。	次回のアクションペーパーの作成の準備として、120分程度を目安に講義全体の復習に取り組む。
第15回	全体のまとめ、アクションペーパーの作成	
	リアクションペーパーの作成を通じて、学修の理解度が低い項目については、復習を行う。	60分程度を目安に、復習を行う。

授業の方法

1. レジューメ・配布プリント、参考書を基にした講義を中核にして、学生との双方向的なやり取り、グループワークを重視し、ビデオ教材の視聴を組み込む。
2. 受講生の「社会理解」の促進と「向社会性」の育成を基に、学生の「キャリアガイダンス」を継続的に行う。
3. 「汎用的な就業力」育成の観点から、ノートをとる、傾聴する、発表する、マナー（学習規律）を守る、発問への的確なレスポンスを体得していくことを重視する。

成績評価の方法

1. 受講の姿勢と意欲、発問への回答、グループワークへの積極的な取り組み、ビデオ視聴時のレポート、出席カード記載のコメント、特にリアクションペーパーの内容を重視して、平常点で評価する。追試なし。
2. 出席は評価のための必要条件。遅刻・早退は、0.5回の出席。遅刻・早退2回で欠席1回と扱う。
3. 初回から出席を取るのを、必ず出席すること。なお、カードリーダーは使用しない。
4. 講義最終日の遅刻・欠席者は、本科目修了の認定不可。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

1. 配布するレジューメ及び時事問題プリントを、講義の予習・復習のために精読すること。
2. 教師や教育に関わる新聞記事やテレビのニュースを読み、観ておくこと。
3. 高等学校で学習した地歴科（特に近代日本史・近代世界史）を、教科書を基に復習しておくこと。
4. 「教職研究」及び「教育原論」を先に修得し、「教育史」を併修して受講することが望ましい。

テキスト

特に指定しない。

参考書

1. 『実践 キャリアデザイン-高校・専門学校・大学-』、生駒俊樹編著、ナカニシヤ出版、2, 000円＋税、ISBN978-4-7795-0382-5
 2. 『キャリアデザイン支援と職業学習』、生駒俊樹・梅澤正、ナカニシヤ出版、2, 700円＋税、ISBN978-4-7795-0770-0
 3. 『キャリアデザイン支援ハンドブック』、日本キャリアデザイン学会監修、ナカニシヤ出版、3000円＋税、ISBN978-4-7795-0886-8
- 本講義の後半では、上記の2を使用する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後、教室で受け付ける。

科目名	教育史		
教員名	北村 和夫		
科目ナンバー	1291412101	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
日本の「発展」をもたらした原動力として国際的に高い評価を得てきた我が国の教育は、今、新しい時代に向けて大きな変革を迫られている。講義では、明治以降の日本の教育史を概観しつつ、歴史的に形成されてきた日本の教育に見られる理念、思想、方法等の伝統的特質を明らかにし、その意義と問題点を考察する。			
到達目標			
1. 近代以降の日本の教育史についてその概要と変遷に関する知識を得る。 2. これまでの教育史の動きがどのように今日につながっているのか、どのような意義と問題を持っているのか理解することができる。 3. 教育史の知識と理解を踏まえ、今後の教育の在り方を根拠を持って考察することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	1. 近世日本の教育伝統と明治維新 ・幕府立学校、藩校、寺子屋、私塾など、江戸時代に日本人が自力で作り出した学校の特色と意義を知り、日本の教育伝統とは何かについて理解する。		
	【予習】江戸時代の社会と文化について適宜の文献を読んで知識を高めておく。 【復習】江戸時代の学校の基本的な特徴について説明できるように整理する。日本の教育伝統としては他に何が考えられるか調べる。	60	
第2回	2. 近代学校制度の導入と西洋近代教育思想 ・多様な選択肢の中で「学制」が制定されたことの意義を追体験に理解する。西洋近代の人間観、教育思想の影響を理解する。		
	【復習】講義内容のポイントをまとめる。特に、二重学校系統の危険性について考えをまとめる。	60	
第3回	3. 「教学論争」と明治10年代の教育政策 ・明治国家のアイデンティティーをめぐる相克の時代の教育構造を理解する。教育政策上の試行錯誤について、現代につながる点を考察する。		
	【復習】個性ある思想家が取り上げられるので、それぞれの教育思想のポイントをまとめておく。	60	

第4回	4. 森有礼の思想と教育改革 ・武士の人間形成と明治啓蒙思想との関わりを知る。 ・近代学校制度の構造と機能を理解し、現代に続く「日本の学校」の特質について考察する。	
	【復習】薩摩藩の武士教育を会津藩のそれと比較する。「教育」と「学問」の区別の原理をまとめる。	90
第5回	5. 教育勅語の制定—近代天皇制の教育理念 ・教育勅語とは何か、歴史的意義と問題点、思想構造について理解し、説明できるようになる。人々の受け止め方を想像し、果たした役割を考える。	
	【予習】80歳以上の年配の方に、教育勅語を覚えているかお聞きしてみる。 適宜の方法で教育勅語本文を検索し、自力で声を出して読んでみる。 【復習】教育勅語解釈の集約説と並列説についてまとめる。法規ではないのに法規以上の権威と機能を持ったというメカニズムについてまとめる。	120
第6回	6. 初等教育の発展—殖産興業、富国強兵 ・世界的にも最高水準の普及率と効率的な教育を実現し、今日につながる日本の初等教育の特色を理解する。その強みと弱点を考察する。	
	【予習】国際成人力テストの結果を調べて、日本がトップであることを確認する。 【復習】日本の初等教育はなぜ優れており、なぜ問題を抱えているのか、講義内容を整理し、考えをまとめる。	60
第7回	7. 中等教育の発展—「中等社会」の形成と良妻賢母主義 ・日本の中等教育の原型を作った明治32年体制が時代の家族観、国家観、女性観、宗教観の結節点であることを理解する。「良妻賢母」のどこが問題か説明できるようになる。	
	【復習】キーワードにつき説明できるようにする。いくつかの関係ある高校について、戦前の学校種別を確認してみる。	60
第8回	8. 高等教育の発展—学歴社会の成立 ・高等教育の発展経緯をたどり、日本型学歴社会の特色を知ること、現代の大学格差や学風の違いが源から理解できる。学歴社会を教育学的にとらえる見識を持つ。	
	【予習】天野郁夫『大学の誕生』（上）より関心のある箇所を読む。 【復習】天野郁夫『大学の誕生』（下）より関心のある箇所を読む。	120
第9回	9. 「理想の教師像」の変遷と教員養成制度 ・聖職者教師、師範タイプ、研究者教師、新教育教師、専門家教師などの意味と特色を理解する。歴史的根拠を持って、望ましい教師像を自ら構想する。	
	【復習】それぞれの教師像のよさと問題点をまとめる。特に、聖職者教師像がなぜ人々に支持されたのか、考察する。	60

第10回	10. 大正自由教育と中村春二の成蹊学園 ・現代教育改革の源流である大正自由教育を切り拓いたのは、中村春二と成蹊学園であったことを知る。その特色と教育的な意義を理解し、説明できるようになる。	
	【予習】成蹊学園編DVD『たしかなあしづみ なかむらはるじ』を視聴する。『心力歌』を全8章読む。 【復習】キーワードを説明できるようにする。現代の成蹊教育に中村精神や成蹊の教育伝統がどのように生きているか考察する。	120
第11回	11. 戦時下の教育理念と教育改革 ・戦時下の危機的状況下で教育が巨大な役割を果たしたことを知る。皇国民錬成の理念がなぜ人々に支持されたのかを考え、自分ならどうであるかを考える。	
	【予習】適宜に戦争に関する文献を読み、自分の問題意識を明らかにしておく。 【復習】教師はなぜ戦争に協力したのか、考察する。	90
第12回	12. 戦後教育改革の進展 ・占領下で行われた戦後教育改革の特殊性と意義を理解する。激しい価値の転換を人々や日本社会はどのように受け止めたのか、考察する。	
	【復習】キーワードを説明できるようにする。占領下での教育改革が日本とドイツでどう違うのか、調べる。	60
第13回	13. 高度経済成長期の教育状況 ・豊かさを求めて疾走した時代の、教育への期待を理解する。また同時期には種々の教育病理が生まれたことを知り、社会構造の変化と教育・子どもの変化との関わりに気づく。	
	【復習】身近な経験者に高度経済成長期の教育と今の教育との違いを語っていただき、意見を交換する。	60
第14回	14. 現代教育改革の進展 ・臨時教育審議会以降の教育改革が目指す方向性を知り、グローバリゼーション、情報化、少子高齢化、生涯学習、その他の教育課題を理解する。根拠と見識を持って今後の教育のあり方につき、自分の意見を持つ。	
	【復習】現代教育改革の進展を、新聞報道なども加えて、時系列に沿ってまとめる。	60
第15回	15. 全体のまとめ ・全体を振り返り、歴史を通じて変化したもの、一貫しているものを確認し、今後の考察に役立てる。	
	【復習】全体を振り返り、歴史の流れを確認する。受講を通じて得た問題意識は何か確認する。そのなかで今後教育を考えるうえで何が自分の関心の核となるか、明確にする。	60

授業の方法

講義を中心に、数回の振り返り小テストを行い、最終レポート提出を行う。授業中に配布する資料を基に講義を進める。

成績評価の方法

総合評価とし、学期末のレポートないし試験が60%、振り返り小テストが30%、授業態度が10%とする。出席は義務。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

日本史に関する高校卒業レベル以上の知識。

テキスト

特になし。

参考書

特になし。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	教育心理学 a		
教員名	松沼 光泰		
科目ナンバー	1291412401	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

本講座では、学校教育に必要な基礎理論として、主に、幼児、児童及び生徒の心身の発達と学習過程について、教育心理学という学問の観点からお話します。まず、当該分野における発達と学習に関する伝統的な理論を概観し、今までどのような理論が提唱されてきたかをお話したいと思います。しかしながら、これらの伝統的な理論をただ知識として学ぶだけでは、受講生のみなさんが学校の先生になった時に、当該理論をうまく学校現場で活用できないのではないかと思います。そこで、本講座では、伝統的な理論と併に、当該理論を用いて、幼児、児童及び生徒が抱える問題点を改善することを試みた教育実践の例も紹介して、みなさんが本講座で学んだ理論を実際の教育実践の場で援用するヒントを与えられたらと考えています。

到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎知識とそれに関わる技法を理解することを目標とする（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス—本講座を受ける上での注意事項・本講座の目標について—	
	【復習】教職課程における授業の位置づけ及び授業の概要、到達目標について理解すること。	30分
第2回	教育心理学とは？—教育心理学とはどのような学問か？—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第3回	学習を規定する要因①—学習観について—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分

第4回	学習を規定する要因②—知能について—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第5回	学習者の特性と教育方法—適性処遇交互作用（ATI）に着目して—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第6回	発達における初期環境の重要性	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第7回	ピアジェの発達理論	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第8回	性格の発達—心理学では性格をどのようにとらえるか？—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第9回	教育評価と学習—教育評価についての理解と教育評価が学習に及ぼす影響について—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分

第10回	動機づけと学習	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第11回	個別学習とルール学習—ルール学習の重要性—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第12回	障害のある児童生徒とは？—LD・ADHDの理解—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第13回	障害のある児童生徒に対する教育支援—教師はどのようにLD・ADHDの児童生徒を支援したらよい？—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第14回	学習者はどのような誤った知識（誤概念）を持つか—理科と社会科の学習内容を取り上げて—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第15回	学習者の誤った知識（誤概念）を効果的に修正する教育方法—理科と社会科の学習内容を取り上げて—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分

授業の方法

基本的には、プリントを毎回配布し、それに基づき、主に、講義形式で授業を行います。授業では、グループでの話し合い・発表等を適宜求めるので、積極的に、グループでの活動に参加して欲しいと思います。

成績評価の方法

テストの結果により評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識は特にありません。本講義で学んだ内容は、「教育相談」や「教職実践演習」の予備知識となります。

テキスト

教科書は使用しません。配布するプリントに基づき講義を行います。

参考書

『中学校学習指導要領解説理科編』（文部科学省）、『中学校学習指導要領解説社会編』（文部科学省）、『教育心理学—教育の科学的解明をめざして—』（安藤寿康・鹿毛雅治（編）、慶應義塾大学出版会）等。その他の参考書は授業中に適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	教育心理学 b		
教員名	松沼 光泰		
科目ナンバー	1291412401	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

本講座では、学校教育に必要な基礎理論として、主に、幼児、児童及び生徒の心身の発達と学習過程について、教育心理学という学問の観点からお話します。まず、当該分野における発達と学習に関する伝統的な理論を概観し、今までどのような理論が提唱されてきたかをお話したいと思います。しかしながら、これらの伝統的な理論をただ知識として学ぶだけでは、受講生のみなさんが学校の先生になった時に、当該理論をうまく学校現場で活用できないのではないかと思います。そこで、本講座では、伝統的な理論と併に、当該理論を用いて、幼児、児童及び生徒が抱える問題点を改善することを試みた教育実践の例も紹介して、みなさんが本講座で学んだ理論を実際の教育実践の場で援用するヒントを与えられたらと考えています。

到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎知識とそれに関わる技法を理解することを目標とする（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス—本講座を受ける上での注意事項・本講座の目標について—	
	【復習】教職課程における授業の位置づけ及び授業の概要、到達目標について理解すること。	30分
第2回	教育心理学とは？—教育心理学とはどのような学問か？—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第3回	学習を規定する要因①—学習観について—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分

第4回	学習を規定する要因②—知能について—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第5回	学習者の特性と教育方法—適性処遇交互作用（ATI）に着目して—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第6回	発達における初期環境の重要性	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第7回	ピアジェの発達理論	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第8回	性格の発達—心理学では性格をどのようにとらえるか？—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第9回	教育評価と学習—教育評価についての理解と教育評価が学習に及ぼす影響について—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分

第10回	動機づけと学習	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第11回	個別学習とルール学習—ルール学習の重要性—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第12回	障害のある児童生徒とは？—LD・ADHDの理解—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第13回	障害のある児童生徒に対する教育支援—教師はどのようにLD・ADHDの児童生徒を支援したらよい？—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第14回	学習者はどのような誤った知識（誤概念）を持つ？—理科と社会科の学習内容を取り上げて—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第15回	学習者の誤った知識（誤概念）を効果的に修正する教育方法—理科と社会科の学習内容を取り上げて—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分

授業の方法

基本的には、プリントを毎回配布し、それに基づき、主に、講義形式で授業を行います。授業では、グループでの話し合い・発表等を適宜求めるので、積極的に、グループでの活動に参加して欲しいと思います。

成績評価の方法

テストの結果により評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識は特にありません。本講義で学んだ内容は、「教育相談」や「教職実践演習」の予備知識となります。

テキスト

教科書は使用しません。配布するプリントに基づき講義を行います。

参考書

『中学校学習指導要領解説理科編』（文部科学省）、『中学校学習指導要領解説社会編』（文部科学省）、『教育心理学—教育の科学的解明をめざして—』（安藤寿康・鹿毛雅治（編）、慶應義塾大学出版会）等。その他の参考書は授業中に適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	教育課程の研究（特別活動論を含む。） a		
教員名	小池 俊夫		
科目ナンバー	1291413101	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
▼テーマ 教育課程（英語ではcurriculum：カリキュラム）とは、学校が意図的・組織的に編成したあらゆる教育活動のプログラムを指す言葉であり、言い換えれば（学校における）「子どもの学習体験の総体」となります。つまり、教育課程（カリキュラム）について考えるということは、「子どもの学習体験をどんな意図をもってデザインし、運用し、改善を図っていくか」を考えることとなります。教科・科目の種類やその配置、授業時間数や単位数など、一目瞭然で分かりやすい部分に目を奪われる傾向が強いのですが、そうしたことに矮小化することなく、また前例やこれまで常識だとされてきたことに引き摺られることもなく、「学校教育の魂に当たること」だとの認識をもって、深く探究することを求め・願って取り組みます。 この科目には「特別活動」を考えることも含まれます。「特別活動」（「特活」と略称されることもある）は、教師が使う用語ではあっても、生徒にとっては馴染みの薄いものであるために、大学生への調査でも強く意識されることがありません。しかし教育課程（カリキュラム）の構成要素として、重要な意味を持つものであることが、具体的に納得のいくレベルまで徹底できることを目指します。 ▼概要 上記の目的を達成するために、国が教育課程編成の大綱的基準として示す「学習指導要領」に則り、中学校・高等学校での「各教科・特別の教科 道徳（中学校のみ）・総合的な学習（高等学校の改訂では「探究」とされる予定）・特別活動」の構成要素を検討していきます。現代は「知識基盤社会」だと言われ、グローバル化が進み、ICTが人間生活のあらゆる場面に深く浸透するなど、これまでとはその様相を異にしています。そうした中で、学校教育の本来の使命を果たし、今日的な教育課題と子どもの現実・未来に対応する教育課程（カリキュラム）の創造とマネジメントこそが重要になっています。学校や教師は、理想的な発言をすることはあっても、現実の行動においてはかなり保守的で、新たな試みには消極的であることが多いのですが、そうしたあり方からの脱却を図るためにも、基本的な知識を活用・再構築することによって、理想的な教育課程（カリキュラム）の創造を目指しての考察をめていきます。 特別活動も「特別なもの=余分なもの、あってもなくても良いもの」などと誤解されることなく、「学級活動（中学校。高等学校ではホームルーム活動）」「生徒会活動」「学校行事」の3領域について、その歴史も踏まえて、意義・実践・課題を納得できるまで、具体的に考えていきます。特別活動を突出したもの、一過性のものにしないために、教科指導・生徒指導・キャリア教育・総合的な学習（探究）の時間との関連性に注目しながら考察します。 〈注〉 「テーマ」欄の冒頭に記したような関係から、教育課程とカリキュラムは概念的には同一と考えられますが、細かな点では異なりが認められます。（詳しくは第2回目に授業で取り扱う予定です。）ただ、このシラバスにおいては教育課程（カリキュラム）または教育課程という言葉での表記を原則としていることを、予め断っておきます。			
到達目標			
▼到達目標 教育課程（カリキュラム；特別活動を含めて考える）とは何かについて、その意義とデザイン（編成）についての考え方や手法について、理論・歴史の変遷・実践など多様な観点から深く学び、適切な説明ができるようにすると共に、これから求められる教育課程（カリキュラム）を自律的で理想的にデザイン（編成）する力を培います。それは、 ①教育課程（カリキュラム）を正確に理解し、そのデザイン（編成）の思想を習得し、簡潔明瞭に説明できる。 ②教育課程（カリキュラム）をデザイン（編成）するための技法を獲得し、それをPDCAサイクルで活用する意義と方法を適切に説明できる。 ③特別活動の意義を理解し、現実的な対応策を提示することができる。 力を獲得することです。 これによって、DP1（教養の修得）のために教育課程（カリキュラム）の基本的概念を理解し、DP2（課題の発見と解決）のために、現代の学校教育の課題を教育課程（カリキュラム）の視点から捉え、その解決の方途を探ることになります。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	1 プロローグ（教育（学び）とは何か/教育課程とは何か） ・授業のオリエンテーションとして、授業の進め方・予習と復習のあり方・評価の要点・テキストの活用法などの説明を理解する。 ・「教育課程」を学ぶために、「教育」「学習」についてのイメージづくりをする。		40
	【予習】 シラバス全体によく目を通して、この科目のテーマ・内容・到達目標などを確認してから授業に臨むこと。これは受講のために不可欠な作業である。もちろん、テキストの目次にも目を通しておくこと。		
第2回	2 教育課程とカリキュラムーその基本思想ー ・科学・学問体系を重視するのか、生活・経験を重視するのかという、教育課程の基本スタンスを確実に理解する。 ・「教育課程」と「カリキュラム」という二つの用語の共通性と相違点とを明らかにする。		60
	【予習】 テキスト該当部を読んで授業に臨む。 【復習】 テキスト該当部をもう一度読み返し、授業内容の確認をする。		

第3回	3 教育課程の類型 ・教育課程の類型を知ることによって、何が見えてくるのかを理解する。 ・経験カリキュラムと教科カリキュラムを中心に上げ、それぞれの類型の特徴を明らかにする。	
	【予習】 テキストを再度読み、前回の授業を振り返って授業に臨む。不明な点があれば質問ができるようにしておく。 【復習】 教育課程の2類型を比較し、その特徴を説明できるようにする。（授業中のノート記述に加筆・修正すること。）	90
第4回	4 わが国の教育課程の変遷を俯瞰 ・教育課程をめぐる基本的な問題点の整理をし、「総合的な学習の時間」を例に、教育課程の基本原則を明らかにする。	
	【予習】 テキスト該当部を読み、内容の要点をノートに整理しておく。（キーワードを挙げるのも良い。） 【復習】 授業内容の確認をする。特に、重要概念の説明が適切にできるようになる。	60
第5回	5 わが国の教育課程編成と「学習指導要領」〔パート1〕 ・わが国の教育課程にとって、「学習指導要領」がもつ意味・役割を正確・確実に理解する。 ・1947年に最初に示された「学習指導要領」から2017年改訂のものまでの歴史的変遷を概観し、座標軸の上に描き出す。 ・「生きる力」「ゆとりある学校教育」「最低基準性」の説明ができるようにする。	
	【予習】 前回の学習の振り返りを、テキスト該当部を読み返しながら行う。 【復習】 テキスト該当部を読みながら授業内容の確認を徹底させる。不明な点、疑問な点があれば次回に質問ができるようにしておく。	70
第6回	6 わが国の教育課程編成と「学習指導要領」〔パート2〕 ・2017年改訂と2018年改訂（予定）の「新しい学習指導要領」の検討をし、その特徴と問題点を明らかにする。 ・カリキュラム・マネジメントとアクティブ・ラーニングという改訂のポイントについて納得できるレベルまで理解し、明らかにする。	
	【予習】 前回の授業終了時に配布した資料ペーパーを読み、内容を確実に把握しておくこと。 【復習】 授業を振り返り、「新しい学習指導要領の評価」（仮題、用紙配布）についてのミニ・レポート①を作成する。	150
第7回	7 教育課程と学習内容・教材（メディア）・教育方法 ・検定教科書の特徴、使用義務と拘束性、検定基準と広域採択について明らかにする。 ・教科書の活用原則を明らかにする。 ・検定教科書以外の教材とメディア、ICTの活用について基本的な理解をする。	
	【予習】 小・中・高校生の時代に使った教科書について、特に印象深かったこと、感動したこと、分りにくかったことなどを思い出しておくこと。 【復習】 授業の振り返りをし、教科教育法の授業での模擬授業に反映できるようにしておくこと。	60
第8回	8 教育課程改革とヒドゥン・カリキュラム ・ヒドゥン・カリキュラムの説明（意義と問題点）ができる。	
	【予習】 テキストや教育小事典、教育用語集などを用いて、「ヒドゥン・カリキュラムの定義」をノートに記入して授業に臨むこと。 【復習】 現在、ヒドゥン・カリキュラムをポジティブに活用するならば、どのようなことが考えられるかを検討してみる。	90

第9回	9 カリキュラムマネジメントとは何か ・ P D C A サイクルで教育課程をどう捉えるかを明らかにする。	
	【予習】 他の教職科目での学びも振り返り、P D C A とは何かの説明できるようにしておく。(ノートしておけば良い。) 【復習】 授業の確認をし、カリキュラム・マネジメントの簡潔な説明ができるようにすること。	60
第10回	10 教育課程の評価 ・ 教育課程評価と学力評価を明らかにする。 ・ P I S A 調査の意義と問題点を明らかにする。	
	【予習】 前回の授業を、もう一度振り返り、要点を掴み、テキスト該当部を読んだ上で授業に臨む。 【復習】 授業で取り上げられた用語の説明が、適切にできるようにしておくこと。	60
第11回	11 特別活動の意義と目的 ・ わが国の特別活動の変遷(名称は別として、戦前を含む)を概観する。 ・ 現行及び新しい「学習指導要領」における特別活動の位置づけを明らかにする。	
	【予習】 自分の中・高校生時代の特別活動を思い出し、感動したり多くの収穫があったことでも、意味を感じなかったこと・失敗したことでも良いので、「私の特別活動体験」(仮題、用紙配布)についてのミニ・レポート②を作成して、授業時に提出する。 【復習】 授業内容と提出したミニ・レポートを結び合わせて再考する。	120
第12回	12 特別活動の3領域 ・ 「学級活動(高等学校ではホームルーム活動)」「生徒会活動」「学校行事」のそれぞれについて、意義・現状・改善の方向性を明らかにする。	
	【予習】 資料プリントをよく読み、内容を把握して授業に臨む。 【復習】 特別活動について正確な理解をする。	60
第13回	13 部活動の教育的意義と教育課程での位置づけ ・ 部活動とは何か、なぜ必要なのか、不参加の生徒もいるのはなぜかについて、明快な説明ができる。 ・ 「部活動」をめぐる討論を行う。	
	【予習】 資料プリントをよく読み、内容を把握して授業に臨む。その上で、自分の中・高校生時代の部活動について思い返しておくこと。(帰宅部であった場合も含めて。)	60
第14回	14 教育課程と「生活のある」学校 ・ 子どもの「生活」を核とした学校(教育課程)について調べる。	
	【予習】 資料ペーパーによく目を通しておくこと。 【復習】 授業の振り返りをして、主要論点を整理すること。	60
第15回	15 エピローグ(教育課程と今日の学校教育) ・ この科目の総括をする。	
	【予習】 テキスト全体を熟読するとともに、自分自身のこの授業での学習軌跡を振り返って授業に臨む。 【復習】 授業全体を省察し、今後の教職課程履修への反映を考える。	70
授業の方法		

必ずしもグループワークや討論を多く取り入れるということにはなりません、「主体的で深い学び」を実現していきたいと強く思います。用語の解説（定義づけ）が一通りでできても、対話的に「それはどういうことなのか」、「なぜか」などと追及されると曖昧になってしまうことは、よく見られる光景です。それでは「授業不成立」となってしまいます。「心底から納得できること・体得すること」を目指したいと思います。そのため、 ①ほぼ毎回の授業で「授業レポート」を書き、提出を求めます。必要に応じて、これを媒体として、学生と教師の授業内容に留まらないコミュニケーションを活発化させることにも活かします。 ②授業期間中に2回、「ミニレポート」を作成して提出します。これは熟考を要する内容について、ホームワークとして一定時間をかけて取り組むものです。「読むこと・書くこと」は知的生活をする上での基本営為です。このミニレポートは2回とも提出しなければ、単位の修得はできませんので注意してください。 ③「授業の計画」欄にすべてを記してはいませんが、小グループでの対話的意見交換を適宜取り入れます。「聞くこと・話すこと」も知的生活の基本営為です。これらは、ICTが社会生活を凌駕するようになって、何ら変わることはない普遍の原理です。を実施します。 授業には、シラバスの「準備学修」欄に記した予習を誠意に行った上で出席し、主体的・積極的に臨みます。第1回目の授業は、履修登録が済んでいるかどうかには拘わらず、履修希望者は必ず出席するものとします。これは、この科目の履修要件です。毎回の復習も疎かにしてはなりません。
成績評価の方法 上の「授業の方法」欄に記した、「授業レポート」とグループワークへの参画度を含む授業への参加姿勢と意欲などでおおよそ30%、2回のミニレポートでおおよそ40%、期末試験の結果をおおよそ30%として、総合的に評価します。授業への出席は、当然のことながら、学生として必要条件です。教職科目であることに鑑みれば、全出席が当たり前であると考えています。欠席の許容は2回程度でしょう。 「授業レポート」、ミニレポート、期末試験のいずれも、よく考えた上で、自分の主張（思想・哲学とも言えます）が正確に、明瞭に伝わるように記述します。文字は楷書で、正確・丁寧に書き、ひらがなも疎かにせず、句読点を正しく打つなど、大学生として求められる日本語の文章表現能力を示さなければいけません。これらも、評価の対象に含まれます。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 特に、下記の観点に着目して達成状況を判断し、評価します。 ①教育課程の意義とそのデザイン（編成）の思想と方法について、基本的な知識を確実に理解しているか。（特別活動も含む。） ②「授業レポート」やミニレポートでは、自分の言葉で、読み手に正しく伝えられる記述・構成ができているかどうか。 ③グループワークにおいて、他者の意見を十分に聞き取り・受け止めるとともに、自分の主張も明確に発信し、差異を諒解しつつ共有できているかどうか。
必要な予備知識／先修科目／関連科目 新聞によく目を通してください。自宅で購読していない場合でも、大学図書館で読むことが可能です。大量の情報が高速で流れ去るWEB情報・SNS情報だけに依存することなく、テレビやラジオのニュース番組や討論番組などにも気を配り、教育課程だけではなく教育に関する動向に敏感であってください。特に、2017年には小学校と中学校の「学習指導要領」が改訂され、2018年は高等学校の「学習指導要領」の改訂が予定される年ですので、文部科学省のホームページにも適宜アクセスして、常に最新情報を入手することに努めてください。 教職科目は、それぞれに関連性をもっています。既習の科目、現在併行して履修中の科目と結び付け、繋ぎ合わせることで、より深い学びができる筈です。
テキスト 樋口直宏・林尚示・牛尾直行編著『実践に生かす 教育課程論・教育方法論』、学事出版、2013年（ISBN978-4-7619-1687-9）、2000円＋税 をテキストに指定します。高校までの検定教科書ではありませんから、目次の順に授業が展開されるわけではなく、この本は「教育方法論」の内容も含んでいるため、すべての内容を授業で取り上げるものでもありませんが、所持していること＝読んで、内容を把握している・必要に応じて検索ができることを前提として、授業を進行させます。 準テキストとして、文部科学省『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』の総則部分を使用します。中学校に関しては、既に告示されています。高等学校は、シラバス作成時ではまだ告示されていません。冊子刊行もまだです。いずれにせよ一部の使用ですので、文部科学省のホームページからアクセスしたもので構いませんので、プリントアウトしたものを用意してください。
参考書 授業中に、必要に応じて文献の紹介をしますし、テキストにも参考文献が示されています。積極的に活用してください。その上で、教育課程に関してより広く・深く理解するために次の2冊は大変役に立ちます。 ○田中耕治編『よくわかる教育課程』（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ）、ミネルヴァ書房、2011年（ISBN978-4-623-05144-1）、2600円＋税 ○日本カリキュラム学会編『現代 カリキュラム事典』、ぎょうせい、2001年（ISBN4-324-06211-0）、8000円＋税
質問・相談方法等(オフィス・アワー) 授業終了後に教室で受け付けます。時間を要するような場合は、個別に対応しますので、遠慮なく申し出てください。

科目名	教育課程の研究（特別活動論を含む。） b		
教員名	小池 俊夫		
科目ナンバー	1291413101	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期

テーマ・概要

▼テーマ 教育課程（英語ではcurriculum：カリキュラム）とは、学校が意図的・組織的に編成したあらゆる教育活動のプログラムを指す言葉であり、言い換えれば（学校における）「子どもの学習体験の総体」となります。つまり、教育課程（カリキュラム）について考えるということは、「子どもの学習体験をどんな意図をもってデザインし、運用し、改善を図っていくか」を考えることとなります。教科・科目の種類やその配置、授業時間数や単位数など、一目瞭然で分かりやすい部分に目を奪われる傾向が強いのですが、そうしたことに矮小化することなく、また前例やこれまで常識だとされてきたことに引き摺られることもなく、「学校教育の魂に当たること」だとの認識をもって、深く探究することを求め・願って取り組みます。

この科目には「特別活動」を考えることも含まれます。「特別活動」（「特活」と略称されることもある）は、教師が使う用語ではあっても、生徒にとっては馴染みの薄いものであるために、大学生への調査でも強く意識されることがありません。しかし教育課程（カリキュラム）の構成要素として、重要な意味を持つものであることが、具体的に納得のいくレベルまで徹底できることを目指します。

▼概要 上記の目的を達成するために、国が教育課程編成の大綱的基準として示す「学習指導要領」に則り、中学校・高等学校での「各教科・特別の教科 道徳（中学校のみ）・総合的な学習（高等学校の改訂では「探究」とされる予定）・特別活動」の構成要素を検討していきます。現代は「知識基盤社会」だと言われ、グローバル化が進み、ICTが人間生活のあらゆる場面に深く浸透するなど、これまでとはその様相を異にしています。そうした中で、学校教育の本来の使命を果たし、今日的な教育課題と子どもの現実・未来に対応する教育課程（カリキュラム）の創造とマネジメントこそが重要になっています。学校や教師は、理想的な発言をすることはあっても、現実の行動においてはかなり保守的で、新たな試みには消極的であることが多いのですが、そうしたあり方からの脱却を図るためにも、基本的な知識を活用・再構築することによって、理想的な教育課程（カリキュラム）の創造を目指しての考察をめていきます。

特別活動も「特別なもの=余分なもの、あってもなくても良いもの」などと誤解されることなく、「学級活動（中学校。高等学校ではホームルーム活動）」「生徒会活動」「学校行事」の3領域について、その歴史も踏まえて、意義・実践・課題を納得できるまで、具体的に考えていきます。特別活動を突出したもの、一過性のものにしないために、教科指導・生徒指導・キャリア教育・総合的な学習（探究）の時間との関連性に注目しながら考察します。

〈注〉 「テーマ」欄の冒頭に記したような関係から、教育課程とカリキュラムは概念的には同一と考えられますが、細かな点では異なりが認められます。（詳しくは第2回目に授業で取り扱う予定です。）ただ、このシラバスにおいては教育課程（カリキュラム）または教育課程という言葉での表記を原則としていることを、予め断っておきます。

到達目標

▼到達目標 教育課程（カリキュラム；特別活動を含めて考える）とは何かについて、その意義とデザイン（編成）についての考え方や手法について、理論・歴史の変遷・実践など多様な観点から深く学び、適切な説明ができるようにすると共に、これから求められる教育課程（カリキュラム）を自律的に理想的にデザイン（編成）する力を培います。それは、

- ①教育課程（カリキュラム）を正確に理解し、そのデザイン（編成）の思想を習得し、簡潔明瞭に説明できる。
- ②教育課程（カリキュラム）をデザイン（編成）するための技法を獲得し、それをPDCAサイクルで活用する意義と方法を適切に説明できる。
- ③特別活動の意義を理解し、現実的な対応策を提示することができる。

これによって、DP1（教養の修得）のために教育課程（カリキュラム）の基本的概念を理解し、DP2（課題の発見と解決）のために、現代の学校教育の課題を教育課程（カリキュラム）の視点から捉え、その解決の方途を探ることになります。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	1 プロローグ（教育（学び）とは何か/教育課程とは何か） ・授業のオリエンテーションとして、授業の進め方・予習と復習のあり方・評価の要点・テキストの活用法などの説明を理解する。 ・「教育課程」を学ぶために、「教育」「学習」についてのイメージづくりをする。	
	【予習】 シラバス全体によく目を通して、この科目のテーマ・内容・到達目標などを確認してから授業に臨むこと。これは受講のために不可欠な作業である。もちろん、テキストの目次にも目を通しておくこと。	40
第2回	2 教育課程とカリキュラムーその基本思想ー ・科学・学問体系を重視するのか、生活・経験を重視するのかという、教育課程の基本スタンスを確実に理解する。 ・「教育課程」と「カリキュラム」という二つの用語の共通性と相違点を明らかにする。	
	【予習】 テキスト該当部を読んで授業に臨む。 【復習】 テキスト該当部をもう一度読み返し、授業内容の確認をする。	60

第3回	3 教育課程の類型 ・教育課程の類型を知ることによって、何が見えてくるのかを理解する。 ・経験カリキュラムと教科カリキュラムを中心に引き上げ、それぞれの類型の特徴を明らかにする。	
	【予習】 テキストを再度読み、前回の授業を振り返って授業に臨む。不明な点があれば質問ができるようにしておく。 【復習】 教育課程の2類型を比較し、その特徴を説明できるようにする。（授業中のノート記述に加筆・修正をすること。）	90
第4回	4 わが国の教育課程の変遷を俯瞰 ・教育課程をめぐる基本的な問題点の整理をし、「総合的な学習の時間」を例に、教育課程の基本原則を明らかにする。	
	【予習】 テキスト該当部を読み、内容の要点をノートに整理しておく。（キーワードを挙げるのも良い。） 【復習】 授業内容の確認をする。特に、重要概念の説明が適切にできるようになる。	60
第5回	5 わが国の教育課程編成と「学習指導要領」〔パート1〕 ・わが国の教育課程にとって、「学習指導要領」がもつ意味・役割を正確・確実に理解する。 ・1947年に最初に示された「学習指導要領」から2017年改訂のものまでの歴史的変遷を概観し、座標軸の上に描き出す。 ・「生きる力」「ゆとりある学校教育」「最低基準性」の説明ができるようにする。	
	【予習】 前回の学習の振り返りを、テキスト該当部を読み返しながら行う。 【復習】 テキスト該当部を読みながら授業内容の確認を徹底させる。不明な点、疑問な点があれば次回に質問ができるようにしておく。	70
第6回	6 わが国の教育課程編成と「学習指導要領」〔パート2〕 ・2017年改訂と2018年改訂（予定）の「新しい学習指導要領」の検討をし、その特徴と問題点を明らかにする。 ・カリキュラム・マネジメントとアクティブ・ラーニングという改訂のポイントについて納得できるレベルまで理解し、明らかにする。	
	【予習】 前回の授業終了時に配布した資料ペーパーを読み、内容を確実に把握しておくこと。 【復習】 授業を振り返り、「新しい学習指導要領の評価」（仮題、用紙配布）についてのミニ・レポート①を作成する。	150
第7回	7 教育課程と学習内容・教材（メディア）・教育方法 ・検定教科書の特徴、使用義務と拘束性、検定基準と広域採択について明らかにする。 ・教科書の活用原則を明らかにする。 ・検定教科書以外の教材とメディア、ICTの活用について基本的な理解をする。	
	【予習】 小・中・高校生の時代に使った教科書について、特に印象深かったこと、感動したこと、分りにくかったことなどを思い出しておくこと。 【復習】 授業の振り返りをし、教科教育法の授業での模擬授業に反映できるようにしておくこと。	60
第8回	8 教育課程改革とヒドゥン・カリキュラム ・ヒドゥン・カリキュラムの説明（意義と問題点）ができる。	
	【予習】 テキストや教育小事典、教育用語集などを用いて、「ヒドゥン・カリキュラムの定義」をノートに記入して授業に臨むこと。 【復習】 現在、ヒドゥン・カリキュラムをポジティブに活用するならば、どのようなことが考えられるかを検討してみる。	90

第9回	9 カリキュラムマネジメントとは何か ・ P D C A サイクルで教育課程をどう捉えるかを明らかにする。	
	【予習】 他の教職科目での学びも振り返り、P D C A とは何かの説明できるようにしておく。(ノートしておけば良い。) 【復習】 授業の確認をし、カリキュラム・マネジメントの簡潔な説明ができるようにすること。	60
第10回	10 教育課程の評価 ・ 教育課程評価と学力評価を明らかにする。 ・ P I S A 調査の意義と問題点を明らかにする。	
	【予習】 前回の授業を、もう一度振り返り、要点を掴み、テキスト該当部を読んだ上で授業に臨む。 【復習】 授業で取り上げられた用語の説明が、適切にできるようにしておくこと。	60
第11回	11 特別活動の意義と目的 ・ わが国の特別活動の変遷(名称は別として、戦前を含む)を概観する。 ・ 現行及び新しい「学習指導要領」における特別活動の位置づけを明らかにする。	
	【予習】 自分の中・高校生時代の特別活動を思い出し、感動したり多くの収穫があったことでも、意味を感じなかったこと・失敗したことでも良いので、「私の特別活動体験」(仮題、用紙配布)についてのミニ・レポート②を作成して、授業時に提出する。 【復習】 授業内容と提出したミニ・レポートを結び合わせて再考する。	120
第12回	12 特別活動の3領域 ・ 「学級活動(高等学校ではホームルーム活動)」「生徒会活動」「学校行事」のそれぞれについて、意義・現状・改善の方向性を明らかにする。	
	【予習】 資料プリントをよく読み、内容を把握して授業に臨む。 【復習】 特別活動について正確な理解をする。	60
第13回	13 部活動の教育的意義と教育課程での位置づけ ・ 部活動とは何か、なぜ必要なのか、不参加の生徒もいるのはなぜかについて、明快な説明ができる。 ・ 「部活動」をめぐっての討論を行う。	
	【予習】 資料プリントをよく読み、内容を把握して授業に臨む。その上で、自分の中・高校生時代の部活動について思い返しておくこと。(帰宅部であった場合も含めて。)	60
第14回	14 教育課程と「生活のある」学校 ・ 子どもの「生活」を核とした学校(教育課程)について調べる。	
	【予習】 資料ペーパーによく目を通しておくこと。 【復習】 授業の振り返りをして、主要論点を整理すること。	60

第15回	15 エピローグ（教育課程と今日の学校教育） ・この科目の総括をする。	
	【予習】 テキスト全体を熟読するとともに、自分自身のこの授業での学習軌跡を振り返って授業に臨む。	70
	【復習】 授業全体を省察し、今後の教職課程履修への反映を考える。	
授業の方法		
必ずしもグループワークや討論を多く取り入れるということにはなりません、「主体的で深い学び」を実現していきたいと強く思います。用語の解説（定義づけ）が一通りできても、対話的に「それはどういうことなのか」、「なぜか」などと追及されると曖昧になってしまうことは、よく見られる光景です。それでは「授業不成立」となってしまいます。「心底から納得できること・体得すること」を目指したいと思います。そのため、 ①ほぼ毎回の授業で「授業レポート」を書き、提出を求めます。必要に応じて、これを媒体として、学生と教師の授業内容に留まらないコミュニケーションを活発化させることにも活かします。 ②授業期間中に2回、「ミニレポート」を作成して提出します。これは熟考を要する内容について、ホームワークとして一定時間をかけて取り組むものです。「読むこと・書くこと」は知的生活をする上での基本営為です。このミニレポートは2回とも提出しなければ、単位の修得はできませんので注意してください。 ③「授業の計画」欄にすべてを記してはいませんが、小グループでの対話的意見交換を適宜取り入れます。「聞くこと・話すこと」も知的生活の基本営為です。これらは、ICTが社会生活を凌駕するようになって、何ら変わることはない普遍の原理です。 を実施します。 授業には、シラバスの「準備学修」欄に記した予習を誠意に行った上で出席し、主体的・積極的に臨みます。第1回目の授業は、履修登録が済んでいるかどうかには拘わらず、履修希望者は必ず出席するものとします。これは、この科目の履修要件です。毎回の復習も疎かにしてはなりません。		
成績評価の方法		
上の「授業の方法」欄に記した、「授業レポート」とグループワークへの参画度を含む授業への参加姿勢と意欲などでおおよそ30%、2回のミニレポートでおおよそ40%、期末試験の結果をおおよそ30%として、総合的に評価します。授業への出席は、当然のことながら、学生として必要条件です。教職科目であることに鑑みれば、全出席が当たり前であると考えています。欠席の許容は2回程度でしょう。 「授業レポート」、ミニレポート、期末試験のいずれも、よく考えた上で、自分の主張（思想・哲学とも言えます）が正確に、明瞭に伝わるように記述します。文字は楷書で、正確・丁寧に書き、ひらがなも疎かにせず、句読点を正しく打つなど、大学生として求められる日本語の文章表現能力を示さなければいけません。これらも、評価の対象に含まれます。		
成績評価の基準		
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39. 特に、下記の観点に着目して達成状況を判断し、評価します。 ①教育課程の意義とそのデザイン（編成）の思想と方法について、基本的な知識を確実に理解しているか。（特別活動も含む。） ②「授業レポート」やミニレポートでは、自分の言葉で、読み手に正しく伝えられる記述・構成ができていくかどうか。 ③グループワークにおいて、他者の意見を十分に聞き取り・受け止めるとともに、自分の主張も明確に発信し、差異を諒解しつつ共有できているかどうか。		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
新聞によく目を通してください。自宅で購読していない場合でも、大学図書館で読むことが可能です。大量の情報が高速で流れ去るWEB情報・SNS情報だけに依存することなく、テレビやラジオのニュース番組や討論番組などにも気を配り、教育課程だけではなく教育に関する動向に敏感であってください。特に、2017年には小学校と中学校の「学習指導要領」が改訂され、2018年は高等学校の「学習指導要領」の改訂が予定される年ですので、文部科学省のホームページにも適宜アクセスして、常に最新情報を入手することに努めてください。 教職科目は、それぞれに関連性をもっています。既習の科目、現在併行して履修中の科目と結び付け、繋ぎ合わせることで、より深い学びができる筈です。		
テキスト		
樋口直宏・林尚示・牛尾直行編著『実践に生かす 教育課程論・教育方法論』、学事出版、2013年（ISBN978-4-7619-1687-9）、2000円＋税 をテキストに指定します。高校までの検定教科書ではありませんから、目次の順に授業が展開されるわけではなく、この本は「教育方法論」の内容も含んでいるため、すべての内容を授業で取り上げるものでもありませんが、所持していること＝読んで、内容を把握している・必要に応じて検索ができることを前提として、授業を進行させます。 準テキストとして、文部科学省『中学校学習指導要領』、『高等学校学習指導要領』の総則部分を使用します。中学校に関しては、既に告示されています。高等学校は、シラバス作成時ではまだ告示されていません。冊子刊行もまだです。いずれにせよ一部の使用ですので、文部科学省のホームページからアクセスしたもので構いませんので、プリントアウトしたものを用意してください。		
参考書		
授業中に、必要に応じて文献の紹介をしますし、テキストにも参考文献が示されています。積極的に活用してください。その上で、教育課程に関してより広く・深く理解するために次の2冊は大変役に立ちます。 ○田中耕治編『よくわかる教育課程』（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ）、ミネルヴァ書房、2011年（ISBN978-4-623-05144-1）、2600円＋税 ○日本カリキュラム学会編『現代 カリキュラム事典』、ぎょうせい、2001年（ISBN4-324-06211-0）、8000円＋税		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
授業終了後に教室で受け付けます。時間を要するような場合は、個別に対応しますので、遠慮なく申し出てください。		

科目名	生涯学習研究		
教員名	生駒 俊樹		
科目ナンバー	1891412202	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
1. 21世紀の日本社会は、少子高齢化による人口減少、グローバル化、経済・教育格差の拡大、非正規雇用者の増加、温暖化などの気候変動、東日本大震災と原発からの放射性物質の放出による甚大な被害、国家対国家間の戦争という枠組みを超えた武力紛争（テロ）の頻発といった、かつて経験したことのない深刻な変化の渦中において、将来予測が困難な状況に直面している。 2. このような時代にあっては、既成の知識を単に覚えるだけでなく、学ぶ喜びという大切な経験や社会のあり様に対して「何故」という問いを基盤にして、生涯にわたって「自己および社会の幸福を求め主体的に学び続け」、複雑な諸課題に対峙するための新たな思考と行為が求められている。 3. 本講義では、学生の「社会理解」及び「向社会性」を促すことにも意を配り、卒業後の就職支援のための「キャリアガイダンス」も加えて講義を行う。			
到達目標			
1. 現在の社会において、「生涯学習」が求められている理由を理解することができる。 2. 生涯学習に関する用語や原理・制度などを正確に理解することができる。 3. 生涯学習の誕生から現在に至る歴史とその背景を理解することができる。 4. 生涯学習に関わる政策や実践について理解することができる。 5. 汎用的な就業力の基盤を身に付けることができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	受講ガイダンス。受講上の注意、成績と評価基準、諸連絡。自己紹介シートの作成。本科目の単位修得志望者は初回から出席すること。		
	配布したレジュメ・プリントを基に、復習を行う。 □		60分程度を目安に、復習を行う。
第2回	人間の成長・発達と教育の役割-社会化- 家庭教育・学校教育、そして「社会（成人）教育」		
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。		60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第3回	「教育爆発の時代」-1960～70年代-		
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。		60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。

第4回	学校教育の変質と批判	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第5回	生涯教育思想の誕生	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第6回	生涯教育と成人教育（アンドラゴギー、andragogy）	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第7回	生涯教育から「生涯学習」へ－ユネスコの取り組み－	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第8回	OECDの「リカレント教育(Recurrent Education)」	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第9回	R・ハッチンスの「学習社会論」－高等教育機関の役割－	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。

第10回	日本における「生涯教育」の展開	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第11回	生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律（「生涯学習振興法」）	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第12回	海外の生涯学習-西欧の事例-	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第13回	海外の生涯学習-アメリカ合衆国-	
	配布したレジュメ・プリントを基に、予習・復習を行う。	60分程度を目安に、各自の理解度に応じて、理解した場合には予習を、理解が進まない場合には復習を重点に取り組む。
第14回	生涯学習思想を基盤にして、exclusive（排他的）ではなく、「inclusive（包括的・非排他的）」な、ライフキャリアをデザインする	
	次回のリアクションペーパーの作成のため、講義全体の復習を行う。	次回のリアクションペーパーの作成の準備として、120分程度を目安に講義全体の復習に取り組む。
第15回	全体のまとめ、リアクションペーパーの作成	
	リアクションペーパーの作成を通じて、学修の理解度が低い項目については、復習を行う。	60分程度を目安に、復習を行う。

授業の方法

1. レジюме及び配布プリントを基にした講義を中核にして、学生との双方向的なやり取り、グループワークを重視し、ビデオ教材の視聴を組み込む。
2. 受講生の「社会理解」の促進と「向社会性」の育成を基に、学生の「キャリアガイダンス」を継続的に行う。
3. 「汎用的な就業力」育成の観点から、ノートをとる、傾聴する、発表する、マナー（学習規律）を守る、発問への的確なレスポンスを体得していくことを重視する。

成績評価の方法

1. 受講の姿勢と意欲、発問への回答、グループワークへの積極的な取り組み、ビデオ視聴時のレポート、出席カード記載のコメント、特にリアクションペーパーの内容を重視して、平常点で評価する。追試なし。
2. 出席は評価のための必要条件。遅刻・早退は、0.5回の出席。遅刻・早退2回で欠席1回と扱う。
3. 初回から出席を取るのを、必ず出席すること。なお、カードリーダーは使用しない。
4. 講義最終日の遅刻・欠席者は、本科目修了の認定不可。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「教育原論」及び「学校と社会」を先に修得し、「教育史」を併修して受講することが望ましい。

テキスト

特に指定しない。

参考書

『実践 キャリアデザイン-高校・専門学校・大学-』、生駒俊樹編著、ナカニシヤ出版、2, 000円＋税、ISBN978-4-7795-0382-5
『キャリアデザイン支援と職業学習』、生駒俊樹・梅澤正、ナカニシヤ出版、2, 700円＋税、ISBN978-4-7795-0770-0
『キャリアデザイン支援ハンドブック』、日本キャリアデザイン学会監修、ナカニシヤ出版、3000円＋税、ISBN978-4-7795-0886-8

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後、教室で受け付ける。

科目名	国語科教育法Ⅰ		
教員名	高橋 喜代治		
科目ナンバー	1291413301	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
国語教育の目的、内容、方法、変遷、日本語の特質などを考察するとともに、「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」、「国語の特質」などの教材研究、分析の方法について基礎的な力量を養う。			
到達目標			
1. 話しことばと書きことばの発達について考察し、国語教育の意義について理解する。 2. 戦後の主要な国語教育理論と指導要領の変遷を考察し、今日の国語教育の在り方について考えを持つ。 3. 国語の指導目標・内容、指導方法について領域別に理解できる。 4. 文種ごとに教科書教材を分析し、教材研究の方法や手順が分かるようになる。 5. 発問や助言などの指導言の打ち方、教師の立ち位置、振る舞い、板書などの基礎的な方法を考察する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・授業の内容、進め方、授業への参加の仕方、予習・復習の仕方等を解説する。 ・今日の国語教育の現状・課題について理解を深める。		
	【予習】テキスト『新しい国語科指導法・四訂版』の「まえがき」を熟読しておくこと。 ・中学校と高校の国語の授業を想起し評価できるようにしておくこと。		60
第2回	ことばの発達（話しことばと書きことば）について学修する。		
	【予習】テキスト第1章（P5～12）を熟読しておくこと。		60
第3回	国語教育の目的について学修する。 課題レポート①を出す		
	【予習】テキスト第1章第2節（P13～20）を熟読しておくこと。		40

第4回	国語教育の変遷（について学修する。 ・学習指導要領の変遷と背景 ・国語教育実践の変遷と理論 ・課題①の評価・解説	
	【予習】テキスト第1章第3節（P21～30）を熟読しておくこと。 課題レポート①に取り組む	120
第5回	国語教育の内容と方法について学修する。 ・音声言語の指導の意味 ・音声言語指導の課題と方法 課題レポート②を出す	
	【予習】テキスト第2章第1節（P39～46）を熟読しておくこと	40
第6回	国語科教育の内容と方法を学修する。 ・文学作品（物語・小説・詩）の教科内容 ・教科内容と授業の実際	
	【予習】テキスト第2章第2節（P47～55）を熟読しておくこと。 課題レポート②に取り組む	120
第7回	国語科教育の内容と方法を学修する。 ・説明的文章指導の指導過程 ・説明的文章指導とメディアリテラシー ・課題②の評価・解説	
	【予習】テキスト第2章第3節（P56～63）を熟読しておくこと。	50
第8回	国語科教育の内容と方法を学修する。 ・伝統的な言語文化と国語の特質・母語	
	【予習】テキスト第2章第5節（P72～80）を熟読しておくこと。	60
第9回	物語・小説の教材分析と指導案を学修する。 ・四部構想と三読法（構造よみ・形象よみ・吟味よみ）	
	【予習】配布資料（小説教材）を熟読しておくこと。	80

第10回	物語・小説の指導方法と指導案を学修する。 ・指導構想と全体計画および展開案の作り方	
	【予習】配布資料（小説教材）を熟読し、指導構想を考えておくこと。	80
第11回	説明的文章の指導方法と指導案を学修する。 ・説明的文章の三部構造と三読法（構造よみ・論理よみ・吟味よみ）	
	【予習】配布資料（中学校説明文教材）を熟読しておくこと。	60
第12回	説明的文章の指導方法と指導案を学修する。 ・指導構想と全体指導計画および展開案の作り方 課題レポート③「説明文教材の選択に関すること」	
	【予習】配布資料（中学校説明文教材）を熟読し、三読法の指導構想を考えておくこと。	60
第13回	古典の指導方法を学修する。 ・古文の教材研究の仕方と指導案の作成法 課題レポート③の解説	
	【予習】配布資料（古典教材）を熟読し、古語や時代背景などを調べておくこと。	80
第14回	授業の方法と技術を学修する。 ・指導言の機能と形態 ・発問、助言と評価	
	【予習】テキスト第4章第3節（129～134）を熟読しておくこと。	60
第15回	実際の授業から授業の方法を学修する。 ・実際の国語の授業ビデオを見て、これまでのJ学修の振り返りをする。	
	【予習】国語の授業ビデオの教材と指導案を熟読しておくこと。	60

授業の方法

授業は1回～2回は講義中心、第3回～第14回は講義とグループ討論を中心におこなう。第15回はビデオを見て質疑の形でおこなう。授業に関連した課題を出す（2回）ので、学生はレポートを作成し提出すること。

成績評価の方法

課題レポート（2回：30％） 授業レスポンス紙（毎回：70％）

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。
次の点に着目し、その達成具合で評価する。
①ことばの発達と国語教育について理解しているか。
②戦後の国語教育と指導要領（国語）の変遷について理解しているか
③国語教育の目的・内容、教材研究の方法、指導案について理解しているか
④国語の授業の方法と技術について基礎的な理解ができているか

必要な予備知識／先修科目／関連科目

国語科教育法Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修するためには、当科目の習得が必須となる。

テキスト

『新しい国語科教育法・四訂版』、柴田義松・阿部昇・鶴田清司編著、学文社
『中学校学習指導要領解説・国語編』、文部科学省

参考書

『文章吟味力を鍛える一教科書・メディア・総合の吟味』、阿部 昇、明治図書
『本質がわかる国語の授業』、柴田義松監修・高橋喜代治編著、日本標準
『国語力をつける説明文・論説文の「読み」の授業』 「読み」の授業研究会編 明治図書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	国語科教育法II		
教員名	杉山 明信		
科目ナンバー	1191413302	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

国語は他の教科の基礎学力として重要視される一方で、実に様々な方法論が提唱され、少なくない教師を「どのように教えたら良いのか」と悩ませる教科である。国語教育は、教材となる個々の文章内容を理解させて終わるものではない。文章を読解する方法を教え、他の未知の文章を自分で読み解いていく力を養うことが重要である。主体的に文章を読み、自らを表現していける生徒を育てる国語教育の方法を学ぶ。

到達目標

1. 国語教育の教材の特性に応じた授業方法・技術を知り、応用できるようになる。
2. 教材研究の方法を知り、実際に分析が出来るようになる。
3. 模擬授業を行い、授業分析の力、及び、授業遂行の力を養う。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	1. 国語教育の目的と教科内容の概要(1)	
	配布資料の復習	60分
第2回	2. 国語教育の目的と教科内容の概要(2)	
	配布資料の復習 次週の教材を読む	60分
第3回	3. 小説教材の教材研究と指導法(1)	
	配布資料の復習 次週の教材を読む	60分

第4回	4. 小説教材の教材研究と指導法（2）	
	配布資料の復習 次週の教材を読む	60分
第5回	5. 詩教材の教材研究と指導法（1）	
	配布資料の復習 次週の教材を読む	60分
第6回	6. 説明的文章教材の教材研究と指導法（1）	
	配布資料の復習 次週の教材を読む	60分
第7回	7. 説明的文章教材の教材研究と指導法（2）	
	配布資料の復習 次週の教材を読む	60分
第8回	8. 古典教材の教材研究と指導法（1）	
	配布資料の復習 次週の教材を読む	90分
第9回	9. 古典教材の教材研究と指導法（2）	
	配布資料の復習	90分

第10回	10. 授業計画の方法と模擬授業準備（1）	
	配布資料の復習 模擬授業用教材の研究	120分
第11回	11. 授業計画の方法と模擬授業準備（2）	
	模擬授業用教材の研究 模擬授業指導計画の考案	120分
第12回	12. 模擬授業と授業分析（1）	
	模擬授業用教材の研究 模擬授業指導計画の考案	120分
第13回	13. 模擬授業と授業分析（2）	
	模擬授業用教材の研究 模擬授業指導計画の考案	120分
第14回	14. 模擬授業と授業分析（3）	
	模擬授業用教材の研究 模擬授業指導計画の考案	120分
第15回	15. 総括	
	指導方法、模擬授業の総復習	120分

授業の方法

中学・高校の国語教材を用いて、教材分析、授業計画立案、授業実践のポイントを学ぶ。実際に授業案を作成し、それに従って模擬授業も行なうなど、実践的な学習を行なう。

成績評価の方法

授業中の様々な実習への取り組みの様子によって評価する。模擬授業に関する指導案レポートなども評価の対象とする。出席は必要条件。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

国語科教育法Iの単位を修得済であること。

テキスト

特に定めない。必要な資料は、授業中適宜配布する。

参考書

「国語授業の改革」シリーズ1～12 杉山明信・他（共著） 学文社 2,300円程度

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	国語科教育法III		
教員名	高橋 喜代治		
科目ナンバー	1191413303	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
生徒たちが国語の授業に楽しく参加し、言葉の力をつけ、リテラシー能力を養うことができる国語科（中学校教材中心）の指導方法を模擬授業を通して養う。様々な教科書教材を取り上げ、教材研究・分析の方法、指導案の作り方、助言の打ち方、学習集団の指導法や討論の仕方などを身につける。教師になって現場で役立つ指導力を養うために、国語の授業開き、単元全体の指導構想、各時間の指導案（細案）が作れるようになる。			
到達目標			
1. 実践可能な国語科の学習指導計画案（単元目標・教材価値・全体学習計画・授業展開案）が書ける。 2. 教材から、話し方・聞き方・書き方・読み方の教科内容が取り出せる。 3. 学び方（特に学習集団、討論）の指導方法・技術が分かる。 4. 教師の指導のもとに、みんなで分かり合う国語の授業の学びについて考えられる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・授業全体像、進め方、授業への参加の仕方、成績評価、テキスト、予習・復習について説明する。 ・今日の国語教育の現状と実践的な課題について理解する。		
	【予習】中学校、高校で受けた国語の授業について報告できるように想起しておくこと。テキスト（新しい国語科の指導法）の第6章を熟読しておくこと。 【復習】この授業でどんな学びをしていくのか、ガイダンスを参考にして確認すること。	70	
第2回	教材研究と指導案作成 1 説明文教材を使って協同で教材研究をおこない、教材研究の方法・力量を養う。		
	【予習】指定された説明文教材を熟読し、構造分析をしておくこと。	80	
第3回	教材研究と指導案作成 2 文学教材を使って協同で指導案を作成し、指導案作成の力量を養う。		
	【予習】指定された文学教材を熟読し、指導構想を考えておくこと。	80	

第4回	教材研究と指導案作成 3 古典を教材を使って協同で指導案を作成し、指導案作成の力量を養う。	
	【予習】指定された古典教材を熟読し指導構想を考えておくこと。	80
第5回	教材研究と指導案作成 4 ことばの特質教材を使って共同で指導案を作成し、指導案作成の力量を養う。	
	【予習】指定された教材を熟読し指導構想を考えておくこと。	80
第6回	模擬授業と検討 1 模擬授業（ことばの特質・50分）をおこない、検討しあい（30分）、授業力と授業評価の力を養う。	
	【予習】模擬授業1の教材について熟読しておくこと。 【復習】検討会の論議をふまえ、本日の模擬授業の評価文を書くこと。	30 30
第7回	模擬授業と検討 2 模擬授業（説明的文章・50分）をおこない、検討しあい(30分)、授業力と授業評価の力を養う。	
	【予習】模擬授業2の教材について熟読しておくこと。 【復習】検討会の論議をふまえ、本日の模擬授業の評価文を書くこと。	30 30
第8回	模擬授業と検討 3 模擬授業（説明的文章・50分）をおこない、検討しあい、授業力と授業評価の力量を養う。	
	【予習】模擬授業3の教材文を熟読しておくこと。 【復習】検討会の論議をふまえ、本日の模擬授業の評価文を書くこと。	30 30
第9回	模擬授業と検討 4 模擬授業（説明的文章・50分）をおこない、検討しあい(30分)、授業力と授業評価の力を養う。	
	【予習】模擬授業4の教材文を熟読しておくこと。 【復習】検討会の論議をふまえ、本日の模擬授業の評価文を書くこと。	30 30

第10回	模擬授業と検討5 模擬授業（小説・50分）をおこない、検討しあい（30分）授業力と授業評価の力を養う。	
	【予習】模擬授業5の教材文を熟読しておくこと。 【復習】検討会の論議をふまえ、本日の模擬授業の評価文を書くこと。	30 30
第11回	模擬授業と検討6 模擬授業（小説・50分）をおこない、検討しあい（30分）授業力と授業評価の力を養う。	
	【予習】模擬授業6の教材文を熟読しておくこと。 【復習】検討会の論議をふまえ、本日の模擬授業の評価文を書くこと。	30 30
第12回	模擬授業と検討7 模擬授業（小説・50分）をおこない、検討しあい（30分）授業力と授業評価の力を養う。	
	【予習】模擬授業7の教材文を熟読しておくこと。 【復習】検討会の論議をふまえ、本日の模擬授業の評価文を書くこと。	30 30
第13回	模擬授業と検討8 模擬授業（古典・50分）をおこない、検討しあい（30分）、授業力と授業評価の力を養う。	
	【予習】模擬授業8の教材文を熟読しておくこと。 【復習】検討会をふまえ、本日の模擬授業の評価文を書くこと。	30 30
第14回	模擬授業と検討9 模擬授業（古典・30分×2人）をおこない、検討しあい（30分）、授業力と授業評価の力を養う。	
	【予習】模擬授業9の教材文を熟読しておくこと。 【復習】検討会の論議をふまえ、本日の模擬授業の評価文を書くこと。	30 30
第15回	模擬授業と検討・まとめ ビデオによる授業検討（これまでおこなわれた模擬授業のいずれかをビデオで検討し合い、授業力と授業評価の力を養う・ストップモーション手法による検討をおこなう）	
	【予習】ビデオによる模擬授業の教材文を熟読しておくこと。また、「ストップモーションによる授業検討」について、その方法や効果について調べ説明できるようにしておくこと。	60

授業の方法 実際に行われている学校現場の国語の教材や授業記録（教科書教材、指導案、ビデオ）を使い、教材分析や模擬授業、授業検討を行う。教材分析、指導案づくりは協同で取り組む。模擬授業は全員が一回（30分）でおこなうが、履修する学生の人数により、臨機応変に対応する。模擬授業の指導案については、単元全体の指導計画と展開案を課す。各模擬授業については検討会をおこない、その検討をふまえ「授業評価文」を課し授業を評価する観点を養う。
成績評価の方法 模擬授業の内容（各自1回：40％）、模擬授業の指導計画案（各自1回：30％）、模擬授業の評価文（各模擬授業回数：30％）を基本とするが、授業検討会などでの発言の内容も加味する。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ・国語の確かな力をつけられることを意図した学習指導計画案が作成できているか。 ・国語の学力と学び方が養えることを意図した模擬授業ができているか。 ・授業を評価する観点や方法を理解できているか。
必要な予備知識／先修科目／関連科目 国語科教育法Ⅰ、国語科教育法Ⅱ
テキスト 中学校学習指導要領国語編解説（文部科学省） 他に必要に応じて講義ごとにプリント資料を渡す
参考書 『文章吟味力を鍛える』 阿部昇（明治図書） 2,000円 『本質がわかる国語の授業・説明的文章』 高橋喜代治 編著（日本標準） 1,600円
質問・相談方法等(オフィス・アワー) 授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	国語科教育法Ⅳ		
教員名	高橋 喜代治		
科目ナンバー	1191413304	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
主体的・対話的で深い学びの国語の授業を目指し、教材研究の方法、授業構想、指導目標の立て方、指導過程、展開案作成の力量を身につける。			
到達目標			
1、教科書教材のジャンル別の教材研究の方法が理解できる。 2、教えるべき言葉の力（教科内容）、教材内容、教育内容が理解できる。 3、国語科の学習指導計画案（単元目標・教材価値・全体学習計画・授業展開案再案、板書案）が書ける。 4、学び方（特に学習集団、討論）の指導方法・技術が分かる。 5、効果的な授業資料が作成でき、有効な教具が使える。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス ・本授業の見通しをつくる。進め方、授業への参加の仕方、予習・復習などについて説明する。 ・今日の国語教育の現状と実践的な課題について理解する。		
	【予習】 中学校、高校で受けた国語の授業について報告できるように想起しておくこと。		20
第2回	協同教材・指導案研究 1 実際の指導案（文学作品指導）を協同で検討する。		
	【予習】 該当指導案の熟読		40
	[復習] 協同検討のまとめを書く		40
第3回	協同教材・指導案研究 2 実際の指導案（説明的文章）を協同で検討する。		
	【予習】 該当指導案の熟読		40
	[復習] 協同検討のまとめを書く		40

第4回	協同教材・指導案研究3 実際の指導案（古典）を協同で検討する。	
	【予習】 該当指導案の熟読 [復習] 協同検討のまとめを書く	40 40
第5回	協同教材・指導案研究4 実際の指導案（古典）を協同で検討する。	
	【予習】 該当指導案の熟読 [復習] 協同検討のまとめを書く	40 40
第6回	協同教材・指導案研究5 実際の指導案（ことばの特質教材）を協同で検討する。	
	【予習】 該当指導案の熟読 [復習] 協同検討のまとめを書く	40 40
第7回	模擬授業準備 模擬授業のための教材研究	
	【予習】 模擬授業教材について熟読 【復習】 検討の論議をまとめる	30 30
第8回	模擬授業準備 模擬授業のための指導案検討	
	【予習】 模擬授業指導案について原案を準備 【復習】 検討した論議をまとめる	30 30
第9回	模擬授業と検討1 模擬授業（説明的文章・50分）をおこない、検討しあい（30分）、授業力と授業評価の力を養う。	
	【予習】 模擬授業の教材文を熟読 【復習】 模擬授業の評価文を書く	30 30

第10回	模擬授業と検討2 模擬授業（小説・50分）をおこない、検討しあい（30分）授業力と授業評価の力を養う。	
	【予習】 模擬授業の教材文を熟読	30
	【復習】 模擬授業の評価文を書くこと	30
第11回	模擬授業と検討3 模擬授業（古典・50分）をおこない、検討しあい（30分）授業力と授業評価の力を養う。	
	【予習】 模擬授業の教材文を熟読	30
	【復習】 模擬授業の評価文を書く	30
第12回	模擬授業と検討4 模擬授業（ことばの特質・50分）をおこない、検討しあい（30分）授業力と授業評価の力を養う。	
	【予習】 模擬授業の教材文を熟読	30
	【復習】 模擬授業の評価文を書く	30
第13回	模擬授業と検討5 模擬授業（評論文・50分）をおこない、検討しあい（30分）、授業力と授業評価の力を養う。	
	【予習】 模擬授業の教材文を熟読	30
	【復習】 模擬授業の評価文を書く	30
第14回	模擬授業と検討6 模擬授業（50分）をおこない、検討しあい（30分）、授業力と授業評価の力を養う。	
	【予習】 模擬授業の教材文を熟読	30
	【復習】 模擬授業の評価文を書く	30
第15回	模擬授業と検討・まとめ ビデオによる授業検討（これまでおこなわれた模擬授業のいずれかをビデオで検討し合い、授業力と授業評価の力を養う・ストップモーション手法による検討をおこなう）	
	【予習】 ビデオによる模擬授業の教材文を熟読しておくこと。また、「ストップモーションによる授業検討」について、その方法や効果について調べ説明できるようにしておくこと。	60

授業の方法 実際に行われている学校現場の国語の教材や授業記録（教科書教材、指導案、ビデオ）を検討する。これを踏まえ教材分析や模擬授業、授業検討を行う。教材分析、指導案づくりは協同で取り組む。模擬授業は全員が一回（５０分）でおこなうが、２人で分担することもある。模擬授業の指導案については、単元全体の指導計画と展開案、資料、板書案を課し、個別に指導する。 各模擬授業については検討会をおこない、その検討をふまえ「授業評価文」を課し授業を評価する観点を確認する。
成績評価の方法 模擬授業（各自１回：５０％）、模擬授業の指導計画案（各自１回：３０％）、模擬授業の評価文（各模擬授業回数：２０％）を基本とする。
成績評価の基準 成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。 次の点に着目し、その達成度により評価する。 ・国語の確かな力をつけられることを意図した学習指導計画案が作成できているか。 ・ことばの力とその学び方が養えることを意図した模擬授業ができているか。 ・授業を評価する観点や方法を理解できているか。
必要な予備知識／先修科目／関連科目 国語科教育法Ⅰ、国語科教育法Ⅱ、国語科教育法Ⅲ
テキスト 講義ごとに、資料を渡す
参考書 『文章吟味力を鍛える』 阿部昇（明治図書） 『国語力をつける説明文・論説文の「読み」の授業』 「読」みの授業研究会（明治図書）
質問・相談方法等(オフィス・アワー) 授業終了後に教室で受け付ける。

科目名	社会科教育法 A		
教員名	大町 健		
科目ナンバー	1191413311	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
「社会科・地理歴史科教育法」および「社会科・公民科教育法」の授業を前提とし、授業づくりの実例を示すとともに、受講生全員が学習指導案を作成して模擬授業をおこない、学習指導案づくりと授業をおこなう力量を養うことをテーマとします。			
到達目標			
中学社会科の授業にむけて、以下の三点を到達目標とします。 ①教材研究をおこなって授業内容・授業目標を理解把握できる。 ②授業研究にもとづき学習指導案を作成できる。 ③学習指導案にもとづいて的確な模擬授業ができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	はじめに 授業内容、模擬授業の進め方を説明する。		
	〔予習〕 シラバスをよく読んで、授業の内容目的、到達目標を確認し、模擬授業の課題を考える。 〔復習〕 授業の内容、目的、到達目標を確認し、模擬授業の準備をすすめる。	60分	
第2回	中学社会科の内容 中学生の発達段階を踏まえ学習指導における中学社会科の位置と特徴をまなぶ。		
	〔予習〕 模擬授業の準備を進め、順番に学習指導案を提出する。 〔復習〕 授業の内容を踏まえて学習指導案を修正する。	120分	
第3回	中学社会科の指導法 1 実際の授業をとおして、学習指導案づくりにおける教材研究と授業研究をまなぶ。		
	〔予習〕 模擬授業の準備を進め、順番に学習指導案を提出する。 〔復習〕 授業の内容を踏まえて学習指導案を修正する。	120分	

第4回	中学社会科の指導法2 実際の授業をとおして、学習指導案づくりにおける教材研究と授業研究をまなぶ。	
	〔予習〕模擬授業の準備を進め、順番に学習指導案を提出する。 〔復習〕授業の内容を踏まえて学習指導案を修正する。	120分
第5回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第6回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第7回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第8回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第9回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分

第10回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第11回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、指導案を修正する。	120分
第12回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第13回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第14回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第15回	まとめ 模擬授業の講評を行い、レポートと学習指導案を集め、授業の到達点を確認する。	
	〔予習〕授業内容について確認し、レポート・学習指導案を仕上げる。 〔復習〕提出したレポート・学習指導案を振り返り、自らの到達点を確認する。	120分

授業の方法

初回～第4回までの授業は、資料プリントを配布し、板書をしながら講義します。初回の授業では、第5回以降の授業で行う模擬授業のテーマを提出してもらいます。その後、模擬授業の三週間前から、教材研究、授業研究をおこない、学習指導案を作成するため月曜日・水曜日・金曜日の昼休みに、個別の指導・援助を行います。学習指導案を仕上げて練習し、授業で模擬授業を行います。模擬授業に関するレポートと、模擬授業をふまえてアップデートした学習指導案を提出してもらいます。また、他の学生の模擬授業への意見の提出を求めます。

成績評価の方法

毎時間ごとに提出する意見・質問20%、模擬授業の内容40%、学期末に提出するレポート・学習指導案40%によって評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。さらに到達目標に基づいて以下の点に着目して評価します。

- ①教材研究をおこなって授業内容・授業目標を理解把握できるか。
- ②授業研究にもとづき学習指導案を作成できたか。
- ③学習指導案にもとづいて的確な模擬授業ができたか。
- ④他の学生の模擬授業を正確に把握し意見をもっているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「教育方法論（社会・地歴・公民）」のほか、「社会科・地理歴史科教育法」もしくは「社会科・公民科教育法」を修得済であることが必須要件。なお、国際文化学科、現代社会学科では学科指定の必須要件科目があるので要注意。

テキスト

特になし。

参考書

授業で随時指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	社会科教育法B		
教員名	馬上 美知		
科目ナンバー	1191413312	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
「中学校学習指導要領解説 社会編」に基づいて公民領域の学習指導案を作成し、模擬授業を行うことで、授業を行うための基礎力を養成する。			
到達目標			
・学習指導要領における理解目標、態度能力目標、技能目標を理解する。 ・指導案を書くことができる。 ・指導案に基づいて、板書計画をたて、授業用資料を準備し、模擬授業を展開できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	授業課題と授業の進め方について		
	中学校「社会」の教科書に一通り目を通す。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90	
第2回	中学校社会科の内容		
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90	
第3回	教材研究と指導案作成		
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90	

第4回	模擬授業と検討 私たちの生活と文化	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第5回	模擬授業と検討 現代社会の見方や考え方	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第6回	模擬授業と検討 人権と日本国憲法	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第7回	模擬授業と検討 人権と共生社会	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第8回	模擬授業と検討 現代の民主政治	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第9回	模擬授業と検討 国の政治の仕組み	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90

第10回	模擬授業と検討 生産と労働	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第11回	模擬授業と検討 価格の動きと金融	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第12回	模擬授業と検討 政府の役割と国民の福祉	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第13回	模擬授業と検討 国際社会の仕組み	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第14回	模擬授業と検討 様々な国際問題	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第15回	まとめ	
	自身の模擬授業の省察 指導案の作り直し	90 90

授業の方法

指導案、板書計画、授業ノートを各自で作成し、全員が必ず模擬授業をおこなう。
状況に応じて講義内容が変更になる場合がある。

成績評価の方法

模擬授業 20% 指導案 60% 模擬授業検討時における意見 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「社会科・地理歴史科教育法」もしくは「社会科・公民科教育法」を修得済みであること。

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領解説 社会編」日本文教出版

参考書

「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校 社会」国立教育政策研究所

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	社会科・地理歴史科教育法		
教員名	大町 健		
科目ナンバー	1291413313	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
中学社会科・高校地理歴史科の歴史をたどり、その内容、目標、学力及び授業法をめぐる議論を取り上げ、社会科・地歴科教育の内容、課題を考えることを第一のテーマとします。そのことを踏まえて、授業と学習指導案作り具体的な検討のなかで、授業準備と学習指導案作りの実際を学び、3年次での社会科教育法・地理歴史科教育法での模擬授業に向けての学習指導案作りを授業の第二のテーマとします。			
到達目標			
中学社会科、高校地理歴史科の授業にむけて、以下の二点を到達目標とします。 （１）中学社会科・高校地理歴史科教育をめぐる学力と内容、課題を理解し、自らの意見を論述できる。 （２）社会科地理歴史科の学習指導案を作成できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	はじめに 授業内容、進め方、予習復習の仕方を説明する。		
	〔予習〕 シラバスをよく読んで、授業の内容目的、到達目標を確認する。 〔復習〕 授業の内容、目的、到達目標を確認する。	60分	
第2回	社会科・地理歴史科の歴史と指導要領 社会科・地歴科設置の経緯と総合社会科の歴史を学ぶ。		
	〔予習〕 社会科地理歴史科の学力についての参考文献を読み、意見をもつ。 〔復習〕 授業の内容を踏まえて改めて社会科・地理歴史科の学力について考える。	60分	
第3回	指導要領と学力論争 新学力観の目的・内容とその後の学力論争を学ぶ。		
	〔予習〕 社会科の学力についての参考文献を読み、意見をもつ。 〔復習〕 授業の内容を踏まえて改めて社会科の学力について考える。	60分	

第4回	社会科の学力をめぐる議論 基礎的知識か思考力・意見の形成か、討論する。	
	〔予習〕社会科の学力についての参考文献を読み、意見をもつ。 〔復習〕授業の内容を踏まえて改めて社会科の学力について考える。	60分
第5回	社会科・地理歴史科の授業をめぐる議論 楽しくわかる授業や討論授業について討論する	
	〔予習〕社会科・地理歴史科の授業についての参考文献を読み、意見をもつ。 〔復習〕授業の内容を踏まえて改めて社会科・地理歴史科の授業について考える。	60分
第6回	社会科地理歴史科の学力と授業の考え方 目指す学力と授業の構成のについての私案を示す。 社会科地理歴史科の学力と授業についてのレポート提出。	
	〔予習〕社会科地理歴史科の学力と授業についての参考文献を読み、意見をもちレポートを作成する。 〔復習〕授業の内容を踏まえて改めて社会科・地理歴史科の授業について考え、社会科・地理歴史科の学力と授業についてのレポートをまとめる。	120分
第7回	学習指導案とは 指導案を構成する項目の内容と狙いを学ぶ。	
	〔予習〕社会科・地理歴史科の指導案の題材を考える。 〔復習〕授業の内容を踏まえて、指導案の内容を考える。	90分
第8回	学習指導案作成に向けた教材研究と授業研究 具体的な授業例から授業内容の検討である教材研究と授業の構成の仕方の検討である授業研究の内容を検討する。学習指導案の題材を提出。	
	〔予習〕社会科・地理歴史科の学習指導案の題材を考える。 〔復習〕授業の内容を踏まえて、学習指導案作成に向けて教材研究をすすめる。	90分
第9回	学習指導案づくり（中学社会）1 中学社会（地理的分野）の授業を行い、それがどのような学習指導案にもとづくかを学ぶ。	
	〔予習〕社会科・地理歴史科の学習指導案作成に向けて教材研究をすすめる。 〔復習〕授業の内容を踏まえて、学習指導案作成に向けて教材研究をすすめる。	90分

第10回	学習指導案づくり（中学社会）2 前回の授業の学習指導案作成のためにどのような教材研究と授業研究が必要であるか学ぶ。	
	〔予習〕社会科・地理歴史科の学習指導案作成に向けて教材研究・をすすめる。 〔復習〕授業の内容を踏まえて、学習指導案作成に向けて教材研究をすすめる。	90分
第11回	学習指導案づくりに向けた教材研究 学習指導案作成に向けた教材研究の現状を報告し、検討する。	
	〔予習〕社会科・地理歴史科の学習指導案作成に向けて教材研究をすすめる。 〔復習〕授業の内容を踏まえて、学習指導案作成をすすめる。	90分
第12回	学習指導案づくり（高校地歴）1 高校地歴（日本史）の授業を行いそれがどのような学習指導案にもとづくか学ぶ。	
	〔予習〕社会科・地理歴史科の学習指導案作成をすすめる。 〔復習〕授業の内容を踏まえて、学習指導案作成をすすめる。	90分
第13回	指導案づくり（高校地歴）2 前回の授業の学習指導案作成のためにどのような教材研究と授業研究が必要であるか学ぶ。指導案づくり	
	〔予習〕社会科・地理歴史科の学習指導案作成をすすめる。 〔復習〕授業の内容を踏まえて、学習指導案作成をすすめる。	120分
第14回	学習指導案作成に向けた授業研究、学習指導案作成 学習指導案作成に向けた授業研究と学習指導案作成の現状を報告し、検討する。	
	〔予習〕社会科・地理歴史科の学習指導案作成をすすめる。 〔復習〕授業の内容を踏まえて、学習指導案を仕上げる。	120分
第15回	まとめ 社会科の学力と授業をめぐる論争をまとめて、学習指導案づくりでの注意点を確認する	
	〔予習〕提出した学習指導案を仕上げる。 〔復習〕自らの到達点を確認する。	60分

授業の方法

資料プリントを配布し、板書しながら講義します。また授業のなかで質問・意見を求めます。授業毎に意見・質問を書いてもらいます。授業の最後に全員がレポートとともに学習指導案を作成することを課題とします。

成績評価の方法

毎時間ごとに提出する意見・質問30%、学期途中に提出するレポート35%、学期末に提出する学習指導案35%によって評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。さらに到達目標に基づいて以下の点に着目して評価します。

- （１）中学社会科・高校地理歴史科教育をめぐる学力と内容、課題を理解し、自らの意見を論述できるか。
- （２）中学社会科・高校地理歴史科の学習指導案を作成できるか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

当科目は「社会科教育法」および「地理歴史科教育法」（３年次開講）の前提科目です。

テキスト

特になし

参考書

授業中に随時指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	地理歴史科教育法 a		
教員名	大町 健		
科目ナンバー	1191413314	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
2年次における社会科・地理歴史科教育法における学力と授業法の授業を前提とし、授業と学習指導案づくりの実例を示すとともに、受講生全員が一人一人、指導案を作成して、模擬授業をおこない、学習指導案作りと授業をおこなう力量を養うことをテーマとします。			
到達目標			
高等学校地理歴史科の授業に向けて以下の三点を到達目標とします。 ①教材研究をおこなって授業内容・授業目標を理解把握できる。 ②授業研究にもとづき学習指導案を作成できる。 ③指導案にもとづいて的確な模擬授業ができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	はじめに 授業内容、模擬授業の進め方を説明する。		
	〔予習〕 シラバスをよく読んで、授業の内容目的、到達目標を確認し、模擬授業の課題を考える。 〔復習〕 授業の内容、目的、到達目標を確認し、模擬授業の準備をすすめる。	60分	
第2回	高校地理歴史科の内容 高校生の発達段階を踏まえ学習指導における高校地理歴史科の位置と特徴をまなぶ。		
	〔予習〕 模擬授業の準備を進め、順番に学習指導案を提出する。 〔復習〕 授業の内容を踏まえて指導案を修正する。	120分	
第3回	高校地理歴史科の指導法 1 実際の授業をとおして、学習指導案づくりにおける教材研究と授業研究をまなぶ。		
	〔予習〕 模擬授業の準備を進め、順番に学習指導案を提出する。 〔復習〕 授業の内容を踏まえて学習指導案を修正する。	120分	

第4回	高校地理歴史科の指導法2 実際の授業をとおして、学習指導案づくりにおける教材研究と授業研究をまなぶ。	
	〔予習〕模擬授業の準備を進め、順番に学習指導案を提出する。 〔復習〕授業の内容を踏まえて学習指導案を修正する。	120分
第5回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第6回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第7回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第8回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、指導案を修正する。	120分
第9回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分

第10回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第11回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、指導案を修正する。	120分
第12回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第13回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第14回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、指導案を修正する。	120分
第15回	まとめ 模擬授業の講評を行い、レポートと学習指導案を集め、授業の到達点を確認する。	
	〔予習〕授業内容について確認し、レポート・学習指導案を仕上げる。 〔復習〕提出したレポート・学習指導案を振り返り、自らの到達点を確認する。	120分

授業の方法

初回～第4回までの授業は、資料プリントを配布し、板書をしながら講義します。初回の授業では、第5回以降の授業で行う模擬授業のテーマを提出してもらいます。その後、模擬授業の三週間前から、教材研究、授業研究をおこない、学習指導案を作成するため月曜日・水曜日・金曜日の昼休みに、個別の指導・援助を行います。学習指導案を仕上げて練習し、授業で模擬授業を行います。模擬授業に関するレポートと、模擬授業をふまえてアップデートした学習指導案を提出してもらいます。また、他の学生の模擬授業への意見の提出を求めます。

成績評価の方法

毎時間ごとに提出する意見・質問20%、模擬授業の内容40%、学期末に提出するレポート・学習指導案40%によって評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。さらに到達目標に基づいて以下の点に着目して評価します。

- ①教材研究をおこなって授業内容・授業目標を理解把握できているか。
- ②授業研究にもとづき指導案を作成できたか。
- ③指導案にもとづいて的確な模擬授業ができたか。
- ④他の学生の模擬授業を正確に把握し意見をもっているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「教育方法研究a・b」のほか、2年次配当の「社会科・地理歴史科教育法」での指導案作成を前提とします。「社会科・地理歴史科教育法」もしくは「社会科・公民科教育法」が修得済であることが必須要件ですが、「社会科・地理歴史科教育法」の単位が修得済であることが望まれます。また国際文化学科、現代社会文化学科では学科が指定する科目を修得しておくことが必須要件となっています。

テキスト

特になし

参考書

授業中に随時指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	地理歴史科教育法 b		
教員名	大町 健		
科目ナンバー	1191413314	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
2年次における社会科・地理歴史科教育法における学力と授業法の授業を前提とし、授業と学習指導案づくりの実際例を示すとともに、受講生全員が一人一人、指導案を作成して、模擬授業をおこない、学習指導案作りと授業をおこなう力量を養うことをテーマとします。			
到達目標			
高等学校地理歴史科の授業に向けて以下の三点を到達目標とします。 ①教材研究をおこなって授業内容・授業目標を理解把握できる。 ②授業研究にもとづき学習指導案を作成できる。 ③指導案にもとづいて的確な模擬授業ができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	はじめに 授業内容、模擬授業の進め方を説明する。		
	〔予習〕 シラバスをよく読んで、授業の内容目的、到達目標を確認し、模擬授業の課題を考える。 〔復習〕 授業の内容、目的、到達目標を確認し、模擬授業の準備をすすめる。		60分
第2回	高校地理歴史科の内容 高校生の発達段階を踏まえ学習指導における高校地理歴史科の位置と特徴をまなぶ。		
	〔予習〕 模擬授業の準備を進め、順番に学習指導案を提出する。 〔復習〕 授業の内容を踏まえて指導案を修正する。		120分
第3回	高校地理歴史科の指導法 1 実際の授業をとおして、学習指導案づくりにおける教材研究と授業研究をまなぶ。		
	〔予習〕 模擬授業の準備を進め、順番に学習指導案を提出する。 〔復習〕 授業の内容を踏まえて学習指導案を修正する。		120分

第4回	高校地理歴史科の指導法2 実際の授業をとおして、学習指導案づくりにおける教材研究と授業研究をまなぶ。	
	〔予習〕模擬授業の準備を進め、順番に学習指導案を提出する。 〔復習〕授業の内容を踏まえて学習指導案を修正する。	120分
第5回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第6回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第7回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第8回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、指導案を修正する。	120分
第9回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分

第10回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第11回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、指導案を修正する。	120分
第12回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第13回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、学習指導案を修正する。	120分
第14回	受講生による模擬授業 受講生が模擬授業をおこない、内容を検討する	
	〔準備学修〕模擬授業に向けて学習指導案を作成し、指導を受け、模擬授業の練習をする。模擬授業が終わった者は、レポートを作成し、指導案を修正する。	120分
第15回	まとめ 模擬授業の講評を行い、レポートと学習指導案を集め、授業の到達点を確認する。	
	〔予習〕授業内容について確認し、レポート・学習指導案を仕上げる。 〔復習〕提出したレポート・学習指導案を振り返り、自らの到達点を確認する。	120分

授業の方法

初回～第4回までの授業は、資料プリントを配布し、板書をしながら講義します。初回の授業では、第5回以降の授業で行う模擬授業のテーマを提出してもらいます。その後、模擬授業の三週間前から、教材研究、授業研究をおこない、学習指導案を作成するため月曜日・水曜日・金曜日の昼休みに、個別の指導・援助を行います。学習指導案を仕上げて練習し、授業で模擬授業を行います。模擬授業に関するレポートと、模擬授業をふまえてアップデートした学習指導案を提出してもらいます。また、他の学生の模擬授業への意見の提出を求めます。

成績評価の方法

毎時間ごとに提出する意見・質問20%、模擬授業の内容40%、学期末に提出するレポート・学習指導案40%によって評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。さらに到達目標に基づいて以下の点に着目して評価します。

- ①教材研究をおこなって授業内容・授業目標を理解把握できているか。
- ②授業研究にもとづき指導案を作成できたか。
- ③指導案にもとづいて的確な模擬授業ができたか。
- ④他の学生の模擬授業を正確に把握し意見をもっているか。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「教育方法研究a・b」のほか、2年次配当の「社会科・地理歴史科教育法」での指導案作成を前提とします。「社会科・地理歴史科教育法」もしくは「社会科・公民科教育法」が修得済であることが必須要件ですが、「社会科・地理歴史科教育法」の単位が修得済であることが望まれます。また国際文化学科、現代社会文化学科では学科が指定する科目を修得しておくことが必須要件となっています。

テキスト

特になし

参考書

授業中に随時指示します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知します。

科目名	社会科・公民科教育法 a		
教員名	馬上 美知		
科目ナンバー	1291413315	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
中学校社会科及び高校公民科の学習指導要領の目標及び内容を理解する。また、各出版社から出版されている教科書が学習指導要領をどのように具体化しようとしているのかを理解する。その理解に基づいて履修者全員が学習指導案を作成し、グループによる模擬授業を行う。			
到達目標			
・ 学習指導要領における目標及び内容、指導上の留意点を理解する。 ・ 学習指導要領への理解に基づいて学習指導案を書くことができる。 ・ よりよい授業を構想できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	授業内容と授業の進め方について		
	授業の位置づけを確認する。 中学及び高校公民領域の教科書に目を通す。	30 60	
第2回	公民科において育成が目指される資質能力		
	学習指導要領の該当箇所に目を通す。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90	
第3回	「私たちと現代社会」目標と内容		
	学習指導要領の該当箇所に目を通す。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90	

第4回	「私たちと現代社会」教材研究	
	最低3社の教科書の該当箇所を読んでもくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第5回	「私たちと現代社会」指導案作成	
	学習指導要領の該当箇所に目を通す。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第6回	「私たちと現代社会」模擬授業	
	学習指導要領の該当箇所に目を通す。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第7回	「私たちと経済」目標と内容	
	学習指導要領の該当箇所に目を通す。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第8回	「私たちと経済」教材研究	
	最低3社の教科書の該当箇所を読んでもくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第9回	「私たちと経済」指導案作成・発表	
	学習指導要領の該当箇所に目を通す。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90

第10回	「私たちと経済」模擬授業	
	学習指導要領の該当箇所に目を通す。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第11回	「私たちと政治」目標と内容	
	学習指導要領の該当箇所に目を通す。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第12回	「私たちと政治」教材研究	
	最低3社の教科書の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第13回	「私たちと政治」指導案作成	
	学習指導要領の該当箇所に目を通す。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第14回	「私たちと政治」模擬授業	
	学習指導要領の該当箇所に目を通す。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第15回	振り返り	
	自身の模擬授業の省察 指導案の作り直し	90 90

授業の方法

- ・講義とグループ作業、発表を行う。
- ・状況に応じて授業内容が変更になる場合がある。

成績評価の方法

グループワークへの積極的な参加 20% 模擬授業 20% 学期末提出の指導案 60%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

教育方法研究を履修していることが望ましい。

テキスト

中学校学習指導要領解説 社会編（平成29年6月公示）
高等学校指導要領解説 公民編

参考書

中学校および高等学校の公民領域の教科書
国立教育政策研究所『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料』
文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集』
一般財団法人日本視聴覚教育協会『教育ICT活用事例集』

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	公民科教育法 a		
教員名	馬上 美知		
科目ナンバー	1191413316	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
「高等学校学習指導要領解説 公民編」に基づいて学習指導案を作成し、模擬授業を行うことで、授業を行うための基礎力を養成する。			
到達目標			
・学習指導要領における理解目標、態度能力目標、技能目標を理解する。 ・指導案を書くことができる。 ・指導案に基づいて、板書計画をたて、授業用資料を準備し、模擬授業を展開できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	授業課題と授業の進め方について		
	高校「公民」の教科書に一通り目を通す。 授業時に提示した課題を完成させる。		90 90
第2回	高校公民科の内容と指導案作成		
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。		90 90
第3回	模擬授業と検討 現代社会（私たちの生きる社会）		
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。		90 90

第4回	模擬授業と検討 現代社会（現代の民主政治と政治参加の意義）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第5回	模擬授業と検討 現代社会（個人の尊重と法の支配）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第6回	模擬授業と検討 現代社会（現代の経済社会と経済活動の在り方）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第7回	模擬授業と検討 現代社会（国際社会の動向と日本の果たすべき役割）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第8回	模擬授業と検討 倫理（人間としての自覚）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第9回	模擬授業と検討 倫理（国際社会に生きる日本人としての自覚）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90

第10回	模擬授業と検討 倫理（現代に生きる人間の倫理）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第11回	模擬授業と検討 倫理（現代の諸課題と倫理）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第12回	模擬授業と検討 政治・経済（民主政治の基本原理と日本国憲法）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第13回	模擬授業と検討 政治・経済（現代の国際政治）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第14回	模擬授業と検討 政治・経済（国民経済と国際政治）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第15回	まとめ	
	自身の模擬授業の省察 指導案の作り直し	90 90

授業の方法

指導案、板書計画、授業ノートを各自で作成し、全員が必ず模擬授業をおこなう。
状況に応じて講義内容が変更になる場合がある。

成績評価の方法

模擬授業 20% 指導案 60% 模擬授業検討時における意見 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「社会科・地理歴史科教育法」もしくは「社会科・公民科教育法」を修得済みであること。

テキスト

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版

参考書

「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校公民」国立教育政策研究所

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	公民科教育法 b		
教員名	馬上 美知		
科目ナンバー	1191413316	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
「高等学校学習指導要領解説 公民編」に基づいて学習指導案を作成し、模擬授業を行うことで、授業を行うための基礎力を養成する。			
到達目標			
・学習指導要領における理解目標、態度能力目標、技能目標を理解する。 ・指導案を書くことができる。 ・指導案に基づいて、板書計画をたて、授業用資料を準備し、模擬授業を展開できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	授業課題と授業の進め方について		
	高校「公民」の教科書に一通り目を通す。 授業時に提示した課題を完成させる。		90 90
第2回	高校公民科の内容と指導案作成		
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。		90 90
第3回	模擬授業と検討 現代社会（私たちの生きる社会）		
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。		90 90

第4回	模擬授業と検討 現代社会（現代の民主政治と政治参加の意義）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第5回	模擬授業と検討 現代社会（個人の尊重と法の支配）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第6回	模擬授業と検討 現代社会（現代の経済社会と経済活動の在り方）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第7回	模擬授業と検討 現代社会（国際社会の動向と日本の果たすべき役割）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第8回	模擬授業と検討 倫理（人間としての自覚）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第9回	模擬授業と検討 倫理（国際社会に生きる日本人としての自覚）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90

第10回	模擬授業と検討 倫理（現代に生きる人間の倫理）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第11回	模擬授業と検討 倫理（現代の諸課題と倫理）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第12回	模擬授業と検討 政治・経済（民主政治の基本原理と日本国憲法）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第13回	模擬授業と検討 政治・経済（現代の国際政治）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第14回	模擬授業と検討 政治・経済（国民経済と国際政治）	
	学習指導要領解説の該当箇所を読んでくる。 授業時に提示した課題を完成させる。	90 90
第15回	まとめ	
	自身の模擬授業の省察 指導案の作り直し	90 90

授業の方法

指導案、板書計画、授業ノートを各自で作成し、全員が必ず模擬授業をおこなう。
状況に応じて講義内容が変更になる場合がある。

成績評価の方法

模擬授業 20% 指導案 60% 模擬授業検討時における意見 20%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「社会科・地理歴史科教育法」もしくは「社会科・公民科教育法」を修得済みであること。

テキスト

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 公民編』教育出版

参考書

「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校公民」国立教育政策研究所

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	英語科教育法Ⅰ		
教員名	小野 尚美		
科目ナンバー	1291413371	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
この授業では、日本における英語教育の意義と目的を考えながら、英語指導の実践方法について模索する。概要としては、日本の英語教育の歴史を概観し、学習指導要領を読みながら、日本人が目指すコミュニケーション能力とは何かを理解し、現役の英語教師の授業方法のDVDを見ながら効果的な英語の教え方について学んでいく。中学校及び高等学校の英語教員資格取得を目指すため、教授法に関する理論的知識の習得と実践方法について学ぶことを目標としている。			
到達目標			
教員採用試験を目指す学生のために、この授業の到達目標は、下記の通りである。			
① 日本の英語教育の変遷と現状について理解する。 ② 中学校及び高等学校指導要領についての基本的知識を習得する。 ③ 指導案とその書き方について学ぶ。 ④ 「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表とやりとり）」「書くこと」の指導方法について学ぶ。 ⑤ 授業運営方法の基礎を学ぶ。 ⑥ コミュニケーション能力を高めるための指導方法についての理解を深め、模擬授業でその具体的な指導方法を模索する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	授業内容を説明し、模擬授業の割り当てを決め、学会参加スケジュールの説明を行う。 英語教育の意義と目的を考える（テキスト第1 章） ・国際化と英語教育の重要性 国際理解と早期英語教育への展望 (テキスト 第10章) ・小学校英語と中学校英語の連携 テキスト第1章を読んでくる。		
			30
第2回	学習指導要領のねらい（テキスト第3章、4節） ・学習指導要領の基本方針 ・中学校における 英語教育のねらい テキスト第5章、1節（リスニング） ・モデル授業観察 1（聞くこと） テキスト第5章、1節（リスニング）を読んでくる。		
			90
第3回	学習指導要領のねらい（テキスト第3章、第4節） ・高等学校における英語教育のねらい テキスト第5章3節（リーディング） ・モデル授業観察 2（読むこと） テキスト第5章3節（リーディング）を読んでくる。第2回で配られたプリントを復習する。		
			90
第4回	テキスト第5章2節（スピーキング） ・モデル授業観察 3（話すこと）		

	テキスト第5章2節(スピーキング)を読んでくる。第3回で配られたプリントを復習する。	90
第5回	テキスト第5章4節(ライティング) ・モデル授業観察 4 (書くこと)	
	テキスト第5章4節(ライティング)を読んでくる。第4回で配られたプリントを復習する。	90
第6回	授業運営 (テキスト 第7章) ・指導案の書き方 ・授業運営方法	
	第7章1節を読んでくる。書くことについてのプリントを復習する。	90
第7回	コミュニケーション能力を高めるための教え方 (テキスト 第3章) ・コミュニケーション能力の定義 ・4技能を統合させた指導 ・モデル授業観察 6 (題材内容)	
	第3章(指導法)を読んでくる。また、4技能についてのプリントの復習をする。	90
第8回	実践授業参観： 現役の教員による実践授業(達人による指導法DVD)を見る。 タスクについて考える	
	第13章(教材開発)を読んでくる。また、4技能についてのプリントの復習をする。	90
第9回	Oral Introductionを練習する	
	Oral Introductionの発表準備をしてくる。	90

第10回	実践授業参観： 現役の教員による実践授業（達人による指導法DVD）を見る。 タスクについて考える	
	4スキルの教え方についてのプリントを復習する。	90
第11回	Oral Introduction を含む模擬授業 1 ディスカッションと合評	
	模擬授業の担当者は、授業のための準備をする。	90
第12回	Oral Introduction を含む模擬授業 2 ディスカッションと合評	
	模擬授業の担当者は、授業のための準備をする。	90
第13回	Oral Introduction を含む模擬授業 3 ディスカッションと合評	
	到達度確認テストのための復習をする。	120
第14回	到達度確認テスト	
	到達度テストの振り返りをする。間違ったところを確認する。	90
第15回	到達度確認テストの振り返りと授業のまとめ	
	授業の総復習をする。	120

授業の方法

基本的には、講義と学生の発表という2つの形式で行う。学生は、モデル授業観察(DVD等)についてのディスカッションに積極的に参加することが期待され、模擬授業(マイクロティーチング)を行うことになっている。

成績評価の方法

試験40%、参加度(模擬授業のプレゼンテーション、ディスカッション、レポート等を含む)を60%として評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識/先修科目/関連科目

特になし。

テキスト

高梨庸雄、高橋正夫(編著)。(2012)『新・英語教育学概論(改訂版)』東京:金星堂。(3600円+税)
中学校指導要領(Webからコピー可)
高等学校指導要領(Webからコピー可)

参考書

Brown, H.D. (2000). "Principles of Language Learning and Teaching." New York: Pearson Education.
Ellis Rod. (1995). "Second Language Acquisition." Oxford: Oxford University Press.
Lightbown, Patsy and Nina Spade. (2010). "How Languages are Learned." Oxford University Press.
小池生夫(監修)。(1994)『第二言語習得研究に基づく最新の英語教育』大修館書店。
小池生夫(編集主幹)。(2003)『応用言語学事典』研究社。
小池生夫(編集主幹)。(2004)『第二言語習得研究の現在』大修館書店。
高島英幸(編著)。(2000)『実践的コミュニケーション能力のための英語のタスク活動と文法指導』大修館書店。
高島英幸(編著)。(2005)『文法項目別の英語のタスク活動とタスク』大修館書店。

他の関係論文及び資料はクラスで配布予定。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	英語科教育法II a		
教員名	小野 尚美		
科目ナンバー	1191413372	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要

この授業のテーマは、「日本の風土に合った教授法の模索」である。中学校及び高等学校の英語教員資格取得を目指している学生のためのクラスであり、「英語科教育法I」に引き続き、教授法に関する実践方法、教材や評価についての基本的知識を学ぶ。また、日本の風土に合った指導法の必要性という観点から、理論面と授業実践とのギャップを把握し、教育実践現場での問題点に対して具体的な解決法を模索する場を提供するものである。

到達目標

日本の英語学習者の英語能力を伸ばすことのできる知識と技術を身につけるために、この授業の到達目標は、下記の通りである。

- ① 日本の英語教育の現状について関心を持ち、理解を深める。
- ② 指導法とその背景となっている理論を学ぶ。
- ③ タスクの作り方について学ぶ。
- ④ 4技能を統合した指導法を模索する。
- ⑤ 日本の英語授業に役立つ教え方を模索する。

授業の計画と準備学修

回数	授業の計画・内容	準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)
第1回	授業内容を説明し、模擬授業の割り当てを決める。 英語教授法・モデル授業観察 (DVD) (Audio-Lingual Method)	
	Larsen-Freemanの第2章と第4章を読んでくる。	120
第2回	英語教授法・Audio-lingual Methodについてのディスカッション Grammar-Translation methodについてのディスカッション モデル授業観察 (DVD)、 (TPR)	
	Larsen-Freemanの第2章と第4章の復習をする。	90
第3回	英語教授法・TPRについてのディスカッション モデル授業観察 (DVD)、 (Desuggestopedia)	
	Larsen-Freemanの第8章を読み、復習する。	90

第4回	英語教授法・Desuggestopediaについてのディスカッション モデル授業観察 (DVD)、 (Communicative Approach)	
	Larsen-Freemanの第6章を読んで、 復習する。	90
第5回	英語教授法・Communicative Approachについてのディスカッション モデル授業観察 (DVD)、 (Community Language Learning)	
	Larsen-Freemanの第9章を読んで、 復習する。	90
第6回	英語教授法・Community Language Learningについてのディスカッション モデル授業観察 (DVD)、 (The Silent Way)	
	Larsen-Freemanの第7章を読んで、 復習する。	90
第7回	英語教授法・The Silent Wayについてのディスカッション 実践授業参観：現役の教員による授業 (DVD) を見る。	
	Larsen-Freemanの第5章を読んで、 復習する。	90
第8回	英語教授法・Content-based Language Teaching, Task-based Language Teachingについての説明、ディスカッション	
	Larsen-Freemanの第10章と第11章を読み、復習をする。 その他の学生は、Larsen-Freemanのテキストの復習をする。	90
第9回	Audio-Lingual Methodによる模擬授業1、 ディスカッション 及び 合評	
	模擬授業担当者は、授業の準備をする。その他の学生は、Larsen-Freemanのテキストの復習をする。	90

第10回	TPRを使った模擬授業2、ディスカッション及び 合評	
	模擬授業担当者は、授業の準備をする。その他の学生は、Larsen-Freemanのテキストの復習をする。	90
第11回	Communicative Approachによる模擬授業3、ディスカッション 及び 合評	
	模擬授業担当者は、授業の準備をする。その他の学生は、Larsen-Freemanのテキストの復習をする。	90
第12回	The Silent Wayを使った模擬授業4、ディスカッション 及び 合評	
	模擬授業担当者は、授業の準備をする。その他の学生は、Larsen-Freemanのテキストの復習をする。	90
第13回	Task-Based Teachingによる模擬授業5、ディスカッション 及び 合評	
	模擬授業担当者は、授業の準備をする。その他の学生は、Larsen-Freemanのテキストの復習をする。 到達度確認テストの勉強をする。	90
第14回	到達度確認テスト	
	到達度確認テスト答えを確認する。	180
第15回	到達度確認テストの振り返り、総復習	
	授業の総復習	60

授業の方法

基本的には、講義と学生の発表の2つの形式で行う。学生は、モデル授業観察についてのディスカッションに積極的に参加することが期待され、教授法についての発表、模擬授業（マイクロティーチング）を行うことになっている。

成績評価の方法

試験50%、参加度（模擬授業のプレゼンテーション、ディスカッション等を含む）を50%として評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

英語科教育法Iを履修済みであること。

テキスト

高梨庸雄、高橋正夫（編著）．（2011）．『新・英語教育学概論』（改訂版）東京：金星堂．（3600円＋税）
Larsen-Freeman, Diane and Marti Anderson．（2011）．“Techniques & Principles in Language Teaching (3rd Ed.).”
Oxford.
中学校指導要領（Webらコピー可）
高等学校指導要領（Webからコピー可）

参考書

Brown, H.D. (2000). “Principles of Language Learning and Teaching.” New York: Pearson Education.
Ellis Rod. (1995). “Second Language Acquisition.” Oxford: Oxford University Press.
Lightbown, Patsy and Nina Spade. (2010). “How Languages are Learned.” Oxford University Press.
飯野至誠. (1989). 『英語の教育—変遷と実践』 大修館書店.
片山嘉雄、遠藤栄一、佐々木昭、松村幹男（編）. (1993). 『新・英語科教育の研究』（改訂版） 大修館書店.
小池生夫（監修）. (1994). 『第二言語習得研究に基づく最新の英語教育』 大修館書店.
小池生夫（編集主幹）. (2003). 『応用言語学事典』 研究社.
小池生夫（編集主幹）. (2004). 『第二言語習得研究の現在』 大修館書店.
望月昭彦、山田登. (2000). 『私の英語授業』 大修館書店.
高島英幸（編著）. (2000). 『実践的コミュニケーション能力のための英語のタスク活動と文法指導』 大修館書店.
高島英幸（編著）. (2005). 『文法項目別の英語のタスク活動とタスク』 大修館書店.
他の関係論文及び資料はクラスで配布予定。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	英語科教育法III		
教員名	斉田 智里		
科目ナンバー	1191413373	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テーマ：生徒の資質・能力を高める指導及び授業づくり 概要：中学校及び高等学校外国語（英語）の学習指導要領に基づいた学習到達目標の設定、学習到達目標に基づいた年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画といった一連の指導の流れを理解する。第二言語習得プロセスを理解した上で、学習指導案を作成し、授業実践を行う。英語の5つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り・発表〕、書くこと）や複数の領域を統合した言語活動の指導、及び言語知識（文法、音声、語彙・表現等）の指導を理解し、模擬授業を通して実践力を養成していく。			
到達目標			
1）学習到達目標に基づく授業の組立てを理解し、授業指導に生かすことができる。 2）学習指導案の作成について理解し、授業指導に生かすことができる。 3）5つの領域（聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り・発表〕、書くこと）や複数の領域を統合した言語活動、及び言語知識（文法、音声、語彙・表現等）の指導を理解し、授業指導に生かすことができる。 4）第二言語習得理論とその活用について理解し、授業指導に生かすことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	オリエンテーション（講義の目的、内容、課題、評価方法、参考書等の紹介、次回課題） 英語科における学習指導の在り方、進め方		
	学習指導要領外国語解説（中・高）を読んでくる。	90分	
第2回	教科用図書の研究（指導の観点から）		
	第1回の復習レポート作成 第2回の予習課題	90分	
第3回	学習到達目標の設定と年間指導計画、単元計画、各時間の指導計画		
	第2回の復習レポート作成 第3回の予習課題	90分	

第4回	第二言語習得プロセスと英語科指導 授業構成と学習指導案の書き方	
	第3回の復習レポート作成 第4回の予習課題	90分
第5回	第二言語習得プロセスと英語科指導 授業を英語で行うための英語表現	
	第4回の復習レポート作成 第5回の予習課題	90分
第6回	第二言語習得プロセスと英語科指導 オーラル・イントロダクションの進め方	
	第5回の復習レポート作成 第6回の予習課題	90分
第7回	言語知識（文法）の指導	
	第6回の復習レポート作成 第7回の予習課題	90分
第8回	聞くことの指導	
	第7回の復習レポート作成 第8回の予習課題	90分
第9回	読むことの指導	
	第8回の復習レポート作成 第9回の予習課題	90分

第10回	話すこと〔やり取り・発表〕の指導	
	第9回の復習レポート作成 第10回の予習課題	90分
第11回	書くことの指導	
	第10回の復習レポート作成 第11回の予習課題	90分
第12回	複数の領域を統合した言語活動の指導	
	第11回の復習レポート作成 模擬授業（中学校）の準備	90分
第13回	模擬授業（中学校）	
	模擬授業の（中学校）振り返り、改善策の検討、レポート作成 模擬授業（高等学校）の準備	90分
第14回	模擬授業（高等学校）	
	模擬授業（高等学校）の振り返り、改善策の検討、レポート作成 第1回から第14回までの復習	90分
第15回	総括、試験	
	総括の復習、試験結果の分析	90分

授業の方法

授業では、毎回出される課題について予習を行い、授業中にグループで発表・議論を行い、全体で討議する。第二言語習得のプロセスを理解し、学習指導案を作成し、授業の展開場面に応じた指導実習を行う。5つの領域や複数の領域を統合した言語活動の指導及び言語知識の指導については、基本的な考え方を理解した上で、代表的な指導法についてグループ内で実習を行う。中学校と高等学校の学習指導案の作成及び模擬授業をグループごとに行い、相互評価を行い改善策を検討する。

成績評価の方法

* 出席は必要条件

毎回の予習実施状況、復習レポート作成、授業における発表や議論への参加状況、授業実習や模擬授業、試験の総合評価

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準ずる。

予習課題実施状況・復習レポート（20%）

発表及び実習（40%）

試験（40%）

必要な予備知識／先修科目／関連科目

英語科教育法を受講していること。関連科目：「英語科教育法Ⅰ」「英語科教育法Ⅱ」「英語科教育法Ⅳ」

テキスト

- ・ 中学校、高等学校学習指導要領
- ・ 中学校、高等学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編
- ・ 中学校、高等学校の英語科教科用図書

参考書

- ・ Brown, H. D., & Lee, H. (2015). Teaching by principles: An interactive approach to language pedagogy, 4th edition. NY: Pearson Education.
- ・ 必要に応じて適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

講義終了後、教室あるいは講師控室で受け付ける。

科目名	英語科教育法Ⅳ		
教員名	斉田 智里		
科目ナンバー	1191413374	単位数	2
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テーマ：英語科教育における学習評価 概要：中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価基準の設定、評定への総括の仕方について理解し、指導に生かせるようにする。小学校外国語活動や外国語における学習評価の在り方についても考える。さらに、言語能力の測定と評価の方法についても理解し、指導に生かせるようにする。観点別評価基準の設定、及びテスト作成の実習を通して、指導と評価の一体化の重要性を理解する。			
到達目標			
1) 観点別学習状況の評価とそれに基づく評価基準の設定や評定への総括について理解し、指導に生かすことができる。 2) 言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む）について理解し、指導に生かすことができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	オリエンテーション（講義の内容、内容、講義計画、課題、評価方法、参考図書の紹介） 英語科教育における学習評価の在り方、進め方		
	「中学校、高等学校評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」を読んてくる。	90分	
第2回	教科用図書の研究（評価の観点から）		
	第1回の復習レポート作成 第2回の予習課題	90分	
第3回	学習到達目標の設定と観点別学習状況の評価、評価基準の設定と評定への総括		
	第2回の復習レポート作成 第3回の予習課題	90分	

第4回	評価の方法、及び、教室内テストの作成手順	
	第3回の復習レポート作成 第4回の予習課題	90分
第5回	言語能力の測定と評価に関する基礎的な概念	
	第4回の復習レポート作成 第5回の予習課題	90分
第6回	外部英語試験	
	第5回の復習レポート作成 第6回の予習課題	90分
第7回	言語知識（文法）の評価	
	第6回の復習レポート作成 第7回の予習課題	90分
第8回	聞くことの評価	
	第7回の復習レポート作成 第8回の予習課題	90分
第9回	読むことの評価	
	第8回の復習レポート作成 第9回の予習課題	90分

第10回	話すこと〔やり取り、発表〕の評価	
	第9回の復習レポート作成 第10回の予習課題	90分
第11回	書くことの評価	
	第10回の復習レポート作成 第11回の予習課題	90分
第12回	複数の領域を統合した言語活動の評価	
	第11回の復習レポート作成 評価規準の設定・テスト作成（筆記テスト）の準備	90分
第13回	評価規準の設定・テスト作成実習（筆記テスト）	
	評価規準の設定・テスト作成（筆記テスト）の改善策の検討、レポート作成 評価規準の設定・テスト作成（パフォーマンステスト）の準備	90分
第14回	評価規準の設定・テスト作成実習（パフォーマンス・テスト）	
	評価規準の設定・テスト作成の改善策の検討、レポート作成 第1回から第14回までの復習	90分
第15回	総括、試験	
	総括の復習、試験結果の分析	90分

授業の方法

毎回出される課題を予習し、授業内ではグループで発表・議論をし、全体で討議する。観点別評価規準の設定とそれに基づくテスト作成実習を行う。毎回の授業内容を振り返り復習レポートを作成する。

成績評価の方法

* 出席は必要条件とする。

毎回の課題実施状況、授業における発表及び評価実習への取組、試験の総合評価

成績評価の基準

予習課題実施状況・復習レポート (20%)

発表及び実習 (40%)

試験 (40%)

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「英語科教育法Ⅰ」、「英語科教育法Ⅱ」、「英語科教育法Ⅲ」

テキスト

- ・ 中学校、高等学校学習指導要領 外国語
- ・ 中学校、高等学校学習指導要領解説 外国語活動編・外国語編
- ・ 中学校、高等学校の英語科教科用図書
- ・ 中学校、高等学校評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料

参考書

- ・ Brown, H. D., & Abeywickrama, P. (2010). Language Assessment: Principles and Classroom Practices, 2nd edition. NY: Pearson Education.
- ・ 「英語教育学大系第13巻 テスティングと評価」 石川・西田・斉田他編 (大修館書店)
- ・ 必要に応じて適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後、教室あるいは講師控室にて受け付ける。

科目名	道徳教育論 a		
教員名	小池 俊夫		
科目ナンバー	1291413501	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期

テーマ・概要			
▼テーマ 今日学校教育は、多くの課題を背負っています。その中心とも言える重要な課題は「心の教育」であると言っても良いでしょう。「いじめ防止対策推進法」施行から4年半を経ても、相変わらず「いじめ」は跡を絶ちませんし、教育格差も広がっています。これは、学力向上や学習過程の質的改善（アクティブ・ラーニング）、グローバル社会で活躍するための英語力の強化充実、ICTの活用などに、勝るとも劣らない、いよもっと重大で本質的な課題だと言えます。「心の教育」は、道徳科だけで行われるものではなく、学校教育のすべてにおいて、更には家庭や地域との連携において行われるものですが、その「核」となるのが「特別の教科 道徳」です。 この教科については、中央教育審議会答申（2014年）を受けて、文部科学省は今年度から小学校で、来年度からは中学校での開設を決め、いよいよ本格実施となります。「学習指導要領」実施に先行するものです。このような転換期の状況も踏まえて、道徳教育とは何か、教師としてどのように実践するべきなのかを、具体的に考究していきます。 ▼概要 現在の受講者が、実際に教師となる時には、上述したように道徳科が全面实施をされています。そのことに鑑み、移行期にある現在の中学校での道徳教育の実践を踏まえながら、道徳教育の基礎的な理論、意義と目的、内容と方法などについての正しい理解を深めることに努めます。特に1872年の学制以来のわが国の道徳教育の歴史的変遷を振り返り、「今、なぜ教科とされたのか」についても、正しく判断を下し、望ましい指導・対応ができる力を培います。その上で、これまでの「道徳の時間」を検証し、思弁的ではなく、教師としての具体的な実践力を獲得できるように、十分に意を用います。道徳は特定の思想や宗教、時の権力などに左右されてはならないものですし、この教科の担い手となる担任教師を務めるすべての教師に充実した実践が求められるものです。教員免許状を取得する予定の、すべての受講者に必須の力を確かなものとしてほしいと考えています。 また、高等学校には道徳科の設置はありませんが、道徳教育が重要であることには何ら変わりはありません。この科目の学びは、高等学校での道徳教育推進にとっても有効・有益なものとなります。			

到達目標			
▼到達目標 道徳教育に対する社会的背景やニーズ、学習指導要領で道徳教育に期待されている役割についての理解を深め、確かなものとするともに、その「要」となる「特別の教科 道徳」を充実したものとし、今後の教科としての「道徳科」の実践に必要な基礎的な指導力・実践力を習得することを目標とします。つまり、 ① 道徳教育の基礎理論・指導理論や道徳教育の歴史展開を正しく理解し、説明することができる。 ② 道徳教育の課題を理解することができ、教科設置の意図・背景を理解し、自身の考え・主張を明らかにすることができる。 ③ 道徳の授業の方法、教科書を初め教材・素材の発掘・活用・批判的分析、道徳教育の評価に関する基礎的な力を獲得すること。 ことを到達目標とします。 以上のことは、DP3（他者との協働）を実現するために、「多様な価値観を理解し、他者を思いやり、意思の疎通を図り共感しつつも自己の主張が適切にできる力」を身につけることでもあります。			

授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	1 プロローグ〈道徳教育とは何か〉 ・授業のオリエンテーションとして、「道徳教育論」という科目の概要を把握する。 ・テキストの概要を把握する。 ・「モラル」「マナー」「ルール」という言葉の比較によって、「道徳」のイメージを明らかにし、その位置づけができるようにする。		
	【予習】シラバス全体によく目を通して、この科目のテーマ・内容・到達目標などを確認して授業に臨むこと。これは受講のための必須要件である。また、中学生時代の「道徳の時間」を思い起こし、使用した「心のノート」「私たちの道徳」があれば目を通しておくこと。 【復習】「初め良ければ終り良し」の諺もあるので、今日の授業を反芻し、改めて次回からの14回の展望を自分なりにしておく。		60
第2回	2 道徳教育の必要性と、今日の道徳教育の実態 ・「道徳教育」をめぐる国（文科省）の考え、それに対する賛否の意見を照らし合わせながら、問題のポイントを把握する。 ・「特別の教科 道徳」設置の経緯を正しく理解する。 ・授業のキーワードは「心の教育」と「豊かな心」であることを納得できるようになる。		
	【予習】第1回目の授業を再確認し、自分自身の体験と結びつけ、「道徳教育（「道徳の時間」を中心に）によって獲得されたもの」を整理しておくこと。その際、テキスト第1部第1章（以後、第7回目までは第1部）を丁寧に読んでおくこと。		60
第3回	3 人間の本質と道徳性 ・「人間の本質と道徳性」について深く考え、「人間はどこまで進歩したか」という問いに自分なりの答えが出せるようにする。 ・認知発達論や精神分析論の知見から、道徳性の発達を見ることができるようになる。		

	【復習】授業時に配布した資料を丁寧に読み返し、「問」に対する見解を再吟味しておくこと。テキスト第2章をもう一度読んで、理解を確実にするとともに、問題点が指摘できるようにする。次回に質問する用意しておくこと。	60
第4回	4 わが国の道徳教育の歴史 一戦前編ー ・前近代で重視された道徳的価値観は何だったのかを調べ、明治の近代教育によって、それがどう変容したのかを考える。 ・「教育勅語」はどのようにして成立したのか。戦前の日本の教育にどのような意味をもったのか。これらを歴史的に考察し、明らかにする。	
	【予習】まずは、高等学校での「日本史」学習を思い返し、幕末から現代までのわが国の流れを概観しておくこと。（「日本史」を履修していなくても、同程度の把握はしておくこと。）その上で、「教育勅語」の史料を熟読し、その内容を理解しておくこと。不明な点や疑問に思う点があれば、授業時に明らかにできるように準備しておくこと。テキストは第6章を精読する。 【復習】第4回のテーマについて、納得ができるかどうかの確認をする。不明な部分があれば、次回に質問すること。	70
第5回	5 わが国の道徳教育の歴史 一戦後編ー ・戦前と戦後の道徳教育を対比させて、基本的な共通性と差異性とを明確にする。戦後については、「終戦直後の新教育の時代」「『道徳の時間』の特設」「教科化に向かう現在」の三つの転換点と時代の中での位置づけを明らかにする。 ・授業のキーワードは、「人間観」「子ども観」と「修身」「教育勅語」。	
	【予習】第4回の授業をもう一度復習し、1945年8月15日以降の道徳教育をめぐる出来事をチェックしておくこと。テキスト第6章も必読。 【復習】第4回・第5回の授業の要点を確実に整理し、納得できるようにしておくこと。	60
第6回	6 「学習指導要領」における道徳科〔パート1〕 ・「中学校学習指導要領」第1章総則に示された道徳教育の意義から、道徳教育の目的・目標を確認する。 ・「特別の教科 道徳」の目標を確実なものとして理解する。 ・これまでの「道徳の時間」の目的・目標と対比させ、「なぜ」それが十分には達成できなかったのかを探究する。	
	【予習】「中学校学習指導要領」及び「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」の該当箇所を読み、キーワードを指摘しておくこと。テキストは第3章。	90
第7回	7 「学習指導要領」における道徳科〔パート2〕 ・「特別の教科 道徳」の内容とその指導方法について理解する。 ・四つの内容項目それぞれに示されたキーワードを整理し、丁寧に検討を加える。	
	【予習】「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳」の「道徳科の内容」を熟読し、要点をノートに記入して授業に臨むこと。テキストは第3章・第5章必読。 【復習】予習の際に記入したことと、授業によって理解したこととを突き合わせ、改めて道徳科の内容を吟味する。	90
第8回	8-1道徳教育の指導計画の作成 ・教育という営みをPDCAサイクルで考えれば、どのステージも重要ではあるが、P（計画）の周到さ・詳細さがその後を大きく左右することになる。そうした意識をもって、また「時間」ではなく「教科」になったことも踏まえて、指導計画作成の実際を検討する。 8-2グループワーク①（準備） ・第8回から第12回の5回に亘り、道徳科の授業づくりをグループワークとして実施する。今回はその準備として、グループワークの概要を掴み、グループ編成とメンバーの確認・意思の疎通を図る。 ◎このグループワークには、90分の授業時間の一部を充てるに留めるため、授業外での作業が不可欠であることを予め承知しておくこと。	
	【予習】今回からはテキストの第2部を用いる。（必要に応じ第1部も参照。）今回は第1章・第2章必読。 【復習】今回からグループワークが始まるので、テキストの読み返し、配布資料の整理によって、授業前半の既習内容を確実なものとしておくこと。	60 但し授業外のグループワークは含まない。（以下同様。）

第9回	9-1 道徳教育の教科書と教材開発 ・（道徳科に限らず）教科の学習と指導には、「主たるもの」として教科書を用いることになっているが、それは指導の手立て・メディアの一部でしかない。そのことを十分に踏まえ、 （1）教科書はどう活用すべきか （2）指導のための素材や資料は至るところに存在している。その発掘や開発はどのようにすべきかを具体的に検討する。 9-2グループワーク② ・教材発掘・開発の一つの例として「絵本」を取り上げ、その有効性を考えながら、具体的な作品選択を行う。	
	【予習】テキスト第4章の内容を精読して理解し、不明な点や疑問点は必ず授業で明確にできるようにしておくこと。また、幼少期からこれまでに関わった「絵本」を思い出し、特に印象に残っているもの（作者・作品名・出版社・発行年）をノートに記入しておくこと。（手元にあれば、授業に持参することが望ましい。）	70
第10回	10-1 道徳科指導案の作成 ・道徳科以外の各教科と道徳科の学習指導案の共通点と相違点を明示できるようにする。 10-2グループワーク③ ・授業外での活動を整理し、グループでの討議・検討によって道徳科指導案を作成する。（本時の詳細案ではなく、グランドデザインを創ることを主眼とする。） ・グループ討議と活動を行う。	
	【予習】テキスト第3章などを読んで授業に臨むこと。 【復習】この週の内に、「道徳科指導案」（グランドデザイン）を完成させるために、必要な活動を実行すること。）	90
第11回	11-1 道徳科の授業実践研究（模擬授業の構想）① ・授業方法と評価について、基本的なポイントを把握する。 11-2グループワーク④ ・模擬授業もしくはそれに相当する「発表・報告」を行う。	
	【予習】テキストの必要箇所を改めて読み返し、要点を確実に纏めておくこと。その上で、模擬授業もしくはそれに相当する「発表・報告」のための準備を徹底させておくこと。	100
第12回	12-1 道徳科の授業実践研究（模擬授業の構想）② ・授業を見る視点、批判的に観察する要点を理解する。 12-2グループワーク⑤ ・前回に続いて模擬授業もしくはそれに相当する「発表・報告」を行う。	
	【予習】前回の模擬授業もしくはそれに相当する「発表・報告」の振り返りをもって授業に臨む。	100
第13回	13-1 道徳科の授業実践研究（模擬授業の構想）③ ・第11回・12回の授業におけるグループワークの成果を総括する。 ・指導方法・学習方法として「ランキング」「シミュレーション」「ロールプレイ」「ディスカッション」「語り」の手法とその有効性を理解する。	
	【予習】アクティブ・ラーニングへの授業過程の質的転換が求められている中で、これまでも用いられてきた手法について、参考図書などを用いて調べておくこと。テキスト第6章も参照。 【復習】実際に行った手法について、改めてその活用に当たっての留意点を整理すること。	120
第14回	14 道徳教育の推進と「到達度確認小テスト」 ・道徳教育を推進・発展させていくために、どのような施策が図られているのかを知り、その有効性を考える。 ・諸外国の道徳教育から学ぶべきことがないか、他山の石とするようなことはないかを考える。	

	【予習】テキストの第1部・第2部を通しての読み返し、配布された資料と作成したノートを整理して、不明点や疑問点があれば質問ができるようにしてして授業に臨むこと。テキスト第1部第7章も参照。	60
第15回	15 エピローグ(道徳教育とは何か) ・授業の総括として、これまでの学習を想起・振り返り、前回の「到達度確認小テスト」の結果も踏まえ、第1回目の時と現在とで、自分にどのような変容が見られたのかを、受講者それぞれが確認する。	
	【復習】「終り良ければすべて良し」の諺もある。授業の受けっ放しにならないように、自分なりに納得のいくように復習すること。	90
授業の方法		
基礎理論・指導理論や道徳教育史などについては講義を中心とし、指導案の作成などは受講者参加型の授業により、「授業に出席して、聴いて帰る」ことにならないように十分意を用います。科目の内容からして、「知識として獲得し、頭で分かる」こと以上に、「実際に行動化できるまでに体得し、体と心で分かる」ことが重要です。そのため、毎回のよう、授業への「リアクションペーパー」（到達度確認小テストなどを含む）を提出してもらい、必要に応じてこれを媒体として、教師と受講者とのコミュニケーションを深めることにも活用します。限られた時間のため、模擬授業を十分に実施することはできませんが、「授業づくり」を実際に行い、グランドデザインとしての学習指導案の作成も行います。これらの作業は、グループワークとして行うものを中心とします。このワークのためには、授業時間内だけでは到底実現できませんので、それぞれのグループで時間を設けることになることを承知しておいてください。 授業には、予習（シラバスの「準備学修」欄に記したこと）を誠実に行った上で臨み、将来教師になり得る立場にあることを弁え、主体的に参加し、進んで活動し発言するものとします。（第1回目の授業は、履修登録の如何に拘わらず、履修希望者は必ず出席するものとします。これは必要条件です。） 授業で用いるテキストは、道徳の教科化を積極的に推進させてきた研究者によるものです。言うまでもなく、これとは異なるなる立場の主張もありますが、それらは授業のなかで指摘し、「特別の教科 道徳」設置の背景・意図を確実に理解することに役立てたいと思います。また、適宜資料プリントを配布しますので、返却されるリアクションペーパーと共に、適切にファイリングをして活用してください。		
成績評価の方法		
上の「授業の方法」欄に記した、「リアクションペーパー」（到達度確認小テストも含む）、「授業づくり」に関する提出物（道徳科指導案などで、授業時に作成するものだけではなく、ホームワークとして作成するものを含みます）と、授業への積極的な参加姿勢などでおおよそ60%、定期試験の結果をおおよそ40%として、総合的に評価します。授業への出席は、当然のことながら、学生として必要条件です。 「リアクションペーパー」を初め、提出物は熟考した上で丁寧に作成することとします。記述の場合、文字は楷書で丁寧に書き、誤字脱字当て字などのないよう十分注意し、論点・主張が明確で、文章の構成も適切なものであるようにしてください。大学生に求められる漢字力、表現力も重要です。これらはすべて、評価の対象となります。		
成績評価の基準		
成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠します。 特に、下記の観点に着目して達成状況を判断し、評価します。 ①道徳科の授業の多様性を十分に理解し、形式的なパターンに囚われることなく、積極的に創意工夫をした授業づくりを考えているか。 ②「リアクションペーパー」には、自分の言葉で、自分の頭の中が表現できているか。「グループワーク」には、意欲的に参加できているか。 ③ミニマム・エッセンシャルズとしての道徳教育に関する知識を習得しているか。		
必要な予備知識／先修科目／関連科目		
新聞によく目を通してください。流れ去るWEB情報だけに依存することなく、テレビ・ラジオのニュースや討論番組などにも気を配り、道徳・道徳教育に関する動きに敏感であってください。文部科学省のホームページにも適宜アクセスして、中教審の動向などにも注意を払ってください。 教職科目は、それぞれに関連性をもっています。既習の科目、現在併行して履修中の科目と結びつけ、繋ぎ合わせることで、学習効果を高めることができます。		
テキスト		
柳沼良太著『道徳の理論と指導法 「考え議論する道徳」でよりよく生きる力を育む育』、図書文化、2017年（ISBN978-4-8100-7698-1）、2200円＋税 をテキストに指定します。毎授業で用いるとは限りませんが、全員が所有していることを前提として、授業は進めます。 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』も併用します。ただし、シラバス作成時点では冊子化されていないので、文部科学省のホームページからアクセスして使用してください。（冊子化された場合は購入してください。）		
参考書		
授業中に適宜紹介します。参考書ではありませんが、グループワークのために、「絵本」も10冊ほど教職課程指導室に用意しています。		
質問・相談方法等(オフィス・アワー)		
授業終了後に教室で受け付けます。時間を要するような場合は、個別に対応しますので、遠慮なく申し出てください。		

科目名	道徳教育論 b		
教員名	喜岡 淳治		
科目ナンバー	1291413501	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
道徳教育は、自立した一人の人間として人生を他者とともにより良く生きる人格の形成を目指すものであり、教育の根本に据えられるべきものとして把握し、わが国における道徳教育の現状、歴史、指導法およびこれからの課題について、基礎的な理解を得るとともに学校教育の担い手としての自覚と責任感を培うことである。 発達の段階ごとに重視すべき内容を明確化し、特にいじめの防止や生命の尊重、自律心、家族や集団の一員としての自覚、ルールやマナー、法の意義を理解して守ったり、社会の一員としての主体的な生き方、アイデンティティをもったりすることに留意する。			
到達目標			
①道徳教育の基礎理論・指導理論や道徳教育の歴史を理解できる。 ②道徳教育の資料の分析や評価ができる。 ③道徳の授業方法とその課題を理解できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	道徳教育の概要		
	【予習】シラバスをよく読み、この科目のテーマ・内容・到達目標などを確認して授業に臨むこと。 【復習】今まで受けてきた道徳の授業を想起しておくこと。	60分	
第2回	道徳教育の必要性		
	【予習】今まで受けてきた道徳の授業で獲得したものについて整理すること。 【復習】他者の意見・考え方も交えて、必要性について振り返りをする。	60分	
第3回	人間の本質とは何か		
	【予習】事前に配布した、人間の本質について、予習してくる。 【復習】他者の意見・考え方も交えて、人間の本質について、再構築すること。	60分	

第4回	道徳教育の歴史①	
	【予習】事前に配布した、道徳教育の歴史について、予習をしてくること。 【復習】他者の意見・考え方も交えて、道徳教育の歴史について、再構築すること。	60分
第5回	道徳教育の歴史②	
	【予習】事前に配布した、道徳教育の歴史について、予習をしてくること。 【復習】他者の意見・考え方も交えて、道徳教育の歴史から学ぶ内容を再確認すること。	60分
第6回	道徳教育の指導計画の作成	
	【予習】事前に配布した、道徳教育の指導計画を熟読してくること。 【復習】他者の意見・考え方も交えて、自らの指導計画を作成すること。	60分
第7回	道徳教育の教材開発①	
	【予習】事前に配布した、道徳教材一覧から一つ教材を選んでくること。 【復習】他者の意見・考え方も交えて、自らの教材開発を作成すること。	60分
第8回	道徳教育の教材開発②	
	【予習】自ら選んだ教材について、教材開発のためのきっかけをつかんでくること。 【復習】他者の意見・考え方も交えて、自らの教材開発を完成すること。	120分
第9回	学習指導要領における道徳科①	
	【予習】テキスト指定の中学校学習指導要領解説を熟読してくること。 【復習】道徳教育の目標を確実に理解する。	60分

第10回	学習指導要領における道徳科②	
	【予習】 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳」の「道徳科の内容」を熟読すること。 【復習】 道徳科の内容について、自らの考えを確立する。	120分
第11回	道徳科の模擬授業①	
	【予習】 事前に配布した教材を熟読する。 【復習】 全員で教材解釈を行った結果を共有する。	60分
第12回	道徳科の模擬授業②	
	【予習】 教材の道徳指導案を作る。 【復習】 グループごとに、指導案を共有し、さらに指導案を	90分
第13回	道徳科の模擬授業③	
	【予習】 模擬授業を構想する。 【復習】 授業検討の結果を共有する。	60分
第14回	到達度確認テスト(授業内テスト)	
	【予習】 今まで学んだことを確認する。 【復習】 テストの結果について復習を行う。	120分
第15回	改めて、道徳教育とは何か	
	【予習】 道徳教育とは何かについて、改めて考察する。 【復習】 他者の意見や考え方も交えて、自らの考えを確立する。	120分

授業の方法

基礎理論・指導理論・道徳教育の歴史に関しては、講義中心。その後、これらの知識を背景に、学習指導要領に則った学習指導案の作成、模擬授業などは、受講者参加型で行う。

成績評価の方法

レポート(40%) 授業内テスト(30%) 授業中の提出物(30%) によって総合的に評価する。授業への参加は、学生として必要条件である。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

教職研究 教育心理学 教育原論 学校と社会

テキスト

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』

参考書

文部科学省編著 『私たちの道徳 中学校』 廣済堂あかつき株式会社 2014年 (ISBN978-4-331-75188-6) 815円＋税
柴田義松編著 『道徳の指導 改訂版』 学文社 2012年 (ISBN978-4-7620-1921-0) 1800円＋税

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	教育方法研究 a		
教員名	馬上 美知		
科目ナンバー	1491413701	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
生徒の学びをサポートする教育方法の基礎理論を学ぶ。 生徒たちの学びをサポートする上で必要な、教育方法に関する基礎理論を学び、取得希望教科毎に学習指導要領に基づきながらグループで学習指導案や板書計画を作成し、発表する。			
到達目標			
・教育目的と教育方法の関連性について、具体的例を挙げながら説明できる。 ・指導と評価の一体化について説明できる。 ・学習指導案を作成できる。 ・分かりやすい板書や話し方を身に付けている。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	ガイダンス 授業の内容と進め方 教育方法とは		
	教職課程での科目の位置づけ、シラバスの確認をする。 授業時に提示したテーマについて考えてくる。	30 90	
第2回	経験してきた教育方法		
	授業時に提示したテーマについて考えてくる。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90	
第3回	学校における多様な学び方		
	授業時に提示したテーマについて考えてくる。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90	

第4回	授業デザイン（教育目標と教育内容）	
	授業時に提示したテーマについて考えてくる。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第5回	分かり方特性	
	授業時に提示したテーマについて考えてくる。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第6回	板書計画	
	授業時に提示したテーマについて考えてくる。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第7回	板書実践	
	授業時に提示したテーマについて考えてくる。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第8回	情報機器の活用と教材作成	
	授業時に提示したテーマについて考えてくる。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第9回	伝わる話し方と教材発表	
	授業時に提示したテーマについて考えてくる。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90

第10回	多様な指導形態とその長所・短所	
	授業時に提示したテーマについて考えてくる。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第11回	21世紀型学力	
	授業時に提示したテーマについて考えてくる。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第12回	指導と評価の一体化	
	授業時に提示したテーマについて考えてくる。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第13回	評価と支援方法を取り入れた授業デザイン	
	授業時に提示したテーマについて考えてくる。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第14回	授業デザインの発表	
	授業時に提示したテーマについて考えてくる。 授業の復習。小レポートの作成。	90 90
第15回	まとめ	
	授業時に提示したテーマについて考えてくる。 授業の復習。レポートの作成。	90 90

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。
状況に応じて授業内容が変更になる場合がある。

成績評価の方法

グループワークへの貢献度 30% 授業内レポート 30% 期末レポート 40%

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

テキスト

特になし。適宜プリントを配布する。

参考書

田中智志・高橋美保『教育方法論』一藝社
田中耕治『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房
田中耕治『よくわかる教育評価』ミネルヴァ書房

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	教育方法研究 c		
教員名	喜岡 淳治		
科目ナンバー	1491413701	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
テーマ：教育内容を基軸として、教育方法の概念の構築 概要：わが国の諸学校における教育方法を、その歴史、授業研究の方法論、学習指導法、教育メディアの利用、学力観等を視点として、解説する。授業の映像記録や文字記録を提示し、多様な実践事例を紹介する。受講者は多様な教育方法に関する知識を獲得し、理解を深めるとともに、それらを自身の教育実践に適用しようとする態度やその進め方を会得する。			
到達目標			
1 教育方法の具体的内容について積極的に学ぶことができる。 2 学習を確実にする教育方法としてどのようなものがあるのかを認知することができる。 3 学習を楽しく、さらに深めようとする教育方法として、何があるのかを模索することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	教育方法の概要		
	【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	60	
	【復習】 授業の全体像や進め方を確認し、講義内容全体について把握する。	60	
第2回	教育方法の歴史①		
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。	120	
	【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	60	
第3回	教育方法の歴史②		
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。	120	
	【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	60	

第4回	展開のある授業	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第5回	授業における説明の役割と方法	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第6回	これからの授業改革	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第7回	学級集団と授業の関わり	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第8回	授業形態の多様化	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第9回	教育メディアの種類と活用	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60

第10回	情報コミュニケーション教育	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第11回	インターネットの教育利用	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第12回	机間指導の意義と方法	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第13回	学力とは何か	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第14回	相対評価と絶対評価	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第15回	まとめ-教育方法における主要用語等	
	【予習】 講義内容すべてにわたり、学んだことを確認する。 【復習】 講義内容すべてにわたり、今後の学びに活用できるようにする。	120 120

授業の方法

講義とワークショップ形式が中心。
必要に応じて、講義毎にプリントを配布する。

成績評価の方法

試験 50点 授業内レポート 30点 授業内評価 20点
最初の講義で、授業内容及び評価に関するオリエンテーションを行う。
授業への出席は、受講者としての必要条件。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

各教科教育法

テキスト

特に、指定はしない。

参考書

『教育の方法と技術』、柴田義松・山崎準二編、学文社、1, 500円+税、ISBN4-7620-1398-6 C3337
その他の参考書については、講義中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	教育方法研究 d		
教員名	喜岡 淳治		
科目ナンバー	1491413701	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テーマ：教育内容を基軸として、教育方法の概念の構築 概要：わが国の諸学校における教育方法を、その歴史、授業研究の方法論、学習指導法、教育メディアの利用、学力観等を視点として、解説する。授業の映像記録や文字記録を提示し、多様な実践事例を紹介する。受講者は多様な教育方法に関する知識を獲得し、理解を深めるとともに、それらを自身の教育実践に適用しようとする態度やその進め方を会得する。			
到達目標			
1 教育方法の具体的内容について積極的に学ぶことができる。 2 学習を確実にする教育方法としてどのようなものがあるのかを認知することができる。 3 学習を楽しく、さらに深めようとする教育方法として、何があるのかを模索することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	教育方法の概要		
	【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。		60
	【復習】 授業の全体像や進め方を確認し、講義内容全体について把握する。		60
第2回	教育方法の歴史①		
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。		120
	【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。		60
第3回	教育方法の歴史②		
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。		120
	【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。		60

第4回	展開のある授業	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第5回	授業における説明の役割と方法	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第6回	これからの授業改革	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第7回	学級集団と授業の関わり	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第8回	授業形態の多様化	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第9回	教育メディアの種類と活用	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60

第10回	情報コミュニケーション教育	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第11回	インターネットの教育利用	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第12回	机間指導の意義と方法	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第13回	学力とは何か	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第14回	相対評価と絶対評価	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第15回	まとめ-教育方法における主要用語等	
	【予習】 講義内容すべてにわたり、学んだことを確認する。 【復習】 講義内容すべてにわたり、今後の学びに活用できるようにする。	120 120

授業の方法

講義とワークショップ形式が中心。
必要に応じて、講義毎にプリントを配布する。

成績評価の方法

試験 50点 授業内レポート 30点 授業内評価 20点
最初の講義で、授業内容及び評価に関するオリエンテーションを行う。
授業への出席は、受講者としての必要条件。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

各教科教育法

テキスト

特に、指定はしない。

参考書

『教育の方法と技術』、柴田義松・山崎準二編、学文社、1, 500円+税、ISBN4-7620-1398-6 C3337
その他の参考書については、講義中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	教育方法研究 e		
教員名	喜岡 淳治		
科目ナンバー	1491413701	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テーマ：教育内容を基軸として、教育方法の概念の構築 概要：わが国の諸学校における教育方法を、その歴史、授業研究の方法論、学習指導法、教育メディアの利用、学力観等を視点として、解説する。授業の映像記録や文字記録を提示し、多様な実践事例を紹介する。受講者は多様な教育方法に関する知識を獲得し、理解を深めるとともに、それらを自身の教育実践に適用しようとする態度やその進め方を会得する。			
到達目標			
1 教育方法の具体的内容について積極的に学ぶことができる。 2 学習を確実にする教育方法としてどのようなものがあるのかを認知することができる。 3 学習を楽しく、さらに深めようとする教育方法として、何があるのかを模索することができる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	教育方法の概要		
	【予習】 シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。		60
	【復習】 授業の全体像や進め方を確認し、講義内容全体について把握する。		60
第2回	教育方法の歴史①		
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。		120
	【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。		60
第3回	教育方法の歴史②		
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。		120
	【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。		60

第4回	展開のある授業	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第5回	授業における説明の役割と方法	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第6回	これからの授業改革	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第7回	学級集団と授業の関わり	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第8回	授業形態の多様化	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第9回	教育メディアの種類と活用	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60

第10回	情報コミュニケーション教育	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第11回	インターネットの教育利用	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第12回	机間指導の意義と方法	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第13回	学力とは何か	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第14回	相対評価と絶対評価	
	【予習】 事前に示された参考書等を利用し、講義内容について、基本知識を習得する。 【復習】 講義内容と事前の知識を照らし合わせ、さらに応用知識も含め、確実なものとする。	120 60
第15回	まとめ-教育方法における主要用語等	
	【予習】 講義内容すべてにわたり、学んだことを確認する。 【復習】 講義内容すべてにわたり、今後の学びに活用できるようにする。	120 120

授業の方法

講義とワークショップ形式が中心。
必要に応じて、講義毎にプリントを配布する。

成績評価の方法

試験 50点 授業内レポート 30点 授業内評価 20点
最初の講義で、授業内容及び評価に関するオリエンテーションを行う。
授業への出席は、受講者としての必要条件。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

各教科教育法

テキスト

特に、指定はしない。

参考書

『教育の方法と技術』、柴田義松・山崎準二編、学文社、1, 500円+税、ISBN4-7620-1398-6 C3337
その他の参考書については、講義中に指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	教育方法研究 f		
教員名	宮下 敦		
科目ナンバー	1491413701	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 学習者の学びをサポートする教育方法の基礎理論を学び、黒板やICT機器を使った教材作製や提示方法についての技術を身につける。			
到達目標			
教育方法の基礎理論を理解した上で、黒板やICT機器の利用方法、分かりやすい図表の作成方法、およびグループワークなどで必要なファシリテーション技術が使えることを目標とする。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		準備学修の目安(分)
	準備学修(予習・復習等)		
第1回	ガイダンス。この講義のシラバスについて理解しているか確認した上で、講義の到達目標と学習方法について確認する		
	シラバスの内容をよく理解してくる。		60分
第2回	初等中等教育で経験してきた教育方法についてまとめ、学習課題・到達目標の授業や協同学習などの教育方法について学ぶ。		
	前時の講義の復習に基づき、提示したテーマについて考えてくる。		60分
第3回	プリントを作ってみよう1: 中学理科教科書のうち、受講生が興味がある部分について、授業をするための教材プリント案を作成する。作成したプリント案についてグループで議論し発表者を決める。発表するプリント案について議論し、改善を図る。		
	中学教科書を使って作成するテーマに関連する部分を抽出し、該当部分のコピーをノートに貼って準備をする。		60分

第4回	プリント案を作ってみよう2: 各グループで作成したプリント案について発表し、全体で改善点を議論する。	
	前時に打ち合わせに基づいて、発表者は使用方法等の説明を準備してくる。発表後、受講者全員で案を 検討し、さらに改善点を検討する。	60分
第5回	説明図を作ってみよう1: 中学理科教科書のうち、受講生が興味がある部分について、ベクトル形式ドローソフトを使って授業を するための説明図案を作成する。作成した説明図案についてグループで議論し発表者を決める。発表する説明図案について議論 し、改善を図る。	
	中学教科書を使って作成するテーマに関連する部分を抽出し、該当部分のコピーをノートに貼って準備 をする。	60分
第6回	説明図を作ってみよう2: 各グループで作成した説明図案について発表し、全体で改善点を議論する。	
	前時に打ち合わせに基づいて、発表者は使用方法等の説明を準備してくる。発表後、受講者全員で案を 検討し、さらに改善点を検討する。	60分
第7回	板書案を作ってみよう1: 中学理科教科書のうち、受講生が興味がある部分について、授業をするための板書案を作成する。作成 した板書案についてグループで議論し発表者を決める。発表する板書案について議論し、改善を図る。	
	中学教科書を使って作成するテーマに関連する部分を抽出し、該当部分のコピーをノートに貼って準備 をする。	60分
第8回	プリントを作ってみよう2: 各グループで作成した板書案について発表し、全体で改善点を議論する。	
	前時に打ち合わせに基づいて、発表者は使用方法等の説明を準備してくる。発表後、受講者全員で案を 検討し、さらに改善点を検討する。	60分
第9回	ICTを使ってみよう1: 中学理科教科書のうち、受講生が興味がある部分について、授業をするためのICT教材利用案を作成する。 作成したICT教材利用案についてグループで議論し発表者を決める。発表するICT利用案について議論し、改善を図る。	
	中学教科書を使って作成するテーマに関連する部分を抽出し、該当部分のコピーをノートに貼って準備 をする。併せて、成蹊学園のPC教室で利用可能な(フリーの)ICT教材を入手しておく。	60分

第10回	ICTを作ってみよう2: 各グループで作成したICT利用教材案について発表し、全体で改善点を議論する。	
	前時に打ち合わせに基づいて、発表者は使用方法等の説明を準備してくる。発表後、受講者全員で案を 検討し、さらに改善点を検討する。	60分
第11回	ファシリテーションをしてみよう1: 中学理科教科書のうち、受講生が興味がある部分について、ファシリテーション案を作成する。作成したファシリテーション案についてグループで議論し発表者を決める。発表する案について議論し、改善を図る。	
	中学教科書を使って作成するテーマに関連する部分を抽出し、該当部分のコピーをノートに貼って準備 をする。 効果的なファシリテーション技術について予習する。	60分
第12回	ファシリテーションをしてみよう2: 各グループで作成したファシリテーション案について発表し、全体で改善点を議論する。	
	前時に打ち合わせに基づいて、発表者は使用方法等の説明を準備してくる。発表後、受講者全員で案を 検討し、さらに改善点を検討する。	60分
第13回	テスト案を作ってみよう1: 中学理科教科書のうち、受講生が興味がある部分について、授業をするためのテスト案を作成する。作成したテスト案についてグループで議論し発表者を決める。発表するテスト案について議論し、改善を図る。	
	中学教科書を使って作成するテーマに関連する部分を抽出し、該当部分のコピーをノートに貼って準備 をする。	60分
第14回	テスト案を作ってみよう2: 各グループで作成したテスト案について発表し、全体で改善点を議論する。	
	前時に打ち合わせに基づいて、発表者は使用方法等の説明を準備してくる。発表後、受講者全員で案を 検討し、さらに改善点を検討する。	60分
第15回	まとめとレポート提出	
	受講生は担当部分の案について、実施後の改善点に対応して、よりよい案を作成し提出する。	120分

授業の方法

各講義の課題は中学理科教科書から抽出する。講義は2回を1セットとして、協同学習方式(バズ学習)で進める。
1回目は、受講生各自が課題部分を調べ、当該部分のコピーをノートに貼って準備をする。講義では、まず課題についてそれぞれの案をノートに書く、もしくは、ICTを用いた場合は、そのプリントアウトをノートに貼る。書き出した案をグループ内で検討し、一連の講義で重複しないように、どの案を発表するか決める。発表案は最善のものと予備用の2案を準備する。発表する案については、グループで改善点を抽出し、発表者は次回までに発表できるように教材を作成する。1回目に各自のノート提出をする。
2回目は、グループ別に発表を行い、それについての意見をノートにメモをする。最善案の発表者が病欠などで発表できない場合は、予備案を発表する。メモを元にグループ討議と発表、および全体での検討を行い、改善点を抽出する。発表者は、これに基づいてレポートを作成する。尚、予備のものは発表する予定だった案を、講義内容を反映させて改善し、レポートとして提出する。

成績評価の方法

各課題毎に提出されるノート作成等の作業状況やグループワークへの貢献度(40%)、発表時の状況(30%)、提出されたレポート(30%)で総合的に評価する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準(学則第39条)に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

理科教育法Ⅰ(理科教育基礎論)での授業案作成と並行して、板書や図表作成などの技術を学ぶ。

テキスト

柴田義松(編著)、2015、教育の方法と技術(改訂版)、学文社、156頁

参考書

講義中に適宜紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

オフィスアワー等はポータルサイトで周知する。

科目名	生活指導論 a		
教員名	田村 修一		
科目ナンバー	1291415101	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
生徒指導とは、生徒一人ひとりの学校生活や発達上の問題の解決、将来の希望の実現を指導・援助する学校教育サービスの一つである。本科目では、学校教育サービスの理論と技法の研究を主たる目的とする学問である「学校心理学」の視点から、中学生・高校生を対象とした生徒指導・進路指導について考える。具体的には、前半では現在の中学生・高校生の実態および教育上の課題を理解し、「学校心理学」を基盤とした生徒指導の進め方（心理教育的援助サービスの実践モデル）を学ぶ。後半では、生徒指導およびキャリア教育に関するいくつかの重要課題を取り上げ、具体的な事例を通して、これらの課題の解決のために、教師はどのような生徒指導やキャリア教育を展開することが望ましいかを学ぶ。			
到達目標			
授業の到達目標及びテーマ 1 現在の中学生・高校生の教育上の課題を理解できる。 2 学校心理学を基盤とした生徒指導の進め方の概要を理解できる。 3 教員のチームによる生徒指導の有効性と課題を理解できる。 4 キャリア教育の理論と実践上の課題を理解できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション：「生徒指導」とは何か。		
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握しておく。 【復習】授業の全体像や進め方、評価の仕方について確認する。		【予習】 30 【復習】 30
第2回	現在の中学生・高校生の教育上の課題		
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。		【予習】 20 【復習】 40
第3回	生徒指導にいかす発達理論		
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。		【予習】 20 【復習】 40

第4回	学校心理学を活用した生徒指導（１）指導・援助サービスの理論	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。	【予習】20 【復習】40
第5回	学校心理学を活用した生徒指導（２）指導・援助サービスの技法	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。	【予習】20 【復習】40
第6回	教師のためのアンガー・マネジメント（体罰の防止のために）	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。	【予習】20 【復習】40
第7回	1 次的指導・援助サービス：生徒のスキルの育成	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】前半の学びの振り返りを行い、「中間レポート」作成する。	【予習】20 【復習】90
第8回	2 次的・3 次的指導・援助サービス（１）「いじめ」の理解と対応	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。	【予習】20 【復習】40
第9回	2 次的・3 次的指導・援助サービス（２）「いじめ」（事例研究）	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。	【予習】20 【復習】40

第10回	2 次的・3 次的指導・援助サービス（１）「不登校」の理解と対応	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。	【予習】20 【復習】40
第11回	2 次的・3 次的指導・援助サービス（２）「不登校」（事例研究）	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。	【予習】20 【復習】40
第12回	2 次的・3 次的指導・援助サービス（１）「発達障害」の理解と対応	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。	【予習】20 【復習】40
第13回	2 次的・3 次的指導援助サービス（２）通常学級における特別支援教育（事例研究）	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。	【予習】20 【復習】40
第14回	キャリア教育（１）理論編（キャリア教育概論）	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】後半の学びの振り返りを行い、「期末レポート」を作成する。	【予習】20 【復習】90
第15回	キャリア教育（２）実践編（キャリア教育：先進校の実践の事例研究）	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】これまで配布された資料および教科書を用いて総復習し、期末試験に備える。	【予習】20 【復習】120

授業の方法

毎回、プリント資料を配布する。基本的には講義科目だが、テーマによっては演習も行う。

成績評価の方法

①学びの振り返り「中間レポート」（２５点）、②学びの振り返り「期末レポート」（２５点）、③授業の参加態度（１０点）、④「期末試験（４０点）」により、総合的に評価する。

【注意事項】

本科目は教職課程科目であるため、教職志望の強い意志を持った学生の受講を望む。また、授業の出席を重視する。出席状況・授業態度の悪い学生には、単位を認定しない。また、出席の不正が見つかった場合には、厳しく対処する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

教職研究、教育原論、教育心理学

テキスト

「生徒指導提要」 文部科学省 2010年

参考書

「よくわかる学校心理学」 水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子 編著 ミネルヴァ書房 2013年

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学生は、リアクション・ペーパーに質問を書く。次の授業の初めに教員から質問に対するフィードバックを行う。また、緊急を要する質問の場合には、授業終了後に教員に直接質問をすること。

科目名	生活指導論 b		
教員名	田村 修一		
科目ナンバー	1291415101	単位数	2
配当年次	1	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
生徒指導とは、生徒一人ひとりの学校生活や発達上の問題の解決、将来の希望の実現を指導・援助する学校教育サービスの一つである。本科目では、学校教育サービスの理論と技法の研究を主たる目的とする学問である「学校心理学」の視点から、中学生・高校生を対象とした生徒指導・進路指導について考える。具体的には、前半では現在の中学生・高校生の実態および教育上の課題を理解し、「学校心理学」を基盤とした生徒指導の進め方（心理教育的援助サービスの実践モデル）を学ぶ。後半では、生徒指導およびキャリア教育に関するいくつかの重要課題を取り上げ、具体的な事例を通して、これらの課題の解決のために、教師はどのような生徒指導やキャリア教育を展開することが望ましいかを学ぶ。			
到達目標			
授業の到達目標及びテーマ 1 現在の中学生・高校生の教育上の課題を理解できる。 2 学校心理学を基盤とした生徒指導の進め方の概要を理解できる。 3 教員のチームによる生徒指導の有効性と課題を理解できる。 4 キャリア教育の理論と実践上の課題を理解できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	オリエンテーション：「生徒指導」とは何か。		
	【予習】シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握しておく。 【復習】授業の全体像や進め方、評価の仕方について確認する。		【予習】 30 【復習】 30
第2回	現在の中学生・高校生の教育上の課題		
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。		【予習】 20 【復習】 40
第3回	生徒指導にいかす発達理論		
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。		【予習】 20 【復習】 40

第4回	学校心理学を活用した生徒指導（１）指導・援助サービスの理論	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。	【予習】20 【復習】40
第5回	学校心理学を活用した生徒指導（２）指導・援助サービスの技法	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。	【予習】20 【復習】40
第6回	教師のためのアンガー・マネジメント（体罰の防止のために）	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。	【予習】20 【復習】40
第7回	1 次的指導・援助サービス：生徒のスキルの育成	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】前半の学びの振り返りを行い、「中間レポート」作成する。	【予習】20 【復習】90
第8回	2 次的・3 次的指導・援助サービス（１）「いじめ」の理解と対応	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。	【予習】20 【復習】40
第9回	2 次的・3 次的指導・援助サービス（２）「いじめ」（事例研究）	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。	【予習】20 【復習】40

第10回	2 次的・3 次的指導・援助サービス（１）「不登校」の理解と対応	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。	【予習】 20 【復習】 40
第11回	2 次的・3 次的指導・援助サービス（２）「不登校」（事例研究）	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。	【予習】 20 【復習】 40
第12回	2 次的・3 次的指導・援助サービス（１）「発達障害」の理解と対応	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。	【予習】 20 【復習】 40
第13回	2 次的・3 次的指導援助サービス（２）通常学級における特別支援教育（事例研究）	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】配布資料や教科書の該当ページをていねいに読み、今回の学習範囲について理解を深める。	【予習】 20 【復習】 40
第14回	キャリア教育（１）理論編（キャリア教育概論）	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】後半の学びの振り返りを行い、「期末レポート」を作成する。	【予習】 20 【復習】 90
第15回	キャリア教育（２）実践編（キャリア教育：先進校の実践の事例研究）	
	【予習】教育に関するニュース（新聞記事・WEBニュースなど）を読む。 【復習】これまで配布された資料および教科書を用いて総復習し、期末試験に備える。	【予習】 20 【復習】 120

授業の方法

毎回、プリント資料を配布する。基本的には講義科目だが、テーマによっては演習も行う。

成績評価の方法

①学びの振り返り「中間レポート」（２５点）、②学びの振り返り「期末レポート」（２５点）、③授業の参加態度（１０点）、④「期末試験（４０点）」により、総合的に評価する。

【注意事項】

本科目は教職課程科目であるため、教職志望の強い意志を持った学生の受講を望む。また、授業の出席を重視する。出席状況・授業態度の悪い学生には、単位を認定しない。また、出席の不正が見つかった場合には、厳しく対処する。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

教職研究、教育原論、教育心理学

テキスト

「生徒指導提要」 文部科学省 2010年

参考書

「よくわかる学校心理学」 水野治久・石隈利紀・田村節子・田村修一・飯田順子 編著 ミネルヴァ書房 2013年

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

学生は、リアクション・ペーパーに質問を書く。次の授業の初めに教員から質問に対するフィードバックを行う。
また、緊急を要する質問の場合には、授業終了後に教員に直接質問をすること。

科目名	教育相談 a		
教員名	岩田 淳子		
科目ナンバー	1291415301	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
教育相談とは、生徒それぞれの発達に即して、望ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図ることを目的とした教育活動である。いじめ・不登校・発達障害・非行など教育場面における問題は複雑かつ深刻化している。教師として、教育相談およびカウンセリングについて理解を深め、生徒理解に必要な心理学的知識と実践的な相談技術を習得することは必須である。したがって、その到達目標は、以下の4点とする。1) 教育相談の意義と理論を理解する、2) さまざまな課題に関する基本的事項と具体的な教育相談の進め方を理解する、3) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する、4) 教育相談の組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。			
到達目標			
1. 学校教育相談の意義と理論、カウンセリングについての基礎的知識を学ぶ 2. 事例を通して、さまざまな課題に関する基本的事項と具体的な教育相談の進め方（生徒理解と対応について）を理解する 3. 積極的傾聴を体験的に習得する 4. 教育相談の組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の内容・進め方・心構えと予習・復習の仕方等を説明する。 学校教育相談の目的と特徴はどのようなものか（第3章：問題26）		
	【予習】テキスト第3章・問題26を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。		【予習】10分 【復習】50分
第2回	生徒理解の理論・内容・方法（第3章：問題12・問題13・問題14） ・生徒理解の理論・内容・方法について理解する。		
	【予習】テキスト第3章：問題12・問題13・問題14を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。		【予習】10分 【復習】50分
第3回	学校教育相談の実践（1）不登校（第4章：問題26・問題27・問題28） ・不登校に関する基本的事項を理解するとともに、事例検討をとおして不登校への対応について考える。 ・登校刺激と家庭訪問、適応指導教室について理解する。		
	【予習】テキスト第4章：問題26・問題27・問題28を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。		【予習】10分 【復習】50分

第4回	学校教育相談の実際（2）神経発達症群：発達障害と教室のなかの特別支援教育（第5章） ・発達障害に関する基本的事項を理解するとともに、事例をとおして、発達障害を適切に理解し、教室のなかで行う特別支援教育について考える。	
	【予習】テキスト第5章を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。	【予習】30分 【復習】50分
第5回	学校教育相談の実際（3）いじめ①（第4章：問題29・問題30・問題37） ・重大ないじめ事案をとおして、いじめについてに関する基本的事項を理解するとともに、いじめの重大事態の対応について学ぶ。	
	【予習】テキスト第4章：問題29・問題30・問題37を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。	【予習】10分 【復習】50分
第6回	学校教育相談の実際（3）いじめ②（続き）（第4章：問題31・第3章：問題18）事例検討をとおして、学校・学級におけるいじめ防止の実践的対応について考える。	
	【予習】テキスト第4章：問題31・第3章問題18を熟読。 記事・書籍等はいじめ問題を把握しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。	【予習】30分 【復習】30分
第7回	学校教育相談の実際（4）非行（第4章：問題33・34・35・40） ・非行に関する基本的事項を理解するとともに、事例検討をとおして、非行への対応について考える。 ・暴力・薬物乱用等について理解し、その実践的対応について考える。	
	【予習】テキスト第4章：問題33・34・35・40を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。	【予習】30分 【復習】30分
第8回	学校臨床に役に立つ心理支援（第7章） ・教師として知っておきたい臨床心理学の代表的な理論モデルと児童生徒への対応に活用できる心理支援について概説する。	
	【予習】テキスト第7章を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する	【予習】40分 【復習】20分
第9回	積極的傾聴の演習（1）第3章：問題15・16・17 ・ロールプレイによる積極的傾聴の演習を行う。	
	【予習】テキスト第3章：問題15・16・17熟読 【復習】ロールプレイによる積極的傾聴の実習を振り返り、自分の聴き方の課題を整理する。	【予習】10分 【復習】50分

第10回	積極的傾聴の演習（2）続き ・ロールプレイによる積極的傾聴の演習を行う。	
	【復習】ロールプレイによる積極的傾聴の実習を振り返り、自分の聴き方の課題を整理する。	【復習】60分
第11回	積極的傾聴の演習（3）続き ・ロールプレイによる積極的傾聴の演習を行う。	
	【復習】逐語録を作成する。 ロールプレイによる積極的傾聴の実習を振り返り、自分の聴き方の課題を整理する。	【復習】60分
第12回	積極的傾聴の演習（4）続き ・ロールプレイによる積極的傾聴の演習を行う。	
	【復習】逐語録を作成する。 ロールプレイによる積極的傾聴の実習を振り返り、自分の聴き方の課題を整理する。	【復習】60分
第13回	青年期にみられる精神医学的な問題（第6章） ・思春期・青年期に発現しやすい精神医学的問題について概説する。 ・精神医学的問題の発見と対応について学ぶ。	
	【予習】テキスト第6章を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。	【復習】60分
第14回	その他のさまざまな課題への対応・個人情報の保護と連携による対応（第4章：問題36・問題38・問題39・問題40・第3章：問題25） ・虐待・貧困・インターネットにかかわる問題・外国人ルーツ・性的マイノリティ・中途退学に関する基本的事項を概説する。 ・個人情報の保護と情報開示・共有について概説する。	
	【予習】テキスト第4章：問題36・問題38・問題39・問題40・第3章：問題25熟読。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。	【予習】30分 【復習】30分
第15回	授業のまとめ ・授業（事例検討やロールプレイによる演習）をとおして、自分自身への気づきを振り返る。 ・教師としての自覚を点検する。	
	【復習】授業を振り返り、到達目標と自分の到達度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	【復習】60分

授業の方法

授業は、予習を前提とした講義と、小グループによるディスカッション、事例検討、ロールプレイによる演習をとおして、教育相談を実践的に学ぶ。また、毎回、授業の感想や質問に関するリアクション・ペーパーの提出を求める。普段から教育現場で起こるさまざまな問題への関心をもつとともに、学んだ内容の整理に努めること。準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。なお、リアクションペーパー、期末レポートのねらいは以下のとおりである。

- ・リアクション・ペーパー：各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる。必要に応じて、リアクション・ペーパーの内容について次の回の講義でフィードバックする予定である。
- ・期末レポート：教育相談におけるさまざまな課題について基本的事項の理解に基づき、事例を検討したうえで、教師と生徒の面接場面のロールプレイを行い、その逐語録を作成することにより、生徒理解と対応の理解度と積極的傾聴の習得を確認する。

成績評価の方法

授業への参加状況、演習における取り組みや毎回のリアクションペーパー等の平常点（40%）と期末レポート（60%）により総合的に評価する。

怠業による欠席・遅刻（30分以上、入室禁止）は減点対象になる。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その到達度により評価する。

- ①学校教育相談・カウンセリングについての基本的事項を説明できる。
- ②事例をとおして、生徒理解と対応について検討することができる。
- ③積極的傾聴の技法を習得している。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「教育心理学」「教育原論」「生活指導論」を取得できていることが望ましい。

また、「自己理解の心理学」や「心理学の基礎」を学んでいると役立つ。

テキスト

岩田淳子編2018『新編 生徒理解・指導と教育相談』（教育学のポイント・シリーズ）学文社
ISBN：978-4-7620-8

参考書

必要に応じて、授業のなかで紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	教育相談 b		
教員名	岩田 淳子		
科目ナンバー	1291415301	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
教育相談とは、生徒それぞれの発達に即して、望ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図ることを目的とした教育活動である。いじめ・不登校・発達障害・非行など教育場面における問題は複雑かつ深刻化している。教師として、教育相談およびカウンセリングについて理解を深め、生徒理解に必要な心理学的知識と実践的な相談技術を習得することは必須である。したがって、その到達目標は、以下の4点とする。1) 教育相談の意義と理論を理解する、2) さまざまな課題に関する基本的事項と具体的な教育相談の進め方を理解する、3) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する、4) 教育相談の組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。			
到達目標			
1. 学校教育相談の意義と理論、カウンセリングについての基礎的知識を学ぶ 2. 事例を通して、さまざまな課題に関する基本的事項と具体的な教育相談の進め方（生徒理解と対応について）を理解する 3. 積極的傾聴を体験的に習得する 4. 教育相談の組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の内容・進め方・心構えと予習・復習の仕方等を説明する。 学校教育相談の目的と特徴はどのようなものか（第3章：問題26）		
	【予習】テキスト第3章・問題26を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。		【予習】10分 【復習】50分
第2回	生徒理解の理論・内容・方法（第3章：問題12・問題13・問題14） ・生徒理解の理論・内容・方法について理解する。		
	【予習】テキスト第3章：問題12・問題13・問題14を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。		【予習】10分 【復習】50分
第3回	学校教育相談の実践（1）不登校（第4章：問題26・問題27・問題28） ・不登校に関する基本的事項を理解するとともに、事例検討をとおして不登校への対応について考える。 ・登校刺激と家庭訪問、適応指導教室について理解する。		
	【予習】テキスト第4章：問題26・問題27・問題28を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。		【予習】10分 【復習】50分

第4回	学校教育相談の実際（2）神経発達症群：発達障害と教室のなかの特別支援教育（第5章） ・発達障害に関する基本的事項を理解するとともに、事例をとおして、発達障害を適切に理解し、教室のなかで行う特別支援教育について考える。	
	【予習】テキスト第5章を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。	【予習】30分 【復習】50分
第5回	学校教育相談の実際（3）いじめ①（第4章：問題29・問題30・問題37） ・重大ないじめ事案をとおして、いじめについてに関する基本的事項を理解するとともに、いじめの重大事態の対応について学ぶ。	
	【予習】テキスト第4章：問題29・問題30・問題37を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。	【予習】10分 【復習】50分
第6回	学校教育相談の実際（3）いじめ②（続き）（第4章：問題31・第3章：問題18）事例検討をとおして、学校・学級におけるいじめ防止の実践的対応について考える。	
	【予習】テキスト第4章：問題31・第3章問題18を熟読。 記事・書籍等はいじめ問題を把握しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。	【予習】30分 【復習】30分
第7回	学校教育相談の実際（4）非行（第4章：問題33・34・35・40） ・非行に関する基本的事項を理解するとともに、事例検討をとおして、非行への対応について考える。 ・暴力・薬物乱用等について理解し、その実践的対応について考える。	
	【予習】テキスト第4章：問題33・34・35・40を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。	【予習】30分 【復習】30分
第8回	学校臨床に役に立つ心理支援（第7章） ・教師として知っておきたい臨床心理学の代表的な理論モデルと児童生徒への対応に活用できる心理支援について概説する。	
	【予習】テキスト第7章を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する	【予習】40分 【復習】20分
第9回	積極的傾聴の演習（1）第3章：問題15・16・17 ・ロールプレイによる積極的傾聴の演習を行う。	
	【予習】テキスト第3章：問題15・16・17熟読 【復習】ロールプレイによる積極的傾聴の実習を振り返り、自分の聴き方の課題を整理する。	【予習】10分 【復習】50分

第10回	積極的傾聴の演習（2）続き ・ロールプレイによる積極的傾聴の演習を行う。	
	【復習】ロールプレイによる積極的傾聴の実習を振り返り、自分の聴き方の課題を整理する。	【復習】60分
第11回	積極的傾聴の演習（3）続き ・ロールプレイによる積極的傾聴の演習を行う。	
	【復習】逐語録を作成する。 ロールプレイによる積極的傾聴の実習を振り返り、自分の聴き方の課題を整理する。	【復習】60分
第12回	積極的傾聴の演習（4）続き ・ロールプレイによる積極的傾聴の演習を行う。	
	【復習】逐語録を作成する。 ロールプレイによる積極的傾聴の実習を振り返り、自分の聴き方の課題を整理する。	【復習】60分
第13回	青年期にみられる精神医学的な問題（第6章） ・思春期・青年期に発現しやすい精神医学的問題について概説する。 ・精神医学的問題の発見と対応について学ぶ。	
	【予習】テキスト第6章を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。	【復習】60分
第14回	その他のさまざまな課題への対応・個人情報の保護と連携による対応（第4章：問題36・問題38・問題39・問題40・第3章：問題25） ・虐待・貧困・インターネットにかかわる問題・外国人ルーツ・性的マイノリティ・中途退学に関する基本的事項を概説する。 ・個人情報の保護と情報開示・共有について概説する。	
	【予習】テキスト第4章：問題36・問題38・問題39・問題40・第3章：問題25熟読。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。	【予習】30分 【復習】30分
第15回	授業のまとめ ・授業（事例検討やロールプレイによる演習）をとおして、自分自身への気づきを振り返る。 ・教師としての自覚を点検する。	
	【復習】授業を振り返り、到達目標と自分の到達度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	【復習】60分

授業の方法

授業は、予習を前提とした講義と、小グループによるディスカッション、事例検討、ロールプレイによる演習をとおして、教育相談を実践的に学ぶ。また、毎回、授業の感想や質問に関するリアクション・ペーパーの提出を求める。普段から教育現場で起こるさまざまな問題への関心をもつとともに、学んだ内容の整理に努めること。準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。なお、リアクションペーパー、期末レポートのねらいは以下のとおりである。

- ・リアクション・ペーパー：各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる。必要に応じて、リアクション・ペーパーの内容について次の回の講義でフィードバックする予定である。
- ・期末レポート：教育相談におけるさまざまな課題について基本的事項の理解に基づき、事例を検討したうえで、教師と生徒の面接場面のロールプレイを行い、その逐語録を作成することにより、生徒理解と対応の理解度と積極的傾聴の習得を確認する。

成績評価の方法

授業への参加状況、演習における取り組みや毎回のリアクションペーパー等の平常点（40%）と期末レポート（60%）により総合的に評価する。
怠業による欠席・遅刻（30分以上、入室禁止）は減点対象になる。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

次の点に着目し、その到達度により評価する。

- ①学校教育相談・カウンセリングについての基本的事項を説明できる。
- ②事例をとおして、生徒理解と対応について検討することができる。
- ③積極的傾聴の技法を習得している。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「教育心理学」「教育原論」「生活指導論」を取得できていることが望ましい。
また、「自己理解の心理学」や「心理学の基礎」を学んでいると役立つ。

テキスト

岩田淳子編2018『新編 生徒理解・指導と教育相談』（教育学のポイント・シリーズ）学文社
ISBN：978-4-7620-8

参考書

必要に応じて、授業のなかで紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	教育相談 Ⅱ		
教員名	岩田 淳子		
科目ナンバー	1291415301	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 前期
テーマ・概要			
教育相談とは、生徒それぞれの発達に即して、望ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図ることを目的とした教育活動である。いじめ・不登校・発達障害・非行など教育場面における問題は複雑かつ深刻化している。教師として、教育相談およびカウンセリングについて理解を深め、生徒理解に必要な心理学的知識と実践的な相談技術を習得することは必須である。したがって、その到達目標は、以下の4点とする。1) 教育相談の意義と理論を理解する、2) さまざまな課題に関する基本的事項と具体的な教育相談の進め方を理解する、3) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する、4) 教育相談の組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。			
到達目標			
1. 学校教育相談の意義と理論、カウンセリングについての基礎的知識を学ぶ 2. 事例を通して、さまざまな課題に関する基本的事項と具体的な教育相談の進め方（生徒理解と対応について）を理解する 3. 積極的傾聴を体験的に習得する 4. 教育相談の組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンス ・授業の内容・進め方・心構えと予習・復習の仕方等を説明する。 学校教育相談の目的と特徴はどのようなものか（第3章：問題26）		
	【予習】テキスト第3章・問題26を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。		【予習】10分 【復習】50分
第2回	生徒理解の理論・内容・方法（第3章：問題12・問題13・問題14） ・生徒理解の理論・内容・方法について理解する。		
	【予習】テキスト第3章：問題12・問題13・問題14を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。		【予習】10分 【復習】50分
第3回	学校教育相談の実践（1）不登校（第4章：問題26・問題27・問題28） ・不登校に関する基本的事項を理解するとともに、事例検討をとおして不登校への対応について考える。 ・登校刺激と家庭訪問、適応指導教室について理解する。		
	【予習】テキスト第4章：問題26・問題27・問題28を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。		【予習】10分 【復習】50分

第4回	学校教育相談の実際（2）神経発達症群：発達障害と教室のなかの特別支援教育（第5章） ・発達障害に関する基本的事項を理解するとともに、事例をととして、発達障害を適切に理解し、教室のなかで行う特別支援教育について考える。	
	【予習】テキスト第5章を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。	【予習】30分 【復習】50分
第5回	学校教育相談の実際（3）いじめ①（第4章：問題29・問題30・問題37） ・重大ないじめ事案をととして、いじめについてに関する基本的事項を理解するとともに、いじめの重大事態の対応について学ぶ。	
	【予習】テキスト第4章：問題29・問題30・問題37を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。	【予習】10分 【復習】50分
第6回	学校教育相談の実際（3）いじめ②（続き）（第4章：問題31・第3章：問題18）事例検討をととして、学校・学級におけるいじめ防止の実践的対応について考える。	
	【予習】テキスト第4章：問題31・第3章問題18を熟読。 記事・書籍等はいじめ問題を把握しておく。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。	【予習】30分 【復習】30分
第7回	学校教育相談の実際（4）非行（第4章：問題33・34・35・40） ・非行に関する基本的事項を理解するとともに、事例検討をととして、非行への対応について考える。 ・暴力・薬物乱用等について理解し、その実践的対応について考える。	
	【予習】テキスト第4章：問題33・34・35・40を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。	【予習】30分 【復習】30分
第8回	学校臨床に役に立つ心理支援（第7章） ・教師として知っておきたい臨床心理学の代表的な理論モデルと児童生徒への対応に活用できる心理支援について概説する。	
	【予習】テキスト第7章を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する	【予習】40分 【復習】20分
第9回	積極的傾聴の演習（1）第3章：問題15・16・17 ・ロールプレイによる積極的傾聴の演習を行う。	
	【予習】テキスト第3章：問題15・16・17熟読 【復習】ロールプレイによる積極的傾聴の実習を振り返り、自分の聴き方の課題を整理する。	【予習】10分 【復習】50分

第10回	積極的傾聴の演習（2）続き ・ロールプレイによる積極的傾聴の演習を行う。	
	【復習】ロールプレイによる積極的傾聴の実習を振り返り、自分の聴き方の課題を整理する。	【復習】60分
第11回	積極的傾聴の演習（3）続き ・ロールプレイによる積極的傾聴の演習を行う。	
	【復習】逐語録を作成する。 ロールプレイによる積極的傾聴の実習を振り返り、自分の聴き方の課題を整理する。	【復習】60分
第12回	積極的傾聴の演習（4）続き ・ロールプレイによる積極的傾聴の演習を行う。	
	【復習】逐語録を作成する。 ロールプレイによる積極的傾聴の実習を振り返り、自分の聴き方の課題を整理する。	【復習】60分
第13回	青年期にみられる精神医学的な問題（第6章） ・思春期・青年期に発現しやすい精神医学的問題について概説する。 ・精神医学的問題の発見と対応について学ぶ。	
	【予習】テキスト第6章を熟読 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。	【復習】60分
第14回	その他のさまざまな課題への対応・個人情報の保護と連携による対応（第4章：問題36・問題38・問題39・問題40・第3章：問題25） ・虐待・貧困・インターネットにかかわる問題・外国人ルーツ・性的マイノリティ・中途退学に関する基本的事項を概説する。 ・個人情報の保護と情報開示・共有について概説する。	
	【予習】テキスト第4章：問題36・問題38・問題39・問題40・第3章：問題25熟読。 【復習】主要トピックやキーワードを振り返り、理解を深めるとともに、自分なりの意見や見解を整理する。	【予習】30分 【復習】30分
第15回	授業のまとめ ・授業（事例検討やロールプレイによる演習）をとおして、自分自身への気づきを振り返る。 ・教師としての自覚を点検する。	
	【復習】授業を振り返り、到達目標と自分の到達度とを点検し、不足している知識等を確認し、学修する。	【復習】60分

授業の方法

授業は、予習を前提とした講義と、小グループによるディスカッション、事例検討、ロールプレイによる演習をとおして、教育相談を実践的に学ぶ。また、毎回、授業の感想や質問に関するリアクション・ペーパーの提出を求める。普段から教育現場で起こるさまざまな問題への関心をもつとともに、学んだ内容の整理に努めること。準備学修の時間はあくまで目安であって、各自の理解度に応じて取り組むこと。なお、リアクションペーパー、期末レポートのねらいは以下のとおりである。

- ・リアクション・ペーパー：各授業に参加して、学んだこと、感じたこと、思ったこと、疑問点を言語化し、各自の整理をすすめる。必要に応じて、リアクション・ペーパーの内容について次の回の講義でフィードバックする予定である。
- ・期末レポート：教育相談におけるさまざまな課題について基本的事項の理解に基づき、事例を検討したうえで、教師と生徒の面接場面のロールプレイを行い、その逐語録を作成することにより、生徒理解と対応の理解度と積極的傾聴の習得を確認する。

成績評価の方法

授業への参加状況、演習における取り組みや毎回のリアクションペーパー等の平常点（40%）と期末レポート（60%）により総合的に評価する。

怠業による欠席・遅刻（30分以上、入室禁止）は減点対象になる。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No.39.

次の点に着目し、その到達度により評価する。

- ①学校教育相談・カウンセリングについての基本的事項を説明できる。
- ②事例をとおして、生徒理解と対応について検討することができる。
- ③積極的傾聴の技法を習得している。

必要な予備知識／先修科目／関連科目

「教育心理学」「教育原論」「生活指導論」を取得できていることが望ましい。

また、「自己理解の心理学」や「心理学の基礎」を学んでいると役立つ。

テキスト

岩田淳子編2018『新編 生徒理解・指導と教育相談』（教育学のポイント・シリーズ）学文社
ISBN：978-4-7620-8

参考書

必要に応じて、授業のなかで紹介する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	教育相談 d		
教員名	松沼 光泰		
科目ナンバー	1291415301	単位数	2
配当年次	2	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
今日、学校現場では、子どもをめぐる不登校などの様々な問題が起きており、教師は、問題を抱える子どもに対して、心理的、教育的な援助を行なっていくことを求められています。また、援助を行う際には、他の教師・保護者と協力することが重要となります。そこで、本講座では、まず、問題を抱える児童生徒を理解、援助していく上での基礎知識と技法（教育相談の背景にあるカウンセリングの理論を含む）を概観します。次に、心理的、教育的な援助を積極的に実施している教師や学校の取り組みを紹介しながら、教師自身がどのように児童生徒を支援しているか、また、教師が他の教師・カウンセラー・保護者と協力してどのような取り組みをしているのかということを実例に即して学ぶことを目的とします。			
到達目標			
子どもを取り巻く問題を把握し、それらに対する支援・指導を行なっていく上での基礎知識と技法を理解することを目標とする（教育相談の背景にあるカウンセリングの理論を含む）			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)		準備学修の目安(分)
第1回	ガイダンスー本講座を受ける上での注意事項・本講座の目標についてー		
	【復習】教職課程における授業の位置づけ及び授業の概要、到達目標について理解すること。		30分
第2回	教育相談とは？ー教育相談と生徒指導の違い等を理解し、教育相談について理解を深めるー		
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。		60分
第3回	心理教育的アセスメントー児童生徒についての情報をどのように収集したらよいか？ー		
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。		60分

第4回	問題行動に対する予防的アプローチと治療的アプローチ—問題行動へのさまざまな対処方法について—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第5回	教師による生徒理解と傾聴—構成的グループエンカウンターを用いて—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第6回	心理療法①—来談者中心療法、フロイトの心理療法—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第7回	心理療法②—行動療法、論理療法—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第8回	カウンセリングの実際—ロールプレイによる心理療法の体験—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第9回	いじめ—いじめの定義を確認し、いじめについての基礎的知識について理解を深める—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分

第10回	いじめにどう関わるか①—ネットを用いたいじめの事例—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第11回	いじめにどう関わるか②—ブリーフセラピーの理論を援用して—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第12回	不登校—不登校の定義を確認し、不登校についての基礎的知識について理解を深める—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第13回	不登校にどう関わるか—中学3年生の不登校の事例—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第14回	集団の意思決定についてのグループワーク—他の教員、スクールカウンセラーなどとの連携のために—	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分
第15回	ひきこもりについてと授業のまとめ	
	【復習】授業で扱った概念について説明できるようにすること。	60分

授業の方法

基本的には、プリントを毎回配布し、それに基づき、主に、講義形式で授業を行います。授業では、グループでの話し合い・発表等を適宜求めるので、積極的に、グループでの活動に参加して欲しいと思います。

成績評価の方法

テストの結果により評価します。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

必要な予備知識は教育心理学の講義で扱った内容となります。また、本講座で学習した内容は授業教職実践演習での基礎知識となります。

テキスト

教科書は使いません。プリントに基づき授業を行います。

参考書

『生徒指導提要』（文部科学省）、『エンカウンターで学級が変わるPart 3』（國分康孝（監修）、図書文化社）等。その他の参考書は授業中に適宜紹介します。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業終了後に教室で受け付けます。

科目名	教育実習研究 a		
教員名	松沼 光泰		
科目ナンバー	1191417001	単位数	1
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テーマは、次年度の教育実習に向けて、実習を充実させるためにその事前準備をするための科目である。 概要は、以下の三点である。 一つめは、教育実習にあたって、教育実習の意義と課題の確認を行う。 二つめは、教師という立場に必要な基礎知識を充実する。 三つめは、発声・話し方の音声コミュニケーション能力、板書・プリントづくりの文字媒体の作成能力のレベルを向上する。 教育実習に対する不安の解消を図り、誠実に取り組む必要性を認識し、教育実習に取り組む責任感、実習生としての立場の自覚とその心構えを養い、教育実習の実効をあげようとする意欲を育む。			
到達目標			
来年の教育実習に向け、事前に身に付けておくべき基礎的・基本的知識・技能を修得する。 ・教育実習の意義と課題の確認をすることができる。 ・教育実習において、教師という立場に必要な基礎知識を充実させることができる。 ・発声・話し方の音声コミュニケーション能力、板書・プリントづくりの文字媒体の作成能力のレベルを向上させる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	教育実習の全体像、教育実習の意義と課題、実習生の責任、立場、心構え		
	【予習】シラバスを読み、この授業の構成について理解する。 テキストⅠ部1を熟読する。 【復習】教育実習の内容、実習生としてのあり方について確認する。	90分	
第2回	教師の役割と求められる諸技能、自己の力量分析		
	【予習】ポータルサイトの履修カルテ 教職3-A「教育実習研究」履修前振り返りを記入し、第2回の授業時に印刷し、提出する。 テキストⅡ部3.4を熟読する。 【復習】教師に求められる諸技能、自分に足りないところを確認する。	90分	
第3回	基礎学力の確認のための学力テスト①(中学校レベル)		
	【予習】自分の実習教科の高校入試問題を解く準備をする。 【復習】基礎学力を見直す。	120分	

第4回	学校を巡る教育課題と改革の動き	
	【予習】文部科学省のホームページ、テキストⅠ部2を熟読する。 学習指導要領の総則を熟読する。 【復習】内容について説明をする。	90分
第5回	授業づくりの要諦、教科内容・教材研究、教材提示と指導言の研究 授業観察の視点	
	【予習】テキストⅡ部5、6を熟読する。 実習する教科の学習指導要領解説を熟読する。 【復習】内容について説明をする。	90分
第6回	4年生による教育実習報告	
	レポート 4年生による教育実習の報告について、レポートを作成する。	120分
第7回	教育採用試験合格者からの講話	
	レポート 教員採用試験合格者からの講話についてレポートを作成する。	120分
第8回	学校見学(近隣中学校)	
	【予習】見学先の中学校のHPにある学校の教育課程、授業改善推進プランを熟読する。 レポート 授業見学についてのレポートを作成する。	120分
第9回	学校見学の振り返り	
	【予習】学校見学で学んだ内容を発表できるようにする。 【復習】グループ学習における振り返りを確認する。	90分

第10回	教科外指導と生徒との対応における課題	
	【予習】テキストⅡ部7を熟読する。 【復習】内容について説明をする。	90分
第11回	実践的基礎技能の向上－発声と話し方の技能①	
	【復習】発声と話し方の内容を練習する。	60分
第12回	実践的基礎技能の向上－発声と話し方の技能② 前時の学びを活かして、自己紹介を発表する。	
	【予習】3分間の自己紹介を準備する。 【復習】他者との意見交流を行い、指摘されたところを修正する。	90分
第13回	実践的基礎技能の向上－文字メディア作成上の要点と技能	
	【予習】保護者会の連絡を準備する。 【復習】板書、保護者への連絡等、具体的な例について、確認する。	90分
第14回	教育実習におけるテーマ・着眼点の準備	
	【予習】教育実習校をホームページにおいて確認する。 【復習】教育実習における研究テーマの候補とテーマ設定の理由を考える。	120分
第15回	まとめ 基礎学力の確認のための学力テスト②(高校レベル)	
	【予習】履修カルテ教職3-Aに記入した内容を再確認し、改善したかを検討し、教職3-B「教育実習研究」履修後振り返りを記入する。 自分の実習教科の大学入試問題を解く準備をする。 【復習】教育実習までの自己の課題を整理する。	120分

授業の方法

講義・グループワーク・体験活動によって行う。
その都度、レポート等の課題が課せられる。
学校見学は授業時間とは別に行う。

成績評価の方法

小レポート、期末レポート、発表、課題提出物によって、総合的に評価する。
基礎知識や技能の実行力を身につけるように常に努力すること。
無断の欠席、社会通念上やむを得ない理由によらない欠席は厳禁。欠席・遅刻の場合は、すぐに担当教員のメールアドレスに連絡を入れること。
特に、大学の外に出て活動するときには、誠実に取り組むこと。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

次年度の教育実習ができるための前提要件を、今年中に満たすことが見込まれていることが必要。
この科目の単位修得は、教育実習を履修するための前提要件である。

テキスト

テキスト 中等教育実習「事前・事後指導」教育実習で成長するために 土井進著 ジダイ社 ISBN978-4-909124-04-3 1,500円＋税（第1回目の授業で交付する）

参考書

文部科学省『(実習予定教科の)学習指導要領解説』

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	教育実習研究 b		
教員名	松沼 光泰		
科目ナンバー	1191417001	単位数	1
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テーマは、次年度の教育実習に向けて、実習を充実させるためにその事前準備をするための科目である。 概要は、以下の三点である。 一つめは、教育実習にあたって、教育実習の意義と課題の確認を行う。 二つめは、教師という立場に必要な基礎知識を充実する。 三つめは、発声・話し方の音声コミュニケーション能力、板書・プリントづくりの文字媒体の作成能力のレベルを向上する。 教育実習に対する不安の解消を図り、誠実に取り組む必要性を認識し、教育実習に取り組む責任感、実習生としての立場の自覚とその心構えを養い、教育実習の実効をあげようとする意欲を育む。			
到達目標			
来年の教育実習に向け、事前に身に付けておくべき基礎的・基本的知識・技能を修得する。 ・教育実習の意義と課題の確認をすることができる。 ・教育実習において、教師という立場に必要な基礎知識を充実させることができる。 ・発声・話し方の音声コミュニケーション能力、板書・プリントづくりの文字媒体の作成能力のレベルを向上させる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	教育実習の全体像、教育実習の意義と課題、実習生の責任、立場、心構え		
	【予習】シラバスを読み、この授業の構成について理解する。 テキストⅠ部1を熟読する。 【復習】教育実習の内容、実習生としてのあり方について確認する。	90分	
第2回	教師の役割と求められる諸技能、自己の力量分析		
	【予習】ポータルサイトの履修カルテ 教職3-A「教育実習研究」履修前振り返りを記入し、第2回の授業時に印刷し、提出する。 テキストⅡ部3.4を熟読する。 【復習】教師に求められる諸技能、自分に足りないところを確認する。	90分	
第3回	基礎学力の確認のための学力テスト①(中学校レベル)		
	【予習】自分の実習教科の高校入試問題を解く準備をする。 【復習】基礎学力を見直す。	120分	

第4回	学校を巡る教育課題と改革の動き	
	【予習】文部科学省のホームページ、テキストⅠ部2を熟読する。 学習指導要領の総則を熟読する。 【復習】内容について説明をする。	90分
第5回	授業づくりの要諦、教科内容・教材研究、教材提示と指導言の研究 授業観察の視点	
	【予習】テキストⅡ部5、6を熟読する。 実習する教科の学習指導要領解説を熟読する。 【復習】内容について説明をする。	90分
第6回	4年生による教育実習報告	
	レポート 4年生による教育実習の報告について、レポートを作成する。	120分
第7回	教育採用試験合格者からの講話	
	レポート 教員採用試験合格者からの講話についてレポートを作成する。	120分
第8回	学校見学(近隣中学校)	
	【予習】見学先の中学校のHPにある学校の教育課程、授業改善推進プランを熟読する。 レポート 授業見学についてのレポートを作成する。	120分
第9回	学校見学の振り返り	
	【予習】学校見学で学んだ内容を発表できるようにする。 【復習】グループ学習における振り返りを確認する。	90分

第10回	教科外指導と生徒との対応における課題	
	【予習】テキストⅡ部7を熟読する。 【復習】内容について説明をする。	90分
第11回	実践的基礎技能の向上－発声と話し方の技能①	
	【復習】発声と話し方の内容を練習する。	60分
第12回	実践的基礎技能の向上－発声と話し方の技能② 前時の学びを活かして、自己紹介を発表する。	
	【予習】3分間の自己紹介を準備する。 【復習】他者との意見交流を行い、指摘されたところを修正する。	90分
第13回	実践的基礎技能の向上－文字メディア作成上の要点と技能	
	【予習】保護者会の連絡を準備する。 【復習】板書、保護者への連絡等、具体的な例について、確認する。	90分
第14回	教育実習におけるテーマ・着眼点の準備	
	【予習】教育実習校をホームページにおいて確認する。 【復習】教育実習における研究テーマの候補とテーマ設定の理由を考える。	120分
第15回	まとめ 基礎学力の確認のための学力テスト②(高校レベル)	
	【予習】履修カルテ教職3-Aに記入した内容を再確認し、改善したかを検討し、教職3-B「教育実習研究」履修後振り返りを記入する。 自分の実習教科の大学入試問題を解く準備をする。 【復習】教育実習までの自己の課題を整理する。	120分

授業の方法

講義・グループワーク・体験活動によって行う。
その都度、レポート等の課題が課せられる。
学校見学は授業時間とは別に行う。

成績評価の方法

小レポート、期末レポート、発表、課題提出物によって、総合的に評価する。
基礎知識や技能の実行力を身につけるように常に努力すること。
無断の欠席、社会通念上やむを得ない理由によらない欠席は厳禁。欠席・遅刻の場合は、すぐに担当教員のメールアドレスに連絡を入れること。
特に、大学の外に出て活動するときには、誠実に取り組むこと。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

次年度の教育実習ができるための前提要件を、今年中に満たすことが見込まれていることが必要。
この科目の単位修得は、教育実習を履修するための前提要件である。

テキスト

テキスト 中等教育実習「事前・事後指導」教育実習で成長するために 土井進著 ジダイ社 ISBN978-4-909124-04-3 1,500円＋税（第1回目の授業で交付する）

参考書

文部科学省『(実習予定教科の)学習指導要領解説』

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	教育実習研究 c		
教員名	菊地 正直		
科目ナンバー	1191417001	単位数	1
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テーマは、次年度の教育実習に向けて、実習を充実させるためにその事前準備をするための科目である。 概要は、以下の三点である。 一つめは、教育実習にあたって、教育実習の意義と課題の確認を行う。 二つめは、教師という立場に必要な基礎知識を充実する。 三つめは、発声・話し方の音声コミュニケーション能力、板書・プリントづくりの文字媒体の作成能力のレベルを向上する。 教育実習に対する不安の解消を図り、誠実に取り組む必要性を認識し、教育実習に取り組む責任感、実習生としての立場の自覚とその心構えを養い、教育実習の実効をあげようとする意欲を育む。			
到達目標			
来年の教育実習に向け、事前に身に付けておくべき基礎的・基本的知識・技能を修得する。 ・教育実習の意義と課題の確認をすることができる。 ・教育実習において、教師という立場に必要な基礎知識を充実させることができる。 ・発声・話し方の音声コミュニケーション能力、板書・プリントづくりの文字媒体の作成能力のレベルを向上させる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	教育実習の全体像、教育実習の意義と課題、実習生の責任、立場、心構え		
	【予習】シラバスを読み、この授業の構成について理解する。 テキストⅠ部1を熟読する。 【復習】教育実習の内容、実習生としてのあり方について確認する。	90分	
第2回	教師の役割と求められる諸技能、自己の力量分析		
	【予習】ポータルサイトの履修カルテ 教職3-A「教育実習研究」履修前振り返りを記入し、第2回の授業時に印刷し、提出する。 テキストⅡ部3.4を熟読する。 【復習】教師に求められる諸技能、自分に足りないところを確認する。	90分	
第3回	基礎学力の確認のための学力テスト①(中学校レベル)		
	【予習】自分の実習教科の高校入試問題を解く準備をする。 【復習】基礎学力を見直す。	120分	

第4回	学校を巡る教育課題と改革の動き	
	【予習】文部科学省のホームページ、テキストⅠ部2を熟読する。 学習指導要領の総則を熟読する。 【復習】内容について説明をする。	90分
第5回	授業づくりの要諦、教科内容・教材研究、教材提示と指導言の研究 授業観察の視点	
	【予習】テキストⅡ部5、6を熟読する。 実習する教科の学習指導要領解説を熟読する。 【復習】内容について説明をする。	90分
第6回	4年生による教育実習報告	
	レポート 4年生による教育実習の報告について、レポートを作成する。	120分
第7回	教育採用試験合格者からの講話	
	レポート 教員採用試験合格者からの講話についてレポートを作成する。	120分
第8回	学校見学(近隣中学校)	
	【予習】見学先の中学校のHPにある学校の教育課程、授業改善推進プランを熟読する。 レポート 授業見学についてのレポートを作成する。	120分
第9回	学校見学の振り返り	
	【予習】学校見学で学んだ内容を発表できるようにする。 【復習】グループ学習における振り返りを確認する。	90分

第10回	教科外指導と生徒との対応における課題	
	【予習】テキストⅡ部7を熟読する。 【復習】内容について説明をする。	90分
第11回	実践的基礎技能の向上－発声と話し方の技能①	
	【復習】発声と話し方の内容を練習する。	60分
第12回	実践的基礎技能の向上－発声と話し方の技能② 前時の学びを活かして、自己紹介を発表する。	
	【予習】3分間の自己紹介を準備する。 【復習】他者との意見交流を行い、指摘されたところを修正する。	90分
第13回	実践的基礎技能の向上－文字メディア作成上の要点と技能	
	【予習】保護者会の連絡を準備する。 【復習】板書、保護者への連絡等、具体的な例について、確認する。	90分
第14回	教育実習におけるテーマ・着眼点の準備	
	【予習】教育実習校をホームページにおいて確認する。 【復習】教育実習における研究テーマの候補とテーマ設定の理由を考える。	120分
第15回	まとめ 基礎学力の確認のための学力テスト②(高校レベル)	
	【予習】履修カルテ教職3-Aに記入した内容を再確認し、改善したかを検討し、教職3-B「教育実習研究」履修後振り返りを記入する。 自分の実習教科の大学入試問題を解く準備をする。 【復習】教育実習までの自己の課題を整理する。	120分

授業の方法

講義・グループワーク・体験活動によって行う。
その都度、レポート等の課題が課せられる。
学校見学は授業時間とは別に行う。

成績評価の方法

小レポート、期末レポート、発表、課題提出物によって、総合的に評価する。
基礎知識や技能の実行力を身につけるように常に努力すること。
無断の欠席、社会通念上やむを得ない理由によらない欠席は厳禁。欠席・遅刻の場合は、すぐに担当教員のメールアドレスに連絡を入れること。
特に、大学の外に出て活動するときには、誠実に取り組むこと。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

次年度の教育実習ができるための前提要件を、今年中に満たすことが見込まれていることが必要。
この科目の単位修得は、教育実習を履修するための前提要件である。

テキスト

テキスト 中等教育実習「事前・事後指導」教育実習で成長するために 土井進著 ジダイ社 ISBN978-4-909124-04-3 1,500円＋税（第1回目の授業で交付する）

参考書

文部科学省『(実習予定教科の)学習指導要領解説』

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	教育実習研究 d		
教員名	喜岡 淳治		
科目ナンバー	1191417001	単位数	1
配当年次	3	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
テーマは、次年度の教育実習に向けて、実習を充実させるためにその事前準備をするための科目である。 概要は、以下の三点である。 一つめは、教育実習にあたって、教育実習の意義と課題の確認を行う。 二つめは、教師という立場に必要な基礎知識を充実する。 三つめは、発声・話し方の音声コミュニケーション能力、板書・プリントづくりの文字媒体の作成能力のレベルを向上する。 教育実習に対する不安の解消を図り、誠実に取り組む必要性を認識し、教育実習に取り組む責任感、実習生としての立場の自覚とその心構えを養い、教育実習の実効をあげようとする意欲を育む。			
到達目標			
来年の教育実習に向け、事前に身に付けておくべき基礎的・基本的知識・技能を修得する。 ・教育実習の意義と課題の確認をすることができる。 ・教育実習において、教師という立場に必要な基礎知識を充実させることができる。 ・発声・話し方の音声コミュニケーション能力、板書・プリントづくりの文字媒体の作成能力のレベルを向上させる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	教育実習の全体像、教育実習の意義と課題、実習生の責任、立場、心構え		
	【予習】シラバスを読み、この授業の構成について理解する。 テキストⅠ部1を熟読する。 【復習】教育実習の内容、実習生としてのあり方について確認する。	90分	
第2回	教師の役割と求められる諸技能、自己の力量分析		
	【予習】ポータルサイトの履修カルテ 教職3-A「教育実習研究」履修前振り返りを記入し、第2回の授業時に印刷し、提出する。 テキストⅡ部3.4を熟読する。 【復習】教師に求められる諸技能、自分に足りないところを確認する。	90分	
第3回	基礎学力の確認のための学力テスト①(中学校レベル)		
	【予習】自分の実習教科の高校入試問題を解く準備をする。 【復習】基礎学力を見直す。	120分	

第4回	学校を巡る教育課題と改革の動き	
	【予習】文部科学省のホームページ、テキストⅠ部2を熟読する。 学習指導要領の総則を熟読する。 【復習】内容について説明をする。	90分
第5回	授業づくりの要諦、教科内容・教材研究、教材提示と指導言の研究 授業観察の視点	
	【予習】テキストⅡ部5、6を熟読する。 実習する教科の学習指導要領解説を熟読する。 【復習】内容について説明をする。	90分
第6回	4年生による教育実習報告	
	レポート 4年生による教育実習の報告について、レポートを作成する。	120分
第7回	教育採用試験合格者からの講話	
	レポート 教員採用試験合格者からの講話についてレポートを作成する。	120分
第8回	学校見学(近隣中学校)	
	【予習】見学先の中学校のHPにある学校の教育課程、授業改善推進プランを熟読する。 レポート 授業見学についてのレポートを作成する。	120分
第9回	学校見学の振り返り	
	【予習】学校見学で学んだ内容を発表できるようにする。 【復習】グループ学習における振り返りを確認する。	90分

第10回	教科外指導と生徒との対応における課題	
	【予習】テキストⅡ部7を熟読する。 【復習】内容について説明をする。	90分
第11回	実践的基礎技能の向上－発声と話し方の技能①	
	【復習】発声と話し方の内容を練習する。	60分
第12回	実践的基礎技能の向上－発声と話し方の技能② 前時の学びを活かして、自己紹介を発表する。	
	【予習】3分間の自己紹介を準備する。 【復習】他者との意見交流を行い、指摘されたところを修正する。	90分
第13回	実践的基礎技能の向上－文字メディア作成上の要点と技能	
	【予習】保護者会の連絡を準備する。 【復習】板書、保護者への連絡等、具体的な例について、確認する。	90分
第14回	教育実習におけるテーマ・着眼点の準備	
	【予習】教育実習校をホームページにおいて確認する。 【復習】教育実習における研究テーマの候補とテーマ設定の理由を考える。	120分
第15回	まとめ 基礎学力の確認のための学力テスト②(高校レベル)	
	【予習】履修カルテ教職3-Aに記入した内容を再確認し、改善したかを検討し、教職3-B「教育実習研究」履修後振り返りを記入する。 自分の実習教科の大学入試問題を解く準備をする。 【復習】教育実習までの自己の課題を整理する。	120分

授業の方法

講義・グループワーク・体験活動によって行う。
その都度、レポート等の課題が課せられる。
学校見学は授業時間とは別に行う。

成績評価の方法

小レポート、期末レポート、発表、課題提出物によって、総合的に評価する。
基礎知識や技能の実行力を身につけるように常に努力すること。
無断の欠席、社会通念上やむを得ない理由によらない欠席は厳禁。欠席・遅刻の場合は、すぐに担当教員のメールアドレスに連絡を入れること。
特に、大学の外に出て活動するときには、誠実に取り組むこと。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

次年度の教育実習ができるための前提要件を、今年中に満たすことが見込まれていることが必要。
この科目の単位修得は、教育実習を履修するための前提要件である。

テキスト

テキスト 中等教育実習「事前・事後指導」教育実習で成長するために 土井進著 ジダイ社 ISBN978-4-909124-04-3 1,500円＋税（第1回目の授業で交付する）

参考書

文部科学省『(実習予定教科の)学習指導要領解説』

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	教育実習（中・高） a		
教員名	喜岡 淳治		
科目ナンバー	1191418001	単位数	5
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

テーマ： 4年次において教育実習に取り組む必修科目。教育実習に行く意義とその取り組むべき内容の確認。

概要： 中学校・高等学校両免許希望者と、高等学校教員免許のみ取得希望者が対象。事前指導として、学校現場に教育実習へ行く前に、実習に向けた実践的な学習を行う。実習の意義と課題、実際に取り組むべき内容、教科指導の実践力、教科外指導の取り組み方などを学ぶ。
その後、5月から11月にかけて各学校で教育実習を行う。
教育実習終了後、前期末および後期に実習報告会による事後指導を行う。実習における観察・実践の成果と研究課題についての省察を行う。

到達目標

- 1 学校教育の実践について、体験的、総合的な認識を得ることができる。
- 2 生徒の成長発達の促進に適用する実践的能力の基礎を形成することができる。
- 3 教育実践に関する問題解決や創意工夫に必要な研究的な態度と能力の基礎を形成することができる。
- 4 教育者としての愛情と使命感を深め、自己の教員としての能力や適性についての自覚を得ることができる。

授業の計画と準備学修

- 1 実習ノートの使い方1、教育実習の概要、意義と目的、実践課題、実践研究の意味、研究テーマ
- 2 教育実習に向けた基礎教養、教育目標、教育課程と学校組織
- 3 実習ノートの使い方2、授業観察の視点、教科指導の留意点と課題、実践研究着眼点の構想
- 4 特別活動、生徒理解、指導の視点と留意点
- 5 学力評価、学習指導案の書き方、人権の問題、教員採用について
 - － 前期の教育実習（3-4週間（※（高）は2週間）） －
- 6 教育実習事後指導1
- 7 教育実習事後指導2
- 8 教育実習事後指導3
 - － 後期の教育実習（3-4週間（※（高）は2週間）） －
- 9 教育実習事後指導4
- 10 教育実習事後指導5

※教採合格者等はファイナル実習を行うことができる。

授業の方法

事前指導は、講義および討議。事後指導は、発表と討議が中心。

成績評価の方法

事前・事後指導における小テスト・レポート、発表、実習終了後の研究レポート、実習ノート、学習指導案、実習校から提出される教育実習成績評価などによって総合的に評価する。レポート、実習ノート類の提出は不可欠。

事前指導、事後指導は毎回の出席が必須義務。やむを得ない事情で欠席・遅刻しなければならなくなったときは、すぐに担当教員のメールアドレスに連絡すること。無断欠席は厳禁。

特に、教育実習についての事前指導は、欠席した場合には、必ず補講を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

『教職課程履修ガイド』で示されている要件を満たしていないと履修できないので、良く読んで留意すること。

テキスト

『教育実習ハンドブック』 柴田義松・木内剛編、学文社（三年次の教育実習研究の授業で配布済み）

『教育実習ノート(4年次実習用)』 成蹊大学教職課程編

『中学校学習指導要領 平成20年3月 平成22年11月一部改正』 『高等学校学習指導要領 平成21年3月』 文部科学省
実習校で採択している教科書

参考書

講義内で指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	教育実習（中・高） b		
教員名	馬上 美知		
科目ナンバー	1191418001	単位数	5
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

テーマ： 4年次において教育実習に取り組む必修科目。教育実習に行く意義とその取り組むべき内容の確認。

概要： 中学校・高等学校両免許希望者と、高等学校教員免許のみ取得希望者が対象。事前指導として、学校現場に教育実習へ行く前に、実習に向けた実践的な学習を行う。実習の意義と課題、実際に取り組むべき内容、教科指導の実践力、教科外指導の取り組み方などを学ぶ。

その後、5月から11月にかけて各学校で教育実習を行う。

教育実習終了後、前期末および後期に実習報告会による事後指導を行う。実習における観察・実践の成果と研究課題についての省察を行う。

到達目標

- 1 学校教育の実践について、体験的、総合的な認識を得ることができる。
- 2 生徒の成長発達の促進に適用する実践的能力の基礎を形成することができる。
- 3 教育実践に関する問題解決や創意工夫に必要な研究的な態度と能力の基礎を形成することができる。
- 4 教育者としての愛情と使命感を深め、自己の教員としての能力や適性についての自覚を得ることができる。

授業の計画と準備学修

- 1 実習ノートの使い方1、教育実習の概要、意義と目的、実践課題、実践研究の意味、研究テーマ
- 2 教育実習に向けた基礎教養、教育目標、教育課程と学校組織
- 3 実習ノートの使い方2、授業観察の視点、教科指導の留意点と課題、実践研究着眼点の構想
- 4 特別活動、生徒理解、指導の視点と留意点
- 5 学力評価、学習指導案の書き方、人権の問題、教員採用について
 - 前期の教育実習（3-4週間（※（高）は2週間）） -
- 6 教育実習事後指導1
- 7 教育実習事後指導2
- 8 教育実習事後指導3
 - 後期の教育実習（3-4週間（※（高）は2週間）） -
- 9 教育実習事後指導4
- 10 教育実習事後指導5

※教採合格者等はファイナル実習を行うことができる。

授業の方法

事前指導は、講義および討議。事後指導は、発表と討議が中心。

成績評価の方法

事前・事後指導における小テスト・レポート、発表、実習終了後の研究レポート、実習ノート、学習指導案、実習校から提出される教育実習成績評価などによって総合的に評価する。レポート、実習ノート類の提出は不可欠。

事前指導、事後指導は毎回の出席が必須義務。やむを得ない事情で欠席・遅刻しなければならなくなったときは、すぐに担当教員のメールアドレスに連絡すること。無断欠席は厳禁。

特に、教育実習についての事前指導は、欠席した場合には、必ず補講を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

『教職課程履修ガイド』で示されている要件を満たしていないと履修できないので、良く読んで留意すること。

テキスト

『教育実習ハンドブック』 柴田義松・木内剛編、学文社（三年次の教育実習研究の授業で配布済み）

『教育実習ノート(4年次実習用)』 成蹊大学教職課程編

『中学校学習指導要領 平成20年3月 平成22年11月一部改正』 『高等学校学習指導要領 平成21年3月』 文部科学省
実習校で採択している教科書

参考書

講義内で指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	教育実習（中・高） c		
教員名	松沼 光泰		
科目ナンバー	1191418001	単位数	5
配当年次	4	開講時期	2018年度 前期～後期

テーマ・概要

テーマ： 4年次において教育実習に取り組む必修科目。教育実習に行く意義とその取り組むべき内容の確認。

概要： 中学校・高等学校両免許希望者と、高等学校教員免許のみ取得希望者が対象。事前指導として、学校現場に教育実習へ行く前に、実習に向けた実践的な学習を行う。実習の意義と課題、実際に取り組むべき内容、教科指導の実践力、教科外指導の取り組み方などを学ぶ。
その後、5月から11月にかけて各学校で教育実習を行う。
教育実習終了後、前期末および後期に実習報告会による事後指導を行う。実習における観察・実践の成果と研究課題についての省察を行う。

到達目標

- 1 学校教育の実践について、体験的、総合的な認識を得ることができる。
- 2 生徒の成長発達の促進に適用する実践的能力の基礎を形成することができる。
- 3 教育実践に関する問題解決や創意工夫に必要な研究的な態度と能力の基礎を形成することができる。
- 4 教育者としての愛情と使命感を深め、自己の教員としての能力や適性についての自覚を得ることができる。

授業の計画と準備学修

- 1 実習ノートの使い方1、教育実習の概要、意義と目的、実践課題、実践研究の意味、研究テーマ
- 2 教育実習に向けた基礎教養、教育目標、教育課程と学校組織
- 3 実習ノートの使い方2、授業観察の視点、教科指導の留意点と課題、実践研究着眼点の構想
- 4 特別活動、生徒理解、指導の視点と留意点
- 5 学力評価、学習指導案の書き方、人権の問題、教員採用について
－ 前期の教育実習（3-4週間（※（高）は2週間）） －
- 6 教育実習事後指導1
- 7 教育実習事後指導2
- 8 教育実習事後指導3
－ 後期の教育実習（3-4週間（※（高）は2週間）） －
- 9 教育実習事後指導4
- 10 教育実習事後指導5

※教採合格者等はファイナル実習を行うことができる。

授業の方法

事前指導は、講義および討議。事後指導は、発表と討議が中心。

成績評価の方法

事前・事後指導における小テスト・レポート、発表、実習終了後の研究レポート、実習ノート、学習指導案、実習校から提出される教育実習成績評価などによって総合的に評価する。レポート、実習ノート類の提出は不可欠。

事前指導、事後指導は毎回の出席が必須義務。やむを得ない事情で欠席・遅刻しなければならなくなったときは、すぐに担当教員のメールアドレスに連絡すること。無断欠席は厳禁。

特に、教育実習についての事前指導は、欠席した場合には、必ず補講を行う。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

『教職課程履修ガイド』で示されている要件を満たしていないと履修できないので、良く読んで留意すること。

テキスト

『教育実習ハンドブック』 柴田義松・木内剛編、学文社（三年次の教育実習研究の授業で配布済み）

『教育実習ノート(4年次実習用)』 成蹊大学教職課程編

『中学校学習指導要領 平成20年3月 平成22年11月一部改正』 『高等学校学習指導要領 平成21年3月』 文部科学省
実習校で採択している教科書

参考書

講義内で指示する。

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

ポータルサイトで周知する。

科目名	教職実践演習（中・高） a		
教員名	馬上 美知、岩田 淳子、松沼 光泰、菊地 正直		
科目ナンバー	1191419001	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
理想とする教師像とこれまでの学びを振り返る。教育実習を通して考察した教員の機能と資質、教員としての自己の力量・資質を省察し、充足すべき課題を明確化する。教職の意義と責任、対人関係能力、生徒理解と生徒支援、学級経営、教科の指導力など各領域にわたる実践的能力を自覚し基礎固めを行う。			
到達目標			
教員として求められる 1. 使命感や責任感、教育的愛情 2. 社会性や対人関能力 3. 生徒理解や学級経営の能力 4. 教科の指導力を習得したことが確認できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション。 履修履歴の確認と各課題到達度の検討。		
	教育実習省察、履修の心構え マイステップフォロー教職4-A履修前振り返りのチェックと記入をしておき授業時に持参する	90分	
第2回	教科教育力の到達状況チェック		
	教育実習の省察 弱点の具体的中身析出	90分	
第3回	教科指導力の補充と弱点克服への取り組み		
	克服活動の立案（予習）	120分	

第4回	教科指導力の弱点克服の確認と補充	
	課題の復習 課題克服活動	70分
第5回	教科指導力の弱点克服の確認と補充	
	課題の復習 課題克服活動	70分
第6回	生徒理解や学級経営能力および特別なニーズのある生徒への対応力1. 生徒と理解と生徒指導	
	予習：教育実習での生徒理解・生徒指導の振り返り レポート：生徒理解・生徒指導討議のまとめ	90分
第7回	生徒理解や学級経営能力および特別なニーズのある生徒への対応力2. 特別なニーズのある生徒の理解と対応	
	予習：教育実習での特別なニーズのある生徒についての振り返り レポート：個別指導計画作成	90分
第8回	生徒理解や学級経営能力および特別なニーズのある生徒への対応力3. 学級経営	
	予習：教育実習での担任学級の学級経営の振り返り レポート：担任学級の学級経営案作成	90分
第9回	社会性や対人関係能力1. 保護者・地域との関係構築（応答構成）	
	予習：教育実習での保護者・地域との関係構築についての振り返り レポート：私の応答傾向から考える、保護者・地域との関係構築	90分

第10回	社会性や対人関係能力2. 同僚性（事例をととしたロールプレイ）	
	予習：教育実習での教師の同僚生についての振り返り レポート：教師にとっての同僚性 -授業内の演習と文献購読をととして-	90分
第11回	社会性や対人関係能力3. 対人関係において大切にしていること（グループワーク）	
	予習：自身の対人関係についての考察 レポート：対人関係において大切にしたいこと（授業内の演習を通して）	90分
第12回	使命感や責任感、教育的愛情、協働による教育活動力の到達状況チェック	
	教育実習の振り返り 弱点の具体的中身析出	90分
第13回	使命感や責任感、教育的愛情、協働による教育活動力の弱点克服の取り組み	
	克服活動の立案（予習）	120分
第14回	使命感や責任感、教育的愛情、協働による教育活動力の弱点克服の確認と補充	
	課題の復習 課題克服活動	70分
第15回	教員としての能力の総合的チェックおよび最終確認	
	補充してきたことの総復習	120分

授業の方法

履修履歴の確認とこれまでの学びおよび教育実習の振り返りによる各自の目標の設定や討議を通して、最低のレベルとして不十分な力量は何か、課題の再把握をする。

4つの領域に基づき、教員として必要な資質の確認と不足についての補充をグループによる討議、事例の検討、指導案の作成などを通して実践的に行う。

教科指導力の回では授業日時を変更する場合があるので要注意。

成績評価の方法

課題レポート、毎回の取り組み状況と、達成状況の観察、小テストでの評価、と授業内試験などで総合的に評価する。出席が、義務。教職に関わる事情以外で欠席しないこと。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

これまでの大学での教職課程の学修の総まとめになる。

テキスト

『教育実習ハンドブック〔増補版〕』（「教育実習研究」で配布したもの）

参考書

自己の教育実習日誌。

教科教育法で使ったテキスト・参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業直後

科目名	教職実践演習（中・高） b		
教員名	松沼 光泰、岩田 淳子、馬上 美知、菊地 正直		
科目ナンバー	1191419001	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
理想とする教師像とこれまでの学びを振り返る。教育実習を通して考察した教員の機能と資質、教員としての自己の力量・資質を省察し、充足すべき課題を明確化する。教職の意義と責任、対人関係能力、生徒理解と生徒支援、学級経営、教科の指導力など各領域にわたる実践的能力を自覚し基礎固めを行う。			
到達目標			
教員として求められる 1. 使命感や責任感、教育的愛情 2. 社会性や対人関能力 3. 生徒理解や学級経営の能力 4. 教科の指導力を習得したことが確認できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション。 履修履歴の確認と各課題到達度の検討。		
	教育実習省察、履修の心構え マイステップフォロー教職4-A履修前振り返りのチェックと記入をしておき授業時に持参する	90分	
第2回	教科教育力の到達状況チェック		
	教育実習の省察 弱点の具体的中身析出	90分	
第3回	教科指導力の補充と弱点克服への取り組み		
	克服活動の立案（予習）	120分	

第4回	教科指導力の弱点克服の確認と補充	
	課題の復習 課題克服活動	70分
第5回	教科指導力の弱点克服の確認と補充	
	課題の復習 課題克服活動	70分
第6回	生徒理解や学級経営能力および特別なニーズのある生徒への対応力1. 生徒と理解と生徒指導	
	予習：教育実習での生徒理解・生徒指導の振り返り レポート：生徒理解・生徒指導討議のまとめ	90分
第7回	生徒理解や学級経営能力および特別なニーズのある生徒への対応力2. 特別なニーズのある生徒の理解と対応	
	予習：教育実習での特別なニーズのある生徒についての振り返り レポート：個別指導計画作成	90分
第8回	生徒理解や学級経営能力および特別なニーズのある生徒への対応力3. 学級経営	
	予習：教育実習での担任学級の学級経営の振り返り レポート：担任学級の学級経営案作成	90分
第9回	社会性や対人関係能力1. 保護者・地域との関係構築（応答構成）	
	予習：教育実習での保護者・地域との関係構築についての振り返り レポート：私の応答傾向から考える、保護者・地域との関係構築	90分

第10回	社会性や対人関係能力2. 同僚性（事例をととしたロールプレイ）	
	予習：教育実習での教師の同僚生についての振り返り レポート：教師にとっての同僚性 -授業内の演習と文献購読をととして-	90分
第11回	社会性や対人関係能力3. 対人関係において大切にしていること（グループワーク）	
	予習：自身の対人関係についての考察 レポート：対人関係において大切にしたいこと（授業内の演習を通して）	90分
第12回	使命感や責任感、教育的愛情、協働による教育活動力の到達状況チェック	
	教育実習の振り返り 弱点の具体的中身析出	90分
第13回	使命感や責任感、教育的愛情、協働による教育活動力の弱点克服の取り組み	
	克服活動の立案（予習）	120分
第14回	使命感や責任感、教育的愛情、協働による教育活動力の弱点克服の確認と補充	
	課題の復習 課題克服活動	70分
第15回	教員としての能力の総合的チェックおよび最終確認	
	補充してきたことの総復習	120分

授業の方法

履修履歴の確認とこれまでの学びおよび教育実習の振り返りによる各自の目標の設定や討議を通して、最低のレベルとして不十分な力量は何か、課題の再把握をする。

4つの領域に基づき、教員として必要な資質の確認と不足についての補充をグループによる討議、事例の検討、指導案の作成などを通して実践的に行う。

教科指導力の回では授業日時を変更する場合があるので要注意。

成績評価の方法

課題レポート、毎回の取り組み状況と、達成状況の観察、小テストでの評価、と授業内試験などで総合的に評価する。出席が、義務。教職に関わる事情以外で欠席しないこと。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

これまでの大学での教職課程の学修の総まとめになる。

テキスト

『教育実習ハンドブック〔増補版〕』（「教育実習研究」で配布したもの）

参考書

自己の教育実習日誌。

教科教育法で使ったテキスト・参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業直後

科目名	教職実践演習（中・高） c		
教員名	岩田 淳子、馬上 美知、松沼 光泰、菊地 正直		
科目ナンバー	1191419001	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
理想とする教師像とこれまでの学びを振り返る。教育実習を通して考察した教員の機能と資質、教員としての自己の力量・資質を省察し、充足すべき課題を明確化する。教職の意義と責任、対人関係能力、生徒理解と生徒支援、学級経営、教科の指導力など各領域にわたる実践的能力を自覚し基礎固めを行う。			
到達目標			
教員として求められる 1. 使命感や責任感、教育的愛情 2. 社会性や対人関能力 3. 生徒理解や学級経営の能力 4. 教科の指導力を習得したことが確認できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション。 履修履歴の確認と各課題到達度の検討。		
	教育実習省察、履修の心構え マイステップフォロー教職4-A履修前振り返りのチェックと記入をしておき授業時に持参する	90分	
第2回	教科教育力の到達状況チェック		
	教育実習の省察 弱点の具体的中身析出	90分	
第3回	教科指導力の補充と弱点克服への取り組み		
	克服活動の立案（予習）	120分	

第4回	教科指導力の弱点克服の確認と補充	
	課題の復習 課題克服活動	70分
第5回	教科指導力の弱点克服の確認と補充	
	課題の復習 課題克服活動	70分
第6回	生徒理解や学級経営能力および特別なニーズのある生徒への対応力1. 生徒と理解と生徒指導	
	予習：教育実習での生徒理解・生徒指導の振り返り レポート：生徒理解・生徒指導討議のまとめ	90分
第7回	生徒理解や学級経営能力および特別なニーズのある生徒への対応力2. 特別なニーズのある生徒の理解と対応	
	予習：教育実習での特別なニーズのある生徒についての振り返り レポート：個別指導計画作成	90分
第8回	生徒理解や学級経営能力および特別なニーズのある生徒への対応力3. 学級経営	
	予習：教育実習での担任学級の学級経営の振り返り レポート：担任学級の学級経営案作成	90分
第9回	社会性や対人関係能力1. 保護者・地域との関係構築（応答構成）	
	予習：教育実習での保護者・地域との関係構築についての振り返り レポート：私の応答傾向から考える、保護者・地域との関係構築	90分

第10回	社会性や対人関係能力2. 同僚性（事例をととしたロールプレイ）	
	予習：教育実習での教師の同僚生についての振り返り レポート：教師にとっての同僚性 -授業内の演習と文献購読をととして-	90分
第11回	社会性や対人関係能力3. 対人関係において大切にしていること（グループワーク）	
	予習：自身の対人関係についての考察 レポート：対人関係において大切にしたいこと（授業内の演習を通して）	90分
第12回	使命感や責任感、教育的愛情、協働による教育活動力の到達状況チェック	
	教育実習の振り返り 弱点の具体的中身析出	90分
第13回	使命感や責任感、教育的愛情、協働による教育活動力の弱点克服の取り組み	
	克服活動の立案（予習）	120分
第14回	使命感や責任感、教育的愛情、協働による教育活動力の弱点克服の確認と補充	
	課題の復習 課題克服活動	70分
第15回	教員としての能力の総合的チェックおよび最終確認	
	補充してきたことの総復習	120分

授業の方法

履修履歴の確認とこれまでの学びおよび教育実習の振り返りによる各自の目標の設定や討議を通して、最低のレベルとして不十分な力量は何か、課題の再把握をする。

4つの領域に基づき、教員として必要な資質の確認と不足についての補充をグループによる討議、事例の検討、指導案の作成などを通して実践的に行う。

教科指導力の回では授業日時を変更する場合があるので要注意。

成績評価の方法

課題レポート、毎回の取り組み状況と、達成状況の観察、小テストでの評価、と授業内試験などで総合的に評価する。出席が、義務。教職に関わる事情以外で欠席しないこと。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

これまでの大学での教職課程の学修の総まとめになる。

テキスト

『教育実習ハンドブック〔増補版〕』（「教育実習研究」で配布したもの）

参考書

自己の教育実習日誌。

教科教育法で使ったテキスト・参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業直後

科目名	教職実践演習（中・高） d		
教員名	菊地 正直、岩田 淳子、馬上 美知、松沼 光泰		
科目ナンバー	1191419001	単位数	2
配当年次	4	開講時期	2018年度 後期
テーマ・概要			
理想とする教師像とこれまでの学びを振り返る。教育実習を通して考察した教員の機能と資質、教員としての自己の力量・資質を省察し、充足すべき課題を明確化する。教職の意義と責任、対人関係能力、生徒理解と生徒支援、学級経営、教科の指導力など各領域にわたる実践的能力を自覚し基礎固めを行う。			
到達目標			
教員として求められる 1. 使命感や責任感、教育的愛情 2. 社会性や対人関能力 3. 生徒理解や学級経営の能力 4. 教科の指導力を習得したことが確認できる。			
授業の計画と準備学修			
回数	授業の計画・内容		
	準備学修(予習・復習等)	準備学修の目安(分)	
第1回	イントロダクション。 履修履歴の確認と各課題到達度の検討。		
	教育実習省察、履修の心構え マイステップフォロー教職4-A履修前振り返りのチェックと記入をしておき授業時に持参する	90分	
第2回	教科教育力の到達状況チェック		
	教育実習の省察 弱点の具体的中身析出	90分	
第3回	教科指導力の補充と弱点克服への取り組み		
	克服活動の立案（予習）	120分	

第4回	教科指導力の弱点克服の確認と補充	
	課題の復習 課題克服活動	70分
第5回	教科指導力の弱点克服の確認と補充	
	課題の復習 課題克服活動	70分
第6回	生徒理解や学級経営能力および特別なニーズのある生徒への対応力1. 生徒と理解と生徒指導	
	予習：教育実習での生徒理解・生徒指導の振り返り レポート：生徒理解・生徒指導討議のまとめ	90分
第7回	生徒理解や学級経営能力および特別なニーズのある生徒への対応力2. 特別なニーズのある生徒の理解と対応	
	予習：教育実習での特別なニーズのある生徒についての振り返り レポート：個別指導計画作成	90分
第8回	生徒理解や学級経営能力および特別なニーズのある生徒への対応力3. 学級経営	
	予習：教育実習での担任学級の学級経営の振り返り レポート：担任学級の学級経営案作成	90分
第9回	社会性や対人関係能力1. 保護者・地域との関係構築（応答構成）	
	予習：教育実習での保護者・地域との関係構築についての振り返り レポート：私の応答傾向から考える、保護者・地域との関係構築	90分

第10回	社会性や対人関係能力2. 同僚性（事例をととしたロールプレイ）	
	予習：教育実習での教師の同僚生についての振り返り レポート：教師にとっての同僚性 -授業内の演習と文献購読をととして-	90分
第11回	社会性や対人関係能力3. 対人関係において大切にしていること（グループワーク）	
	予習：自身の対人関係についての考察 レポート：対人関係において大切にしたいこと（授業内の演習を通して）	90分
第12回	使命感や責任感、教育的愛情、協働による教育活動力の到達状況チェック	
	教育実習の振り返り 弱点の具体的中身析出	90分
第13回	使命感や責任感、教育的愛情、協働による教育活動力の弱点克服の取り組み	
	克服活動の立案（予習）	120分
第14回	使命感や責任感、教育的愛情、協働による教育活動力の弱点克服の確認と補充	
	課題の復習 課題克服活動	70分
第15回	教員としての能力の総合的チェックおよび最終確認	
	補充してきたことの総復習	120分

授業の方法

履修履歴の確認とこれまでの学びおよび教育実習の振り返りによる各自の目標の設定や討議を通して、最低のレベルとして不十分な力量は何か、課題の再把握をする。

4つの領域に基づき、教員として必要な資質の確認と不足についての補充をグループによる討議、事例の検討、指導案の作成などを通して実践的に行う。

教科指導力の回では授業日時を変更する場合があるので要注意。

成績評価の方法

課題レポート、毎回の取り組み状況と、達成状況の観察、小テストでの評価、と授業内試験などで総合的に評価する。出席が、義務。教職に関わる事情以外で欠席しないこと。

成績評価の基準

成蹊大学の成績評価基準（学則第39条）に準拠する。/Grades in the course are based on the criteria of Seikei University Regulation No. 39.

必要な予備知識／先修科目／関連科目

これまでの大学での教職課程の学修の総まとめになる。

テキスト

『教育実習ハンドブック〔増補版〕』（「教育実習研究」で配布したもの）

参考書

自己の教育実習日誌。

教科教育法で使ったテキスト・参考書

質問・相談方法等(オフィス・アワー)

授業直後